

- 2213 **子輿**(しよ・田でん) ? - ? 江中期の詩人・宮瀬竜門[劉文翼]門、1753「竜門先生文集」初編校(；松遂良編)
- 子余(しよ・秋尾あきお) → 利重(としげ・秋尾、藩士/剣術家) M 3 1 6 0
- 子与(しよ・神吉) → 東郭(とうかく・神吉かんき、藩士/儒・医者) C 3 1 1 4
- 子与(しよ・清河/齋藤) → 八郎(はちろう・清河/清川、教育/尊攘) F 3 6 0 1
- 子輿(しよ・谷沢) → 近嶺(ちかね・沢/谷沢、商家/歌文) B 2 8 5 0
- 子輿(しよ・須藤) → 忘斎(ぼうさい・須藤すどう、藩士/教授) 3 9 9 1
- 子誉(しよ・毛内) → 雲林(うんりん・毛内もうない茂幹、藩士/絵師) E 1 2 9 3
- 処(しよ・塩谷) → 老田(ろうでん・塩谷しおのや、儒；藩校教授) 5 2 4 2
- 杵(しよ・足立) → 樗亭(くわてい・足立あだち/江沢、蘭学者) 5 1 8 0
- 黍(しよ・きび・人見) → 璣邑(きゆう・人見ひとみ、藩士/随筆/歌) G 1 6 3 0
- 庶(しよ・松山) → 筋亭(せつてい・松山まつやま、儒者/詩文) L 2 4 2 4
- 書(しよ・上田) → 好文(よしづみ・上田うえだ、国学者) L 4 7 7 3
- 渚(しよ・高塩) → 清風(きよかぜ・高塩たかしお、神職/国学) U 1 6 6 1
- 翥(しよ・合谷ごうや) → 石秋(いしあき・石舟せきしゅう・劉りゅう、商家/儒者) D 2 4 5 2
- 恕(じよ・林、春斎) → 春勝(はるかつ・林、羅山男/儒者) 3 6 3 0
- 恕(じよ・岡田) → 寒泉(かんせん・岡田おかだ、幕府儒官) E 1 5 0 6
- 恕(じよ・本庄/本荘) → 三郎(さぶろう・本庄/本荘、殖産家) L 2 0 5 0
- 恕(じよ・田中) → 修道(しゅうどう・田中、藩医/儒者/詩) Y 2 1 1 2
- 恕(じよ・熊谷) → 恕(ひろし・熊谷くまがい、陪臣/国学/歌) J 3 7 4 5
- 杼(じよ・中島) → 中洲(ちゅうしゅう・中島なかじま、神職) G 2 8 2 4
- 徐(じよ・日原ひはら) → 一斎(いっさい・手塚てつか、儒者；闇齋学) H 1 1 1 8
- 助(じよ・益田) → 鶴楼(つるろう・益田、儒/詩人) E 1 5 8 4
- 汝(じよ・中山) → 高陽(こうよう・中山なかやま、詩人/絵師) C 1 9 0 0
- G2243 **曙庵**(しよあん・神野じんの、名；慶之助、柴田三郎右衛門3男) 1830-1906 77 神野嘉右衛門の養嗣子、美濃芝原の美濃派俳人；1842(13歳) 榎庵西阿房門、魯松庵調固房・耕月庵白水に親炙、1872美濃派16世宗匠/榎庵門、芭蕉/五竹らの顕彰に尽力/維新後も俳諧活動に努力、1860「道の誠」編、[曙庵(；号)の通称/別号]通称；嘉右衛門、別号；魯游/虚白/廬甫/花外人/帰元房
- 曙庵(しよあん・中島) → 秋挙(しゅうきよ・中島なかじま、藩士/俳人) H 2 1 0 8
- 曙庵(しよあん・町田) → 松和(しょうわ・町田まちだ、製紙業/俳人) M 2 2 1 3
- 蔗庵(しよあん；号) → 大叔(だいしゅう；法諱・季弘、臨濟僧) B 2 6 5 6
- Q2257 **如庵**(じよあん；号・箕形みのかた) ? - ? 江前期国学者；三条西公条・実枝門、実枝より源氏学を相伝；八条宮智仁親王に講説、北村季吟に伝授、「源氏講釈聞書」著
- G2244 **序庵**(じよあん・一瀬いちのせ、名；穆/晋、字；子寔) ? - ? 江中期大阪の医者；後藤良山門・古医方を修学、1740「柳川氏來書」、1760「傷寒論集詁」著
- 恕庵(じよあん) → 善叢(ぜんそう；法諱・茂彦もげん；道号、臨濟僧) G 2 4 2 9
- 恕庵(じよあん・松岡/松) → 玄達(げんたつ・松岡、儒医/本草) C 1 8 6 1
- 恕庵(じよあん・土田) → 蒙斎(もうさい・土田つちだ、藩医者) 4 4 5 2
- 恕庵(じよあん・長谷川/小田切) → 一雲(いちうん・小田切おだぎり、剣術家) F 1 1 9 9
- 恕庵(じよあん・河合) → 良温(よしほる・河合かわい、医者/儒者) G 4 7 1 1
- 恕庵(じよあん・清瀬) → 恕春(ひろはる・清瀬きよせ、藩医/歌人) J 3 7 3 0
- 如庵(じよあん・織田) → 有楽(うらく・織田おだ、武将/茶人) 1 2 9 6
- 如庵(じよあん) → 宗乾(そうけん、医者、出版) B 2 5 2 2
- 如庵(じよあん) → 貫忠(かんちゅう；法諱・愛宕あたご/堀田、天台僧) T 1 5 4 3

- 如安(恕安じょあん・吉弘)→ 釣壺(ちようこ・吉弘、医者/俳人) I 2 8 1 6  
徐庵(じょあん・大沢) → 方壺(ほうこ・大沢おおさわ、俳人) F 3 9 1 2  
恕闇居士(じょあんこじ) → 白費堂(はくひどう・秋山/鈴木、藩儒) D 3 6 8 4
- Q2258 如一(じょいち、久我?、坂東殿?、了義坊)?-? 平曲音曲家;城一門、都方(一方いちかた)流の祖、坂東に住;坂東方ともいう、同門城玄の八坂流に対抗、門人に明石檢校寛一  
如一(じょいち/によいつ・長谷川)→ 延年(えんねん・長谷川、劍術/篆刻家) B 1 3 3 1  
諸蔭(しよいん・藤原) → 諸蔭(もろかげ・藤原ふじわら、廷臣) H 4 4 1 0  
儲陰(しよいん・増島) → 蘭園(らんえん・増島/平/増、幕臣儒官) B 4 8 5 9  
助員(じょいん・比企) → 助員(すけかず・比企ひき/藤原、早歌作者) 2 3 2 9  
叙胤(じょいん・齋藤) → 叙胤(のぶたね・齋藤さいとう、官人/歌人) I 3 5 5 8
- G2245 著陽(しやう・三宅みやげ、名;元珉)?-1668 伊勢菰野の漢学者:京の儒医饗庭東庵門、道教の普及に尽力、「道德経会元」著、  
[著陽(;号)の通称/別号]通称;要助、別号;鳳翼
- Q2261 子葉(しやう、大高おおたか、名;忠雄ただお、通称;源吾げんご、兵左衛門男)1672-1703切腹32 赤穂藩士;義士討入、武勇に優れ風雅を愛す/俳人;沾徳門、其角と交流、「丁丑ていしゆう紀行」著、1702撰集「二ツ乃竹」編(;漸之ぜんし・放水・竹平・春帆しゅんぱん・涓泉けんせんら義士の句入)、  
[山を抜く力も折れて松の雪](沾徳随筆/1702[元禄15]12月15日未明に沾徳宅に届く)辞世[梅で呑む茶屋もあるべし死出の山](類柑子るいこうじ/1703[元禄16]2月4日)
- Q2262 子陽(しやう;字・大森おおもり、名;楽、直好男)1738-9154 越後蒲原郡地藏堂の儒者、詩;僧大舟門、江戸遊学漢学;;滝鶴台門、帰郷;1768(明和5)分水町に狭川塾開設;門下に良寛・原田鶴齋、1777奥州行脚;鶴岡滞在;鶴岡藩士柏倉要卿の支援で家塾を開、子弟教育/傍ら医を修得;治療を行う、田中朝陽・僧天真らと交流、良寛の師、「三峰館集」「孟子逢原」老不知言」著
- Q2263 紫洋(しやう・横尾よお/修姓;黄、名;道質/道符)1734-84死刑51 肥前佐賀郡川久保村の漢学者;初め佐賀春日山高城寺の僧陽山門、のち長門滝鶴台門/帰国し佐賀藩儒として出仕、勤王の志篤く京遊学、肥前春日山で教育、1774再上京;九条家の侍講;邸内に寓居、1783藩の帰国命令に従わず捕縛;芦刈永明寺に幽閉/1784死刑、「紫洋詩稿」「紫洋書話」「紫洋四馬浦詩」「世説新語小解」著、  
[紫洋(;号)の字/通称]字;孟篆、通称;文助/文輔
- Q2264 子鷹(しやう・松村まつむら、六華坊)?-? 江中期江戸の俳人・沾山門、乾什座尹督側点者、1754竹翁「童の的」点句入
- Q2265 子容(しやう・泉いづみ) ? - ? 江中期詩人;細井平洲門、1763平洲著「嚶鳴館詩集」共編(蹟士胤と共編/平洲自序/江戸須原屋茂兵衛板1764刊)
- Q2266 子陽(しやう・木内きうち、名;政元)1827-7246 江後期漢学/詩人;宮沢雲山・梁川星巖・大沼枕山門、1859「雲山遺稿集」編、1870「三雲絶句」共編(久米子行・桐原鳳兮と編/宮沢雲山・遠山雲如・竹内雲濤の遺作集)  
[子陽(;号)の通称/別号]通称;源五郎、別号;芳軒
- G2246 紫陽(しやう・増田ますだ、忠治[徳枝のりげ]男)1816-190085 尾張名古屋藩士家/儒者;藩校明倫堂修学、柳沢反求舎門/秦松洲・植松茂岳門、1863藩校明倫堂監生/67助教、尊攘思想;藩論を動かす、名古屋藩奥儒者;藩主の侍講、私塾でも門弟教育、「紫陽真詩」「続紫陽真詩」「紫陽坎語」著、「紫陽随筆」「百壺一滴」著、  
[紫陽(;号)の名/通称/別号]名;祺/春祺はるよし、通称;春邇郎、別号;白水/泉老/腰鼓堂/来翁/梅花屋、法号;紫陽居士
- 紫陽(しやう;号) → 西胤(せいいん;道号・俊承;法諱、臨濟僧) L 2 4 5 2  
紫陽(しやう・新井) → 白石(はくせき・新井、儒者/幕政参画) 3 6 1 0  
紫陽(しやう・古屋) → 昔陽(せきやう・古屋ふるや、儒者) D 2 4 9 2  
紫陽(しやう・馬島) → 毅生(としなり・馬島まじま/水野、医・国学) W 3 1 3 9  
氏養(しやう・藤波) → 氏養(うじもり・藤波、神官) C 1 2 7 7  
氏養(しやう→うじもり・高尾) → 竹溪(ちくけい・高尾、藩士/儒者) C 2 8 8 6  
氏曄(しやう・丹羽) → 氏曄(うじあき・丹羽にわ/近藤、国学・歌) B 1 2 6 9

氏曄(しよ・北条/伊勢)→	氏曄(うじあき・北条ほうじょう/伊勢いせ、藩士/詩)	E 1 2 8 7
子洋(しよ・小浜)	清渚(せいしよ・小浜おばま、藩儒/詩人)	C 2 4 1 2
子羊(しよ・仁井田)	雉岡(ちこう・仁井田にだ、儒者/海防)	E 2 8 1 6
子用(しよ・樋口)	雪汀(せつてい・樋口ひぐち/菅原、藩士/儒)	E 2 4 5 9
子陽(しよ・大竹)	東海(とうかい・大竹、儒者)	B 3 1 8 9
子陽(しよ・久世)	友輔(ともすけ・久世くぜ、心学/俳人)	P 3 1 6 1
子陽(しよ・増子)	毅斎(きさい・増子ましこ、藩士/文筆家)	K 1 6 4 5
子陽(しよ・谷)	鬼谷(きこく・谷たに、維揚男/儒者/兵学)	K 1 6 3 7
子陽(しよ・平井/島・鳴)→	錦江(きんこう・成島なるしま、幕臣/儒/歌)	1 6 6 1
子陽(しよ・細川)	清斎(せいさい・細川ほそかわ、藩儒/詩文)	B 2 4 5 9
子陽(しよ・金子)	命朝(のぶとし・金子かねこ、薬商/歌人)	B 3 5 1 2
子陽(しよ・若林)	正晃(まさあきら・若林わかばやし、商家/詩人)	T 4 0 7 7
子陽(士陽しよ・村井)	蕉雪(しよせつ・村井むらい、藩医/絵師)	K 2 2 3 4
子陽(しよ・春日)	載陽(さいよう・春日かすが、医者/儒者)	O 2 0 2 8
子曄(しよ・市野いちの)	東谷(とうこく・市野、商家/儒者)	E 3 1 0 8
子揚(しよ・石野いしの)	東陵(とうりょう・石野、儒者)	I 3 1 3 0
子容(しよ:字)	大瀛(だいえい:法諱、真宗本願寺派僧)	J 2 6 1 8
子容(しよ・大口)→	知常(ともつね・大口おおぐち、心学者)	P 3 1 8 7
子容(しよ・大口)	知常(ともつね・大口、心学者)	P 3 1 8 7
子容(しよ・相木)	紫溟(しめい・相木あいき、藩士/儒・詩人)	V 2 1 8 2
子容(しよ・佐々木)	柳庵(りゅうあん・佐々木ささき/青山、儒者)	C 4 9 6 8
子葉(しよ・小野)	隆庵(りゅうあん・小野おの、飛鳥山館、医者)	C 4 9 6 4
子庸(しよ・田中)	信謹(さねもり・田中/若林、儒者/医)	L 2 0 4 4
子庸(しよ・神保)	蘭室(らんしつ・神保じんぼ、藩士・漢学者)	C 4 8 4 5
子曜(しよ・古川)	古松軒(こしょうけん・古河/古川、地誌家)	1 9 3 3
子耀(しよ・五条)	為栄(ためいげ・五条ごじょう/菅原、廷臣/国学)	X 2 6 0 6
子鷹(しよ・河/上河)	淇水(きすい・上河うにかわ/河、心学者)	B 1 6 3 0
子養(しよ・中村)	浩然窩(こうぜんか・中村、藩士/儒者)	K 1 9 2 8
子養(しよ・中井)	藍江(らんこう・中井なかい、絵師)	C 4 8 0 4
子養(しよ・鈴木)	星海(せいかい・鈴木、天文/易学家)	H 2 4 6 9
子養(しよ・岩井)	笠沢(りゅうたく・岩井いわい/源、儒者)	F 4 9 1 3
子擁(しよ・山本)	季護(すえもり・山本やまと/高木、官人/国学)	J 2 3 3 6
之繇(しよ/これしげ?・溝口)→	林卿(りんけい・溝口みぞぐち、大工棟梁)	K 4 9 0 9
資養(しよ・伴)	資養(すけやす・伴ばん、商家/歌人)	J 2 3 0 1
資庸(志庸しよ・鎌田)	環斎(かんさい・鎌田/修姓;鎌、儒者)	H 1 5 6 2
士羊(しよ・高木)	竜洲(りゅうしゅう・高木たかぎ、詩人)	E 4 9 5 8
士養(しよ・鈴木)	一保(かずやす・鈴木すずき、藩士/和漢学)	M 1 5 5 5
士陽(子陽しよ・村井)	蕉雪(しよせつ・村井むらい、藩医/絵師)	K 2 2 3 4
士雍(しよ・奥平)	小太郎(こたろう・奥平、藩士/儒/勤王)	N 1 9 0 5
師陽(しよ・小比賀)	時胤(ときたね・小比賀こひが、本草・和算家)	J 3 1 2 4
師庸(しよ・押小路)	師庸(もろつね・押小路/中原、廷臣/記録)	H 4 4 4 6
嗣庸(しよ・上野)	嗣庸(つぐもち・上野うえの、歌/美津子の夫)	F 2 9 2 9
芝陽(しよ・設楽)	貞丈(さだとも・設楽/菅原、幕臣/本草)	I 2 0 9 3

Q2259 少輔(しよ、藤原兼房女)? -?

母;大江匡衡女の江侍従ごうのじゅう、赤染衛門の孫、

江侍従は前夫高階業遠と1010死別;兼房との結婚は治安1021-24頃か;

少輔の出産もその頃か万寿1924-28頃?、中務少輔藤原公経(のち主殿頭)の妻;少輔と称す  
右大臣源頼房家or左大臣源俊房家の女房、歌;後拾遺集397/505、

[霜枯しもがれはひとつ色にぞなりにける千種ちぐさに見えし野辺にあらずや]

(後拾;冬397/本歌;千種にも霜にもうつる菊の花ひとつ色にぞ月は染めける[躬恒集])

- Q2260 少輔(しょう、藤原家隆女or源家長女)?-? 鎌倉期の歌人、  
1236遠島御歌合(家隆が収集・隠岐の後鳥羽院判の机上の歌合)参加、  
[山の端に有明の月の残らずは霞にあくる空をみましや](遠島歌合;六番左11)
- V2246 升(しょう・渡辺わたなべ/本姓;源、)?-? 江前期;大坂の武士/歌人、  
[明けわたる空も長閑に出づる日は日の光あまねき春はきにけり](忠能[難波捨草]春2)
- U2275 昇(しょう・糟谷かすや、号;老迂/容斎)?-1815 江中後期;江戸の医者/国学
- U2283 翔(しょう・小山こやま、信房男)1756-8732 大坂の商家/国学者、  
小山儀ただしの弟・入江石亭の兄、  
[翔(;名)の字/通称]字;仲鷗ちゅうかつ、通称;作兵衛
- V2238 笑(しょう・森本もりもと/川上、名;慶、森本信就女)1794-187885 母;海寿かいじゅ、信濃伊那郡の豪農家、  
歌人;幼時より母門、森本眞弓の姉、歌;福住清風門、遠江浜松本陣の川上三郎兵衛と結婚;  
息子三郎吉は精信として森本家9代を継嗣、晩年森本家に戻る、  
森本都々子つっこ(眞弓妻/歌人/川上家出身)の義姉、1878(明治11)没  
☆森本家の略系図→ 眞弓(まゆみ・森本もりもと、商家/歌人) P 4 0 3 5
- V2211 照(しょう・田中たなか、)1795-185359 日向飢肥藩士;参政、国学者、  
[照(;名)の字/通称/号]字;士業、通称;良平、号;竹西
- 承(しょう・萩原) → 緑野(りよくや・萩原はざむら、儒/講説/詩) J 4 9 8 2  
昶(しょう) → 如亭(じよてい・柏木、大工棟梁/詩) C 2 2 8 3  
翔(しょう・羽栗) → 翔(かける・羽栗はくり、吉麻呂よしまろ男) L 1 5 5 4  
翔(しょう・七五三) → 長斎(ちようさい・七五三しめ、国学/俳人) I 2 8 3 8  
章(しょう・あきら・秋山) → 富南(ふなん・秋山あきやま、国学/地誌家) D 3 8 5 7  
章(しょう・木村) → 卓堂(たくどう・木村、儒者) O 2 6 1 6  
章(しょう・安藤) → 箕山(きざん・安藤あんど、儒者) I 1 6 5 5  
章(しょう・堀江) → 半峯(はんぼう・堀江ほりえ、藩士/儒者) I 3 6 5 3  
章(しょう・中原) → 章(あきら・中原/葛巻、儒者/歌人) E 1 0 1 7  
章(しょう・渡辺) → 章(あきら・渡辺、連歌) C 1 0 6 2  
章(しょう・亀田) → 鶴山(かくざん・亀田かめだ、商人/詩人) J 1 5 9 2  
章(しょう・あきら・近藤) → 華溪(かけい・近藤こんどう、医者) K 1 5 7 2  
章(しょう・加藤) → 俊丈(俊常しゅんじょう・加藤、医者) L 2 1 0 6  
章(しょう・磯田) → 健斎(けんさい・磯田いそだ、儒者/書) I 1 8 9 3  
章(しょう・山崎) → 玄東(げんとう・山崎やまさき、蘭学/蘭医) L 1 8 8 4  
章(しょう・あきら・佐伯/田上/緒方) → 洪庵(こうあん・緒方、蘭医/教育) 1 9 6 9  
章(しょう・天野) → 恥堂(ちどう・天野あまの、儒者/詩人) F 2 8 0 1  
章(しょう・田中/田) → 鳴門(めいもん・田中/田、鑄造業/詩人) 4 3 3 9  
章(しょう・蒲生) → 精庵(せいあん・蒲生がもう、医/儒者) H 2 4 3 1  
章(しょう・深堀) → 仲慮(ちゆうりよ・深堀ふかぼり、農業/歌) G 2 8 9 6  
章(しょう・鈴木) → 道順(どうじゅん・鈴木すずき、医者) F 3 1 1 6  
章(しょう・市村) → 章(あきら・市村いちむら、国学/歌人) H 1 0 0 0  
章(しょう・広見) → 章(あきら・広見ひろみ、歌人/教育) I 1 0 3 4  
章(しょう・上田) → 子幹(しかん・上田うえだ、儒者/藩士) P 2 1 8 7  
章(しょう・あきら・堀江) → 半峯(はんぼう・堀江ほりえ、藩士/儒者) I 3 6 5 3  
章(しょう・渡辺) → 章(あきら・渡辺わたなべ、酒造業/歌人) I 1 0 8 4  
璋(しょう・千賀) → 玉斎(ぎよくさい・千賀ちが、藩士/儒者) O 1 6 9 4  
璋(しょう・中根) → 元珪(元圭げんけい・中根なかね、暦算家) B 1 8 6 3  
璋(しょう・草鹿) → 泰仲(たいちゅう・草鹿くさか、医者/詩) K 2 6 6 2  
璋(しょう・久保田/小林) → 東鴻(とうこう・小林/坂、幕医/本草) D 3 1 8 7  
璋(しょう・山内やまのうち) → 豊信(とよしげ・山内、容堂、藩主/詩歌) R 3 1 1 8  
璋(しょう・千賀) → 玉斎(ぎよくさい・千賀ちが/賀が、儒者) O 1 6 9 4  
彰(しょう・香山) → 適園(てきえん・香山かやま、儒者/詩人) B 3 0 8 7

彰(しょう・北山)	→	橘庵(きつあん・北山きたやま、医/儒者)	F 1 6 8 8
彰(しょう・白木)	→	半山(はんざん・白木しらき、藩儒/詩人/僧)	H 3 6 7 7
彰(しょう・大伴)	→	彰(あきら・大伴おおとも、神職/国学)	H 1 0 2 7
彰(しょう・奈古屋)	→	彰(あきら・奈古屋なこや、藩士/歌人)	I 1 0 0 6
彰(しょう・深井)	→	彰(あきら・深井ふかい/今村、藩士/兵学/儒学)	I 1 0 3 5
昭(しょう・赤田)	→	誠軒(せいけん・赤田あかだ、儒者)	I 2 4 0 3
升(しょう・内田)	→	鵜洲(ていしゅう・内田、儒者)	B 3 0 0 9
升(しょう・中川)	→	黄庵(こうあん・中川なかがわ、儒者/詩)	H 1 9 2 8
升(しょう・林/新井)	→	文山(ぶんざん・新井/林、儒/詩文/藩士)	F 3 8 4 2
升(しょう・久田)	→	蘭州(らんしゅう・久田ひさだ、儒者)	C 4 8 5 7
尚(しょう・藤井)	→	恒斎(こうさい・藤井ふじい、医者/詩文)	I 1 9 9 1
尚(しょう・金谷)	→	静台(せいたい・金谷かなや/源、儒者)	J 2 4 1 5
尚(しょう・中島)	→	石浦(せきほ・中島なかじま/中浦、医/儒者)	D 2 4 8 3
尚(しょう・藤田)	→	尚(たかし・藤田ふじた、商家/国学)	Z 2 6 3 5
尚(しょう・渡辺)	→	尚(ひさし・渡辺わたなべ、藩校総裁/国学)	M 3 7 3 8
彰(しょう・香山)	→	適園(てきえん・香山かやま、儒者/詩人)	B 3 0 8 7
彰(しょう・白木)	→	半山(はんざん・白木しらき、儒者)	H 3 6 7 7
彰(しょう・北山)	→	橘庵(きつあん・北山きたやま、医/儒者)	F 1 6 8 8
彰(しょう・葛西)	→	靖斎(せいさい・葛西かさい/小山田、医者)	I 2 4 2 6
昌(しょう・合田/三宅)	→	鞏革斎(きょうかくさい・三宅みやけ、儒者)	G 1 6 6 3
昌(しょう・国友)	→	古照軒(こしょうけん・国友、藩儒/教育)	M 1 9 8 0
昌(しょう・尾関)	→	宣胤(のりたね・尾関おせき/尾張、神職)	H 3 5 6 2
昌(しょう・富和)	→	清世(きよつぐ・富和とみわ、国学者/歌)	U 1 6 8 7
唱(しょう・莊門)	→	光海(みつみ・莊門しょうもん、国学者)	J 4 1 3 0
勝(しょう・平沢)	→	白翁(白鷗はくおう・平沢ひらさわ、卜占家)	C 3 6 7 6
勝(しょう・小林)	→	安石(あんせき・小林こばやし、医者/詩人)	G 1 0 1 2
勝(しょう・松永[松長]/岡西[岳西])	→	惟中(いちゅう・岡西/松永、歌・俳人)	1 1 1 9
勝(しょう・飛田)	→	逸民(いつみん・飛田とびた、儒者)	H 1 1 9 6
勝(しょう・高島)	→	清音(きよね・高島たかばたけ、鍼医/歌人)	U 1 6 6 7
邵(しょう・和田)	→	一江(いっこう・和田わだ、儒者)	H 1 1 0 7
松(しょう・谷)	→	一斎(いっさい・谷たに、儒;南学)	E 1 1 1 7
松(しょう・伊藤)	→	威山(いざん・伊藤いとう、儒者)	F 1 1 5 6
昭(しょう・鳥飼)	→	市兵衛(いちべえ・3代吉文字屋、書肆)	D 1 1 6 2
昭(しょう・新渡戸)	→	十次郎(じゅうじろう・新渡戸にとべ、藩士)	X 2 1 6 0
昭(しょう・里見)	→	酔経(すいきょう・里見さとみ、儒者)	E 2 3 3 2
昭(しょう・渡辺)	→	昭(あきら・渡辺わたなべ、歌人)	I 1 0 8 3
紹(しょう・小石)	→	中蔵(ちゅうぞう・小石こいし、医者)	G 2 8 5 9
樵(しょう・青山)	→	雲隣(うんりん・青山あおやま、絵師)	E 1 2 1 2
樵(しょう・横山)	→	僮人(たんじん/せんじん・横山、幕臣/儒者)	I 2 6 4 0
樵(しょう・十河)	→	筋堂(せつどう・十河そごう、篆刻家)	L 2 4 3 2
樵(しょう・上甲)	→	振洋(しんよう・上甲じょうこう、藩儒/教育)	Q 2 2 0 1
昇(しょう/のぼる・林)	→	学斎(がくさい・林はやし、幕府儒官)	J 1 5 8 6
昇(しょう/のぼる・入江)	→	成斎(かんさい・富沢とみさわ、藩士/儒者)	Q 1 5 5 8
昇(しょう/のぼる・谷川)	→	士清(ことすが・谷川、医者/神道/語学)	1 9 3 6
昇(しょう/のぼる・内藤)	→	盛業(せいぎょう・内藤ないとう、藩士/俳人)	H 2 4 9 4
昇(しょう/のぼる・山下)	→	守胤(もりたね・山下、商業/絵師/藩士)	F 4 4 6 8
象(しょう・太田)	→	玩鷗(がんおう・太田おた、儒者/詩人)	G 1 5 1 4
象(しょう・斎藤)	→	鑿江(らんこう・斎藤さいとう、商家/儒者)	C 4 8 0 5
象(しょう下平)	→	きざ(象きさ・下平しもひら/片桐/林/小木曾、歌人)	U 1 6 5 0
涉(しょう・榎田)	→	琴山(きんざん・榎田くしだ、儒者)	H 1 6 8 9

涉(しょう・杉浦)	→	桐村(とうそん・杉浦、音曲家/絵師)	3 1 4 3
涉(しょう・宮川)	→	正秋(まさあき・宮川みやがわ、国学者)	S 4 0 9 9
照(しょう; 一字名)	→	興意親王(こういしんのう、天台僧/連歌)	H 1 9 3 1
照(しょう・関)	→	元洲(げんしゅう・関せき、藩士/儒者)	D 1 8 8 4
照(しょう・中沢)	→	亦助(又助またすけ・中沢、藩士/和算家)	J 4 0 4 6
韶(しょう・池田)	→	東籬亭菊人(とうりていきくひと、池田、官人/読本)	3 1 2 7
韶(しょう・松岡/日野)	→	春霧(しゅんあい・日野/秋良/秋、医者/詩)	2 1 9 0
韶(しょう・原田)	→	蘇堂(そどう・原田はらだ、藩儒者)	K 2 5 2 2
鐘(しょう・村上)	→	忠浄(ただきよ・村上むらかみ、医者/歌)	E 2 6 4 4
鐘(しょう・広江)	→	秋水(しゅうすい・広江ひろえ、商家/詩人)	X 2 1 7 1
聖(しょう; 一字名)	→	道興(どうこう; 法諱、天台僧/修験/歌)	E 3 1 0 1
燮(しょう・安田)	→	放庵(ほうあん・安田やすだ、儒者/詩人)	3 9 1 2
少輔(しょう)	→	少輔君(しょうのみ、天台僧/歌人)	S 2 2 6 3
少輔(しょう・佐々木)	→	義国(よしくに・佐々木、砲術家)	D 4 7 2 1

U2256 時庸(じょう・ときつね or ときもち・畑はた) ?-? 江後期; 歌人、医者畑時倚ときより(銀鷄)の一族?、

1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、

[浅茅生あさぢふの小野の秋風寒き夜は妻恋ひわびて鹿の鳴くらん](大江戸倭歌; 秋764)、

[払ひかねさこそは霜の重からめ子を思ふ鶴の夜の毛衣](同; 雑1780/夜鶴)

時庸(じょう・平松/辰)	→	時庸(ときつね・平松/西洞院/平、廷臣/歌)	J 3 1 3 9
時庸(じょう・横井)	→	時庸(ときもち・横井/井、藩士/地誌)	K 3 1 1 4
時庸(じょう・山名/清水)	→	時庸(ときもち・清水しみず、幕臣/神道/兵学)	K 3 1 1 5
時庸(じょう・長井)	→	雅楽(うた・長井ながい、藩士/開国論)	D 1 2 0 0
時庸(じょう・阿部)	→	時庸(ときつね・阿部あべ、神職)	T 3 1 8 8
時雍(じょう・広橋/交野)	→	時雍(ときちか・交野かたの/平、廷臣)	J 3 1 2 8
時雍(じょう・藁科)	→	立沢(りゅうたく・藁科わらしな、藩医/文学)	F 4 9 1 2
時雍(じょう・河地)	→	時雍(ときやす・河地かわち、国学者)	U 3 1 8 7
自養(じょう・田代)	→	簡窩(かんか・田代たしろ、家老/儒者)	Q 1 5 0 2
如羽(じょう・下郷/千代倉)	→	常和(じょうわ・下郷しもさと、商家/俳人)	C 2 2 2 0
丞(じょう・須藤)	→	神庵(しんあん・須藤すどう、儒者)	N 2 2 2 9
条(じょう・渡辺)	→	条(たりえ・渡辺わたなべ、藩士/儒/国学)	2 7 4 8
浄(じょう・神戸)	→	浄(きよし・神戸かんべ、藩士/国学/歌)	U 1 6 0 3
常(じょう・源)	→	常(ときわ・源、三条左大臣、詩歌)	K 3 1 3 5
常(じょう・熊谷)	→	秋雨(しゅうう・熊谷くまがい、医者/日記)	W 2 1 6 1
常(じょう・加部)	→	誠斎(せいさい・加部かべ、医者/儒者)	I 2 4 2 5
縄(じょう・赤井)	→	東海(とうかい・赤井/芦田、藩士/儒者)	B 3 1 9 3
襄(譲じょう・北条)	→	霞亭(かてい・北条ほうじょう、儒者/詩人)	F 1 5 5 2
襄(じょう→のぼる・頼)	→	山陽(さんよう・頼らい、漢学/詩人)	2 0 5 8
穰(じょう・築山)	→	楽山(らくざん・築山つきやま、絵師)	B 4 8 1 5
譲(じょう・長戸ながと)	→	得斎(とくさい・長戸ながと、儒者/詩人)	K 3 1 7 3
譲(じょう・後藤/高野)	→	長英(ちやうえい・高野たかの、蘭学者/医者)	H 2 8 3 9
譲(じょう・鈴木)	→	恭斎(きやうさい・鈴木すずき、儒者)	N 1 6 8 1
譲(じょう・岡田)	→	清(きよし・岡田おかだ、藩士/国学/地誌)	H 1 6 4 0
譲(じょう・下田)	→	桂屋(けいおく・下田しもだ、藩士/詩文)	F 1 8 3 3
譲(じょう・成島)	→	筑山(ちくざん・成島/杉本、幕臣/儒者)	D 2 8 0 7
譲(じょう・神林)	→	復所(ふくしょ・神林かんばんやし、藩士/儒者)	B 3 8 5 8
譲(じょう・浅野)	→	譲(ゆずる・浅野あさの、医者/歌人)	G 4 6 0 6
譲(じょう・広瀬)	→	譲(ゆずる・広瀬ひろせ、国学・歌人)	H 4 6 1 7
拯(じょう・若山)	→	勿堂(ぶつどう・若山わかやま、儒者/易学)	D 3 8 4 0

Q2267 生阿(しょうあ; 法諱、法師) ? - ? 鎌倉中期の歌僧、玉葉集800、1345藤葉集入、

[山もとの裾野の小萩散りぬれど錦を残す峰のもみぢば](玉葉; 秋800)、

- [むら時雨おなじつづきの山をだにめぐりもはてずはるるうき雲](藤葉;冬304)
- Q2268 **唱阿**(しょうあ;藤原ふじわら、頼貞、隆頼男)?-? 鎌倉期廷臣;右衛門尉;出家、歌人、  
1263(弘長3)住吉社歌合/玉津島社歌合(為氏・為教・阿仏尼らと)参加、  
[帰るさは遠里小野の桜がり花にやこよひ宿をからまし](住吉歌合;野花九番右)
- G2247 **称阿**(しょうあ;法諱・上人)? - ? 鎌倉末南北期の時宗僧、  
連歌;1356成立「菟玖波集」7句入、  
[老木は花もまれにこそ咲け](菟玖波;二春96/前句;古の春は心に帰り来て)
- Q2269 **聖阿**(しょうあ;法諱) ? - ? 室町期連歌作者、  
1445・8月垂水入道日晟にちせい亭「文安月ふんあつき千句」参加;第九何水発句、  
1445冬「雪千句」興行(;行助など参加)
- T2237 **肖阿**(しょうあ・武光たけみつ) ? - ? 江戸期幕臣;与力/歌人;日野家門、  
1798石野広通「霞関集」入、  
[山守は許さぬ花のふもと川うつれる影を波や折るらん](霞関;春133/河上花)
- G2248 **称阿**(しょうあ;号、日高源右衛門守常3男)?-? 江後期筑前鞍手郡下大隅村の浄土僧、  
1786中間村の明願寺の弟子/1789江戸で受戒、帰郷後大阪の道頓堀法善寺に住、  
1794「当麻寺并曼荼羅縁起」、「法の絵草紙」著、  
[称阿(;号)の字/別号]字;実弦、別号;厭誉
- G2249 **聖阿**(しょうあ;法諱) ? - ? 江後期丹後久美浜の真宗僧、歌人、  
1816「女人厭欣手引草」著、「尼衆住庵規則」著、1841「類題和歌鮫玉集」四編に入集
- Q2270 **正阿**(しょうあ/せいあ・河合かわい、嘉右衛門男)1779-1838<sup>60</sup> 信濃諏訪郡矢ヶ崎俳人;五味文嘯門/心学、  
1803西国行脚/筑前で医・儒;亀井南冥門、長崎で蘭医;檜林峽山・ムスクルス門、1811帰郷、  
医業の傍ら国史・儒学・仏教研究、誹諧;諏訪俳壇の中心、石川雅望と交流、  
「不知集」編、「梅百句」「弘淵漫録」「養蚕一家言」著、「正阿句集」(小平雪人編;1901刊)、  
[正阿(;号)の通称/別号]通称;亀吉/良作、  
別号;汪父/江梅散人/鬼南子/弘瀾/金翎堂<sup>きんれいどう</sup>/大郷/弘淵/鴻斎/梅寮、  
法号;覚翁正阿居士
- U2246 **照阿**(しょうあ・三村むら、旧姓;石田/号;幽松庵)?-1842 江後期の茶人、河内石川郡の生、  
叔父の医業継嗣;大和で開業、大坂に隠居後;表千家茶道;多田宗掬<sup>そうぎく</sup>・稲垣休叟<sup>きゆうそう</sup>門、  
歌;蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、  
[冬来ぬとまづ取りいだす唐びつの明がた寒く時雨降るなり](大江戸倭歌;1040初冬朝)
- 照阿(しょうあ・深川) → 照阿(てるくま・深川ふかがわ、神職/連歌師) F 3 0 2 1  
 称阿(しょうあ/号誉ごうよ・名蓮社) → 徳本(とくほん、浄土僧) L 3 1 4 6  
 姓阿(しょうあ;法諱) → 性阿(せいあ;法諱、阿闍梨/歌人) 2 4 2 8  
 昌阿(しょうあ・細井) → 貞雄(さだお・細井、商家/国学/故実) 2 0 1 7  
 唱阿(性阿/聖阿しょうあ;号) → 性心(性真しょうしん;法諱、浄土僧;鎮西流藤田派祖) J 2 2 9 4  
 尚阿(しょうあ・心蓮社) → 立道(りゅうどう;法諱、浄土僧/詩歌) F 4 9 3 3
- Q2271 **成阿**(じょうあ/せいあ、法師) ? - ? 1385存 南北期連歌作者;救済門、  
1356-70「紫野千句」参加;85句入、二条良基に認められ[和歌集心躰抄抽肝要]の相伝を受、  
北野千句奉行(落書露頭入)、1382等持院忌和漢聯句参加/85石山百韻に一座(;7句)、  
菟玖波集3句入、  
[小野といふ里まで人のたづね来て](菟玖波;雑1253/前句;今朝めづらしくふれる白雪)  
次の成阿との関係は不明?  
○四条高倉聖雲房で説教した成阿弥陀仏(師守記;貞和三1347年2月9日)、  
○明徳元1390年7月8日「融通念仏縁記」を開板した成阿
- Q2272 **浄阿**(初代じょうあ;法諱、真観)1269-1341<sup>73</sup> 時宗僧;応長元1311四条道場金蓮寺を創建、  
時宗四条派の祖、歌;他阿門、頓阿と交流、  
新千載2首(;774/889)作者説あり、尊応法親王詞書・土佐光信筆「浄阿上人絵詞伝」あり
- Q2273 **浄阿**(二代じょうあ;法諱、初諱;作阿)1304-60<sup>57</sup> 時宗僧;開山上人門、四条道場金蓮寺住職、  
1341名号浄阿を継嗣、佐々木道誉と親交;四条京極の地の寄進を受、  
歌人;新千載2首;774/889(初代説もある)、

連歌; 文和1352-56頃の「何路百韻」参加、菟玖波集; 発句2句入、  
[波かけぬ須磨のうへ野の露にだになほしほたるる旅衣かな](新千載; 774; 初代説あり)、  
[した照らす紅葉は高き梢かな](菟玖波; 発句2127/藤沢の清浄光院にて)

- G2250 乗阿(じょうあ) ? - ? 南北期; 時宗僧/連歌;  
1356成立「菟玖波集」11句(; 乗阿上人8句/乗阿法師3句、発句; 山城梅津長福寺花見連歌)、  
[花咲きて後は人こそまたれけれ](菟玖波; 廿発句2041)、  
1361没・1363/6月没・1363/10月没(一花堂)などの乗阿がいていずれか不明
- Q2274 浄阿(四代じょうあ; 法諱、初諱; 重阿、牧野頼氏男) 1317-7963 隠岐生/永仁1293-99頃一遍智真門、  
時宗僧; 隠岐大光寺住/1370時宗四条道場に入山/四代浄阿を継嗣、  
1377日本書紀十五巻を熱田神宮に奉納、歌人; 「日本紀紙背歌」著、  
勅撰4首; 新後拾600・692・1299/新統古1844(浄阿上人名)、  
[古郷の花のさかりも過ぎぬべし帰らばいそげはるのかりがね](新後拾; 七雑春600)
- W2232 浄阿(五代じょうあ; 法諱、) ? - ? 南北期; 時宗僧、四条道場に入山/五代浄阿継承、  
四条京極にあった四条道場の本山金蓮寺で明神の夢告; 発句[花に今鳴沢池の蓮かな]、  
二条良基に説き43名の出詠を受け奉納のための連歌・歌の興業/編纂;  
1387(至徳4)隠岐高田明神に[百首和歌]・[千句連歌]を奉納する(千句連歌は散佚);  
良基等公卿8人・女性1人・源義将等武家10人・浄阿等時宗僧15人・顕深等他宗僧9人; 43名、  
四代浄阿が隠岐出身で四条道場(中央文化)と隠岐との深い関係があったと思われる、  
[いづる日の高田たがの山はあらはれてにしむら遠くたつ霞かな]、  
(高田明神百首; 3/霞満村、浄阿の歌10首入)  
☆隠岐高田明神; 至徳年間佐々木隠岐次郎左衛門女[小花姫]に高田山頂鳴沢池から神託;  
四代浄阿を輩出した隠岐大光寺の時宗衆の創建した隠岐島後の神社
- W2233 乗阿(じょうあ) ? - ? 南北期; 時宗僧/歌人、  
1387浄阿五代奉納[隠岐高田明神百首和歌]に出詠、  
[虹の原や鳥立どち見ざりしはし鷹のみぞれも雪もふり暮しつづ](高田明神歌; 66)
- G2251 定阿(じょうあ、通称; 因幡守入道、俗姓; 得平) 1505-? 1588(84歳) 存 播磨荒田の時宗僧、  
1569浦上宗景に亡ぼされた赤松氏の一族、1588「赤松記」著(; 主家の興亡などの見聞記)
- Q2275 乗阿(じょうあ、一華堂いっかどう/一花堂、武田信虎男) 1531-161989 甲斐の時宗僧; 1538出家、  
1547駿河長善寺の体光門/のち長善寺12世住職/和学・歌学; 高井堯慶・冷泉為和門、  
さらに三条西公条・三条西実枝門/実枝より古今伝授を受、林羅山と源氏物語論争、  
晩年は京七条道場金光寺住、切臨の師、「源氏口伝」「伊勢物語新註」「詠歌大概」著、  
1608「慶長十三年漢和聯句」・1614連歌; 「慶長十九年何船百韻(昌琢らと)」
- G2252 浄阿(じょうあ; 法諱/別諱; 同阿、俗姓; 富樫) ?-1550 加賀の時宗僧; 6歳で受戒/尾張津島蓮台寺住、  
一向上人21代を継嗣(一向上人血脈相承譜)、  
連歌作者: 宗長と「何木百韻」/1537弥阿と「何路百韻」
- V2253 浄阿(29代じょうあ; 法諱/初諱; 慈観、) 1624-168259 越前の時宗僧; 遊行25世門?/常陸常永寺住、  
敦賀西方寺住職/1636(寛永13)上京; 法流相統/73(延宝元)四条派道場金蓮寺29代住職、  
28代浄阿仙山を継嗣/化導10年/1682(天和2)没、浄阿白信が30代を嗣、  
歌人; 1682河瀬菅雄[麓の塵]7首入、  
[泉川かは風寒く月さえてみぎはの波やまづ氷るらん](麓の塵; 冬326)  
☆四条道場金蓮寺歴代住職  
初代浄阿真観(1268-1341)-2浄阿-3浄阿-4浄阿重阿-5浄阿慶恩(1318-96)⇒・・・  
26浄阿碧道-27浄阿残遊-28浄阿仙山(?-1672)-29浄阿慈観-30浄阿白信-31浄阿円廓
- Q2276 丈阿(じょうあ、観水堂) 1685頃?-?: 80余歳 草双紙(黒・青本)作者; 著作80種以上、  
1752「猿塚物語」58「敵討桃折枝」62「音曲猿沢月」、1770「大きかづき丹波山」外多数  
[観水堂丈阿の別号] 観水亭/麦泊亭/八十二翁/八十七翁/武江市隠/木庵
- Q2277 貞阿(じょうあ) ? - ? 江前期浄土僧; 1697「四誓偈勸化直談しせいげかんげじきだん」編
- U2296 乗阿(じょうあ; 法諱) 1707 - 178074 京の浄土僧/増上寺で修学; 太田大光院37世、  
鎌倉光明寺71世、1771(明和8)知恩院57世貫主/72大僧正、歌人; 澄月門、  
1772知恩院在山中に制状六箇条を制定; (第一条「公儀御法度は勿論、



元和以来宗門の御制条及び国宝・当山歴代の制度、嚴重に相い守るべき事」など)、  
1780(安永9)京の新善光寺に隠棲;没  
[乗阿の字/法名]字;大愚、法名;梅蓮社檀譽

U2297 乗阿(じょうあ;法諱 1769 - 1837<sup>69</sup>) 伊勢の時宗僧/近江犬上郡の高宮こうぐ寺住職、  
歌人;[彦根歌人伝;鶴・続附録]入

貞阿(じょうあ;字) → 玄貞(げんてい;法諱、真宗仏光寺派僧) E 1 8 4 2

成阿(じょうあ・盛蓮社) → 了実(りょうじつ;法諱、浄土宗第六祖) H 4 9 7 6

浄阿(じょうあ・香川) → 景柄(かげもと・香川、歌人) 1 5 1 1

定阿(じょうあ;法名) → 定能(さだよし・藤原、廷臣/神楽) C 2 0 6 4

松愛堂(しょうあいどう) → 寿斎(じゅさい・赤松あかまつ、故実家) Y 2 1 7 8

正阿弥(しょうあみ・大山) → 綱良(つなよし・大山/華山、藩士/勤王) B 2 9 4 1

常阿弥(じょうあみ・岡田) → 忠篤(ただあつ・岡田おかだ/藤原、幕臣/歌) E 2 6 8 0

証阿弥陀仏蓮昭(しょうあみだぶつれんしょう) → 長清(ながきよ・勝間田、時宗歌僧) D 3 2 5 4

Q2278 請安(しょうあん・南淵みなぶち、南淵先生せんじょう)?-? 飛鳥期大和高市郡南淵の学問僧、渡隋608-640、  
日本儒学の草創期の学者:天智天皇・藤原鎌足の師

G2253 邵庵(しょうあん;道号・全雍ぜんよう;法諱)?-? 室町期応永永享1394-1441頃の臨濟僧;  
少林桂萼門/法嗣、鎌倉建長寺住、1416-7頃上杉禅秀の乱を避け上京、  
のち関東管領上杉憲実の招聘で建長寺正統庵に住/1440信州西岸寺住持、  
横川景三「百人一首」入、「山林文芳さんりんぶんかい集」「邵庵老人詩」著

V2221 昌庵(しょうあん・細川ほそかわ) ? - ? 江前期寛永-元禄1624-1704頃越後高田の医者;父は藩御用医、  
高田藩主松平光長(1616-1707)に出仕;父を継嗣し御用医となる、薬園経営、  
烏丸光広(1579-1638)と歌道で交流、1674-80越後騒動:光長は伊予松山配流(藩主不在)、  
1685(貞享2)稲葉正往(正通)が藩主となり再び立藩(10万3千石);正往に出仕、  
俳人;1689(元禄2)奥のほそ道北陸旅の芭蕉の病気を治療;自邸で芭蕉発句の四吟歌仙催、  
[荻のすだれをあげかける月](芭蕉[薬欄にいつれの花をくさ枕])の付句/曾良随日記)、  
[昌庵(;名)の通称/号]通称;竹庵(升庵;金欄集)/青庵(曾良日記では春庵)、  
俳号;棟雲(棟雪;曾良日記)

Q2279 勝庵(しょうあん) ? - ? 堺俳人、1660顯成あきなり「境海草さかいぐさ」入

G2254 性佞(性安しょうあん;法諱・千呆/千駄せんがい/曇瑞;道号、俗姓;陳) 1636-1705<sup>70</sup> 清の福建の黄檗僧:  
1652(17歳)即非如一門/嗣法、1657師に従い渡来、68長崎崇福寺中興2世、能書家、  
1681飢饉に粥の施与に尽力/95宇治黄檗山万福寺6世、1671「即非和尚徳感集」編、  
1692「黄檗宗鑑録」補/95「千呆せんがい禅師鶴林集」著・「千呆禅師語録」著(大衡編)、  
1695「千呆禅師禅余艸」、「千呆禅師檠林外集」著

G2255 章庵(しょうあん・加藤かとう、名;延雪/綱)?-? 江前期寛文元禄1661-1704頃伊勢安濃津の儒者、  
江戸で山崎闇斎門、1689「大学紀聞略説」、「章庵暇筆」著、  
[章庵(;号)の字/通称/別号]字;黙子、通称;紙屋/平三郎/源十郎/半三郎、  
別号;晦養堂/悦習斎、屋号;人形屋

G2256 菖庵(しょうあん・沢田さわだ、訥斎とっさい男) 1647-? 1685存 京の儒者:父門/1666加賀金沢藩儒、  
1685父と共に致仕、1669「東行記」著、  
[菖庵(;号)の通称/字]通称;道玄、字;宗堅(;父の字を継嗣)

Q2280 松庵(しょうあん・奥田おくだ、名;舒雲/字;子章)?-? 江前期寛文1661-73頃の儒者/詩;江村剛斎門、  
那波活所門、1692「剛斎残稿」序、「白氏新楽府」著

G2257 松庵(しょうあん・小村こむら、別号;寿軒)?-? 江前期元禄1688-1704頃和算家、  
20余年間諸国を歴遊、越中で算学書刊行;1701「積誥集」「漢術和変」著、  
信濃佐久・小県地方に門流が広がる

G2258 升庵(しょうあん・吉永よしなが/本姓;菊池) 1656-1735<sup>80</sup> 肥前長崎の医者:蘭館医アルマンス・カスパル門、  
外科術を修学、1671老中稲葉正則に招聘され江戸本所猿江町で開業、「阿蘭陀外科」編、  
「阿蘭陀外科明鑑拔萃」「当流伝記要撮拔書」著、「阿蘭陀外科正伝」伝、升雲しょううんの父、  
[升庵(;通称)の号] 寂紫/寂翁/陽徳庵老人/勇鍛軒、法号;金光明最勝王院寂紫

Q2281 松庵(しょうあん・三重みえ、名;貞亮、政周男/本姓;平) 1674-1734<sup>61</sup> 京の仏教学/儒者;朱子学/陽明学、

1702「王学名義」17「二経訓伝」19「声母伝」、「三経訓伝」「助語辞鈔」「陸子語録俗詮」著、  
[松庵(；号)の字/通称]字；新七、通称；新七郎

- G2259 **松庵**(しょうあん・三宅みやげ、名；利興、三宅彦左衛門兼貞男) 1737-1805 69 阿波美馬郡脇町の儒者、  
徳島藩家老稲田家の家臣、太宰春台の学説を奉じ子弟教育、茶・俳人、「松庵日記」著、  
[松庵(；号)の字/通称/別号]字；子英、通称；民助、別号；藉蘭
- U2268 **正安**(しょうあん・一迫いちのはざま/旧姓；佐々木) 1746-1832 87 陸奥登米郡の医者；高橋正安門、  
師号を継嗣/一迫家の養子；開業；小児科、子育てに[消乳食丸]を無料配布；藩より褒賞、  
[正安(；号)の通称/別号]通称；晩節、別号；何及斎
- V2213 **松庵**(しょうあん・堀口ほりぐち、弥右衛門長男) 1799-1876 78 佐渡奉行所地役人；父継嗣/1812出仕、  
1838(天保9)羽茂の中川善兵衛らの一国一揆発生；地方掛頭取のため江戸評定所で審判、  
一時幽閉/佐渡で50日押込、のち広間役/維新まで57年間出仕、  
書家；江戸市河米庵門；北陸道の雄と称され[佐渡の三松]の1(永宮寺松堂・中山松齋と)、  
大幟を得意、歌人尾高高雅の実兄、  
[松庵(；号)の名/字/通称/別号]名；満儀、字；伯宜、通称；市太夫/弥右衛門、別号；金浦
- G2261 **松庵**(しょうあん・柏淵かしづち)？ - ？ 1804-18頃没 美濃田芸郡高田の国学者；田中道麿1724-84門、  
1787本居宣長門、歌人；「松庵翁桜百首」「柏淵有香詠草」著、道恒の父、  
[松庵(；号)の名/字/通称]名；在香/有香ありか/三千広/道広、字；士憲、通称；藤左衛門
- G2262 **松庵**(しょうあん・今井いまい/修姓；井、名；敏卿/字；子慎)？-？ 江中期宝暦1751-64頃江戸の儒医、  
漢学；松崎観海門、「傷寒薬性考」「傷寒論緒言」、1764「松庵筆語」著
- G2263 **承庵**(しょうあん・桑原くわばら、名；隆朝[4代]、如則男)？-？ 幕末期仙台の医者；仙台藩医、  
1848「田海録」、「承庵雑記」、弟周庵(静軒)は工藤鞏卿の養子、姉妹に伊藤忠敬の妻
- F2200 **尚庵**(しょうあん・岩瀬いわせ、名；頭)？-1871 幕末期美濃大垣藩士/儒者；佐藤一斎/大橋訥庵門、  
「中庸」に精通、能書家、1854「夢中問答」、「山田行記」著、  
[尚庵(；号)の字/通称/別号]字；純甫、通称；中蔵、別号；桜溪
- G2264 **昌庵**(しょうあん・遠田とおだ、名；著明)？-？ 幕末期江戸の蘭学者、中田剛屏と交流、  
1856「和蘭文典訳語筈」訳  
[昌庵(；号)の通称/別号]通称；胖夫、別号；天籟
- 尚庵(しょうあん・原) → 双桂(そうけい・原はら、医/漢学/詩文) B 2 5 1 9  
性安(しょうあん；法諱) → 独航(どっこう；道号・性安、黄檗僧) O 3 1 4 7  
松庵(しょうあん) → 知道(智導ちどう、真宗僧) E 2 8 9 7  
松庵(しょうあん・河鱒/西洞院) → 時慶(ときよし・西洞院//平、廷臣/歌) 3 1 3 8  
松庵(しょうあん・黒神) → 直民(なおみ・黒神くろかみ、神職/国学) B 3 2 6 4  
松庵(しょうあん・今井) → 魯斎(ろさい・今井いまい、藩儒者；史官) B 5 2 5 0  
松庵(しょうあん・佐藤) → 信淵(のぶひろ・佐藤、経世家/医者) D 3 5 1 2  
松庵(しょうあん・藤本) → 由己(ゆうこ・藤本、医者/詩歌/狂歌) B 4 6 5 2  
松庵(しょうあん・久世) → 敦行(あつゆき・久世くぜ、本草家) E 1 0 9 1  
松庵(しょうあん) → 一蝶(初世いちちよう・英はなぶさ、絵師) C 1 1 0 8  
松庵(しょうあん・高瀬) → 学山(がくざん・高瀬たかせ、儒者) E 1 5 6 9  
松庵(しょうあん・田丸) → 健良(けんりょう・田丸たまる、医者/詩歌) N 1 8 0 1  
松庵(しょうあん；号) → 知道(ちどう；法諱、真宗大谷派僧) E 2 8 9 7  
松庵(しょうあん・片桐) → 致真(ゆきざね・片桐かたぎり、商家/歌人) G 4 6 7 3  
松庵(しょうあん・今井) → 道安(みちやす・今井いまい、医者/歌人) I 4 1 1 2  
昌庵(しょうあん・谷村) → 玄仙(げんせん・谷村、医者) K 1 8 6 0  
昌安(昌庵しょうあん・勝原/永富) → 独嘯庵(どくしょうあん、永富ながとみ、医者/詩) L 3 1 0 5  
蕭庵(しょうあん；号) → 龍統(りゅうとう；法諱・正宗しょうじゅう；道号、臨濟僧/詩文) 4 9 1 1  
嘯庵(しょうあん・永富) → 独嘯庵(どくしょうあん、永富ながとみ、医者/詩) L 3 1 0 5  
菖庵(しょうあん・鈴木) → 荘丹(そうたん、高柳/鈴木、医者/俳人) C 2 5 4 8  
菖庵(しょうあん・深沢) → 高直(たかなお・深沢ふかざわ、医者/歌人) D 2 6 3 3  
正庵(璋庵しょうあん・綾部) → 剛立(ごうりゅう・麻田あさだ、天文暦算家) C 1 9 0 5  
正庵(しょうあん・朽木) → 綱条(つなえだ・朽木くつき/源、藩主/儒者) B 2 9 0 3

- 祥庵(しょうあん・藤井) → 西洞(さいどう・藤井ふじい、医者/書家) 2098  
 椽庵(しょうあん) → 汀画(ていが、北市屋、俳人) 3043  
 咲庵(しょうあん・柴田) → 花守(はなもり・柴田しばた/咲行、神道家) F3650  
 樵庵(しょうあん・号) → 永瑾(えいきん; 法諱・雪嶺、臨濟僧/詩) 1321  
 升庵(しょうあん・細川) → 昌庵(しょうあん・細川ほそかわ、医者/俳人) V2221  
 升庵(しょうあん・陳) → 元賛(げんいん/げんびん・陳、儒者/製陶/拳) B1827  
 升庵(しょうあん・牧まき/新興) → 夏嶽(かがく・新興におう/興、書家) J1530  
 勝安(しょうあん・芳賀) → 篁墩(こうとん・芳賀はが、藩士/儒者) K1985  
 G2265 常安(じょうあん) ?-? 連歌、1464?盛長催「熊野千句」参  
 G2266 常庵(じょうあん; 道号・竜崇りゅうそう; 法諱、東常縁男) 1470-1536 67 臨濟僧: 幼くして正宗竜統門/法嗣、詩文; 正宗・月舟寿桂門、薩摩大願寺住持/京真如寺住持/1517京建仁寺262世、建仁寺靈泉院に退隱、「寅闇詩集」「寅闇文集」「寅闇序跋集」「寅闇四六後集」「寅闇稿」、「角虎道人文集」「実伝和尚道行記」「富士八景并法語」「栗蒲集」/1523「常菴法語」外著多数、[常庵竜崇の号] 寅闇いんあん/東里/栗蒲/角虎道人  
 Q2282 浄庵(じょうあん・木下きのした、名; 順信のぶあき、順庵男) ?-?1698 頃病没 1678加賀金沢藩の儒者/詩; 父門、家督を継ぐ前に病没、「浄庵詩集」、「木門詩集」入、菊潭きくたんの兄 [浄庵(; 号)の字/通称] 字; 敬簡、通称; 熊助  
 G2267 成安(じょうあん; 号・正法寺、姓; 成安なりやす、通称; 四郎右衛門) 1582?-1664 83歳? 撰津平野出身、和泉堺で革屋経営(屋号; 革屋)、出家; 姓を音読し成安じょうあん(成安法師)と号す、堺の浄土宗正法寺内の祭花庵の住僧/俳人; 貞門の云也ト養うんやばくよう門、道節・宗因・貞室と交流、誹諧三昧の生活; 和泉堺俳壇の重鎮; 云也没後の総帥、1661「埋草うもれぐさ」編(; 題成「境海草さかいぐさ」に次ぐ堺俳壇第二撰集); 1662京谷岡七左衛門刊、埋草に漏れた句の追加編纂に着手したが未完で没; 長谷寺ちようくじの秀政しゅうせいが後継し「貝殻集」として完成、「滑稽太平記」に逸話入、没後; 1676西鶴「誹諧師手鑑」/78西鶴「物種集」入、「花は昼も危なき風の扇子哉」(手鑑)、辞世[親もなし子もなし跡に銭もなしからだ計ばかりはからりちんなり](後撰夷曲集)  
 G2268 讓庵(じょうあん; 通称・高松たかまつ) ?-? 江末期江戸住; 岡部内膳正の家臣、蘭学者、天文方出役御庸を務める、「星学航海地誌」訳  
 浄庵(じょうあん・杉原) → 家次(いえつぐ・杉原、武将/記録) E1185  
 浄庵(じょうあん; 号) → 豪栄(ごうえい: 法諱・号; 浄庵、天台僧) H1958  
 浄安(じょうあん; 法名) → 親政(ちかまさ・福富ふくとみ、武将/藩士) B2881  
 成安(じょうあん) → 成安(せいあん・正法寺、俳人) 2453  
 丈庵(じょうあん・辛島) → 春帆(しゅんぱん・辛島からしま、医者/詩人) K2140  
 常安(じょうあん・伊勢) → 貞宗(さだむね・伊勢/平、幕臣/故実家) C2053  
 常安(じょうあん・本田ほんだ) → 東陵(とうりょう・本田、儒者) I3129  
 常安(じょうあん; 法名) → 信直(のぶなお・禰津ねづ、鷹匠/文筆) C3546  
 常安(じょうあん・有持) → 桂里(けいり・有持ありもち、医者) G1878  
 常安(じょうあん・佐瀬) → 常安(つねやす・佐瀬させ、神職/国学) F2971  
 常安(じょうあん・檜垣) → 常安(つねやす・檜垣/度会わたらい、神職) E2906  
 常安(じょうあん・森寺) → 常安(つねやす・森寺もりでら、廷臣/歌) E2908  
 常庵(じょうあん・吉雄) → 南臯(なんこう・吉雄よしお、蘭学/医者) I3296  
 常庵(じょうあん・河崎屋) → 元史(げんし、俳人) J1837  
 常庵(じょうあん・吉雄) → 南臯(なんこう・吉雄よしお、蘭学、蘭方医) I3296  
 常庵(じょうあん・長沼) → 玄珍(げんちん・長沼ながぬま/野村、医者/儒) L1844  
 常庵(じょうあん・加藤) → 行忠(ゆきただ・加藤かとう、藩侍医/国学) G4671  
 剰庵瓢斎(じょうあんひょうさい) → 大梅(だいばい・小島/児島、詩/俳人) C2609  
 昌安斎(しょうあんさい) → 玄仙(げんせん/玄僊げんせん・谷村、医者) K1860  
 承安第三宮(しょうあんだいさんのみや) → 惟明親王(これあきらしんのう、歌人) E1910  
 G2269 松安妻(しょうあんのつま・佐田さだ) ?-? 和泉堺の俳人; 重頼門?、慶友(半井ト養1607-78)・成安(正法寺1582?-1664)と一座、

1684西鶴「俳諧女哥仙にょかせん」入;[海か山になるためしにや桜貝](女哥仙;14)

Q2283 性威(しょうい;号、俗姓;神じん/みわ、俗名;資脩すけなが、性昭男)?-? 1371存 南北期信州諏訪大社神官、1334建武新政の引付衆、出家/室町幕府奉行人/1339天竜寺造営奉行、直資の父、歌人;1367新玉津島社歌合参加、勅撰3首;新拾遺898・1225/新後拾遺832、  
[又もこむ春だにも憂き別れちに去年をかぎりの跡ぞかなしき](新拾遺;哀傷898)、  
(等持院贈左大臣足利尊氏没の翌年1359三月晦日・常在光院にて詠む)、

[性威の別号/]初入道号;住蓮、出家後通称;安威あゐ新左衛門入道/のち安威左衛門入道性遵(安威あゐ左衛門入道)とは別人→ 性遵(しょうじゅん、歌/連歌) T 2 2 0 5

G2270 勝謂(しょうい;法諱) ? - ? 僧/連歌作者:菟玖波集2句入、  
[老いぬるは先立つ数に残されて](菟玖;十五雑1454/前句;思ひいづれば人あまたあり)  
G2271 正伊(しょうい;法諱・一州いっしゅう;道号、俗姓;稲田) 1416-8772 周防熊毛郡の曹洞僧:岩国般若寺入、1428出家/日峰門/播磨円通寺の牧翁性欽門/武蔵大川寺の月江正文門;嗣法、上州双林寺2世、諸寺の開山/1472相模最乗寺に輪住、1463「雙林寺記」「長尾昌賢御影記」著、「一州和尚行実記」(続群書類従入)

Q2284 承意(しょうい;法諱・梅雲ばいん;道号、初道号;季柏、俗姓太田)?-1505 太田対馬守某の養子、京の臨濟僧;幼時に相国寺常德院万松軒の仙巖澄安門;出家、のち1495等持院住持、仙巖澄安に嗣法、等持院退院後に相国寺常德院万松軒内に歳寒齋を設け隠棲、文筆;横川景三門、「木母集」「歳寒集」著

Q2285 松意(しょうい・田代たしろ) ? - ? 江前期大和の生/江戸神田鍛冶屋町住/俳人;、宗因門;1673談林の結社;貞門に不満の雪柴・在色・一鉄と結社、自宅を[誹諧談林]と称す、1675宗因と交流;[されば爰に談林の木あり梅の花]を貰い巻頭に据え[談林十百韻]興行、のち毎年一派の俳書刊行;江戸俳壇の重鎮となる、異体な作風から[飛体とびい]と称される、やがて幽山・芭蕉・言水らの勢力に圧倒され1681(天和元)頃には俳壇から消える、1675「談林十百韻」76「談林三百韻」編、78「幕づくし」編(;林言・雅計と三吟百韻)、1678「虎溪の橋」(西鶴らと三吟三百韻)79「夢助」、「功用群鑑」著/80「軒端の独活うど」編、1682風黒「高名集」/如扶「誹諧三ヶ津さんかのつ」入

[あれにけり蚤の都のおもてがえ](夢助/畳替えの句:蚤の都は古畳)

[恵み雨深し独活の大木一夜松](軒端の独活/一夜松は一夜に千本生じたという北野の松)

[松意(;号)の通称/別号]通称;新左衛門、別号;川草子/檀林軒/談林軒/冬嶺堂

E2274 松意(しょうい・高木たかぎ、名;秀延/通称;久左衛門/別号;琴風軒川草子)?-? 江前期大和の商家、屋号;恵比須屋、談林俳人;西山宗因門、大坂住、1671池嶋成之しげゆき「塵塚」入、1673西鶴?「哥仙大坂誹諧師」/73西鶴「生玉万句」;時鳥発句・一葉・卯花脇句等入、1681賀子「山海集」/82春林「俳諧百人一句難波色紙」入、  
[峯入や然しからば當山本山にいたり](難波色紙;20/修験行者の大峰入、當山本山みな入峰、當山方[天台聖護院派]は順の峰入り;熊野より大峰へ至り吉野へ、本山方[真言三宝院派]は逆の峰入り;吉野より大峰へ至り眞野へ)

R2268 昌意(しょうい・壬生みぶ) ? - ? 江前期京の俳人、1676西鶴「古今誹諧師手鑑」入、  
[秋の蟬は霜月ころの時雨哉](手鑑)

G2272 照意(正意しょうい;法諱、円信[良覚]男) 1653-1752長寿100歳 京の真宗本願寺派僧常楽寺12世;父11世を継嗣、1664(12歳)得度、1721「鑑古録(:常楽台存覚上人年譜)」著、  
[照意(;法諱)の別法諱/法名/号]別法諱;正意/常意、法名;寂慧、号;宣林院

Q2227 招政(しょうせい) ? - ? 江前期俳人;1691不角「二葉之松」入(474)  
[いにしへの苦を按さずらする肩の瘤こぶ](二葉之松;474/前句;世は七転八起なりける)

Q2286 承意(しょうい・小河) ? - ? 漢学者:伊藤仁斎の文章を集む・  
1717伊藤東涯を助け「古学先生文集」(仁斎撰/東涯編)刊行

Q2287 昌以(しょうい・里村さとむら;南家、昌逸男)?-1821 連歌師、幕府連歌宗匠、昌雲・昌同の兄

V2220 昌意(しょうい・二川ふたがわ、通称;菊次郎) 1792-182433 常陸水戸の医者;華岡青洲門、松平定永の招聘で陸奥白川藩江戸八丁堀藩邸に出仕、藩医、国学・歌;一柳ひとつやなぎ千古門  
正位(しょうい・篠原) → 善富(よしとみ・篠原しのはら、和算家) E 4 7 9 9  
紹意(しょうい) → 紹意(じょうい、連歌師) L 2 1 0 6

- 勝以(しょうい・かつもち・荒木)→又兵衛(またべゑ・岩佐/藤原/荒木、絵師) J 4 0 5 5  
 少以(しょうい・丹波/浅野屋)→以之(い・丹波たんば、医者/俳人) 1 1 8 6  
 昌意(しょうい・池田) → 昌意(まさおき・池田いけだ、和算家) B 4 0 4 5  
 紹怡(しょうい・清水) → 道閑(初世どうかん・清水しみず、茶人) C 3 1 3 5
- Q2288 静伊(じょうい、藤原伊頼[1222-83]or伊頼男の尊道男?)?-1354 鎌倉南北期;天台宗園城寺僧、  
 法印/権僧正、南松院住、園城寺別当、1354(文和3)没、円伊(園城寺権僧正)の弟、  
 歌人;藤葉集2首入/1350為世十三回忌和歌出詠、  
 勅撰3首;続千載1767・風雅1617・新千載1706、  
 [誰かまた心とならむ清見瀉きよみがた関もる波の秋の夜の月](続千載;雑1767/法印静伊)  
 [朽残る老木の花をみるにこそわが七十の春もしらるれ](新千載;雑1706)
- Q2289 淨意(じょうい、法師、俗名;藤原ふじはら有季ありすゑ、藤原有仲男?)?-? 1259存 鎌倉期廷臣;備後守、  
 のち出家、歌人;藤原定家・同時朝・同清定と交流、1258新和歌集・65?東撰和歌六帖入集、  
 勅撰3首;新勅撰1006/続後撰1147/新統古今1151、雲葉集入、  
 [せきかぬる涙のつゆの玉のをのたえぬもつらき契なりけり](新勅;恋1006/希念恋)
- Q2290 定意(じょうい;法諱、法印) ? - ? 1279存 鎌倉期天台僧;叡山僧、歌人/連歌作者、  
 弘安二1259日枝社奉納連歌を勸進、菟玖波集4句入、勅撰3首;続拾遺637・新後撰1303/1425、  
 [憂き身には涙も袖にふるものをしぐればかりと曇る空かな](続拾;八637/冬の歌)
- F2201 定為(じょうい;法諱、藤原為氏男?)?-?1327以前没 母;飛鳥井教定女/藤原為世の同母弟、  
 鎌倉期真言宗醍醐寺の僧;阿闍梨、権律師/1303以前に法印、1303「定為法印申文」著、  
 二条派の歌僧;歌壇で活躍、1276住吉社三十五番(建治)歌合参加、1303嘉元仙洞御百首入、  
 1319文保百首入、1314行乗に古今集を講釈、[藤葉集]2首入、  
 勅撰82首;続拾(697/1114)新後撰(7首112/334/423以下)玉(1450)続千(21首76/126以下)、  
 続後拾(10首73/149/320/365以下)風(367)新千(18首63/133/247345/356以下)、  
 新拾(8首43/233以下)新後拾(5首65/594/1153以下)新統古(9首240/324以下)、  
 [旅人の宿かり衣袖さえて夕霜むすぶ小野のしの原](続拾遺集;羈旅697)、  
 [文保百首歌(春3010)に、  
 みよしのや尾上の桜うつろひぬ雪にあまぎる春の山風](藤葉;春76)、  
 [定為(;法諱)の通称]醍醐法印/一条法印/大納言法印
- G2273 定位(じょうい) 1269 - ? 1339存 鎌倉末期真言宗醍醐寺の学匠、  
 1306-11頃醍醐座主聖雲より聖尊に付属すべき聖教を一時遺囑される;盗難に遭う、  
 定位自ら書写したものを聖尊に付属したという、  
 「三肝抄」「蘭談」「尊勝行法次第」「妙覚心地祭文」「金胎両界伝法相承血脈譜」著
- F2202 乗伊(じょうい、藤原盛季孫)1274-133865 権大納言藤原伊頼の猶子、天台園城寺僧;  
 覚助親王に入室得度;受戒、法印聖勝の真弟子、園城寺上乘院大僧正、  
 「守口抄」「除暗遍明抄」「祖対抄」「重言抄」著、歌人:新千載集876、  
 [尋ねこし月の行方やこれならむ昨日の夢のうき雲の空](新千;876/観心無心法不住法)
- F2203 定伊(じょうい;法諱、右大臣花山院家定男?)?-? 1375存 南北期の天台僧;1374園城寺別当、  
 南松院の大僧正/1375園城寺長吏、通称;平等院大僧正、「菩提心論聞書」著、  
 歌人;新後拾遺1287、  
 [苔ふかき谷のかけ橋年ふりてあるかひもなきよを渡るかな](新後拾;雑1287)
- F2204 定伊(じょうい) ? - ? 真言僧;1362「東寺執行日記」(嚴恭と共著)
- F2205 紹意(じょうい) ? - ? 連歌師、1573細川幽斎催「大覚寺千句」参加
- 浄偉(じょうい・山崎) → 杏雨(きょうう・山崎やまさき、藩医/俳人) C 1 6 1 9  
 常意(じょうい;法諱) → 照意(正意じょうい;法諱、本願寺派僧) G 2 2 7 2  
 常怡(じょうい・伊勢) → 貞満(さだみつ・伊勢/平、幕臣/故実家) J 2 0 7 9  
 称意館(しょういかん) → 宗桂(そうけい・吉田よしだ、医者/侍医) G 2 5 8 9  
 常或(じょういき・御蘭) → 中渠(ちゅうきよ・御蘭みその、鍼法医者) F 2 8 9 1
- F2206 昌郁(しょういく) ? - ? 江中期連歌師;1743吉宗還暦「御賀千句」参加
- F2207 尚育王(しょういくおう) 1813 - 184735歳 琉球国王、琉歌作者;「琉歌全集」13首入
- G2274 庄市(しょういち;通称・三宅みやけ、名;正信)1824?-8562? 京の和泉流狂言師;三宅藤九郎家7世、

代々京居住のまま加賀金沢藩お抱えで宮中の御用も務める、1874東京に出る；  
1876岩倉具視邸の行幸啓能に出演/78青山大宮御所御能御用係に就任、  
和泉流地位確立に貢献、1853「和泉流狂言秘書」、「能狂言(三宅正信本)」著

性一(しょういち/しょういつ;初法諱・秀峰)→ 独吼(どく;道号・性獅;法諱、黄檗僧) O 3 1 4 4  
小一(しょういち・宮本) → 小一(おかず・宮本、幕臣) C 1 4 8 5  
正一(しょういち・二宮) → 是昌(これまさ;通称・二宮にのみや、兵法家) O 1 9 8 1  
正一(しょういち・竹内) → 久在(ひさあり・竹内たけうち、柔道家、国学) K 3 7 1 6  
庄一(しょういち・雛屋/野々口)→ 立圃(りゅうほ・野々口、細工師/俳人) 4 9 1 3  
庄一(しょういち・山本) → 蕉逸(しょういつ・山本やまもと、儒者/教育) F 2 2 1 0  
尚一(しょういち・一文字) → 尚一(ひさかず・一文字いちもんじ/鷹羽、神職) M 3 7 2 4  
昌一(しょういち・村尾/鶴殿)→ 士寧(しねい・鶴殿うどの/村尾、幕臣/儒者) F 2 1 3 9  
浄一(じょういち) → 静遍(じょうへん、真言僧) L 2 2 5 8  
常一(じょういち・千葉) → 常一(つねかず・千葉ちば、和算家) B 2 9 8 8  
常一(じょういち・大島) → 常一(つねかず・大島おしま、松溪、藩士/歌) E 2 9 9 6  
乗一(じょういち・松平) → 世軌(つぐのり・松平まつだいら、幕臣) G 2 9 3 8  
聖一国師(しょういちこくし) → 円爾(えんに、天台/臨濟僧;東福寺開) B 1 3 2 7  
正一郎(しょういちろう・久須美/杉浦)→ 梅潭(ばいたん・杉浦、幕臣/儒/詩) B 3 6 7 8  
正一郎(しょういちろう・白石)→ 資風(すけかぜ・白石、商家/国学/勤王) G 2 3 1 6  
正一郎(しょういちろう・秋元)→ 安民(やすたみ・秋元/藤原、藩士/国学) B 4 5 9 5  
正一郎(しょういちろう・小松)→ 義貫(よしつら・井田いだ、藩官吏/勤王) L 4 7 4 1  
尚一郎(しょういちろう・佐瀬)→ 主計(かずえ・佐瀬させ/さぜ、藩家老/狂歌) M 1 5 0 9  
尚一郎(しょういちろう・宮本)→ 茶村(ちやそん・宮本、儒者/庄屋/詩人) F 2 8 5 8  
尚一郎(しょういちろう・諸葛)→ 中如(ちゅうじよ・諸葛もろくず、儒者/詩) G 2 8 2 9  
昌一郎(しょういちろう・進しん)→ 鴻溪(こうけい・進しん、藩士/儒者) G 1 9 2 5  
丈一郎(じょういちろう・久米)→ 邦武(くにたけ・久米、藩士/欧米視察) C 1 7 8 4  
丈一郎(じょういちろう・松田)→ 聴松(ちやうしょう・松田まつだ、俳人) N 2 8 5 4

F2209 昌逸(しょういつ・里村さとむら[;南家]、名;景美、南家6代昌桂長男) 1765-1836/72 京の連歌師/法眼、幕府連歌宗匠;1776將軍家治に謁す/1782父に代り御城連歌の発句を務む、家督継嗣;里村南家七代目、采地百石/月俸20口、1831同朋格/37隠居、1785「三十六番片歌合」判、「賦物抄」「上座坊実雄句」「辰長朝臣五十回忌懐旧之千句」著/「寛政二年柳営御会百韻」参、[昌逸(;号)の別号]有鱗亭、法号;玉光院

F2210 蕉逸(しょういつ・山本やまもと、名;莠莢/莠莢ゆうりょう) 1804-50/47 江戸本所の儒者、下野日光・宇都宮に流寓、1857下野壬生藩の儒臣;藩校学習館で教授/日光山に学塾を開、「童子通」著、[蕉逸(;号)の字/通称/別号]字;孟夏、通称;庄一、別号;蕉逸散人

正乙(しょういつ・堀) → 槐庵(かいあん・堀ほり、儒者) I 1 5 3 2

昌逸(しょういつ・宮崎/秋山)→ 文鳥(ぶんちよう・秋山、藩士/俳人) G 3 8 1 9

G2275 清胤(清因しょういん;法諱、参議大江朝綱男) 944-995or996/52or53 平安中期京左京の天台僧;比叡山僧;円仁門徒、寿肇内供奉十禅師の弟子、987内供奉十禅師/988四天王寺別当、989権律師/990権少僧都、法興院上座、歌人:金葉(Ⅲ三奏本148)/詞花(83;大江為基への贈歌/182)、「後十五番歌合」(1009公任撰;詞花83の歌)入、「麗花集」(1005成立)入、玄々・後葉集入、[君すまばとはましものを津の国の生田の森の秋の初風](詞花;秋83/玄々;28)、(撰津に住みはじめた頃永祚元989年為基が任期終り上京したので贈る歌)[ふたつなき心を君にとどめおきて我さへわれに別れぬるかな](詞花;別182、後葉;259、人のもとに日頃参りて帰る夜に主に贈る歌)

G2276 証印(しょういん;法諱) 1105 - 1187/83歳 真言宗高野山;覚鑿かくばん門、伝灯大法師、高野山大伝法院学頭、覚鑿が密厳院を退院後に証印は一時奥州平泉に下る、のち密厳院主となる;師の法流を伝え証印方の祖となる、「陽勝仙人伝」著、[証印の号]大乘房/大衍房

- G2277 **松蔭**(しょういん;道号・常宗じょうそう;法諱、四辻善成男)?-1407 京の臨濟僧;晦谷祖曇門/法嗣、  
文学;義堂周信門、京の等持寺住持/嵯峨の逢春軒を開山;その2世、「春雨集」著
- F2212 **正韻**(しょういん;号、招月軒)?- 1535 室町期能登の歌人;正広しょうこう門、連歌作者、  
1523「大永三年九月宗碩正韻等何路百韻」参加、1525能登守護畠山義総の書状を携え上京;  
三条西実隆を訪問/実隆らの歌会に参加、細川植国(早世)への宗碩の哀悼歌を添削、  
1526正浩33回忌和歌を勸進、晩年は能登七尾招月軒に住
- F2213 **紹胤**(しょういん;法諱、号;上池院)?-1575 室町期歌人、医者/僧、坂十仏の子孫、  
1539以後自邸で歌会催(親俊日記入)/1553(天文22)正月近衛家歌会始参加(言継卿記入)
- G2278 **紹印**(しょういん;号・木山きやま/本姓;源、名;信連、木山紹宅男)?-1615 肥後益城郡木山城主、  
木山城落城時に自殺に見せかけ筑前に逃亡;父の跡慕い連歌屋の住職;連歌屋の元祖、  
大法師、黒田如水・孝政より30石を賜う、1595紹巴亭・98筥崎宮などの連歌に参加、  
「赤井城記」著
- V2250 **正因**(しょういん;法諱、法師)?- ? 江前期;禅僧/歌人;1688浅井忠能[難波捨草]入、  
[昨日見し花の面影身にさらでわが墨染の袖ぞ匂へる](難波捨草;春55)
- F2214 **昌隠**(昌胤しょういん;号・里村さとむら[;南家]、別号;雪朝庵、祖白男)1633-8250 幕府連歌師宗匠
- F2215 **紹尹**(紹因しょういん;号・里村[;北家]、玄俊男)?-? 里村玄心の弟、連歌師宗匠
- G2279 **松蔭**(松隠しょういん;道号・玄棟;法諱、俗姓;藤原)1644-171168 臨濟僧;若年に出家、  
のち東福寺241世太華令胆門/法嗣、光雲寺住持/京の真如寺住持/1692東福寺245世、  
1694幕命で朝鮮との書契のため対馬に3年間滞留、99南禅寺住持の公帖受;入院なし、  
1711朝鮮通信使の応接のため対馬以酌庵に赴任;病で対馬西山寺に客死、  
「禅林聯句集」著、1711「続善隣国宝記」編
- F2216 **松隠**(しょういん) ? - ? 江前期京の室町三条上ルの俳人、1690言水「新撰都曲」4句入、  
[鳴の音ねに年々としどし生はえし白髪かな](新撰都曲;上15/鳴の音は羽搔がき;羽ばたく音)、  
(古今集読人しらず;暁の鳴の羽ねがき百羽もはがき君が来ぬ夜は我ぞ数かく)、  
(数かくは数えて一定ごとに目印の線を引く;歎きの動作)
- F2217 **樵隠**(しょういん・長林ながばやし)?- ? 江中期軍記実録作者、1749「豊薩軍記」編(;10卷)
- G2280 **尚因**(しょういん;通称・大橋おおはし、名;重行)1707-? 1778存 尾張の医者;若くして上京し医学修学、  
尾張海西郡で開業、「疝気証治論」/1778「疝癥積聚せんちようせきしゅう」編著
- F2218 **昌寅**(しょういん・里村[;北家]、名;景久、昌伯男)?-1838 代々幕府連歌師;1795幕府連歌師宗匠、  
「南曲亭千句等」「懐旧之千句」「西府奉納一万句連歌之内」著、  
[昌寅(;号)の別号] 紹慶(;初号)
- F2219 **松隠**(しょういん・丸川まるかわ、名;茂延、太郎兵衛男)1758-183174 備中浅口郡西阿知村の儒者、  
儒;亀山如水門/讃岐・京に遊学、大坂懐徳堂入;中井竹山門/朱子学を遵守、  
1794招聘され備中新見藩校思誠館の督学/教授/学頭;藩政にも参画、病により致仕、  
尾藤二洲・古賀精里・頼春水と交流、「詩文稿」著、山田方谷の師、  
[松隠(;号)の字/通称/諡号]字;千秋、通称;一郎、諡号;孝敬先生
- G2281 **松隠**(しょういん・滝たき/本姓;赤松、名;栄、滝常安男)1778-183558 播磨小野の生/父と摂津富島移住、  
儒者;中井竹山門/懐徳堂の左塾に寓す、医を業とす、のち平野の郷校含翠堂の専任;講学、  
「松陰詩稿」著、  
[松隠(;号)の字/通称/別号]字;守恭、通称;中書、別号;蘇亭、法号;剛正
- F2220 **松陰**(しょういん・後藤ごとう、名;機)1797-186468 美濃大垣の儒者;菱田毅斎門/詩;頼山陽門、  
篠崎小竹女の町(麻池)と結婚、大坂梶木町や堂島で教授、「松陰詩稿」「松陰亭集」、  
「松陰文稿」「春草詩抄」「松陰余事」「竹深荷浄書屋集」「松陰先生詩鈔甲集」「好文字」、  
「後藤機若林梅仙等贈答書翰帖」「建大黒神祠記」著/1854「韓蘇詩鈔」校訂、  
[松陰(;号)の字/通称/別号]字;世張、通称;春蔵/俊蔵、別号;春草/兼山/鎌山
- F2221 **松陰**(しょういん・鷲津しづ)? - ? 漢学、尾張丹羽村有隣舎教師、春濤[1819-89]の師
- G2282 **松蔭**(しょういん・島方しまた/修姓;島、名;貞、原思斎男)?-? 江後期1818-48頃上州碓氷郡板鼻の俳人、  
詩人、1824「尚齒放生集」42「万佐古集」著、  
[松蔭(;号)の通称/別号]通称;定次郎、別号;放鯉翁
- G2283 **松陰**(しょういん・高内たかうち、名;寛剛)?-? 江後期天保1830-44頃江戸の和漢学者/武芸者、

鎗・剣術に長ず/書画も嗜む、画;中山予山門、「和名集成」「松陰雜記」「名義集解」「辞原」、  
「顔氏家訓増註」「荊楚歳時記徴」「明証楼類聚」著、

[松陰(;)号)の字/通称/別号]字;勇計、通称;太郎/武一郎、別号;明証菴/北岳

F2208 **松陰**(しょういん・本島もとじま、坂井弥兵衛3男)1811-8878 1828(18歳)本島家を継嗣;肥前佐賀藩士、  
1842藩主鍋島直正の奥小姓/火術方(新設)に転ず;鑄立方/精煉方;大砲・小銃を製作、  
1850藩命で伊豆韮山江川垣庵・江戸佐久間象山に修学;長崎伊王島・神ノ島に砲台を築造、  
1855幕府の長崎海軍伝習所でオランダ士官の海軍教育に参加/1858藩の海軍所設置尽力、  
1842-67「松の落葉」著、

[松陰(;)号)の通称] 藤大夫

G2284 **松筠**(しょういん・市川いちかわ、一学男)1813-6856 兵学者;父門/1850父と松前福山城築城に参画、  
1856幕命で目賀田帯刀と共に蝦夷ち調査、1862天保山砲台を築造、1867昌平黌教授、  
「蝦夷実地検考録」「火矢外伝」「射術筆授」「火箭法口授」「矢搦図説」著

「日置流五枚目射業解」著、「柿園遺草」編、

[松筠(;)号)の名/字/通称/別号]名;有翼、字;仲則、通称;十郎、別号;敏齋、

2227 **松陰**(しょういん・吉田よじだ虎之助/矩方のりかた、杉常道男/叔父吉田賢良養嗣)1830-59刑死30 萩藩士、  
山鹿流兵学/1848軍学師範/諸国歴遊:象山門、54米船密航企て捕縛、55実家杉家に幽閉、  
叔父玉木文之進開設の松下村塾を主宰/尊王倒幕思想、1859安政大獄に連座;刑死、  
1850「西遊日記」51「睡余事録」56「江戸獄記」「野山獄文稿」59「涙松集」「留魂録」、  
「松陰文集」「吉田文集」外著多数、杉梅太郎の弟、兄の長男小太郎が吉田家を継嗣、

[松陰の字/通称/別号] 字;子義/義卿、通称;大次郎/松次郎/寅次郎、

号;二十一回猛士(獄中詩に由来)/蓬頭生/無一/瓢一房/柿実山人、

変名;瓜中万二/松野他三郎、門弟;高杉晋作/久坂玄瑞/伊藤博文ほか

辞世[身はたとひ武蔵の野辺に朽ちぬとも留とどめ置かまし大和魂]

U2288 **松陰**(しょういん・四宮しのみや、)1830-190576 阿波徳島の戸長、国学・神道修学、神官、

[松陰(;)名)の別号/通称/号]初名;衡、通称;平太郎/正平、号;松蔭漁史/四時翠観

G2285 **蕉蔭**(しょういん・白井しらい) ? - ? 江後期武蔵羽生村の俳人、1862刊「諸家句集」著

小隠(しょういん・内藤) → 忠盛(ただもり・内藤ないとう/藤原、幕臣/歌) Y 2 6 4 9

章尹(しょういん・森川) → 章尹(あきただ・森川/森河、神職/歌人) 1 0 7 1

昌因(しょういん) → 海音(かいおん・紀きの、浄瑠璃作者/狂歌) 1 5 0 1

昌蔭(しょういん・山本) → 昌蔭(まさかげ・山本やまと/源/中島、藩士/国学) O 4 0 8 9

昌胤(しょういん・相馬) → 昌胤(まさたね・相馬そうま、藩主/歌人) Q 4 0 4 3

昌胤(しょういん・松井) → 昌胤(まさたね・松井まつい、藩医) D 4 0 5 8

昌胤(しょういん・森) → 昌胤(まさたね・森/源/吉田/雨森、神道家) D 4 0 5 9

昌胤(しょういん・椎名) → 昌胤(まさたね・椎名しいな、歌人) M 4 0 1 9

正印(しょういん・池田) → 貞雄(さだお・池田いけだ、幕臣) H 2 0 7 8

紹因(しょういん) → 御杖(みつえ・富士谷、国学/歌学) 4 1 2 3

紹諲(しょういん;法諱・洪基) → 洪基(こうき;道号・紹諲、臨濟僧) I 1 9 1 4

松蔭(しょういん・二川) → 相近(すげちか・二川、藩士/書/歌) C 2 3 4 1

松蔭(しょういん;号) → 景趣(けいしゆ;法諱・琴叔、臨濟僧/詩) 1 8 6 8

松蔭(しょういん・島田) → 義観(ぎかん、島田、修験宗僧/詩人) J 1 6 8 9

松蔭(しょういん・雨森) → 牛南(ぎゅうなん・雨森あめのもり、医者/詩) G 1 6 4 7

松蔭(しょういん・村上) → 忠美(ただよし・村上むらかみ/源/清水、医者/国学) U 2 6 1 2

松蔭(しょういん・村尾) → 元融(げんゆう・村尾、医/儒/国学者) D 1 8 1 7

松蔭(しょういん・飯塚) → 久敏(ひさとし・飯塚、国学/歌人/教育) B 3 7 5 3

松蔭(しょういん・慶徳) → 訓夫(のりお・慶徳けいとく/度会/村上、神職/歌) I 3 5 3 5

松蔭(しょういん・植松) → 茂岳(しげおか・植松/小林、藩士/国学) B 2 1 9 5

松蔭(しょういん・小林) → 松蔭(まつかげ・小林こばやし/竹田、神職/国学) P 4 0 6 3

松蔭(しょういん・岸田) → 素屋(そおく・岸田きしだ、町役人/俳人) J 2 5 3 3

松蔭(しょういん・熊谷) → 直清(なおきよ・熊谷くまがい/平、神職/国学) L 3 2 9 5

松蔭(しょういん・須田) → 肃(しゆく・須田すだ、藩医/歌人) O 2 1 9 8



- 松蔭(しょういん・萩原) → 良次(よしつぐ・萩原はぎわら/中臣、神職) O 4 7 5 0
- 松蔭(しょういん・松岡) → 鳳州(ほうしゅう・松岡まつおか、僧/歌人) G 3 9 3 9
- 松陰(しょういん・堀内) → 三稜(みくり/長郷・堀内、庄屋/国学者) 4 1 8 1
- 松陰(しょういん・堀内) → 昌郷(まささと/まさくに・堀内、長郷男/庄屋/国学) C 4 0 5 9
- 松陰(しょういん・堀内) → 匡平(まさひら・堀内、昌郷男/庄屋/国学/勤王) G 4 0 8 5
- 松陰(しょういん・西原) → 晁樹(あさき・西原、国学者) 1 0 4 7
- 松陰(しょういん・中山) → 元鵬(げんぼう・中山なかやま、医者) M 1 8 3 6
- 松陰(しょういん・榎) → 浄寿(じょうじゅ・榎えのき、和算家) J 2 2 5 2
- 松陰(しょういん・今村) → 千年(ちとせ・今村いまむら、神職/国学/歌) M 2 8 1 2
- 松隠(しょういん・仁井田) → 南陽(なんよう・仁井田、儒者/地誌) 3 2 4 8
- 松隠(しょういん・北尾) → 春圃(初世しゅんぼ・北尾/喜多尾、医者) L 2 1 8 7
- 松隠(しょういん・近藤) → 曲浦(きよくほ・近藤、俳人) P 1 6 3 3
- 松隠(しょういん・伊藤/西山) → 玄道(げんどう・西山にしま、医者) L 1 8 9 0
- 松隠(しょういん・青木) → 北海(ほっかい・青木/殿岡、和漢学者) E 3 9 5 3
- 松隠(しょういん・栗田) → 千嶺(せんれい・栗田くりた、商家/歌人) O 2 4 1 0
- 松隠(しょういん・喜多) → 公綺(きみあや・喜多きた、医者/歌人) U 1 6 0 6
- 松韻(しょういん・久我) → 苗秀(たねひで・久我くが、里正/国学) W 2 6 8 4
- 松筠(しょういん;号) → 宥仁(ゆうにん;法諱、真言僧/国学) H 4 6 4 9
- 蕉隠(しょういん・松永) → 花遁(かどん・松永まつなが、商家/詩人) O 1 5 2 3
- 蕉隠(しょういん・林) → 述斎(じゅっさい・林/松平、幕府儒官) I 2 1 9 4
- 蕉陰(しょういん・大槻) → 西磐(西盤せいばん・大槻、儒者/西洋史) J 2 4 4 5
- 樟蔭(しょういん・山口) → 正養(まさかい・山口やまぐち、漢学者) T 4 0 4 4
- 縦陰(しょういん・八木) → 静修(しずさね・八木/鐫木/橘、国学者) U 2 1 0 1
- 縦蔭(しょういん・蒲) → 八十村(やそむら・蒲がま、正茂男/商/国学/歌) F 4 5 7 7
- 聖引(しょういん) → 大玄(だいげん;法諱、成誉、浄土僧) J 2 6 9 0
- 裳隠(しょういん・伊藤) → 仁斎(じんさい・伊藤、儒学) 2 2 2 3
- 尚員(しょういん・森) → 尚員(ひさかず・森もり、国学者) M 3 7 0 7
- 尚胤(しょういん) → 其残(きざん・山田/岩波、俳人/画) K 1 6 6 8
- 祥胤(しょういん・市河/鐫木) → 雲潭(うんたん・鐫木かぶらぎ、絵師) D 1 2 9 4
- 祥胤(しょういん・宮下) → 祥胤(よしたね・宮下みやした、商家/国学) P 4 7 4 5
- 性印(しょういん;法諱) → 光宗(こうそう;法諱、天台僧;黒谷流祖) B 1 9 6 0
- 性胤(しょういん) → 常胤親王(じょういんしんのう、天台座首/連歌) F 2 2 2 4
- 性因(性印しょういん) → 義村(よしむら・赤松あかまつ/源、武将) H 4 7 6 3
- F2222 静胤(しょういん;法諱) ? - ? 平安鎌倉期天台僧;大和多武峯寺検校、南院住、1173焼亡後の多武峯復興に尽力、1197「多武峯略記」著
- F2223 浄因(じょういん・林りん) ? - ? 宋の僧、1350竜山徳見に伴われ渡来/門人多し、饅頭屋を創業/宗二そうじの祖先
- 参照 → 徳見(とくけん・竜山、臨済僧) K 3 1 6 3
- 宗二(そうじ・林りん、奈良古今伝授) 2 5 0 9
- G2286 成胤(じょういん) ? - ? 連歌作者、1464?安富盛長催「熊野千句」参加
- V2228 丈印(じょういん・三輪みわ、) ? - ? 江前期;伊勢桑名の廻船問屋、歌人・俳人、歌;京の望月長孝(1619-81)門、江戸の俳人三輪一鉄(三右衛門)と同族、[丈印(法名/雅号)の名]名;一信(名・俳号)、法名;丈印・丈隠
- G2287 乗因(じょういん;法諱・義称ぎしょう;字/初法諱;智権) 1683-1739 57 信濃の天台僧;比叡山の宣存門、一実神道の奥旨を伝受、1727信州戸隠山勸修院別当職;戸隠一山の改革を目指す、修験一実霊宗神道を提唱;異法と判断され八丈島に流刑、1731「修験一実霊宗神道密記」、1736「戸隠山大権現縁起」37「転輪聖王章」38「修験道正宗」、「戸隠権現鎮座記」外著多数
- G2288 浄因(じょういん;法諱、俗姓;照井) 1730-1804 75 羽後平鹿郡浅舞の真宗大谷派玄福寺の住職、京で宗学を修行/農業経済に通ず;玄福寺の寺勢拡大を企画;浅舞西部千刈田の新田開墾、

寛政1789-1801頃藩主より御目見得寺百五十石を公認、和算・天文・測量にも通ず、  
「羽陽秋北水土録」「田法之式秘法之巻」「地方通鑑經界略記」「地方通鑑經界略記弁義」著  
G2289 **成允**(じょういん;法諱・惟一いち;道号、宮島平兵衛男)1789-186173 美濃可児郡菅刈村の曹洞僧、  
幼時尾張丹羽郡安穩寺で剃髪/住、武州川越藩主松平斉典の招聘で武蔵孝顕寺18世、  
尾張鳴海の如意寺に隠棲、1861永平寺で正法眼蔵を講ず;病で帰郷;没、  
1827「永平弁道法」「永平赴粥飯法」編

- 常尹(じょういん;初名) → 盛胤親王(じょういんしんのう、門跡/天台座主) G 2 2 9 1  
常尹(じょういん・御菌) → 中渠(ちゅうきよ・御菌みその、鍼法医者) F 2 8 9 1  
常因(じょういん・紀) → 常因(つねより・紀き、怪談収集家) E 2 9 2 8  
常陰(じょういん・児玉) → 尚高(ひさたか・児玉/秦、神職/国学者) B 3 7 2 6  
常蔭(じょういん・井本) → 常蔭(つねかげ・井本いもと、藩士/国学/歌) F 2 9 1 8  
常蔭(じょういん・榎本) → 敬元(たかもと・榎本えのもと、医者/歌人) V 2 6 9 4  
浄印(じょういん;法諱) → 竺庵(じくあん;道号・浄印、渡来黄檗僧) Q 2 1 3 2  
浄胤(じょういん・川村) → 浄胤(きよたね・川村かわむら、歌人) T 1 6 2 1  
松隠庵(しょういんあん) → 貞昌(さだまさ・片桐かたぎり、藩主/茶人) J 2 0 6 6  
松隠庵(しょういんあん) → 瑞成(よしなり・半井なからい、医者/歌人) O 4 7 2 7  
招隠館(松隠館しょういんかん) → 頼紀(よりのり・松平/源、藩士/伝記) J 4 7 4 5  
松陰居(しょういんきよ) → 豊香(とよか・森田、歌人) R 3 1 0 7  
松蔭居(しょういんきよ) → 宗裕(むねひろ・河合かわい、藩士/国学) D 4 2 7 1  
松陰漁屋(しょういんぎょおく) → 雪江(ゆきえ/せこう・中根、藩士/国事) E 4 6 3 3  
松蔭漁史(しょういんぎょし) → 松陰(しょういん・四宮しのみや、国学/神官) U 2 2 8 8  
松隠軒(しょういんけん) → 宗信(そうしん・志野/篠、香道志野流祖) I 2 5 0 2  
松隠軒(しょういんけん) → 久語(ひさつぐ・古谷ふるや、国学者) I 3 7 0 7  
松陰斎(しょういんさい) → 長則(ながのり・石田いしだ、国学) L 3 2 1 4  
松蔭斎(しょういんさい) → 松浦(しょうほ・富家おけ/藤原、神職) L 2 2 6 3  
松蔭斎(しょういんさい) → 流翠(りゅうすい・時田ときた、商家/俳人) E 4 9 8 7  
松蔭山房(しょういんさんぼう) → 半香(はんこう・福田ふくだ、絵師) H 3 6 5 9  
樟陰山房(しょういんさんぼう) → 経春(つねはる・賀茂/岡本、神職/国学) D 2 9 2 9  
樵隠子(しょういんし) → 建胄(けんちゆう:法諱・華岳、臨濟僧) L 1 8 1 3  
松蔭子(しょういんし) → 洞雲(とううん・狩野かのう、探幽門/絵師) B 3 1 2 0  
松蔭舎(しょういんしゃ) → 富春(とみはる・小神おがみ、神道/歌人) O 3 1 9 3  
松蔭舎(しょういんしゃ) → 祇尹(ぎいん・小笠原おがさわら、幕臣/俳人) 1 6 7 8  
松蔭舎(しょういんしゃ) → 有経(ありつね・植松うえまつ、国学/歌人) H 1 0 1 0  
松蔭舎(しょういんしゃ) → 幸言(ゆきのぶ・蒲がま、八十村男/商家/国学) G 4 6 7 6  
松蔭舎(しょういん・熊谷) → 直清(なおきよ・熊谷くまがい/平、神職/国学) L 3 2 9 5  
松蔭舎主人(しょういんしゃしゅじん) → 大士(おおとこ・高子たかこ/土佐、神職/国学) D 1 4 9 4  
松蔭住(しょういんじゅう) → 直温(なおほる・松田まつだ、国学者) O 3 2 8 5  
松陰亭(しょういんてい) → 宗郁(そういく・藤野ふじの、茶人/書家) 2 5 5 5

G2290 **承胤親王**(しょういんしんのう、号;光聚院、後伏見天皇皇子)1317-7761 母;正親町実明女[東御方]、  
梶井宮門跡;兄梶井宮尊胤法親王門/伝法灌頂を受、梨本房住、  
1344天台座主/76三度の天台座主、光厳天皇・光明天皇・尊胤親王の弟、連歌:菟玖波8句入、  
歌;藤葉集入(梶井新宮)、  
[花残る里には人のとどまらで](菟玖波;春92/前句;帰りがねたる雁の一つら)  
[霧深きふもとに夜をばのこせども峰よりあくる横雲の空](藤葉;秋221)

F2224 **常胤親王**(じょういんしんのう、初名;性胤、伏見宮邦輔親王男)1548-162174 天台僧;妙法院宮門跡、  
正親町天皇の猶子/常胤親王門/常永大僧正より灌頂を受/1575親王宣下/二品、  
1597天台座主、1613座主辞任;方広寺別当、連歌作者、  
「常胤消息」「妙法院常胤法親王消息」著/1599「慶長四年山河百韻」参加、  
行風狂歌「古今夷曲集」1首入、  
[紋のみかあつらへやうの色々に染めなす絹のいと利根りこんかき]、

(古今夷曲;九雑785/紺搔こんかき、いとに糸・利根[利発]に紺搔[藍染職人]を掛ける)  
[常胤(;名)の号] 雲竜院宮/妙法院宮

- G2291 **盛胤親王**(しょういんしんのう、後水尾天皇16皇子) 1651-8030 母;四辻大納言季継女の典侍権中納言局、梶井宮門跡、1660親王宣下;梶井に入り剃髪/天台僧;慈胤親王門/1673天台座主、1677再度の天台座主、「安鎮御修法日記」/1673「法皇御所安鎮御修法支度記及日記」、1674「延宝二年安鎮御修法日記」77「法皇女院新殿安鎮記」「天台大師画讃句註」著、  
[盛胤(;名)の幼名/別名/号]幼名;房宮/英宮、初名;常尹、号;正法院靈覺大和尚  
松蔭邨舎(しょういんそんしゃ)→ 半香(はんこう・福田ふくだ、絵師) H 3 6 5 9  
松陰亭(しょういんてい) → 時綱(ときつな・真野、神道家) J 3 1 3 5  
松陰堂(しょういんどう) → 浄寿(じょうじゆ・榎えのき、和算家) J 2 2 5 2  
松筠堂(しょういんどう) → 秋巖(しゅうがん・萩原、書家/詩) W 2 1 8 7  
松蔭堂(しょういんどう) → 出紫(しゅっし・戸塚とつか、俳人) I 2 1 9 5  
松蔭の屋(しょういんのか) → 元義(もとよし・中津なかつ、国学者) E 4 4 7 5  
松蔭野史(しょういんやし) → 元融(げんゆう・村尾、医/儒/国学者) D 1 8 1 7  
淨印猊聖国師(じょういんよくせいこくし)→ 中津(ちゅうしん;法諱・絶海;道号、臨濟僧) 2 8 1 7  
F2225 **宵鳥**(しょうう) ? - ? 難波の俳人、1694洒堂「市の庵」に五十韻入  
G2292 **松雨**(しょうう) ? - ? 京の俳;1702轍士「花見車」入  
[花野出て煙へ行くや齋坊主(ときぼうず)](花見車)  
F2226 **松宇**(しょうう・岩室いむら、6代喜右衛門、5代喜右衛楽々男) ?-1825 安藝広島の醸造家/俳人、1789(寛政元)父の新町組(城下中心部)大年寄後見(見習)、1797(寛政9)父隠居;新町組大年寄、宇柏(善九郎/其黄)の兄、7代喜右衛門は斗齋とさい、1756撰集「思亭」編(:岱阿と)、[書初や京人このむたんざくに](短冊)  
F2227 **蕉雨**(しょうう・小宮山こみやま、蕉露父) ?-? 越前敦賀の俳人、1764蝶夢「松島道の記」跋  
F2228 **松雨**(しょうう・佐々木ささき、名;朝綱、松後男) 1752-183079 備前岡山の町役人;父を継承/総年寄役、御職人頭同列を務む、俳人;父門/五竹坊門、1765「時雨の恩」著/80「俳諧二見貝」編、1797「払袖去」1799-1836「朝日河」/1800「夢三年」21「黄わらび」23「荷葉船」編、1827「俳諧発句藻塩草」「俳諧三十六句仙」編、「言葉の林」「伊勢大和廻紀行」「塵塚集」著、  
[松雨(;号)の通称/別号]通称;淀屋与三太夫、別号;松宇(;初号)/比仙齋/金馬仙、  
法号;松雨軒晴空道可居士、松窩の父  
F2229 **松宇**(しょうう・松井まつい、源右衛門男) 1757-182771 信州水内郡長沼の代々名主/問屋を兼ねた富農、俳人;小林一茶門、1816松宇還曆賀集「杖の竹」(一茶が代編)、画を嗜む、  
[松宇(;号)の通称/別号]通称;善右衛門、別号;聞濤軒  
F2230 **蕉雨**(しょうう・櫻井さくらい、櫻井藤次郎光隆長男) 1775-182955 信濃飯田の酒造/質商/呉服業、多角経営の富豪、俳人;1793井上士朗門、俳書出版;趣味のため家産傾く、1814御家人株を取得し江戸移住;まもななく致仕、俳諧宗匠として名声、士朗没後は鈴木道彦門、一茶と交流、1796「松の炭」「春岱はるぶくろ」編/97「万寿楽」編、1800「追善雪の後」/26「紙かゆら」編、「ひより鶯」「連月句合」編、追善集「さつきぞら」、  
[蕉雨(;号)の名/通称/別号]名;光喜、通称;鉄之助/奎之進/寸助/三郎左衛門、  
別号;八巢/權堂(きんどう/あさがおどう)/小麓庵/尼椿老人、屋号;大板屋、法号;幻窓院  
G2293 **蕉雨**(しょうう・人見ひとみ、名;藤寧) 1761-180444 羽後秋田の生/1767(7歳)母没/73(13歳)父没、祖母に養育;文学的教養を身に付ける/1776(16歳)秋田藩士;小姓/のち大番組頭、関兔毛・平沢常富(朋誠堂喜三二)・飯塚盞瓶・土肥渭虹と交流、秋山聴松(詩人)の兄、詩文/隨筆作者;1794「黒甜瑣語こくてんざご」、「井窓夜話」「秋田紀麗」「羽陰風雅」「臥遊十記」、「慧録」「蕉雨齋吟稿」「蕉雨齋叢書」「野路之花」「風花余滴紀行」「蠅糞録」著、  
[蕉雨(;号)の幼名/字/通称/別号]幼名;常治、字;子安/士安、通称;主鈴/宇右衛門/但見、  
別号;蕉雨齋/長流篙翁/看山楼/江嶺流人/黒甜病叟、法号;自現蕉雨居士  
G2294 **松塙**(しょうう・渡辺わたなべ、名;原、月斎男) 1777-?1859存 越後直江津の和漢学者、父は府中八幡祠官、詩人・大窪詩仏門/師の越後遊歴時に自邸滞在、門弟多数、「詩聖堂詩集」二編の校訂担当、「二君堂集」著、  
[松塙(;号)の字/別号]字;逢侯、別号;二君堂主人

- G2295 **松宇**(しょう・国枝くにえだ、名;惟熙、嘉兵衛男)1796-1880<sup>85</sup> 尾張の蠟燭商、儒者;奥田鶯谷門、勤学篤行/憂国の情深い;勤王家、退隠後は農業と講説、1864明倫堂学寮掛を務める、維新後は神宮掛付属となる、1817「続詩語碎金」編、「詩学歳華輯要」「松宇詩文稿」著、  
[松宇(;号)の字/通称/別号]字;成卿/正卿、通称;大野屋嘉六、  
別号;老足/東邨野老/元山こつざん、法号;浄恩信士
- 蕉雨(しょう;号) → 桃源(とうげん;道号・瑞仙、臨濟僧/詩) D 3 1 3 8  
 蕉雨(しょう・山田) → 鹿庭(ろくてい・山田やまだ、藩儒) B 5 2 0 0  
 蕉雨(しょう・松本) → 良遠(よしとお・松本まつもと/浜野、藩儒/歌/狂歌) P 4 7 2 6  
 松宇(しょう;号) → 宣明(のぶあき・西宮にしのみや、藩士/国学) 3 5 7 7  
 松雨(しょう・五十嵐) → 光春(みつはる・五十嵐いがらし/武田、藩士/儒者) L 4 1 1 3  
 松塙(しょう;号) → 篤慶(あつよし・深見、商人/歌人) E 1 0 9 6  
 嘯雨(しょう・村田) → 清風(せいふう・村田むらた、藩士/歌人) C 2 4 9 5  
 祥雨(しょう・藤本) → 箕山(きざん・藤本ふじもと/畠山・笠原、古筆鑑定/俳人) 1 6 1 3
- F2231 **丈羽**(じょう・里見さとみ、初世晋我[1671-1745]男)?-? 下総結城の酒造業/俳人;父門、  
桃彦(2世晋我)の弟/楚江の兄、蕪村(宰鳥1716-83)・雁宕[?-1773]らと交流
- F2273 **丈羽**(じょう) ? - ? 備後三原の酒造業/俳人;  
1727木而「藪の井」入、1730里紅(廬元坊)来邸;「藤の首途」入、  
[柿の木の梢やさびし冬籠](「藤の首途」)
- 蕉雨庵(しょうあん/蕉雨園/蕉雨軒) → 黙軒(もくけん・前波まえば、医者/歌) 4 4 7 7  
 蕉雨園(しょうえん) → 景雄(かげお・三島、商家/国学/歌人) 1 5 6 6  
 霄雨軒(しょうげん) → 月尋(げつじん・藤岡ふじおか、俳/歌/浮世草子) B 1 8 0 8  
 松雨軒(しょうげん) → 立宜(りゅうぎ・高井、初世立志男/俳人) D 4 9 3 1  
 松雨軒(しょうげん) → 立志(2世りゅうし・高井、立宜の弟/俳人) E 4 9 2 7  
 蕉雨斎(しょうさい・人見) → 蕉雨(しょう・人見ひとみ、藩士/詩文) G 2 2 9 3  
 蕪雨舎(しょうしゃ) → 来儀(来義らいぎ、俳人) 4 8 3 1  
 尚蔚(しょうう・森) → 庸軒(ようけん・森、儒/医者) 4 7 7 5  
 蕉雨亭(しょうてい) → 黙軒(もくけん・前波まえば、歌人) 4 4 7 7  
 蕉雨亭(しょうてい) → 月溪(げつけい・松村、絵師/俳人) B 1 8 0 4  
 蕉雨亭(しょうてい) → 景雄(かげお・三島自寛、国学) 1 5 6 6  
 松雨亭(しょうてい) → 松斎(しょうさい・比喜多ひきた、茶人) I 2 2 9 7  
 松雨亭(しょうてい) → 琴所(きんしょ・沢村、儒者/兵学) E 1 6 1 4  
 蕉雨堂(しょうどう) → 南浜(なんびん・香川かがわ蓋臣、儒者) J 3 2 3 7  
 蕉雨堂(しょうどう) → 逸斎(いっさい・小河おがわ、藩士/詩) H 1 1 1 9  
 賞雨老人(しょうろうじん) → 柳湾(りゅうわん・館たち/小山、役人/詩人) F 4 9 9 3
- G2297 **聖云**(しょうん;法諱) ? - ? 南北期貞和1345-50頃大和常楽寺の僧;法空門、  
聖徳太子研究;注釈書を著、「太鏡鈔」「太鏡底容鈔」「太鏡百鍊鈔」著
- G2298 **笑雲**(しょうん;道号・瑞訥ずいん;法諱)?-? 1449-87頃臨濟僧;季章周憲門/法嗣、  
1451遣明正使東洋允澎に従い入明/54帰国/京の等持寺住寺/山城榎島の釣月庵住、  
1472相国寺住寺/南禅寺206世住持、「入唐記」著、「允澎いんぼう入唐記」を筆録
- Q2292 **笑雲**(しょうん;道号・清三せいさん;法諱)?-? 戦国期明応-永正1492-1521頃伊勢の臨濟僧;  
初め伊勢無量寿寺の巖伯通聖門/上京し東福寺大慈庵主/美濃鵜沼に容安斎を設営;講述、  
晩年鎌倉の建長寺住持;東堂の位、1525「古文眞宝抄」34「四海入海しかじかい」編、  
「無量寿禅師入衆日用清規之鈔」著
- V2214 **松雲**(しょうん・永原ながはら、)1546-1638<sup>長寿93</sup> 武将/儒学・兵法・歌に通ず、初め三好家に出仕、  
のち丹羽長重に出仕;千or2千石、同僚の南部無右衛門と不仲、  
1600(慶長5)丹羽家改易後は安藝広島藩主浅野幸長の客臣;7百石、  
[松雲(;号)の名/字/別号]名;重高、字;任斎、別号;十方院(実報院)
- G2299 **松雲**(しょうん;道号・宗融そうじゆ;法諱、号;随縁子、俗姓;田)1609-64<sup>56</sup> 肥前真手野の曹洞僧;  
1618(10歳)肥前円応寺の華嶽宗芸門;出家/嗣法、京・関東を歴遊/1652長崎崇福寺超元門、  
1654渡来の隠元隆琦に参禅、1657円応寺住持、「円応禅寺記」「松雲宗融禅師語録」著、

- 「禅宗五派図」「天竜直説並傍正辨宗派略図」/1663「従容録事略」著
- F2232 **松雲**(しょうん・前田まねだ、名; 綱紀つなのり[初名; 綱利]、光高男) 1643-1724<sup>82</sup> 加賀金沢5代藩主、母: 徳川頼房女大姫(清泰院)/正室; 松(保科正之女松嶺院)、1645(3歳)父没で襲封(祖父利常後見)、検地; 新田開墾/藩政改革、教学興隆: 儒・国・本草学者を招聘、凶書集蔵(尊経閣文庫等)、「梅墩集」「学海総龜」「顧軒全集」「桑華字苑」「桑華書志」「翰苑聚芳」「士林談叢」「序跋集」、「雞肋叢書」「歴代叢書」「秘笈叢書」「五林叢書」、「松雲公日記」「松雲公御書」外著多数、[松雲(;)号]の幼名/字/別号]幼名; 犬千代/犬千代丸、字; 国義/取益/振肅、別号; 敬義/養民/顧軒/香雪/三省/梅墩(ばいどん)/松雲軒、法号; 松雲院
- H2202 **祥雲**(しょうん; 法諱・慧竜えりゅう; 字) ?-1731 近江甲賀郡三大寺村の真言僧; 慧光門、元禄1688-1704頃慧光に随従し上州高崎大染寺住、のち上総靈光寺3世、「安流聞書」著、「六大図説」「六大図説引拠」「安祥寺流靈雲寺慧光師伝授日記」「秘蔵記伝授聞書」著
- H2200 **升雲**(しょうん・吉永よしなが/本姓; 菊池、升庵男) ?-? 江前期江戸本所の蘭方医; 父門、開業医を継嗣、「阿蘭陀外科正伝」編/「阿蘭陀外科明鑑拔萃」編/「当流伝記要撮抜書」著 [升雲(;)通称]の号] 寂庵/陽向庵/扁華軒
- H2201 **嘯雲**(しょうん) ? - ? 越前敦賀俳人; 1691江水「元禄百人一句」目録入
- Q2228 **松雲**(しょうん) ? - ? 江前期俳人; 1691不角「二葉之松」4句入、[韓信が利を見て人の眼またくゞれ](二葉之松; 140/利は理; 大志の者は大成のため忍耐)
- H2203 **正運**(消雲しょうん; 法諱) 1749-1830 斬首刑<sup>82</sup> 摂津尼ヶ崎の真宗本願寺派善行寺の住職、; 智洞門/三業惑乱の際大魯・義霜と共に学林派の勇将: 敗れ1806追放、自説を曲げず、京を追われ加賀願成寺(門人百叡が住職)に逃亡; 1830幕府捕吏に捕縛; 江戸獄中に斬首、「邪正僧俗問答」「浄土論信水録」「浄土宗要集」「真宗論俗編」「文類聚鈔記」「教行信証記」、「教行信証自慶」「宗要義略」「呈心請論」「選択集山陰録」「愚禿鈔白水記」「排雲録」外著多数、[正運(;)法諱]の号] 古道/自斎/鴟夷皮子(いひひ; 范蠡の変名)/隠々子/白川/白水/学北隠士
- F2233 **昌雲**(しょうん・里村さとむら[; 南家]、名; 景長、有隣亭、昌寅男) ?-1832 連歌師、幕府連歌宗匠
- F2234 **湘雲**(しょうん・橘) ? - ? 漢詩: 1845「玉池吟社詩」共編: 雲如らと
- V2218 **小雲**(しょうん・大草おおぐさ、藤岡甚右衛門4男) 1825-? 周防岩国藩士の家/絵師; 南宋画、詩歌人、茶道家; 茶室別荘が反古庵など8箇所; 門弟3百余、「骨董集」「賣筆日記」「仁壽小集」著、[小雲(;)号]の初名/通称] 初名与四郎、通称; 与兵衛、藤岡甚右衛門近方ちかまさの弟?
- 少雲(しょうん: 号) → 士曇(しどん; 法諱・乾峯; 道号、臨濟僧) F 2 1 3 6
- 昌運(しょうん・渡辺) → 昌運(まさかず・渡辺わたなべ、医者/歌人) B 4 0 8 0
- 性雲(しょうん: 字) → 託竜(たくりゅう; 法諱・性雲、浄土僧) E 2 6 3 1
- 勝運(しょうん) → 勝蓮(しょうれん、真言僧/歌人) M 2 2 0 1
- 照運(しょうん; 字) → 日朝(にっちょう; 法諱・本果院、日蓮僧) F 3 3 1 3
- 照雲(しょうん) → 其継(きけい・竹部、僧/俳人) B 1 6 0 5
- 松雲(しょうん・桑名) → 黙斎(もくさい・桑名くわな、藩儒) 4 4 7 9
- 松雲(しょうん) → 了意(りょうい・浅井、唱導家/仮名草子) 4 9 1 6
- 松雲(しょうん・中小路) → 貞章(さだあき・中小路なかこうじ/平、国学) O 2 0 9 3
- 松雲(しょうん・劉) → 貞諒(さだあき・劉りゅう、僧/国学者) P 2 0 7 5
- 消雲(しょうん・丹羽) → 義子(よしゆき・丹羽にわ、国学/歌人) O 4 7 2 9
- 聖雲(しょうん) → 聖雲法親王(しょうんほっしんのう、僧/歌人) C 2 2 4 8
- 聖運(しょうん; 法諱) → 聖遵(しょうじゆん; 法諱、僧侶/歌人) T 2 2 0 6
- 翔雲(しょうん・北脇) → 淡水(たんすい・北脇、儒者/詩) I 2 6 9 4
- 召雲(少雲しょうん; 字) → 徳竜(とくりゅう; 法諱、真宗僧) L 3 1 5 7
- 湘雲(しょうん・小野) → 機(き・小野おの、絵師/書) T 1 6 7 1
- 祥雲(しょうん・富士谷) → 元広(もとひろ・富士谷/藤原、藩士/国学) E 4 4 1 7
- H2204 **浄運**(じょうん・坂さか、浄喜男) ?- ? 室町期医僧、明応1492-1501頃入明、張仲景「傷寒論」の医方を修学し帰国/後柏原天皇を療治; 治部卿法印、足利義政の侍医、「遇仙方」「脉書」「新拵方」/1508「続添鴻宝秘要抄」補、浄見・浄忠の父
- H2205 **貞運**(じょうん) ? - ? 連歌; 1449時述催; 忍誓「広柏ひろがしわ千句」連衆

- S2200 浄雲(じょううん・薩摩太夫) 1595?-1672 78? 江戸初期浄瑠璃太夫
- H2206 乗運(じょううん;法諱) ? - ? 江中期讃岐の真宗本願寺派僧、音韻学に精通、  
1741「韻鏡翼」/44「獅虫問答鈔」著
- F2235 丈雲(じょううん) ? - ? 俳人、1801「天真仏」編:以南追善集
- V2223 乗運(じょううん;法諱・松井まつい/本姓;牧野) 1815-87 73 加賀金沢の代々仏師、彫法;京の片岡友輔門、  
1832(18歳)頃帰郷;家業継嗣、歌人:拜郷蓮茵門、1880京大谷本願寺阿弥陀堂彫刻家に選出、  
[乗運の名/通称/号]名;斎、通称;小太郎/義市/平喜、号;松喬斎/奉山/樗屋/北蘭堂
- 成運(じょううん;法諱) → 成運(せいうん・;法諱/行全坊、天台僧/歌) 2 4 6 3
- 貞運(じょううん;字) → 日礼(にちれい/にちらい・仏性院、日蓮僧) D 3 3 7 0
- 浄雲(じょううん;字) → 寛昌(かんしょう;法諱・浄雲、天台僧) R 1 5 0 4
- 浄雲(じょううん・鳥飼) → 市兵衛(いちべゑ・初代吉文字屋、書肆) D 1 1 6 0
- 浄雲(じょううん・平楽寺) → 勘兵衛(かんべゑ・村上、書肆) G 1 5 5 8
- 讓運(じょううん) → 勝長(かつなが・甘露寺、廷臣) N 1 5 6 5
- 松雲庵(しょううんあん) → 能順(のうじゆん;法諱、社僧/連歌) 3 5 3 8
- 松雲庵(しょううんあん) → 角洲(かくしゅう・加古かこ、医者) J 1 5 9 7
- 正運院(しょううんいん;法号) → 利謙(としかた・土井、藩主/鷹狩/馬術) M 3 1 2 0
- 松雲院(しょううんいん;法号) → 松雲(しょううん・前田、藩主/藩政改革) F 2 2 3 2
- 松雲院(しょううんいん;法号) → 重宗(しげむね・板倉いたくら、藩主) D 2 1 1 0
- F2236 静雲閣主人(しょううんかくしゅじん) ?- ? 歌謡:長唄・端唄等の歌詞作者、  
1706「若緑わかみどり」編(:野川検校作曲?/巻一・二長歌47編/巻三端歌35編/巻四二上り24編・  
三下り7編・さわぎ13編/巻五半太夫節11編、  
1703秀松軒「松の葉」・04大木扇徳「落葉集」に洩れた歌謡集、重複もある、  
1713刊「続松の葉」の内容とほぼ同一)、秀松軒・大木扇徳との関係は不詳
- 昌雲軒(しょううんけん) → 春清(はるきよ・井上いのうえ、医者/俳人) G 3 6 2 9
- 松雲軒(しょううんけん) → 松雲(しょううん・前田、藩主/藩政改革) F 2 2 3 2
- 祥雲舎(しょううんしゃ) → 李曠(りこう・服部はつとり、商家/俳人) B 4 9 0 1
- 湘雲主人(しょううんしゅじん) → 南海(なんかい・祇園/祇/阮、儒/詩/画) 3 2 3 0
- 小雲棲居(しょううんせいきよ;号) → 大典(だいてん;号・梅莊顕常、臨濟僧) B 2 6 9 0
- 小雲泉主人(しょううんせんしゅじん) → 縁信(よりのぶ・東とう/石野/平、国学者) J 4 7 4 0
- C2248 聖雲法親王(しょううんほつしんのう、龜山天皇第6皇子) 1271-1314 44 鎌倉期僧;僧正、後宇多天皇の弟、  
歌人、1305「続門葉集」入
- F2237 証恵(証慧しょうえ;法諱、字;道観[坊]、俗姓;藤原) 1195?-1264 70 京の浄土宗西山派嵯峨流の祖、  
初め東山流証入門、西山派祖証空門、後嵯峨上皇建立の嵯峨小倉山浄金剛院開山に招聘、  
「破邪鈔」「浄土宗名目」「観無量寿教疏記」/1262「当麻曼荼羅縁起」著、  
実道・道念・円道・尊道・覚道の師、歌;続古今集808(無量寿経四十八願心;供養諸仏)、  
[色々の花の匂ひを朝ごとに四方の仏に手向けつるかな](続古;釈教808/証慧上人名)
- W2229 聖恵(しょうえ;法諱、惟康親王[1261-1326]男) ?-? 鎌倉南北期;天台比叡山僧;道潤僧正門、  
親源僧正より灌頂、久明親王(征夷大將軍)の猶子、僧正/125代天台座主、  
1336(建武3)住吉社法楽和歌参加(5首)、  
[草ごとにおく露よりもなほしげし月すむ野辺の虫の声々](住吉法楽;61)  
[おもひいづる人のおもかげくもるまで月ゆゑもろき我が涙かな](同;63)
- F2238 承恵(しょうえ;法諱) ? - ? 南北期の僧侶;律師、歌人、新後拾遺集660、  
[いかばかり待たるものほととぎす知りてつれなき初音なるらん]、  
(新後拾;660/延文二1357百首歌/郭公)
- H2207 勝慧(しょうえ;法諱) ? - ? 江中期伊勢真宗本願寺派持光寺の住職、  
1733「宗要私記」著
- 承恵(しょうえ;法名) → 長忠(ながただ・広幡ひろはた、廷臣/故実) E 3 2 1 3
- 承慧(しょうえ;字) → 日修(にっしゅう;法諱・証誠院、日蓮僧) D 3 3 9 9
- 性恵(しょうえ;法名) → 性恵法親王(しょうえほつしんのう、綾小路宮) W 2 2 4 2
- 証慧(聖慧しょうえ;初法諱) → 顕意(けんい;法諱・道教;字、浄土僧) M 1 8 0 4

- H2208 **定慧**(貞慧じょうえ、藤原鎌足男)643-665早世<sup>23</sup> 法相僧、  
760-62押勝・延慶「家伝かでん」上巻末に「貞慧伝」あり
- F2239 **淨恵**(じょうえ;法諱、俗名;経資つねけ、藤原資能男)?-? 鎌倉期廷臣;豊前守/出家、  
歌;1263(弘長3)住吉社歌合右方3首入、  
[分けくらす花のかげなき野辺ならば誰にかなげの宿をからまし](住吉歌合;二番右4)
- H2209 **成恵**(じょうえ;法諱) 1243 - 1315<sup>73</sup> 鎌倉期真言僧;安祥寺寛伊門/両部灌頂を受、  
安祥寺に住/1289太元別当/1300権僧正/1303東寺三長者、04僧官を廃され翌年復す、  
1310東寺二長者;寺務担当/11東寺一長者、1287「太元法之事」著
- H2210 **定恵**(定慧じょうえ;法諱、俗姓;大森)1296-1370<sup>75</sup> 相模小田原の浄土僧:鎌倉の白旗派の祖良暁門、  
南都に遊学/のち良暁より宗戒両脈を付法;白旗派の後継者、名越派・藤田派と対抗、  
1352良順に付法;のち相模桑原に浄蓮寺を開創;隠棲、「選択伝弘決疑鈔裏書」著、  
[定恵(;法諱)の法名]仏蓮社良誉/良誉
- H2211 **淨恵**(じょうえ;法諱、号;寿量庵)1694-? 1770存 京の真宗大谷派僧;恵空門、願楽寺11世住職、  
真宗故実精通、「真宗故実」「真宗密要集」「教如上人御伝略抄並法談」、  
「節分夜平太郎縁起法談」1768「真宗故実伝来鈔」70「真宗故実密要決」著
- H2212 **淨慧**(じょうえ;法諱、字;明信)?- ? 江中期伊勢安濃郡垂水の真宗高田派金剛寺住職、  
1745一身田の高田派本山専修寺の安居で本講師を務む、1754「山城名跡巡行志」著、  
1761「親鸞聖人伝略」、「親鸞聖人実録」「真宗朗鑑」著、詩;1773江村北海編「日本詩選」入集
- |             |   |                     |           |
|-------------|---|---------------------|-----------|
| 淨恵(じょうえ)    | → | 淨恵(じょうけい、随有軒・17ct)  | M 2 1 2 1 |
| 定恵(じょうえ;字)  | → | 戒定(かいじょう;法諱・定恵、真言僧) | I 1 5 7 7 |
| 常恵(じょうえ;法名) | → | 永慶(ながよし・高倉、廷臣/故実家)  | G 3 2 3 7 |
- W2221 **承栄**(しょうえい;法諱) ? - ? 平安鎌倉期の僧/法橋/歌人、  
1237刊[御裳濯集]入、  
[寂延法師人々にすすめて二見浦にて講じ侍りけるうたの中に松下泉といへる心を、  
山かげのいは井の清水せく袖に秋かけてふく松のした風](御裳濯集;夏264)
- H2213 **正叡**(正睿しょうえい;法諱)1306-1361<sup>56</sup> 山城の浄土僧;西山派三鈔寺の示浄・照恵門/法嗣、  
天台のち浄土宗西山派の仁空門、仁空の後継者と目されるが先逝、  
1343-50「宗要堅林鈔」54「十八道立印鈔」著
- F2240 **紹永**(しょうえい/じょうえい;法諱)?- ? 室町戦国期1460-87頃美濃の僧/法眼位;一休に参禅、  
六角能登入道の弟、連歌作者、1464新黒谷の「何路百韻」参加(初見)、  
1472「美濃千句」催(専順・宗祇を迎え美濃斎藤妙椿居城革手城で興行/三吟入)、  
1476「表佐千句(後美濃千句)」/96「永原千句」参加、新菟玖波9句入、  
[たが染めし色のかざりぞ藤の花](永原千句;第九発句)
- F2241 **松栄**(しょうえい・狩野かのう、名;直信/幹信、元信3男)1519-92<sup>74</sup> 京狩野宗家生、宗信(祐雪)・季頼の弟、  
宗信の養子、狩野派絵師;將軍義輝に出仕/法眼(民部卿法眼)、兄宗信早世のため宗家継嗣、  
父元信の奥旨を究め一家を成す、父を助け石山本願寺壁画を制作、大徳寺障壁画制作、  
永徳(初世)の父、「普化山水図」画、  
[松栄(;号)の通称/法号]通称;源七郎/大炊助、法号;守法院
- H2214 **松栄**(しょうえい;法名・志野しの、志野宗信[1445-1523]女)?-? 室町後期香道家、「松栄之記」、  
通称;松栄尼しょうえいに、志野宗温そうおんの姉妹
- R2212 **松永**(しょうえい) ? - ? 江前期甲斐の俳人;1693不角「二息」入
- H2215 **正栄**(しょうえい;通称・狩野かのう、名;近信)?-? 江後期寛政文化1789-1818頃狩野派絵師、法橋、  
1793蝶夢「芭蕉翁絵詞伝」画;33葉、「四季月帖」「月八首和歌」「富士八景」「六浦和歌」画
- H2216 **正栄**(しょうえい・本木もとき、良永長男)1767-1822<sup>56</sup> 阿蘭陀通詞:蘭英仏語を修得/1778稽古通詞、  
1796小通詞/1809大通詞、仏語;出島商館長ゾーフ門/英語;商館荷倉役ブロンホフ門、  
日本初の英語学習書・英和対訳辞書・フランス語学書を編纂、  
寛政文化1789-1818頃番通詞・江戸番通詞・参府休年出府通詞を歴任/米・魯船の通弁、  
オランダ砲術書和解を下命され1808西洋近代砲術の体系的紹介書「砲術備要」訳撰、  
1808「払郎察辞範」訳、08「和仏蘭対訳語林」09「夷曾問答」編、11「諳厄利亞国語和解」訳、  
1814「諳厄利亞語林大成」共編、「海岸備要」「西洋船舶図解」「蛮産解説」訳、外編訳多数、

[正栄(；名)の別名/字/通称/号]別名；正学/良重、字；子光、通称；元吉/庄[莊]左衛門、  
号；蘭汀/聯芳軒/香祖堂、法号；香祖堂积正蘭汀居士

F2242 昌永(しょうえい・阪さか、初名；周永、昌文男)?-1827 江戸幕府連歌師、1785-1815柳営第三勤仕、  
昌陽の父

F2243 稍永(しょうえい・泉亭せんでい、鴨俊永男)1754-1825 72 下賀茂神社禰宜の家、上北面/越後守、  
1812真竜「日本紀類聚解」内覧を仲介

昌栄(しょうえい・森本)	→ 一瑞(いちずい・森本、藩士/軍学)	G 1 1 2 8
昌栄(しょうえい・上田)	→ 槐堂(かいどう・上田うねだ、儒者)	I 1 5 9 9
昌栄(しょうえい・山田)	→ 椿庭(ちんてい・山田、医者/詩)	K 2 8 9 2
昌英(しょうえい・土屋)	→ 藍洲(らんしゅう・土屋つちや、藩医/儒者)	C 4 8 5 5
昌英(しょうえい・宇佐美)	→ 黙斎(もくさい・宇佐美うさみ、茶人)	4 4 8 0
昌永(しょうえい・山村)	→ 昌永(まさなが・山村やまむら、藩士/蘭学者)	F 4 0 3 4
昌盈(しょうえい・内藤)	→ 昌盈(まさみつ・内藤ないとう、藩士/随筆)	H 4 0 6 6
正栄(しょうえい/まさひで・山高)	→ 信順(のぶより・山高やまたか、藩士/軍法家)	E 3 5 0 9
正栄(しょうえい・平)	→ 正栄(まさひで・平、歌人)	G 4 0 7 3
正栄(しょうえい・狩野)	→ 正栄(まさひで・狩野、絵師)	G 4 0 7 4
正栄(しょうえい・戸田)	→ 儀左衛門(ぎざえもん・戸田とだ、書家)	J 1 6 6 7
正栄(しょうえい・伊藤)	→ 逸衛(はやえ・伊藤いとう、書家/歌人)	J 3 6 6 5
尚栄(しょうえい・徳見)	→ 茂四郎(もしろう・徳見とくみ、宿老)	B 4 4 2 5
尚栄(しょうえい・木村)	→ 世榮(つぐあき・木村きむら、医者/国学)	F 2 9 5 9
尚永(しょうえい・並河)	→ 誠所(せいしょ・並河なみかわ/なびかわ、儒者)	I 2 4 7 4
尚衛(しょうえい・長坂)	→ 在綱(ありつな・長坂ながさか、藩士/歌)	G 1 0 5 6
勝映(しょうえい・立花)	→ 勝映(かつてる・立花たちばな、国学者)	V 1 5 0 2
勝映(しょうえい・西郷)	→ 勝映(かつてる・西郷さいごう、藩士/俳人)	N 1 5 5 5
勝栄(しょうえい/かつなが・窪田)	→ 清音(きよね・窪田くぼた、幕臣/武道)	Q 1 6 0 9
勝栄(しょうえい・石河)	→ 勝栄(かつひさ・石河いしこ/吉田、幕臣)	T 1 5 6 6
勝栄(しょうえい・尾関)	→ 勝栄(かつひで・尾関おせき/石田、藩士/歌)	T 1 5 8 9
性叡(しょうえい)	→ 慶忍(きょうにん；法諱・田丸たまる、真宗僧)	O 1 6 4 2
松影(しょうえい・菅原)	→ 源八(げんぱち・菅原、村役/救民/俳人)	M 1 8 1 5
松影(しょうえい・柳川)	→ 重信(2世しげのぶ・柳川やながわ、絵師)	C 2 1 7 5

H2217 浄永(じょうえい；法諱、俗姓；平たいら、名；高幹たかもと、常陸大掾平盛幹男)?-? 常陸の武将；常陸大掾、  
南北期；文和貞治1352-68頃武将/1355尊氏の近江武佐寺の陣に参戦(；常陸大掾入道名)、  
連歌作者；菟玖波集3句入(；浄永法師名)、  
[山かすむ月のそなたに夜は明けて][菟玖波；春175/前句；わかれの雁の遠き一つら]

W2231 常永(じょうえい；法諱) ? - ? 南北期；僧/沙弥、  
歌人；1375頃細川家(頼之)奉納[大山祇神社百首和歌]出詠、  
[春をへてやどのかざしとなりにけり緑も深き青柳の糸](大山祇百首；8/庭柳)、  
[いつまでかおつる涙の玉のをのたえはてずして物思ふべき](同；82/寄玉恋)

H2218 静栄(じょうえい；法諱) 1475 - ? 1493存 天台宗園城寺の僧、「経論章疏要文」著

H2219 丈永(じょうえい；号、別号；素人房)1721-? 1792存 羽前庄内(酒田)の俳人；京の早川丈石門、  
天明1781-89頃の酒田俳壇の中心、儒者上林白水と親交、1786「除元集」著

H2220 常栄(じょうえい；名・蜂須賀はちすか、通称；有秀)?-1830 尾張大国霊社権神主、従五下越後守、  
1798「尾張国府宮社記」編

常永(じょうえい・出家法名)	→ 永行(ながゆき・高倉、故実/歌人)	G 3 2 2 4
常栄(じょうえい・中西)	→ 常栄(つねひで・中西/出口、国学者)	D 2 9 4 4
常英(じょうえい・縄田)	→ 常英(つねひで・縄田なわた/源、藩士/歌人)	G 2 9 1 2
浄英(じょうえい・出家法名)	→ 家定(いえさだ・木下/豊臣、藩主/随筆)	E 1 1 8 2
定栄(じょうえい)	→ 市兵衛(いちべえ・2代吉文字屋、書肆)	D 1 1 6 1
貞栄(じょうえい；法名)	→ 為貞(ためさだ・津軽つがる、能書家/詩人)	Y 2 6 2 6
城英(じょうえい；法名)	→ 大梁(だいらょう・桜部さくらべ、真宗僧/国学)	X 2 6 3 9



- 嘯咏館(しょういかん) → 淙庵(そうあん・津村/円、商家/随筆/歌) 2 5 4 7  
 松栄軒(しょういけん) → 忠盛(ただもり・内藤ないとう/藤原、幕臣/歌) Y 2 6 4 9  
 昌栄堂(しょうえいどう) → 栄昌(えいしょう・鳥高斎、絵師) C 1 3 0 3  
 定栄堂(じょうえいどう) → 市兵衛(いちべゑ・初代吉文字屋、書肆) D 1 1 6 0  
 松影道人(しょういどうじん) → 徹定(てつじょう、浄土僧) C 3 0 4 4  
 松栄尼(しょうえいに) → 松栄(しょうえい; 法名・志野しの、香道家) H 2 2 1 4  
 浄英坊(じょうえいぼう; 号) → 弘全(こうぜん; 法諱、真言僧) K 1 9 2 4  
 定慧円明国師(じょうえんめいこくし) → 南化(なんか・玄興げんこう、臨濟僧) I 3 2 5 5
- F2244 昌益(しょうえき) ? - ? 連歌師、1558花千句参加:宗養らと  
 H2221 正益(しょうえき・速水はやみ) ? - ? 連歌作者:1587独吟百韻/91毛利家千句連歌参加、  
 1611伊達家七百韻参、1611「千何百韻」「何人百韻」参加、紹与と「両吟百韻」、「連歌聞書」著、  
 [正益(;号)の通称] 銚屋かぎや
- F2246 紹益(しょうえき/じょうえき・佐野さの、本阿弥光益男) 1607-9185 京の紺灰商(佐野)紹由(じょうゆう)の養嗣子、  
 豪商/歌;伯父光悦門/烏丸光広・飛鳥井雅章門、俳諧;松永貞徳門、茶の湯;藤林宗源門、  
 書/蹴鞠を嗜む、智仁親王の知遇を得て桂離宮造営に参画/1656法橋、  
 1629「桂光院輓詩」82「にぎはひ草」、「五色糸」著、島原の吉野太夫を身請し妻とす、  
 [紹益(;号)の幼名/名/通称/屋号/法号]幼名;又三郎、名;重孝(じゅうこう)げたか/清定、  
 通称;三郎左衛門/三郎兵衛、屋号;灰屋はいや、法号;古継院
- F2245 昌易(しょうえき・松永まつなが、尺五せきご長男) 1619-8062 京西洞院の儒者(家学):父の春秋館継承;講説、  
 俳人;貞徳の孫;「貞徳翁戴恩記」刊行、1666-69「尺五先生全集」を息子昌琳に命じて刊行、  
 「詩経頭書」「周易秘箋」「絶句頭書」「詩経集伝」著/1664「周易程朱伝義」「礼記集説」注釈、  
 [昌易(;名)の号]寸雲(すんうん)/寸雲軒/春秋館/碧軒、思斎(永三)の兄
- F2247 昌益(しょうえき・安藤あんど、中村三郎右衛門2男?) 1701?-6262? 陸奥八戸藩医戸田家の養子;離縁、  
 1744-45頃八戸城下で町医を開業、農政学;社会思想家/徹底した平等主義を主張、  
 天地万物の根本原理「活真」を主唱/儒教仏教を批判、  
 1752「統道真伝」53「自然真営道」著、「糺仏失」著、  
 [悪を去れば善も無く善を去れば悪も無し、  
 故に善物悪物にして一物いちぶつ 善心悪心にして一心なり](自然真営道)、  
 [昌益(;名)の字/号]字;良中、号;確龍堂、法号;昌安久益信士
- U2281 正益(しょうえき・黒川くろかわ、養悦の長男) 1825-9975 陸奥会津郡館岩村の医者/歌学を修学、  
 大金玄僊(げんせん)の兄
- 紹益(しょうえき;法諱) → 三江(さんこう;道号・紹益、臨濟僧/聯句) M 2 0 1 3  
 紹益(しょうえき・海北) → 友松(ゆうしょう・海北かいほう、絵師) 4 6 0 4  
 昌益(しょうえき・宇佐美) → 黙斎(もくさい・宇佐美うさみ、茶人) 4 4 8 0  
 昌益(しょうえき・有田) → 正但(まさただ・有田ありた/石井、医者/歌) N 4 0 2 5  
 性易(しょうえき;法諱) → 独立(どくりゅう;道号・性易;法諱、戴笠、医者/黄檗僧) L 3 1 5 6  
 松益(正益しょうえき) → 魚淵(なぶち・佐藤/吉村、医/俳人) G 3 2 8 4  
 勝易(しょうえき・堀口) → 多狲(たじゅう/多沖たちゅう・堀口、藩士/蘭学) R 2 6 4 9
- F2262 笑悦(しょうえつ) ? - ? 備後三原の俳人;1655令徳「崑山土塵集」入、  
 1679宗臣「詞林金玉集」入  
 小樾(しょうえつ→こかげ・寺井) → 謙蔵(けんざう・寺井てらい、藩士/故実家) K 1 8 7 2  
 昌悦(しょうえつ・里村) → 昌建(しょうけん・里村さとむら、連歌宗匠) R 2 2 3 5  
 常悦(じょうえつ・百忍庵) → 勝興(かつおき・小豆沢あずさむら、歌人) T 1 5 4 1
- W2242 性恵法親王(しょうえほつしんのう、龜山天皇12皇子) ?-? 鎌倉時代;1284(弘安7)出家/85親王宣下、  
 母;三条公親女、門跡/妙法院第八世;綾小路宮(4世尊性法親王と同称)・上野宮と称せらる、  
 徒然草に住居小坂殿の棟に池の蛙のため縄を張った話入  
 定慧明光仏頂国師(じょうえみょうこうぶつちやうこくし) → 一絲(いっし;道号・文守、臨濟僧) E 1 1 6 2
- F2263 庄右衛門(しょうえもん・平田ひらた) ?-? 江戸歌舞伎作者;1710森田座;「藪人隅田川」合作、  
 森田座のために中村清五郎・光島七郎左衛門と友に創作活動
- F2264 庄右衛門(しょうえもん・初世野田のだ、吉文字屋) ?-? 寛永1624-44頃京の書肆

- H2222 **小右衛門**(しょうえもん・板屋いたや)?-? 越中高岡の漆工、彩漆製造家;紫・白漆の製法発明、  
1821「春藻錦機」編、  
[小右衛門(;通称)の号]号;半樵亭、屋号;板屋
- H2223 **小右衛門**(しょうえもん;通称・玉造たまつくり、名;隆晃)?-? 1844存 江後期加賀藩士、  
「服忌令集覧」(同藩士長山庄右衛門「服忌令撰註」)に同藩事例から傍注を加えた書)
- 少右衛門(しょうえもん・中台)→ 淳(あつし・中台なかだい、藩士/儒者) E 1 0 6 2  
 庄右衛門(しょうえもん・寺西)→ 秀賢(ひでかた・寺西てらにし、藩家老) C 3 7 9 4  
 庄右衛門(しょうえもん・岩波/河合)→ 曾良(そら・河合/岩波、俳人) 2 5 3 0  
 庄右衛門(しょうえもん・陶山)→ 訥庵(とつあん・陶山すやま、藩士/農政) O 3 1 4 0  
 庄右衛門(しょうえもん・野々口)→ 立圃(りゅうほ・野々口、細工師/俳人) 4 9 1 3  
 庄右衛門(しょうえもん・酢屋)→ 道瑞(どうずい・有岡ありおか、茶人/俳人) F 3 1 8 5  
 庄右衛門(しょうえもん・2世野田、書肆吉文字屋)→ 重固(じゅうこ・野田) P 2 1 3 3  
 庄右衛門(しょうえもん・布屋)→ 遅春(ちしゅん・井上正利、商家/俳人) E 2 8 3 6  
 庄右衛門(しょうえもん・池嶋)→ 成之(せいし・池嶋、俳人/宗匠) B 2 4 8 2  
 庄右衛門(しょうえもん・海老江)→ 元庸(もとつね・海老江えびえ、藩士/歌人) J 4 4 4 0  
 庄右衛門(しょうえもん・西村)→ 馬曹(ばそう・西村にしむら、歌人) E 3 6 7 6  
 庄右衛門(しょうえもん・青木)→ 春澄(はるずみ・青木あおき、俳人) G 3 6 4 7  
 庄右衛門(しょうえもん・西原)→ 晃樹(あさき・西原、藩士/国学者) 1 0 4 7  
 庄右衛門(しょうえもん・山口)→ 安固(やすかた・山口やまぐち、藩士/儒者/用人) G 4 5 9 5  
 庄右衛門(しょうえもん・森) → 僊斎(せんさい・森もり、医者/国学/歌) M 2 4 3 3  
 庄右衛門(しょうえもん・横山)→ 秀世(ひでよ・横山よこやま、国学者/歌) I 3 7 3 1  
 庄右衛門(しょうえもん・諏訪)→ 頼篤(よりあつ・諏訪すわ、幕臣) I 4 7 3 8  
 庄右衛門(しょうえもん・伊藤)→ 徐英(じょえい・伊藤いとう、俳人) C 2 2 2 3  
 庄右衛門(しょうえもん・伊東)→ 祐之(すけゆき・伊東いとう/牛島、藩士/歌) L 2 3 3 4  
 庄右衛門(しょうえもん・伊東)→ 祐根(すけね・伊東/藤原/弓削、祐之の養子/藩士/水練) G 2 3 7 9  
 庄右衛門(しょうえもん・伴)→ 蒿蹊(こうけい・伴ばん、商家/歌人/和文) 1 9 0 8  
 庄右衛門(しょうえもん・伴)→ 資清(すけきよ・伴ばん、商家/歌人) I 2 3 9 9  
 庄右衛門(しょうえもん・城崎)→ 方弘(まさひろ・城崎しろさき、和算家) G 4 0 9 6  
 庄右衛門(正右衛門しょうえもん・大蔵屋)→ 葛野(かどの・千葉、国学/歌) 1 5 7 1  
 庄右衛門(しょうえもん・垣本)→ 正良(まさよし・垣本かきもと/源、代官/国学) O 4 0 7 6  
 庄右衛門(荘・正-しょうえもん・具足屋)→ 正明(まさあき・尾崎/源、国学/狂歌) B 4 0 0 7  
 庄右衛門(しょうえもん・早川)→ 忠頭(ただあき・早川はやかわ/源、藩士/国学) Z 2 6 0 1  
 荘右衛門(しょうえもん・杉本)→ 隆重(たかしげ・杉本/中臣/樋口、神職/歌俳) X 2 6 7 1  
 章右衛門(しょうえもん・蘆野)→ 持僚(もちとも・蘆野あしの、儒者/詩文) B 4 4 5 0  
 勝右衛門(正右衛門しょうえもん・観世)→ 元信(もとのぶ・観世、小鼓方宗家5世) D 4 4 6 9
- V2233 **條右衛門**(じょうえもん・村田むらた、号;春翁) 1757-1837 81 備中浅口郡船穂村の庄屋、  
歌人;木下幸文門
- 丈衛門小林)→ 北阜(ほっこう・小林こばやし、儒者) E 3 9 6 4  
 丈右衛門(じょうえもん・仲子)→ 岐陽(きよう・仲子なかのこ、藩士/儒者) N 1 6 1 2  
 丈右衛門(じょうえもん・中根)→ 元珪(元圭げんけい・中根なかね、曆算家) B 1 8 6 3  
 丈右衛門(じょうえもん・榊原)→ 日影土竜(ひかげのもぐら、榊原、狂歌) 3 7 4 4  
 丈右衛門(じょうえもん・陸)→ 可彦(よしひこ・陸くが、医者) G 4 7 2 3  
 丈右衛門(じょうえもん・鹿山)→ 野月(やげつ・鹿山、俳人) 4 5 5 5  
 丈右衛門(じょうえもん・土屋)→ 索進斎(さくしんさい・土屋つちや、絵師) O 2 0 8 2  
 丈右衛門(じょうえもん・阪) → 正緒(まさお・阪ばん、国学者) S 4 0 0 4  
 篠右衛門(じょうえもん・山下)→ 利章(としあき・山下、藩士/系譜作製) L 3 1 9 6  
 城右衛門(じょうえもん・向井)→ 明祥(あきよし・向井むかい、国学者) I 1 0 5 3
- F2248 **勝延**(しょうえん;法諱、俗姓;笠、大和守紀き行広男) 827-901 75 平安期右京の僧;真言・天台宗を兼学、  
東大寺法幢院恵亮内供門/天台延暦寺真雅僧正門;受戒、890権律師/893律師/898少僧都、  
歌;古今集831(;堀川太政大臣藤原基経を深草に埋葬後に詠歌)、

[空蟬は殻を見つゝもなぐさめつ深草の山煙けりだに立て](古今;十六哀傷831)

- F2249 昭円(しょうえん;法諱) ? - ? 鎌倉期;1213「閑院殿鎮日記」著
- V2268 璋円(しょうえん;法諱) 1170 - ? 鎌倉期;南都の僧;貞慶(解脱上人)門/権少僧都、歌人;勝詮の房室の歌会・興西院歌会参加、檜葉集5首入、  
[大僧都勝詮の房にて、  
いづこよりあさゆくしかのすぎつらんすそのにしげき萩の下つゆ](檜葉;秋194)
- H2224 勝円(しょうえん;法諱) ? - ? 1249存? 真言僧(法師)/連歌作者:  
1249醍醐金剛王院で実賢より伝法灌頂を受?、菟玖波集1句入、  
[潮うほより吹たる風の音聞きて](菟玖波;雑1336/前句;かけに見ゆるは松の白雪)
- H2225 照遠(しょうえん;法諱) 1304 - ? 1361存 大和唐招提寺の律宗僧、1322同寺で満分戒を受、  
1325具足戒を受、嘉暦1326-29頃覚也・覚慧の梵網經の講筵に列す;戒律復興に志す、  
三大律部の鈔65巻著、1361唐招提寺で講筵を開く、「顛縁抄」「四分律資行鈔序題記」著、  
1342-44「四分律含注戒本疏警意鈔」1344「行事鈔資行鈔」1342-44「行事鈔資行鈔」外著多
- F2261 聖遠(しょうえん、法師) ? - ? 歌人、続現葉集入;新後拾遺425では東坊城(菅原)長綱、  
[小夜衣うつ音寒し秋風のふけ行く袖に霜や置くらん](続現葉集/新後拾遺425)  
→ 長綱(ながつな・東坊城ひがしほうじょう/菅原、廷臣/歌人) E 3 2 4 7
- H2226 声淵(しょうえん;法諱、通称;洞円房)?-? 1361存 大原魚山の天台宗来迎院僧;律円房淵眷門、  
秘書・声明類を書写、1341「法華懺法私聞」、「両界讚口決」「聞書」著
- H2227 性演(しょうえん;法諱、内大臣西園寺公益男) 1610-7465 摂政西園寺康道の養子、真言僧、  
1656真言大僧正/70東寺長者兼東大寺華嚴宗長吏、大覚寺宮付法灌頂師;安井門跡再興、  
「十喩詩」書、1672「三箇覽吉書次第」著、法号;俊光明乘院
- F2250 勝延(しょうえん・田村たむら) ? - ? 伊勢俳人、1684伊勢で芭蕉と付合(野晒紀行入)、  
1685?雷枝「伊勢斐杉あやぎ」入、  
1683三千風・又玄・未済みい・益光らと一座:三千風「日本行脚文集」入、  
[花の咲く身ながら草の翁かな](野晒紀行/わび姿の芭蕉;立派な境涯のはずなのに、  
芭蕉の付句;秋にしほるゝ蝶のくづをれ)
- F2251 松淵(しょうえん) ? - ? 江前期俳人;雑俳、  
1702(元禄15)「冠独歩行かんむりひとりあるき」撰(露月・一調らの冠附集:喜至と共撰)
- H2228 蕉園(しょうえん・中井なかい、名;曾弘/字;伯毅、竹山男) 1767-180337 母;革山家の女順、  
大阪の儒者;家学父門/1797懷徳堂学主、詞賦文章に秀でる、頼山陽に[文妖]と称さる、  
「中井蕉園文集」「碧囊」「甲越外史」「江戸行日記」「炎窓代睡」「杞憂漫言」「春秋伝考索」、  
「四時雑詩」「津問」「仙坡雕虫ちようちゆう」「雕虫篇」「天橋遊記」「万鐘辨」「騶囊」、碩果の兄、  
[蕉園(;号)の通称/別号]通称;淵蔵/遠蔵、別号;仙坡/介菴/南呉子、諡号;文明先生
- F2252 蕉園(しょうえん・小島こじま、名;恭之/彝、唐衣橋洲男) 1771-182656 幕臣;医者;徳本流医術を修学、  
1789田安家に出仕;昌平黌に修学/1805甲州田中の代官;07致仕/江戸で医者を開業、  
狂歌:田鶴丸たづまるに橋字与う(;橋庵)、野村篁園・岡本花亭・勝田半斎・植木玉厓と交流、  
1823遠江相良藩に招聘;同地に没、「蕉園涉筆」/1784「蕉園漫筆」著、1821「徳本遺方」編、  
[蕉園(;号)の字/通称/別号]字;公倫、通称;源一/藤彝とうい、別号;万蕉園/酔叟
- H2229 蕉園(しょうえん・矢野やの、名;弘、正乗男) 1773-181644 豊後杵築藩士/儒;1786(14歳)三浦梅園門、  
經学・諸子百家に通ず、兄恒久の養嗣子;継嗣、鳥銃隊長/新設の藩校学習館学職/教授、  
詩文に長ず;特に七言歌行、「詩文名蕉園集」「条理余譚」著、  
[蕉園(;号)の字] 毅卿
- H2230 樅園(しょうえん・三宅みやけ、名;守常、牛洞男) 1791-184757 美濃加納本町の儒家・詩歌(家学);父門、  
吉田東堂門、富家;農事に尽力;開墾事業に功績、「樅園雑記」「対話之記」著、樅台の養父、  
[樅園(;号)の字/通称/別号]字;広業、通称;能助/左兵衛、屋号;大岩井屋、法号;徳運院
- B2240 小園(しょうえん・頼らい、医者花山文臺5男) 1792-185665 安藝竹原の生、儒者、頼春風女の唯子と結婚、  
1804春風男景讓が山陽廢嫡のため本家春水の養嗣となつたため小園が春風の養嗣となる、  
[小園(;号)の通称] 尚平  
頼家系図 → 春水(しゅんすい・頼らい) 2 1 6 0
- F2254 松園(しょうえん・阿部あべ、名;伯孝) 1801-6666 尾張藩士/儒;天野恬庵門、1836父の遺跡継嗣、

本丸番/1843藩校明倫堂教授/藩主侍読/側物頭格兼明倫堂督学、  
 1858藩主慶勝幽閉に際し5年間蟄居;1862前職に復帰、1843「源大家和歌集」著、  
 1862「子守大神奉納歌集」編、「松園詩稿」「松園秘書」「松園文稿」「松園雑著」著、  
 「七盤山人文集」著/「列朝詩集」編、1866「陶祖春慶翁碑」著、  
 [松園(;号)の字/通称/法号]字;士錫、通称;富三郎/清兵衛/八助、法号;蓮池院

- H2231 **松園**(しょうえん・高橋たかはし、名;通久、通英長男) 1812-80/69 秋田大館の豪商の生/儒;塩田随斎門、  
 經史を修学、詩;梁川星巖門、書も嗜む、「一百二峰堂詩」著、松坪しょうへい(詩人)の父、  
 [松園(;号)の字/通称]字;君微、通称;仙右衛門
- H2232 **椒園**(しょうえん・植木うえき、名;遷明、植木日清の養子)?-? 越後柏崎詩人、寺沢石城の滄浪園に修学、  
 今井鏡洲と同門、「椒園詩稿」著、無窮の義兄、  
 [椒園(;号)の字] 子串/元恵
- H2233 **笑園**(しょうえん) ? - ? 江後期安藝安藝郡瀬野の俳人、意藩/三車らと交流、  
 「月しはし」;意藩と両吟歌仙、芭蕉忌「懐旧脇起之連歌」興行、1856菊年「やまかつら」入
- 小猿(しょうえん・飯田/清水) → 道閑(2世どうかん・清水、藩士/茶人) C 3 1 3 7  
 小園(しょうえん・橋本/葛飾) → 子琴(しきん・葛かつ/橋本/葛城、医/詩人) B 2 1 6 9  
 小塩(しょうえん・盛田) → 小塩(おしお・盛田もりた、戯作者) D 1 4 1 0  
 聖円(しょうえん:法名) → 惟明親王(これあきらしんのう、歌人) E 1 9 1 0  
 正円(しょうえん・錦織) → 義高(よしたか・錦織にしじり、藩医/和学) O 4 7 3 7  
 正円(しょうえん・大山) → 綱良(つなよし・大山/華山、藩士/勤王) B 2 9 4 1  
 性円(しょうえん;法諱) → 独照(どくしょう;道号・性円、臨濟/黄檗僧) L 3 1 0 1  
 性円(しょうえん;法名) → 一具(いちぐ;法諱、僧;住職/歌人) J 1 1 9 4  
 紹円(しょうえん:法諱) → 湛月(たんげつ;道号・紹円、臨濟僧) T 2 6 3 4  
 松苑(しょうえん) → 東明(とうめい・度会わたらい、笹山良意/絵師) T 3 1 4 4  
 松園(しょうえん) → 梅彦(ばいげん・松園、人情本) B 3 6 1 3  
 松園(しょうえん) → 常雄(つねお・奥田/橋、藩士/国学者) B 2 9 9 7  
 松園(しょうえん) → 文虎(ぶんこ・西原、俳人) F 3 8 1 2  
 松園(しょうえん) → 弘武(ひろたけ・多田ただ/田、和算家) G 3 7 2 4  
 松園(しょうえん) → 貞寄(さだより・佐藤/宇多、藩士/詩歌) C 2 0 6 9  
 松園(しょうえん) → 罔雄(くにお・林、国学者/狂歌) C 1 7 6 5  
 松園(しょうえん) → 中洲(ちゅうしゅう・守屋もりや、儒/詩文) G 2 8 2 2  
 松園(しょうえん) → 友于(ともゆき・倉谷/藤原、医者/歌) Q 3 1 8 6  
 松園(しょうえん) → 知空(ちくう・石橋いしばし、国学/歌/出家) M 2 8 0 4  
 松園(しょうえん) → 東山(とうざん・力丸りきまる、儒/兵学/詩) E 3 1 5 6  
 松園(松円しょうえん) → 日俊(にっしゅん;法諱・本法院、日蓮僧) E 3 3 1 4  
 松園(しょうえん・鍋島) → 周子(かねこ・鍋島、歌人) O 1 5 4 7  
 松園(しょうえん・千萱) → 義利(よしとし・千萱ちがや、神職/国学者) E 4 7 9 2  
 松園(しょうえん・菅原) → 清根(すがね・菅原/山本、社僧/国学) F 2 3 8 6  
 松園(しょうえん・稲村) → 三羽(みつは・稲村いなむら、幕臣/国学/歌) H 4 1 6 6  
 松園(しょうえん・塩田) → 順庵(じゅんあん・塩田/宮河、幕臣/医者) J 2 1 2 0  
 松園(しょうえん・浅野) → 懋績(としつぐ・浅野あさの、歌人/絵師) T 3 1 9 8  
 松園(しょうえん・今村) → 千年(ちとせ・今村いまむら、神職/国学/歌) M 2 8 1 2  
 松園(しょうえん・加藤) → 安彦(やすひこ・加藤かとう、藩士、国学/歌) F 4 5 6 3  
 松園(しょうえん・森本) → 眞弓(まゆみ・森本もりもと、商家/国学/歌) P 4 0 3 5  
 松園(しょうえん・佐々木) → 了綱(りょうこう・佐々木ささき、真宗僧/歌) M 4 9 1 6  
 松園(しょうえん・佐藤) → 如春(じょしゅん・佐藤さとう、国学/歌人) U 2 2 8 5  
 松園(しょうえん・檜原) → 久臣(ひさおみ・檜原ならはら、国学者) K 3 7 4 9  
 松園(しょうえん・菅沼) → 定敬(さだたか・菅沼すがぬま、国学者) O 2 0 6 8  
 松園(しょうえん・松井) → 秀房(ひでふさ・松井/大場、藩士/国学) L 3 7 0 3  
 莊園(しょうえん・莊野) → 秋平(あきひら・莊野しょうの、藩士/神職/国学) H 1 0 4 2  
 樟園(しょうえん・志貴) → 昌芳(まさよし・志貴しき/惣社、神職/国学) Q 4 0 0 6

椒園(しょうえん)	→ 摩斎(まいさい・金本かなもと、儒者/詩)	B 4 0 2 4
椋園(しょうえん・猿渡)	→ 盛章(もりあきら・猿渡さわり、神職/歌人)	F 4 4 0 8
椋園(しょうえん・柏淵)	→ 静夫(しずお・柏淵かしづち、里正/儒・国学)	N 2 1 9 9
承演(しょうえん;法諱)	→ 大拙(だいせつ;道号・承演、臨濟僧)	T 2 6 8 1
涉園(しょうえん・山崎)	→ 宗運(そううん・山崎やまさき、幕臣/医者)	G 2 5 0 8
涉園(しょうえん・遠藤)	→ 守寧(もりやす・遠藤えんどう、国学/歌/茶)	J 4 4 4 3
蕉園(焦園しょうえん)	→ 尚賢(なおかた・内藤、本草家)	3 2 9 7
夔園(樵園しょうえん)	→ 広城(こうじょう・ひろき・大野、幕臣/故実)	B 1 9 3 8
紹琬(しょうえん;法名)	→ 成章(なりあきら・富士谷、国学/歌)	3 2 2 7
咲園(笑園しょうえん・柴田)	→ 花守(はなもり・柴田しばた/咲行、神道家)	F 3 6 5 0
昌延(しょうえん/まさのぶ・鄭)	→ 敏斎(びんさい:号・鄭てい、通事/語学教育)	H 3 7 8 2
勝延(しょうえん・田付)	→ 勝延(かつのぶ・田付たつけ、俳人)	F 1 5 4 5
勝延(しょうえん・勝野)	→ 勝延(かつのぶ・勝野かつの、藩士/国学・歌)	U 1 5 2 8
勝延(しょうえん・上杉)	→ 勝延(かつのぶ・上杉うえずぎ、歌・俳人)	N 1 5 7 0
勝延(しょうえん・石河)	→ 勝延(かつのぶ・石河いしこ、幕臣/国学)	T 1 5 6 5
篠園(しょうえん・後藤)	→ 若雄(わかお・後藤ごとう、歌人)	5 3 0 8

- F2255 **静円**(じょうえん;法諱、木幡権僧正、関白藤原教通男)1016-7459 母;小式部内侍、天台僧;定基大僧都門;1041入壇受職、1048権律師/権少僧都/権大僧都/1070権僧正、その間法成寺権別当を務む、また木幡浄妙寺別当を務む、1071法成寺執行、行尊と親交、歌人;長能歌の難語[そみかくた]を釈したという逸話(奥義抄入)、勅撰3首;後拾遺(45/762)金葉(634/Ⅲ626)続後撰(1250)、続詞花集入、[栗津野のすぐろのすゝきつのぐめば冬たちなづむ駒ぞいばゆる](後拾;春45/春駒)、(すぐろのすゝきは野焼後の黒焦げの薄/たちなづむは寒さで動きに難渋する)
- F2256 **静縁**(じょうえん;法諱)? - ? 平安後期天台僧;叡山阿闍梨、歌人;1172広田社歌合/1195民部卿経房歌合参加、私家集「閑林鈔」撰(散佚)、千載集(597・769)、[先立たむ事を憂しとぞ思ひしに遅れても又かなしかりけり](千載;哀傷597)、(病身の自分が母に先立つことを歎いていたのに母に先立たれた悲しみ)
- V2284 **成円**(じょうえん;法諱、初め顕範、藤原[六条]重家男)?-? 平安鎌倉期;興福寺僧/僧都、顕輔(1090-1155/正三/歌道一流祖)孫/経家・顕家・有家(六条藤家歌人1155-1216)の弟、仁快(叡山大僧正)の兄、歌人;1237刊[檜葉集]入(没後?)、[同宿の童・僧など歌合しける次のあした遣はしける、わかぬ浦や同じなみぢにいかなればわれのみかかるもくづなつるらむ](檜葉;921)
- V2295 **貞延**(じょうえん;法諱、) ? - ? 平安鎌倉期;南都の僧/法師、歌人;1237刊[檜葉集]2首入、[秋の夜は心あるべきねざめかな鹿のねちかきふかくさのさと](檜葉;雑815)
- Q2255 **定円**(じょうえん;法諱、藤原[葉室]光俊[真観]男)1230?-? 1278存 園城寺(三井寺)の天台僧、権律師/法印権大僧都、1275「太子曼陀羅講式」78「法隆寺宝物和歌」著、「諸尊道場観集」著、「法隆寺宝物縁起」著/詩;和漢兼作入/歌;1278法隆寺宝物和歌詠進/弘安百首・新三井集入、1253-4成立[雲葉集]入(権律師名)、勅撰19首;続古(407/1218/1692)続拾(325/1296/1321/1383/1392)新後撰(684/963)以下、[しきたへのとこの浦回うらわの波枕宿るや月の浮き寝なるらん](続古;四秋407/浦月を)
- Q2253 **定縁**(じょうえん;法諱) ? - ? 鎌倉期の僧;法印/権大僧都、歌人、1278成立の続拾遺集1303、[今も猶時雨るる袖はほしやらず見しよの夢の秋の別に](続拾;雑1303/暮秋母と死別)
- F2257 **定円**(じょうえん;法諱、別法諱;定宗/定窓じょうそう)?-? 鎌倉期僧;権少僧都、歌;1320成立続千載1999、[身こそはや心のままに成りにけりうしと思ひし世を遁れつつ](続千載;雑1999/定宗) 檜葉集(1237刊)入集の定宗じょうそう(1207生/鎌倉前中期僧)とは別人か?
- Q2254 **浄円**(じょうえん;法諱) ? - ? 南北朝真言僧;醍醐三宝院僧、1346三宝院門跡賢俊大僧正の伊勢参宮に随行、連歌;菟玖波集1句入、[とき置きし御法ばかりはまことにて](菟玖波;釈教690/前句;現といふも皆夢ぞかし)

- S2201 **常縁**(じょうえん/つねり・東とう/本姓;平、益之[素明]5男)1401?-1494?(or1484?) 94or84 兄氏数の猶子、美濃篠脇城主/郡上領主、歌・連歌:父・兄と共に正徹・堯孝と交流、1450堯孝門;二条派歌学、1454従五下/左近将監、1455宗家の下総千葉氏の分裂抗争に東下;諸所を転戦、その戦乱時にも上洛;円雅(1461没)門;歌書を書写、1467応仁乱で美濃の居城を斎藤妙椿に攻略される;和歌の徳で和議成立/1469上洛、下野守を称し美濃入城、宗祇の師;古今集講ず/古今伝授を創始、素純・常和の父、近衛政家・三条公敦・足利義尚の歌道の師、「東常縁集」「常縁集」「常縁相伝書」「十口抄」、「遠情抄」「延五秘抄」「連歌師哥集」「和歌秘書」「宗祇に答ふる文」「超大極秘古今集」、「新古今和歌集抄」「十口抄」「東野州聞書」/1481「常縁口伝和歌」、外著多数、[常縁(;名)の通称/号]通称;東野州、号;昼錦居士、法号;素伝
- H2234 **常円**(じょうえん;法諱、不求軒)?- ? 1672存 会津若松の修験僧、1672「修験心鑑鈔」注、「修験宗法具秘決精註」注釈
- H2235 **浄円**(じょうえん;法諱) ? - ? 1790存 江中期豊後大分の神宮寺僧(社僧)、1778「八幡宇佐宮繫三」90「海滴章」92「護戒論」、「制大戒訣」著
- |                   |   |                         |           |
|-------------------|---|-------------------------|-----------|
| 浄円(じょうえん;法諱)      | → | 澄円(ちやうえん;法諱、14ct初浄土僧)   | 2 8 4 6   |
| 定円(じやうえん;初法諱)     | → | 定修(じやうしゅう;法諱、定家男/天台僧)   | S 2 2 9 8 |
| 常遠(じやうえん・藪)       | → | 慎庵(しんあん・藪やぶ、藩士/儒者)      | D 2 2 4 5 |
| 芴園(じやうえん;号)       | → | 大瀛(だいえい;法諱・子容、真宗僧)      | J 2 6 1 8 |
| 藁園(じやうえん・野村)      | → | 東皐(とうこう・野村、儒者)          | 3 1 0 9   |
| 乗円(じやうえん;法名)      | → | 宣秀(のぶひで・中御門、廷臣/故実/連歌)   | D 3 5 0 0 |
| 乗円(じやうえん;法諱)      | → | 朗然(ろうねん;字・乗円、真言僧)       | 5 2 4 3   |
| 性衍院(じやうえんいん)      | → | 日兼(にちけん;法諱・良澄、日蓮僧)      | B 3 3 6 1 |
| 浄衍院(じやうえんいん)      | → | 実導(じつどう;法諱、浄土宗西山派僧)     | V 2 1 0 0 |
| 勝園寺巒興(じやうえんじらんこう) | → | 顕氏(あきうじ・細川/源、武将/歌/連歌)   | 1 0 5 9   |
| 小園叟(じやうえんそう)      | → | 子琴(しきん・葛かつ/橋本/葛城、医/詩)   | B 2 1 6 9 |
| 相園坊(じやうえんぼう)      | → | 兼載(けんさい・猪苗代、歌/連歌師)      | 1 8 1 3   |
| 勝円房(じやうえんぼう;字)    | → | 順継(じゆんけい;法諱・勝円房、真言僧)    | I 2 1 9 7 |
| 勝縁房(じやうえんぼう;号)    | → | 月珠(げつしゆ;字・覚了、真宗僧)       | H 1 8 0 6 |
| 松園坊(松円坊じやうえんぼう)   | → | 清根(すがね・菅原/山本、社僧/国学)     | F 2 3 8 6 |
| 証厭房(じやうえんぼう)      | → | 万乎(まんこ、商家/俳人)           | K 4 0 4 7 |
| 成円房(じやうえんぼう)      | → | 有詮(ゆうせん;法諱、修験僧)         | D 4 6 1 7 |
| 乗円房(じやうえんぼう)      | → | 俊賀(しゆんが;法諱、浄土のち真言僧)     | M 2 1 5 2 |
| 乗円房(じやうえんぼう)      | → | 道忠(どうちゆう;法諱、浄土僧)        | G 3 1 4 2 |
| 成円坊貫之(じやうえんぼうかんし) | → | 有允(ゆういん・宇都宮うつのみや、修験/国事) | G 4 6 6 1 |
| 松塙(じやうお・菅野)       | → | 眞斎(しんさい・菅野すげの、儒者)       | O 2 2 4 6 |
| 松隴(じやうお・池田)       | → | 明清(あききよ・池田いけだ、国学者)      | G 1 0 9 8 |
| 常於(じやうお・塩野)       | → | 常於(つねお・塩野しおの、歌人)        | G 2 9 7 5 |
- F2258 **紹鷗**(じやうおう・武野たけの/本姓;武田、名;仲材、武野信久長男)1502-5554 母;奈良豪族中坊家の女、和泉堺の武具商(父の代より堺に住し武野と改姓)/三好家の庇護下で豪商となる、上京し三条西実隆門/1530従五下因幡守/1532大徳寺古岳宗亘門;出家;紹鷗の号を受、茶の湯;村田宗珠・宗伍門/侘び茶の追求、千利休・津田宗及・今井宗久(女婿)らの師、「四本台子天目之伝」「池永宗作茶書」「紹鷗茶湯百首」「聯句集」、1549「紹鷗袋棚記」著、[紹鷗(;号)の幼名/通称/別号]幼名;松菊丸、通称;新五郎、別号;大黒庵/一閑、法号;大黒庵紹鷗一閑居士、宗瓦そらが(茶人)の父
- H2236 **松翁**(じやうおう・松平まつだいら、康紀男)?-? 絵師;山水画、詩人、石見浜田藩主松平康映の弟、1721「石見国名所松葉集」弟の新清元麿と共著
- H2237 **樵翁**(じやうおう・大口おおくち、名;保為/保高/保喬やすたか)1689-176476 大阪の茶人;大西関斎門/石州流、関斎の女婿、のち一派を創し大口流茶道の祖、三条西家流香道;臼井家に入門、禅学;雲門和尚門、1744「茶湯之書」、「溪鼠余談」「逆流玄談」「刀自袂」「旅窓寸紙」著、

柴原喜右衛門・河原大用・細井一敬の師、

[樵翁(；号)の別号] 恕軒/含翠/養浩齋/養怡軒/芳林庵/敬持/大玄/如心軒、法号；谿嶽樵翁

- S2202 **松翁**(しょうおう・布施ふせ、名；矩道)1725-8460 京の呉服商松葉屋主人、心学；1757富岡以直門、さらに手島堵庵門、京における心学者の会輔席の都講；新樂の布教に尽力、「孝子善行伝」「松翁ひとりごと」著/1770「西岡孝子儀兵衛行状聞書」著、没後；「松翁道話」(；門人八宮齋編)、  
[松翁(；号)の通称] 松葉屋伊右衛門
- H2238 **松翁**(しょうおう・小田島おだじま、名；充武/雅彦、南岡男)1759-182668 越後水原の代々書肆、歌に長ず、地誌の研究；1814「越後騒動記」/15「越後野志」(120巻)著、「蝦夷唐太山丹随聞記」著、「都多加豆羅つたがら」編、  
[松翁(；号)の通称/諡号]通称；彦四郎/(晩年；)源左衛門、諡号；玄靖先生
- F2259 **象王**(しょうおう；法諱) ? - ? 真宗僧、1852「妙好人伝みょうこうにんでん第六編」編
- |                  |   |                             |           |
|------------------|---|-----------------------------|-----------|
| 性応(しょうおう；法諱)     | → | 物外(もつがい；道号・性応、曹洞僧)          | I 4 4 5 9 |
| 性応(しょうおう；字)      | → | 知空(ちくう；法諱、真宗本願寺派能化)         | C 2 8 5 6 |
| 尚翁(しょうおう・狩野)     | → | 宗朴(3代そうぼく・狩野かのう、茶人/歌/俳)     | K 2 5 8 9 |
| 樵翁(しょうおう・西山、東山)  | → | 長嘯子(ちやうしょうし・木下、武将/歌)        | 2 8 2 3   |
| 樵翁(しょうおう・鎮西ちんぜい) | → | 榎の屋(もみのや、鎮西清宣、神職/国学)        | E 4 4 9 6 |
| 樵翁(しょうおう・三浦)     | → | 為宝(ためとみ・三浦みづら/内田/菊地、国学)     | W 2 6 7 2 |
| 蕉翁(しょうおう)        | → | 玄仲(げんちゆう・里村、連歌師)            | 1 8 2 5   |
| 松翁(しょうおう)        | → | 士朗(支朗しろう・井上、医者/俳人)          | 2 2 1 6   |
| 松翁(しょうおう)        | → | 立圃(りゅうほ・野々口、俳人)             | 4 0 1 3   |
| 松翁(しょうおう)        | → | 徹定(てつじよう・瑞蓮社、浄土僧)           | C 3 0 4 4 |
| 松翁(しょうおう)        | → | 英俊(えいしゆん・村上、医者/語学者)         | C 1 3 9 4 |
| 松翁(しょうおう)        | → | 山楽(さんらく・隣柳庵りんりゅうあん、盆景師)     | E 2 0 7 9 |
| 松翁(しょうおう)        | → | 松堂(しょうどう・中島/中嶋、藩士/日記)       | L 2 2 2 1 |
| 松翁(しょうおう)        | → | 景寛(かげひろ・乾いぬい、国学/歌人)         | T 1 5 7 0 |
| 松翁(しょうおう)        | → | 允武(まさたけ・小田島おだじま、書肆/国学)      | O 4 0 1 2 |
| 松翁(しょうおう)        | → | 和平(かずひら・菊田きくた/小笠原、農家/国学/神職) | U 1 5 4 8 |
| 松鷗(しょうおう；号)      | → | 宗香(そうこう；法諱・梅屋；道号、臨濟僧)       | B 2 5 3 7 |
| 松泓(しょうおう・小笠原)    | → | 基長(もとなが・小笠原、藩士/記録)          | D 4 4 5 3 |
| 笑翁(しょうおう；号)      | → | 大鵬(たいほう；道号・正鯤しょうこん、黄檗僧)     | C 2 6 1 7 |
| 笑翁(しょうおう・加藤)     | → | 泰広(やすひろ・加藤かとう、藩主/歌人)        | F 4 5 6 8 |
| 笑翁(しょうおう；号)      | → | 慶山(けいざん；法諱、真宗僧/歌人)          | N 1 8 7 5 |
| 笑翁(しょうおう・服部)     | → | 正弼(まさすけ・服部はっとり/長沼、家老/歌)     | R 4 0 7 9 |
| 笑翁(しょうおう・服部)     | → | 正名(まさな・服部、正弼男/家老/歌)         | R 4 0 8 0 |
| 咲翁(笑翁しょうおう・藤田)   | → | 容斎(ようさい・藤田ふじた、儒/教育者/詩)      | B 4 7 0 0 |
| 正旺(しょうおう・長谷川)    | → | 角行(かくぎよう・長谷川、修験行者)          | J 1 5 6 8 |
| 昭応(しょうおう・内海)     | → | 昭応(てるのり・内海うつみ、神職/国学)        | F 3 0 0 4 |
| 紹翁(しょうおう・多紀)     | → | 元胤(もとつぐ・多紀/丹波、幕臣/医者/詩)      | D 4 4 0 8 |
| 聖応(しょうおう)        | → | 聖応(せいおう・しょうおう；法諱、胡蝶庵、社僧)    | 2 4 7 5   |
| 菖翁(しょうおう)        | → | 定朝(さだとも・松平、幕臣/花菖蒲栽培)        | I 2 0 9 2 |
| 韶翁(しょうおう)        | → | 長韶(ながつぐ・黒田、藩主/歌人)           | E 3 2 4 2 |
| 昌応(しょうおう・滝)      | → | 昌応(すけまさ・滝たき、藩士/地誌)          | G 2 3 8 6 |
| 証応(しょうおう；号)      | → | 道契(どうかい；法諱、曹洞僧)             | C 3 1 0 5 |
| 将応(しょうおう・高木)     | → | 羽筋(うせつ・高木たかぎ、書家)            | C 1 2 9 5 |
| 将翁(しょうおう・阿部)     | → | 照任(輝任てるとう・阿部あべ、本草家)         | E 3 0 6 9 |
| 小翁(しょうおう)        | → | 滄浪(そうろう・秦はた、儒者)             | D 2 5 2 6 |
| 少翁(しょうおう・峯)      | → | 貉丘(かくきゆう・峯みね、医者)            | J 1 5 6 6 |
| 少翁(しょうおう)        | → | 長教(ながのり・今村、医者)              | F 3 2 3 4 |
| 少翁(しょうおう)        | → | 基(もとい・松原まつばら、藩士/儒者)         | C 4 4 1 0 |

- 肖翁(しょうおう・川井) → 立斎(りゅうさい・川井/河井、医者/歌) E 4 9 0 1  
象翁(しょうおう・越智) → 正勝(まさかつ・越智おち/山下/津田/久保、神職) C 4 0 1 0  
璋翁(しょうおう・川端) → 玉章(ぎよくしょう・川端かわばた、画家) B 1 6 5 4  
嘯翁(しょうおう・姉小路) → 実紀(さねえ・姉小路あねがこうじ/藤原、廷臣/歌人) D 2 0 4 5  
嘯翁(しょうおう・加治) → 鳳山(ほうざん・加治かじ、藩士/儒者) B 3 9 0 4  
嘯翁(しょうおう) → 古濂(これん・沼ぬま/梅本、医者/儒者) P 1 9 0 3  
嘯翁(しょうおう・服部) → 蘇門(そもん・服部はっとり、漢学/仏典) E 2 5 4 2
- H2239 乗応(じょうおう;法諱) 1735 - 1795 61 越前足羽の真宗本願寺派光福寺10世住職、  
宗学;功存門、永平寺で余乗を修学、「高僧和讃講記」「無量寿経卷上講録」著、  
[乗応(;法諱)の通称/諡号]通称;廉溪、諡号;瑞正院
- H2240 浄応(じょうおう;法諱) ? - ? 江中期播磨の真宗本願寺派常泉寺住職、  
宗学;智暹門、明和法論の際に本山対面所での討論を慶観と共に書写、  
1757「教行信証拾瀋記」/1767(明和4)「鞘之間論義」、「鞘之間論義篇」著
- 常応(じょうおう・檜垣) → 常之(つねよし・檜垣/度会むらい、神職) E 2 9 2 3  
常応(じょうおう・檜垣) → 貞俊(さだとし・檜垣/度会/松木、神職) I 2 0 8 6  
常翁(じょうおう・桜井) → 雪館(せつかん・桜井さくらい/桜、絵師) K 2 4 7 9  
浄王(じょうおう;別法諱) → 聞中(もんちゅう;道号・浄復;法諱、黄檗僧) I 4 4 6 6  
縄翁(じょうおう・大槻) → 平泉(へいせん・大槻おおつき、藩儒/詩人) 2 7 6 1  
讓翁(じょうおう・中野) → 徴雄(もとお・中野なかの、藩士/歌人) K 4 4 7 9  
讓翁(じょうおう・宮沢) → 行(すむ・宮沢みやざわ、国学者) J 2 3 2 8  
常応院(じょうおんいん) → 義敬(ぎけい;法諱、天台僧/歌人) U 1 6 0 8  
松黄園(しょうおうえん) → 為政(ためまさ・神谷かみや、国学者/詩歌) S 2 6 7 8  
咲桜園(しょうおうえん) → 美国(よしくに・中津なかつ、歌人/神職) O 4 7 1 9  
松鷗軒(しょうおうけん) → 信直(のぶなお・瀬津ねづ、鷹匠/文筆) C 3 5 4 6  
将翁軒(しょうおうけん) → 照任(てるとう・阿部あべ、本草家) E 3 0 6 9  
松応斎(しょうおうさい) → 理遊(りゅう・松盛斎しょうせいさい、華道家) C 4 9 6 1  
松翁斎(しょうおうさい) → 竜ト(りゅうぼく・千葉ちば、華道家) F 4 9 6 8  
聖応大師(しょうおうだいし) → 良忍(りょうにん;法諱、融通念仏祖/声明中興) J 4 9 1 6  
照応愍寂(しょうおうびんじやく) → 兼茂(かねしげ・広橋ひろはし、廷臣/記録) O 1 5 5 3
- F2260 昌億(しょうおく・里村さとむら、南家五代目昌陸男) 1660-1726 67 連歌師、1695家督嗣;里村南家六代目、  
幕府連歌宗匠/1697法眼、1680吞了と「両吟千句」/87寛永寺連歌興行、  
1722「連歌会席法度」、「連歌本式目」著、昌陸・信仙などと多数の百韻の興行・参加、  
[昌億(;号)の別号]初号;昌頓/次号;昌敦、法号;意休院
- H2241 笑奥(しょうおく) ? - ? 近江長浜俳人;1691江水「元禄百人一句」目録入
- F2265 讓屋(じょうおく・松井まつい) ? - ? 歌謡・端歌の研究者、1822「浮れ草」編
- 松屋(しょうおく) → 永好(ながよし・間宮、藩士/国学/歌人) G 3 2 4 7  
松屋(しょうおく→まつや) → 与清(ともきよ・小山田/高田、国学者) 3 1 6 0  
松屋(しょうおく・七里) → 長行(ながゆき・七里しちり/源、藩士/国学) K 3 2 1 5  
松屋(しょうおく・北川) → 善淵(よしふか・北川きたがわ、藩士/歌人) G 4 7 7 9  
松屋(しょうおく・今井) → 道安(みちやす・今井いまい、医者/歌人) I 4 1 1 2  
松屋(しょうおく・加須屋) → 武義(たけよし・加須屋かすや/岩越、藩士/歌) W 2 6 3 9  
松屋(しょうおく・矢田部) → 盛隣(もりちか・矢田部やたべ、神職/国学) L 4 4 7 3  
蕉屋(しょうおく・西岡) → 訓棟(のりたか・西岡/谷/秦、国学/歌) H 3 5 8 0  
樵屋(しょうおく;号) → 楚州(そしゅう;道号・如宝;法諱、黄檗僧) J 2 5 8 4  
升屋(しょうおく・栗田) → 維良(これよし・栗田/高野、史家、俳) O 1 9 9 9  
浄屋(じょうおく) → 忠長(ただなが・花山院/藤原、廷臣/連歌) Q 2 6 3 1  
勝音(しょうおん;法諱) → 妙庵(みょうあん;道号・普最;法諱、黄檗僧) G 4 1 0 9  
昌温(しょうおん・竹石) → 昌温(まさあつ・竹石たけいし、歌人) M 4 0 6 7
- H2242 盛音(じょうおん;法諱) ? - ? 1527存 天台僧;真盛しんせい門/師33回忌に「いろは48首歌」詠、  
その歌で師の持戒念仏の教えを弘める、1526「盛全上人伝」著(盛全は同門の先輩)



- H2243 **乗恩**(じょうおん;法諱・湛然;字)1725-8561 近江蒲生郡河原の真宗本願寺派僧;西吟門、宗学と共に古文辞を修学、京一条の浄教寺の住職、1756「浄土三部経音義」著、1765「五祖伝」「浄土八祖伝」著、「浄土三部経音義続集」「浄土真宗七祖伝」著、「浄土論疏音義集」「無量寿経莊嚴記」「二十四輩名位」著、  
[乗恩(;法諱)の別法諱/号]別法諱;徳洲、号;大珠
- H2244 **常音**(じょうおん;法諱、俗姓;吾勝)1777-185377 越中の菓種商生/真宗僧;本願寺鷺森別院智洞門;得度/越中本願寺派真教寺住職/三業惑乱後に芳英門/1846本山より司教を授与される、「唾掌篇」「二辨竜燭篇」「五種正行聴録」「正信偈述古録」「責朝霞辨」「神仏逢原」外著多数、  
[常音(;法諱)の諡号] 願成院
- 常音(じょうおん) → 青人(あおんど・上島うえは、俳人) 1 0 5 4  
 常恩(じょうおん;法名) → 実冬(さねふゆ・三条/藤原、太政大臣/歌) D 2 0 5 8  
 乗音(じょうおん;字) → 雲堂(うんどう;法諱・乗音、真言僧) E 1 2 0 1  
 浄音(じょうおん;字) → 法興(ほっこう;法諱、浄土宗山派西谷流祖) E 3 9 6 3  
 成遠院(じょうおんいん) → 日達(にちだつ;法諱・学忍、日蓮僧) C 3 3 8 3
- F2266 **尚温王**(しょうおんおう、尚哲男)1784-1802夭逝19歳 母;聞得大君加那志(号・徳沢)、琉球王国第二尚氏王朝の第15代国王、妃;佐敷按司加那志(号;仙徳)、在位;1795-1802、漢学振興、学生改革;1798国学/平等学校開設、教育拡充と人材育成に尽力、尚成王・中城王子の父、  
[尚温王の幼名] 思五郎金(うみぐらあがにorうみぐらうがに)
- 乗音軒(じょうおんけん) → 寿慶(じゅけい、連歌師) 2 1 5 2  
 成恩寺(じょうおんじ) → 経嗣(つねつぐ・一条/二条、関白/歌人) C 2 9 5 2  
 松音堂(しょうおんどう) → 西洲(さいじゅう・川口かわぐち、儒者/詩人) G 2 0 7 3
- H2245 **性嘉**(しょうか;法諱・弘永;字)?- ? 1661存 黄檗僧;即非如一門/1657師に随い渡来;1661帰国、「即非禅師之逸噺」編
- F2267 **勝可**(しょうか/かつよし?・井上いのうえ)?-? 大和箸尾住人、狂歌、1666行風「古今夷曲集」2首入
- H2246 **松下**(しょうか) ? - ? 尾張津島の俳人、1689「あら野」2句入、  
[負ひし子の口真似するや時鳥](あら野;一/背中で幼子が過行く時鳥の鳴真似をする)
- H2247 **蕉下**(しょうか) ? - ? 俳人;1691北枝「卯辰集」2句入、  
[陽炎かげろふを見はるやものゝくらきほど](卯辰集;一67/野の陽炎を目を見開き眺める)
- F2268 **樵花**(しょうか) ? - ? 姫路の俳人、1692才磨「樵の葉」4句入  
[花咲ば茶釜をみがけ山法師](樵の葉;102/花咲ば;謡曲鞍馬天狗を踏まえる/客が来る)
- F2269 **昌柯**(しょうか) ? - ? 俳人、1715乃露「八ゆふぐれ」歌仙入
- F2274 **掌花**(しょうか) ? - ? 京の俳人;淡々門、1728柳岡「万国燕」6句入  
[鳳凰の香とならば蘭の香](万国燕;111)
- F2270 **鐘下**(しょうか) ? - ? 江戸雑俳点者、1773「相合袴」:評
- F2271 **松花**(しょうか) ? - ? 山形の俳人;雑俳、  
1780楓呉「いなか曲紅ばたけ」入
- H2248 **松化**(しょうか・曳尾庵えいびあん)?- ? 京の俳人、正巴・春坡の下村家の一族、呉服点大丸に関わる人か?、自撰「わすれ花」著、1782蕪村「花鳥篇」2句・維駒「五車反古」入、  
[花の香やさくらに風の触さる時](花鳥篇;30)
- H2249 **松窠**(しょうか・中江なかえ/修姓;杜、名;澁)1748-181669 京(or近江)の黄檗僧;のち還俗、絵師;董九如門/篆刻家;雪庵門、琴;宿谷空々門、書画印詩琴の五芸に通ず、京・江戸に住、のち母と越後出雲崎の橘家(良寛の実家)の寄寓;同地に没、1782「徴古印要」編、1804「盛世翰藪」13「杜氏徴古画伝」、「琴伝ノ説」「丁卯稿」、  
[松窠(;号)の字/別号]字;澁公/師叔、  
別号;松窠道人/松巢/松巢道人/華亭道人/看雲子/五適/五適琴史/陶古/真賞斎/松道人、  
法号;松窠庵积化雲、杜由の父
- F2272 **鶴窠**(しょうか・月形つきがた、名;質/勝孟/勝文/潤、有禧男)1757-184286 福岡藩士;1782家督/料理方、儒者;真藤峨眉・竹田梅廬門/1786藩儒者方に属す/95上京;西依成斎・若槻幾斎・鈴木潤斎門、1784福岡藩校訓導助手/1801納戸組/江戸詰侍講/秋月藩校で講説/19隠居、

1832「山園雜興」、「鷗窠しょうか集」著、漪嵐いらんの父

[鷗窠の字/通称/別号]字;君璞くんはく、通称;六次/七助/市平、別号;南埠、法号:二津院

- F2275 **祥禾**(しょうか・平田ひらた) ? - ? 江後期肥前長崎の俳人;井上士朗[1742-1812]門、1813(文化13)芭蕉翁120回忌に馬町墓地に渡鳥塚(芭蕉と去来の句)を建立(;句碑筆)、祥禾の句;[菝くさき垣の隣を無く田螺たに][初さくら世に偽りの道もなし]
- H2250 **松窩**(しょうか・後藤ごとう、良蔵3男)?-1861 筑後久留米藩の儒者;父(藩校修道館講員)門、祖父は藩医、1824七人扶持;祐筆格、江戸の昌平黌で修学/詩文、野田笛浦・森田節齋と交流、「松窩遺稿」、養嗣子;東庵、  
[松窩(;号)の名/字/通称]名;権八/彬/忠彬、字;子文、通称;半蔵
- |               |   |                            |           |
|---------------|---|----------------------------|-----------|
| 松窩(しょうか;号)    | → | 桂林(けいりん;道号・徳昌、臨濟僧)         | G 1 8 8 1 |
| 松窩(しょうか・渡辺)   | → | 直(なおし・渡辺、藩国老/歌)            | B 3 2 2 6 |
| 松窩(しょうか・田井)   | → | 元陳((もとのぶ・田井/朝比奈、藩士)        | D 4 4 7 4 |
| 松窩(しょうか・成瀬)   | → | 正居(まさやす・成瀬なるせ、藩士/記録)       | B 4 0 2 3 |
| 松花(しょうか、松花老人) | → | 信仲(しんちゅう・明篤みんとく、臨濟僧)       | 2 2 6 1   |
| 松花(しょうか・聴松庵)  | → | 十右衛門(じゅうえもん・荒川、藩士/俳人)      | W 2 1 7 0 |
| 松花(しょうか・平野)   | → | 安澄(やすずみ・平野ひらの、絵師)          | B 4 5 7 7 |
| 松花(しょうか・大西)   | → | 惟斐(これあや・大西おおにし、歌人/茶道)      | Q 1 9 5 4 |
| 松華(しょうか・石川)   | → | 矩州(くしゅう・那須/伊東/椎本、俳人)       | 1 7 4 8   |
| 松下(しょうか;号)    | → | 宗山(しゅうざん;道号・等貴;法諱、臨濟僧)     | X 2 1 3 9 |
| 松下(しょうか)      | → | 惺窩(せいかわ・藤原、儒者)             | 2 4 0 3   |
| 松歌(しょうか)      | → | 松歌(まつうた、川柳作者)              | J 4 0 1 6 |
| 尚嘉(しょうか・松園)   | → | 尚嘉(ひさよし・松園まつぞの/九条、僧/神職)    | L 3 7 2 7 |
| 昌家(しょうか・富樫)   | → | 昌家(まさいえ・富樫とがし/藤原、守護/歌)     | B 4 0 2 8 |
| 章可(しょうか・入)    | → | 庸昌(ようしょう・入り、藩士/和算家)        | B 4 7 2 5 |
| 紹可(しょうか)      | → | 尹豊(ただとよ・勸修寺かじゅうじ、廷臣/書)     | Q 2 6 1 8 |
| 紹嘉(しょうか・喜入)   | → | 久正(ひさまさ・喜入きいれ/川上、武将/家老/国学) | J 3 7 2 2 |
| 窠夏(しょうか・伊藤)   | → | 長蔭(ながかげ・伊藤いとう/貴志きし、薬商)     | L 3 2 0 9 |
- H2251 **勝賀**(証賀しょうが・宅磨/宅間/託磨たくま、名;為基、為遠男)?-? 平安末鎌倉初期絵仏師、絵所に属す、宅磨派絵仏師のうちの京都派の祖(鎌倉派の祖は弟為久)、1175出家;84法橋/のち法眼、神仏画以外雑画にも長ず、1191「東寺十二天屏風」1205「善導和尚像」(;九条兼実の依頼)、「神護寺十二天屏風」「東寺両界曼荼羅」「押小路殿二王講・最勝講本尊」「法然上人絵伝」画、  
[勝賀(;法名)の通称] 真乗房/八条院先生
- |              |   |                            |           |
|--------------|---|----------------------------|-----------|
| 小河(しょうが)     | → | 恒雲法親王(こううんほつしんのう、天台僧/歌)    | 1 9 7 3   |
| 尚雅(しょうが・善)   | → | 蘭溪(らんけい・三宅みやけ/善ぜん、儒;講説)    | B 4 8 8 6 |
| 紹賀(しょうが;剃髮号) | → | 百池(ひやくち・寺村てらむら、商家/俳人)      | E 3 7 6 6 |
| 昌賀(しょうが・岡)   | → | 昌充(まさみつ・岡おか/太秦、楽人)         | H 4 0 6 5 |
| 省我(しょうが・古森)  | → | 省吾(しょうご・古森こもり、俳人)          | I 2 2 7 0 |
| 乗加(じょうか・石川)  | → | 大浪(たいろう・石川、幕臣/絵師)          | L 2 6 3 7 |
| 常嘉(じょうか;名)   | → | 堯然法親王(きょうにんほつしんのう、天台座主/門跡) | O 1 6 4 6 |
| 常夏(じょうか・久志本) | → | 常夏(つねなつ・久志本/度会、医者/国学)      | C 2 9 8 7 |
- F2276 **乗雅**(じょうが;法諱、藤原兼頼男)?-? 鎌倉期真言宗仁和寺僧;前大僧正良恵門、皆明寺住、権大僧都/法印、歌人勅撰4首;続拾遺(1206/1355)新後撰(615/1560)、  
[ゆくすゑもなほ来し方にかはらずはうきにそへてや老を歎かむ](続拾;雑1206)、  
[乗雅(;法諱)の号] 中納言法印
- F2277 **浄賀**(じょうが;法諱) 1275 - 1356 82 信濃の真宗康楽寺2世(康楽寺信救の孫)、法眼、宅磨派の絵師、1295本願寺3世宗昭(覚如)の命で「本願寺聖人親鸞伝絵」画(詞:覚如)、画風は宗舜・円寂に継承され康楽寺流と称す、浄蓮・浄宣・広専の兄、  
[浄賀(;法諱)の別法諱/号]別法諱;信光、号;密乗坊/康楽寺
- F2278 **仍雅**(じょうが・飛鳥井あすかい)?-? 室町期古今集研究者、「函底抄」著(2巻;古今集難語注)

浄雅(じょうが;法諱) → 宥雅(ゆうが;法諱、天台僧) 4 6 8 9  
 常雅(じょうが;花山院) → 常雅(つねまさ・花山院/藤原、廷臣/詩) D 2 9 6 7  
 蕉下庵(しょうかあん) → 心祇(しんぎ・轍、俳人) D 2 2 7 6  
 蕉花庵(しょうかあん) → 梅思(ばいし、俳人) I 3 6 8 7  
 蕉華庵(しょうかあん) → 谷峨(2世こくが・梅暮里うめぼり、戯作/俳) C 1 9 3 5  
 松下庵(しょうかあん) → 巴人(はじん・早野、俳人) 3 6 1 8  
 松下庵(しょうかあん) → 貞中(さだなか・佐伯、酒造業/俳・歌人) J 2 0 0 3  
 松下庵(しょうかあん) → 由之(よしゆき・山本、良寛弟/国学/歌) K 4 7 3 1  
 松下庵(しょうかあん) → 秋香(あきか・中村なかむら、幕臣/歌人) I 1 0 1 3  
 松下庵(しょうかあん) → 久時(ひさとき・横井よこい、藩士/歌人) M 3 7 3 1  
 松下庵永久(しょうかあんえいきゆう) → 半四郎(5世はんしろう・岩井、歌舞伎役者) I 3 6 0 4  
 松下庵南園(しょうかあんなんえん) → 英春(ひではる・大越おおごえ、歌人) I 3 7 8 2

- H2252 **昌海**(しょうかい;法諱) ? - ? 奈良平安初期延暦782-806頃の興福寺法相僧:  
 秋篠寺の善珠門;唯識研究、のち大和広岡に隠棲、「西方念仏集」「阿弥陀悔過」著、基継の師
- H2253 **政海**(しょうかい;法諱) 1231 - ? 1298存 叡山無動寺松林房の天台僧;範承門、  
 同門の教範・静明・心賀門、天台教学の奥義を究める;土御門御門跡流を弘める、法印、  
 「夷希集」「塩味集」「政海類聚鈔」「囑累義私記」「微塵」「眷属妙義一仏始終」外著多数
- F2279 **聖戒**(しょうかい;法諱・彌阿;号、俗名;河野通定、河野通広男) 1261-1323 伊予道後の時宗僧:  
 兄(or伯父)の一遍門、一遍の諸国遊行随従/一遍没後;1291京六条河原院跡に歓喜寺開基、  
 時衆六条派の祖、関白九条忠敬後援により1299迄に「一遍上人絵伝」編纂、鳥辺山草庵に没、  
 歌;玉葉集2702、  
 [なにとして跡もなき身のうき雲に心の月を隔てそめけむ](玉葉;釈教2702)
- H2254 **性海**(しょうかい;法諱) ? - ? 1262存 真言律僧;西大寺叡尊門、関東へ師に随行、  
 真言律宗の関東普及に参加、「関東往還記」編
- Q2294 **性海**(しょうかい;道号・霊見れいけん;法諱、俗姓;橘) 1315-9682 信州横山の臨濟僧;  
 1325(11歳)建長寺出家、建仁寺に入;清拙正澄門、南禅寺の虎関師鍊門;虎関の嗣法、  
 1342入宋;51帰国、山城の三聖寺住持、東福寺43世/天竜寺17世、1380南禅寺40世;3度住、  
 「石屏拾遺」著、「性海霊見拾遺稿」、  
 [性海霊見の号]不還子/昨夢/煨芋わい
- H2255 **照海**(しょうかい;法諱) ? - ? 僧、連歌:1356成立菟玖波集4句入(照海上人名)、  
 [松一本花にはかはる木末にて](菟玖波;春132/前句;滋賀の浦半の浪はかすまず)
- H2256 **聖快**(しょうかい;法諱) ? - ? 1415存 南北室町期真言僧;醍醐地蔵院大僧正覚雄門/出家、  
 1384東寺140世長者法務/大僧正/醍醐地蔵院を中興、1392「金剛界事鈔」65「許可加行私記」著、  
 1365「胎蔵界事鈔」「十八道事鈔」、「四度事鈔」「武家五壇法記」「護摩供鈔」「護摩私鈔」外著多、  
 1415(応永22)聖円に伝法灌頂を授  
 [聖快(;法諱)の別法諱]初法諱;道快/快賢
- F2280 **昌海**(しょうかい;法諱・号;蝶庵) ?-? 僧;法橋/歌人、注釈「順徳院御製百首和歌備考」著
- H2257 **性海**(しょうかい;道号・見拙けんせつ;法諱) ?-? 江前期曹洞宗僧:鳳山等膳[1590没]門、  
 1667刊「曹山録抄」「五位伝義」、「曹山録伝義」著
- H2258 **正楷**(しょうかい;法諱・森原しんげん;号、俗姓;新田) ?-? 江中期撰津平野の真宗本願寺派正円寺に生、  
 儒学;大阪の濮国門/詩文;義端門/宗学:義樸門、安藝高田郡の正善坊住、曇竜の師、  
 「真宗念仏模象編」「神道辨」著
- H2259 **性海**(しょうかい;法諱、覚明) ?- ? 江中期宝暦明和1751-72頃讃岐の真宗僧、  
 1754「為法辨惑篇」64「親鸞上人高蹤」著
- H2260 **性海**(しょうかい;法諱) 1765 - 183874 越中射水郡の真宗常入寺の生、諸方を遍歴、  
 比叡山・長谷寺で天台・性相学修学、のち和泉堺の本願寺派万福寺住職;堺空華学派の祖、  
 1822安居に副講/23本講/24勸学職、「帰命釈自問自答」「自問自答御文章」「信願交際」著、  
 「廻願遠慶録」「本典講記」「阿弥陀経聞書」外著多、門人;僧亮・寛寧・善讓・仁廓・霊瑞など多、  
 [性海(;法諱)の別法諱/号]別法諱;道超、号;如幻閣にげんかく、諡号;乗誓院
- H2261 **蕭海**(しょうかい・土屋つちや、名;敬之/根とう、孝包長男) 1829-6436 長門萩の儒者;中村牛莊門、

のち安藝広島の坂井虎山門、江戸で齋藤竹堂・塩谷宕陰・羽倉簡堂・藤森弘庵門、  
1854帰国し萩に開塾、尊攘運動に奔走；手廻組に入/世子侍読、吉田松陰・僧月性と交流、  
1859「蕭澗遺文」62「遊肥日録」、「浮屠月性伝」著、

[蕭海(；号)の字/通称/法号]字；松如、通称；矢之介/矢之助、法号；聴明院

性海(しょうかい；道号) → 靈見(れいけん・性海、臨濟僧) 5 1 2 0  
性海(しょうかい；法諱) → 慈航(じこう；法諱・字；無涯、真宗僧) T 2 1 3 7  
性戒(しょうかい；号) → 実巖(じつがん；道号・照海；法諱、曹洞僧) U 2 1 5 6  
照海(しょうかい；法諱) → 実巖(じつがん；道号・照海；法諱、曹洞僧) U 2 1 5 6  
照海(しょうかい・菅沼) → 照海(てるみ・菅沼すがぬま、歌人) E 3 0 9 5  
尚海(しょうかい・深尾) → 規重(のりしげ・山内やまのうち、範家老/儒) E 3 5 6 7  
詳介(しょうかい・横山) → 清暉(せいき・横山よこやま、絵師) O 2 4 4 3

H2262 松崖(しょうがい・中村なかむら)? - ? 江後期上野桐生の儒者；館海庵[桐生翠屏吟社]社中、  
社中の詩集を編纂；1813「桐生才子詩」編

H2263 定海(じょうかい；法諱、右大臣源頭房男)1074-1149<sup>76</sup> 母；藤原良任女、真言僧；醍醐三宝院勝覚門、  
出家/1101勝覚より小野流伝法灌頂を受、1116醍醐寺15世座主/1129東大寺別当、  
1133東寺40代長者/1138大僧正、三宝院流の祖、1126「最秘口決大治記」41「醍醐灌頂」、  
「保延記」、1143「阿闍梨位秘記」48「五箇大事」、「厚雙紙」「第三重口訣」「第三事々々中秘」著、  
[定海(；法諱)の通称]三宝院大僧正/上生僧正、

F2281 定海(じょうかい；法諱、法眼仁寛男)?-? 1315存 天台宗叡山勸学院の法印、権律師；雲雅門、  
1315院最勝講に出席、歌人；比叡社歌合参加、勅撰；続千載集991、  
[思ひきや庭の白雪踏み分けてたえにし道の跡つけむとは](続千；釈教991)、  
(大雪のなか円宗寺えんしゅうじの法華会に参加)

H2264 貞海(じょうかい；法諱) ? - ? 1342存 京の広隆寺桂宮院の三論僧、  
「桂林鈔」、1342「三論玄義桂宮鈔」著

H2265 貞海(じょうかい；法諱) ? - ? 1381存 武州天台宗蓮生寺談義所・定光寺談義所の住僧、  
1381「法華文句抄」著

H2266 仍海(じょうかい；法諱、浜名加賀入道)?-? 南北期法師・沙弥、  
歌；1367(貞治6)新玉津島社歌合参加(社殿新築記念に將軍義詮発案二条良基ら参加)、  
[紀の海や音ばかりして浦風のよわれば霞む沖つ白波](新玉津；卅一番左)

H2267 乗海(じょうかい；法諱、初法諱；智法)?-? 1407存 南北期天台僧；叡山西塔北谷の持宝坊の住僧、  
南朝の師範、1392南北統一後に名越寺に蟄居、「天台深義口決集上」著

H2268 淨快(じょうかい・坂さか/吉田、別号；盛方院、士仏男)?-? 室町期医僧/治術に堪能；父は医を禁ず、  
父に反目し近江坂本に住、称光天皇を診療；二位法印、盛方院の号を賜、「秘方二十八剂」

H2269 乗海(じょうかい；法諱) ? - ? 1571存 上州二宮の天台僧；13歳上州極楽寺で得度、  
関東諸師に参学/1551西楽院毫仁門/のち極楽寺・竜蔵寺住/1571下野の宗密寺17世、  
「文義集」編/「四度聞書」「名別義通所依」著

H2270 乗海(じょうかい；法諱) ? - 1595 北野天満宮社僧、連歌；1589/90能松らと百韻

U2248 常懐(じょうかい・つねかね?・遠藤えんどう/本姓；平)?-? 江後期；歌人、  
1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、

[春霞たつをきのふと思ふまになべて桜の色になり行く](大江戸倭歌；春229)

乗海(じょうかい)；字) → 日伝(にちでん；法諱・寶聚院、日蓮僧) C 3 3 9 3  
静海(浄海じょうかい、浄海入道) → 清盛(きよもり・平たいら、武将/権勢) D 1 6 6 7  
浄界(じょうかい)；字) → 無了(むりょう；法諱・浄界；字、真言僧) D 4 2 2 6  
勝解院(しょうかいいん；諡号) → 僧叡(そうえい、真宗本願寺派僧) G 2 5 2 0  
松塊翁(しょうかいおう) → 風悟(ふうご・松尾/松、藩士/俳人) 3 8 5 6  
縄海子(じょうかいし、縄海主人) → 魯隠(ろいん・山形やまがた、俳人) 5 2 1 8  
松会堂(しょうかいどう) → 三四郎(さんしろう・松会まつえ、書肆) F 2 0 9 2  
紫陽花園(しょうかえん) → 資元(すけもと・石塚、神職/歌人) H 2 3 1 4  
松華園(しょうかえん) → 義敬(よししたか・静岡しずま、郷土史家) E 4 7 1 0

H2272 勝覚(しょうかく；法諱、左大臣源俊房男)1057-1129<sup>73</sup> 母；藤原朝元女、京の真言僧；醍醐寺定賢門；

出家/義範より伝法灌頂を受、1088醍醐寺14世座主/96白川上皇落飾の戒師、定賢・義範・範俊三師の法流を継嗣;1115三宝院を開創、24東寺長者/権僧正、1089上醍醐・1097下醍醐に清滝宮勸請;醍醐の鎮守とす、「真言作法」「阿字観次第」、「建久修法記」「伝法灌頂式」/1128「三肝鈔」「諸尊要抄小野」「二王経法」外著多数、付法の門弟が醍醐三流を興す;定海が三宝院流・聖賢が金剛王院流・賢覚が理性院流、[勝覚(法諱)の通称]三宝院権僧正、剃手法眼

H2273 **生覚**(しょうかく;法名、俗姓;綾小路あやのこうじ/本姓;源、藤原公直[公齐]男)1241-? 鎌倉期廷臣、1247侍従(藤原実泰名)/55右少将(藤原実連名)、綾小路[源]有資[1204-72]の養嗣子、1260備中介(源経資名)/61左中将/78従三位/83正三位/88従二位参議;兼近江権守、1289参議辞退/91正二位/92権中納言;その年辞退、後深草院側近、1298按察使に任、1305(嘉元2)後深草院没後出家/法名;生覚、歌人;1305伏見院嘉元歌合、1309-10延慶歌合(伝後伏見院筆)参加、養父は綾小路流郢曲和琴家;後深草院の師、早歌;1306明空「拾菓集;車」作詞、茂賢の父、重資の祖父、[よそになる身をば忘れて此の春も昔のままに花になれぬる](嘉元歌合;五番右)[吹きすぐる野原の風ははらへどもあとよりのぼる萩のうへの露](延慶歌合;四番右)[生覚(法名)の名/通称]名;実泰(初名)/実連/経資つねけ(養子後の改名)、通称;綾小路前按察使

孫 重資は勅撰歌人→ 重資(げしげ・庭田/綾小路) C 2 1 2 5

F2282 **聖覚**(しょうかく;法名、俗姓;源みなもと;満政流、名;義行よしゆき/季行、親行男)?-? 1314(70余歳)存、鎌倉中期廷臣;五位/蔵人所雑色/左衛門尉/兵衛大夫を歴任、源光行の孫;歌人・和学者;光行→親行ちかゆき→義行(聖覚)→知行(行阿ぎょうあ)と続く河内方正系の研究者、源氏注釈「原中最秘抄」(親行の原著に聖覚・行阿/1313聖覚の識語がある)、「正和集」著(光行・親行[水原抄]に加除を施した注釈/[七毫源氏]註記入)、1314「源氏物語・夢浮橋巻」を書写(この頃70余歳?)、藤原為氏・能清と贈答歌、勅撰4首;玉葉(2602)続千載(851/1478)新千載(707)、[しのぼるる昔といふも同じ世の遠ざかり行く名にこそ有りけれ](玉葉;2602/義行名)

F2283 **照覚**(しょうかく;法諱、俗名;本郷若狭守家泰)?-? 南北期若狭の武家/左近大夫、1351足利尊氏より若狭坂井郡春近郷を給与/出家;法師、歌人;1367新玉津社歌合参加、勅撰4首;新千載(1417)新拾遺(1314)新後拾(662/1401)、[帰るさはもる人ぞなき逢坂も越えしまでこそ関路なりけれ](新千載;十三恋1417)

H2271 **清覚**(しょうかく;法諱) ? - ? 1409存 天台宗叡山の僧;円俊門/法嗣、秘密灌頂道場行光坊に属す;西山流の諸作法・口伝を抄録し伝承、1376「十八道聞書」著、1386「胎金諸会私」90「毗灑聞書」、「胎諸会」「聖天供聞書」「胎蔵記印像画図」著

F2284 **松角**(しょうかく) ? - ? 江前期俳人、1691不角「二葉之松」8句入、[いとしさも来ねば夢さへにくき君](二葉之松;12/前句;夜や更ぬらん戸をたゞく音)

R2253 **松鶴**(しょうかく・市村いちむら)? - ? 江前期上方住の俳人、1678西鶴「物種集」入、[五太刀ごたいき菩薩も文のたより也](物種集/前句;片足上げて古郷詠ながむる、書簡の封に五大力菩薩と書くと解けずに速かに届くという)

H2274 **松鶴**(しょうかく) ? - ? 能登七尾の俳人;1691北枝「卯辰集」入、[夕暮やわせ立ちのびて人見えず](卯辰集;287/注に少人とある)市村松鶴と同一?

R2216 **章角**(しょうかく) ? - ? 上州前橋の俳人;1697不角「双子山前集」入、[灸あか団子丸める手をば喰はぬ孫](双子山前集/それも合点々々/灸団子は灸の幼児語)

H2275 **性覚**(しょうかく;法諱) ? - ? 1780存 天台宗叡山善学院の住僧、1779「山王権現参籠記」「山王祭礼講式記」「巖有院殿百回忌記」/80「後桃園院御百ヶ日記」、1780「後桃園院御中陰記」、「妙法院宮御遷堂記」「多武峯妙楽寺大僧都一件記」著

小角(しょうかく→おつぬ・役えん)→ 役行者(えんのぎょうじゃ、修験道の祖) B 1 3 3 2

小角(しょうかく・西) → 湖学(こがく・西にし、儒者) L 1 9 9 1

小鶴(しょうかく・松岡) → 小鶴(こつる・松岡まつおか、医者/漢学) R 1 9 3 3

承覚(しょうかく;法親王) → 承覚法親王(しょうかくほつしんのう、天台座主) F 2 2 8 8

- 聖覚(しょうかく;天台の称、安居院あぐい住)→ 聖覚(せいかく;浄土宗の称) 2 4 0 4  
 聖覚(しょうかく;法名) → 満季(みつすえ・洞院とういん/藤原、廷臣/歌) D 4 1 6 0  
 正覚(しょうかく;法諱) → 道邃(どうすい;号、天台僧) F 3 1 8 4  
 正覚(しょうかく;字) → 眞敬親王(しんけいしんのう、僧/画/日記) O 2 2 0 8  
 証覚(しょうかく) → 経長(つねなが・吉田/藤原、歌人/日記) C 2 9 8 2  
 昇角(松角しょうかく・張) → 百川(ひやくせん・榊原、彭城さかき、絵師/俳) E 3 7 6 4  
 松鶴(しょうかく・杉田) → 恭卿(きょうけい・杉田すぎた、蘭学者) N 1 6 6 2
- H2276 嘯嶽(しょうかく;道号・鼎虎ていこ;)?-1599 臨濟僧;湖心碩鼎門/法嗣、長門萩洞春寺の開祖、  
 1577南禅寺住持(不住)、秀吉の朝鮮出兵時に渡鮮し書記の任、「嘯嶽鼎虎禅師語録」著、  
 [嘯嶽鼎虎の初法諱/号]初法諱;昌虎、号;万年
- F2285 承岳(しょうかく;法諱・岱宗たいしゅう;道号)?? 臨濟僧;相国寺112世(1777-84)、漢学;雨森芳洲門、  
 1744芳洲「芳洲口授くじゅ」(対馬で門下2僧筆録;その1人が岱宗か?)
- H2277 松岳(しょうかく;号・川上かわかみ)?? 江後期安政1854-60頃越後北方の豪商、  
 古書画・珍品を所蔵:1856「天瓢斎書画落款譜」編
- 正学(しょうかく・本木) → 正栄(しょうえい・本木もとき、通事/対訳辞書) H 2 2 1 6  
 証岳(しょうかく・悠山;法号) → 基熙(もとひろ・近衛、関白/歌人) E 4 4 0 9  
 松岳(しょうかく;道号) → 元貞(げんてい;法諱・松岳、臨濟僧) C 1 8 7 6  
 松岳(しょうかく;号) → 亀泉(きせん;道号・集証、臨濟僧) F 1 6 1 0  
 松岳(しょうかく;道号) → 高国(たかくに・細川、武将/歌人/連歌) C 2 6 7 2  
 松岳(しょうかく・狩野) → 探雪(たんせつ・狩野かのう、絵師) T 2 6 9 3  
 松岳(しょうかく・青木) → 東庵(とうあん・青木、医/儒/詩歌) 3 1 7 6  
 松岳(しょうかく・松田) → 自然斎(じねんさい・松田/松、儒者) V 2 1 3 9  
 松岳(しょうかく・山岸) → 正伸(まさのぶ・山岸やまぎし/平、陪臣/歌) T 4 0 4 2  
 祥岳(しょうかく・水野) → 忠之(ただゆき・水野、藩主/老中/享保改革) R 2 6 1 3  
 象岳(しょうかく・友安) → 盛敏(もりとし・友安ともやす、藩士/国学者) K 4 4 7 4  
 篠岳(しょうかく・藤堂) → 高般(たかかず・藤堂とうどう、詩人) L 2 6 7 1  
 障岳(しょうかく・広沢) → 眞臣(まねおみ・広沢/柏村/波多野、藩士/日記) E 2 0 8 6
- F2286 上覚(浄覚/上学じょうかく;法諱、湯浅宗重男)1147-123690 紀伊の真言僧;高雄山神護寺の文覚門、  
 高弁(明恵)の母方の叔父、両親と死別し神護寺に入山した若き高弁の庇護者・師でもある、  
 歌人;顕昭門、1194「古今和歌集抄」98「和歌色葉」著、今撰和歌集入、「玄玉和歌集」撰者説?、  
 新続古851(高弁の歌の詞書;上覚上人のもとより)  
 [みる事は皆常ならぬうき世かな夢かと思ゆるほどのはかなさ]、  
 (明恵上人歌集;65入/上覚最晩年の詠)、  
 [上覚(法諱)の諱/号]諱;行慈、号;西山隠士
- F2287 定覚(じょうかく、俗名;宗八左衛門尉、藤原為家男?/母;阿仏尼)?? 鎌倉期/律師、歌、新後撰集936、  
 [つれなさのうきにしもなどながらへて思ひつきせぬ命なるらむ](新後撰;恋936)
- E2207 静覚(じょうかく;法名) ?-? 鎌倉期歌人、僧、  
 1276(建治2)住吉社三十五番歌合(為氏判)参加、  
 [旅衣うらちを急ぐるべとて月にあさだつ有明の空](住吉歌合;旅暁月二番左3)  
 京極為兼(1313出家;静覚)とは別人
- W2214 成覚(じょうかく、俗名;忠豪、藤原昌[家隆男/美作権守/少納言]男)?? 鎌倉期;仁和寺僧/法眼、  
 親家の弟/隆恵(仁和寺僧)の兄、  
 ☆1237刊[檜葉集]入の[成覚]と同一?;(檜葉;雑童678/成覚法師名)、  
 [弥生の初むまばの院の桜盛りの花見していた光明院の童達の前を通過ぎたとき、  
 童の中から;心ある人も花をばみすてけりたのむのかりをなにうらみけむ]の歌あり、  
 成覚法師のかへし[つひによもみすててゆかじ桜花たのむのかりのつらならむかは]
- 浄覚(じょうかく) → 実雄(まねお・藤原、左大臣) C 2 0 9 1  
 浄覚(じょうかく) → 上覚(じょうかく、上学) L 2 1 7 9  
 浄覚(じょうかく;法号) → 徳用(のりもち・近藤、幕臣/文筆家) F 3 5 9 8  
 浄覚(じょうかく;法名) → 観徹(かんとく;法諱・浄覚、浄土僧) R 1 5 4 7

仍覚(じょうかく) → 公条(きんえだ・三条西/西三条、古典/歌学/連歌) 1 6 5 6  
 静覚(じょうかく;法名) → 為兼(ためかね・ためかぬ・京極/藤原/入江、歌人) 2 6 5 8  
 静覚(じょうかく;法名) → 仲平(なかひら・藤原、左大臣/歌人) F 3 2 5 0  
 成覚(じょうかく) → 有仁(ありひと・源) B 1 0 9 0  
 盛覚(じょうかく;法諱) → 盛覚(せいかく/じょうかく;法諱、法師/歌人) O 2 4 7 5  
 貞覚(じょうかく;号) → 道玄(どうげん:法諱・貞覚、華嚴僧) D 3 1 5 9  
 常覚(じょうかく;法名) → 光芳(みつよし・土佐とさ/藤原、絵師) F 4 1 1 8  
 常岳(じょうがく・中里) → 常嶽(つねおか・中里なかざと、商家/歌人) B 2 9 7 8  
 定岳(じょうがく・伊達) → 村和(むらより・伊達だて、領主/歌人) D 4 2 2 5  
 城嶽(じょうがく・松平) → 頼恭(よりたか・松平まつだいら、藩主/詩歌) I 4 7 9 0  
 正覚庵櫨材(しゅうかくあんきざい) → 了佐(りょうさ・古筆こひつ、平沢、古筆鑑定祖) H 4 9 5 6  
 正覚院(しょうかくいん) → 日妙(にちみょう;法諱、日栄、日蓮僧) D 3 3 2 3  
 正覚院(しょうかくいん) → 日顔(にちりょう;法諱、守玄院、日蓮僧) D 3 3 5 9

V2245 **松岳院**(しょうがくいん・松下、名;ひよ、奥山朝利女)?-? 戦国期遠江引佐郡井伊谷いのやの井伊家分家、  
 本家の井伊直親(1536-63/直盛の従弟/養子)の正室、虎松(直政)の母、夫の誅殺後;  
 祐椿尼(直盛の内室/直虎の母)と龍潭寺松岳院に住;住職南溪瑞聞らと虎松を守る相談、  
 ひよは徳川家臣松下清景と再婚;虎松を松下家の養子とす;  
 のち虎松は井伊直政として徳川家康を支え功臣となる、

[一とせを分けてしすめばかりがねのいづこを旅の宿に定めん](茂睡[鳥の迹]秋387)

正覚院大僧正(しょうかくいんのだいそうじょう) → 豪寛(ごうかん;法諱、天台僧/狂句) E 1 9 9 3  
 正覚国師(しょうかくこくし) → 疎石(そせき・夢窓、臨濟僧/五山文学) 2 5 2 4  
 正覚国師(しょうかくこくし) → 周沢(しゅうたく;法諱・龍湫りゅうしゅう;道号、臨濟僧) I 2 1 0 6  
 正覚前師(しょうかくぜんし) → 虎関(こかん・師錬、臨濟僧/五山文学) 1 9 2 5  
 貞覚大享(じょうかくだいきょう) → 道玄(どうげん:法諱・貞覚、華嚴僧) D 3 1 5 9  
 松鶴亭(しょうかくてい) → 忠幹(ただもと・村上むらかみ、藩医/歌人) Z 2 6 8 9  
 松鶴堂(しょうかくどう・能美) → 洞庵(とうあん・能美のうみ、医者) 3 1 8 3  
 小角豆廬(しょうかくとうろ) → 政壽(まさひさ・久木ひさき、藩士/国学/歌) G 4 0 5 9  
 正覚普通国師(しょうかくふつこくし) → 大林(だいにん:道号・宗套:法諱、臨濟僧) L 2 6 2 6  
 正覚坊(しょうかくぼう) → 覚鑿(かくばん;法諱、真言僧) 1 5 0 7  
 正覚房(しょうかくぼう) → 濯纓(たくえい;法諱、真宗本願寺派僧) N 2 6 9 3  
 成覚房(じょうかくぼう) → 幸西(こうさい:法諱、浄土僧) B 1 9 1 1

F2288 **承覚法親王**(しょうかくほつしんのう、後宇多天皇4皇子) 1294-? 1328存 母;藤原忠継女の談天門院藤忠子、  
 梶井門跡、1302(乾元元)三千院門跡/延暦寺の範胤門/1325(正中2)天台座主、28二品、  
 頓阿・兼好ら二条派法体歌人と交流参集;屢々自邸で歌会を催、藤葉集3首入、  
 勅撰14首;続千載(663/790/1009/1241)続後拾(234/1314)風雅(369/1765)、  
 新千載(658/1811/1904)新拾(807)新後拾(514/663)、

[吹きおろす嵐のすゑの山陰はふるほどよりも積もる白雪](続千載;六冬663)、

[承覚(;法諱)の号]寿量院宮/菩提院宮/西林院宮/北白川宮/入江宮

H2278 **静覚法親王**(じょうかくほつしんのう、邦康親王男) 1439-1503 65 後花園上皇の猶子/1453親王宣下、  
 真言宗仁和寺で出家;禅信大僧正門/1457伝法灌頂を受、のち仁和寺18世/一品、  
 歌/連歌、「静覚法親王御詠草」、連歌多数;1487朝何百韻・96薄何百韻・98千句三物など、  
 [静覚(;法諱)の名/別法諱/通称]名;師熙、初法諱;法深/弘覚、通称;後光台院御室

松花軒(しょうかけん) → 蛇鱗(だりん、俳人) H 2 6 7 8  
 松花軒(しょうかけん) → 二葉子(じょうし・神田かんだ、俳人) S 2 2 6 9  
 松下軒(しょうかけん) → 内兄(うちえ・関戸せきと、国学者) E 1 2 7 3  
 松下山人(しょうかさんじん) → 吐月(とげつ・飯島、俳人) L 3 1 6 3  
 紫陽花散人(しょうかさんじん) → 勝政(かつまさ・木村きむら、藩士/兵法家) N 1 5 8 6  
 松窠子(しょうかし) → 実山(じつざん・立花たちばな、藩士/学芸) E 2 1 9 1  
 松華子(しょうかし;号) → 法霖(ほうりん;法諱、真宗本願寺派僧) C 3 9 7 3  
 松花舎(しょうかしや) → 正雄(まさお・大和田おおわだ、藩士/歌人) O 4 0 4 8

- 樟下舎(しょうかしや) → 和夫(にぎお・福田ふくだ、国学/神職) H 3 3 3 3  
 松華主人(しょうかしゅじん) → 道雄(みちお・新庄/藤原、商家/国学者) B 4 1 2 6  
 松下清斎(しょうかせいさい) → 秋水(しゅうすい・広江ひろえ、商家/詩人) X 2 1 7 1  
 松下井三和(しょうかせいさんな) → 参和(さんな・唐来とうらい、戯作者/狂歌) 2 0 5 4
- F2289 松下跡(しょうかせき) ? - ? 江前期江戸の俳人; 談林俳諧、  
 1680松意「談林軒端の独居」歌仙入、出来松臼の後号か、  
 → 松臼(しょうきゅう・出来いでき、談林俳人) G 2 2 0 3  
 紹活(しょうかつ; 法名) → 元頼(もとより・観世かんぜ、能楽/章句本) E 4 4 8 4  
 縄葛(じょうかつ→ときかず・藤本) → 善右衛門(ぜんえもん・藤本/佐藤、養蚕家) L 2 4 7 8  
 正月庵(しょうがつあん) → 来爾(らいじ・野木本のぎもと、俳人) D 4 8 4 3  
 正月堂(しょうがつどう) → 梅門(ばいもん・稲本、俳人) C 3 6 1 2
- H2279 松下亭(しょうかてい・金沢かなざわ、名; 休)?-? 江後期寛政1789-1801頃三河岡崎伝馬町の旅宿業、  
 儒・詩文: 尾張藩儒岡田新川門、1791「萍水奇賞」97「春秋左伝国次」著、  
 [松下亭(;号)の字/通称]字; 子匹、通称; 藤左衛門  
 松下亭(しょうかてい) → 二助(にすけ・三宅、俳人) G 3 3 9 1  
 松下亭(しょうかてい) → 光護(みつり・浦野/柳井、藩士/農政) E 4 1 4 6  
 松下亭(しょうかてい) → 吉門(よしかど・原はら/藤原、神職/国学) O 4 7 6 4  
 松柯亭(しょうかてい) → 葛人(かつじん・小島、俳人) C 1 5 4 6  
 樵歌亭(しょうかてい) → 笛成(ふえなり・麦藁、鈴木光陸、狂歌) B 3 8 2 0  
 鐘下亭(しょうかてい) → 一狐(いっこ・鐘下亭、洒落本作者) D 1 1 7 3  
 乗化亭(じょうかてい) → 増業(ますなり・大関/加藤、藩主/国学) J 4 0 1 1
- F2290 章花堂(しょうかどう) ? - ? 浮世草子作者・1704「金玉ねぢふくさ」(奇異怪談)  
 松花堂(しょうかどう) → 昭乗(しょうじょう、社僧/書画/茶人) T 2 2 3 4  
 松花堂(しょうかどう) → 林鳥(りんちょう、嘶家) K 4 9 7 3  
 松下堂(しょうかどう) → 敦本(あつもと・荒川あらかわ、藩士/歌人) G 1 0 8 8  
 松下堂(しょうかどう) → 李亮(りりょう・渡辺わたなべ、博学/俳人) J 4 9 9 0  
 松下堂(しょうかどう) → 李郷(りきょう・渡辺/李亮男、藩士/俳人) 4 9 6 6  
 尚歌堂(しょうかどう) → 禮巖(れいごん・与謝野よさの/細見、真宗僧) B 5 1 5 9  
 照花堂(しょうかどう) → 源八(げんぱち・菅原、村役/救民/俳人) M 1 8 1 5  
 小雅堂(しょうかどう) → 香雨(こうう・赤松、書画商/鑑定家) H 1 9 3 9  
 松花堂昭乗(しょうかどうしょうじょう) → 昭乗(しょうじょう・松花堂、真言僧/書家) T 2 2 3 4  
 松窠道人(しょうかどうじん) → 松窠(しょうか・中江なかえ/杜、絵師/琴) H 2 2 4 9
- U2251 常賀尼(じょうがに) ? - ? 江後期; 尼僧/歌人、  
 1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、  
 [いかなればもゆる螢を籠にこめて見れば心の涼しかるらん](大江戸倭歌; 夏575)  
 浄華坊(じょうかぼう) → 証賢(しょうけん; 法諱・浄華坊、浄土僧) I 2 2 3 9  
 小華陽(しょうかよう・村瀬) → 栲亭(こうてい・村瀬むらせ、儒者) 1 9 1 5  
 松下嶺雲(しょうかろうん) → 定賢(さだかた・岡本おかもと/松下、神職) O 2 0 1 9  
 松花楼(しょうかりう) → 幾丸(いくまる・一交斎いこうさい、絵師) F 1 1 3 5  
 松花楼(しょうかりう) → 三薦(さんちやう・村田むらた、藩士/俳人) M 2 0 6 1  
 松花老人(しょうかりうじん) → 信仲(しんちゆう; 道号・明篤; 法諱、臨濟僧) 2 2 6 1  
 松花老人(しょうかりうじん) → 清播(せいば; 法諱・心田; 道号、臨濟僧/詩文) C 2 4 8 5
- F2291 勝観(しょうかん; 法諱、法師、源公忠男)?-? 平安中期僧; 大僧都、光孝天皇曾孫、  
 信明・観教の弟/寛祐の兄、歌人; 1007-09後十五番のちのじゅうごばん歌合(公任撰)入、拾遺集770、  
 [しのぶれど苦しかりけり篠薄しのすき秋の盛りになりやしなまし](拾遺; 恋770)
- F2292 証観(しょうかん; 法諱、源[堀川]俊房男) 1067-1137 母; 源家基女、師頼の弟、天台園城寺菩提坊僧、  
 園城寺浄覚門; 出家/1091最勝講講師/種々の法会の講師/1095権律師/1105大僧都、  
 1127事に座し都追放/1129召還/1134法印、歌人/勅撰2首; 金葉(89/Ⅲ91)続後撰(588)、  
 [春のゆく道に來きむかへ時鳥かたらふ声にたちやとまると]、  
 (金葉; 一春89/三月尽やよひの心を詠む)、



[証観(法諱)の別法諱/号]別法諱;澄観(しょうかん)、号;小野

- H2280 **聖観**(しょうかん:法諱、良天;字、俗姓;源)1287-1369<sup>83</sup> 下総の浄土僧;妙観門/名越派宗義を修学、多くの注釈書を著作し妙観説を補説;同派教義の基盤を作る、磐城に成徳寺を創建、「良天口筆」「果分考文抄見聞」「問題考文抄聞書」「浄土略論見聞」「選択口筆見聞」、[聖観(法諱)の法名]真蓮社法阿/法阿、理本の師
- H2281 **正観**(しょうかん:法諱、見性院:号)?-1846 大坂米屋町の真宗大谷派正行寺住職、1845擬講、「義林章随聞記」「俱舍論聞書」「入阿毘達磨論聞書」著
- F2293 **尚寛**(しょうかん・飯高いだけ)1735-1806<sup>72</sup> 上総栗生お村の農漁業;九十九里の地曳網主、富豪;郷党に尽力、江戸北町奉行組上総方代官に抜擢(名主の纏め役)、詩人/俳人、伊能忠敬と親交、1805古稀の賀自選詩集「瀨陵はりょう集」(111首/校訂;婿正保寛兵衛・女婿小河原長栄雨塘)、[尚寛(諱)の通称/号]通称;惣兵衛、雅号;牛歩/瀨陵
- U2295 **聖観**(しょうかん:法諱、俗姓;埃宮えのみや)1745-1802<sup>58</sup> 大坂の僧/国学者、[聖観(諱)の名/字]名;神足、字;寂聞/慈眼
- H2282 **紹完**(しょうかん・木山きやま/本姓;源、名;昌順、里村玄川の末弟)1803-81<sup>79</sup> 太宰府天満宮連歌屋14世、社僧/権律師/法橋、連歌作者;花の下会頭/里村昌同より近国宗匠の許状を受、秋月長元らに連歌を教授/1823-57連歌屋に住す、「秋月千句」「無量寿院追悼文并五十韻」「無量寿院三回忌追悼発句并和歌」著 [紹完(退隠後の名)の字/号]字;記心、号;杣咲斎/蓬杣之屋/蓬之杣屋/静寿院
- U2262 **昌侃**(しょうかん・内藤政韶まさつぐ?or亀井茲方これかた?、名;まさあき?・まさただ?・まさなお?)?-? 江後期;能登守歌;1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、内藤政韶;日向延岡藩主/亀井茲方;石見津和野藩主、[小倉山すそまで照らす月影は世世へてみがかく鏡なるらん]、(大江戸倭歌;雑1912/定家卿六百年忌に法印季文のすすめける手向の歌に/月を)
- 紫陽館(しょうかん) → 冬映(初世とうえい・牧、俳人) B 3 1 2 9  
正鑑(しょうかん:法諱) → 大円(だいえん:道号・宝鑑、曹洞僧) J 2 6 2 6  
勝貫(しょうかん・日野西) → 勝貫(まさつら・日野西ひのし/藤原、廷臣/記録) E 4 0 2 1  
勝寛(しょうかん・今村) → 蓮坡(れんぱ・今村いまむら、藩士/詩人) B 5 1 3 1  
紹侃(しょうかん・久我) → 具通(ともみち・久我こが、太政大臣/歌) Q 3 1 6 3  
照漢(しょうかん;法諱) → 大成(だいじょう;道号・照漢、渡来黄檗僧) K 2 6 3 5  
照寛(しょうかん・三輪) → 照寛(てるひろ・三輪みわ、国学/歌) C 3 0 9 0  
照寛(しょうかん・毛受めんじゅ) → 未仏(みぶつ・西来居さいらいきよ、医者・狂歌) F 4 1 7 6  
尚寛(しょうかん・奥村) → 尚寛(なおのぶ/ながのぶ・奥村おくむら、儒/歌) C 3 2 0 2  
尚幹(しょうかん/ひさもと・吉田) → 今世(のりよ・吉田、儒者/歌人) 3 5 2 6  
尚簡(しょうかん・柳) → 尚簡(ひさひろ・柳やなぎ/梅谷/山本、神職/国学) M 3 7 1 4  
尚監(しょうかん・井辻) → 尚監(なおみ・井辻いつじ/比田ひだ、富商/歌人) C 3 2 5 1
- H2283 **笑岩**(笑巖しょうがん;道号・宗閻しゅうげん;法諱)?-1598 石見邑智郡佐波の曹洞僧;雲菴透竜門/法嗣、石見大竜寺2世(1567三善隆芳が創建し開山に招聘されたが師雲菴を開山とし2世となる)、吉川元春・元長の帰依/1579顕親寺に住/晩年は出雲常福寺住、1584「団扇帯用」著
- H2284 **昌巖**(しょうがん・山田やまだ、名;有栄)1578-1668<sup>長寿91</sup> 薩摩鹿兒島藩士;民部少輔、朝鮮出兵・関ヶ原従軍、1636家老職/1650致仕、「山田昌巖関ヶ原覚書」「山田昌巖老咄聞書」「山田昌巖手状」著、[昌巖(出家後の通称)の別通称/号]出家前の通称;千代太郎/弥九郎/民部、号;晏斎、法号;昌巖松繁庵主
- H2285 **松巖**(しょうがん;道号・元操げんそう;法諱)?-? 江前中期黄檗僧;慧極ごく道明[1632-1721]門/1698嗣法、悦山道宗の持僧か?、1676「悦山禅師慈福集」編
- H2286 **正含**(しょうがん) 1689 - 1769<sup>81歳</sup> 鎌倉の浄土宗光明寺68世住職/1765京知恩院55世、1766大僧正、「木母集」編/「円頓授菩薩戒序辨」著、[正含(法諱)の号] 興誉/不可思議
- 松巖(しょうがん) → 竹亭(ちくてい、清風園、俳人) D 2 8 4 8  
松岩(しょうがん) → 日潮(にっしょう;法諱・六牙院、日蓮僧) F 3 3 2 0

松園(しょうがん・今村) → 千年(ちとせ・今村いまむら、神職/国学/歌) M 2 8 1 2  
 照顔(しょうがん・桑原) → 幾太郎(いくたろう・桑原くわばら、藩士) F 1 1 3 3  
 照顔(しょうがん・野見) → 嶺南(れいなん・野見のみ、医者/郷土史家) 5 1 5 8  
 升丸(しょうがん) → 升丸(ますまる、俳人/狂句) J 4 0 2 2  
 勝丸(しょうがん・檜垣) → 貞俊(さだとし・檜垣/度会/松木、神職) I 2 0 8 6

F2294 静観(じょうかん; 諡号・増命ぞうみょう; 法諱、桑内安峰男) 843-927 85 平安前期京の天台叡山僧;  
 855(13歳)比叡山; 西塔院の延最門/得度、円仁・円珍門、祈祷に通じ宇多法皇に尊信される、  
 899園城寺長吏/906天台座主10世/925僧正、  
 「胎蔵界口伝」「宗論御八講; 貞観十年二月三日」著、歌; 続後撰集585(; 僧正静観名)、  
 「年を経ていたくなめでそ山の花菩提のたねにならぬものゆゑ」、  
 (続後撰; 十积教585/僧正遍昭に贈る歌)、  
 [静観(; 諡号)の号] 千光院

W2220 成寛(じょうかん; 法諱、) ? - ? 鎌倉期; 南都の僧/法師、歌; 1237刊[檜葉集]入、  
 [いろふかき花の袂もなごりなくうつればかはる夏衣かな](檜葉; 雑792)

H2287 常閑(じょうかん; 浄閑じょうかん・万代もげ) ? - ? 江中期備前和氣郡の医者、祖先は和泉堺万代村領主、  
 備前移住後は代々[常閑(; 通称)]を名乗る、先祖創製の妙薬反魂丹を代々調合製造、  
 1767(明治4)西片上に移住、「登々菴先生書」編

H2288 浄観(じょうかん; 法諱、白華院; 号) ? - ? 江後期豊前英彦山霊仙寺の修験僧、  
 1806「英彦山由来大略」著

H2289 常観(じょうかん; 法諱、惣持坊; 号) ? - ? 1857 存 天台宗叡山北谷の慈光院住僧/のち摂津住、  
 さらに紀伊陽照院住/学階は得業、1839「曼殊院宮御拝堂記」40「立太子節会御修法記」、  
 1841「妙法院宮座主宣下記」46「天台宗堅義帽子免許由来」49「台宗覽古」外著多数

静寛(じょうかん) → 為兼(ためかね・京極、歌学) 2 6 5 8  
 常桓(じょうかん) → 高国(たかくに・細川、武将/連歌) C 2 6 7 2  
 常閑(じょうかん・戸田) → 氏鐵(うじかね・戸田、武将/藩主) C 1 2 3 6  
 常閑(じょうかん・稲垣) → 重氏(しげうじ・稲垣いながき、幕臣) Q 2 1 6 4  
 常閑(じょうかん・木俣) → 守明(もりあき・木俣きまた/橘、藩老/執権) J 4 4 8 1  
 常冠(じょうかん・白井/菅江) → 眞澄(ますみ・菅江すがえ、国学/地誌) J 4 0 2 3  
 常観(じょうかん・佐藤) → 正明(まさあき・佐藤さとう、国学/歌人) P 4 0 8 6  
 常貫(じょうかん・久志本) → 常貫(つねつら・久志本/度会、神職/国学) C 2 9 5 5  
 浄寛(乗寛じょうかん、比叡山僧) → 信救(しんきゅう; 法諱) N 2 2 8 1 ④  
 浄観(じょうかん・梶原) → 性全(しょうぜん・梶原かじわら、鎌倉期医者) K 2 2 4 0  
 浄観(じょうかん・役) → 藍泉(らんせん・役えき/島田、修験僧/詩人) C 4 8 8 3  
 乗完(じょうかん・松平) → 乗完(のりさだ・松平、藩主/老中/儒) E 3 5 5 5  
 乗寛(じょうかん・松平) → 乗寛(のりひろ・松平、乗完男、藩主/老中) F 3 5 6 3  
 貞観(じょうかん; 法号) → 伊織(いおり・一尾いちお、幕臣/茶の湯) F 1 1 1 2

H2290 清巖(じょうがん; 法諱、名号; 二階堂) ? - ? 安桃期天正1573-92頃の真言宗高野山の僧、  
 連歌; 紹巴門、1582「二階堂清巖宝勝百韻」著

浄巖(じょうがん・戸崎/崎) → 淡園(たんえん・戸崎/崎/源、家老/漢学) H 2 6 9 4  
 浄願(じょうがん; 法号) → 長高(ながたか・小笠原、武将) E 3 2 0 1  
 浄眼(じょうがん; 法諱) → 浄眼(じょうげん; 法諱、真宗本願寺派僧) I 2 2 6 7  
 常丸(じょうがん・忍岡) → 常丸(つねまる・忍岡、姓; 藤本、戯作) D 2 9 8 1  
 乗願(じょうがん) → 宗源(そうげん; 法諱・上人/浄土僧) L 2 5 4 2  
 乗願(じょうがん; 法名) → 資経(すけつね・吉田/藤原、廷臣/記録) C 2 3 4 5  
 常観院(じょうかんいん; 法号) → 基之(もとゆき・細川/源、武将/歌人) E 4 4 5 4  
 浄観院(じょうかんいん; 法号) → 正識(まさつね・阿部あべ、藩主/詩人) E 4 0 1 1  
 聖鑑国師(しょうかんこくし) → 元選(げんせん; 法諱・無文; 道号、臨濟僧) C 1 8 5 0  
 照顔齋(しょうがんさい) → 曲阜(きよくふ・照顔齋/梶、俳人) P 1 6 3 1  
 消閑子(しょうかんし) → 遊清(ゆうせい・本間、医・国学・歌) 4 6 0 5

- 松巖寺殿(しょうがんじどの;法号)→ 善成(よしなり・四辻/源、廷臣/歌学) 4 7 2 1  
貞観寺僧正(じょうがんじのそうじょう)→ 真雅(しんが;法諱、空海の弟/真言僧) D 2 2 6 1  
成願寺僧都(じょうがんじのそうず)→ 源仁(げんにん;法諱、真言僧) M 1 8 0 9  
浄願寺宮(じょうがんじのみや)→ 道寛親王(どうかんしんのう、天台僧/門跡) C 3 1 4 3  
常閑書院(じょうかんしょおく)→ 椋斎(えきさい・狩谷かりや、国学/漢学者) 1 3 0 7  
松間亭(しょうかんでい) → 月照(げつしょう;字、法相僧/尊攘活動) B 1 8 0 6  
松間堂(松間洞しょうかんどう)→ 它谷(だこく、俳人) O 2 6 9 1  
貞閑尼(じょうかんに) → 捨女(すてじょ・田でん、名;ステ、俳人) 2 3 1 6  
照顔堂(しょうがんどう) → 幾太郎(いくたろう・桑原くわばら、藩士) F 1 1 3 3  
貞観殿(じょうがんだの) → 登子(とうし・藤原、歌人) E 3 1 7 1  
正願房(しょうがんばん) → 経舜(きょうしゆん;法諱・正顕、律宗真言僧) N 1 6 8 8  
称願房(しょうがんばん;号) → 彰蓮(しょうれん;法諱・称願房、真言僧) M 2 2 0 2  
静観房(浄観坊じょうかんばん)→ 好阿(こうあ、談義本作者) 1 9 6 3  
静観房(じょうかんばん) → 静話(せいわ・静観房じょうかんばん、心学者) D 2 4 2 4  
乗観房(じょうかんばん) → 日弁(にちべん;法諱、日蓮僧) D 3 3 1 8  
乘願房(じょうがんばん) → 宗源(そうげん;法諱・上人/浄土僧) L 2 5 4 2  
貞観楼(じょうがんろう) → 理貞(りてい・松秀斎しょうしゅうさい、華道家) C 4 9 1 9
- H2291 聖基(しょうき;法諱、左大臣藤原隆忠男) 1204-67 64 母;藤原実宗女、鎌倉期真言・三論僧、  
1227勸修寺長吏/30榮然に伝法灌頂を授/1242東寺長者/45権僧正/安祥寺寺務兼帯、  
1262東大寺別当/大僧正、「具支灌頂式」著、  
[聖基(;法諱)の通称]施無畏院/南谷僧正、
- H2292 聖奇(しょうき;法諱、号;昇陽房) ?-? 鎌倉末南北期の真言僧;宥祥上人門;小野の法流修学、  
榮智と高野山入;玄海[1267-1347]・快成かいじょう門、鎌倉に下向;事相をもって一家を成す、  
「三宝院血脈鈔」著
- H2293 性機(しょうき;法諱・慧林えりん;道号、俗姓鄭) 1609-81 73 福建福州黄檗僧;隠元門、1654師と渡来、  
1661撰津仏日寺住/78大舟寺開山/80万福寺3世、「隠元事実」「耶山集」「慧林禅師語録」
- 清基(しょうき) → 清基(せいき;法諱、社僧/歌人) 2 4 9 3  
昌喜(昌熹しょうき・入江)→ 昌喜(昌熹まさよし・入江、国学者/歌) I 4 0 5 3  
尚熙(しょうき/なほひろ?・入江)→ 威斎(かんさい・富沢とみさわ、藩士/儒者) Q 1 5 5 8  
尚季(しょうき・今出川) → 尚季(ひさすえ・今出川/藤原、廷臣/日記) B 3 7 1 5  
尚基(しょうき・二条) → 尚基(ひさもと・二条、関白/歌・連歌) C 3 7 0 3  
将徹(しょうき→まさよし・牧)→ 香松(こうしょう・牧まさき、藩士/詩歌/書) J 1 9 8 0  
昭規(しょうき・飛田) → 昭規(あきのり・飛田ひだ、神職/国学) I 1 0 3 1  
承基(しょうき・藤井) → 承基(つぐもと・藤井ふじい、商家/国学) G 2 9 2 7  
勝紀(しょうき・成瀬) → 勝紀(かつのり・成瀬なるせ/藤原、藩士/歌) V 1 5 2 8  
賞季(しょうき・西園寺) → 賞季(よしすえ・西園寺さいおんじ/藤原、右大臣) D 4 7 7 1
- F2295 昌義(しょうぎ;法諱) ? - ? 南北期僧:法師、  
歌人/勅撰3首:新千載(845)新拾遺(1162)新後拾遺(1358)、  
[迷ひこしうき世の夢を寝ぬるが内に見果ててさむる暁もがな](新千:釈教845)
- F2296 尚宜(しょうぎ・片山かたやま) ? - ? 京の篆刻家:今体の譜、「尚古館印譜」著
- 尚義(しょうぎ・守屋) → 義門(よしかど・守屋/森屋/物部、儒/易学) C 4 7 9 3  
尚義(しょうぎ・中村/安田)→ 雷洲(らいしゅう・安田/中村、幕臣/絵師) 4 8 5 8  
尚義(しょうぎ・西山) → 尚義(ひさよし・西山にしやま、国学/勤王) K 3 7 5 7  
証義(しょうぎ) → 澄俊(ちやうしゆん;法諱、天台僧/歌人) I 2 8 8 2  
昭義(しょうぎ;字) → 観道(かんどう;法諱・昭義、真宗本願寺派僧) R 1 5 5 4  
昌宜(しょうぎ/まさよし・宮川/近藤)→ 勇(いさみ・近藤、剣術/新撰組) F 1 1 5 1  
昌宜(しょうぎ/まさよし・伏屋)→ 素狄(そてき・伏屋ふせや/吉村、医者) K 2 5 1 4  
昌義(しょうぎ・志村) → 昌義(まさよし・志村むら、和算家) I 4 0 6 3  
昌義(しょうぎ・原) → 昌義(まさよし・原はら、国学者) R 4 0 9 5  
昌儀(しょうぎ・浅羽) → 昌儀(まさのり・浅羽あさば、藩士/学者) F 4 0 9 9

- 勝誼(しょうぎ・木野戸) → 勝誼(かつよし・木野戸きのと/豊田、神職) U 1 5 4 4
- F2297 乗基(じょうき;法諱、大納言藤原基嗣男)?-? 鎌倉中期真言宗仁和寺の僧/法印、功德院に籠居、歌人/勅撰2首;新拾遺1594・新後拾遺1359、  
[ねや近き荻の葉そよぐ風の音は聞きなれてだに夢ぞ驚く](新拾遺;雑1594/秋の歌)、  
[乗基(;法諱)の通称]通称;大納言法印、
- H2294 静基(じょうき;法諱) ? - ? 1307存 鎌倉後期真言僧;実勝門、1282地蔵院流実勝方の伝法灌頂を受、「四度聞書」/1307「密宗血脈鈔」著
- F2298 定熙(じょうき;法諱、権中納言鷹司清雅男)?-? 南北室町期の僧;法印、権僧正に至るか?、歌人:新玉津島社三十首参加、勅撰4首;新千載(1858)新拾遺(726/1074)新続古今(338)、  
[久方の月に昔のこととはむさらでは残る面影もなし](新千載;雑1858)
- H2295 紹喜(じょうき;法諱・快川かいせん;道号、号;大通智勝国師、俗姓;土岐)?-1582焚死ふんし 美濃臨濟僧;幼時美濃天衣寺の隠峯紹建門;出家/1519同国崇福寺仁岫門、美濃南泉寺住持、京妙心寺43世、1551仁岫没後の崇福寺住持、武田信玄の招聘で甲斐恵林寺住持;1581正親町天皇より国師号、82武田氏滅亡時に恵林寺焼失;山門楼上に自ら火を放ち焚死、「紹喜録」「快川国師法語」「快川国師四六簡」「古聯句集叢」「快川希庵等語録」著
- H2296 浄喜(じょうき・坂さか、浄孝男)?- ? 室町期医僧、將軍義尚を治療/宮内卿法印、「直経濟方」著、浄雲の父
- F2299 浄喜(じょうき) ? - ? 和泉堺の俳人、1672顕成「手繰舟」入
- 浄機(じょうき・洪音) → 独癡(どくち;道号・浄養;法諱、黄檗僧) L 3 1 2 1
- 浄喜(じょうき・春山) → 義篤(よしあつ・佐竹/源、武将/連歌) C 4 7 0 7
- 浄喜(静喜じょうき・新田) → 尚純(ひさずみ・新田/岩松、武将/連歌) B 3 7 1 8
- 浄喜(じょうき;法名) → 隆直(たかなお・四条じじょう、廷臣/歌人) D 2 6 3 2
- 常熙(じょうき/つねひろ・柘植) → 葛城(かつじょう・柘植つげ、医者/詩人) N 1 5 4 5
- 常喜(じょうき;法名) → 持之(もちゆき・細川、武将/管領/歌人) B 4 4 7 7
- 常禧(じょうき) → 実雅(さねまさ・三条/正親町三条、歌) D 2 0 6 1
- 常季(じょうき・中里) → 常季(つねすえ・中里なかざと、国学者) G 2 9 0 7
- 常基(じょうき・檜垣) → 常基(つねもと・檜垣/度会、神職) D 2 9 9 8
- 常倚(じょうき・檜垣) → 常倚(つねより・檜垣/度会、神職/日記) E 2 9 2 9
- 常喜院(じょうきいん・号) → 永尊親王(えいそんしんのう、法諱;尊濟、門跡/歌) 1 3 4 0
- 常喜院阿闍梨(じょうきいんのあじり) → 心覚(しんかく;法諱、真言僧) N 2 2 6 6
- 正菊(しょうぎく・水上) → 雄風(おかせ・水上みなかみ、修験/国学/歌) E 1 4 1 5
- 松菊(しょうぎく・安達) → 舒長(のぶなが・安達あだち、儒/詩歌) C 3 5 5 5
- 松菊(しょうぎく・奈古屋) → 以忠(いちゅう・奈古屋なごや、藩士/儒者) D 1 1 6 7
- 松菊(しょうぎく) → 孝允(たかよし・木戸/桂/和田、藩士/討幕) N 2 6 7 9
- 松菊(しょうぎく;組連名) → 松菊(まつぎく;組連/雑俳取次) L 4 0 3 4
- 松菊園(しょうぎくえん) → 平山(へいざん・中田、藩士/儒者/詩) 2 7 4 3
- 肖菊翁(しょうきくおう) → 其諺(きげん・四時堂、時宗僧/俳人) B 1 6 0 8
- 松菊主人(しょうきくしゅじん) → 公美(きんえ・竜りゅう・たつ、詩歌) E 1 6 8 7
- 松菊書屋(しょうきくしょおく) → 玉蕉(ぎよくしゅう・高橋たかはし、儒者/詩) P 1 6 0 9
- 松菊草堂(しょうきくそうどう) → 三瓦(さんが・竜りゅう、儒者) L 2 0 8 8
- 鐘奇斎(しょうきさい) → 藿斎(かくさい・岩永いわなが、医者/本草) J 1 5 8 4
- H2297 勝吉(しょうきち) ? - ? 尾張津島の俳人;1689「曠野あら」2句入、  
[下ろし置く鐘しづかなる霰あられ哉](曠野)
- H2298 正吉(しょうきち・曾根そね) ? - ? 江後期江戸の歌舞伎作者:初代桜田治助門、1775森田座「信田樸蓬萊曾我」作者の連名が最初、1810(文化7)まで江戸で2・3枚目作者、1779「吾孀森栄楠」86「男山娘源氏」1800「仇競恋姿見」08「松二代源氏」外共作多数
- G2200 正吉(しょうきち・待乳まち) ? - ? 江後期江戸の歌舞伎作者;番付、市川団十郎家の縁者で2世中村重助の紹介で作者になる、1816四世鶴屋南北に創作に協力、4世南北・本屋宗七・2世松井幸三と創作、1825四世南北「東海道四谷怪談」番付、

- 1826「還花雪梅勝鯨浪」/29南北「金幣猿島郡さんのざいさるしまだり」/31「桜真砂白浪」外共作多数
- H2299 **正吉**(しょうきち・林屋) ? - ? 江戸の噺家; 林屋正蔵門、1826正蔵「升おとし」入
- I2200 **庄吉**(しょうきち; 名・川村かわむら) ?- ? 江後期長崎奉行大沢秉哲の家臣、  
1853「魯西亜船渡来之節書状之写」著
- 庄吉(しょうきち・小町谷) → 吉福(よしとみ・小町谷こまちや、農業/国学) M 4 7 8 0
- 庄吉(しょうきち・山中/森) → 玄黄斎(げんこうさい・森もり/山中、画工/詩歌) I 1 8 0 0
- 正吉(しょうきち・木戸) → 正吉(しょうきつ・木戸、武家/歌人) G 2 2 0 1
- 正吉(しょうきち→しょうきつ) → 楽翁(らくおう; 道号・正吉しょうきつ、曹洞僧) B 4 8 0 5
- 正吉(しょうきち) → 正吉(せいきち、俳人) 2 4 9 8
- 正吉(しょうきち・岡) → 長洲(ちやうしゅう・岡おか、藩儒/詩文) I 2 8 7 1
- 正吉(しょうきち・大和田) → 篤胤(あつたね・平田ひらた、国学/神道) 1 0 2 2
- 正吉(しょうきち・塙) → 守約(もりのかみ・塙はなわ、兵法家) G 4 4 1 9
- 正吉(しょうきち・岡本/丘本) → 思純(しじゆん・丘おか、医者/儒者) D 2 1 9 6
- 正吉(賞吉しょうきち・清水) → 賞七(粧七しょうしち・清水、歌舞伎作者) J 2 2 4 2
- 正吉(しょうきち・桜井) → 百之(ももゆき・桜井さくらい、商家/国学) K 4 4 0 7
- 正吉(初代しょうきち・山中) → 英輝(ひでてる・山中やまなか、商家/画/歌) M 3 7 2 2
- 少吉(しょうきち・青根) → 文臣(ふみおみ・青根あおね、医者/歌人) H 3 8 9 3
- 勝吉(しょうきち・山田) → 荊石(けいせき・山田やまだ、農業/和算家) G 1 8 2 1
- 昌吉(しょうきち・馬田/柴田) → 大介(だいすけ・柴田しばた、洋学者; 英語) B 2 6 1 1
- 祥吉(しょうきち・徳弘とくひろ) → 孝蔵(こうぞう・徳弘、藩士/絵/砲術) K 1 9 3 7
- I2201 **丈吉**(じやうきち・道富どうふ/みちとみ、ドゥーフ男) 1808-1824天逝17歳 江後期; 父はオランダ商館長、  
母; 遊女瓜生野(土井よう)、1821幕臣; 唐物目利役、「道富丈吉書翰」「道富丈吉由緒親類書」
- 丈吉(じやうきち・竹下) → 草丸(くさまる・竹下、俳人) C 1 7 4 0
- 丈吉(じやうきち・鈴木) → 呉雪(ごせつ・鈴木すずき、俳人) M 1 9 9 1
- 丈吉(じやうきち・渡辺) → 東萊(とうらい・渡辺/渡部/渡、和算家) H 3 1 9 4
- 丈吉(じやうきち・小池) → 貞景(さだかげ・小池/藤原、国学/神職) H 2 0 9 0
- 条吉(じやうきち・亀屋) → 亀丈(きじやう、俳人) K 1 6 9 2
- 昇吉郎(しょうきちろう・上野) → 尚志(たかもと・上野うえの、藩士/兵学者) N 2 6 4 5
- G2201 **正吉**(しょうきつ・まさよし・木戸きど、範実、東常和[常縁3男]男) ?-? 1557存 戦国期上野出身の武家、  
歌人、1544「和歌会式」著
- 正吉(しょうきつ・楽翁; 道号) → 楽翁(らくおう・正吉しょうきつ、曹洞僧) B 4 8 0 5
- 松倚亭(しょうきてい) → 田福(でんぶく・川田、呉服商人/俳人) E 3 0 1 8
- 正気堂(しょうきどう・大久保) → 要(かなめ・大久保おおくぼ、藩士/兵学) O 1 5 3 3
- 昭儀坊(しょうぎぼう・本性寺) → 了意(りやうい・浅井、唱導/仮名草子) 4 9 1 6
- G2202 **章義門院**(しょうぎもんいん、誉子内親王、伏見天皇皇女) 1288?-133649? 母; 洞院公宗女の従三位英子、  
鎌倉期歌人、1295内親王宣下/准三宮、1313落飾、女房歌人に小兵衛督・大納言がいる、  
勅撰12首; 玉葉(8首101/284/493/682/931/1418/1542/2058) 風(559/808/1110) 新続古(1首)  
[つれづれと雨降り暮らす春の日は常よりながきものにぞありける](玉葉; 春101)
- 章義門院小兵衛督(しょうぎもんいんのこひょうえのかみ) → 小兵衛督(こひょうえのかみ) 5 6 5 1
- 章義門院大納言(しょうぎもんいんのだいなごん) → 大納言(だいなごん・誉子内親王家) K 2 6 8 5
- S2203 **昌休**(しょうきゅう・里村さとむら、名; 堯景たかかげ、里村弥次郎乗雲男) 1510-5243 近江里村の出身、  
早くに公家社会に触れる; 1534飛鳥井家の蹴鞠・歌会に参加/連歌; 周桂・宗牧門、  
宗牧より[湯山三吟]の講釈を受、1532-52頃連歌作品多数/連歌師里村家の祖、昌叱の父、  
没後に昌叱の養育をした紹巴により連歌里村家が確立する、1538「堯景独吟千句」、  
1543「堯景千句」45「昌休独吟百韻」49「昌休独吟歌仙」50「休聞抄」著、「連歌天水抄」著  
「連歌の手本」編、1551義隆「宮島千句」参加、宗養らと百韻多数、  
[昌休(;号)の通称/別号]通称; 弥次郎/弥二郎、別号; 指雪斎、法号; 実篋員
- G2203 **松白**(しょうきゆう・出来いでき、後号; 松花跡?) ?-? 江戸の談林俳人・宗因門、1675「談林十百韻」入、  
1677「宗因七百韻」78西鶴「物種集」80松意「軒端の独活」81松意「功用群鑑」入、  
1700笑種「続古今俳手鑑」入、

[青がらし目をおどろかす有様なり] (談林十百韻; 二発句101)

一面の青々の春の世界/謡曲兼平の詞; 兼平が最後の仕儀 目を驚かす有様なり)

- G2204 昌久 (しょうきゅう・阪さか、昌成男)?- ? 幕府連歌御連衆
- G2205 成久 (しょうきゅう、玉泉軒) ? - 1704? 俳人、1712「追善連句詩集」: 一靈器
- Q2293 勝休 (しょうきゅう・飯島いじま)?- ? 江戸後期信濃松本藩士/故実家、  
「女礼勝休抄」「旌旗故実勝休抄」「武家故実女礼勝休抄」「伊勢家伝来武家故実稽古目録」、  
「伊勢家伝来武家故実稽古祝事大概」「伊勢家相伝稽古箇条目録筆授」著  
[勝休(;字)の通称/号]通称; 与作、号; 菊園
- 勝久 (しょうきゅう・丸山) → 保秀 (やすひで・丸山まるやま、庄屋/歌人) C 4 5 7 8
- 正休 (しょうきゅう・尾関) → 正休 (せいきゅう・尾関おせき、医者/歌人) Q 2 4 6 7
- 樵汲 (しょうきゅう; 号) → 竜洲 (りゅうしゅう; 道号・文海もんかい、曹洞僧) H 4 9 8 4
- 紹九 (しょうきゅう・大東) → 紹九 (しょうく・大東おおひがし、連歌作者) I 2 2 1 1
- 称求 (しょうきゅう→しょうぐ) → 性愚 (しょうぐ; 字・聖伝; 法諱、浄土僧) I 2 2 1 2
- 小弓 (しょうきゅう) → 小弓 (こきゅう、俳人) F 1 9 8 6
- 昭休 (しょうきゅう・池田) → 茂政 (もちまさ・池田/徳川/松平、藩主) B 4 4 6 9
- 賞久 (しょうきゅう・賀茂) → 賞久 (よしひさ・賀茂/加茂かも、神職) G 4 7 3 0
- 正牛 (しょうぎゅう; 法諱) → 瑞岡 (ずいこう; 道号・珍牛; 法諱、曹洞僧) E 2 3 5 2
- I2202 貞久 (じょうきゅう) ? - ? 連歌、1558「花千句」参加
- G2206 浄久 (じょうきゅう・三田さんだ/水野) 1608-8881 大阪舟運関係の富商/河内柏原の俳人; 松永貞徳門、  
1679「河内鑑名所記」編、狂歌; 1666行風「古今夷曲集」8首入、貞門古参、西鶴・行風と親交、  
1673西鶴「生玉万句」第四若田竹第三句入; [時鳥歌仙の内に詠みそへて]、  
[丹波山毬栗いがりにじる秋はあれど住吉浦の春のはまぐり] (にじるは踏みにじる)、  
(夷曲集; 76/本歌; 雁鳴きて菊の花咲く秋はあれど春の海辺に住吉の浜; 伊勢物語68段)
- 常久 (じょうきゅう; 法名) → 頼之 (よりゆき・細川ほそかわ/源、武将/幕政/歌) J 4 7 9 2
- 常久 (じょうきゅう) 訓はすべて → 常久 (つねひさ)
- 常休 (じょうきゅう; 法号) → 経喜 (つねよし・大蔵おおくら、能楽師) E 2 9 2 2
- 松毬庵 (しょうきゅうあん) → 里翠 (りすい・菅、松毬庵/俳人) B 4 9 2 9
- 小丘園 (しょうきゅうえん・秋元) → 時憲 (ときのり・秋元、儒者) J 3 1 7 6
- 招鳩軒 (しょうきゅうけん) → 方山 (かたやま/峯山/芳山ほうざん・滝、俳人) B 3 9 0 0
- 浄久寺一圃 (じょうきゅういっぼ) → 一圃 (いっぼ・浄久寺、狂歌作者) D 1 1 8 5
- G2207 正休老人 (しょうきゅうろうじん)?- ? 江前期説話伝承; 「奇異雑談きいぞうだん集」入
- 松居 (しょうきよ・山崎) → 義故 (よしもと・山崎やまざき、藩士/書家) H 4 7 6 9
- 松居 (しょうきよ・三好) → 長善 (ながよし・三好みよし、医者) O 3 2 9 9
- 松魚 (しょうぎよ/かつお・歌川) → 国清 (くにきよ・初世くにきよ・歌川、幕臣/絵師/流罪) C 1 7 7 2
- 浄踞 (じょうきよ・金猊; 道号) → 金猊 (きんげい・浄踞、黄檗僧) Q 1 6 8 4
- W2210 聖慶 (しょうきょう; 法諱、大蔵卿源師行[?-1172]男)?-? 平安後期; 東大寺東南院住僧/法師、  
有房 (1131生?/右中将/歌人)の弟、歌人; [檜葉集] (1237刊)入、  
[大般若経の皆空の理、  
あさからず心にそむるいろもみな思ひ返せばむなしかりけり] (檜葉; 釈教565)
- G2208 昌恭 (しょうきょう) ? - ? 連歌師; 1743吉宗還暦「御賀千句」参加
- I2203 正慶 (しょうきょう; 法諱) 1775 - 185177 越中稗田の真宗大谷派円満寺住職、  
初め華厳・天台を修学/のち真宗宗学; 宣明門、擬講/嗣講/1849講師、  
円満寺洗心寮で後進の指導、門人頓成とんじょうの異義事件で押込め処分を受ける、  
「教行信証五願大意」「再興演説集」「肉食妻帯義」「本願鈔筆記」「本師本仏之記」、  
「唯信鈔大意」1827「高僧和讃講義」34「阿弥陀経講義」51「愚禿鈔聞記」外著書多数、  
[正慶(;法諱)の字/諡号]字; 靈咄れいおつ/靈翁/靈応、諡号; 開悟院
- U2257 松喬 (しょうきょう・小出こいで)?- ? 江後期; 歌人、幕臣?、  
1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、  
[さびしさのいつはあれども夕まぐれ鹿の音おろす峠たをの松風]、  
(大江戸倭歌; 秋766/風前鹿/いつはあれども; いつでもそうだがとりわけての意)

- 正興(しょうきょう) → 正興(まさおき・柳本、俳人) B 4 0 5 0  
尚興(しょうきょう) → 尚興(ひさおき、連歌) 3 7 8 7  
松峽(しょうきょう・松室) → 松峽(しょうこう・松室、白話小説) M 2 1 5 9  
章郷(しょうきょう/あきさと?・竹尾) → 正軀(まさとも・竹尾/大江、神職) E 4 0 7 6  
宵郷(しょうきょう・長屋) → 就正(なりまさ・長屋ながや、武将/記録) I 3 2 1 3  
尚教(しょうきょう・並河) → 尚教(ひさのり・並河なみかわ・なび-/平、医者) B 3 7 8 0  
尚教(しょうきょう・太田) → 白雪(はくせつ・太田おおた、庄屋/商業/俳) D 3 6 4 8  
昌嶠(しょうきょう・小宮山) → 桂軒(けいけん・小宮山こみやま、儒者/詩) E 1 8 6 5  
昌郷(しょうきょう・堀内) → 昌郷(まささと/まさくに・堀内、庄屋/国学者) C 4 0 5 9  
承卿(しょうきょう・村上) → 忠順(ただまさ・村上、医者/国学/歌) F 2 6 8 6  
照恭(しょうきょう・豊由) → 周斎(しゅうさい・豊由とよよし、和算家) X 2 1 3 6  
勝匡(しょうきょう/かつまさ・黒川) → 勝清(かつきよ・黒川くろかわ、神職/国学) N 1 5 2 7  
勝興(しょうきょう)すべて → 勝興(かつおき)  
章堯(しょうぎょう・河合) → 章堯(あきたか・河合かわい、藩士/紀行) D 1 0 4 7  
将業(しょうぎょう/まさなり?・久代) → 振濯(しんたく・久代くしろ、藩士/儒者) P 2 2 3 6  
昌業(しょうぎょう・大地) → 昌業(まさなり・大地おおち、藩士/詩人) F 4 0 4 4  
I2204 城橋(じょうきょう・雨森あめのもり、名;温) ?-? 江中期越前福井藩士/儒者、詩、1751「使者談」、  
[城橋(;号)の字/通称]字:如玉/汝玉、通称;太郎兵衛  
上恭(じょうきょう・馬場) → 竹坡(ちくは・馬場ばば、書家) D 2 8 6 9  
常郷(じょうきょう・北村) → 常郷(つねさと・北村きたむら、国学/歌人) F 2 9 6 1  
常興(じょうきょう) → 常興(つねおき・大館おおだち、故実/歌) B 2 9 7 9  
乗興(じょうきょう・幽峰) → 乗興(じょうこう、寺西、俳人) Q 2 2 3 5  
I2205 常暁(じょうぎょう;法諱) ? - 866(貞観八) 平安前期山城小栗栖の生(大和秋篠説あり)、  
真言・三論僧、初め元興寺豊安門/のち空海門;灌頂を受、838入唐、大元帥法・三論を修学、  
839帰国;入唐八家の1、864法橋上人位権律師、「入唐根本大師記」「大元法阿闍梨次第記」著、  
「大元法略次第」「尊勝仏頂次第」「小栗栖請来目録」/864「常暁和尚請来目録」著、  
[常暁(;法諱)の通称]小栗栖律師/入唐根本大師  
I2206 定暁(じょうぎょう;法諱、中納言九条忠高男) 1258-1327 70 真言僧;醍醐東塔院の定勝門、  
1277伝法灌頂を受、藤原惟信外護により醍醐山内に妙法院を創建、僧正/妙法院流の祖、  
「勸修寺流随聞記」著、定憲の師  
I2207 常暁(じょうぎょう;法諱) ? - ? 法師、連歌:1356刊「菟玖波集」7句入、  
[故里の春いたづらに暮れはてて](菟玖波;二春193/前句;過る月日は老にしられず)  
浄業(じょうぎょう) → 浄業(じょうごう;法諱、入宋律僧/戒律宣揚) I 2 2 8 3  
浄業(じょうぎょう・長蓮社観嘗如空) → 祐崇(ゆうそう;法諱、浄土僧) D 4 6 3 1  
浄行(じょうぎょう;号) → 晁溪(こうけい;法諱、僧/国学/歌人) Q 1 9 7 9  
正行院(しょうぎょういん) → 日源(にちげん;法諱、日蓮僧) B 3 3 6 4  
勝行院(しょうぎょういん) → 玄雄(げんゆう;法諱・蔡華、真宗僧) M 1 8 6 6  
上行院(じょうぎょういん) → 日尊(にちぞん;法諱、久成院、日蓮僧) C 3 3 7 2  
上行院(じょうぎょういん) → 日大(にちだい;法諱、日蓮僧) C 3 3 7 7  
浄行院(じょうぎょういん) → 日祐(にちゆう、大輔阿闍梨、日蓮僧) D 3 3 2 8  
乗行院(じょうぎょういん) → 恵月(えげつ;法諱、真宗大谷派僧) D 1 3 7 7  
松響園(しょうきょうえん) → 華陽(かよう・岡田、医者/詩) P 1 5 6 0  
松響閣(しょうきょうかく) → 千春(ちはる・今泉、歌人) F 2 8 1 8  
松喬斎(しょうきょうさい) → 乗運(じょううん・松井/牧野、仏師/歌) V 2 2 2 3  
承香殿但馬(じょうきょうでんのたじま) → 但馬(たじま・承香殿、歌人) E 2 6 6 4  
G2209 承香殿中納言(じょうきょうでんのちゆなごん) ?-? 醍醐天皇女御の承香殿源和子(光孝天皇皇女)の女房、  
元良親王と交渉(「元良親王集」「大和物語」入)、歌人/勅撰2首;後撰(851)拾遺(977)、  
[来ぬ人を松の枝えに降る白雪の消えこそかへれくゆる思ひに](後撰;十二恋851)、  
(忘れかけた男[大和物語;元良親王]に贈る/松と待つ・悔ゆと燻・思ひと火を掛ける)  
承香殿としこ(じょうきょうでんのとしこ) → 俊子(としこ・承香殿、歌人) M 3 1 3 6

- I2208 **承香殿女御**(じょうきょうでんのようご、源和子、光孝天皇皇女)?-947 醍醐天皇の女御、  
常明親王・式明親王・有明親王の母、拾遺集977(女房の承香殿中納言の歌の題詞に入)
- G2210 **承香殿女御**(じょうきょうでんのようご、藤原元子げんし、顕光女)?-? 母;村上皇女盛子内親王、一条天皇女御、  
996入内;女御/1005従二位、1011一条院没/1012源頼定との密通事件露頭;  
激怒した父顕光に髪を切られる/のち勘当が許され頼定の妻となる;1020頼定没後に出家、  
堀河女御(小一条院妃)延子の姉、歌;玄々・続詞花集入、勅撰;金葉Ⅱ201/千載集;哀傷560、  
[おほかたにさやけからぬか月影は涙くもらぬ人に見せばや](千載;哀傷560、  
玄々;84/続詞花402、一条院逝去の年[1011]秋の歌/一般の人と自分との対比表現)  
父 → 顕光(あきみつ・藤原、兼通男/左大臣/歌) C 1 0 5 9  
妹藤原延子 → 堀河女御(ほりかわのようご、小一条院敦明あつあき親王妃) E 3 9 8 7  
承香殿女御(じょうきょうでんのようご)→斎宮女御(さいぐうのようご・徽子女王/村上天皇女御/歌) 2 0 0 4  
承香殿女御(じょうきょうでんのようご)→尊子内親王(そんしないしんのう、冷泉天皇皇女/円融妃/歌) E 2 5 8 5  
聖行房(しょうぎょうぼう) → 院尊(いんそん;法号、天台僧) I 1 1 7 0  
松暁林(しょうぎょうりん) → 和葉(わよう・松暁林、俳人) 5 3 6 0
- G2211 **松旭**(しょうぎよく、知足館ちそくかん、姓;友鳴)?-? 江後期・明治初期の読本作者;岳亭丘山門、  
1834-68「俊傑神稲水滸伝」、1850「北条五代実記」51「算法重宝記」/61-67「絵本佐野報義録」  
[知足館松旭(;号)の通称/別号]通称;吉兵衛、別号;旭和/友鳴庵
- G2212 **相玉**(しょうぎよく/そうぎよく;道号・長伝ちようでん;法諱)?-? 1562に50歳以上 戦国期天文1532-55頃の僧、  
歌人;冷泉為和門、三条西実澄門、武田晴信・今川義元の歌会参加、1562家集「心珠詠草」著、  
珠長と同一? → 珠長(しゅちよう、駿河僧/連歌師) I 2 1 9 3  
小玉(しょうぎよく・瀬尾) → 信正(のぶまさ・瀬尾せのお/妹尾、儒者/詩歌) I 3 5 7 8  
松玉舎(しょうぎよくしゃ) → 立詠(りゅうえい・松井まつい、俳人) C 4 9 8 4
- G2213 **松踞子**(しょうきよし) ? - ? 豊前西小倉の俳人、1690言水「新撰都曲」3句入、  
[朝白あさがほに蜉蝣かげろふの安き歩み哉](都曲;上139/安きは心易く/はかない命同士の姿)  
松魚楼(しょうぎょろう) → 国清(くにきよ(初世)くにきよ、歌川、幕臣/絵師/流罪) C 1 7 7 2
- I2209 **勝均**(しょうきん法諱) ? - ? 奈良期大和西大寺の法相僧、  
781伝灯満位にあった、「成唯識論註枢要」著
- G2214 **紹瑾**(しょうきん;法諱・瑩山けいざん;道号、藤原) 1264/68-1325 62or58 曹洞僧;孤雲門、  
曹洞太祖;中興の祖、能登永光寺・総持寺開祖/教団活動;瑩山派、  
「伝光録」「瑞夢記」「瑩山清規」「瑩山和尚語録」著、  
[瑩山紹瑾の号] 仏慈禅師/弘徳円明国師/常濟大師
- G2215 **嘯琴**(しょうきん・富尾とみお、通称;左兵衛、別号;孤松軒)?-? 版下筆工、1691似船「勢多長橋」版下
- Q2295 **性均**(しょうきん;法諱、俗姓;木村、祐正男) 1679-1757 79 江戸築地真宗本願寺派安養寺の知空門;  
安養寺住職、1752本山学林で選択本願念仏集講義;学林の長藤天倪・功存らと意見対立、  
のち寺務を辞し安養寺側の小庵に隠棲;念仏三昧、1719「追薦要訣」37「新選発心伝」、  
1740「一紙法語諺註」41「真宗勸誡集」48「松戸隨筆」50「蓮門詮要篇」52「僻難驗非」外著多数、  
[性均(;法諱)の字/号]字;唯阿、号;白蓮室/預死了人
- G2217 **小琴**(しょうきん;号・亀井かめい、名;友、亀井昭陽の長女) 1798-1857 60 筑前の儒(家学)・詩人;父門、  
画に長ず、1816(19歳)医者三苦復[亀井雷首]を婿にす、夫が医業の傍ら儒の講義を援助、  
「小琴詩集」著  
小琴(しょうきん・貝原) → 東軒(とうけん・貝原かめい/江崎、益軒妻) D 3 1 3 0  
升金(しょうきん・加藤) → 雀庵(じゃくあん・加藤/田中/加田、俳/隨筆) G 2 1 0 5  
承均(しょうきん;法諱) → 承均(そうきん/そく/しょうきん;法諱、法師、歌) B 2 5 1 2  
性均(しょうきん、唯阿) → 性均(せいきん、唯阿、真宗僧) B 2 4 0 5  
崇金(しょうきん) → 崇金(すうこん・すうきん;新後拾歌人) F 2 3 2 5  
昌听(しょうきん;号) → 日峰(にっぽう;道号・宗舜、臨濟僧) F 3 3 5 4  
松琴(小琴しょうきん・佐久間) → 立枝(たつえ・佐久間、女流歌人) R 2 6 5 5  
松琴(しょうきん・黒瀬) → 正親(まさちか・黒瀬くろせ/秦、神職/絵師) P 4 0 5 4  
松琴(しょうきん・本多) → 鋭子(としこ・本多ほんた、歌人/生花) W 3 1 3 8  
鐘近[入道](しょうきん[にゅうどう]) → 一方(いっぽう・篠野しの、医者/狂詩) H 1 1 9 2



- I2210 **松吟**(しょうぎん;号) ? - ? 江中期播磨高砂の俳人;雑俳点者、姫路住、  
「松雲山薬師堂奉納句集」編、1692才麿「椎の葉」入、  
[酒呑みの足出して寝る霜夜そもは哉](椎の葉;152)  
常忻(じょうきん;法名) → 持春(もちはる・細川/源、武将/歌人) B 4 4 5 6
- W2235 **常闇**(じょうあん;法諱) ? - ? 南北室町期;僧、歌人、  
1448賢良[畠山匠作亭詩歌]参加、  
[たちぞよる紅葉も菊もそれながらをられぬ筆のあとを忘れて]、  
(匠作亭詩歌;18/楓下黄菊/対するは存耕祖黙の詩)  
松吟軒(しょうぎんけん) → 能舜(のうしゆん;法諱、社僧/連歌) 3 5 3 7  
松琴斎(しょうきんさい) → 恭慶(たかよし・久郷ひささと、被官/歌人) Z 2 6 2 2  
小近舎(しょうきんしゃ) → 予(たのし・伊沢いざわ、儒詩/歌/教育) V 2 6 4 2  
松琴草堂(しょうきんそうどう) → 香雨(こうう・赤松あかまつ、商家/鑑定家) H 1 9 3 9  
鐘近入道(しょうきんにゅうどう) → 一方(いっぽう/かずまさ・篠野ささの、医/狂歌詩) H 1 1 9 2
- I2211 **紹九**(しゅうく;号・大東おおひがし、名;和忠、大東正云男)?-? 戦国安桃期奈良の連歌作者;紹巴門、  
1574多聞城の「何人百韻」執筆(明智光秀・紹巴ら参加)、1580紹巴より源氏物語を受、  
1581紹巴と「何人百韻」興行/82伊勢物語を書写し紹巴の極書を得る、  
天理本[いはやものがたり]の書写者か、1596奈良の「千句連歌」・99「何人百韻」に参加  
照矩(しゅうく・下間/安田) → 照矩(てるり・安田/下間、官人/史家) C 3 0 8 8  
昭矩(しゅうく・塩田) → 昭矩(あきのり・塩田しおだ、藩士/儒/柔術) D 1 0 7 5  
昌栩(しゅうく・飯室) → 昌栩(まさのぶ・飯室いむろ、本草家/博物) F 4 0 8 4
- G2219 **正愚**(しょうぐ、法師) ? - ? 浄土宗楞嚴りょうごん寺の僧、歌人、  
1666行風「古今夷曲集」1首入、  
[手をきかせいへばぞさぞな桶がはのわれてもそこにあはんとぞ思へ](夷曲;988/桶工)  
(本歌崇徳院;瀬をはやみ・・・/巧みな手技でたがを結うので割れても側板は底板に合う)
- I2212 **性愚**(しょうぐ;字・聖伝しょうでん;法諱)?-? 1682**存** 京の浄土僧;知恩院の万無門、京の大雲寺6世住持、  
1677大和当麻寺の[綴織当麻曼茶羅]と[当麻曼茶羅]を補修、  
1782(天和二)大飢饉に慈善事業を行う、「当麻曼茶羅修復縁起」著、1681「安心決定集」編、  
[性愚(;字)の別字/号]別字;称求しょうぐ、号;高誉  
性愚(しょうぐ;法諱) → 大巖(だいてん;道号・性愚、曹洞僧) K 2 6 7 3  
性具(しょうぐ;入道号) → 満祐(みつゆけ・赤松あかまつ/源、武将/歌) D 4 1 6 3  
勝具(しょうぐ・秋田) → 勝具(かつとも・秋田あきた/藤原、藩士) T 1 5 3 6
- G2220 **乗功**(じょうく・じょうくう・じょうこう;法諱)?-? 南北期?の僧(法師)、歌人;1364成立「新拾遺集」1693、  
[冬の夜の寒けき月に数見えてふしみの沢にわたる水鳥](新拾遺;十八雑1693)  
常矩(じょうく) → 常矩(つねり・田中、俳人) 2 9 1 2
- I2213 **丈愚**(じょうぐ;法諱、号;惟肖堂)?-? 1698**存** 讃岐丸亀の真宗大谷派善竜寺住職、  
幼時より大谷派本願寺の光従門;その命で石川丈山門、三宅鞆革斎と交流、詩人、  
1659「改悔私記」79「京師巡覧集」88「大野村両社記」、「神谷五社縁起」著  
浄愚(じょうぐ・中島) → 魚坊(ぎよぼう・中島、歌人/俳人) Q 1 6 3 0
- S2204 **性空**(しょうくう;法諱、俗名;橘たちばな方角、橘善根男)917?-1007**98?** 平安期天台僧;  
10歳で法華経を讀誦、945出家/日向霧島山で修行;諸国遊行、  
948播磨書写山に天台宗円教寺を創建、花山院の帰依;986・1002御行、  
道長・実資・公任・和泉式部・遊女宮木など多様の人が尊崇、事跡は[古事談][宝物集]等入、  
「悉地伝」「五悔文并閑居亭遺言」著、勅撰2首;新古今(1791)続後撰(1279)、  
[千年ちとせふる松だにくつる世の中にけふとも知らで立てるわれかな]、  
(新古今;雑1791/松の木の焼けるを見て)、  
[性空(;法諱)の通称] 播磨の聖はりまのびり/書写上人しよしゃしょうくにん
- V2296 **勝空**(しょうくう;法諱、) ? - ? 平安鎌倉期;南都の僧/法師、  
歌人;1237刊[檜葉集]4首入、  
[右京権大夫入道師光(1131?-?)/廷臣/1181出家)奈良の人々に廿八品の歌すすめけるに、  
提婆品の非是菩薩捨身命所為衆生故の心をよみはべりける、

- 露の身のきえにしあとをたづぬればやどらぬのべの草のはもなし] (檜葉; 釈教554)
- G2221 証空(しょうくう; 法諱、源親季男) 1177-1247 内大臣久我通親の猶子、浄土僧; 1190法然[源空]門、1198源空「選択本願念仏集」撰のとき勘文役/源空の没まで師事、慈円と親交、源空の没後に慈円より西山善峯寺の往生院(三鉢寺)を譲渡され住; 浄土宗西山派の祖、建立した寺院や門弟多数、京の遣迎院に没、「浄土安心鈔」「宗要鈔」「西山口決十ヶ条」、「観門要義鈔」「白木章」「白木念仏法語」「阿弥陀経義集」「観経定善義抄」「観経疏他筆鈔」、「浄土法語」「浄土廿七ヶ条口決」「西山義三拾箇条口決抄」外著多数、歌; 新千載集779、[光台に見しはみしかば見ざりしを聞きてぞ見つる白河の関] (新千載; 羈旅779)、(陸奥白河関を知らずに越え蓮生法師から既に越えたと聞き光台の不見を思い詠)[証空(法諱)の号/通称/諡号]号; 善慧坊/解脱房、通称; 西山上人/西山国師、諡号; 鑑智国師
- G2222 彰空(しょうくう; 法諱、上人、号; 阿月坊) ?-? 鎌倉後期浄土宗西山派僧/歌人、新後撰1615/続千載1021、[一声もかかるうき身に嬉しきは捨てぬ仏の誓ひなりけり] (新後撰; 1615; 異本歌/詞書; 歓喜至一念、皆当得生彼)
- G2223 承空(しょうくう; 法諱、宇都宮泰綱男) ?-? 1302存 鎌倉後期の浄土宗西山派僧/歌人、蓮生(頼綱)の孫、宇都宮歌壇の中心の蓮愉(景綱)の兄弟、小町集・曾丹集など私家集書写、続千載1747、[秋来てもとはれずとてや津の国の生田の森に鹿の鳴くらん] (続千載; 雑1747)、[承空(法諱)の別法諱/通称]別法諱; 玄観、通称; 西山長老
- G2224 照空(しょうくう; 昭空しょうくう; 法諱、上人) ?-? 鎌倉後期; 浄土宗西山派僧/歌人、続現葉集入、続千載979(詞書; 日想観、応当専心繫念一処)、[ゆふづくひ入江の葦の一筋に頼む心は乱れざりけり] (続千; 釈教979)
- W2244 証空(しょうくう; 法諱、上人) ?-? 鎌倉末後期; 真言高野山住僧、徒然草106段; 上京中に女人の乗る馬の口曳き男との口論の逸話入、[花園院宸記]元応二(1320)九月条「隆蔭を以て秘蔵宝鑰や論等を進ず」の証空と同一?
- G2225 清空(しょうくう; せいくう; 法諱、上人) ?-? 南北期浄土僧; 浄金剛院覚勸坊の住僧、歌人; 13346成立「風雅集」(2005)/新続古今集(1288)、[置く露もひとつ蓮はちすに結べとや煙もおなじ野辺に消ゆらん]、(後伏見院遺誡で逝去後骨を従三位守子墓所に並べおく時の詠)、[清空(法諱)の通称] 覚勸坊
- U2291 昇空(しょうくう; 法諱、) 1766-182459 伊勢度会郡西光寺13世、国学; 本居宣長門  
 性空(しょうくう; 法諱) → 天嶺(てんれい; 道号・性空; 法諱、臨濟僧) E 3 0 6 0  
 祥空(しょうくう; 法名) → 公敦(きんあつ・三条/転法輪三条、歌人) Q 1 6 6 4  
 紹空(しょうくう; 法名) → 公兄(きんえ・三条/正親町三条、聯句) Q 1 6 6 7  
 紹空(しょうくう; 号) → 隆円(りゅうえん; 法諱、浄土僧/国学) M 4 9 3 5  
 照空(しょうくう; 字・如日) → 空阿(くうあ; 号、真言僧/俳/歌) 1 7 3 2  
 照空(しょうくう; 字) → 暢意(ちやうい; 法諱・照空、西山派深草流浄土僧) H 2 8 1 6  
 蕉空(しょうくう; 号) → 暘山(ようざん; 道号・楚軾; 法諱、臨濟僧/勤王) B 4 7 0 6
- W2227 浄空(じょうくう; 法諱、) ?-? 鎌倉中期; 僧/詩人、1253(建長5)定家13回忌追善詩歌(為家勸進)に詩入、[最初塵数三千 以後師承十六人] (定家追善詩歌二十八品並九品; 化城喻品15)
- G2226 貞空(じょうくう; 法諱、通称; 浄金剛院定観坊) ?-? 鎌倉期浄土宗西山派僧; 上人、歌人/勅撰2首; 1303成立「新後撰集」1513/風雅集1527、[君も又契りありてやたかの山そのあかつきを共に待つらん]、(新後撰; 1513/大宮院逝去後高野山に納める時の歌)
- G2227 浄空(じょうくう; 法諱、俗姓; 鈴木) 1693-177583 下野舟津川の真言僧; 1705(13歳)観照門; 出家、1709(17歳)叔父海浄門/10智積院入; 頭密二教修学、報恩寺流; 長谷寺の宣範門、安祥寺流; 実詮門、1725帰郷/56幕命で江戸円福寺住職/59京智積院20世能化; 権僧正、

1761僧正/1766退隱、1719「減縁減行再暉論游刃」21「指要鈔詳解通釈」、「禪余筆陳」著、  
1766「成仏示心」69「大日経奥疏聴要記」、「付法実録」「俱舍執中」「草山集解」外著多数、  
[浄空(；法諱)の字/号]字；慈潭じたん、号；白壊/法国

静空(じょうくう；法名) → 実房(さねふさ・三条/転法輪三条、左大臣/歌) 2 0 4 5

静空(じょうくう；初法諱) → 実融(じつゆう；法諱・満月；字、真言僧) V 2 1 1 0

乗功(じょうくう；法諱) → 乗功(じょうく・じょうこう；法諱/歌人) G 2 2 2 0

浄空(じょうくう；法名) → 経親(つねちか・平たいら、廷臣/歌人) C 2 9 4 8

浄空(じょうくう、1449出家) → 雅永(まさなが・飛鳥井、歌人) F 4 0 1 6

浄空(じょうくう；号) → 恬澄(てんちやう・浄空、浄土西山派僧) E 3 0 0 8

浄空(じょうくう；法諱) → 仏肝(ぶつかん；道号・浄空、黄檗僧) H 3 8 4 4

常空(じょうくう；法名) → 師冬(もろふゆ・今小路/藤原、大納言/歌) H 4 4 9 1

霄空院(じょうくういん) → 尚長(なおなが・永井、藩主/詩文) B 3 2 9 4

性空金剛院(じょうくうこんごういん) → 亮珍(りやうちん；法諱、天台僧正) I 4 9 9 5

翔岨堂(じょうぐどう) → 淙庵(そうあん・津村/円、商家/隨筆/歌) 2 5 4 7

照空房(じょうくうぼう；号) → 慈観(じかん；法諱・玄道；字、新義真言宗学僧) B 2 1 4 3

勝俱胝院僧都(じょうぐぢいんのそうず) → 実運(じつうん；法諱、真言僧/座主) U 2 1 4 3

正九郎(じょうくろう・野田) → 五升(ごしょう・野田まつだ、俳人/教育) R 1 9 1 1

庄九郎(じょうくろう・山崎屋/松波) → 道三(どうさん・齋藤、戦国武将) E 3 1 6 8

庄九郎(じょうくろう・河村) → 秀世(ひでよ/ひでつぐ・河村、藩士/歌人) E 3 7 0 8

庄九郎(じょうくろう・松平) → 義隆(よしたか・松平まつだいら/源、幕臣/和学) P 4 7 1

庄九郎(じょうくろう・細谷) → 一井(いっせい・細谷、俳人) H 1 1 4 2

庄九郎(じょうくろう・榎並) → 貞因(ていゐん・榎並/永田/鯛屋、俳人/狂歌) 3 0 0 1

庄九郎(じょうくろう・那波/吉川) → 五明(ごめい・吉川、商家/俳人) D 1 9 9 3

庄九郎(莊九郎じょうくろう・荻野/斎藤) → 彦磨(ひこまる・斎藤/藤原、藩士/国学) 3 7 0 3

勝九郎(じょうくろう・三輪) → 月底(げつゐ・三輪みわ、大工/俳人) H 1 8 2 6

勝九郎(じょうくろう・村井) → 古道(こどう・村井むらい、医/俳人/地誌) D 1 9 4 1

勝九郎(じょうくろう・中根) → 忠富(ただとみ・中根なかね、藩士/家老/歌) Y 2 6 5 8

城九郎(じょうくろう) → 泰盛(やすもり・安達あだち、武将/幕府実権) D 4 5 3 0

G2228 聖訓(じょうくん・伊藤いとう) ? - ? 漢学者、清田儋叟甥、

1768儋叟「孔雀楼筆記」跋文(高田潤・堀栄吉・窪田恭と共同で校正)、

1769儋叟「藝苑談」跋文

聖薫(じょうくん；法諱) → 自南(じなん；道号・聖薫、臨濟僧) V 2 1 3 8

昌訓(じょうくん・小幡) → 昌訓(まさのり・小幡おばた、神職/国学) O 4 0 2 0

松薫(じょうくん；法諱・天南) → 天南(てんなん；道号・松薫、曹洞僧) E 3 0 1 1

V2261 貞薫(じょうくん；法諱) ? - ? 江前期；尼僧/歌人、

1670下河辺長流[林葉累塵集]入、

[はじめてかしらおろしける時、

我もこのあまの川瀬にすすぎてし墨の衣をまたはげがさじ](林葉累塵；雑1186)

常訓(じょうくん・新渡戸) → 十次郎(じゅうじろう・新渡戸にとべ、藩士) X 2 1 6 0

常勳(じょうくん；法名) → 永親(ながちか・冷泉/高倉、廷臣/歌人) E 3 2 2 4

笑訓亭(じょうくんでい) → 春友(しゅんゆう・為永ためなが、北野/小高/鈴木、戯作者) K 2 1 5 5

I2214 昭訓門院(じょうくんもんいん、瑛子えいし、太政大臣西園寺実兼女) 1273-1336<sup>64</sup> 母；中院顕子、

1301亀山院仙洞御所入/院妃、従三位/女院、恒明親王の母、1305院崩御；出家；真性覚、

兄西園寺公衡と恒明の皇位に尽力；後宇多天皇の反対で挫折、女房に歌人多数

昭訓門院春日(じょうくんもんいんのかすが・鎌・南北期歌人) → 公宗母(きんむねのはは) 6 5 7 3

昭訓門院小督(じょうくんもんいんの小こどう・鎌・南北期歌人) → 小督(こどう) C 1 9 5 0

昭訓門院権大納言(じょうくんもんいんのごんだいなごん) → 大納言(だいなごん・昭訓門院、歌人) B 2 6 9 6

昭訓門院新大納言(じょうくんもんいんのしんだいなごん) → 新大納言(しんだいなごん) 2 2 5 6

昭訓門院大納言(じょうくんもんいんのだいなごん) → 大納言(だいなごん・昭訓門院、歌人) B 2 6 9 6

昭訓門院冷泉(じょうくんもんいんのれいぜい) → 大納言(だいなごん・昭訓門院、歌人) B 2 6 9 6

- 将軍門跡(しょうぐんもんぜき)→ 賢俊(けんしゅん、真言僧/歌/連歌) D 1 8 8 6  
 将軍門跡(しょうぐんもんぜき)→ 満済(まんさい/まんせい、真言僧/門跡/歌) 4 0 3 6
- G2229 証瓊(しょうけい) ? - ? 奈良期西大寺三綱の1(外は勝伝・長良)、  
780「西大寺資財流記帳しぎるきちよう」(西大寺資材帳)三綱の共著
- V2287 承慶(しょうけい;法諱、) ? - ? 平安鎌倉期;南都の僧/法師、  
[光明院月次の歌の中に、  
こずゑにはそそくとみゆる春雨のまだつゆおちぬ花のしたかげ](檜葉;雑772)
- Q2296 聖罔(しょうけい;法諱・上人、常陸岩瀬城主白石宗義[or義光]男)1341-1420(応永27)80 浄土僧、  
常陸常福寺の了実門;出家、のち蓮勝・定恵門;浄土宗義を修学、常福寺住、宗義確立に尽力  
浄土宗の僧侶養成のため五重伝法を制定、1415聖聡の招聘で江戸小石川草庵に移住、  
のち草庵を伝通院と称す、同所に没、歌学、「五重指南目録」「浄土伝戒論」「古今集序註」、  
「禅林小歌」(戯文)、「日本書紀私鈔」「本云文集」「和歌註解」「集疑罔決集」外著多数、  
[聖罔(;法諱)の法名/通称]法名;了誉/西蓮社了誉、通称;罔師/三ヶ月上人
- I2215 小溪(しょうけい;道号・紹怱(じょうふ/しやうふ;法諱、俗姓菅原)1475-153662 京臨濟僧;大徳寺悦溪宗悟門、  
悦溪の法嗣、1525大徳寺86世住持、32後奈良天皇より禅師号を受、  
のち畠山義綱を開基に大徳寺内に興臨院を開創、「小溪和尚録」著、  
[小溪紹怱の号] 清拙道人/仏智大通禅師
- G2230 正慶(しょうけい;法諱) ? - ? 1557存 京の天台宗遣迎院住僧、  
1557後奈良院逝去の際の拾骨に参列;「後奈良院御拾骨記」著
- I2216 正慶(しょうけい・浅井あさい備前守)?-? 近江守護/連歌;1561自邸連歌興行催;  
谷宗養・里村昌休共著「連歌天水抄」入
- I2217 正慶(しょうけい;号・桜井) ? - ? 江初期連歌作者:1607「正慶独吟千句慶長十二年」、  
1608「慶長十三年正慶独吟千句」、1617「正慶独吟何路百韻」
- I2218 清慶(しょうけい;法諱) 1638 - ? 大和興福寺の法相僧:1646(9歳)受戒、  
1659-62「法相名目」十六帖を書写(4年間)、1597「法相」著
- I2219 昌圭(しょうけい) ? - ? 尾張の俳人;  
1686「春の日」9句入(荷兮発句第一歌仙に参加;7句)、  
[暁の夏陰なつかげ茶屋の遅きかな](春の日;夏/街道の木陰の出茶屋は真昼に繁昌する)
- I2220 性慶(しょうけい;法諱・義瑞(ぎずい);字、井上常康男)1667-173771 母;近江大溝藩士小野寺秀令女、  
近江の天台僧:1672(6歳)園城寺亮慶門/1675慶元門;得度、さらに宥雅・妙立・宗覚門、  
学律の普及に尽力;法明寺を再興し園城寺律院とす、同門霊室と往復論難、1696退隠、  
1688「入疏題号辨」97「円戒答問」1703「法華弘伝序集註」1716「境観二千酬」、  
1726「正名辨偽録」28「即心念仏談義本辨疑」29「法華略疏筆記」33「内外境観十不章」外著多
- Q2229 笑慶(しょうけい) ? - ? 江前期俳人;1691不角「二葉之松」入(431)、  
[十ウのもの九ツ習ふ師の末期まご](二葉之松;431/九割習ったところで亡くなられた)
- I2221 松溪(しょうけい・佐善(さぜん/本姓;源、医者佐善松林男)1704-73 因幡鳥取の生/佐善雪溪の養嗣子、  
儒者;養父門/養父を継嗣;伊勢津藩藤堂家の儒者(藩儒)/久居藩を兼任、月溪の父、  
江戸住;晩年1772(明和9)目黒行人坂の大火に罹災;蔵書すべて焼失、  
1727「日光道の記」著、  
[松溪(;号)の名/通称]名;元熙もとひろ、通称;小次郎/源之丞
- G2231 昌桂(しょうけい・里村(さとむら;南家、名;景修、別号;隠意軒、昌迪男)1733-8856 連歌師、幕府連歌宗匠
- G2232 松兄(しょうけい;号、義海(ぎかい;法諱)1767-1807 尾張名古屋の真宗本願寺派正覚寺10世、  
俳人:暁台・士朗門、国学;本居宣長門、「名なし草」編、1794-97「枇杷園句集」99「凸凹」編、  
[松兄(;号)の別号] 木犀居
- S2294 松逕(しょうけい・牲川(にえかわ)? - ? 江中期;歌人;武者小路家門、風客、  
1798刊広通「霞関集」入、  
[せきいるる水を心にまかすらし河ぞひ小田の賤がなはしろ](霞関;春182/苗代)
- I2222 松径(しょうけい;号・湖翠;号)?-? 江後期俳人;乙二門/一具・星布らと交流、  
1814「むすひふくさ」著
- I2223 松溪(しょうけい・佐藤(さとう、名;延昌、青山延于男)1811-5343 佐藤中陵の養嗣子、江戸の儒者/絵師、

1838(天保9)水戸藩に出仕、「松溪文集」「楷書類聚」「皇朝書画譜」「点画奇賞」「詩稿」、  
「天保追鳥狩図」「日光從駕記事附図」/1844「武器図説」著、  
[松溪(；号)の字/通称]字；仲卿、通称；量平/量二郎

I2224 **尚綱**(しょうけい・宮下みやした、名；茂武、善右衛門男)1814-7158 松代藩士/儒；藩儒竹内錫命門、  
のち昌平黌儒官佐藤一斎門、1827私塾弘道館を開き教授、  
1838藩命で佐久間象山後任として月次講釈担当；20余年間城中で経学を講ず、  
1852藩校文武学校の文学会頭、「尚綱詩文集」「学庸傍註」「詩書傍註」「論孟傍註」著、  
[尚綱(；号)の字/通称]字；君毅、通称；主鈴/有常

U2273 **松溪**(しょうけい・奥村おくむら、通称；半治)1829-6638 近江甲賀郡三雲村で針を業のとなす、  
村塾を開設；子弟教育、詩歌絵画を嗜む/歌；[鴉のうみ]入

V2216 **松桂**(しょうけい・西川にしかわ、通称；勝助)1843-191472 近江神崎郡の書肆、歌人；[鴉のうみ]入、  
近江蒲生郡住

- |                   |   |                             |           |
|-------------------|---|-----------------------------|-----------|
| 小溪(しょうけい；号)       | → | 永雄(えいゆう；法諱・英甫、臨濟僧、近世狂歌祖)    | 1 3 0 5   |
| 小溪(しょうけい；号)       | → | 聞中(もんちゅう；道号・浄復；法諱、黄檗僧)      | I 4 4 6 6 |
| 小卿(しょうけい・篠原)      | → | 笠山(りゅうざん・篠原しのはら/風早、藩士/儒/兵学) | E 4 9 2 4 |
| 聖罔(しょうけい)         | → | 聖罔(せいがい、了誉、浄土僧)             | 2 4 0 7   |
| 祥啓(しょうけい；法諱)      | → | 賢江(けんこう；道号・祥啓、絵師/臨濟僧)       | I 1 8 6 3 |
| 祥卿(しょうけい・樋口)      | → | 蘭腕(らんえん・樋口ひぐち、藩士/新田開発)      | B 4 8 5 8 |
| 祥卿(しょうけい・中/中村)    | → | 緑泉(りよくせん・中村/中、酒造業/詩人)       | J 4 9 7 9 |
| 正慶(しょうけい、靈翁)      | → | 正慶(しょうきやう、靈翁、真宗本願寺僧)        | I 2 2 0 3 |
| 正慶(しょうけい)         | → | 恵瓊(えいけい；法諱・瑤甫、臨濟僧/外交)       | D 1 3 7 5 |
| 正景(しょうけい；法諱)      | → | 正広(しょうこう；法諱、歌僧)             | S 2 2 0 9 |
| 正珪(しょうけい・曲直瀬まなせ)  | → | 雲夢(うんむ・越智、幕府医/儒者)           | E 1 2 0 6 |
| 紹慶(しょうけい・里村)      | → | 昌寅(しょういん・里村、幕府連歌師)          | F 2 2 1 8 |
| 尚経(しょうけい・九条)      | → | 尚経(ひさつね・九条/藤原、関白/記録)        | B 3 7 3 9 |
| 尚綱(しょうけい・蜂屋)      | → | 定章(さだあき・蜂屋はちや、幕臣/和算家)       | H 2 0 6 3 |
| 尚綱(しょうけい・三宅)      | → | 帯刀(たてわき・三宅みやけ、国学者)          | G 2 6 2 9 |
| 尚綱(しょうけい・松本)      | → | 尚綱(なおあや・松本、家老/儒者)           | 3 2 6 8   |
| 尚綱(しょうけい・鍋島)      | → | 直条(なおえだ・鍋島、藩主/詩歌)           | 3 2 7 7   |
| 尚綱(しょうけい；法諱)      | → | 誓鎧(せいがい；法諱、真宗本願寺派僧)         | H 2 4 7 3 |
| 尚綱(尚綱しょうけい・船曳)    | → | 子錦(しきん・船曳ふなびき、医者)           | B 2 1 1 4 |
| 尚綱(しょうけい・甘粕)      | → | 継成(つぐしげ・甘粕/甘糟、藩士/史家)        | 2 9 7 1   |
| 尚綱(しょうけい・与謝野)     | → | 禮巖(れいがん；法諱・与謝野よさの/細見、真宗僧)   | B 5 1 5 9 |
| 尚卿(しょうけい・中島)      | → | 積水(せきすい・中島/中嶋なかじま、藩儒)       | K 2 4 2 8 |
| 昌慶(しょうけい・塩川)      | → | 秀満(ひでみつ・塩川、武将/城主/連歌)        | D 3 7 8 9 |
| 昌景(しょうけい)         | → | 惟賢(いけん/ゆいけん；法諱、天台僧/歌人)      | 1 1 8 1   |
| 昌経(しょうけい・逸見)      | → | 昌経(まさつね・逸見へんみ/瀬尾/源、武将/城主)   | E 4 0 0 2 |
| 昌卿(しょうけい・高橋)      | → | 華陽(かやう・高橋たかはし/修姓高、儒者)       | H 1 5 5 3 |
| 性瑩(しょうけい・独湛)      | → | 独湛(どくたん；道号・性瑩；法諱、黄檗僧)       | L 3 1 2 0 |
| 笙溪(しょうけい・佐藤)      | → | 政養(まさやす・佐藤さとう、蘭学/測量)        | I 4 0 1 0 |
| 松溪(しょうけい・鈴木)      | → | 順亭(じゅんてい・鈴木、儒医/国学)          | K 2 1 3 1 |
| 松溪(しょうけい)         | → | 清春(きよはる・菱川、絵師)              | Q 1 6 1 7 |
| 松溪(しょうけい・苗村)      | → | 子柔(しじゆう・苗村むら/苗、医者/国学)       | T 2 1 6 6 |
| 松溪(しょうけい・大島)      | → | 常一(つねかず・大島おおしま、松溪、藩士/歌)     | E 2 9 9 6 |
| 松溪(しょうけい・雛田)      | → | 中清(なかきよ・雛田ひなだ、神職/国学/歌)      | L 3 2 1 6 |
| 松溪(松経/正圭しょうけい・木沢) | → | 尚貞(なおさだ・木沢きざわ/並河、医者/歌)      | 1 3 2 8 1 |
| 松谿(しょうけい・住友)      | → | 友善(ともよし・住友すみとも、金融業/歌)       | Q 3 1 9 9 |
| 松桂(しょうけい・山田)      | → | 梅東(ばいとう・山田やまだ/清水/源、神職/儒者)   | B 3 6 8 7 |
| 松径(しょうけい・土井)      | → | 髻牙(ごうが・土井どい、藩儒)             | E 1 9 9 0 |
| 松径(しょうけい・藤島)      | → | 宗順(むねのぶ・藤島、神職/歌人)           | C 4 2 1 4 |

松径(しょうけい・神谷) → 道一(みちかず・神谷かみや、国学/史家) I 4 1 7 0  
 松逕(しょうけい;号) → 宗山(しゅうざん;道号・等貴;法諱、臨濟僧) X 2 1 3 9  
 松契(しょうけい・江邨) → 磊堂(らいどう・江邨えむら/田中、藩医) 4 8 8 7  
 松卿(しょうけい・服部) → 泰庵(たいあん・服部はつとり、医者) J 2 6 0 3  
 松卿(しょうけい・井上) → 残夢(ざんむ・井上いのうえ、藩士/詩人) M 2 0 7 9  
 松卿(しょうけい・佐竹) → 義茂(よしげ・佐竹さたけ、藩士/詩文) D 4 7 6 3  
 昭慶(しょうけい・竹田) → 定盛(じょうせい・竹田、医者/歌/能楽) O 2 1 2 4  
 昭卿(しょうけい・佐伯) → 鍾山(しゅうざん・佐伯ささき、藩儒/詩) J 2 2 2 4  
 紹恵(しょうけい・二条) → 尹房(ただふさ・二条にじょう、関白/日記) F 2 6 7 5  
 紹恵(しょうけい・桑山) → 元稠(もとしげ・桑山、幕臣/日記) C 4 4 6 1  
 紹卿(しょうけい・服部/服) → 寛斎(かんさい・服部はつとり、幕臣/儒) H 1 5 5 8  
 璋圭(しょうけい・奥村) → 栄登(てるのり・奥村、医/儒詩) C 3 0 8 6  
 樟溪(しょうけい・福村) → 履正(ふみまさ・福村ふくむら、絵師) E 3 8 0 3  
 章圭(しょうけい・白鳥) → 巖勝(げんじょう;法諱・白鳥しらとり、真宗僧/歌) N 1 8 8 0  
 章卿(しょうけい・近藤) → 南門(なんもん・近藤、儒者/刀剣鑑定) 3 2 3 9  
 章卿(しょうけい・林) → 晋軒(しんけん・林、読耕斎男/幕府儒官) D 2 2 9 3  
 章卿(しょうけい・石山) → 瀛洲(えいしゅう・石山いしやま、医者/詩歌) C 1 3 9 2  
 章卿(しょうけい・安部井) → 帽山(ぼうざん・安部井あべい/安田、藩儒) B 3 9 2 0  
 章卿(しょうけい・清水) → 赤城(せきじょう・清水しみず、兵学者/随筆) D 2 4 5 7  
 章卿(しょうけい・稲岡) → 秋平(あきひら・稲岡いなおか、藩医/歌人) H 1 0 0 3  
 承卿(しょうけい・松平) → 勝当(かつまさ・松平まつだいら、藩主/武芸) N 1 5 8 8  
 承卿(しょうけい→しょうきょう・村上) → 忠順(ただまさ・村上、医者/国学/歌) F 2 6 8 6  
 承卿(しょうけい・大菅) → 休(やすむ・大菅おおすが/森下、藩儒) D 4 5 1 8  
 承慶(しょうけい・柴田) → 弘器(ひろき・竜廻屋・柴田、藩医/狂歌) F 3 7 7 5  
 承慶(しょうけい・梶谷) → 守典(もりり・梶谷かじたに、医者/国学) J 4 4 6 5  
 承慶(しょうけい・梶谷) → 守濟(もりずみ・梶谷かじたに、医者/国学) J 4 4 6 8  
 少卿(しょうけい・松平) → 寒松(かんしょう・松平、藩家老/詩歌) H 1 5 6 8  
 少卿(しょうけい・狩谷/津軽屋) → 懐之(かねゆき・狩谷かりや、商家/和漢学) P 1 5 0 3  
 升卿(しょうけい・城) → 鞠洲(きくしゅう・城じょう、医者) K 1 6 1 0  
 将卿(しょうけい・松田) → 芹斎(きんさい・松田まつだ、医者) Q 1 6 9 6  
 捷徑(しょうけい・木暮) → 宗敏(むねとし・木暮こぐれ/小久保、歌人) D 4 2 8 2  
 翔卿(しょうけい・曾根) → 寸斎(すんさい・曾根そね、藩士/篆刻) H 2 3 2 9  
 照卿(しょうけい・結城) → 香崖(かぎがき・結城ゆうき、藩儒/詩) G 1 9 2 1  
 勝敬(しょうけい・土方) → 勝敬(かつよし・土方ひじかた/源、幕臣/奉行) S 1 5 8 3  
 蕭卿(しょうけい・梅) → 明拳(めいきよ・梅ばい、詩人/俳人) 4 3 1 1  
 樵溪(しょうけい・野間) → 成式(せいしき・野間のみ、幕臣/医者) I 2 4 5 7  
 樵溪(しょうけい・長山) → 忠敏(ただとし・長山ながやま、商家/歌人) Y 2 6 7 3

I2225 貞慶(じょうけい;法諱、初諱:長慶)866-? 908存 平安前期の真言僧;聖宝門/両部大法を受、  
 908寛平法皇より東寺灌頂院で両部灌頂を受、大僧都:洛東神楽岡に隠棲、  
 「金剛界十疑」「金剛界念誦次第私記」「金剛界略念誦私記」「胎藏界略念誦私記」外著多数

S2205 貞慶(じょうけい、藤原貞憲男)1155-121359 通憲(信西)の孫/平安末鎌倉期京の法相僧:  
 笠置の学僧、1162興福寺入;叔父覚憲門/法相・俱舎・律を修学/65授戒;  
 以後20年興福寺に修学、当時の僧俗の浮薄を厭い;1193山城笠置寺に隠棲;  
 同寺に般若台を創建、1204竜華会催行、弥勒信仰の流布に努力/1208山城海住山寺に移居、  
 南都旧仏教復興に尽力、光憲・貞覚(権大僧正)・実玄・貞円の兄弟、増弁の師、「表白集」著、  
 1196「欣求靈山講式」1201「弥勒講式」「観音講式」/12「明要抄」、「愚迷発心集」外著多数、  
 歌人/勅撰6首:続後撰(1124/1141)続古今(4首795/863/1517/1708)、檜葉集入  
 [あけくれは心にかへし草の庵いほの雨のうちをぞ思ひ知りぬる]、  
 (続後撰;雑1124/廬山雨夜草庵中を長年思いやっていたが隠棲後に知る)、  
 [いにしへはふみみしかどもしらゆきのふかきみちこそあともおぼえね]、

(続古今795/山階寺別当信憲の宝積院卅講を雪中に聴聞した時増弁に問われての答え、1237刊檜葉集545に入)、

[貞慶(；法諱)の通称]解脱房/解脱上人/笠置上人/侍従已講

I2227 **定珪**(じょうけい・竹田たけだ、定祐男/本姓;藤原)?-1550 戦国期京の医者;南北朝以後京の医の名家、法印、天文1532-55年間將軍足利義輝が選んだ良医五人の第二に列す、「薬雅」著、定加の父  
[定珪(；名)の幼名/号]幼名;亀鶴丸、号;清誉/瑞竹、法名;了光

V2242 **常慶**(じょうけい・楽らく、田中宗慶2男) 1536?-1635長寿100歳? 京の陶工;楽吉左衛門家の2代当主、兄(または息子);長次郎(庄左衛門宗味)と混同される、白釉を導入、楽家の基礎を築く;將軍秀忠より[楽]印を拝領、本阿弥光悦に製作技法を伝授;光悦作の大量の楽茶碗あり、長男の道入のんこうが楽家3代を継嗣、1633重頼「犬子えの集」入集の宗味と同一?  
作品;黒楽茶碗[黒木]/赤楽茶碗[菊之絵赤楽茶碗]/黒楽茶碗[ホトギス][鉄拐]など、  
[常慶(；名)の通称/号]通称;吉左衛門、号;宗味

G2233 **浄恵**(じょうけい・随有軒ずいゆうけん、姓;内海?)?-? 江戸前期歌人;

1695(元禄8)「釈教題林和歌集」編(京の内海与兵衛版)、1722松堅[倭譚五十人一首]入、  
[薄氷今朝とちそめて浮草もさそはぬ水に冬は来にけり](倭譚五十人一首;11/初冬)

G2234 **浄慶**(じょうけい、安路の翁) ? - ? 江戸期歌人;

1780?「浄土門古歌抄じょうどもんこかしょう」珍遵と共撰;1779序(浄慶母の菩提のための釈教撰集)

浄桂(じょうけい・法名) → 遠忠(とのおだ・十市、武将/歌人) I 3 1 6 3

浄敬(じょうけい;号) → 以直(もちなお・富岡とみおか、商家/心学者) B 4 4 5 1

常卿(じょうけい・亀井) → 其考(きこう・亀井かめい、俳人) F 1 6 3 3

常景(じょうけい・坂上) → 常景(つねかげ・坂上さかのうえ、廷臣/歌) B 2 9 8 4

常経(じょうけい・成尾) → 常経(つねのり・成尾なるお、藩士/歌人) G 2 9 1 1

讓敬(じょうけい・村上) → 忠幹(ただもと・村上むらかみ、藩医/歌人) Z 2 6 8 9

縄卿(じょうけい・縄/三縄) → 桂林(けいりん・三縄みなわ/縄じょう、儒/詩) E 1 8 9 4

仍景(じょうけい→なおかげ・里村) → 昌叱(しょうしつ・里村、南家の祖/連歌師) 2 2 2 6

祥慶院(じょうけいいん) → 素範(そはん;号/義宝、融通念仏僧) K 2 5 3 6

照桂院(じょうけいいん) → 照子(てるこ・松平まつだいら/保科、歌/書) F 3 0 2 5

常敬院(じょうけいいん) → 常友(つねとも・遠藤、藩主/歌人) C 2 9 7 0

松桂园(じょうけいえん) → 豊洲(ほうしゅう・陰山かげやま、儒者/詩人) B 3 9 4 5

象形館(じょうけいかん) → 梅岳(うめがく・海野うんの、高橋/絵師) 3 6 8 6

尚綱斎(じょうけいさい) → 芳洲(ほうしゅう・雨森あめのもり) 3 9 5 6

尚綱斎(じょうけいさい) → 武信(たけのぶ・竹内たけうち、和算家) O 2 6 5 8

尚襲舎(じょうけいしゃ) → 連胤(つらたね・鈴鹿/中臣/卜部、神職/国学) E 2 9 4 1

I2229 **聖恵親王**(じょうけいしんのう、白河天皇第5皇子) 1094-113744 真言宗仁和寺僧;

1104(11歳)仁和寺成就院寛助僧正門;出家/1112観音院で両部灌頂を受/華蔵院を創設、華蔵院流を樹立/1127三品/30高野山入;覺鑊かくばん門/帰京後鳥羽上皇に伝法院宮興を奏請、高野山に引撰院を創建、「花蔵院抄」「花蔵院宮御記」「息災護摩次第」著、

[聖恵(；法諱)の号/通称]号;長尾宮、通称;華蔵[花蔵]かぞう院宮、

尚綱堂主人(じょうけいどうしゅじん) → 文雄(もんゆう;法諱、浄土僧/語学者) I 4 4 3 6

I2230 **正慶尼**(じょうけいに、三好みよし、名;雪、木津屋五郎兵衛女) 1729-180678 大阪長堀の薬種商の生、

大阪の三好家の養女、書画;柳沢淇園門、歌・俳諧を嗜む/擊劍・拳法を修得、

義侠心に富む:歌舞伎「奴の小万」のモデル、禁中長橋局に奉仕;禁中の故実に通ず、

剃髪/法名;正慶/月江寺に住、晩年は難波村に隠棲、「大内の御事見聞の次第」著、

歌;蜂屋光世「大江戸倭歌集」入(雪女名)、

[神無月木梢まばらになりけり紅葉吹きまく山おろしの風](大江戸倭歌;風前落葉)

[逢見ての後は思ひの増鏡くもりがちなる我が思ひかな](同;恋1462/増恋)

I2231 **昭慶門院**(じょうけいもんいん・名;喜子きし、龜山天皇皇女) 1273-132452 鎌倉期1293内親王/96三宮:院号、

「昭慶門院御屏風押色紙おしきし」(1306藤原為子[権大納言局]筆?) (昭慶門院の歌はない)

昭慶門院一条(じょうけいもんいんのいちじょう) → 一条(いちじょう・昭慶門院/歌人) B 1 1 1 9

尚綱楼(じょうけいろ) → 義方(よしかた・三浦みづら/田丸、医者) P 4 7 2 8

- 勝解院(しょうげいん;諡号)→ 僧叡(そうゑい、真宗本願寺派僧) G 2 5 2 0  
勝潔(しょうけつ→かつきよ・板倉/中嶋)→ 隆功(たかこと・中嶋、幕臣;領主/日記) L 2 6 8 7
- G2235 松月(しょうげつ・渾沌斎、藤氏;藤原?)?-? 江戸前中期の語学者、  
1688「浮世呉竹」(内題;当世嘉多言浮世呉竹)、「和字便覧」編(1776刊)
- I2232 嘯月(しょうげつ;号) ? - ? 江中期備後田房の俳人、芭蕉の山里塚を建立、  
1748「寂照忌追善哥僊」79「山里塚」編、1774蝶夢「類題発句集」入
- G2236 招月(しょうげつ・小野おの、名;達いたる、忠兵衛男) 1767-183266 備中浅口郡長尾村農業(豪農)、  
儒学;西山拙斎門、詩文;菅茶山門、歌;澄月・慈延門、頼春水・山陽・伴高蹊と交流、  
「社友詩律論」編、1828「拙斎詩鈔」校訂(中原蕉斎と)、「招月亭詩鈔」「竹雨斎詩鈔」著、  
兄;櫟翁れきおう、甥;務つとむ、後妻;照子(1784-1857/歌人;木下幸文門)、  
[招月(;号)の字/通称/別号]字;泉蔵、通称;熊吉、別号;招月亭/樗山ちよざん、  
屋号;桜本、法号;仁光樗山居士
- 松月(招月しょうげつ) → 正徹(しょうてつ;法諱・清巖せいがん;道号) 2 1 9 7  
松月(しょうげつ・木村) → 市明(しめい・木村きむら、商家/俳人) V 2 1 7 9  
松月(しょうげつ・岩谷) → 円松(えんしょう;法諱・岩谷いわや、僧/歌) T 1 3 9 0  
松月(しょうげつ;号) → 慶山(けいざん;法諱、真宗僧/歌人) N 1 8 7 5  
松月(しょうげつ・山中) → 恵美子(えみし・山中やまなか/島崎、歌人) U 1 3 2 4  
招月(しょうげつ) → 好仁親王(よしひとしのう・高松宮、連歌) G 4 7 4 7  
招月(しょうげつ・野村) → 望東尼(ぼうとうに/もとに・野村/浦野、歌人) 3 9 5 7  
照月(しょうげつ) → 重里(しげさと・谷口たにくち、歌人) Z 2 1 4 1  
嘯月(しょうげつ) → 利徳(としなり・土井どい/源、藩主/歌人) N 3 1 3 3  
嘯月(しょうげつ) → 時量(ときかず・平松/平、廷臣/日記) I 3 1 9 7  
証月(勝月しょうげつ・上人) → 慶政(きやうしやう、天台僧/歌人) C 1 6 5 9  
蕉月(しょうげつ) → 四山(しざん・愛敬あいぎやう、儒/詩人) T 2 1 6 0  
賞月(しょうげつ・山泉堂) → 賞七(しょうしち・清水、歌舞伎作者) J 2 2 4 2
- I2233 定月(じやうげつ;法諱) 1687or88-177185or84 伊勢二見度会郡の浄土僧/12歳:西光寺定祐門;出家、  
江戸増上寺で修学:経倉司として欠本を黄檗本で補充、東漸寺・常福寺・伝通院歴任、  
1756江戸増上寺方丈46世;大僧正、仏画に長ず/風流な文化人、  
1728「天台戒体明燈章」49「獅子絃」/「善男善女五重相伝」「法門筆記」「論註千百年眼」著、  
[定月(;法諱)の法名]妙誉/道阿/観蓮社妙誉道阿
- G2237 浄月(じやうげつ;法諱、俗姓;山崎) 1760-183475 武州多摩郡谷野の真言宗真浄寺14世、律師、歌人  
儒/歌;中原章あきら(?-1790)門/歌;日野資枝ぢき門、根岸典則と交友、1830「花月百首」著、  
真浄寺の境内を整備;不動堂・薬師堂・王堂を建立、  
[浄月(;法諱)の号]時雨庵/桂花堂/二桜房/嘯谷
- 招月庵(松月庵しょうげつあん) → 正徹(しょうてつ;法諱・清巖;道号、臨濟僧/歌人) 2 2 4 1  
招月庵(しょうげつあん) → 正広(しょうこう;法諱、正徹門歌僧) S 2 2 0 9  
招月庵(しょうげつあん) → 正般(しょうはん・招月庵、正徹門歌人) B 2 2 2 7  
松月庵(しょうげつあん) → 実山(じつざん・立花たちばな、藩士/学芸) E 2 1 9 1  
松月庵(しょうげつあん) → 随流(ずいりゅう・中島) 2 3 0 4  
松月庵(しょうげつあん) → 晡扇(ひせん・晡川・ほせん、俳人) E 3 9 3 8  
松月庵(しょうげつあん) → 不肩(ふけい・立羽たちば、俳人) B 3 8 7 4  
松月庵(しょうげつあん) → 範菜(はんらい・柳生、俳人) I 3 6 5 6  
松月庵(しょうげつあん) → 豊年雪丸(ほうねんのゆきまる、藩士/狂歌) C 3 9 4 4  
松月庵(しょうげつあん・中嶋) → 随流(ずいりゅう;号・中嶋、俳人) 2 3 0 4  
梢月庵(しょうげつあん) → 立志(6せりゅうし・関、俳人) E 4 9 4 6  
嘯月庵(しょうげつあん) → 敬順(けいじゆん;法諱、真宗僧/茶/紀行) D 1 8 4 9  
嘯月庵(しょうげつあん) → 益庵(えきあん・渡部/渡辺、医者/紀行) D 1 3 6 2  
嘯月庵(しょうげつあん) → 吟松(ぎんしょう・富岡とみおか、女流詩人) S 1 6 9 2  
賞月庵(しょうげつあん) → 大秀(おおひで・田中たなか、国学者) 1 4 0 6  
浄月庵(じやうげつあん) → 賢幢(けんどう;法諱、真宗大谷派僧) L 1 8 7 1



松月院(しょうげついん) → 道広(どうこう;法諱・竹内、真宗僧) V 3 1 8 5  
 嘯月院(しょうげついん) → 介石(かいせき;法諱・佐田さだ、真宗本願寺派僧) I 1 5 8 2  
 嘯月翁(しょうげつおう) → 丈山(じょうざん・石川、儒者/詩人) S 2 2 5 7  
 招月軒(しょうげつけん) → 正韵(しょういん;号、歌人/連歌作者) F 2 2 1 2  
 松月軒徳翁(しょうげつけんとくおう) → 貞世(さだよ・今川、武将/幕臣/歌・連歌) 2 0 2 8  
 嘯月斎(しょうげつさい) → 里桂(りけい・竹越たけこし、商家/俳人) 4 9 8 6  
 松月叟(しょうげつそう;号) → 太室(たいしつ;道号・玄昭;法諱、臨濟僧) K 2 6 1 4  
 嘯月台(しょうげつだい) → 素笏(そじゅく・大森おおもり、庄屋/俳人) J 2 5 9 0  
 松月亭(しょうげつてい) → 子孝(しこう・菊田きくた、藩士/俳人) T 2 1 3 5  
 松月亭(しょうげつてい) → 市明(しめい・木村きむら、商家/俳人) V 2 1 7 9  
 松月亭(しょうげつてい) → 赤水(せきすい・長久保/長、地理学者) D 2 4 6 3  
 招月亭(しょうげつてい) → 招月(しょうげつ・小野おの、農業/詩文) M 2 1 2 4  
 賞月亭(しょうげつてい) → 多代女(たよよ・市原いちばらたよ、俳人) H 2 6 7 2  
 嘯月亭(しょうげつてい) → 正令(まさのり・戸沢、藩主/歌人) G 4 0 2 4  
 嘯月堂(しょうげつどう) → 鴉山(あざん・田代、狂歌) C 1 0 6 9  
 嘯月堂(しょうげつどう) → 文啓(ぶんけい・谷たに/島田、絵師/藩士) F 3 8 1 0  
 松月堂(しょうげつどう) → 心阿(しんあ・松月堂しょうげつどう、僧/歌人) N 2 2 2 5  
 松月堂(しょうげつどう) → 不角(ふかく・立羽たちば、書肆/俳人) 3 8 0 3  
 松月堂(しょうげつどう) → 原甫(げんぼ・堀/小川、書肆) J 1 8 4 7  
 松月堂(しょうげつどう) → 素輪(そりん・松井まつい、俳人) E 2 5 5 4  
 松月堂(しょうげつどう) → 是心軒(初世ぜんしんけん・一露、華道家) K 2 4 6 2  
 松月徳翁(しょうげつとくおう、今川了俊) → 貞世(さだよ、歌人) 2 0 2 8

I2234 嘯月尼(しょうげつに・奥村おくむら)?- ? 1830存 京の歌人;香川景樹門、夢宅・幸文・澄月と交流、1816「うすこほり」著

U2265 松月尼(しょうげつに・池田いけだ、中沢兵右衛門女) 1812-1905 84 近江阪田郡内保の生、近江愛知郡元地の医者池田寛歳(松年翁、池田玄洞2男)と結婚、歌人;美濃の越智路久門、義兄池田謙造(夫の兄)は彦根藩主井伊家の藩医、その関係で井伊直弼の知遇を得る、三条実萬・中斎・星巖・頼山陽・海屋と交流、歌・漢籍に通じ四書を諳んじ賢婦人と称さる、[松月尼の名] ふさ

証月房(しょうげつぼう) → 慶政(きやうしやう、天台僧/説話/歌人) C 1 6 5 9

招月望東禅尼(しょうげつぼうとうぜんに) → 望東尼(ぼうとうに/もとに・野村、歌人) 3 9 5 7

嘯月楼(しょうげつろう) → 華嶽(かがく・奥山/藤、藩士/儒者) H 1 5 2 1

嘯月楼(しょうげつろう) → 四溟(しめい・岡部おかべ、幕臣/漢学/詩) F 2 1 8 6

松月楼(しょうげつろう) → 市明(しめい・木村きむら、商家/俳人) V 2 1 7 9

招月楼(しょうげつろう) → 寒泉(かんせん・岡田おかだ、幕府儒官) E 1 5 0 6

浄華坊(じやうげぼう) → 証賢(しょうけん;法諱・浄華坊、浄土僧) I 2 2 3 9

I2235 聖賢(しょうけん;法諱、威儀師賢円小別当男) 1083-1147 65 真言醍醐寺僧;三宝院勝覚門、1108勝覚より醍醐寺無量寿院で伝法灌頂を受/のち醍醐寺金剛王院を創建、この流を金剛王院流と称す、「三五要集」「無量寿如来念誦私記」「諸尊略頌」外著多数、[聖賢(;法諱)の別法諱/字]初法諱;賢仁、字;三密坊

I2236 勝賢(しょうけん;法諱、俗名;藤原勝憲、藤原通憲みちのり[信西しんぜい]男) 1138-96 59 真言僧;仁和寺越中法印最源門、1158権律師/59醍醐三宝院の実運より伝法灌頂を受、1159平治乱により安藝(or佐渡)国に配流、帰京;1160醍醐寺座主/79法印/84権僧正、1187東大寺二長者/92東大寺別当(東南院)、藤原俊憲・貞憲・静賢の弟、「白伝鈔」「両界鈔」「仏頂抄」「宝珠抄」「祈雨抄」「薬鈔」「表白集」「金剛界念誦賦」「建久記」、1179「三宝院伝法灌頂私記」89「後七日日記」91「祈雨日記」92「後七日御修法日記」外著多数、[勝賢(;法諱)の別法諱/通称]初法諱;勝憲、通称;侍従僧正/覚洞院僧正

G2238 性憲(しょうけん/せいけん;法諱、源憲雅男;村上源氏) 1141-? 1185存 平安後期叡山僧;1183法橋、1185法眼、歌人;千載集1276、[いつとなく鷲の高嶺に澄む月の光をやどす志賀の唐崎](千載;神祇1276)、

- (日吉ひよしの大宮の本地[根本の仏身]を思う/鷲の嶺は靈鷲山/月は説法した釈迦の喩)
- G2239 **証兼**(しょうけん、阿闍梨、藤原為盛男)?-? 平安後期園城寺僧、歌人、丹後住、1173三井寺新羅社歌合参加:左方、叔父に常磐三寂(寂念・寂然・寂超)がいる、[都出でてゆかば山路やまに日や暮れむよそめの花にあかぬ東雲](新羅合;三番左5)
- G2240 **聖憲**(しょうけん;法諱、俗姓;藤原、法印貞実男/or貞雲男)?-? 鎌倉前期天台叡山僧;法印、祇園別当、憲勝(叡山法印権大僧都)、歌人、勅撰2首;続古今780・続拾遺1402、檜葉集2首入、[まちえたる鷲の高嶺の時鳥ただふた声ぞ四方に聞こえし](続古今;釈教780)
- G2241 **聖兼**(しょうけん;法諱、関白近衛[猪熊]家実男)1241/2-129353-52歳 鎌倉期三論・真言僧、三論;実兄の東大寺聖実門、真言密教;醍醐寺定濟門/東大寺東南院住、1277東大寺別当、1283再任/1289醍醐寺43世座主/法務大僧正、歌人;続門葉集入、勅撰4首;続拾遺(562/1271)/新後撰(949/1010)、[いまよりは涼しくなりぬかた岡のしのの葉分の秋の初風](続拾遺;雑秋562/初秋風)
- I2237 **聖憲**(しょうけん;法諱) ? - ? 鎌倉中期真言醍醐寺僧;報恩院憲深(1263没)門、吉野住、真言事相に通ず、「諸尊法口決」「金薄鈔」「薄口決」著
- I2238 **承憲**(しょうけん;法諱) ? - ? 1328存 鎌倉後期天台僧;探題法印、1328「探題故実私記」著(;天台座主慈道の命で著)、「三身義案立新成頭本」著
- I2239 **証賢**(しょうけん;法諱・浄華坊、法名;向阿/是心、武田時綱男)1265-134581 甲府生/天台宗園城寺僧、のち浄土僧;京華開元の礼阿門(是心と改名)/一条派本山浄華院5世、双岡池上西光庵に隠棲、「西要抄」「往生至要訣」「浄土西要義」「浄土選要法」「浄土要略鈔」「帰命本願抄」外著多数、勅撰歌人向阿と同一? → 向阿(こうあ;法諱、浄土学僧/歌) 1 9 0 2
- I2240 **聖憲**(しょうけん;法諱) 1307 - 139286 和泉の真言僧;幼時に根来寺弥勒院実俊門、中性院流密教;根来寺中性院増喜門、のち中性院4世/大伝法院学頭職、頼瑜の加持門説を大成、1348「阿字観寓言鈔」、「阿字観鈔」「阿字観要鈔」「自証説法」、「五教章中巻抄」「大日経住心品随意録」「般若心経秘鍵新初心鈔」「病中偶言」外著多数、[聖憲(;法諱)の字/号/通称]字;定林、号;華海、通称;根嶺先徳/加持門先徳
- I2241 **清顕**(しょうけん;法諱・恵日坊、号、高階泰継男)1284-136784 天台宗園城寺の学僧;上乘院乘伊門;密教を修学、修験道も修学、定頼門;円光院に入る、のち大僧正/園城寺別当、1329「護摩覆審抄」、「修恵抄」「開口抄」「授法記」「灌頂十五帖抄」「乘伊僧正一廻忌表白」著
- G2242 **昌胤**(しょうけん・里村[南家]、名;景治かげはる、昌叱しょうしつ2男)1572-1665長寿94 or一説1588-165164、連歌師;玄的門、法眼、1609頃初見/1615-24頃活躍/1646元旦三物が最後、後集発句帳入、祖白へ続く一流の祖、幕府連歌会参加/昌琢らと百韻多数;1609「懐旧百韻」39「何路百韻」・「昌胤独吟百韻」など、
- I2242 **尚堅**(しょうけん;法諱、法眼良由男、俗姓;千種)1627-171084 天台僧;曼殊院門跡の坊官/1686法印、1690「曼殊院宮当室先門主御日並四度御伝法次第」著
- S2206 **松堅**(しょうけん・宮川みやがわ、名;正行/正由・政由まさよし)1632-1726長寿95 京の俳人/歌人/画、俳諧;1640(9歳)松永貞徳門;発句[朝顔やほのぼのあけのかきのもと](師の長点を得)、柿園2世を継嗣/歌も修学、俳諧;令徳門、古典・歌学;木瀬三之さん・加藤磐斎門、剃髪後;松堅と改号、庵を[柿園]と称す、1663作法書「俳集良材」編、「九種俳諧伝」「さぐれ石」「歌の秘書」著、1722「倭譚五十人一首」著、1676西鶴「俳諧師手鑑」82風黒「高名集」入、1726(享保11)没、[来る風は門遠かどたがへせよ隣草](高名集;遠=違/牡丹花の散るを惜しむので余所へ吹け)[老まさる事をいとひし昨日をももの忘れして春ののどけさ]、(内海頭紅[倭譚五十人一首追加]元日/松堅居士;貞徳二世名)、[松堅(;剃髪号)の通称/別号]通称;宇兵衛、別号;松亭/松亭子/松亭軒/道柯居士/柿園2世門人;今井似閑/内海頭糾けんきゅう/西往寺玄夢/神田祐世すけよ/清地以立いりゅうなど多数、娘も俳人 → 政由女(まさよしのむすめ・宮川) I 4 0 7 8  
宮川道達のおじか? → 道達(どうたつ・宮川/一翠子、和漢学) G 3 1 3 5
- R2231 **松軒**(しょうけん・後藤ごとう、名;進)1632?-171786? 大阪(一説三河)の儒者;22-23歳頃失明、妻・弟子の助力で勉学;程朱学、1671会津藩士主保科正之に招聘;江戸藩邸で侍講、

会津で藩士に講説、「大学弁断」著：伊藤仁斎・浅見綱斎の説を批判、晩年は武蔵池沢に住、「大学通義」「一貫問答問」「散人夜話」「智叟羅ちくら物語」「唐鑑類函」「仁和国解」「落葉衣」著、  
[松軒(；号)の通称] 松進、松野勾当/松之勾当/舒嘯

- D2238 銷遣(しょうけん) ? - ? 江前期俳人、1687一昌「丁卯ていぼう集」入、  
[天地や白より出でて四方の雲](丁卯集；大極)
- I2243 性憲(しょうけん；法諱・慈空じくう；字、俗姓；馬杉) 1646-171974 京の浄土宗西山派の僧；瑞山門/出家、  
浄土の行業を勸修、慈忍門/菩薩戒を受、諸宗の大徳につき遍学、  
師瑞山と深草真宗院を中興、東林堂を建立、黄檗宗の独湛性瑩・高泉性性激と交流、  
晩年洛北蓮養庵に退隠、「草山法彙」「法の道しるへ」、1680「蓮門小清規」86「臨時節要」著、  
[性憲(；法諱)の号] 蓮居/通西
- I2244 松軒(しょうけん・木村きむら、名；立) 1658-172871 秋田の医者/儒者：伊藤仁斎門；経史に通ず、  
秋田藩に出仕；藩主侍講、医を業とす、1700「秋田城記」、「木村立詩」「佐竹氏系譜」著、  
「文章五類」「大森岩城浅川乱民記事」「後凋堂会約」著、  
[松軒(；号)の字/別号] 字；信甫しんすけ、別号；後凋堂/望雲散人/睡隠子、法号；文牕玄質
- R2233 松軒(しょうけん・苗村むら) ? - ? 浮世草子作者、古典研究：1697「伊勢物語大成」著、  
1698「首書徒然草」/1705浮世草子「御伽人形」著、苗村丈伯とは別人
- I2245 賞賢(しょうけん；法諱、照護寺良祐男)?-1744 越前福井の真宗僧；京六条の本願寺派明覚寺10世、  
「照明鈔」著、  
[賞賢(；法諱)の別法諱/諡号] 初法諱；寂便、諡号；暢音院
- R2234 松軒(しょうけん・伊藤いとう) 1709-179486歳 旗本青山備前守幸福罩よひろの家臣；のち浪人、  
江戸竜土町に住、歌人：武者小路実岳・烏丸光栄・光胤・日野資枝門、  
「倚翠庵歌集」、家集「和歌の浦浪」著、石野広通「霞関集」入、  
[言のはの露やかけそふよそよりもあやめわかれて匂ふ軒端は](霞関；夏、  
広通許にて檐ひし菖蒲)、  
[松軒(；号)の通称/別号] 通称；次太夫、別号；倚翠庵いすいあん/隠宅竜土、  
法号；松風軒吟誉翁居士
- R2235 昌建(しょうけん・里村さとむら[；南家]、景易、昌悦、昌億男)?-1757 幕府連歌宗匠
- I2246 昌謙(しょうけん・木山きやま/初姓；坂田)?-1799 延寿王院家臣の家の生/連歌屋木山家の養子、  
太宰府天満宮連歌屋10世(9世?)、1778-85連歌屋住の社僧、玄川らと連歌屋百韻の興行
- R2236 蛸見(しょうけん) ? - ? 江中期浪花の書肆/俳人；雑俳点者、  
1716-36「富士の高根」段々付入
- I2247 松見(しょうけん・神谷かみや、名；久囿) 1722-180382 下総古河藩主土井大炊頭の侍医/茶；初め石州流、  
のち宗徧流；岡村宗恕門、儒；山崎闇斎学派朱子学を修学、1747「陸安集」著、  
[松見(；号)の幼名/字/別号] 幼名；幸太郎、字；公鳩、  
別号；宗賢/陸安斎/陸斎/時習軒3世/力困斎/雪々庵
- I2248 松軒(しょうけん・山室やまむら、名；知将/和将かずまさ) 1729-180375 越前福井の医者/歌人；冷泉為泰門、  
1769(明和6)福井城下で腑分けを実施；記録[臧鑑]著、  
越前古今の歌を撰集；1770「松の下葉」編、  
[松軒(；号)の別号] 松庵、法号；本誓院
- I2249 尚謙(しょうけん・岡村おかむら、名；遜)?-1837 医者；下総高岡藩主井上家に出仕、  
本草学者；岩崎常正[灌園]門、江戸下谷御成小路に住、「秋七草考」「桂園橘譜」「本草古義」、  
「本草古義拾遺」「梅録」「痘瘡一家言」「竹譜総論」、1828「桂園竹譜」(志村知孝画)著、  
[尚謙(；字)の号] 号；桂園、法号；法雲院
- I2250 尚賢(しょうけん・橋たけはな、別名；用、尚貞男)?-1849 高松藩医・灌水法による治療/文学、  
「瀑布効能記」著  
[尚賢(；名)の通称] 文山(汶山)ぶんざん、長安(長庵)
- I2251 尚堅(しょうけん・出納すいのう/納) 1776-185479 備前邑久郡裳掛村虫明の儒者、国老伊木家の家臣、  
病のため帰郷；漢宋の学を兼ねる、1815随筆「玉嶺談」/20「玉嶺叢談」、「清穆園詩集」著、  
[尚堅(；名)の字/通称/号] 字；実好さねよし、通称；藤九郎、号；玉嶺
- I2252 昌軒(しょうけん・高島たかしま、名；為民、為憲男) 1803-5654 上州高崎藩医；父門、

1820江戸で華岡青洲門、長崎に遊学；蘭方医を修学、  
領内の刑死の農民を解剖；詳細な「解剖図」を作成、晩年は下野佐野に住

R2237 正堅(しょうけん・藤原) ? - ? 江後期歌人；神山魚貫なつら門、  
1854魚貫の家集「苔清水こけしみづ」(三橋鶴彦・伊能穎則と共編)

- 小軒(しょうけん・朝倉) → 景実(かげざね・朝倉あさくら、兵法家) K 1 5 8 8  
正顕(しょうけん；字) → 経舜(きょうしゅん；法諱・正顕、律宗真言僧) N 1 6 8 8  
正賢(しょうけん・村上) → 忠浄(ただきよ・村上むらかみ、医者/歌) E 2 6 4 4  
昌堅(しょうけん・小宮山) → 昌堅(まさかた・小宮山こみやま、藩士/儒者) B 4 0 9 6  
昌軒(しょうけん・平松) → 周玄(ちかはる・平松ひらまつ、神職/歌人) N 2 8 3 7  
升顕(しょうけん・久米) → 利品(りひん・久米、俳人) C 4 9 3 9  
尚顕(しょうけん・勸修寺) → 尚顕(ひさあき・勸修寺かじゅうじ、廷臣/日記) 3 7 7 9  
尚賢(しょうけん・原) → 雲沢(うんたく・原はら、医者/儒) D 1 2 9 3  
尚賢(しょうけん・蓬萊) → 尚賢(ひさかた・蓬萊ほうらい、神職/国学者) 3 7 9 3  
尚賢(しょうけん・千野/柳) → 尚賢(ひさかた・柳/千野せんの、医者・和算) 3 7 9 4  
尚賢(しょうけん・橘) → 冠峰(かんぼう・橘、1724-94、高松藩医) R 1 5 6 4  
尚賢(しょうけん・井上) → 尚賢(ひさかた・井上いのうえ、定紋研究) 3 7 9 5  
尚謙(しょうけん・森) → 儼塾(げんじゅく・森もり、医者/漢学) E 1 8 9 1  
象賢(しょうけん・向しょう) → 朝秀(ちやうしゅう・羽地、琉球摂政/史家) I 2 8 6 7  
象軒(しょうけん・春木) → 煥光(あきみつ・春木はるき、神職/本草家) D 1 0 9 8  
紹剣(しょうけん) → 忠助(ただすけ・樺山、武将・歌人) P 2 6 6 5  
菖軒(しょうけん・清川) → 玄道(げんどう・清川、医者/詩人) L 1 8 9 7  
松軒(しょうけん・曾我) → 助乗(すけのり・曾我/平、武将/故実家) G 2 3 8 9  
松軒(しょうけん・神屋) → 立軒(りっけん・神屋かみや、儒者/藩出仕) B 4 9 7 1  
松軒(しょうけん・水野) → 忠邦(ただくに・水野、天保改革/詩歌) F 2 6 0 5  
松軒(しょうけん・西村) → 春雄(はるお・西村、医者) G 3 6 0 7  
松軒(しょうけん・今井) → 克復(かつまた・今井いまい、与力/紀行) N 1 5 8 9  
松軒(しょうけん・伴) → 健尹(たけただ・伴ばん、藩士/儒者) O 2 6 4 2  
松軒(しょうけん・門間) → 嘉寛(よしひろ・門間もんま、医者) G 4 7 5 8  
松軒(しょうけん・後藤) → 東庵(とうあん・後藤ごとう、漢学/教育者) I 3 1 9 5  
松軒(しょうけん・三枝) → 峻徳(しゅんとく・三枝さいげき、藩医/教育) L 2 1 6 8  
松軒(しょうけん・大久保) → 忠督(ただまさ・大久保おおくぼ、藩士/国学) W 2 6 0 9  
松軒(しょうけん・三好) → 長善(ながよし・三好みよし、医者) O 3 2 9 9  
勝賢(しょうけん・余語) → 勝賢(かつかた・余語よご/菅原、歌人) S 1 5 9 7  
勝謙(しょうけん・山崎) → 勝謙(かつかた・山崎やまさき、藩士/国学) W 1 5 1 0  
勝顕(しょうけん・柴田) → 勝顕(かつあき・柴田しばた/平、家老/国学) U 1 5 7 5  
蕉軒(しょうけん・林) → 述斎(じゅっさい・林/松平、幕府儒官) I 2 1 9 4  
承賢(しょうけん；字) → 日位(にちい；法諱・承賢、日蓮僧) 3 3 3 8  
承堅(しょうけん；法諱) → 翠巖(すいがん；道号・承堅、臨濟僧) 2 3 3 7  
昭賢(しょうけん・副島) → 崑崙(こんろん・副島そえじま、儒者/代官) P 1 9 3 1  
章賢(しょうけん/あきかた・中原) → 是円(ぜえん・二階堂、明法家) D 2 4 2 8  
清見(しょうけん) → 清見(せいけん・しょうけん、僧/万葉左注人物) B 2 4 1 9  
紙葉軒(しょうけん) → 野井(やせい・浅見あさみ音好、俳人/狂歌) D 4 5 6 4

V2286 聖玄(しょうげん；法諱) ? - ? 平安鎌倉期；南都興福寺東南院僧/法眼、  
歌人；1237素俊撰[檜葉集]3首入、  
[東南院老若歌合、

あすかがはふち瀬のこほりうちとけてきのふにかはる春風ぞふく](檜葉；雑747)

W2205 勝玄(しょうげん；法諱、天台僧命伊男)?-? 平安鎌倉期；醍醐寺僧/権大僧都、

1237素俊撰[檜葉集]入の勝玄法師と同一?、

[君こふる涙も袖にやどりけり我こそ草の枕と思ふに](檜葉；恋440/旅の恋の心)

R2238 聖玄(しょうげん；法諱) ? - ? 鎌倉期僧；藤家流朗詠、

1292譜本「朗詠要集」を琳弘りこうに口伝

- I2253 照源(しょうげん;法諱、六条[源]有房男)1298-1368<sup>71</sup> 若年に叡山僧;仲円門/諸師につき顕密修学、大原来迎院住/のち京の廬山寺住;天台三大部を講ず、大僧都、台密廬山寺流を布教、1347「義例猪熊鈔」54「金記立印鈔」56「三観義聞書」、「文句見聞」「文句述聞」「廬談」外著多、[照源(;法諱)の通称] 房雲/明道(明導)上人、
- I2254 照玄(しょうげん;法諱、准尊;号、興正院の佐超[頭尊]男)1585-1620<sup>36</sup> 母;冷泉為益女、京の真宗僧、京の興正院門主;父の跡を継嗣、権僧正、1607「准尊覚書其他」著
- R2239 正元(しょうげん) ? - ? 江前期俳人・梅盛門、1663倫員「木玉集」の木玉千句連衆
- S2245 笑言(しょうげん・石田いじだ) ? - ? 江前期江戸の俳人、1676西鶴「古今俳諧師手鑑」入、[手にとれば爪に火とぼす螢哉](手鑑)
- I2255 尚彦(しょうげん;法諱、俗姓;羽根)1666-1736<sup>71</sup> 江戸の真言僧;1680中島金剛院の慧賢門;出家、1681長谷寺の尊如門/1709梅心院主/1715江戸弥勒寺に転住/1724長谷寺20世;1726僧正、1727「密巖遺珠録」編、[尚彦(;法諱)の幼名/別法諱/字/]幼名;小十郎、初法諱;賢如げんよ、字;海説/巖覚
- I2256 照元(しょうげん・佐々木ささき、名;照、佐々木志頭磨女)?-? 京の書家;父門、弟佐々木晦山と父の書法を伝承、栗津信濃介の妻/夫没後は書を教授、1729「得賢臣頌」著、[照元(;通称)の字] 由也
- I2257 将監(しょうげん;通称・香川かがわ、名;正直まさなお、政重男)1721-97<sup>77</sup> 安藝矢野村尾崎八幡宮祠官;1738父を継嗣、儒;広島藩儒加藤豈苟門/垂加流神道儒学を修学;藩の社倉設置の契機をつくる、「風水車」「学規」「社倉根元録」「神道口伝書」著、「神道極秘巻」「朱子社倉法国字解」「朱子奏劄」「諸国神社辨説」「狗幽操」著
- I2258 昌玄(しょうげん;名・永井ながい、字;子遠)?-? 江中期江戸江戸の篆刻家;輪王寺宮公遵親王に出仕、今体の篆刻を能くす、1752「一片混玉」著
- I2259 正玄(しょうげん;法諱) ? - ? 江中期近江の真宗敬念寺住職、1765「帖外九首和讃鼓吹」著
- R2240 昌元(しょうげん・阪さか5代、昌功男)?-? 幕府連歌師:1844-、1846第三勤仕
- I2260 昌言(しょうげん・木山きやま、別名;義昌)1835-1901<sup>67</sup> 社僧/連歌作者;太宰府天満宮連歌屋15世、1857神職/1868還俗;義昌と改名、「秋月千句」催
- 小幻(松源しょうげん・伊達)→ 綱村(つなむら・伊達だて、藩主/歌人) B 2 9 3 7
- 正言(しょうげん) → 正言(まさとき・大江/弓削、歌人) E 4 0 3 0
- 正玄(しょうげん) → 正玄(せいげん・連歌) B 2 4 2 9
- 章言(しょうげん・大久保) → 驚彦(おどろひこ・大久保おおくぼ、医者/国学) 5 3 8 1
- 章元(しょうげん・狩野) → 宗朴(3代そうぼく・狩野かのう、茶人/歌/俳) K 2 5 8 9
- 聖元(しょうげん;法名) → 満季(みつすえ・洞院とういん/藤原、廷臣/歌) D 4 1 6 0
- 性源(しょうげん;法諱) → 独本(どくほん;道号・性源、曹洞/黄檗僧) L 3 1 4 7
- 性源(しょうげん;字) → 玄広(げんこう;法諱・字;性深、真言僧) I 1 8 7 3
- 性言(しょうげん;法名) → 言行(ときゆき・山科/藤原、廷臣/日記) K 3 1 2 7
- 昭巖(しょうげん;法諱) → 昭巖(しょうごん;法諱、真宗木辺派僧) I 2 2 8 8
- 照言(しょうげん;法名) → 言継(ときつぐ・山科/藤原、廷臣/歌人) 3 1 3 3
- 紹元(しょうげん・飯田/清水) → 道閑(2世どうかん・清水、藩士/茶人) C 3 1 3 7
- 昌元(しょうげん・原) → 青竜軒(せいりゅうげん・赤松、講釈師) D 2 4 1 4
- 昌言(しょうげん・大江) → 昌言(まさとき・大江おおえ、廷臣/少内記) U 4 0 2 7
- 昌言(しょうげん・大地) → 東川(とうせん・大地おおち、藩士/儒者/詩) G 3 1 1 2
- 昌言(しょうげん・服部) → 正樹(昌樹まさき・服部、藩士/国学/歌) C 4 0 2 7
- 昌言(しょうげん・磯辺) → 昌言(まさのぶ・磯辺/磯部、藩士/兵法) F 4 0 6 2
- 昌言(しょうげん・田中) → 千村(ちむら・田中たなか、藩士/国学者) M 2 8 7 4
- 昌言(しょうげん・原) → 昌言(まさこと・原はら、庄屋/歌人) R 4 0 9 7
- 昌言(しょうげん・山田) → 昌言(まさのぶ・山田やまだ、家司/歌人) T 4 0 4 9
- 昌玄(しょうげん・小宮山) → 南梁(なんりょう・小宮山こみやま、儒者) J 3 2 6 7

昌玄(昌元/昇玄しょうげん・中村)→ 伯先(はくせん・中村/吉川、医/俳) D 3 6 5 4  
 将監(しょうげん・山鹿) → 高恒(たかつね・山鹿/兼松/岡/津軽、藩士/兵学) M 2 6 2 9  
 将監(しょうげん・松平) → 近禎(ちかよし・松平まつだいら、藩主/歌人) N 2 8 8 4  
 将監(しょうげん・原) → 元寅(もとのぶ・原はら、藩士/詩人) D 4 4 7 1  
 将監(しょうげん・水野) → 福富(ふくとみ・水野みずの、藩士/俳/詩歌) B 3 8 6 3  
 将監(しょうげん・藺田) → 守夏(もりなつ・藺田/荒木田、神職/国学) G 4 4 1 4  
 将監(しょうげん・渡辺) → 利容(としかた・渡辺、藩士) M 3 1 1 8  
 将監(しょうげん・青山) → 知次(ともつぐ・青山、藩家老) P 3 1 8 1  
 将監(しょうげん・藤田) → 貞固(さだかた・藤田ふじた、藩士/武術/茶) P 2 0 8 7  
 将監(しょうげん・藤田) → 北郭(ほつかく・藤田ふじた、藩士/書) E 3 9 5 6  
 将監(しょうげん・松井/氷室) → 長翁(ながとし・氷室ひむろ、神職/歌人) E 3 2 8 7  
 将監(しょうげん・山澄) → 英竜(ひでたつ・山澄/川方、藩士/戦記) D 3 7 1 5  
 将監(しょうげん・山澄) → 英重(ひでしげ・山澄、英竜男/藩家老/和学) M 3 7 1 8  
 将監(しょうげん・山澄) → 英貞(ひでさだ・山澄、英竜男/藩士/故実) D 3 7 0 4  
 将監(しょうげん・伊達) → 村和(むらより・伊達だて、領主/歌人) D 4 2 2 5  
 将監(しょうげん・牧野) → 成信(なりのみ・牧野、紀行文) H 3 2 9 3  
 将監(しょうげん・松前) → 波響(はきょう・蠣崎かきさき、藩家老/絵師) C 3 6 4 6  
 将監(しょうげん・滝原) → 宋閑(そうかん・滝原たきはら、医者/歌人) G 2 5 7 3  
 将監(しょうげん・岡田) → 義政(善政よしまさ・岡田おかだ、旗本/治水) M 4 7 0 4  
 将監(しょうげん・岡田) → 善章(よしあきら・岡田おかだ/源、幕臣/歌) K 4 7 4 3  
 将監(しょうげん・伊木) → 忠寿(ただより・伊木いぎ、藩士/歌人) V 2 6 4 1  
 将監(しょうげん・橋本) → 確堂(かくどう・高橋たかはし、藩士/志士) K 1 5 3 1  
 将監(しょうげん・佐々木) → 国臣(くにのみ・平野/大中臣、勤王/歌) 1 7 0 6  
 将監(しょうげん・岡村/正住) → 弘美(こうび・正住しょうじゅ、絵師/茶道) B 1 9 8 6  
 将監(しょうげん・中山) → 吉埴(よしたね・中山なかやま、神職/歌人) E 4 7 3 7  
 将監(しょうげん・中山) → 吉行(よしゆき・中山、吉埴嗣/神職/国学) O 4 7 2 6  
 将監(しょうげん・村上) → 忠明(ただあき・村上、歌人/勤王家) P 2 6 1 3  
 将監(しょうげん・石川) → 忠房(ただふさ・石川/伊丹、幕臣/記録) F 2 6 7 7  
 将監(しょうげん・末川) → 久救(ひさひら・末川/島津、歌人) B 3 7 7 2  
 将監(しょうげん・佐枝) → 種茂(たねしげ・佐枝さえだ、藩士/城代) R 2 6 8 2  
 将監(しょうげん・前田) → 恒敬(つねのり・前田まえだ、藩士/記録) D 2 9 2 4  
 将監(しょうげん・佐竹) → 義路(よしみち・佐竹さたけ/源、藩士/歌) K 4 7 9 0  
 将監(しょうげん・海老江) → 元教(もとのり・海老江えびえ、藩士/歌人) J 4 4 4 1  
 将監(しょうげん・吉村) → 翠山(すいざん・東里/吉村、藩士/儒者) 2 3 6 2  
 将監(しょうげん・板倉) → 重寛(しげひろ・板倉いたくら、藩主/国学) N 2 1 3 7  
 将監(しょうげん・賀茂) → 経樹(つねき・賀茂/岡本、神職/日記/歌) C 2 9 0 1  
 将監(しょうげん・植田) → 春海(はるみ・植田うえた、国学/歌人) J 3 6 7 7  
 将監(しょうげん・氷室) → 泰長(やすなが・氷室ひむろ、神職/歌人) G 4 5 4 6  
 将監(しょうげん・大竹) → 政泰(まさやす・大竹/平、神職/国学) O 4 0 3 4  
 将監(しょうげん・藤川) → 三溪(さんけい・藤川ふじかわ、藩士/尊攘) M 2 0 0 8  
 将監(しょうげん・青山) → 惠次(のりつぐ・青山あおやま、藩家老) H 3 5 0 5  
 将監(しょうげん・赤井) → 直綏(なおやす・赤井あかい、幕臣) K 3 2 7 7

R2241 静賢(じょうけん・せいけん; 法諱、藤原通憲[信西]男) 1124-? 1201存 母; 高階重仲女、平安鎌倉期天台僧、藤原俊憲・貞憲の弟/勝賢の兄、法印、法勝寺・最勝光院・蓮華王院執行、1159平治の乱に安房(実際は丹波)に配流、後白河法皇側近の僧/清盛にも信頼される、歌人; 歌林苑や顕昭と交流、1170住吉社歌合/78賀茂別雷社歌合/79治承三十六人歌合参加、1191若宮社歌合/95経房家歌合/1200三百六十番歌合/1201影供歌合参加、続詞花集・雲葉集入、勅撰9首; 千(6首131/245/427/755/896/996)新古(1505)玉(328)風(299詞)新続古(2096)、[花はみなよその嵐にさそはれてひとりや春のけふはゆくらむ](千載; 春131/三月尽日)

[静賢(；法諱)の別法諱] 静憲/浄憲

- R2242 **成賢**(じょうけん/せいげん；法諱、藤原成範男)1162-123170 真言醍醐寺僧；叔父醍醐寺座主勝賢門、  
伝法灌頂を受/1203(42歳)醍醐寺座主；三寶院住/1207法印/08権大僧都/09東寺三長者、  
1211権僧正/18諸職を辞す、成賢流の祖、「雨言雑秘記」編、「薄二重私記」「三寶院大事」、  
「三西不同抄」「不動護摩私記」「遍口鈔」「宝聚抄」「知自心鈔」著/「放屁軍」(書)、外著多数、  
歌人；続門葉集入、続千載集986、  
[極楽のはちすの上に置く露をわが身の玉と思はましかば]、  
(続千；釈教986/法印聖覚いかくの説法時に銀の蓮葉を造り水精念珠をおいて贈る歌)、  
[成賢(；法諱)の通称] 宰相僧正/遍智院僧正
- V2276 **定兼**(じょうけん；法諱、定親[定観]男)?-? 鎌倉期；東大寺僧；権律師、権大納言定能の孫、  
円親(法印)・定宴(権少僧都)の兄、歌人；1237[檜葉集]3首入、  
[たかまどののをのへの萩におくつゆはいづれかかきのなみだなるらむ](檜葉；秋212)
- R2243 **定顕**(じょうけん；法諱、権中納言源資平男)1256-133075 鎌倉後期天台園城寺僧；1293僧正実円門、  
受戒、権僧正/大阿闍梨、花山院住；門弟多数、歌；続千載1451/続後拾遺1295、  
[夏虫のかげ見し沢の忘れ水思ひ出でても身は焦がれつつ](続千；恋1451)
- R2244 **定顕**(じょうけん；法諱) ? - ? 南北期天台宗叡山横川宝蔵坊住僧(法師)、  
歌人/勅撰7首；新千載(2037)新後拾遺(905/1171/1422)新続古今(1187/1312/1954)  
[おき所なきにつけても歎く身は捨ててぞいとどうき世なりける](新千；雑2037)
- I2261 **盛憲**(じょうけん；法諱) ? - ? 僧侶(；法師)/連歌作者、菟玖波集3句入、  
[寝ぬる夜の夢ばかりこそ契なれ](菟玖波；841/前句；しのぶ人には逢ふこともなし)
- I2262 **静見**(じょうけん；法諱、法名；了日/良日)1314-8370 浄土宗西山派の僧；疑空門、真宗院・誓願寺住、  
和泉来迎寺の開山、「承相記」「曼荼羅抄」/1378「法水分流記」著
- I2263 **貞兼**(じょうけん；法諱、伊勢貞行男)1403-5250 広橋兼宣の猶子、興福寺法相僧；松林院光雅門、  
光雅の跡を継嗣/1445興福寺別当・僧正、碩学；大乘院尋尊の師、「法差別勝劣伝指示」著
- I2264 **浄見**(じょうけん・坂さか、別号；浄覧、浄運男)?-? 室町期医僧、多聞博識、  
大永-天文1521-55頃宮中に出仕；薬を掌る；法印、侍従と称す、「増損附益鈔」
- I2265 **定憲**(じょうけん；法諱) ? - ? 江初期加賀の真言宗那谷寺住僧、  
1642「那谷寺縁起」著
- 定憲(じょうけん) → 日住(にちじゅう；法諱・眞如院、日蓮僧) C 3 3 1 5  
常軒(じょうけん・石出) → 吉深(よしふか・石出いしで、幕臣/国学者) G 4 7 7 2  
常建(じょうけん・小野) → 隆庵(りゅうあん・小野おの、飛鳥山館、医者) C 4 9 6 4  
常顕(じょうけん・細川) → 常顕(つねあき・細川/源、廷臣) B 2 9 5 2  
常顕(じょうけん・東) → 常顕(つねあき・東とう/平、武将/歌人) B 2 9 4 7  
常堅(常賢じょうけん・山田/石坂) → 常堅(常賢つねかた・石坂/山田、藩士/天文) B 2 9 9 5
- R2245 **成源**(成巖じょうげん；法諱、藤原忠頼[住蓮坊]男)?-? 1264存 天台叡山僧；叔父成円法印門、  
1229比叡山西塔院主；32辞す/38環補、前將軍藤原頼経の出家に際し戒師を務める、  
法印/権僧正、1222「六道釈付二十五三昧念仏」23「如法延命法日記」36「胎金灌頂手記」、  
「十八道私記」「金剛界私記」著、歌人/勅撰2首；続古今786・続拾遺1403、  
[谷川のわがひとながれ書きとめて絶えざりけりと人に知らせよ]、  
(続拾遺；釈教1403/詞書；一流の書をかきおき侍るとて)、  
[成源(；法諱)の別法諱/通称]初法諱；良尊、通称；浄巖坊/岡崎僧正/岡崎門跡
- R2246 **定玄**(じょうげん；法諱、藤原定能さだよし[1148-1209]男)?-1247 母；顕憲女、平安鎌倉期；興福寺僧、  
興福寺別当/権僧正、号；法雲院、尊海(法印/勅撰歌人)の父、1247(宝治元)没
- S2207 **城元**(城玄・じょうげん、八坂檢校やさかけんぎょう)?-1318? 平曲音曲者・城一門、久我家出身、  
太政大臣藤原通光の弟の男、京の八坂神社付近に住す；八坂流と称す(別名；城方流)、  
一派の者は[城]の字を付ける、同門如一は坂東で一派を成す；都方いしかた流(坂東流とも)
- R2247 **常元**(じょうげん；法諱、俗名；祝部氏重)?-? 僧(；法師)、歌人、勅撰2首；新千載1607・新拾遺953、  
[忘れかねなほしたはるる面影はうき年月も隔てざりけり](新千；恋1607)
- R2249 **乗元**(じょうげん) ? - ? 連歌師、1518宗長「東山千句」参加
- I2266 **盛玄**(じょうげん；法諱) ? - ? 1522存 天台宗園城寺玉泉院の住僧、1522「十八契印」著

- I2228 **乗言**(じょうげん・尾関おせき) ? - ? 武蔵江戸の俳人:立圃門、  
1661「烏帽子箱」・「鶉鷺うさぎ俳諧」入/76西鶴「古今誹諧師手鑑」入、  
[盗人ぬすびとに追風もよき花香かな](手鑑/諺[盗人に追ひ打つ]を掛る)
- I2267 **浄眼**(じょうげん;法諱、森良暢男)1768-184578 安藝山県郡筒賀村の真宗本願寺派僧;僧叡門、  
宗学・漢学を修学/長門下関の本願寺派光明寺の住職;寺内に学寮を開設し門弟教育、  
1804三業惑乱に際し大瀛に随従し江戸下向、1828勧学職/学林の年預勧学となる、  
「往生論註随聞記」著、元山・至暁の師、  
[浄眼(;法諱)の別法諱/諡号]初法諱;海量、諡号;白蓮院
- 浄嚴(じょうげん・覚彦房雲農)→ 浄嚴(じょうごん、真言僧) 2 1 7 6  
 浄嚴(じょうげん・戸崎/崎)→ 淡園(たんえん・戸崎/崎/源、家老/漢学) H 2 6 9 4  
 静玄(じょうげん、倭詞十首懐紙入)→ 実時(さねとき・藤原、公蔭男/廷臣/歌人) D 2 0 2 7  
 浄玄(じょうげん;法諱/越前入道)→ 釣雪老人(ちょうせつろうじん・斎藤、故実) J 2 8 2 7  
 成嚴(じょうげん) → 成嚴(せいげん、歌人) B 2 4 2 8  
 常玄(じょうげん;法名) → 永康(ながやす・高倉、廷臣/歌) G 3 2 1 6  
 常元(じょうげん・檜垣) → 常基(つねもと・檜垣/度会、神職) D 2 9 9 8  
 常言(じょうげん・御菌) → 常言(つねとき・御菌みその、鍼医/国学) C 2 9 6 5  
 常彦(じょうげん) すべて → 常彦(つねひこ)  
 讓元(じょうげん・寺井) → 方信(まさのぶ・寺井てらい、心学者) F 4 0 7 0  
 松原庵(しょうげんあん) → 鳥酔(ちょうすい・白井、俳人) 2 8 2 4  
 松原庵二世(しょうげんあん)→ 星布(せいふ・糸明窓、女流俳人) C 2 4 9 0  
 常憲院(じょうげんいん;法号)→ 綱吉(つなよし・徳川/松平、5代将軍) B 2 9 4 0  
 浄嚴院(じょうげんいん;号)→ 光純(こうじゅん;法諱・浄嚴院、天台僧) J 1 9 6 3  
 滌源居(じょうげんきよ/できげん)→ 宗達(そうたつ・速水はやみ、医者/茶人) I 2 5 3 9  
 浄軒居士(じょうげんこじ) → 正安(まさやす・奥平おくだいら、藩士/儒者) I 4 0 0 4  
 松玄斎(しょうげんさい) → 丁知(ていち・村林/高柳、札差/俳人) 3 0 4 4  
 照彦斎(しょうげんさい) → 昌胤(まさたね・森/源/吉田/雨森、神道家) D 4 0 5 9
- R2223 **稱硯子**(しょうけんし) ? - ? 1651「御手鑑」:聖徳太子-於通の古筆切集  
 蕉堅子(しょうけんし) → 中津(ちゅうしん・絶海、臨濟僧/五山文学) 2 8 1 7  
 生源寺三位(しょうげんじのさんみ)→ 業雅(なりまさ・祝部はふりべ、神職/歌) I 3 2 1 9  
 正源禅師(しょうげんぜんじ・大徹正源禅師)→ 棠林(とうりん・宗寿、臨濟僧) I 3 1 4 0  
 蕉堅道人(しょうげんどうじん)→ 中津(ちゅうしん・絶海、臨濟僧) 2 8 1 7  
 上見坊(じょうげんぼう) → 行弁(ぎょうべん・上見坊、華嚴僧/歌人) I 1 6 8 1  
 浄嚴坊(じょうげんぼう) → 成源(成嚴じょうげん;法諱、天台僧/歌人) R 2 2 4 5  
 浄嚴坊(じょうげんぼう) → 隆堯(りゅうぎょう;法諱、佐々木隆頼、浄土僧) D 4 9 3 7
- V2239 **宵子**(しょうこ・長山ながやま/師岡もろおか)1671-171242 常陸水戸藩士士師岡綱治つなじの妻、国学/歌人、  
夫が別の女に産ませた子を育成/夫の留守に寝室侵入の使用人を刺殺;婦徳を賞される
- R2224 **省故**(しょうこ) ? - ? 俳人;1795「みさ山」:素檠そぼくと共編
- I2268 **尚古**(しょうこ・大谷おおたに、名;謙)1773-185381 上州佐波郡采女村の儒者;浦野神村門、  
俳人;栗庵似鳩門、書;蘇子瞻門、1833「遊山詩草」著  
 [尚古(;号)の字/通称/別号]字;益夫、通称;清吉、別号;尚古堂/霞竜
- 尚古(しょうこ→なほひさ・宮川)→ 忍斎(にんさい・宮川、兵法/軍記作者) G 3 3 3 9  
 尚古(しょうこ・狩野) → 勝川(しょうせん・狩野かのう、木挽町絵師) K 2 2 3 8  
 尚古(しょうこ・蓬萊) → 尚知(ひさあき・蓬萊ほうらい/磯辺、神職) K 3 7 9 3  
 尚古(しょうこ・牧/石上) → 嵩振(たかふる・牧まさ、藩士/歌人) N 2 6 1 6  
 尚古(しょうこ・真田) → 敦寛(あつひろ・真田さなだ、国学/歌人) H 1 0 6 9  
 小虎(しょうこ・田能村) → 直入(ちよくにゅう・田能村たのむら、絵師) K 2 8 3 2  
 昌固(しょうこ・小貫) → 昌固(まさかた・小貫おぬき、歌人) M 4 0 7 7  
 昌虎(しょうこ;初法諱) → 嘯嶽(しょうがく;道号・鼎虎;法諱、臨濟僧) H 2 2 7 6  
 昌虎(しょうこ・大井) → 昌虎(まさたら・大井おおい、歌人) M 4 0 2 8  
 松戸(しょうこ・香田) → 朋水(ほうすい・香田こうだ、俳人) B 3 9 8 6



- 松戸(しょうこ・広辻) → 光春(みつはる・広辻ひろつじ/橘/小林、歌/茶人) K 4 1 2 8  
 松鼓(しょうこ) → 乾峰(けんぼう・居初、俳人) D 1 8 0 6  
 松湖(しょうこ・長谷川) → 杏所(きょうしょ・長谷川はせがわ、医者) O 1 6 0 2  
 松庫(しょうこ・吉岡) → 羽人(うじん・吉岡よしおか、俳人) C 1 2 8 7  
 松壺(しょうこ・千家) → 尊澄(たかずみ・千家せんげ、神職/国学者) C 2 6 9 2  
 将虎(しょうこ・広瀬) → 将虎(まさとら・広瀬ひろせ/源、藩士、歌人) S 4 0 1 8  
 勝古(しょうこ・池田) → 勝古(かつひさ・池田いけだ/橘、商家/国学) T 1 5 6 0  
 勝己(しょうこ・贅川) → 勝己(勝己かつみ・贅川、歌人) C 1 5 5 3
- I2269 聖護(しょうご;号/聖護房、俗姓;草野)?-? 筑後の浄土僧:弁長門、  
 1227肥後の往生院で口決血脈を受/西光院の別時念仏に参加、「末代念仏授手印」相伝を受、  
 肥後光明寺住、臨終時に弁長筆阿弥陀経を授与される、1292「鎮西略要伝」著
- C2284 松後(松吾しょうご・佐々木ささき、名;弼次、候次[預四]2男)1732-98 備前岡山俳人;廬元坊・五竹坊門、  
 1763町役人の家督継嗣/76総年寄役/79四十人扶持;苗字帯刀御免、  
 1779美濃派再和流道統6世継承、1765松琴寺境内に芭蕉の時雨塚を建立、  
 香・茶道/製陶など嗜む、京の鴨川別荘に没、1757「二歌仙」編/68「富士の夢」82「鵲の橋」著、  
 1782「俳諧今は昔」86「糸車」92「続東方万句」編、93「心つくし」95「杖の迹」96「百歌仙」著、  
 1797「俳諧結制集」編、「備前」「道の枝折」「白川夜話」「正風俳諧二見貝」外著多数、  
 [松後(松吾;号)の幼名/通称/別号]幼名;松五郎、通称;与三太夫、  
 別号;森々庵/道阿/真空坊/帰空坊/帰雲坊、法号;松後軒帰空道阿居士、松雨の父
- I2270 省吾(しょうご・古森こもり、名;厚光、厚信男)1780-1844<sup>65</sup> 伊勢山田の俳人:椿堂門/夜雨亭を継嗣、  
 家業を弟痴雲に譲渡;隠居、「松窓集」/1814「道のおちほ」21「松窓日記」22「熊野詣」著、  
 [省吾(;号)の通称/別号]通称;富之助/善右衛門/善助(;隠居称)、  
 別号;省我/松窓/鵲堂/夜雨亭2世
- J2272 省吾(しょうご・箕作みつくり、名;寛、佐々木秀規2男)1821-46<sup>早世26歳</sup> 陸前仙台水沢の学者;  
 16歳頃京阪へ遊学、漢学;摩島松南・仁科白谷門、蘭学:坂野長安門、  
 江戸で洋学;箕作阮甫門/1842師箕作阮甫の婿養子となる、妻;阮甫3女のしん、麟祥の父、  
 地理学に通ず:1844「輿地全図」45-47「坤輿図識」/1846「坤輿図識拾遺」、「坤輿図識補抄」、  
 「輿地図誌」「新製万国地球図」著、  
 [省吾(;通称)の幼名/別通称/号]幼名;高之助、別通称;左衛次、号;玉海/夢霞山人/蘭山
- I2271 省吾(しょうご;名・小島こじま)?-? 江後期越後の兵法家:洋式水陸両戦法を説く、  
 1856「水陸戦考」、「海国兵要」著
- 2298 省吾(しょうご・児玉こたま)?-? 江後期美濃不破郡岩手の洋学者、  
 「医院録験」「塩酸全塩説」著
- 省吾(しょうご;法諱・無我)→ 無我(むが;道号・省吾、入玄臨濟僧) 4 2 2 3  
 省吾(しょうご・田中) → 桐江(とうこう・田中、儒者) D 3 1 7 2  
 省吾(しょうご・外村) → 半雲(はんうん・外村とのむら、藩士/儒者) H 3 6 2 3  
 省吾(しょうご・吉井/貫名)→ 海屋(かいおく・貫名ぬきな、書家/画人) 1 5 9 1  
 省吾(しょうご・贅川) → 正興(まさおき・贅川にえかわ、歌人) L 4 0 1 0  
 省吾(しょうご・氏家) → 緑山(りよくざん・氏家うじえ、藩儒者) J 4 9 7 6  
 省吾(しょうご・鶴和) → 其雪(きせつ・鶴和、商家/俳人) L 1 6 1 1  
 省吾(しょうご・富永) → 莘陽(しんよう・富永/長深/神墨、陽明学) 2 2 9 0  
 省吾(しょうご・会田/野呂)→ 陶斎(とうさい・野呂のろ、儒者/教育) E 3 1 2 4  
 省吾(しょうご・品川) → 弥二郎(やじろう・品川しながわ、藩士/尊攘) F 4 5 1 0  
 省吾(しょうご・鈴木) → 重任(しげとう・鈴木すずき、国学者) Z 2 1 1 2  
 蕉梧(省吾しょうご・西岡)→ 訓棟(のりたか・西岡/谷/秦、国学/歌) H 3 5 8 0  
 咲吾(笑吾しょうご・土居)→ 幸作(こうさく・長尾、渡米記録/医者) J 1 9 0 7  
 上戸庵酔人(じょうごあんすいじん、洒落本)→ 百亀(ひゃっき・小松嘶本/狂歌) E 3 7 9 4  
 聖護院(しょうごいん) → 覚助法親王(かくじよほっしんのう) 1 5 6 3  
 常護院(じょうごいん) → 理準(りじゅん・平松ひらまつ、真宗大谷派僧/詩歌) L 4 9 8 6
- I2281 聖護院道増(しょうごいんどうぞう、関白近衛尚通男)1508-71<sup>64</sup> 母;徳大寺実淳女維子、天台聖護院門跡、

1524乗々院興淳僧正を先達に大峰入山/39宝満寺淳暹を先達に葛城山入峰/存意より灌頂、  
1560將軍義輝の命で毛利・尼子の講和を斡旋、以後もしばしば安藝に下り幕府の意を伝達、  
「伊都伎島大願寺鐘銘」、歌/連歌、1545-70「何路」等百韻多数、「道増誹諧百首」「詩歌集」、  
[道増(；法諱)の一字名] 言、近衛植家・義俊の兄弟

聖護院道澄(しょうごいんどうちよう)→道澄(どうちよう；法諱、天台門跡/連歌) G 3 1 4 7

聖護院宮(しょうごいんのみや)→覚助法親王(かくじよほっしんのう、歌人) 1 5 6 3

聖護院宮(しょうごいんのみや)→覚誉法親王(かくよほっしんのう) B 1 5 7 7

聖護院宮(しょうごいんのみや)→興意親王(こういしんのう、天台僧/連歌) H 1 9 3 1

聖護院宮(しょうごいんのみや)→道晃親王(どうこうしんのう、天台修験門跡/歌・連歌) E 3 1 0 6

聖護院宮(しょうごいんのみや)→雄仁親王(ゆうにんしんのう、嘉言よこと、天台修験僧) D 4 6 5 3

聖護院法親王(しょうごいんほっしんのう)→覚誉法親王(かくよほっしんのう) B 1 5 7 7

S2208 盛弘(しょうこう・せいこう；法諱、法師)?-? 鎌倉期の僧/歌人、玉葉2706、

[山深み苔の下にはむもるれど人をぞわたる谷のかけ橋](玉葉；釈教2706)、  
(詞書；願照法師すすめ侍りける釈教歌の中に雖未自度出能度他の心を)

I2272 聖阜(しょうこう；法諱・竹敵；字、俗姓；藤原)1324-140279 京真言律僧；1340(17歳)出家/46具戒を受、  
拙叟全珍門；嗣法、真言密教も修学；泉涌寺に住、後光厳・後円融・後小松天皇の帰依受戒、  
1389奉勅により如法経を宝塔に安置、雲竜院を開山、1361「南山律宗教観名目」編

S2209 正広(しょうこう；法諱) 1412 - 149382 近江源氏佐々木氏の一族；松下家の出身、歌僧、  
13歳のとき正徹門；師没後に招月庵継承/備中小田庄を譲受、1464大内家招聘で周防下向、  
148応仁乱を避け各地流浪し奈良・長谷寺智恵光院住、師の遺草を収集；1473「草根集」編、  
1473駿河・関東・能登畠山家・北陸・若狭池田家等地方豪族大名家に流寓；歌会歌合に参加、  
判者として活動、1448賢良[畠山匠作亭詩歌]/57武家歌合/82將軍(義尚)家歌合参加、  
膨大な家集「松下集」著、1473紀行「正広日記」(駿河下向時)/75?「正広詠歌」、  
「正広三百六十番自歌合」著、1490「法華二十八品和歌」著、14591正徹三十三回忌を催行、  
代表歌[小簾のとにひとりや月の更けぬらん日比びの袖の涙たづねて]、  
この歌により「日比の正広」の称が生ず、俗名森彦右衛門範俊説は疑わしい、  
[春よりもまさ木の雪の花かづら冬をさかりに梅ひらくなり]、  
(匠作亭詩歌；24/雪裏早梅/対するは建冑華岳)

[正広(；法諱)の別法諱/号]初法諱；正暁/正晃、別法諱；正景、号；招月庵/晴雲庵、  
通称；日比びの正広

I2273 章阜(章江しょうこう；法諱・梅陽ばいよう；道号、号；茗溪ちやうけい)?-? 室町中期近江の臨濟僧；

京建仁寺靈泉院の江西竜派の門徒；生涯官寺に不就、琴叔景趣と応仁乱を近江に避ける、  
琴叔と詩を酬唱；1472「梅陽琴叔百絶」著

S2210 松江(しょうこう・本間ほんま、通称；弥三郎、医号；道悦・自準)1623-9775 大垣藩士、島原乱で負傷；致仕、  
江戸青物町で医者/俳人；芭蕉の師、常陸潮来に隠栖、  
養嗣子；友松五郎兵衛(蕉門の友五/2代日本間道因)、[塀めぐらせよ藁干す宿の友雀]

I2274 祥光(しょうこう；法諱・字；慧璆えきゆう/慧球、俗姓；原、塵外宗離男)1667-1701 母；海瀉相妙尼、  
和泉堺の真言僧；浄敵門/1678受明灌頂を受/81安祥寺流も許可を得て伝法阿闍梨位、  
貞享1684-88頃浄敵に随従し江戸下向；1691頃鎌倉一乗院主/のち河内に赴く；  
蓮体と延命寺を宰す、1690「真言行者二時食法聞書」著

S2211 松峽(しょうこう・松室まつむろ、名；種見/種博/種愷たねひろ/熙載ひろこと、種盛男)1692-174756 代々京の神職、  
松尾社の撰社月読社禰宜；漢学；伊藤東涯門/唐音；黄檗僧大通元信門、和学、  
京の白話小説/唐音学の流行を導く、「平安花柳録」「読国史」「松室熙載まつむろひろこと日記」著、  
[松峽(；号)の字/通称/別号]字；虞臣、通称；式部、別号；要窩散人/快活道人

S2212 松江(しょうこう・山本やまと)1695-177682 京の俳人；宋屋門、几圭の友人、

1751「田の鼠」編、72几董「其雪影」1句入、

[明月やうつむく物は稲ばかり](其雪影；巻尾352/宋専名)

[松江(；号)の別号] 宋専そうせん、顧泉舎、梅几庵

I2275 松江(しょうこう・鈴木/鱸すずき/修姓；盧ろ、名；玄淳/字；子朴)1704-8481 常陸多賀郡友部村の医者、  
下手綱村で開業/儒者；寺子屋を開、詩人；詩社を結ぶ、長久保赤水と親交、

- 「詩語考」「絶句解辨書」「唐詩平仄考」「山直略記」、1779「百姓日用訓」、84「和漢年代歌」編
- S2213 **松江**(しょうこう・多湖たこ/修姓;湖、名;宜、栢山長男)1709-7466 美濃儒者;加納藩儒;戸田氏に出仕、移封により信濃松本藩儒臣、江戸の林榴岡門;経史を修学/1748藩主戸田美津雄に出仕、1748朝鮮通信使と応酬し詩名を上げる、秋山玉山と交流、「雑劇字解」「松江和歌集」、「松江集」「有和詩英」「今献詩英」「夏間随筆」「視聴随筆」「遺簪集」著、[松江(;号)の字/通称/別号]字;玄室、通称;昌蔵、別号;文鳳陳人
- S2214 **松江**(しょうこう・福島ふくしま/修姓;福、名;興正、宗元男)1712or22-177261-51 江戸儒者;服部南郭門、父は伊勢八田藩士、八田藩よりの仕官要請を辞退し私塾で教授、1748美濃岩村藩より招聘;30石で師保/火器隊長/40石で藩校知新館儒員、大目付、武芸にも習熟;拳法に長ず、「松江詩集」「松江文集」「世話類備」「喪服図解」「岩村地名考」、1753「絶句解考証」68「絶句解評釈」、「絶句解拾遺考証」「王制分封田畝考」著、「松江遺稿」、[松江(;号)の字/通称]字;子幹、通称;茂左衛門
- I2276 **松江**(しょうこう・小西こにし、名;績、与右衛門生幸長男)1748-181972 丹後熊野郡湊宮廻船業;父継嗣、両替・酒造を兼業、漢学:京の江村北海門/詩に長ず、大阪に別宅;混沌詩社同人と交流、葛子琴と親交、1795「松江近体詩」、「呈頼春水書」著、菅茶山・篠崎三島・赤松滄洲らと交流、[松江(;号)の字/通称/別号]字;伯熙、通称;与右衛門、別号;琴詩酒書画禅道人
- I2277 **小篁**(しょうこう・岡田おかだ、名;敬)1801-4747 上野伊勢崎藩士/儒者;浦野神村・常見浩齋門、詩人、伊勢崎藩学習堂の助教/のち江戸信古堂の教授、大橋訥庵門、「消閑余録」「読論性説」「小篁雜考」「如愚齋文稿」「病間雜稿」「病間草稿」著、[小篁(;号)の通称/別号]通称;恭助、別号;如愚齋
- I2278 **松江**(しょうこう・鈴木すずき、名;宜愛/宜受)?-? 水戸藩儒/1832彰考館入/41藩校弘道館訓導、1861教授、「家語考」「読経緒言」「文献外考」「論語集説」「松江叢書」著、[松江(;号)の通称]子之吉ねのきち
- S2215 **松岡**(しょうこう・豊田とよだ、名;亮、庄屋信卿男)1805-6460 常陸久慈郡坂野上村の庄屋の生、儒;1818水戸の藤田幽谷門/19江戸の亀田鵬斎・大田錦城門、劍術;岡田十松門、水戸藩儒;1820水戸彰考館に出仕/41弘道館学職を兼務、43「大日本史」志表の編集頭取、1844藩主斉昭の謹慎に憤怒;45幕府老中に直訴/禁固5年、1855小姓頭取/56彰考館総裁、1832「中興新書」46「明夷録」48「精忠新録」52「籲天やくてん録」54「北島志」「北虜志」、「成仁録」「鶏鳴録」「常陸義軍考」「大日本史刑法志稿」「松岡文鈔」「松岡先生文集」外多数、[松岡(;号)の字/通称/別号]字;天功てんこう、通称;丑松/彦次郎、別号;晚翠、香窓の父
- S2216 **昌功**(しょうこう・阪[坂]さか;4代目、阪昌成男)?-? 1834存 幕府連歌師;1810出仕/13第三勤仕、1833「菟玖婆廻山口」、「品川八景」「昌功万句三物」著、歌;蜂屋光世「大江戸倭歌集」入(;貞利名)、  
[見し花のあかぬなごりにかへて今朝初ほととぎす聞くぞ嬉しき](大江戸倭歌;夏380)、  
[三島江や枯て色なき蘆の葉に又おもしろく雪ぞ積れる](大江戸倭歌;冬1299/江雪)、  
[昌功(;号)の幼名/名/別号]幼名;乙丸、名;貞利、別号;吟阿  
母の[かよ女]も歌人
- U2258 **承行**(しょうこう・長浦ながうら)?-? 江後期;歌人、1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、  
[山風の雪げもよほす雲間よりもる影寒き冬の夜の月](大江戸倭歌;1169)  
承行(;名);すけゆき?・つぐゆき?・よしゆき?
- 少公(しょうこう・堀) → 季雄(ときかつ・堀ほり、藩士/詩歌/国学) J 3 1 0 5  
 章行(しょうこう・中原) → 章行(あきゆき・中原、明法家) E 1 0 0 4  
 章行(しょうこう・松野尾) → 章行(あきゆき・松野尾まつのお/松野、藩士/史家) J 1 0 4 7  
 章弘(しょうこう・小槻) → 章弘(あきひろ・小槻おづき/有馬/壬生、廷臣) D 1 0 8 3  
 章弘(しょうこう・山中) → 章弘(あきひろ・山中やまなか、書家/歌人) I 1 0 7 0  
 章広(しょうこう・松前) → 章広(あきひろ・松前まつまえ、藩主) D 1 0 8 4  
 章候(しょうこう・北条) → 竹潭(ちくたん・北条/伊勢、藩士/航海) D 2 8 4 3  
 相公(しょうこう・善) → 清行(きよゆき・三善みよし、廷臣/漢学) 1 6 4 9  
 聖光(しょうこう) → 弁長(べんちやう・聖光房、浄土僧) B 2 7 3 6  
 正香(しょうこう・蘭桂) → 蘭桂(らんけい・正香しょうこう、黄檗僧) D 4 8 3 3

正好(しょうこう)	→ 正好(せいこう、連歌、)	B 2 4 3 6
正香(しょうこう;法諱)	→ 蘭桂(らんけい;道号・正香、黄檗僧)	D 4 8 3 3
正綱(しょうこう;法名)	→ 通敏(みちとし・中院/源、廷臣/歌人)	B 4 1 9 7
正亨(しょうこう;法諱・乾叟)	→ 乾叟(けんそう;道号・禅亨、曹洞僧)	K 1 8 6 8
正行(しょうこう;字)	→ 寂超(じやくちよう;法諱・正行、天台僧)	W 2 1 0 8
性光(しょうこう;法名)	→ 資教(すけのり・日野/藤原、廷臣/歌人)	C 2 3 7 7
祥光(しょうこう・北小路)	→ 祥光(よしみつ・北小路きたのこうじ/藤原/日野、廷臣)	H 4 7 5 2
承行(しょうこう・片岡)	→ 竹亭(ちくてい、片岡、儒/医者)	D 2 8 5 1
紹光(しょうこう)	→ 経広(つねひろ・勧修寺かじゅうじ、歌/連歌)	D 2 9 5 4
韶光(しょうこう・勘解由小路)	→ 韶光(あきみつ・勘解由小路かでのこうじ、儒/詩文)	D 1 0 9 7
昭皓(しょうこう;法諱・芝巖;道号)	→ 利貞(としさだ・高志たかし、惣年寄/儒/禅僧)	M 3 1 4 6
盛弘(しょうこう)	→ 盛弘(せいこう、江戸初期俳人)	B 2 4 4 2
尚興(しょうこう)	→ 尚興(ひさおき、連歌)	3 7 8 7
尚光(しょうこう・柳原)	→ 量光(かずみつ・柳原やなぎはら、廷臣/日記)	M 1 5 5 1
尚行(しょうこう・岩井田)	→ 尚行(ひさゆき・岩井田/荒木田、神職)	C 3 7 1 2
尚行(しょうこう・ひさゆき・辻)	→ 喜安(きあん・辻つじ、藩士/医者)	J 1 6 5 2
尚行(しょうこう・建部)	→ 尚行(なおゆき・建部たけべ、庄屋/国学/詩)	N 3 2 7 7
尚広(しょうこう・蓬萊)	→ 尚広(ひさひろ・蓬萊/荒木田、神職/日記)	B 3 7 8 7
尚広(しょうこう・三好)	→ 尚広(なおひろ・三好みよし、庄屋/歌人)	O 3 2 9 8
尚綱(しょうこう・宇都宮)	→ 慎斎(しんさい・宇都宮、神職/儒者)	O 2 2 4 0
尚綱(しょうこう・朽木)	→ 尚綱(なおつな・朽木くつき/源、幕臣/歌)	K 3 2 1 1
尚綱(しょうこう・船曳)	→ 子錦(しきん・船曳ふなびき、医者)	B 2 1 1 4
尚綱(しょうこう・中尾)	→ 猷祖(ゆうそ・中尾/藤原/奥沢、医官)	D 4 6 2 9
尚孝(しょうこう・中村)	→ 尚輔(ひさすけ/なおすけ・中村、藩士/国学者)	B 3 7 1 7
尚高(しょうこう・児玉)	→ 尚高(ひさたか・児玉/秦、神職/国学者)	B 3 7 2 6
商衡(しょうこう・赤田)	→ 誠軒(せいけん・赤田あかだ、儒者)	I 2 4 0 3
昌向(しょうこう・築瀬)	→ 昌向(まさひさ・築瀬、家老/救荒対策)	G 4 0 5 8
昌行(しょうこう・鮎川)	→ 昌行(まさゆき・鮎川あゆかわ、兵法家)	I 4 0 2 1
昌広(しょうこう・松前)	→ 昌広(まさひろ・松前まつまえ、藩主)	M 4 0 3 5
昌弘(しょうこう・村井)	→ 昌弘(まさひろ・村井むらい、兵学・測量家)	G 4 0 9 4
昌光(しょうこう・羽間)	→ 昌光(まさみつ・羽間はさま/井岡/村上、商家/国学)	R 4 0 5 6
昌孝(しょうこう・名越)	→ 昌孝(まさたか・名越なごし、御用釜師)	D 4 0 3 0
昌孝(しょうこう・北島)	→ 昌孝(まさのり・北島きたじま、神職/国学)	P 4 0 2 8
昌孝(しょうこう・和田)	→ 昌孝(まさたか・和田わだ、藩士/詩歌人)	T 4 0 7 6
昌幸(しょうこう・藤井)	→ 昌幸(まさゆき・藤井ふじい/原、神職)	I 4 0 2 8
昌高(しょうこう・島津/奥平)	→ 昌高(まさたか・奥平おくだいら/島津、藩主/蘭学)	D 4 0 2 3
昌綱(しょうこう)すべて	→ 昌綱(まさつな)	
昌興(しょうこう)すべて	→ 昌興(まさおき)	
松巷(しょうこう・西垣)	→ 桐斎(とうさい・西垣にしがき、儒者/詩文)	E 3 1 2 1
松江(しょうこう)	→ 富士郎(ふじろう(2世とみじゅうろう)・中村、歌伎役者)	O 3 1 8 3
松江(しょうこう・長崎)	→ 正国(まさくに・長崎ながさき/橘、医/神職)	R 4 0 2 5
松光(しょうこう・松本)	→ 孝女(こうじよ・松本まつもと/黒柳、歌人)	R 1 9 3 4
松岡(しょうこう;号)	→ 清播(せいば;法諱・心田;道号、臨濟僧/詩文)	C 2 4 8 5
松岡(しょうこう・佐藤)	→ 松岡(まつおか・佐藤さとう、郡吏/国学者)	P 4 0 8 8
松亨(しょうこう・井出)	→ 道貞(みちさだ・井出いで、神職/史家)	L 4 1 1 6
松篁(しょうこう・守村)	→ 抱儀(ほうぎ・守村[邨]、商家/俳人)	3 9 3 9
松阜(しょうこう・蒲坂)	→ 青荘(せいそう・蒲坂はさか、漢学者)	C 2 4 4 9
勝孝(しょうこう;字)	→ 日遺(にちかん;法諱・祥趣院、日蓮僧)	B 3 3 1 4
勝孝(しょうこう・永井)	→ 勝則(かつのり・永井ながい、藩士/日記)	N 1 5 7 7
勝孝(しょうこう・北島)	→ 勝孝(かつのり・北島きたじま、神職/国学)	U 1 5 5 0

勝光(しょうこう;字) → 日耀(にちよう;法諱・勝光院、日蓮僧) D 3 3 4 8  
 勝光(しょうこう・日野) → 勝光(かつみつ・日野ひの、廷臣/歌) C 1 5 5 4  
 勝行(しょうこう・板倉) → 勝行(かつゆき・板倉いたくら、藩主/国学) T 1 5 6 9  
 勝幸(しょうこう・山下) → 勝幸(かつゆき・山下やました、歌人) R 1 5 6 7  
 勝弘(しょうこう・かつひろ・高橋) → 東臯(とうこう・高橋、商家/書家/俳人) D 3 1 8 3  
 勝高(しょうこう・鳥居) → 勝高(かつたか・鳥居とりい、武士/忠義) U 1 5 5 1  
 勝康(しょうこう・阿川) → 勝康(かつやす・阿川、眞牧、武将/連歌) N 1 5 9 3  
 勝綱(しょうこう・奥野) → 勝綱(かつつな・奥野おくの、歌人/天文) U 1 5 0 4  
 勝興(しょうこう)すべて → 勝興(かつおき)  
 咲行(しょうこう・柴田) → 花守(はなもり・柴田しばた、神道家) F 3 6 5 0  
 湘江(しょうこう・能条) → 保庵(ほあん・能条のうじょう、医者) 3 9 0 3  
 将興(しょうこう・今井) → 魯齋(ろさい・今井いまい、藩儒者;史官) B 5 2 5 0  
 将興(しょうこう・九里) → 将興(まさおき・九里くのり、藩士/詩人) B 4 0 4 8  
 蔣江(しょうこう・野上) → 国幹(くにもと・野上のがみ、神職/詩歌) D 1 7 2 5  
 聶江(しょうこう・篠崎) → 小竹(しょうちく・篠崎/篠、儒者/詩人) 2 2 9 2

I2279 勝剛(しょうこう;道号・長柔(ちやうじゆう);法諱、俗姓;大内)?-1456 室町期石見の臨濟僧:  
 伝宗長派の法嗣、また建仁寺江西竜派門;外典の講を受、1447頃普門寺住持、  
 東福寺莊嚴倉院主/1450東福寺147世、同年石見崇観寺に隠棲、「梅野的聞」著、  
 [勝剛長柔の号] 梅野/蒲軒、佩弦老人

勝剛(しょうこう・秋山) → 寒緑(かんろく・秋山あきやま、藩士/儒者) R 1 5 9 1  
 松濠(しょうこう・伊東) → 祐賢(すけかた・伊東いとう、藩士/教育) L 2 3 2 8

I2280 浄孝(じやうこう;坂さか、別号;盛方院[父の号継承]、浄秀男)?-? 室町期の医僧、  
 三位法印、「揖仙方」著

C2209 常広(じやうこう;法諱) ? - ? 室町期/尾張熱田神宮関係の社僧、  
 連歌;1423「熱田法楽連歌」連衆(1句)、  
 [住めば山こそやがてかくれ家が](熱田法楽;賦山何;名残裏2/遁世者の心境、  
 前句;其阿;捨てしよりもとの心をもたぬ身に)

Q2235 乘興(じやうこう;寺西/田?、別号;幽峰(ゆうほう)?-? 江前期安藝広島の俳人/貞門系、  
 1666?風虎「夜の錦」/72頭成「続境海草」/79宗臣「詞林金玉集」入

I2282 浄光(じやうこう;法諱・字;眞俊/眞春) 1729-1803 75 安房の眞言僧;京の智積院で修学;洞泉隆雄門、  
 顕密を修学/のち江戸円福寺住持、1803智積院26世、  
 1763「幸心伝授聞書」69「大日経奥疏聴要記」、「大日経疏第三重第三」灌頂伝授掌中記」著

乗功(じやうこう;法諱) → 乗功(じやうく・じやうく;法諱/歌人) G 2 2 2 0  
 乗興(じやうこう・松平) → 乗興(のりおき・松平まつだいら、幕臣/和学) K 3 5 0 4  
 乗衡(じやうこう・松平/林) → 述斎(じゆっさい・林/松平、幕府儒官;学制改革) I 2 1 9 4  
 定衡(じやうこう、文安詩歌合参の法師) → 定衡(さだひら・藤原、北面武士) J 2 0 5 3  
 浄高(じやうこう;法諱) → 大溪(だいかい;道号・浄高;法諱、黄檗僧) J 2 6 7 8  
 浄光(じやうこう・加倉井) → 松山(しょうざん・加倉井かくらい、医/儒者) S 2 2 5 2  
 上侯(じやうこう・宮沢) → 雲山(うんざん・宮沢みやざわ、儒者/詩人) B 1 2 1 5  
 常光(じやうこう・久志本) → 常光(つねみつ・久志本/度会、神職/医者) D 2 9 9 0  
 常広(じやうこう・後藤) → 常広(つねひろ・後藤ごとう、歌人) Q 2 9 9 1  
 常行(じやうこう・野矢) → 常行(つねゆき・野矢のや、藩士/歌人) E 2 9 1 4  
 常香(じやうこう・伊藤) → 常香(つねか・伊藤いとう、国学者/歌) B 2 9 8 3  
 常香(じやうこう・吉川) → 常香(つねか・吉川よしかわ/卜部、神職/劍術) G 2 9 7 0  
 常弘(じやうこう;名) → 常信親王(じやうしんしんのう、眞言勧修寺門跡/連歌) K 2 2 1 1  
 常孝(じやうこう・森田) → 良見(よしみ・森田、藩士/国学者) H 4 7 2 9  
 常幸(じやうこう) → 常幸(つねゆき) F 2 9 0 9  
 常耕(じやうこう・川中) → 庸平(つねひら・川中かわなか、国学者) F 2 9 5 6  
 常綱(じやうこう・上原/田代) → 常綱(つねつな・田代/上原、藩士/和漢学) C 2 9 5 3  
 常興(じやうこう;法名) → 尚氏(ひさうじ・大館おおだち/源、武将/故実) E 3 7 4 2

常興(じょうこう)上記以外すべて → 常興(つねおき)

- V2277 **定豪**(じょうごう;法諱・延俊or俊通男)1152-1238<sup>87</sup> 平安鎌倉期;東寺僧/僧正;三山檢校、  
伝法院座主、東大寺別当/大僧正、醍醐源氏高明後裔、通称:弁僧正/民部僧正、  
慶算きょうさん(園城寺法印/新古今歌人)の従兄弟or兄弟、  
1238(嘉禎4)没、歌人;1237刊[檜葉集]入、  
[鎌倉に侍りけるととき人々に九月尽の歌よませけるつでに、  
やそぢあまりおくりむかへしなが月にまたあひがたきみと成りにける](檜葉;秋283)
- I2283 **浄業**(じょうごう;法諱・法忍ほうにん;字)1187-1259<sup>73</sup> 近江の律僧;1201(15歳)出家/1206具足戒を受、  
園城寺僧;顕密二教を研究/南都に遊学、戒律復興を志す;1214入宋;鉄翁守一律師門、  
1220帰国;京に戒光寺建立;戒律を宣揚、1233頃再度入宋、帰国;筑前太宰府に西林寺建立、  
京に東林尼寺創建;終生戒律復興に尽力、「天台四教儀集註雲梯鈔」編、  
「法忍律師歌詠」「首楞嚴經しゅりょうごんぎょう経句解疏新記」著、  
[浄業(法諱)の号]曇照/宗師/忍律法師、浄因の師
- 常剛(じょうごう;法諱) → 光闡(こうせん;法諱・法如;号、真宗西本願寺17世) K 1 9 1 8  
象工庵(しょうこうあん) → 宝玉(ほうぎよく・象工庵、茶番集) 3 9 4 8
- U2293 **勝行院**(しょうこういん・大信寺)1767-1855<sup>89</sup> 出羽酒田の真宗本願寺派大信寺9世住職達空の妻、  
国学者/歌人;白崎正ただし(一実/1797-1850)・僧魯堂(1791-1844)らと交流
- 昭光院(昭光院しょうこういん) → 師平(もろひら・鷹司、関白/歌人) H 4 4 8 2  
照高院(しょうこういん) → 道澄(どうちよう、門跡/歌/連歌) G 3 1 4 7  
祥光院(しょうこういん) → 元茂(もとしげ・鍋島なべしま、藩主/兵法家) C 4 4 5 9  
勝光院(しょうこういん) → 日耀(にちよう;法諱・勝光、日蓮僧) D 3 3 4 8  
紹宏院(しょうこういん) → 公雅(きんまさ・三条/正親町三条、歌) E 1 6 6 8  
常光院(じょうこういん) → 堯孝(ぎょうこう;法諱、室期歌人) 1 6 4 4  
常光院(じょうこういん) → 堯尋(ぎょうじん;法諱、真言僧/歌人) C 1 6 7 0  
常光院(じょうこういん) → 日諦(にったい;法諱、天台/日蓮僧) E 3 3 9 9  
常光院(じょうこういん) → 家定(いえさだ・木下/豊臣、藩主/隨筆) E 1 1 8 2  
常光院(じょうこういん) → 堯智(ぎょうち;法諱、真言僧/歌学) J 1 6 2 7  
浄光院(じょうこういん) → 忠憲(ただのり・本多、国学/故実/俳人) F 2 6 6 3  
上行院(じょうこういん) → 日叡(にちえい;法諱、日蓮僧) 3 3 5 9  
昭光院前関白右大臣(しょうこういんのさきのかんぱうだいじん:新拾遺集) → 師平(もろひら・藤原) H 4 4 8 2  
紹宏院贈内大臣(しょうこういんのぞうないだいじん:新続古集) → 公雅(きんまさ・正親町三条/藤原) E 1 6 6 8  
照高院宮(しょうこういんのみや) → 興意親王(こういしんのう、天台僧、連歌) H 1 9 3 1  
照高院宮(しょうこういんのみや) → 道晃親王(どうこうしんのう、天台修験門跡/歌・連歌) E 3 1 0 6
- S2217 **尚灝王**(しょうこうおう、尚哲4男)1787-1839<sup>53</sup> 母;真鍋樽金(徳沢)、琉球王国第2尚氏王朝第17代国王、  
:甥尚成王を継嗣、宮古・八重山方面へ派遣医師の増員/刑法典[琉球科律]の追補;  
「新集科律」の編纂事業を実施、1816バジル・ホール来琉、一妃二夫人八妻/9男17女の父、  
晩年精神病を患い1828世子尚育に讓位、坊主御主ぼうずしゅうと称される、  
琉歌作者;「琉歌全集」11首入、  
[尚灝王の童名]思次良金うみじらがね
- 小広寒宮主人(しょうこうかんきゅうしゅじん) → 竹外(ちくがい・藤井、藩士/詩) C 2 8 7 8  
湘江閑人(しょうこうかんじん) → 槐堂(かいどう・佐野、俳人) J 1 5 0 1  
称好軒(しょうこうけん) → 徽庵(きあん、通俗本作家) 1 6 7 0  
称好軒(しょうこうけん) → 堯孝(ぎょうこう、歌人) C 1 6 4 4  
称好軒(しょうこうけん) → 堯憲(ぎょうけん、歌人) C 1 6 4 3  
松篁軒(しょうこうけん) → 世猷(せいゆう・神野じんの/服部、藩士/儒) J 2 4 6 6  
松香軒(しょうこうけん) → 信由(のぶよし・石黒、和算/測量術) D 3 5 9 1  
嘯嗽軒(しょうこうけん) → 友直(ともなお・相原、医/儒者/地誌) P 3 1 9 9  
常光国師(じょうこうこくし) → 明応(みょうおう・空谷、臨濟僧) G 4 1 1 9  
樵耕斎(しょうこうさい) → 紀風(のりかぜ・村松、本草家) E 3 5 3 7  
松高斎(しょうこうさい) → 春亭(はるてい・勝川、絵師) K 2 1 3 0

松広斎(しょうこうさい) → 知行(ともゆき・彦部ひこべ、機業/詩歌) W 3 1 1 8  
 常耕斎(じょうこうさい・児島景范かげのり) → 天渤(てんろく・児島、儒者) E 3 0 6 4  
 松好斎半兵衛(しょうこうさいはんべえ) → 半兵衛(はんべえ・松好斎、絵師) I 3 6 5 1  
 松江散人(しょうこうさんじん) → 方塾(みちいへ・柳瀬やなせ、商家/歌人) B 4 1 1 8  
 城興寺殿(じょうこうじどの) → 信長(のぶなが・藤原、太政大臣、歌人) C 3 5 5 2  
 城興寺宮(じょうこうじのみや) → 恒雲法親王(こううんほつしんのう、天台僧/歌) 1 9 7 3  
 常康親王(じょうこうしんのう) → 常康親王(つねやすしんのう、歌人) E 2 9 0 9  
 勝光智(しょうこうち; 法名) → 光嚴天皇(こうごんてんのう、北朝初即位/歌人) B 1 9 0 9

I2284 称光天皇(しょうこうてんのう、後小松天皇1皇子) 1401-28早世28 母; 光範門院藤原資子(日野資国女)、  
 応永二十二1414即位; 父の院政、病弱で晩年は精神異常の徴候、足利・日野家に近接、  
 「内裏三席御会詩懷紙写」著、

[称光天皇の諱/法諱] 諱; 躬仁みひと/実仁、法諱; 大宝寿

承香殿中納言(しょうこうでんのちゆなごん) → 承香殿中納言(じょうきやうでんのちゆなごん) M 2 1 6 9  
 承香殿としこ(しょうこうでんとしこ・じょうきやうでん-) → 俊子(としこ、歌人) M 3 1 3 6  
 承香殿女御(しょうこうでんにようご) → 承香殿女御(じょうきやうでんにようご) M 2 1 7 0  
 松江堂(しょうこうどう; 号) → 徹外(てつがい; 法諱・松江堂、僧/神道) C 3 0 2 0  
 松好堂(しょうこうどう) → 園夫(えんぶ・木村、歌舞伎作者) B 1 3 8 6  
 嘯傲堂(しょうごうどう) → 定為(さだため・安藤あんど、歌人) I 2 0 4 9  
 少輔光風(しょうこうふう) → 都の錦(みやこのにしき、浮世草子作者) 4 1 3 9  
 聖光房(しょうこうぼう) → 弁長(べんちやう; 法諱、浄土僧; 鎮西流祖) B 2 7 3 6  
 祥光坊(しょうこうぼう) → 僧遵(そうじゆん; 法諱、真宗本願寺派僧) H 2 5 9 3  
 咲行靈神(しょうこうれいしん) → 花守(はなもり・柴田しばた、神道家) F 3 6 5 0  
 祥光老子(しょうこうろうし) → 周巖(しゅうげん; 法諱・東沼; 道号、臨濟僧) H 2 1 2 7  
 尚古閣(しょうこかく) → 孝庵(2世こうあん・栗山、医者/解剖) H 1 9 2 2  
 尚古館(しょうこかん) → 東籬亭菊人(とうりていきくひと、池田、官人/読本) 3 1 2 7

I2285 勝国(しょうこく; 道号・良尊りょうぞん; 法諱) ?-? 江初期の曹洞僧/1624相模の最乗寺住持、  
 美濃天徳寺18世、上嶽寺・大長寺の開山、曹洞宗の僧録・触頭制度確立に貢献、「勝国代」著

S2218 松黒(しょうこく・山田やまだ) ?-? 江中期江戸赤坂の町医、生田流箏曲家、  
 箏曲・長谷富桜校(おかの一)門、山田斗養一に組歌を伝承、1775-77江戸の総録を務める、  
 1779「箏曲大意抄」編、「山田の落穂」著

小国(しょうこく・阿保) → 邦彪(くにたけ・阿保あほ/中川、国学/画) D 1 7 9 3  
 篠谷(しょうこく・大鶴) → 定香(さだか・大鶴おおつる、医者/詩人) H 2 0 8 6  
 尚国(しょうこく・荒木田) → 尚国(ひさくに・荒木田あらかきだ、神職) 3 7 9 9  
 尚克(しょうこく・国友) → 善庵(ぜんあん・国友くにとも、藩士/儒者) E 2 4 8 1  
 松谷(しょうこく・高橋) → 豊珪(とよあき・高橋たかはし、剣術/書家) V 3 1 6 5  
 樵谷(しょうこく・大石) → 眞虎(まら・大石おおいし、絵師) J 4 0 9 5  
 嘯谷(しょうこく) → 浄月(じやうげつ; 法諱、僧/歌人) G 2 2 3 7  
 藁谷(しょうこく・宮崎) → 畏斎(いさい・宮崎みやざき、幕臣/儒者) F 1 1 4 6  
 常国(しょうこく・西山) → 政樹(まさき・西山/中里、国学者/歌) L 4 0 8 1  
 常穀(しょうこく/つねよし・武重) → 正重(まさしげ・武重たけしげ/児玉、国学者) L 4 0 8 8  
 貞極(じやうごく; 法諱) → 貞極(ていごく; 法諱、浄土僧/歌人) 3 0 6 1  
 城国亭(じょうこくてい) → 嵐牛(らんぎゆう・伊藤、国学/俳人) B 4 8 7 2  
 勝国道人(しょうこくどうじん) → 安慧(あんえ; 法諱、真宗本願寺派僧) F 1 0 9 7  
 尚古考証園(しょうこくしやうえん) → 由豆流(ゆずる・岸本/平/朝田、国学者) 4 6 1 3  
 小戸斎(しょうこさい・小田) → 成胤(なりたね・小田おだ、神職) H 3 2 5 8  
 尚古斎(しょうこさい) → 乾山(けんざん・尾形おがた、陶工/絵師) B 1 8 9 3  
 尚古斎(しょうこさい) → 誠(まこと・佐藤さとう、藩士/歌/金石学) 4 0 8 1  
 小虎山房(しょうこさんぼう) → 暢斎(ちやうさい・蒔田/田、書家/篆刻) I 2 8 3 7  
 尚古主人(しょうこしゆじん) → 明良(あきよし・田口、書肆/書誌学) E 1 0 1 0  
 松骨(しょうこつ) → 鸞太(らんたい・中村なかむら、俳人) C 4 8 8 9

- 尚古堂(しょうこどう) → 重熙(しげひろ・前田/菅原、藩主/歌人) S 2 1 4 6  
尚古堂(しょうこどう) → 春道(はるみち・村田、商人/国学) 3 6 3 7  
尚古堂(しょうこどう) → 麟嶼(りんしょ・山田/菅原/菅、幕臣/儒) K 4 9 4 3  
尚古堂(しょうこどう) → 尚古(しょうこ・大谷おたに、儒者/俳人) I 2 2 6 8  
尚古堂(しょうこどう) → 杜蝶(とちやう・尚古堂、狂句川柳) O 3 1 3 8  
尚古堂(しょうこどう) → 明良(あきよし・田口、書肆/書誌学) E 1 0 1 0  
貞五堂(じょうごどう) → 乾峰(初世けんぼう、雑俳点者) D 1 8 0 6  
尚古道人(しょうこどうじん) → 柳斎(りゅうさい・和気わけ/半井、藩儒) E 4 9 0 4  
尚古風閣(しょうこふうかく) → 玄鶴(げんかく・大野おの、医者/地誌) I 1 8 2 7  
聖護房(しょうごぼう) → 聖護(しょうご;号、浄土僧) I 2 2 6 9  
尚五郎(しょうごろう・肝付) → 帯刀(たてわき・小松、家老/日記) R 2 6 7 3  
庄五郎(しょうごろう・山崎屋/松波) → 道三(どうさん・齋藤、戦国武将) E 3 1 6 8  
庄五郎(しょうごろう・内藤/竹田) → 広貞(ひろさだ・竹田たけだ、能楽師) F 3 7 8 4  
庄五郎(しょうごろう・間宮) → 士信(ことぶ・間宮、儒者/昌平黌総裁) F 1 9 8 2  
庄五郎(しょうごろう・西川) → 松琵琶(しょうひ・窪田/西川、俳人) B 2 2 3 0  
庄五郎(しょうごろう・長谷川) → 忠崇(ただたか・長谷川、幕臣/地誌) P 2 6 7 3  
庄五郎(しょうごろう・加藤) → 忠俊(ただとし・加藤、里正/国学/歌人) F 2 6 9 6  
庄五郎(しょうごろう・小島) → 貞景(初世さだかげ・歌川、小島、絵師) H 2 0 8 9  
庄五郎(しょうごろう・岡野) → 逢原(ほうげん・岡野おかの、儒者/藩士) F 3 9 1 0  
庄五郎(しょうごろう・川村) → 修就(ながたか・川村かわむら、幕臣/奉行/歌) F 3 2 0 7  
庄五郎(しょうごろう・本間) → 光道(みつみち・本間ほんま、富豪/藩士/俳) K 4 1 4 6  
省五郎(しょうごろう・高橋) → 知周(ともちか・高橋、国学/歌) P 3 1 8 0  
省吾郎(しょうごろう・吉井/貫名) → 海屋(かいおく・貫名ぬきな、書家/画人) I 5 9 1  
勝五郎(しょうごろう・青木) → 春澄(はるすみ・青木あおき、俳人) G 3 6 4 7  
正五郎(しょうごろう・栗崎) → 履斎(りさい・栗崎くりさき、儒者) B 4 9 0 6  
正五郎(しょうごろう・杉本) → 清蔭(きよかげ・杉本/池田屋、商家/歌人) O 1 6 6 8  
正五郎(しょうごろう・後藤) → 祐良(すけよし・後藤ごとう、文筆家) D 2 3 7 1  
正五郎(しょうごろう) → 正五郎(まさごろう) 参照  
璋五郎(しょうごろう・南部) → 信民(のぶたみ・南部なんぶ/源、藩主/歌) G 3 5 6 8  
笑語楼夢羅久(しょうごろうむらく) → 夢羅久(初世むらく・朝寝房、噺家) D 4 2 1 2  
I2286 正根(しょうこん;法諱) ? - ? 1505存 戦国期東大寺実相坊の華嚴僧、  
連歌作者:1505「玉何百韻」参加、新菟玖波集2句入  
I2287 鐘昏(しょうこん) ? - ? 加賀小松の俳人;1691北枝「卯辰集」入、  
[螢火にとびつく魚や水の音](卯辰集)  
S2219 松根(しょうこん・柳子軒) ? - ? 浮世草子作者、1709「傾城銭車けいせいぜにぐるま」著  
松根(しょうこん・古川) → 松根(まつね・古川ふるかわ、藩士/国学/歌) J 4 0 8 3  
松根(しょうこん・樺山/村山) → 松根(まつね・村山/木村/樺山、藩士/歌) J 4 0 8 4  
松根(しょうこん・神戸) → 大江(おおはま・神戸かんべ、藩士/国学/歌) D 1 4 9 1  
正鯤(しょうこん・大鵬) → 大鵬(たいほう・正鯤、渡来黄檗僧) C 2 6 1 7  
S2220 性嚴(しょうごん;法諱、一条内実男)?-? 南北期僧侶/法師、内経(関白)・慈慶(大僧正)の兄弟、  
歌人、連歌;菟玖波集2句入、  
勅撰4首;新千載(1179)新拾遺(821/1492)新後拾遺(1460)、藤葉集入、  
[せきあへぬ涙ぞつもるむば玉の夜はの枕もうきぬばかりに](新千載;恋1179)、  
[むつごともまだ尽きぬよのかねの音を別になして聞くぞかなしき](藤葉;恋531)  
I2288 昭嚴(しょうごん;法諱、俗名;広橋家雅、内大臣広橋豊忠男)1720-87 京極宮家仁親王の猶子、  
真宗僧;1726木辺派本山錦織寺の法嗣/34得度;継職/錦織寺14世、「木部御勸章」著  
照嚴(しょうごん;法諱) → 観景(かんけい;字・照嚴、律宗僧) Q 1 5 2 9  
I2289 盛金(じょうこん;法諱) ? - ? 1357存 南北期尾張の天台宗密蔵院住僧、  
1357「宇賀神供次第私」著  
S2221 静嚴(じょうごん;法諱、藤原仁季男or橋資成男)1052-? 1093存 平安期法相僧;法師、比叡山で修学、



1093堅者、興福寺四室得業、実範聖人と親交、歌人、勅撰2首；金葉(Ⅱ629・Ⅱ621)千載(580)、  
続詞花集2首・檜葉集3首入、  
[心には厭ひはてつと思ふらんあはれいづくもおなじ憂き世を](金葉；雑629)、  
(詞書；実範聖人山寺に籠り居ぬと聞きてつかはしける)

- V2293 静嚴(じょうごん；法諱、摂関左大臣一条実経男) 1243-9957 母；良性法印女、醍醐寺真言僧、  
出家：嚴舜門/勝尊・親杲より灌頂を受/醍醐寺座主、  
東寺一長者/小野随心院門跡、法務・大僧正(通称；殿大僧正)、1299(永仁7)没
- I2290 定嚴(じょうごん；法諱) ? - ? 1343存 相模の天台僧；相模大磯の高麗寺住僧；定仙門、  
法印、「天台戒体文辨」「天台灌頂玄旨私見聞」「法華品々肝要口決相伝」著
- I2291 盛嚴(じょうごん；法諱、慶蔵坊；号)?-? 1503存 相模府中の天台修験僧、大峯山の縁起を記載、  
1503「証菩薩山等縁起」著
- S2222 淨嚴(じょうごん；法諱・覚彦かくげん；字、真言僧上田道雲男) 1639-1702 母；秦氏安壑妙忍近住尼、  
河内錦部郡鬼住村の真言僧；1648高野山悉地院の雲雪門；出家、中院流修学；中院良意門、  
実相院長快より実相院流兩部灌頂を受/1661良意より安祥寺流伝法阿闍梨の職位を受、  
1671高野山下山；摂津・河内・和泉で講筵；真言教法に再興を図る；1673淨嚴と改諱、  
1684江戸下向；柳沢吉保の帰依/1689江戸霊岸島に瑞雲庵創建/90湯島靈雲寺開；綱吉後援、  
真言律教団を樹立；新安祥寺流を大成、「悉曇三密鈔」「靈雲清記」「真言律宗注進書」  
「秘密觀行要覽」「宝林日録」/1694「真言律辨」1700「対客談叢」外著多、「妙極堂淨嚴遺稿」、  
[淨嚴(；法諱)の別法諱/通称/号]別法諱；雲農、通称；覚彦坊雲農、  
号：虚白/虚白堂/虚齋きよせい/求焉子/求焉道人/妙極堂/瑞雲道人空経/彦公、
- I2292 淨嚴(じょうごん；法諱) ? - 1861 淨土僧；1858台命により知恩院72世、大僧正、  
華頂宮尊秀法親王の戒師を務める、「闡教齊縁起」著、  
[淨嚴(；法諱)の法名] 得蓮社莊誉/一心/専阿/天琳
- 定嚴(じょうごん；字) → 頼誉(らいよ；法諱・定嚴；字、真言僧) 4 8 9 8  
淨嚴(じょうごん；字) → 全宥(ぜんゆう；法諱・淨嚴、真言僧) N 2 4 7 9  
淨嚴(じょうごん・戸崎/崎) → 淡園(たんえん・戸崎/崎/源、家老/漢学) H 2 6 9 4  
淨嚴院(じょうごんいん；号) → 光純(こうじゆん；法諱・淨嚴院、天台僧) J 1 9 6 3  
淨嚴坊(じょうごんぼう) → 隆堯(りゅうぎょう；法諱、佐々木隆頼、淨土僧) D 4 9 3 7  
松魂軒(しょうこんけん) → 西鶴(さいかく・井原、俳人/浮世草子) 2 0 0 1  
淨金剛院定觀坊(じょうこんごういんじょうかんばんぼう) → 真空(じょうくう；法諱、淨土西山派僧) G 2 2 2 6  
城坤散人(じょうこんさんじん、-遊人) → 市郎右衛門(いちろうえもん・西村未達みつ、書肆) B 1 1 3 3  
松根亭(しょうこんてい) → 重一(しげかず・小堀おはなわ、藩士/歌人) N 2 1 6 6  
性嚴房(じょうごんぼう) → 宥快(ゆうかい；法諱、真言僧/南山流大成) 4 6 9 6
- Q2249 正佐(しょうさ) ? - ? 戦国期；連歌作者、  
1495宗祇種玉庵の「新撰菟玖波祈念百韻」連衆(1句入)
- I2293 昌佐(昌左しょうさ；法名) ? - 1578 法相僧；興福寺竜雲院住、連歌作者；  
1564頃から紹巴・昌叱の連歌会に参加、1571興福寺喜多院千句連歌の第九百韻の発句を詠、  
竜雲院で月次連歌会を興行、1569永禄十二年九月一日昌叱と「何路百韻」、  
1571元龜二年三月十日紹巴と「何人百韻」
- S2223 松佐(しょうさ) ? - ? 江中期の俳人；原松門、1740論書「正風論」共編、  
1740「星月夜集辨難」著
- 少左(しょうさ・佐々) → 豊水(とよみ・佐々ささ/源、藩士/国学) V 3 1 2 7  
尚佐(しょうさ・岡田) → 光間(みつかど・岡田、大庄屋/歌人) H 4 1 0 8  
尚佐(しょうさ・岡田) → 光尉(みつまさ・岡田、光間男/歌人) E 4 1 8 9  
小菘(しょうさ・松本) → 董斎(とうさい・松本、書家/俳) E 3 1 3 1  
昌佐(しょうさ・清水) → 成利(なりとし・清水しみず/志水、国学/歌) N 3 2 2 8  
倡佐(しょうさ・安立) → 安心(あんしん；通称・安立あだち、医者) G 1 0 1 1  
将佐(しょうさ・川喜田) → 重盈(しげみつ・川喜田かわきた、商家/国学) O 2 1 1 0
- S2224 正三(初世しょうさ・並木なみき、芝居茶屋和泉屋正兵衛男) 1730-7344 母；扇子屋の女、大阪道頓堀生、  
14-5歳頃大坂出羽芝居「若水千載狐」のため水船の仕掛考案、1749最初の歌舞伎作品、

1751並木宗輔門;浄瑠璃作者として豊竹座付/並木正三に改号、52師没後に歌舞伎界復帰、せり・回り舞台など舞台機構改造/構想力発揮;上方歌舞伎の中心的立作者として活躍、[浄瑠璃門左衛門・歌舞伎正三]の称、初世三樹大五郎・初世中村歌右衛門等のため執筆、大坂島之内布袋町の自宅に没、没後十三回忌に1785「並木正三一代噺」刊、歌舞伎約百編著、浄瑠璃;1751宗輔「一谷嫩軍記」助作、58「聖徳太子職人鑑」67「石川五右衛門一代噺」など、歌舞伎;1753「幼稚子敵討おさなごのかたきうち」58「三十石船始いかだはじめ」61「霧太郎天狗酒醺てんぐさもり」、1768「宿無団七時雨傘」70「桑名屋徳蔵入船物語」71「一休ばなし」、1773「日本第一和布苧神事」など多数、

[初世並木正三(;)号]の幼名/別号]幼名;久太/久太郎、別号;大西庄三(初号)/泉屋正三/当証軒/友江子、高砂屋平右衛門、法号;当誉正三居士

S2225 **正三**(2世しょうざ・並木なみき) ?-1807 歌舞伎役者/作者、初世並木正三の妻の血縁者、大阪道頓堀の芝居茶屋の生/歌舞伎役者;浅尾為十郎門;1786立役、1788;大坂大西芝居の番付作者/94立作者;のち辰岡万作・近松徳三・奈河七五三の二枚目、1794「色盛八丈鏡」95「魁鎗東海硯」1805「恋詣清水桜」06「いろは歌誉桜花」など多数番付著、1801劇書「戯財録げざいろく」(入我亭我入著)作者(馬琴説)、[2世並木正三(;)号]の幼名/別号]幼名;正吉、初号;浅尾正三

参考 → 入我亭我入(にゅうがていがにゅう) F 3 3 7 8

正三(しょうざ・鈴木) → 正三(しょうざん・鈴木、仮名草子) S 2 2 4 7

S2226 **丈左**(じょうざ;号・岸きし) ? - ? 江後期京の俳人:烏明門、江戸住、1793「奥のしほり」編(丈左房一無の薙髪賀句など/烏明序)/94「狭名辺墳集」編、1795「俳諧八儂歌」96「花むつび」「なゝもみち」編/99「発句題苑集」編(南陽・律太の協力)、[丈左(;)号]の別号] 一無庵/一無/丈左房

常佐(じょうざ・度会) → 常佐(つねさけ・度会たらい、神職/歌人) Q 2 9 8 8

S2227 **小哉**(しょうさい) ? - ? 俳人:1663定清「尾蠅集」歌仙入:流味らと

I2294 **松齋**(しょうさい・井上いづえ、別号;泉溪) ?-? 江戸初期寛文1661-73頃儒者、1669「韻鏡見妖解」

I2295 **松齋**(しょうさい;号・池田いけだ) ?- ? 江初期書家:本阿弥光悦門、豊臣家右筆、大坂落城後に加賀金沢に移住;前田家家臣/利常・光高・綱紀に出仕、「真草庭訓」書

S2228 **称齋**(しょうさい・鶴飼うかい、名;真泰、石齋4男) 1652-1720<sup>69</sup> 京の儒者;父門;程朱学修学、史学に通達、水戸藩に出仕;史官となる、1716「元応元至元中九年号忽」、「二鶴詩集」「鶏肋集」著、「華夷通信」「称齋竹馬鈔」著、

[称齋(;)号]の字/通称/別号]字;子権、通称;権平、別号;松嶺、法号;称齋真泰居士

S2229 **尚齋**(しょうさい・三宅みやけ、名;重固、藩士平出重直3男) 1662-1741<sup>80</sup> 播磨明石生/父没後上京;

医を修学、1680(19歳)儒学:山崎闇齋門/僧形を止め父の本姓三宅を名乗る、崎門きもの3傑の1、1686江戸で門弟に教授/90武蔵忍藩主(老中)阿部正武に出仕、阿部正武没後;後嗣正喬に諫言、聞き入れられず致仕を申請;1707監禁される;09釈放、土佐藩の江戸藩邸で教授;致死、1723以後は京西洞院に培根堂(初学者用)・達支堂(上級者用)の2学塾を開く、「尚齋和歌集」「尚齋語録」「尚齋筆記」「尚齋先生文集」「釣弋ちようく録」「白雀録」「論語筆記」、1709「狼羆ろうち録」11「為学要説」15「黙識録」26「潔静精微説」/35「湯武論」外著書多数、[尚齋(;)号]の字/通称/別号]字;実操、通称;雲八郎/儀平二/儀左衛門/丹治、

別号;高尚/天山

参照 → 崎門学派(きもんがくは)

→ 闇齋(あんさい・山崎、儒者/神道学) 1 0 3 7

S2230 **尚齋**(しょうさい・小倉おぐら、名;貞、藩医小倉宗爾男) 1677-1737<sup>61</sup> 長門萩藩儒者;山田復軒門、上京;伊藤坦庵門、藩主に随い江戸へ;大学頭林鳳岡門/助教、帰藩後藩校明倫館初代祭酒、朝鮮通信使と詩文唱酬、1720「唐詩趣」編、20「両関唱和集」著、「八江紀聞」著

[尚齋(;)号]の幼名/字/通称/諡号]幼名;万太郎/升充、字;実操/季操、通称;彦兵衛、諡号;長肅先生

S2231 **尚齋**(松齋しょうさい・奥田おくだ、名;元継、那波草庵男) 1729-1807<sup>79</sup> 姫路の生/妻の奥田姓を名乗る、那波魯堂の弟、儒者;兄と共に京の岡白駒門/程朱学、大阪で教授、春秋左氏伝に精通、

「左伝捷覧」「左伝字句便蒙」「左伝始末統類」「左伝积例統貂」、「拙古堂文集」「拙古堂日纂」、「冠履文集」編/「音註全文春秋括例始末左伝句読直解」編、「仙楼本草」、「拙古堂遺稿」外多、  
[尚齋(；号)の字/別号]字；志季、別号；拙古/仙楼

- I2296 **松齋**(しょうさい・深井ふかい/修姓；深、名；彪、藩儒深井鶏林2男) 1731-9464 讃岐高松藩の儒者；父門、山鹿流兵学者、高松藩主松平頼恭・頼真に出仕、藩校講道館で山鹿流兵学を講ず、1770「諸国廃城考」71「武具図」、「武学」「七書日講」著、象山(兵学者)の父、  
[松齋(；号)の字/通称]字；叔虎、通称；喜兵衛/清兵衛/権太夫
- I2297 **松齋**(しょうさい・比喜多ひきた、名；宗積) ?-? 江中期京の茶人；北村幽庵門or堅田退庵門？、藤村庸軒流茶道を修得、「先祖記」著、  
[松齋(；号)の通称/別号]通称；大文字屋半右衛門/斎宮、別号；不宣庵/松雨亭/木仙/才仙
- S2232 **称齋**(しょうさい・尾崎おさき、名；修) ?-? 江中期天明1781-89頃の江戸の儒者；井上金峨門、折衷学を修得/1773磐城中村藩に儒者として出仕；子弟教育/のち御使番/御用取次を務む、金峨の著書を藩より刊行教授す、1784「鳩居語」、「鳩居詩」「鳩居紀年録」「常足園公私録」、「遺簪集」「牧民忠告訳解」著、  
[称齋(；号)の字/通称/別号]字；子平/子成、通称；修平、別号；鳩居/鏡湖
- S2233 **蕉齋**(しょうさい・平賀ひらが/小川、名；周蔵) 1745-180460 安藝広島島の詩人；江戸の服部白賁門、藩主浅野家の重臣浅野士敦に出仕；1791致仕、以後白山園に住；頼春水・竜草廬らと交流、小川を称す、詩に長ず、晩年は俳諧も嗜む、「蕉齋筆録」、1795「白山集」/1801「独醒庵集」著、  
[蕉齋(；号)の字/別号]字；子英、別号；白山/白山園/独醒庵
- S2234 **蕉齋**(しょうさい・中原なかはら、本姓；藤井) 1753-183886 備中賀陽郡の儒者；西山拙齋門、雪堂学舎を開、丹波亀山藩主の招聘で藩の総礼格・櫓やぐら方格/槍奉行格、亀山藩領の備中玉島上成に住、娘貞子は難波正業と結婚、中原剛の祖父、「拙齋遺稿」編(小野招月と共編)、1828拙齋著「拙齋詩鈔」校訂(菅茶山編/西山復軒・小野樗山招月と共に校訂)、  
[蕉齋(；号)の名/字/別号]名；貞固さだかた、字；子幹、別号；涌金楼ようきんろう
- I2298 **樟齋**(しょうさい・石井い、名；教景、本高男) 1759-182264 代々羽後十二所城代茂木筑後の家臣、儒者；十二所郷校成章院の教授、書家；金蘭齋風の書体/俳諧；乙二門、1803菅江眞澄が訪問、「書法小薫」「排悶集」著、  
[樟齋(；号)の字/通称/別号]字；子行、通称；新蔵人、別号；弘山/南圭/青互
- I2299 **尚齋**(2世しょうさい・大矢おおや、名；允、初世尚齋[弼]男) 1765-182662 大阪医者；1773(9歳)父と死別、儒；片山北海門、漢方医学；笹井楸庵門/蘭方医学；橋本宗吉門、伏屋素狄と交流、「女刑屍解剖之図」著、  
[尚齋(2世；号)の字/諡号]字；執中、諡号；孝靖、養嗣子；3世尚齋(恭)
- J2200 **商齋**(しょうさい・亀田かめだ、儒者林はやし屋山[翼]男) 1765-184884 亀田甚右衛門浄品の養子、加賀金沢川南町の宮竹屋の分家6代目を継嗣；酒造業、詩・歌・俳諧を嗜む/春日山窯創業、「商齋遺稿」(1851刊)、  
[商齋(；号)の名/字/通称/別号]名；景任かげとう/任、字；舜年、通称；文助/喜左衛門/彭次郎/七右衛門、別号；聴松庵、屋号；宮竹屋
- J2201 **松齋**(しょうさい・山田やまだ、名；顕治/顕孝) 1770-184172 信州高井郡平野村の生；山田家7代を継嗣、儒者；江戸の亀田鵬齋門、信州中野の柏木如亭の晩晴社に参加；経書を講ず、天明飢饉に米百斗を供出救荒；幕府寄り褒賞、1807米価低落に2百両を献上し農民救済、公益事業・農事改善に尽力、「懐風草」/1819「講余贅言」23「宝善堂漫筆」25「大和仮名考」著、1826「ん詞説集覧」編、28「譬稻性辨」「經典穀名考」/34「孝経附録」著、  
[松齋(；号)の幼名/字/通称/別号]幼名；丑之助、字；太古/文静/静、通称；莊[庄]左衛門、別号；宝善堂/琴書楼
- J2202 **松齋**(しょうさい・小出こいで、名；重固しげかた、重正男) 1772-185281 下総古河藩士；1791家督継嗣、歩士頭・吟味役、国学/歌；清水浜臣門、1802藩主土井利厚の幕府老中就任後に公用人；長年藩内を巡見調査、藩主土井利位の内意で調査内容を著作、1820隠居、小宮山楓軒と親交；楓軒宛書翰は「竹齋書簡」に・往復書簡は「小山観音寺記」に収納、「古河志」補填、「松齋述説」著、養子；長尾重光、  
[松齋(；号)の通称/別号]通称；友之助/専右衛門/信左衛門/三太夫、

別号;翠庵/竹斎/烟霞樵屋/露の屋

J2203 **松斎**(しょうさい・江馬えま、名;元弘、温井安右衛門長京2男)1779-1820<sup>42</sup> 医者;江馬蘭斎門;養嗣子、美濃大垣藩医、伊勢桑名藩主松平定信の信を得て藩主侍医岡立得に教授、1817「和蘭医方纂要」、「衆家経験千万」「診脈図説」「溺死活法」「癩癩合集」著

[松斎(;)号)の幼名/字/通称/別号]幼名;祥甫、字;子道、通称;春齡3世、別号;好蘭堂

J2204 **篠斎**(しょうさい・殿村とのむら/本姓;大神、道宇の長男)1779-1847<sup>69</sup> 伊勢松阪の商家;生家は殿村分家、のち本家兩替商殿村整方まさかたの養嗣、国学者;本居宣長門/師没後その男春庭を後見;後鈴屋のちのすずのや運営を補佐、歌文に長ず、曲亭馬琴と親交;八犬伝等の評を残す、

「蝙蝠かほり集」「八犬伝篠斎評」「花六十番歌合」「壬午年月次歌合」「文化十四年月次歌合」、「月次会歌集」「月次順会歌集」、家集「夏野のさゆり」/戯書「阿嬌物語」、「殿村安守詠草稿」、「殿村安守旅日記」外著多数、殿村常久の義兄、本居大平「八十浦の玉」中巻に常久と入集、[篠斎(;)号)の名/通称/別号]名;安守やすもり/守/周表かねあきら(;)初名)、

通称;助吉/輔吉/五兵衛/佐五平(さごへい;本家継承)/佐六(;)隱居名)、

別号;蝙蝠磨かほりまる/孺磨つままる/篠舎ささのや/三枝さんし園、法号;実心院、常久の異母兄

J2205 **松斎**(昌斎しょうさい・高須たかす/初姓;斎藤、名;清馨)1788-1869<sup>82</sup> 羽後久保田の医者;稻見升貞門;稻見家の姻戚高須家入籍、蘭学;江戸の馬場貞由門/1811長崎で蘭外科、檜林峡山・栄健門、1815江戸小塚原で刑屍解剖、1835江戸在住のまま秋田藩医、1814「和蘭文範摘要」編、

[松斎(;)号)の字/別号]字;子成、別号;昌斎

S2235 **松斎**(しょうさい・加藤かとう、名;其徳、北溟2男)1793-1881<sup>89</sup> 越後村松藩士、経史;江戸の古賀精里門、帰藩後に藩儒、幕末期藩老に説き佐幕に就く;官軍に敗戦し藩主と共に米沢に逃亡;

のち罰せられる/廢藩後は講説業、詩人、「松斎百絶」「松斎百律」「覆醬稿」著、

[松斎(;)号)の通称/別号]通称;平三郎、別号;樗散堂

J2206 **正斎**(しょうさい・柳田やなぎだ、名;貞亮/定)1797-1888<sup>92</sup> 下総香取郡佐原村の書家/江戸の昌平齋入学、江戸神田お玉ヶ池住;書を業とす;初め趙子昂・のち王羲之を修学;一家を成す、

1859(安政6)罹災し本所相生町に移転、「正斎詩文稿」「歳華小牘」著、1853「本朝三字経」書、1862「論書二十首」書、

[正斎(;)号)の字/通称]字;節夫/仲静、通称;定蔵

J2207 **松斎**(しょうさい・三木みき、名;義典)?-? 江後期京室町押小路北の和算家;三木流和算の祖、「招差定乗」編、「推天正冬至」「精要算法解」「点竄術初門」著、門人;小島濤山・加藤均斎ら、

[松斎(;)号)の通称/別号]通称;宇右衛門、別号;東臯

J2208 **松斎**(しょうさい・天野あまの、名;由順)?-? 江幕末期武蔵川越藩士、

1835「病六不治伝解」41「子育巾着」1851「松斎医話」著、鵜橋(敬隆)の父

[松斎(;)号)の字/通称/別号]字;転三、通称;蔵人、別号;松茂堂

生西(しょうさい;法名) → 為真(為実ためざね・藤原、廷臣/歌人) G 2 6 8 3

生西(しょうさい;法諱) → 生西(せいさい・しょうさい;法諱、社僧/医者) I 2 4 3 8

小歳(しょうさい・大伴部) → 小歳(おとし・大伴部おともべ、防人/万葉歌人) 1 4 8 8

紹濟(しょうさい;法名) → 氏忠(うじただ・大炊御門おおいのみかど、廷臣/連歌) C 1 2 4 2

樟斎(しょうさい) → 秀雄(ひでお・飯田いいだ、神職/歌人) C 3 7 8 3

松斎(しょうさい) → 立圃(りゅうほ・野々口、細工師/俳人) 4 9 1 3

松斎(しょうさい) → 高尚(たかなお・大中臣/藤井、歌人) 2 6 1 3

松斎(しょうさい) → 徳風(とくふう・富田/陸、儒/国学者) L 3 1 3 3

松斎(しょうさい) → 高尚(たかなお・藤井/大中臣、神職/歌学) 2 6 1 3

松斎(しょうさい) → 子温(しおん、石川、藩士/和算家) P 2 1 7 4

松斎(しょうさい) → 清風(せいふう・村田むらた、藩士/歌人) C 2 4 9 5

松斎(しょうさい) → 重暉(しげあき・薬袋みない、藩士/詩人) Q 2 1 5 2

松斎(しょうさい・黒河内) → 十太夫(じゅうだゆう・黒河内くろこうち、藩士/兵学) X 2 1 9 9

松斎(しょうさい) → 石龍子(赤-せきりゅうし・逸見、相法家) K 2 4 5 3

松斎(しょうさい) → 信淵(のぶひろ・佐藤、経世家/医者) D 3 5 1 2

松斎(しょうさい) → 立志(6世りゅうし・関、俳人) E 4 9 4 6

松斎(しょうさい) → 円然(えんぜん・片山かたやま、幕臣/天文学) F 1 3 1 5

松齋(しょうさい)	→	元彊(もとたけ・上田うえだ、医者/歌人)	C 4 4 8 9
松齋(しょうさい・間部)	→	詮実(あきざね・間部まなべ、藩主/随筆)	G 1 0 5 8
松齋(しょうさい)	→	雪堤(せつてい・長谷川/後藤、絵師)	E 2 4 6 1
松齋(しょうさい・加須屋)	→	武義(たけよし・加須屋かすや/岩越、藩士/歌)	W 2 6 3 9
松齋(しょうさい・渡辺)	→	閑哉(かんさい・渡辺わたなべ、名主/農村開発)	S 1 5 9 3
松齋(しょうさい・今村)	→	宗博(むねひろ・今村いまむら、歌人)	D 4 2 6 6
松齋(しょうさい・西尾)	→	勝重(かつしげ・西尾にしお、農業/歌人)	V 1 5 3 1
松齋(しょうさい・大蔵)	→	延年(のぶとし・大蔵おおくら、宿業/教育)	H 3 5 6 6
松齋(しょうさい・中山)	→	千鶴(ちづる・中山なかやま、商家/歌人/書)	N 2 8 1 8
松齋(しょうさい・荘司)	→	正暢(まさのぶ・荘司しょうじ、国学者)	Q 4 0 2 2
松齋(しょうさい・野矢)	→	為政(ためまさ・野矢のや、藩士/国学者)	Y 2 6 9 3
松齋(しょうさい・丸尾)	→	清謙(きよかた・丸尾まるお、国学/歌人)	V 1 6 2 9
蕉齋(しょうさい・碓井)	→	且松(たんしょう・碓井/臼井うすい、俳人)	I 2 6 8 5
蕉齋(しょうさい・溝口)	→	直諒(なおあき・溝口、藩主/文筆)	3 2 5 9
尚齋(しょうさい・黒沢)	→	長尚(ながひさ・黒沢、藩士/地誌)	F 3 2 4 5
尚齋(しょうさい・森)	→	庸軒(ようけん・森、儒/医者)	4 7 7 5
尚齋(しょうさい・武部)	→	游(ゆう・武部たけべ、蘭学/医者)	4 6 4 6
尚齋(しょうさい・宮武)	→	直哉(なおや・宮武みやたけ、藩医/国学)	P 3 2 0 1
敞齋(しょうさい・植木)	→	惺齋(せいさい・植木、儒者)	I 2 4 1 7
章齋(しょうさい・蓮沼)	→	景正(かげまさ・蓮沼はすぬま、藩士/国学)	V 1 5 4 0
樵齋(しょうさい・村上)	→	溪南(けいなん・村上むらかみ、鍼医者)	G 1 8 4 9
樵齋(しょうさい・大村)	→	重矩(しげのり・大村おおむら、医者/歌)	S 2 1 1 0
勝才(しょうさい・辻)	→	勝才(かつとし・辻、藩士/詩人)	N 1 5 5 9
昌齋(しょうさい・花野井)	→	有年(ありとし・花野井、医/国学/歌)	F 1 0 5 0
昌齋(しょうさい・宇都宮)	→	大潔(ひろきよ・宇都宮うつのみや、博学/地誌)	F 3 7 7 7
勝齋(しょうさい・渋川)	→	時英(ときひで・渋川、柔術家)	J 3 1 9 0
升齋(しょうさい・井上)	→	篤好(あつよし・井上いのうえ、神道家)	E 1 0 9 5
庠西(しょうさい・箕作)	→	阮甫(げんぼ・箕作みつくり、蘭学者/幕臣)	D 1 8 0 3
称齋(しょうさい・匹田)	→	柳塘(りゅうとう・匹田/疋田ひきだ/藤原、家老)	F 4 9 3 0
省齋(しょうさい)	すべて	→ 省齋(せいさい)	
将在(しょうざい・長嶺)	→	将在(まさあり・長嶺ながみね、国学者/歌人)	B 4 0 2 2

S2236 **上西**(じょうさい; 法諱・上蓮房じょうれんぼう)?-? 鎌倉期歌人; 河内に草庵の遁世者、  
1209「明恵上人歌集; 遣心集」3首入、明恵の上西宛消息あり、  
[秋の夜は更けゆくさまに松風の身にしむ法りの声を聞きつる]  
(明恵遣心集; 18/房遍阿闍梨と共に明恵の房に訪問)

J2209 **定齋**(じょうさい; 通称・鷲見すみ)?- ? 江中期宝暦1751-64頃名古屋の将棋士; 鈴木玄将門、  
1801刊「象戯鷲爪」著

J2210 **定齋**(じょうさい・渡辺わたなべ/旧姓; 赤坂、名; 忠将/和積) 1772-1842<sup>71</sup> 渡辺勝右衛門忠栄の養嗣子、  
三河挙母ころも藩士、儒; 堀内守本・木村鳳吾門、1805藩校温文館(崇化館を改称)系譜科総裁、  
80石の用人格、藩士の系譜を調査編纂; 「寛政記録」完成; のち散佚、 「三河富岳詩歌集」著、  
「京都温故名跡誌」「内藤家人傑伝」著、 挙母藩家老赤阪忠徳の弟、  
[定齋(;)の字/通称/法号]字; 順介、 通称; 甚之助/勝之助/新助、 法号; 正心院

S2237 **繩齋**(じょうさい・石井いひ/初姓; 土屋、名; 耕) 1786-1840<sup>55</sup> 伊豆下田の生/父の希望に背き儒者、  
江戸の山本北山の奚疑塾で修学; 北山の竹堤社に参加; 詩文に堪能、のち京の皆川淇園門、  
生活費援助の叔父石井家の姓を名乗る/1814駿河田中藩に出仕; 儒を教授/家塾を開く;  
左伝を講ず、1824昌平黌に遊学/27帰藩; 漢学師範となる/1837藩校日知館創設され教授、  
「いらぬことわざ」「帰豆漫誌」「孝経類鈔」「校定大学」「繩齋先生文集」著、  
「井田詳解」「大学証註」「大学叢説」「中庸一斑」「読中庸」「孟子叢説」編、  
[繩齋(;)の字/通称/別号]字; 子耕、 通称; 俊助、 別号; 仏塙ぶつお

S2238 **讓齋**(じょうさい・玉置たまき/たまおき、名; 直雄なおお) 1828-89<sup>62</sup> 肥前平戸藩士; 平戸支藩松浦豊後守家臣、

兵学者/書画を嗜む、国学;江戸の小山田与清門、「観月堂雜記」「讓齋漫筆」著、  
[讓齋(号)の字/通称/別号]字;子恭、通称;環一郎、別号;東陵/観月堂

丈齋(じょうさい・上田) → 維曉(これあき・上田うねだ、医者/歌人) K 1 9 8 9  
常濟(じょうさい) → 濟継(なりつぐ・姉小路あねがこうじ、歌人) H 3 2 6 2  
定濟(じょうさい) → 定濟(じょうぜい、真言僧) K 2 2 2 8  
城齋(じょうさい・杉浦) → 止齋(しさい・杉浦/平、藩士/心学者) T 2 1 4 6  
乘齋(じょうさい・松平) → 義建(よしたつ・松平まつだいら、藩主/歌) K 4 7 5 0  
讓齋(じょうさい・関) → 当義(まさよし・関せき、藩家老/財政再建) I 4 0 5 6  
常在院(じょうざいん) → 日興(にっこう・伯耆房、日蓮僧) D 3 3 8 7  
常在院(じょうざいん) → 日深(にちじん;法諱・観如、日蓮僧) C 3 3 5 4  
常在院(じょうざいん) → 日璞(にちぼく;法諱、日蓮僧) D 3 3 2 1

S2239 鐘西翁(しょうさいおう) ? - ? 洒落本作者;1759「弥味草紙」、1764「男倡新宗玄々経」

梢柴閑人(しょうさいさんじん) → 春島(はるしま・足立あだち、醸造/国学者) G 3 6 4 2  
常濟大師(じょうさいだいし;諡名) → 紹瑾(しょうきん・瑩山、曹洞宗中興祖) K 2 1 0 4  
上西門院(じょうさいもんいん) → 統子内親王(とうしないしんのう) E 3 1 8 1  
上西門院讚岐(じょうさいもんいんのさぬき) → 美濃(みの・皇后宮、歌人) F 4 1 6 1  
上西門院兵衛(じょうさいもんいんのひょうえ) → 兵衛(ひょうえ・待賢門院) 3 7 3 7  
上西門院武蔵(じょうさいもんいんのむさし) → 武蔵(むさし・上西門院) 4 2 5 4  
上西門院冷泉(じょうさいもんいんのれいぜい) → 冷泉(れいぜい・上西門院) B 5 1 6 2

J2211 庄左衛門(しょうざえもん・中尾なかお) ?-?

江前期肥前長崎の天文・地理家、

幕命で1675島谷市左衛門らと小笠原島を巡見;草木・産物等を調査し帰国;著述、  
1675(延宝3)「延宝無人島巡見記」著

少左衛門(しょうざえもん・石田) → 友雪(ゆうせつ・石田いしだ、能役者/書家) D 4 6 0 6  
少左衛門(しょうざえもん・林) → 良材(よしき・林はやし、藩士) D 4 7 0 9  
正左衛門(しょうざえもん・林) → 以成(ゆきなり・林はやし、藩士) F 4 6 1 5  
正左衛門(しょうざえもん・出浦) → 清命(きよのり・出浦いでうら、郷土史家) Q 1 6 1 4  
正左衛門(しょうざえもん・山崎) → 以仙(いせん・山崎やまさき/高滝、俳人) B 1 1 0 3  
正左衛門(庄左衛門しょうざえもん・柳沢) → 伊寿(これとし・柳沢、和算家) O 1 9 5 7  
正左衛門(庄左衛門しょうざえもん・渡辺) → 思齋(しさい・渡辺、儒者) T 2 1 4 7  
正左衛門(しょうざえもん・国分) → 胤貞(たねさだ・国分こくぶん、神職/国学) X 2 6 1 1  
昌左衛門(しょうざえもん・牧) → 忠輔(ただすけ・牧まき、藩士/文筆家) P 2 6 6 6  
庄左衛門(しょうざえもん・大蔵) → 経喜(つねよし・大蔵おおくら、能楽師) E 2 9 2 2  
庄左衛門(しょうざえもん・香西) → 成資(しげすけ・香西/植松、兵学者/軍記) C 2 1 2 6  
庄左衛門(しょうざえもん・水田) → 西吟(さいぎん・水田/落月庵、俳人) 2 0 7 1  
庄左衛門(初世庄左衛門しょうざえもん・風月) → 風月庄左衛門(初世ふうげつしょうざえもん、書肆) 3 8 5 2  
庄左衛門(5世?庄左衛門しょうざえもん・風月) → 一斎(いつさい・沢田、白話翻訳) B 1 1 4 2  
庄左衛門(しょうざえもん・村瀬) → 其磧(きせき・江島えじま、浮世草紙作者) 1 6 1 7  
庄左衛門(庄左衛門しょうざえもん・鉄屋) → 万翁(まんおう・木田きだ、商家/俳人) K 4 0 4 0  
庄左衛門(しょうざえもん・半田) → 常牧(じょうぼく・つねまき・半田/繁田/伴田、俳人) B 2 2 6 2  
庄左衛門(しょうざえもん・羽太) → 正平(まさひら・羽太はぶと、幕臣/和学) R 4 0 5 8  
庄左衛門(しょうざえもん・曲淵) → 正満(まさみつ・曲淵まがりぶち、幕臣/和学) S 4 0 5 3  
庄左衛門(しょうざえもん・由比) → 雪柴(せつさい・由比/小坂井、俳人) E 2 4 3 1  
庄左衛門(しょうざえもん・木綿屋) → 東瓦(とうが・山本、醸造家/俳人) B 3 1 7 5  
庄左衛門(しょうざえもん・山地) → 祐順(すけまさ・山地やまじ、和学/歌人) J 2 3 3 4  
庄左衛門(しょうざえもん・山地) → 祐類(すけとも・山地、祐順男/和学/歌) J 2 3 3 5  
庄左衛門(しょうざえもん・池田屋) → 風蔵(ふうぞう・三角みすみ、測量家) 3 8 9 1  
庄左衛門(しょうざえもん・高橋) → 守行(もりゆき・高橋、庄屋/郷土史家) G 4 4 7 7  
庄左衛門(しょうざえもん・渡瀬) → 臍穴主(へそのあなぬし、名主/狂歌) 2 7 9 4  
庄左衛門(庄-しょうざえもん・本木) → 正栄(しょうえい・本木、通事/対訳辞書) H 2 2 1 6  
庄左衛門(しょうざえもん・功刀) → 君章(くんしょう・功刀くのぎ、藩士/詩人) B 1 7 8 8

庄左衛門(しょうざえもん・富樫)→ 広蔭(ひろかげ・富樫/井手、商家/国学) 3 7 1 4  
 庄左衛門(しょうざえもん・羽太)→ 政養(まさやす・羽太はぶと、幕臣/箱館奉行) I 4 0 0 6  
 庄左衛門(しょうざえもん・佐久間)→ 立斎(りつさい・佐久間さくま、兵学者) B 4 9 8 3  
 庄左衛門(しょうざえもん・飯室)→ 昌柳(まさのぶ・飯室いむろ、本草/博物) F 4 0 8 4  
 庄左衛門(しょうざえもん・工藤)→ 野松(やしゅう・工藤くどう、藩士/俳人) 4 5 7 0  
 庄左衛門(しょうざえもん・石井)→ 忠運(ただゆき・石井いひ、藩士/日記) N 2 6 2 2  
 庄左衛門(しょうざえもん・内藤)→ 忠世(ただよ・内藤、藩家老/俳人) R 2 6 2 2  
 庄左衛門(荘-しょうざえもん・植松)→ 茂岳(しげおか・植松/小林、藩士/国学) B 2 1 9 5  
 庄左衛門(しょうざえもん・岩名)→ 雪廼門春見(2世ゆきのとはるみ、狂歌) F 4 6 1 8  
 庄左衛門(しょうざえもん・光田)→ 正豊(まさとよ・光田みつだ、国学者) S 4 0 9 7  
 荘左衛門(しょうざえもん・山田)→ 尚忠(ひさただ・山田やまだ、藩士/国学/歌) B 3 7 3 1  
 荘左衛門(庄左衛門しょうざえもん・山田)→ 松斎(しょうさい・山田、儒者;農事改善) J 2 2 0 1  
 荘左衛門(しょうざえもん・足立)→ 久景(ひさかげ・足立あだち、歌人) L 3 7 8 2  
 祥左衛門(しょうざえもん・樋口)→ 蘭腕(らんえん・樋口ひぐち、藩士/新田開発) B 4 8 5 8  
 松左衛門(しょうざえもん・野田)→ 春岳(はるおか・野田のだ/山部、郷士/国学) K 3 6 5 5

J2212 正朔(しょうさく・山川やまかわ、敬堂男) 1814-8269 備中二子村の医者;父門、京・長崎に遊学、  
 1853江戸で伊東玄朴の蘭学塾象先堂入門、1856備前岡山藩の扶持惣医師として招聘、  
 蘭学御用となる/1859(安政6)児島郡日比村沖の英船来航;応接に当る/1861御番医者、  
 1866藩医学館付属除痘館所長に就任、1855「西洋地震新説」訳

S2241 松作(しょうさく・寺島てらしま、別号;3世松島てうふ[釣夫])?-? 歌舞伎作者、1835てうふ襲名、  
 3世桜田治助[1802-77]の助筆

J2213 正作(しょうさく・高橋たかはし、農業千葉治兵衛3男) 1803-94長寿92 羽後山田村の生、勸農家、  
 羽後小野村桑崎の高橋理(利)右衛門の養嗣子、各地を農業視察;開墾・養蚕に尽力、  
 1830養蚕係・荒蕪地開墾係を命ぜられ村の肝煎を務める、1833(天保4)飢饉に救民活動、  
 維新後も県の農事政策に関与、1841「飢饉懐覚録」56「除稻虫之法」、「農業随録」著、歌人、  
 [正作(;名)の幼名/別名/号]幼名;新蔵、別名;常作(;初名)/正治、号;種富、法号;徳法院

J2214 正作(しょうさく・林屋はやしや)? - ? 江戸の噺家;林屋正蔵門、1826正蔵「升おとし」入

V2232 正策(しょうさく・宮武みやたけ、正蔵[学翁]男) 1832-9867 讃岐高松の医者;代々高松藩医;藩主付侍医、  
 漢学者/茶人;茶室[有心庵]で茶会;藤沢南岳・赤松椋園らと交流、  
 維新後;開業医、

[正策(;通称)の名/別通称/号]名;唯寿ただひさ、別通称;正太郎/正朔、号;如圭/青邱

少作(しょうさく・尾張) → 少作(おくい・尾張おわり、万葉集中人物) 1 4 3 4  
 少作(しょうさく・山県) → 榕所(ようしょ・山県やまがた、儒者) B 4 7 2 3  
 正朔(しょうさく) → 正朔(せいさく・竹島春延、竹婦人、俳人) B 2 4 6 9  
 正作(しょうさく・大窪) → 池屋(ちおく・大窪おおくぼ、医者) 2 8 5 1  
 正作(しょうさく・桑原) → 黙斎(もくさい・桑原/山根、宿場取締/史家) 4 4 8 5  
 尚作(しょうさく・岩本) → 贅庵(ぜいあん・岩本/巖本/巖、儒者/詩) H 2 4 3 4  
 匠作(将作しょうさく・福井) → 末質(すえかた・福井ふくい/度会、神職) F 2 3 3 8  
 匠作(しょうさく・今井/大国) → 隆正(たかまさ・大国/山本/野之口/今井、国学/歌) 2 6 1 7  
 庄作(しょうさく・畠中) → 徹斎(てつさい・畠中、儒/狂詩/碁) C 3 0 3 2  
 庄作(しょうさく・具足屋) → 正明(まさあき・尾崎/源、国学/狂歌) B 4 0 0 7  
 庄作(正作/昌作しょうさく・丹治) → 重治(しげはる・丹治たじひ、和算家) S 2 1 3 2  
 庄作(しょうさく・飯島) → 淳子(よしざね・飯島いじま、里正/歌人) L 4 7 4 7  
 庄作(しょうさく・田代) → 正良(まさよし・田代たしろ、藩士/歌人) Q 4 0 5 5  
 章作(しょうさく・田川) → 治助(2世じすけ・桜田、松島半二、歌舞伎作者) 2 1 2 3  
 小作(しょうさく・照井) → 一宅(いったく・照井、儒者) E 1 1 2 0  
 将作(しょうさく・清水) → 成利(なりとし・清水しみず/志水、国学/歌) N 3 2 2 8  
 将作(しょうさく・古川) → 躬行(みつら/みゆき・古川ふるかわ、国学/神職) F 4 1 2 7  
 勝作(しょうさく・樋口/中村) → 良広(よしひろ・中村/中臣/樋口、書家/歌) G 4 7 6 9  
 丈作(じょうさく・具足屋) → 正明(まさあき・尾崎/源、国学/狂歌) B 4 0 0 7

- 丈策(じょうさく・本因坊13世)→ 本因坊丈策(ほんいんぼうじょうさく、棋士) E 3 9 9 8  
 条作(じょうさく・林) → 洞海(どうかい・林はやし、蘭医者) C 3 1 0 6  
 常作(じょうさく・千葉/高橋)→ 正作(しょうさく・高橋たかはし、勸農家) J 2 2 1 3
- S2242 正察(しょうさつ; 法諱・西導寺さいどうじ、姓; 志水、号; 半捨軒)?-? 河内西導寺の住職/俳人; 宗因門、  
 1673西鶴「生玉万句」第二帰厂きがん発句等入、1679西鶴編「六日飛脚」入(四吟百韻)、  
 1681来山編「大坂八五十韻おおさかはちごじゅういん」入(8人で五十韻八巻);  
 正察と来山・快用・江水・和尹・白水・如要・夕扉)、  
 1682春林「俳諧百人一句難波色紙」82風黒「高名集」入、  
 [不達者ぶたつしゃで白川の関時雨けり](難波色紙; 45/能因と違い足弱で冬時雨の関に到着)
- S2243 昌察(昌札しょうさつ・西山にしま、別号; 蟠庵そうあん、宗春男)?-? 連歌作者/狂歌作者:  
 1697土橋宗静しょうじゅう輯・良恵編「柴屋寺さいおくじ奉納発句」参加; 跋文(蟠庵昌札名)、  
 1730如瓶子「狂歌乗合船」序、  
 1734息子昌林編「西山三籟にしまさんらい集」入(宗因・宗春・昌察三代の連歌発句集)、  
 1737水谷李郷「狂歌たねふくべ」入  
 1739浅生庵門厳島連衆編「厳島八景」(中巻に昌察の文章入)、  
 [この頃の雨の色香や初桜]
- 乗察(じょうさつ; 法名) → 宣忠(のぶただ・中御門なかみかど、廷臣/日記) B 3 5 8 1  
 尚左堂(しょうさどう、窪俊満、絵師)→ 紫蘆(しらん・南陀伽、狂歌/戯作) 2 2 1 5
- J2215 正三郎(初世しょうざぶろう・木下きのした/初姓; 小川) 1760-1833 74 代々京の観世流能楽師、  
 1788京の大火により名古屋に移住; 尾張藩抱の能楽師/東御殿に出仕/江戸に東下、  
 在職中もたびたび上京し宮中で演能、1786「木下花伝」、2世は息子重三郎が継承
- S2244 正三郎(しょうざぶろう・擁万堂、本名; 額田正)?-? 京の書肆、1857「安政三十二家絶句」編
- J2216 松三郎(しょうざぶろう・丹羽にわ、名; 雫)?-1873? 美濃上有知代官所手代、のち尾張藩校明倫堂助教、  
 漢学者、「大古学論」/1842「便蒙治郡数書纂略」著、「増補税租秘事大全」補充  
 [松三郎(通称)の字] 得失
- 正三郎(しょうざぶろう・斎藤)→ 定易(さだやす・斎藤/大坪、馬術家) K 2 0 0 4  
 正三郎(しょうざぶろう・杉本)→ 清蔭(きよかげ・杉本/池田屋、商家/歌人) O 1 6 6 8  
 正三郎(しょうざぶろう・野々山)→ 金治(初世きんじ・篠田しのだ、歌舞伎作者/戯作) E 1 6 0 8  
 正三郎(庄三郎しょうざぶろう・額田)→ 風之(ふうし・額田ぬかた、書肆/俳人) 3 8 7 5  
 正三郎(庄三郎しょうざぶろう・額田)→ 文下(ぶんか・額田、風之男/書肆/俳人) E 3 8 8 6  
 正三郎(しょうざぶろう・門田)→ 樸斎(朴斎ぼくさい・門田もんでん/山手、儒者) D 3 9 1 6  
 正三郎(しょうざぶろう・狩野)→ 宗朴(3代そうぼく・狩野かのう、茶人/歌/俳) K 2 5 8 9  
 正三郎(しょうざぶろう・木俣)→ 周平(かねひら・木俣きたた/正木、国学/歌) U 1 5 4 5  
 庄三郎(しょうざぶろう・後藤)→ 光次(みつぐ・後藤、金工家/貨幣鑄造) D 4 1 8 7  
 庄三郎(しょうざぶろう・狩野)→ 古信(ひさのぶ・狩野、栄川、絵師) B 3 7 7 5  
 庄三郎(しょうざぶろう・狩野)→ 典伸(みちのぶ・狩野かのう、古信男/絵師) C 4 1 2 1  
 庄三郎(しょうざぶろう・狩野)→ 養信(おさのぶ・狩野かのう、幕府奥絵師/歌) D 1 4 7 2  
 庄三郎(しょうざぶろう・片岡)→ 旨怒(しじよ・片岡かたおか、俳人/連歌) E 2 1 0 2  
 庄三郎(しょうざぶろう・岡島)→ 自笑(じしやう・岡島おかじま、刀鍛冶/俳人) E 2 1 0 8  
 庄三郎(しょうざぶろう・西田)→ 直養(なおかい・西田にしだ、国学/歌人) 3 2 8 1  
 庄三郎(しょうざぶろう・小田切)→ 知義(ともよし・小田切おだぎり、幕臣/国学) U 3 1 3 9  
 庄三郎(しょうざぶろう・宅間)→ 憲喜(のりよし・宅間たくま、幕臣/和学者) 1 3 5 9 9  
 庄三郎(しょうざぶろう・伊勢屋)→ 茂良(もりやう・清瀬きよせ/伊勢屋、俳人) G 4 4 7 9  
 庄三郎(しょうざぶろう・川崎屋)→ 稻井(とうせい・鳴子庵、俳人) F 3 1 9 1  
 庄三郎(しょうざぶろう・吉本)→ 正蔵(5代しょうぞう・林家はやしや、噺家) K 2 2 6 4  
 庄三郎(しょうざぶろう・平吹屋)→ 夏彦(なつひこ・青木あおき/京藤、酒造業/歌) K 3 2 7 4  
 庄三郎(しょうざぶろう・池田)→ 勝道(かつみち・池田いけだ/橋、商家/国学) T 1 5 6 1  
 庄三郎(しょうざぶろう・宇津木)→ 泰翼(やすすけ・宇津木うつき、泰交男/藩士/歌) F 4 5 3 7  
 庄三郎(しょうざぶろう・西田)→ 直足(なおたり・西田にしだ、藩士/国学) O 3 2 2 3



- 庄三郎(しょうざぶろう・大谷)→ 秀実(ひでざね・大谷おたに/源、藩士/神職) I 3 7 8 6  
 尚三郎(しょうざぶろう・高木)→ 正朝(まさとも・高木たかぎ、弓術家) E 4 0 7 7  
 尚三郎(しょうざぶろう・堀)→ 利邦(としくに・堀ほり、旗本/幕臣/歌) T 3 1 3 9  
 承三郎(しょうざぶろう・井戸)→ 九如(きゅうじょ・井戸/本多/董、幕臣/絵師) M 1 6 7 0  
 章三郎(しょうざぶろう・太田)→ 蓼花(りょうか・太田/武市、藩士/俳人) G 4 9 6 7  
 章三郎(しょうざぶろう・鎌垣)→ 春岡(はるおか・鎌垣かまがき/大伴/児玉、国学/歌) J 3 6 9 5  
 昌三郎(しょうざぶろう・松永)→ 昌三(しょうざう・松永尺五、貞徳男/儒者) 2 2 5 8  
 昌三郎(しょうざぶろう・熊坂)→ 適山(てきざん・熊坂くまさか、絵師/藩士) B 3 0 9 4  
 昌三郎(しょうざぶろう・石川)→ 知新(ともちか・石川いしかわ、神職/歌人) U 3 1 1 8  
 捷三郎(しょうざぶろう・木暮)→ 宗敏(むねとし・木暮くぐれ/小久保、歌人) D 4 2 8 2  
 城三郎(じょうざぶろう・川田)→ 蘆江(あしこう・川田かわた、儒者) B 1 4 6 5  
 正佐坊(しょうさぼう) → 信藝(しんげい・大鳥居/菅原、社僧/連歌) O 2 2 0 4  
 丈左房(じょうさぼう) → 丈左(じょうさ・岸さし、俳人) S 2 2 2 6  
 小左門(しょうさもん) → 小左衛門(こざえもん、女房歌人/物語作者) M 1 9 4 8
- S2246 昌算(しょうざん;法諱) ? - ? 南北期僧;法印/歌人、新後拾遺1391、  
 [ながらへてあるさへ厭ふ老いらくの身のあらましは末も頼まじ](新後拾;雑1391)
- J2217 清算(しょうざん;法諱・彦証;字) 1288-1362 75 大和白毫寺の真言律学僧;定盛律師門/戒律を修学、  
 白毫寺に戒律を開法/1327興福寺南円堂の修復に功績/延文1356-61頃に西大寺長老、  
 のち京の大覚寺に招聘;戒律を講ず、「戒体章綱義」「戒体章抄」「菩薩戒綱義」「持犯綱義」  
 「靈峰記」、1318「三宗綱義」31「四葉綱義」42「円宗綱義」49「灌頂唐和大事秘伝」著
- Q2292 笑山(しょうざん;道号・周念(周畚しゅうよ;法諱)?-? 南北期臨濟僧;夢窓疎石(1275-1351)門;法嗣、  
 五山僧、「五燈会元抄」著
- S2247 正三(昌三/聖三しょうざん・鈴木すげき/本姓;穂積、初名;重三、重次男) 1579-1655 77 三河足助の武士、  
 家康臣;関ヶ原で軍功、江戸の秀忠に出仕/1620出家:曹洞/臨濟の諸師に参禅、  
 1624三河石平に恩眞寺開山、天草乱後実弟重成(天草代官)に従い天草に移住;  
 仏教思想の世俗理論化による布教;仮名草子著、晩年は江戸で二王禅を主唱、  
 仏書;1619「盲安杖」、仮草草子:「二人比丘尼」「因果物語」「念仏草子」/1648「驢鞍橋」、  
 「万民徳用」「てうす問答」「反故集」「法之礎」「麓の草分」「鬼理至端破却論伝」「自己安心」著、  
 [苦の根源は己おれ 己を思ふ一念なり](万民徳用)  
 [正三(;名)の通称/法名/号]通称;九大夫、法名;正三/石平道人、号;玄々軒、
- U2294 勝算(しょうざん/しょうざん;法諱、俗姓;太刀) 1670-1739 70 江前中期;淡路の黄檗僧/和学者、  
 淡路唯一黄檗宗の国清寺を開山;堂塔伽藍整備/背後双児山33観音霊場と共に名刹、  
 [勝算の名/号]名;元妙、号;黙仲、通称;ふご和尚
- S2248 勝算(しょうざん・黒沢くろさわ、通称;忠三郎、勝正男) 1840-61 早世 22 水戸藩士;1855家督嗣;百石、  
 1858大番組、尊攘派;1860桜田門外変に参加;61預け先の撰津三田藩邸に没
- 笑山(しょうざん・周念;法諱)→ 周念(周畚しゅうよ・笑山、臨濟僧) I 2 1 3 5  
 正三(しょうざん・並木/大西/泉屋)→ 正三(初世しょうざ・並木、浄/歌伎作者) S 2 2 2 4  
 正三(しょうざん・浅尾/並木)→ 正三(2世しょうざ・並木、歌舞伎役/作者) S 2 2 2 5  
 尚三(しょうざん・三宅) → 衡雪(こうせつ・三宅みやけ、儒者) K 1 9 1 3
- S2249 照山(しょうざん) ? - ? 京の俳人、1690言水「新撰都曲」2句入、  
 [ひとりづゝ酔ひに伏しけりたかむしろ]  
 (新撰都曲;上142/簾たかむしろは細竹で筵状に編んだ敷物)
- J2218 笑山(しょうざん) ? - ? 近江の俳人;1691江水「元禄百人一句」目録入
- J2219 賞山(しょうざん;法諱・月峰げつぼう;字、号;其阿ごあ、俗姓;勝又) 1665-1726 62 相模の時宗僧;  
 相模藤沢の清浄光寺の尊遵門、鎌倉光明寺・下野茂木の蓮華寺等を歴任、  
 1711播磨兵庫の真光寺住持、1718駿河沼津の西光寺に転住、「播州問答集私考鈔」著、  
 1702「二十五菩薩名義鈔」13「神偈撮要鈔」14「一遍上人絵詞伝直談鈔」外著多数
- J2220 尚山(しょうざん) ? - ? 駿河沼津歌人、1723刊私撰集「かのかこまだら」共編:村盈と
- J2221 象山(しょうざん;道号・問厚もんこう;法諱)?-1776 但馬の曹洞僧;天桂伝専門/法嗣、但馬竜満寺住持、  
 1752結制を修す、「象山問厚禅師語録」著

- S2250 嘯山(しょうざん・三宅みやげ、名;芳隆)1718-1801<sup>84</sup> 京の質商/俳人;1741宋屋門、詩;1745慧訓和尚門、仁和寺・青蓮院の侍講、蝶夢・蕪村・几董と交流、元禄期俳諧への復帰主唱、白話小説に精通、1753「俳諧独喰」55「俳諧玉箒集」60「俳諧古選」73「俳諧新選」編、79「有馬紀行たゝひ越」、1781「はまゑんさ」、85読本「宿直譚」87「宿直文」著、88「をのゝちくさ」91「はな筏」編、1797「花の春」編、1801「葎亭句集」「葎亭画讚集」、「俳諧ふたつてん」編、「美津星」外編著多、1772几董「其雪影」3句入(跋文執筆)/73几董「あけ鳥」1句/83維駒「五車反古」1句入、  
[吸はせつゝ蚊を吹きやりぬ書ふみの窓](葎亭句集/執筆の合間の遊び心)、  
[嘯山(;)の字/別号]字;之元/子元/文中、  
別号;橋斎/葎亭/滄浪居/滄浪居主人/滄浪居士/鴨流軒/碧玉江山人、李流の父
- S2251 招山(しょうざん・山崎やまさき)?-? 俳人;1753元水編「姨捨とはず草」の原案草稿著、(:今井柳莊「水薦苺みずがり」入)
- J2222 松山(しょうざん・福井ふくい、名;親倫、佐藤直行2男)1736-1803<sup>68</sup> 福井草軒の養子、儒者;新井滄洲門、陸前志田郡松山邑主茂庭家の儒臣、茂庭氏に随従し江戸・京を歴遊;滝鶴台・竜草廬と交流、恩地流兵法;三阪六郎右衛門門;奥義を受、詩人、「楽府題彙」「駟原草」「明詩奇賞」著、「折字詩解」「明七才子詩五律」、1802「軍法さゝめこと」著、「赤城先生文集」、  
[松山(;)の字/通称/別号]字;子叙、通称;忠助/泰蔵、別号;赤城
- J2223 松山(しょうざん) ?-? 近江高島の俳人;1777江涯こうがい「仮日記」入、  
[楽たのみや華にうき世の人を見る](仮日記;79)
- W2240 証山(しょうざん;法諱、証道男)?-? 江中期;江戸の真宗本願寺派僧;父住職の西久保光明寺僧、1768石野広通「霞関集」(父証道上人と共に)入集、  
[木こりさへ通はぬ山の奥ながら世を厭ふには浅きかくれ家] (霞関集初撰本/山家)
- S2252 松山(しょうざん・加倉井からい、名;忠珍)1764-1828<sup>65</sup> 常陸の医者;代々医を業とす、儒者;立原翠山・山本北山門/文章に長ず、帰郷し講説、のち磐城平藩の文学に就任、「啓蒙新語」「文章国字解」文章国字評「天満大自在天神宮記」著/1795「女誠新註」注、1797「日蓮大菩薩記」1814「天満宮世家」著  
[松山(;)の字/通称/別号]字;子弥、通称;豊吉/弥八郎、  
別号;江水/好水/牝牛ひんぎゅう/松林/浄光
- J2224 鍾山(しょうざん・佐伯さえき、名;有融/融、北溟男)?-? 江後期越中富山藩儒;父継嗣;藩校広徳館訓導、1790「東渠公詩集」編、「唐詩絶句鈔」編、「鍾山詩鈔」著、棠園の養父、  
[鍾山(;)の字/通称]字;昭卿、通称;新五右衛門
- S2253 蔣山(しょうざん・南川みなみかわ、名;志道、金溪男)1771-1833<sup>63</sup> 伊勢菰野藩儒(家学)/のち十時梅厓門、1789梅厓に従い長崎へ;清人と筆談唱和/1793菰野藩主土方義苗の公子に侍し江戸赴任、1801暇を請い上京;儒医丘本遯斎[思純]門/医;吉益南涯門、1820病を得て帰郷、藩主義苗の援助を受け私学麗沢書院を設立、「蔣山詩集」「唱和集」「節婦伝」著、  
[蔣山(;)の字/通称]字;伯寧、通称;文蔵
- J2225 松山(しょうざん・北村きたむら、名;穀盛/通称;為次郎)1782-1859<sup>78</sup> 能登鳳至郡鵜川の人、1800十村、御扶持人十村、儒詩;島崎元慎・大野介堂門、1839退隠;鵜川詩社を経営;江尻菟松を招聘、子弟教育、1849「鵜川小集」編
- J2226 象山(しょうざん・深川ふかい、名;修、松斎の長男)1783-1839<sup>57</sup> 讃岐高松藩の兵学者(家学);山鹿流、儒;藩儒三木雲門門、江戸で文武を修学/帰藩後藩主松平頼儀・頼恕に出仕、藩校講道館で[武経七書]を講ず、1838老信閣総裁、歌人、「鶴台賀藻」編、「節制或問」著、「籌海録」「籌海録或問」「史略便蒙括抄」「軍譜」「甲戦談」「小笠懸詩歌集」著、1836「神応図証」著、養嗣子;今村彰あきら(1809-82)、  
[象山(;)の通称]通称;太平
- J2227 松山(しょうざん・長谷川はせがわ)?-? 越後三島郡尼瀬の医者/詩賦を嗜む、1814「痘疫論」、1815「唐宋詩辨」13「脚気方考」17「痘疫論正誤」、「草市医話」「宋元詩談」「宋元詩辨」外著多、  
[松山(;)通称]の号]看花弄月翁かんからうげつおう
- J2228 嘯山(しょうざん・小笠原おがさわら、名;常春/通称;平兵衛、常方男)?-? 江後期文化文政1804-30頃幕臣、禄5百石/1809小十人頭/18先手弓頭/28致仕、歌人;「詠馬百首」著、1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、

[水茎の岡辺の小萩さを鹿の寝ての朝けの跡も見えけり](大江戸倭歌;秋1015)

- J2229 **商山**(しょうざん・松崎まつさき、名;純庸すみやす)?-1838 江後期江戸の幕府学問所儒官、西丸御書院番、武蔵風土記調方出役、1820「小石川志料」、「搜勝余録」「礪川瑣言」著、1830「江戸古絵図考」(間宮士信・三島政行・神谷岩三郎と共撰;江戸図書目提要附録に入)、[商山(;号)の通称/法号]通称;善右衛門、法号;真理院
- J2230 **想山**(しょうざん・三好みよし、名;永孝)?-1850 尾張名古屋藩士、書家;佐々木庸綱(宗六)門、主命により上京;花山院家厚門;筆道指南家の免許を得/1819江戸定詰で市ヶ谷藩邸住;藩の右筆、1850「想山著聞奇集」著、市ヶ谷自証院惣門・芝三田八幡宮鳥居の額を書、[想山(;号)の字/通称/法号]字;子錫、通称;伴五郎/六左衛門、法号;清光院
- S2254 **象山**(しょうざん/ぞうざん・佐久間さくま、一学[国善]男)1811-64暗殺54 母;荒井六兵衛女まん、信州松代藩士、儒者;佐藤一斎門、鎌原かんばら桐山門、1839江戸神田お玉ヶ池に開塾、1842藩主真田幸貫の海防掛老中就任に伴い顧問として海外事情研究を命ぜらる、西洋兵学・砲術;江川坦庵門、蘭学;黒川良庵門、1850江戸深川藩邸で砲術教授;勝海舟・吉田松陰・橋本左内・坂本竜馬らの師、開国論者、1854松陰の渡米密航失敗事件に連座;国元に帰郷、1861赦免;61將軍家茂の命で上京;国事奔走/京三条木屋町で尊攘派により暗殺、詩歌を嗜む、妻は勝海舟の妹順子、1842「海防建白書」48「沓野日記」52「礪卦ほりけ」53「浦賀日記」54「横浜陣中日記」、1860「佐久間象山修理和歌」、「佐久間象山日記」「省誓せいきん録」「感情歌百首」「桜賦」外著多、「象山佐久間先生遺稿」、師鎌原桐山・同門山寺常山とともに[松代の三山]と呼ばれる、[象山(;号)の名/字/通称]名;国忠/啓ひらき/大星、字;子迪/子明、通称;啓之助/修理、
- J2231 **簫山**(しょうざん・早田はいで、名;知元、藩士早田はいで濟美[甚助]2男)1811-7464 出羽庄内藩の儒者、兄2世甚助の罪で家名断絶/簫山は学問に秀で1837致道館助教に就任/40典学、兄の家の再興を許され致道館司業、経学に長ず、1863近海航行の外国船警戒のため宮野浦に移住した家中20数戸の頭役、のち田川郡田谷村に閑居、「尚書解」著、[簫山(;号)の字/通称/別号]字;子哲、通称;久吉/理右衛門、別号;東園
- S2255 **小山**(しょうざん・奥野おくの、名;純)1800-5859歳 大阪瓦町の儒者;篠崎小竹門、詩人、初め和泉伯太藩に招聘;儒者、近江三上(甲賀)藩の大坂藩邸の留守居役;藩士の子弟教育、「小山堂文鈔」、「小山堂詩鈔」、[小山(;号)の字/通称/別号]字;温夫、通称;弥太郎、別号;寸碧楼/胖庵
- U2290 **性山**(しょうざん;法諱、号;全応、俗姓;大島)1805-8581 信濃伊那郡山吹の天台宗瑠璃寺住職、歌人;澄月門
- S2256 **樵山**(しょうざん・渡辺わたなべ、名;魯、渡辺蘅園男)1821-7353 近江の生/璞輔の兄、病父の意志で弟璞輔と共に江戸の儒者松崎慊堂に養育、;経史を修学、師慊堂の遺命により江戸羽沢の石経山房を守り門弟に教授、和歌山藩士井上葦斎と交流、下総佐倉藩洋学者木村重周門;西洋流練兵法を修学、1860紀州和歌山藩儒;66小姓頭、1868奥右筆組頭/70致仕、師慊堂「開成石経」出版に兄弟で尽力、「焉能為詩集」「樵山存稿」「孟子章句考」著、[樵山(;号)の字/通称/別号]字;正風、通称;魯輔、別号;莊芦、法号;真教院
- |                   |   |                        |           |
|-------------------|---|------------------------|-----------|
| 紹山(しょうざん・里村)      | → | 仍民(じょうみん・里村;北家、連歌師)    | B 2 2 6 6 |
| 紹山(しょうざん;法号)      | → | 周宗(ちかむね・伊達だて、藩主/歌)     | C 2 8 0 0 |
| 笑山(しょうざん・恋川)      | → | 種清(たねきよ・柳水亭、時宗僧/合卷)    | G 2 6 3 6 |
| 笑山(しょうざん・古橋)      | → | 暉児(てるのり・古橋ふるはし、名主、篤農)  | F 3 0 2 3 |
| 昇山(しょうざん・葛飾)      | → | 戴斗(2世たいと・葛飾、絵師)        | B 2 6 9 1 |
| 紹山(しょうざん;法号)      | → | 周宗(ちかむね・伊達、藩主/歌)       | C 2 8 0 0 |
| 牀山(しょうざん・久米)      | → | 道香(みちか・久米くめ、医者/歌人)     | I 4 1 9 3 |
| 松山(しょうざん→まつやま・狂名) | → | 静山(せいざん・松浦、藩主/詩歌)      | B 2 4 7 6 |
| 松山(しょうざん;法名)      | → | 見年(ちかとし・稲垣いながき/源、幕臣/歌) | L 2 8 4 7 |
| 松山(しょうざん・清瀬)      | → | 恕春(ひろはる・清瀬きよせ、藩医/歌人)   | J 3 7 3 0 |

- 松山(しょうざん・酒井) → 利亮(とししげ・酒井さかい、医者/歌人) V 3 1 3 4  
 尚山(しょうざん・朽木) → 尚綱(なおつな・朽木くつき/源、幕臣/歌) K 3 2 1 1  
 商山(しょうざん・荒木) → 李谿(りけい・荒木、儒/詩/画) 4 9 8 8  
 商山(しょうざん・今大路) → 親顕(ちかあき・今大路いまおおじ、医/詩歌) 2 8 5 5  
 章山(しょうざん・田口) → 藤好(ふじよし・田口たぐち、儒者/詩) C 3 8 7 4  
 沼山(しょうざん・横井) → 小楠(しょうなん・横井よこい、思想家) B 2 2 0 5  
 昌山(しょうざん・鍋田) → 三善(みつよし・鍋田なべた、藩士/儒者) F 4 1 2 1  
 昌山(蕉山しょうざん) → 八朗(はちろう・宮本、俳人) E 3 6 9 8  
 象山(しょうざん;号) → 先啓(せんけい;法諱、真宗大谷派僧) F 2 4 2 4  
 湘山(しょうざん・野中) → 祺明(よしあき・野中のなか、幕臣/歌人) O 4 7 4 4  
 蕉山(しょうざん) → 宗固(そうこ・萩原/鈴木/源、幕臣/歌人) 2 5 0 8  
 照山(しょうざん;字) → 恵晃(えこう;法諱・照山;字、律宗僧) D 1 3 8 2  
 篠山(しょうざん・谷) → 六蔵(ろくぞう・谷たに、神職/国学) C 5 2 8 0  
 檣山(しょうざん;号) → 自謙(じけん;法諱、真宗本願寺派僧) T 2 1 2 7  
 鍾山(しょうざん・内藤) → 笨庵(ほんあん・内藤ないとう、儒者) E 3 9 9 0  
 鐘山(しょうざん;号) → 靈曜(れいよう;法諱、真宗大谷派僧) 5 1 6 9  
 樟山(しょうざん・木沢) → 天童(てんどう・木沢きざわ、藩儒) E 3 0 0 9
- V2278 **定算**(じょうざん;法諱、) ? - ? 鎌倉前中期;南都の僧/法師、  
 歌人;1237素俊撰[藤葉集]3首入、  
 [父の服になりけるつぎの年九月十三夜の月をみて、  
 むぐりくる月もあはれと思ふらむこそみし秋の袖のいろかは](檜葉:哀傷593)
- V2262 **浄讚**(じょうざん;法諱、) ? - ? 鎌倉南北期;真言僧/法印、今熊野観音寺僧、  
 歌人;1345?刊小倉実教[藤葉集]2首入、  
 [ふくるよの霜をかさねて袖の上にやどるも氷る月の影かな](藤葉;冬332)
- 常三(じょうざん・吉雄) → 南阜(なんこう・吉雄よしお、蘭学/医者) I 3 2 9 6  
 常算(じょうざん;法名) → 基賢(もとかた・東園ひがしぞの/藤原/園、大納言/歌) C 4 4 3 2  
 貞算(じょうざん;法諱) → 貞算(ていざん;法諱、法師/歌人) F 3 0 2 8  
 浄三(じょうざん→きよみ・文室ふみや) → 智努(ちぬ、智努王/万葉歌人) 2 8 1 5
- J2232 **定山**(じょうざん;道号・祖禅そぜん;法諱、諡号;普応円融禅師) 1298-1374<sup>77</sup> 出雲(or相模)の臨濟僧;  
 京の東福寺桂昌庵の双峰宗源門/法嗣、山城大聖寺・筑前承天寺の住持、東福寺217世、  
 南禅寺33世/芬陀利華院を開創;没、「続釈書」「続正法論」著
- S2257 **丈山**(じょうざん・石川いしかわ、名;重之げゆき/凹おう、信定の長男) 1583-1672<sup>90</sup> 三河生/徳川家康の家臣、  
 大坂の陣後に薙髪、儒学;藤原星窩門/詩人、1623母を養うため安藝浅野家の客分;出仕、  
 1635上京;41洛北一乗寺村に凹凸窩・詩仙堂を造営;漢宋詩人36人の画像を掲げる、  
 「詩法正義」「藝陽道行」「北山紀聞」「中華詩仙伝」「凹凸窩草藁」「詩仙図説」「詩仙堂志」著、  
 1637「朝鮮筆談集」60「至楽巢」63「凹凸窩十二景詩並序」71「覆醬集」、「新編覆醬集」外著多、  
 [丈山(;字)の通称/号]通称;嘉右衛門/左親衛、  
 号;六六山人/四明/四明山人/凹凸窩おうとつか/大拙/烏鱗子/山木山材/藪里翁/三足老人、  
 至楽窩/嘯月翁/梅関/半仙子/蜂要/小有/蓮軸/吟狂叟/吁斎/歎啓/遷斎/東溪、  
 詩仙堂/寿春翁/頑仙/華月翁 など
- S2258 **常山**(じょうざん・田丸たまる、名;具房)?-? 伊勢北畠氏の庶流、江初期軍記作者:実録、  
 「天草征伐記」編/1692「天草軍記」著、「天草軍談」「関ヶ原軍記大全」「浪速戦記大全」著
- J2233 **定山**(じょうざん;道号・良光りょうこう;法諱)?-1736 曹洞僧;1698陸中水沢の正法寺118世住持、  
 伽藍法中心の立場から卍山道白の人法中心宗統復古運動に反論、  
 1702「獅子一吼集」、「大梅拈華録」著
- J2234 **定山**(じょうざん;道号・寂而じゃくじ;法諱、俗姓;佐藤) 1676-1736<sup>61</sup> 豊後大分郡寒田村の臨濟僧;  
 1688(13歳)豊後吉祥寺の単堂門;得度、諸師参禅後に豊後多福寺の賢巖禅悦門;嗣法、  
 1718下総光福寺の源水の招聘で同寺の住持、「紙衣集」著
- S2259 **常山**(じょうざん・湯浅ゆあさ/修姓;湯、名;元禎、子傑男) 1708-81<sup>74</sup> 母;瑠璃女、備前岡山藩士;

1731家督嗣/1732江戸で服部南郭門;儒学・詩を修学、太宰春台門、藩主池田家3代に出仕、鉄砲引廻役/1758寺社奉行/63町奉行/67寄合組頭/68判形役;藩の財政事務担当、1769江戸詰;藩政を批判;帰国/隠居を命ぜらる、著述・詩歌に専念、武芸を重視;劍槍を鍛錬、

1739「常山紀談」編、67「東行筆記」72「焚余藁」72「常山楼筆余」、「常山夜譚」「常山楼集」、「雨夜のともし火」「元禎筆記」「常山楼筆記」「吉備烈公遺事」「国朝詩鈔」「談兵雜録」著、「大坂軍記」「秋雨夜話」「常山紀談」「諸君詩集」編、外編著多数、「常山先生詩集」、

[主君を諫むる者の志 軍いさに先駆するよりも大に踰こえ勝れり](常山紀談)

[常山(;)の字/通称]字;之祥/士祥、通称;新兵衛、明善あきよしの父

J2235 常山(じょうざん・小栗おぐり/本姓;平、名;煥/世煥)1763-84早世<sup>22</sup> 若狭小浜の儒者;江村北海門、京に住、詩画を嗜む、「常山遺稿」、十洲の兄、

[常山(;)の字/通称/法号]字;明卿、通称;宗吉/直之進、法号;真道院

S2260 城山(じょうざん・中山なかやま/本姓;藤原、医者 of 玄柳男)1763-1837<sup>75</sup> 讃岐香川郡横井村の医・儒者、儒;幼時より藤川東園門;古文辞学/徂徠学修学、

1799(寛政11)高松藩国老久保家の命で夫人に毛詩・歌を教授、高松に住;[城山塾]開設、城中で子弟教育、久保夫人没後;塾を息子麓山ごうざんに譲り大坂・京・長崎を遊歴、

1815麓山没(27歳);悲観し帰郷;「全讃史」執筆に没頭/1828(文政11)完成、

「城山前集」「城山後集」「城山国歌集」「詩学発蒙」「四家雋考」「瓊浦紀行」「葛城大明神記」、1804「辨訳文要訣」28「城山廬語げい」「全讃史」、「胆気篇邦言解」「東伍篇邦言解」外著多数、藤沢東暎・相馬九万・藤川三溪の師、

[城山(;)の字/通称]名;鷹よ(;)初名)/藤鷹とうよう、字;伯鷹、通称;塵おほか

J2236 繩山(じょうざん・重富げとみ、名;鼎/字;文卿/通称永助)1806-74<sup>69</sup> 筑後樋口村儒者;広瀬淡窓門、家塾開/のち久留米藩校明善堂教授、1854「和漢事類蒙求」、「随得録」、「繩山先生口授」

J2237 城山(じょうざん・西島にしじま/初姓;牧野/修姓;牧、名;周道)1806-80<sup>75</sup> 西島蘭溪の養子、江戸漢学者、明治初め大学大博士に徴されるが老を理由に固辞、「四時田園雜興」「読孔子家語」、「読劉向説苑」「韓非子標注」「左国標注」「四書標注」「荀子標注」/1862「読貞観政要」外著多、[城山(;)の字/通称/別号]字;如砥、通称;準之助、別号;中城/睡庵/菊村、

法号;章誉憲明睡庵居士

S2261 城山(じょうざん・奥村おくむら、名;増地ますのぶ)?-? 江後期天保1830-44頃江戸芝西久保の暦算家、芝増上寺御霊屋領代官、和算;丸山良玄・本多利明門/測量;伊能忠能門、蘭学;高野長英門、堀田泉尹・高守観好・司馬江漢らにも親炙、数学・測量・暦法に精通、1832究理塾生、

1836「量地弧度算法」著、37増上寺領内に女学校設立提言;「女学校発起之趣意書」刊、

1837「勸施救荒」編、38経緯儀(羅針盤兼天体測量機)を製作;「経緯儀用法図説」著、

1838「船中日晷せんちゅうにつき」著、39渡辺華山の推薦で江川観測隊に起用;「太陽赤緯表」著、

1839「廻船宝富久呂」著、鳥居耀蔵に寺役人は不浄として観測隊から降板、

1841(天保12)「算学必究」著、以後消息不明、

[城山(;)の字/通称]字;伯保、通称;喜三郎

S2262 常山(じょうざん・山寺やまでら、名;久道/信童、久敬の長男)1808-78<sup>71</sup> 信濃松代士;父を継嗣、藩主真田幸貫に出仕、観察/普請奉行/世子傳、兵学;江戸の平山兵原門・経学;古賀侗庵門、

詩文;藩儒鎌原桐山門、程朱学、1841幸貫が老中就任し海防担当;常山は藩士に兵学講義、

1843松代藩郡奉行;幕府預所を兼管、1854佐久間象山らと開港問題に奔走、

1863攘夷令のもと藩の参謀として活動、桐山・象山と共に松代藩の三山と称す、

松崎慊堂・佐藤一斎・中村敬宇と交流、妻;北沢蘭壑女の鎮子、信炳・宣健の父、

「常山文集」「如座漏船居紀聞」「問対書稿」「松代封内実測図」著、「高田屋手書並紀聞」編、

[常山(;)の字/通称/別号]字;子彰、通称;源太夫、別号;懼堂/静修斎

J2238 上山(じょうざん・浅田あさだ、名;寛)?-? 江中期江戸の儒者;細井広沢門・書;松下烏石門、1765「祭後京極藤公文」、「上山詩草」「墨妙閣記」著、

[上山(;)の字/通称/別号]字;子裕、通称;六兵衛、別号;大陸山人

V2241 常山(じょうざん・山田やまだ、)? - 1890 江後期;尾張犬山藩士;勘定奉行、

国学;植松茂岳しげか門、

[常山(;)号)の名/通称]名;重稔しげとし、通称;莊兵衛

☆常滑の陶芸家の山田常山とは別人

常山(じょうざん・本立軒)	→	成資(しげすけ・香西こうさい、兵学/軍記)	C 2 1 2 6
常山(じょうざん;法名)	→	光成(みつなり・土佐とさ/藤原、絵師)	E 4 1 2 5
常山(じょうざん・徳川)	→	光圀(みつくに・徳川/源、藩主/修史)	4 1 2 5
常山(じょうざん・安積あさか)	→	澹泊(たんぱく・安積、儒/史家)	2 6 9 5
常山(じょうざん・友月庵)	→	貞長(さだなが・牧野まさの/源、藩主/日記)	J 2 0 0 7
常山(じょうざん・江田)	→	居中(やすなか・江田えだ、藩士/歌人)	F 4 5 4 6
常山(じょうざん・山崎)	→	籍侃(よりただ・山崎やまさき、藩士)	I 4 7 9 7
常山(じょうざん・高倉)	→	永秀(ながひで・高倉たかくら/藤原、廷臣/尊王)	N 3 2 7 2
常山(じょうざん・下田)	→	栄隆(ながたか・下田しもだ、槍術/国学)	N 3 2 3 5
常山(じょうざん・藤堂)	→	高克(たかかつ・藤堂とうどう、藩家老/教育)	Y 2 6 3 9
丈山(じょうざん・岡村)	→	丈白(じょうはく・岡村おかむら丈山、儒/詩)	B 2 2 2 4
浄山(じょうざん)	→	玉之(ぎよくし・黒川くろかわ、俳人)	P 1 6 0 1
城山(じょうざん・小川)	→	其瀾(きらん・小川おがわ、儒者)	Q 1 6 4 6
城山(じょうざん・西田)	→	惟明(これあき・西田、藩士/医者)	O 1 9 1 0
城山(じょうざん・守田)	→	通敏(みちとし・守田もりた、藩士)	B 4 1 9 9
城山(じょうざん・竹内)	→	武信(たけのぶ・竹内たけうち、和算家)	O 2 6 5 8
湘山隠士(しょうざんいんし)	→	惟足(これたる/これたり・吉川よしかわ、神道家)	1 9 4 8
小山園(しょうざんえん)	→	伝芳(でんぼう・下郷/千代倉、亀洞男/俳人)	E 3 0 3 1
浄山翁(じょうざんおう)	→	千梅(せんばい、田中、俳人)	G 2 4 5 0
常山[散人](じょうざん[さんじん])	→	倫良(ともよし・三善、国/神道/詩歌)	Q 3 1 9 1
蕉山下(しょうざんか)	→	麟那(りんな・蕉山下、俳人)	K 4 9 7 4
章山学士(しょうざんがくし・田口)	→	藤好(ふじよし・田口たぐち、儒者/詩)	C 3 8 7 4
暁山居(じょうざんきよ)	→	漣々(2世れんれん・大久保おおくぼ、俳人)	B 5 1 3 6
象山窟(しょうざんくつ)	→	花足(かそく・岩下、藩士/弓術/俳人)	M 1 5 8 2
照山元瑤(しょうざんげんよう)	→	光子内親王(みつこないしんのう、観音堂建立)	D 4 1 3 8
浄珊寺(じょうざんじ)	→	興意親王(こういしんのう、天台僧/連歌)	H 1 9 3 1
常山人(じょうざんじん)	→	光圀(みつくに・徳川/源、藩主/修史)	4 1 2 5
松杉堂(しょうざんどう)	→	蘭室(らんしつ・藤村ふじむら、茶人)	C 4 8 4 3
松山堂(しょうざんどう)	→	勇次郎(勇治郎ゆうじろう・曾田そだ、兵学)	C 4 6 6 9

J2239 聖珊内親王(しょうざんないしんのう、中御門天皇皇女)1721-5939 母;錦小路頼庸女の町局、江中期の尼僧;1721(1歳)曇華院相統/28(8歳)入寺/31(11歳)得度、35二品、「曇華院宮聖珊内親王書状」著、

[聖珊内親王の幼称/法諱/法号]幼称;姫宮、法諱;聖珊尼しょうざんに、法号;通玄玉江和尚

聖珊尼(しょうざんに)	→	聖珊内親王(しょうざんないしんのう、曇華院宮)	J 2 2 3 9
浄山房(じょうざんぼう)	→	梅童(ばいどう・渡辺、里正/俳人)	B 3 6 9 0
湘山幽士(しょうざんゆうし)	→	惟足(これたる/これたり・吉川よしかわ、神道家)	1 9 4 8
紹山隆公(しょうざんりゅうこう;法号)	→	周宗(ちかむね・伊達だて、藩主/歌)	C 2 8 0 0
小山林堂(しょうざんりんどう、書塾)	→	米庵(べいあん・市河、儒者/詩/書)	2 7 0 0

2200 彰子(しょうし・藤原、上東門院じょうとうもんいん;号、道長の長女)988-107487 母:源雅信女倫子(従一位)、999(長保元)一条天皇に入内;女御、1000中宮/1012皇太后/18太皇太后/26落飾;院号を賜、後一条・後朱雀天皇の母、歌人;1032上東門院菊合主催、後宮サロンを形成、女房に紫式部・和泉式部・赤染衛門・小少将・五節・新宰相・中将など多数、歌;続詞花集・玄々集入、勅撰29首;後拾遺(569/1030)金(339/563)詞(418)千(555/567/1256)新古(5首)続後撰以下、[見るまゝに露ぞこぼるゝ遅れにし心も知らぬ撫子の花](後拾遺;哀傷569/彰子24歳)、(一条院没後に4歳の後一条院は実感できず撫子を取るのを見て何か思い出して詠)[後一条院春日行幸侍りけるに御輿に奉らせ給ひて参らせ給ひけるに、

一条院御時このみゆきはじまれりけることをおぼしめしいでて、  
 みかさ山さしてきにけりいそのかみふるきみゆきの跡を尋ねて] (続詞花; 雑740)、  
 [彰子(名)の通称/法名]通称; 東北院/一条院后、法名; 清浄覚  
 同母弟妹; 頼通・教通・妍子けいし・威子・嬉子

- 2204 **璋子**(しょう・待賢門院、藤原公実女) 1101-1145 45 母; 藤原隆方女の光子、1118鳥羽天皇に入内、  
 女御/立后; 中宮、1119顕仁親王(崇徳天皇) 出産はじめ5男2女出産、源有仁室の妹、  
 1123崇徳天皇即位/24(天治2)院号; 待賢門院、29白河院崩御/鳥羽院が廷臣を統率、  
 藤原忠実を起用; その娘泰子(高陽院) を立后/側妃藤原得子(美福門院) を寵愛、  
 崇徳天皇の孤立; 出生の秘密(実は白河院男) が遠因で鳥羽法皇と不和、  
 1141崇徳は弟の近衛天皇(母得子) に譲位; 外戚が加わり待賢門院派と美福門院派の対立、  
 (待賢門院璋子・近衛・鳥羽天皇没後に崇徳派と後白河派の対立で保元乱が生じる)、  
 顕仁親王(崇徳天皇)・禧子内親王・統子内親王(上西門院)・雅仁親王(後白河天皇)・  
 本仁親王(覚性法親王)の母、金葉集奏覧本所有、「山家心中集」入、  
 女房に安藝・加賀・中納言・長門・兵衛・堀河など歌人数、  
 姉 → 有仁室(ありひとのしつ、源、歌人) B 1 0 9 1

- 2208 **鐙子**(しょうし、永福門院 えいふくもんいん/ようふくもんいん、西園寺実兼女) 1271-1342 72 母; 中院通成女顕子、  
 伏見天皇の中宮(1288入内)/立后/1298院号宣下、1316出家/17伏見院と死別、  
 鎌倉期京極派の代表歌人; 前期京極派歌合のほとんどのに参加、多くの女流歌人を育成、  
 1297八月十五夜/99五種歌合参加/1303「永福門院仙洞五十番歌合」主催(中將の隠名)、  
 「永福門院百番自歌合」「月五十首」、勅撰151首; 新後撰(204/491/731)玉葉(49首)以下、  
 藤葉集6首入、

鐙子(永福門院)に仕えた主な女房歌人

- 右衛門督(うゑもんのかみ) 1 2 0 1
- 小兵衛督(こひょうゑのかみ) D 1 9 6 0
- 左京大夫(さきょうのたいふ) B 2 0 4 3
- 治部卿(じぶきょう) F 2 1 5 6
- 中將(ちゅうじょう) G 2 8 4 1
- 永福門院内侍(えいふくもんいんのないし) 1 3 4 5
- 二条(にじょう) 3 3 2 5

- Q2250 **松志**(しょうし) ? - ? 江前期俳人; 1691不角「二葉之松」入(249)、  
 [独り身の幅我次第世の夫をつ] (二葉之松; 249/前句; 心うきたつ颯々々ザマンザの声)  
 (独身の自分は女性と自由に遊べるが妻帯者は気の毒)

- S2266 **尚施**(しょうし・田宮 たみや、名; 安実) ?-? 江後期薩摩藩医、1854「知幾葯言」著、  
 1857刊「施治撃要 せぢくげいよう」編/58「暴病管見」64「傷寒論陰陽辨」著、「傷寒論割記」著

- 璋子(しょうし・後一条天皇皇女) → 二条院(にじょういん) 3 3 2 9
- 勝子(しょうし・藤原) → 嘉喜門院(かきもんいん、歌人) B 1 5 2 6
- 勝巳(しょうし・贄川) → 勝巳(かつみ・贄川、歌人) C 1 5 5 3
- 象子(しょうし・河合) → 象子(きさこ・河合 かわい/山中、国学/歌人) T 1 6 9 9
- 暲子(しょうし・鳥羽天皇皇女) → 八条院(はちじょういん) E 3 6 8 8
- 韶子(しょうし・有馬) → 韶子(あきこ・有馬、歌) D 1 0 3 4
- 升子(しょうし・西) → 升子(ますこ・西にし/相沢/石川、歌人) R 4 0 3 5
- 性獅(しょうし・独吼) → 独吼(どっく; 道号・性獅; 法諱、渡来黄檗僧) O 3 1 4 4
- 翔之(しょうし・大菅) → 南坡(なんば・大菅/岩泉、漢学者/藩儒) J 3 2 3 6
- 省巳(しょうし; 字) → 日中(にちちゅう; 法諱・正住院、日蓮僧) F 3 3 0 8
- 昌之(しょうし・鈴木) → 雅之(まさゆき・鈴木/穂積、国学/歌人) I 4 0 3 8
- 昌之(しょうし・山田) → 昌之(まさゆき・山田 やまだ、藩士/歌人) I 4 0 3 6
- 昌之(しょうし・猪俣) → 昌之(まさゆき・猪俣 いのまた、通事/翻訳) I 4 0 2 9
- 昌之(しょうし・小貫) → 昌之(まさゆき・小貫 おぬき、歌人) M 4 0 7 8
- 昌之(しょうし・年梅) → 昌之(まさゆき・年梅 ねんばい、接骨医/国学) R 4 0 4 6
- 昌始(しょうし・朝比奈) → 昌始(まさもと・朝比奈 あさひな、幕臣) N 4 0 1 5

昌誌(しょうじ・大滝) → 昌誌(まさふみ・大滝おたき、国学者) O 4 0 3 3  
 朝旨(しょうじ・深津/土岐) → 朝旨(ともむね・土岐/深津、幕臣/文筆) Q 3 1 7 0  
 尚之(しょうじ・福野) → 尚之(ひさゆき・福野ふくの、歌人) M 3 7 4 8  
 尚之(しょうじ・熊谷) → 箕山(きざん・熊谷くまがい、儒者/詩文) I 1 6 5 6  
 尚之(しょうじ・関) → 尚之(ひさゆき・関せき、商家/歌人) I 3 7 2 3  
 尚之(しょうじ・三浦) → 尚之(ひさゆき・三浦みうら、藩侍医/国学) L 3 7 3 0  
 尚之(しょうじ・安原) → 尚之(ひさゆき・安原やすはら、詩歌人) M 3 7 1 3  
 尚氏(しょうじ・大館) → 尚氏(ひさうじ・大館おおだち/源、幕臣/故実/歌) E 3 7 4 2  
 尚志(しょうじ・上野) → 尚志(たかもと・上野うえの、藩士/兵学者) N 2 6 4 5  
 尚志(しょうじ・佐藤) → 復斎(ふくさい・佐藤さとう、藩儒) B 3 8 5 2  
 尚志(しょうじ・松野) → 尚志(なおゆき・松野まつの、陪臣/国学) O 3 2 9 0  
 尚侍(しょうじ;嘉元百首参加) → 瑣子(きやくし、万秋門院、女官/歌人) H 1 6 2 0  
 尚侍(しょうじ・中川) → 経雅(つねまさ・中川/荒木田、神職/歌) D 2 9 7 0  
 尚嗣(しょうじ・近衛) → 尚嗣(ひさつぐ・近衛/藤原、関白/日記) B 3 7 3 6  
 小市(しょうじ・鈴木) → 小市(こいち・鈴木すずき、武芸家;砲・弓) H 1 9 0 8  
 松子(しょうじ・山口) → 素堂(初世そどう・山口、商家/俳人) 2 5 2 6  
 松子(しょうじ・乾) → 景寛(かげひろ・乾いぬい、国学/歌人) T 1 5 7 0  
 樵史(しょうじ・藤岡) → 眞琴(まこと・宮永みやなが、神職/和漢学) T 4 0 0 2  
 将之(しょうじ・村田) → 清風(せいふう・村田むらた、藩士/歌人) C 2 4 9 5  
 紹之(しょうじ・島村) → 紹之(つぐゆき・島村しまむら/神馬、商家/歌) F 2 9 8 3  
 照子(しょうじ・安倍) → 照子(てるこ・安倍あべ、土御門忠姫/歌) E 3 0 9 9  
 照子(しょうじ・小野) → 照子(てるこ・小野おの、歌人) 3 0 3 9

S2267 昌次(しょうじ) ? - ? 萩の俳人、1679旨怨「わたし船」に何櫛百韻入

正二(しょうじ・葛葉山人・鳳凰軒・万寿亭) → 金治(初世きんじ・篠田、歌舞伎作/戯作) E 1 6 0 8  
 正司(荘司しょうじ・湯口) → 竜淵(りゅうえん・湯口ゆくち、儒者/教育) D 4 9 0 0  
 正治(しょうじ・高橋) → 正作(しょうさく・高橋/千葉、勸農家) J 2 2 1 3  
 正治(しょうじ・富永) → 莘陽(しんよう・富永/長深/神墨、陽明学) 2 2 9 0  
 昌時(しょうじ・須藤) → 昌時(まさとき・須藤/首藤、藩士/兵法家) E 4 0 3 4  
 昌治(しょうじ・長浜) → 昌治(まさはる・長浜、狂歌) L 4 0 0 6  
 昌次(昌二しょうじ・寺沢) → 昌次(昌二まさつぐ・寺沢てらさわ、絵師) D 4 0 9 1  
 尚二(しょうじ・武部) → 游(ゆう・武部たけべ、蘭学/医者) 4 6 4 6  
 尚次(しょうじ・川瀬/河瀬) → 知十(ちじゅう・川瀬/河瀬、俳人) E 2 8 3 4  
 尚次(しょうじ・長浜) → 尚次(ひさつぐ・長浜/藤原、幕府連歌衆) B 3 7 3 7  
 章次(しょうじ・西村) → 直方(なおかた・西村、薬種/本草家) 3 2 9 0  
 章治(しょうじ・西村) → 景義(かげよし・西村/井李、直方男/本草家) L 1 5 4 6  
 庄司(しょうじ・堀越/山田) → 可興(かきょう・堀越/山田、俳人) J 1 5 3 5  
 庄司(しょうじ・佐藤) → 鶴城(かくじょう・佐藤、医者/国学) K 1 5 0 6  
 庄司(しょうじ・菊池) → 寛司(かんじ・菊池、藩士/文筆) Q 1 5 8 8  
 庄司(庄治しょうじ・藤本) → 敬(けい・藤本ふじもと、郷土、詩/俳人) D 1 8 3 2  
 庄司(しょうじ・島村) → 紀孝(のりたか・島村しまむら、商家/国学) I 3 5 7 0  
 庄治(しょうじ・正司) → 碩溪(せきけい・正司しょうじ、商家/儒・兵学) K 2 4 0 0  
 庄治(しょうじ・高橋) → 保命(やすよし・高橋たかはし/源、里正/和学) G 4 5 2 1  
 荘司(庄司しょうじ・溝口) → 千谷(せんこく・溝口/鈴木、書家) M 2 4 2 9  
 荘司(しょうじ・千村) → 重琦(しげかた・千村ちむら、本陣/歌人) Q 2 1 7 5  
 荘司(しょうじ・伊藤) → 竜洲(りゅうしゅう・伊藤いとう/清田、藩儒) E 4 9 5 5  
 荘司(しょうじ・島村) → 紹之(つぐゆき・島村しまむら/神馬、商家/歌) F 2 9 8 3  
 荘司(しょうじ・杉本) → 隆重(たかしげ・杉本/中臣/樋口、神職/歌俳) X 2 6 7 1  
 象耳(しょうじ;号) → 泉英(せんしょう;法諱・寛順、律僧) M 2 4 5 4  
 床次(しょうじ・小沢;変名) → 三良(さぶらう・尾崎おさき/若林、勤王家) L 2 0 5 1

S2269 二葉子(じょうじ・神田かんだ、蝶々子[神田貞宜]男) 1667-? 母;山人さんじん(俳人)、早熟な江戸の俳人、



1678(12歳)「俳諧江戸通り町」編、78不卜「江戸広小路」入、  
1679勝吉かつきち「苧おくそ頭巾」(両吟歌仙)入、  
[大水や紅葉流るゝ塗足駄ぬりあだ](江戸広小路/塗足駄は朱塗りの足駄/12歳の作)  
[二葉子(;号)の別号] 松花軒

- S2268 紹之(じょうし/しょうし;号) ? - ? 1627以後没 安房の生/幕府連歌師、1596紹由らと三吟百韻、  
1598「両吟山何百韻」/1613「何人百韻」20昌琢と「何人百韻」/1620・21・22・23柳営連歌参加、  
「紹之百首」著
- S2270 常之(じょうし/つねゆき・仁田)? - ? 周防岩国の俳人、1681信徳「七百五十韻」入、  
1690言水「新撰都曲」3句入  
[橋消えて足音わたる霧間かな](新撰都曲;238)
- S2271 常之(じょうし・井上) ? - ? 佐渡の俳人、1690言水「新撰都曲」入  
[時鳥鴉がらすとなりて明けにけり](新撰都曲;386/夜通し時鳥の声を待っていた)
- J2240 常之(じょうし) ? - ? 近江竹生島俳人;1691江水「元禄百人一句」目録入
- S2272 丈芝(じょうし) ? - ? 俳人;几董門、1773睡虎亭七吟歌仙参加:「几董句稿」に入、  
丈芝坊[暁台門]と同一? → 白居(はくきょ・山田、俳人) C 3 6 9 4
- S2273 丈士(じょうし・早川はやかわ、丈石男)?-? 俳人;父[宗順]門;千載堂を継承、  
1781「みとせ草」95「俳諧こまさらえ」編、1801父丈石房宗順著「ありのすさみ」編纂、  
[丈士(;号)の別号]丈士房/千載堂/道一  
上枝(じょう・桂) → 上枝(ほつえ・桂かつら、国学/神職) G 3 9 1 9  
常之(じょう・檜垣) → 常之(つねよし・つねひで・檜垣/度会、神職) E 2 9 2 3  
常之(じょう)上記以外の訓はすべて → 常之(つねゆき)  
常子(じょうし・堀) → 通年子(常子つねこ・堀はり、歌人) C 2 9 0 6  
常史(じょうし・飛鳥部) → 常則(つねのり・飛鳥部あすかべ、宮廷絵師) D 2 9 0 7  
常史(じょうし・岡) → 常史(つねふみ・岡おか、書肆/国学/歌) F 2 9 4 4  
常志(じょうし・伴) → 常志(つねゆき・伴ばん、廷臣) E 2 9 1 7  
常枝(じょうし・藤井) → 常枝(つねえだ・藤井ふじい、医者/語学) B 2 9 7 5  
常嗣(じょうし・藤原) → 常嗣(つねつぐ・藤原朝臣、廷臣/詩文) C 2 9 5 0  
徐于子(じょうし) → 鳳岡(ほうこう・林、幕府儒官/大学頭) 3 9 5 3
- S2274 浄治(じょうじ・宇野うの) ? - ? 大坂高麗橋香具商(宇野河内)/俳人、西鶴「名残之友」入、  
1666「遠近集」-69風虎「百五十番俳諧発句合」参、狂歌;1666「古今夷曲集」入、  
1676西鶴「古今俳諧師手鑑」入;[東山はあら洛外の花見哉](手鑑)、  
[名にめでて折らぬばかりぞ鬼薊おにあざみ我怖おぢにきと人に語るな](古今夷曲集;二夏歌)  
(本歌「名にめでて折れるばかりぞ女郎花我落ちにきと人に語るな」古今;四226僧正遍照)  
丈二(じょうじ・長岡) → 宗興(むねおき・長岡ながおか、歌人) E 4 2 1 4  
浄慈(じょうじ・藤原) → 茂太夫(しげだゆう・陸奥みちのく、浄瑠璃太夫) C 2 1 3 8  
常次(じょうじ・藤本) → 箕山(きざん・藤本ふじもと/畠山・笠原、古筆鑑定/色道) 1 6 1 3  
常治(じょうじ・沼尻) → 墨僊(ぼくせん・沼尻ぬまじり/中村、天文家) D 3 9 6 2  
小四海堂(しょうしかいどう) → 簡堂(かんだう・羽倉はくら、幕臣/儒者) E 1 5 1 3
- U2253 紹識(しょうしき;法諱・善林寺)?-? 江後期;浄土真宗本願寺派善林寺の僧、歌人、  
1860鋤柄助之「現存百人一首」入、  
[世の塵をかどの柳にはらはせて花をよそにも住む人やたれ](現存百人一首;21)  
尚式(しょうしき・三善) → 尚式(ひさのり・三善、連歌) B 3 7 7 8
- J2241 正直(しょうじき・全亭でんてい、姓;小松こまつ/名;義比)?-1861? 江後期江戸麻布六本木の狂歌作者;  
五側判者/読本作者、日向延岡藩江戸詰藩士か?、「今昔奇人録」「諸国今昔物語」著、  
1826「狂歌正流百花鳥」27「狂歌今昔物語」編/1829「金鈴橋雙」30-57「嫩髻蛇物語」著、  
1837「狂歌正流英名集」編、  
[全亭正直(;号)の字/通称/別号]字;子興、通称;平左衛門、別号;全亭主人/全亭子/紀正直
- V2200 貞識(じょうしき;法諱、) ? - 1796 京の僧/江戸谷中の天台宗感応寺9世住職、  
歌人;澄月門、1772(安永元)焼失の五重塔を1791(寛政3)近江の棟梁八田清兵衛らが再建、  
のち幸田露伴著「五重塔」のモデル

尚侍家中納言(しょうじけちゅうなごん)→親子(しんし、ちかこ・藤原、光俊女/歌) E 2 2 3 5  
尚志軒(しょうしけん・村松)→紀風(のりかぜ・村松、本草家) E 3 5 3 7  
松士軒(しょうしけん)→好運(こううん・樋口ひぐち、医者) H 1 9 4 5  
小史公(しょうしこう)→淑人(義人/祥人よしと・福永、儒者) E 4 7 8 2  
正志斎(しょうしさい)→正志斎(せいしさい・会沢、儒者) B 2 4 9 1

U2274 小自在(しょうじざい・加藤かとう、) 1816-1896 81 尾張名古屋の僧;大和長谷寺の役僧、  
住吉西願寺住職/大坂住、歌・俳諧・囲碁に長ず、歌学を指導、大阪に女学校を創立  
[小自在(;法諱)の名/号]名;金光/深澄、号;金鮮こんせん/仏奴

庄子女王(しょうじょおう)→荘子[庄子]女王(そうしにょおう) B 2 5 7 5  
常子女王(じょうじょおう)→常子女王(つねこじょおう、江戸期歌人) C 2 9 0 9  
荘司叟(しょうじそう・色道軒)→色道軒荘司叟(しきどうけんしょうじそう、浮世草子) D 2 1 2 3

S2275 正七(初世しょうしち・清水しみず)?-? 江中後期江戸の歌舞伎作者;初世桜田治助門、  
1787(天明7)江戸中村座出勤、中村座奥役天王寺屋治右衛門の婿、1794河原崎座3枚目作者、  
1798頃四世市川団蔵付き/のち初世・2世桜田治助下で助作/柏子木の名手、三枚目で終る、  
1798「市川団蔵待請晰」/1806「湖月照手松」/08「彩入御伽草」12「色一座梅椿」外助作多数、  
[初世清水正七(号)の別号] 高麗屋蔵釜/左暁(;俳名)

J2242 賞七(粧七/瀟七しょうしち・清水しみず)?-?1887存 歌舞伎作者;3世桜田治助門/1848江戸市村座2枚目、  
1849四世中村歌右衛門の勧めで大坂住;中の芝居で立作者、以後歌右衛門のため執筆、  
1848「葬物語」49「青砥調」51「梅恵顔見勢」53「けいせい鄙源氏」56「今昔相宿晰」、  
1859「東訛恋深川」61「けいせい花白浪」63「道行朧月桂川水」66「今やう鞆猿」外著多数、  
[清水賞七(;号)の別号]清水正七2世/壕越二三治2世/正吉/賞吉/山泉堂賞月/清水舎、  
醒醉軒/先勝・先賞・先抄・洗抄/左暁(;俳名)

正七(しょうしち・宗巴屋)→貞直(さだなお・笠井かさい、商家/詩歌) O 2 0 2 6  
庄七(しょうしち・稲津)→蔽牛(へいぎゅう・稲津いなう、俳人) 2 7 2 1  
庄七(しょうしち・岸本)→抱亭五清(ほうていごせい、絵師) C 3 9 3 6  
庄七(しょうしち・津金)→胤貞(たねさだ・津金つがね、藩士/窯業発展) R 2 6 7 9  
庄七(しょうしち・松浦)→瑞明(ずいめい;法諱、真言僧/国学) I 2 3 6 2  
荘七(しょうしち・隅田屋)→圭峯(けいほう・隅田すみだ、商家/詩/月琴) G 1 8 6 7  
勝七(しょうしち・福島屋)→桂眉(けいび・服部はっとり、俳人) G 1 8 5 9  
丈七(じょうしち・多賀谷)→酔雪(すいせつ・多賀谷たがや、幕臣/絵師) E 2 3 7 7  
貞七堂(じょうしちどう)→乾峰(3世けんぼう、俳人) D 1 8 0 8  
正七郎(しょうしちろう・本間)→光道(みつみち・本間ほんま、富豪/藩士/俳) K 4 1 4 6  
庄七郎(しょうしちろう・川合)→文平(ぶんべい・河南かわなみ、儒者/詩人) G 3 8 4 1

J2243 少室(しょうしつ;道号・通量つりょう;法諱、民部卿法印坂さか十仏男)?-1409 臨濟僧;夢巖祖応門;法嗣、  
撰津澄心寺・山城普門寺住持、東福寺63世、「早霖集」編(1422刊)、「夢巖和尚語録」編、  
民部卿法印坂士仏・東福寺61世日東祖旭の弟

2226 昌叱(しょうしつ・里村さとむら、名;仍景なおかげ、昌休男) 1539-1603 65 戦国期連歌師;紹巴門、  
1552父と死別、父の門人紹巴の庇護を受け成長;その女婿/多くの連歌会に伴われ参加、  
古今集伝授を受、三条西公条より源氏物語の奥義を受、里村南家の祖/法橋、  
1569-1602(永禄十二-慶長七)頃紹巴じょうは・玄仍(げんじょう/里村北家の祖)・幽斎らと百韻多数、  
1582(天正10). 5. 24本能寺襲撃前夜「光秀張行愛宕百韻」参加、  
1592豊臣秀次に源氏物語講釈、1602近衛家で源氏物語講釈、  
1594毛利厳島千句参加、「五吟一日千句」/1558「花千句」参加、  
[もしほ草かく跡たえぬ霞哉](天正七年[1579]何人百韻;発句/脇句;幽斎・第三;紹巴)、  
[昌叱(;号)の幼名/通称/別号/法名]幼名;一千代/市千代、通称;弥次郎/弥二郎、  
別号;策庵、法名;日訶

J2244 少室(しょうしつ・福田ふくだ/ふくた/修姓;田、太室男) 1741?-1819 79? 美濃大垣藩士;父継嗣、  
儒者;服部南郭門、1780藩主戸田氏数の侍読に抜擢/94御側役/96足軽頭次席/用人、  
1801辞職/奏者番並火消役に就任;江戸在住、1803大垣に帰り藩祖の事蹟を探索;  
藩主戸田家譜編纂参画、守屋東陽・沢田東江と交流、「少室先生詩稿」著、助右衛門元昶の父、

[少室(；号)の名/字/通称/法号]名；元鳳/元朋、字；成文、通称；助右衛門、  
法号；学誉文道成範居士

松室(しょうしつ・西原) → 文虎(ぶんこ・西原にさはら、油商/俳人) F 3 8 1 2  
小室(しょうしつ・土岐) → 秀文(ひでぶみ・土岐とき、医者) K 3 7 2 5  
少室(しょうしつ・吉田) → 薄洲(はくしゅう・吉田よした、儒者/詩) D 3 6 2 4  
尚質(しょうしつ・加藤) → 尚質(ひさただ・加藤かとう、藩儒/歌人) I 3 7 9 6  
尚質(しょうしつ・小島) → 尚質(なおかた・小島/小嶋、幕府医官) 3 2 9 5

W2202 勝実(しょうじつ;法諱) ? - ? 平安鎌倉期;南都の僧/法師、  
歌人;1237刊[檜葉集]入、  
[中院なかのいの僧正(玄縁、1113-80) 奈良の人々に十五首の歌よませ侍りてゐるに 冬歌、  
風ふかぬあしのかれはぞそよくなるうきねの鴨や下くぐるらむ](檜葉;冬314)

W2208 承実(しょうじつ;法諱) ? - ? 平安鎌倉期;南都の僧/法師、  
歌人;1237刊[檜葉集]2首入、  
[御霊の社(宇智郡)に人々歌よみて奉りけるに、  
むらさきの色にはあらぬくれなるの涙も人のゆかりなりけり](檜葉;恋477)

D2252 性実(しょうじつ;法諱) ? - ? 平安鎌倉期;南都の僧/法師、  
歌人;1237刊[檜葉集]2首入、  
[こひぢにはやすむかけこそなかりきれいづこなるらむあふのまつばら](檜葉;恋383)

J2245 稍実(しょうじつ;号・岡田おかた、通称;小兵衛)?-? 天保1830-44頃三河碧海郡上郷村永覚の俳人;雑俳、  
1842「狂俳雪見草」編

章実(しょうじつ) → 章実(あきざね/しょうじつ、藤原、僧) C 1 0 8 5  
正実(しょうじつ;初法諱) → 齊雲(さいうん;道号・道棟;法諱、黄檗僧) N 2 0 1 9  
昌実(しょうじつ・岡) → 昌充(まさみつ・岡おか/太秦、楽人) H 4 0 6 5  
昌実(しょうじつ・河内山) → 昌実(まさざね・河内山こうちやま、藩士/記録) C 4 0 6 1  
相実(しょうじつ) → 相実(そうじつ・法曼院法印、天台僧) H 2 5 6 9  
昭実(しょうじつ・二条) → 昭実(あきざね・二条、関白/故実) D 1 0 4 1  
紹実(しょうじつ;法名) → 時元(ときもと・北条/名越/平、武将/歌) K 3 1 1 7  
紹実(しょうじつ・富田) → 紹実(つぎざね・富田とみた、藩老/国学) G 2 9 0 3

S2277 常室(じょうしつ) ? - ? 江中期絵師、1773断本「飛談語」画

V2288 仍実(じょうじつ;法諱、) ? - ? 平安鎌倉期;南都の僧/法師、  
1237刊[檜葉集]8首入;興福寺光明院の歌会参加、  
[光明院にて雁を、  
はれやらぬたのむのさはのあきぎりにあけても雁はよると鳴くなり](檜葉;秋210)  
[昔見し月も涙にくもりけり草にやつるる秋のふるさと](檜葉;雑939)

J2246 成実(じょうじつ;法諱・空外;字、号;啄峰)?-? 天保1830-44頃三河真言宗鳳来寺実泉院の住持、  
1832「菅神頌徳詩」著

常実(じょうじつ;法名) → 実時(さねとき・徳大寺/藤原、太政大臣/歌) D 2 0 2 8  
誠実(じょうじつ・佐藤) → 誠実(のぶざね・佐藤さとう、古事類苑) I 3 5 5 7

Q2226 尚質王(しょうしつおう、尚豊王4男) 1629-68 40 母;西之按司加那志、9代国王尚賢王の弟、  
尚賢王の遺命により中城王子(世子)/1648即位:琉球国第二尚氏王朝第10代国王、  
在位1648-1668、羽地朝秀(向象賢)を摂政とし国政改革、1650正史編集を命ず、  
羽地朝秀は琉球最古歴史書「中山世鑑」編纂、  
妃;美里按司加那志(号;栢窓/1629-1700)/夫人;真南風按司/妻;安谷屋阿護母志良礼  
長男尚貞が嗣、尚貞・尚弘毅・尚弘仁・尚弘才・尚弘徳・尚弘信・尚弘善・安谷屋翁主らの父、  
[尚質王の幼名]思徳金うみとくがね

参照 向象賢(しょうしやうけん) → 朝秀(ちやうしやう・羽地、琉球摂政) I 2 8 6 7  
消日斎(しょうじつさい) → 琴台(きんだい・渡辺、儒者/詩人) J 1 6 0 6  
松室先徳(しょうしつせんたく) → 仲算(忠算・中算ちゆうさん;法諱、法相僧) G 2 8 1 0  
丈日堂(じやうじつどう) → 市山(しざん・本庄/塩足、庄屋/俳人) D 2 1 7 2

S2278 笑止亭(しょうしてい) ? - ? 談義本、1782「笑註烈子」著

- 咲而亭(しょうじてい) → 直方(なおかた・横山、儒/国学) 3 2 9 8  
 小詩堂(しょうしどう) → 玄白(げんぱく・杉田すざ子鳳、医/蘭学) 1 8 2 9  
 繞指道人(じょうしどうじん) → 鉄石(てつせき・藤本、勤王/天誅組) C 3 0 5 1  
 S2279 正子内親王(しょうしなしいんのう/まさこ-) 809-879 71 淳和天皇皇后  
 J2247 昌子内親王(しょうしなしいんのう、朱雀天皇皇女) 950-999 50 母;保明親王女熙子女王、961三品、  
 967冷泉天皇皇后/973皇太后、985岩倉大雲寺内に観音院を創建;行啓供養を行う、  
 986太皇太后宮、歌人;拾遺1255/(326は三条太皇太后宮遵子)・新古1713・新勅585  
 [逢ふ事のかくてや遂にやみの夜の思ひも出でぬ人のためには](拾遺;雑恋1255)、  
 (詞書;日蝕の時太皇太后宮より一品の内親王[村上天皇皇女資子]の許に遣はしける)、  
 [昌子(;名)の通称]太皇太后宮/観音院太后、  
 一品の内親王 → 資子内親王(しなしいんのう・すけこ、955-1015/歌人) D 2 1 8 5  
 S2280 正子内親王(しょうしなしいんのう/まさこ、後朱雀院皇女) 1045-1114 70 母;藤原頼宗女の延子(女御)、  
 齋院;押小路齋院と号す/歌人、1050(永承5/6歳)母延子女御と頼宗邸で生活中に;  
 母延子が内親王のために最初の歌絵合「前麗景殿女御絵合」(正子内親王絵合)を主催、  
 母 → 延子(えんし・麗景殿前女御/後朱雀女御、藤原頼宗女) C 1 3 1 6  
 S2281 章子内親王(しょうしなしいんのう、後一条天皇皇女) 1026-1105 80 後冷泉天皇の中宮、  
 女房に出羽弁が仕える、栄花物語巻37に記事入  
 S2282 頌子内親王(しょうしなしいんのう、五辻齋院、鳥羽天皇皇女) 1145-1208 64 蓮華乗院を建立、  
 「山家心中集」入  
 S2283 祥子内親王(しょうしなしいんのう・よしこ、後醍醐天皇皇女) ?-? 母;新待賢門院廉子(阿野公廉女)、  
 1333齋宮に卜定され野宮入;伊勢に下向せず1336退出(最後の齋宮;以後齋宮は廃絶)、  
 南北期歌人、齋宮期に「祥子内親王百首歌」を詠/出家;保安寺住/1352吉野塔尾陵参拝、  
 新千載(1694)/新葉集16首(78/317/507/574/580/627/736/752/899/905/1026以下)、  
 [名にしおふ花の便りにことよせてたづねやせまし吉野の山](新葉集;春78)、  
 (後村上院芳野の行宮に滞在頃に詠む)  
 奨子内親王(しょうしなしいんのう) → 達智門院(たっちもんいん、後醍醐天皇姉/歌人) 2 6 4 0  
 昇子内親王(しょうしなしいんのう) → 春華門院(しゅんかもんいん) J 2 1 3 6  
 庄子女王(しょうしなしいんのう) → 荘子[庄子]女王(そうしなしいんのう、代明親王女) B 2 5 7 5  
 丈芝坊(じょうしばう) → 白居(はくきよ・山田、俳人) C 3 6 9 4  
 丈士房(じょうしばう) → 丈士(じょうし・早川、俳人) S 2 2 7 3  
 尚舎(しょうしゃ・竜) → 熙近(ひろちか・竜りゅう/竜野、神仏道/俳人) G 3 7 3 4  
 小車(しょうしゃ・福井) → 敬斎(けいさい・福井ふくい、儒/幕府医官) E 1 8 6 7  
 仍謝(じょうしゃ・山本) → 由水(よしみ・山本やまと/源、国学者) H 4 7 2 7  
 瀟灑園(しょうしゃえん) → 松石(しょうせき・木村/梅田、医者/詩人) K 2 2 3 1  
 W2217 勝寂(しょうじやく;法諱) ? - ? 鎌倉期;南都の僧/法師、  
 1238刊[檜葉集]入、  
 [月前梅花といへる心を、  
 あたらよをひとりやねなむ春風にむめが香移る袖の月影](檜葉;雑760)  
 S2284 勝寂(しょうじやく・陶山すやま、名;雅純/別号;円々斎) 1828-77 50 出雲松江藩絵師/画;狩野勝川門、  
 橋本雅邦・狩野芳崖と同門、1856「鷹請取渡並ニ同輩之人鷹見セ様見様之図」画、  
 雅文(;絵師)の父、門弟;山岡蒼雪・神庭松嶺など  
 性寂(しょうじやく;字) → 如海(にょかい;法諱・性寂、真言僧) F 3 3 8 5  
 升寂(しょうじやく・臼田) → 竹老(ちくろう・臼田うすだ、儒者/教育) D 2 8 9 7  
 常寂(じょうじやく;字・忍阿;法諱) → 忍阿(にんあ・常寂、真宗高田派僧) G 3 3 1 5  
 常寂(じょうじやく;法名) → 兼宣(かねのぶ・広橋、廷臣/歌) O 1 5 8 2  
 常寂院(じょうじやくいん) → 日周(にっしゅう;法諱・幽明、日蓮僧/歌) E 3 3 0 4  
 常寂院(じょうじやくいん) → 日耀(にちよう;法諱、日蓮僧) D 3 3 4 2  
 常寂光院(じょうじやくこういん) → 尊映親王(そんえいしんのう、日記/画) F 2 5 0 7  
 常寂房(じょうじやくぼう;号) → 契中(けいちゅう;法諱・常寂房、天台僧) G 1 8 3 5  
 常寂理寂(じょうじやくりじやく;法名) → 資名(すけな・日野/藤原、権大納言/歌) C 2 3 5 8

瀟洒軒東洋(しょうしゃけんとうよう)→ 範序(はんじょ・一色いっしき、藩士/儒者)H 3 6 9 8

- S2285 **聖守**(しょうじゅ;法諱、唱導師巖寛男、俗姓;藤原)1219-9173 大和奈良の真言僧;唐招提寺覚盛門、具足戒を修学、密教;醍醐寺憲深門、三論;東南院樹慶門、円照の兄、初め白毫寺住、1256-74東大寺真言院を再興/新禅院を創建、1266/67維摩詰経開板、蒙古襲来時勅命祈禱、「醍醐大事口決」「三論興縁」「請真言院再興表」「東大寺八幡験記」/1245「因明四種相違抄」著 [聖守(;法諱)の別法諱/号]初法諱;寛乗、号;大輔房/中道房
- S2286 **正種**(しょうしゅ) ? - ? 江前期加賀の俳人、1656梅盛「口真似草」入
- S2287 **笑種**(しょうしゅ・佐倉さくら、別号;案山子)?-? 大阪俳人、1700「続古今誹諧師手鑑」編、1693不角「一息」入;[悪銭わるがねに買い取る鴨は家鴨あひるにて](騙したつもりで騙される)勝守(しょうしゅ・外山) → 光和(みつかず・外山とやま/藤原、廷臣) D 4 1 2 0
- J2249 **清寿**(しょうじゅ;法諱、遍照寺僧都、源忠清[正清]男)959-101658 真言僧;山城遍照寺の寛朝門、伝法灌頂を受、998権律師/1011権少僧都、1014東大寺別当、「弘法大師伝」著
- S2288 **清寿**(しょうじゅ/せいじゅ;法諱)?- ? 鎌倉中期の僧、法印/権大僧都、歌人、勅撰2首;玉葉(2791)続千載(1770)、[かたしきの袖の秋風夜を寒み寝覚めて聞けば衣うつなり](続千載;雑1770)
- S2289 **笑寿**(しょうじゅ・月光亭/月好亭げっこうてい)?-? 浮世絵師2世勝川春扇の妻、戯作者:1819合巻「袷婦俊寛」20「七変化宿直の荒事」21「源氏山小金軍配」22「土農工商梅咲分」、1823「花陣立白藤日記」24「難波梅室早咲」著外合巻作品多数
- J2250 **尚寿**(しょうじゅ・木村きむら) ? - ? 江後期江戸の和算家;古川氏清門人竹井家入門、のち古川芳春門/さらに白石長忠門、1828「温知算叢」著「不等三円窮理」編、「環円詳解」著、「雑問詳解」「容題解」著、「算法容題解義」編、1830「算法点竄初学抄」校訂、[尚寿(;名)の字/通称/号]字;延年、通称;定次郎、号;陶々
- S2290 **照樹**(しょうじゅ・浅香あさか) ? - ? 実録小説家;堀麦水門、軍記「慶長中外伝抄」正受(しょうじゅ;法諱) → 聞号(もんごう;法諱、真宗本願寺派僧) I 4 4 2 1  
昌樹(しょうじゅ・山県/村瀬/野沢) → 昌樹(まさき・野沢/村瀬/山県、与力/詩歌) C 4 0 2 2  
昌寿(しょうじゅ・志村) → 昌義(まさよし・志村しむら、和算家) I 4 0 6 3  
昌寿(しょうじゅ・金子) → 昌良(まさよし・金子かねこ、和算家) I 4 0 7 4  
昌寿(しょうじゅ・山県) → 昌壽(まさひさ・山県やまがた、役人/国学) T 4 0 3 9  
尚樹(しょうじゅ・河辺) → 尚樹(なおき・河辺かわべ、商家/歌人) L 3 2 7 8  
尚樹(しょうじゅ・数原) → 尚樹(なおき・数原かずはら、医者/歌人) N 3 2 4 8  
沼樹(しょうじゅ・畑井) → 正英(まさひで・畑井/嘆井はたい/畑屋/度会、国学) G 4 0 7 0  
紹授(しょうじゅ;法名) → 宗頭(むねあき・葉室はむろ/藤原、大納言) 4 2 9 8  
聖寿(しょうじゅ;法諱) → 仁甫(じんぼ;道号・聖寿;法諱、臨濟僧) P 2 2 8 7  
松樹(しょうじゅ) → 尚忠(なおただ・谷川/谷河、儒者/詩文) B 3 2 5 8  
松樹(しょうじゅ・岡崎) → 松樹(まつき・岡崎おかざき、国学者) O 4 0 5 4  
松寿(しょうじゅ;通称) → 長政(ながまさ・黒田くろだ、武将/藩主) F 3 2 7 1  
松寿(しょうじゅ;号) → 良忠(りょうちゅう;道号・如隆、黄檗僧) I 4 9 8 9  
松寿(しょうじゅ・岡野) → 惟孝(これたか・岡野おかの、職人/歌/俳) Q 1 9 5 9  
松寿(しょうじゅ・林) → 復(ふく・林はやし、医者/国学) I 3 8 6 6  
勝寿(しょうじゅ・幡鎌) → 隆俊(たかとし・幡鎌はたかま、神職/国学) Z 2 6 0 0  
照樹(しょうじゅ・真蔦園) → 甚左衛門(じんざえもん・高見/大野、書肆/国学) O 2 2 6 0  
彰壽(しょうじゅ・馬淵) → 彰壽(てるひさ・馬淵まぶち、歌人) F 3 0 2 4  
定珠(じょうじゅ・髻輝) → 道宗(どうしゅう・悦山、黄檗僧) F 3 1 0 3  
常主(じょうじゅ・橘) → 常主(つねぬし・橘たちはな朝臣、廷臣/詩) C 2 9 9 8  
常守(じょうじゅ・中里) → 常守(つねもり・中里なかさと、国学者/地誌) E 2 9 0 2
- J2251 **浄寿**(じょうじゅ;法諱・仙門せんもん;道号、号;茂泥子、俊恕元忠男/俗姓;森)?-? 1718存 信州黄檗僧、信濃松代の恵明寺竜山元騰門;出家/諸師参禅後;1699竜山の法嗣、江戸白金瑞聖寺書記、諸師の伝記を著述、「隠元琦和尚東渡年次」「紫雲聯輝録」「大眉善禅師伝」「独吼獅禅師伝」、「独照円禅師伝」「独本源禅師伝」「独湛瑩禅師伝」「南源派禅師伝」「木菴瑠禅師伝」、「即非一禅師伝」「竜溪潜禅師伝」「紫雲八景論」「瑞聖寺志」著、1673「槃宗譜略」編

- J2252 **浄寿**(じょうじゆ・榎えのき、浄門男)?-? 江後期天保1830-44頃京の和算家、東寺の雑掌、和算;父門;父の業を継嗣、1837「照闇算法」校、  
[浄寿(;)の字/通称/号]字;士徳、通称;大輔法眼、号;松陰/松陰堂  
浄寿(じょうじゆ:法諱) → 天年(てんねん:道号・浄寿:法諱、黄檗僧) E 3 0 1 4  
常樹(じょうじゆ)すべて → 常樹(つねき)  
松守庵(3世しょうしゅあん) → 冬映(3世とうえい・近江屋弥一、俳人) B 3 1 3 1  
松寿庵永年(しょうじゅあんえいねん) → 焉馬(2世えんば・烏亭、狂歌/戯作) B 1 3 3 4
- U2282 **松寿院**(しょうじゅいん、名;虎とら/阿虎、伊東義益女) 1565-1637 母;喜多(土佐一条家)、日向児湯郡の生/父早世;戦国大名の祖父伊東義祐が日向の反島津の盟主として活躍、伊東家結束のため1576(天正4/12歳)飢肥の伊東祐兵(1559-1600父の異母弟)と結婚、1577(天正5)家臣の謀反と島津の侵攻で一族と豊後・伊予に移住、夫は信長・秀吉に出仕、夫は1582(天正10)河内に領地/1588(天正16)日向飢肥藩初代藩主3万6000石となる、夫の朝鮮出兵中の留守を守り2男3女を育成/1600(慶長5)関ヶ原の戦後に夫が病没、息子祐慶を藩主とし後見;藩内が対立/専横する稲津重政を重臣と凶り誅殺(稲津の変)、藩政に関与;藩主権力の強化、1603(慶長8)上方に上り徳川幕府に忠誠を示す、幕府内の情報を国許の祐慶に連絡、1636祐慶が没;孫の祐久と祐賢の領地問題が浮上、祐久による単独継嗣を幕府に承認させる、翌年病没  
[松寿院の法名] 松寿院殿正厳慶因大姉、通称;慶因尼(けいいんに)  
祥趣院(しょうしゅいん) → 日遺(にちかん;法諱、日蓮僧) B 3 3 1 4  
松寿院(しょうじゅいん) → 俊宗(とむね・綾小路あやのこうじ、廷臣) N 3 1 8 6  
松寿院(しょうじゅいん) → 忠利(ただとし・松平、藩主/連歌) Q 2 6 0 3  
正受院(しょうじゅいん) → 得隣(とくりん・正受院、真宗本願寺派僧) L 3 1 6 1  
正受院(しょうじゅいん) → 日承(にちじょう;法諱・一道、日蓮僧) C 3 3 4 4  
成就院(じょうじゅいん) → 日円(にちえん;法諱、日蓮僧) 3 3 7 0  
成就院(じょうじゅいん) → 日延(にちえん;法諱、日蓮僧) 3 3 7 1  
成就院(じょうじゅいん) → 日学(にちがく;法諱、日蓮僧) B 3 3 0 0  
成就院(常寿院じょうじゅいん) → 良助法親王(りょうじよほつしんのう、天台僧) I 4 9 1 9  
成就院大僧正(じょうじゅいんのだいそうじょう) → 寛助(かんじよ;法諱・善巧、真言僧) M 1 5 5 6
- S2291 **昌周**(しょうしゅう・阪/坂さか、成井、里村昌迪男) 1725?-8460? 幕府連歌師;1745里村昌周に改名、1766柳営連歌会に出仕、阪家を創始;八丁堀坂本町に拝領町屋敷あり・阪(坂)氏の祖、1770「連歌弁義」72「連歌秘要」73「楊柳園摘葉」82「不忘旧儀抄」、「老の幸」「河蝦説」、「蛙並ニ諸虫考」「白水郎之囀」「柳園老人独吟連歌」「昌周連歌合」「昌周千句」著、石野広通「霞関集」入、娘幸女(昌和[;村田春海]の妻)、1782(天明2)退隠、  
[白雪は道もなきまで降りつみぬいかに分けてか年の行くらん](霞関;冬682/歳暮)、  
[昌周(;)の幼名/名/別号]幼名;吉五郎、名;成井有躬、別号;楊柳園、  
法号;楊柳園安阿昌周居士、昌文の父
- S2292 **昌秀**(しょうしゅう・里村-北家)?-1837 連歌師、昌寅男、幕府宗匠
- S2293 **松洲**(しょうしゅう・原はら/大泉、名;簡、原源蔵男) 1776-1829 江戸の槍術家;父門、父を継承;丹波福知山藩江戸藩邸に出仕/のち浪人/儒者;史学に通ず、原に改姓、上州高崎で講説・越後柏崎の商家山田仲敬(なかつか)の招聘で柏崎で講説業;学舎[翠光軒]、晩年柏崎が伊勢桑名藩領となり藩士に採用、脩斎の父、  
「松洲詩文」「松洲詩抄」「文衡山詩鈔」「周易筆記」「十六堂学則」「十六堂筆記」著、  
「翠光軒十二詠」著、書家卷菱湖と親交、  
[松洲(;)の字/通称別号]字;南史、通称;清介、別号;優所/別所/十六堂/翠光軒
- J2253 **松洲**(しょうしゅう・中村なかむら、名;徳美のりよし) 1778-1842 長門豊浦郡赤間関の商家の生、京に遊学、儒;中島九華門/帰国後子弟教育/のち長府藩主毛利元義の知遇を得て長州藩文学に招聘、地誌の研究;文政(1818-30)頃「長門国志」著/「豊浦考」「古事記伝異考」著、  
[松洲(;)の通称] 与一
- J2254 **松洲**(しょうしゅう・秦はた、名;世寿つぐひさ、滄浪[鼎]男) 1796-1859 尾張名古屋藩士;儒;幼少より家学を受、1831家督嗣;小普請組/32藩儒/53藩校明倫堂教授、

「秦寿茶話」「亜米利駕書翰辨駁」「伊祇利須情迹叙略」/1856「中村燕齋翁略伝」著、  
「内藤丹州問答録」編、「読詩吞棗」補、  
[松洲(；号)の字/通称]字；無疆、通称；寿太郎

J2255 小洲(しょうしゅう・高田たかだ)1808-1878 71歳 備前岡山紺屋町の商人/儒者・篠崎小竹門、  
経史・経済に通ず、1854安政大地震・藩札濫造騒動に際し救恤きゅうじゆの予備法「社会贅言」著、  
[小洲(；号)の通称/別号]通称；禎二郎、別号；不倒翁

S2295 小舟(しょうしゅう・小永井こながい、名；岳、平野重美男)1829-88 60 父は下総佐倉藩老、  
幕臣小永井藤左衛門の養子；幕臣/儒者；野田笛浦・古賀謹堂・羽倉簡堂門、  
1860(万延1)公用方下役として咸臨丸で渡米、維新後；一橋家侍読・明倫堂教頭、  
浅草に濠西塾を開/詩文に長ず、「小舟廬詩文稿」「無絃琴」「天放集」「独鶴清唳」著、  
[小舟(；号)の字/通称/変名]字；君山、通称；八郎/五八郎、変名；司馬備作

J2256 松洲(しょうしゅう・堀野ほりの、名；義礼[よしひろ?]/別号；松針)?-? 江末期江戸の儒者；西島蘭溪門、  
歌；岡部春平門、1856「菊園集」、「堀野松洲詩草」「琉球雑話」著、  
1860鋤柄助之「現存百人一首」入、

[唐種のものなりながらさかゆくは木の芽の香をや神もめづらむ](現存百人一首；57)

笙洲(しょうしゅう・土井) → 利義(としり・土井/井伊、藩主/詩人) N 3 1 3 5

笙洲(しょうしゅう・三谷) → 笙洲(そうしゅう・三谷、医/解剖) H 2 5 8 1

笙洲(しょうしゅう；号) → 東滴(凍滴とうてき；道号、臨濟僧/詩) G 3 1 6 4

笙洲(しょうしゅう・大岡) → 栗斎(りつさい・大岡おおおか、儒者) B 4 9 9 5

笙洲(しょうしゅう・土井) → 利義(としり・土井、藩主/詩/俳人) N 3 1 3 5

正宗(しょうしゅう→しょうじゅう；道号) → 龍統(りゅうとう・正宗、臨濟僧) 4 9 1 1

正宗(しょうしゅう；法名) → 貞宗(さだむね・小笠原、武将/武芸) J 2 0 8 4

小舟(しょうしゅう・漕川ざちか) → 龜成(きせい・山本、俳人) B 1 6 3 5

松洲(しょうしゅう・梶原) → 景惇(かげあつ・梶原、商家/和漢学) B 1 5 8 1

松洲(しょうしゅう・木全きまた) → 義順(ぎじゆん；法諱、真宗僧) K 1 6 8 8

松洲(しょうしゅう・小野寺) → 丹元(たんげん・小野寺おのでら、医者) T 2 6 4 2

松秀(しょうしゅう・青木) → 万邦(まくに・青木あおき、藩儒医) 4 0 6 7

性脩(しょうしゅう；法名) → 公種(きんたね・小倉おぐら、廷臣/歌人) E 1 6 3 0

性秀(しょうしゅう；法名) → 重広(しげひろ・毛利/大江、武家/連歌) S 2 1 4 3

昌秀(しょうしゅう・山本/飯田) → 昌秀(まさひで・飯田/山本、国学者) G 4 0 7 6

昌秀(しょうしゅう・神沢) → 昌秀(まさひで・神沢かざわ、医者/国学) P 4 0 1 0

昌秀(しょうしゅう・西山) → 昌秀(まさひで・西山にしま、幕臣/和学) R 4 0 4 3

尚脩(しょうしゅう/ひさなお?・福原) → 映山(えいざん・福原ふくはら、医者/詩) C 1 3 8 1

尚秀(しょうしゅう・錦小路) → 尚秀(ひさひで・錦小路/丹波/岡崎、廷臣/日記) B 3 7 8 4

勝修(しょうしゅう・長坂/小笠原) → 午橋(ごきょう・小笠原、儒者/詩) G 1 9 4 5

S2296 昌住(しょうじゅう) ? - ? (73歳存) 平安期の僧；寛平・昌泰889-901頃73歳で生存、  
「新撰字鏡」著；892三卷の草稿執筆・昌泰898-901頃[玉篇][切韻]及び私記類補填；  
現存の十二巻本に改編

J2257 照什(しょうじゅう；法諱・南谷なんこく；字、佐々木忠綱男)1663-1736 74 石見吉水の真言僧；  
1673(11歳)京の大通寺義洞門；出家/地藏院の法流を考究、1692大通寺多聞院に住/能書、  
1699六孫王社を復興；東山天皇より紫衣を贈与、晩年は東林院に退隱、  
「幻華消息」「克己銘」「楷書千字文」「八景法帖」「大通寺開山宗師行業記」著、  
[照什(；法諱)の号] 幻華

S2297 松什(しょうじゅう・鈴木すずき)1798-1853 56歳 武蔵柴又の俳人；寥松門、  
1843「芭蕉翁発句類題集」/50「いろはもみぢ」編、「俳諧色のうつき」著、  
1848言山「蕉風不易体新五歌仙」歌仙入、  
[松什(；号)の通称/別号]通称；安五郎、別号；無有庵/米隣扇

涉十(しょうじゅう) → 柳尾(りゅうび・内田、俳人) F 4 9 4 5

正宗(しょうじゅう；道号) → 龍統(りゅうとう；法諱・正宗、臨濟僧) 4 9 1 1

章従(しょうじゅう・村田/辻) → 蘭室(らんしつ・辻つじ/中原/村田、医者/蘭学) C 4 8 4 7

昌充(しょうじゅう・岡) → 昌充(まさみつ・岡おか/太秦、楽人) H 4 0 6 5  
 勝従(しょうじゅう→ますゆき・上野)→ 厩谷(きゅうこく・上野うえの、藩士/儒者) M 1 6 5 8  
 勝従(しょうじゅう・薄田) → 勝従(かつより・薄田すきだ、藩士/国学) U 1 5 8 0  
 勝重(しょうじゅう・西尾) → 勝重(かつしげ・西尾にしお、農家/歌人) V 1 5 3 1  
 尚重(しょうじゅう・岩井田)→ 尚重(ひさしげ・岩井田/荒木田、神職) B 3 7 0 9

- S2298 **定修**(じょうしゅう;法諱/初諱;定円じょうえん、藤原定家男)?-1235 母;藤原秀能女、法師、天台僧;1205宝幢院檢校の成円門/出家、慈円の宿所に能く祇候、のち鎌倉下向、1234鎌倉將軍家御産の祈祷をす、歌人/勅撰3首;続後撰(1239)続古今(758)続拾遺(611)、[わが恋ふる涙ばかりぞ亡き人の思ひしあとにかはらざりける](続後撰;雑1239)、(公修没後二会講師故なくもれてよろづの様に思えて詠む)
- J2258 **常秀**(じょうしゅう;法諱、沙彌、俗姓;細川)?-? 室町期歌人、通称;細川阿波守入道、1443(嘉吉3)前摂政家(一条兼良邸)歌合参加、[昨日今日かすむとみえて春の色ぞあさなあさなの空にしらるる](前摂家合;六番左11)
- J2259 **浄秀**(じょうしゅう・坂さか、別号;盛方院、士仏の孫)?-? 室町前期医僧、1442-49後花園天皇を治療、盛方院の号を賜/宮内卿法印、「鴻宝秘要抄」「達源方」1508「続添鴻宝秘要抄」、浄孝の父
- J2260 **常秀**(じょうしゅう) ? - ? 尾張津島の俳人;1689「あら野」1句入、[旅なれぬ刀かたなうたてや村しぐれ](あら野;卷七旅)
- S2299 **浄周**(じょうしゅう・そろま) ? - ? 江中期京の宇治加賀掾座のそろま人形遣い  
 そろま人形の芸は松井七郎兵衛の創始、  
 → 七郎兵衛(しちろうべえ・そろま/松井) E 2 1 7 1
- 浄秀(じょうしゅう;法諱) → 柏州(はくしゅう;道号・浄秀、黄檗僧) D 3 6 2 3  
 浄秀(じょうしゅう;法諱) → 翠山(すいざん;道号・浄秀、黄檗僧) E 2 3 5 6  
 常秋(じょうしゅう・中里) → 常秋(つねあき・中里なかざと、国学者) G 2 9 0 6  
 常修(じょうしゅう・会田) → 素山(そざん・会田、藩士/俳人) J 2 5 7 8  
 城秀(じょうしゅう) → 八橋檢校(やつはしけんぎょう、箏曲/作曲) D 4 5 7 8
- J2261 **静什**(じょうじゅう;法諱) ? - ? 南北朝康永觀応1342-52頃の天台僧、日光天台中禅寺の学頭、「義科相伝抄」「名別義通抄」著
- 常従(じょうじゅう・松尾) → 駿淵(しゅんえん・松尾まつお、藩士/歴算家) M 2 1 4 9  
 誦習庵(しょうじゅうあん/ずしゅうあん) → 美穂(よしほ・八木、国学/歌学) 4 7 2 7  
 正住院(しょうじゅういん、正住院同広) → 日中(にちちゅう・省巳、日蓮僧) F 3 3 0 8  
 常修院(じょうしゅういん) → 日常(にちじょう;法諱・常忍、日蓮僧) C 3 3 3 2  
 常住院(じょうじゅういん) → 行昭(ぎょうしょう;法諱、天台/修験僧) O 1 6 0 4  
 常住院(じょうじゅういん) → 日忠(にちちゅう;法諱、日蓮僧) F 3 3 0 7  
 常住院(じょうじゅういん) → 日澄(にちじょう;法諱、日蓮僧) F 3 3 1 7  
 常住院(じょうじゅういん) → 兼忠(けんちゅう;法諱・明俊、真宗僧) L 1 8 1 4  
 松秀園(しょうしゅうえん) → 正賢(まさかた・増山まじやま、藩主/書画) B 4 0 9 0  
 松舟軒(しょうしゅうけん) → 旨忽(しじよ・片岡かたおか、俳人・連歌) E 2 1 0 2  
 正宗広智禅師(しょうしゅうこうちぜんじ) → 古先(こせん;道号・印元、臨濟僧) M 1 9 9 2  
 正宗国師(しょうしゅうこくし) → 慧鶴(えかく;法諱・白隠;道号、臨濟僧) C 1 3 0 9  
 昌適居士(しょうしゅうこじ) → 槃(はん・曾そう/宋そう、本草/医者) H 3 6 1 5  
 松秀斎(しょうしゅうさい) → 理貞(りてい・松秀斎、華道家) C 4 9 1 9  
 鍾秀斎(しょうしゅうさい) → 周峰(しゅうほう・森もり、絵師) Y 2 1 4 0  
 正宗大暁禅師(しょうしゅうだいぎょうぜんじ) → 峰翁(ほうおう;道号・祖一、臨濟僧) 3 9 2 2  
 正宗大興禅師(しょうしゅうだいきょうぜんじ) → 元良(げんりょう;法諱・最岳;道号、臨濟僧/詩文) E 1 8 6 2  
 正宗大隆禅師(しょうしゅうだいろんぜんじ) → 宗清(そうせい;法諱・以天;道号、臨濟僧) I 2 5 1 7  
 鐘秀亭(しょうしゅうてい) → 一純(いちじゅん・寺尾てらお、藩士/詩人) C 1 1 4 9  
 鐘秀亭(しょうしゅうてい) → 文螭(ぶんち・庄司しょうじ、絵師/篆刻/俳) G 3 8 1 3
- J2262 **承秋門院**(しょうしゅうもんいん、名;幸子/幼名;英宮、有栖川宮幸仁親王女) 1681-1720<sup>40</sup> 東山天皇中宮、1697入内/1707准后/08中宮、1710院号宣下;承秋門院/のち落飾/国母となる、「女院御所様よりの御文」著



- 庄十郎(しょうじゅうろう・立川)→ 政峯(まさみね・立川たちかわ、歌人) Q 4 0 8 3  
 沼樹園(しょうじゅえん) → 正身(まさのぶ・橋村/度会、神職/神典) F 4 0 6 9  
 松寿園(しょうじゅえん) → 随五(ずいご・松寿園、俳人) E 2 3 4 7  
 松樹園(しょうじゅえん) → 美蔭(よしかげ・園その、歌人) N 4 7 6 3  
 松寿館主人(しょうじゅかんしゅじん)→ 東随舎(とうずいしゃ、戯作/狂歌) F 3 1 8 6  
 昭叔(しょうしゅく・菅波/菅)→ 自牧斎(じぼくさい・菅かん、儒者/詩文) V 2 1 7 6  
 升叔(しょうしゅく・臼田) → 竹老(ちくろう・臼田うすだ、儒者/教育) D 2 8 9 7  
 常淑(じょうしゅく;医号) → 信謹(さねもり・田中/若林、儒者/医) L 2 0 4 4  
 T2200 松壽軒(しょうじゅけん) ? - ? 江後期講釈師:1835「本読素人講釈」著:歌川国直画  
 松寿軒(しょうじゅけん) → 西鶴(さいかく・井原、俳人/浮世草子) 2 0 0 1  
 松寿軒(しょうじゅけん) → 東朝(とうちよう、18ct洒落本作者) G 3 1 4 5  
 松寿軒(しょうじゅけん) → 長子(ちようし・岡本、18ct洒落本作者) I 2 8 5 3  
 松寿軒(しょうじゅけん) → 十輔(十介じゅうすけ・並木、歌舞伎作者) 2 1 4 6  
 松寿軒(松樹軒しょうじゅけん)→ 素笥(そじゆん・大森おおもり、庄屋/俳人) J 2 5 9 0  
 松寿軒(しょうじゅけん) → 閑民(かんみん・中井/穴戸/中本、養蚕業) R 1 5 6 6  
 松寿軒(しょうじゅけん) → 玄瑞(げんずい・近藤こんどう、医者) K 1 8 3 3  
 松寿軒(しょうじゅけん) → 光精(みつきよ・丹下たんげ、歌人) I 4 1 5 8  
 松寿斎文中(しょうじゅさいぶんちゆう)  
 →文字大夫(4世もじだゆう・常盤津、歌舞伎役者/音曲/作曲) B 4 4 2 0  
 紹述先生(しょうじゅつせんせい、諡号)→ 東涯(とうがい・伊藤、儒者/教育) 3 1 0 6  
 松寿亭(しょうじゅてい) → 庭枝(ていし、天王寺屋重三郎、狂歌) B 3 0 0 1  
 松寿亭(しょうじゅてい) → 元長(もとなが・吉田、書肆/歌人) D 4 4 5 4  
 松寿亭雨白(しょうじゅていうはく)→ 益江(ますえ・松井まつい、藩士/本草/歌) S 4 0 6 1  
 松寿堂(しょうじゅどう) → 法願(ほうがん:法諱・智仙、真言律僧) 3 9 3 6  
 正寿尼(しょうじゅに) → 齡子(としこ・柏原かしわばら/三井、歌人) U 3 1 7 3  
 正受老人(しょうじゅろうじん)→ 道鏡(どうきやう;道号・慧端、臨濟僧) C 3 1 8 7  
 J2263 政春(しょうしゆん;法諱) ? - ? 平安後期永治承安1141-75頃の天台僧;  
 法曼院相実門/師説を記録、叡山学僧?;阿弥陀法・灌頂記録を書写、「師説集」著、  
 [政春(;法諱)の通称]岡崎の阿闍梨/出雲路法印  
 V2297 勝舜(しょうしゆん;法諱、) ? - ? 平安鎌倉期;南都の僧/法師、  
 歌人;1237刊[檜葉集]3首入、  
 [六月晦日よめる、  
 ことしまたなかばすぎぬと思ふまに涙のつゆのまだき秋なる](檜葉;夏180)  
 V2263 尚俊(しょうしゆん;法諱) ? - ? 鎌倉南北期僧;権律師、歌人;1345刊[藤葉集]入、  
 [ながれてはいかがたのまんよしの川早くもかはる人の契を](藤葉;恋590)  
 J2264 昌俊(しょうしゆん;法諱) ? - ? 1499存 天台僧/京の法勝寺・のち鎌倉宝戒寺住、  
 天台円戒の弘通に尽力、1498「天台円頓妙戒都鄙代々住持次第」著、  
 「閻浮受生大幸記慈威和尚」著  
 T2201 紹俊(しょうしゆん) ? - ? 連歌、1516「十花千句」連衆:実隆・肖柏と  
 T2203 正春(しょうしゆん) ? - ? 京の俳人、1675新続独吟集;下巻に独吟百韻入、  
 1690「かつら河」編、井田正春と同一?  
 T2219 正春(しょうしゆん・井田いだ) ? - ? 江前期;上方の俳人、  
 1673西鶴「生玉万句」七夕脇句/第二帰厂発句等入、  
 [鴟口とびぐちのさきとがる三ヶ月みかづき](生玉万句):夕脇句  
 [北の方へ送る雁書(かんしよ)や返事(かへりごと)](帰厂発句)  
 T2202 小春(しょうしゆん・亀田、名;勝豊) 1667-1740 74 加賀金沢の菓種業宮竹屋2代目主人、俳人、  
 細道の旅で芭蕉が宿泊、1689「あら野」7句/91北枝「卯辰集」10句/97車大「ゆめのあと」入、  
 1698「続猿蓑」1句入、[何事も寐入ぬるまでなり紙袋(かみぶすま)](続猿蓑;巻下/眠れば同じ)、  
 [小春(;号)の通称/別号]通称;伊右衛門、別号;白鷗齋  
 T2204 松春(しょうしゆん・坂上/児玉?、坂上庄兵衛男?)?-1709 京の八幡町通の書肆/俳人、

1691俳論「祇園拾遺物語」編、「俳諧小傘」編、  
[松春(；号)の通称/別号]通称；甚四郎、別号；池流亭

- J2265 **韶舜**(しょうしゆん；法諱・薫契くんけい；字、号；如風、俗姓；木村/唯我) 1825-8662 出雲島根の天台僧、  
1837出雲円流寺の泰道門；剃髮/鰐淵寺で天台学を修学、1844巖王院住職、  
1846比叡山入；覚洞門/灌頂を受、明治の廃仏毀釈のなか護法に尽力/1872大教院大講義、  
1873浅草寺住職/86大僧正、「亮阿阿闍梨伝法録当流七流受法目録」著  
章俊(しょうしゆん・藤原) → 章俊(あきとし・藤原、歌人) D 1 0 6 2  
昌俊(しょうしゆん・佐河田/高階) → 昌俊(まさとし・佐河田さかわだ、歌/連歌) 4 0 1 5  
昌峻(しょうしゆん；法諱・東海) → 東海(とうかい；道号・昌峻、臨濟僧) B 3 1 9 4  
昌春(しょうしゆん；字) → 主真(しゆしん；法諱・昌春、真言僧) Y 2 1 9 1  
昌春(しょうしゆん・西山) → 昌春(まさはる・西山、幕臣) G 4 0 3 9  
昌春(しょうしゆん・岡田) → 昌春(まさはる・岡田おかだ、本草学者) G 4 0 4 7  
昭春(しょうしゆん；法名) → 長俊(ながとし・山中、武将/連歌) E 3 2 8 1  
韶春(しょうしゆん；法諱) → 日東(にっとう；道号・韶春、曹洞僧) F 3 3 3 5  
尚春(しょうしゆん・吉田) → 本筋(ほんせつ・吉田よしだ、藩医) F 3 9 5 2  
尚俊(しょうしゆん・益頭) → 尚俊(ひさとし・益頭ましづ、渡米渡欧日記) B 3 7 5 4  
性俊(しょうしゆん・立花) → 鑑虎(あきとら・立花、藩主/連歌) D 1 0 6 5  
性舜(しょうしゆん；法諱) → 随庵(ずいあん、空性法親王、詩歌) 2 3 2 4  
小春(しょうしゆん・沢) → 宣嘉(のぶよし・沢さわ/姉小路、攘夷派) E 3 5 0 5  
勝隼(しょうしゆん・野沢) → 勝隼(かつとし・野沢、藩士/兵法家) N 1 5 6 0  
勝春(しょうしゆん/かつはる・高野) → 百里(ひゃくり・高野、魚問屋/俳人) E 3 7 8 3  
T2205 **性蓮**(しょうじゆん；入道号・法師、安威[愛]あい左衛門入道) ?-1371 南北期武家/歌・連歌作者、  
1334建武新政の奥州式評定の引付衆、寺社奉行/出家、のち室町幕府の奉行人  
1356政所執事代、幕府右筆、連歌；1320「鎌倉花下一日一万句連歌」参加、  
1341救済邸百韻参加、1355北野千句参加、歌；新千載1995、菟玖波集28句入(発句3句)、  
[和歌の浦にたゆたふ船の綱手縄引く人あらば道も迷はじ](新千載；雑1995)  
[花ならでいつ見し雲ぞ山桜](菟玖波；2055/元応二1320春鎌倉花下一日一万句の発句)  
☆性威(安威あい左衛門入道)とは別人 → 性威(しょうい、神資脩すけなが、幕臣/歌人) Q 2 2 8 3  
T2206 **聖蓮**(しょうじゆん；法諱、別法諱；聖蓮/聖運) ?-? 僧侶(法師)、歌人；1384成立「新続古今」(1949)、  
[老が身のならひになりて思ひ出のなきも恋しき昔なりけり](新続古；雑1949)  
T2207 **祥洵**(しょうじゆん；法諱・月泉げっせん；道号) 1390-1482長寿93 臨濟僧；東福寺竜眠庵江月門/三聖寺住、  
東福寺136世/1455天竜寺133世/64南禅寺190世、晩年は竜眠庵塔主；掬月軒に隠棲、  
「月泉文集」「月泉和尚語録」「月泉和尚偈頌」著  
J2266 **昭淳**(しょうじゆん；法諱) 1486 - ? 1535存 天台僧；権僧都/真正極楽寺(真如堂)住持、  
1524絵師の掃部助久国らに嘱して「真如堂縁起」制作、1535(天文元)「八千枚雑記」著  
J2267 **正純**(しょうじゆん・曲直瀬まなせ、岡野井徳安男) 1559-160547 京医者；曲直瀬一溪門/師の孫娘と結婚、  
曲直瀬を名乗る；分家亨徳院家を継承、京の官医(没後法印・亨徳院号を贈られる)、  
「三喜仮名医書」/1599「五法之拾遺」著、連歌；1601昌叱と「何人百韻」、  
息子；正因、息女；養安院家曲直瀬正円の妻、  
[正純(；名)の初名/法号]初名；盛孝、法号；一翁正純法眼、諡号；亨徳院  
T2208 **昌純**(しょうじゆん・里村さとむら[南家]、昌程男) 1649-172274 昌陸(三宜齋)の弟、  
連歌師；1667頃より詠作、1675幕府連歌師・法橋、古典研究、延宝1661-81頃活動最盛期、  
「連歌新式拾遺抄」「新式抄」、「里村家連集」「連歌本式目」著、  
1673「寛文十三年元旦発句」76「万葉拔書」1701「葦守紀行」/1704「老の周諄」著、  
1709「昌純独吟百韻」著、「亀戸天神八百年御忌二千句」参加、  
百韻多数に参加；1673昌陸らと数度百韻/79父昌程等と百韻/84懐旧百韻/93山何百韻など  
[昌純(；号)の別号]別号；昌勃(；初号)/蝦齋(蝦齋)かさい/安々庵、  
U2252 **韶順**(しょうじゆん；法諱) ? - ? 江後期；僧、大僧都、歌人、  
1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、  
[禊する川辺の葦の打ちそよぎ秋にかたよる風ぞ吹きける](大江戸倭歌；夏681/晩夏)

- J2268 **正純**(しょうじゆん;法諱・皆発院;号)1821-6848 京堀川の真宗大谷派瑞蓮寺住職/高倉学寮で修学、1853寮司;阿毘達磨論・俱舍論を講ず/1859擬講/67嗣講、1754「俱舍論甲寅記」著、「観経疏玄義分指要」「観経疏定善義指要」「観経疏序分義指要」「二卷鈔論筌」著  
 小悖(しょうじゆん・今井) → 政典(まさのり・今井いまい、歌人) N 4 0 7 9  
 小楯(しょうじゆん・志自岐) → 小楯(おたて・志自岐じき/鎌奥、藩士/歌) D 1 4 9 5  
 升順(しょうじゆん・沢部) → 雲夢(うんむ・沢部さわべ、藩医/歌人) E 1 2 7 2  
 正純(しょうじゆん;法諱) → 正純(せいじゆん;法諱、天台僧/連歌) D 2 4 1 1  
 尚純(しょうじゆん・新田) → 尚純(ひさずみ・新田/岩松、武将/連歌) B 3 7 1 8  
 尚順(しょうじゆん・寺島) → 良安(りょうあん/よやす・寺島てらしま、医者) G 4 9 0 5  
 尚準(しょうじゆん・数江) → 尚準(ひさのり・数江かずえ/脇坂、国学/歌) J 3 7 0 3  
 昌純(しょうじゆん/まさずみ・青木) → 桃溪(とうけい・青木、藩士/俳人) D 3 1 0 9  
 昌順(しょうじゆん・木山) → 紹完(しょうかん・木山きやま/源、社僧/連歌作者) H 2 2 8 2  
 章純(しょうじゆん・勢多) → 章純(のりずみ・勢多せた/中原、明法家) E 3 5 7 7  
 松順(しょうじゆん・猪股) → 独幹(どくかん・猪股いのまた、藩医) K 3 1 5 4  
 将順(しょうじゆん・小野寺) → 丹元(たんげん・小野寺おのでら、医者) T 2 6 4 2  
 勝準(しょうじゆん・福岡) → 勝準(かつのり・福岡ふくおか/児玉、藩士/国学) V 1 5 5 3
- J2269 **定春**(じょうしゆん;法諱) ? - ? 鎌倉期三論僧;13歳で東大寺東南院樹慶門;出家、俱舍論も研究/精通、1258興福寺維摩会に出仕、「如無違法」「違決自他共」「法自相指示」著
- V2279 **定舜**(じょうしゆん;法諱、) ? - ? 鎌倉前中期;南都の僧/法師、歌人;1237素俊撰[藤葉集]入、  
 [山吹はいはぬいろなる花なれどとひてぞきつるみでの玉がは](藤葉;雑789)
- T2209 **成俊**(じょうしゆん) ? - ? 南北期の天台僧;三井寺権少僧都、国学者、寂印が1311書写した仙覚の万葉集校訂本を伝受;1353万葉集仙覚点に万葉仮名遣を加点、この系統を寂印・成俊本と称される
- J2270 **貞舜**(じょうしゆん;法諱)1334 - 142289 南北室町期天台僧;出家し比叡山入;貞濟門、西塔宝園院住、のち応永1394-1422頃近江柏原の成菩薩院を再興;円頓戒を首唱、成菩薩院を談義所として学徒の教導に尽力、廃絶しかけた天台論義を復興、1402「天台名目類聚鈔」04「三百帖見聞」、「眷属妙義」「三周証人」「三身義自受用有」、「時処行法略記」「草木成仏」「俗諦常住」「二聖発心」「童女分極」外著多数
- J2271 **盛俊**(じょうしゆん;法諱) ? - ? 戦国期永正-天文1504-55頃伊勢山田の天台僧、真盛派善光寺の住僧、「円戒国師画詞伝」画、1507「日吉社壇婆とうば勸進牒」著
- T2211 **仍春**(じょうしゆん・里村さとむら;北家、閑雲軒、玄的男)1622-9877 連歌師、幕府宗匠、仍民の父
- V249 **常春**(じょうしゆん;号、) ? - ? 江前期;農業/歌人、1688忠能[難波捨草]10余首入、浅井忠能ただのり(幕臣/1629-1707)と交流、  
 [さけばこそこぬ人またる今よりのあるじや軒の花にゆづらん](難波捨草;春47/閑居花)
- T2210 **常春**(じょうしゆん・服部はつとり、眠柳亭/眠獅堂)1644-171572 京の俳人、1691江水「元禄百人一句」入、  
 [いはねども色に吉書きつよの花桜](百人一句;33/書初めには長寿を祝う美がある)、  
 (本歌;続後撰・大江匡房;いはねども色にぞしるき桜花君が千歳の春の初めは)
- 浄春(じょうしゆん;法諱) → 翠峰(すいほう;道号・浄春、黄檗僧) E 2 3 9 6  
 定俊(じょうしゆん;字) → 快深(かいしん;法諱・定俊、真言僧) I 1 5 8 0  
 定俊(じょうしゆん・中路) → 定俊(さだとし・中路なかじ、地誌家) F 2 0 3 7  
 常俊(じょうしゆん;法名) → 公俊(きんとし・徳大寺、太政大臣/歌人) E 1 6 4 0  
 常春(じょうしゆん;法名) → 満之(みつゆき・細川/源、武将/歌) F 4 1 0 4  
 常春(じょうしゆん・村岡/小堀) → 常春(つねはる・小堀/村岡、藩士/遊泳/茶) D 2 9 2 6  
 常春(じょうしゆん・大沢) → 常春(つねはる・大沢おおさわ、町役人/日記) D 2 9 2 7  
 常春(じょうしゆん・荒川) → 常春(つねはる・荒川あらかわ、詩人) D 2 9 3 0  
 常春(じょうしゆん・中沢) → 常春(つねはる・中沢なかざわ、歌人) G 2 9 0 8  
 常春(じょうしゆん・小笠原) → 嘯山(しょうざん・小笠原おがさわら、幕臣/歌) J 2 2 2 8  
 乗春(じょうしゆん・丸山) → 乗春(のりはる・丸山、活堂男/藩士/神道) K 3 5 0 7
- J2273 **常純**(じょうじゆん) ? - ? 江前期俳人;

1670種寛たねひろ「誹諧詞友集」巻末「作者句数」(重政と共著)

- V2256 常純(じょうじゆん・号) ?-? 江前期;京の歌人/1682河瀬菅雄[麓の塵]3首入、  
河瀬家の人か?  
[身まかりける人のいたみにつかはす、  
あだしのの草葉の秋もかぎりあればむすびとどめぬ露の玉の緒](麓の塵;哀傷551)
- J2274 乗淳(じょうじゆん・滝本坊たきもとぼう)?-? 江中期石清水八幡滝本坊住職、1768「原泉帖」著  
浄純(じょうじゆん;字) → 栄祥(えいしょう;法諱・浄純、真言僧) D 1 3 0 1  
常淳(じょうじゆん) → 眞敬親王(しんけいしんのう、僧/画/日記) O 2 2 0 8  
常淳(じょうじゆん・阪/坂静山) → 光淳(みつあつ・阪/坂はん・さか、/歌人) D 4 1 0 5  
常純(じょうじゆん・服部) → 常純(つねずみ・服部はっとり、幕臣/奉行) E 2 9 9 5  
小春園(しょうしゆんえん) → 蓼花(りょうか・太田/武市、藩士/俳人) G 4 9 6 7  
常春斎(じょうしゆんさい) → 棧園(ていえん・松田、藩士/儒者) 3 0 3 5  
常筍亭(じょうじゆんてい) → 君竹(くんちく、嘶家) C 1 7 1 4
- V2217 嘯春尼(しょうしゆんに;法諱・東ひがし、宇井愷翁女) 1743-1831<sup>84</sup> 紀伊牟婁郡新宮の儒者、  
父の漢学塾[鬱翠園]に修学、  
[嘯春尼の名]阿鱧おせん[鱻]、  
定俊房(じょうしゆんぼう) → 弘栄(こうえい;法諱・定俊房、真言僧) H 1 9 5 5
- T2212 松処(しょうじょ・大塚おつか、名;倫/道恒、和算家大塚師政男) 1707-1801<sup>長寿95</sup> 肥前の儒者;經史・詩、  
和算(家学);父門/劍術六韜流;江口休輝門/柳生流;藤井家門;印可免状受、  
漢学;実松直恒・大潮和尚門、佐賀藩主鍋島宗茂に招聘;佐賀藩儒/公子治茂の師範役、  
治茂が藩主;御側役となる、「松処遺稿」、  
[松処(;号)の字/通称]字;子和/恕卿、通称;良左衛門  
小諸(しょうじょ・竹林) → 小諸(こもろ・竹林たけばやし、国学/歌人) Q 1 9 9 8  
尚書(しょうじょ・杉原/御巫) → 清直(きよなお・御巫みかんなぎ、神職/歌) D 1 6 4 3  
松所(しょうじょ・西田) → 惟明(これあき・西田、藩士/医者) O 1 9 1 0  
松所(しょうじょ・磯部) → 長恒(ながつね・磯部いそべ、町年寄/歌人) L 3 2 1 7  
松処(しょうじょ・後藤) → 祐壮(すけまさ・後藤ごとう、藩校国学教授) I 2 3 5 2  
松嶼(しょうじょ・松平) → 頼續(よりつぐ・松平まつだいら、儒/歌/神職) P 4 7 2 3
- T2213 璋如(しょうじょ・武田たけだ、梅竜[欽繇]男)?-? 江中期儒者;父門、  
1782武田梅竜「梅竜先生遺稿」編、1783「栲亭初稿」(堀貞紹と共編/村瀬栲亭の詩文集)、  
父 → 梅竜(ばいりゅう・武田/篠田、儒者) C 3 6 2 0
- T2214 少女(しょうじょ;号、俗姓;小見山こみやま) 1759-1820<sup>62</sup> 尾張名古屋の真宗大谷派常瑞寺7世住職、  
俳人;1775暁台門;尾張五老の1、国学;田中道磨門/1792本居宣長門、  
多趣味;詩・謡・義太夫・琵琶・押花・香道・楊弓などを嗜む、「印譜略」「自筆一代記」著、  
1802「三日月集」補、天老てんろう(医者/俳人)の兄、  
[少女(;号)の法諱/別号]法諱;了栄、別号;松叟/花癖、法号;正愛院积了栄  
升女(しょうじょ・前田) → 升女(ますじょ・前田まえだ、歌人) M 4 0 4 4  
升女(しょうじょ→ますじょ・神方) → 古香(ひさか・江口/神方/小笹/鈴木、歌人) 3 7 8 9  
尚如(しょうじょ・玉井) → 尚如(ひさゆき・玉井たまゐ、歌人) M 3 7 4 9  
相如(しょうじょ・高岳/高) → 相如(すけゆき/しょうじょ・高岳たかおか、詩歌) D 2 3 2 0  
松如(しょうじょ・土屋) → 蕭海(しょうかい・土屋、儒者/尊攘家) H 2 2 6 1  
勝女(しょうじょ) → 勝女(かつじょ/かつじよ、駿河府中の俳人) N 1 5 4 3  
常書(しょうじょ・畠山) → 常書(つねふみ・畠山、歌人) D 2 9 6 0  
常緒(しょうじょ・檜垣) → 貞俊(さだとし・檜垣/度会/松木、神職) I 2 0 8 6
- T2215 定助(じょうじょ;法諱、大炊御門おおいみかど[藤原]冬輔男) 1263-1346<sup>84</sup> 大炊御門信嗣の猶子、真言僧、  
性仁親王附法の門弟/仁和寺尊勝院住、1307神護寺別当/11東寺長者/12大僧正、  
歌;新続古今集1946、  
[つれなくも今は何をか松島やをしまぬ老の波を重ねて](新続古;雑1946/老後述懐)
- J2275 成助(じょうじょ/せいじょ;法諱、内大臣中院通重男) 1297-? 1340<sup>存</sup> 真言僧;禅助門;1320伝法灌頂を受、

仁和寺別当/真光院・善尊院・大教院住、1327(嘉暦2)東寺四長者;権僧正/30(元徳2)僧正、  
1337(延元2)東寺長者法務/40(興国元)大僧正、「後七日雜勘」著

浄如(じやうじよ、法号) → 俊成卿女(しゅんせいきやうのむすめ) 3 1 4 8

T2216 少将(しょうしょう、三条左大臣頼忠家女房)?-? 平安前期歌人、977「頼忠前栽歌合」988「実資歌合」入、  
[秋の夜のたまをぞぬける女郎花露を月とやいまはおきけむ](頼忠前栽歌合;77)

T2221 清昭(清照しょうしょう;法諱、高階たかしの成忠男)?-1003 平安前中期天台叡山僧:賀縁阿闍梨門、  
東塔功德院住、能説;1002最勝講の朝座講師を務む;説教の賞により法橋位、「極楽遊意」著、  
「観無量寿経遊意」「無量寿経十最疏伝記」「阿弥陀如来四十八願釈」著、明順と兄弟、  
歌:玄々集入、詞花集入、  
[みな人の昔語りになりゆくをいつまでよそに聞かむとすらむ](玄々;76/詞花;雑359)、  
[清昭(;法諱)の別法諱]静照じやうしょう/静昭じやうしょう/浄昭じやうしょう

T2217 少将(しょうしょう・枇杷皇太后宮ひたいこうたいごうぐう)?-? 平安期女房;三条天皇皇后藤原妍子の女房、  
歌人、1027皇太后の死への追悼歌(栄花物語)、玉葉2392(少将名)、  
[さやかなる月ともいさや見えわかずただかきくらす心地のみして]、  
(玉葉;雑2392/枇杷皇太后宮没後の御忌みの程に月あかき夜詠む)

T2218 少将(しょうしょう) ? - ? 平安期女房歌人:  
1049「永承四年[後冷泉院御時]内裏歌合」入(;伊勢大輔・江侍従らと参加)、  
[君がためのどかに澄める池の水にむれたる鶴も心してあよ](内裏歌合;九番左17)  
白河院少将内侍と同一? → 少将内侍(しょうしょうのない・白河院、伊勢大輔の姪) T 2 2 4 6

J2276 少将(しょうしょう、宮少将みやのしょうしょう、藤原隆長女)?-? 祐子内親王(後朱雀天皇皇女)家女房、歌人、  
物語作者:1055(天喜3)六条斎院物語合;「よそふる恋の一卷」著、  
[をらせなむ春のみやまの桜花雲みにみればしづ心なし](物語合;右4)、  
後一条院少将命婦と同一?

T2220 少将(しょうしょう・皇后宮こうごうぐうの)?-? 平安後期堀河天皇皇后令子内親王家の女房/歌人、  
金葉集481(男より恨んで袖が濡れるとの贈歌への返歌)、  
[恨むとも見るめもあらし物ゆゑになにかは海人あまの袖ぬらすらん](金葉;恋481)、  
(見る目と海松布を掛る/恨んでも逢わないと拒絶;見る目のないあなたの袖は濡れない)

J2277 聖昭(しょうしょう;法諱、号;大慈坊)?-? 1131存 平安期天台叡山僧:仏頂坊行巖・智泉坊院昭門、  
台密谷流の事相を究む/比叡山麓穴太に住;穴太流を創始、契中の師、「穴太四帳決」著、  
「穴太四帳決」「西円抄」「穴太決」「十八道観法」「十八道口決」「二十帖口決」「受明呪蔵記」著、  
[聖昭の通称] 少将阿闍梨/穴太阿闍梨/太師

T2222 昭清(しょうせい;法諱、法印増清男) 1174-1233 60 母;中納言源師仲女、社僧/法橋/法眼/法印、  
大和尚、石清水八幡宮修理別当、歌人;小侍従と交流、1231若宮歌合参加、新勅撰1257、  
[恨むべきよはひならねどかなしきは別れてあはぬうき世なりけり](新勅;雑1257)、  
(詞書;小侍従身まかりにける時詠み侍りける)

W2213 小将(しょうしょう・こしょう・三井寺)?-? 鎌倉期;三井寺(園城寺)の童、歌;1237刊檜葉集入、  
[三井寺の小将に信恩法師がとらせける萩を禅定院の春里にうつりて、  
こころざしかれがれになりて後 かへしつかはすとて、  
如月の初ありし古えにむすびつけ侍りける、  
かたみとてたをりし萩もかれにけりうらやましきは春の里人](檜葉;雑童684)

T2223 少将(しょうしょう・藻壁門院、中宮少将ちゆうぐうのしょうしょう、藤原信実女)?-? 1266存 鎌倉期女房歌人、  
藻壁門院樽子じゆんし[後堀河天皇中宮;?-1233]の女房、1231日吉撰歌合/32石清水若宮歌合  
1232石清水若宮歌合/32洞院摂政家百首/名所月歌合/43河合社歌合参加、万代集入、  
勅撰63首;新勅(6首67/755/794以下/中宮少将名)続後撰(5首276/308下/藻壁門院少将)、  
続古(12首)以下、雲葉集入、後深草院弁内侍・後深草院少将内侍の姉、  
[ながむるにぬるるたもとをうらみても身のとがならぬ秋の夕暮](続後撰;秋276)、  
[洞院摂政家百首歌(雑;眺望1779)に、  
かへりみるほどぞくもみの大江山いくののみちやすゑなかりぬる](雲葉958)

参照 → 弁内侍(べんのない・後深草院) 2 7 0 6

→ 少将内侍(しょうしょうのない・後深草院) N 2 1 9 1

- W2228 **少将**(しょうしょう・玄耀門院げんようもんいん[1246-1329])?-? 鎌倉後期;後深草天皇妃(惺子いんし)に出仕、歌人;1292藤原親範勸進[正応五年厳島社頭和歌]参加、  
[そよといふたよりもかなし萩のはの風のつてなる露の玉づさ](厳島社頭歌;21)  
☆玄耀門院惺子は洞院実雄女/伏見天皇・性仁しょうにん入道親王・永陽門院の生母、  
1288(正応元)准三宮;院号受
- T2224 **少将**(しょうしょう・永陽門院、春宮少将、法印源全の女)-? 1313存 鎌倉後期期女房歌人;  
後深草天皇皇女永陽門院[1272-1346]女房、春宮[伏見天皇]女房、  
歌;勅撰7首;続拾遺(773)新後撰(1443)玉葉(587/871/1282/1478)続千載(1597)  
[しられじなくゆる煙けぶりのたえずのみ心に消けたぬ思ひありとも](続拾;恋773)
- T2225 **聖勝**(しょうしょう;法諱、二条[藤原]盛季男)-? 鎌倉前期の真言僧;勸修寺法印、  
歌;勅撰3首;1303刊「新後撰集」(1077/1509)玉葉集(2523)、  
[あひみしは一夜の夢の草枕むすぶも仮の契なりけり](新後撰;恋1077)
- Q2297 **尚清**(しょうしょう;法諱、家名;田中、石清水八幡別当宮清男)1254-132067 鎌倉後期社僧、  
1264法眼/70法印/82石清水八幡宮別当;父を継嗣/1295社務/検校、「書札礼言上書」著、  
[尚清(;法諱)の幼名/号]幼名;清一丸、号;善法寺
- T2226 **少将**(しょうしょう・萬秋門院ばん[まん]しゅうもんいん[1268-1338]の女房)-? 鎌倉末期の女房歌人、  
一条実経女項子きやくし(万秋門院)家の女房、1320成立「続千載集」1253、  
[渡りえぬ涙の河の瀬をはやみ身さへ流るといかでしらせん](続千載;恋1253)
- T2227 **少将**(しょうしょう・邦省くみ親王[1302-75]家女房、頓阿女)-? 南北期歌人、邦省親王家少将;30首、  
勅撰5首;新千載(1241)新拾遺(1560)新続古今(261/704/1823)、  
[うき身世にあらむかぎりは忍ぶとも消えなん後は人やもらさむ](新千;恋1241)、  
[邦省親王家少将の別称 弾正尹だんじょうのかみ邦省親王家少将/式部卿邦省親王家少将
- T2228 **少将**(しょうしょう・陽徳門院やうとくもんいん)-? 後深草天皇皇女嬬子内親王[1352没]家の女房、  
南北期歌人、新後拾遺831、  
[山深み雪にとちたる柴の戸のただそのまにふる日かずかな](新後拾;雑秋831)
- T2229 **聖承**(しょうしょう;法諱) ? - ? 南北期僧侶;法眼、  
歌人;1364刊「新拾遺」(1245)/1384刊「新後拾」(1397)、1345刊[藤葉集]入、  
[同じ世にいけるばかりを契にてまた逢ふまでは思ひたえにき](新拾遺;恋1245)  
☆小倉宮聖承せいしょう(1406?-1443)とは別人
- T2230 **正勝**(しょうしょう;法諱、)-?(1520年代没) 真宗僧;加賀金沢の照台寺僧、  
1689「栄玄聞書えいげんききがき」(栄玄記;蓮如・実如・証如の聞書集):栄玄・蓮恵と聞書を集成、  
2説あり 良栄(りょうえい、玄真の曾孫、1526没)  
性勝(しょうしょう、玄真の玄孫孝政男、1522没)  
☆1683友琴編「金沢五吟」連句の発句入の金沢の俳人正勝せいしょうとの関係?
- T2231 **承章**(しょうしょう;法諱・鳳林ほうりん;道号、准大臣勸修寺晴豊男)1592-166877 母;土御門有修女、  
臨濟僧;相国寺の西笑承兌門;嗣法、景德寺・等持院住寺/鹿苑寺独住2世;金閣を修復、  
1625相国寺95世/53南禅寺住持の公帖を受、後水尾天皇・金森宗和・林羅山と交流、  
1611「日用集」、「隔菴記」「承応第二試筆」「河崎感応寺聖観音縁起」「鳳林和尚朝参之記」著、  
「二百韻両吟」「寛永十三年(1636)前関白・鳳林等漢和俳句」、  
[鳳林承章の号]竹窠ちくか、伯母は新上東門院藤晴子(後陽成天皇生母)
- T2232 **松嘯**(しょうしょう) ? - ? 江前期談林俳人、  
1680松意「談林軒端の独活うど」下巻に四吟歌仙・両吟二歌仙入、  
[冥途にて鯁責にあはんこそ猶をかきき](軒端の独活;発句)
- J2278 **昌勝**(しょうしょう) ? - ? 尾張犬山の俳人;1689「あら野」入、  
[鶯の声聞きまみれ年をとこ](あら野;巻二/春告鳥を確かめるのも年男の役目?だ)
- V2208 **正勝**(しょうしょう;法諱、俗姓;瓜園)1819-7153 河内志紀郡の真宗西念寺主、国学・歌;伴林光平門
- U2260 **昌将**(しょうしょう・小堀こほり/本姓;源、名;まさかつ?・まさすけ?・まさのぶ?・まさもち?・まさゆき?・まさよし?)?-? 江後期;歌人、  
幕臣?、1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、  
[君はけふいづくの野辺におはすらん道しるべせし事も有りしを](大江戸倭;雑2006、  
天保十二[1841]年春將軍家斉没に)、

[昌将(；名)の通称] 権右衛門

少将(しょうしょう・伊賀)	→ 伊賀少将(いがのしょうしょう、歌人)	1 1 7 2
少将(しょうしょう・関白家女房、忠通歌合参)	→ 新少将(しんしょうしょう・待賢門院/俊頼女)	E 2 2 6 3
少将(しょうしょう・馨子内親王家乳母)	→ 少将君(しょうしょうのきみ)	N 2 1 8 6
少将(しょうしょう・中宮ちゅうぐう)	→ 少将(しょうしょう・藻壁門院女房)	N 2 1 6 4
少将(しょうしょう・春宮とうぐう)	→ 少将(しょうしょう・永陽門院女房)	N 2 1 6 5
少将(しょうしょう・大鳥居)	→ 信貫(しんかん・大鳥居/菅原、社僧/連歌)	N 2 2 7 4
少将(しょうしょう・酒井)	→ 忠学(ただのり・酒井さかい、藩主/歌)	U 2 6 9 3
正勝(しょうしょう)訓読は	→ 正勝(まさかつ)	
承昭(しょうしょう・津軽)	→ 承昭(つぐあきら・津軽つがる、藩主/歌)	F 2 9 0 2
省証(しょうしょう)別法諱	→ 無塵(むじん;道号・省灯;法諱、臨濟僧)	4 2 7 2
性照(しょうしょう、法号)	→ 康頼(やすより・平、宝物集著者)	D 4 5 6 1
性照(しょうしょう、法号)	→ 性照(せいしょう、鎌後期歌人)	C 2 4 1 5
紹尚(しょうしょう)	→ 玄祥(げんしょう・里村、連歌師)	C 1 8 1 8
紹正(しょうしょう;法諱)	→ 紹正(しょうせい;法諱、僧/歌人)	C 2 2 5 1
紹勝(しょうしょう・法名)	→ 国隆(くにたか・福島くしま、幕臣/軍学)	C 1 7 8 1
章尚(しょうしょう・檜垣/度会)	→ 章尚(あきひさ・檜垣/度会、神職)	D 1 0 8 1
尚々(しょうしょう・中島)	→ 積水(せきすい・中島/中嶋なかじま、藩儒)	K 2 4 2 8
尚章(しょうしょう・田中)	→ 雁宕(がんとう・田中/田、儒者/詩人)	R 1 5 5 8
尚勝(しょうしょう・山本)	→ 泰順(たいじゆん・山本、儒者)	K 2 6 2 6
尚昌(しょうしょう・永岡)	→ 久宜(ひさよし・永岡ながおか、神職/歌人)	C 3 7 1 8
昌尚(しょうしょう・大橋)	→ 昌尚(まさなお・大橋おおはし/平、藩士/国学)	O 4 0 4 0
昌章(しょうしょう・馬場)	→ 昌章(まさあき・馬場ばば、兵法家)	4 0 9 4
昌章(しょうしょう・志村/大窪)	→ 昌章(まさあき・大窪/志村、本草学)	B 4 0 0 6
昌章(しょうしょう・藤野)	→ 専斎(せんさい・藤野ふじの、香道家)	M 2 4 3 1
昌勝(しょうしょう・須藤)	→ 昌勝(まさかつ・須藤/首藤すどう、兵法家)	C 4 0 0 5
昌勝(しょうしょう・志貴)	→ 昌勝(まさかつ・志貴しき、神職)	Q 4 0 0 5
祥昌(しょうしょう・榊原)	→ 宣安(のぶやす・榊原さかきばら/藤原、神職)	I 3 5 6 4
勝尚(しょうしょう・板倉)	→ 勝尚(かつなお・板倉いたくら、藩主/詩文)	N 1 5 6 2
勝昌(しょうしょう・津田)	→ 勝昌(かつまさ・津田つだ、藩士/国学)	V 1 5 0 8
勝商(しょうしょう・鳥居)	→ 勝商(かつあき・鳥居とりい、戦国期武人)	T 1 5 4 4
勝称(しょうしょう・中島)	→ 勝称(かつな・中島なかじま、陪臣/歌人)	V 1 5 1 8
勝敏(しょうしょう・大竹)	→ 勝敏(かつひろ/かつたか・大竹、幕臣/歌)	S 1 5 7 9

T2233 清成(しょうじょう、せいじょう、法印元命男/母;鎮西松浦殿)1010-6758 平安期1037石清水八幡宮別当、1043法橋/47法眼/56法印/62検校、歌;後拾遺363、

[紅葉散る秋の山辺は白檜しらかしの下したばかりこそ道は見えけれ](後拾;秋363)

V2290 勝定(しょうじょう;法諱) ? - ? 平安鎌倉期;南都の僧/法師、歌人;1237刊素俊撰[檜葉集]入、

[かげうつるえだのかけたるしがらみにはやせよどまぬ花の白波](檜葉;春56)

J2279 証定(しょうじょう;法諱)1194 - ? 鎌倉期華嚴僧;1212梅尾高山寺の高弁[明恵]門、顕密二教を修学、教禅一致を提唱、晩年に還俗、「禅宗綱目」著

T2234 昭乗(しょうじょう・松花堂しょうかどう、俗姓;中沼/喜多川)1584-163956 和泉堺の生/松田伊予守の養子、1600石清水八幡宮で出家/真言密教;同宮滝本坊実乗門/灌頂を受け阿闍梨、男山の社僧、1627滝本坊住職/37坊の南に方丈を創建;松花堂と称す、茶/画、書;青蓮院流・大師流修得、松花堂流(滝本流)書の祖、寛永の三筆の1、近衛信尹・信尋・小堀遠州・沢庵宗彭と親交、江戸初期を代表する文化人、「松花堂歌体帖」「松花堂気霽帖」「松花堂山水帖」「芳気帖」書、「松華堂源水帖」「松花堂法帖」「松花堂昭乗筆書卷」「滝本鴻書帖」「滝本松華堂」「登竜帖」書、「松花堂画帖」画/「松花堂消息」「松花堂大和行記」/1638「松花堂芳野道の記」著、外書画多、[松花堂昭乗(；号)の幼名/名/通称/別号]幼名;辰之助、名;孝依、通称;式部卿法印、

別号;惺々/惺々翁/滝本坊/空識/南山隠士

- J2280 **勝乘**(しょうじょう;法諱・諡号;宣明院)1779-1840<sup>62</sup> 播磨真宗僧;飾磨郡本誓寺の高巖門;兄密巖と、1780(22歳)学林で修学/1816播磨神崎郡船津の本願寺派常德寺住職/34司教、自坊に私塾勝乗社を設置;子弟教育、「讚阿弥陀仏偈聴記」「大乘法苑義林章記」著、「天台伝仏心印記講翼」「観経散善義講録」著
- V2215 **勝乘**(しょうじょう;法諱・夏木なつき、)1818-1885<sup>68</sup> 近江坂田郡の榎木の真宗本願寺派浄願寺18世、国学者/維新後;権少講義
- 尚常(しょうじょう・牧田) → 尚常(なかつね・牧田また、神職/歌学) O 3 2 7 4  
彰常(しょうじょう・山路) → 彰常(あきつね・山路やまち、幕臣/天文) D 1 0 5 7  
彰常(しょうじょう・庄司/野附) → 七郎右衛門(しちろうえもん・野附のづき/庄司、大庄屋/儒詩) U 2 1 3 8  
清成(しょうじょう、法印) → 清成(しょうじょう、社僧/歌人) N 2 1 7 0  
祥盛(しょうじょう、三井) → 祥盛(しょうせい、僧侶/連歌) K 2 2 2 4  
性盛(しょうじょう、頼心) → 性盛(しょうせい、真言僧) K 2 2 2 5  
性乘(しょうじょう;法諱) → 仲孝(なかつか・下間しつまつ、真宗坊官/能) D 3 2 9 9  
昭常(しょうじょう・細井) → 金吾(きんご・細井ほそい、藩士/儒・国学) Q 1 6 8 6  
勝定(しょうじょう;字) → 恵什(えじゅう;法諱、真言僧) D 1 3 9 5  
惺々(しょうじょう) → 晁斎(ぎょうさい・河鍋、絵師) N 1 6 8 5  
性乘(しょうじょう;法名) → 通成(みちなり・中院/源、廷臣/歌人) C 4 1 1 2  
性乘(しょうじょう;法諱) → 仲孝(なかつか・下間しつまつ、真宗僧/能役者) D 3 2 9 9  
小繩(しょうじょう・磯部) → 小繩(小継おつな・宇治土公磯部うじつちぎみいそべ、神職) D 1 4 2 4  
小讓(しょうじょう・塩尻) → 梅宇(ばい・塩尻おじり、藩士/儒者) 3 6 5 9  
松城(しょうじょう・杉) → 孫七郎(まごしちろう・杉/植木、藩士/日記) 4 0 7 2  
松城(しょうじょう・曾和/岨) → 良隠(りょういん;法諱・温山;字、曹洞僧/篆刻) G 4 9 2 5  
湫城(しょうじょう・岡部/賀茂) → 眞淵(まごち・賀茂/岡部、国学者/歌) 4 0 3 1
- J2281 **定昭**(定照じょうしょう;法諱、左大臣藤原師尹男)906-983<sup>78</sup> 平安前期興福寺学僧;  
仁教(にこう(仁教)門、法相を修学/964寛空に伝法灌頂を受/南都に一条院を開きその初世、979金剛峰寺座主、東寺十八代長者法務/真言大僧都、981諸職を辞す;一乗院隠棲、「八十華嚴経音義私記」著、  
[定昭・定照(;法諱)の通称]嵯峨僧都/一乗院僧都/大覚寺僧都
- T2235 **成清**(静清じょうじょう;法諱、紀光清こうじょう男)1129-1199<sup>71</sup> 母;菅原在良女小大進(源有仁家女房)、成清は花園左大臣源有仁家の童僕、石清水八幡宮社僧;1171法印、石清水八幡宮30世別当、権大僧都/1192檢校(12代)、歌人/勅撰2首;千載597・新古今1887、  
[思ひきや今日打ち鳴らす鐘の音おとに伝へし笛の音ねを添へんとは](千載;哀傷597)、  
(童僕の時源有仁より伝授された笙の笛を有仁供養の日の鐘に添え吹奏)、  
[成清の号] 高野御房/弥勒寺法印、  
父 → 光清(こうじょう、俗姓;紀、石清水25世別当) J 1 9 7 2  
母 → 小大進(こだいじん・花園左大臣家、歌人) D 1 9 2 2  
姉妹 → 小侍従(こじじゅう・大宮、待宵の小侍従、歌人) C 1 9 7 7
- T2236 **承性**(じょうじょう) ? - ? 1216「水無瀬殿安鎮日記」著
- V2279 **定性**(じょうじょう;法諱) ? - ? 鎌倉前中期;南都の僧/法師、  
1237素舜撰[藤葉集]入、  
[おほやけの御かしこまりにて笠置寺にこもりゐて侍りけるがあからさまに本寺に、まかりけるに佐保川のほとりに霧のいたく侍りければよみ侍りける、よそにだにみてしのぶべきふる里にをりしもふかきさほのかわぎり](藤葉;606)
- J2282 **定照**(じょうしょう;法諱) ? - ? 鎌倉中期上州の天台僧;証真門、  
1225源空(法然)の専修念仏に反論する書を著;源空門隆寛から反駁書が出る、  
1227定照は両書を比叡山に送付し是非を問う;叡山は専修念仏停止を朝廷に奏上、  
論旨により隆寛は流罪となる、「弾選択」著、  
[定照(;法諱)の通称] 並榎の賢者  
参考 → 隆寛(りゅうかん;法諱、浄土僧) D 4 9 2 6



- J2284 **浄勝**(じょうしょう;法諱、良空;字)?-1359 浄土宗西山派:証空門/宗乗を修学、光明寺・遣迎院に住、「候詞抄」著
- J2283 **定清**(じょうしょう;法諱、家名;田中、石清水八幡宮別当陶清男) 1319-66 母;別当尚清女、1324出家、1325石清水八幡宮権別当/法眼、1327権少僧都、八幡宮本宮が南朝の京奪回拠点となる;両朝から叙位補任/北朝から;1341法印・別当/南朝;1351法印・別当、1352北朝から検校、1359遁世;1666筑前筥崎宮に没、連歌作者;菟玖波1句(859)入、超清(じょうしょう)の兄、[我思ふ心や夢を見せつらん](菟玖波;恋859/前句;契るとすれど頼まれはこそ)
- J2285 **静性**(じょうしょう;法諱) ? - ? 1421存 室町期天台宗叡山西塔院南谷善現房の住僧、1421「日枝記」、円俊の師
- J2286 **定紹**(定昭(じょうしょう);法諱) 1401-66 66 真言僧;東寺慈尊院住/観智院住、1442東寺二長者、1448まで二長者を務める/1465東寺長者;法務・寺務、「具支灌儀式」著
- T2238 **丞松**(じょうしょう) ? - ? 連歌師、1558「花千句」参;宗養・紹巴らと
- J2287 **紹清**(じょうしょう;法諱) ? - ? 1583存 浄土僧;山科家菩提寺浄華院の別院松林院の住僧、連歌作者;1583天正十一年閏正月廿七日紹巴らと「何船百韻」
- T2239 **丈装**(じょうしょう) ? - ? 江戸座俳人、1730午寂「太郎河」入
- J2288 **常照**(じょうしょう;法諱) ? - ? 江中期肥後八代郡の生、初め真宗大谷派の寺で薙髪、のち肥後玉名郡野部田の本願寺派法光寺入、智暹門、法光寺住職、明和(1764-72)の三業惑乱の法論に学林において動向を智暹に報告、三業安心を排撃;肥後には三業家が多く反感を買う;法光寺寺を脱し讃岐に赴く、晩年は帰郷したが寺に住しなかった、1787「安心相承義」91「安心相承義追説」、1801「真宗高僧和讃述要」「真宗浄土和讃述要」「三帖和讃述要」/03「決択成唯識論疏序」著、[常照(法諱)の別法諱/号]別法諱;臻道(しんどう)、号;超倫庵

常勝(じょうしょう、法名)	→	善成(よしなり・四辻、歌学/源氏研究)	4 7 2 1
常尚(じょうしょう・檜垣)	→	常尚(つねひさ・檜垣/度会(わたらい)、神職)	D 2 9 3 6
常尚(じょうしょう・沢潟)	→	常尚(つねひさ・沢潟(おもちか)/岡田/坂/荒木田、神職/国学)	F 2 9 5 1
常尚(じょうしょう・佐瀬)	→	常尚(つねなお・佐瀬(させ)/笹原、神職/神道)	F 2 9 7 0
常昭(じょうしょう;法名)	→	光起(みつおき・土佐、土佐派絵師)	4 1 2 4
常昭(じょうしょう・柴田)	→	常昭(つねあき・柴田、国学者)	B 2 9 5 3
常昭(じょうしょう・菅)	→	眞静(まじず・菅(すが)、和学者)	I 4 0 8 7
常昭(じょうしょう・都筑/金丸)	→	常昭(つねあきら・金丸/都筑、儒者/教育)	B 2 9 5 8
常彰(常昭(じょうしょう)・久志本/河崎)	→	常彰(つねあきら・久志本/度会/河崎、神道/歌)	B 2 9 5 7
常彰(じょうしょう・柘植)	→	竜洲(りゅうしゅう・柘植(つげ)、医者)	E 4 9 5 7
常照(じょうしょう・度会)	→	常照(つねてる・度会(わたらい)、神職/歌人)	C 2 9 5 7
常照(じょうしょう;法諱・応眞院)	→	浪化(ろうか;号、真宗大谷派僧、俳人)	5 2 0 2
常照(じょうしょう;出家号)	→	正恒(まさつね・新見(しんみ)/源、幕臣)	E 4 0 0 9
常昌(じょうしょう・村田)	→	常昌(つねまさ・村田(むらた)、藩の儒医)	D 2 9 7 1
常昌(じょうしょう・檜垣)	→	常良(つねよし・檜垣/度会、神職/歌人)	E 2 9 2 0
常昌(じょうしょう/つねまさ・高野)	→	恬斎(てんさい・高野(たかの)、藩医/詩人)	D 3 0 4 8
常昌(じょうしょう・曾我)	→	常昌(つねまさ・曾我(そが)、里正/国学/歌)	F 2 9 8 7
性盛(じょうじょう;法諱)	→	性盛(じょうせい/じょうじょう、真言僧)	K 2 2 2 5
乗性(じょうじょう;法名)	→	経継(けいけい・中御門/吉田、廷臣/歌)	C 2 9 5 1
静照(静昭/浄昭(じょうしょう))	→	清昭(じょうしょう;法諱、天台僧/歌)	T 2 2 2 1
静照(じょうしょう;法諱)	→	無象(むぞう;道号・静照、臨濟僧)	4 2 8 3
静清(じょうじょう、法名)	→	為和(ためかず・冷泉、歌学)	2 6 5 7
静勝(じょうじょう;法名)	→	公衡(きんひら・西園寺、廷臣/歌)	E 1 6 6 1
浄勝(じょうじょう;法諱)	→	東洲(とうしゅう;道号・浄勝、黄檗僧)	E 3 1 9 1
浄尚(じょうじょう・園村)	→	浄尚(きよなお・園村(そのむら)、藩士/神道)	Q 1 6 0 1
浄尚(じょうじょう;法名)	→	菟(うさぎ)・三枝(さいぐさ)、僧/尊攘)	O 2 1 5 8
梶々(じょうじょう・江馬)	→	細香(さいこう・江馬(えま)、絵師/詩人)	2 0 7 5

讓上(じょうじょう・安藤) → 淖翁(どうおう・安藤あんどう、医者/教育) U 3 1 0 4  
 松承庵(しょうしょうあん) → 古友尼(こゆうに・橋本、俳人) D 1 9 9 9  
 猩々庵(しょうじょうあん) → 原松(げんしょう・加藤、俳人) 6 8 1 7  
 猩々庵(猩々庵しょうじょうあん) → 晧斎(ぎょうさい・河鍋、絵師) N 1 6 8 5

T2241 少将井尼(しょうしょういのあま、通称;大原殿)?-? 平安中期長和1012-17頃の歌人/1012以前に出家、山城の大原住(愛宕郡大原or乙訓郡大原)/少将井(冷泉東洞院の地名?)付近に居住?、出家後も和泉式部・伊勢大輔と歌を贈答、もと彰子家or一条院の女房か?、勅撰3首;後拾遺(896/1119)新古今(1641)、

[人知れず落つる涙の音おとをせば夜よはの時雨に劣らざらまし](後拾遺;896)

[少将井尼大原より出でたりと聞きて 和泉式部の贈歌;

世をそむくかたはいづくに有りぬべし大原山は住みよかりきや(続詞花;雑893)、(少将井尼の)返し、

思ふ事おおはら山のすみがまはいとどなげきの数をこそつめ](同;894)

勝聖院(しょうしょういん) → 艶(えん・山川やまかわ/西郷、育児/歌人) U 1 3 1 0  
 証誠院(しょうじょういん) → 日雄(にちゆう;法諱、日蓮僧) 3 3 8 2  
 証誠院(しょうじょういん) → 日修(にっしゅう;法諱・承慧、日蓮僧) D 3 3 9 9  
 勝定院(しょうじょういん) → 義持(よしもち・足利/源、4代将軍/歌) H 4 7 6 5  
 上聖院(じょうしょういん) → 日亮(にちりょう;法諱・円通院、日蓮僧) D 3 3 6 0  
 常照院(じょうしょういん) → 衛友(もりとも・谷/源、藩主/剣術/歌) G 4 4 0 1  
 勝定院贈太政大臣(しょうじょういんのぞうだいじょうだいじん/新統古)

→ 義持(よしもち・足利、4代将軍/歌) H 4 7 6 5

上乘院法印(じょうじょういんほういん) → 仁隆(にんりゅう;法諱、真言僧) G 3 3 7 9

上乘院法印(じょうじょういんほういん) → 経深(きやうじん;法諱、天台僧) C 1 6 6 7

常々園(じょうじょうえん) → 美信(よしのぶ・三坂/三坂みさか、心学者) F 4 7 6 4

照昌塩里軒(しょうしょうえんりけん) → 与右衛門(よえもん・塚田、蚕種家/俳人) B 4 7 6 8

T2240 笑々翁(しょうしょうおう・姓;漢部あやべ、別号;一吟いちぎん)?-? 丹波の俳人;芭蕉門、のち伊勢雲出川辺住、1700「雪の葉」編(京井筒屋庄兵衛板/芭蕉七回忌に寸虎と義仲寺詣の際の集)、1690順水「誹諧破曉集」・言水「新撰都曲みやこぶり」入、[盆近し刃ささげの尺をとる女](新撰都曲;378)

惺々翁(しょうじょうおう) → 昭乗(しょうじょう・松花堂、社僧/書家/茶人) T 2 2 3 4

猩々翁(しょうじょうおう) → 岱年(たいねん・花守/早川/森/守、俳人) K 2 6 9 2

静浄覚(しょうじょうかく) → 彰子(しょうし・上東門院) 2 1 8 2

少々館(しょうしょうかん) → 流水(りゅうすい・前田まえた、俳人) E 4 9 8 3

聶松軒(しょうしょうけん) → 梅溪(ばいけい・李り、漢学者) B 3 6 0 0

小松軒(しょうしょうけん) → 盛胤(もりたね・関せき、薬種業/史家) F 4 4 6 5

松嘯軒(しょうしょうけん) → 梅朝(ばいちよう・沢井/林、俳人) B 3 6 8 1

向象賢(しょうじょうけん) → 朝秀(ちようしゅう・羽地はねじ、琉球摂政/史家) I 2 8 6 7

常証軒(じょうしょうけん) → 武真(たけまさ・靱木もみき、藩儒/教育) Z 2 6 9 7

常照国師(じょうしょうこくし・円満) → 祖元(そげん・無学、臨濟僧) 2 5 2 0

嘯松子(しょうしょうし、未達みたつ) → 市郎右衛門(いちろうえもん・西村、書肆/俳/戯作) B 1 1 3 3

常照禅師(じょうしょうぜんじ・大寂) → 特芳(とくほう・禅傑、臨濟僧) 3 1 3 9

彰常先生(しょうじょうせんせい) → 蘭腕(らんえん・伊藤いとう、儒者/藩儒) B 4 8 5 6

蕭々亭(しょうしょうてい) → 亀淵(きえん・古森こもり、書家) J 1 6 7 4

松簫亭(しょうしょうてい) → 友春(ともはる・天川/赤松、酒造業/歌) Q 3 1 2 9

昭々堂(しょうしょうどう) → 家熙(いえひろ・近衛、廷臣/書画) 1 1 5 9

貞上人(じょうじょうにん) → 玄貞(げんてい;法諱、真宗仏光寺派僧) E 1 8 4 2

少将阿闍梨(しょうしょうのあじやり) → 聖昭(しょうしょう;法諱、天台僧/穴太流祖) J 2 2 7 7

少将尼(しょうしょうのあま) → 中将(ちゅうじょう・上東門院、歌人) G 2 8 3 7

少将井尼(しょうしょうのいのあま) → 少将井尼(しょうしょうのいのあま、大原殿/歌人) T 2 2 4 1

- T2242 **少将君**(しょうしょうのみき、藤原周頼女孝子?、母;陽明門院乳母少将?)?-? 平安期:藤原能長の妻、藤原長明の母、1062馨子内親王家乳母、歌人/物語作者:  
1055(天喜3)六条齋院物語合参加:物語「うつすみなはの大将」、  
[我ながらいかにまどへる心ぞとちぎりむすぶのかみにとはばや](物語合;左7)
- T2243 **少将更衣**(しょうしょうのこうい)? - ? 平安中期円融天皇の更衣/歌人、天皇と恋の贈答、  
拾遺集972(円融天皇への返歌)、  
[空に満つ思ひの煙雲ならばながむる人の目にぞ見えまし](拾遺;恋972)、  
(円融天皇の贈歌;限なき思ひの空に満ちぬればいくその煙雲となるらん)  
少将聖人(しょうしょうのしょうにん)→ 清海(せいかい;法諱/聖人、夢の歌) P 2 4 0 2  
少将聖人(しょうしょうのしょうにん)→ 実範(じつぱん/じちはん;法諱、法相・真言・天台僧) V 2 1 0 4
- T2244 **少将局**(しょうしょうのつばね、平義範女?)?-? 平安後期:高倉天皇妃、1179惟明親王を出産  
猩々の篤助(しょうじょうのとくすけ)→ 篤助(初世とくすけ・奈河、歌舞伎作者) 3 1 4 0
- J2289 **少将内侍**(しょうしょうのないし、少将の御、橘公彦女?)?-? 平安中期醍醐天皇の中宮穩子の女房/歌人、  
藤原兼輔と交渉(大和物語入)、後撰集944(945;兼輔の返歌)、  
[人謀はかる心の隈くまはきたなくて清き渚をいかで過ぎけん](後撰集944)、  
(兼輔が伊勢勅使から帰京後も久しく便りがないので詠む/伊勢の海の清き渚;催馬楽)
- T2245 **少将内侍**(しょうしょうのないし、後一条院ごいちじょういん、名;芳子、藤原季頼女?)?-? 平安中期の女房歌人、  
後一条天皇[1008-1036]に出仕/天皇崩御に伴い素服を賜る、歌;玉葉集2367、  
[いままでに世にありへんとおもはぬをそむく道にもおくれぬるかな](玉葉:十七2367)  
(後一条中宮威子没後にそむく[出家する]人が多いのを聞いて詠んだ歌)
- T2246 **少将内侍**(しょうしょうのないし、白河院、儀子or保子、藤原実房女?)?-? 母;大中臣輔親女、伊勢大輔の姪、  
平安後期歌人、初め後冷泉院に出仕?/白川院の女房、勅撰2首;後拾遺945/965/金葉566、  
[ねぬなはの苦しきほどのたえまかと絶ゆるを知らで思ひけるかな](後拾遺;雑965)、  
(病気だとして来ない男が他の女を訪れたことを聞き詠む/ねぬなは[蓴菜];くるに掛る)  
1049(永承4)内裏歌合の少将と同一? → 少将(しょうしょう、伊勢大輔と同席) T 2 2 1 8
- T2247 **少将内侍**(しょうしょうのないし、後深草院、藤原信実女?)?-1264? 鎌倉期女房歌人、後深草院に出仕、  
四条院少将内侍、1243河合社歌合/47後嵯峨院歌合/48宝治百首/51影供歌合参加、  
1251閑窓撰歌合参加(;父信実・藻壁門院少将と参加)、弁内侍日記に歌入、井蛙抄入、  
勅撰44首;続後撰(5首199/266346/677/777)続古(7首)続拾(8首)新後撰(3首)以下、菟15句入、  
[けふ幾日おか濡れそふ袖をほしやらでおりたつ田子の早苗とるらん](続後撰;夏199)、  
藻壁門院少将・後深草院弁内侍の妹(;少将内侍は姉二人および父に先立って没)、  
→ 少将(しょうしょう・藻壁門院) N 2 1 6 4  
→ 弁内侍(べんのないし・後深草院) 2 7 0 6
- T2248 **少将内侍**(しょうしょうのないし、後醍醐院、藤原為信女?)?-? 鎌倉期歌人、後二条院・後醍醐天皇に出仕、  
さらに長楽門院(太政大臣徳大寺公孝女忻子、後二条院妃)に出仕、1319文保百首参加、  
1321八月十五夜歌合参加/続現葉・臨永・松花・藤葉集等に入集、  
勅撰7首;続千載(475/1099/1347)風雅(997)新拾遺(1338)新続古今(1150/1220)、  
[置く露のいとど深草里はあれて月のすむ野と成りにけるかな](続千載;475/百首歌)、  
[後醍醐院少将内侍の別女房名] 後二条院少将内侍/長楽門院民部卿  
少将内侍(しょうしょうのないし、院=続拾遺、新院=続古今)→ 少将内侍(後深草院女房) N 2 1 9 1  
少将内侍(しょうしょうのないし、前中宮さきのちゅうぐう)→ 宣旨(せんじ・中宮ちゅうぐうの、歌後撰) F 2 4 6 9
- T2249 **少将乳母**(しょうしょうのめのと)? - ? 平安後期歌人、1041源大納言師房家歌合左方・43同右方参、  
続詞花集入(359)、  
[風吹けば白浪たちておきからくしげきあしまにふねはこぎよれ](1043源歌合;右10)  
伊賀少将と同一説あり→伊賀少将(いがのしょうしょう、藤原頭長女/後拾遺歌人) 1 1 7 2
- T2250 **猩々変生**(しょうじょうへんじょう)? - ? 狂歌、1785後万載1首:573(寄十露盤恋)、  
[十露盤のたまたまよればはじかれてあはぬほどなほ思ひ掛け算](後万載;恋573)  
昭々房(しょうしょうぼう) → 元麟(元麟げりん・原はら、医者) N 1 8 1 0
- T2251 **淨照房**(じょうしょうぼう、藤原、名;定継/光家、定家の長男男?)?-? 1233存 母;藤原秀能女、鎌倉期廷臣、  
順徳天皇の侍従/従五上、1199光家に改名、八条院庇護下の九条良輔家に出仕/1211昇殿、

1213宇佐使、九条家没落;1220頃出家(号;浄照房)、  
歌;1213-5建保内裏歌合に数度・月卿雲客妬歌合参加(;光家名/父・弟為家と)、  
歌合で判者父より酷評される(名月記入)、家集「浄照房集」著、

[露の玉萩の錦も色そへて月影やどす宮城野の原](1213内裏歌合;二番右4)

上乘坊(じょうじょうぼう) → 覚乗(かくじょう;法諱・上乘坊、天台僧) K 1 5 0 5

乗乗房法印(じょうじょうぼうほういん) → 猷円(ゆうえん;法諱、天台僧/歌人) 4 6 7 6

T2252 少将丸(しょうしょうまる) ? - ? 平安期の歌僧 1162「山家歌合」入

勝賞楼(しょうしょうろう;家号) → 椿軒(ちんげん・内山、儒者/狂歌) K 2 8 6 8

J2290 正稷(しょうしよく;法諱・華溪;道号)?-1603 臨濟僧;雲英正悦門、南禅寺267世、「法語集」

章職(しょうしよく・中原) → 章職(あきもと・中原、明法家) E 1 0 0 2

尚織(しょうしよく・岩井田) → 尚織(ひさおり・岩井田/荒木田、神職/連歌) 3 7 8 8

常職(じょうしよく・佐瀬) → 常職(つねより・佐瀬させ、神職/国学) F 2 9 7 2

常職(じょうしよく・服部) → 常職(つねより・服部はつとり、幕臣/国学) G 2 7 1 8

T2253 性助法親王(しょうじよほっしんのう、後嵯峨天皇皇子) 1247-8236 母;三条公房女、鎌倉期1251親王宣旨、  
1257出家;1257仁和寺寺務/63観音院で法助より伝法灌頂/仁和寺11世、74二品、歌人;  
「性助法親王御集」、性助法親王家五十首催、弘安百首入、  
勅撰37首;続古今(142)続拾(8首53/334以下)新後撰(8首)玉葉(1149)続千(8首)以下、  
[さらでだにしづごころなく散る花をあかずや風のなほさそふらん](続古今;春142)

T2254 浄助法親王(じょうじよほっしんのう、後嵯峨天皇皇子) 1253-80早世28歳 鎌倉後期天台僧;

1265園城寺青蓮院住、円助親王門/1266出家;法親王、1276円助親王より灌頂受/円満院住、  
歌;続拾遺集586、

[雲はるるみかみの山の秋風にさざ浪遠くいづる月影](続拾;雑秋586/三井寺での月歌)、  
[浄助(;法諱)の通称] 青蓮華院宮しょうれんげいんのみや

T2255 庄次郎(しょうじろう・蔓蔦屋、烟蘿館、蘭洲)?-? 吉原妓楼蔓蔦屋経営、河東節太夫(;蘭洲名)、  
儒;細井広沢門、1732遊戯主人作洒落本「両都妓品りょうとぎほん」の漢文序(;烟蘿館主人名)

T2256 庄次郎(しょうじろう・貝塚かづか、館柳湾の女婿)?-? 江後期;1821柳湾「柳湾漁唱初集」刊行

J2291 象二郎(象次郎しょうじろう・後藤ごとう、名;元暉/玄暉、助右衛門男) 1838-9760 母;大塚もよ、土佐藩士、  
1859義叔父吉田東洋の推挙で幡多郡奉行/1863江戸の開成所で蘭学・航海術を修学、  
1864土佐藩大監察;その後参政として藩の実権を掌握、1867公議政体論を主唱、  
1868新政府参与、大阪府知事/参議など歴任、1873(明治6)征韓論主唱;敗れ下野、  
板垣退助と自由党結成、1867「松平容堂建白書」著、  
[象二郎(;通称)の字/別通称/号]字;日暉にちよう、別通称;保弥太/良輔、号;暘谷よくく/雲濤、  
法号;宏徳院

庄次郎(しょうじろう・白崎) → 琴路(きんろ・白崎、酒造業/俳人) I 1 6 3 7

庄次郎(2世しょうじろう・和泉屋) → 老泉(ろうせん・松沢まつざわ、書肆/典籍研究) 5 2 3 5

庄次郎(しょうじろう・但馬屋) → 豊春(とよはる・歌川、絵師/歌川派祖) R 3 1 4 8

庄次郎(しょうじろう・田中/高田) → 与清(ともきよ・小山田、国学者) 3 1 6 0

庄次郎(しょうじろう・宇留野) → 静庵(せいあん・宇留野うるの、藩士/学者) H 2 4 2 5

庄次郎(しょうじろう・小沢/蓑) → 笠之助(りゅうのすけ・蓑/巳野みの、勸農家) F 4 9 3 7

庄次郎(しょうじろう・堀) → 照明(ひろあき・堀ほり、藩士/儒者) F 3 7 4 8

庄次郎(しょうじろう・鱗形屋) → 清右衛門(せいえもん・滝沢/鱗形屋、商業/代稿) H 2 4 4 6

庄次郎(莊次郎/莊二郎しょうじろう・高安) → 蘆屋(ろおく・高安/高、商家/儒・書家) 5 2 4 8

庄次郎(しょうじろう・佐藤) → 如春(じよしゆん・佐藤さとう、国学/歌人) U 2 2 8 5

庄次郎(しょうじろう・安田) → 穂並(ほなみ・安田やすだ、商家/国学/歌) G 3 9 4 3

庄二郎(しょうじろう・幸田) → 嘉治(よしはる・幸田こうだ、幕臣/国学者) M 4 7 8 9

庄治郎(しょうじろう・池田) → 重威(しげたけ・池田いけだ、国学者) N 2 1 3 0

庄治郎(しょうじろう・森本) → 信盈(のぶみつ・森本もりもと、国学者/歌) K 3 5 1 8

正次郎(しょうじろう・藤井) → 菊年(きくねん・藤井ふじい、紺屋業、俳人) K 1 6 2 1

正次郎(しょうじろう・本郷) → 弘斎(こうさい・本郷ほんごう、藩士/書) I 1 9 8 4

正次郎(しょうじろう・加藤) → 李充(りじゅう・加藤かとう、国学/俳人) B 4 9 2 2

正次郎(しょうじろう・岡村/正住)→ 弘美(こうび・正住しょうじゅ、絵師/茶道) B 1 9 8 6  
 正次郎(しょうじろう・藤堂)→ 高堅(たかかた・藤堂、藩主/歌人) L 2 6 7 3  
 昌次郎(しょうじろう・牧) → 忠輔(ただすけ・牧まき、藩士/文筆家) P 2 6 6 6  
 祥次郎(しょうじろう・森脇)→ 方純(まさすみ・森脇もりわき、藩士/歌人) T 4 0 2 7  
 象二郎(しょうじろう・鳥山)→ 啓(ひらく・鳥山とりやま/田所、藩士/教育) K 3 7 0 4  
 賞次郎(賞次郎しょうじろう・山崎)→ 焉馬(2世えんば・鳥亭、狂歌/戯作) B 1 3 3 4  
 松爾楼(しょうじろう) → 豊春(とよはる・歌川、絵師/歌川派祖) R 3 1 4 8  
 讓四郎(じょうしろう・北条)→ 霞亭(かてい・北条ほうじょう、儒者/詩人) F 1 5 5 2  
 穰次郎(じょうしろう・大石)→ 鳳蕉(ほうしょう・大石、儒者/和算家) B 3 9 7 3  
 城二郎(じょうじろう・安達)→ 頼景(よりかげ・安達・藤原/関戸、歌人) 4 7 4 1  
 条二郎(じょうじろう・大坪)→ 泰年(やすとし・大坪おおつぼ/佐藤、国学者) F 4 5 5 3  
 松芝老人(しょうしろうじん) → 元瑞(げんずい・小石こいし、医者/詩文) E 1 8 2 2

- J2292 **聖心**(しょうしん;法諱・仏徹房;号)??-? 1194存 真言高野山僧;宝生房教専門、  
 1149覚法親王高野登山の際の孟蘭盆講散華師、高野山伝法院学頭、九条兼実の帰依を受;  
 戒師・念仏導師、後白河法皇の命で「十念極楽易往集」撰集
- T2257 **証真**(しょうしん;法諱・宝池坊;号、俗姓;藤原)??-? 1207存 平安鎌倉期;天台宗叡山の学僧/出家、  
 恵心流;隆慧門/檀那流;永弁門/台密;聖昭門、天台の伝統的教學の復興に尽力、  
 広学堅義の聖者・探題等を歴任/1207比叡山総学頭、天台本覚論の最初の批判者、著作30部、  
 大蔵経閲覽に専心し源平の兵乱を知らなかったという、法印/権少僧都、慈円・源空と交流、  
 「今撰往生伝」「止観私記」「天台四教義私」、1162「大智度論略鈔」1206「照権実鏡抄」外著多
- V2298 **聖信**(しょうしん;法諱、) ? - ? 平安鎌倉期;南都の僧/法師、  
 歌人;1237刊[檜葉集]3首入、  
 [嘉応三(1171)年南都歌合、  
 こひすてふわがなはたたじしたもえの煙はそらの雲にまがへて](檜葉;恋456)
- V2283 **章信**(しょうしん;法諱、) ? - ? 平安鎌倉期;僧/法橋、不退寺に住/歌人;歌会参加、  
 不退寺の草庵に人々を集め歌会・連歌会を催(檜葉集64の専寂の詞書など)、  
 1237刊[檜葉集]10首入、藤原親康ちかやすと交流;讃岐の旅、光明院十首歌参加、  
 [寛喜三年(1231)春日社奉納五十首に冬風、  
 吹きおくるあとよりうづむこのはかなかへらば風もみちやたどらむ](檜葉;冬290)
- J2293 **性信**(しょうしん;法諱、俗名;大中臣与四郎、鹿島神宮宮司大中臣宗基男)1187-1275<sup>89</sup> 常陸真宗僧、  
 1204源空(法然)に帰依/親鸞に託される、親鸞に随従し越後から関東へ、  
 関東宗門護持の命で下総横曾根に報恩寺開、鎌倉・上総藻原・下野佐河野に法得寺を創立、  
 教行信証草稿本を所持、「不思議問答」「正像末和讃見聞」1275「浄土法門見聞鈔」著、  
 飯沼の性信と称す
- J2294 **性心**(性真しょうしん;法諱、藤田利貞男)??-1299 武州藤田の僧/初め比叡山で天台を修学、  
 のち浄土僧;良忠門;浄土宗鎮西流を修学、1276良忠より授手印を受/師没後帰郷、  
 下総岩井に高声寺創建/武蔵藤田に善導寺創建、布教に専念;藤田派と称す/良心が継嗣、  
 「授決鈔」「観経行儀分私記見聞」「授手印決答見聞」著、  
 [性心(;法諱)の号/通称]号;唱阿/性阿/聖阿しょうあ、通称;水沼上人/秩父上人
- J2295 **性心**(しょうしん;法諱・字;教学/教覚きょうかく)1287-1357<sup>71</sup> 大和真言僧;生駒山大聖竹林寺の学僧;  
 良齋りょうちよう門、事教二相に精通、山城金剛寿院・深草金剛寿院住、東寺の杲宝ごうほう・賢宝の師、  
 「伝通記見聞」「摩怛哩提婆鈔」/1337「性信御感夢記」39「印明決」48「摩拏秘要鈔」外著多数
- J2296 **昌信**(しょうしん;法諱) ? - ? 僧侶;法師/連歌、菟玖波集3句入、  
 [有明の月の比ころにも契しに](菟玖波;恋850/つれなくはまた行きてとはばや)
- J2297 **正真**(しょうしん;法諱・永泰えいたい;道号)1652?-1721<sup>70?</sup> 幼少時仏門/京妙心寺住/黄檗僧;高泉侍者、  
 1679頃摂津慶瑞寺住持・1708近江正明寺4世、「法輪泰和尚語録」
- J2298 **松深**(しょうしん) ? - ? 豊前西小倉の俳人;1690言水「新撰都曲みやこぶり」1句入、  
 [見ぬ姫にけふも桜の迷ひかな](新撰都曲;下377/桜花の美に迷うほどの恋/物語的)
- P2253 **笑心**(しょうしん) ? - ? 江前期俳人;1691「若みどり」入、  
 [いひ懸くる嘘うそはしやくりの止薬とめぐすり](若みどり/嘘も方便;心理的圧力で効能)

- D2281 嘯心(しょうしん) ? - ? 江前期俳人;1691不角「若みどり」入、  
[狂ふ気は狂はぬ気なり子の行くゑ](若みどり/前句;似る人もなし乗合の舟)、  
(謡曲隅田川;子を求める気持ちは純粹である)
- T2258 紹真(しょうしん) ? - ? 絵師、1816玄玄一「俳家奇人談」挿画
- J2299 紹真(しょうしん;名・勝かつ、号;不識庵)?-? 江戸後期前田流平曲家;豊川検校門、  
1819「琵琶弾法」、「平曲柴抱弾法大成」編
- 紹真(しょうしん・武田) → 信豊(のぶとよ・武田、武将/故実) C 3 5 4 3
- 紹真(しょうしん→つぐさね・赤羽/狩野/北尾)→政美(まさよし・北尾きたお、絵師) I 4 0 6 0
- 承信(しょうしん;初諱) → 覚禅(かくぜん;法諱、真言僧) B 1 5 6 4
- 承親(しょうしん・井尻) → 好古(よしひさ・井尻いじり/源/松島、国学) L 4 7 4 0
- 勝信(しょうしん)すべて → 勝信(かつのぶ)
- 証心(しょうしん;法名) → 俊経(としつね・藤原、文章博士、連歌) M 3 1 9 1
- 証信(しょうしん;法名) → 家親(いえちか・中山、廷臣/歌人) 1 1 4 0
- 正辰(しょうしん) → 正辰(まさとき・岡村、俳人) E 4 0 3 2
- 正心(しょうしん・乗蓮社) → 知哲(ちてつ;法諱・頓誉、浄土僧) E 2 8 8 1
- 昌信(しょうしん・山本) → 昌信(まさのぶ・山本やまもと、和筆/歌) L 4 0 7 1
- 昌信(しょうしん・山田) → 昌信(まさのぶ・山田やまだ、号;和算家) F 4 0 7 4
- 昌信(しょうしん・鹿野) → 昌信(まさのぶ・鹿野しかの、庄屋/国学) Q 4 0 1 1
- 昌信(しょうしん・平川) → 昌信(まさのぶ・平川ひらかわ/平、国学/神職) S 4 0 1 3
- 尚真(しょうしん・小島) → 尚真(なおさね・小島、春浜しゅんそ、医/儒) B 3 2 2 5
- 尚震(しょうしん・木村) → 幾三郎(いくさぶろう・木村、藩士/記録) F 1 1 3 1
- 尚信(しょうしん・南部) → 行信(ゆきのぶ・南部なんぶ、藩主/歌人) F 4 6 2 1
- 松心(しょうしん・山崎) → 忠央(ただなか・山崎やまさき、藩士/儒者) Q 2 6 2 6
- 松進(しょうしん・後藤) → 松軒(しょうけん・後藤、儒者;程朱) R 2 2 3 1
- 松針(しょうしん・堀野) → 松洲(しょうしゅう・堀野ほりの、儒者) J 2 2 5 6
- 照信(しょうしん;法諱、天台僧)→ 照信(てるのぶ・日吉廻翁ひえのや、狂歌) C 3 0 8 4
- 彰信(しょうしん・後閑ごかん/小田)→ 彰信(あきのぶ・小田、幕臣/文筆家) D 1 0 7 2
- 彰信(しょうしん/あきのぶ?・石井)→ 意伯(いはく・石井、医者) I 1 1 1 7
- 彰信(しょうしん・稻生) → 若水((じゃくすい・稻生いのう/稻、儒/本草) G 2 1 3 0
- 小信(しょうしん・長谷川) → 貞信(2世さだのぶ・長谷川はせがわ、絵師) F 0 3 2
- 少進(しょうしん・猪熊) → 方主(かたぬし・猪熊いのくま/ト部、神職) N 1 5 0 4
- 少進(しょうしん・高田) → 武泰(たけやす・高田/荒木田/亀田、神職) N 2 6 5 5
- 少進(しょうしん・佐野) → 山陰(さんいん・佐野、藩士/儒者/地誌) G 2 0 1 5
- 少進(しょうしん・桐) → 友壽(ともよし・桐ゆずりは、神職/国学) W 3 1 8 9
- 昭辰(しょうしん・前島) → 多門(たもん・前島まえじま、文筆家) S 2 6 9 6
- 商臣(しょうしん・近藤) → 義制(よしのり・近藤、藩士/儒者/詩文) F 4 7 9 4
- V2272 璋尋(しょうじん;法諱) ? - ? 鎌倉期;僧;法師、歌人;1225/29定家訪問(明月記)、  
1237素俊撰[檜葉集]入、  
[菊苑僧正(範円?)庚申講に霞を、  
佐保山のみねもたわわにみゆるまでかすみのころもいくへかくらむ](檜葉;雑753)
- 性深(しょうじん;字) → 玄広(げんこう;法諱・字;性深、真言僧) I 1 8 7 3
- K2200 定真(じょうしん;法諱) 1174 - 1250 77歳 鎌倉初期真言僧;勸修寺興然門;密教を修学、  
高尾神護寺に住、のち明恵(高弁)門;明恵に随従し言行録・臨終行事を記録、  
高山寺方便智院を開基/広沢梅尾流の血脈を継嗣、1232「明恵上人最後臨終行儀」、  
「法自相」「真言要目」「灌頂護摩私次第」「上人御房物語」著、仁真の師、  
[定真(;法諱)の号/通称]号;円法房/空達房、通称;空師/空達上人
- V2273 定親(じょうしん;法諱、土御門[久我/源]通親みちちか[1149-1202]男)?-? 平安鎌倉期;東寺僧、  
東寺一長者/法務大僧正、歌人;1237刊[檜葉集]2首入(法印定親名/兄親縁と入集)、  
通宗・通具・通光・定通・通方・通行・親縁しんえん(興福寺大僧正)・承明門院在子・親子の兄弟、

歌人;1237刊[檜葉集]2首入(法印定親名/兄親縁と入集)、

[已講に侍りけるととき東南院にて寄竹述懐といふ事を、

かげなびくよよな忘れそくれたけのすゑばのかぜはふきかはるとも](檜葉;雑923)

- W2243 **盛親**(じょうしん;法諱・僧都)?- ? 鎌倉期;仁和寺の真乗院(門跡寺院)の僧、  
1308権少僧都として後宇多院灌頂儀式に参加(後宇多院灌頂儀式記入)、能書家の学匠、  
徒然草60段に容貌立派な智者で弁舌に優れ大食で特異な言動の徳人と描れる
- K2201 **乗信**(じょうしん;法諱、藤原泰通男/能円[法勝寺執行/法印]の養子)?-? 1278存 鎌倉期;興福寺僧、  
法相僧、興福寺権少僧都/法印/興福寺別当、玄尊・良誉・良範・良真の父、  
「因明十帖」「有法差別」「因明局通対事」著、歌人;1237素俊撰[檜葉集]入(権少僧都名)、  
[まどろまでわがまちえたる月影をなげのねざめの人やみるらむ](檜葉;秋255)
- K2202 **浄心**(じょうしん;法諱、俗名;藤原師村?、藤原長村男)?-? 鎌倉南北期幕臣御家人;左衛門尉/出家、  
兄利村の猶子、連歌:1356成立菟玖波集1句入(1445;紀[高橋]宗基[1446]と連歌)、  
[うつしける三輪の杉をもちまぞ見る](菟玖波;雑1445)  
(詞書;定家の家に移した三輪の杉が残っているのを見て)、  
(付句;紀宗基/むかしを残す宿のしるしに)
- T2260 **浄信**(じょうしん、杉原すきはら、名;満盛)?-1451 武将;足利義教の家臣、連歌、歌:正徹門、  
1433「北野社一万句」入
- K2203 **常心**(じょうしん;名・御菌みその/本姓;源、御菌無分男)1557-161660 源満季の末裔、京の鍼医、  
金銀鍼を作り小槌で人体に打入れる法を創始、二本松の僧の夢分斎の秘伝を受、  
御菌意斎流打鍼の祖、正親町天皇・後陽成天皇に出仕;鍼博士、徳川秀忠を治療、  
「鍼灸全論」「医家珍宝」「神華秘伝」「鍼灸秘訣」著、藤木元成・朝山更斎の師、子孫も鍼医、  
[常心(;名)の通称/号]通称;源吾/源五郎、号;意斎
- T2261 **浄心**(じょうしん・三浦みうら、名;茂正しげまさ、三浦五郎左衛門尉茂信男)1565-164480 北条氏譜代の武家、  
北条家滅亡後故郷相模三浦に閑居/のち江戸で商人、晩年天台僧;天海僧正に帰依し庵住、  
仮名草子作者、1614「慶長見聞集」「見聞軍抄」、1641「そゝろ物語」「北条五代記」、  
[浄心(;法名)の初名/通称/号/法号]初名;茂信、通称;五郎左衛門尉、  
号;三五庵木算、法号;称陽院
- K2204 **浄心**(じょうしん;法名・中村なかむら、名;近貞/通称;弥七左衛門)1569-? 肥後武士;出家入道/文筆家、  
1656(88歳)「和仁之城落城之覚」著  
1656「中原雑記」著(;佐藤小次兵衛等の話の書留;15箇条)
- K2205 **浄心**(じょうしん・赤石あかい、名;行覚)?-1733 羽後秋田藩士/儒者;芹田音心門、韻・易学に通ず、  
書に長ず、「易経音註」「雑語集」著、  
[浄心(;号)の幼名/通称/法号]幼名;駒福、通称;伊作/六郎兵衛、法号;正運院
- K2206 **杖信**(じょうしん・大森おもり、名;重建/重達、漸斎男)1669-175688 京の小堀遠州流茶道;父門、  
「茶道葎集」編、有斐の父、  
[杖信(;号)の通称/別号]通称;太右衛門、別号;甘古斎/禎翁/頑翁、法号;甘古斎杖信居士
- K2207 **浄信**(じょうしん・春屋はるのや)?- ? 江中期加賀石川郡鶴来の地誌家、  
「老耄独語」著(;白山嶺上の地名と古伝説を記述);のちに金子鶴村「白山遊覧図」に引用、  
[浄信(;名)の通称] 春屋市郎平
- U2299 **浄心**(じょうしん;法諱、俗姓;安間)?-1816 遠江敷智郡の禅僧、国学/歌;内山真竜(1740-1821)門、  
[浄心(;法諱)の名/通称]名;浄信、通称;稻七/七郎左衛門
- K2208 **浄眞**(浄信じょうしん;法諱、大善院;諡号)?-1865 安藝広島の本願寺派真行寺住職、  
芳英門;華厳・天台の宗義を修学/宗乗を深諦院に修学、1861勸学、世事を顧ず仏事専念、  
1819「発蒙」48「浄土和讃記」58「讃阿弥陀仏偈聴記」、「讃阿弥陀仏偈筆記」外著多数
- K2209 **常眞**(じょうしん;名・村次むらつぐ)?- ? 江後期熊本藩士、  
藩命で肥後五箇荘の平家落人部落を調査:1855「肥後国五ヶ荘図誌」著
- |               |   |                      |           |
|---------------|---|----------------------|-----------|
| 定深(じょうしん)     | → | 定深(じょうしん、真言僧)        | T 2 2 5 9 |
| 静眞(じょうしん、法号)  | → | 為家(たけいえ・藤原、歌学)       | 2 6 5 5   |
| 常眞(じょうしん・檜垣)  | → | 常眞(つねざね・檜垣/度会、神職)    | C 2 9 1 8 |
| 常眞(じょうしん;出家号) | → | 貞助(さだすけ・伊勢/平、幕臣/故実家) | I 2 0 2 9 |

常眞(じょうしん;出家号) → 信雄(のぶお/のぶかつ・織田おだ、武将/茶人) B 3 5 0 0  
 常辰(じょうしん・久志本) → 常辰(つねとき・久志本/度会、神職/医者) C 2 9 6 3  
 常辰(じょうしん・隼士はやと) → 常辰(つねとき・隼士はやと、俳人) C 2 9 6 4  
 常晨(じょうしん・檜垣) → 常晨(つねあき/つねとき・檜垣ひがき、神職) B 2 9 4 8  
 常信(じょうしん)訓はすべて → 常信(つねのぶ)  
 浄信(じょうしん;・安間) → 浄心(じょうしん;法諱、禅僧/国学者) U 2 2 9 9  
 浄深(じょうしん・智沢;道号) → 智沢(ちたく・浄深、黄檗僧) E 2 8 6 8  
 乗深(じょうしん;字) → 快旻(かいびん;法諱・乗深、真言僧) J 1 5 0 5  
 乗信(じょうしん;法名) → 経宣(つねのぶ・中御門/藤原、廷臣/歌) C 2 9 9 9

T2262 成尋(じょうじん;法諱、俗姓;藤原、藤原義賢男orその兄興福寺僧貞叙男)1011-8171 母;源俊賢女、平安期京の天台僧、1017(7歳)京岩倉大雲寺入;文慶もんきょう(母方の親戚)門;顕密を修学、1041大雲寺別当、関白藤原頼通の護持僧/1050叡山延暦寺阿闍梨あざり、1072(62歳)入宋、天台山・五大山巡礼;その二年間の日録を残す/宋地求得の品を日本に送り自らは残留、宋の汴京開宝寺に没、祈雨の功により皇帝神宗より善慧大師の号を勅賜、1072-74「参天台五台山記」、「観経鈔」「善財童子知識集」「普賢経科善財」「法華経註」著、「法華実相観註」「観心論註釈」著、歌人;後葉集入、勅撰3首;詞花(159)新古今(762)新千載(766)、続詞花集2首入[数ならぬ身にさへ年のつもるかな老は人をもきはざりけり](詞花;冬159、比叡山に歳暮の心、後葉集474)、[成尋(;法諱)の号] 善慧大師/真覚母 → 成尋阿闍梨母(じょうじんあざりのはは、歌人) T 2 2 6 3

T2259 定深(じょうじん;法諱、智虚空蔵ちくぞう;号)?-1119 平安期真言僧;京の清水寺の学僧/別当、1075「胎蔵要義」著/1100頃「東山往来」編、「焰魔天私記」「三帰真言宗」「不動秘要」外著多数

W2226 成深(じょうじん;法諱、) ? - ? 鎌倉期;僧/道助法親王家出仕or仁和寺の僧か?、歌人;1225(嘉禄元)道助法親王催[詠十首和歌]参加(10首入)、[もしほやく浦のへぶりもたちかさね霞いろ濃き春の夕暮](詠十首;121/浦霞)[窓はらふ風にただよふともし火のきえぬものからのこるともなき](同;130/窓灯)

W2211 貞尋(じょうじん;法諱、) ? - ? 平安鎌倉期;南都の僧/法師、歌人;1237刊[檜葉集]2首入、[月影をそでにかたしく草枕おもひいでよと鹿もなくなり](檜葉;羈旅636) ☆藤原実経男[貞尋](興福寺僧/師仲の弟)とは別人か?

W2234 貞深(じょうじん;法諱、) ? - ? 南北期僧、法華衆? 歌人;1387浄阿5代奉納[隠岐高田明神百首]2首出詠、[山人の道のゆくてのさわらびをみねの薪にをりやそふらむ(高田明神歌;14/嶺早蕨)、[あふと見る夢さへやがてさむしろに涙かたしきあかしかねつつ](同;74/寄恋宅)

杖人(じょうじん・東武、松井/鱗形屋) → 賢盈(けんえい・松井まつい、書肆/雑俳) B 1 8 3 0

T2263 成尋阿闍梨母(じょうじんあざりのはは、権大納言源俊賢女)988?-? 1073存 平安期の歌人、源義賢(orその弟興福寺僧の貞叙;藤原実方男)と結婚;成尋・仁和寺律師(成尊か)を出産、早く夫と死別;二子を養育し高僧とする/1072(延久四/85歳?)成尋(62歳)が渡宋;生別、兄弟;源頭基・隆国、家集「成尋阿闍梨母集」(成尋との離別悲嘆の日記的歌集)、勅撰9首;千載(491)新古(871)新勅(1132)続後撰(1288)続後拾(1170)新拾(745)新後拾以下、[忍べどもこの別れ路を思ふにはからくれなゐの涙こそふれ](千載;離別491/成尋と離別)

称心庵(しょうしんあん) → 元政(げんせい、日政、日蓮僧/詩歌) 1 8 2 3

正信院(しょうしんいん;法号) → 正信(まさのぶ・堀田/紀、藩主/文筆家) F 4 0 5 9

証真院(しょうしんいん) → 近陳(ちかのぶ・大給だいぎゅう/松平、藩主) M 2 8 1 8

彰信院(しょうしんいん;法号) → 順承室(ゆきつぐのしつ・津軽つがる、藩主正室/歌人) G 4 6 7 2

精進院(しょうじんいん) → 日隆(にちりゅう;法諱・恵匠、日蓮僧) D 3 3 5 7

浄信院(じょうしんいん;諡号) → 諦忍(たいにん;法諱・道隱、本願寺派僧) K 2 6 8 7

浄心院(じょうしんいん;法号) → 高朶(たかえだ・藤堂とうどう、藩主/歌人) C 2 6 5 3

性眞円智禅師(しょうしんえんちぜんじ;諡号) → 中諦(ちゅうたい;法諱・観中;道号、臨濟僧) 2 8 1 8



- 尚晋斎(しょうしんさい) → 万年(まんねん・竹林、商家/書家) K 4 0 8 1  
 松真斎(しょうしんさい) → 松峰(しょうほう、菅すが、絵師) L 2 2 6 4  
 成心斎(じょうしんさい; 入道号) → 秀元(ひでもと・大河内、武将/記録) D 3 7 9 7  
 情新斎(じょうしんさい・有賀) → 長隣(ちやうりん・有賀あるが、歌学者) L 2 8 9 9  
 乗心斎(じょうしんさい・中田) → 正朔(まさもと・中田なかつ/沢潟、神職) R 4 0 1 3  
 小心子(しょうしんし) → 大心(だいしん; 道号・義統; 法諱、臨濟僧) K 2 6 4 1
- K2210 **性信親王**(しょうしんしんのう、名; 師明、三条天皇第四皇子) 1050-85<sup>36</sup> 母; 藤原濟時女、1011親王宣下、三品/1018真言仁和寺の濟信門/出家/伝法灌頂を受/1025伝法具支灌頂を受、仁和寺門跡、1077法勝寺検校/1083内裏で孔雀經法を修す功で二品(法親王叙品の始め)、「大御室御記」「灌頂所用目録」「護摩私記」「長和親王御記」「兩頭八臂愛染王記」著
- K2211 **常信親王**(じょうしんしんのう、名; 常弘、貞常親王男) 1461-1513<sup>53</sup> 母; 庭田重有女盈子、真言勸修寺門跡、安祥寺寺務、1483親王宣下、連歌; 1511「永正八年魚鳥百韻」、新菟玖波5句入、法号; 染王院
- 彰信先生(しょうしんせんせい) → 蘭州(らんしゅう・久田ひさだ、儒者) C 4 8 5 7  
 宵寝長人(しょうしんちやうじん) → 如毛(じようもう・岡崎おかざき、酒造業/俳人) M 2 2 8 5  
 賞眞亭(しょうしんてい) → 竜山(りゅうざん・木内/小橋、儒者/尊王) E 4 9 2 5  
 静心尼(じょうしんに) → 綱(つな・梶かじ、綱女、国学者) F 2 9 5 3  
 少進入道(しょうしんにゅうどう) → 若水(じゃくすい・加藤かとう、歌人) W 2 1 0 2  
 生身如来(しょうしんにょらい) → 忍性(にんしやう、真言律僧/社会事業) G 3 3 5 0  
 聖尋母(しょうじんのはは) → 経平女(つねひらのむすめ・衣笠、鷹司基忠の妻/歌人) D 2 9 5 3  
 聖信房(正信房しょうしんぼう) → 湛空(たんくう・聖心房、浄土僧/歌人) I 2 6 0 6  
 定心房(じょうしんぼう) → 覚尋(かくじん; 法諱、天台座主) K 1 5 0 8  
 浄信房(じょうしんぼう) → 充賢(じゅうけん; 法諱、本願寺派僧/唱道) X 2 1 1 5
- T2264 **松水**(しょうすい) ? - ? 江前期俳人、  
 1680松意「談林軒端の独活うど」歌仙入/91不角「二葉之松」4句入  
 [智恵添えて気根を達磨ほどほしき](二葉之松; 132/達磨のごとき智恵と気魂がほしい)
- K2212 **唱水**(しょうすい齋藤さいとう) ? - ? 江前中期1688-1711頃江戸の謡曲家/儒仏に精通、歌にも通じ能弁家、土佐藩主山内豊房に抱えられ側近; 20人扶持、土佐城下本町に住、藩主側近として教養・遊芸を披露、1701「道の記」著/1706「廿一社」等謡曲5番を作曲、豊房没後江戸に帰る、「齋藤唱水日記」著
- T2265 **松水**(しょうすい) ? - ? 京の俳人; 淡々門、1728柳岡「万国燕」5句入  
 [鐘を撞く折は力に哀れ見え](万国燕; 736/力強く打っても姿には哀愁がある)
- T2266 **象水**(しょうすい・梁田やなだ、名; 邦胤、蛻巖男) 1719-95 播磨明石の儒者; 家学を受/兵学; 鈴木貞文門、大坪流馬術の免許受/1748父を継嗣; 明石藩儒/郷校景德館も継承、詩人、「象水文集」著、「象水詩集」「象水全書」「片玉集」「蛻巖府君行述」著、1741「蛻巖集」58「蛻巖集後編」編、[象水(;)号)の幼名/字/通称/別号]幼名; 千熊、字; 燮夫(しょうぶ、通称; 藤九郎、別号; 瀾哉
- K2213 **蕉水**(しょうすい) ? - ? 江後期文政1818-30頃信濃篠ノ井の俳人、  
 1828「無何有集」編、「夜半のかはづ」著
- T2267 **樵水**(しょうすい・石野いし、名; 黄裳、東陵男) 1814-76<sup>63</sup> 播磨太田村儒者(家学)、江戸の辻元崧庵門、昌平黌入学; 古賀侗庵門/帰郷; 播磨林田藩儒臣/藩校敬業館教授/1870権大参事、「唐宋八家文註積論」著、  
 [樵水(;)号)の字/通称]字; 学美、通称; 駿蔵
- 小醉(しょうすい・山本) → 秋水(しゅうすい・山本やまもと、藩儒/詩文) H 2 1 7 5  
 祥水(しょうすい; 道号) → 海雲(かいうん; 法諱・祥水、曹洞僧/詩人) 1 5 8 7  
 松水(しょうすい・原田) → 復初(ふくしょ・原田はらだ、儒者) B 3 8 5 7  
 松翠(正水しょうすい・井手) → 臥溪(がけい・井手いで、書家) K 1 5 7 7  
 松翠(しょうすい・酒井) → 利亮(としすけ・酒井さかい、医者/歌人) V 3 1 3 4  
 象水(しょうすい・野沢) → 弘道(こうどう・野沢のざわ、藩士/兵法家) K 1 9 8 2  
 象水(しょうすい・木村) → 卓堂(たくどう・木村/源、儒者) O 2 6 1 6  
 聖垂(しょうすい; 初法諱・梅山) → 独文(どくもん; 道号・方炳; 法諱、黄檗僧) L 3 1 4 9
- T2268 **聖瑞**(しょうずい; 法諱・一曇いちどん; 道号、号; 九華山人) ?-1399? 常陸水戸の臨濟僧; 復庵宗己門;

嗣法、鎌倉円覚寺84世、1428頃京の南禅寺106世、「幽貞集」著、  
応永(1394-1428)頃関東禅林で朴中梵淳と共に文筆僧の双璧と称される

- K2214 **宵瑞**(しょうずい・坤井堂こんせいどう、久世くぜ、名;敬皎、東機庵男)1746-181166 奈良の地誌家、狂歌作者、  
狂歌;溪月庵宵眠門;宵甫と同門、父の志を継嗣;「南都坊門考」著、完成789-1801頃大阪住
- K2215 **祥薬**(祥瑞しょうずい;法諱・菩提華;字、湯浅岑次男)1750-182374 阿波板野郡木津野村の真言僧、  
1765撫養の正興庵祥海門;出家/寛政1789-1801頃に飲光[慈雲]門;律・密教を修学、  
帰郷し幻夢庵を結庵/1815正興庵8世、詩文、1795「曼荼羅随聞記」96「両部曼荼羅随聞記」、  
1818「両部曼荼羅追記」19「現因曼荼羅諸尊便覧」、「両部曼荼羅便覧」「阿字観相」外著多数、  
[祥薬(;法諱)の幼名/号]幼名;岑吉、号;風狂子
- V2209 **昌瑞**(しょうずい;法諱・名;宗麟)1753-180250 越前坂井郡の真宗本願寺派教順寺8代住職、  
歌人;坂野致知むねとも(宗春)門、坂野敏知(致知男)の師  
祥瑞(しょうずい) → 玄肃(げんしゆく;法諱、真宗僧) J 1 8 6 6  
勝瑞(しょうずい・賀集) → 惟一(これかず・賀集かほ、製陶/国学) Q 1 9 6 1
- K2216 **丈水**(じょうすい・大塚/初姓;柏木、名;武嘉)1718-1808長寿91 相模愛甲郡猿ヶ島村の俳人;  
祇徳初世門/關更門、愛甲郡から高座郡にかけ門人多数、1788「猿墳集」、「匂ひ草」、  
「三千代草」「朧月」「日暮帖」「とほほととぎす」「春ふくろ」著、「五柏園丈水遺草」(1810)、  
[丈水(;号)の通称/別号]通称;六左衛門、別号;五柏園/夢狸窟、法号;心月院
- T2269 **饒穂**(じょうすい/ともは・相田あいだ)?-? 江後期国学者;平田篤胤門、  
1819篤胤「神字日文伝かんなひふみのでん」校正(高橋圀彦・佐藤信淵と共同で)
- T2270 **昼翠**(じゅうすい・石川いしかわ)1807-184135 伊勢亀山藩主の分家/亀山藩士、  
書;市河米庵門/詩;菊池五山門、滝沢馬琴と交流、  
「松窗雑録」著/1835「侠客伝四集昼翠評」36-37「八犬伝昼翠君評並答評」評  
[昼翠(;号)の通称/別号]通称;左金吾、別号;蟠杜/琴籟
- T2271 **常水**(じょうすい・玉川たまがわ、平秩へずつ東作か?)?-? 洒落本作者、1777菅江「売花新駅」叙者  
讓水(じょうすい・青地) → 兼山(けんざん・青地あおち/あおち、藩士/儒者) B 1 8 9 4  
饒穂(じょうすい・内田) → 饒穂(にぎほ・内田うちだ、庄屋/歌人) H 3 3 0 7  
松翠園静雄(しょうすいえんせいゆう) → 正樹(まさき・島崎、庄屋/国学者) C 4 0 2 9  
松誰翁(しょうすいおう) → 桃州(とうしゅう、歌学) E 3 1 9 9  
松水軒(しょうすいけん) → 友雪(ゆうせつ・青木あおき、談林俳人) D 4 6 0 8  
松水軒(しょうすいけん) → 如扶(じよふ・紙谷、俳人) C 2 2 9 2  
松翠軒(しょうすいけん) → 光信(みつのが・長谷川、絵師) E 4 1 3 7  
松瑞軒(しょうずいけん) → 自伯(じはく・村山むらやま、幕臣/医者) V 2 1 4 7  
称水斎(しょうすいさい) → 正伯(しょうはく・丹羽にわ、医者/本草) B 2 2 2 1  
定水湛然禅師(じょうすいたんねんぜんじ) → 大鼎(たいてい;道号・禅圭;法諱、臨濟僧) K 2 6 6 9  
松遂良(しょうすいりょう) → 遂良(すいりょう・松、詩人) 2 3 9 5  
小湍(しょうすう・北条) → 氏摩(うじあき・北条ほうじょう/伊勢いせ、藩士/詩) E 1 2 8 7  
昌数(しょうすう/まさかず・武村) → 益友(えきゆう・武村/竹村、俳人) 1 3 5 7
- K2218 **貞崇**(じょうすう;法諱、俗姓;三善)886-94459 京の真言僧;貞観寺慧宿門/金峰山に籠山修験、  
聖宝門;902談法灌頂を受/930真言醍醐寺4世座主、小野流を継承、  
大峰山下の鳥栖に鳳閣寺を開創;一派を成す、932朱雀天皇の病の護持僧、  
942東寺長者・金剛峯寺座主、権少僧都、「大峰界会万行自在法」/900「靈異相承惠印儀軌」著、  
[貞崇(;法諱)の通称]鳥栖寺僧都/真言院座主
- T2272 **正助**(しょうすけ・豊ゆたか) ?-? 江中期大阪の浄瑠璃作者、豊竹座で合作、  
1749「物ぐさ太郎」丈輔らと合作、49「八重霞浪花浜荻」/50「夏楓連理枕」合作
- T2273 **庄助**(しょうすけ・一ノ瀬いちのせ)?-? 江中期安永天明1772-89頃肥前武雄の儒者、  
武雄邑主鍋島家の儒臣/佐賀藩藩校弘道館の学職、「四書講義」「近思録講義」「小学講義」著
- K2219 **庄助**(しょうすけ・後藤ごとう、利八郎男)1787-186680 阿波名東郡早淵の組頭庄屋、  
吉野川水利問題を研究;江戸上水道・濃尾木曾川用水を視察、  
1850藩勸農方に「吉野川筋用水存寄申上書」を提出;用水の整備を建議、

「安政五年調書」「異国船壱件御箇条御達書」著、

- 庄助(莊助しょうすけ・岡部/賀茂)→ 眞淵(まぶち・賀茂/岡部、国学者/歌) 4 0 3 1  
庄助(正輔しょうすけ・正木屋)→ 千幹(ちもと・正木まさき、商家/国学者) F 2 8 4 8  
庄助(莊助しょうすけ・大村)→ 蘭林(らんりん・大村おむら、藩儒) D 4 8 3 0  
庄助(しょうすけ・石井/馬田)→ 当充(あつみつ・石井/馬田、蘭学/通詞) E 1 0 8 5  
庄助(しょうすけ・安藤) → 箕山(きざん・安藤、儒者) I 1 6 5 5  
庄助(しょうすけ・伊藤) → 蘭斎(らんさい・伊藤いとう、藩儒者/詩人) C 4 8 1 6  
庄助(しょうすけ・成田) → 蒼虬(そうきゅう・成田なりた、藩士/俳人) 2 5 0 7  
庄助(しょうすけ・関田) → 素弓(そきゅう・関田せきた、俳人/紀行文) J 2 5 4 1  
庄助(しょうすけ・石渡) → 芳勝(よしかつ・歌川うたがわ/石渡、絵師) C 4 7 8 9  
庄助(しょうすけ・建部) → 尚行(なおゆき・建部たけべ、庄屋/国学/詩) N 3 2 7 7  
庄助(庄介/正介しょうすけ・水谷)→ 雄琴(ゆうきん・水谷/水之谷みずのや、源、易占) B 4 6 2 8  
庄助(しょうすけ・倉舗屋/七五三屋)→ 長斎(ちようさい・七五三しめ、国学/俳人) I 2 8 3 8  
庄助(莊助しょうすけ・川関)→ 惟充(これみつ・川関かわせき、戯作者) O 1 9 8 9  
庄助(しょうすけ・園村) → 保尚(やすなお・園村そのむら、藩士/国学者) G 4 5 1 5  
庄介(しょうすけ・美濃部) → 貞休(さだやす・美濃部みのべ/柳沢、幕臣) P 2 0 5 2  
庄介(しょうすけ・美濃部) → 貞庸(さだのぶ・美濃部みのべ/青柳、幕臣) P 2 0 5 1  
正助(しょうすけ・今井/大国)→ 隆正(たかまさ・大国/山本/野之口/今井、国学/歌) 2 6 1 7  
正助(しょうすけ・稲生) → 若水((じゃくすい・稲生いのう/稲、儒/本草) G 2 1 3 0  
正助(しょうすけ・下郷/清水)→ 雷首(らいしゅ・清水/下郷/平、儒者/詩) 4 8 5 4  
正助(しょうすけ・鷹取) → 周成(ちかしげ・鷹取たかとり、藩士/地誌) 2 8 9 6  
正助(しょうすけ・大久保) → 利通(としみち・大久保、藩士/新政府樹立) R 3 1 7 8  
正輔(しょうすけ・為永) → 春水(初世しゅんすい・為永、人情本作者) 2 1 6 1  
承助(称助しょうすけ・奥井)→ 中里(ちゅうり・奥井おくい、藩儒/詩人) G 2 8 9 3  
祥助(しょうすけ・伊藤) → 武矩(たけのり・伊藤、儒者/詩文) O 2 6 6 1  
勝介(しょうすけ・湯浅) → 明善(あきよし・湯浅、藩士/文筆家) E 1 0 0 8  
勝助(しょうすけ・藤崎) → 元孝(もとたか・藤崎ふじさき、鷹匠) C 4 4 8 5  
勝助(しょうすけ・西川) → 松桂(しょうけい・西川にしかわ、書肆/歌人) V 2 2 1 6  
少介(しょうすけ・中台) → 惇(あつし・中台なかだい、藩士/儒者) E 1 0 6 2  
少助(しょうすけ・斎/斎藤)→ 静斎(せいさい・斎いつき/斎藤/斎宮、儒者) B 2 4 5 7  
少助(しょうすけ・山県) → 周南(しゅうなん・山県やまがた/県、藩儒) 2 1 4 8  
少輔(しょうすけ/しょう・浅野)→ 敬徳(たかのり・浅野あさの、砲術家) M 2 6 8 4  
少輔(しょうすけ/しょう・杉) → 孫七郎(まごしちろう・杉/植木、藩士/日記) 4 0 7 2  
少輔(しょうすけ・時田) → 光介(光輔みつすけ・時田しときだ、藩士/実業家) J 4 1 8 5  
将輔(しょうすけ・志村) → 恒憲(つねのり・志村、和算家) D 2 9 2 3  
章甫(正甫しょうすけ・武居)→ 敬斎(けいさい・武居たけい、儒者) F 1 8 6 3

- T2274 丈輔(丈助じょうすけ・並木なみき) ?-1735 大阪の浄瑠璃・歌舞伎作者;並木宗輔門、  
初め曾根崎の貸席業or医者?、1733より大坂豊竹座で並木宗輔と浄瑠璃を合作;  
1733「莠伶人吾妻雛形ふたばれいじんあづまのひながた」35「苺萱桑門筑紫轆かかやどしんつくしのいえずと」外多数、  
のち歌舞伎に転向(1737-47)立作者として活動、1737「女夫星浮名天神」(;笛風名)、  
1738「雛鶴振袖曾我」39「朝霞かげろふ姿」40「道行涙の朝霜」/42「浮洲巖昔鏡」、  
1742「紫式部大内文談」43「敵討夕告鳥」44「男達後日鑑」45「昔形吉岡染」外多数、  
1748浄瑠璃復帰;48「容競すがたくらべ出入湊」49「物ぐさ太郎」(一鳥・正助と合作)、  
[並木丈輔(;号)の別号]井筒屋/豊丈助/並木笛風
- T2275 丈助(じょうすけ・小川おがわ) ? - ? 江中期浄瑠璃作者:  
1732「忠臣金短冊ちゅうしんこがねのたんざく」(;並木千柳・安田蛙文らと合作;大坂豊竹座)
- K2220 丈助(じょうすけ・岩井いらい) ? - ? 江中期京の歌舞伎作者;合作者、  
1738「不老門珠階」/42「けいせい原桜」「近江源氏泰平凱」/43「へいせい原桜」合作
- K2221 丈助(じょうすけ・横地よこち) ? - ? 江後期尾張熱田富江町の言語研究者:

1821「宮訛言葉の掃溜」著、

[丈助(；通称)の別通称/号]別通称；柴田虎吉、号；如竟

- K2222 **丈助**(じょうすけ；通称・豊田とよだ、名；常貞、丈常3男)1752-182372 筑後久留米役人；1798郡奉行手附、久留米領内八郡で勤務/1813郡上奉行手附、「公用見聞録」著
- 丈助(じょうすけ・茅原) → 虚斎(きょさい・茅原ちはら、医者/和漢学) P 1 6 5 0  
丈助(じょうすけ・蜂谷) → 宗先(そうせん・蜂谷はちや、香道家) I 2 5 2 6  
丈助(じょうすけ・山野辺) → 弘軒(こうけん・山野辺やまのべ、藩儒) G 1 9 2 9  
丈助(じょうすけ・十一屋) → 昌光(まさみつ・羽間はざま/井岡/村上、商家/国学) R 4 0 5 6  
丈助(じょうすけ・久須美) → 祐明(すけあきら・久須美くすみ、幕臣/文筆) F 2 3 9 9  
丈助(じょうすけ・山崎) → 蘭洲(らんしゅう・山崎やまさき、藩医) C 4 8 5 8  
丈助(丈介じょうすけ・中村) → 餅花庵寸柳(もちばなあんすんりゅう、狂歌) B 4 4 5 5  
丈助(じょうすけ・木暮) → 松麓(しょうろく・木暮こぐれ、儒者/詩人) M 2 2 1 1  
丈助(じょうすけ・伊沢) → 敬忠(のりただ・伊沢いざわ、名主/歌人) H 3 5 2 4  
丈助(じょうすけ・羽間) → 昌光(まさみつ・羽間はざま/井岡/村上、商家/国学) R 4 0 5 6  
丈助(丈介じょうすけ・吉田) → 則孝(のりたか・吉田よしだ/戸田、商家/国学) K 3 5 3 3  
丈助(じょうすけ・近江屋) → 信之(のぶき・加地かじ、庄屋/歌人) H 5 8 5  
丈助(じょうすけ・山越) → 長春(ながはる・山越やまごし、国学者/歌人) P 3 2 1 7  
丈助(じょうすけ・森) → 知忠(ともただ・森もり/斎藤、国学/歌) W 3 1 7 1  
丈輔(じょうすけ・只野) → 魯人(ろじん・只野ただの、俳人) B 5 2 8 9  
条助(じょうすけ・馬場) → 春水(初世しゅんすい・馬場はば、書家) K 2 1 0 2  
条助(じょうすけ・高橋) → 怒誰(どすい・高橋、藩士/俳人) O 3 1 2 7  
城介(じょうすけ・西川) → 祐肖(すけのり/すけゆき・西川にしかわ、絵師) B 2 3 0 2  
讓助(じょうすけ・神) → 晋斎(しんさい・神じん、医者/儒者) O 2 2 5 3
- K2223 **勝成**(しょうせい；法諱、心蓮房；字)??-? 1115存 平安後期真言僧；醍醐山阿闍梨；中理趣房頼照門、永久三1115東安寺殿で勝覚より伝法灌頂を受、「要尊道場観集」著
- D2225 **昭清**(しょうせい) ? - ? 鎌倉期法印大和尚位、1232石清水若宮歌合参加、[吉野川はやくも春やながるらん音さへかすむせぜの岩浪](石清水若宮歌合；31)
- T2277 **承世**(しょうせい) ? - ? 連歌師、1475因幡千句・76表佐千句参加
- K2224 **祥盛**(しょうせい；法名、通称；三井越前守)??-? 室町戦国期僧侶/1464-87頃連歌に参加、1464「何水百韻」参加、新菟玖波集1句入
- C2251 **紹正**(しょうせい；法諱) ? - ? 戦国期の僧(石山本願寺関係の僧)；法橋、歌人、1563(永禄6)「十五夜三首歌合(永禄歌合)」参加(；判者柳原資定)、[吹きはらふ空にもくまや残るらむ月の桂に松風の声](永禄歌合；月前松風六番右)
- K2225 **性盛**(しょうせい/しょうじょう；法諱、頼心らいしん；字、俗姓；奥田)1537-160973 尾張中島郡真言僧；1551出家、沙弥戒を受/万徳寺で両部灌頂を受/1572土田庄宝幢院住/根来寺清浄金剛院入；玄譽門、中性院流・伝法院流・報恩院流・広沢流を相伝/顕教をも修学、1595上品蓮台寺中興1世、1604徳川家康の命で長谷寺2世、「塵塚」「行法通用抄」「曼荼羅供法則」「灌頂初後夜抄」著
- T2278 **松声**(しょうせい) ? - ? 京?の俳人、1690常牧「万歳楽」卷末五吟歌仙入
- Q2251 **松生**(しょうせい) ? - ? 江前期俳人；1691不角「二葉之松」入(102)、[夏過ぎて苦のひとつへる時鳥](二葉之松；102/風流人としてはゆっくり眠れる)
- T2279 **椽青**(しょうせい) ? - ? 加賀宮腰の俳人、1691北枝「卯辰うたつ集」2句入、[白菊の一重ひとへは寒し秋の暮](卯辰集；三425)
- T2280 **松星**(しょうせい・小林こばやし、別号；色花軒)??-? 尾張藩士/元禄(1688-1704)頃の俳人；露川門、1698「記念題」夾始と共編
- K2226 **照成**(しょうせい；名・加藤かとう)??-? 江戸中期尾張?和算家；葛谷実順(西塚重勝門)門、1741「開宗算法」校訂
- T2281 **昌成**(しょうせい・阪/坂さか[3代目]、別号；言阿ごんあ、和田為信男)??-1842 阪昌文の養子；幕府連歌師、1791より御会始に参加、1794より柳営連歌第三を勤める/1833再勤、菟玖波集の校訂、「兼載法橋伝」「新玉津島記」「柘の小櫛」「連歌誹詠流記」/1826「後楽園記」著

小成(しょうせい・上田) → 淇亭(きてい・上田うえだ、儒者/教育) L 1 6 5 4  
 小成(しょうせい・野口) → 小成(おなり・野口のぐち、農事改良/歌人) E 1 4 0 4  
 尚正(しょうせい・松尾/増田) → 敬業(けいぎょう・増田ますだ、儒者) F 1 8 4 6  
 尚政(しょうせい・荒木田) → 尚政(なおまさ・荒木田あらかだ、神職・歌人) P 3 2 6 7  
 尚政(しょうせい・池田) → 宗政(むねまさ・池田いけだ、藩主/日記) C 4 2 4 8  
 尚政(しょうせい・立花) → 宗茂(むねしげ・立花/高橋、藩主/家訓) B 4 2 3 9  
 尚清(しょうせい;法諱) → 尚清(しょうしゅう;法諱、田中、社僧/法印) Q 2 2 9 7  
 承性(しょうせい) → 承性(じょうしゅう、日記) T 2 2 3 6  
 祥正(しょうせい・鈴木) → 祥正(さちまさ・鈴木すずき、儒者/詩文) K 2 0 4 5  
 松生(しょうせい・乾) → 健輔(けんすけ・乾いぬい、医者/詩歌) N 1 8 6 1  
 章政(しょうせい・山尾) → 章政(あきまさ・山尾やまお/平、国学/歌人) I 1 0 6 3  
 昭清(しょうせい;法諱) → 昭清(しょうしゅう;法諱、社僧/法印/歌) T 2 2 2 2  
 証成(しょうせい) → 澄成(ちようせい、藤原、真言僧/歌人) J 2 8 1 2  
 証政(しょうせい・渡辺) → 証政(あきまさ・渡辺、地誌家) D 1 0 8 6  
 松生(しょうせい・松井) → 梅左(ばいさ・松井、俳人) B 3 6 2 5  
 松生(しょうせい・乾) → 健輔(けんすけ・乾いぬい、医者/詩歌) N 1 8 6 1  
 将世(しょうせい・長嶺) → 将世(まさよ・長嶺ながみね、藩士/国学者) R 4 0 2 8  
 勝生(しょうせい・由比) → 勝生(かつなり・由比ゆい、藩士/文筆) N 1 5 6 7  
 勝正(しょうせい・宇佐美) → 勝正(かつまさ・宇佐美うさみ、歌人) T 1 5 0 3  
 勝成(しょうせい・川枯) → 勝成(かちなり・川枯かわかれ、廷臣) S 1 5 5 7  
 勝成(しょうせい・桜井) → 勝成(かつなり・桜井さくらい、陪臣/歌人) U 1 5 7 3  
 勝政(しょうせい・生松) → 勝政(かつまさ・生松いくまつ、俳人) F 1 5 4 6  
 勝政(しょうせい・木村) → 勝政(かつまさ・木村きむら、藩士/兵法家) N 1 5 8 6  
 勝政(しょうせい・水谷) → 勝政(かつまさ・水谷みずたに、文筆家) F 1 5 4 7  
 勝政(しょうせい/かつまさ・生駒) → 等寿(とうじゅ・生駒いこま、藩士/絵師) E 3 1 8 5  
 勝盛(しょうせい・谷口) → 勝盛(かつもり・谷口たにぐち/谷梅、藩士/歌) V 1 5 0 5  
 勝清(しょうせい)すべて → 勝清(かつきよ)  
 照成(しょうせい・松平/榊原) → 月堂(げつどう・榊原さかきばら、幕臣/書家) H 1 8 3 0  
 紹正(しょうせい・大原) → 楚諾(そだく・大原おほはら、郡代/俳人) C 2 5 3 0  
 紹省(しょうせい;法諱) → 不昧(ふまい;道号・紹省、臨濟僧) H 3 8 4 9  
 紹清(しょうせい;法諱) → 紹清(じょうしゅう;法諱、浄土僧/連歌) J 2 2 8 7  
 紹清(しょうせい・小川) → 栄貞(ひでさだ・小川おがわ/三宅、里正/歌) I 3 7 5 7  
 紹盛(しょうせい・小島) → 知策(ちさく・小島こじま/塩谷、茶人/歌人) M 2 8 5 0  
 韶政(しょうせい・壺井) → 義知(よしちか・壺井つばい、故実家) 4 7 1 9  
 昌世(しょうせい/まさよ・辻/小宮山) → 謙亭(けんてい・小宮山、幕臣/儒) E 1 8 9 6  
 昌清(しょうせい・原) → 昌清(まさきよ・原はら、国学者) R 4 0 9 6  
 笑生(しょうせい・有君舎) → 将茂(まさしげ・石附いじづき、商家/歌/能) N 4 0 6 0  
 鐘成(しょうせい・暁) → 鐘成(かねなり・暁あかつき、木村明啓、戯作者) C 1 5 9 3  
 鐘成(2世しょうせい・暁) → 鐘成(2世かねなり・暁、安部貞昌、戯作者) H 1 5 0 7  
 鐘成(3世しょうせい・暁) → 鐘成(3世かねなり・暁、安藤昌太郎、戯作者) H 1 5 0

K2227 **定清**(定誓じょうせい;法諱、後藤基清男) **1185-1280長寿96歳** 鎌倉期真言僧;鎌倉丈六堂寺務、  
 定豪門;1227花蔵院で伝法灌頂を受、1243宏教より両部の印可を受、  
 真言宗金剛王院相伝三宝院流定清方の祖、1266「秘鈔如法尊勝」、「胎蔵界念誦次第」著、  
 [定清(;法諱)の通称] 加賀僧正/大門寺僧正

T2282 **定盛**(じょうせい・竹田たけだ、初名;昭慶、善慶男) **1421-150888** 宮中の医者:宮内卿、1468將軍義政療治、  
 法印、1485幕命で島津忠昌治療に薩摩下向/87將軍義尚治療、89宮中で[倭剂方指南]を講、  
 1490後土御門天皇より療治の賞として加賀に領地下賜、「延寿類要」「医家古籍考」著、  
 歌人;1472玉津島社法楽仮名題百首に詠歌外多くの歌会に参加、自邸で連歌会主催、  
 謡曲「是界せかい」作;1548演能、曲舞「関子騫」作曲、新菟玖波集1句入、  
 [定盛(;名)の号/法名] 号;快翁宗俊、法名;高安、宗慶・定祐じょうゆうの父

T2283 **常省**(じょうせい・中江なかえ、名; 季重、藤樹3男) 1648-1709<sup>62</sup> 近江の漢学者: 幼児期に両親没; 岡山藩主池田光政の命で岡田仲実(忠実)に養育される、儒をもって岡山藩に出仕、1664禄百五十石/書物預/学監/66致仕; 近江の藤樹書院に講ず/のち京で講筵を開く、対馬藩主宗義貞に出仕; 賓師/対馬の学問振興に尽力/8年後に帰京; 江西文内と改名、再び家学を講ず、子孫は対馬藩士の地位を世襲、「常省先生文集」著/「学庸狗尾」補校、宜伯・仲樹の弟、藤介の父、

[常省(;号)の幼名/通称]幼名; 龜之助/弥三郎、通称; 江西文内

R2230 **常省**(じょうせい・長瀬ながせ) ? - ? 江前期大阪?の俳人、  
1673西鶴「生玉万句」第十節分第三句/鳴脇句等入、  
[白鼠すめる町義のかね懸けて](生玉万句; 節分第三/福神大黒天の神使の白鼠、  
町義のかね; 家屋の売買譲渡・養子縁組等町内に出す帳切銀・顔見世銀・祝儀銀、  
脇句正行; 福は内にと厄払ふ宿)

常正(じょうせい)すべて → 常正(つねまさ)  
 常成(じょうせい・御菌) → 中渠(ちゅうきよ・御菌みその、鍼法医者) F 2 8 9 1  
 常成(じょうせい)すべて → 常成(つねなり)  
 常政(じょうせい・多賀) → 常政(つねまさ・多賀たが、故実家) D 2 9 7 2  
 常政(じょうせい・須賀) → 常政(つねまさ・須賀、絵師) D 2 9 7 9  
 常政(じょうせい・桂) → 宗信(むねのぶ・桂かつら、絵師) C 4 2 1 3  
 宗盛(じょうせい・清原) → 宗賢(むねかた・清原きよはら、廷臣/漢学) B 4 2 2 0  
 常清(じょうせい; 法名) → 永相(ながすけ・高倉たかくら、廷臣/歌人) D 3 2 9 1  
 常清(じょうせい・朝山) → 常清(つねきよ・朝山あさやま/源、廷臣/歌) F 2 9 1 6  
 常静(じょうせい/つねきよ・児島/佐々木) → 高成(たかなり・佐々木/児島/源、神道) M 2 6 6 3  
 常生(じょうせい・檜垣) → 常生(つねお・檜垣ひがき/度会、神職) B 2 9 7 7  
 常精(じょうせい) → 頓乗(とんじょう; 法諱、真宗本願寺派僧) S 3 1 3 2  
 常誠(じょうせい・檜垣) → 常信(つねのぶ・檜垣/度会、神職/連歌) D 2 9 0 1  
 常征(じょうせい・彦坂) → 常征(つねゆき・彦坂ひこさか/藤原、神職) E 2 9 1 3  
 成清(静清じょうせい) → 成清(せいきよ・静清じょうしゅう、社僧、歌人) N 2 1 7 8  
 浄清(じょうせい) → 勘兵衛(にせかんべゑ・村上、書肆) G 1 5 5 9  
 丞政(じょうせい/すけまさ?・松田) → 得芝(とくし・松田まつだ、農業/俳人) K 3 1 8 3  
 乗誓(じょうせい; 法名) → 宣明(のぶあき・中御門なみかど、廷臣/歌) 3 5 6 9  
 乗政(じょうせい/のりまさ・相田) → 朝久(ともひさ・相田あいだ、書家) Q 3 1 3 6

K2228 **定濟**(じょうせい; 法諱、内大臣土御門[源]定通男) 1220-82<sup>63</sup> 母; 後嵯峨天皇の乳母、真言僧、幼時に三論修学; 樹慶門、定親・憲深より伝法灌頂を受/1256醍醐寺座主、62東寺四長者、1267東大寺別兼任/80東寺長者; 護持僧/81大僧正、憲深より三宝院の重書重器を相伝、三宝院流定濟方の祖、「報恩院口決」著

松声庵(しょうせいあん) → 可興(かきょう・堀越/山田、俳人) J 1 5 3 5  
 松声庵(しょうせいあん) → 蒿居(こうきよ・松声庵、俳人) I 1 9 3 1  
 将世庵(しょうせいあん) → 将世(まさよ・長嶺ながみね、藩士/国学者) R 4 0 2 8  
 常世庵(じょうせいあん) → 枝直(えなお・加藤/橘、国学/歌) 1 3 8 0  
 上生庵(じょうせいあん) → 亮盛(りょうせい; 法諱・大仙; 字、真言僧) I 4 9 4 8  
 証誠院(しょうせいいん/しょうじょういん) → 日雄(にちおう; 法諱、日蓮僧) 3 3 8 2  
 証誠院(しょうせいいん/しょうじょういん) → 日修(にっしゅう・承慧、日蓮僧) D 3 3 9 9  
 勝聖院(しょうせいいん) → 艶(えん・山川やまかわ/西郷、育児/歌人) U 1 3 1 0  
 松声園(しょうせいえん) → 敬信(たかのぶ・黒沢くろさわ、藩士/国学) W 2 6 8 2  
 掌静翁(しょうせいおう) → 高成(たかなり・佐々木/児島/源、神道) M 2 6 6 3  
 常静翁(じょうせいおう) → 高成(たかなり・佐々木/児島/源、神道) M 2 6 6 3  
 鐘声館(しょうせいかん) → 万守(まんしゅ・白毛舎、狂歌作者) K 4 0 6 3  
 小井居(しょうせいきよ) → 玄魚(げんぎよ・梅素亭、絵師/狂歌) B 1 8 5 4  
 小青軒(しょうせいけん) → 雲山(うんざん・宮沢みやざわ、儒者/詩人) B 1 2 1 5  
 松声軒(しょうせいけん) → 古博(ひさひろ・清水しみず、国学/歌) L 3 7 9 7

咲青軒(しょうせいけん) → 海屋(かいおく・貫名ぬきな、書家/画人) 1 5 9 1  
 匠精軒(しょうせいけん) → 玄智(玄知/元智げんち・千田せんだ、医者) L 1 8 1 0  
 松盛斎(しょうせいさい、関本) → 理遊(りゆう・松盛斎、華道家) C 4 9 6 1  
 松盛斎(しょうせいさい、山田) → 理恩(りおん・松盛斎、華道:理遊の嗣) 4 9 4 2  
 常静子(じょうせいし・松浦) → 静山(せいざん・松浦まつら、藩主/儒/詩歌) B 2 4 7 6  
 松生常樹(しょうせいじょうじゅ) → 広胖(ひろなお・並河なみかわ/平、国学/歌) K 3 7 4 7  
 上生僧正(じょうせいそうじょう) → 定海(じょうかい; 法諱、真言醍醐寺座主) H 2 2 6 3  
 松声堂(しょうせいどう) → 梶子(かじこ・田村たむら、歌/書家/教育) U 1 5 8 8  
 松声堂(2代しょうせいどう) → 福子(ふしこ・望月もちづき、梶子の門弟/歌) P 4 7 6 0  
 箒青堂(しょうせいどう) → 晋流(晋柳しんりゅう・藤井/近藤、商家/俳人) 2 2 9 1  
 松声廬(しょうせいろう) → 山海(さんかい・稲村いなむら、俳人) L 2 0 9 0

- T2284 **松石**(しょうせき・渋江しづえ、名; 公正きんまさ) 1743-1814<sup>72</sup> 渋江紫陽の養子/肥後菊地の儒者;  
 加賀美鶴灘門・秋山玉山門、熊本藩士/養家代々の天地元水神社神職を兼務、  
 家塾星聚堂を開設; 子弟教育、  
 1794「菊地風土記」、「古学規」、「三余録」、「儀礼凡例考纂」、「苦具野佐和多理」、「洙泗正旨」、  
 「肥後郷名考」、「松石詠草」、「松石詩文集」、「松石和歌集」著、「渋江松石遺稿」、桑満伯順の師、  
 [松石(;)号]の字/通称]字; 子方、通称; 宇内
- K2230 **松石**(しょうせき・井坂いさか/修姓; 井、名; 広正、坂東正固7男) 1745-1819<sup>75</sup> 阿波板野郡の生、  
 大阪の伯父井坂広充の養子; 1772養家の家業両替商を継嗣、儒; 荻野玄常門、  
 詩; 片山北海門/混沌社入、茶・書・鼓も嗜む、詩集「松石遺稿」、  
 [松石(;)号]の幼名/字/通称/屋号]幼名; 七十郎、字; 雲卿、  
 通称; 市蔵/六郎右衛門/次郎兵衛、屋号; 泉屋、法号; 空誉宗玄
- K2231 **松石**(しょうせき・木村きむら、名; 之貞、梅田養碩男) 1776-1841<sup>66</sup> 伊勢久居藩侍医木村昌育の養嗣子、  
 医; 養父門/儒; 佐野西山門、国学・歌: 1795本居宣長門、さらに本居春庭・富樫広蔭門、  
 養父没後; 家督嗣、藩命により蘭学修学; 江戸の杉田玄白・大槻玄沢門、帰藩; 藩医上席、  
 詩人: 「瀟灑園しょうしゃえん交遊詩話」著、「瀟灑園遺稿」  
 [松石(;)号]の字/通称/別号]字; 公幹、通称; 昌碩、別号; 竹屋/瀟灑園しょうしゃえん
- K2232 **松石**(しょうせき; 号・鎌井かまい、名; 正寿) 1815-91 伊勢河芸郡神戸村大字百々川の医者、  
 小山田村西山に移住; 医を業とす/本草に精通、法号; 松寿院、  
 「伊賀伊勢採薬物産志」/1865「本草正譌」著、「伊勢伊賀物産」補校
- T2285 **小石**(しょうせき・河野かわの、名; 徴、臥松男) 1824-95<sup>72</sup> 安藝広島綿商/儒者: 頼聿庵門、1863広島藩儒、  
 1864藩主世子の侍読、幕府長州戦争では長州と折衝、維新後; 厳島神社禰宜/家塾を開く、  
 「老年常談」、「古今大家名文章」著、  
 [小石(;)号]の字/通称/別号]字; 文献、通称; 金蔵、別号; 視庵
- 昌碩(しょうせき・木村) → 松石(しょうせき・木村/梅田、医者/詩人) K 2 2 3 1  
 昌碩(しょうせき・高野) → 陸沈亭(りくちんてい・高野たかの、医者/藩士) 4 9 8 0  
 椽石(しょうせき・松田) → 立敬(たつり・松田まつだ/種谷、儒/詩歌) Z 2 6 5 7  
 紹碩(しょうせき・里村) → 昌伯(しょうはく・里村[北家]、幕府連歌師) B 2 2 2 2  
 湘夕(しょうせき、俳人) → 籬島(りとう・秋[菘]里あきさと、読本作者) C 4 9 2 8  
 生石(しょうせき) → 海荘(かいそう・菊池/垣内、詩人/窮民救済) 1 5 8 5  
 松石(しょうせき) → 友光(ともみつ・佐伯さえき、国学) V 3 1 2 6  
 松石(しょうせき・丸山) → 株徳(もとりのり・丸山まるやま、宿老/書・歌) L 4 4 4 2  
 松石(しょうせき・渡辺) → 善慶(よしのり・渡辺わたなべ、国学/歌) Q 4 7 1 5  
 小績(しょうせき・小橋) → 橘陰(きつゐん・小橋こばし、儒者) L 1 6 4 0
- K2229 **韶碩**(紹碩じょうせき; 法諱・峨山がさん; 道号、俗姓; 源) 1276-1366長寿<sup>91</sup>歳 能登生田の曹洞僧;  
 初め11歳で天台寺院で出家; 16歳で比叡山の円宗門; 天台教学を修学、  
 曹洞僧; 1299加賀大乘寺の瑩山紹瑾けいざんしょうきん門/1306印可を受/21嗣法、24総持寺2世住寺、  
 総持寺を輪住寺とす、1340永光寺住寺兼任; 20年間毎日両寺13里の山道往復; 峨山道と称、  
 「峨山和尚山雲海月」、「峨山和尚法語」著、優れた門弟; [峨山二十五哲]と称される
- T2286 **丈石**(じょうせき・早川はやかわ、名; 知雄) 1695-1779<sup>85</sup> 京の俳人; 知石門/師没後宗順に改号、歌も詠、

1735「筆乃舞台」(文台始記念集)42「長楽寺千句」44「千載堂百歌仙集」51「京師点者家譜」編、  
1751「誹諧家譜」52「霜轍誹諧集」59「柿園再興志願記」64「知石追善集」68「除元集」編  
1768「新霜轍誹諧集」76「いそやなぎ」編、「ありのすさみ」(没後1801息子丈石編)外編著多数、  
[丈石(;号)の別号] 丈石斎/和雄/宗順(そうじゅん)/千載堂

貞石(じょうせき) → 貞石(ていせき・星流舎、狂歌) B 3 0 3 5  
饒石(じょうせき・並河) → 饒石(にぎし・並河なみかわ/高島、国学/歌) H 3 3 1 4  
松跡庵(しょうせきあん) → 湖照(こしょう、俳人) C 1 9 9 7  
松石庵(しょうせきあん) → 秀雅(ひでまさ・結城ゆうき、廷臣/文筆/書) M 3 7 2 6  
嘯夕軒(しょうせきけん) → 宗堅(そうけん・嘯夕軒、茶人/料理) B 2 5 2 6  
小石湖堂(しょうせきこどう) → 栗野(りつや・小野おの、商家/漢学/詩歌) C 4 9 1 6  
松石斎(しょうせきさい・中山) → 高陽(こうよう・中山なかやま、詩人/絵師) C 1 9 0 0  
丈石斎(じょうせきさい) → 丈石(じょうせき・早川はやかわ、俳人) T 2 2 8 6  
松石山房(しょうせきさんぼう) → 純造(じゅんぞう・郷ごう、農家/剣術/幕臣) O 2 1 4 8

K2233 正雪(しょうせつ・由比ゆい/由井/楠、岡村伝三郎[弥右衛門]男) 1610-51 自刃 42 駿河庵原郡由比紺屋、  
駿府宮ヶ崎の生とも?、軍学;江戸の石川主税門;楠流軍学を修学、旗本・藩士に軍学を講ず、  
1651(慶安4)牢人を語らい幕府反乱を画策;江戸で丸橋忠弥を指揮者とし自らは駿府に、  
京・大阪の同志と連携;事前に露見し駿府茶屋町梅屋で自刃、  
「和漢軍理」「明君国補伝記」/1650「金井正教軍法書」著、  
[正雪(;通称)の幼名/別通称]幼名;久米/久米之助、別通称;松雪

T2287 昌説(しょうせつ) ? - ? 連歌、1743吉宗還暦「御賀千句」入

K2234 蕉雪(しょうせつ・村井むらい、名;煥/烜けん、琴山長男) 1769-1841 73 肥後熊本藩医;1825父継嗣、  
藩校の医学校再春館医学監に就任/古書画に興味;明の王健章画風を慕い一派をなす、  
肥後南宋画の祖、「蕉雪斎集」「蕉雪斎随筆」「原診館叢書」「持脉轻重法」著、「蕉雪遺稿」、  
[蕉雪(;号)の字/通称/別号]字;士陽/子陽、通称;冠吾、  
別号;玉蟾ぎよくせん/天水/三鳳/叢桂園

蕉雪(しょうせつ) → 得巖(得岩とくがん:法諱・惟肖、臨濟僧五山文学) K 3 1 5 3  
蕉雪(しょうせつ) → 一蝶(初世いちちょう・英はなぶさ、絵師) C 1 1 0 8  
松雪(しょうせつ;法号) → いぬ(・松葉まつば、歌人) I 1 1 1 5  
小継(しょうせつ・磯部) → 小繩(小継おつな・宇治土公磯部うじつちぎみいそべ、神職) D 1 4 2 4  
性節(性節しょうせつ・柏巖) → 柏巖(はくがん・性節、黄檗僧) I 3 6 8 8

K2235 常雪(じょうせつ) ? - ? 京の押小路富小路角の俳人;1702轍士「花見車」入、  
[出替でがはりに虎杖いたどり山のあるにけり](花見車;四155/出替りは春秋の奉公人の入替り、  
(春に田舎に戻る娘達が月水を通すという虎杖取に山に入る)

T2288 丈雪(じょうせつ;号・西村にむら、別号;諷流庵) ?-? 江中期上方の俳人;其角系、病弱のため家業廃業、  
河内老原に隠棲、1721「撰河二百韻」編・「住吉奉納一万句集」評

常説(じょうせつ;号) → 鳳山(ほうざん:法諱、融通念仏僧) B 3 9 1 2  
松雪庵(しょうせつあん) → 智貞尼(ちてい・雲井くもい、国学/歌人) M 2 8 4 5  
松雪院(しょうせついん) → 堯慶(ぎょうけい・高井/藤原、歌人) C 1 6 3 8  
小説家主人(しょうせつかしゅじん → こごとのやしゅじん) → 重恭(しげたか・川崎、国学者) R 2 1 2 3  
小説家大人(しょうせつかだいじん → こごとのやのうし) → 重恭(しげたか・川崎、国学者) R 2 1 2 3  
松雪軒(しょうせつけん) → 友梅(ゆうばい:法名・慶松、葉種業/歌人) D 4 6 5 7  
松雪斎(しょうせつさい) → 相阿彌(そうあみ、将軍同朋衆/絵師/諸芸) 2 5 0 2  
象雪軒(しょうせつけん・岩崎) → 些斎(ささい・岩崎いわさき、藩儒) H 2 0 4 1  
衝雪斎(しょうせつさい) → 可参(かさん・三宅、軍記作者) F 1 5 6 5  
松雪洞(しょうせつどう) → 九華(きゅうか・玉乃たまの/森脇、藩士/儒者) I 1 6 7 0

V2267 勝詮(しょうせん;法諱、) 1111 - 1200 鎌倉前期;和泉出身/興福寺僧;藏俊門/角院住、  
1179(治承3)法橋/82(寿永元)律師/87(文治3)権少僧都/権大僧都、維摩会講師、  
歌人;自房で歌会催、檜葉集2首入、  
[後白河院御時 今熊野御八講つとめ侍りけるによみ侍りける、  
みくまのののうらのはまゆふここのへにかさねてきみぞながめましける]、



(檜葉;神祇/賀祝512)

- K2236 **聖詮**(しょうせん;法諱、林観房;号)?-? 平安後-鎌倉期治承-正治1177-1201頃の華嚴僧、仁和寺華嚴院の景雅門;華嚴を修学、東大寺尊勝院住;1179東大寺八幡宮定齋講に出仕、1191興福寺維摩会堅義/95東大寺復興供養会の衲衆を務む、明恵に俱舍論・因明を伝授、明恵(高弁)の神護寺の小宝螺講開催のとき結衆となる、1199「華嚴五教章深意鈔」著
- W2216 **聖宣**(しょうせん;法諱、) ? - ? 鎌倉期;南都の僧/法師、歌;1237刊[檜葉集]入、[興福寺中南院の童 はつといふ童の常に竹林院の維摩会いまるにまいけるが忘れ難く、鶯のそのはつこゑをききしより竹のはやしのわすられぬかな]
- K2237 **承詮**(しょうせん;法諱) 1217 - ? 1286存 鎌倉期叡山天台学僧;天台三大部に精通、法印、権大僧都、妙法蓮華経文句・摩訶止観・法華文句記などの刊行に尽力、1768「法華玄義略抄」69「法華玄義覚要鈔」77「文句覚要鈔」著
- R2218 **稍蟬**(しょうせん) ? - ? 甲斐の俳人;1703不角「広原海わたつみ」入、[高麗人こまびとも馬こまから落ちし下女が乳](広原海/久米仙人の白脛・遍昭の女郎花など)
- R2220 **小川**(しょうせん/おがわ?) ? - ? 俳人;雑俳/1711「花鳥」(江戸万屋清兵衛板)入、[恋瘦せは胸の隠るゝ狭けふの布](花鳥/前句;合せこそすれ合せこそすれ)(狭の布は陸奥希婦で織った幅の狭い白布/豊かだった胸も包めるほどになった)、(本歌;みちのくのけふの細布ほど狭み胸あひがたき恋もするかな;俊頼髓脳)
- T2289 **松洗**(松泉しょうせん・児玉) 1684-1736 53歳 京の俳人:松春門(師の従弟?)/雑俳/嘶本作者、1721撰集「半あわせ」杏辻らと共編/26「当流嘶初笑」28「軽口機嫌袋」著、「蘆原馬」著「四十三番時代不同発句合」に入集、[松洗(松泉;号)の別号]池流亭/小僧
- K2238 **勝川**(しょうせん・狩野かのう、名;雅信ただのぶ、晴川長男) 1823-80 58 江戸木挽町狩野家の絵師;父門、法眼、法印、奇画多く千枚書を書く、「百富士縮図」画、歌;1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、[花がめの氷も今とはけにけり小簾すのひまもる風にぬるみて](大江戸倭歌;37氷解)、[勝川(;号)の幼名/別号]幼名;栄次郎、別号;素尚斎/尚古/櫟堂/勝川院
- |                   |                           |           |
|-------------------|---------------------------|-----------|
| 涉川(しょうせん)         | → 其角(きかく・榎本/宝井、俳人)        | 1 6 0 5   |
| 松宣(しょうせん・半井)      | → 和年(わねん・半井なからい、俳人)       | 5 3 5 5   |
| 松泉(しょうせん)         | → 亀泉(きせん;道号・集証、臨濟僧)       | F 1 6 1 0 |
| 松泉(しょうせん)         | → 真薬(しんずい;法諱・季瓊きけい、臨濟僧)   | 2 2 3 6   |
| 松仙(しょうせん・岡村)      | → 丈白(じょうはく・岡村おかむら丈山、儒/詩)  | B 2 2 2 4 |
| 松僊(しょうせん・宮下)      | → 良文(よしぶみ・宮下みやした、国学/歌)    | P 4 7 4 4 |
| 正旃(しょうせん;法諱)      | → 竺芳(じくほう;道号・正旃、臨濟僧聖一派僧)  | Q 2 1 4 2 |
| 昌宣(しょうせん/まさのぶ・鈴木) | → 去角(きやく・鈴木すずき、藩士/俳人)     | H 1 6 1 1 |
| 性潜(しょうせん;法諱)      | → 竜溪(りゅうけい;道号・性潜、臨濟のち黄檗僧) | H 4 9 2 1 |
| 笑僊(しょうせん・伊沢)      | → 蘭軒(らんせん・伊沢いさわ、藩医/詩人)    | B 4 8 9 3 |
| 蕉川(しょうせん・関)       | → 勝之(かつゆき・関せき、藩士/儒者)      | N 1 5 9 4 |
| 小泉(しょうせん・松本/池田)   | → 可候(かこう・一筆庵、溪斎英泉、絵師/戯作)  | 1 5 1 3   |
| 小遷(しょうせん・佐々木)     | → 弘綱(ひろつな・佐々木、国学者/歌人)     | G 3 7 4 2 |
| 小扇(しょうせん・正亀)      | → 慶次(よしつぐ・正亀しょうがめ、神職/俳人)  | E 4 7 6 5 |
| 尚選(しょうせん・寺井)      | → 重房(しげふさ・寺井てらい、絵本絵師)     | S 2 1 5 1 |
| 湘川(しょうせん・桜川/吉原)   | → 玉珂(ぎよくか・吉原よしはら、俳人)      | O 1 6 8 2 |
| 象先(しょうせん・中山)      | → 高陽(こうよう・中山なかやま、詩人/絵師)   | C 1 9 0 0 |
| 樟川(しょうせん・木村)      | → 黙老(もくろう・木村、藩家老/芸能)      | B 4 4 1 4 |
- T2290 **性禪**(しょうぜん;法諱・深勝房)?-? 鎌倉期;華嚴僧;明恵門/師に「愛染明王啓白」を懇望、1224「神護寺如法執行問答」に師との問答入/1209「明恵上人歌集;遣心集」2首入、[けがさじと思ふ御法みりのともすれば世を渡る橋となるぞかなしき](明恵歌集;58、明恵の返;けがさじと思ふ心のあるきみは世をいづる橋となどかせざらむ;同60)
- T2291 **証禪**(しょうぜん;法諱・尊順房)?-? 華嚴僧;明恵の門弟/歌人;1248「明恵上人歌集」入、[松風のなみにともなふ秋の夜をきくによそなる袖ぞしをるる](明恵歌集;142/返歌)(安貞二1228初秋明恵の贈歌;秋の夜はわきぞかねつる清滝の波にともなふ峰の松風)

☆尊順房尊弁(高山寺代々記入)と同一説あり

- K2239 **聖禪**(しょうぜん;法諱、藤原任尊男or法橋仁尊男?) 1202-? 東大寺華嚴僧;尊玄門、華嚴・俱舎に通ず、京仁和寺に住;宥尊・行遍門;密教を修学、鳴滝常楽院住;梶尾の明恵(高弁)と交流、「俱舎論愚意抄」「俱舎論三季抄」「因明大師受学抄」「違結自他共」「最勝王経略釈」外著多数
- K2240 **性全**(しょうぜん・梶原かむら、別号;浄観) 1266-1337 72 鎌倉期相模鎌倉の医者;丹波家に入門、名医と称される、和氣一族or梶原景時の末裔?、息子道全も医を継嗣、1304「頓医鈔」15「万安方」、「棒心方」「婦人頓医鈔」著
- K2241 **正全**(しょうぜん) ? - ? 室町期歌人;1457「武家歌合」参(正徹・心敬らと)[貴舟川うき水上もここを瀬に越して袖ほす跡のしら浪](武家歌合;廿二番左36)
- K2242 **正善**(しょうぜん;号) ? - ? 戦国期文明明応1469-1501頃の連歌師;宗祇と一座;1482「文明十四年薄何百韻」/88「長享二年朝何百韻」、96明応五年兼斎と百韻
- V2258 **正善**(しょうぜん;法諱・湯浅)? - ? 江前期;上方の沙弥、歌人、1670下河辺長流[林葉累塵集]10余首入、[明けやらぬ雲居ながらも甲斐が嶺はさやに見えつつふれる白雪](林葉累塵;冬696、古今集東歌[甲斐が嶺をさやにも見しかけられなく横ほり伏せるさやの中山])[め(妻)におくれて後、はかなくてむもれし山の岩ねよりまづぞ苔むすふるきまくらば](同集;雑1102)
- K2243 **性善**(しょうぜん;法諱・洞泉;字) 1676-1763 88 山城の真言僧;醍醐寺報恩院の寛順門;受法、山城貞福律寺住、のち東大寺戒壇・真言両院の長老、高野山・戒壇院・長谷寺で法流の伝授、晩年;光明台院の長老、「洞随聞記」「浴像作法」「灌頂口決」「五色阿字」「悉曇要解」外著多数
- K2244 **樵禪**(しょうぜん;道号・禅鑑ぜんがい;法諱、英彦山教乗坊慶抽2男) 1798-1875 78 豊前の臨濟僧;豊後高松の福寿寺寛道門;出家、1815(18歳)日田菅相寺盤竜門、漢学;咸宜園で修学、上京;妙心寺棲神門;15年間修学、伊予の竜潭寺行応玄節に参禅/1831伊予曹溪院住持、梅林寺羅山元磨門;嗣法、晩年;洞林寺に退隠、勤王家、「樵禅和尚語録」「莊山十哲作家伝」、1859「禅林住持訓」、「竜山住寺見聞録」「采樵余稿」「九江夜話」「九江詩鈔」著、[樵禅禅鑑の号] 九江/吸江軒/采樵/衲樵/秃樵
- K2245 **尚善**(しょうぜん・斎藤さいとう) 1826-1862 37 羽前山形十日町の最上流和算家;斎藤尚仲門、高橋尚仲門、師没後に関流の長谷川寛門、1842「零約術雑題」48「戊申応答集」、1850「算法雑集起源」、「算法初術集」「算法諸術集」「算法増約術」「算法平方零約術」著、「初学天元術」「地方測量定格法」「諸術会書」「算法分果術」編、外編著多数、芝木安英の師、[尚善(;名)の別名/字/通称/号]別名;雋しゅん、字;子栄/子永、通称;忠吉、号;碧屋山、法号;良高院
- K2246 **性禪**(しょうぜん;号・藤村ふじむら、佐助男) 1853-1911 59 京の両替商伊勢屋の生/1864平曲:奥村檢校門、波多野流を修得;檢校となる、維新後京に平曲会を催し普及に尽力、「波多野流大秘事」伝

正善(しょうぜん;法名)	→	義範(よしのみ・茂木もてぎ/源/小田、武将/連歌)	F 4 7 7 8
性善(しょうぜん;法諱)	→	大眉(だいま;道号・性善、黄檗僧)	K 2 6 9 7
勝善(しょうぜん・山田)	→	斗養一(とよいち・山田、箏曲/作曲家)	R 3 1 0 5
勝善(しょうぜん・大畑)	→	才蔵(さいざう・大畑おおはた、庄屋/勸農家)	G 2 0 9 0
勝善(しょうぜん・小泉)	→	勝善(かつよし・小泉こいずみ、神職/歌)	S 1 5 8 7
尚善(しょうぜん・生島)	→	南濤(なんとう・陶山すやま、医/漢学)	J 3 2 3 4
尚善(しょうぜん・児島)	→	願斎(いさい・児島こじま、医者)	F 1 1 4 4
松前(しょうぜん・林)	→	貞(ただし・林はやし、歌人)	Z 2 6 0 5
小善(小膳しょうぜん・菅)	→	甘谷(かんこく・菅かん/府川/堀、儒者)	D 1 5 6 5
小膳(しょうぜん・生田)	→	万(よろづ・生田いくた、藩士/国学/救民)	4 7 4 2
小膳(しょうぜん・生田)	→	精(くわし・生田いくた、万の甥/藩士/国学)	D 1 7 5 7
小膳(しょうぜん・石川)	→	村文(むらぶみ・石川いしかわ、邑主/歌人)	D 4 2 2 0
小膳(しょうぜん・東儀)	→	心非(しんび;号・東儀、幕臣/俳人)	2 2 7 0
小膳(しょうぜん・加賀美)	→	光章(みつあき・加賀美/源/間宮/飯田、神道/国学)	C 4 1 9 9
小膳(しょうぜん・藤井)	→	高尚(たかなお・藤井/大中臣、神職/歌学)	2 6 1 3

- 小膳(しょうぜん・相田) → 朝久(ともひさ・相田あいだ、書家) Q 3 1 3 6  
 小膳(しょうぜん・有馬) → 邦昌(くにまさ・有馬ありま、国学者) D 1 7 9 7  
 昌全(しょうぜん・坂田/吉田) → 自庵(じあん・吉田/坂田、外科医者) B 2 1 0 1
- K2247 定泉(じょうせん;法諱、堯戒;号)1273-? 大和西大寺の真言律の学僧;慈真和尚門、  
 1292具戒・律学を究明;梵網經古迹を講筵、「梵網經古迹補忘鈔」「戒躰要鈔」「補忘鈔」、  
 1288「三聚淨戒通受懺悔鈔」1310「表無表章頭業鈔」著/1312「共不共門三聚」編、外編著多
- T2292 乘専(じょうせん;法諱、俗名;高橋盛永、刑部大輔高橋高景2男)1295or74-1359? 丹波六人部の僧、  
 幼時に出家/真宗に帰依;六人部に建立した寺を毫摂寺と称す;のち本願寺に属す、  
 後醍醐天皇より勅額と清範法眼の号を賜る、本願寺覚如(宗昭)門;  
 師より口伝鈔・改邪鈔を伝授、毫摂寺を京の出雲路に移設、丹波・但馬・大和を巡化;  
 教行信証・末灯鈔等を書写、覚如没後はその子従覚に覚如伝[慕帰絵]制作を勧める、  
 権大僧都に至る、1352「最須敬重絵詞」著、  
 [乘専(;法諱)の別法諱/通称]別法諱;清範/円空、通称;和泉守
- K2248 定運(じょうせん;法諱) ? - ? 南北期?僧;権律師、  
 連歌;1356成立「菟玖波集」8句入(166/246/308/592/900/926/1477/1633)、  
 [おられぬ花は滝のしらなみ](菟玖波;春166/前句;霞より上に見えたる山桜)
- K2249 城泉(じょうせん、高橋たかはし/岩船検校)?-1687 音曲家;八坂流妙聞派平曲家;山川検校貞久門、  
 1637検校/45初めて将軍家に召される;のち家綱・綱吉に召され平曲を語る、  
 明暦1655-58頃の久我家との紛争に当道座側代表となる、連歌;1673昌陸と百韻、  
 [城泉(;号)の別号]別号;岩船検校/岩船城泉、法号;日明、正元(幕府小普請方)の父
- T2293 常仙(じょうせん・志村むら)1712-174433 江戸の俳人;沾洲門、1738十百韻催、  
 1741「千々の秋」34「歳旦集孤鶴汀」「享保十九年甲寅歳旦」編、「続乃筏」「鳩むかし」著、  
 1734来川「金台録」35沾洲「友あぐら」36沾涼「鳥山彦」入/「江戸廿歌仙」「江戸十余歌仙」入、  
 [渡し場は一人も渡し秋のくれ](金台録/秋の夕暮わびしさは船頭の心にも沁る)  
 [常仙(;号)の通称/別号]通称;源七郎、  
 別号;長鶴(;初号)/孤鶴軒/孤鶴汀/二橋庵/青麦堂/槐庵  
 絵師懐月堂安度と同一? → 安度(あんど・懐月堂、絵師) G 1 0 1 9
- T2294 常仙(じょうせん、藤田ふじた、鶴丈坊)?-? 江戸虎御門の俳人;江戸座点者/志村常仙の一族、  
 1768雪成「俳諧鱗はいかいけい」(1848沾山7世再編)28点句入
- K2250 醸泉(じょうせん・日野ひの/岡田おかだ和煦かざあき/にこてる、日野好古の養嗣子)1785-185874 伊予西条藩士、  
 儒;伊予小松藩儒近藤篤山門;朱子学修学、1799江戸で上田善淵/田中子恭/仁井田南陽門、  
 1809倉成竜渚/樺島石梁門、1809(文化9)昌平黌入学;古賀精里門、帰藩;藩校沢善堂教官、  
 文教関係50年;多くの藩士を指導、1838天保7)藩命で領内踏査;藩内地誌編纂、  
 7年かけ1842領内地誌「西条志」20巻完成、  
 「兵備妄言」「西条志附属画図」「吐肝新論」「半隠雑誌」「醸泉詩稿」著外多数、  
 [醸泉の字/通称/別号]字;公起/公春、通称;大介/徳右衛門/暖太郎、別号;半隠
- 杖銭(じょうせん) → 芭蕉(ばしょう・松尾、俳人) 3 6 1 7  
 常専(じょうせん;法名) → 永孝(ながたか・高倉、廷臣/歌/連歌) E 3 2 0 2  
 常仙(じょうせん・田口) → 五左衛門(ござえもん・田口、藩士/記録) M 1 9 5 2  
 常川(じょうせん・下郷/千代倉) → 亀洞(きどう・下郷、学海、醸酒業/俳人) B 1 6 5 7  
 常宣(じょうせん・山崎/河内) → 常宣(つねのぶ・河内こうち/山崎、幕臣) D 2 9 0 4  
 常宣(じょうせん・小町谷) → 常宣(つねよし・小町谷こまちや、神職/国学) F 2 9 6 8  
 常宣(じょうせん・三輪) → 常宣(つねのぶ・三輪みわ、国学者) G 2 9 4 5  
 淨泉(じょうせん;字) → 亮汰(りょうたい;法諱、真言学僧/著述) I 4 9 7 8
- K2251 貞禪(じょうぜん/ていぜん;法諱)1426-? 1479存 美濃不破郡の天台宗菩提寺大乘坊の僧/権律師、  
 1479「不動明王念誦次第依台」著
- 成全(じょうぜん;法諱) → 成全(せいぜん・じょうぜん;法諱、僧/歌人) J 2 4 1 0  
 乗全(じょうぜん・松平) → 乗全(のりやす・松平、藩主/老中、詩歌) G 3 5 0 7  
 乗禪(じょうぜん・荒木) → 忠栄(ちゅうえい・荒木、藩士/馬術家) F 2 8 7 9  
 常善(じょうぜん・新納) → 常善(つねよし・新納にいり、藩士/歌人) G 2 9 1 3

常善(じょうぜん・檜垣) → 常善(つねよし・檜垣/度会、神職/記録) E 2 9 2 5  
 常善(じょうぜん・宇佐美) → 樸仙(朴仙ぼくせん・宇佐美うさみ、医者/儒) D 3 9 6 5  
 常前(じょうぜん・檜垣) → 秀俊(ひでとし・檜垣/度会、神職) D 3 7 3 2  
 松泉院(しょうせんいん) → 政則(まさのり・赤松/本姓;源、武将/歌) F 4 0 9 0  
 勝仙院(しょうせんいん) → 政長(まさなが・畠山/源、管領/連歌) F 4 0 1 7  
 勝川院(しょうせんいん) → 勝川(しょうせん・狩野かのう、木挽町絵師) K 2 2 3 8  
 性善院(しょうぜんいん) → 日応(にちおう;法諱、日蓮僧) 3 3 8 3  
 性善院(しょうぜんいん) → 長富(ながとみ・市橋いちばし、藩主/歌) K 3 2 4 0  
 正善院(しょうぜんいん) → 日長(にちちやう;法諱・恵秀、日蓮僧) F 3 3 2 1  
 章善院(しょうぜんいん) → 宗春(むねはる・徳川/松平/源、藩主) C 4 2 2 7  
 章善院(しょうぜんいん) → 茂世子(もせこ・堀ほり/秋月、藩主室/歌) L 4 4 2 3  
 小瓊翁(しょうせんおう) → 滄浪(そうろう・秦はた、儒者) D 2 5 2 6  
 小泉漁夫(しょうせんぎよぶ) → 同斎(どうさい・朝川あさかわ、藩儒者/書) E 3 1 4 4  
 勝善治(しょうぜんじ・杉山) → 梅園(ばいえん・杉山/楡山すぎやま、儒者/詩) 3 6 6 5  
 松泉沙彌(しょうせんしゃみ;号) → 慈観(じかん;法諱、天台僧) P 2 1 9 4  
 松千堂(しょうせんどう) → 壽角(じゅかく;号・立羽たちば、俳人) I 2 1 5 1  
 小禅道人(しょうぜんどうじん) → 烏洲(うしゅう・金井かない、儒者/絵師) B 1 2 7 5  
 浄善房(じょうぜんぼう) → 明快(みょうかい;法諱、叡山天台僧/歌) G 4 1 2 1  
 章善門院左衛門佐(しょうぜんもんいんのさえものすけ) → 左衛門佐(さえものすけ、女房歌人) B 2 0 2 1  
 松泉老人(しょうせんろうじん) → 良致(よしむね・関せき、医者/神職/教育) N 4 7 5 6

- T2295 **尚祚**(しょうそ;法諱、字;覚体or覚禅)?-1245 真言高野山八傑の1/覚海門;密教修学、  
 正智院道範と共に修学、高野山に心南院創建;阿弥陀二像安置し浄業を修す、浄菩提院住、  
 1225「高野山奥院興廢記」、「奥院」「般若心経秘鍵明鏡鈔」「即身成仏義秘決」、  
 「四社明神秘式」「御遺告勸註鈔」「大疏初学大要抄」「両大明神秘式附荒神秘式」著
- T2296 **正祖**(しょうそ;法諱・東伝とうでん;道号)?-1349 鎌倉期南宋よりの渡来禅僧
- T2297 **聖聡**(しょうそう;法諱、俗名;千葉胤明、千葉氏胤男)1366-1440 75 下総の僧;千葉真言明見寺で出家、  
 1385横曾根で聖罔の講義を聴聞;聖罔門;浄土宗を修学、各地歴訪、関東への布教に尽力、  
 武州豊島郡貝塚の真言宗光明寺を復興し1393浄土宗増上寺と改名(;のちに芝に移転)、  
 浄土宗義確立のため多数の著書/白旗流の僧、説話研究、酉仰・慶竺・了暁の師、  
 1415「禅林小歌註」注、16「選扱口伝口筆」21「厭穢欣浄集」35「阿弥陀経直談要註記」著、  
 「万徳集」「大経直談要註記」「大原万徳鈔」「浄土金明集」「念仏口伝鈔」「論義蔵」外著多数、  
 [聖聡(;法諱)の幼名/法名/通称]幼名;徳寿丸/徳千代丸、法名;大蓮社西誉/西誉ゆうよ、  
 通称;酉師ゆうし/酉公/聡師
- K2252 **笑艸**(しょうそう) ? - ? 尾張犬山の俳;1689「あら野」1句入、  
 [広庭ひろにはに一本ひもと植ゑし桜哉](あら野;巻二)
- K2253 **蕉臆**(しょうそう・那波なば、名;祐英ゆうえい、九郎左衛門男)1652-1698? 47? 京の豪商那波屋を継嗣、  
 歌人;中院通茂門、漢学者・詩;高泉性激門、伊藤仁斎・伊藤坦庵・北村篤所と交流、  
 「蕉臆吟」著、  
 [蕉臆(;号)の通称/別号]通称;九郎左衛門、別号;古峰/柳隠/石居/芭蕉
- K2254 **笑草**(しょうそう) ? - ? 美作の俳人;1691江水「元禄百人一句」目録入、  
 1693不角「二息ふたいき」入、  
 [保元の軍いさは瓜の二つ割](二息/1156保元乱は親子兄弟が敵味方に分かれ戦った)
- T2298 **松窓**(しょうそう・関せき、名;修齡/脩齡)1727-1801 75 江戸(一説;武州川越)の儒者;井上蘭台門、  
 1750昌平黌入学/57上野厩橋藩儒;折衷学、1767藩主松平朝矩転封により川越移住、  
 1769致仕;林家の塾頭を務める/市河寛斎と交流、「松窓詩集」「松窓詩文集」「松窓文集」、  
 「関東古戦録」「山水賞音」/1773「蝦夷記」92「国語略説」96「戦国策高注補正」外著多数、  
 [松窓(;号)の字/通称]字;君長、通称;永一郎
- K2255 **松宗**(しょうそう;道号、俳号;鴨東おうとう)?-1801 京の臨濟僧;鉄舟玄珠門、一乗寺金福寺5世、  
 俳人;蕪村・道立と交流、1776几董「続明烏」4句入、  
 1776道立「写経社集」金福寺残照亭連句に住職とし参・序の蕪村[芭蕉庵再興記]に逸話、

1783維駒「五車反古」1句入、  
 [秋もはやはつかに残る鹿の声](続明烏;乙577)

- T2299 **蕉窓**(しょうそう・山地/山路やまじ、名;寛/正誠、正眞男)1777-184771 江戸の儒者;亀田鵬斎門、詩人;天保六大詩家の1、1835「詩家」45「鷗巢癡稿刪」、「禄天吟社稿」著、  
 [蕉窓(;号)の字/通称/別号]字;孟教/孟叔、通称;武一郎、別号;禄天居/鷗巢しょうそう、  
 法号;真覚孟教居士
- K2256 **松荘**(しょうそう・奈良なら、名;広葉、義乗男)1786-186277 讃岐榎井村の僧;1797興泉寺入:還俗、歌人、詩人;菅茶山門/小沢蘆庵・小川布淑・前葉黙軒・頼山陽・北条霞亭・柏木如亭らと交流、尊攘を主唱;佐久間象山・吉田松陰と交流、「松荘詩抄」「松荘吟稿」「奈良舎歌集」、「奈良舎文集」「奈良広葉家集」「松荘和歌拾遺」「岸上樓雜記」「左伝疎義鈔」外著多数、  
 [松荘(;号)の字/通称/別号/法名]字;洗心、通称;義立/笑叟/僧法水、別号;翠岸/泡齋、
- K2257 **松窓**(しょうそう;法諱・無得庵)1805-7773歳 土佐の臨濟僧;五台山観学院住;律師、俳人、国学・詩・書画を嗜む;特に仏画に長ず、「竹の春」1855「ひかけ艸」61「波難騰鬪幾」編、阿波日和佐浦に没
- K2258 **松窓**(しょうそう・犬飼いぬかい、名;博、喜平男)1816-9378 備中都窪郡山地村の農業/儒者;独学で修学、荻生徂徠・伊藤東涯・中井履軒の説に私淑;のちに一家を成す、詩人;陶淵明を敬慕、1865「孫子活説」、「松窓詩文集」「論語章旨」著、  
 [松窓(;号)の字/通称/法号]字;淵卿、通称;源三郎、法号;文徳院
- K2259 **松窓**(しょうそう・名倉、名;信敦/敦、野田仁平長男)1822-190180 磐城棚倉藩士名倉信芳の養嗣子、藩主井上正春の上野館林移封により館林移住、儒;1836江戸の佐藤一斎・安積良斎門、昌平黌で修学、藩主の遠江浜松転封に伴い浜松藩校克明館教授/1850昌平黌再入学;洋書を修学、1858清国上海に渡航/のちフランスに渡り見聞を広める、維新後政府外務大録/元老院書紀生/修史館掌記歴任、「航海日録」「握奇八陣集会略註」著、  
 [松窓(;号)の字/通称/別号]字;先之、通称;重次郎、別号;予何人

松窓(しょうそう)	→ 乙二(おつ・岩間、修験者/俳人)	1 4 1 9
松窓(しょうそう)	→ 提亭(ていてい、俳人)	B 3 0 4 8
松窓(しょうそう)	→ 一漁(初世いちりょう・鶴海つるみ、俳人)	E 1 1 5 9
松窓(しょうそう)	→ 一漁(2世いちりょう・鶴海、俳人)	E 1 1 6 0
松窓(しょうそう)	→ 一漁(3世いちりょう・鶴海、俳人)	B 1 1 2 9
松窓(しょうそう)	→ 一漁(4世いちりょう・鶴海、俳人)	G 1 1 6 1
松窓(しょうそう)	→ 東山(とうざん・松川、儒者/詩人)	E 3 1 5 5
松窓(しょうそう)	→ 省吾(しょうご・古森こもり、俳人)	I 2 2 7 0
松窓(しょうそう)	→ 宝馬(ほうば・吉成/小菅、蒼狐門俳人)	C 3 9 4 7
松窓(しょうそう)	→ 迂堂(うどう・眞山愿、儒者/地理)	D 1 2 2 0
松窓(しょうそう)	→ 斉護(なりもり・細川ほそかわ、藩主/歌)	I 3 2 3 5
松窓(しょうそう)	→ 信古(のぶふる・山中、藩士/本草家)	D 3 5 2 2
松窓(しょうそう)	→ 百々丸(ももまる・権藤ごんどう/別府、医者/歌)	I 4 4 9 2
松窓(しょうそう)	→ 惟政(これまさ・中村なかむら、藩士/国学者)	R 1 9 0 9
松窓(しょうそう)	→ 周碩(かねひろ・広田のひろた、歌人)	V 1 5 5 1
松窓(しょうそう)	→ 彰(あきら・深井ふかい/今村、藩士/兵学/儒学)	I 1 0 3 5
松窓(しょうそう)	→ 鞞臣(ゆきおみ・山田やまだ、国学者)	H 4 6 4 3
松窓(しょうそう)	→ 広(ひろし・横山よこやま、藩士/儒者/歌人)	M 3 7 3 3
松操(しょうそう・川路)	→ 高子(たかこ・川路かわじ/大越、歌人)	C 2 6 7 6
松叟(しょうそう)	→ 東山(とうざん・蘆野あしの、儒者/詩文)	E 3 1 5 3
松叟(しょうそう・松岡)	→ 茶山(ちやざん・松岡、俳人)	F 2 8 5 4
松叟(しょうそう)	→ 少汝(しょうじよ;号、小見山、真宗僧/俳人)	T 2 2 1 4
松叟(しょうそう・七里)	→ 長行(ながゆき・七里しちり/源、藩士/国学)	K 3 2 1 5
松叟(しょうそう・広辻)	→ 光春(みつはる・広辻ひろつじ/橘/小林、歌/茶人)	K 4 1 2 8
松荘(しょうそう・堀内)	→ 匡平(まさひら・堀内、庄屋/国学/勤王)	G 4 0 8 5
松巢(しょうそう/松巢道人)	→ 松窠(しょうか・中江なかえ/杜、絵師/琴)	H 2 2 4 9

小相(しょうそう・秋月/劉)→ 橋門(きつもん・秋月、儒者) I 1 6 6 6  
 小僧(しょうそう) → 松洗(松泉しょうせん・児玉、松春門俳人) T 2 2 8 9  
 尚叟(しょうそう・近藤) → 有年(ありとし・近藤こんどう、大里正/国学) H 1 0 6 0  
 笑叟(しょうそう・奈良) → 松荘(しょうそう・奈良なら、詩歌人) K 2 2 5 6  
 昇窓(しょうそう) → 湖十(6世こじゅう・深川、俳人) C 1 9 8 7  
 紹壯(しょうそう;法名) → 元信(もとよぶ・武田/源、武将/幕臣/故実) D 4 4 6 7  
 将曹(しょうそう・阪/坂静山)→ 光淳(みつあつ・阪/坂ばん・さか、歌人) D 4 1 0 5  
 将曹(しょうそう・伊藤) → 石台(せきだい・伊藤いとう、藩儒) K 2 4 3 6  
 将曹(しょうそう・高田/小山田)→ 与清(とよきよ・小山田、国学者) 3 1 6 0  
 将曹(しょうそう・橋村) → 正冬(まさふゆ・橋村/度会、神職/歌人) R 4 0 7 3  
 将曹(しょうそう・小泉) → 保敬(やすたか・小泉/坂上、国学者) B 4 5 8 4  
 将曹(しょうそう・原田) → 清矩(きよのり・小中村こなかむら/紀、商家/国学者) H 1 6 5 1  
 将曹(しょうそう・松田) → 元兆(もとよし・松田/上部、国学者) E 4 4 7 7  
 将曹(しょうそう・滝口) → 美顔(よしみね・滝口たきぐち/紀、神職/歌人) H 4 7 5 4  
 将曹(しょうそう・門脇) → 重綾(重礼しげあや・門脇、神職/国学/歌) B 2 1 8 1  
 将曹(しょうそう・江見) → 長載(ながのり・江見えみ、神職/国学) L 3 2 3 4  
 将曹(しょうそう・友安) → 盛敏(もりとし・友安ともやす、藩士/国学者) K 4 4 7 4  
 正宗(しょうそう→しょうじゅう;道号)→ 龍統(りゅうとう・正宗、臨濟僧) 4 9 1 1  
 蕉窓(しょうそう・栗田) → 寛(ひろし・栗田、国学者) F 3 7 9 5  
 蕉窓(しょうそう・奥田) → 楽山(らくざん・奥田おくだ、藩士/儒者) B 4 8 1 6  
 蕉窓(しょうそう・茂木) → 知利(ともとし・茂木もてぎ、藩士/国学/歌) W 3 1 6 6  
 蕉窓(しょうそう・古松) → 淵臣(ふちおみ・古松ふるまつ/清水、医/歌) D 3 8 2 0  
 鷗巢(しょうそう・山地) → 蕉窓(しょうそう・山地/山路、儒者/詩) T 2 2 9 9  
 蜨叟(しょうそう・谷) → 文晁(ぶんちやう・谷たに、絵師) G 3 8 2 4

- 2258 昌三(しょうそう・松永まつなが、貞徳男) 1592-1657<sup>66</sup> 母;冷泉為純女、京西岡の程朱学者;藤原星窩門、博学多才、1609(18歳)豊臣秀頼に大学を講ず/1628西洞院に春秋館・37堀川に講習堂創建、1640加賀金沢藩儒/48京に学寮[尺五堂]を開設、詩文に長ず、生涯子弟教育に専心、「蒙求もうぎゅう抄」「莊子抄」「七書私考」「五経集注首書」「賀州行記」「四書事文実録」著、1640「彝倫いりん抄」、「遊有馬温泉紀行」「釈奠儀例」外著多数、「尺五先生全集」寸雲すんうん/思斎の父、門人;木下順庵/宇都宮遯庵/貝原益軒/安藤省庵など [凡人君じんくんは日月の光のごとく万人をたすくるやうにあるべし](彝倫いりん抄) [昌三(;名)の字/通称/号]字;遐年、通称;昌三郎、号;尺五せきご/尺五堂/講習堂主人/時習館/春秋館、諡号;恭儉 [尺五門の三庵] → 尺五学派(せきごがくは)の三庵
- 2264 正蔵(しょうぞう・林屋はやしや、正善男) 1781-1842<sup>62</sup> 江戸本所の噺家:1806初世三笑亭可楽門、1817江戸両国に寄席を持つ;ここを本拠地に活躍、落咄のあと道具入怪談咄;怪談咄の祖、噺本・合巻を執筆、一枚刷も多い、噺本;1826「升おとし」29「太鼓之林」33「笑富わらふ林」外多、合巻;1829「鶉権兵衛物語」38-50「怪談春雛鳥」など多数、1835剃髪;正蔵坊と改名、[林屋正蔵(;通称)の号(芸名)]三笑亭楽我(-楽賀)/可竜/笑三/林屋正三/林泉/林至止蔵、一時;2世鹿野武左衛門を襲名、剃髪号;正蔵坊、法号;諺林諦正善男
- K2260 正蔵(2代しょうぞう・林屋はやしや、通称;托[沢]善たくぜん正蔵)?-? 江戸の僧侶/噺家:初世林屋正蔵門、「蒟蒻こんやく問答」「野ざらし」著
- K2261 正蔵(しょうぞう;通称・岩崎いわさき、名;信正、灌園男) 1813-? 江後期幕臣;1838幕府小普請組、「富士見宝蔵勤番心得帳」著
- K2262 昌造(しょうぞう・本木もとき、名;永久、北島三弥太4男?) 1824-75<sup>52</sup> 阿蘭陀通詞、阿蘭陀通詞本木昌左衛門久美の養子、1834(11歳)母の実家阿蘭陀通詞の業を継嗣、1835稽古通詞、1854小通詞過人;下田赴任、ロシア使節<sup>プ</sup>チャーチン/米使節<sup>ペ</sup>リーの通訳;1855(安政2)和蘭条約書翻訳、幕府の長崎海軍伝習所通訳として航海術を修学、1848輸入植字版の洋書覆刻販売を建白、1855活字板摺立方取扱掛として出島版印刷推進、1860長崎鮑ノ浦製鉄所御用掛/頭取、海運・橋梁建設に貢献/1869本格的活字鑄造に成功;

活版所設立;近代印刷術の基礎を築く、  
 1823「商用英和对話集」51「蘭和通弁」62「秘事新書」著、  
 [昌造(通称)の幼名/別通称/号]幼名;作之助、別通称;元吉/昌蔵/庄蔵/笑三/咲三、  
 号;梧窓/点林堂、法号;故林堂积永久梧窓善士

- V2226 **正造**(しょうぞう・三浦みづら、) 1829-1887 59 石見の神職;国学者、  
 邑智郡日和村の桜井太詔刀命さくらいふとりのたちのみこと神社の大宮司
- K2263 **正蔵**(3代しょうぞう・林屋はやしや、竜我、2世柳亭左楽) ?-? 江戸噺家;司馬童生門/初代林屋正蔵の娘婿、  
 1857離縁;2世柳亭左楽を名乗る、三題噺を得意とす、「粹興奇人伝」に略伝入
- K2264 **正蔵**(5代しょうぞう・林家、本名;吉本庄三郎) ?-?長命 江戸末期噺家;2世林屋(托善)正蔵門、  
 明治以後は屋号[林家]となる、長命で[百歳正蔵]と称される、「懐古談」著
- 正蔵(庄蔵しょうぞう・竹田/豊田)→太郎兵衛(初世たろべえ・為永、浄瑠璃/歌舞伎作者) H 2 6 8 5
- 正蔵(しょうぞう・大月) → 履斎(りさい・大月おおつき/藤原、藩儒) B 4 9 0 5
- 正蔵(しょうぞう・柳沢) → 伊寿(これとし・柳沢やなぎさわ、和算家) O 1 9 5 7
- 正蔵(しょうぞう・竹田) → 太郎兵衛(初世たろべえ・為永、浄・歌伎作者) H 2 6 8 5
- 正蔵(しょうぞう・堀) → 南湖(なんこ・堀ほり、儒/医者/詩) I 3 2 9 1
- 正蔵(しょうぞう・森本) → 黙隠(もくいん:法諱・佚山、書/曹洞僧) 4 4 6 7
- 正蔵(しょうぞう・後藤) → 遊五(ゆうご・古賀こが、庄屋/俳人) B 4 6 5 6
- 正蔵(しょうぞう・伊藤) → 介亭(かいてい・伊藤いとう、儒者/書家) B 1 5 1 1
- 正蔵(庄蔵しょうぞう・沖) → 安海(やすみ・沖おき/源、商家/国学/歌) D 4 5 0 1
- 正蔵(しょうぞう・鷹取) → 周成(ちかしげ・鷹取たかとり、藩士/地誌) 2 8 9 6
- 正蔵(しょうぞう・中村) → 三蕉(さんしょう・中村、儒/藩儒/詩文) M 2 0 3 9
- 正蔵(しょうぞう・市岡) → 殷政(しげまさ・市岡いちおか/源/北原、本陣/勤王) N 2 1 3 9
- 正蔵(しょうぞう・木幡) → 栄周(えいしゅう・木幡こばた、藩儒/歌人) U 1 3 0 9
- 正造(正蔵しょうぞう・西川)→ 竜章堂(りゅうしょうどう・西川にしかわ、書家) E 4 9 7 3
- 正造(しょうぞう・北風) → 貞忠(さだただ・北風きたかぜ/長谷川、商家/勤王) O 2 0 3 9
- 正三(しょうぞう・並木) → 正三(初世しょうざ・並木、浄瑠璃/歌舞伎作者) S 2 2 2 4
- 正三(2世しょうぞう・並木)→ 正三(2世しょうざ・並木、歌舞伎役/作者) S 2 2 2 5
- 正三(しょうぞう) → 正三(しょうさん・鈴木/穂積、禅僧/仮名草子) S 2 2 4 7
- 笑三(しょうぞう・三笑亭) → 正蔵(しょうぞう・林屋はやしや、噺家/合巻作者) 2 2 6 4
- 照三(しょうぞう・真嶋) → 秋扇翁(しゅうせんおう・真嶋まじま、能楽故実家) H 2 1 9 4
- 少蔵(しょうぞう・上田) → 堂山(どうざん・上田うえだ、酒造業/詩歌) E 3 1 7 0
- 少蔵(しょうぞう・上田) → 光賢(みつかた・上田うえだ、国学・歌) H 4 1 7 8
- 少造(しょうぞう・門脇) → 重綾(重礼しげあや・門脇、神職/国学/歌) B 2 1 8 1
- 庄三(しょうぞう・大西) → 正三(しょうさん・鈴木、仮名草子) 2 1 7 8
- 庄三(しょうぞう・柏井) → 一正(いっせい・柏井、俳人) E 1 1 0 7
- 庄三(しょうぞう・矢島) → 正名(まさな・矢島やじま、藩士/国学者) E 4 0 9 3
- 庄蔵(しょうぞう・朴沢) → 直好(なおよし・朴沢ほおざわ、工匠) C 3 2 9 3
- 庄蔵(しょうぞう・佐藤) → 晴陰(はるかげ・佐藤さとう、幕臣/歌人) L 3 6 1 5
- 庄蔵(肖造しょうぞう・歌川)→ 国貞(初世くにさだ・歌川、3世豊国、絵師) 1 7 2 9
- 庄蔵(しょうぞう・長谷川) → 光信(みつのおぶ・長谷川はせがわ、絵師) E 4 1 3 7
- 庄蔵(しょうぞう・沢田) → 鹿鳴(ろくめい・沢田さわだ、儒者) B 5 2 0 8
- 庄蔵(しょうぞう・鳥居) → 昭美(あきよし・鳥居、藩士/俳人) E 1 0 0 9
- 庄蔵(正蔵しょうぞう・池田)→ 寛月(かんげつ・池田いけだ、心学者) Q 1 5 3 1
- 庄蔵(しょうぞう・荻原) → 金石(きんせき・荻原おぎわら/直江、俳人) R 1 6 2 9
- 庄蔵(しょうぞう・角田すみだ)→ 国貞(初世くにさだ・歌川、3世豊国/絵師) 1 7 2 9
- 庄蔵(しょうぞう・柴崎) → 直古(なおひさ・柴崎/森、商家/国学/狂歌) C 3 2 2 0
- 庄蔵(しょうぞう・小林) → 文母(ぶんぼ・小林こばやし、俳人) G 3 8 4 2
- 庄蔵(しょうぞう・竹中) → 成章(しげあや・武田たけだ、幕臣/兵学者) Q 2 1 5 7
- 庄蔵(しょうぞう・村井) → 政直(まさなお・村井むらい、国学者) P 4 0 7 0
- 庄蔵(しょうぞう・三牧) → 秀胤(ひでたね・三牧みまき、僧/尊攘派) L 3 7 3 3

莊三(庄三しょうぞう・床井)→ 晩緑(ばんりよく・床井とこい、藩士/天狗党) 3 6 9 3  
 莊三(しょうぞう・桑折) → 頼長(よりなが・桑折おろり/くわおろり、藩士/国学/歌) M 4 7 6 6  
 莊蔵(しょうぞう・鈴木) → 莊丹(そうたん・高柳/鈴木、医者/俳人) C 2 5 4 8  
 莊蔵(しょうぞう・山田) → 尚忠(ひさただ・山田やまだ、藩士/国学/歌) B 3 7 3 1  
 莊蔵(しょうぞう・宮地) → 水溪(すいけい・宮地みやじ、藩士/儒・国学) 2 3 4 3  
 莊蔵(しょうぞう・原) → 敬明(たかあき・原はら、国学者/歌人) Z 2 6 0 8  
 笑三(咲三/昌蔵/庄蔵しょうぞう・本木)→ 昌造(しょうぞう・本木、通事) K 2 2 6 2  
 昌三(しょうぞう・熊坂) → 適山(てきざん・熊坂くまさか、絵師/藩士) B 3 0 9 4  
 昌蔵(しょうぞう・藤沢) → 東暎(とうがい・藤沢ふじさわ、儒者/教育) C 3 1 0 2  
 昌蔵(しょうぞう・北山) → 七僧(しちそう・北山きたやま、儒者/医者) E 2 1 5 5  
 昌蔵(しょうぞう・多湖) → 松江(しょうこう・多湖たこ/湖、藩儒/詩人) S 2 2 1 3  
 昌蔵(しょうぞう・多湖) → 安利(やすとし・多湖たこ、藩士/記録) C 4 5 2 4  
 昌蔵(しょうぞう・大岩) → 昌蔵(まさなり・大岩おおいわ、藩士/文芸活動) O 4 0 2 7  
 昌蔵(しょうぞう・合田) → 錦園(きんえん・合田ごうだ、諸大夫/儒者) U 1 6 3 5  
 昌臧(しょうぞう→まさよし・田村/栗本)→ 丹洲(たんしゅう・栗本/田村、医/博物学) I 2 6 8 2  
 昇蔵(しょうぞう・柴田) → 劫斎(よくさい・柴田/新発田、地理学者) 4 7 9 9  
 昇三(しょうぞう・彦部) → 周信(かねのぶ・彦部ひこべ、国学/歌人) V 1 5 4 8  
 章蔵(しょうぞう・松沢) → 義任(よしとう・松沢まつざわ、国学者) P 4 7 1 3  
 祥蔵(しょうぞう・市河/鐫木)→ 雲潭(うんたん・鐫木かぶらぎ、絵師) D 1 2 9 4  
 松蔵(しょうぞう・河竹) → 松蔵(まつぞう・河竹、歌舞伎作者) J 4 0 7 8  
 嘯蔵(しょうぞう・近藤) → 春彦(はるひこ・近藤、国学者) B 3 6 7 2  
 尚蔵(しょうぞう・小倉) → 遜斎(そんさい・小倉おくら、藩儒/教育) F 2 5 4 1  
 蕉蔵(しょうぞう・奥田) → 楽山(らくざん・奥田おくだ、藩士/儒者) B 4 8 1 6

V2266 定宗(じょうぞう;法諱) 1207 - ? 鎌倉期;南都の僧;法師、  
 歌人;1237[檜葉集]4首入、経円催の歌会に参加、  
 [大僧都経円の歌会の春歌に、

うちしめるけしきのもりのしづくよりふる春雨をそらにしるかな] (檜葉;春21)

☆1320成立続千載入集の定宗とは別人か→ 定円(じょうえん/定宗;権少僧都) F 2 2 5 7

U2201 定宗(じょうぞう;法諱) ? - ? 南北期僧;円宗寺僧、法印、  
 歌人、勅撰3首;1359成立新千載(770・1862)/1364成立新拾遺(1568)、  
 [はるかなる沖の小島の旅寝にも心にかかる志賀の浦波] (新千;羈旅770)、  
 (竹生島に住む頃山の衆徒の日吉社神事をうちとどむる由伝え聞き思い続ける)

2225 丈草(じょうそう・内藤なとう、名;本常、源左衛門本守男) 1662-1704 43 母;妙順、尾張犬山藩士、  
 1675寺尾直竜(俳号不木;丈草の従兄弟)に出仕/88家督を異母弟に譲渡;致仕、  
 参禅;玉堂和尚門/漢学;穂積元庵門、上京;俳諧;芭蕉門、1691「猿蓑」跋文、  
 1693近江松本無名庵住、94芭蕉没後3年間心喪に服す;94「寝ころび草」、  
 近江膳所近傍竜ヶ岡に仏幻庵を結ぶ;脱俗の生活、1700濃尾を行脚、  
 1703法華経を書写した経塚を庵東に建立/04膳所の石民宅で没、野心なく寂びの境地の句、  
 「驢鳴草」(漢詩集)/「丈草文集」「丈草書簡」、「丈草発句集」(蝶夢編)、猿蓑以下入、  
 追悼集;「幻之庵」(魯九編)/7回忌「鳩法華」(魯九編)/50回忌「竜ヶ岡」(馬州編)、  
 [うづくまる葉の下との寒さかな] (枯尾花)/[大原や蝶の出でまふ朧月] (北の山)、  
 [丈草の通称/号]通称;林右衛門/儀右衛門、

号;仏幻庵・懶窩らんか・無懐・無辺・一風・太忘軒・弘句庵

K2265 常操(じょうそう;法諱・広眼蔵;号) 1709-65 57 備後世羅郡甲山町の真言今高野山安楽院の初世、  
 備後深安郡深津村三光院を兼務/顕密に通ず、1738「大日経主義」56「大日経開蔵訣」著

U2203 常操(じょうそう/つねもち・畠山はたけやま) 1770-1840 71 江戸の故実家/一橋家に出仕;目付役、1816致仕、  
 剃髪;下谷金杉村に退隠、歌学;岸本由豆流・横瀬貞信・内藤正範門、歌;1837家集「佐喜草」、  
 「花月集」「哥難春芸二記」「梅軒詠草」「畠山梅軒詠草」「畠山梅軒隠退詩歌」著、「千種錦」編、  
 1821-30「畠山常操詠草」31「金沢の日記」「恋百首」/33「山家百首」35「梅園詠草」、  
 1839「梅七十首歌」41「名所百首」「武蔵野古草」外著多数、河辺一也・畠山如心の師、



[常操(名)の初名/通称/号]初名:常保、通称:郷八、号:梅軒(剃髮号)/梅園/深翁、  
法号:梅竜軒歌真操翁、覚書・俊子の父、如心斎の祖父

浄三(じょうそう) → 智奴(ちぬ・文室、万葉歌人) 2 8 1 5  
定宗(定窓じょうそう;法諱) → 定円(じょうえん;法諱、鎌倉期僧/歌人) F 2 2 5 7  
定宗(じょうそう) → 定宗(ていそう、俳人) B 3 0 3 7  
常宗(じょうそう;法諱) → 松蔭(しょういん;道号・常宗、臨濟僧) G 2 2 7 7  
常宗(じょうそう;出家号) → 良賢(よしかた・清原きよはら、廷臣/漢学者) C 4 7 6 2  
紹琮(じょうそう;法諱) → 玉甫(ぎよくほ;道号・紹琮、臨濟僧) P 1 6 3 4  
冗叟(じょうそう・寺尾) → 元長(げんちやう・寺尾てらお、医者/本草) L 1 8 4 1

U2204 浄蔵(じょうぞう;法諱、参議三善みよ清行男)891-964 母;嵯峨天皇孫娘、天台僧;897(7歳)で出家、  
902(12歳)宇多法皇の勅で比叡山に登壇受戒;玄昭・大慧門、平将門乱に大威徳法を修す、  
朝廷の逆賊退散の二王会で導師、声明家;相応に血脈を継ぐ、管弦にも通ず、  
950宮中仏名会で村上天皇の求めて絶対音感の妙義を披露、「胎蔵界浄蔵私記」著、  
靈験あらたかな高僧として逸話;大和物語には女性との艶聞の逸話、  
歌人;後葉集入、勅撰2首;拾遺(1041)詞花(200)、  
[霞立つ山のあなたの桜花思ひやりてや春を暮らさむ](拾遺;雑春1041)、  
(桜花によそえて相手の女性を思慕;大和物語105段の平中興女か)

K2266 盛増(じょうぞう;法諱) ? - ? 1509存 戦国期京の社僧;北野神社目代、  
「北野社家目代日記」「北野社家目代日記別記」著

条蔵(じょうぞう・小町谷) → 吉晴(よしはる・小町谷こまちや、歌人) M 4 7 8 3  
浄蔵(じょうぞう;法諱) → 仏海(ぶつかい;道号・浄蔵、黄檗僧) H 3 8 3 3  
常蔵(じょうぞう・岡/加島屋) → 常史(つねふみ・岡おか、書肆/国学/歌) F 2 9 4 4  
常造(じょうぞう・藤井) → 昌房(まさふさ・藤井ふじい、歌人) S 4 0 2 8  
譲蔵(じょうぞう・兼重) → 慎一(しんいち・兼重かねしげ、藩士;藩政) N 2 2 3 1  
松窓庵(しょうそうあん) → 道空(どうくう・久世くぜ/源、幕臣/典礼/歌) T 3 1 2 3  
常総庵(じょうそうあん) → 算木有政(さんぎのありまさ、国学/狂歌) F 2 0 7 2  
乗相院(じょうそういん;号) → 法賢(ほうけん;法諱・乗相院、真宗僧) F 3 9 0 4  
滌桑翁(じょうそうおう/できそう) → 宗達(そうたつ・速水はやみ、医者/茶人) I 2 5 3 9  
鷗巢閑人(しょうそうかんじん) → 護物(ごぶつ・谷川、俳人) D 1 9 6 9  
小造千万里(しょうぞうせんまんり) → 小造千万里(こづくりのちんまり、狂歌) F 1 9 7 9  
小草亭(しょうそうてい) → 李東(りとう・鈴木すずき、里長/俳人) C 4 9 2 9  
松巢道人(しょうそうどうじん) → 松窠(しょうか・中江なかえ/杜、絵師/琴) H 2 2 4 9  
正蔵坊(しょうぞうぼう) → 正蔵(しょうぞう・林屋はやしや、嘶家/合巻作者) 2 2 6 4  
嘗草林処(しょうそうりんしょ) → 浩然(こうねん・坂本、医/本草/絵師) K 1 9 9 0

V2255 尚則(しょうそく・号) ? - ? 江前期;歌人/1682河瀬菅雄[麓の塵]2首入、河瀬家の人か?  
[とひてまし下津枝うつれる松風の音だにすめる池の心を](麓の塵;雑605)

小足(少足しょうそく→おたり) → 小足(少足おたり・波多はた、万葉歌人) 1 4 8 5  
昌則(しょうそく・鈴木) → 昌則(まさのり・鈴木すずき、兵法家) G 4 0 0 5  
尚則(しょうそく・腹巻) → 尚則(なおのり・腹巻はらまき/坂、神職/国学) O 3 2 4 7  
将続(しょうぞく・長嶺) → 将続(まさつぐ・長嶺ながみね、絵師/俳人) D 4 0 9 5  
浄足(じょうそく・田中) → 浄足(清足きよたり・田中、博士/詩人) D 1 6 3 4  
常則(じょうそく・飛鳥部) → 常則(つねのり・飛鳥部あすかべ、宮廷絵師) D 2 9 0 7  
常足(じょうそく・上野) → 常足(つねたり・上野うえの、洋学者/薬品) C 2 9 4 6  
常足(じょうそく・伊藤) → 常足(つねたる・伊藤、神職/国学/歌人) C 2 9 4 7  
常足軒(じょうそくけん) → 翠山(すいざん・東里/吉村、藩士/儒者) 2 3 6 2  
常足斎(じょうそくさい) → 詮勝(あきかつ・間部まなべ、藩主/詩人) D 1 0 3 2  
常足道人(じょうそくどうじん) → 黙愿(もくいん;法諱・佚山、書/曹洞僧) 4 4 6 7

K2267 清尊(しょうそん;法諱) 1427 - ? 1454存 室町期天台宗園城寺北林院の僧;尊通門?、  
1454「授決為因抄」著

正尊(しょうそん/まさたか・中村) → 忠亭(ちゅうてい・中村、儒者) G 2 8 6 4

- 正村(しょうそん) → 正村(せいそん・浅井、俳人) C 2 4 5 5  
 昭尊(しょうそん・広沢) → 菅彦(すがひこ・広沢ひろさわ重賢、歌人) J 2 3 0 7  
 性尊(しょうそん;法諱) → 無上(むじょう;道号・性尊、黄檗僧) 4 2 7 0  
 聖尊(しょうそん;法諱) → 聖尊法親王(しょうそんほっしんのう、座主/歌) U 2 2 0 6  
 尚存(しょうそん・井上/福田) → 貞斎(ていさい・福田、儒者/詩) 3 0 8 1
- K2268 **定尊**(じょうそん;法諱・禅定ぜんじょう;字、優婆塞朝日男)?-? 平安後期京の真言僧;初め叡山寛仁門、出家/のち真言宗仁和寺の寛意門;伝法灌頂を受/済暹[さいせん1025-1115]門;教相・悉曇の伝授を受、阿闍梨となる/禅定院住、学匠として覚鑊[かくばん1095-1143]の師;教相の奥旨を授、「灌頂観中記」著
- K2269 **定尊**(じょうそん;法諱) ? -? 1195存 平安後期尾張熱田の僧、6歳で法華経修得を志す、9歳で暗誦/読誦を業とす/32年間巡歴;法華経4万8千9百20部を誦す、1194一字毎に阿弥陀仏の名号を唱えながら阿弥陀経千部を誦す;善光寺如来の夢告を受、善光寺に参詣/翌年如来像を制作、「阿弥陀秘釈」著
- K2270 **盛尊**(じょうそん、権中納言藤原盛兼男)?-? 1254存 鎌倉期天台僧;法印/権大僧都/祇園別当、1254「七仏薬師法記」
- K2271 **常尊**(じょうそん;法諱、一字名;圭、足利義尋男) 1604-7168 母;古市胤栄女、足利義昭の孫、幼少時に円満院入;円満院を再興/天台円満院33世門跡、明正天皇の護持僧、連歌;昌叱宗起等と「何船百韻」、実相院大僧正義尊の弟
- 成尊(じょうそん;法諱) → 成尊(せいぞん・じょうそん;法諱、真言僧) J 2 4 1 4  
 常村(じょうそん・小木曾) → 義徳(よしなり・小木曾おぎぞ/成田、藩士/歌) L 4 7 8 1  
 乗邨(じょうそん・駒井) → 乗邨(のりむら・駒井、藩士/国学/随筆) F 3 5 9 5  
 照尊院(しょうそんいん) → 泰朝(やすとも・秋元、藩主/日光造営) C 4 5 3 1
- U2205 **松尊者**(しょうそんじや) ? - ? 俳人:1724「蓮の葉風」編・支考の匿名か
- U2206 **聖尊法親王**(しょうそんほっしんのう、後二条天皇第5皇子) 1304-7067 母;藤原公泰女;権大納言局、真言宗醍醐寺入;座主聖雲親王門;出家、1318(文保2)醍醐寺58世座主、19受戒、1329(元徳元)遍智院で賢助より伝法灌頂を受、1370(建徳元/応安3)没、「音律菁花集」「声明口伝」「初心行者用心」著、大覚寺統系歌人、兼好より歌、1350為世十三回忌和歌に参加、勅撰6首;続後拾(1297)風(930)新拾(933/1682)以下、新葉16首(96/138/226/427/445/451/465/505/671/731/744/901/1063/1212/1254/1303)[風にたぐふ花のにほひは山かくす春の霞も隔てざるけり](新葉集;春96)、[この秋ぞわきてしほるる十年あまりかさねし袖の露も涙も](為世13忌歌;78)[聖尊(;法諱)の通称] 遍智院宮
- 聖尊法親王(せいそんしんのう) → 聖尊法親王(しょうそんほっしんのう、真言僧/歌人) U 2 2 0 6
- 勝太(しょうた・島崎) → 勇(いさみ・近藤、剣術/新撰組) F 1 1 5 1  
 松陀(しょうだ;法諱) → 荷塘(かとう;号・遠山とおやま、僧/漢学) C 1 5 5 9  
 紹佗(じょうだ;法諱) → 方充(ほうじゅう;道号・紹佗;法諱、臨濟僧) F 3 9 8 4  
 性岱(しょうたい;法諱) → 崇芝(すうし・そうし;道号・性岱、曹洞僧) F 2 3 2 8  
 昌岱(しょうたい;名) → 岱(たい・岸きし、岸岱、絵師) 2 6 0 0  
 紹泰(しょうたい;法諱) → 蔵泉(ぞうせん;道号・紹泰、臨濟僧) I 2 5 3 2  
 照泰(しょうたい・金子) → 照泰(てるやす・金子かねこ、郷土史家) D 3 0 0 2  
 照泰(しょうたい・豊由) → 周斎(しゅうさい・豊由とよよし、和算家) X 2 1 3 6  
 将泰(しょうたい・藪) → 将泰(まさやす・藪やぶ、藩士/儒者) I 4 0 0 8
- K2272 **嘯台**(しょうだい・宮田みやた/修姓;田、名;維禎) 1747-183488 美濃加納の酒造業;和泉屋主人、若年より学に志す/漢学;竜草廬門/詩;江村北海[1713-88]門、1816加納藩主永井尚佐に詩三百篇を奉る;鳩杖を受、「看雲檜稿」著、1779「鼎石先生詩集」編(山田鼎石ていせき[1720-1800];江村北海門)、[嘯台(;号)の字/通称/別号]字;土祥、通称;平作/乗作、別号;竹雨主人/蔵六庵/看雲栖、屋号;和泉屋、法号;积維禎居士
- U2207 **椀台**(しょうだい・三宅みやけ、名;守観、小坂宗十郎男) 1820-9677 美濃武儀郡有知村儒者;村瀬藤城門、経史・詩文を修学、1839江戸の佐藤一斎門、伊勢津藩儒斎藤拙堂・宮原節庵門、

帰郷;春曦塾を開塾、1855三宅樅園の養嗣子、維新後美濃加納藩に出仕;文学教授、  
1873遷喬義校の教授、「樅台詩稿」「異聞集」「輦下詩稿」「山陽詩抄集解」「樅台詩抄」著、  
[樅台(;)号]の字/通称/法号]字;海岳、通称;復助/復輔/左平、法号;運麗院

松台(しょうたい・渡辺/辺)→ 玄対(げんたい・渡辺/辺・内田、絵師) K 1 8 9 0

U2208 承兌(じょうたい/しょうたい;法諱・西笑せいしょう;道号)1548-160760 山城伏見の臨濟僧;真如寺麟甫功門;  
得度、詩文;相国寺仁如集堯門/中華承舜に拝塔嗣法、夢窓派僧、1584相国寺92世/豊光寺開、  
1397相国寺鹿苑僧録に再任;没まで在職、秀吉家康の配下で寺社行政/外交通称文書作成、  
家康の需めで古活字版「貞観政要」「東鑑」「周易」等の跋文執筆、相国寺内心華院に没、  
詩文:「鹿苑日録」「南陽稿」「土偶集」「交隣提醒」1597-1607「西笑和尚文案」、和漢聯句多数、  
[西笑承兌の号] 月浦/南陽、兌長老

K2273 乗体(じょうたい;法諱・光厳こうげん;字、俗姓;木内)1740-180768 阿波板野郡竹瀬村の真言:高野山僧、  
顕密二教修学/俱舎論に精通、釈迦文院住、「俱舎高禰集」「俱舎撮要」「俱舎論論題」外多数、  
[乗体の通称] 俱舎光厳

常代(じょうだい・檜垣) → 常代(つねよ・檜垣ひがき/度会/久志本、神職) G 2 9 2 0

U2209 尚泰王(しょうたいおう) 1843 - 190159歳 最後の琉球国王、琉歌作者;「琉歌全集」8首入

U2210 松苔軒(しょうたいげん・別号;可常かじょう)?-? 丹波水上郡神池寺中姓院住職、

俳人;1672「俳諧法農華」編:発句13句入

照台寺正勝(しょうたいせいしょう)→ 正勝(しょうしょう、真宗僧) T 2 2 3 0

松苔舎(しょうたいしゃ) → 吉為(よしため・岸きし、歌人) E 4 7 4 2

上代野人(じょうだいやじん) → 春江(しゅんこう・平塚、漢学/詩文) J 2 1 6 6

K2274 紹宅(しょうたく・木山きやま/本姓;源、名;惟久)?-1593 肥後益城郡木山城主/左近太夫/従後下、  
阿蘇大宮司の属し武功・文才に富む、木山落城後;黒田如水の客分、連歌;紹巴門、  
連歌屋の開基、1593(or97)黒田長政の弟熊之助の朝鮮出陣に随従;戦死or海難死?、  
「赤井城記」著、1580「天正千句」/1590「紹宅独吟懐旧百韻」、「木山紹宅両吟千句」著、  
[紹宅(;)号]の別号] 朝露斎/杣入斎、紹印の父

2286 昌琢(しょうたく・里村さとむら[南家]、名;景敏、昌叱男)1574-1636?63? 母;紹巴女、連歌師;南家初代、  
紹巴じょうは・昌叱しょうしつ・玄仍げんじょう没後の慶長1596-1615頃から連歌界第一人者、1608法橋、  
1617知行百石/26後水尾天皇より古今伝受/28幕府御連歌始に勤仕;以後柳営連歌宗匠、  
1632法眼、1617「類題名所和歌集」、「昌琢発句集」「集連歌」「新式追加並今案講義」、  
「家光公御瘡瘡御祈念之連歌百韻」外編著多、慶長四1599紹巴・昌叱・玄仍と一座何船百韻、  
以下約3千の作品現存、御連衆以外に宗因・重頼などの俳諧師とも一座、連句への影響大、  
[夏の日や山も出で湯のしほ曇](熱海の吟)、[今日降るを雪とやは見ん春の花](発句集)  
[昌琢(;)号]の幼名/別号]幼名;一千代、別号;拝北庵/懐恵庵/竹庵/什斎、法号;玉洞院

K2275 松卓(しょうたく・小泉こいずみ、名;光保)?-? 江前期京の和算家;井口常範門、紀州高野山に住、  
暦数に長ず;1688「頭書長暦」/90「簞簞はき日用大成」97「授時暦図解」/1712「循環暦」著、  
1716「撰日教要録」18「簞簞はき秘決伝」著(;簞簞は神の供物を盛る器)、  
1718「袖鑑撰日枢要記」編、  
[松卓(;)号]の字/別号]字;景林、別号;幹支軒/南山

K2276 昌琢(しょうたく・鎌田かまた)?-? 江戸後期磐城相馬の医者、1854「宮外妊娠治験」著

紹琢(しょうたく;法諱) → 大溪(だいき;道号・紹琢、臨濟僧) J 2 6 7 7

尚越(しょうえつ・内藤) → 頼由(よりゆき・内藤ないとう/藤原/永井、藩主) K 4 7 4 0

勝沢(しょうたく・狩野) → 有信(ありのぶ・三谷みたに/狩野、藩絵師/政治) L 1 0 5 3

K2277 城沢(じょうたく;号) ?-? 1590存 座頭/歌人・連歌作者、興正院室で古典講釈、  
山科言経・大村由己と交流、天正十六1588三月「城沢独吟百韻」90紹巴らと「何路百韻」

常沢(じょうたく・富永/田中)→ 牧斎(ぼくさい・田中/源/富永、儒者) D 3 9 1 0

小朶子(しょうたし:号) → 等連(とうれん;法諱・竺運:道号、臨濟/五山文学) 3 1 3 1

K2278 昌達(しょうたく;名・平沢ひらさわ、号;観善)?-1750 陸中盛岡の医者/本草家、「朝鮮人参栽培文書」著

K2279 松達(しょうたく・鈴木すずき、名;重遠しげとお)?-?1760前没 江中期の医者;播磨姫路藩侍医、  
「食品辨明」;遺稿「庖厨食鏡」を中根道淳が訂正増補して「食品辨明」として完成

尚達(しょうたく・岡) → 澹斎(たんさい・岡おか、医者/詩人/本草) T 2 6 4 8

- 尚達(しょうたつ/尚趙しょうたく・内藤)→頼由(よりゆき・内藤ないとう/藤原/永井、藩主) K 4 7 4 0  
 昌達(しょうたつ、連歌) → 荷兮(かへい・山本、俳人) 1 5 1 0  
 勝脱(しょうだつ→かつとき・牛込)→重忝(しげのり・牛込うしごめ、幕臣/文筆家) S 2 1 0 3  
 常達(じょうたつ・久志本) → 常達(つねみち・久志本/度会、国学) D 2 9 8 7
- K2280 **正太夫**(しょうだゆう・水野みずの、根本善左衛門男)?-? 石見の生/水野正左衛門の養子;江末期幕臣、江戸下谷三枚橋に住、1859箱館奉行支配調役並/62小十人組/64軍艦奉行支配割替、1861「黒竜江誌」著  
 正太夫(しょうだゆう・佐藤)→信賢(のぶかた・佐藤、植林家) B 3 5 2 1  
 正太夫(莊太夫しょうだゆう・津村)→旨武(むねたけ・津村、国学/歌人) B 4 2 5 5  
 庄大夫(しょうだゆう・幸田)→嘉治(よしはる・幸田こうだ、幕臣/国学者) M 4 7 8 9  
 庄大夫(しょうだゆう・名島)→好孝(よしたか・名島なじま、藩士/和学) O 4 7 0 7  
 庄太夫(しょうだゆう・川口)→竹人(ちくじん・川口/辻、藩士/俳人) D 2 8 2 4  
 庄太夫(しょうだゆう・小松)→栄盛(ひでもり・小松こまつ、藩士/歌人) E 3 7 0 1  
 庄太夫(しょうだゆう・本木)→良意(りょうい・本木、通詞/蘭医書翻訳) G 4 9 1 7  
 丈大夫(じょうだゆう・神谷)→南澗(なんかん・神谷かみや、儒者) I 3 2 8 0  
 丈太夫(じょうだゆう・吉田)→友好(ともよし・吉田、藩儒者/墳墓録) R 3 1 0 0  
 丈太夫(じょうだゆう・古山)→則満(のりみつ・古山ふるやま、藩士/歌人) G 3 5 5 0  
 丈太夫(定大夫じょうだゆう・楠本)→端山(たんざん・楠本、藩士/儒者) I 2 6 2 1  
 丈太夫(じょうだゆう・長沼)→安定(やすさだ・長沼ながぬま、和算家) B 4 5 5 0  
 条太夫(じょうだゆう・石井)→蠡(れい・石井いしい、藩士/儒者) 5 1 0 0  
 丞太夫(じょうだゆう・牧) → 武次(たけつぐ・牧まき、藩士/軍記) O 2 6 4 6
- U2211 **庄太郎**(しょうたろう・毛利田/森田もりた)?-? 大阪の書肆、大坂北御堂前のち安土町/本町5丁目住、天和1681-84頃から出版活動、西鶴の浮世草子本出版:1686「五人女」など、1734「絵本鎧桜」[絵本琵琶海鎧桜]編、1735「けいこ和讃」80「刪補小字彙」著、[庄太郎(;通称)の別通称/号]別通称;本屋庄太郎、号;崇文軒すうぶんけん  
 庄太郎(しょうたろう・菊池)→景住(かげずみ・菊池きくち、藩士/文筆) K 1 5 9 3  
 庄太郎(しょうたろう・朝倉)→大丈軒(だいじょうけん・小原おはら/伴、儒者) B 2 6 6 3  
 庄太郎(しょうたろう・小川)→長秋(ながあき・小川えおがわ、商家/検事) L 3 2 3 9  
 正太郎(しょうたろう・山田)→確太郎(かくたろう・石河いしかわ、蘭学者) K 1 5 2 0  
 正太郎(しょうたろう・長手/大国)→正武(まさたけ・大国/長手、国学者) D 4 0 4 1  
 正太郎(しょうたろう・保岡)→川荘(せんそう・保岡やすおか、藩儒者) G 2 4 2 7  
 正太郎(しょうたろう・玉井)→行篤(ゆきあつ・玉井たまい、藩士/国学) G 4 6 9 9  
 正太郎(しょうたろう・難波)→周政(かねまさ・難波なんば、陪臣/歌人) V 1 5 2 9  
 正太郎(しょうたろう・宮武)→正策(しょうさく・宮武みやたけ、藩医/漢学) V 2 2 3 2  
 尚太郎(しょうたろう・萱野)→熙載(ひろのり・萱野かやの、藩士/国学) J 3 7 1 1  
 尚太郎(しょうたろう・近藤)→有年(ありとし・近藤こんどう、大里正/国学) H 1 0 6 0  
 昌太郎(しょうたろう・安藤)→鐘成(かねなり・暁あかつき、戯作者) H 1 5 0 8  
 莊太郎(しょうたろう・永井)→勝則(かつのり・永井ながい、藩士/日記) N 1 5 7 7  
 紹太郎(しょうたろう・井上)→正路(まさみち・井上いのうえ、幕臣/砲術家) H 4 0 5 8
- 2287 **上太郎**(じょうたろう・紀きの、三井みつい/家原、名;高業たかなり、三井南家2代高博2男)1747-99<sup>53</sup> 本姓;藤原、母;三井総本家[北家]高房女、京の生/兄高邦の養嗣子;1772南家4代当主、浄瑠璃作者、1784家督を長男高英に譲渡;三井連家の家原家に移り長次郎を名乗り退隠、1796三井家内紛の罪を引受け重追放の刑/近江大津・大坂江戸堀住、儒;世継井斎・渋井太室門//狂歌;栗柯亭木端門、1774「狂歌ならひの岡」77「糸桜本町育」、1779「納太刀誉鑑」80「碁太平記白石嘶」97「狂歌辰農市」、「よしの紀行」「北国路之記」著、息子;仙溪亭嘉菊かきく(三井高英)・仙秀亭嘉閑、息女;峯、[紀上太郎(;号)の字/通称/別号]字;公勤、通称;家原長次郎/八五郎/次郎右衛、別号;仙果亭嘉栗かみつ、八貫/和春/三津環みつたまき、法号;由甲斎仙果亭嘉栗居士  
 常太郎(じょうたろう・加藤)→千蔭(ちかげ・加藤/橘、国学/歌人) 2 8 0 3  
 常太郎(じょうたろう・岸) → 達巷(たっこう・岸/修姓;崖、儒者/地誌) R 2 6 5 9

- 常太郎(じょうたろう/つねたろう・秋山)→和光(かずてる・秋山あきやま、幕臣/歌) T 1 5 3 7  
丈太郎(じょうたろう・金井)→莎邨(さそん・金井かない、儒者/詩人) H 2 0 5 6  
城太郎(じょうたろう・山田)→青門(せいもん・山田やまだ、藩士/儒者/詩) J 2 4 6 5  
性湛(じょうたん;法諱)→月心(げっしん;道号・性湛、臨濟僧) H 1 8 1 1  
蔣譚(じょうたん・浅野)→梅堂(ばいどう・浅野、幕臣/文筆) B 3 6 9 2  
昌男(しょうだん・奥平)→昌男(まさお・奥平おくだいら/源、藩主/歌) L 4 0 7 5
- K2281 常湛(じょうたん;法諱) ? - ? 江後期天台僧;寛政八1796安居院17世住職、  
1800大僧都、06輪王寺御留守居/12退職、13公澄親王の命で江戸城大楽院別当、「歴住記」著  
乗宣(じょうたん・高橋)→乗宣(のりのぶ・高橋たかはし/佐野、国学) I 3 5 9 6  
浄潭(じょうたん;法諱)→月船(げっせん;道号・浄潭、黄檗僧/詩/書/画) H 1 8 1 6  
正檀林(しょうだんりん)→南陽(なんよう・宮田、一炊庵、俳人) 3 2 4 7
- U2212 性智(しょうち;法諱) ? - ? 鎌倉後期嘉暦元徳1326-32頃の臨濟僧、  
宗峰妙超の侍者、大徳寺の語録蒐集(1326大徳寺開堂語録から1331迄)、  
1426「大燈国師語録」編、「大燈国師参詳語要」編
- U2213 小知(小智しょうち・木村きむら) 1726-1817長寿<sup>92</sup> 江戸神田の米屋(質商?)/俳人:2世平砂門、  
存義側の俳諧点者として活躍、書;三井親和門、1774秀国「江戸の幸」入、  
1790「なゝくさ野」著/1803「神田集」「新神田集」編/03「神田祭」著、  
[小知(;号)の通称/別号]通称;伊勢屋八兵衛、別号;神田庵  
性智(しょうち;法諱)→大愚(だいう;道号・性智、堆雲和尚、臨濟僧) J 2 6 7 0  
尚知(しょうち・蓬萊)→尚知(ひさあき・蓬萊ほうらい/磯辺、神職) K 3 7 9 3  
尚智(しょうち・沢)→尚智(ひさとも・沢さわ、和算家) B 3 7 5 9  
昭致(しょうち・一橋/徳川)→慶喜(よしのぶ・徳川/一橋、最後の将軍) F 4 7 7 4  
紹智(5世しょうち)→竹心(ちくしん・藪内やぶのうち、茶人) D 2 8 2 3  
紹智(6世しょうち)→竹陰(ちくいん・藪内やぶのうち、竹心養子/茶人) C 2 8 5 0  
勝知(しょうち/かつとも・中村)→不能斎(ふのうさい・中村、藩士/儒者) D 3 8 6 2
- U2214 定智(じょうち;法諱) ? - ? 平安後期真言僧:1145「善女龍王図」(金剛峯寺)
- K2282 常智(じょうち;法諱・俗名;伊庭いば六郎左衛門)?-1374 伊庭家は近江佐々木流/六角氏頼族党?、  
僧侶;法師/連歌作者:1356-70「紫野千句」連衆の1、菟玖波集5句入、  
[古寺の蝙蝠かはり鳴きて暗き夜に](菟玖波;釈教676/前句;壁の鼠のあなむつかしや)
- K2283 定智(じょうち;法諱) 1357 - ? 1412存 天台僧;上州世良田の長楽寺普光庵真言院に住、  
1412(応永十九)「北嶺五仏灌頂秘決定智記」「呂律之盤并五音之伝」著
- U2215 常知(じょうち) ? - ? 江前期京の俳人;1649立圃「花月千句」連衆  
生知院(しょうちいん)→日述(にちじゆつ;法諱・存琢、日蓮僧) C 3 3 2 2  
上池院(じょうちいん)→士仏(しぶつ・坂さか、医僧/歌人) F 2 1 5 9  
上池院(じょうちいん)→紹胤(しょういん;法諱、医僧/歌人) F 2 2 1 3  
浄池院(じょうちいん)→清正(きよまさ・加藤かとう、武将/藩主) Q 1 6 3 1
- U2216 正竹(しょうちく) ? - ? 能書家;雲竹門、1691「猿蓑」版下跋文、1695「有磯海」版下
- U2217 昌築(しょうちく・里村さとむら[南家]、昌純男)?-1733 連歌師;1696幕府連歌師として出勤、  
1720柳営連歌会第三を勤める、1727「撰集詞連歌」、  
[昌築(;号)の別号]醜庵/貌肖斎
- 2292 小竹(しょうちく・篠崎しのぎ/修姓篠しょう、加藤吉翁[周貞]男) 1781-1851<sup>71</sup> 大阪儒者:篠崎三島門、  
1793(13歳)師の養嗣子、詩/書、昌平鬘;古賀精里門、養父の家塾梅花書屋を継承、  
養父と淡路の稲田家の賓師、「小竹斎詩鈔」「小竹斎詩稿」「小竹斎吟藁」「小竹文集」、  
「小竹斎聞稿」「南豊集」「南豊日抄」「梅花屋蔵書目録」「松山寺瘞齒記」「古文標註」外多数、  
[小竹(;号)の名/字/通称/別号]名;弼、字;承弼、通称;長左衛門、  
別号;畏堂/南豊/聶江しょうこう  
門人(篠門)は多数;内4人を篠門四才子しょうもんよんさいしと呼ぶ、  
篠門四才子 → 竹陰(ちくいん・篠崎/加藤、小竹女婿)?-1858 C 2 8 5 2  
→ 小山(しょうざん・奥野) 1800-1858 S 2 2 5 5

- 秋里(しゅうり・安藤)1803-1857 Y 2 1 4 9  
 → 香坡(こうは・橋本)1809-1865獄死 F 1 9 3 4
- 小竹(しょうちく・本居) → 藤子(ふじこ・本居もとおり、国学/歌人) C 3 8 4 5  
 小竹(しょうちく・中野) → 竹子(たけこ・中野なかの、文武/書/詩歌) Y 2 6 6 0  
 松竹(しょうちく・藤寿亭) → 藤兵衛(とうべえ・山口屋、書肆/合巻) H 3 1 0 8
- E2287 乗竹(じょうちく・深江ふかえ) ? - ? 江前期上方の俳人、1678西鶴「物種集」入、  
 1682春林「俳諧百人一句難波色紙」入、  
 [それが後も味噌屋愛せる蓮はちす哉](難波色紙;71、  
 それが後も;周茂叔以後も/蓮葉で味噌を包む、宋の周茂叔は愛蓮家として名高い)
- K2284 丈竹(じょうちく・霽月堂せいげつどう)?-? 本草家;菊培養研究/播種による新花培養技術、  
 「修菊法二十八部」/1713「後の花」著
- 小築庵(しょうちくあん) → 春湖(しゅんこ・橋田きつた、俳人) J 2 1 5 9  
 小竹園(しょうちくえん、葵園) → 亜元(阿元あげん、真宗僧/歌人) 1 0 9 1  
 松竹園(しょうちくえん) → 鉦野(きや・牧野まきの、儒/詩人) Q 1 6 3 6  
 小竹斎(しょうちくさい、小竹散人) → 小竹(しょうちく・篠崎、儒者) 2 1 9 6  
 松竹山房(しょうちくさんぼう) → 清春(きよはる・菱川、絵師) Q 1 6 1 7  
 松竹主人(しょうちくしゅじん) → 休叟(きゅうそう・稲垣いながき、茶人) M 1 6 7 5
- U2218 笑竹亭(しょうちくてい、吾竹)? - ? 上方の噺家
- 松竹堂(しょうちくどう) → 志頭磨(志津磨しづま・佐々木、書家) U 2 1 0 7  
 松竹堂(しょうちくどう) → 穿石(せんせき・沢井さわい、佐々木志頭磨を継承/書家) M 2 4 7 7  
 松竹楓園(しょうちくふうえん) → 憲(けん・田辺たなべ、書家/篆刻) H 1 8 4 9  
 松竹楓菊園(しょうちくふうきくえん) → 有年(ありとし・西村にしむら/藤原、藩士/歌) I 1 0 2 2  
 小竹葉舎(しょうちくようしゃ) → 宋閑(そうかん・滝原たきはら、医者/歌人) G 2 5 7 3  
 城茅樵舎(じょうちしょうしゃ) → 檜陵(ゆりりょう・伊古田いこた、産科医) E 4 6 0 2  
 正智坊(しょうちぼう;号) → 智侃(ちかん;法諱・直翁;道号、臨濟僧) C 2 8 3 4  
 常智房(じょうちぼう) → 永成(えいじょう・常智房、天台僧) C 1 3 9 9
- U2219 聖忠(しょうちゅう;法諱、関白鷹司たかつかさ基忠男)1268-131952 母;丹波良基女、真言僧;醍醐寺玄慶門、  
 のち中性院頼瑜門;伝法灌頂を受/東大寺東南院住1288東大寺別当;以後三度別当、  
 1306東寺二長者/07醍醐座主兼任/大僧正/08東寺長者法務、晩年は東南院住、  
 歌人;新後撰631、続門葉集入、  
 [鷲の山のちの春こそ待たれけれ心の花の色を頼みて](新後撰;釈教631/霊鷲山りょうじゆせん)  
 [聖忠(;法諱)の通称] 東南院前大僧正とうなんいんのさきのだいそうじょう
- K2285 尚仲(尚中しょうちゅう・斎藤さいとう)1773-184472 奥州一関の農業/和算家;渡辺一門、  
 江戸の会田安明門;最上流算学修得、出羽各地で諸生を教授、  
 1824師の遺命により山形横町山崎源兵衛方で最上流算学を教授;特に掲額算法を奨励、  
 晩年は帰郷、高橋仲善・斎藤尚善らの師、「算法初学類題」「算法額術起源」「算法貫通術」、  
 「算法資棄術起源」「算法整数術起源」「算法歩索術起源」「算法容術起源」「精要算法起源」、  
 「変題逐索術解」「補数平方術解」著、「求積」「算法整数術」「算法変換術起源」編、外編著多数、  
 [尚仲(;名)の通称/号]通称;繁之丞、号;旭山、法号;良算良室庵主
- 正仲(しょうちゅう;道号・彦貞) → 彦貞(げんてい;法諱・正仲、臨濟僧) C 1 8 7 5  
 尚中(しょうちゅう → たかなか・山口/城/佐藤) → 尚中(たかなか・佐藤/山口、藩士/蘭医) M 2 6 5 9  
 尚忠(しょうちゅう・目黒) → 道琢(どうたく・目黒めぐろ、医者) G 3 1 3 3  
 尚忠(しょうちゅう・二条/九条) → 尚忠(ひさただ・九条、公武合体派/歌) B 3 7 3 0  
 尚忠(しょうちゅう・山田) → 尚忠(ひさただ・山田やまだ、藩士/国学/歌) B 3 7 3 1  
 章忠(しょうちゅう・大沢) → 章忠(あきただ・大沢おおさわ、庄屋/歌人) H 1 0 2 3  
 昌忠(しょうちゅう・袋谷) → 昌忠(まさただ・袋谷ふくろや、俳人) L 4 0 5 2  
 昌忠(しょうちゅう・永原/竹田) → 昌忠(まさただ・竹田/永原、藩士/儒) D 4 0 4 9  
 蕉中(しょうちゅう;号) → 大典(だいてん;号・梅莊頭常、臨濟僧) B 2 6 9 0  
 昇虫(しょうちゅう;号) → 伝四郎(でんしろう・早川、歌舞伎役/作者) D 3 0 8 4
- W2209 浄忠(じょうちゅう;法諱) ? - ? 平安鎌倉期;南都の僧/法師、

1237刊[檜葉集]2首入、  
[昔ともに常楽会の薫香にてはべりけるが引頭の時もまた対揚なりけるが、  
なにとなくあはれにおぼえければ朝座はてて棧敷よりたたうがみにかきて、  
光覚已講につかはしける、  
いにしへもいまもおなじくつらなれる沙羅のこかげぞちぎりなりける]、  
(檜葉; 釈教542/光覚法師の返しあり; 543/常楽会; 釈迦入滅2月15日の涅槃会)

- K2286 **浄忠**(じょうちゅう・坂さか、浄運男)?-? 室町期医僧、侍従/宮内卿法印、浄見の弟、  
正親町天皇の薬を掌る/足利義晴・義輝に重用、「家秘小雙紙」著
- V2254 **掟忠**(じょうちゅう; 法諱・上人)?-? 江前期; 京の僧/歌人、  
1682河瀬菅雄[麓の塵]3首入、  
[降る雪を波にたぐへて明石がたうら風とほく千鳥なくなり](麓の塵; 冬335/浦千鳥)  
浄拙(じょうちゅう; 法諱・聞谷) → 聞谷(もんこく; 道号・浄拙、黄檗僧) I 4 4 2 2  
常忠(じょうちゅう; 法名) → 実冬(さねふゆ・三条/藤原、太政大臣/歌) D 2 0 5 8  
常忠(じょうちゅう・山田/速水) → 常忠(つねただ・速水かやみ/山田、故実/歌) C 2 9 4 4  
松中館(しょうちゅうかん) → 丁東(ていとう・松中館、俳人) B 3 0 5 3
- U2220 **松忠敦**(しょうちゅうとん、松は修姓)?-? 信州の儒者:  
漢訳: 1752「鶏窓解頤」著(再1797「開口新話」)  
承緒(しょうちよ・頼) → 聿庵(いつあん・頼らひ、儒者/書家) E 1 1 2 8
- U2221 **勝超**(しょうちよう; 法諱、香雲房; 号) 1065-? 1124存 平安後期法師; 興福寺僧/1121堅者、南京講師、  
歌人; 1124奈良花林苑歌合(永縁奈良房ようえんならぼうの歌合)参加(香雲房名)、金葉709、  
続詞花集入、1237刊[檜葉集]10首入; 僧都覚樹が興福寺維摩会講師の年(1110)の歌あり、  
[降る雪に山の細道埋れてまれにとひこし人も通はず](永縁奈良房歌合; 雪六左)  
[露霜にいろもかはらぬ呉竹を人のこころと思はましかば](檜葉; 雑922)
- U2222 **承澄**(しょうちよう; 法諱、西忍辱坊; 号、摂政藤原仲房男)?-? 天台宗叡山僧/大僧正に至る、  
1257楞嚴院検校、通称; 叡山小河大僧正、勅撰作者部類; 続拾遺1223の作者に比す  
続拾遺1223の実作者 → 承澄(しょうちよう; 法諱、極楽坊、小川僧正) U 2 2 2 3
- U2223 **承澄**(しょうちよう; 法諱、極楽坊; 号、摂政藤原師家男) 1205-8278 母; 平時平女、天台宗叡山僧、  
幼時; 承円門; 出家、忠快門; 台密穴太流修学/覚審門; 法曼流修学、1257横川の長吏/僧正、  
職を辞し京の東山小川法菩提院住; 著述に専念、1242-81「阿婆縛鈔」(台密事相228巻)著、  
「悉曇字記要決」「悉曇正音義」「五壇法日記」「熾盛光法」外著多数、歌; 続拾遺1223、  
[老いにける六十の歳を数へても残りなき身をなほ歎くかな](続拾遺; 雑1223)、  
通称; 小川僧正、基嗣(大納言)・澄快・勝尊・澄空・慈弁・覚修・道源・勸誉・房性の兄弟
- U2224 **正澄**(しょうちよう; 法諱、清拙せいせつ; 道号、号; 竟滅、俗姓; 劉) 1274-133966 元福州漣江の福建臨濟僧、  
1288(15歳)伯父月溪谷紹円門; 出家/浙江浄慈寺の愚極智慧門、1326北条氏の招聘で渡来、  
建長寺21世住寺/円覚寺16世/建仁寺23世/南禅寺14世歴任、建仁寺禅居庵に退隠; 没、  
「五家正宗賛入紙」「清拙和尚禅居集」「無門関註」「清拙和尚語録」「大鑑清規」著、  
諡号; 大鑑禅師、月江正印の弟
- K2287 **昌澄**(しょうちよう; 法諱、真照坊; 号)?-? 1552存 天台僧、1552「日光山金堂故実双紙」著
- K2288 **昭超**(しょうちよう; 法諱、准秀; 字、興正寺18世昭玄4男) 1607-6054 真宗僧; 1621得度/22興正寺19世、  
1628大僧都/本願寺12世光昭(准如)女と結婚/32権僧正、  
1652西吟と月感の法論に月感(息子円尊の養親)を支持; 本願寺に反抗;  
1655幕府命で越後今町に逼塞、のち赦免; 帰京、僧正に至る、1654「安心相違之覚書」著、  
諡号; 寂静院、
- U2225 **紹兆**(しょうちよう・里村[; 北家]、別号; 紹甫しょうほ、玄祥男)?-1716 幕府連歌師/1693出勤/1708発句、  
「里村紹甫東下りの記」「拾葉集」著
- K2289 **昌長**(しょうちよう) ?-? 俳人; 1689「あら野」1句入、  
[涼しさは座敷より釣る鱸づきかな](あら野; 卷四/貞門古句; 座敷にて鱸を釣るや屋形舟)
- K2290 **性激**(しょうちよう; 法諱・靈潭; 字、法名; 東蓮社仁誉、西岡吉種男) 1676-173459 肥前伊万里浄土僧;  
1687(12歳)常光寺一玄門; 出家/1692江戸へ/93増上寺入/97増上寺了也門; 宗義を相承、  
1701上京; 法然院忍激門/02江戸増上寺に戻り雲臥より宗戒両脈を相承、浄土律を提唱、

1720洛東の千日庵住;ここを聖臨庵と改名;律苑とし持戒念仏の道場とす、「浄触法要」著、  
1720-34「円戒口訣」、「教訓日用学則」「浄人須知法」「絹衣開制問訣」「持律機鑑」著

- U2226 昌長(しょうちょう) ? - ? 連歌、1743吉宗還暦「御賀千句」参加
- U2227 紹長(しょうちょう・津田つた) ? - ? 江前期説話伝承者;「奇異雑談さいどうだん集」入
- K2291 韶澄(しょうちょう;法諱) ? - ? 江後期近江坂本の天台僧、  
1832「御山のしをり」、「両法華会記」著、  
[韶澄(;法諱)の号]摩訶三毒/荷香庵主人
- 章長(しょうちょう・高辻) → 章長(のりなが・高辻、廷臣/漢学) F 3 5 3 3
- 章澄(しょうちょう・中原) → 章澄(あきずみ・中原/高倉、明法家) C 1 0 5 2
- 聖澄(しょうちょう・月溪;道号) → 月溪(げっけい・聖澄、臨濟僧/詩文) G 1 8 9 8
- 正長(しょうちょう) → 正長(せいちょう、連歌) C 2 4 6 4
- 少長(しょうちょう;俳号) → 七三郎(しちさぶろう・初世中村、歌舞伎役者) 2 1 2 7
- 少長(しょうちょう、俳名) → 七三郎(しちさぶろう・二世中村、歌舞伎役者) E 2 1 5 4
- 昌長(しょうちょう・若林) → 昌長(まさなが・若林、狂歌) L 4 0 0 4
- 昌長(しょうちょう・小林) → 源蔵(げんぞう・小林こばやし、工匠) K 1 8 8 5
- 昌長(しょうちょう・辻) → 昌長(まさなが・辻つじ、和算家) F 4 0 2 7
- 昌長(しょうちょう・朝比奈) → 昌長(まさなが・朝比奈/源、幕臣/歌人) M 4 0 6 2
- 昌調(しょうちょう・広津/馬田) → 柳浪(りゅうろう・馬田うまた/広津、医者/戯作者) F 4 9 8 8
- 昌澄(しょうちょう・志貴) → 昌澄(まさずみ・志貴しき、神職/国学/歌) D 4 0 0 1
- 乍若(しょうちょう;号) → 古岳(こがく;道号・宗亘そうごう;法諱、臨濟僧) L 1 9 8 8
- 尚長(しょうちょう・甘露寺) → 尚長(ひさなが・甘露寺かんろじ、廷臣/日記) B 3 7 6 5
- 尚長(しょうちょう・東坊城) → 尚長(ひさなが・東坊城/菅原、廷臣/日記) B 3 7 6 8
- 尚長(しょうちょう・山崎) → 尚長(ひさなが・山崎、実録作者) B 3 7 6 9
- 尚長(しょうちょう・紀) → 尚長(ひさなが・紀きの、神職/国学) J 3 7 2 0
- 尚澂(しょうちょう・本田) → 山雪(さんせつ・本田ほんだ、書家) M 2 0 5 3
- 将聴(しょうちょう・石原) → 正明(まさあき/まさあきり・石原、国学者/歌) 4 0 0 4
- 勝徴(しょうちょう・秋田) → 勝徴(かつとも・秋田あきた、藩士/国学) C 1 5 4 9
- 勝長(しょうちょう・大岩) → 勝長(かつなが・大岩、国学者) N 1 5 6 3
- 勝長(しょうちょう・山添) → 勝長(かつなが・山添、国学者) N 1 5 6 4
- 勝長(しょうちょう・甘露寺) → 勝長(かつなが・甘露寺、廷臣) N 1 5 6 5
- 勝澄(しょうちょう・山崎) → 岡臥(こうが・山崎、藩士/軍学/俳人) H 1 9 8 2
- 勝澄(しょうちょう・林) → 晋軒(しんけん・林、読耕斎男/幕府儒官) D 2 2 9 3
- 照長(しょうちょう・有馬) → 照長(てるなが・有馬ありま/吉田、藩老/歌) F 3 0 0 3
- U2228 定澄(じょうちょう;法諱) 935 - 101581 平安期僧/1000興福寺別当/大僧都、「枕草紙」9段入;  
清少納言と権中将源成信との会話に背の高い僧都として登場
- U2229 定朝(じょうちょう・法橋、康尚男)?-1057 平安中期の仏師:平等院阿弥陀を造(1053供養)
- U2233 静澄(じょうちょう、藤原房長or康長男)?-? 鎌倉後期天台僧/大輔/法眼/法印/歌人、  
聖護院坊官今大路源基の弟、1320成立「続千載」(1839;二品法親王家五十首歌に山家嵐)、  
[嶺続き松の木末を吹過ぎて嵐もとはぬ谷かげの庵](続千;雑1839)
- K2292 定超(じょうちょう;法諱) ? - 1362 真言僧;定耀門;灌頂を受/醍醐寺岳西院住、法印、  
報恩院流末流岳西院流定超方の祖、「灌頂問答」「灌頂雑問答」「伝法灌頂兼日当日用意事」著
- 常長(じょうちょう・大中臣) → 常長(つねなが・大中臣おおなかとみ/河辺、神職) C 2 9 8 3
- 常朝(じょうちょう・山本) → 常朝(つねとも・山本やまもと、藩士/学者) C 2 9 7 2
- 常朝(じょうちょう・西山) → 政樹(まさき・西山/中里、国学者/歌) L 4 0 8 1
- 常澄(じょうちょう・苺谷) → 常澄(つねずみ・苺谷/刈谷かみや、藩士/国学) E 2 9 9 3
- 少蝶庵(しょうちょうあん) → 尊閑(たかやす・役えき、平賀、修験/古典) N 2 6 5 2
- U2234 松長軒(しょうちょうけん・佐久間さくま、伝兵衛男) 1800-6465 父は大阪の料亭若松屋主人、  
浄瑠璃太夫;4世染太夫門、浄瑠璃作者;万延1860-61頃まで浄瑠璃界の重鎮、  
「花雲佐倉曙」合作/自演、  
[松長軒(;号)の幼名/別号]幼名;伝次郎、



別号;竹本菊太夫/3世竹本長門太夫/竹本実太夫/竹本長登太夫、法号;長秀院

- 松聴軒(しょうちやうげん) → 正明(まさあき・勝野かつの/平、藩士/国学/歌) O 4 0 8 8
- 嘯鳥舎(しょうちやうしゃ) → 有琴(ゆうきん・林、俳人) B 4 6 2 7
- 松蝶楼(しょうちやうろう) → 国麿(初世くにもろ・歌川うたがわ、絵師) B 1 7 9 5
- 昌直(しょうちよく・松村) → 昌直(まさなお・松村、藩士/刀剣研究) F 4 0 0 4
- 縄直(しょうちよく/つななお・小幡) → 景憲(かげのり・小幡おはた、幕臣/軍学者) B 1 5 8 9
- 縄直(しょうちよく・土屋) → 縄直(ただなお・土屋つちや/源、幕臣/歌) U 2 6 0 6
- 縄直(しょうちよく・佐藤) → 魯白(ろはく・佐藤さとう、商人/俳人) C 5 2 3 2
- K2293 照珍(しょうちん;法諱) 1381 - ? 1408存 天台僧/廬山寺に修学?、台密小川流の末流と称す、  
「悉曇始学鈔」「反音抄」著
- K2294 照珍(しょうちん;法諱・宝園;字、俗姓;津田) 1555-162874 河内の律宗僧:山城寿徳院照瑜門;出家、  
1579唐招提寺入;泉柴門;受戒/顕密を修学、南都伝香寺住、南北の諸寺で戒律を究める、  
1593泉涌寺長老/1605唐招提寺和上となる、京法金剛院・八幡善法律寺・伝香寺など兼任、  
後陽成天皇の戒師;引導師/家康の帰依も篤かった、  
「伝香寺縁起」「教誠律儀私抄」「伝香寺御舍利伝記」著、  
[照珍(;法諱)の号]玉英/光照
- 昌椿(しょうちん;法名) → 資連(すけつら・布施ふせ/三善、室町幕臣) C 2 3 4 8
- 勝陳(しょうちん/かつのぶ・広橋) → 胤定(たねさだ・広橋、廷臣/記録/歌) R 2 6 7 8
- K2295 定珍(じやうちん;法諱) 1534 - 160370 下野小山の人/長じて天台僧:  
常陸小野逢善寺雄海門/1560比叡山入;山門諸流の奥義を究める/1570常陸逢善寺に帰住、  
逢善寺の学頭;門弟教育、僧正/内供奉、1571「要文集」73「俱舎世間品私」74「綱目鈔私」著、  
1576「賢聖品私」80「五味義抄長時華嚴」84「心地教行私」90「妙経科註序私」著、外編著多数
- 常陳(じやうちん・久志本) → 常陳(つねのぶ・久志本/度会、神職/日記) D 2 9 0 3
- U2235 承鎮法親王(しょうちんほっしんのう、号;梶井宮、彦仁王男)?-? 母;三条公親女、1317伏見天皇の猶子、  
親王宣下/1326天台座主(114代)、歌;続千載502、  
[秋深き床の山風身にしみて月影寒き夜はの手枕](続千載;五秋502)
- 少槌(しょうちい・上田) → 光賢(みつかた・上田うねだ、国学・歌) H 4 1 7 8
- K2296 聖通(しょうつう;法諱) 1397 - 142731歳 真言醍醐善乗院の僧/僧正、「字功能」著
- 尚通(しょうつう・近衛) → 尚通(ひさみち・近衛、大政大臣/歌/連歌) B 3 7 9 4
- 性通(しょうつう;字) → 靈波(れいは;法諱・性通、華嚴僧) 5 1 6 1
- 性通(しょうつう) → 貞連(さだつら・飯尾いひのお、室町幕臣/連歌) I 2 0 6 8
- 昌通(しょうつう・里村) → 祖白(そはく・里村さとむら、連歌師) K 2 5 3 3
- 昌通(しょうつう・武藤) → 昌通(まさみち・武藤むとう、神職) H 4 0 5 6
- 常道(じやうつう・坪川) → 常通(つねみち・坪川つばかわ、和算家) D 2 9 8 8
- U2236 浄通尼(じやうつうに) ? - ? 室町期歌人、1665後西天皇「集外歌仙」入
- U2237 昌程(しょうてい・里村さとむら[南家]、名;景益、昌琢男) 1612-88 母;北家里村玄仍女、幕府連歌宗匠、  
父を継承;1667二十人扶持/法橋、1670致仕、「昌程発句集」「昌倪辞世歌序」「寛佐口伝」、  
「連歌集書」「天満宮千句」「南中島国分寺千句」「連歌秘極集」「賦何路連歌」「大乘」外著多、  
[昌程(;号)の別号法号]別号;非有庵、法号;妙心院法橋昌程、昌陸・昌純の父
- U2238 尚亭(しょうてい・北川きたがわ/初姓;寺西) 1651-172171 北川三右衛門の養嗣子;陸中南部盛岡藩士、  
儒者;無方長老門;経史・天文を修学、兵学に通ず、盛岡藩物頭/勘定頭、  
儒者論党事件に座す;1703閉門配流、のち赦免;1719讒言により再謫;配所び没、  
「渾天儀」「万字文」「三字経」著、寺西市右衛門勝胤の弟、  
[尚亭(;号)の名/通称/別号]名;宗俊(むねとし/勝秀/宗直、通称;新左衛門、別号;瓢界、  
法号;退庵智休信士
- W2237 松貞(しょうてい・加藤かとう、)? - ? 江中期/歌人;松原貞為(てい)門、  
1722松堅[倭詞五十人一首]入、  
[舟いるゝほどだにまたで降りぬれば袖に湊の騒ぐ夕立](五十人一首;44湊夕立)
- U2239 松亭(しょうてい・鳥海とりのみ、名;恭、藩医鳥海良琢の長男) 1772-181948 羽後矢島の生/庄内藩医、  
病弱のため1799致仕、漢学者;市河寛斎門、老荘学精通、物産学・国学/書画も修得、

1816「音韻啓蒙」、「松亭小言」「莊子独断」「泰西余言」「鳥海叢書」著、「松亭書」書、  
生前輯録の諸家の記録は遺言により没後藩校致道館に収納、  
[松亭(；号)の字/通称/法号]字；仲黙、通称；重三郎、法号；青林院

K2297 昌亭(しょうてい・渡辺わたなべ、名；欽、名古屋藩医渡辺昌庵長男)1777-1801早世25 江戸の医者、  
市ヶ谷に住；父門、祖父昌倫はじめ叔父など一族が医者、儒；豊島豊洲門、  
1798名古屋藩番医、「痘瘡約言」著、  
[昌亭(；号)の字/別号]字；伯敬、別号；魯庵、 篤の兄

P2265 松庭(しょうてい・長沢) ? - ? 絵師、「韃靼人狩獵図巻」(1806山根貞章奥書、毛利博物館蔵)

K2298 松亭(しょうてい・高田たかだ、名；保浄、井上翼章男/高田家の養子)1787-184761 福井藩士；1821家督、  
大御番/広敷用達/表納戸役/1847上水奉行、儒者；高野真齋・中根雪江・渥美友高らと交流、  
「松亭詩歌集」「松亭聞見録」「松亭座左起居録」「西窓軍談」「吾妻のつと」「女誠俚諺鈔」、  
「梱内俚諺鈔」「新撰忠義伝」「年中家事定式」「歴史管見」、1833「続白山紀行」  
[松亭(；号)の字/通称/法号]字；仲廉、通称；次松/弥市郎、法号；威音院

U2200 松亭(しょうてい・三上みかみ、字；九如)？-？ 上州の生/江戸住；医者/詩人；  
1835「梅花百律」著、38「天保三十六家絶句」編、  
[松亭(；号)の号] 静一居士/静一道人/赤城

K2299 正貞(しょうてい・曲直瀬まなせ/本姓；越智、正隆男)1809-5850 曲直瀬正琳を祖とする養安家の生、  
京の医者(家学)；父門、句読；安積良齋門/幕府製薬所見習/1838奥詰給事；製薬所を管掌、  
本草家；自ら薬草を多数栽培、1850法眼/57医学教督に抜擢される、「花卉彙編」「雑草譜」、  
「五十七卉考」「本草問答録；問」著/「群芳写真別輯」編、正健の父、  
1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、  
[こりはてし世のうきよりはましばたく煙いぶせき住み家なれども]、  
(大江戸倭歌；雑1727)、  
[正貞(；名)の字/号]字；子幹、号；篁庵こうあん/楓簷ふうえん、養安院

L2200 松亭(しょうてい・高須たかす/旧姓；光岡、名；茂貞/字；子堅)1814-8976 備前岡山の豪商光岡家の生、  
高須松齋の養子/蘭医者；1834江戸の坪井信道門/46幕府天文台に出仕；蕃書和解御用、  
1855江戸在住で羽後秋田藩医、1861「日本風俗備考」訳、「星学航海地誌」訳、後藤敬吉の師

L2201 松亭(しょうてい・大隅おおすみ、名；宣長/通称；日向)？-？ 江後期信州佐久郡の臼田明神神主、  
「臼田新聞」「薰蕕同器集」「信濃国全図」「佐久郡志」著

昌貞(しょうてい・小林)	→	昌貞(まささだ・小林こばやし/藤原、歌人)	T 4 0 9 3
章貞(しょうてい・吉川)	→	経幹(つねまさ・吉川きつかわ、領主/日記)	D 2 9 7 8
章貞(しょうてい・高島)	→	章貞(あきさだ・高島たかしま、医者/歌人)	G 1 0 6 5
昇亭(しょうてい、池田)	→	岐山(きざん・昇亭、読本作者)	K 1 6 6 3
昇亭(しょうてい)	→	北壽(ほくじゅ・葛飾/昇亭、浮世絵師)	D 3 9 3 7
尚貞(しょうてい・木沢)	→	尚貞(なおさだ・木沢さざわ/並河、医者/歌)	I 3 2 8 1
勝定(しょうてい；法諱)	→	勝定(しょうじょう；法諱、法師/歌人)	V 2 2 9 0
勝定(しょうてい・字)	→	恵什(えじゅう；法諱/；斎朝、真言僧)	D 1 3 9 5
勝定(しょうてい/かつさだ・中川)	→	景山(けいざん・中川なかがわ、藩士/詩歌)	F 1 8 7 8
勝定(しょうてい・福原)	→	元圃(もとたけ・福原/佐世/毛利、家老/歌)	C 4 4 8 8
勝貞(しょうてい・安倍)	→	勝貞(かつさだ・安倍あべ/山県、藩士)	T 1 5 3 2
勝貞(しょうてい・小豆沢)	→	勝貞(かつさだ・小豆沢あずさざわ、歌人)	T 1 5 4 2
証定(しょうてい)	→	証定(しょうじょう；法諱、華嚴僧)	J 2 2 7 9
松亭(しょうてい・岡田)	→	宗郷(そうきょう・千せん、千家華道14世/歌)	G 2 5 8 1
松亭(しょうてい・宮川)	→	松堅(しょうけん・宮川、歌・俳人)	S 2 2 0 6
松亭(しょうてい・中村)	→	金水(きんすい・松亭、読本作者)	1 6 6 3
松亭(しょうてい・関岡)	→	鹿野山住(しかのやまざみ、狂歌作者)	B 2 1 3 7
松亭(しょうてい・森下)	→	驥(き・森下もりした、藩士/医者)	J 1 6 4 8
松亭(しょうてい・鈴鹿)	→	正路(まさみち・鈴鹿すずか、雑掌/歌人)	Q 4 0 3 8
松亭(しょうてい・鳥海)	→	恭(きょう・鳥海とりうみ、国学者)	C 1 6 1 3
松亭(しょうてい・荒木)	→	冬丸(ふゆまる・荒木あらかき、国学/歌人)	H 3 8 9 5

- 松亭(しょうてい・橋本) → 左内(さない・橋本、藩士/蘭医/勤王家) K 2 0 6 1  
 松亭(しょうてい・加須屋) → 武義(たけよし・加須屋かずや/岩越、藩士/歌) W 2 6 3 9  
 尚貞(しょうてい・吉雄) → 南臯(なんこう・吉雄よしお、蘭学/医者) I 3 2 9 6  
 松貞(しょうてい・村上) → 忠浄(ただきよ・村上むらかみ、医者/歌) E 2 6 4 4  
 昭貞(しょうてい・松平) → 近禎(ちかよし・松平まつだいら、藩主/歌人) N 2 8 8 4  
 蕉亭(しょうてい・増山) → 正賢(まさかた・増山ましやま、藩主/書画) B 4 0 9 0  
 蕉亭(しょうてい・阿部) → 正精(まさきよ・阿部あべ、藩主/書画/歌) L 4 0 5 9  
 蕭亭(しょうてい・司馬) → 江漢(こうかん・司馬しば/安藤、絵師/蘭学) 1 9 9 1  
 嘯亭(しょうてい) → 如杉(じよさん・宮尾みやお、俳人) Q 2 2 4 3
- L2202 浄諦(じょうてい/じょうたい;法諱) ?- ? 996存 平安期修験僧;雲居侍の執行、浄蔵の孫?、  
 996「修験名称原義」;一条天皇勅命で修験道の名称・意義・流転・異派等記述し天覧に供す  
 浄貞(じょうてい・中林) → 亙休(ぎきゅう・中林なかばやし、俳人) 1 6 9 1  
 常定(じょうてい・吉田) → 常定(つねさだ・吉田よしだ、歌人) F 2 9 0 6  
 常定(じょうてい・堀家) → 常定(つねさだ・堀家ほりけ、神職/国学) G 2 9 3 3  
 松亭唾方(しょうていあほう) → 唾方(あほう・松亭、滑稽本作者) C 1 0 7 4  
 誠諦院(じょうていいん) → 日善(にちぜん;法諱、日蓮僧) C 3 3 6 3  
 誠諦院(じょうていいん) → 日証(にっしょう;法諱・栄境、日蓮僧) E 3 3 2 5  
 松亭鶴仙(しょうていかくせん) → 金鷲(きんが・梅亭、吉田/瓜生、幕臣/戯作) D 1 6 8 3  
 昇亭岐山(しょうていきざん) → 岐山(きざん・昇亭/池、読本作者) K 1 6 6 3  
 松亭金水(しょうていきんすい) → 金水(きんすい・松亭、読本作者) 1 6 6 3  
 松亭軒(しょうていけん) → 松堅(しょうけん・宮川、俳・歌) S 2 2 0 6  
 松亭子(しょうていし) → 松堅(しょうけん・宮川、俳・歌) M 2 1 3 1  
 松亭寿山(しょうていじゅざん、橋本貞秀) → 五蘭斎(ぎよくらんさい、絵師) D 1 6 1 1  
 松亭竹馬(しょうていちくば) → 藤兵衛(とうべえ・山口屋、書肆/合巻) H 3 1 0 8  
 浄貞女(じょうていのむすめ・玉井) → 浄貞女(きよさだのむすめ・玉井たまのい、歌人) V 1 6 7 3  
 昇亭北寿(しょうていほくじゅ) → 北寿(ほくじゅ・葛飾かつしか、絵師) D 3 9 3 7
- L2203 紹滴(しょうてき;法諱・一凍;道号、俗姓;高屋) 1533-160674 和泉の臨濟僧;和泉竜門寺雲岫門;出家、  
 堺の南宗寺の大林宗套門/のち笑嶺宗訃門;嗣法、1583京の聚光寺・徳禅寺住持、南宗寺住、  
 1594京の大徳寺126世、退隠後南宗寺再住、1598禅師号を勅賜、沢庵宗彭は一凍紹滴の法嗣、  
 「臨濟録一凍抄」著、  
 [一凍紹滴の初法諱/号]初法諱;宗滴、号;野檉子やたい/明堂古鏡禅師
- L2204 正的(しょうてき・板津いたづ、藩士了甫3男) ?-1679 加賀の檢校;失明、国学に通ず、連歌;脇田直賢門、  
 前田利常・綱紀に出仕、綱紀の武運長久祈願;1668「白山比咩神社連歌独吟百韻」献上、  
 「正的筆記」「五七問答附尾」著、  
 [正的(;名)の通称]巽一そんいち/不守一、
- F2253 松滴(しょうてき) ?- ? 京の俳人、  
 1672元隣「諸国独吟集」入、1680「江戸弁慶」11句入
- L2205 蕉雫(しょうてき) ?- ? 俳人;1686仙化「蛙合かわずあわせ」入  
 [若芦にかはづ折り伏す流れ哉](蛙合)
- G2296 松笛(しょうてき、春花堂) ?- ? 京の車屋町押小路下ル町の俳人;雑俳点者、  
 1691「帆懸舟」編、91江水「元禄百人一句」入、  
 [佐保姫の轡ながえたつらむ今朝の松](元禄百一;41/門松は春の女神を迎える輿の轡)
- B2203 昌迪(しょうてき・里村さとむら[南家]、名;景命、昌億男) 1705-58 幕府連歌宗匠、1743「吉宗御賀千句」参
- G2216 章迪(しょうてき・雨森あめのもり) 1732-8655 京の医者、書家;隸書・行書に通ず、漢学者・詩人、  
 1784几董「から檜葉ひば」に哭文・哭詩入、  
 [章迪(;名)の字/号]字;吉兆、号;白山/白隠斎/九畹きゆうえん
- 尚迪(しょうてき・川村) → 竹坡(ちくは・川村、藩士/儒者/詩) D 2 8 7 0  
 尚迪(しょうてき・陶山) → 尚迪(ひさみち・陶山すやま、医者) B 3 7 9 8  
 章迪(しょうてき・雨森) → 鉄僧(てつそう・雨森あめのもり、医/俳人) C 3 0 5 4  
 照笛居士(しょうてきこじ) → 野坡(やば・志太しだ/斎藤、俳人) 4 5 1 2

- 2241 **正徹**(しょうてつ;法諱・清巖せいがん;道号、小松康清[or秀清]男?) 1381-1459<sup>79</sup> 歌人/禅僧、  
父;備中小田神戸山城主、10歳頃より詠歌、  
1395(15歳)頃月次会で冷泉為尹・今川了俊と出会う/のち為尹・了俊門、  
1396奈良の門跡に出仕/応永21(1414)出家/臨濟僧;東福寺東漸健易門、  
聖一派栗棘りつきやく門派の象先会玄の嗣法/東福寺書記役、古典研究;尊氏に源氏物語を講、  
歌:多作/1432今熊野の草庵類焼し2万7千首を焼失;その後家集「草根集」に1万1千余首入、  
宗砌・心敬等の連歌師・山名・細川等守護大名と交流、堯孝一派と対立、正広・正般等の師、  
1448賢良[畠山匠作亭詩歌]参加/57武家歌合参加、  
家集「草根集」「続草根集」、「月草」「正徹物語」「正徹詠草」「正徹千首」、  
「正徹詠草」「連歌師哥集」、「源氏物語抄」「関東海道記」「清巖茶話」「夏夜待風歌」外著多数、  
[ちらせ猶みぬもろこしのとりもねず桐の葉わくる秋の三日月]、  
(匠作亭詩歌;14/落梧新月/対するは心田清播せいのはの詩)、  
[正徹(;法諱)の幼名/俗名/号/通称]幼名;尊命丸/尊明丸、俗名;姓;小松/名;得清・正清、  
号;松月庵/招月庵、通称;徹書記
- U2279 **正哲**(しょうてつ・桐山きりやま、) 1754-1815<sup>62</sup> 陸奥弘前津軽藩医桐山家4代、本草;田村元長門、  
1781(天明元)江戸の躰壽せいじゅ館初の薬品会を主宰/88(天明8)近習医に昇進、  
蘭学者;杉田玄白・前野良沢らの[解体新書]翻訳事業に参加、  
[正哲(;通称)の名/別通称]名;永世ながよ、初通称;正倫、  
「学本草随筆」著者の桐山正怡は弟か?
- U2276 **小徹**(しょうてつ/こてつ・釜屋かまや、古森厚孝[龟淵]5男) 1837-1900<sup>64</sup> 伊勢度会郡浦口の生、  
国学者;足代弘訓門、宮町の釜屋数馬家の嗣;再興、漢学;龍三瓦・齋藤樂山門、  
勤王派藤本鉄石門;鉄石に随い上京、画;林松岳門、国事奔走、  
[小徹(;名)の通称/号]通称;新八郎/因幡、号;淡泉  
正鉄(しょうてつ・安東/井上) → 正鉄(まさかね・井上/富田、神道家) C 4 0 1 7  
升哲(しょうてつ・村井) → 古道(こどう・村井むらい、医/俳人/地誌) D 1 9 4 1  
紹鉄(しょうてつ・今枝) → 直恒(なおつね・今枝いまへだ/日置、藩家老) L 3 2 2 0  
常徹(じょうてつ;法名) → 俊逸(としはや・坊城/藤原、廷臣/神道家) N 3 1 3 9
- L2206 **性天**(しょうてん;道号・含虚がんきょ;法諱、俗姓;東)?-?1704<sup>存</sup> 奈良の臨濟僧;肥後泰勝寺大淵の法孫、  
大淵;1653没/のち泰勝寺住持、1698妙心寺に歴住式再興/1704細川泰勝に虚堂録を講ず、  
肥後湘陰寺に没、「含虚外集」/1704「虚堂和尚頌古評唱折中録」補
- L2207 **性天**(しょうてん;道号・智円ちえん;法諱)?-? 曹洞僧;連山交易(1694没)の侍者、  
1701「帰蔵采逸集」編
- U2292 **盛天**(しょうてん;法諱) 1663 - 1747<sup>85</sup> 下野佐野の真言宗大聖院の学僧、国学者
- L2208 **衝天**(しょうてん;道号・元統げんとう;法諱、俗姓;岩間) 1666-1730<sup>65</sup> 伊勢三重郡日野村生/江戸の商人、  
黄檗僧;1689高泉性激門/出家、師没後は梅嶺道雪門;嗣法、伊勢相可村に草庵を開創;  
のち法泉寺と改める、伊勢五ヶ谷村観音寺を再興、法泉寺に没、「衝天和尙遺録」(1746刊)
- L2209 **承天**(しょうてん;道号・則地そくち;法諱、号;大清撫国禅師)?-1744 江戸の曹洞僧;広岳院鉄舟峰鷲門、  
鉄舟の嗣法、元禄1688-1704頃広岳院6世/泉岳寺10世/1710武州竜穩寺31世、  
1716越前の永平寺39世、21越前万慶寺開創/28永平寺に退隱、「義士伝秘記」「義士語眞伝」、  
「義士伝附録広岳院承天覚書」「泉岳寺書上」「義士夜討高名咄」著  
承天(しょうてん) → 訥庵(とつあん・大橋、儒者/尊攘派) O 3 1 4 1  
少典(しょうてん・蓬萊) → 尚知(ひさあき・蓬萊ほうらい/磯辺、神職) K 3 7 9 3  
尚典(しょうてん・吉田) → 愚谷(ぐこく・吉田よしだ、藩士/儒者) C 1 7 3 7
- R2250 **勝伝**(しょうてん) ? - ? 奈良期西大寺三綱の1(外は証瓊・長良)、  
780「西大寺資財流記帳しぎるきちよう」(西大寺資材帳)三綱の共著
- L2210 **接伝**(しょうてん/つぐみち・臼井うすい/本姓;平、名;竹丞/中常、金地堂春磨男) 1668-1705<sup>38</sup> 母;大中臣氏、  
京の祇園社祠官、唯一神道を主唱(両部習合を排す)、緝紳の眷過を受、門人6百余名、  
1693「卜部系図」、「賢問愚註」、「歴覧書目」、「黄猿観記事珠」、「極秘神代聞記」、「天地運行図」、  
「神武天皇甲寅曆」「日本書紀大全八洲起原段」(70卷)著、  
[接伝(;通称)の号]号;太常宗、諡号;普照独鋒ひょうどくぼう先生

- R2251 **正伝**(しょうでん・春富士はるふじ)?-1781? 浄瑠璃太夫/豊後節;初世宮古路蘭八門、1733頃から宮古路歌内名で活動/1759から春富士正伝に改名;正伝節の祖、1763「春富士都錦」(正伝節正本集)刊/江戸下向;3世宮古路蘭八を名乗る;蘭八節の称、[春富士正伝(;号)の別号] 宮古路歌内弁中(;初号)/三世宮古路蘭八(江戸での号)
- L2211 **昌伝**(しょうでん・平野ひらの/本姓;惟任これとう)?-? 江後期天文/測量家、和算;田島庄五郎門、規矩学;1792オランダ人ビーテル・ワリウス門、江戸本所に独覚舎(社)を開塾;子弟教育、1797「蛮法町見術」、「測円術解」、「和蘭曆交食考」、「西洋黄道宮次」、「角法踏轍術正義」外著多、[昌伝(;名)の通称/号]通称;善兵衛/喜兵衛/嘉兵衛、号;寤黙軒ごもくけん/悟黙軒
- 正伝(正電しょうでん;法諱)→ 光巖(光岳こうがく;道号・正伝、曹洞僧) P 1 9 5 2  
 聖伝(しょうでん;法諱) → 性愚(しょうぐ;字・聖伝;法諱、浄土僧) I 2 2 1 2  
 常典(じょうてん・檜垣) → 常典(つねのり・檜垣ひがき/度会、神職) D 2 9 1 4  
 常典(じょうてん・山田) → 常典(つねのり/つねすけ・山田/源、藩士/国学/歌) D 2 9 2 0  
 常典(じょうてん・細川) → 常典(つねのり・細川ほそかわ、廷臣/歌人) D 2 9 2 2  
 常典(じょうてん) → 常典(つねのり・久志本/度会、医者/歌) D 2 9 1 3  
 浄伝(じょうでん・法名) → 詮信(のりのおぶ・桃井、武家/歌人) F 3 5 3 9  
 常伝(じょうでん・松島) → 松圃(しょうほ・松島まつしま、俳人/大鼓) L 2 2 6 2  
 承天院(しょうてんいん) → 信順(のぶのり・松平、藩主/儒国学/歌) C 3 5 7 7  
 承天院(しょうてんいん;法号)→ 広鎮(ひろしげ・毛利もうり、藩主/詩歌) G 3 7 0 1  
 昇天真人(しょうてんしんじん)→ 正斎(せいさい・近藤、幕臣/儒/千島探検/歌) B 2 4 5 8  
 照天祖鑑国師(しょうてんそかんこくし)→ 龜年(かめねん;道号・禅愉、臨濟僧) L 1 6 7 3  
 松渡(しょうと・長尾) → 勝元(かつもと・長尾ながお、藩士/記録) N 1 5 9 2  
 照砥(しょうと・松平/榊原)→ 月堂(げつどう・榊原さかきばら、幕臣/書家) H 1 8 3 0  
 常都(じょうと・檜垣) → 貞兄(さだえ・檜垣ひがき/度会、神職) H 2 0 7 6  
 浄土院(じょうどいん;号) → 示導(じどう;法諱、浄土宗西山派僧) V 2 1 2 4
- R2252 **聖統**(しょうとう;法諱、栗島入道)?-? 南北期僧(法師)/歌人;新千載1351・新後拾696、[とはずともせめてたのめぬ暮ならばかはる心は知られざらまし](新千載;恋1351)
- R2254 **松濤**(しょうとう・石川いしかわ)? - ? 武蔵八王子石川の俳人;其角門、不トと親交、1683挙白「馬蹄二百句」四吟入、1683其角「虚栗」・85調和「一星」入/88不ト「続の原」3句入、1690言水「新撰都曲」4句入、92沾徳「誹林一字幽蘭集」入、[嬉しくて桜に年のよる身哉](新撰都曲;上245/見事な桜花に自分の年を重ねる喜び)
- L2212 **松洞**(しょうとう・米田よねだ)? - ? 江中期の詩人;1778孤山「楽洋集」入
- R2255 **松塘**(しょうとう・疋田ひきた/本姓;藤原、名;定綱/厚綱、柳塘男)1779-1833 母;小瀬伊章女、羽後秋田藩士;1801-17家老/20-32再度家老、藩政に尽力;1802羽後亀田藩との境目論交渉、貧窮者施策;間引き禁止・撫育料制度など、学問奨励;村瀬栲亭を招聘、儒詩に長ず、「疋田松塘詩集」「一夢吟稿」「十雪堂蕪草」「春風楼吟稿」「ゑんま庁嘶」「子孫教訓のうた」、1814「長堤竹枝詞」30「芹羹余言」33「ゑんま大王の申渡」著、[松塘(;号)の幼名/字/通称/別号]幼名;鶴治/八弥、字;伯紀、通称;求馬/斎/鉄五郎、別号;春風楼/雪堂/十雪館
- R2256 **松塘**(しょうとう・鈴木/鱸すずき、名;元邦、道順男/母;原まつ)1823-9876 眼科医;父門/儒;岩崎櫻齋塾、1839梁川星巖門;星巖門3高足(枕山・小野湖山と)、詩;1865江戸で開塾(のちの七曲吟社)、1851「松塘詩鈔」/65「房山楼詩」、「松塘小稿」「緑陰亭詩鈔」著、[松塘(;号)の字/通称/別号]字;彦之、通称;礼助/松塘、別号;東洋釣史/晴耕雨読齋/十髯叟堂/懐人詩屋/房山楼、法号;房山院
- L2213 **松濤**(しょうとう・江川えがわ、名;良安よしやす)1826-6843 江戸の儒者;加納諸平門、歌人、紀州藩に出仕、小姓組頭兼用人、国学;加納諸平・本居内遠門、「常盤園詠草」「常盤園草稿」著、「松濤遺筆」、[松濤(;号)の通称/別号]通称;左金吾、別号;松濤軒/常盤園/弄泉堂
- R2257 **松嶠**(しょうとう・家里いさと、名;衡、近藤平七男)1827-63刺殺37 1836伊勢松坂儒者家里悠然の嗣、儒学;小浦広名・鷹羽竜年・斎藤拙堂門、1848江戸で諸国の士と交流;勤王家/尊攘を主唱、

1855京で尊攘活動;梁川星巖・頼三樹三郎らと交流;刺客に襲撃;三条河原に梟首、  
「松嶠詩文抄」「雅文集成」「堅斎閑話」1853「勢海珠璣一集」56「家里松島文会録」著、  
[松嶠(;号)の字/通称/別号]字;誠県/直之祐、通称;新太郎、

別号;磊々軒/堅斎/豹隱/百林樵人

性瑠(しょうとう;法諱)	→	木庵(もくあん;道号・性瑠;法諱、黄檗僧)	4 4 6 4
正棟(しょうとう)	→	正棟(せいとう、連歌作者)	C 2 4 7 0
正桃(しょうとう;法諱)	→	大洞(大投だいとう;道号・正桃、曹洞僧)	K 2 6 7 9
省灯(しょうとう;法諱)	→	無塵(むじん;道号・省灯、臨濟僧)	4 2 7 2
尚陶(しょうとう・小山)	→	杉溪(三逕さんけい・小山おやま、儒/蘭学)	E 2 0 2 7
章棟(しょうとう・平)	→	章棟(あきむね・平、武士/連歌)	C 1 0 6 0
清透(しょうとう)	→	清透(せいとう/しょうとう、南北期僧/歌人)	O 2 4 9 6
松濤(しょうとう)	→	韜庵(とうあん・家長いえなが、儒者/詩人)	3 1 8 5
松濤(しょうとう、松濤居)	→	得義(徳義のりよし・奥村、藩士/国学)	G 3 5 3 2
松濤(しょうとう・松屋)	→	晩籟(ばんらい・中江なかえ、商人/俳人)	I 3 6 5 8
松濤(しょうとう・池内)	→	蓬輔(ほうすけ・池内、医者/種痘啓蒙)	B 3 9 9 6
松濤(しょうとう・脇坂)	→	安宅(やすあき・脇坂、藩主/老中/歌)	B 4 5 1 0
松濤(しょうとう・中山)	→	元常(もとつね・中山なきやま、医者/歌人)	K 4 4 8 2
松濤(しょうとう・武)	→	仙慶(せんきょう;法諱・武たけ、真宗僧)	O 2 4 2 7
松濤(しょうとう・藤江)	→	貢(みつぎ・藤江ふじえ、国学者)	K 4 1 3 5
松洞(しょうとう/-とう・木下)	→	長嘯子(ちやうしやうし・木下、武将/歌人)	2 8 2 3
松洞(しょうとう/-とう・林)	→	信亮(のぶすけ・林はやし、幕府儒官)	B 3 5 6 8
松洞(しょうとう/-とう・金子)	→	松洞(しょうとう・金子かねこ、儒者/詩人)	R 2 2 5 8
松洞(しょうとう/-とう・石原)	→	馬年(ばねん・石原いしはら、藩士/俳人)	F 3 6 5 2
松洞(しょうとう/-とう・狩野)	→	保村(やすむら・狩野かのう、神職/国学者)	F 4 5 7 1
松塘(しょうとう・片岡)	→	春及(しゅんきやう・片岡、農業/文筆/歌)	Z 2 1 6 1
承董(しょうとう;法諱)	→	江心(かうしん;道号・承董、臨濟僧/聯句)	J 1 9 8 9
紹董(しょうとう→じやうとう;法諱)	→	督宗(とくそう;道号・紹董、臨濟僧)	L 3 1 1 4
商洞(しょうとう・宮)	→	太祇(たいぎ・炭すみ/たん、俳人)	2 6 0 2
笙嶠(笙嶋しょうとう・横田)	→	樗園(ちよえん・横田、藩士/詩文/紀行)	K 2 8 1 8
小稻(しょうとう・田中)	→	小稻(おしね・田中たなか、和漢学者)	D 1 4 9 8
小陶(しょうとう・長山)	→	樗園(ちよえん・長山、幕臣/海防)	K 2 8 1 9
牆東(しょうとう・建部/杉田)	→	伯元(はくげん・杉田、蘭医者)	D 3 6 0 2
勝当(しょうとう・松平)	→	勝当(かつまさ・松平まつだいら、藩主/武芸)	N 1 5 8 8
勝登(しょうとう→かつなり・牛込)	→	重忝(しげり・牛込うしごめ、幕臣/文筆家)	S 2 1 0 3

- E2239 **勝道**(しょうとう・上人、下野介若田高藤男) 737-817 81歳 下野芳賀郡の修験者;伝説的人物、  
762下野薬師寺如意門;沙彌戒・具足戒を受/765出流満願寺を開創、  
767・781日光山登頂を試み失敗/782;山麓17日修行誓願;三度目の挑戦で日光山登頂成功、  
784弟子と再登頂;南湖に神宮寺開創;日光開山、神宮寺修行後下野・上野で布教、  
下野国都賀郡城山に精舎を建立/807旱魃時に日光山で祈雨修法;その功で伝灯法師位、  
空海に依頼し814「勝道碑文」作成/816日光山頂に三社権現社建立、  
817四本龍寺北の岩窟で没、著作は現存しない、尊鎮(多気山不動尊を創建)・仁朝らの師
- L2214 **松堂**(しょうとう;道号・高盛こうせい;法諱、俗姓;藤原) 1431-1505 75 遠江寺田郷の曹洞僧:  
1437(7歳)日高山の円通院大輝靈曜門/のち大輝門の古山崇永門;法嗣、のち円通院住持、  
大洞院・仏陀寺・総持寺を歴任、長福寺開山、円通院に戻り没、「円通松堂禅師語録」著
- L2215 **昌堂**(しょうとう;法諱・光覚;号)?-1681 浄土宗西山派深草流の京の竹林寺住僧、  
1660「当麻曼陀羅秘訣」76「当麻曼陀羅科節」88「当麻変相註記略要義」、  
1689「当麻曼陀羅辨釈」95「選択集校輯要義鈔」、「鎮勸用心被蒙集」著
- L2216 **松堂**(しょうとう;道号・宗植そうじやく;法諱) 1641-1714 74 臨濟僧;茂源紹柏門;法嗣、清住院に住、  
建仁寺311世住持;1683入寺、「松堂和尚語録」著

- L2217 **松堂**(しょうどう・千葉ちば、名;繁伯)?-? 江中期享保1716-36頃の儒者;陽明学修学、  
「古本大学講義」著
- T2276 **証道**(しょうどう;法諱・上人、初法諱;法輪/字;了観)?-? 江中期筑波の真宗本願寺派僧/法諱;法輪、  
常陸筑波の浄乗寺住職/江戸西久保光明寺住職;証道と称す、歌;冷泉家門、  
成島信遍のぶき(錦江)と交流、田沢義章と共著[武蔵野地名考]/「ひともの日記」著、  
1798刊石野広通「霞関集」(息子証山と共に)入集、  
[けふもまた初音聞かずはほととぎす山路の雲に旅寝してまし](霞関;夏219/尋郭公)、  
[色も香も同じ昔の梅の宮変らぬ春や神慮おもふなる](同初撰本;梅宮;京右京区の神社)
- R2259 **松堂**(しょうどう・渋谷しや、名;亮)1728-9770 越中砺波の儒者;字義・易に精通、古義学を主唱、  
金沢藩家老横山隆従の家臣、「識字掲標」「詩囚」「窮鬼夢談」「蝙蝠学士論」、1770「志学辨」、  
[松堂(;)号]の字/通称/別号]字;子亮、通称;潜蔵、別号;独渌子どくろくし、林蓀坡そんぱの父
- R2260 **嘯堂**(しょうどう・丹羽に、名;文虎ぶんこ、仙庵2男/本姓;源)1741-9353 越前丹生郡本郡宿の漢学者、  
医者;父門、1765(25歳)大阪住;  
羽前山形藩主松平乗佑の招聘で朝鮮通信使の宿舎典翰となる、  
乗佑の三河西尾に移封;その嗣乗完の要請で三河藩侍講/儒医;子弟教育、詩歌を嗜む、  
「好問録」「文虎文集」「秋声窓文鈔」「尹台好問録」「鴻臚撫筆」「傷寒論内伝外伝散攷」著、  
中井竹山・皆川淇園と親交、  
[嘯堂(;)号]の字/通称/法号]字;子牙、通称;徳太郎/佐門、法号;俊学院
- R2261 **昇道**(しょうどう;法諱、初諱;照道、法名;了詮、了然の長男)1759-181153 備後府中の真宗僧、  
備後府中の本願寺派明浄寺10世の住職;父9世を継承、漢学;葛子琴・村瀬栲亭門、  
歌人;小沢蘆庵・上田秋成門、秋成「藤篋冊子つづらづみ」編集刊行、菅茶山・恥庵兄弟と交流、  
村田春海の小川布淑に与えた「雅俗辨」に対し「雅俗再辨」を著し春海に反駁、  
「語辞辨説聞書」著、「竹間齋遺稿抄」、  
[時めける濃き紫の一もとにうべも貴盛きせきしき花とこそ見れ]、  
(藤篋冊子/牡丹;紫/うべも貴盛しき;なるほど高貴な)、  
[昇道(;)法諱]の名/号]名;省/了泰、号;枕雲ちんうん/簡齋/問齋/竹間齋/熙道、法号;興仁院
- L2218 **性堂**(しょうどう;道号・慧果えいこ;法諱)1741-181979 周防小郡臨濟僧;京の東福寺鐘山靈祐門;得度、  
大休・月船に参禅/のち天貳慧謙門、周防常栄寺住持、蓮華寺に没、  
「碧巖集演弁雜記」「円覚経集註助読」/1797「円覚経助読」著、  
[性堂慧果の別法諱/号]別法諱;慧果、号;蔵六/曇空
- L2219 **尚堂**(しょうどう・筒井つひ、名;天保)?-1820 江中期大阪今橋井池の書家、1780「尚堂書簡」書、  
[尚堂(;)号]の字/通称]字;元興、通称;新太郎
- R2262 **松堂**(しょうどう・村上むらかみ)1776-184166 京の絵師;岸駒門、人物画に長ず、  
1807鳥翠台「北国奇談巡杖記」插画、1839「欽慕画譜」、「松堂画帖」画、  
[松堂(;)号]の名/字/別号]名;元厚/茂篤/元章/元篤、字;徳合/子厚、別号;広大
- L2220 **昇道**(しょうどう;法諱・入正院、諡号)?-1869 京釜座の真宗大谷派円重寺住職、1854以後寮司、  
1866擬講、「論註八番問答聴記」「唯信鈔文意講述」「御文二帖目初通聚藻記」著
- R2263 **樞堂**(しょうどう・森もり、名;靖、磐城白河藩士森重之男)1798-187073 磐城白河の生、1823主家移封;  
伊勢桑名に移住、儒学;藩儒広瀬蒙斎門、文政1818-30頃昌平黉修学、1833桑名藩校で講説、  
1841京・摂津・中国・長崎遊歴、1856越後水原代官福田家の招聘で経史を講ず、  
1860下野日光の郷校の教授、1863病を得て桑名に帰郷、1859「樞堂文鈔」著、  
[樞堂(;)号]の字/通称]字;夷甫/子丈、通称;仲助
- L2221 **松堂**(しょうどう・中島/中嶋なかじま、名;正直/正章)1804-8885 長門萩藩士;藩校明倫館勤務、  
藩世子の内用掛、書画に長ず、1830-66「中島市郎兵衛日記」、「御仕置役記」「遠近方伝」、  
「考績抄御賞美先例」「崇文公御行状之歌」「崇文公御年譜草稿」著、  
[松堂(;)号]の字/通称/別号]字;士明、通称;政之允/市郎兵衛、別号;松翁
- L2222 **祥道**(しょうどう;法諱・靈雄;字、俗姓;高橋)1806-5651 阿波板野郡奥野村の真言僧;  
幼時に莊嚴院の隆鎮門;出家/高野山で修学、初め大日寺住/莊嚴院住/心善院・東室院住、  
「続々宗義決採集」編、「南京留学要録」/1851「大乘起信論聞書」著
- L2223 **松堂**(しょうどう・長井ながい/本姓;大江、名;保、恭[礼卿]男)1807-8377 越後中蒲原郡庄瀬村牛崎医者、

医;新発田藩医松田竹里門、経学;丹羽思亭門、医業の傍ら家塾を開き子弟教育、  
北遊の小栗十洲・寺門静軒を訪ね修学、南蒲原郡加茂社神官雛田松溪と親交、  
「雞肋吟稿」「孝経述」「老子述」「論語述」著、  
[松堂(;)の字/別号]字;天年、別号;谷神

R2258 **松洞**(しょうどう・金子かね、名;惺/清)1833-75<sup>43</sup> 加賀藩大夫今枝家に出仕/儒者;上京し巽遜齋門、  
江戸昌平黌で修学;藤森天山門、1859加賀金沢に帰り藤田容斎・永山玄軒と松風社を結社、  
古文を講義、藩校明倫堂教官、維新後は石川県専門学校教授、  
「三体詩解」著/「松風社存稿」編、  
[松洞(;)の字/通称]字;子誠、通称;吉蔵/清三郎

- 松堂(しょうどう・野宮) → 定基(さだもと・野宮/藤原/中院、廷臣/故実) 2 0 2 6  
 松堂(しょうどう・大沢) → 貞雄(さだお・大沢おおさわ、藩儒・国学) H 2 0 7 9  
 松堂(しょうどう:永宮寺) → 順永(じゅんえい;法諱・楚璞そはく;字、真宗大谷派僧/俳人) L 2 1 2 3  
 松堂(しょうどう・神屋) → 立軒(りっけん・神屋かみや、儒者/藩出仕) B 4 9 7 1  
 松堂(しょうどう) → 句空(くくう、俳人) 1 7 4 4  
 松堂(しょうどう) → 文虎(ぶんこ・西原、俳人) F 3 8 1 2  
 松堂(しょうどう) → 宏平(こうへい・原、歌人) L 1 9 0 8  
 松堂(しょうどう) → 利義(としとも・南部なんぶ、藩主) N 3 1 0 6  
 松堂(しょうどう) → 詮勝(あきかつ・間部まなべ、藩主/詩人) D 1 0 3 2  
 松堂(しょうどう) → 親音(もとね・馬詰うまつめ、藩士/歌) D 4 4 6 6  
 松堂(しょうどう;号) → 義鏡(ぎきょう;法諱・松堂、真宗僧) J 1 6 9 5  
 松堂(しょうどう;道号・惠喬) → 虚白(きよはく;号、松堂惠喬、臨濟僧/俳人) D 1 6 5 0  
 松堂(しょうどう・渡辺/辺) → 玄対(げんたい・渡辺/辺・内田、絵師) K 1 8 9 0  
 松堂(しょうどう・中島) → 喜勝(よしかつ・中島なかじま/中村、砲術家) C 4 7 9 0  
 松堂(しょうどう・原) → 宏平(ひろひら・原はら、国学/歌人/町長) K 3 7 7 1  
 松童(しょうどう) → 文二(ぶんじ・地主ぢぬし、俳人) F 3 8 5 5  
 松洞(しょうどう) → 馬年(ばねん・石原いしはら、藩士/俳人) F 3 6 5 2  
 松洞(しょうどう) → 固庵(こあん・佐藤/草野、儒者) G 1 9 2 0  
 松洞(しょうどう) → 是著(これあき・米田こめだ、藩士/儒/詩) O 1 9 0 5  
 章堂(しょうどう・一柳) → 千古(ちふる・一柳ひとつやなぎ/越智、歌人) F 2 8 3 2  
 章堂(しょうどう・齋藤) → 規敦(のりあつ・齋藤さいとう、藩士/国学者) I 3 5 6 0  
 尚道(しょうどう・並河) → 尚道(ひさみち/なおみち・並河なみかわ、歌人) B 3 7 9 7  
 尚堂(しょうどう・三井) → 高敏(たかとし・三井みつゐ、商家/国学) D 2 6 2 1  
 証道(しょうどう・上人) → 実融(じつゆう;法諱・満月;字、真言僧) V 2 1 1 0  
 昭道(しょうどう・長谷川) → 昭道(あきみち・長谷川、藩士/勤王派) D 1 0 9 6  
 照道(しょうどう・橋/生花齋) → 照道(てるみち・生花齋/橋、医者/狂歌) C 3 0 9 7  
 照堂(しょうどう;字) → 護明(ごめい;法諱・照堂、真言僧) N 1 9 7 3  
 勝道(しょうどう・池田) → 勝道(かつみち・池田いけだ/橋、商家/国学) T 1 5 6 1  
 蕭洞(しょうどう・川口) → 西洲(さいじゅう・川口かわぐち、儒者/詩人) G 2 0 7 3  
 嘯洞(しょうどう・関) → 仙籟(せんらい・関せき、藩儒) N 2 4 2 2

L2224 **常騰**(じょうとう;法諱、俗姓;高橋)740-815<sup>76</sup> 奈良平安期法相僧;奈良興福寺の永巖門、  
西大寺or大安寺住;法相教学を弘法、803(延暦22)梵釈寺別当・崇福寺検校を兼任、  
805律師/少僧都;法相六祖の1、「成唯識論記」「唯識論枢要記」「成唯識論了義燈鈔」、  
「唯識枢要要決」「法苑記」「枢要記」「大乘法苑林章撰集」「法華經註」「諸經註釈」著

- 紹董(じょうどう;法諱) → 督宗(とくそう;道号・紹董、臨濟僧) L 3 1 1 4  
 浄桃(じょうとう;法諱) → 大安(だいいん;道号・浄桃、黄檗僧) J 2 6 0 4  
 常灯(じょうとう;法名) → 持春(もちはる・細川/源、武将/歌人) B 4 4 5 6  
 常島(じょうとう・岡原) → 常島(つねしま・岡原おかはら、神職/国学) F 2 9 4 6  
 常燈(じょうとう・新渡戸) → 伝(つとむ・新渡戸にとべ、藩士/開拓事業) 2 9 9 6

R2264 **浄道**(じょうどう;法諱) ? - ? 鎌倉期の僧、僧都、歌人;二条派法体歌人の1、  
続現葉集・臨永集に入集、勅撰3首;続千載(1210)続後拾遺(1224)風雅(1877)、



[たえぬべき命なりとも行末を契らばなほもながらへやせん](続千載:恋1210)

- 常道(じょうどう/つねみち・村田)→ 庫山(こざん・村田むらた、儒者/書) G 1 9 6 1  
常道(じょうどう・高野) → 余慶(よけい・高野たかの、藩儒/藩政) B 4 7 7 7  
常道(じょうどう・碓氷) → 常道(つねみち・碓氷うすい/藤原、神職/国学) F 2 9 3 2  
浄導(じょうどう;法名) → 満季(みつすえ・洞院とういん/藤原、廷臣/歌) D 4 1 6 0  
松濤庵(しょうとうあん) → 車庸(車要しゃよう・塩[潮]江しおえ、俳人) G 2 1 5 3  
松濤庵(しょうとうあん) → 忠憲(ただのり・本多、国学/故実/歌/俳) F 2 6 6 3  
松濤庵(しょうとうあん) → 宗敬(そうけい・本庄ほんじょう/藤原、茶人) G 2 5 9 6  
松濤庵(しょうとうあん) → 宗邑(むねむら・峰岸みねざし、陪臣/国学) E 4 2 2 8  
松濤庵(しょうとうあん) → 卦斎(かいさい・高橋たかはし、藩士/俳人) I 1 5 6 4  
牆東庵(しょうとうあん) → 瀛洲(えいしゅう・石山いしやま、医者/詩歌) C 1 3 9 2  
笑島庵春友(しょうとうあんしゅうゆう)→ 春友(しゅんゆう・為永ためなが、北野/小高/鈴木、戯作者) K 2 1 5 5  
城東逸人(じょうとういつじん)→ 蘭薫亭薫(らんくんでいかおる、間庭、藩士/狂歌) B 4 8 7 8  
正道院(しょうどういん) → 日運(にちうん;法諱、日蓮僧) 3 3 5 0  
彰道院(しょうどういん;法号)→ 忠真(ただまね・大久保、藩主/詩歌人) F 2 6 0 9  
小塔院僧正(しょうとういんのそうじょう)→ 護命(ごみょう、法相学僧) N 1 9 7 1  
松堂慧喬(しょうどうえいきょう) → 虚白(きよはく、俳人) D 1 6 5 0  
松塘園(しょうとうえん) → 登之野(としの・深見ふかみ、歌人) N 3 1 2 7  
正灯円照禅師(しょうとうえんしやうぜんじ)→ 惟琰(いえん;法諱・隠山、臨濟僧) F 1 1 0 8  
松堂翁(しょうどうおう) → 宏平(ひろひら・原はら、国学/歌人/町長) K 3 7 7 1  
松濤館(しょうとうかん) → 大枝(おおえ・業合なりあい、神職/国学) B 1 4 7 0  
松濤館(しょうとうかん) → 自徹(じてつ・鈴木すずき、文筆家) V 2 1 2 2  
松濤館(しゅんとうかん) → 春樹(はるき・波多野はたの/黒山、神職/国学) J 3 6 9 4  
城東館(じょうとうかん) → 玉晁(ぎよくちやう・小寺こでら、随筆家) H 1 6 3 1  
松濤居(しょうとうきよ) → 得義(徳義のりよし・奥村、藩士/国学) G 3 5 3 2  
牆東居(しょうとうきよ・建部/杉田)→ 伯元(はくげん・杉田、蘭医者) D 3 6 0 2  
松島漁隠(しょうとうぎょいん)→ 巴山(はざん・高橋たかはし、儒者) E 3 6 3 3  
松濤窟(しょうとうくつ) → 清風(きよかぜ・池袋いけぶくろ、教育/歌人) T 1 6 4 3  
松童窟(しょうどうくつ) → 文二(ぶんじ・地主ぢぬし、俳人) F 3 8 5 5  
松島軒(しょうとうけん) → 三千風(みちかぜ・大淀、俳人) 4 1 0 3  
松濤軒(しょうとうけん) → 雲子(うんし・玄々斎、真宗僧/俳人) D 1 2 7 5  
松濤軒(しょうとうけん) → 幸雄(ゆきお・斎藤さいとう、名主/地誌) E 4 6 3 4  
松濤軒(しょうとうけん) → 月岑(げっしん・斎藤、幸雄の孫/名主/随筆家) B 1 8 0 7  
松濤軒(しょうとうけん) → 東朝(とうちやう・松濤軒、洒落本作者) G 3 1 4 5  
松濤軒(しょうとうけん;法号)→ 貞芳(さだよし・片桐かたざり、藩主) K 2 0 2 8  
松濤軒(しょうとうけん) → 松濤(しょうとう・江川えがわ、儒者/歌人) L 2 2 1 3  
松濤軒(しょうとうけん) → 洞谷(とうこく・吉田よしだ、蘭英斎、絵師) V 3 1 5 5  
小桃源(しょうとうげん) → 淵臣(ふちおみ・古松ふるまつ/清水、歌人) D 3 8 2 0  
常燈軒(じょうとうけん) → 武真(たけまさ・靱木もみき、藩儒/教育) Z 2 6 9 7  
小桃源主人(しょうとうげんしゅじん)→ 義旭(よしあきら・宮部みやべ、藩老/蘭学) C 4 7 0 5  
宵陶斎(しょうとうさい) → 新村(しんそん・秦はた、儒者/藩士教育) 2 2 5 1  
丈頭斎(じょうとうさい) → 紅器(こうき・高月たかつき、商家/俳人) I 1 9 1 8  
松濤舎(しょうとうしゃ) → 時成(ときなり・横井よこい、藩士/俳人) J 3 1 6 5  
松濤舎(しょうとうしゃ) → 素郷(そきやう・小野、商家/俳人/謡曲) D 2 5 4 8  
松濤舎(しょうとうしゃ) → 李中(りちゆう・大貫おおぬき、俳人) B 4 9 5 0  
証道上人(しょうどうしやうにん)→ 実融(じつゆう;法諱・満月;字、真言僧) V 2 1 1 0  
証道上人(しょうどうしやうにん)→ 証道(しょうどう・上人、法輪、真宗僧/歌) T 2 2 7 6  
小東人(しょうとうじん・大倭)→ 小東人(おあずまと・大倭宿禰やまのすくね/長岡、廷臣/歌) C 1 4 2 6  
松道人(しょうどうじん) → 松窠(しょうか・中江なかえ/杜、絵師/琴) H 2 2 4 9  
正灯普光禅師(しょうとうふくこうぜんじ)→ 慧心(えしん;法諱・竺雲;道号、臨濟僧) 1 3 6 6

- R2265 **承道法親王** (しょうどうほっしんのう、世平親王男) 1408-5346 後小松天皇猶子、1419真言仁和寺入；出家得度、1419親王宣下/1429仁和寺の寺務/1453一品、歌人；「承道法親王百首」、新続古今集351、  
[吹くからに身にしむ風の音羽山せき路越えてや秋も来ぬらむ] (新続古；秋351/百首歌)  
[承道法親王(；法諱)の通称] 法金剛院御室  
上東門院(じょうとうもんいん) → 彰子(しょうし・藤原、道長女/一条天皇中宮) 2 2 0 0  
上東門院小少将(じょうとうもんいんのこしょうしょう) → 小少将(こしょうしょう) C 1 9 9 8  
上東門院五節(じょうとうもんいんのごせち) → 五節(ごせち・上東門院、歌人) D 1 9 1 0  
上東門院新宰相(じょうとうもんいんの新さいしょう) → 新宰相(しんさいしょう) E 2 2 2 5  
上東門院中将(じょうとうもんいんのちゅうじょう) → 中将(ちゅうじょう、歌人) G 2 8 3 7  
上東門院美濃弁(じょうとうもんいんのみのおべん) → 美濃弁(みののおべん・上東門院) F 4 1 6 4  
蘆野野人(しょうとうやじん) → 恭通(たかみち・竹内たけうち/古川、国学) Y 2 6 0 8  
尚惠(しょうとく・吉田) → 尚惠(尚徳ひさのり・吉田、国学) B 3 7 8 1  
尚徳(しょうとく) → 豊資(とよすけ・山内やまのうち、藩主/歌) R 3 1 2 0  
尚徳(しょうとく・山脇) → 東洋(とうよう・山脇やまわき、医者) H 3 1 7 7  
尚徳(しょうとく・平沢) → 香山(こうざん・平沢ひらさわ、藩儒者) G 1 9 3 6  
尚徳(しょうとく・岩井田) → 尚徳(ひさのり・岩井田いわいだ、神職/国学) I 3 7 5 5  
性徳(しょうとく；法諱) → 蝦芸(かげい・含山軒、真宗僧/俳人) K 1 5 7 6  
松徳(しょうとく・赤沢) → 積翠(せきすい・赤沢あかさわ、国学者) N 2 4 9 8  
勝徳(しょうとく/かつのり・梁田) → 毅斎(きさい・梁田やなだ、儒者) F 1 6 3 5  
勝督(しょうとく・的場) → 勝督(かつただ・的場まとは、藩士/歌人) V 1 5 7 9  
昭徳(しょうとく・山本) → 澹斎(たんさい・山本/福富、医/儒者/詩) I 2 6 1 7  
昭徳(しょうとく・朝長) → 晋亭(しんてい・朝長ともなが、儒者/侍読) P 2 2 4 0  
昭徳(しょうとく・矢野) → 昭徳(あきのり・矢野やの、藩士/国学者) I 1 0 5 9  
U2298 **乗徳** (じょうとく・明達院；号、彦根藩主井伊直幸男/本姓；藤原) 1768-183265 or1828没 母は家女、近江坂田郡の生；大通寺横超院性徳の養子、真宗大谷派長浜別院大通寺住職、歌人；[彦根歌人伝；鶴]入、  
[明達院乗徳(；号)の名/通称/法諱/別号]名；直看/直存、通称；又介(助)、  
法諱；扁勝/遍勝へんしょう、別号；慈声閣  
V2201 **常得** (じょうとく；法諱、俗姓；古久保?) 1798-1825早世28 筑前の真宗本願寺派僧、鞍手郡戸切村の善照寺住職、のち直方の円徳寺住職、国学者  
L2225 **定得** (じょうとく・中路なかじ、定俊さだとし男) 1821-7050 江後期成田山新勝寺用人、1854父定俊の地誌遺稿「成田名所図会」増補刊(；画は長谷川雪堤)  
常徳(じょうとく；法号) → 定次(さだつぐ・阿部/阿倍あべ、武将) I 2 0 5 5  
常徳(じょうとく・谷田部) → 東壑(とうがく・谷田部やたべ、儒者) C 3 1 1 8  
常徳(じょうとく・檜垣/久志本) → 末美(すえよし・福井ふくい/度会、神職) F 2 3 7 6  
常徳(じょうとく/つねのり・細川) → 常之(つねゆき・細川/源、廷臣/記録) E 2 9 1 6  
常徳(じょうとく・古久保) → 常徳(つねのり・古久保ふるくぼ、国学者) G 2 9 3 1  
常徳(じょうとく・相木) → 紫溟(しめい・相木あいき、藩士/儒・詩人) V 2 1 8 2  
常徳(じょうとく・加藤) → 行虎(みちたけ・加藤/柴田、医者/歌人) B 4 1 7 4  
昭徳院(しょうとくいん) → 家茂(いえもち・徳川、14代将軍) 1 1 6 6  
昌徳院(しょうとくいん) → 益子(ますこ・芝山しばやま、歌人) Q 4 0 1 3  
常徳院(じょうとくいん) → 義尚(よしひさ・足利/源、9代将軍/歌) G 4 7 2 5  
常徳院(じょうとくいん) → 正寧(まさやす・阿部あべ、藩主/歌) L 4 0 9 6  
常徳院(じょうとくいん) → 宗顕(むねあき・田村たむら/中村、藩主/歌) D 4 2 5 7  
浄徳院(じょうとくいん) → 家長(いえなが・植村うゑむら、藩主/詩人) E 1 1 9 1  
正徳鹿馬輔(しょうとくかばすけ) → 鹿馬輔(かばすけ・正徳、狂歌/戯作者) P 1 5 1 7  
Q2230 **聖徳太子** (しょうとくたいし、名；厩戸うまやど皇子、用明天皇皇子) 574-62249 母；穴穂部間人皇女、593(推古元)叔母推古天皇の皇太子/摂政；政治改革；中央集権の秩序/冠位十二階制定・

十七条憲法制定、大陸文化摂取;遣隋使派遣/仏法興隆;四天王寺・法隆寺創建/仏典の研究、「三経義疏さんぎょうぎしょ」(法華義疏・維摩経義疏・勝鬘経義疏)/「観音経音義」「四天王寺誌」、「相法亦生記」「神明記」「彼岸記」「大倭本紀」「神皇系図」「経教本紀」著、歌人;万葉415/紀歌謡、拾遺(1350)風雅(2041)、

[家にあらば妹が手まかむ草枕旅に臥こやせるこの旅人たびとあはれ](万葉;挽歌415)、  
(竹原たかはらの井に行く途中で竜田山に死人みて詠)

[聖徳太子(;通称)の別通称]上宮王かみつのみやのおおきみ/豊耳聡/豊聡耳とよとみみ/豊聡八耳、  
法大王/法主王/上宮聖徳皇子かみつみやのしょうとこのみこ

- Q2231 称徳天皇(しょうとくてんのう;重祚・初め孝謙天皇、聖武帝皇女)718-770<sup>53</sup> 母;光明皇后、奈良期46・48代女帝/在位:孝謙749-58・称徳64-69、749即位;藤原仲麻呂を偏重/758上皇、僧道鏡を偏重;淳仁天皇・仲麻呂[恵美押勝]と不和、764仲麻呂を討伐・淳仁を廃し自身重祚、皇嗣を定めず没;天武系皇統断絶(天智系光仁の即位)、万葉四期歌人;3首4264-5/8、経国入、[孝謙・称徳天皇の名/尊号/法名]名;阿部/高野姫、尊号;上台宝字称徳孝謙皇帝、讓位後;高野たかの天皇、法名;法基尼

浄土寺(じょうどじ) → 覚尋(かくじん;法諱、天台座主) K 1 5 0 8

浄土寺(じょうどじ;号) → 忠教(ただのり・九条くじょう、廷臣/歌人) F 2 6 6 0

- Q2232 性激(しょうとん;法諱・高泉こうせん;道号、俗姓;林りん)1633-95<sup>63</sup> 明福建黄檗僧;隠元・慧門門、慧門の法嗣、1661長崎に渡来、万福寺隠元門/65岩代二本松法雲院の住寺、1678伏見仏国寺を開山、1692万福寺5世;法系を仏国派と称す、詩文/書、「一滴草」「扶桑禅林僧宝伝」著、「雲濤三集」「黄檗和尚太和集」「黄檗宗鑑録」「黄檗清規」編、「黄檗高泉禅師語録」「高泉禅師文稿」著、外編著多数、[高泉性激の初法諱/号]初法諱;良偉、号;曇華道人/雲外、諡号;大円広慧国師/仏智常照国師

昌頓(昌敦しょうとん・里村)→ 昌億(しょうおく・里村、幕府連歌宗匠) F 2 2 6 0

松墩(しょうとん・菊池) → 大瓠(たいこ・菊池/菊地、藩士/儒者) B 2 6 3 4

松頓(しょうとん;号) → 通玄(つうげん;道号・法達;法諱、臨濟僧) 2 9 2 9

章敦(しょうとん・勢多) → 章敦(のりあつ・勢多せた/中原、明法家) E 3 5 2 6

松墩(しょうとん・福原) → 瀨水(はすい・福原ふきはら、儒者/詩歌) E 3 6 6 6

少内(しょうない・山県) → 東原(とうげん・山県やまがた、藩士/儒者) D 3 1 4 6

- B2215 少納言(しょうなごん・天曆御乳母てんりやくのおおんめとの、藤原後生のちおう女)?-?960存 村上天皇の乳母・命婦、通称;少納言乳母/少納言命婦/御乳母少納言、歌;、960天徳四年内裏歌合;参加、拾遺322、[惜しむともかたしや別れ心なる涙をだにもえやは留むる](拾遺集;六別322)、(乳母肥後が出羽に下向の餞の別れに)

- B2200 少納言(しょうなごん、三条左大臣家女房)?-? 平安前期歌人;977三条左大臣頼忠前栽歌合参加、[きみともにすむべき水のおもなればさやけき月もやどるとぞ見る](頼忠前栽歌合;81)

- E2293 少納言(しょうなごん、菅原為言女)?-? 平安後期、女房歌人/物語作者、中原頼成の妻? 1055六条斎院物語歌合;「よもぎの垣根」作、56寛子春秋歌合参、58公基歌合(範永判)参? [見し人もあれはてぬめるふるさとに霞のみこそたちかはりけれ](物語合;右14)

- B2201 少納言(しょうなごん、後伏見院ごふしみいんの)?-? 鎌倉後期歌人;後伏見院に出仕の女房、1297八月十五夜歌合に参加、玉葉集(2首620/1795)、[きりぎりす寝覚めの床をとひがほにわきて枕の下にしも鳴く](玉葉;秋620)、[後伏見院少納言(;女房名)の別通称]新院少納言しんいんのしょうなごん/春宮とうぐうの少納言

少納言(しょうなごん、加賀)→ 加賀少納言(かがのしょうなごん) 5 8 1 9

少納言(しょうなごん) → 後生女(のちおうのむすめ・加賀守藤原後生女) 3 5 0 4

少納言阿闍梨(しょうなごんのあじり)→ 覚禅(かくぜん;法諱、真言僧) B 1 5 6 4

少納言局(しょうなごんのつぼね)→ 藤子(とうし・藤原/三条局、歌人) E 3 1 7 2

- B2202 少納言内侍(しょうなごんのないし)?-? 平安中期女房歌人、一条院后彰子[988-1074]に出仕、1032上東門院菊合参加(伊勢大輔・小弁・弁乳母らと)、[あさしもに置きつつみれば菊の花夜のまよのまににほひこそませ](上東菊合;五右10) 少納言法印(しょうなごんのほういん)→ 頼仲(らいちゅう;法諱・宝蓮院、社僧/歌人) 4 8 8 3

- 少納言命婦(しょうなごんのみょうぶ) → 少納言(しょうなごん・天曆御乳母) B 2 2 1 5  
 少納言乳母(しょうなごんのみもと) → 少納言(しょうなごん・天曆御乳母) B 2 2 1 5  
 少納言律師(しょうなごんりのし) → 日全(にちぜん;法諱・等覺院、日蓮僧) C 3 3 6 0
- L2226 **湘南**(しょうなん;道号・宗沅そうげん;法諱、号;片雲/大鑑真宗禪師) 1651-1729 79 京の臨濟僧:  
 大徳寺208世大仲宗瀧そうき門/法嗣、のち1698大徳寺260世/99同寺碧玉庵3世住持、  
 近江祥瑞寺住持兼務、近江満月寺の中興、1716中御門天皇より禪師号、  
 晩年は大徳寺内以春庵に退隠、「宝山紀談」編、「湘南和尚語録」(瑞巖宗頊編)
- B2204 **松南**(しょうなん・摩島まじま/本姓;源、名;長弘/元広、元泰の長男) 1779-1839 61 京の代々医者;父門、  
 儒/詩:竜田中野/若槻幾斎門・猪飼敬所門、書画を嗜む、1815医を廃業/講説業に専念、  
 「興起詩集」(2巻)/「翠眉稿」「娛語」「論語説」「尚書説」著/「晩翠堂遺稿」「松南遺稿」、  
 [松南(;号)の字/通称]字;子毅、通称;助太郎
- B2205 **小楠**(しょうなん・横井よこい、名;時存/存、時直2男) 1809-69 暗殺 61 肥後熊本藩士;  
 1837藩校時習館寮長/39江戸の昌平黌に修学/藤田東湖と親交、  
 1841頃より思想家;同藩長岡是容らと実学派、私塾小楠堂で教授/開国論者、  
 1854兄没のため;家督継嗣/58越前福井藩主松平慶永に招聘;慶永の幕府政事総裁就任;  
 その補佐に尽力、1859帰藩;江戸での刺客事件で土籍剥奪処分、熊本沼山津に逼塞、  
 1868新政府参与、1869寺町丸太町街で暗殺される、「諸国風儀考」著、  
 「小楠堂国是三論」「海外の形勢を説き併せて国防を論ず」1853「文武一途の説」著、  
 1855「陸兵問答書」「海軍問答書」/58「北越土産」67「新政に付て春嶽に建言」外著多数、  
 [小楠(;号)の幼名/字/通称/別号]幼名;又雄、字;子操、通称;平四郎、別号;畏斎/沼山  
 召南(しょうなん・石) → 瀬浜(らいひん・石金いしがね/石、農業/漢学) 4 8 9 2  
 沼南(しょうなん・益) → 喬(たかし・益ます/井上、医者/神職) Z 2 6 5 0
- L2227 **常南**(じょうなん・根本ねもと、通称;匡輔/別号;螻齋) ?-? 江後期周防の絵師;南画、諸国行脚、  
 1789-1818頃仙台を旅、1798「優游一奇」編、菅井梅関の師  
 城南隠居(じょうなんいんきょ) → 宜貞(のぶさだ・栗田、幕臣/和算家) B 3 5 5 2  
 成南軒(じょうなんけん) → 常如(じょうにょ;号・光晴;法諱/東本願寺15世、俳人) B 2 2 0 8  
 小式(しょうし) → 小式命婦(しょうしのみょうぶ) B 2 2 0 6
- L2228 **小式蔵人**(しょうしにのくらひと) ? - ? 平安中期女房歌人、  
 966内裏前裁合参加、小式命婦と同一か?、  
 [秋の夜の月のひかりのひとつにてくさぐさにほふ花のをりかな](内裏前裁合;32)
- B2206 **小式命婦**(しょうしのみょうぶ、本名;滋野典侍幸子) ?-? 橘仲遠妻?、小式乳母;朱雀・村上天皇の乳母、  
 中宮安子(藤原師輔女;冷泉・円融天皇の母)の乳母、歌人;956坊城右大臣師輔前裁合参加、  
 960天徳内裏歌合参加、勅撰首5首;後撰71/1137・拾遺66/852/1183、  
 大和物語・九条右丞相集・一条摂政御集など入;藤原師輔・伊尹と交渉、  
 大斎院前御集の少式乳母・少式命婦も同一とすると女房生活は随分長いことになる、  
 [わがために思はぬ山の音をとにのみ花さかりゆく春をうらみむ](後撰;71/朝忠へ返歌)  
 (贈;時しもあれ花の盛りにつらければ思はぬ山に入りやしなまし)(後撰;70/藤原朝忠)  
 [小式命婦(;女房名)の別号] 小式しょうし/小式乳母、/滋野内侍しげののし
- 小式乳母(しょうしのみもと) → 小式命婦(しょうしのみょうぶ) B 2 2 0 6  
 証如(しょうにょ) → 光教(こうきょう・本願寺第10世) 1 9 0 7  
 性如(しょうにょ・円蓮社) → 法岸(ほうがん;法諱、浄土僧) 3 9 3 4
- B2208 **常如**(じょうにょ;号・光晴こうせい;法諱、東本願寺14世光瑛[琢如]男) 1641-1694 54 母;近衛信尋女、  
 関白九条幸家の猶子/1654得度/61大僧都/64真宗大谷派本願寺15世/79退隠、  
 「頭如常如消息」「常如上人御消息」「常如上人御直書類」、俳諧:1672「季吟十会集」連衆、  
 [常如の幼名/別号]幼名;茶々麿、別号;愚水/皆山/夢香亭/成南軒/期遠亭/亀緒山人  
 諡号;泥洹院でいんいん  
 乗如(しょうにょ) → 光遍(こうへん・東本願寺第19世) L 1 9 1 0  
 松爾楼(しょうにろう・歌川) → 豊春(とよはる・歌川、浮世絵師) 3 1 4 8
- B2207 **証忍**(しょうにん;法諱) ? - ? 鎌倉期弘安1278-88頃の浄土僧;長西門/師跡継承、  
 洛北九品寺の住職、竹林寺顕意の浄土疑端に答える、1285「観無量寿経義賢問愚答抄」

- B2209 昌忍(しょうにん) ? - ? 戦国期連歌作者、1558「花千句」参加
- L2229 照忍(しょうにん;法諱) 1672 - 1740<sup>69</sup> 大阪真宗本願寺派浄照坊住職、和語研究;音韻学、  
「和讃音韻秘奥鈔」「三帖和讃音韻秘奥鈔」「十萬億刹不遠辨」「去此不遠辨」著、  
[照忍(;法諱)の字/諡号]字;慈春/癡雲ちうん、諡号;通性院
- 承仁(しょうにん) → 承仁法親王(しょうにんほつしんのう) B 2 2 1 2
- 章任(しょうにん・中原) → 章任(あきとう/のりとう・中原、明法家) D 1 0 5 9
- 勝任(しょうにん・板倉) → 勝任(かつとう・板倉いたくら、藩主/歌人) N 1 5 5 6
- 勝任(しょうにん・早崎) → 巖川(がんせん・早崎はやさき、儒者) H 1 5 7 0
- 勝任(しょうにん/かつとう・浅井) → 喩霞(きゅうか・浅井あさい/杉浦、藩士/儒) M 1 6 3 7
- 紹仁(しょうにん→つぐひと) → 後光明天皇(ごこうみょうてんのう、儒/詩人) C 1 9 5 4
- V2292 淨忍(じょうにん;法諱) ? - ? 平安鎌倉期;南都の法師、歌人;1237刊[檜葉集]入、  
[天王寺にて山居冬月の心を、  
さゆる夜の月の氷のむすぶには山井の水もにごらざりけり](檜葉;冬320)
- L2230 定任(じょうにん;法諱、中御門大納言藤原[吉田]経任男) 1262-1309<sup>48</sup> 真言僧;醍醐寺定勝門、  
宝池院で伝法灌頂を受、通海門;職位の灌頂を受/三宝院住/1306権僧正、  
1309醍醐寺53世座主、「灌頂雜記」著、定任の通称;宝池院僧正
- B2210 成忍(じょうにん) ? - ? 鎌倉期僧・明恵門、絵師;明恵「華厳縁起」画
- 常忍(じょうにん;字) → 日常(にちじょう;法諱・常修院、日蓮僧) C 3 3 3 2
- 常任(じょうにん・久志本) → 常任(つねとう・久志本/度会、神職/医者) C 2 9 6 0
- 常任(じょうにん・平田) → 常任(つねとう・平田ひらた、神職/国学) G 9 2 2
- B2211 性仁親王(しょうにんしんのう、名;満仁、後深草天皇第4皇子) 1267-1304<sup>38</sup> 母;玄輝門院藤原愔子、  
1271(5歳)親王宣下/78大聖院入;性助親王門;出家/真言僧、1279六勝寺檢校、  
1283伝法灌頂を受、一身阿闍梨宣下/性助親王没(1282)後に仁和寺12世/1304一品、  
「覚悟抄」「新御抄」「性仁記」「高尾御室雜記」著、  
[性仁親王(;法諱)の通称] 高雄御室
- 韶仁親王(しょうにんしんのう・有栖川宮) → 韶仁親王(つなひとしんのう、歌人) B 2 9 2 4
- Q2298 讓仁親王(じょうにんしんのう、名;持勝、伏見宮貞敬親王男) 1824-42<sup>夭逝19歳</sup> 母;鷹司政熙女、  
光格天皇の養子、1831閑院宮孝仁親王の実子とす/32閑院宮を継嗣;曼殊院を相続、  
1834親王宣下/1842二品、「太上天皇尽七日法華三昧法則草草案」著、  
[性仁親王(;法諱)の通称]彦宮/慥宮、法号;遠寿成院
- 聖忍房(しょうにんぼう;号) → 良聖(りょうしょう;法諱、浄土僧) I 4 9 0 8
- B2212 承仁法親王(しょうにんほつしんのう、後白河法皇皇子) 1169-97<sup>早世29</sup> 母;僧都仁操女の丹波局、  
1181梶井殿入、叡山の明雲門;受戒/1185権大僧都/1190(建久元)親王宣下、  
1196第63代天台座主、白河御房に没、  
歌人、勅撰3首;新古今(1785)続後撰(1263)続古今(1598)、  
[人知れずそなたをしのぶ心をばかたぶく月にたぐへてぞやる](新古;雑1785)、  
(平家と共に都落し西の福原に滞在してた年来同宿の全真[藤原親隆男]に贈る歌)  
[承仁法親王(;法諱)の別法諱/号]初法諱;最恵、号;梶井宮/建久宮
- 昌仁法親王(しょうにんほつしんのう) → 守脩親王(もりおさしんのう、天台座主/梨本宮) F 4 4 2 2
- B2213 静仁法親王(じょうにんほつしんのう、土御門天皇皇子) 1216-96<sup>81</sup> 母;源通子(通宗女)、  
1230得度;法住寺入、1244親王宣下/法印公縁門;1247伝法灌頂受/54天台園城寺長吏、  
1266熊野三山・新熊野檢校、天王寺別当、  
歌人:1278弘安百首参加、勅撰25首;続後撰(1040)続古(468/1552)続拾(6首)、  
新後撰(5首)玉(819)続千(2首)風(1786)新千(2首)新拾(1474)新後拾(1351)新続古(3首)、  
[世をそむく吉野は春の宿なれば身を捨ててこそ花になれぬれ](続後撰;雑1040/大峰)  
[静仁法親王(;法諱)の通称] 双林寺/五辻宮いつつじのみや
- 尚寧(しょうねい・正野) → 尚寧(なおやす・正野まさの、商業/歌人) O 3 2 7 7
- E2294 尚寧王(しょうねいおう) ? - ? 琉球王、1609島津藩の虜となり薩摩へ、「琉歌振興」作、  
「古今琉球歌集」(1895小那覇朝親こなはちやうしん編)入
- E2295 尚寧王母(しょうねいおうのは) ? - ? 琉球王母・琉歌作者、「古今琉球歌集」入

- E2296 尚寧王妃(しょうねいおうのひ) ? - ? 琉球王妃・琉歌作者、「古今琉球歌集」1609王を待つ歌入
- B2214 正念(しょうねん;法諱・大休だいきゅう;道号、諡号;仏源禪師)1215-89 南宋浙江永嘉郡の臨濟僧:  
石溪心月門;嗣法/1269渡来:北条時宗の帰依/鎌倉に浄智寺開山、禪興寺住持/建長寺3世、  
寿福寺6世/円覚寺2世/円覚寺門前の正観寺に没、大休派(仏源派)の祖、  
1278「舍利啓白」「大休念禪師語録」著
- L2231 聖然(しょうねん;法諱・道月/道明;字)?-1312 三論僧:信願門;得度/証玄門;律部修学、  
聖守[中道]門;奥旨を受、天台・三論の諸宗に通ず、薬師寺を再興する密厳を援助、  
1291師没;東大寺真言院を住持;継嗣、「戒壇院縁起」著、1294聖守「東大寺八幡験記」編?
- L2232 称念(しょうねん;法諱、俗姓;藤田/中丸)1513-5442 江戸品川の浄土僧;増上寺周仰門;出家、  
弘経寺祖洞門/岩槻浄安寺住;世俗を厭い江戸桜田に天智庵を結庵;念仏三昧、  
要請され伊勢松阪樹敬寺・洛北専称庵住/1548知恩院法然廟の南隣に草庵を結ぶ、  
専修念仏に励む;この庵が浄土宗捨世派本山一心院の前身、「夢記」「要義鈔」「安心鈔」著、  
[称念(法諱)の法名] 三蓮社縁誉吟応
- Q2246 肖年(しょうねん、半翁7世/八千房はっせんぼう6世)1817-8367 俳人、月並句合催  
昭年(しょうねん) → 清春(きよはる・菱川、絵師) Q 1 6 1 7  
松年(しょうねん・高志) → 利貞(としさだ・高志たかし、惣年寄/儒/禪僧) M 3 1 4 6  
松年(しょうねん・深見) → 有隣(ゆうりん/ありちか・深見、幕臣/儒学) E 4 6 0 9  
松年(しょうねん・清岡) → 長延(ながのぶ・清岡きよおか、廷臣/文章博士) L 3 2 9 0  
松年(しょうねん・小林) → 松蔭(まつかげ・小林こばやし/竹田、神職/国学) P 4 0 6 3  
松年(しょうねん・福住) → 松年(まつとし・福住ふくずみ、商家/歌人) S 4 0 2 4  
松年(しょうねん・松木) → 偉彦(くすひこ・松木まつき、神職/書画) E 1 7 5 1  
小年(しょうねん・日根野) → 対山(たいざん・日根野ひねの/中原、絵師) K 2 6 1 0  
少年(しょうねん・岡) → 熊嶽(ゆうがく・岡おか、絵師) B 4 6 0 4
- L2233 静念(じょうねん;法諱) ? - ? 平安後期の僧、歌人:金葉解(11)入、  
[山びこのこたへざりせば喚子鳥むなしき音をや鳴きて過ぎまし]、  
(金葉;橋本公夏筆本拾遺;卷一春11)
- L2234 静然(じょうねん;法諱・戒光房;号、良証、藤原有成男)?-? 平安末鎌倉初期の京の天台宗叡山学僧、  
無動寺戒光坊住/台密法曼流祖の相実門、法流は住侶方と称す、1154「行林抄」、「東山記」著、  
常然(じょうねん;字) → 日東(にっとう;法諱・蓮乗院、日蓮僧) F 3 3 3 7  
正然庵(しょうねんあん) → 清胤(きよたね・千葉ちば、和学者) I 1 6 9 3  
照念院(称念院しょうねんいん) → 兼平(かねひら・鷹司、摂政関白、歌人) D 1 5 0 0  
照念院入道前関白太政大臣(しょうねんいんのにゅうどうさきのかんぱくだいじょうだいじん;新後撰/統後拾/新千)  
→ 兼平(かねひら・鷹司、摂政関白、歌人) D 1 5 0 0  
正念工夫室(しょうねんくふうしつ) → 行虎(みちたけ・加藤/柴田、医者/歌人) B 4 1 7 4  
称念寺(しょうねんじ、近衛) → 義俊(よしのぶ・真言僧/門跡、連歌) B 1 6 2 3
- S2263 少輔君(しょうのきみ、教智律師房)?-? 三井寺僧:天台宗園城寺南院執行房住、歌人、  
1173三井寺新羅社歌合参加(新羅明神社頭で開催/俊成判)、  
[み吉野の水分け山のたかねより越す白浪や花の夕映え](三井寺歌合;一番右2)  
尉の君(しょうのきみ) → 貞文(定文さだぶん・平、歌人/説話主人公) 2 0 2 4  
正之丞(庄之丞しょうのじょう・岩崎) → 綱雄(つなお・岩崎、里正/国学者) B 2 9 0 4  
常之進(しょうのしん・宮崎) → 筠圃(いんぼ・宮崎みやざき、儒者/書画) E 1 1 7 0  
常之進(しょうのしん・大林) → 正修(まさなが・大林おおばやし/源、藩士/国学) O 4 0 4 1  
丈之進(しょうのしん・本多) → 朴民(なおたみ・本多ほんた/水沢、国学者) O 3 2 7 1  
尉之進(しょうのしん・矢畑) → 直方(なおかた・矢畑やはた、神職/国学) P 3 2 1 3
- B2216 鍾之助(しょうのすけ・三雲) ? - ? 詩人、柳湾の女婿、1821「柳湾漁唱初集」共編  
庄之助(しょうのすけ・志野) → 知郷(ともさと・志野しの、藩士/和算家) P 3 1 5 1  
庄之助(しょうのすけ・鈴木) → 燕子(えんじゅう・志水、幕吏/戯作/狂歌) B 1 3 0 4  
庄之助(しょうのすけ・紀平) → 五位鷺丸(ごいさぎまる、狂歌作者) H 1 9 0 7  
庄之助(しょうのすけ・内藤) → 忠明(ただあき・内藤ないとう、幕臣/紀行) P 2 6 1 0  
庄之助(しょうのすけ・石河) → 勝栄(かつひさ・石河いしこ/吉田、幕臣) T 1 5 6 6

庄之助(しょうのすけ・石河)→ 勝延(かつのぶ・石河いしこ、勝栄男/幕臣) T 1 5 6 5  
 庄之助(しょうのすけ・丹治)→ 経雄(つねお・丹治たじ、神職/歌人) F 2 9 8 9  
 庄之助(しょうのすけ・正田)→ 嘉珪(よしかど・正田まさだ、国学/歌) P 4 7 0 8  
 尚之助(しょうのすけ・小西)→ 澹斎(たんさい・小西、藩士/儒者/地誌) I 2 6 1 8  
 昇之助(しょうのすけ・山岸)→ 梅塵(ばいじん・山岸、醸造業/俳人) B 3 6 6 4  
 祥之助(しょうのすけ・川喜田)→ 政治(まさはる・川喜田かわきた、商家/国学) P 4 0 0 2  
 章之助(しょうのすけ・海保)→ 漁村(ぎよそん・海保かいぼ、儒者) D 1 6 2 8  
 彰之助(しょうのすけ・川村)→ 榴窠(りゅうか・川村かわむら、藩儒者/教授) D 4 9 1 1  
 鑽之助(しょうのすけ・松平)→ 茂昭(もちあき・松平、藩主/歌人) B 4 4 2 8  
 将之佐(しょうのすけ・まさのすけ・長)→ 連愛(つらよし・長ちよう、藩士) E 2 9 5 3  
 将之佐(しょうのすけ・長)→ 連弘(つらひろ・長ちよう/本多、養子/藩士/経済改革) E 2 9 4 7  
 牀之助(しょうのすけ・ゆかのすけ・西野)→ 古海(ふるみ・西野にし、国学/歴史) I 3 8 5 9

L2235 尉之介(じょうのすけ・高島/高嶋たかしま、周作男) 1805-8278 尾張鳴海の医者;父門、漢籍;秦滄浪門、俳諧;塊翁(竹有)・秋拳門、「酒徳頌」「甘辛録」「此君園家訓」「米徳一覽」著、  
 [尉之介(通称)の号] 金毛/介寿/周冊/此君園

城之介(じょうのすけ・秋田)→ 実季(さねすえ・秋田/安倍、武将/藩主/詩歌) D 2 0 0 8  
 城之介(じょうのすけ・高橋)→ 有胤(ありたね・高橋、神職/国学) F 1 0 4 1  
 城之助(じょうのすけ・川田)→ 麿江(おうこう・川田かわた、儒者) B 1 4 6 5  
 城之助(じょうのすけ・加藤/大原)→ 観山(かんざん・大原おおはら、儒者) H 1 5 6 5  
 城之助(じょうのすけ・岩橋)→ 時倚(ときより・岩橋いわはし/大江、神職/国学) U 3 1 3 1  
 城之助(じょうのすけ・藺田)→ 守約(もりかね・藺田そのだ/中川、神職) K 4 4 2 0  
 丈之助(じょうのすけ・畠山)→ 義成(よしなり・畠山、藩士/渡航日記) F 4 7 4 5  
 丈之助(じょうのすけ・小川)→ 春経(はるつね・小川おがわ、国学/歌人) J 3 6 8 0  
 浄之助(じょうのすけ・鎮西)→ 清浜(きよはま・鎮西ちんぜい、神職/歌人) U 1 6 7 5  
 常之助(じょうのすけ・小寺)→ 翠雨(すいいう・小寺こでら、藩士/蘭/兵学) E 2 3 0 6  
 錠之助(じょうのすけ・牧野)→ 祐義(すけよし・牧野まきの、歌人) I 2 3 0 3  
 錠之助(じょうのすけ・鈴木)→ 閑哉(かんさい・鈴木すずき、藩士/国学) S 1 5 9 2  
 錠之助(じょうのすけ・鈴木)→ 泰輔(やすすけ・鈴木すずき/水野、国学/歌) G 4 5 0 6  
 錠之助(じょうのすけ・榎島)→ 光昭(みつあき・榎島まさしま/長谷部、藩士) K 4 1 5 3

D2265 少輔内侍(しょうのすけ) ? - ? 平安後期女官/歌人、  
 1135(保延元)中納言家成家歌合参加、後葉集入集、  
 [高砂の尾上の松は風吹けば万代とこそかねて聞こゆれ](後葉集;賀244、  
 1135中納言家成家歌合に)

少輔入道(しょうのにゅうどう)→ 寂蓮(じやくれん、歌人) 2 1 3 9  
 少輔入道(しょうのにゅうどう)→ 空仁(くうにん、大中臣清長/僧/歌人) 1 7 3 8  
 少輔別当入道(しょうのべつとうにゅうどう)→ 空仁(くうにん、歌人) 1 7 3 8  
 少輔法眼(しょうのほうげん)→ 行宴(ぎょうえん;法諱、真言僧) N 1 6 3 0

B2217 少輔命婦(しょうのみょうぶ) ? - ? 平安中期の女房/歌人、玉葉集2552、  
 [露ばかり思ひおくべき心あらばきえぬさきにぞ人はとはまし](玉葉;雑2552)、  
 (朝忠集入;作者は小堀本[みふの命婦]/西本願寺本[少式命婦])

→ 小式命婦(しょうのみょうぶ) B 2 2 0 6  
 筱の舎(じょうのや)すべて→ 筱の舎(ささのや)  
 篠舎(じょうのや)すべて→ 篠舎(ささのや)  
 少輔律師(しょうのりっし)→ 宏教(こうぎょう;法諱、真言宗西院流僧) I 1 9 3 3

B2218 召波(しょうは・黒柳くろやなぎ/修姓;柳) 1727-7145 京の富商、詩人・服部南郭門、  
 俳人;几圭(几董の父)門/蕪村門、俗調を排し清澄閑雅を旨とす、  
 1751頃京で竜草廬の幽蘭社に属す詩;1754草廬「金蘭詩集」入、66蕪村らの三菓社に参加、  
 1766-70「三菓社中句集」編;几董「続明鳥」入、等持院別荘閑居、  
 追善集;7回忌「春泥句集」(息維駒これこ編/1777刊)/13回忌追善「五車反古」(維駒編)、  
 [少年の犬走らすよ夏の月](春泥句集/生命の躍動)、

[山犬のがぼと起きゆくすゝき哉](春泥句集/山犬は狼;精悍な姿と草のぬくもり)  
[召波(;号)の字/通称/別号]字;廷遠(柳廷遠)、通称;清兵衛、  
別号;柳宏(;詩号)/玄亭/春泥舎/春泥亭

Q2245 **松波**(しょうは・手島てしま、名;忠篤)?-? 安藝仁方の俳人、1856頼啓より詠鷹詩を受、  
[鳶の舞空のぬくみやかへり花](短冊)

承巴(しょうは・小西) → 長子(ちようこ・小西にし/牛谷、国学・歌)M 2 8 5 1

性派(しょうは;法諱・南源;道号)→ 南源(なんげん・性派、黄檗僧) I 3 2 9 0

松坡(しょうは;号) → 蘭桂(らんけい;道号・正香しょうこう;法諱、黄檗僧)D 4 8 3 3

松坡(しょうは・柴田しばた) → 洞元(どうげん・柴田、医/国学) D 3 1 6 2

2201 **紹巴**(じょうは・里村、臨江斎/半醒子、松井昌祐男)1524-160279 13歳で父死別/興福寺明王院喝食、  
奈良連歌師;大東正云門/1542出家・周桂門/師に従い上京;周桂没後里村昌休門、  
歌/源氏物語;三条西公条門/近衛植家より古今伝授、1558宗養「花千句」参加、  
1563宗養没後の連歌界を統率指導、82本能寺変前夜光秀と連歌「愛宕百韻」、秀吉から嫌疑、  
以後病気がち;息玄仍げんじょうに古今伝授、連歌論;「至宝抄」「連歌教訓」「出葉口伝抄」等、  
式目;「式目秘抄」「新式和歌」「いろは新式」、注釈;「二十卷抄」「匠材集」「伊勢物語註解」等、  
[熟柿じゆくしこそ子供の中のみやげなれ](鷹筑波/脇;酒にゑひしゆが帰るさの袖[永種])  
[花落つる池の流れをせきとめて](愛宕百韻;第三/脇句行祐;水上まさる庭の夏山)

2217 **丈巴**(じょうは) ? - ? 江後期安藝廿日市の俳人;1788車蓋「桃の白み」入

笑馬(咲馬しょうば) → 花山亭笑馬(かざんていしょうま/-しょうば、戯作)F 1 5 0 8

小梅(しょうばい・鈴木) → 重胤(しげたね・鈴木/穂積/源、国学/歌)2 1 1 2

松梅院(しょうばいいん) → 禅予(ぜんよ;法諱、社僧/連歌) N 2 4 1 8

松梅院(しょうばいいん) → 禅親(ぜんしん;法諱、禅芸男/社僧/日記)M 2 4 6 8

松梅院(しょうばいいん) → 禅光(ぜんこう;法諱、禅予男/社僧/連歌)M 2 4 2 8

松梅院(しょうばいいん) → 禅興(ぜんきよう;法諱、禅光男/社僧/連歌)M 2 4 0 6

松梅院(しょうばいいん) → 禅永(ぜんえい;法諱、禅興男/社僧/連歌)E 2 4 9 1

松梅院(しょうばいいん) → 禅昌(ぜんしょう;法諱、禅永男/社僧/連歌)M 2 4 5 8

松梅院(しょうばいいん) → 禅意(ぜんい;法諱、禅昌男/社僧/連歌)L 2 4 6 4

2202 **肖柏**(しょうはく、中院通淳みちあつ男)1443-152785 中院通秀の弟、9歳で父死別;出家;正宗竜統門、  
肖柏と号す/古典・歌・連歌;宗祇門、1467応仁乱後に宮中連歌会参加/1482撰津池田に移住、  
1488水無瀬三吟百韻参加、91湯山三吟百韻参加/宗祇の「新撰菟玖波集」編纂を補佐、  
1501連歌新式改訂、1508?「池田千句」催、1511改号;牡丹花、1516宗碩庵「十花千句」参加、  
1517堺へ移住;堺伝授の祖、歌集・連歌集「春夢草しゅんむそう」二部、1481注釈書「古今集古聞」著、  
1505「六家抄」/1510「弄花抄」、「肖柏口伝抜書」「肖聞抄」「牡丹花発句集」外著多数、  
百韻連歌多数;1488宗祇と「朝何百韻」91「何木百韻」/1501松林と「何人百韻」等々、  
風逸な庶民的性格;「花もてあそび香を執し酒をあひする」、牡丹の花を愛でる、  
[うす雪に木の葉色こき山路哉](湯山三吟百韻;何人発句)  
[雁も鳴け空はみどりの秋の雲]、  
[肖柏(;号)の別号] 夢庵/牡丹花/弄花ろうか軒

2203 **尚白**(しょうはく・江左/塩川、医者塩川春定男)1650-172273 伊勢の医者;父門/近江大津で医業、  
大津柴屋町住/医名高い晩年は丹後田辺藩主京極高住の扶持を得る、江左に改姓、  
儒;古義堂で修学/俳人;貞室系・原不卜門/高政・常矩門/1685旅の芭蕉に入門;近江蕉門、  
正秀・許六・乙州らを芭蕉に紹介、1691(元禄四)頃より後期蕉風に合わず離脱、  
1687「孤松ひとつまつ」89「夏衣」92「忘梅わすれうめ」「元禄五年歳旦帳」編、1685風瀑「一楼賦」入、  
七部集27句入;曠野10句/猿蓑15句/続猿2句、  
追善集「夕顔の歌」(幸陀円人共編)、新玉海集・泊船集に入句、  
[山里に喰ひものしるる花見かな](あら野;一/正しくはしふる;無理に勧める)  
[尚白(;号)の幼名/字/別号]幼名;虎助/大吉、字;三益、別号;木翁/芳斎/老贅子  
法号;観樹院

B2221 **正伯**(昌伯しょうはく・丹羽にわ、医者丹羽徳応の長男)1691-175666 伊勢松阪の医者/本草家、  
京に遊学、医・本草学;稻生若水門、1717江戸で医業/20幕命で採薬使として各地採集、



1722幕府の医師、幕府薬園管理;30人扶持/和薬改会所の指導、  
師若水「庶物類纂」の増修;1738完成、1726「湯液類和名」著/29「普救類方」33「救民薬方」編、  
1748「両東筆語」49「佐渡採薬記」著、「海鱸之図」「九淵遺珠」「丹羽正伯物産日記」著、  
[正伯(通称)の幼名/名/字/号]幼名;徳太郎、名;貞機/元機、字;哲夫、号;称水斎、  
法号;諦通院

- B2220 蕭白(しょうはく・曾我そが、本名;三浦暉雄、別号;蛇足軒)1728/30-178154-52 京の商家の生/  
絵師、3度伊勢地方遊歴;四日市・津・松坂に作品が残る/画風;個性派:孤絶・反権威、行脚、  
「雪仙童子図」「寒山拾得図」「群仙図屏風」画
- L2236 松伯(しょうはく・藁科わらしな、名;貞祐、周伯男)1737-69 代々出羽米沢の医者;1747(11歳)父没、  
米沢藩医;1759藩主上杉重定の侍医/医業の傍ら書斎菁莪館で経史を講義、細井平洲門、  
1764藩主世子松三郎(上杉鷹山)の師範に平洲を推挙、藩校創設に尽力、詩/俳諧を嗜む、  
「菁莪館」「藁科松伯詩集」「東帰稿」著、  
[松伯(通称)の字/号]字;子鱗、号;免狂/巢阜坊/竜洲
- B2222 昌伯(しょうはく・里村[北家]、景益/紹碩、南家の昌迪男)1740-8041 幕府連歌宗匠、北家仍憐の養子
- L2237 昌伯(しょうはく・大塚おつか、名;弘、什真男)?-? 江後期文政天保1818-44頃伊勢舞出の医者;父門、  
大阪に住;医業/詩・画に長ず、近江彦根藩老木侯清左衛門の家臣となる、養嗣子;巢南、  
「経済五策」「清遠堂随筆」、1839「唐三体詩絶句」註釈、  
[昌伯(号)の字/別号]字;士毅、別号;雲渦/臥隠
- 生白(しょうはく、伊勢蕉門・雷枝門俳人)→ 熙近(ひろちか・竜りゅう/竜野、神仏道/俳人)G 3 7 3 4
- 生白(しょうはく・野々口鏡山) → 生白(せいはいく・野々口、俳人) C 2 4 7 9
- 生白(しょうはく・虚室) → 生白(せいはいく・しょうはく・虚室きよむつ、医者/禅)C 2 4 8 1
- 小白(しょうはく・松浦) → 静山(せいざん・松浦まつら、藩主/儒/詩歌)B 2 4 7 6
- 小帛(しょうはく・田畑) → 吉正(よしまさ・田畑/源、幕臣/系譜) H 4 7 0 8
- 正伯(しょうはく・島本) → 正長(せいちやう・島本しまもと、俳人) C 2 4 6 4
- 紹柏(しょうはく:法諱) → 茂源(もげん;道号・紹柏/宗柏、臨濟僧)B 4 4 1 7
- 松白(しょうはく・入江) → 杉蔵(すぎぞう・入江いりえ、尊攘活動) F 2 3 9 1
- 松伯(しょうはく・横井) → 包教(かねり・横井よこい、幕臣/茶/和算)O 1 5 8 4
- 松伯(しょうはく・後藤) → 義質(よしただ・後藤ごとう、医者/国学) M 4 7 8 8
- 松柏(しょうはく・森田) → 久右衛門(きゅうえもん・森田もりた、陶工) M 1 6 2 8
- 松柏(しょうはく・鈴木/橘屋)→ 眞年(まとし・鈴木すずき、商家/国学者)J 4 0 9 4
- 松柏(しょうはく・青木) → 峯行(みねゆき・青木あおき、藩医/国学) H 4 1 9 9
- 松柏(しょうはく・清岡) → 長説(ながつぐ・清岡きよおか/菅原、廷臣/大学頭)L 3 2 8 9
- 松柏(しょうはく・杉本) → 隆重(たかしげ・杉本/中臣/樋口、神職/歌俳)X 2 6 7 1
- 勝伯(しょうはく・杉山) → 勝伯(かつのり・杉山すぎやま、国学者) N 1 5 7 6
- L2238 常伯(常白しょうはく・米川よねかわ)?-1676 京奈良屋町の粉紅商/禁裏御用、香道家、  
香道;相国寺松軒門/後水尾天皇の中宮東福門院に認められ禁裏伝来の組香を修学、  
米川流香道の祖、能書家、元和1615-24頃「六国列香之弁」著、「米川常白香道秘伝抄」著、  
「常白問答 女院様問常白答」「女御御問書米川常白答書」著、  
[常伯(号)の通称/別号]通称;小紅屋三右衛門、別号;東庵/一任
- B2223 丈伯(常伯しょうはく・苗村なむら)?- ? 1694存 近江彦根の医者/藩主井伊家の侍医/致仕、  
近江野洲郡落合村に隠棲;但し元禄年間[1688-1704]京に住;執筆活動、  
詩/仮名草子/実用書など著、1667仮名草子「理屈物語」著(徑山子名)/以後は実用・俗解書、  
1676「聚分韻略改編本」82「正伝或問増補頭書」/87「籠耳」(諺・語源など)、  
1690「頭書大益節用集綱目」91「徒然草絵抄」92「女重宝記」「世話用文章」「錦繡段訓解」、  
1693「男重宝記」「篆字和玉篇綱目」「伊勢物語絵抄」/94「武家重宝記」「年中重宝記」、  
「本朝歳時故実」「庭訓往来絵抄」「千字文絵抄」「万案紙手形鑑」外著多数、  
[丈伯(通称)の字/号]字;三徑、号;林庵/苗斎/艸田斎/艸田子/徑山子/寸木子
- B2224 丈白(じょうはく・岡村おむら、名;甫)?-? 丹波黒井の儒者;平井仙水(石川丈山門)門、  
詩人、1704「鼈頭ごとう覆醬集」編、  
[丈白(号)の別号] 丈山/春仙/松仙/躋寿庵

- 浄白(じょうはく・穂積) → 与信(とものぶ・穂積ほづみ、材木商/和算) Q 3 1 1 7
- B2225 松柏軒(しょうはくけん・奥田おくだ)?-? 江前期:1687教養書「女用訓蒙図彙」著
- 松白子(しょうはくし) → 宗泉(宗仙そうせん・狩野/奈須、絵師) C 2 5 3 8
- 松栢生(しょうはくせい) → 静斎(せいさい・岸井さい、藩士/画) I 2 4 3 5
- 肖栢亭(しょうはくてい) → 以立(いりゅう・清池きよち/源、医/漢学) B 1 1 9 4
- 松栢堂(しょうはくどう、書肆) → 出雲寺和泉掾(いづもいづみのじょう、初-3世) C 1 1 3 7 ~
- 松栢有心居(しょうはくゆうしんきょ) → 重光(しげみつ・十文字じゅうもんじ/木下、神職/和漢学) O 2 1 8 6
- L2240 小人(しょうはち・幾島/生嶋いくしま)?-? 江中期京の歌舞伎作者、1747「庭訓往来満足鑑」、  
1748「遠州妹背淵」「けいせい廓船橋」「三荘太夫五人嬢」著
- 庄八(しょうはち・池上) → 休柳(きゅうりゅう・池上いけがみ、紙業/絵師) M 1 6 9 7
- 庄八(しょうはち・岡野) → 湖中(3世こちゅう、岡野、藩士/俳人) D 1 9 3 2
- 庄八(しょうはち・立川) → 政峯(まさみね・立川たちかわ、歌人) Q 4 0 8 3
- 庄八(しょうはち・西村) → 忠実(たださね・西村にしむら、茶商/歌人) Y 2 6 8 5
- 庄八(しょうはち・西村) → 謹節(のりとき・西村、忠実男/茶商/歌) J 3 5 5 1
- 庄八(しょうはち・津金) → 胤貞(たねさだ・津金つがね、藩士/窯業発展) R 2 6 7 9
- 称八(しょうはち・村瀬) → 孝養(こうよう・村瀬むらせ、和算家) L 1 9 5 1
- L2241 丈八(じょうはち;通称・三隅みすみ、名;明寿、庄屋喜三次男)1778-184366 肥後杉島・国町兩村庄屋の生、  
熊本藩惣庄屋;初め1791杉島会所見習/1812莎崎村庄屋兼任/下益城郡中見役兼務、  
藩主細川斉樹の郡政改革時に抜擢;1813砥用手永惣庄屋・代官兼帯、松山手水で惣庄屋、  
河江・横手・鯉手水でも惣庄屋、郡代と衝突し役御免、2年後砥用手永御山支配役に復帰、  
山鹿・杉島手水惣庄屋として緑川の用水取水に尽力/知行40石、「座右手鑑」編
- 丈八(じょうはち・山本丈八郎) → 鬼角(きかく・山本やまもと、里正/俳人) J 1 6 8 2
- 常八(じょうはち・松岡) → 清信(きよのぶ・松岡まつおか、和算家/同心) Q 1 6 1 2
- 正八郎(しょうはちろう・解良) → 栄重(よしげ・解良げら、国学者) D 4 7 6 7
- 正八郎(しょうはちろう・原) → 昌清(まさきよ・原はら、国学者) R 4 0 9 6
- 上馬入道(じょうばにゅうどう) → 資時(すけとき・源、廷臣/今様/郢曲/馬術) C 2 3 5 3
- B2226 勝範(しょうはん;法諱・蓮実房;号、俗姓;吉美)996-107782 平安中後期近江野洲天台僧;比叡山入;  
天台教観;覚慶・覚超・皇慶門/止観を究める、宝持院住;恵心流教学を弘法、法幢印検校、  
1070第33世天台座主、1071法印大和尚位/僧正、後三条院護持僧、「西方集」「成菩薩集」著、  
「三周義私記」「四教抄」「三身義私記」「自行略記註」/1071「請置僧官於日吉神社表」著、  
歌;寂超「後葉集」(436)/続詞花集入、  
千載集581(;服喪に来た僧が墨染の袈裟を忘れ取りに遣らせたのを見て詠む歌)、  
[墨染の色はいづれも変らぬをぬれぬや君が衣なるらむ](千載;九哀傷581)  
[花よりも先に散りける身を知らで待ちけんものをいまや桜と](後葉集;哀傷436、  
ねんぞう法師都にて逝去のころ山の房の花盛りを見ての詠)
- L2242 聖範(しょうはん;法諱・明願房、初諱;性鏝)1182-? 1241存 真言/華嚴宗高尾神護寺僧;栄然門、  
のち明恵(高弁)門、梅尾高山寺住、1241「御請来目録私記」
- L2243 承範(しょうはん;法諱) 1305 - ? 1388存 鎌倉南北期天台僧:継然法印門/大阿闍梨、  
権大僧正、1358「三摩耶戒儀」75「承範僧正度々授与記」83「伝授記」、「第五秘密行法記」著
- B2227 正般(しょうはん;号・招月庵)1433-? 1501存 室町期歌人;正徹しょうてつ・正広しょうこう門、  
丹後の府中・周防などに滞留;地方歌壇育成に貢献、1457武家歌合参加(正徹・心敬らと)、  
正広のあと招月庵を継承、1483正徹25回忌和歌を勧進、  
1501文亀元年閏六月九日正般直守等「山何百韻」興行、  
[かはるなよこよひき舟の川風になびく心のすゑの白浪](武家歌合;廿五番左42)
- B2228 昌泮(昌埤しょうはん/しょうばん・瀬川)?-1708 江前期連歌師/1681研究書「道の枝折みちのしおり」著
- 清範(しょうはん;法諱) → 清範(せいはん・しょうはん;法諱、法相学僧) J 2 4 4 4
- 小繁(しょうはん・木内) → 石亭(せきてい・木内きのうち、本草/愛石家) D 2 4 7 4
- 正繁(しょうはん) → 正繁(まさしげ、連歌) C 4 0 6 8
- 性繁(しょうはん;法号) → 正盛(まさもり・池田/藤原、豪族/連歌) H 4 0 9 8

- 勝繁(しょうはん・山角) → 勝繁(かつげ・山角やまかど、幕臣) N 1 5 4 0
- B2229 定範(じょうはん、中納言藤原成範男) 1165-1224<sup>60</sup> 三論・真言僧;東大寺東南院で三論修学/  
醍醐寺の勝賢・成賢門;真言を修学、東大寺東南院住;醍醐寺理性院を兼務、  
1191興福寺維摩会の講師/1213東大寺別当:1221辞職;法印・権大僧都・醍醐寺座主、  
醍醐三宝院に没、歌人;私撰「門葉集」編(散佚)、1218-9道助法親王家五十首歌入、  
[けさはまだ山も霞になりやらでいふばかりなる春のあけぼの](道助五十首歌;初春10)
- V2275 定範(じょうはん;法諱、) ? - ? 鎌倉期;僧;法師、歌人;1237[檜葉集]10首入、  
仁和寺宮守覚法親王家五十首に参加、  
[うきねするひとよの袖をほしわびておもひしらるすまのあま人](檜葉;羈旅656)
- L2244 乗範(じょうはん;法諱) 1230 - ? 鎌倉期大和生駒竹林院の法相学僧;興福寺教尹門、  
1257維摩会講師、のち竹林院に隠棲、「相違因」「法差別指示」著
- L2245 静範(じょうはん;法諱) ? - ? 鎌倉南北期正和-貞和1312-50頃の天台僧;  
権大僧都:天台相生正流、1312「義科集口伝十如是義」47「宗要集聞書」著
- B2231 成範(じょうはん;法諱) 1477 - ? 1528存 戦国期河内の真言宗天野山金剛寺の僧、  
「弘法大師講式」著
- 成繁(じょうはん) → 成運(せいうん・じょううん、歌人) 2 4 6 3
- 常範(じょうはん・井口) → 常範(つねのり・井口いぐち、医者/天文) D 2 9 1 2
- 常範(じょうはん・大淵) → 常範(つねのり・大淵おおぶち、幕医/本草学) D 2 9 2 1
- 常盤(じょうばん) すべて → 常盤(ときわ)
- 常伴(じょうばん・久志本) → 常伴(つねとも・久志本くしもと/度会、神職/国学) F 2 9 6 4
- 照幡院(しょうはんいん) → 日暹(にっしん;法諱、日蓮僧) F 3 3 3 0
- 松帆樹(しょうはんじゅ) → 五兵衛(ごへい・銭屋ぜにや/清水、海運業) N 1 9 6 0
- 松帆亭(しょうはんてい) → 五兵衛(ごへい・銭屋ぜにや/清水、海運業) N 1 9 6 0
- B2230 松琵琶(しょうひ・窪田くぼた/初姓;西川にしかわ) 1672-1750<sup>79</sup> 近江大津の俳人;芭蕉門・没後は正秀門、  
1724水田正秀1周忌追善集「水の友」編(露川序/自跋、京の辻勘重郎板)、  
1726芭蕉33回忌追善「此原このはら」(等亀らと共編)、1743「雪の流集」編  
[松琵琶(;)の通称/別号]通称;庄五郎/清十郎、別号;心正堂/負月翁/宗心
- 章斐(しょうひ・勢多) → 章斐(のりあや・勢多せた、明法家) E 3 5 2 7
- 松轡(しょうひ;号) → 堅亮(けんりょう・賢亮けんりょう;法諱・造真、真宗僧) M 1 8 9 9
- 昌丕(しょうひ・葛西) → 昌丕(まさひろ・葛西かさい、国学/救民策) O 4 0 7 5
- 昭美(しょうび・鳥居) → 昭美(あきよし・鳥居、藩士/俳人) E 1 0 0 9
- 勝美(しょうび・的場) → 勝美(かつよし・的場まとは、藩士/国学) O 1 5 0 2
- 尚美(しょうび・並河) → 尚美(ひさよし・並河なみかわ/平、医者/歌) K 3 7 4 8
- 章美(しょうび・大野) → 章美(ふみよし・大野おおの、国学/歌人) I 3 8 0 7
- 常美(じょうび・山崎) → 常美(つねよし・山崎やまざき、藩士/国学者) E 2 9 2 6
- 常美(じょうび・押川/武井) → 周発(しゅうはつ・武井たけい、藩絵師) Y 2 1 2 3
- 乘美(じょうび・松平) → 乘美(のりよし・松平まつだいら、藩主) G 3 5 9 3
- 薔薇園(しょうびえん) → 愚堂(ぐどう・小森こもり、医者/歌) C 1 7 5 4
- 薔薇館(しょうびかん) → 丹丘(たんきゅう・丹邱たんきゅう・芥川、儒者/華音) I 2 6 0 5
- 小眉山長(しょうびさんちやう) → 蒼山(さざん・星野ほしの、儒者/尊王派) I 1 6 5 8
- 承弼(しょうひつ・篠) → 小竹(しょうちく・篠崎/篠、儒/詩人) 2 2 9 2
- 将弼(しょうひつ・牧) → 香松(かうしょう・牧まき、藩士/詩歌/書) J 1 9 8 0
- 城秀(じょうひで) → 八橋検校(やっはしけんぎやう、箏曲) D 4 5 7 8
- 薔薇洞(しょうびどう) → 順庵(じゅんあん・木下/平、幕府儒官/教育) 2 1 5 4
- 尚百僊(しょうひやくせん) → 百年(ひやくねん・鈴木すずき、絵師) E 3 7 7 3
- 勝彪(しょうひやう・板倉) → 勝彪(かつたけ・板倉いたくら、藩士/武芸者) N 1 5 5 0
- 松苗(しょうびやう・まつなえ・岩垣) → 東園(とうえん・岩[巖]垣、儒/詩) B 3 1 4 9
- 升瓢(しょうびやう・総州葛飾辺老農、浮草子作) → 文耕(ぶんこう・馬場、講釈師) F 3 8 1 7
- 照冰堂(しょうひやうどう・無著道忠) → 道忠(どうちゆう・無著、臨濟僧) G 3 1 4 3

小蕨(しょうひん・野口) → 千賀(ちか・野口のぐち/松村、絵師) N 2 8 2 6  
 尚品(しょうひん・坂) → 尚品(ひさただ・坂さか/荒木田、神職/歌) J 3 7 7 0  
 松浜(しょうひん・森本) → 一瑞(いちずい・森本もりもと、藩士/軍学) G 1 1 2 8  
 章彬(しょうひん・岸) → 章彬(ふみあき・岸さし/岩切/村野、藩士/故実) I 3 8 1 5  
 常品(じょうひん・渡辺) → 玄包(はるかね・渡辺わたなべ、神職/国学) L 3 6 0 0  
 常斌(じょうひん・御菌) → 常斌(つねあき・御菌みその、鍼医) B 2 9 5 1

B2232 小府(しょうふ・木戸きど、孝範の父)?-? 関東管領/連歌、「雲玉和歌抄」に逸話

L2246 章夫(しょうふ・あやを・山本やまと、名;惟慶/維慶、亡羊3男) 1827-1903 77 京の本草家(家学:父門)、  
 經学・医学にも精通/写生画;1841蒲生竹山・森徹山門、動植物写生;1000余枚、  
 維新後は太政官に出仕/京都美術工芸学校教師、本家当主の甥山本復一またかぎを經濟支援、  
 1850「竹米行」兄弟で共著、51「入越日記」、  
 1854「花鳥争奇」、「山本溪山先生詩文集」あり、錫夫せきぶ・秀夫しゅうぶの弟、農夫のうぶの兄  
 [章夫(:字)の幼名/通称/号]幼名;正九郎、通称;藤十郎、  
 号;溪山/溪愚/愚溪/対竹斎/茯苓斎ふくれいさい

少輔(しょうぶ) → 少輔君(しょうのきみ、天台僧/歌人) S 2 2 6 3  
 省輔(しょうぶ;法諱) → 仁英(にんえい:道号・省輔せいほ、臨濟僧) G 3 3 1 7  
 章夫(しょうぶ・多胡) → 欽治(ながはる・多胡たご、国学/歌) N 3 2 6 9  
 樵夫(しょうぶ・馬山) → 馬山樵夫(ばざんしょうぶ、民謡収集) E 3 6 3 5  
 樵夫(しょうぶ・林中) → 林中樵夫(りんちゅうしょうぶ) K 4 9 6 8  
 樵夫(しょうぶ・絳山) → 繁(しげる・小枝さえた、読本作者) D 2 1 4 1  
 樵夫(しょうぶ・向井) → 元成(げんせい・向井むかい、儒者/医/俳) E 1 8 2 7  
 樵夫(しょうぶ・狩野) → 養長(やすなが・狩野かのう/木原、絵師/国学) F 4 5 7 2  
 樵父(しょうぶ・熊谷) → 箕山(きざん・熊谷、儒者/詩人) I 1 6 5 6  
 昌符(しょうぶ・飯室) → 昌符(まさあき・飯室いむろ、幕臣/儒者) 4 0 9 9  
 昌富(しょうぶ・花輪) → 昌富(まさとみ・花輪はなわ/塙/源/中島、国学) R 4 0 8 4  
 昌敷(しょうぶ・藤原/山本) → 昌敷(しげのぶ・山本/藤原、官人/歌/語学) R 2 1 9 7  
 昌敷(しょうぶ・菅野) → 元健(もとたけ・菅野すがの、和算家) C 4 4 8 7  
 昌敷(しょうぶ・木梨) → 昌敷(まさのぶ・木梨きなし、藩士/詩歌) P 4 0 1 3  
 紹怱(しょうぶ/じょうぶ・小溪;道号) → 小溪(しょうけい・紹怱、臨濟僧) I 2 2 1 5  
 紹付(しょうぶ;初諱) → 道付(どうぶ;法諱・越伝、臨濟/黄檗僧) H 3 1 0 2  
 紹父(しょうぶ・中林) → 竹溪(ちくけい・中林なかばやし、絵師) C 2 8 8 9  
 勝阜(しょうぶ・井深) → 勝阜(かつたか・井深いぶか、藩士/和算) N 1 5 4 8  
 勝富(しょうぶ→かつとみ・庄司) → 道恕斎(どうじよさい・庄司/西田屋、妓楼主人) F 3 1 5 4  
 變夫(しょうぶ・梁田) → 象水(しょうすい・梁田やなだ、藩儒/詩人) T 2 2 6 6  
 昭武(しょうぶ・槇島) → 昭武(あきたけ・槇島まきしま、国学/軍記) C 1 0 5 3  
 昭武(しょうぶ・寺山) → 昭武(あきたけ・寺山てらやま、書簡/歌) G 1 0 5 9  
 昌武(しょうぶ・谷村) → 昌武(まさたけ・谷村たにむら、藩士/海軍) D 4 0 4 3  
 章武(しょうぶ・勢多) → 章武(のりたけ・勢多/中原、明法家) E 3 5 9 0  
 菖蒲(しょうぶ・あやめ・曾根) → つや女(つやじよ・曾根そね/森山、俳/歌人) F 2 9 8 8  
 紹怱(じょうぶ/しょうぶ;法諱) → 小溪(しょうけい;道号・紹怱、臨濟大徳寺僧) I 2 2 1 5  
 常富(じょうぶ・星野) → 葛山(かつさん・星野ほしの、藩士/儒者) H 1 5 7 8  
 常富(じょうぶ・横田) → 常富(つねとみ・横田よこた、国学者/歌人) G 2 9 6 9  
 乗富(じょうぶ・松平) → 乗富(のりとみ・松平まつだいら/源、幕臣/国学) F 3 5 2 5  
 篠夫(じょうぶ・峯) → 越方(こしかた・峯みね、国学者) Q 1 9 9 9  
 常武(じょうぶ/つねたけ・村田) → 箕山(きざん・村田、藩士/儒/詩歌/俳) I 6 1 4  
 菖蒲庵(初世しゅうぶあん) → 寛(ひろし・羽仁はに、藩士/俳人) L 3 7 5 4  
 菖蒲庵(2世しゅうぶあん) → 乙二(おつに・宍戸ししど、藩士/俳人) D 1 4 7 3  
 菖蒲庵(5世しゅうぶあん) → 忠成(ただしげ・山根やまね、藩士/俳人) P 2 6 5 9  
 丈夫庵(じょうぶあん) → 一樹(いちじゅ・雄田、俳人) G 1 1 2 2

- B2235 **梢風**(松風しょうふう;号、通称;智周尼、小川風麦ふうばく女)1669-1758<sup>90</sup> 伊賀上野俳人;芭蕉門、藩士友田ともだ良品りょうばんの妻、父・夫共に芭蕉門、1730夫没後に剃髪、  
「木の葉集(智周発句集)」(洞秋・未塵共編、実は1758句集を編んだが刊行待たず没)
- B2236 **嘯風**(しょうふう・兼松かねまつ)1654-1706<sup>53</sup> 美濃深田村の俳人;芭蕉門、東美濃の中心的俳人、  
1696可吟「浮世の北」・98諷竹「砂川集」入集、  
1705「ふくろ角つ」編(刊行前に没/魯九の助力で息子水尺が追悼集を添えて1706刊行)、  
[ころころと臼引あるくよさむ哉](可吟門人編[浮世の北]入)、  
[嘯風(;号)の通称]甚蔵
- L2247 **樵風**(しょうふう) ? - ? 江中期大阪の俳人;蕪村門、廬陰社参加、  
1773几董「明鳥」1句/77蕪村「夜半楽」1句入、  
[孫の手をかふとて老の踊りかな](明鳥;223/買物に出て盆踊りに参加の隠居の身)
- L2248 **正風**(しょうふう) ? - ? 俳人;1777江涯こうがい「仮日記」1句入;60、  
[所望せし椿は落ちて仕舞けり](仮日記;60/椿の散り際の潔さ)
- L2249 **松風**(しょうふう;号・桃洞舎)?- ? 江戸後期武蔵の俳人、常陸の俳人らと親交、  
1816(文化13)落髪記念集「月のむしろ」編
- B2237 **樵風**(しょうふう・入江いゑ)1792-1848<sup>57</sup> 播磨印南郡曾根の製塩業/俳人、  
1845「鶏口集」著(;起風編/紀行[遊嵐山序]や俳文[憎蒼蠅辞]など34篇)、  
[樵風(;号)の通称/別号]通称;清兵衛、別号;酔古堂/濯纓たくい/泥中/亀潮
- L2250 **松風**(しょうふう大庭おおば、名;廷香)?-? 江戸後期遠江掛川の商人/国学者、紀行文作者、  
書画蒐集;諸国行脚、内山真竜と交流、  
「伊豆紀行」「伊勢再遊記」「日光善光寺紀行」「函根温泉紀行」著、  
[松風(;号)の字/通称]字;国馥/蘭腕、通称;大助
- 松風(しょうふう・檀蓮社) → 靈巖(れいがん;法諱、浄土僧) 5 1 1 7
- 松風(しょうふう・徳山、祇園町子) → 玉瀾(ぎょくらん・徳山、大雅妻、絵師/歌人) P 1 6 4 0
- 松風(しょうふう・早川) → 真学(しんがく・早川はやかわ、国学/歌人) N 2 2 7 1
- 松風(しょうふう・間人) → 近正(ちかまさ・間人はしうど、国学/歌人) N 2 8 3 0
- 昌風(しょうふう・齋藤) → 昌風(まさかぜ・齋藤さいとう、国学者) P 4 0 9 5
- R2200 **常風**(じょうふう) ? - ? 江戸前期俳人;1691不角「二葉之松」入(329)、  
[帆一ツに隣も出来て晚くれの月](二葉之松;329/遠洋から港に近づき他の舟も見える)
- B2238 **松風庵**(しょうふうあん、一之軒、本名不詳)?-? 江前期洛東岡崎村住/軍記読み、  
1703(元禄16)「義経記評判」著
- 松風庵(しょうふうあん) → 金馬(きんば・国谷、俳人) R 1 6 6 4
- 松風庵(しょうふうあん) → 資礼(すけひろ・那須/藤原/佐竹、幕臣) C 2 3 6 4
- 松風一(しょうふういち) → 山勢検校(やませけんぎょう、箏曲家/平曲) F 4 5 0 9
- 正風園(しょうふうえん) → 為山(いざん・関、俳人) 1 1 8 5
- 松風館(しょうふうかん) → 華陽(かよう・川村、詩人) H 1 5 5 2
- 松風軒(しょうふうけん) → 西鶴(さいかく・井原、俳人/浮世草子) 2 0 0 1
- 松風軒(しょうふうけん) → 為信(ためのみ・江島、仮名草子/西鶴門俳人) S 2 6 6 3
- 松風軒(しょうふうけん) → 宗澄(そうちよう・石井いひ、名主/歌人) C 2 5 5 5
- 松風軒(しょうふうけん) → 一有(いちゆう・斯波/岩井、俳人) B 1 1 2 6
- 松風軒(しょうふうけん) → 常辰(つねとき・隼士はやと、俳人) C 2 9 6 4
- 松風軒(しょうふうけん) → ト琴(ぼくきん・柴垣しばき、俳人) D 3 9 0 1
- 松風軒(しょうふうけん) → 玄生(はるなり・難波なんば、医/歌人) G 3 6 6 4
- 正風斎(しょうふうさい) → 不角(ふかく・立羽たちば/山崎、書肆/俳人) 3 8 0 3
- 松風斎(しょうふうさい) → 朝保(ちようほ・宜湾ぎわ、琉球廷臣/歌) J 2 8 8 5
- 松風斎(しょうふうさい) → 玄泰(げんたい・草鹿くさか、医者/詩人) K 1 8 9 1
- 松風清意竹露謹心軒(しょうふうせいちくろくしんけん) → 有年(ありとし・西村にしむら/藤原、藩士/歌) I 1 0 2 2
- 松風清社(しょうふうせいしゃ) → 鶴翁(かくおう・花月庵、田中、茶人;煎茶) J 1 5 5 9
- 松風竹月居(しょうふうちくげつきよ) → 良俊(よしとし・中川なかがわ、商家/儒者) O 4 7 1 4
- 松風亭(しょうふうてい) → 昌興(まさおき・葛巻かづらまき、藩士/歌) B 4 0 4 9

- 松風亭(しょうふうてい) → 鳳谷(ほうこく・林、幕府儒官/大学頭) F 3 9 2 5  
 正風堂(しょうふうどう) → 魚淵(なぶち・佐藤/吉村、俳人) G 3 2 8 4  
 正風堂(しょうふうどう) → 山暎(さんぎょう・川村かわむら、俳人) E 2 0 2 2  
 正風道場(しょうふうどうじょう) → 升六(しょうろく/ますろく;号、商家/俳人) C 2 2 1 5  
 梢風尼(しょうふうに) → 梢風(松風しょうふう、俳人) B 2 2 3 5
- B2239 松風也軒(しょうふうやけん、本名不祥) 1675頃?-? 歌人、1748「渚の松」編(松宮観山序)  
 蕉風林(しょうふうりん) → 鳳朗(ほうろう・田川、俳人) 3 9 5 8  
 菖蒲園(しょうぶん) → 太氏(ひろうじ・座田さいだ/賀茂、神職/歌) F 3 7 5 7  
 尚不愧斎(しょうふきさい) → 伍軒(ごけん・原はら、藩士/儒者/幕臣) G 1 9 5 1  
 昌服(しょうふく・奥平) → 昌服(まさもと・奥平おくだいら/源、藩主/歌) L 4 0 9 5  
 祥副(しょうふく・村瀬) → 帯梅(たいばい・村瀬、暮雨巷3世/俳人) C 2 6 0 6  
 浄復(じょうふく;法諱) → 聞中(もんちゅう;道号・浄復、黄檗僧) I 4 4 6 6  
 常副(じょうふく・檜垣) → 常副(つねすけ・檜垣ひがき/度会、神職/連歌) C 2 9 2 9  
 聖福寺殿(しょうふくじどの) → 隆弁(りゅうべん;法諱、天台大僧正/歌人) F 4 9 5 6  
 常不軽院(じょうふけいいん) → 日眞(にっしん;法諱・慧光、日蓮僧) E 3 3 3 9  
 松撫軒(しょうぶけん) → 朴翁(ぼくおう、俳人) C 3 9 9 2  
 丈夫軒(じょうぶけん) → 大丈夫軒(だいじょうけん・小原おはら/伴、儒者) B 2 6 6 3  
 乗侍陳人(じょうふちんじん) → 甫庵(ほうあん・服部はつとり、医者) 3 9 0 4
- B2241 生仏(しょうぶつ) ? - ? 鎌倉期天台僧/平曲の祖、徒然草・当道要抄に伝、  
 徒然草222段;後鳥羽院の時 信濃前司行長の平家物語を盲目で声明に長けた生仏が語った、  
 のち生仏は平曲を城一に伝承/城一は城玄(城元)と如一に伝承、  
 ☆綾小路資時すけとき(正仏/性仏、郢曲の名人)と同一説あり
- L2251 生仏(しょうぶつ) ? - ? 江中期大阪の俳人;  
 1773几董「明鳥」1句/76「続明鳥」1句入、  
 [風折々ともし火見する若葉哉](あけ鳥;232/初夏の夜の涼風)  
 正仏(しょうぶつ;法名) → 資時(すけとき・源、廷臣/今様/郢曲) C 2 3 5 3  
 笑仏(しょうぶつ) → 千観(せんかん、平安僧) 2 4 2 6  
 少輔君(しょうふのきみ) → 少輔君(しょうのきみ、天台僧/歌人) S 2 2 6 3  
 菖蒲房(しょうぶぼう) → 宇津山人菖蒲房(うつさんじんしょうぶぼう、嘶家) B 1 2 4 7
- B2242 昌文(しょうぶん・阪[坂]、昌周男) ?-1790 阪家2代目、幕府連歌師、1781柳営連歌会に出仕、  
 「万句三物」、1784「天明四年正月十二日安阿昌文両吟本式目百韻」/1787「犬の図犬名所」著  
 松文(しょうぶん・足立/井上) → 長篤(ちやうしゅん、足立、蘭医;産科) I 2 8 8 6  
 尚文(しょうぶん・当麻) → 尚文(ひさぶみ・当麻とうま、商家/国学者) K 3 7 2 8  
 勝文(しょうぶん・月形) → 鷗窠(しゅうか・月形つきがた、藩士/儒者) F 2 2 7 2  
 勝文(しょうぶん・中瀬) → 勝文(かつふみ・中瀬なかせ/秦、国学者) V 1 5 1 9  
 勝文(しょうぶん・河合) → 勝文(かつふみ・河合かわい、藩士/国学者) U 1 5 3 6  
 尚文(しょうぶん・今泉) → 千春(ちちはる・今泉いまいずみ、歌人) F 2 8 1 8
- L2252 常芬(じょうふん・久志本くしもと/本姓;度会わたらい、名;常彦) ?-? 代々江戸幕府の医官、  
 1738「古今医苦知」著、  
 [常芬(;通称)の別通称] 修理しゅり  
 常文(じょうぶん・川口) → 常文(つねぶみ・川口かわぐち、神職/国学) F 2 9 5 5
- B2243 正平(しょうへい・小池こいけ) ? - ? 江前期和泉和歌山の俳人・蕉門、  
 1684「冬の日」3句入;狂句こがらしの歌仙・初雪の歌仙・つつみかねての歌仙各1句、  
 [日のちりちりに野に米を刈る](冬の日;狂句こがらし歌仙6/日光薄れる夕方迄働く)、  
 (前句;朝鮮のほそりすゝきのにはほひなき/外来種の痩せ薄がゆれる)
- L2253 昌平(しょうへい) ? - ? 江中期大阪の俳人;1776樗良「誹諧月の夜」入、  
 [袂たもと敷きて鹿を聞く夜の友もなし](月の夜;175/腕枕する独り寝)
- L2254 称平(しょうへい;通称・八木やぎ、名;謙/玄悦) 1833-65 薩摩鹿児島藩の医者;  
 1847島津斉彬の命で蘭医学・種痘法修学;戸塚静海・緒方洪庵門、鹿児島藩医、  
 さらに伊東玄朴・坪井信道門、反射炉築造のため翻訳作業に従事、肥前長崎でポンペ門、

帰郷後生堂塾を開塾;教授と診断、1858「散花小言」訳

愷罍(しょうへい・原田) → 崧山(てんざん・原田、漢学) D 3 0 6 2  
正平(しょうへい・宇佐美) → 淡斎(たんさい・宇佐美うさみ、藩士/漢学者) I 2 6 1 5  
正平(しょうへい・鈴木) → 真実(まぎね・鈴木、藩士/国学/歌) C 4 0 6 2  
正平(しょうへい・柿並) → 正平(まさひら・柿並かきなみ、藩士/歌人) G 4 0 8 7  
正平(しょうへい・松居) → 安国(やすくに・松居/松井まつい/源、国学) E 4 5 8 5  
正平(しょうへい・萩原) → 正平(まさひら・萩原、国学/神道家) G 4 0 8 8  
正平(しょうへい・四宮) → 松陰(しょういん・四宮しのみや、国学/神官) U 2 2 8 8  
昌平(しょうへい・松井) → 美澄(みはる・松井/源、藩医/国学者) F 4 1 7 4  
昌平(しょうへい・谷) → 三山(さんざん・谷たに、儒者) F 2 0 8 5  
昌平(しょうへい・近藤) → 至邦(むねくに・近藤こんどう、国学者/歌人) D 4 2 8 4  
昌平(しょうへい・白子) → 昌平(まさひら・白子しらこ、商家/国学者) Q 4 0 2 7  
尚平(しょうへい・鎚木/八木) → 静修(しずさね・八木/鎚木/橘、国学者) U 2 1 0 1  
尚平(しょうへい・辻/土生) → 横塘(おうとう・春田/角野/海老名、儒者) C 1 4 1 5  
尚平(しょうへい・堀) → 龍潭(りゅうたん・堀ほり、医者/詩) L 1 8 0 4  
尚平(しょうへい・花山/頼) → 小園(しょうえん・頼らい/花山、儒者) B 2 2 4 0  
升平(しょうへい・新井) → 篤光(あつみつ・新井あらい、儒者) E 1 0 8 6  
庄平(小平しょうへい・今利屋) → 玉洲(ぎよくしゅう・岩井、商家/儒者) P 1 6 0 6  
庄平(しょうへい・本庄) → 忠成(ただなり・本庄ほんじょう/源、国学/歌) Z 2 6 4 3  
称平(しょうへい・加藤) → 称平(みつひら・加藤かとう、商家/志士/歌) I 4 1 6 4  
昇平(しょうへい・前島) → 庸政(つねまさ・前島まえじま、医者/詩人) D 2 9 7 3  
昇平(しょうへい・国方) → 豊民(とよたみ・国方くにかた、藩士/国学) V 3 1 0 4  
将平(しょうへい・鎌田) → 政和(まさかず・鎌田かまた、陪臣/国学者) O 4 0 9 6  
勝平(しょうへい・林) → 勝平(かつひら・林はやし、藩士/国学) V 1 5 4 3  
襄平(丈平しょうへい・佐竹/川合) → 春川(しゅんせん・川合/川/佐竹、藩士/儒者) K 2 1 1 4

- B2244 昭平親王(しょうへいしんのう/あきひら、村上天皇皇子)954-101360 母;藤原在衡女正妃(按察使御息所)、960賜姓;源、968従四上・右兵衛督/977親王に復帰;四品常陸太守/984天台園城寺で出家、山城岩蔵に住/同地に没、能書家、歌人;続古今集1813、  
[今日ぞ思ふきみにあはでややみなまし八十やそぢあまりの齢よはひならずは](続古;雑1813)、  
(妹の賀茂斎院選子内親王に対面して詠む)、  
[昭平親王(;名)の通称]岩蔵宮/入道九宮、入道兵部卿
- B2245 昭平親王女(しょうへいしんのうのむすめ)?-? 藤原公任の妻、定頼の母
- V2227 焼餅道人(しょうへいどうじん・三岡みおか、名;重嘉しげよし)1791-? 近江彦根藩士/歌人;[彦根歌人伝・亀]入、  
[焼餅道人(;号)の通称]兵之助/文太夫
- B2246 庄兵衛(初世しょうべえ・井筒屋いづつや、筒井つひ、名;重勝)1621-170989 京寺町二条の俳諧書肆、  
俳諧:貞徳門;俳諧三つ物所、のち談林/蕉門の俳書も刊行、  
1674「歳旦発句集」編/92「俳諧書籍目録」編  
[初世井筒屋庄兵衛(通称)の号] 阿誰軒あすいけん/藤柳麿、表紙屋、
- B2247 庄兵衛(2世しょうべえ・井筒屋、筒井つひ、名;重晴)?-? 蕉門俳書肆、俳:1696「初蟬」入、「続猿蓑」刊
- L2255 庄兵衛(しょうべえ;通称・高木たかぎ、号;太亮軒)?-? 江中期備前岡山藩士/地誌家、1709「和気絹」著
- B2248 庄兵衛(4世しょうべえ・井筒屋、筒井つひ、名;寛治、号;麦郷観)?-1760 江中期京書肆、俳人:鳥酔門、  
「芭蕉句選拾遺」編
- L2256 庄兵衛(しょうべえ・中野なかの、名;続従)1756-183277 加賀金沢藩士/和算家;1798定番歩、  
藩校明倫堂算学師範、1818作事場の算用方主付を兼任、  
「昼夜長短算法」編/「昼夜長短算法」  
[庄兵衛(;通称)の号] 明理堂
- V2230 庄兵衛(しょうべえ・宮下みやした、名;重昌しげまさ)1802-6564 信濃小県郡和田宿の年寄役、  
国学者;本居内遠門
- 庄兵衛(しょうべえ・鳥居) → 清信(初世きよのぶ・鳥居とりい、絵師) 1 6 5 1  
庄兵衛(しょうべえ・鳥居) → 清信(2世きよのぶ・鳥居、初世男/絵師) Q 1 6 1 1

庄兵衛(しょうべえ・浜島) → 日本左衛門(にっぽんざえもん、盗賊) F 3 3 6 6  
 庄兵衛(しょうべえ・鈴木) → 信房(のぶふさ・鈴木、俳人) D 3 5 1 9  
 庄兵衛(勝兵衛しょうべえ・島屋) → 西国(さいこく・中村、俳人) 2 0 7 6  
 庄兵衛(莊兵衛しょうべえ・松平) → 玄駁(げんき・松平、藩老/俳人) E 1 8 0 4  
 庄兵衛(しょうべえ・辻) → 正義(せいぎ・まさよし・辻つじ、俳人) 2 4 9 6  
 庄兵衛(しょうべえ・小谷) → 三志(さんし・小谷おたに、富士講行者) M 2 0 3 0  
 庄兵衛(しょうべえ・越後屋) → 羊素(ようそ・鈴木すずき、俳人) B 4 7 4 1  
 庄兵衛(しょうべえ・三上) → 致之(むねゆき・三上みかみ、兵学者) C 4 2 7 7  
 庄兵衛(しょうべえ・渡瀬) → 臍穴主(へそのあなぬし、名主/狂歌) 2 7 9 4  
 庄兵衛(しょうべえ・大坂屋) → 徳順(とくじゆん、大坂屋之直、狂歌) K 3 1 1 9  
 庄兵衛(しょうべえ・井筒屋) → 吟江(ぎんこう・夏目なつめ、札差/俳人) H 1 6 8 6  
 庄兵衛(しょうべえ・井筒屋) → 田福(でんぶく・川田かわた、呉服商/俳人) E 3 0 1 8  
 庄兵衛(しょうべえ・高井) → 若狭掾(初世わかさのじょう・鶴賀、新内節/狂歌) 5 3 0 4  
 庄兵衛(しょうべえ・坪井) → 杜国(とこく・坪井つばい、商家/俳人) L 3 1 7 1  
 庄兵衛(しょうべえ・4代目湊屋) → 文五(ぶんご・湊屋、紺屋/俳人) F 3 8 1 5  
 庄兵衛(しょうべえ・山崎) → 範古(のりひさ・山崎、藩家老/系譜作成) F 3 5 5 1  
 庄兵衛(しょうべえ・山田) → 白居易(はくきよ・山田やまだ、俳人) C 3 6 9 4  
 庄兵衛(しょうべえ・秋山) → 光彪(てるたけ・秋山/原、兵学/国学) C 3 0 7 9  
 庄兵衛(しょうべえ・田村;変名) → 市右衛門(いちえもん・三浦、藩士) G 1 1 0 3  
 庄兵衛(莊兵衛しょうべえ・田中) → 道麿(みちまる・田中、国学/歌人) 4 1 1 7  
 庄兵衛(しょうべえ・田中) → 佳棠(かとう・田中たなか、書肆/俳人) F 1 5 5 5  
 庄兵衛(しょうべえ・脇坂) → 義堂(ぎどう・脇坂わかさか、心学者) L 1 6 6 6  
 庄兵衛(しょうべえ・磯田) → 湖龍齋(こりゅうさい・磯田いそだ、絵師) E 1 9 0 7  
 庄兵衛(昌兵衛しょうべえ・佐賀野屋) → 雪貢(せつこう・最上もがみ、俳人) E 2 4 2 2  
 庄兵衛(しょうべえ・寺井) → 稻葉(いなば・門田かどた/寺井、狂歌/国学) K 1 1 1 4  
 庄兵衛(しょうべえ・大黒屋) → 文篁(ぶんこう・林はやし、書肆/俳人) F 3 8 1 9  
 庄兵衛(しょうべえ・高橋) → 保命(やすよし・高橋たかはし/源、里正/和学) G 4 5 2 1  
 庄兵衛(しょうべえ・多田) → 英知(ひでとも・多田ただ、醸造業/国学) K 3 7 0 7  
 庄兵衛(しょうべえ・檜崎) → 幸名(ゆきな・檜崎ならさき、藩士/国学/歌) H 4 6 0 8  
 庄兵衛(しょうべえ・北川) → 守貞(もりさだ・喜田川/北川/石原、商家/考証家) F 4 4 4 2  
 庄兵衛(しょうべえ・服部) → 重広(しげひろ・服部はっとり、職人/歌人) Z 2 1 6 7  
 庄兵衛(しょうべえ・幸塚) → 野鶴(やかく・幸塚こうづか、俳人) 4 5 3 9  
 庄兵衛(しょうべえ・松本) → 基君(もときみ・松本まつもと、本陣経営) L 4 4 4 0  
 庄兵衛(しょうべえ・波多) → 易直(やすなお・波多はた、国学者) G 4 5 3 9  
 正兵衛(しょうべえ・真山) → 俊重(としげ・真山まやま、藩士/記録) M 3 1 5 8  
 正兵衛(しょうべえ・吉井) → 元庸(もつね・吉井よい、国学/神道家) D 4 4 1 8  
 正兵衛(しょうべえ・美濃屋) → 魚心(ぎょしん、美濃屋、俳人) P 1 6 6 9  
 昇兵衛(しょうべえ・蘆谷) → 久蔭(ひさかげ・蘆谷あしや/源、歌人) L 3 7 6 1  
 勝兵衛(しょうべえ・永岡) → 久忠(ひさただ・永岡ながおか、藩士/馬術家) B 3 7 2 9  
 勝兵衛(しょうべえ・住友) → 貞政(さだまさ・住友すみとも、商家/馬治療) J 2 0 6 8

B2249 昌碧(しょうへき) ? - ? 尾張名古屋の俳人・芭蕉門、1687芭蕉を迎え俳諧、  
 1684「春の日」1句/89「曠野」19句/90「卯辰集」1句入、

[けうとさに少し脇むく月夜哉](あら野;巻一/月光のぞくっとする凄艶さに畏怖)

涉壁(しょうへき) → 為山(いざん・関、俳人) 1 1 8 5

浄碧(じょうへき・益田) → 勤斎(きんさい・益田ますだ、篆刻家) H 1 6 8 7

浄碧居(じょうへききよ) → 遇所(ぐうしょ・益田ますだ、勤斎の嗣/篆刻家) C 1 7 2 4

B2250 小弁(少弁しょうべん/こべん/すなきおともい) ? - ? 伝未詳/万葉三期歌人、確実なものは・1734のみ、  
 [高島の阿渡あどの湊を漕ぎ過ぎて塩津ほつ菅浦すがうら今か漕ぐらむ](万葉;九1734/琵琶湖)

B2252 紹弁(しょうべん;法諱、上人) ? - ? 南北期僧/歌人、1384成立「新後拾遺集」(1329)、  
 [それまではいとほぬものを山深み訪とひくる人のなどなかるらん](新後拾;雑1329)



- 小弁(しょうべん) → 小弁(こべん、平安期歌人) D 1 9 7 4  
 称弁(しょうべん;字) → 信空(しんくう;法諱・法蓮坊、浄土僧) D 2 2 8 2  
 聖弁(しょうべん;字) → 慧観(えかん;法諱・聖弁、浄土僧) D 1 3 5 6
- L2257 乘遍(じょうべん;法諱) ? - 1184 平安後期真言僧;醍醐三宝院勝賢門、阿闍梨、  
 「灌頂付治承記」著、「表白集」(鎌倉初期成立/編者不詳)に「上清滝論匠一番表白」入
- L2258 静遍(じょうべん;法諱、大納言平頼盛男) 1166-1224 真言僧;醍醐寺座主勝憲門;小野流修学、  
 仁和寺仁隆門;広沢流修学、のち専修念仏に帰依/高野山往生院入、「白伝鈔」「住心論抄」、  
 「三宝院問答書」、1218「続選撰文義要鈔」22「秘宗文義要」23「二教論手鏡鈔」外著多数、  
 [静遍(;)法諱)の号/通称]号;心円房/真蓮房/真問房、通称;禅林寺法印/大納言法印
- K2217 成遍(じょうべん;法諱、) ? - ? 平安鎌倉期;南都の僧/法師、  
 1237刊[檜葉集]3首入、  
 [文治二(1186)年九月南都歌合 旅宿郭公を、  
 こよひこそ初音ききつれほととぎす草の枕にまつべかりけり](檜葉;羈旅628)
- W2200 貞遍(じょうべん;法諱、) ? - ? 平安鎌倉期;南都の僧/法師、  
 1237刊[檜葉集]入、  
 [おきつなみたかしの浦をゆくふねのしぶくばかりにちるもみぢかな](檜葉;冬297)
- 成遍(じょうべん) → 元瑜(げんゆ;法諱・字;大弼、真言僧) M 1 8 5 5
- W2219 盛弁(じょうべん;法諱、) ? - ? 鎌倉期;南都の僧/法師、歌;1237刊[檜葉集]入、  
 [せき入るる苗代水やあまるらむゑぐのわかなの見えずなりけり]、  
 (檜葉;雑788/ゑぐ;カヤツリグサ科多年生草本の黒慈姑くろぐかい・  
 万葉1839;君がため山田の沢にゑぐ摘むと雪消ゆぎの水に裳の裾濡れぬ)
- S2265 浄弁(じょうべん;法諱、出自不詳、慶雲(けいうん)の父) 1256?-1356?長寿百歳? 天台宗叡山僧/権律師、  
 法印に至る、二条派法体歌人の代表で二条為世門の和歌四天王の1、  
 1315(正和四)「花十首寄書」初入集、1320二条家証本「古今集」を书写、  
 1322二条為藤より古今集の家説を伝受、  
 1324為世より古今集・後撰集の家説を伝受(所謂[浄弁本])、  
 1326古今集を慶雲と門弟運尋に相伝、1329頃より九州を行脚、北条英時らに三代集相伝、  
 1344高野山金剛三昧奉納和歌出詠、私撰集「臨永集」「松花集」成立に関与、  
 「浄弁並慶雲歌集」「古今集拾要」「古今和歌集抄」「古今和歌集註」著、藤葉(とうよう)集3首入、  
 勅撰21首;続千(1832)続後拾(792/1031)新千(511/1139/1901/1991)新拾(4首)新後拾以下、  
 [面影のたちにし日より桜花さける高ねにかかる白雲](花十首寄書;141)、  
 [何とまたわがたつ杣木(まぎ)年をへて住みえぬ山に心ひくらん](続千載;雑1832)、  
 (離山の後 寄杣述懐を詠む)  
 [建武二年(1335)内裏千首歌の中に、  
 郭公なきて過行く山端に今一声と月ぞのこれる](藤葉;夏110)
- 成弁(じょうべん;初諱) → 高弁(こうべん;法諱・明恵(みょうえ)、華嚴密教) 1 9 1 9  
 成弁(じょうべん;字) → 日昭(にっしょう;法諱・不軽院、日蓮僧) E 3 3 1 6  
 浄弁(じょうべん) → 久須麻呂(くすまろ・藤原、万葉歌人) 1 7 3 1  
 静遍院(じょうべんいん) → 公意(こうい;法諱、天台僧/連歌) H 1 9 2 9  
 性遍房(じょうべんぼう;号) → 玄仙(げんせん;法諱、真言僧) K 1 8 5 8
- B2253 正甫(しょうほ・北峯(きたみね)) ? - ? 和泉堺の土佐派絵師/のち大坂住;俳人;重頼門、  
 1673西鶴「哥仙大坂俳諧師」入、  
 [日和見のなき世成りけり神な月](大坂俳諧師;四番左、  
 続後拾遺;冬415定家/偽りのなき世なりけり神無月誰(た)が誠より時雨れそめけむ)
- B2254 章甫(しょうほ・藤野(ふじの)) ? - ? 江中期連歌師、山田通故[1733-86]の友人、  
 「雪光集」、「通故発句集」編、狂歌;高彦「狂風大人墨叢書(まいんぼくそうしよ)詠草入
- B2255 樵蒲(しょうほ) ? - ? 大坂・堺俳人、雑俳・1751春耕「あふ夜」入
- L2259 尚甫(しょうほ・小野崎(おのざき)、名;通賢、田崎秀豊男) 1755-1800 46 小野崎通家の養嗣子、  
 羽後秋田藩士;1769養家を継嗣/83能代奉行;大飢饉の救済に尽力/勘定方/銅山奉行、  
 勘定奉行/郡奉行、古典に通ず/詩人、公用で屢々大阪行;村瀬栲亭と親交、「与黙之」著、

[尚甫(；字)の通称/号]通称；主馬、号；華陽/寢隱齋

- L2260 昌甫(しょうほ・島村しまむら) ? - ? 江後期大阪天満の書肆、1796「文梯義解」著
- L2261 小圃(しょうほ・根ヶ原) ? - ? 江後期天保1830-44頃江戸の俳人、1832「栗柿集」著(注；1829「栗柿集」は丹波の蕉夢の編)、「花七日」著、34「新屋小集」著、[小圃(；号)の通称/別号]通称；市郎兵衛、別号；栗柿庵
- L2262 松圃(しょうほ・松島まつしま、名；常伝) 1804-52 49 俳人；中瀬米牛門、大鼓の名手、1844「笠日記」著、[松圃(；号)の通称] 六郎右衛門
- L2263 松浦(しょうほ・富家ふけ/本姓；藤原、名；高幹たかもと) 1805-65 61 讃岐阿野郡の林田総社祠官、国学；友安三冬門/書；吉田鶴仙門、歌人、1861「鳥迹譚」著、[松浦(；号)の字/通称/別号]字；元貞、通称；五十鈴、別号；松蔭齋
- Q2242 松甫(しょうほ・三好みよし、自在庵) ?-? 安藝阿賀の俳人；六呂堂士方[1801-70]門、[新あたらしき風吹込むや蔵ひらき](短冊)
- 小補(しょうほ) → 景三(けいさん；法諱・横川、臨濟僧/五山文学) 1 8 0 4
- 小輔(しょうほ・柴野) → 貞毅(さだよし・柴野しばの、医者) K 2 0 2 7
- 少輔(しょうほ・しょう・佐々木) → 義国(よしくに・佐々木、砲術家) D 4 7 2 1
- 昌甫(しょうほ・竹中) → 通庵(つうあん・竹中たけなか、医者) 2 9 1 8
- 昌保(しょうほ・歌田) → 昌保(まさやす・歌田うただ/藤原、神職/歌) N 4 0 9 7
- 昌保(しょうほ・山県) → 昌保(まさやす・山県やまがた/工藤、藩士/歌) T 4 0 4 1
- 尚甫(しょうほ・野田) → 中洲(ちゅうしゅう・野田、藩士/儒/詩文) G 2 8 1 9
- 尚甫(しょうほ・福地) → 源一郎(げんいちろう・福地/名村、蘭学/幕臣) H 1 8 6 6
- 尚輔(しょうほ・中村) → 尚輔(ひさすけ/なおすけ・中村、藩士/国学者) B 3 7 1 7
- 尚輔(しょうほ・増山) → 遷安(ゆきやす・増山ますやま/坂谷、神職/国学) H 4 6 2 7
- 笑甫(しょうほ・鷹見) → 成親(なりちか・鷹見たかみ、本陣経営/歌) N 3 2 7 5
- 紹甫(しょうほ) → 紹兆(しょうちょう・里村、連歌師) U 2 2 2 5
- 紹甫(しょうほ・今村) → 長教(ながのり・今村、医者) F 3 2 3 4
- 松甫(しょうほ・横田) → 柏園(はくえん・横田よこた、儒者/詩人) C 3 6 6 6
- 松圃(しょうほ・荷田かた) → 信郷(のぶさと・荷田/羽倉、神職/国学) B 3 5 5 4
- 将輔(しょうほ・志村) → 恒憲(つねのり・志村、和算家) D 2 9 2 3
- 章甫(しょうほ・勢多) → 章甫(のりみ・勢多せた/中原、明法家) F 3 5 8 2
- 章甫(彰甫しょうほ・丹羽) → 謝庵(しゃあん・丹羽/藤、儒者/絵師) F 2 1 9 9
- 彰甫(しょうほ・上田) → 亮章(すけあき・上田うえだ、藩士/洋学者) F 2 3 9 8
- 勝甫(しょうほ・長沢) → 棗庵(そうあん・長沢、医者/里正/救荒) F 2 5 9 4
- 翔甫(しょうほ・鎌田) → 梁洲(りょうしゅう・鎌田かまた、儒官/家老) H 4 9 8 7
- 讓甫(じょうほ・木下) → 台定(きんさだ・木下、藩主/文教奨励) R 1 6 0 2
- 常保(じょうほ・細川) → 常保(つねやす・細川ほそかわ、廷臣/記録) E 2 9 0 7
- 仍甫(じょうほ・里村) → 仍憐(じょうれん・里村さとむら、連歌宗匠) C 2 2 0 8
- B2256 聖宝(しょうほう/しょうぼう；法諱、俗名；恒蔭王、葛声王男) 832-909 78 平安前期真言僧；空海実弟真雅門、出家/南都で三論・唯識・華嚴を修学、再び真雅門；真言を研学、山野に修行、874(貞観16)醍醐寺を創建；890貞観寺座主、七大寺検校/906東寺八代長者、僧正、東大寺別当大僧正；東大寺東南院を開創、小野流の元祖、常に役小角を思慕；諸山を巡る、金峰山に蔵王堂を祀る、修験道中興の祖；大峯修験道を開く、「大峯道場莊嚴自在儀」著、「修験心鑑書」「修験心鑑鈔」「修験極印灌頂法」「如意輪修供軌」「如意輪次第」外著多数、歌人；古今(468)・後撰(1363)、  
[花のなか目に飽くやとて分けゆけば心ぞともに散りぬべらなる](古今；物名468)、  
(はを初め・るを果てにて眺めを掛けて時の歌を詠めと人の言ひければ詠む)、  
[聖宝(；法諱)の諡号] 理源大師
- V2291 将宝(しょうほう；法諱、) ? - ? 平安後期；南都の僧/僧都、歌人；薬師寺最勝会歌合参加、1237刊素俊撰[檜葉集]入、[寛治五(1091)最勝会講師房歌合に、白雲のたえずたなびく山桜いづらは花のあだにちりける](檜葉；春78)

- C2252 **承包**(しょうほう) ? - ? 江前期俳人、1687一昌「丁卯ていぼう集」入、  
[世の歩み角つのなき牛に日ぞ長き](丁卯集/三教;儒)
- B2259 **松芳**(しょうほう) ? - ? 江前期尾張俳人・蕉門、1689「曠野」16句入
- B2260 **章峰**(しょうほう)・夢梅軒むばいけん、称好軒徹庵きあんの兄)?-? 江前期元禄1688-1704頃の通俗本作者、  
1690明の甄偉「西漢通俗演義(西漢演義伝)」の翻訳「通俗漢楚軍談」(7巻まで:1695刊)、  
1691「通俗唐太宗軍鑑」著
- B2257 **松峰**(しょうほう)・服部はっとり)? - ? 江中期享保1716-36頃出雲日御碕の俳人;風水門、  
1727「風水追善」「空原舎風水追善句集」編、「すが筵」著、  
[松峰(;号)の通称/別号]通称;新右衛門、別号;十里香
- B2261 **祥鳳**(しょうほう;道号・禅瑞ぜんずい;法諱、俗姓;野瀬)1717-7761 美濃の臨濟僧;  
1726(10歳)尾張名古屋の総見寺霖翁門;出家、1741総見寺9世住持/43妙心寺住;58住持、  
「霖翁和尚語録」編
- L2264 **松峰**(しょうほう、菅すが、名;伯太/別号;松真斎)1790-185162 大阪の絵師;丹羽桃溪門、  
古流生花に通ず、1811「百の笑」12「会席嚙袋」14「故事附古新話」「花競二卷嚙」画、  
1822「画本道の手引」画/1830「夷曲月次草」画
- 松峰(しょうほう;道号) → 為秀(ためひで・冷泉れいぜい、廷臣/歌人) 2 6 7 3  
 松峯(しょうほう;法名) → 魯堂(ろどう・松本/源、藩儒/城代) C 5 2 2 7  
 小峯(しょうほう)・木舗/三枝 → 百年(ひゃくねん・木ぼく・三枝/木舗、庄屋/詩人) I 3 7 1 2  
 升芳(しょうほう)・間宮 → 升芳(のりよし・間宮、国学/歌) G 3 5 3 0  
 尚豊(しょうほう)・後藤 → 尚豊(ひさとよ・後藤ごとう、庄屋/地誌) I 3 7 0 9  
 尚芳(しょうほう)・小本 → 尚芳(ひさよし・小本おもと、藩士/歌人) C 3 7 1 9  
 尚方(しょうほう)・神尾 → 尚方(なおかた・神尾かみお、国学/歌) L 3 2 6 3  
 昌方(しょうほう)・岡 → 昌方(まさかた・岡おか/太秦、楽人) B 4 0 8 8  
 昌方(しょうほう)・橋本 → 昌方(まさかた・橋本はしもと、和算家) B 4 0 9 7  
 昌芳(しょうほう)・藤原 → 昌芳(まさよし・藤原ふじわら、歌人) I 4 0 5 1  
 昌芳(しょうほう)・岡 → 昌芳(まさよし・岡おか/太秦、楽人/笛) I 4 0 5 7  
 昌芳(しょうほう)・黒阪 → 昌芳(まさよし・黒阪くろさか、神職/国学) P 4 0 5 0  
 昌芳(しょうほう)・志貴 → 昌芳(まさよし・志貴しき/惣社、神職/国学) Q 4 0 0 6  
 昌包(しょうほう)・飯室 → 昌包(まさかね・飯室いむろ/源、幕臣/歌) T 4 0 9 7  
 昌邦(しょうほう)・藤原 → 昌邦(まさくに・藤原ふじわら/西村、国学者) S 4 0 3 4  
 笙峰(しょうほう)・千秋 → 棟参(むねちか・千秋ちあき/服部、商/国学) D 4 2 9 8  
 章峯(しょうほう)・須賀 → 直見(直躬なおみ・須賀すが、国学/歌) C 3 2 5 3  
 韶鳳(しょうほう;字) → 敬雄(けいゆう・きょうおう;法諱・韶鳳、天台僧) D 1 8 6 5  
 承芳(しょうほう)・長良 → 願斎(ごさい・長良ながら、医者/儒者) G 1 9 5 0  
 勝朋(しょうほう)・太田 → 全斎(ぜんさい・太田、藩士/音韻研究) F 2 4 4 2  
 昭方(しょうほう)・山口 → 昭方(あきかた・山口やまぐち、書肆/国学) I 1 0 6 5  
 昭豊(しょうほう)・梶原 → 昭豊(あきとよ・梶原かじわら/松田、国学) H 1 0 3 5  
 照方(しょうほう)・てるかた・小出 → 大助(だいすけ・小出こいで、幕臣) K 2 6 4 3  
 照方(しょうほう)・柏山 → 照方(てるかた・柏山かしやま、歌人) E 3 0 9 2  
 昇卯(しょうほう)・谷川 → 士清(ことすが・谷川、医者/神道/語学) 1 9 3 6  
 昌房(しょうほう)・まさふさ・関 → ト圃(ぼくほ・関せき、俳人) D 3 9 8 9  
 昌房(しょうほう)・磯田 → 昌房(まさふさ・磯田、俳人) H 4 0 1 0  
 昌房(しょうほう)・森 → 昌房(まさふさ・森、講釈師) H 4 0 1 4  
 昌房(しょうほう)・中川 → 昌房(まさふさ・中川なかがわ、読本作者) H 4 0 1 7  
 昌房(しょうほう)・藤井 → 昌房(まさふさ・藤井ふじい、歌人) S 4 0 2 8  
 尚房(しょうほう)・寺井 → 重房(しげふさ・寺井てらい、絵本絵師) S 2 1 5 1  
 尚房(しょうほう)・野村 → 尚房(なおふさ・野村のむら、藩士/歌人) 3 2 0 3  
 尚房(しょうほう)・児玉 → 尚房(なおふさ・児玉こだま/中川、国学者) M 3 2 1 3  
 尚房(しょうほう)・田中 → 尚房(なおふさ・田中たなか、藩医/国学) N 3 2 6 3  
 韶房(しょうほう)・勸修寺/万里小路 → 政房(まさふさ・万里小路、廷臣/記録) H 4 0 1 5

- 照房(しょうぼう・木暮) → 照房(てるふさ・木暮こくれ、名主/国学) F 3 0 0 8  
 照房(しょうぼう・てるふさ・大島) → 万守(まんしゅ・白毛舎はくもうしゃ、狂歌作者) K 4 0 6 3
- B2258 紹芳(じょうほう; 法諱、通称; 伝芳和尚) ?-? 室町中期臨濟宗東福寺の僧/連歌作者; 正徹門?  
 1462「紹芳連歌」著(自句百句に専順・心敬の合点と心敬の注を得る)  
 乗邦(じょうほう/のりくに・近藤) → 玄瑞(げんずい・近藤こんどう、医者) K 1 8 3 3  
 常逢(じょうほう・深沢) → 常逢(つねあい・深沢ふかざわ、神職) B 2 9 4 4  
 常芳(じょうほう・細川) → 常芳(つねよし・細川/源、廷臣/記録) E 2 9 2 4  
 常房(じょうぼう) すべて → 常房(つねふさ)  
 常方(じょうほう・久志本) → 常方(つねかた・久志本/度会、神職) B 2 9 9 1  
 常方(じょうほう・小笠原) → 常方(つねみち・小笠原/永井、幕臣/騎射) B 2 9 9 4  
 常方(じょうほう・野矢) → 常方(つねかた・野矢のや、藩士/槍術/歌) B 2 9 9 6  
 曇峰(じょうほう; 字) → 法護(ほうご; 法諱・曇峰; 字、真言僧) F 3 9 1 9  
 正法院(しょうほういん) → 日朗(にちろう; 法諱・筑後坊、日蓮僧) D 3 3 7 2  
 [盛胤(; 名)の幼名/別名/号]幼名; 房宮/英宮、初名; 常尹、号;  
 正法院靈覺大和尚(しょうほういんれいかくだいおしょう) → 盛胤親王(じょういんしんのう、天台座主) G 2 2 9 1  
 章峯壺(しょうほうこ) → 中孚(ちゅうふ・加藤、俳/詩人) G 2 8 8 1  
 定法寺殿(じょうほうじどの) → 公助(こうじよ; 法諱、天台僧/連歌) J 1 9 6 8  
 正法大聖国師(しょうほうだいしよくくし) → 古岳(こがく; 道号・宗亘そうごう; 法諱、臨濟僧) L 1 9 8 8  
 松宝堂(しょうぼうどう) → 清右衛門(せいえもん・松本、書肆/俳人) H 2 4 4 2  
 浄法房(上法房じょうほうぼう) → 天目(てんもく・日盛、日蓮僧) E 3 0 3 8
- E2275 聖僕(しょうぼく; 道号・義諦ぎたい; 法諱) ?-? 江中期和泉の臨濟宗仏在庵住僧、  
 1716「禅籍志」編、「天沢車胤録」著、義恠ぎせんの師、  
 [聖僕義諦の別法諱/号]初法諱; 妙諦みょうたい、号; 南外史  
 紹璞(しょうぼく; 法諱・雪潭) → 雪潭(せつたん; 道号・紹璞、臨濟僧) L 2 4 2 2  
 紹朴(しょうぼく・中村) → 漆翁(しつおう・3代中村宗哲、千家塗師/俳人) F 2 1 1 1  
 小朴(しょうぼく・奥田) → 桐園(とうえん・奥田、藩儒/詩) B 3 1 5 2
- B2262 常牧(じょうぼく・つねまき・半田はんた[繁田・伴田]、名; 和好) 1641?-95? 55? 京の俳人; 常矩つねのり門、  
 油小路通丸太町上ル住、1677頃より俳諧活動; 常矩編の俳書に入集、  
 1682師没後跡目継嗣; 常牧つねまきと改号、元禄(1688-)頃編著多数; 京の主要点者となる、  
 1688「遠あるき」90「万歳楽」91「この華」95「冬ごもり」編、  
 1691江水「元禄百人一句」賀子「蓮実」入、没後; 1697「ぬれがさ」1702轍士「花見車」入、  
 [日ざかりの岩よりしぼる清水哉](元禄百人一句; 40)、  
 辞世[初夢や月花売りて今十月](幸佐「二番船」入)  
 [常牧(; 号)の通称/別号]通称; 庄左衛門、別号; 宗雅(; 初号)、蘭化翁/蘭化堂/雲峰子  
 松牧院(しょうぼくいん; 号) → 慈運(じうん; 法諱、天台大僧正/歌・連歌) B 2 1 1 3  
 松牧斎(しょうぼくさい・小倉) → 実澄(さねずみ・小倉おぐら/源、武将/歌人) D 2 0 1 0  
 少輔七郎(しょうほしちろう・毛利) → 元康(もとやす・毛利/大江、武将/連歌) E 4 4 4 6  
 少輔次郎(しょうほじろう・毛利) → 元就(もとなり・毛利/大江、武将/連歌) D 4 4 6 1  
 浄菩提心庵(じょうぼだいしんあん) → 等空(とうくう; 法諱・本瑞; 字、真言僧) C 3 1 9 2  
 少輔太郎(しょうほたろう・毛利) → 隆元(たかもと・毛利もうり、武将/守護) N 2 6 3 7  
 昌勃(しょうぼつ・里村) → 昌純(しょうじゆん・里村[南家]、連歌師) T 2 2 0 8  
 蕉圃亭(しょうぼてい) → 古翠(こすい・高橋、農業/俳人) M 1 9 8 3  
 少輔内侍(しょうほのないし) → 少輔内侍(しょうのないし、女官/歌人) D 2 2 6 5  
 少輔命婦(しょうほのみょうぶ) → 少輔命婦(しょうのみょうぶ、玉葉歌人) B 2 2 1 7  
 少輔法眼(しょうほほうげん) → 行宴(ぎょうえん; 法諱、真言僧) N 1 6 3 0  
 少輔律師(しょうほりっし) → 宏教(こうぎょう; 法諱、真言宗西院流僧) I 1 9 3 3
- B2263 昌本(しょうほん) ?-? 江前期談林俳人、1678旨怨「難波風」百韻入  
 笑本(しょうほん; 号) → 観道(かんだう; 法諱、時宗僧) R 1 5 5 5
- B2264 聖梵(しょうぼん、せいぼん; 法諱) ?-? 1036存 平安期天台延暦寺の法師/のち東大寺法師、  
 1036堅者、発心集に逸話、歌人; 後拾遺858、

[昔見し月の影にも似たるかなわれとともにや山を出でけむ](後拾遺;雑858)

(住み煩い比叡山から奈良に出たが知人なく満たされぬ思いで月をみて詠む)

鐘本房少輔(しょうほんぼうしょうほ)→ 幸西(こうさい;法諱・成覚房、浄土僧) B 1 9 1 1

正本屋久右衛門(しょうほんやくさゆうえもん)→ 久右衛門(きゆうえもん・正本屋、書肆) G 1 6 3 6

正本屋九郎右衛門(しょうほんやくろうえもん)→ 一鳳軒(いつほう・西沢) 1 1 2 6

正本屋利助(しょうほんりすけ、略;本利ほんり)→ 一鳳軒(いつほう・西沢) 1 1 2 6

笑馬(咲馬しょうま) → 花山亭笑馬(かざんていしょうま/-しょうば、戯作) F 1 5 0 8

松邁所(しょうまいしょ) → 惺齋(せいさ・藤原、儒者) 2 4 0 3

庄松(正松しょうまつ・藤川)→ 茶谷(さこく・藤川、歌舞伎役・作者) F 2 0 1 7

正丸(しょうまる) → 浪化(ろうか、真宗大谷派僧、俳人) 5 2 0 2

升丸(しょうまる) → 升丸(ますまる、狂句) J 4 0 2 2

象麿(しょうまろ) → 菊貫(きくつら・真田幸弘、藩主/歌/俳) 1 6 9 8

昌麿(しょうまろ・斎藤) → 昌麿(まさまろ・斎藤、国学者/歌人) H 4 0 3 3

尚麿(しょうまろ・二宮) → 守恒(もりつね・二宮にのみや、神職/国学) F 4 4 8 4

浄麻呂(じょうまろ・美努) → 浄麻呂(きまろ・美努みの連むらじ廷臣/詩) D 1 6 6 1

L2265 昌曼(しょうまん;法諱、号;禅南坊)?-? 1528存 天台宗日光山学頭、法印、  
1528「円頓者口訣三聖決義」著

昌満(しょうまん・山崎) → 昌満(まさみつ・山崎やまざき、藩士/歌人) T 4 0 4 6

将満(しょうまん・小島) → 将満(まさみつ・小島こじま、相良総三/赤報隊) P 4 0 6 0

聖満(しょうまん・円蓮社) → 良順(りょうじゅん;法諱、浄土僧) H 4 9 9 7

勝満(しょうまん;法名) → 聖武天皇(しょうむてんのう) 2 2 0 6

常満(じょうまん・印波) → 常満(つねみつ・印波いなば、歌人) G 2 9 7 6

常満(じょうまん・中里) → 常嶽(つねおか・中里なかざと、商家/歌人) B 2 9 7 8

正満院(しょうまんいん) → 日雄(にちおう;法諱、日蓮僧) 3 3 8 8

浄満院(じょうまんいん) → 円月(えんげつ・東陽、本願寺派僧/詩) E 1 3 6 4

浄満寺(じょうまんじ;号) → 道澄(どうちよう;法諱、天台門跡/連歌) G 3 1 4 7

浄万呂(じょうまんろ・中臣)→ 清麻呂(浄万呂きまろ・中臣朝臣、歌) 1 6 5 3

L2266 定味(じょうみ、朝比奈あさいな)? - ? 江戸前期飛騨高山の人;剃髪、1619「飛弾記」著

正密(しょうみつ;法諱) → 大円(だいえん;道号・正密、曹洞僧) 2 6 2 3

B2265 勝命(しょうみょう;法諱、俗名;藤原憲親/親重、藤原親賢男;魚名流) 1112-90?79 廷臣;美濃権守、  
従五上、1173以後出家、歌人;歌林苑会衆の1;俊恵・長命と交流、1170住吉社歌合参加、  
1172広田社歌合参加(親重名)、78別雷社歌合参加(勝命名)、妻は祝部はふりべ成仲なりな女;  
賀茂神社と深い関わり;1182賀茂重保尚齒会の仮名序、1188?「難千載」著(散佚)、  
注釈書「古今序註」著、一品経和歌懐紙の作者の1人、1165清輔[続詞花集]2首入(親重名)、  
勅撰6首;新古今(67/勝命名)新勅(757)続後撰(1020)玉葉(928/2666)新続古今(1764)、  
[もの申す女のうらめしきことありければ今はとはじと思ふに、  
さすかなしくおぼえ侍りければつかはしける、

たえなんと思ふ心はたれなれば人やりならずこひしかるらん](続詞花;恋621)、

[雨降れば小田のますらをいとまあれや苗代水を空にまかせて](新古;春67/清輔邸)

2205 紹明(じょうみょう/じょうみん;法諱・南浦なんぼ;道号、俗姓;藤原) 1235-130874 駿河安倍郡の臨濟僧;  
建長寺の蘭溪道隆門;出家/1259(25歳)入宋;虚堂智愚門、1267帰国/70筑前興徳寺住持、  
虚堂も嗣香を通じ嗣法、1272長崎崇福寺住持(33年間)/1307建長寺12世、  
1309後宇多法皇より日本最初の国師号を賜、臨濟宗大応派の祖、詩文に通ず、  
「大応国師語録」「大応大燈国師法語」(仮名法語)/「大燈国師下語并大応国司一撈」著  
[南浦紹明の諡号] 円通大応国師、(☆大燈国師は南浦紹明門の宗峰妙超)

L2267 静明(じょうみょう;法諱、行泉房;号、藤原資能男)?-? 1282存 京の天台僧;比叡山の範源・俊範門、  
恵心・檀那両流奥義を究める、洛東臨濟宗東福寺の円爾門;禅法を伝え行泉房流を創始、  
東山栗田口で門弟教導/後嵯峨上皇に天台要義を講;法印、惟暹・静運・心賀・政海らの師、  
「教観抄」「心鏡論抄」「伊賀抄」「天台宗図」「天台問要自在房」「嫡家相承脈譜」著、  
[静明(;法諱)の通称] 栗田口法印/中納言法印

- L2268 **貞明**(じょうみょう) ? - ? 連歌;1452「宝徳千句」参  
 浄命(じょうみょう;号) → 日政(にっせい;法諱、廉三、日蓮僧) E 3 3 7 1  
 称名院(しょうみょういん、法名) → 公条(きんえだ・三条西、歌学/連歌) 1 6 5 6  
 称名院(しょうみょういん;諡号) → 円澄(えんちやう;法諱、真宗大谷派僧) F 1 3 2 2  
 上妙院(じょうみょういん;字) → 日瞻(にっせん;法諱・快住、日蓮僧) E 3 3 8 2  
 称名院仍覚(しょうみょういんじやうかく、法名) → 公条(きんえだ・三条西) 1 6 5 6  
 称名院入道内大臣(しょうみょういんにゅうどうのなないだいじん;新統古今) → 公豊(きんとよ・三条) E 1 6 4 3  
 称名院内大臣(しょうみょういんのなないだいじん) → 公豊(きんとよ・三条/正親町三条/藤原、歌) E 1 6 4 3  
 浄妙寺殿(じょうみょうじどの、浄妙院殿) → 家基(いえもと・近衛、関白/歌) 1 1 6 7  
 浄妙寺殿雪庭(じょうみょうじどのせつてい) → 清子(せいし・上杉/足利、尊氏の母/歌) B 2 4 8 0  
 浄明珠院(じょうみょうしゆいん) → 晴良(はれよし・二条、廷臣/歌人) H 3 6 1 3  
 照妙廼舎(しょうみょうのや) → 昌明(まさあき・地主じぬし、商家/国学者) Q 4 0 1 0
- L2269 **宵眠**(しやうみん・溪月庵、姓;杉岡すざおか、名;道泰) 1708-8477 奈良今小路の商家/書/狂歌師、  
 木端・紫笛・季鷹・二南斎らと交流、「狂歌溪の月」  
 [溪月庵宵眠の通称] 丸屋勘兵衛、長泰の父
- L2270 **松眠**(しやうみん・後藤ごとう、号;日涉園)?-1828 安藝広島藩医;側医師格、京・長崎遊学;蘭学修学、  
 本草学に通ず、薬草園日涉園を建設、文政1818-28頃「動植物写生帖」著  
 小民(しやうみん・阿久津) → 政房(まさふさ・阿久津あくつ、藩士/詩) H 4 0 1 3  
 松民(しやうみん・吉川) → 知可良(ちから・吉川きつかわ、修験者/俳人) C 2 8 2 8  
 彰民(しやうみん・藤井) → 彰民(あきたみ・藤井、地誌家) C 1 0 2 2  
 紹岷(しやうみん;法諱) → 古梁(こりやう;道号・紹岷;法諱、臨濟僧) O 1 9 0 0
- B2266 **仍民**(じやうみん・里村さとむら;北家、南家昌陸2男) 1670-172859 北家仍春じやうしゆんの養嗣子;  
 幕府連歌宗匠、1687將軍綱吉の御厄除千句の連衆、1723連歌会の第三句を勤める;  
 10人扶持を賜る、  
 1701「元禄十四年紹山其阿昌伴三吟何船百韻」25「撰集詞連歌」/27「仍民独吟懐旧百韻」等、  
 [仍民(;号)の別号]別号;億弟(;初号)/紹山、法号;休雲院漢阿  
 紹明(じやうみん・南浦) → 紹明(じやうみょう・南浦、臨濟僧) 2 2 0 5  
 蒸民(じやうみん・有吉) → 高陽(こうやう・有吉、藩士/漢学/経済) L 1 9 4 8
- L2271 **蕉夢**(しやうむ・五日庵;号)? - ? 江後期文政1818-30頃丹波の俳人、  
 1829刊「栗柿集」編(注;1832「栗柿集」は江戸の小圃の著)  
 松夢(しやうむ・翠雲舎) → 翠雲舎松夢(すいうんしゃしやうむ、書札蒐集) E 2 3 1 0  
 松夢(しやうむ・菅谷) → 帰雲(きうん・菅谷すがや、藩士/儒者/詩) E 1 6 9 8  
 湘夢(しやうむ・江馬) → 細香(さいかう・江馬えま農たお、絵師/詩人) 2 0 7 5
- W2236 **常夢**(じやうむ・宮川) ? - ? 江前中期;詳細不詳/常夢居士;出家?、  
 宮川松堅の一族?、1722松堅[倭譚五十人一首]入、  
 [あすといはばおもはじものをいつの日か我身もつきぬ入相の鐘]、  
 (倭譚五十人一首;15薄暮観身/明日とわかれば物思いもないだろうに)  
 蕉夢庵(しやうむあん) → 興文(おきり・細川/源、藩主/詩人) 1 4 7 6  
 涉無庵(しやうむあん) → 太初(たいしよ・高こう、俳人) K 2 6 3 2  
 小無絃(しやうむげん) → 雲山(うんざん・宮沢みやざわ、儒者/詩人) B 1 2 1 5  
 聖武皇后(しやうむこうごう) → 光明皇后(こうみょうこうごう) 1 9 2 1  
 松夢陳人(しやうむちんじん) → 天来(てんらい・牧岡/反古庵、俳人) E 3 0 5 3
- 2206 **聖武天皇**(しやうむてんのう、名;首親王おびとのみこ、文武天皇皇子) 701-75656 母;藤原不比等女の宮子、  
 714立太子/724即位-749讓位/皇后は藤原不比等女の光明子、  
 平城宮・恭仁宮・紫香樂宮・難波宮を都とす;広嗣の乱等により遷都を繰り返す、  
 国分寺・国分尼寺を創建、東大寺大仏造営、天平仏教文化の黄金期;内政は常に不安定、  
 731「聖武天皇宸翰雜集」753「勝宝感神聖武皇帝銅板詔書」、「奈良御門御集」、  
 歌人;万葉四期歌;11首(長歌1・短10;公的な歌・叙景歌・相聞の3類;  
 530/624/973[長歌]/974/1009/1030/1539/1540/1615/1638/4269)、  
 勅撰は新古今以下8首/菟玖波1句、

[秋の田の穂田ぼを雁がね闇くらけくに夜よのほどもにも鳴き渡るかも](万葉;八1539)、  
(刈ると雁を掛ける序)、

[聖武天皇の法名/号/通称]法名;勝満、尊号;勝宝感神聖武皇帝/諡号;天璽国押開豊桜彦尊、  
通称;平城宮御宇天皇/平城宮御宇太上天皇

聖無動院(しょうむどういん) → 暹亮(せんりょう;法諱・雲照;字、天台僧) N 2 4 3 5

B2267 紹明(しょうめい・沙宅) ? - ? 百済の亡命渡来人、儒、大友皇子の師

勝命(しょうめい) → 勝命(しょうみょう、藤原憲親、歌人) B 2 2 6 5

勝鳴(しょうめい→かつなり・秋山) → 白賁堂(はくひどう・秋山、儒者) D 3 6 8 4

勝明(しょうめい・長尾) → 勝明(かつあき・長尾、藩家老/地誌編纂) N 1 5 1 8

勝明(しょうめい・岸) → 勝明(かつあき・岸きし、藩士/兵学) N 1 5 1 9

勝明(しょうめい・板倉) → 勝明(かつあき・板倉いたくら、藩主/儒者) C 1 5 3 9

勝明(しょうめい・齋藤) → 勝明(かつあき・齋藤、藩士/国学/農政) N 1 5 2 2

勝明(しょうめい・瀬谷) → 桐斎(とうさい・瀬谷せや、藩士/儒者) E 3 1 2 3

勝明(しょうめい/かつあき・高野) → 蘭亭(らんてい・高野、儒者/詩人) 4 8 0 9

勝明(しょうめい・柴田) → 勝明(かつあき・柴田しばた、幕臣/歌人) S 1 5 8 5

勝明(しょうめい・石丸) → 勝明(かつあき・石丸いしまる、神職/歌人) T 1 5 6 8

勝名(しょうめい・堀) → 勝名(かつあき・堀ほり、家老;藩政改革/歌) N 1 5 6 1

勝照(しょうしょう/かつてる・加藤) → 野逸(やいつ・加藤かとう、幕臣/俳人) 4 5 0 0

承明(しょうめい・福原) → 映山(えいざん・福原ふくはら、医者/詩) C 1 3 8 1

紹明(しょうめい・仁井田) → 南陽(なんよう・仁井田、儒者/地誌) 3 2 4 8

昭明(しょうめい・蟹江) → 観遊(かんゆう・蟹江かにえ、藩士/儒者) H 1 5 7 4

照明(しょうめい・豊由) → 照明(てるあき・豊由とよよし、和算家) C 3 0 6 8

尚明(しょうめい・黒沢/西村) → 理雲(りうん・西村にしむら/黒沢、医者) 4 9 3 6

昌名(しょうめい・岡) → 昌名(まさな・岡おか/太秦、楽人) E 4 0 9 0

昌名(しょうめい・田沢) → 昌名(まさな・田沢たざわ/源、幕臣/歌) L 4 0 6 4

昌明(しょうめい・木村) → 昌明(まさあき・木村きむら、武士/文筆) 4 0 9 3

昌明(しょうめい・地主) → 昌明(まさあき・地主ぢぬし、商家/国学者) Q 4 0 1 0

浄明(じょうめい・酒井) → 浄明(きよあき・酒井、歌人) N 1 6 0 2

常名(じょうめい・檜垣) → 常名(つねあき・檜垣ひがき/度会、神職/歌) C 2 9 7 7

常明(じょうめい・関) → 常明(つねあき・関せき、医者/神職) F 2 9 8 6

證(証)明院(しょうめいいん) → 家重室(いえしげのしつ・徳川とくがわ、歌人) K 1 1 4 7

松盟軒(しょうめいけん) → 陣基(ちんき・陳基つらもと・田代、藩士/文筆家) E 2 9 5 0

章明親王(しょうめいしんのう) → 章明親王(のりあきらしんのう) E 3 5 2 5

紹明先生(しょうめいせんせい) → 蘭岬(らんがし・伊藤いとう、藩儒) B 4 8 7 7

焦冥巢(しょうめいそう) → 神陽(しんよう・枝吉えだよし、藩儒/勤王派) Q 2 2 0 2

B2268 承明門院(しょうめいもんいん、源在子、法勝寺執行能円の女/源通親養女) 1171-1257<sup>87</sup> 後鳥羽天皇妃、

母;範兼女、土御門天皇母、1248後嵯峨院御歌合入、女房;宮内卿/小宰相/右京大夫など

承明門院宮内卿(しょうめいもんいんのくないきょう) → 宮内卿(くないきょう、連歌) C 1 7 5 7

承明門院小宰相(しょうめいもんいんのこざいしょう) → 小宰相(こざいしょう・土御門院) C 1 9 5 8

承明門院右京大夫(しょうめいもんいんのうきょうのだいふ) → 右京大夫(うきょうのだいふ) C 1 2 1 4

B2270 承明門院姫宮(しょうめいもんいんのひめみや)?-? 鎌倉前期歌人:1227閏3.12定家より古今集を受

松夢(しょうむ・翠雲舎) → 翠雲舎松夢(すいうんしゃしょうむ、書札蒐集) E 2 3 1 0

松茂(しょうも・谷) → 松茂(まつしげ・谷たに、和算家) J 4 0 7 5

昌茂(しょうも・城) → 昌茂(まさもち・城じょう、武将/連歌) H 4 0 8 0

章茂(しょうも・中原) → 章茂(あきしげ・中原、廷臣/記録) D 1 0 4 4

尚茂(しょうも・玉虫) → 尚茂(ひさしげ・玉虫たまむし、藩士/兵学) B 3 7 1 2

将茂(しょうも・石附) → 将茂(まさしげ・石附いじづき、商家/歌/能) N 4 0 6 0

E2276 濃茂(じょうも) ? - ? 俳、1691北枝「卯辰集」2句入、

[竹の子を折る音響く小寺哉](卯辰集;上巻二182/山中の静寂)

常茂(じょうも・檜垣) → 貞度(さだのり・檜垣/度会、神職/国学) J 2 0 2 8

L2272 **正猛**(しょうもう/まさたけ・森もり)?- ? 大阪談林俳人;1677益翁「難波千句」入  
1680「大坂八百韻」4吟百韻(益翁/一礼/均朋と)入

章孟(しょうもう・水走) → 平岡(へいこう・水走みずはしり、医者) 2 7 2 9  
勝孟(しょうもう・月形) → 鷗窠(しょうか・月形つきがた、藩士/儒者) F 2 2 7 2  
照黙(しょうもく;法諱) → 西吟(さいぎん;法諱、真宗本願寺派僧) G 2 0 6 5  
松茂堂(しょうもどう) → 北阜(ほつこう・小林、儒者) E 3 9 6 4  
松茂堂(しょうもどう) → 松斎(しょうさい・天野あまの、藩士) J 2 2 0 8

B2269 **松門**(しょうもん・権藤ごんどう、名;直、延陵3男)1831-190676 筑後久留米の医者/儒;藩儒池尻葛覃門、  
豊後日田の広瀬淡窓門/安藝の坂井虎山門、1851帰国し久留米藩医/52江戸へ、  
江戸幕医多紀元堅門、1855帰藩;医学館肝煎役就任;藩の医学教育に尽力、「軍陣医制」著、  
[松門(;号)の字/通称/別号]字;士強、通称;暹三郎せんざぶろう、別号;秋溪/如雲

性聞(しょうもん;法諱) → 独言(どくごん;道号・性聞、渡来黄檗僧) K 3 1 7 1  
象門(しょうもん;号) → 日政(にっせい;法諱、廉三、日蓮僧) E 3 3 7 1  
松門(しょうもん・南里) → 有隣(ありちか・南里なんり、藩士/国学者) F 1 0 4 2  
松門(しょうもん・福山) → 鳳洲(ほうしゅう・福山/福/杉山、儒者) B 3 9 4 0  
将門(しょうもん・平) → 将門(まさかど・平たいら、武将/天慶乱) C 4 0 1 4

B2272 **浄門**(じょうもん・榎えのき) ? - ?1848-54没 京の東寺の雑掌、和算家/中根流;中根彦楯門、  
1837「照闇算法」編、「算法諸役術」「方程招差法」著、「当流算梯」編、浄寿じょうじゅの父、  
[浄門(;名)の字/通称/号]字;子春、通称;豊後法眼、号;南郊

松門亭(しょうもんてい) → 旨恕(じよ・片岡かたおか、俳人/連歌) E 2 1 0 2  
松門亭(しょうもんてい) → 普求(ふきゅう・山本、俳人) B 3 8 3 9  
浄門四才子(じょうもんよんさいし) → 小竹(しょうちく・篠崎しのぎ、儒者) 2 1 9 6

B2273 **条門橘丸**(じょうもんのかきまる)? - ? 秋元但馬公の藩士;江戸詰/江戸浜松町住、  
狂歌作者:1787南畝「狂歌才蔵集」2首入、  
[くひついでのとむないが煩惱の犬はしりゆく猫のつま恋](才蔵集;52/猫妻恋)  
(のとむないは離れたくない/まとわる煩惱を犬に喩える/犬走りは軒先雨落ち部分)

**蕉門の十哲**(しょうもんじゅうてつ);芭蕉門人のすぐれた10人;異説あり

→ 其角(きかく・宝井/榎本) 1 6 0 5  
→ 嵐雪(らんせつ・服部) 4 8 0 6  
→ 許六(きよろく/きよりく・森川) 1 6 5 5  
→ 去来(きよらい・向井) 1 6 5 4  
→ 支考(しこう・各務かがみ) 2 1 1 9  
→ 丈草(じょうそう・内藤) 2 1 9 2  
→ 杉風(さんぷう・杉山) 2 0 5 6  
→ 北枝(ほくし・立花) 3 9 6 5  
→ 野坡(やば・志太しだ) 4 5 1 2  
→ 越人(えつじん・越智) 1 3 1 0

杉風以下の代わりに次の4人を入れる説あり

→ 曾良(そら・河合) 2 5 3 0  
→ 惟然(いぜん・広瀬) 1 1 2 8  
→ 土芳(とほう・服部) 3 1 5 7  
→ 桃隣(とうりん・天野) 3 1 2 9

Q2238 **常夜**(じょうや) ? - ? 安藝広島 of 俳人;

1702巨海こかい「誹俳諧石見銀」(言水跋)入、1704除風「番橙ざぼん集」/16露川「西国曲」入

R2217 **常也**(じょうや) ? - ? 但馬出石 of 俳人;1703不角「広原海わたつみ」入、  
[鼻までは早はや石に成る松浦姫まつらひめ](広原海/前句;ひっそりとするひっそりとする)、  
(夫狭手比古を領布ひれを振り見送ながら石に化した妻/叫び声が聞こえなくなったと穿つ)、  
(川柳に[松浦姫涙はみんな砂利になり][舟は出る姫は足からかたく成る]など)

参考 → 松浦佐用媛(まつらさよひめ、万葉伝説人物) J 4 0 8 9

常也(じょうや・小島) → 常也(つねなり・小島、町役/地誌家) C 2 9 9 1



- 常野館(じょうやかん) → 恭彦(たかひこ・脇坂わかさか、医者/歌人) 2 7 3 5  
 生薬園(しょうやくえん→いくくりぞの)→守部(もりべ・橘、国学者/歌人) 4 4 2 8  
 小野人(しゅうやじん・金) → 易右衛門(いえもん・金こん、藩士/養蚕) F 1 1 0 4
- B2274 性瑜(しょうゆ;法諱、本照;号、津守経国or国業男?)?-? 1275存 真言律僧;大和西大寺叡尊門、  
 1261大戒を受/72密灌を受/京の仁和寺で広沢流を修学・醍醐寺阿性から小野流を修学、  
 大和西大寺に護国院を開く;護国院の長老/上人、「西大寺流灌頂印信相承口訣」著、  
 「隆三世八字心真言護摩口訣」著、歌;新後撰集1507、  
 [思ひきやこの秋までになれなれて今亡き跡をとほむものとは](新後撰;雑1507)、  
 (詞書;同行のみまかりにけるあとにまかりて)
- B2275 成瑜(じょうゆ;法諱) ? - ? 鎌倉末期の僧/権大僧都、歌:二条派法体歌人、  
 続現葉集入、続千載815、  
 [いづくとも定めぬ旅は行きくるる里をかぎりに宿やからまし](続千;羈旅815)
- B2276 昭祐(しょうゆう;法諱) ? - ? 南北期僧/法師、歌人、1384成立「新後拾遺集」815、  
 [雲よりも上に見えたる富士のねの雪は何とて降りはじめけん](新後拾;雑秋815)
- B2277 承祐(しょうゆう、賢聖坊) ? - ? 1455. 11存 禅僧、連歌;1430室町殿月次連歌会初参加、  
 1442以前に連歌会所奉行、連歌宗匠として活躍/1433北野万句に一統を連れ一座分担、  
 1444-48頃成立宗砌「古今連談集」入
- L2273 紹幽(しょうゆう・梨羽なしば、名;景宗) 1577-1675長寿99 武将:小早川隆景・毛利輝元の家臣、老岐守、  
 文禄の役に従軍、寛文1661-73頃隆景の一代記を執筆;「梨羽紹幽物語」著
- L2274 聖融(しょうゆう;法諱、空識;字)?-? 室町期真言僧;幼時に根来中性院聖増門/頼秀門、  
 中性院6世、大伝法院学頭職、「論議鈔」「灌頂記」「中性院堅義探題重」「梵字悉曇目錄集」著
- B2278 正友(しょうゆう・遠藤えんどう)? - ? 江戸談林の創始俳人、談林十百韻・談林三百韻入
- V2257 勝熊(しょうゆう;号) ? - ? 江前期;京の歌人/1682河瀬菅雄[麓の塵]最終歌に入、  
 河瀬家の人か?、  
 [八十日ゆく浜のまさごもよむ歌もつきせじと思ふ君が御代かな](麓の塵;雑685/祝)
- L2275 尚友(しょうゆう;名・勝見かつみ)?-1819 江戸中後期江戸の書家、「春雨帖」著、法号;宝池院
- U2286 尚友(しょうゆう・佐野さの) 1810-188677 甲斐身延の日蓮僧/国学;江戸丸山本妙寺日善門、  
 信濃飯田蓑瀬の長源寺42世住職、仏学・国学・史学・建築に通ず、  
 [尚友(;名)の字/号]字;敬達、号;松友/無辺/清因/仏乘院日融(;法諱)
- 小有(しょうゆう・石川) → 丈山(じょうざん・石川、儒者/詩人) S 2 2 5 7  
 少輔(しょうゆう) → 少輔(しょう、平安期女房/歌人) K 2 1 7 2  
 少輔(しょうゆう) → 少輔(しょう、鎌倉期女房/歌人) K 2 1 7 3  
 紹宥(しょうゆう/じょうゆう) → 瑞雲(ずいん・紹宥;法諱、臨濟僧) E 2 3 0 7  
 承由(しょうゆう・佐野) → 紹由(じょうゆう/しょうゆう・佐野/灰屋はいや、商家/連歌) 2 2 0 7  
 承祐(承裕しょうゆう・大内) → 熊耳(ゆうじ・大内おおうち/余、儒者) C 4 6 1 9  
 承猷(しょうゆう;法諱) → 竜門(りゅうもん;道号・承猷;法諱、臨濟僧) F 4 9 7 6  
 松友(頌友しょうゆう) → 貞徳(ていとく・松永、歌学/俳人) 3 0 0 8  
 松友(しょうゆう・田原) → 松友(まつとも・田原たはら、俳人) L 4 0 4 6  
 松友(しょうゆう・佐野) → 尚友(しょうゆう・佐野さの、日蓮僧/国学) U 2 2 8 6  
 逍遊(しょうゆう) → 貞徳(ていとく・松永、歌学/俳人) 3 0 0 8  
 紹由(しょうゆう・佐野/灰屋) → 紹由(じょうゆう、俳人) 2 2 0 7  
 紹由(しょうゆう・宮村/今村) → 紹由(じょうゆう、俳人) B 2 2 7 9  
 従祐(しょうゆう・誠心院) → 蘭台(らんだい、真宗本願寺派僧/俳人) C 4 8 9 2  
 昭裕(しょうゆう/あきひろ・松田) → 棊園(ていえん・松田まつだ、藩儒) 3 0 3 5  
 昭融(しょうゆう・松平) → 直侯(なおよし・松平、藩主/歌人) D 3 2 0 0  
 昭猷(しょうゆう・住江) → 滄浪(そうろう・住江/墨江/中瀬、藩士/儒者) D 2 5 2 3  
 尚祐(しょうゆう・曾我) → 尚祐(なおすけ・曾我、幕臣/故実) B 3 2 3 3  
 尚由(しょうゆう・服部) → 安休(あんきゅう・服部はっとり、藩士/神道) G 1 0 0 2  
 尚友(しょうゆう・岩井田) → 尚友(ひさとも・岩井田/荒木田、神職) B 3 7 5 8

- 尚友(しょうゆう・岡田) → 玉山(ぎよくざん・岡田おかだ、絵師) D 1 6 0 0  
尚友(しょうゆう・国友) → 善庵(ぜんあん・国友くにとも、藩士/儒者) E 2 4 8 1  
尚友(しょうゆう・佐藤) → 幸助(こうすけ・佐藤、農業/学修録) K 1 9 0 0  
尚友(しょうゆう・千坂) → 畿(みやこ・千坂ちさか/横山、幕臣/儒者) F 4 1 9 2  
尚猷(しょうゆう・森) → 庸軒(ようけん・森、儒/医者) 4 7 7 5  
尚雄(しょうゆう/ひさかつ、蓬萊) → 尚広(ひさひろ・蓬萊/荒木田、神職/日記) B 3 7 8 7  
尚熊(しょうゆう・高見) → 祖厚(そこう・高見たかみ、藩士/国学/書) L 2 5 0 4  
性融(しょうゆう;法諱) → 逸然(いつねん;道号・性融;法諱、画僧) J 1 1 2 4  
章雄(しょうゆう・伊福) → 章雄(あやお・伊福いふく、藩士/国学・歌) G 1 0 9 4  
章雄(しょうゆう) → 章雄(あやお・大江戸倭歌集入;歌人) G 1 0 8 1  
勝由(しょうゆう・伊与田) → 勝由(かつよし・伊与田いよだ、香道家) O 1 5 0 1  
勝熊(しょうゆう・魚住) → 勤(いそし・魚住うおずみ、藩士/国学者) F 1 1 8 7  
勝祐(しょうゆう・中村) → 勝祐(かつすけ・中村なかむら、庄屋/歌人) V 1 5 2 4  
昌有(しょうゆう・泉) → 春山(しゅんざん・勝川かつかわ/勝、絵師) K 2 1 8 3  
昌祐(しょうゆう・石井) → 昌祐(まさすけ・石井いし、船頭/藩士/歌) N 4 0 5 5  
昌雄(しょうゆう・小原) → 昌雄(まさお・小原おはら/大久保、藩士/歌) O 4 0 2 1  
昌雄(しょうゆう・黒屋) → 昌雄(まさお・黒屋くろや、藩士/歌人) P 4 0 5 5  
昌融(しょうゆう・加藤) → 昌融(まさひら・加藤かとう、国学者) O 4 0 7 0  
L2276 定祐(じょうゆう;法諱) ? - ? 室町前期天台宗勸学院僧;権僧正、  
「授決集序鈔」「大乘妙典聞書」著  
I2226 定祐(じょうゆう・竹田たけだ、定盛男/本姓;藤原) 1460-1528<sup>69</sup> 戦国期京の医者;南北期以後京医名家  
法印、定珪じょうけいの父、歌人;三条西実隆門、1523蝮川親孝家歌合参加、  
1515「竹田家修合三種辯」、「大永二年両点歌巻」、1525(大永5)「傷寒初心抄」、「月海雑録」著  
[定祐(;名)の名/号]初名;秀慶、号;極楽院月海  
2207 紹由(じょうゆう/しょうゆう・佐野さの/屋号;灰屋はいや)?-1622 安桃江前期京の紺染用紺灰商(豪商)、  
足利尊氏家臣佐野氏綱の末裔、連歌;紹巴門、烏丸光広と交流、昌琢一門の連歌会参加、  
1604(慶長9)宗順と千句、百韻は宗順・昌叱・昌琢・慶純・昌倪・紹巴などと多数、  
茶の湯/蹴鞠など多趣味、紹益の養父、  
紹由の初号;承由しょうゆう  
V2231 浄友(じょうゆう・富島とみしま、屋号;天満屋) 1616-1682<sup>67</sup> 江前期;商人/備後御調郡富浜塩田開発者  
紀伊和歌山の生/1619藩主浅野長晟の安藝広島入封で父と共に広島移住;藩の肴御用、  
1663家業を娘婿に譲渡;酒造業を起す/1704(宝永元)藩札発行の札元となる;豪商、  
1677(延宝5)備後尾道町対岸の向島に塩浜を開発;29軒の塩浜所有、  
開発経過経営について;[富浜開地覚書](1711)[富島氏先祖聞書](1713)などに入  
[浄友(;法名)の通称]治兵衛(・天満屋;世襲名)  
L2277 浄友(じょうゆう・吉田よしだ、浄元男) 1646-99<sup>54</sup> 幕府医官;1669父の遺跡継承、70法印、  
1690小普請、「享金方」著、  
[浄友(;通称)の別通称/号]通称;隆友/治部卿、号;盛方院、法名;浄友  
B2279 紹由(じょうゆう・宮村/今村)? - ? 江前期元禄1688-1704頃の金沢の俳人;重頼門、  
北枝・句空・友琴と歌仙、1693「猿丸宮集」編、  
[紹由(;号)の別号] 六々庵、三十六みそむ/みそろく  
紹宥(じょうゆう;法諱) → 瑞雲(ずいん;道号・紹宥、臨濟僧) E 2 3 0 7  
丈雄(じょうゆう・太田) → 丈雄(たけお・太田おた、歌人) U 2 6 8 4  
乘邑(じょうゆう・松平) → 乘邑(のりさと/のりむら・松平、藩主/法制) E 3 5 5 8  
浄祐(常有じょうゆう) → 利濟(としただ・南部なんぶ、藩主) M 3 1 7 2  
常祐(じょうゆう;法名) → 永継(ながつぐ・高倉、廷臣/歌人) E 3 2 3 9  
常祐(じょうゆう;法名) → 宗宣(むねのぶ・松木まつきの/中御門/藤原、廷臣/歌) C 4 2 1 0  
常有(じょうゆう) すべて → 常有(つねあり)  
常友(じょうゆう・遠藤) → 常友(つねとも・遠藤、藩主/歌人) C 2 9 7 0  
常勇(じょうゆう・巽) → 静庵(せいあん・巽たつみ、書家) H 2 4 2 7

- 常雄(じょうゆう・奥田) → 常雄(つねかつ・奥田/橘、藩士/国学者) B 2 9 9 7  
 乗友(じょうゆう・大給) → 乗友(のりとも・大給だいきゅう/松平、藩主) H 3 5 5 6  
 浄友(じょうゆう・橘) → 清友(浄友きよとも・橘たちばな、廷臣) D 1 6 4 1  
 B2280 松友庵(しょうゆうあん、有松友庵)?-? 尾張藩士/1847「芳躅ほうたく集」著(；尾張の人物伝)  
 逍遊軒(しょうゆうけん) → 貞徳(ていとく・松永、歌学/俳人) 3 0 0 8  
 松友軒(しょうゆうけん) → 幸化(こうか、俳人) 1 9 8 1  
 尚友軒(しょうゆうけん) → 海門(かいもん・赤崎あかさき、儒者/歌) E 1 5 4 5  
 向有恒(しょうゆうこう、唐名) → 朝保(ちようほ・宜湾ぎわ、歌人) J 2 8 8 5  
 尚友斎(しょうゆうさい・菅) → 良弼(よしすけ・菅、良史男/藩士/歌人) N 4 7 4 3  
 将西産人(しょうゆうさんじん) → 産人(さんじん・将西しょうゆう、狂歌作者) F 2 0 9 3  
 尚友亭(しょうゆうてい) → 静廬(せいろう・北、国学/歌、狂歌) D 2 4 2 3  
 生有亭(しょうゆうてい) → 宜大(ぎだい、吉川/那波、商業/俳人) F 1 6 7 3  
 常遊亭(じょうゆうてい) → 豊綱(とよつな・真野まの、尾張神官/俳) R 3 1 3 0  
 尚友堂(しょうゆうどう) → 鉄崖(てつがい・阿万あまん、儒者) C 3 0 2 1  
 尚友堂(しょうゆうどう) → 筠圃(いんぼ・宮崎みやさき、儒者/書画) E 1 1 7 0  
 尚友堂(しょうゆうどう) → 畿(みやこ・千坂ちさか/横山、幕臣/儒者) F 4 1 9 2  
 少輔阿闍梨(しょうゆうあじかり) → 一海(いっかい:法諱・尊勝房、真言僧) G 1 1 7 3  
 少輔別当入道(しょうゆうべつとうにゅうどう) → 空仁(くうにん、歌人) 1 7 3 8  
 常瑜珈院(じょうゆかいん) → 信観(しんかん・大鳥居/高辻/二条、社僧/連歌) N 2 2 7 5  
 常瑜珈院御室(じょうゆかいんのむろ) → 寛性親王(かんしょうしんのう、日記) D 1 5 9 5  
 B2281 清誉(しょうよ、せいよ;法諱、三井寺法印、藤原清実男)?-? 1295存 母;源義章女、天台園城寺僧;  
 法印/大僧都、1295三十六番歌合を人々に勸進、天台座主道玄・菅原清長と交流、  
 閑月集・新三井集入集、新後撰集593、  
 [都鳥幾世かここにすみだ河ゆききの人に名のみとはれて](新後撰;羈旅593)  
 生誉(しょうよ・信蓮社) → 靈玄(れいげん;法諱、浄土僧) 5 1 2 2  
 称誉(しょうよ;法名・名蓮社) → 眞察(しんさつ;法諱、浄土僧) O 2 2 6 2  
 称誉(しょうよ・観蓮社) → 雷雨(らいう;法諱、浄土僧/天台学) 4 8 1 7  
 称誉(しょうよ) → 心阿(しんあ;法諱・称誉、浄土僧/歌人) V 2 2 0 2  
 証誉(しょうよ;号) → 湛澄(たんちよう;法諱、浄土僧/歌) I 2 6 5 2  
 証誉(しょうよ・眞蓮社) → 雲臥(うんが;法諱、浄土僧) D 1 2 5 9  
 証誉(しょうよ・信蓮社) → 湛澄(たんちよう;法諱・染問、浄土僧/歌) I 2 6 5 2  
 章誉(しょうよ・憲蓮社) → 了秀(りょうしゅう;法諱、浄土僧) 4 9 6 7  
 承誉(しょうよ・稟蓮社) → 法洲(ほうじゅう;法諱、浄土僧) B 3 9 4 6  
 詳誉(祥誉しょうよ・浄蓮社) → 月儼(月仙げつせん;号・玄瑞;法諱、浄土僧/絵師) B 1 8 1 1  
 勝誉(しょうよ・即蓮社) → 関通(かんつう;法諱・無礙、浄土僧) R 1 5 4 3  
 勝与(しょうよ・神崎/八劍) → 興寿(おきなが・八劍やつるぎ/神崎、神職) C 1 4 9 1  
 勝与(しょうよ・神戸) → 大江(おおはま・神戸かんべ、藩士/国学/歌) D 1 4 9 1  
 昌与(しょうよ・金井) → 宗斎(そうさい・金井かない、歌人/連歌) K 2 5 9 3  
 昌預(しょうよ・春日) → 昌預(まさやす・春日かすが/山本/加藤、町役/歌) P 4 0 6 9  
 松誉(しょうよ;法名) → 巖的(がんてき;法諱・松誉、浄土僧) G 1 5 5 4  
 松誉(しょうよ・雄蓮社) → 詮察(せんさつ;法諱、浄土僧) M 2 4 3 5  
 商誉(しょうよ・宮蓮社) → 良義(りょうぎ;法諱、浄土僧) H 4 9 0 5  
 縦誉(しょうよ・横蓮社) → 心岩(しんがん;法諱・頑夢、浄土僧/画) N 2 2 7 7  
 笑誉(しょうよ・百蓮社) → 秦罔(しんげい;法諱・白純、浄土僧/詩) O 2 2 0 6  
 B2297 定誉(じょうよ、俗姓;河井) 958-1047長寿90歳 平安期大和葛城出身真言僧;初め13歳で興福寺入、  
 法相を修学/真興門;密教の灌頂を受/法華経信仰;持経者/長谷寺観音の夢告で高野山入、  
 東寺との抗争・落雷による大火などで荒廃していた高野山の復興に尽力;  
 門弟明算らと聖集団を組織し勸進に奔走、信堅編「高野山勸発信心集」に逸話入、  
 奥の院の[祈親燈(不滅の聖燈)/お照の貧女の一燈]を設置、  
 [定誉(；法諱)の通称] 祈親きしん上人/持経じきょう上人

- L2278 **盛誉**(じょうよ;法諱・明智;字)1273-1362**長寿90歳** 華嚴僧;禪爾(円戒)門;受戒/和泉久米田寺住、のち東大寺戒壇院に移住;華嚴教を修学/唐招提寺に住;第一座となる、念仏会の唱導の師、1339「華嚴経手鏡」、「華嚴手鏡三十題」「五教章鈔」「華嚴経随疏演義鈔義解」著
- B2282 **紹与**(じょうよ) ? - ? 1605存 連歌作者:1572紹巴社中、「信長追善百韻」参加、1572頃師紹巴と一座/88昌叱と「玉何百韻」/98「従紹巴聞書じょうはよりのききがき」著、1602師追善「紹与独吟経文百韻」、兼如と両吟・三吟百韻、右治・正益・了意と両吟百韻
- B2283 **盛誉**(じょうよ;号、西坊、了休男)?-? 安桃江前期堺天神の社僧/古典・連歌;宗柳門、古今伝授を受、円玖に伝授、1597円玖と「何船百韻」/98宗柳と「何人百韻」「何船百韻」
- L2279 **常誉**(じょうよ;法諱) ? - ? 江中期享保1716-36頃の京の浄土僧、阿弥陀寺(信長の墓所)20世住寺、同寺が1676に類焼し記録焼失;古老に尋ね記録を蒐集、1731「信長公阿弥陀寺由緒之記録」著
- L2280 **常与**(じょうよ・歛之軒かんしけん、姓;吉田)?-? 江後期文化1804-18頃京の華道家、俳人、1820「春のひかり」編/26「奥儀大口伝海」著、  
[常与(;名)の字/通称/号]字;士善、通称;郁哉、号;歛之軒/二松
- 静誉(じょうよ;法諱) → 静誉(せいよ、じょうよ;法諱、真言僧) J 2 4 6 7  
成誉(じょうよ・信阿;法名) → 大玄(だいがん;法諱、浄土僧) J 2 6 9 0  
浄誉(じょうよ・清蓮社) → 原澄(げんちよう;法諱、浄土僧) L 1 8 3 9  
乗誉(じょうよ;法号) → 道治(どうや・富山とみやま、医/仮名草子) H 3 1 5 5  
常誉(じょうよ;法名/上総入道) → 持房(もちふさ・大館おおだち/源、廷臣/歌) B 4 4 6 2  
常与(じょうよ・井狩) → 友静(ゆうせい・井狩いかり、俳人) C 4 6 9 6  
貞誉(じょうよ・念蓮社) → 了也(りょうや;法諱、浄土僧) J 4 9 5 3
- L2281 **韶陽**(しやうよう;道号・長遠ちやうえん;法諱)?-1393 常陸の臨濟僧;乾峰士曇門/法嗣、仙台東昌寺住、京の東福寺55世/南禅寺50世、「韶陽和尚語録」著
- B2284 **昌陽**(しやうよう・坂さか、昌永[?-1827]男)?-? 江戸幕府連歌御連衆
- V2248 **昌要**(しやうよう・飯室いむろ、本姓;源)?-? 江前期;武士/歌人;1688浅井忠能[難波捨草]入、  
[待侘びし心づくしの日数へて今朝とけそむる花の下紐](難波捨草;春35)、  
[昌要(;名)の読み方?;まさやす・よし・ともし・とき]
- B2285 **昭陽**(しやうよう・亀井かめい、名;昱、南冥男)1773-1836**64** 筑前福岡唐人町の儒者(家学);父門、1791父の友人役藍泉門;詩文作法を修学、1792家督継嗣;福岡藩儒官/98免職、1801家塾百道社を開設、1806秋月藩黒田長舒に随い江戸下向;07帰国、頼山陽と交流、1792「月窟謾草」1801「古序翼」12「読辨道」17-29「昭陽文稿」22「爾雅翫古」23-25「尚書考」、「空石日記」「空石文集」「語由述志」「鶴跡襍録」「読禅月楼集」「烽山日記」「病間涉筆」著、「空石先生詩文抄」「昭陽先生文集」「昭陽先生文集」「昭陽先生遺稿」など、著作多数、  
[昭陽(;号)の字/通称/別号]字;元鳳、通称;昱太郎いくたろう、  
別号;空石/月窟/天山遯者てんざんとんじや、小琴の父;三苦復(雷首らいしゅ)を娘婿とす
- B2286 **逍遙**(しやうよう・武雄たけお、名:麟/頼之)1819-61**43** 肥前武雄の儒者;郷校身教館で修学;清水竜門・飯盛鳳山門、佐賀藩国家老鍋島家に出仕;邑政に参画、経済の才を發揮す、身教館教授、詩文、草場佩川と交流、「史記助字法」「邦乗」著、  
[逍遙(;号)の字/通称/別号]字;君瑞、通称;左門/佐門、別号;南川史氏
- 松葉(しやうよう) → 牧童(ぼくどう・立花、研刀業/俳人) D 3 9 8 0  
松陽(しやうよう・西垣) → 桐斎(とうさい・西垣にしがき、儒者/詩文) E 3 1 2 1  
尚庸(しやうよう・永井) → 尚庸(なおつね・永井、幕臣/領主) B 3 2 7 0  
商羊(しやうよう・西山) → 惟寛(これひろ・西山にしやま、藩侍医/国学) R 1 9 1 0  
昌陽(しやうよう・馬場) → 徵信(ものとぶ・馬場はば、神道家) K 4 4 9 3  
昌陽(しやうよう・正木) → 昌陽(まさはる・正木まさき、藩士/国学/故実) S 4 0 5 5  
昭瑤(しやうよう・新渡戸) → 十次郎(じゅうじろう・新渡戸にとべ、藩士) X 2 1 6 0  
照洋(しやうよう・高山) → 照洋(てるひろ・高山、兵法家) C 3 0 8 9  
従容(しやうよう・吉田) → 澹軒(たんけん・吉田よしだ、藩家老/財政) T 2 6 3 7  
衝陽(しやうよう・後藤) → 慕庵(ぼあん・後藤ごとう、医者) 3 9 0 6  
祥用(しやうよう・勝川) → 蘭徳斎(らんとくさい、初世勝川春童/絵師) D 4 8 1 2

- 逍遥(しょうよう・佐々木)→ 竜原(りゅうげん・佐々木/国重、藩儒員) D 4 9 6 6
- W2207 定耀(定曜(じょうよう);法諱、興福寺別当隆覚[1074-1158]男)?-? 源雅光(まこと)(1089-1127)の猶子、平安後期興福寺僧/法眼、号;大将法眼、歌人;1237刊[檜葉集]入(実父隆覚と共に入集)、[人しれぬ心のうちのかよひちは関守とてもえやはとどめぬ](檜葉;恋442/隔関恋)
- L2282 定耀(じょうよう;法諱・大納言法印)?-1328 真言醍醐寺僧;法印、東寺凡僧別当、「金胎定耀次第」著
- L2283 紹要(じょうよう;法諱・印充(いんじゅう);道号)1635-1700<sup>66</sup> 京の臨濟僧;大徳寺213世雪溪宗雪門;法嗣、のち1685大徳寺237世、武蔵谷中に月桂庵を草創;東山月心庵を再興、「雑用集」編
- B2287 常陽(じょうよう;号・木戸(きど)?-? 1729存 江戸根岸の医者/のち根津権現稻荷社の社司、俳人;其角門/調和門、1696岩翁「若葉合」;独吟歌仙1巻入、1702轍士「花見車」入、1729「華担籠」編、[星合(ほしあひ)や桴(かた)流せし女来(よ)ぎ三谷(さんや)(花見車;81)、(女来は女儀[女性]と女が来るを掛る/三谷は新吉原)
- B2288 城陽(じょうよう・江守(えもり)、名;長順/通称;佐久馬)1790-1844<sup>55</sup> 加賀大聖寺藩儒/江戸の佐藤一斎門、さらに太田錦城門、1821藩侍読藩/40学問所会頭;42病で致仕、著多数;晩年に火に投ず、「十温一助」「温古古義」著
- B2289 常庸(じょうよう・山口(やまぐち)?-? 江後期寛政文化1789-1818頃大阪南農人町の俳人、戯作者、1799「かくれ家」著/99「柳みち」「茶誹諧」編/1803「左々栗」「高名詞画」「都会帖」編、1803大須賀陶山(鬼卵)著「東海道人物志」跋文、1804「一閑人」著/08読本「七福七難図会」著、1822俳諧作法書「道の便(た)り」(竹巢(たけのく)月居・春洞(はるどう)淇竹と共編/序を筆/江戸須原(すはら)屋茂兵衛(むらたけ)刊)、[常庸(;名)の別名/通称/号]別名;当用?、通称;藤助、号;生々(せいせい)瑞馬(まい)いせいづま/瑞馬/生々/生々廬
- 常葉(じょうよう;号) → 時茂(ときしげ/ときもち・北条、武将/歌人) J 3 1 1 7
- 浄養(じょうよう;法諱) → 独癡(どくち;道号・浄養、黄檗僧) L 3 1 2 1
- 城陽(じょうよう・山村) → 良祺(たかのり・山村、藩代官/儒/教育) M 2 6 7 8
- 常庸(じょうよう・度会) → 常庸(つねのぶ・度会(わたらい)、神職/歌人) Q 2 9 8 7
- 常庸(じょうよう・久志本) → 常庸(つねのぶ・久志本/度会、神職/歌) D 2 9 0 5
- 常庸(じょうよう・大野/高見) → 甚左衛門(じんざえもん・高見/大野、書肆/国学) O 2 2 6 0
- 逍遥庵(しょうようあん) → 蘭斎(らんさい・田中(たなか)、藩士/書家) C 4 8 1 5
- 常用庵(じょうようあん) → 野坡(やば・志太(した)だ/斎藤、俳人) 4 5 1 2
- 逍遥院(しょうよういん・内大臣) → 実隆(さねたか・三条西) 2 0 4 0
- 逍遥院(しょうよういん) → 実隆(さねたか・三条西/西三条、歌/古典学) 2 0 4 0
- 常葉蔭(じょうよういん・ときわのかげ?・児玉) → 尚高(ひさたか・児玉/秦、神職/国学者) B 3 7 2 6
- 浄曜院(じょうよういん) → 靈潭(れいたん;法諱、真宗本願寺派僧) 5 1 5 2
- 逍遥院入道前内府(しょうよういんにゅうどうのさきのないふ) → 実隆(さねたか・三条西/西三条、歌/古典学) 2 0 4 0
- 徜徉園(しょうようえん) → 力所(りきしょ・桐山(きりやま)、商人/地誌家) 4 9 5 3
- 逍遥窩(しょうようか) → 修古(しゅうこ・宮本(みやもと)、俳人) X 2 1 1 7
- 逍遥窩(2世)(しょうようか) → 全瓦(せんが・神門(かみかみ)ごと、俳人) L 2 4 8 4
- 従容窠(じょうようか;号) → 円猷(えんゆう;法諱、真宗高田派僧) F 1 3 4 1
- 逍遥閣(しょうようかく) → 五明(ごめい・吉川、商家/俳人) D 1 9 9 3
- 従容館(じょうようかん) → 千春(ちはる・三浦(みづら)、藩士/国学) F 2 8 2 1
- B2290 松葉軒(しょうようけん、万屋(まんな)よろづ清兵衛(せいべい)?-? 1757存 江前中期江戸日本橋青物町の書肆、のち日本橋万中通角/通本町三丁目に移住、西鶴本など上方浮世草子の江戸の売捌き元、雑俳書・撰集を編纂出版刊行/1721江戸書物問屋結成;1757まで書物改役行事を担当、雑俳に貢献、1702(元禄15)「俳雑あかゑぼし」編(竹丈・露月点の笠附集)、1703「たから船」04「俳書雪の笠」12「さすの神子」編、[松葉軒(;号)の名/通称/別号]名;貞知?、通称;万屋清兵衛、別号;天和堂/冠楽堂人/冠楽道人
- 松葉軒(しょうようけん) → 龍水(りょうすい・勝間(かつま)、絵師/書) I 4 9 3 0
- 松葉軒(しょうようけん) → 西国(さいこく・中村、俳人) 2 0 7 6
- 松葉軒(しょうようけん) → 東井(とうせい・川瀬(かわせ)久寛、武士/辞書著) F 3 1 9 0

- 従容軒(しょうようけん) → 千春(ちはる・三浦、国学/歌) F 2 8 2 1
- L2284 従容齋(しょうようさい・姓名不詳)?-? 江後期の歌人、  
1800(寛政12)「従容齋和歌類題」自撰編(春99/夏77/秋104/冬85/恋72/雑121首歌題別入)
- 松葉子(しょうようし) → 宗川(そうせん・清水、歌人) C 2 5 3 6
- 逍遙舎(しょうようしゃ) → 直胤(ただたね・横川よこかわ、和算家/史家) P 2 6 7 9
- 松葉舎(しょうようしゃ) → 千尋(ちひろ・遊座ゆさ、神職/国学者) N 2 8 7 3
- 常陽水(じょうようすい) → 彦六(ひころく・谷田部やたべ、彫工) 3 7 7 8
- 承陽大師(しょうようだいし) → 道元(どうげん・希玄、曹洞僧) 3 1 0 7
- 常陽陳人(じょうようちんじん) → 風篁(ふうこう・中村/藤原、俳人) 3 8 6 1
- 逍遙亭(しょうようてい) → 御風(ぎよふう・秋山あきやま、藩士/俳人) H 1 6 5 5
- 尚容亭(しょうようてい) → 如璞(じよぼく・須藤すどう、医者/俳人) M 2 2 8 4
- 逍遙道人(しょうようどうじん) → 悟心(ごしん・道号・元明・法諱、黄檗僧) D 1 9 0 2
- 逍遙道人(しょうようどうじん) → 虎班(こはん・古範こはん、法諱、曹洞僧/詩) N 1 9 5 2
- 昇陽房(しょうようぼう;号) → 聖奇(しょうき;法諱、真言僧) H 2 2 9 2
- 勝陽房(松養坊/証揚房しょうようぼう) → 眞源(しんげん;法諱、天台叡山僧) D 2 2 9 4
- 常羊雒浦(じょうようらくほ) → 祖辰(そしん;法諱・南宗なんしゅう;道号、臨濟僧/外交) D 2 5 8 9
- 松誉巖的(しょうよがんでき) → 巖的(がんでき/松誉) G 1 5 5 4
- 尚翼(しょうよく・中島) → 尚翼(なおすけ・中島なかじま、和算家) B 3 2 3 5
- 常誉察阿(じょうよさつあ;法名) → 善筑(ぜんちく・竹尾/源/斎藤、浄土僧/故実) G 2 4 3 3
- 讓誉上人(じょうよしょうにん) → 祐巖(ゆうがん・山本/千葉、浄土僧) H 4 6 4 5
- 松誉宗寿(しょうよそうじゅ) → 義篤(よしあつ・杉本すぎもと/藤原、医者) C 4 7 1 5
- 昌誉宗術(しょうよそうじゅつ;法号) → 隆術(たかみち・四条、歌人) D 2 6 8 1
- L2285 松蘿(しょうら・加藤かとう、名;賢安/堅安) 1763-1831<sup>69</sup> 常陸水戸下市青物町の酒造業/豪商、  
1779町年寄並/1781本役、「松蘿随筆」「松蘿雜記」「与聞小識」「東市街人姓名録」著、  
「家筋書上控」「御町御奉行」「清水道記事」「御用留書拔」「間口帳」著、  
[松蘿(;号)の通称] 又衛門
- L2286 松蘿(しょうら・小川おがわ、名;居員、森もり義満男) 1800-28<sup>早世</sup> 29 小川弥五郎の養子、  
相模江ノ島の俳人、鳴立庵雉啄・玉蕉庵芝山・葛三と交流、「洞月楼日記」著、  
[松蘿(;号)の通称/別号]通称;呈輔、別号;洞月楼、法号;覺受耀心居士
- 松蘿(しょうら・田中) → 万春(ばんしゅん・田中、曆算家) H 3 6 9 7
- 松蘿(松籙しょうら・上柳) → 久林(ひさしげ・上柳うえやなぎ/関島、国学) I 3 7 6 0
- 松蘿(しょうら・岡) → 信好(のぶよし・岡おか、国学者) H 3 5 7 8
- L2287 正頼(しょうらい) ?-? 室町期歌人;1457「武家歌合」参(正徹・心敬らと)  
[佐保山やもとの雫の露かかる柞はその木の葉もろき色かな](武家歌合;十七番左26)  
(本歌;佐保山の柞の色はうすけれど秋は深くもなりにけるかな[古今集]、  
武家歌合十二番左16持隆の歌の類歌)  
瓦林正頼と同一? → 正頼(政頼まさより・瓦林・河原林/平、武将/連歌) I 4 0 8 0
- 正頼(しょうらい・瓦林) → 正頼(政頼まさより・瓦林・河原林/平、武将/連歌) I 4 0 8 0
- 章頼(しょうらい・大町) → 章頼(あきより・大町おおまち、藩老/歌人) H 1 0 2 9
- 松籙(しょうらい・喜多) → 公綺(きみあや・喜多きた、医者/歌人) U 1 6 0 6
- 松籙(しょうらい・本荘) → 了潤(りょうじゅん・本荘ほんじょう、真宗僧/絵師) M 4 9 2 6
- 常頼(じょうらい・絹笠) → 常頼(つねより・絹笠きぬがさ、俳人) E 2 9 8 6
- 松籙庵(しょうらいあん;庵号) → 柳居(りゅうきよ、佐久間、麦阿、俳人) D 4 9 3 3
- 松籙庵(しょうらいあん) → 太無(たいむ・古川、柳居門俳人) C 2 6 2 2
- 松籙庵(しょうらいあん・二世) → 霜後(そうご、太無・柳居門俳人) B 2 5 3 3
- 松籙庵(しょうらいあん・三世) → 秋瓜(あきうり、2世しゅうか、柳居門俳人) G 2 1 9 3
- 松籙庵(しょうらいあん) → 盛隣(もりちか・矢田部やたべ、神職/国学) L 4 4 7 3
- 松籙館(しょうらいかん) → 頼續(よりつぐ・松平まつだいら、儒/歌/神職) P 4 7 2 3
- 松籙軒(しょうらいけん・南甫) → 南甫(なんぼ・松籙軒、本草家) J 3 2 4 2

- 松籟子(しょうらい) → 源内(げんない・平賀ひらが、洋学/戯作) 1 8 2 8  
 松蘿館(しょうらかん・西原) → 公和(よしかず・西原一甫、国学) C 4 7 5 0  
 松蘿館(しょうらかん・勝田) → 紫文斎(初世しむんさい・宇治、名主/一中節/狂歌) F 2 1 6 0  
 松楽軒(しょうらくげん) → 立志(初世りゅうし・高井たかい、俳人) E 4 9 2 7
- S2264 松洛(しょうらく・三好みよし) 1693?-1772?80? 江中期大阪の浄瑠璃作者; 閨歴未詳、  
 諸説; 伊予松山の願成寺僧? or 大阪の医者? or 大阪北新堀江の茶屋主人?、  
 1736(享保21)大坂竹本座の「赤松円心緑陣幕」文耕堂と合作が最初、  
 1771近松半二「桜御殿五十三駅」後見が最後、その間30余年50以上の作品に関与、  
 立作は2作のみ; 1742「花衣いろは縁起」(2世出雲と合作)/69「中元噂掛鯛」(嘉蔵と合作)、  
 合作助作; 「手習鑑」「忠臣蔵」「千本桜」「本朝廿四孝」「近江源氏先陣館」など有名作品関与
- 松瑠(しょうろう; 初号・鈴木) → 羊素(ようそ・鈴木すずき、俳人) B 4 7 4 1  
 昌楽(しょうらく) → 如水(怒水じょすい、滝川、儒者/俳人) C 2 2 6 3  
 常楽院(じょうらくいん) → 信雅(しんが; 法諱、天台僧/歌人) D 2 2 6 0  
 常楽院(じょうらくいん; 号) → 心聡(しんそう; 法諱、天台僧) P 2 2 1 7  
 常楽院(じょうらくいん; 法号) → 正仲(まさなか・堀田/紀、藩主/歌人) F 4 0 0 9  
 松楽軒(しょうらくげん) → 立志(初世りゅうし・高井、俳人) E 4 9 2 7  
 勝楽寺徳翁(しょうらくじとくおう; 法号) → 道誉(どうよ; 法諱、佐々木/京極、武将/連歌) 3 1 1 1  
 常楽台(じょうらくたい) → 存覚(そんかく; 号・光玄、真宗僧) E 2 5 7 1  
 松蘿窟(しょうらくくつ) → 亀石(きせき・寺島てらしま、俳人) L 1 6 0 9  
 常楽房(乗楽房じょうらくぼう) → 家寛(けかん; 法諱、天台僧/声明家) G 1 8 8 4  
 常楽房(じょうらくぼう) → 日伝(にちでん; 法諱・唯本院、日蓮僧) C 3 3 9 2  
 松蘿館(しょうらかん、松蘿山人) → 公和(よしかず・西原、藩士/国学) C 4 7 5 0  
 松羅子(しょうらし) → 月窓(げつそう・佐藤さとう、医者/歌人) H 1 8 1 7  
 松蘿堂(しょうらどう) → 篁雨(こうう・松村まつむら、医/俳人) H 1 9 3 7  
 松蘿坊(しょうらぼう) → 高蔵(こうぞう・浅野、文筆家/歌謡・料理) F 1 9 2 7
- L2289 松嵐(しょうらん・鈴木すずき、名; 道) ?-? 仙台の詩人: 志村五城・宗阿門/江戸の山地蕉窓門、  
 江戸で開塾、1819「洗眸百絶」23「玄圃積玉」25「松菴集」36「美人百詠」編、  
 [松嵐(; 号)の字/通称]字; 士行、通称; 廉之助
- 松嵐(しょうらん・白井) → 巖(いわお・白井しらい/原、神職/国学) K 1 1 3 2  
 松瀾(しょうらん・伊達) → 峰宗(みねむね・伊達だて、藩士/詩文) F 4 1 5 6  
 小嵐(しょうらん・松田) → 聴松(ちようしょう・松田まつだ、俳人) N 2 8 5 4  
 小瀾(しょうらん・石井) → 文海(ふみみ・石井いしい、絵師) E 3 8 0 6
- L2290 上藍(じょうらん; 道号・天中てんちゅう; 法諱、俗姓; 大沢) 1746-181873 尾張愛知郡菱野の曹洞僧:  
 1759(14歳)尾張神蔵寺の大店鰲雪門; 出家、師大店の諸寺歴住に随従、1779曇成門; 嗣法、  
 神蔵寺住寺/肥後天草東向寺住持、1816長崎皓台寺19世、磁器製法習得の加藤民吉を援助、  
 「詩偈集」「無明室録文部」著
- 浄覧(じょうらん・坂) → 浄見(じょうけん・坂さか、医僧) I 2 2 6 4  
 勝利(しょうり・所) → 勝利(かつとし・所ところ/源、藩士/歌人) V 1 5 1 3  
 常里(じょうり・蜂屋) → 宗栄(そうえい・蜂屋はちや、香道家) G 2 5 1 9  
 松裏庵(松裡庵しょうりあん) → 如本(じよほん・大越/館屋、俳人/希因弟) C 2 2 9 8  
 松裏庵(しょうりあん) → 古来(固来こらい・富川とみかわ、俳人) N 1 9 8 7  
 称理院(しょうりいん) → 日東(にっとう; 法諱・善圃、日蓮僧) F 3 3 4 4
- B2292 昌陸(しょうりく・里村さとむら[南家]、昌程男) 1639-170769 幕府連歌宗匠; 1650部屋住みで幕府出府、  
 1654法橋/70家督継嗣/73法眼、1695致仕、昌純の兄、妻; 木下俊長女、昌億・仍民の父、  
 2男仍民じょうみんは仍春の養子となり北家を嗣ぐ、  
 「昌程追善千句」、1697宗静そうじょう輯・良恵編「柴屋寺さいおくじ奉納発句」参加: 序を著、  
 百韻多数; 1668(寛文8)-97(元禄10)頃迄/1673(寛文13)が最も多い(23回)、  
 [昌陸(; 号)の別号]別号; 三宜斎、法号; 休心院
- 荘陸(しょうりく・杉本) → 隆重(たかしば・杉本/中臣/樋口、神職/歌俳) X 2 6 7 1  
 常達(じょうりく・久志本) → 常達(常達つねみち・久志本/度会、神職/国学) D 2 9 8 7

- 松裡紅(しょうりこう) → 元寛(もとひろ・長谷川、幕府役人/随筆) E 4 4 1 8  
 B2293 松律(しょうりつ) ? - ? 江戸の談林俳人、  
 1680松意「談林軒端の独活うど」下巻に四吟歌仙入(松水・松嘯・松意と)
- B2295 昌立(しょうりつ・里村[北家])?- ? 連歌師、1850破門  
 正立(しょうりつ・鈴木) → 抱山(ほうざん・鈴木すずき、蘭方医者/詩) B 3 9 1 7  
 正立(しょうりつ・宮武) → 直哉(なおや・宮武みやたけ、藩医/国学) P 3 2 0 1  
 勝栗(しょうりつ/かちぐり・井上)→ 頼定(よりさだ・井上いのうえ、神職/歌人) L 4 7 3 6
- B2294 正立斎(しょうりつさい・今西いまし、名;玄芳)1683-1761 代々摂津豊能郡南郷村の神職、  
 医を修学;大阪で開業/1722病のため帰郷、詩文に長ず:「江南詩祖」「豊崎郡誌」著、  
 1721用拙斎「八居題詠」入、  
 [正立斎(;号)の字/別号]字;陽甫、別号;白野
- V2285 章隆(しょうりゅう;法諱) ? - ? 平安鎌倉期;興福寺?僧/権律師、  
 歌人;1237刊[檜葉集]入  
 [みのうへと思ふもかなし月影のよわりはてたるありあけのそら](檜葉;雑896)
- L2291 蕉笠(しょうりゅう・丹羽にわ、名;信知/通称;又左衛門)?-? 美濃岐阜の俳人/歌人、1689「あら野」4句入、  
 [みのむしと知れつる梅のさかり哉](あら野;卷二/咲かぬ枝の正体は菘虫)
- L2292 敏隆(しょうりゅう;法諱) ? - ? 江中期紀州真言宗根来寺律乘院住僧、  
 高野山妙瑞の法位形声仏祖正伝集による新義真言宗教義に対し駁論、1759「根嶺家語」著
- B2296 小竜(しょうりゅう・河田/川田かわだ、土生はぶ玉助長男)1824-9875 祖父生家河田家嗣、土佐高知の絵師、  
 画;1836島本蘭溪門/儒;1839岡本寧浦門、上方で狩野永岳門;狩野派を修得、  
 書;篠崎小竹・中林竹洞門、1852土佐藩命により米国帰りの中浜万次郎の取調;聞書を献上、  
 坂本竜馬に大きな影響、1868藩士に列す、広島・京都に在住、1852「漂異紀略」著、  
 雅澄「万葉集品物図絵」画、  
 [小竜(;号)の名/字/通称/別号]名;維鶴/襲、字;子知/大巧/玉琳、  
 通称;徳太郎/篤太郎、土生奏溪はぶそうけい、別号;小梁/松梁/幡山はざん
- 正隆(しょうりゅう;法諱・蘭山)→ 蘭山(らんざん;道号・正隆・臨濟僧) C 4 8 2 9  
 正立(正柳しょうりゅう・蘆川)→ 桂洲(けいしゅう・蘆川あしかわ、医/儒者/詩) E 1 8 7 3  
 昌隆(しょうりゅう・中嶋) → 昌隆(まさたか・中嶋、藩士/下馬札書) D 4 0 1 9  
 昌隆(しょうりゅう・杉山) → 昌隆(まさたか・杉山、幕府鍼医/歌人) D 4 0 2 8  
 昌龍(しょうりゅう→まさたか・徳永)→ 千春(ちはる・徳永とくなが/徳富、藩士) N 2 8 0 7  
 尚隆(しょうりゅう;字) → 師準(しじゅん;法諱・尚隆;字、臨濟僧/歌) D 2 1 9 7  
 章流(しょうりゅう) → 綱雄(つなお・岩崎、里正/国学者) B 2 9 0 4  
 小笠(しょうりゅう) → 董堂(とうどう・中井、詩/狂歌) G 3 1 7 8  
 小竜(しょうりゅう→おたつ・占部)→ 小龍(おたつ・占部うらべ、万葉歌/防人) 1 4 8 4  
 小竜(しょうりゅう・大村) → 一秀(かずひで・大村おおむら、和算家) M 1 5 4 4  
 梢隆(しょうりゅう・森野) → 梢隆(すえたか・森野もりの、農業/国学/歌) J 2 3 3 1
- L2293 常竜(じょうりゅう・西野にし/初姓;小森、名;矢幹)1738-181174 母方姓西野を称す/京の儒者、  
 明和1764-72頃上州桐生に移住;私塾を開き教授、和漢学・本草学に通ず、  
 1805「国学弁翼」、「皇国忠経」著、  
 [常竜(;号)の通称/法号]通称;本蔵、法号;儒行院
- 常隆(じょうりゅう・細川) → 頼益(よります・細川ほそかわ/源、武将/歌) J 4 7 7 7  
 紹隆院(しょうりゅういん) → 忠利(ただとし・牧野/源、藩主) F 2 6 3 8  
 小笠外史(しょうりゅうがいし)→ 董堂(とうどう・中井/井、商家/詩/狂歌) G 3 1 7 8  
 松笠軒(しょうりゅうけん) → 才磨(さいまろ・椎本/谷、俳人) 2 0 0 6  
 松笠軒(しょうりゅうけん) → 可栄(かえい・俳人) E 1 5 5 2  
 小笠山樵(しょうりゅうさんしゅう)→ 董堂(とうどう・中井/井、商家/詩/狂歌) G 3 1 7 8  
 嘯柳舎(しょうりゅうしゃ) → 巴文(はぶん・松村、俳人) F 3 6 6 1  
 小粒堂((しょうりゅうどう) → 鹿鳴(ろくめい・中村屋、旅宿業/俳人) B 5 2 1 0
- L2294 正亮(性亮しょうりょう;法諱・玄心/岩松溪比丘;号)?-? 江中期大和の律宗平等寺遍照院の住職、



浄土・法相・律・真言に通ずる学僧、1686「孝子経報乳鈔」89「称讃浄土仏撰受経開蒙記」著、  
1697「無常経策心鈔」1702「三輪山平等寺慶円観上人別伝」32「浄土境観要門講録」著、  
「六物函箋要詳考」「律宗礼懺文翼解」「化教六念法解」「出家箴註解」著、外著多数

B2298 **松陵**(しょうりょう・久永ひさなが、名;徽) 1798-1856<sup>59</sup> 代々武蔵川越藩士、儒;藩校博諭堂で修学、  
長野豊山門、藩主松平齐典に出仕;藩校博諭堂助教;子弟教育・禄20石/1841加増百石、  
1847上州前橋町在奉行/郡宰;民政に参与、「松陵詩文集」著、  
[松陵(;)号]の字/通称]字;懿伯、通称;助三

L2295 **松陵**(しょうりょう・木村きむら、名;重任/重章) 1817-84<sup>68</sup> 筑後久留米の儒者;1838江戸昌平黌に修学、  
松崎慊堂門/水戸で会沢正志斎・藤田東湖と交流、帰郷後久留米藩校明善堂教官、郡奉行、  
1852真木和泉守らと藩政改革を建白;投獄/1863赦免、上京;親兵隊長・学習院御用掛徴士、  
1863八月の政変で帰藩;再監禁/67赦免、維新後は大総督府などに勤務/高良神社宮司、  
「政利私語」「藩政叢書」「儲穀略記」「土着私考」「松陵詩稿」「赤村文稿」著、  
[松陵(;)号]の字/通称/別号]字;士遠、通称;三郎、別号;赤村せきそん

正楞(しょうりょう;法諱) → 元方(げんぼう;道号・正楞、禅僧/文学) N 1 8 3 1

松嶺(しょうりょう/しょうけい;道号) → 道秀(どうしゅう;法諱・松嶺、臨濟僧) F 3 1 0 1

松陵(しょうりょう・国分こくぶん) → 威胤(いたね・国分、藩士/詩人) O 2 6 4 3

松陵(しょうりょう・松林) → 了英(りょうえい;法諱・松林、真宗僧/教育) M 4 9 2 8

松梁(小梁しょうりょう・河田) → 小菴(しょうりゅう・河田/土生、絵師) B 2 2 9 6

蕉了(しょうりょう;号) → 桃源(とうげん;道号・瑞仙、臨濟僧/詩) D 3 1 3 8

尚良(しょうりょう・荒木田) → 尚良(ひさよし・荒木田、神職/歌人) C 3 7 1 4

尚良(しょうりょう・中御門) → 尚良(ひさよし・中御門なみかど、廷臣/連歌) C 3 7 1 5

昌良(しょうりょう・西村) → 昌良(まさよし・西村にしむら、藩士/歌人) R 4 0 4 1

昌良(しょうりょう・金子) → 昌良(まさよし・金子かねこ、和算家) I 4 0 7 4

勝良(しょうりょう・玉木) → 勝良(かつら・玉木たまき/田巻、問屋/歌) V 1 5 0 6

常良(じょうりょう・檜垣) → 常良(つねよし・檜垣/度会、神職/歌人) E 2 9 2 0

乘良(じょうりょう・松平) → 乘良(のりよし・松平まつだいら、幕臣/和学) K 3 5 0 6

鷗鷗斎(しょうりょうさい) → 春水(初世しゅんすい・為永、人情本作者) 2 1 6 1

鷗鷗亭主人(しょうりょうていしゅじん) → 竜淵(りゅうえん・尾本/大江、藩士/儒) C 4 9 9 9

W2239 **静了尼**(じょうりょうに、) ? - ? 江中期;歌人、江戸浅草報恩寺の後室という、  
歌;冷泉家門、石1768野広通[霞関集]初撰本入、

[置く露もよそよりしげし故郷ふるさとを忍ぶの里の草の枕は](霞関;名所の旅)

清凉房(しょうりょうぼう) → 玄昭(玄昭げんしょう;法諱、天台僧) J 1 8 9 1

E2282 **松緑**(松緑しょうりよく・小野おの) ? - ? 江前期上方の俳人、  
1673西鶴「生玉万句」第五梅雨脇句入/1681賀子「山海集」入、  
[烏賊幟いかのぼり雲かと思えて吉野紙](山海集左33/百人一句難波色紙、烏賊幟は江戸では風、  
新後撰;藻壁門院少将/あだに咲く峰の梢の桜花風待つほどの雲かとぞ見る)

B2299 **正琳**(しょうりん;法諱・玉峰ぎょくほう;道号)?-? 鎌倉南北期の臨濟宗建仁寺の僧、  
1348頃建仁寺天潤庵で宋の圓悟克勤「碧巖録(碧巖集)」を復刻;のちに五山文学に影響

L2296 **正琳**(しょうりん・曲直瀬まなせ、名;又五郎、一柳恕心男) 1565-1611<sup>47</sup> 医者;曲直瀬一溪門;  
曲直瀬玄朔(一溪の養子)の女を妻とし一溪の養子、1592法印、豊臣秀次/のち秀吉に出仕、  
宇喜多秀家が朝鮮より持ち帰った書籍多数を贈られる/後陽成天皇治療;養安院号を賜る、  
1608徳川家に招聘され江戸に伺候(半井瑞策・施薬院宗伯と輪番)、分家養安院家の祖、  
連歌1596-1607昌叱・他阿・昌琢らと百韻;

1596「懐旧百韻」97「山河百韻」1602「何人百韻」07「何木百韻」、

[正琳(;)通称]の字/号]字;養安、号;玉翁/養安院、法名;正琳

D2273 **少隣**(しょうりん) ? - ? 泉州堺住人、狂歌;1666「古今夷曲集」入

C2200 **昌琳**(昌林しょうりん・松永まつなが、昌易[寸雲]男、尺五の孫)?-? 江前期京の儒者(家学);父門、  
父の命で祖父尺五13回忌にその詩文集編纂;併せて松永家系譜・事蹟を執筆、講説業、  
1669「尺五先生全集」編

R2201 **承林**(じょうりん) ? - ? 江戸前期俳人;1691不角「二葉之松」1句入、

[儒を呑で気の酔ひ醒むる人心](二葉之松:366)

- C2201 昌林(しょうりん;号・西山にしま、昌察男、宗因の曾孫)?-? 連歌作者、荒木田麗女の連歌の師、  
1734「西山三籟にしまさんらい集」編(曾祖父宗因・祖父宗春・父昌察三代の連歌発句2900句);  
1750「西山三籟集」を伊勢神宮に奉納、1750「神道山路次記」、「愚聞抄」「昌林発句帳」著
- L2297 松隣(しょうりん・大江おおえ、名;広貞)1676-1733<sup>58</sup> 江前期京の儒者;伊藤仁斎門/古義学を修学、  
1696水戸藩に出仕;彰考館入/1707彰考館総裁、「松隣遺稿」、  
[松隣(;号)の字/通称/別号]字;彦輔、通称;助右衛門/介右衛門/介衛門、別号;南塘子
- C2202 松琳(しょうりん) ? - ? 江中期相模の俳人、1766阿曾万呂「さがみぶり」入
- C2203 松隣(しょうりん) ? - ? 江中期俳人;蓼太門、1771「遅八刻」校・序
- L2298 松隣(しょうりん・清水しみず) ? - ? 江後期文政1818-30頃大阪の俳人、  
福島逆櫓の松の傍に住、1836「新題葉集」編、  
[松隣(;号)の通称/別号]通称;貞次郎/木綿屋源兵衛、別号;秋月庵
- 松林(しょうりん・雨滴庵、浮世草子)→ 雨滴庵松林(うてきあんしょうりん) D 1 2 3 5  
松林(しょうりん・加倉井)→ 松山(しょうざん・加倉井かくらい、医/儒者) S 2 2 5 2  
松林(しょうりん・若林)→ 伯円(2世はくえん・講釈師) C 3 6 6 9  
松林(しょうりん・藤井)→ 良文(好文よしふみ・藤井ふじい、藩絵師) O 4 7 8 6  
松隣(しょうりん・若竹)→ 笛躬(2世ふえみ・若竹、浄瑠璃作者) B 3 8 2 2  
松隣(しょうりん)→ 北斎(ほくさい、俳人) D 3 9 0 7  
松隣(しょうりん・狩野)→ 晴皐(せいこう・狩野かのう、藩御用絵師) H 2 4 5 5  
松隣(しょうりん・岩淵)→ 道教(みちのり・岩淵いわぶち、国学/故実) I 4 1 1 4  
蕉仏(しょうりん・菅かん)→ 樸斎(朴斎ほくさい・門田もんでん、儒者/詩) D 3 9 1 6  
章倫(しょうりん・井上)→ 支庵(かいあん・井上いのうえ、漢学) I 1 5 3 3  
昌倫(しょうりん・岡)→ 昌倫(まさとも・岡おか、楽人) E 4 0 7 0  
昌倫(しょうりん・森本)→ 一瑞(いちずい・森本、藩士/軍学) G 1 1 2 8  
昌倫(しょうりん・小田切)→ 昌倫(まさとも・小田切おだぎり、幕臣/国学) O 4 0 1 1  
昌倫(しょうりん・中井)→ 養僊(養仙ようせん・中井なかい、医者) B 4 7 3 4  
韶麟(しょうりん;法諱)→ 瑞巖(ずいがん;道号・韶麟、曹洞僧) E 2 3 2 7
- E2290 常林(じょうりん・長瀬ながせ) ? - ? 撰津俳人/狂歌;1666行風「古今夷曲集」2首入
- L2299 静林(じょうりん;法諱・水竹軒;号、名:宗茂)1637-? 1714存 江前中期の僧/歌人;清水谷実業門、  
持明院基時門、書を嗜む、「静林詠草」1714「奉納自詠和歌」「奉納伊勢大神宮百首和歌」著、  
[山里のにぎほふ門の有数の春の柳やうちけぶるらん](茂睡[鳥の迹]春53)
- V2259 浄林(じょうりん;法諱、) ? - ? 江前期;上方の僧/歌人、  
1670下河辺長流[林葉累塵集]3首入、  
[西を思ふ心ひとつを蓮葉にわが置く露ぞ風なこぼしそ](林葉累塵;夏340)
- 定林(じょうりん;字)→ 聖憲(しょうけん;法諱、真言根来寺僧) I 2 2 4 0  
浄林(静林/乘琳じょうりん;字)→ 深賢(しんけん/じんけん;法諱、真言僧) D 2 2 9 2  
常倫(じょうりん・森川)→ 常倫(つねとも・森川もりかわ、藩士/和学者) G 2 9 6 2  
松隣庵(しょうりんあん)→ 国甫(こくほ・吉田、俳人) M 1 9 2 1  
松林庵(しょうりんあん)→ 倭泉(わせん・石田いさだ、女流俳人) 5 3 4 0  
蕉林庵(しょうりんあん)→ 広沢(こうたく・細井ほそい/辻、儒/書家) 1 9 1 4  
昌林院(しょうりんいん;法号)→ 氏郷(うじさと・蒲生がもう、武将/城主/歌) 1 2 3 1  
松林院(しょうりんいん)→ 実頭(さねあき・阿野、権大納言/歌/連歌) C 2 0 8 3  
松林院(しょうりんいん)→ 信綱(のぶつな・松平/大河内、藩主/老中) C 3 5 1 0  
浄輪院(じょうりんいん)→ 亮太(りょうた;法諱、真宗高田派僧) I 4 9 7 7  
松林院僧正(しょうりんいんのそうじょう)→ 教縁(きょうえん、俗姓源/别当/歌) G 1 6 5 8 g  
松林翁(しょうりんおう)→ 賦泉(ふせん・石田いさだ、俳人) D 3 8 0 8  
松林居(しょうりんきよ)→ 紫暁(しぎょう・宮、俳人) B 2 1 6 3  
松隣軒(しょうりんけん)→ 素覧(そらん・三輪、俳人) E 2 5 4 7  
松林軒南清(しょうりんけんなんせい)→ 温道(よしみち・小野田おのだ/岩瀬/藤原、神職/歌) L 4 7 8 4  
松林斎(しょうりんさい)→ 秀麿(ひでまろ・喜多川きたがわ、絵師) D 3 7 8 5

- 嘯林齋(しょうりんさい) → 宗春(そうしゅん・西山、宗因男/連歌作者) B 2 5 9 6  
蕉林子(しょうりんし) → 西馬(さいば・富処[所]ふどころ、俳人) B 2 0 0 5  
定林寺(じょうりんじ) → 頼貞(よりさだ・土岐とき/源、武将/城主/歌人) I 4 7 6 2  
勝林上綱(しょうりんじょうこう) → 長宴(ちやうえん; 法諱、天台宗学僧) H 2 8 4 3  
松林亭(しょうりんてい) → 盛員(もりかず・友安ともやす、神職) F 4 4 2 7  
松林亭伯円(しょうりんていはくえん) → 伯円(初世はくえん、講釈師) C 3 6 6 8  
松林堂(しょうりんどう) → 正信(まさのぶ・有松ありまつ、和算家) F 4 0 7 6
- J2248 小輪尼(しょうりんに) ? - ? 日本最古の廻文歌作者?、基俊[1060?-1142]と同期か?、藤原基俊仮託の歌論書「悦目抄」(成立は文保1317-19頃か)入、  
[むら草に草の名はもしそなはらばなぞしも花の咲くに咲くらむ](悦目抄)  
[惜しめどもつひにいつもと行く春は悔ゆともつひにいつもとめじを](同上)  
浄輪房(じょうりんぼう) → 慈隆(じりゅう; 法諱/洛山、天台僧/藩政参加) U 2 2 8 9
- M2200 笑嶺(しょうらい; 道号・宗訥そうなん; 法諱、俗姓; 高田) 1505-8379 伊予臨濟僧; 幼時伊予宗昌寺入; のち出家、大徳寺の古岳宗亘門/南宗寺の大林宗套門; 法嗣、  
1558大徳寺107世/1560同寺再任、後撰津広徳寺・棲賢寺/和泉南宗寺・海眼寺住持、  
三好義継創建の大徳寺聚光院の開祖、1569正親町天皇より禅師号贈与、  
「笑嶺和尚法語」「笑嶺宗訥和尚布袋之図自画賛」「泉州竜山二師遺藁」「碧岨へきがん口義」著、  
[笑嶺宗訥の号/通称]号; 喝雲叟、通称; 祖心本光禅師
- 松嶺(しょうらい) → 称斎(しょうさい・鵜飼、藩士/詩) M 2 1 8 1  
松嶺(しょうらい; 道号) → 道秀(どうしゅう・松嶺、臨濟僧) F 3 1 0 1  
松嶺(しょうらい/しょうりょう; 道号) → 道秀(どうしゅう; 法諱・松嶺、臨濟僧) F 3 1 0 1  
松嶺(しょうらい・鵜飼) → 称斎(しょうさい・鵜飼うかい、儒者/藩史官) S 2 2 2 8  
松齡(しょうらい・野呂) → 介石(かいせき・野呂のろ、藩士/絵師) B 1 5 0 9  
松齡(しょうらい・中島) → 栄武(よしたけ・中島なかじま、大庄屋/歌人) O 4 7 1 8  
松齡(しょうらい・根岸) → 宣教(のぶのり・根岸ねぎし、国学/歌人) J 3 5 5 3  
尚齡(しょうらい・河島) → 正卿(まさのり・河島かわしま、商家/詩歌人) P 4 0 0 6  
昌礼(しょうらい・中山) → 黙斎(もくさい・中山/藤原、儒者/教育) 4 4 8 4  
常齡(じょうらい・若松) → 常齡(つねとし・若松/下代、藩士/農政家) C 2 9 6 8  
誠嶺院(じょうらいいん) → 日竟(にっきやう; 法諱・実等、日蓮僧) D 3 3 8 3  
松嶺軒(しょうらいけん) → 蝶眞(ちやうしん; 法諱、僧/法橋) M 2 8 9 6
- E2277 尚列(しょうれつ) ? - ? 姫路の俳人、1692才暦「椎の葉」9句入、  
[朝霧やかかくれぬものはマヤガ嵩たけ](椎の葉; 144/マヤガ嵩は六甲の摩耶山699m)  
承烈(しょうれつ→つぐてる・津軽) → 承昭(つぐあきら・津軽つがる、藩主/歌) F 2 9 0 2  
承烈院(しょうれついん; 法号) → 隆国(たかくに・九鬼くき、藩主/歌) U 2 6 2 8
- W2224 證蓮(じょうれん; 法諱) ? - ? 平安期僧; 法師/歌人; 1165清輔[続詞花集]入、  
[なほざりのふみもかよはず成るにこそかきたえぬとは思ひしらるれ](続詞花; 恋644)
- M2201 勝蓮(しょうれん、勝運、惟基男) ? - ? 鎌倉期真言僧; 阿闍梨、  
歌; 1200「御室撰歌合」(守覚法親王家御室五十首より撰歌し結番; 俊成判)入、  
[花を見るをりをりごとの心こそうきを忘るる世とは成りぬれ](御室撰歌合; 十番右20)
- C2204 昇蓮(しょうれん) ? - ? 1304為家講説?「後撰集正義(秘抄)」: 聞書/補筆
- M2202 彰蓮(しょうれん; 法諱・称願房; 号) ?-1297 真言醍醐寺僧; 金剛王院実賢門; 具支灌頂を受、  
覚濟門; 極位の密印を受/1275頃覚濟の高野山正智院住に随従; 日夜慇懃に益を請う、  
1290-81「灌頂三摩耶戒」「初後夜式」「用意」「支具」4本作り覚濟の刪正を受、「灌頂作法」著
- C2205 紹簾(しょうれん; 紹蓮/紹廉しょうれん: 号・小野) 1676-176186 江戸生/大阪俳人・1697沾徳門、剃髪/1711頃上京、  
1716頃大坂堂島に移住、大坂俳壇江戸風を中心、雑俳点者も兼ねる/茶・香道を嗜む、  
古典書写、1727師追善「知里能粉」編/30「俳諧水鏡」編/43「筆華領」/55「小野氏八十賀集」編、  
1755「うたたね」「独琴」編/「生田宮五千句集」「計伊牙都志鳥」「しなとの樹」「独琴」、  
1754潘山(百子)「しぐれの碑」(; 貞因25回忌・貞峨[紀海音]13回忌追善集)入、  
追善集; 「雪達磨」(舞雪編)/「紹簾発句集」(如黛編)/13回忌「秋の声」、

[元日や非ひを改むる非のはじめ](俳諧古選入)、  
[紹簾(；号)の別号] 魚輔/銀竹堂/一炊庵/天羅坊/近日庵

M2203 尚濂(しょうれん・祇園ぎおん、南海男)1713-9179 紀州和歌山藩儒、儒；父南海門、  
1750父同様に不行跡で瀬戸鉛山に流謫；1762赦免、儒員に復す、詩/画、南海「湘雲瓊語」編、  
「小説檻樓錦」「福州船漂着之節文学祇園氏船主筆談之記」著、「祇園尚濂先生詩集」、  
[尚濂(；名)の字/通称/号]字；師援、通称；孫三郎/余一、  
号；鉄船道人/百懶ひやくらん/餐霞さんか/飡霞そんか・さんか/唐嶼とうしよ

M2204 小蓮(しょうれん・鈴木すずき/修姓；木、名；恭/恭通、絵師鈴木芙蓉男)1779-1803早世25 江戸の儒；父門、  
詩文；皆川淇園門、北条霞亭・大田南畝らと交流、「郡山侯山荘見聞記」/1803「小蓮残香集」、  
[小蓮(；号)の字/通称/法号]字；遠恥、通称；文蔵、法号；小蓮院

生蓮(しょうれん；法名) → 師光(もろみつ・源みなもと、廷臣/歌人) H 4 4 9 7

尚連(しょうれん・佐草) → 美清(よしきよ・佐草さくさ、神職/国学) M 4 7 9 8

聖蓮(しょうれん；法諱) → 聖遵(しょうじゆん；法諱、僧侶/歌人) T 2 2 0 6

小璉(しょうれん・小果) → 清庵(せいあん・小果おがた、藩医/国学) H 2 4 1 9

C2206 静蓮(じょうれん；法諱、俗名；藤原ふじわら重茂/重義、治部丞藤原頼綱男)?-? 平安後期真言僧、  
高野山の法師、歌人；寂然・藤原清輔・実国と交流、千載集1015、続詞花集入、  
[あしひきの山の端近く住むとても待たでやは見る有明の月](千載；雑1015/山家の月)、  
(本歌；足引の山のあなたに住む人は待たでやあきの月を見るらむ；続詞花；三条院)、  
[西山に住みける比 嵯峨野の花どもを折りて人(西行)のもとへつかはすとて、  
鹿のねや心ならねばのこるらんさらでは野辺をみな見するかな(続詞花；秋215)、  
かへし(西行法師/1118-90)、  
鹿のたつ野辺のにしきのきりはらは残りおほかる心地こそすれ(同216)]、  
[静蓮(；法諱)の通称] 侍従入道、

C2207 定蓮(じょうれん) ? - ? 鎌倉期僧/歌人；

鎌倉期1308以前「倭詞わか十首懐紙」入(；寂恵・三善春衡・三善遠衡・静玄[実時]各10首)、

C2208 仍憐(じょうれん・里村さとむら[北家]、仍甫、閑斎、仍民男)1716-6853 幕府連歌宗匠

乘蓮(じょうれん；法名) → 成順(なりより・なりのぶ、高階たかしな、伊勢大輔の夫) I 3 2 4 2

乘蓮(じょうれん；法名) → 資胤(すけたね・中御門/藤原/庭田、権大納言) G 2 3 4 2

浄蓮(静蓮じょうれん；法名) → 重盛(しげもり・平たいら、武将/歌人) D 2 1 1 9

静蓮院(しょうれんいん) → 良助法親王(りょうじよほつしんのう、天台僧) I 4 9 1 9

青蓮院(しょうれんいん) → 道玄(どうげん；法諱、天台座主/歌) D 3 1 5 8

青蓮院泰謹(しょうれんいんたいじん) → 泰謹(たいじん；法諱、天台僧/連歌) B 2 6 6 5

青蓮院二品親王(しょうれんいんにほんしんのう) → 尊円親王(そんえんしんのう) 2 5 3 2

青蓮院宮(しょうれんいんのみや) → 尊鎮親王(そんちんしんのう) E 2 5 9 7

青蓮院宮(しょうれんいんのみや) → 尊円親王(そんえんしんのう、天台座主/書・歌) 2 5 3 2

小簾菅伎(しょうれんかんぎ) → 小簾菅伎(こすのすがき、御簾師/狂歌) G 1 9 6 2

青蓮華[花]院内大臣(しょうれんげいのないだいじん) → 実雅(さねまさ・正親町三条、歌) D 2 0 6 1

青蓮華院宮(しょうれんげいんのみや) → 浄助法親王(じょうじよほつしんのう、天台僧/歌) T 2 2 5 4

勝蓮華寺獅子王宮(しょうれんげいししおうのみや) → 覚法法親王(かくほうほつしんのう、真言僧/歌) B 1 5 7 4

昇蓮社(しょうれんしゃ) → 澄円(ちやうえん、浄土僧) 2 8 4 6

正蓮社(しょうれんしゃ) → 知俊(ちしゆん；法諱、浄土僧) E 2 8 3 5

称蓮社(しょうれんしゃ) → 玄夢(げんむ；法諱、浄土僧/歌人) O 1 8 3 5

証蓮社(しょうれんしゃ) → 恵頓(えとん；法諱、浄土僧) E 1 3 1 4

定蓮社(じょうれんしゃ) → 尊観(そんかん；法諱、浄土宗名越派僧) F 2 5 2 7

上蓮社英誉(じょうれんしゃえいよ) → 了月(りやうげつ；法諱、浄土僧) H 4 9 2 5

正蓮社覚誉等阿(しょうれんしゃかくどうあ) → 秀峰(しゅうほう；法諱、浄土僧) Y 2 1 3 9

正蓮社行誉(しょうれんしゃぎやうよ) → 学信(がくしん；法諱、浄土僧) K 1 5 0 9

聖蓮社慶善(しょうれんしゃけいぜん) → 了暁(りやうぎやう；法諱、浄土僧) H 4 9 0 8

招蓮舎遣誉(しょうれんしゃけんよ) → 真徹(しんてつ；法諱、浄土僧) P 2 2 4 2

貞蓮社源誉(じょうれんしゃげんよ) → 存応(そんのう；字、浄土僧/増上寺発展) F 2 5 7 2

- 清蓮社香譽(しょうれんしゃこうよ)→ 耆山(きざん;法諱・玄海:号、浄土僧) K 1 6 5 5  
 常蓮社在譽(じょうれんしゃざいよ・聖阿慈悲加)→ 祐倫(ゆうりん;法諱、浄土僧) E 4 6 1 3  
 清蓮社浄譽(しょうれんしゃじょうよ)→ 原澄(げんちよう;法諱、浄土僧) L 1 8 3 9  
 定蓮社正譽(じょうれんしゃじょうよ)→ 廓山(かくざん;法諱・一実、浄土僧) J 1 5 9 0  
 浄蓮社祥譽(じょうれんしゃじょうよ)→ 月儼(月仙げっせん;号・玄瑞;法諱、浄土僧/絵師) B 1 8 1 1  
 常連社精譽(じょうれんしゃじょうよ)→ 大愍(たいみん・磯貝いそがい、浄土僧/歌人) V 2 6 6 3  
 聖蓮社神譽(しょうれんしゃしんよ)→ 靈妙(れいみょう;法諱、浄土僧) 5 1 6 8  
 定蓮社禪譽(じょうれんしゃぜんよ)→ 即中(測中そくちゅう;法諱、浄土僧) J 2 5 4 8  
 青蓮舎竹丸(しょうれんしゃたけまる)→ 竹丸(たけまる・青蓮舎、詩歌・俳) O 2 6 7 7  
 乘蓮社頓譽(じょうれんしゃとんよ)→ 知哲(ちてつ;法諱、浄土僧) E 2 8 8 1  
 青蓮社忍譽(しょうれんしゃにんよ)→ 亮徹(りょうてつ;法諱、浄土僧) L 4 9 5 5  
 照蓮社遍譽(しょうれんしゃへんよ)→ 了海(りょうかい;法諱・単阿、浄土僧) G 4 9 7 6  
 性蓮社宝譽(しょうれんしゃほうよ)→ 顕了(けんりょう;法諱、浄土僧) N 1 8 0 0  
 正蓮社法譽(しょうれんしゃほうよ)→ 知俊(ちしゆん;法諱、浄土僧) E 2 8 3 5  
 翔蓮社鳳譽(しょうれんしゃほうよ)→ 鸞洲(らんしゅう;法諱、浄土僧/アイヌ教化) C 4 8 6 1  
 浄蓮社立譽(じょうれんしゃりつよ)→ 堅卓(けんたく;法諱・慧巖、浄土僧) K 1 8 9 3  
 常蓮社立譽(じょうれんしゃりつよ)→ 大基(だいき;法諱、浄土僧) J 2 6 5 7  
 定蓮社良聞(じょうれんしゃりょうもん)→ 東暉(とうき;法諱、浄土宗名越派僧) C 3 1 4 6
- U2231 青蓮尼(しょうれんに/せいれんに)? - ? 月光院(勝田喜世/將軍家宣室1752没)付の女房、  
 剃髮、歌;冷泉家門、1798刊石野広通「霞関集」入、  
 [葛城や高天の山によそめにも白雲ならぬ峰の初雪](霞関;冬635/嶺雪)
- 青蓮阿闍梨(しょうれんのあじゃり)→ 日朝(にっちょう・本果院、日蓮僧) F 3 3 1 3  
 証蓮房(しょうれんぼう) → 覚意(かくい;法諱、真言僧/声明) S 1 5 2 5  
 乘蓮房(じょうれんぼう) → 頓乘(とんじょう;法諱、真宗本願寺派僧) S 3 1 3 2  
 成蓮房(じょうれんぼう) → 兼意(けんい;法諱・成蓮房、真言僧) H 1 8 6 5  
 浄蓮房(じょうれんぼう) → 宝心(ほうしん;法諱・浄蓮房、真言僧) B 3 9 8 1  
 上蓮房(じょうれんぼう) → 上西(じょうさい;法諱・上蓮房、歌人) S 2 2 3 6
- M2205 商露(しょうろう) ? - ? 江前期俳人;1686「春の日」1句入、  
 [すゞかけや死出ゆく空の衣川](春の日;夏/武蔵坊を弔とぶらふ/鈴掛衣の山伏姿の一行)
- M2206 松路(しょうろう) ? - ? 近江の俳人;1691江水「元禄百人一句」目録入
- C2210 松廬(しょうろう;号) ? - ? 江中期俳人;原松門、同門の松佐と師の著を編纂、  
 1740原松「正風論」共編(原松[星月夜]への論難[十五夜]への答駁「星月夜集辨難」著入)
- C2211 蕉露(しょうろう・小宮山こみやま)? - ? 越前敦賀の俳人;蝶夢門、  
 1763師の「松島道の記」同行
- C2212 松廬(しょうろう・野呂のろ、名;隆訓、野呂隆道2男) 1791-1843 野呂隆基の養子/紀伊和歌山の儒者、  
 藩校督学山本東籬門、詩人、一時紀伊湯浅に住/上京;開塾/南画も嗜む、  
 1835和歌山藩家老田辺城主安藤家の招聘で家臣に教授、「松廬詩集」「松廬文集」、  
 「詠古擬楽府」「詠古禱詩」「下学私見」「国史永鑑」「槃澗居遺稿」著、  
 [松廬(;号)の字/通称/別号]字;式夫/翼卿、通称;九介、  
 別号;槃澗/槃澗(はんかん)/盤谷/九鶴山樵/自誤居士
- C2213 松鱸(しょうろう・坂倉さくら、別号;素行堂)?-1853 飛騨高山の医者/医術修学の為江戸松川町住、  
 狂句;杜蝶門、川柳;4世川柳門、1826川柳点者/28帰郷;川柳を広める/29「狂句柳桜」編、  
 1829「滑稽発句類題集」編、30大阪移住;大阪月次会主催/31「滑稽発句類題集二篇」編、  
 1831-43「狂句梅柳」編/大坂南木町三休橋に結庵、「誹風柳多留」240句入、浪速柳多留の祖、  
 [ぐらぐらくらすふうりんの隠居銭](柳多留;九一)
- C2214 笑魯(2世しょうろう・井双庵)? - ? 江後期江戸の俳人;雑俳、  
 1831初世笑魯13回忌追善句集「拾ひ栗」編、1834一声「歌羅衣」入
- M2207 蕉廬(しょうろう・佐藤さとう、名;信古のぶひさ) 1807-79 73 江戸の幕府金座の吏、国学;小山田与清門、  
 詩歌/書/謡曲に通ず、考証家/蔵書家、「詩文雑著」「和歌広葉集」「吾職大全」「総房日記」著、

「宝貨叢記」「佐藤氏蔵書目録」編、1851「山陵図大和国」53黄金出処考」66「蕉廬詩鈔」著、  
歌；1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、1860鋤柄助之「現存百人一首」入、

[みちのくの安達が原の鬼ゆりも霜にはあへず枯れ果てにけり](大江戸倭歌；冬1134)、

[桜見て人はちりにし夕河の岸の山吹今さかりなり](現存百人一首；83)、

[蕉廬(；号)の字/通称]字；子老、通称；彦吉/次左衛門、別号；残翁/残夢/瓢渠間人

M2208 嘯廬(しょう・山田やまだ、名；則之のりゆき/成均)?-1866 越後刈羽郡柏崎の商家/歌人/詩人、  
「軒の橋」「野沢日記」「野沢再遊記」著、

[嘯廬(；号)の字/通称]字；王卿、通称；仁右衛門/仁左衛門

M2209 小魯(しょう・神崎かんだき、名；廉)1803-7169 備中倉敷の儒者；龜山九淵門/諸国遊歴、  
帰郷後子弟教育/易学研究、晩年は郷校明倫館教授、1861「易象揆方」著、

[小魯(；号)の字/別号]字；介夫、別号；朴斎

照路(しょう・三輪) → 照路(てるみち・三輪みわ、陪臣/神職) F 3 0 2 6

松廬(しょう・浜田) → 康次(やすつぐ・浜田はまだ、藩士/文武) G 4 5 4 4

松露庵(初世しょうあん) → 烏酔(ちようすい・白井、俳人) 2 8 2 4

松露庵(二世しょうあん) → 左明(さめい、俳人) D 2 0 9 5

松露庵(三世しょうあん) → 烏明(うめい・東海坊、俳人) 1 2 9 0

松露庵(四世しょうあん) → 雨什(うじゅう、俳人/狂歌) C 1 2 8 0

松露庵(五世しょうあん) → 坐来(ざらい・里見、俳人) L 2 0 6 3

松露庵(しょうあん) → 雪彩(せっさい・松露庵、俳人) L 2 4 0 5

樵路庵(しょうあん) → 敬忠(のぶただ・瀬下せしも、国学・俳/史家) B 3 5 8 3

小魯庵(しょうあん) → 竹軒(ちくけん・酒泉さかかずみ、儒/国史編纂) C 2 8 9 3

少老(しょうろう・日置) → 少老(おおゆ・日置へき、万葉歌人) D 1 4 5 3

松老(しょうろう・福住) → 清風(せいふう・福住/長瀬、商家/歌人) J 2 4 5 3

M2210 常楼(じょうろう；法諱、俗姓；秦)741-81474 山城の法相学僧；善珠門；出家、慈恩門；宗学を修学、  
760(20歳)具戒を修学/806(延暦末)頃勅命で大和秋篠寺住、

40年間に法華経転読124,960卷；毎日般若心経の誦経108回を行う、「最勝王経鈔」著

少郎子(しょうろうし・石川) → 君子(吉美侯きみ・石川朝臣、万葉歌人) B 1 6 8 2

C2215 升六(しょうろく/ますろく；号)1748?-181366? 大阪の人；一時僧として浄国寺に住す、  
のち島之内住；袋物業、俳人；二柳門、西国行脚中の一茶と交流、1798「黄華集」著、  
1799「花柑子」1800「花見次郎」02「面目棒」05「甲子発句集」10「黄華庵句集」「二葉草」編、  
1812「俳諧新深川」「流行百家句集」編、注釈「冬の日註解」、「月夜蟹」著、外編著多数、  
[升六(；号)の通称/別号]通称；升屋六兵衛、別号；無衰庵/黄華庵/正風道場、翁堂3世

C2216 象麓(しょうろく・三野みの、名；必敬/元密、喜昌男)1749-1840長寿92 讃岐榎井村の漢学者；  
1772上京；斎静斎門、徂徠学者/歌；真淵門、高松藩儒臣/郷会所購書；子弟教育、  
「象麓文集」、「藻海文集」編、「繫辞伝古義」「老子経古義」「論語象義」「東讃復讐小伝」著、  
「三野元密口授必簡伝記」著、

[象麓(；号)の字/通称]字；伯慎、通称；弥兵衛、謙谷けんくの父/藻海そうかの兄

M2211 松麓(しょうろく・木暮こぐれ、名；勉)1823-6139 上州榛名の儒者；安中藩儒大山融斎門、  
詩人；名流諸家との唱酬、山田三川に私淑、「晚翠園詩藁」著/「松麓草堂集」(没後1863刊)著、

[松麓(；号)の字/通称/別号]字；勉之、通称；丈助、別号；晚翠園

升六(しょうろく・原田) → 西山(せいざん・原田はらだ、神職/歌人) O 2 4 4 2

庄六(3代目しょうろく・西川) → 可昌(かしょう・大文字屋、俳人) L 1 5 9 1

庄六(しょうろく・深江) → 蘆舟(ろしゅう・深江ふかえ、絵師) B 5 2 6 5

庄六(しょうろく・片岡/大黒屋) → 小槌(こづち・俵の、妓楼主人/狂歌) F 1 9 8 0

庄六(しょうろく・木綿屋) → 兆如(ちようじよ・中島、庄屋/俳人) I 2 8 8 9

正六(しょうろく・山崎) → 宗矩(むねのり・山崎やまさき、国学者/歌) E 4 2 3 1

昌鹿(しょうろく・奥平) → 昌鹿(まさか・奥平おくだいら、藩主/歌人) B 4 0 6 3

蕉鹿(しょうろく・松川) → 痴堂(ちどう・松川、儒者) E 2 8 9 6

蕉鹿(しょうろく・大原) → 観山(かんだん・大原おおはら、儒者) H 1 5 6 5

蕉鹿(しょうろく・渋川/王) → 虚庵(きよあん・渋川/板部/万里小路/王、絵師) N 1 6 0 8

- 小麓庵(しょうろくあん) → 蕉雨(しょう・櫻井さくらい、商家/俳人) F 2 2 3 0  
 蕉鹿園(しょうろくえん) → 虚庵(きょあん・渋川/板部/万里小路/王、絵師) N 1 6 0 8  
 招禄翁(しょうろくおう) → 種彦(2世たねひこ・柳亭、高橋、初世笠亭仙果、戯作者) 2 6 4 4  
 筱鹿吟社(しょうろくぎんしゃ) → 敬喜(たかよし・岡崎おかざき、代官/歌人) W 2 6 2 7  
 丈六子(じょうろくし) → 仏洲(ぶっしゅう; 道号・仙英; 法諱、曹洞僧) H 3 8 4 5  
 貞六堂(じょうろくどう) → 乾峰(2世けんぼう、雑俳点者) D 1 8 0 7  
 庄六郎(しょうろくろう・千秋) → 棟参(むねちか・千秋ちあき/服部、商/国学) D 4 2 9 8
- M2212 **松鱸亭助**(松鱸亭輔しょうろていすけ; 号) **?-?** 江後期京の歌舞伎作者、1837京南側芝居出勤、  
 1848北側芝居; 3世並木五瓶・木場延助らと参加/1852嶺琴八十助と「倭人船」創作に協力、  
 1845「噂有東土産」49「尾上岩藤後日話」50「色時雨浮名朧夜」55「岩見重太郎」外著多数
- C2217 **小和**(しょうわ) **? - ?** 連歌作者、1594昌叱「古今伝授開祝言百韻」参加  
 C2218 **倡和**(しょうわ) **? - ?** 大阪の俳人、1691賀子「蓮の実」三吟歌仙等18句入、  
 [蝶々に行きあたりたる雲雀哉](蓮の実; 166/急降下するひばり)
- M2213 **松和**(しょうわ・町田まちだ、名; 久明、松有男) **1801-7676** 土佐の製紙業/俳人、1859「小夜しぐれ」編、  
 [松和(;)号]の通称/別号]通称; 耕蔵、別号; 日涉園/曙庵  
 昌和(しょうわ・阪、連歌師) → 春海(はるみ・村田、商家/国学/歌) 3 6 3 6  
 簫和(しょうわ・早野) → 白彦(はくりゅう・橘たちばな、華道家) E 3 6 0 9
- V2224 **常和**(初代じょうわ・三村むら、初名; 喜兵衛) **?-1678** 江戸の絵師; 狩野探幽門、  
 1651(慶安4)江戸で酒井忠当に招聘; 出羽庄内藩御用絵師となる、剃髪; 常和と号す、  
 1653(承応2)藩主に随従し庄内に赴く; 以後度々赴く、鶴ヶ岡城の襖絵を画く、  
 歌に長ず、1678(延宝6)没、別号; 共竹軒
- V2225 **常和**(2代じょうわ・三村むら、) **1644-172178** 出羽庄内藩御用絵師; 1704(宝永元)罷免、  
 養子; 三浦良錦、罷免後は[お伽]と号す/1705宝船の画を献上、
- C2219 **常和**(じょうわ) **? - ?** 京の俳人; 雑俳点者、1696「誹諧住吉おどり」入  
 C2220 **常和**(じょうわ・下郷しもと、名; 昌雄、千代倉家5世、蝶羽男) **1715-8571** 尾張鳴海造酒業/亀世嗣/  
 俳; 也有門、1757「こきの芽」65「かれの集」「それならば」編/「続春の日鳴海五哥仙」著、  
 追悼「春の笠」(:学海編)、  
 [常和(;)号]の字/通称/別号]字; 言夫、通称; 次郎八/市左衛門/太夫助、  
 別号; 和菊/晩秀齋/透翁/如羽、法号; 晩秀齋透翁常和禅定門  
 参照 → 鳴海の千代倉家(なるみのちよくらげ)  
 常和(じょうわ) 上記以外 → 常和(つねかず)  
 浄和(じょうわ; 字) → 天倪(てんげい; 法諱、真宗本願寺派僧) 3 0 4 3  
 丈和(じょうわ・本因坊12世) → 本因坊丈和(ほんいんぼうじょうわ、棋士) E 3 9 9 8  
 松隈所(しょうわいしょ) → 茂樹(しげき・蔵田/藤原、役人/歌人) Q 2 1 9 1  
 承和の帝(じょうわのみかど) → 仁明天皇(にんみょうてんのう、深草帝) G 3 3 7 6
- M2214 **松湾**(しょうわん・尾池おけ、名; 世瑣、桐陽2男) **1790-186778** 讃岐丸亀藩医; 父継嗣、漢学; 菅茶山門、  
 詩人、篠崎小竹と交流、1821「蠹余吟卷」著/34「桐陽詩鈔」編/41「梅隠詩稿」64「琴峰詩集」著、  
 1852「穀似集」、「松湾漁唱」「晚翠社詩稿」著、  
 [松湾(;)号]の字/通称/別号]字; 玉民、通称; 享平、別号; 梅隠
- C2221 **如雲**(じょううん・小島こじま) **? - ?** 京の俳人; 如泉門、  
 1684「五百韻三歌仙」よよし(漢語調連句)/91不角「二葉之松」入(245)、  
 [婚礼は是これ人間の柱寄はしらよせ](二葉松; 245/柱寄はぴったりと戸や格子を合わせる材)
- V2247 **如雲**(じょううん・) **? - ?** 江前期; 出家隠遁者/歌人; 浅井忠能ただりと交流、  
 [谷川の氷は今朝ぞときつ風春待ちえたる波の初花](忠能[難波捨草]春9)
- M2215 **如雲**(じょううん・田宮たみや、大塚正甫男) **1808-7164** 田宮半兵衛の養嗣子/尾張名古屋藩士、  
 1832養家家督を嗣、攘夷派の金鉄組を組織; 13代藩主没後に支藩高須藩松平秀之助を擁立、  
 一度失敗するが継嗣成功; 14代徳川慶勝の実現後は勘定奉行/町奉行歴任; 藩政改革着手、  
 1858慶勝の隠居謹慎に連座し幽閉/1862赦免; 国事に奔走、1869名古屋藩大参事、  
 「桶狭合戦記」著、「桂園遺稿」、

[如雲(；通称)の名/字/別通称/号]名；彊立/平篤/篤輝、字；子志、別通称；弥太郎、号；桂園/桂叢、法号；文正院

- 如雲(じょうん；初法諱) → 似雲(じうん；法諱、俗姓；河村、真宗僧/歌人) 2 1 0 1  
如雲(じょうん) → 宗矩(むねのり・柳生やぎゅう、藩主/剣術) C 4 2 1 9  
如雲(じょうん) → 素行(そこう・山鹿やまが、兵学者) 2 5 2 2  
如雲(じょうん) → 宗恬(むねやす・吉田よしだ、幕府医官) C 4 2 7 0  
如雲(じょうん) → 松門(しょうもん・権藤ごんどう、藩医者) B 2 2 6 9  
如雲(じょうん) → 粲(つばら・小出、歌人) E 2 9 3 1  
如雲(じょうん) → 輝尚(てるひさ・大沢おおさわ、藩士/歌人) F 3 0 0 6  
如雲(じょうん) → 正生(まさなり・武田耕雲斎、藩士/天狗党) 4 0 1 6  
如雲(じょうん) → 久春(ひさはる・吉田よしだ、藩士/国学者) M 3 7 3 4  
鋤雲(じょうん・栗本) → 匏庵(ほうあん・栗本、医者/幕臣) 3 9 1 1  
鋤雲(じょうん) → 鐸山(たくとん・木村きむら、藩士/書家) O 2 6 0 0  
舒雲(じょうん・奥田) → 松庵(しょうあん・奥田おくだ、儒者/詩人) Q 2 2 8 0  
舒雲(じょうん) → 国具(くにとも・奥村おくむら、和算家) C 1 7 9 8  
如雲院内大臣(じょういんのないだいじん) → 兼秀(かねひで・広橋/勘解由小路、廷臣/連歌) O 1 5 8 8  
如雲窟(じょうんくつ) → 飛川(ひせん・深山みやま、俳人) C 3 7 4 4  
如雲軒(じょうんけん) → 景軌(かげのり・打它うた/うだ、歌人) L 1 5 1 6  
如雲軒(じょうんけん) → 序令(じょれい・石内、商家/俳人) D 2 2 0 9  
鋤雲軒(じょうんけん) → 湊水(みなみず・渡辺わたなべ/辺、絵師) O 2 2 9 7  
如雲舎紫笛(じょうんしやくてき) → 紫笛(してき・如雲舎、黄檗僧/狂歌) F 2 1 2 1  
C2222 書永(しよえい) ? - ? 江戸俳人；其角座宗匠/点者、1752「江戸十余歌仙」入、54竹翁「誹諧童の的」評点句入  
書英(しよえい・高木) → 耕水(こうすい・高木たかぎ、儒者) J 1 9 9 6  
諸衛(しよえい・永岡) → 久宜(ひさよし・永岡ながおか、神職/歌人) C 3 7 1 8  
M2216 如嬰(じよえい) ? - ? 三河刈谷の俳人；1691「元禄百人一句」目録入  
C2223 徐英(じよえい・伊藤いとう、都貢男)?-? 俳人；父都貢の縁で暁台門/のち士朗門；高弟、1776「蕭条篇」1817「今はむかし」「暁台追善集」編、芭蕉書簡を所持、  
[徐英(；号)の通称] 庄右衛門  
徐英(じよえい・渡辺) → 為英(ためひで・渡辺わたなべ、商家/国学) 2 7 4 5  
助栄亭(じよえいてい) → 貞柳(ていりゅう・油煙斎/鯛屋/永田、狂歌) 3 0 0 9  
書悦山(しよえつざん) → 道宗(どうしゅう・悦山、黄檗僧) F 3 1 0 3  
所右衛門(しよえもん・和泉屋) → 廿古(かんこ・平田ひらた、商家/俳人) Q 1 5 3 4  
所右衛門(しよえもん・成瀬) → 勝紀(かつのり・成瀬なるせ/藤原、藩士/歌) V 1 5 2 8  
所右衛門(しよえもん・横井) → 豊山(ほうざん・横井、儒者/樺太探検) B 3 9 1 5  
諸右衛門(しよえもん・三原) → 重種(しげたね・三原みはら、藩家老/和学) Z 2 1 8 9  
諸遠(しよえん・坂田) → 諸遠(もろとお・坂田さかた、藩士/故実家) H 4 4 4 8  
諸淵(しよえん・麓屋/三瀬) → 周三(しゅうぞう・三瀬みせ、洋学者) X 2 1 8 9  
楯園(しよえん・かしぞの) → 親覽(ちかみ・佐々木、藩士/国学/歌) B 2 8 8 5  
R2211 如円(じよえん) ? - ? 江前期俳人；1693不角「二息」入  
[阿房宮あぼうきゆう今は虚うつけの名に成りて](二息/阿房宮は始皇帝の宮殿)  
V2229 如淵(じよえん・御菌みその、名；為一ためかず/通称；和左衛門) 1807-7569 加賀金沢藩士、儒/国学者  
U2263 如園(じよえん・青木あおき、) 1814-188279 上野勢多郡の神職；赤城神社祠官、  
国学；黒川春村門、画人/寺子屋師匠、維新後；修成講社に参加、  
[如園(；号)の通称/別号]通称；半兵衛、別号；螻か/宇照  
Q2244 如淵(じよえん・田阪たさか、名；忠篤)?-? 江後期安藝黒瀬大多田の生/阿賀住の歌人/俳人、  
三好松甫と親交、[咲続く蒼も見えて冬牡丹](短冊)  
C2224 如燕(じよえん・桃川ももかわ) 1832-1898 講釈師・燕晋門、桃川派の祖  
如淵(じよえん；初道号) → 賢谷(けんこく；道号・宗良、臨濟僧) I 1 8 8 6  
如淵(じよえん・吉雄) → 権之助(ごんのすけ・吉雄よしお、長崎通詞) E 1 9 7 9



- 如淵(じょえん・黒田) → 長知(ながとも・黒田、藩主/連歌) E 3 2 9 8  
 如円(じょえん;法名) → 実定(さねさだ・藤原/後徳大寺左大臣、歌) 2 0 3 8  
 如縁(じょえん→によえん;字) → 阿一(あいち;法諱・如縁、真言律僧/歌) 1 0 5 2  
 M2217 如淵外史(じょえんがいし、姓;梅畑ゆめはた)?-? 江後期山城葛野郡の戯作者、  
 1847-55刊「忠義教誠赤松譚」著、  
 [如淵外史(;号)の通称] 乙五郎  
 所縁亭(初世じょえんてい) → 一嘯(初世いっしょう・所縁亭、華道家) H 1 1 3 5  
 所縁亭(2世じょえんてい) → 一嘯(2世いっしょう・所縁亭、華道家) H 1 1 3 6  
 渚鷗(しよおう・松平) → 春嶽(しゅんがく・松平まつだいら、藩主/詩歌) J 2 1 3 3  
 M2218 恕翁(じょおう・吉岡よしおか、名;豊郷、吉岡玄昌養子)?-1779 因幡鳥取藩米子組藩医;1725養父継嗣、  
 元文1736-41頃上京;堀元厚門、1760鳥取本藩に拔擢;74藩主池田重寛の匙役/江戸詰中没、  
 俳人;江戸向島弘福寺に句碑寄進、中国の中蔵経を校正;1742「新校正中蔵経」著、  
 [恕翁(;通称)の別通称/号]別通称;玄的/玄昌2世、号;仁庵、法号;如是軒如翁玄忠居士  
 恕翁(じょおう・滋野) → 瑞龍軒(初代ずいりゅうけん、滋野、講釈師/読本/狂歌) 2 3 9 3  
 如翁(じょおう・大岡) → 篤雄(あつお・大岡おおおか、真言僧/狂歌) H 1 0 2 1  
 渚屋(しよおく・鷹見) → 保利(やすとし・鷹見たかみ/南条、商家/歌) G 4 5 2 2  
 助夏(じょか・藤原) → 助夏(すけなつ・藤原ふじわら、廷臣/連歌) G 2 3 7 7  
 助嘉(じょか・熊坂) → 蘭斎(らんさい・熊坂くまさか、医者/蘭学/画) C 4 8 2 1  
 所介(しよかい・日野) → 所介(のぶすけ・日野為臣、藩士/地誌) B 3 5 6 9  
 諸会(しよかい・葛井) → 諸会(もろあい・葛井連ふじいのむらじ、廷臣/歌人) G 4 4 9 8  
 M2219 如蟹(じよかい・藤栄軒とうえいけん)?-? 江前期歌人;阿野実藤門、  
 1699紀行「藤栄春の記」(絵入藤栄春野)著(近江付近の旅詠37首)  
 M2220 如回(じよかい) ?-? 大阪俳人;1702轍士「花見車」目録入  
 C2225 如塊(じよかい;号・岡田) ?-? 江中期大阪の俳人、1705撰集「誹諧何枕」編  
 M2221 如芥(じよかい;号) ?-1767 備後府中の俳人;浮風(野坡門)門、俳人貫千の兄、  
 1762「密語橋ささやきばし」貫千/東歩と共編(浮風序)、如芥3回忌追善「鴈の羽風」;貫千/冬芽編  
 如晦(じよかい・大田) → 愚溪(ぐけい・大田おた、儒者) C 1 7 3 5  
 恕誨(じよかい・酒井) → 忠道(ただみち/ただひろ・酒井、藩主/詩歌) F 2 6 8 7  
 恕介(じよかい・矢島) → 立軒(りっけん・矢島やじま、藩儒) B 4 9 7 7  
 叙又(じよがい、庄司) → 道恕斎(どうじょさい・庄司、新吉原名主/隨筆) F 3 1 5 4  
 徐崖(じよがい・福住) → 清風(せいふう・福住/長瀬、商家/歌人) J 2 4 5 3  
 R2202 如角(じよかく) ?-? 江前期俳人;1691不角「二葉之松」2句入(272/343)  
 [人六十むそち蠟燭五分に減ルこゝろ](二葉之松;272/人生あと五分[1.5cm])  
 M2223 恕覚(じよかく;法諱) ?-? 江前期元禄1688-1704頃天台僧;弘前薬王五世、  
 弘前藩主津軽信政[1646-1710]の帰依を受、「天台宗縁起」著  
 M2222 如雀(じよかく・一宮いちのみや、別号;桃林)?-? 江戸中期上州の神職;榛名神社社家般若坊の主人、  
 俳人;平花庵雨什[1704-1813]門、「如雀歌仙帖」「如雀句帖」著  
 如格(じよかく) → 立志(4世りゅうし・浅見、俳人) E 4 9 3 8  
 諸嶽奕堂(しよがくえきどう) → 梅崖(せんがい;法諱・奕堂、曹洞僧) F 2 4 9 2  
 初学堂(しよがくどう・中川) → 狂言堂(きやうげんどう・近松、浄瑠璃/囃会/雑俳) N 1 6 6 7  
 書画斎(しよがさい) → 梅岳(ばいがく・海野うんの、高橋/絵師) 3 6 8 6  
 諸葛(しよかつ・伊東) → 太逸(ひろはや・伊東いとう/藤原、医者) L 3 7 1 1  
 書画介(しよがのすけ・山県) → 二承(にしょう・山県やまがた、絵師/俳人) 3 3 2 2  
 M2224 渚岩(しよがん) ?-? 俳人;東潮門、1696大魚「留守見舞」連句参加  
 C2226 如環(じよかん・華文軒) ?-? 読本作者、1780「怪談見聞実記」著  
 C2227 如閑(じよかん・喜多見) ?-? 読本作者、1781「当世鳥の跡」著  
 如閑(じよかん・永原) → 孝治(たかはる・永原/赤座、藩士/連歌) M 2 6 9 0  
 如環(じよかん・中西) → 敬房(たかふさ・中西、書肆/曆算) N 2 6 1 3  
 如願(じよがん→によがん法師) → 秀能(ひでとう・藤原、武家/廷臣/歌人) 3 7 0 9  
 如寒斎(じよかんさい) → 狙仙(せんそせん・森もり、絵師) D 2 5 9 5

- 如竿子(じょかんし) → 宗徧(そうへん・山田やまだ、茶人) C 2 5 9 0
- C2228 助宜(じよぎ・結城ゆうき、通称;平蔵)?-? 幕府家士/俳人;1840若人より曾良旅日記を譲る
- E2297 助宜(じよぎ、普天間親雲上ふてんまべえちん)?-? 琉球の詩人、「那覇遊草」、「顧余嬉詩集」著
- M2225 如菊(じよきく) ? - ? 京の俳人;1782几董門;初懐紙に[少年]とある、  
1783維駒「五車反古」1句入、  
[桐の木の梢にちかし雲の峰](五車反古;巻首247)
- 序菊(じよきく;号) → 尊朝親王(そんちやうしんのう、青蓮院門跡/書家) 2 5 3 3
- 女几山(じよきさん) → 采菊(さいきく・小宅おやけ、藩士/儒者) G 2 0 6 2
- M2226 初及(しよきゆう) ? - ? 若狭の俳人;1691「元禄百人一句」目録入
- 睨鳩(しよきゆう) → 諸九尼(しよきゆうに、俳人) C 2 2 2 9
- 睨鳩(しよきゆう) → 中洲(ちゆうしゆう・中島なかじま、神道) G 2 8 2 4
- 助求(じよきゆう・曾我) → 助弼(すけすけまき・曾我そが/平、幕臣) G 2 3 8 3
- 助給(じよきゆう) → 雲鼓(うんこ・堀内、俳人) B 1 2 1 3
- 助給(じよきゆう;字) → 牛秀(ぎゆうしゆう;法諱・助給、浄土僧) M 1 6 6 9
- 助給(じよきゆう・石原) → 存古(そんこ・石原いしはら、藩士/俳人) E 2 5 8 1
- 如牛(じよぎゆう・隠岐) → 米史(べいし・隠岐おき、俳人) 2 7 4 7
- C2229 諸九尼(しよきゆうに・もろくに、有井ありい、名;なみ、永松八郎右衛門3女) 1714-8168 筑後竹野郡唐島村生、  
縁戚の中原村庄屋永松万右衛門の妻、1743?旅の医師有井湖白[浮風]と駆落;大阪に住、  
俳人;浮風[野坡門]門/野坡門、55京五条の九十九つも庵住、1762浮風病没;剃髪し西国行脚、  
1763浮風追善「その行脚集」編、67京岡崎の湖白庵入庵/晩年直方帰住、蓼太/大江丸と交流、  
1766「諸久尼歳旦帖」67「湖白庵集」編/69「聖節」72「秋風しゆうふうの記」、「筑紫紀行」著、  
晩年は筑後に帰り直方住、遺吟;「諸久尼句集」(竹両編)/「諸久尼続発句集」(其両編)、  
[一零ひとしづくこぼして延びる木この芽かな](諸久尼句集)、  
[百合咲くや汗もこぼさぬ身だしなひ](諸久尼句集/夏暑さにも隙ない伶俐な女の姿)、  
[諸九尼(;号)の別号] 初号;波女(浪女)、睨鳩しよきゆう/諸九、[別称]千鳥庵後婦(ちどりあんどぶ)  
書行(しよぎゆう・長谷川) → 角行(かくぎゆう・長谷川、修験行者) J 1 5 6 8
- 如竟(じよきゆう・横地) → 丈助(じょうすけ・横地よこち、言語研究) K 2 2 2 1
- M2227 徐暁(じよぎゆう・村上むらかみ)? - ? 江戸幕末期越前村国の俳人;徐風庵系、  
1862「月の面影」編、  
[徐暁(;号)の通称/別号]通称;弥十郎、別号;白梅園/六水観
- W2215 聖教院亀王(しよきゆういんのかめおう)?-? 鎌倉期;南都の聖教院の童、歌;1237刊檜葉集入、  
[病重く一寺大衆慰問したが大層弱り大衆を返し、母の心を推し量り、  
たらちめの後のなげきにくらぶればさきだたむ身は数ならぬかな](檜葉;雑童709)  
のち、亀王の没後に観英法師の追悼の歌あり
- 如鏡上人(じよきゆうしやうにん) → 祖円(そえん・規庵、臨濟僧) D 2 5 3 6
- 如玉(じよぎよく・中島) → 米華(べいか・中島なかじま、藩士/儒者) 2 7 1 5
- 如玉(汝玉じよぎよく・雨森) → 城橋(じよきゆう・雨森あめのもり、藩士/儒者) I 2 2 0 4
- 汝玉(じよぎよく・室) → 鳩巢(きゆうそう・室、幕臣/儒者) 1 6 2 8
- 汝玉(じよぎよく・西郷/保科) → 近恵(ちかひり・保科ほしな/西郷、藩家老/神職) B 2 8 6 5
- 杵虚陳人(しよきよちんじん) → 亀文(きぶん・大河原、商家/和漢学/戯作) G 1 6 2 1
- 諸近(しよきん/もろちか・坂田) → 諸遠(もろとお・坂田さかた、藩士/故実家) H 4 4 4 8
- M2228 如金(じよきん;法諱・玉岡ぎよくこう;道号) 1327-9771 越前の曹洞僧;別源円旨門/詩文:雪村友梅門、  
越前弘祥寺・筑前聖福寺住持、1386建仁寺61世/天竜寺28世、「洞裏春風集」
- C2230 如琴(じよきん・津田つた) ? - ? 江前期京の錦室町西入ル住の俳人:  
1687言水「京日記」・「俳諧三月物」・「俳諧前後園」・「新三百韻」・「俳諧仮橋」・「俳諧破暁集」入、  
「遠眼鏡」・「俳諧新始」などに歌仙・発句入、1690言水「新撰都曲」4句入、  
1691江水「元禄百人一句」1句入/1702轍士「花見車」1句入、  
[立てるより倒ふれてすごきかゞし哉](百人一句;45/案山子の形相のすごさ)
- 如琴(じよきん・那珂) → 通博(みちひろ・那珂なか、儒/詩歌) C 4 1 3 9
- 汝鈞(じよきん・伊藤) → 若冲(じやくちゆう・伊藤、商家/絵師) G 2 1 3 3

子翼(しよく・吉田) → 南涯(なんがい・吉田よしだ、医者) I 3 2 6 6  
 子翼(しよく・田中) → 玉峰(ぎよくほう・田中たなか、書家/俳人) P 1 6 3 8  
 子翼(しよく・林) → 十江(じっこう・林/高野、篆刻家) E 2 1 8 6  
 子翼(しよく・小池) → 曲江(きよくこう・小池こいけ、藩士/絵師) O 1 6 8 8  
 子翼(しよく・田中) → 世顕(つぐあき・田中たなか、医者) F 2 9 9 1  
 稷(しよく・花野井) → 有年(ありとし・花野井はなおい、医/国学/歌) F 1 0 5 0  
 植(しよく・戸板) → 保佑(やすすけ・戸板/多々良/多、和算/改暦) B 4 5 7 2  
 如愚(じょぐ) → 朴庵(ぼくあん・佐藤、独笑庵、詩/俳人) C 3 9 8 6  
 職員(しよくいん・中原) → 職員(もとかず・中原/平田、官人、記録) C 4 4 2 3  
 職寅(しよくいん・平田) → 職寅(もとら・平田/出納/中原、故実) D 4 4 3 8  
 職尹(しよくいん・榊原) → 職尹(もとただ・榊原/源、幕臣/記録) C 4 4 9 3  
 職央(しよくおう・平田) → 職央(もとなか・平田/出納/中原、故実) D 4 4 4 4  
 職応(しよくおう・上林) → 職応(つねまさ・上林かんばん、郷土史家) D 2 9 6 8  
 植覚(しよくかく) → 桓覚(かんかく・岡崎、歌人) D 1 5 5 3  
 職愨(しよくかく・小野) → 職愨(もとよし・小野おの、本草家) E 4 4 8 0  
 職教(しよくきょう・勢多/平田) → 職教(もとり・平田/出納/中原、記録) D 4 4 8 8  
 織錦斎(しよくきんさい) → 春海(はるみ・村田、商家/国学/歌) 3 6 3 6  
 職厚(職孝しよくこう・平田) → 職厚(もとあつ・平田/出納/中原、廷臣/故実) C 4 4 0 5  
 職孝(しよくこう・安部/小野) → 蕙畝(けいほ・小野おの、本草家) G 1 8 6 3  
 触光(しよくこう・雄蓮社) → 詮察(せんさつ; 法諱、浄土僧) M 2 4 3 5  
 織江(しよくこう)すべて → 織江(おりえ)  
 食行身禄(しよくこうしんろく) → 食行身禄(じきぎょうみろく、商家/神道行者) M 2 1 4 1  
 埴斎(しよくさい) → 政明(まさあき・川喜田かわきた、歌人) B 4 0 1 0  
 職在(しよくざい・平田) → 職在(もとあり・平田/出納/中原、廷臣/故実) C 4 4 0 8  
 如愚斎(じょぐさい) → 小篁(しょうこう・岡田おかだ、藩士/儒者) I 2 2 7 7  
 C2231 触山(しよくざん、山口やまぐち、寛之助、柳塙) ?-? 1818種彦より「柳亭浄瑠璃本目錄」授与  
 蜀山人(しよくさんじん、四方赤良) → 南畝(なんぼ・大田、幕臣/狂歌) 3 2 3 3  
 蜀山人(2世しよくさんじん) → 文室(ぶんぼう・文宝亭、商家/狂歌) G 3 8 4 7  
 食山人(しよくさんじん) → 文室(ぶんぼう・文宝亭) G 3 8 4 7  
 C2232 殖子(しよくし・藤とう、藤原信隆女、七条院) 1157-1228 72 平安末鎌倉初期; 高倉天皇の後宮、  
 後鳥羽天皇の母、  
 女房歌人に嘉陽門院越前・七条院権大夫ごんのだいぶ・七条院大納言・七条院讃岐・尾張がいる  
 職子(しよくし・源) → 職子(しきし・源、甲斐掌侍/故実家) B 2 1 4 9  
 職資(しよくし・平田) → 職資(もとすけ・平田/出納/中原、故実) C 4 4 7 1  
 寔子(しよくし・近衛) → 寔子(ただこ・近衛このえ/島津、家斉室/広大院) U 2 6 3 6  
 織治(しよくじ・伊藤) → 藤景(ふじかげ・伊藤、藩士/兵法家) C 3 8 4 1  
 C2233 濁子(じよくし・中川なががわ、名; 守雄) ?-? 美濃大垣藩士、俳人; 1677芭蕉門、大石良雄と親交、  
 1683其角「虚栗」85風瀑「一楼賦」88仙化「蛙合」99「幽蘭集」入、94「炭俵」1句/98「続猿蓑」2句入、  
 [東雲や舞良戸まいらどはづすかざり松]炭俵; 上/立春/舞良戸は屋敷玄関の細横棧の板戸  
 [濁子(;号)の通称/別号]通称; 甚五兵衛、致仕後の号; 惟誰軒素水いすいけんそすい  
 職実(しよくじつ・小野) → 職実(もともち・小野、本草家) E 4 4 3 6  
 式子内親王(しよくしなしいんのう) → 式子内親王(しきしなしいんのう) 2 1 0 7  
 式子内親王家中将(しよくしなしいんのうけのちゅうじょう) → 中將(ちゅうじょう) G 2 8 3 8  
 職修(しよくしゅう・平田) → 職修(もとおさ・平田/出納/中原、廷臣/故実) C 4 4 2 0  
 職周(しよくしゅう・平田) → 職周(もとかね・平田/出納/中原、故実/日記) I 4 4 4 6  
 職俊(しよくしゅん・平田) → 職俊(もとし・平田/中原、故実/生職男) D 4 4 2 8  
 職俊(しよくしゅん・平田) → 職俊(もとし・平田/中原、故実/職方男) D 4 4 3 0  
 蜀相館(蜀相勸しよくしやうかん) → 弘菴(こうりゅう、俳人/芭蕉句碑建立) L 1 9 5 8  
 職辰(しよくしん・平田) → 職辰(もとき・平田/出納/中原、故実) D 4 4 2 6  
 織人(しよくじん・富田) → 重貞(しげさだ・富田、藩士/記録) R 2 1 0 2

- 織人(しよくじん・富田) → 貞章(さだあき・富田とみた、藩士/書家) H 2 0 6 6  
織人(しよくじん・富田) → 貞詳(貞祥さだみつ・富田、藩士/記録) J 2 0 8 2  
織人(しよくじん・富田) → 貞行(さだゆき・富田とみた、藩士/記録) K 2 0 1 4  
C2234 濁水(じよくすい) ? - ? 撰津伊丹の俳人、1705百丸「逃亭伊丹希李にげていにけり」入  
職清(しよくせい・平田) → 職清(もときよ・平田/出納/中原、故実) C 4 4 4 2  
職正(しよくせい・平田) → 職正(もとまさ・平田/出納/中原、日記) I 4 4 4 7  
職盛(しよくせい・平田) → 職盛(もともり・平田/出納/中原、官人) E 4 4 4 4  
職忠(しよくちゆう・平田) → 職忠(もとただ・平田/出納/中原、故実/歌) C 4 4 9 2  
職朝(しよくちゆう・花房) → 職朝(もとも・花房はんぶさ/堀田、幕臣) D 4 4 3 4  
職直(しよくちよく・平田) → 職直(もとなお・平田/出納/中原、故実) D 4 4 4 1  
稷通(しよくつう・花野井) → 有年(ありとし・花野井はなのい、医/国学/歌) F 1 0 5 0  
職定(しよくてい・平田) → 職定(もとさだ・平田/出納/中原、故実) C 4 4 4 2  
職登(しよくと・小野) → 職登(もとより・小野おの/佐伯、官人/歌) J 4 4 4 7  
職仁親王(しよくにんしんのう) → 職仁親王(よりひとしんのう・有栖川宮) J 4 7 5 8  
職博(しよくはく→もとひろ・小野) → 蘭山(らんざん・小野おの、医者/本草家) C 4 8 3 0  
職夫(しよくふ・三栖谷/馬場) → 佐十郎(さじゅうろう・馬場、通詞/洋学者) B 2 0 6 5  
色弗(しよくふつ・忌部) → 色弗(色夫知しごぶら・忌部いむべ、廷臣) T 2 1 4 4  
職平(しよくへい・中原) → 職平(もとひら・中原/平田、官人/記録) E 4 4 0 6  
職甫(しよくほ・平田) → 職甫(もとすけ・平田/出納/中原、故実) C 4 4 7 2  
職方(しよくほう・小佐治/平田) → 職方(もとかた・平田/出納/中原/小佐治、廷臣/故実) C 4 4 3 5  
M2229 燭遊(しよくゆう) ? - ? 俳人;1689「あら野」1句入、  
[行く蝶のとまり残さぬあざみ哉](あら野;巻二)  
埴鈴(しよくれい) → 玄達(げんたつ・松岡/松、儒医/本草) C 1 8 6 1  
埴鈴子(しよくれいし) → 正義(まさよし・有馬/坂木/榊、藩士/勤王) I 4 0 7 0  
諸君(しよくん・磐余忌寸) → 諸君(もろきみ・磐余忌寸いわれのいみき、進歌) H 4 4 1 8  
C2235 如慶(じよけい・住吉すみよし/初姓;土佐、名;広通) 1599-1670 和泉堺の絵師;土佐光吉・光則門、京住、  
1625天海僧正の推薦で江戸で「東照宮縁起絵巻」制作;54御所障壁画制作に参加、  
1661妙法院堯然親王の許に剃髪;如慶号、法橋、62後西天皇勅で慶忍後の住吉姓を名乗る、  
法眼/住吉派中興の祖、「堀川殿夜討絵巻」「菊花写生図巻」「年中行事絵巻」「光明寺縁起」、  
「狭衣下絵」「三十六歌仙」「職人尽絵巻」「住吉潮干図」「豊玉姫物語」「夢物語」外多数、  
[如慶(;号)の通称/法号]通称;内記、法号;如慶月江広通居士、具慶の父  
C2236 如圭(じよけい・多賀たが・流光斎) ?-1810? 大阪北堀江四丁目瓶橋の絵師:薔関月門、  
新地京橋町移住/一時住吉にも住す、板刻の密画に長ず;上方様式の役者絵を確立、  
上方錦絵の端緒、役者似顔絵・芝居関係書・戯作や狂歌の挿絵を残す、松好斎半兵衛の師、  
1784「旦生言語備やくしゃものいわい」、90「画本行漚えほんにわたずみ」、94「絵本花菖蒲」95「通者茶話太郎」、  
1801-1804「絵本拾遺信長記」1802「劇場画史」03「月氷奇縁」04「役者文章直指箱」画、  
1810「絵入再刻西行撰集抄」、「三都劇場田植草」「三都劇場初穂草」画、外画多数、  
[如圭(;名)の通称/号]通称;慈平/子健/朴仙、号;流光斎、朴仙(2世)の父  
C2237 如圭(じよけい・片岡かたおか、名;基成) ?-?60歳没 江中期天明1760-89頃京の易学者;新井白蛾門、  
1767「易術夢断」68「易術妙鏡」/69「左伝占例考」/73「易話」、「易学啓蒙解」「易術手引草」著、  
「易術伝」「易術明画」「易林図解」「国語占例考」「世説解難」「唐明詩箋」「易術便蒙」著、  
[如圭(;号)の字/通称]字;平甫へいすけ、通称;吉二郎/平助  
如圭(じよけい;号) → 雪村(せつそん:道号・周継:法諱、絵師/禅僧) E 2 4 5 3  
如圭(じよけい・遠藤) → 香村(こうそん・遠藤・猪狩いかり、絵師/詩) K 1 9 4 1  
如圭(じよけい・江村) → 如亭(じよてい・江村、儒者/本草家) C 2 2 8 2  
如圭(じよけい・宮武) → 正策(しょうさく・宮武みやたけ、藩医/漢学) V 2 2 3 2  
怨卿(じよけい・巖田) → 洲尾(しゅうび・巖田いわた、儒者/詩文) Y 2 1 2 5  
怨卿(じよけい・大塚) → 松廼(しょうしよ・大塚おおつか、藩儒/剣術) T 2 2 1 2  
叙卿(じよけい・青木) → 周斎(しゅうさい・青木あおき、医者/儒詩) X 2 1 3 0  
徐卿(じよけい・依田) → 誠廬(せいろ・依田よだ、儒者) D 2 4 2 1

- 舒閏(じょけい・乳井) → 貢(みつぎ・乳井にゅうい/鈴木、藩士/財政) D 4 1 2 6  
 序卿(叙卿じょけい・芳野) → 南山(なんざん・芳野よし、医者/詩) J 3 2 1 0  
 庶傑(しよけつ・高橋) → 竹中(ちくちゅう・高橋たかはし、漢学者) D 2 8 4 5  
 如月(じよげつ;道号) → 壽印(じゅいん;法諱・如月、臨濟僧) G 2 1 6 7  
 如月庵(じよげつあん→きさらぎあん) → 馬丈(ばじょう・如月庵、華道) E 3 6 6 0  
 汝月齋(じよげつさい・滝口) → 美顔(よしみね・滝口たきぐち/紀、神職/歌人) H 4 7 5 4
- C2238 **處謙**(じよけん;法諱・潜溪せんけい;道号、号;普円国師)?-1330 武蔵の臨濟僧;円覚寺無学祖元門、  
 のち東福寺の円爾門/嗣法、博多承天寺11世/東福寺13世、1326南禅寺10世、  
 播磨宝光寺/摂津澄心寺/伊勢浄法寺を開創、「鏡堂和尚語録」編/「普円国師語録」著  
 庶賢(しよけん;名) → 尊賞法親王(尊昭そんしょうほつしんのう、興福寺別当) F 2 5 5 5  
 蔗軒(しよけん;号) → 大叔(だいしゆく;法諱・季弘、臨濟僧) B 2 6 5 6
- C2239 **如見**(じよけん・樋口ひぐち、通称;五貫屋)?-? 和泉貝塚の俳人・西山宗因門、大阪で点者に勤む、  
 1676天満千句・玖也百韻入、1681賀子「山海集」/82春林「俳諧百人一句難波色紙」入、  
 [短冊や見れば旅宿の大根汁](山海集;左23、  
 謡曲「忠度」;箴を見れば不思議やな 短冊をつけられたり 見れば旅宿の題をすゑ)
- C2240 **如見**(怒見じよけん・西川にしかわ/本姓;源、名;忠英、忠益男)1648-1724<sup>77</sup> 肥前長崎生糸鑑定役人の生、  
 儒;1672南部草寿門、1697隠居/天文曆算家;師不詳、思想;儒教自然観と実証主義の折衷、  
 1719将軍吉宗に江戸城で下問を受、1695「華夷通商考」99「右旋辯論」1700「日本水土考」著、  
 1708「華夷商業叢書」20「長崎夜話艸」、「町人考見録」「西川流算書」「町人囊ぶくろ」外著多数、  
 [豊臣関白の御時 驕る者久しからずといふ落書ありしに  
 関白の御返書に 驕らぬ者も久しからずとおほせられし](町人囊)  
 [如見(;字)の通称/号]通称;次郎右衛門、号;求林斎/淵梅軒/釣潮子、法号;金梅院  
 如見(じよけん・吉田) → 宗彦(そうたつ・吉田よしだ、幕府医官) I 2 5 3 8  
 如兼(じよけん・吉川) → 広家(ひろいえ・吉川きつかわ、武将/領主/連歌) F 3 7 5 3  
 如軒(じよけん・片岡) → 醇徳(あつり・片岡かたおか、庄屋/郷土史) E 1 0 7 6  
 如憲(じよけん;法諱) → 用章(ようしょう;道号・如憲、臨濟僧) K 4 7 0 6  
 汝俊(じよけん・佐々木) → 定賢(さだかた・佐々木/六角、藩士/系図) H 2 0 9 6  
 怒軒(じよけん・賀島) → 兵介(ひょうすけ・賀島、藩士/建議;配流) F 3 7 2 8  
 怒軒(じよけん;剃髮号) → 守熙(もりひろ・栗阪あわさか、藩士/地誌) G 4 4 4 0  
 怒軒(じよけん・山本) → 謙斎(けんさい・山本やまもと、藩士/儒者) J 1 8 0 1  
 怒軒(じよけん・大口) → 樵翁(しょうおう・大口おおぐち、茶人/香道) H 2 2 3 7  
 枷軒(じよけん・佐々原) → 梅操(ばいそう・佐々原ささはら、儒者) B 3 6 7 5  
 助賢(じよけん・本多) → 助賢(すけとし・本多/藤原/戸田、藩主/歌) G 2 3 6 4
- M2230 **如幻**(じよげん・菊岡きくおか、行正男)1628-1703<sup>76</sup> 元伊賀の郷土、父が伊賀上野で町人:  
 質業(久米屋)で豪商、和学・歌・俳諧;:京の北村季吟門、歌人として活躍、地誌・郷土史研究、  
 1684隠居;著述に専念、郷土史家、「伊賀乱記」「伊賀越復讐論」編、  
 「柴栗草紙」「殺法転輪記」「伊乱記(伊陽平定志)」「世諺一統」(150巻)/「伊賀旧記」著、  
 1687「伊水温故」著;冒頭歌[夕闇のまよひの夢もすへ終に月になりゆくをちかたの雲]、  
 城南村九品寺に薄を植え碑建立;  
 [けふよりは袖合山の影かくす刈生のすゝき片見とも見よ](袖合山は九品寺の山号)、  
 行尚の父/行尚の猶子房行は別家を成し江戸に住し表装師・のち露沾門俳人沾涼となる、  
 [如幻(;号)の名/別号]名;行宣(ゆきのぶ、通称;市左衛門(代々の称)、別号;随世[性]軒/如幻、  
 法号;幽夢如幻居士  
 参照 → 沾涼(せんりょう・菊岡きくおか、商家/俳人) 2 4 4 5
- C2241 **怒元**(じよげん・中島) ? - ? 江前期17c<sup>t</sup>儒者、「春秋通解」共著(仁斎日記入)  
 R2215 **如言**(じよげん) ? - ? 甲斐の俳人;1697不角「双子山前集」入、  
 [姫ひめ一目人買ひとかひ一目金かね一目](双子山前集/前句;思はず知らず抱き付きにけり)、  
 (娘・女衞ぜげん・金を交互にながめる悲しくつらい親心)
- C2242 **如元**(じよげん・荒木あらか/旧姓;一ノ瀬いちのせ、名;直忠)1765-1824<sup>60</sup> 肥前長崎の絵師;荒木元融門、  
 元融の養子、ガラス絵;義兄融思門、融思が石崎家を継嗣したため急遽荒木家3代を継嗣、

唐絵目利職を継嗣、洋風画制作、1791以前に家督を後継に譲渡；一ノ瀬に復す、  
1787「唐蘭船持渡鳥獸図」1800「吉雄耕牛像」、「オランダ海港図」画など、

[如元(；号)の通称]善十郎/善四郎、若杉五十八とともに長崎二大洋画家と称される

如元(じょげん・大給) → 近陳(ちかのぶ・大給だいぎゅう/松平、藩主) M 2 8 1 8

如言(じょげん；号) → 宗仙(そうせん；号、連歌作者) I 2 5 2 5

如幻(じょげん；字) → 道空(どうくう；法諱・如幻、真言学僧) C 3 1 9 6

如幻閣(じょげんかく→にょげんかく) → 性海(しょうかい；法諱、本願寺派僧) H 2 2 6 0

如幻斎(じょげんさい) → 箕山(きざん・藤本ふじもと/畠山・笠原、古筆鑑定/色道) 1 6 1 3

恕軒散人(じょけんさんじん) → 謙斎(けんさい・山本やまもと、藩士/儒者) J 1 8 0 1

初午(しょご・伊南) → 芳通(よしみち・伊南いなみ/佐藤・杉本、軍学者) H 4 7 3 6

M2231 如枯(じょこ) ? - ? 美濃多良の俳人；1691江水「元禄百人一句」目録入

諸光(しよこう・橘/薄) → 諸光(もろみつ・橘/薄、廷臣/狂歌) F 4 4 9 2

諸香(しよこう・中馬) → 諸香(もろか・中馬ちゅうま、藩士/歌人) K 4 4 5 1

庶康(しよこう・笠原) → 庶康(ちかやす・笠原かさばら、藩士/国学者) M 2 8 3 5

C2243 如行(じょこう；号・近藤こんどう、通称；源太夫) ?-1708 江前期美濃大垣藩士；致仕後出家/僧、  
俳人・1684大垣来訪の芭蕉を木因らと歓待し入門、1687「如行子」編(芭蕉歓待の記録)、  
1689ほそ道の旅の芭蕉を自邸如行亭に泊める、漂泊行脚、1690芭蕉の幻住庵に2泊、  
1695師追善百箇日「後の旅」編、  
1686「春の日」1句/89「あら野」2句/91「猿蓑」2句/94「炭俵」1句/98「続猿蓑」2句入、  
[霜寒き旅寝に蚊屋かやを着せ申し](春の日；冬/芭蕉おきなを宿し侍りて)  
(芭蕉の脇句；古人かやうの夜のこがらし)

M2232 恕行(じょこう) ? - ? 越後新潟の俳人；1690言水「新撰都曲みやこぶり」入、  
[踏まじとて足引く跡も花野かな](都曲；上231)

E2278 如交(恕交じょこう) ? - ? 備後三次みよしの俳人；談林、1694「衛足ちどりあし」編、  
1702轍士「花見車」目録入  
1702巨海「俳諧石見銀」(言水跋)にある石碛如交・桑門恕交と同一？

C2244 如江(じょこう；号・丹羽にわ) ? - ? 江中期享保1716-36頃近江の俳人、  
1721「俳諧勢多のながれ」如泉の援助で編

C2245 如菫(じょこう) ? - ? 俳人、1720撰集「一日千句」編

2209 如臯(初世じょこう・瀬川せがわ、七十郎長男) 1739-9456 大阪の歌舞伎役者；2世市山助五郎門下、  
浜芝居の若女方、江戸で1769瀬川菊之丞[2世]門、瀬川と名乗/3世菊之丞の兄、江戸住、  
1779瀬川乙女と改名；二枚目女形、1783作者に転向；俳号を如臯、84立作者、三座で活躍、  
初世桜田治助に次ぐ評価、浄瑠璃・長唄も作詞；30以上の創作、  
1784「重人重じゅうにひとえ小町桜」85「男山娘源氏」86「室町婦文章」87「春待谷諸声」、  
1788「秋色姿菊蝶」「今様御伽噺」/90「岩磐花峯楠」92「若紫江戸子曾我」外著多数、  
[初世瀬川如臯(；号)の別号]市山七蔵/瀬川七蔵/瀬川乙女/如考/東園、屋号；新浜村屋

2210 如臯(2世じょこう・瀬川せがわ) 1756-183378 江戸の歌舞伎作者；初世河竹新七門、1779森田座番付、  
1781河竹文治(文次)と改名；新七と離れ創作、1786-88初世中村仲蔵と京・大坂諸座に勤務、  
仲蔵没後江戸に復帰；1790初世瀬川如臯に出仕/91二枚目作者格；三世瀬川菊之丞に隨身、  
1801二世如臯を襲名；中村座の立作者、1801三世菊之丞(路考と改名)と上方諸座に勤務；  
奈河七五三助・近松徳三らと共作、東帰後は二枚目・共作者/1819再び立作者、  
120余の創作/25以上の浄瑠璃作詞、風俗随筆・読本作者、尚古趣味、  
1802「東金草浪花着綿」04「相生獅子余波英」07「会稽雪木下かいけいゆきのこのした」、  
1808「御撰賀賀仙ごひいきおんがのしまだい」10「観車雪高樓ものみぐるまゆきのたかどの」1822「御撰曾我閏正月」、  
所作事；1828「拙筆力七以呂波にじりがきなついろは」32「弥生の花浅草祭」(清元[三社祭])、  
古書関心；1827「傘芸古雅志むぎがし」、風俗随筆；1812「只今お笑草」、  
読本；1823-27「総猿僭語そうえんせんご」著、外著作多数、  
[2世瀬川如臯(；号)の別号]五百崎文治/河竹文治/川竹文次/御園文治/文車/狂言堂  
別名；津栗実生

C2246 如臯(3世じょこう・瀬川せがわ、姓；藤本/名；吉兵衛) 1806-8176 江戸の糶せり呉服商、

歌舞伎作者：5世鶴屋南北門、1837(32歳)江戸中村座に絞じり吉平[吉兵衛]名/40番付、  
 1842三世姥尉助うばじょうすけに改名/44藤本吉兵衛に改名；桜田治助の許で三枚目作者、  
 1845二枚目/46立作者格/48中村座で立作者/50三世如臯を襲名、4世市川小団次と提携；  
 1851「木下曾我惠礫路さのしたそがめぐみのまさごじ」「東山桜莊子ひがしまさくらそうし」/52「仇情色二道」、  
 1853「与話情浮名横櫛よわなさけうきなよごじ」/67「当裏梅魁香達引」、外著多数、  
 合巻；1847-49「青砥劇譚あおとかぶきものがたり」/所作事；「勢獅子劇場花罨きおいじしかぶきのはなご」著、  
 [3世瀬川如臯(；号)の俳名/別号]俳名；斗文/吐蚊、別号；三世姥尉助/馬道の狂言堂

C2247 **如考**(じょうこう) ? - ? 俳人、「五元集拾遺注釈」著(其角「五元集拾遺」の注釈書)

如岡(じょうこう・山本) → 質庸(ただつね・山本やまと/中臣/杉本、国学者) 2 7 2 1  
 恕行(じょうこう・松原) → 恕行(ひろゆき・松原、医者/歌人) H 3 7 6 4  
 恕公(じょうこう・山地) → 東山(とうざん・山地やまじ/千早、儒者) E 3 1 6 3  
 恕公(じょうこう・目黒) → 道琢(どうたく・目黒めぐろ、医者) G 3 1 3 3  
 如衡(じょうこう・甘節堂) → 則満(のりみつ・古山ふるやま、藩士/歌人) G 3 5 5 0  
 汝行(じょうこう・磯野) → 鵲斎(じやくさい・磯野、医者) V 2 1 9 7  
 徐行(じょうこう・依田) → 誠廬(せいりょ・依田よだ、儒者) D 2 4 2 1  
 助広(じょうこう・熊坂) → 適山(てきざん・熊坂くまさか、絵師/藩士) B 3 0 9 4  
 舒公(じょうこう・小野) → 湖山(こざん・小野/横山、詩人) C 1 9 6 9  
 如毫(じょうこう・広瀬) → 将虎(まさとら・広瀬ひろせ/源、藩士、歌人) S 4 0 1 8  
 恕行斎(じょうこうさい) → 瑞益(ずいえき・甲把がらば、医者/郷土史) E 2 3 1 2  
 如行子(じょうこうし・渡辺) → 福麿(さちまろ・渡辺わたなべ、藩士/歌人) P 2 0 8 3  
 且俚(じょうこう・柴/柴橋) → 応亨斎(おうこうさい・柴/柴橋、相法家) C 1 4 3 9

B2233 **如今**(じょうこん) ? - ? 加賀の俳人、

1734自撰集「小野の里」著(小野小町旧跡；出羽雄勝郡小野の里の古記と同地方俳人句)、  
 1776樗良「誹諧月の夜」1句入、  
 [咲き添ふて松にやつるゝ女郎花](月の夜；172)

如嗟(じょうさ・細川) → 綱利(つなとし・細川/源、藩主/詩人) B 2 9 1 4

M2233 **処斎**(じょさい・小宅おやけ、名；順、如灰男)1638-74<sup>37</sup> 常陸水戸藩士/儒者；人見ト幽門/1652儒官、  
 1664徳川光圀も命で長崎で朱舜水と会談、文章家、大日本史編纂に参加、  
 1661「慎終日録」63「西遊手録」67「家譜事略」、「常陸国誌」著、  
 [処斎(；号)の字/通称]字；安之/坤徳、通称；生順

書斎(じょさい・加藤) → 昌融(まさひろ・加藤かとう、国学者) O 4 0 7 0  
 渚斎(じょさい・橋) → 香(かおる・橋たちばな/山本、儒者) V 1 5 0 3

C2250 **恕斎**(じょさい・河野こうの/かわの、名；子竜、岡白駒の長男)1743-79<sup>37</sup> 京儒者、祖先の播磨網干の河野姓、  
 肥前佐賀蓮池藩に出仕/大坂藩邸監；蔵屋敷勤務/在職10余年吏務に長じ藩政に貢献、  
 博識/書/詩人；大坂混沌社友、藪孤山と交流、海内3才子、「浪華邸監」「南浜筆記」「楽生論」、  
 「東遊詩草」「格知余録」「韓非子解」「享帚集」「享帚全集」「功臣伝」「儒臣伝」外著多数、  
 1786曾谷学川編「野史詠」入(；恕斎が詠史詩を提唱；七言律詩121首中恕斎17首)、  
 [恕斎(；号)の字/通称/別号]字；伯潜、通称；忠右衛門、別号；鶴臯/南浜/鹿門/南浜漁人

如斎(じょさい・山室) → 箕陽(きやう・山室やまむろ、藩士/儒者) N 1 6 1 3  
 如斎(恕斎じょさい・福武) → 允(まこと・福武ふくたけ、漢学/歌人) 4 0 7 6  
 恕斎(じょさい・梅津) → 忠喬(ただたか・梅津うめづ、藩家老) V 2 6 8 6  
 恕斎(じょさい・横井) → 久時(ひさとき・横井よこい、藩士/歌人) M 3 7 3 1  
 柳斎(じょさい・加島) → 一(はじめ・加島かしま、国学者) J 3 6 8 7  
 助斎(じょさい・師田) → 祐吉(すけよし・師田もろた、文筆家) D 2 3 7 4  
 黍西学人(じょさいがくじん) → 約之(のりゆき・森、医者/本草学) G 3 5 1 5  
 如斎子(じょさいし) → 貞置(さだおき・織田/平、幕臣/茶人) H 2 0 8 4

M2234 **所左衛門**(じょざえもん・渡辺わたなべ、八右衛門2男)?-? 江前期金沢藩士、

父は1639前田利治の分封で加賀大聖寺に随従し禄千六百石で没；遺知のうち4百石継嗣、  
 大聖寺藩財政逼迫のため1653兄と共に金沢に帰藩(家臣24名が帰藩)、

「渡辺所左衛門書状」著

- 所左衛門(しよざえもん・相沢)→ 月邦(げっぽう・相沢あいざわ、俳人) H 1 8 3 9  
所左衛門(しよざえもん・塩野)→ 適斎(てきさい・塩野/河西、幕臣/剣術) B 3 0 9 0  
所左衛門(しよざえもん・村瀬)→ 義益(よします・村瀬むらせ、和算家) H 4 7 1 8  
所左衛門(しよざえもん・大平)→ 久寧(ひさやす・大平おのだいら、国学者) I 3 7 8 5  
所左衛門(諸左衛門しよざえもん・米倉)→ 有載(有年ありとし・米倉よねくら、歌人) G 1 0 5 7  
諸左衛門(しよざえもん・久米)→ 利品(りひん・久米、俳人) C 4 9 3 9  
舒三郎(じよさぶろう・志村/大窪)→ 昌章(まさあき・大窪/志村、本草学) B 4 0 0 6
- M2235 胥山(しよざん・春木はるき、名; 近方、近渚男/本姓; 秦) 1751-1808<sup>58</sup> 伊勢山田の篆刻家; 小俣栗斎門、「熊嶽紀行」著、  
[胥山(;)の字/別号]字; 子榮、別号; 其鵬/白橋
- M2236 曙山(しよざん・麻生あそう、別号; 麗斎)?-? 江後期絵師; 歌川派系、1851「江戸年中行事」画  
曙山(しよざん・佐竹) → 義教(よしあつ・佐竹、藩主/詩歌書画) C 4 7 1 3  
曙山(しよざん; 俳名) → 宗十郎(2世そうじゅうろう・沢村、歌舞伎役者) B 2 5 8 8  
曙山(しよざん; 俳名) → 宗十郎(4世そうじゅうろう・沢村、歌舞伎役者) B 2 5 9 0  
曙山(しよざん; 俳名) → 田之助(2世たのすけ・沢村、歌舞伎役者) S 2 6 1 8  
初山(しよざん) → 末山(まつさん・通松; 法諱、黄檗僧) J 4 0 7 4  
黍山(しよざん・吉田) → 豊文(とよみ・吉田よしだ、藩士/国学) W 3 1 9 5
- M2237 助参(助三じよさん; 法諱・天空; 字) 1643-1710<sup>68</sup> 京の浄土僧; 禅林寺貞準門; 西山流を修学、  
伊勢浄土寺住; 同門の洞空・宗覚の批難を受け山城太秦の円越軒に隠棲;  
のち門弟阿三が幕府に公訴; 1699勝訴、京の禅林寺48世、「曼陀羅聞書」/「円頓戒補助儀」著
- Q2243 如杉(じよざん/によさん・宮尾みやお、嘯亭)?-? 安藝阿賀の庄屋、隠居所嘯亭; 新築時に玄蛙の寿句あり、  
1817「巖島大明神奉納」(柴籬「鶴亭日記」); [春風にのるか舞楽の鳥舞とりまいし]  
如杉(じよざん・是枝) → 貞至(さだのり・是枝これえだ、商人/勤王) J 2 0 3 0  
恕三(じよさん; 字) → 日恩(にちおん; 法諱、日蓮僧) 3 3 9 4  
恕三(じよさん・坂内/北川) → 親懿(ちかよし・北川/坂内、儒/神道/歌) C 2 8 2 1  
恕三(じよさん・小川) → 正方(まさかた・小川おがわ、医者/歌人) B 4 0 9 5  
恕三(じよさん・熊谷) → 恕(ひろし・熊谷くまがい、陪臣/国学/歌) J 3 7 4 5
- M2238 如山(じよざん) ? - ? 江前期京の俳人; 1690言水「新撰都曲」2句入、  
[鴟とびの巢に世の哀れきく蛙哉](都曲; 361/餌食となりはじめて無常を知る)
- M2239 如山(じよざん・山崎やまさき、名; 苞)?-? 江後期肥後宇土藩士、1818頃江戸新橋幸町御門外に隠棲、  
儒者/詩人、長尾赤城・五代秀堯・藤森弘庵・林鶴梁と交流、1824弘庵・鶴梁と詩選集を編纂、  
画・茶を嗜む、生来弱視で晩年失明、  
1827「釣詩亭百絶」、「釣詩亭百律」、「草堂茶話」、「孝経宗旨引証」著、  
[如山(;)の字/別号]字; 苞卿、別号; 岷峽びんらい/岷峽山/釣詩亭  
如山(じよざん・八木) → 庭雅(ていが・八木、藩士/俳人) 3 0 4 4  
如山(じよざん・志賀) → 綏(やすし・志賀しが、藩士/国学者) B 4 5 6 2  
如山(じよざん・津軽) → 寧親(やすちか・津軽つがる、藩主/俳人) G 4 5 2 7  
如山(じよざん・町田) → 高明(たかあき・町田まちだ、国学/歌人) Z 2 6 5 2  
初子(しよ・北村) → 初子(もたとね・北村きたむら、藩士/歌人) J 4 4 8 9  
緒嗣(しよ・藤原) → 緒嗣(おつぐ・藤原、左大臣/史書編纂) 1 4 1 8  
諸史(しよ・上林) → 諸史(もろふみ・上林かばやし/杉、村役/歌) J 4 4 7 3  
薯子(しよし) → 其角(きかく・榎本/宝井、医者/俳人) 1 6 0 5
- M2240 且爾(しよじ) ? - ? 俳人; 1772几董「其の雪影」2句入、  
[爪かくす日比びごろ忘れて猫の恋](其の雪影; 巻尾223)
- C2253 如之(じよし: 号・杉木、名; 正直、通称; 宗太夫)?-? 江前期伊勢度会(度)の師職家、  
俳人1659「伊勢正直集」編; 武珍の協力
- M2241 如之(じよし: 号・杉木、名; 正純、通称; 宗太夫、別号; 麦保堂[舎]) 1705-72<sup>68</sup> 伊勢一之木の人、  
俳人; 麦林門、伊勢山田俳壇で活動/画も嗜む、1772「伊勢歳旦」編、没後; 樗良「月の夜」入、  
[夏の夜や起てまた見る月涼し](誹諧月の夜; 84)



- Q2239 **如之**(じょし) ? - ? 安藝広島の俳人;1756宋屋「歳旦集」入  
 如矢(じょし・伊佐庭) → 如矢(ゆきや・伊佐庭いさにわ/成川/阿部、教育/町長) G 4 6 5 1  
 恕之(じょし・山中) → 天水(てんすい・山中やまなか、儒者/詩) D 3 0 9 3  
 助之(じょし・鋤柄) → 助之(すけゆき・鋤柄すきがら、歌人) H 2 3 2 5  
 舒子(じょし・小笠原) → 舒子(のぶこ・小笠原おがさわら/稲垣、歌人) H 3 5 5 7  
 如自(じょじ) → 如自(によじ・石井、俳人) F 3 3 9 2  
 曙紫庵(じょしあん) → 杉雨(さんう、俳人) E 2 0 1 1  
 如此庵(2世じょしあん) → 阿人(あじん江原えばら、俳人) E 1 0 4 3  
 書肆松栢堂(しよししょうはくどう) → 出雲寺和泉掾(3世いずもいづみのじょう、林一衣、俳人) F 1 1 7 5
- M2242 **如瑟**(じょしつ) ? - ? 京の俳人;晩年蕪村門、  
 1783維駒これこま「五車反古ほうぐ」1句入、  
 [物問へば出て答ふる蚊やり哉](五車反古;巻首219)  
 汝質(じょじつ・西村) → 景義(かげよし・西村/井李、薬種/本草) L 1 5 4 6  
 助実(じょじつ・本多) → 助実(助籍すけざね・本多ほんだ、藩主/歌) H 2 3 8 8  
 如瑟園(じょしつえん) → 美信(よしのぶ・三坂/三阪みさか、心学者) F 4 7 6 4  
 如斯亭(じょしてい) → 永我(えいが・盛/一浮齋、俳人) C 1 3 5 4
- C2254 **諸事行就**(しよじのゆきなり、道芝の行就、鈴木作兵衛)?-? 江戸四谷鮫ヶ橋住の狂歌作者、才蔵集1首入、  
 [よりあへば人の噂もゆふ涼み木陰も松のはしたなき世や](才蔵集;156)  
 曙雀(しよじやく・柳下亭) → 柳下亭曙雀(りゅうかていしよじやく、狂歌) D 4 9 2 5  
 曙雀(しよじやく・普山亭) → 正英(まさひで・三島、実録小説作者) G 4 0 7 1  
 如寂(じよじやく) → 如寂(によじやく、鎌倉期僧/歌/秀能孫) F 3 3 9 5  
 如寂(じよじやく) → 如寂(によじやく、真言僧/「高野山往生伝」著) F 3 3 9 4  
 書写上人(しよしやしょうにん) → 性空(しょうくう;法諱、天台僧/播磨の聖/歌) S 2 2 0 4  
 初種(しよじゆ・前田) → 初種(はつたね・前田まえだ、神職/歌人) J 3 6 5 8  
 如寿(じよじゆ・東儀/太秦) → 如寿(ゆきひさ・東儀/太秦、楽人) F 4 6 3 7
- C2256 **曙舟**(しよしゆう:号) ? - ? 伊予松山の俳人;惟中門、1681俳論「詠句大概」著
- M2243 **如舟**(じよしゆう・塚本つかもと、通称;孫兵衛)1641-1724<sup>84</sup> 駿河島田の人/大井川の川庄屋、俳人;  
 1698「続猿蓑」巻下最終;1690(元禄3)島田の如舟宅に泊した芭蕉の句入;  
 [宿借りて名をなのらする時雨かな](続猿蓑;芭蕉)
- C2257 **如秋**(じよしゆう) ? - ? 京住俳人、1690其角「新三百韻」入
- C2258 **汝舟**(じよしゆう・河瀬かわせ) ? - ? 漢学者;松崎慊堂こうどう門、  
 1844慊堂「縮刻唐石経」;巻2以下版下を筆
- C2259 **汝楫**(じよしゆう・三浦みうら) ? - ? 漢学者・松崎慊堂門、  
 1844慊堂「縮刻唐石経」;巻2以下版下を筆  
 汝楫(じよしゆう・藤井) → 維濟(これなり・藤井ふじい/藤原、国学者) O 1 9 6 3  
 助秀(じよしゆう・吉益) → 半笑齋(はんしょうさい・吉益よしまつ/畠山、医者) I 3 6 0 1  
 助秀(じよしゆう・松岡) → 助秀(すけひで・松岡、神職/俳人) C 2 3 8 5  
 処叔(しよしゆく・中井) → 履軒(りけん・中井なかい、漢学者) 4 9 0 1
- R2213 **初春**(しよしゆん) ? - ? 俳人;1696不角「矢の根鍛冶後集」入、  
 [徒むになるな二つ続けて出る噴鼻くさめ](矢の根後集/前句;呼びに来るかど待つ久しさよ)  
 (一つすれば褒められ二つすれば憎まれ三つすれば惚れられ四つすれば風邪を引く)  
 (当時は;一つそしられ二惚れられ三褒められ四つ風邪引く)
- U2247 **如春**(じよしゆん・瀬名せな/瀬谷)?-? 江後期歌人、  
 歌;蜂屋光世「大江戸倭歌集」(1858成立)入、1860「現存百人一首」は[瀬谷如春]名、  
 [夏ながら身にしむばかり澄む月に秋もかよふか西川の水]、  
 (大江戸倭歌;夏540/河夏月、現存百人一首;82;瀬谷如春名)
- U2285 **如春**(じよしゆん・佐藤さとう、)1846-1914<sup>69</sup> 尾張名古屋藩士;小納戸、国学者/歌人、  
 国学;植松茂岳・野村秋足あきたり門、1882大島為足を中心に山本正晴らと歌道研究会設立、  
 [如春(;号)の名/通称/別号]名;美宣(よしのり?)、通称;庄次郎、別号;松園  
 如舜(じよしゆん→によしゆん:法名) → 具親(ともちか・源、廷臣/歌人) P 3 1 7 5

- 如春(じよしゆん・板坂) → ト斎(ぼくさい・板坂いたさか、医者) 3 9 6 3  
 如春(じよしゆん・によしゆん・村田) → 了阿(りょうあ・村田むらた、和漢学/書) G 4 9 0 1  
 如俊(じよしゆん・駒田) → 素浅(そせん・駒田こまだ、医者/俳人) D 2 5 9 3  
 怨俊(じよしゆん・須田) → 一之(いっし・須田すだ、医者/俳人) H 1 1 2 3  
 怨春(じよしゆん・清瀬) → 怨春(ひろはる・清瀬きよせ、藩医/歌人) J 3 7 3 0  
 助俊(じよしゆん) → 助俊(すけとし、廷臣;木工助/歌人) G 2 3 5 9  
 如春斎(じよしゆんさい) → 兼寿(かねひさ・勝部かつべ、商家/絵師/歌) U 1 5 3 0  
 書女(しよじよ) → 書女(ふみじよ、歌人) H 3 8 8 7  
 諸助(しよじよ・宮西) → 諸助(もろすけ・宮西みやにし/本間、神職/国学) L 4 4 6 0  
 処助(しよじよ/おきすけorやすすけ?・栗田) → 久巴(きゅうは・栗田くりた、和算家) M 1 6 8 2  
 怨助(じよじよ・山口) → 西園(せいえん・山口やまぐち、儒者) 2 4 7 4  
 如々(じよじよ) → 一瓢(いっぴょう・川原、日蓮僧/俳人) B 1 1 6 3  
 如々庵(じよじよあん・仏白) → 霞夫(かふ・芦田、俳人) D 1 5 1 9  
 如如庵(じよじよあん) → 天然(てんぜん・野呂のろ、医者) D 3 0 9 8  
 R2210 舒嘯(じよしやう) ? - ? 江前期俳人;1693不角「一息」入  
 M2244 如璋(じよしやう・桑原くわばら、名;隆朝[初代])?-1775 孤児/医者;幕医橋隆庵門、師の推挙で仙台藩医、  
 藩主伊達吉村・宗村に近習/江戸の重村夫人年子の近習医、妻;やよ子、  
 「新佐手翰」編(:新井白石と佐久間洞巖の往復書簡)、如宣・工藤球卿妻らの父  
 M2245 如松(じよしやう・寺戸てらど、別号;不易亭、爾松男)?? 江後期長門大津郡紫津浦の里正、  
 俳人、「そての春雨」著  
 U2266 如松(じよしやう・石原いしはら、)1828-7245 上野勢多郡の酒造業、歌/国学;黒川春村門、  
 [如松(;名)の通称/号]通称;英之助、号;梅山亭  
 如升(じよしやう・鈴木) → 東海(とうかい・鈴木、蘭医/詩) B 3 1 9 6  
 如尚(じよしやう・前田) → 如尚(ゆきなお・前田まへだ、神職/古典) H 4 6 2 5  
 如松(じよしやう・福住ふくずみ) → 道祐(どうゆう・福住、医/伝記/蔵書) H 3 1 6 3  
 如松(じよしやう・慶徳) → 家雅(いえまさ/いえただ・慶徳けいとく/笠井、神職/歌俳) D 1 1 3 2  
 如松(じよしやう・桐山) → 祐修(すけのぶ・桐山きりやま/野村、国学者) I 2 3 4 3  
 如笑(じよしやう・吉田) → 猿山(春山しゆんざん・吉田、絵師/鑑定) K 2 1 8 4  
 如樵(じよしやう・高久) → 靄崖(あいがい・高久たかく、絵師) D 1 0 1 7  
 助勝(じよしやう) → 助勝(すけかつ、俳人) H 2 3 7 9  
 舒嘯(じよしやう・後藤) → 松軒(しやうけん・後藤、儒者;程朱) R 2 2 3 1  
 舒嘯(じよしやう・河田) → 安尚(やすひさ・河田かわた、藩士/歌人) C 4 5 7 5  
 助乗(じよじよ・曾我) → 助乗(すけのり・曾我/平、武将/故実家) G 2 3 8 9  
 如松軒(じよしやうけん) → 頼資(よりすけ・太田おおた、吏員/地誌家) I 4 7 8 0  
 舒嘯軒(じよしやうけん) → 東臯(とうこう・松原まつばら、儒者/詩) D 3 1 9 0  
 如常老人(じよじやうろうじん) → 竜溪(りやうけい;道号・性潜、黄檗僧) H 4 9 2 1  
 汝稷(じよしよく・佐野) → 西山(ゆうざん・佐野さの/中井、藩儒) B 4 6 9 4  
 如々軒(じよじよけん) → 南明(なんみん・東湖;法諱、臨濟僧) J 3 2 5 3  
 如々山翁(じよじよさんおう) → 密(ひそか・前嶋/前島、諸学/郵便制度) C 3 7 5 5  
 如々子(じよじよし→によし;号) → 光天(こうてん;法諱・義彦;字、真言僧) K 1 9 7 4  
 如々房(じよじよぼう;号) → 明胤(みょういん;法諱、天台僧) G 4 1 1 4  
 M2246 徐々坊(じよじよぼう・宮みや、名;吉英)1731-180575 越後魚沼郡堀之内村の俳人;美濃五竹坊門、  
 兄の文禄を得て居を営むが各地を行脚、加賀の千代女と交流、「無東西」著、  
 [徐々坊(;号)の字/通称/別号]字;圭甫、通称;吉左衛門、別号;十栗僊/春宵菴  
 諸親(しよしん・笠因) → 諸親(これちか・笠因かさより、歌人) O 1 9 5 2  
 処信(しよしん;字) → 春甫(しゆんぽ・村松むらまつ、俳人/画) K 2 1 4 4  
 諸人(しよじん・若麻績部) → 諸人(もろひと・若麻績部わかおみべ、防人/歌) H 4 4 7 9  
 渚人(しよじん・松山) → 筋亭(せつてい・松山まつやま、儒者/詩文) L 2 4 2 4  
 M2247 如心(じよしん;法諱・法師)? - ? 僧/地下連歌作者、  
 1356刊菟玖波集1句入;[池水は花の兒かほ見る鏡かな](菟玖波;2043花の下連歌の発句)

- M2248 **如心**(じょしん;道号・中恕ちゆうじょ;法諱)?-? 1411存 山城or筑紫の臨濟僧;古劍妙快門;法嗣、1368入明(絶海中津らと);帰国年不詳/終生侍者;官寺住持に就かなかつた、「碧雲集」「碧雲薫」著
- M2249 **如心**(じょしん;名、亀田かめだ、通称;善左衛門)?-? 江前期元和1615-24頃伊勢度会の神職、1621「亀田如心聞書」著
- M2250 **如真**(じょしん) ? - ? 伊勢の俳人;1698「続猿蓑」2句入、[夏瘦なつやせもねがひの中のひとつなり](続猿蓑;卷下雑夏/肥えた身のつらさ)
- C2260 **如信**(じょしん;法諱、俗姓;武者小路)?-? 江中期安藝厳島光明院住僧、歌・連歌、俳;野坡門、1739「厳島八景」編の発起者
- M2251 **恕信**(じょしん・石井い、前名;鈴木知昌)1703-? 1762存 江戸の棋士・本因坊道知門、五段、1762「囲碁物語」「本因坊代々略伝」「石井恕信見聞録」/63「名人碁伝」、「石信随筆」外著多数
- 恕心(じょしん・松原) → 恕行(ひろゆき・松原まつばら、藩医/歌人) H 3 7 6 4
- 叙親(じょしん・太田) → 叙親(のぶちか・太田おた、地誌家) B 3 5 9 7
- 助信(じょしん・藤原) → 助信(すけのぶ・藤原ふじわら、廷臣/詩人) C 2 3 7 3
- 助仁(じょじん) → 荊助仁(けいじょじん、詩人) D 1 8 5 3
- 如心軒(じょしんけん) → 樵翁(しょうおう・大口おおぐち、茶人/香道) H 2 2 3 7
- M2252 **如心齋**(じょしんさい・畠山はたけやま、号;泮水はんすい)?-1883 江戸の故実家;祖父常操のち門、鑑定家、「刀術流祖名譽小伝」「泮水雑記」著
- 如心齋(じょしんさい) → 宗左(宗佐・4世そうさ・千せん、茶人) H 2 5 3 6
- E2279 **且水**(じょすい/じょすい) ? - ? 大阪の俳人;1691賀子「蓮実」3句入;189/221/419、[先まづ人のえがほを見する桜哉](蓮実;189)
- C2261 **儲醉**(じょすい) ? - ? 談義本作者:1754「返答下手談義」著
- C2264 **如睡**(じょすい) ? - ? 連歌作者、1606前;歌学「随葉集」編?
- C2263 **如水**(怒水じょすい、滝川たきがわ)?- ? 江前期1648-84頃京の儒者;松永尺五せきご・堀杏庵門、俳人;梅盛・随流門、「心学五倫書」「皇明千家詩諺解」「出像皇明千家詩」「大和義礼」、1651「日本三十四孝賛伝」82「桑韓筆語唱和集」、「尺五堂恭儉先生行状」、「尺五先生全集」編、[如水(;号)の別号] 昌楽/随有
- C2265 **如醉**(じょすい、斎藤さいとう) ? - ? 俳人:風虎系? 1669百五十番俳諧発句合左方入、
- C2268 **如水**(じょすい) ? - ? 江前期浄瑠璃、1686段物集「千尋集」序
- M2254 **如水**(じょすい) ? - ? 能登田中の俳人;1690言水「新撰都曲」入(353)、[ひくければ知らず踏まるゝ葦哉](都曲;下353)
- 2211 **如水**(じょすい) 1657 - 1728 72歳 京の俳諧宗匠/雑俳、1698瀟蛙(匿名)を使用、1690言水「新撰都曲」4句入(如水名)、1702「俳諧口三味線」編(;如水編・跋/瀟蛙の序;如水の匿名/只丸・鞭石らの前句附など)、1696円水「住吉おどり」入(如水名)/1723書肆「田植笠」入(如水名)、「住吉御田植」、[蠓(虹)の根のまつよりながし春の海](新撰都曲;上77)
- [如水(;号)の別号] 鷺水亭/華洛、匿名;瀟蛙ちよあ
- C2267 **如翠**(如酔じょすい) ? - ? 肥後熊本の俳人;1690言水「新撰都曲」2句入、浮世草子「好色わすれ花」著、[踏み分くる石に年越す飛脚哉](都曲;下400/走り続けて年を越す)
- M2255 **如誰**(じょすい) ? - ? 近江柏原俳人;1691江水「元禄百人一句」目録入
- M2256 **如翠**(じょすい) ? - ? 京の俳人;1691江水「元禄百人一句」目録入
- D2215 **女水**(じょすい) ? - ? 俳人、1691不角「二葉の松」3句入、[お手討ちになるとも言はぬわが念者ねんじや](二葉の松;53/念者は衆道の兄分)
- C2266 **如水**(じょすい・下川しもかわ、名;元氏、契沖の兄)?-? 松平家に出仕、国学:契沖の助手、1692「勢語臆断」の浄書
- M2257 **如水**(じょすい・清水しみず) 1645- 1716 72 江戸横山町の細工人、狂歌作者、逸話多し;法隆寺の賢聖の瓢を真似て瓢に鈍刀で彫物し評判/その瓢を朝鮮通信使が三国無双の評;[三国にならびなき名は足引の山は富士の峯ね我は藤の根](号;藤根堂)、酒の歌;[世はすめり我ひとりのみ濁酒にどりぎ酔つてねるにてさふらふの水](漁父辞の撰)

- [如水(;)の別号] 藤根堂/迷淵蟠鯨侯、息子の宇平治(号;瓢流)も細工人(1746没)
- M2258 如水(じょすい) ? - ? 大和の俳人;1782蕪村「花鳥篇」入、  
[我住家すみか吉野の花に銭二百](花鳥篇;10/銭2百は最低料金;駕籠代/吉野に近い家)
- C2269 如水(じょすい・井蛙亭) ? - ? 上州の狂歌作者、  
1785徳和歌後万載集入;543、1787「才蔵集」入;477、  
[玉の緒もたゆる思いひの種子島さがなき口に火ぶたなければ](後万載;九恋543)、  
(縁語;玉・種子島・口・火ぶた/口さがない人の口に蓋はできないので死ぬほどつらい)
- M2259 如水(じょすい;号・児島こじま) 1708- ? 1793存 農学者;稲作・草綿・園芸作物栽培の研究、  
1793「農稼業事」著
- M2260 如水(じょすい・池部いけべ、春幸男) 1798-1868 71 肥後熊本藩士;禄百石、測量術;来訪の伊能忠敬門、  
西洋日歴の法;長崎の末永忠助門、熊本藩数学師範、高島秋帆と西洋砲術を研究;砲術師範、  
一時罪を得て秋帆と共に江戸で入獄、「海防約見」「砲玉着町表」「砲術矢位纂法」、  
「簡略町見記」「煩学要本」/1846「万動帰一」「砲玉行道図説」/62「施条砲射擲表」外著多数、  
[如水(;)の名/通称]名;春常、通称;啓太
- M2261 如水(じょすい・渡辺わたなべ、名;務実/通称;一平、道遠2男) 1802-40 39 越後新発田藩儒;村田宇内門、  
さらに奥平棲遅斎・藤田畏斎門、藩校道学堂の教授、「務実翁雑記」「如水集」著、  
水哉の弟、予斎の兄
- M2262 如水(じょすい・一万田いちまんた、名;希、別号;楽山) 1810-80 71 上州北甘楽郡本宿村の医者、漢学、詩文、  
「燕仲笑話」「海防危言」「管見雑記」「求志堂文章」「三波石紀行」「楽山居漫録」「楽山随筆」、  
「楽山居草稿」「楽山居蕪稿」、1838「草津遊艸」39「一万田康庵伝」72「読史雑咏」著、外編著多
- U2245 如酔(じょすい、水野みずの、通称;弥左衛門)?-? 江後期;徳川斉順なりゆきの家臣;幕臣、  
斉順の清水時代[1816(文化13)頃まで]の用人、のち紀州に随従したか、  
歌人、1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、  
[しづのめがあさのさ衣うつつ山更け行く秋や夜さむなるらん](大江戸倭歌;秋944)
- 如水(じょすい・黒田、連歌) → 孝高(よしたか・黒田官兵衛、武将) D 4 7 9 3
- 如水(じょすい・鷺水亭) → 如水(じょすい・鷺水亭、俳人) G 3 3 0 1
- 如水(じょすい・脇坂) → 安政(やすまさ・脇坂わかさか/堀田、藩主/歌) H 4 5 0 5
- 如水(じょすい・浅野) → 主計(かづえ・浅野あさの、医者) F 1 5 1 8
- 如水(じょすい・神田) → 祐世(すけよ・神田かんだ/源、廷臣/歌人) I 2 3 3 3
- 如水(じょすい・町尻) → 説久(かぬひさ・町尻まちじり/藤原、廷臣/神道) V 1 5 7 1
- 如水(如翠じょすい・薬丸) → 兼陳(かねのぶ・薬丸やくまる、藩士/剣客) W 1 5 0 1
- 如水(じょすい・成川) → 国男(くにお・成川なるかわ、医者/国学) E 1 7 4 0
- 如水(じょすい・小幡) → 綱重(つなしげ・小幡おばた、庄屋/国学) F 2 9 3 7
- 如水(じょすい・鳥谷) → 美教(よしのり・鳥谷からすや、神職/歌人) M 4 7 3 1
- 如水(じょすい・宮川) → 経忠(つねただ・宮川みやがわ、神職/国学) G 2 9 5 3
- 如翠(じょすい) → 以南(いなん・山本、名主/俳人/勤王) B 1 1 7 9
- 序睡(じょすい) → 琴路(きんろ・白崎、酒造業/俳人) I 1 6 3 7
- 如水観(じょすいかん) → 阿丘(あきゅう・稲岡いなおか、商家/国学) N 1 0 0 2
- 如水軒(じょすいけん) → 騎角(きかく・坂、浮世草子) F 1 6 0 8
- 如水軒(じょすいけん) → 春政(はるまさ・山瀬、商人/本草家) G 3 6 8 4
- 如水軒(じょすいけん) → 東野(とうや・国分/国府こくぶ、儒者) H 3 1 5 4
- 如水軒(じょすいけん) → 行権(ゆきり・藤井ふじい、国学・歌人) H 4 6 2 0
- 如酔軒(じょすいけん) → 知空(ちくう・石橋いしばし、国学/歌/出家) M 2 8 0 4
- 如水軒円清居士(じょすいけんえんせいこじ) → 孝高(よしたか・黒田くろだ/源、武将/連歌) D 4 7 9 3
- C2270 如酔斎(じょすいさい・尾高おだか)?-? 江中期文筆家/1738庄司道恕斎「洞房語園」に「土手ぶし」入
- 如水亭(じょすいてい) → 東野(とうや・大原、絵師/博物学) H 3 1 5 0
- 如水堂(じょすいどう) → 大陵(たいりょう・小松こまつ、医者) L 2 6 2 2
- 如水道人(じょすいどうじん) → 與可(よか;道号・心交しんこう;法諱/臨濟僧) K 4 7 2 8
- 恕助(じょすけ・山口) → 西園(せいえん・山口やまぐち、儒者) 2 4 7 4
- 如是(じょぜ・伊佐) → 岑満(みねみつ・伊佐、幕臣/考証学/歌) F 4 1 5 5

- 如是(じよぜ・佐々) → 泉翁(せんおう・佐々ささ/小篠、藩士/儒者) E 2 4 9 6  
 處斎(処斉しよせい;法諱・平心)→平心(へいしん;道号・處斉;法諱、臨濟僧) 2 7 5 8  
 諸成(しよせい・狛) → 諸成(もろしげ・狛こま/野田、楽人/国学) H 4 4 2 9  
 諸成(しよせい・千村) → 鷺湖(がこ・千村ちむら、藩士/儒者) C 1 5 0 1  
 諸生(しよせい・松下) → 見林(けんりん・松下まつた、医者/史家) D 1 8 2 6  
 庶盛(しよせい;名) → 尊英親王(そんえいしんのう、青蓮院宮) F 2 5 0 2
- M2263 如成(じよせい・石堂いしどう/本姓;平、初姓;北村)?-? 慶長1596-1615頃没 比叡山の僧;竹林坊と称す、  
 還俗;日置流射術(弓道)を修得、松平忠吉に出仕;250石/家中に教授;竹林派と称す、  
 「本書初巻」「中学集口伝書」著、[如成(;通称)の号]竹林坊
- C2271 如猩(じよせい) ? - ? 川柳作者、  
 1789呉陵軒可有が病臥の際「誹風柳多留第二三篇」を引継ぎ編纂
- 如正(じよせい・文屋) → 如正(ゆきまさ・文屋ふんや、漢学者/詩人) F 4 6 5 9  
 如清(じよせい・松下) → 為運(ためゆき・松下まつた、藩士/和学) Z 2 6 5 6  
 如晴(じよせい→によせい) → 如晴(によせい;法諱・恵明院、真宗僧) G 3 3 0 2  
 叙清(じよせい) → 娘(あきら・鈴木、国学) 1 0 1 3  
 叙清(じよせい・川島) → 叙清(のぶきよ・川島、絵師) B 3 5 3 0  
 助成(じよせい・斎藤) → 助成(すけなり・斎藤/藤原、武士/故実) G 2 3 7 8
- C2272 如昔(じよせき) ? - ? 大阪の俳人・談林派、1679大坂檀林桜千句:入
- 如石(じよせき・天磐) → 柏巖(はくがん・性節、黄檗僧) I 3 6 8 8  
 叙夕(じよせき・岡橋) → 鶯子(かんし・岡橋おかはし、俳人/詩文) G 1 5 3 4  
 助籍(じよせき・本多) → 助実(助籍すけざね・本多ほんた、藩主/歌) H 2 3 8 8  
 如石斎(じよせきさい) → 許六(きよろく・森川、俳人) 1 6 5 5
- M2264 如雪(じよせつ) ? - ? 俳人、1698「続猿蓑」3句入、  
 [流れ木ぎの根やはらはるゝ花の滝](続猿蓑;卷下春/浮木の泥を花が洗う)  
 [さまたげる道もにくまじ畔の稲](続猿蓑)
- U2277 如雪(じよせつ;号、長秀ちやうしゅう)?-1760 伊予喜多郡の歌人;鎌田為之門
- 如拙(じよせつ・村田) → 光蔭(こうりゅう・村田、和算家/規矩術) L 1 9 5 7  
 如雪庵(じよせつあん) → 卷阿(かんあ・加藤、俳人) D 1 5 3 8  
 如雪庵(じよせつあん) → 青阿(せいあ、寺の堂守/俳人) H 2 4 1 3  
 如雪庵(4世じよせつあん) → 青坡(せいあ・箕田みのた、俳人) J 2 4 3 8  
 曙雪庵梅二(しよせつあんばいに) → 備資(まさすけ・中条ちゆうじよう、藩史編纂) C 4 0 9 4  
 如雪園(じよせつえん) → 経高(つねたか・中川/荒木田、神職/歌) C 2 9 3 7  
 如切斎(じよせつさい) → 友松(ゆうしゅう・海北かいほう、絵師) 4 6 0 4  
 処雪樵人(しよせつしやうじん) → 鉄石(てつせき・藤本、勤王/天誅組) C 3 0 5 1  
 如雪堂(じよせつどう) → 筋堂(せつどう・田村たむら、故実家) L 2 4 3 4  
 如雪道人(じよせつどうじん) → 卷阿(かんあ・加藤かどう、俳人) D 1 5 3 8  
 如拙道人(じよせつどうじん) → 一好(かずよし・花井はない、蘭学/畢山を密告) M 1 5 5 8
- ジョセフ=ヒコ(Joseph Heco/浄世夫彦ジョセフ=ヒコ)→彦蔵(ひこぞう・浜田、漂流/日米交渉) 3 7 6 4
- C2273 如銑(じよせん・宮崎みやざき) ?- ? 俳人、  
 1753撰集「俳諧本草(序;薬種知便草やくしゆしるべぐさ)」編(86品種の和漢名・特徴・その発句挿絵)、  
 1756「午の記」著
- M2265 如宣(じよせん・桑原くわばら、名;隆朝[二代]、如璋男)?-? 母;やよ子、江後期仙台藩医、如則の父、  
 「詞学備忘」編、「桃廼舎歌合其他」編、維新後宮城病院・宮城集治監の医員
- 如川(じよせん・古賀) → 茶溪(さけい・古賀こが、幕府儒官) G 2 0 1 4  
 如川(じよせん・狩野) → 周信(ちかのぶ・狩野かのう、絵師) L 2 8 1 5  
 如泉(じよせん、俳人) → 如泉(によせん・斎藤、俳人) G 3 3 0 4  
 如泉(じよせん・新納) → 時升(ときます・新納にいろ、藩士/詩文) K 3 1 0 6  
 如儼(じよせん・八木) → 庭雅(ていが・八木やぎ、藩士/俳人) 3 0 4 4  
 如仙(じよせん・渡辺) → 広輝(ひろてる・渡辺わたなべ、絵師) G 3 7 4 8  
 如仙(じよせん・丸山) → 吉一(よしかず・丸山まるやま、藩士/歌人) P 4 7 2 7

- 恕仙(じょせん・森井) → 月艇(げてい・森井もりい、医者/詩人) H 1 8 2 7  
 助宣(じょせん・斎藤) → 助宣(すけのぶ・斎藤さいとう、歌人) J 2 3 5 0  
 助然(じょぜん・荒巻) → 助然(じょねん/じょぜん・荒巻あらまき、俳人) C 2 2 8 8  
 如泉斎(じょせんさい・五十嵐) → 嵐児(らんじ・五十嵐いがらし、俳人) C 4 8 4 1  
 如箭子(じょせんし) → 宗徧(そうへん・山田やまだ、茶人) C 2 5 9 0  
 書仙堂(だしょせんどう) → 愛徳(あいとく/よしり・花山院かざんいん/藤原/中山、右大臣/詩歌) M 4 7 1 5  
 C2274 **女草**(女艸じょそう;号) ? - ? 江前期元禄1688-1704頃京の俳人;貞門系雑俳、  
 前句付点者、1687言水「京日記」入(言水と両吟表八句)・1702如水「俳諧口三味線」入  
 C2275 **如艸**(じょそう;号) ? - ? 浪華の歌舞伎役者大和屋甚兵衛(俳号;生重)の婿、  
 1704(元禄17)没の舅甚兵衛[生重]の追善集「梓」編  
 C2276 **助叟**(じょそう・片山かたやま) ? - 1715 肥前長崎稻佐の俳人;三千風の長崎来訪中に交流、  
 1686頃上京;言水門/京住;再会した三千風門、元禄1688-頃活発な俳諧活動展開、  
 1690(元禄3)言水「新撰都曲」4句入、1691「京の水」編、1692「鉦始ちよなはじめ」/94「遠帆集」編、  
 1697「みとせ草」編、1698(元禄11)頃帰郷、野坡・支考と交流、  
 1691江水「元禄百人一句」/1702轍士「花見車」入、  
 [棹さを添へて置かぬ舟あり杜若かきつばた](都曲みやこぶり;38・百人一句/舟で乱さぬよう配慮)、  
 [助叟(;号)の別号]方税/如叟/椿木亭/風雲斎/錦綾閣  
 M2266 **序草**(じょそう・日々庵;号)? - ?1766前没 三河の俳人、「八橋集」(1766除来・片水編刊)  
 如草(じょそう・吉田) → 宗愔(むねなか・吉田よしだ、幕府医官) B 4 2 9 7  
 恕叟(じょそう・藤井/藤) → 直好(なおよし・藤井、和算家) C 3 2 9 1  
 徐窓(じょそう・谷) → 素塵(そじん・谷、一陽窓、俳人) J 2 5 9 6  
 如棗亭栗洞(じょそうていりつどう) → 栗洞(りつどう・如棗亭、狂歌) C 4 9 1 4  
 諸相非相禅師(じょそうひそうぜんじ) → 大愚(だいう;道号・宗築;法諱、臨濟僧) J 2 6 7 1  
 M2267 **如則**(じょそく・桑原くわばら、名;隆朝[三代]、如宣男)?-? 仙台藩医、文学研究、承庵の父、  
 1848「賤のをたまき」(源氏物語全巻の口語訳)、「叢塵集」「叢庵雜記」「喜雨廬隨筆」、  
 「編年武林紀略」編、「自家記録」「鞆匱うんたく奇方」、伊能忠敬の妻の父、  
 [如則(;字)の号] 叢庵/喜雨廬/久魯翁  
 助則(じょそく・和田) → 助則(すけのり・和田わだ、太平記講釈評) C 2 3 7 8  
 庶泰(じょたい;名) → 尊祐親王(そんゆうしんのう、天台座主) F 2 5 8 0  
 M2268 **汝岱**(じょたい;法諱・若霖じやくりん;字) 1675-1735 61 武蔵金沢真宗超生寺の生、本願寺派能化知空門、  
 知空と見解を異にし破門;1717赦免;師より宗学の大事を託さる/近江蒲生郡正崇寺住職、  
 1718知空没後能化職を継嗣/23学林制約を制定、「南遊記略/遊芳山記」「温泉紀遊」、  
 「科観無量寿経」「正信偈文軌」「正信偈桃華語」「浄土和讃科」/1733「阿弥陀経科」外著多数、  
 [汝岱(;法諱)の号]号;桃溪/暘谷/綿嶽/息影、諡号;離塵院  
 C2277 **如黛**(じょたい) ? - ? 俳人:紹簾門、1783師追善集「紹簾発句集」編  
 如達(じょたつ) → 如達(にょたつ・鏡花坊、僧/儒/本草) G 3 3 0 6  
 C2278 **初知**(しよち/のち所知しよちに改号・中堀なかほり、中堀幾音の兄)?-? 大阪の俳人、  
 1661立以「烏帽子箱」入/狂歌;1666行風「古今夷曲集」入/69「百五十番発句合」参加、  
 1673西鶴「歌仙大坂俳諧師初撰本」西鶴「生玉万句」(子規千句発句)入/「下主智恵」入、  
 1678西鶴「物種集」/82春林「俳諧百人一句難波色紙」入、  
 [あの笠で早苗とりしか鳥おどし](難波色紙;47/蓑笠つけた案山子、  
 古今;秋172読人不知;昨日こそ早苗とりしかいつの間に稲葉そよぎて秋風の吹く)  
 庶智(しよち・丹治) → 恒足軒(こうそくけん・丹治たじひ、地誌家) K 1 9 3 9  
 書痴(しよち・大山) → 融斎(ゆうさい・大山おおやま、儒者/国学) B 4 6 7 7  
 E2298 **如竹**(じよちく・泊とまり) 1570 -1655 86 大隅屋久島安房村生の儒者;薩摩の南浦[文之玄昌]門、  
 京本能寺で日蓮教学を修学;僧名養善院日章、還俗;伊勢津藩主藤堂高虎の侍講、  
 のち薩摩藩主島津光久の侍読、屋久島の生活に尽力;屋久杉を活用/屋久聖人と称せらる、  
 1623琉球に渡り尚豊の侍講;文之点による漢文訓話法を伝える、1655(明暦元)没、  
 C2279 **如竹**(じよちく) ? - ? 狂歌作者、1671正式まさりの「堀河狂歌集」入  
 C2280 **如竹**(じよちく) ? - ? 京の俳人/雑俳:1696円水「住吉おどり」入、

1703不角「広原海わたつみ」入；[松虫や徳利の中も秋の暮]

如竹(じょちく・守屋) → 惟通(これみち・守屋もりや/石原、蘭医/種痘) R 1 9 4 2  
如竹居(じょちくきよ) → 蘭臯(らんこう・荒木あき/富永、儒者/詩) B 4 8 9 9  
如竹斎(じょちくさい) → 荷豆(かとう・加藤、商家/俳人) O 1 5 1 7  
諸仲(しよちゆう・五辻) → 諸仲(もろなか・五辻いつじ/源、廷臣) H 4 4 5 9

M2269 如仲(じょちゆう;道号・天閻てんざん;法諱、俗姓;海野) 1365-1437 73 信州上田曹洞僧;

上州大拙祖能門、上州吉祥寺で大拙につき出家、のち梅山開本門;法嗣、  
近江洞寿院・遠江大洞院を開創、総持寺住/1430越前竜沢寺住持、  
のち洞寿院に隠棲、「如仲天閻法語」著

処中周契(しよちゆうしゅうけい) → 周契(しゅうけい;法諱・寰海かんかい、臨濟僧/詩) W 2 1 9 8

書緒(しよちよ・鈴木) → 書緒(書雄/文緒ふみお・鈴木、国学者) H 3 8 8 2

諸鳥(しよちよう・林) → 諸鳥(もろとり・林はやし/塩瀬、商家/歌人) H 4 4 5 5

舒長(しよちよう・安達) → 舒長(のぶなが・安達あだち、儒/詩歌) C 3 5 5 5

如直(じよちよく;法諱) → 蘭桂(らんけい;道号・正香しょうこう;法諱、黄檗僧) D 4 8 3 3

C2281 如貞(じよてい・井口いぐち、名;良弘/通称;大津屋勘兵衛、別号;貞竹堂) ?-? 大阪の俳人;令徳門、

大坂阿波座堀住の連歌師、1658拾玉集・新続犬筑入、1669百五十番発句合右方参加、  
1671(寛文11)「難波草」亘休と共編、1673西鶴「哥仙大坂俳諧師」81賀子「山海集」入、  
1682春林「俳諧百人一句難波色紙」入、  
[昔なからの橋の木きれや若戎わかえびす](山海集;左11/橋板古材に彫刻し恵比寿大黒を印刷、  
変わり行く世に毎年正月に板木で押したように若恵比寿の札が売られる、本歌あり;  
千載;道命法師/長柄の橋にて;何事もかはりゆくめる世の中に昔なからの橋柱かな)

C2282 如亭(じよてい・江村えむら、名;如圭/簡易、毅庵2男) ?-? 江中期享保1716-36頃京の儒者、

摂津尼崎の青山侯の藩儒、本草学;松岡怨庵(玄達)門/稻生若水門?、「周易動植象考」著、  
「採覧随録」「周易本義国字解」「自家本草」著/1727「聚芳帯図左編」31「詩経名物弁解」編、  
[如亭(;号)の字/別号]字;希南、別号;復所

C2283 如亭(舒亭じよてい・柏木かしわぎ/修姓;柏、名;謙/昶) 1763-1819 57 代々幕府小普請方の大工棟梁、  
詩文;市河寛斎門、江湖詩社の詩人として活躍;大窪詩仏・菊池五山と並称、1794家職致仕、  
職業詩人として各地遊歴、書画も嗜む、1793「木工集」1800「山中白雲集」06「如亭山人藁」著、  
1815「今四家絶句」18「詩本草」、「如亭集」「如亭百絶」「如亭北遊集」「晚晴吟社集」外著多数、  
[如亭(;号)の字/通称/別号]字;益夫/永日、通称;門作、

別号;舒亭/柏山人/怨亭山人/瘦竹/晚晴堂/晚晴吟社

M2271 恕亭(じよてい・脇屋わきや、名;孝、知義男) 1794-1839 46 讃岐の生/1805父と上京、古学;米谷金城門、

儒;猪飼敬所門、京で経史を講ず、1821丹波園部藩儒;侍講を務める、  
「恕亭日纂」「歴史綱目」「字原」/1834「五教書」著、  
[恕亭(;号)の字/通称/諡号]字;仁卿/文卿/仲卿、通称;次郎/二郎/市正、諡号;文景先生

助丁(じよてい・坂牛) → 助丁(すけあつ・坂牛/阪牛さかうし、藩士/地誌) G 2 3 0 1

絮呈(じよてい・山田) → 百梅(ひやくばい・山田やまだ、商家/俳人) E 3 7 7 5

M2270 如泥(じよてい・小林こばやし、安左衛門/甚八) 1753-1813 61 松江の指物師/藩主松平不昧春郷の家臣、  
「覆輪陰陽麻葉透袖垣」作

如泥(じよてい・富小路) → 貞直(さだなお・富小路/藤原/伏原、廷臣/歌) C 2 0 1 4

恕亭山人(じよていさんじん) → 如亭(じよてい・柏木/柏、幕府棟梁/詩人) C 2 2 8 3

如迪(じよてき・田中) → 如迪(ゆきみち・田中たなか、歌人) F 4 6 7 0

如適斎(如滴斎じよてきさい) → 英信(てるのぶ・狩野、幕府絵師) C 3 0 8 3

C2285 恕哲(じよてき;号) ? - ? 1558存 京の連歌作者、1551大内義隆「宮島千句」参加、

1558房定らと「何路百韻」出座、宗養・寿慶らの連歌会に参加、

M2272 如鉄(じよてつ・よちよる・脇田わきた、名;直賢なおた、翰林学士金きむ時省男) 1586-1660 75 朝鮮京城の生;

1592朝鮮役で宇喜多秀家の捕虜;93加賀金沢に移送、前田利家が養育、  
妻:脇田重俊女;脇田直賢と称し加賀藩御使番/金沢藩町奉行、寛永1624-44頃知行千石、  
文芸に秀でる/歌:源氏切紙伝授・古今伝授を受、連歌、「脇田家伝書」「脇田如鉄覚書」著、

- [如鉄(；号)の幼名/通称]幼名;如鉄よちよる、通称;九兵衛、晩年入道号;如鉄じよてつ
- 如鉄(じよてつ;号) → 皎然(こうぜん;法諱、天台僧/国学者) Q 1 9 8 3
- 恕転(じよてん;字) → 日迅(にちじん;法諱・円行院、日蓮僧) C 3 3 5 2
- 叙典(じよてん・齋藤) → 叙胤(のぶたね・齋藤さいとう、官人/歌人) I 3 5 5 8
- U2272 如電(じよでん・にょでん・大槻おおつき、磐溪2男)1845-1931<sup>87</sup> 家学;儒;父門/林家漢学を修学、文彦の兄、仙台藩の藩校養賢堂で国学修学/戊辰戦犯の父を弟文彦と共に助命活動、1871海軍兵学寮の教官/文部省出仕;仙台藩からの「新撰字書」編纂に参画、1874退官、1875家督を弟に譲渡;著述に専念;「東西年表」「日本洋学年表」「駅路通」「舞楽図説」著、[如電(；号)の名/字/通称]名;清修、字;念卿、通称;修二
- 如砥(じよと・西島) → 城山(じょうざん・西島/牧野/牧、漢学者) J 2 2 3 7
- 如登(じよと・若山) → 立意(りゅうい・若山わかやま、藩儒医) C 4 9 7 2
- C2286 書堂(しよどう・其玉斎) ? - ? 江中期俳人・俳論、1770珪山述「俳諧古辞談」編
- C2287 如稻(じよとう) ? - ? 京の俳人、「我立杣」編、1690言水「新撰都曲」4句入、1691賀子「蓮実」1句入/92団水「くやみ草」3吟入、[釣鐘を撞かば動かん土筆つくぐし](蓮実;143/響きで動き出しそうな土筆/ツ音の重ね)
- M2273 如桃(じよとう) ? - ? 彦根の俳人、1691江水「元禄百人一句」目録入
- U2259 如同(じよとう・岸田きしだ) ? - ? 江後期;歌人、1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、[打ち寄する波に追はれて立つ千鳥長居の浦の名にもならはで](大江戸倭歌;冬1217)
- 如道(じよどう・藤原) → 如道(すけみち・藤原、廷臣/歌) J 2 3 5 9
- 恕道(じよどう・山崎) → 義故(よしもと・山崎やまざき、藩士/書家) H 4 7 6 9
- 恕堂(じよどう・小野) → 顕栄(あきひで・小野おの、神職/国学) H 1 0 1 8
- 恕堂(じよどう・大和) → 篤(あつし・大和だいわ、藩士/歌人) H 1 0 9 2
- 茹堂(じよどう・伊東) → 奚疑(けいぎ・伊東いとう、藩士/儒/易学) F 1 8 4 2
- 如得(じよとく;法諱) → 如得(じよとく;法諱・竜水;道号、曹洞僧) G 3 3 0 8
- 如得子(じよとくし;号) → 集雲(しゅううん;道号・止水;法諱、臨濟僧) W 2 1 6 3
- 如訥(じよとつ・村田) → 恒光(つねみつ・村田むらた、藩士/和算家) D 2 9 9 4
- 如入斎(じよにゅうさい) → 立圃(りゅうほ・野々口、細工業/絵師/俳人) 4 9 1 3
- 緒仁(じよにん;名) → 後円融天皇(ごえんゆうてんのう、歌人) C 1 9 1 2
- M2274 助念(じよねん;法諱) ? - ? 安桃期京の浄土宗知恩院の一心院の僧:1579安土宗論の浄土宗側の記録者、1581「安土宗論記録」著
- C2288 助然(じよねん/じよぜん・荒巻あまき、名;重賢、西竹男)?-1737 筑前穂波郡内野の俳人:1701朱拙門、1701「蝶すたか」著(師朱拙の後見で刊)、1703伊勢参宮の途中;来山・洒堂・丈草を訪問、1704「山ひこ集」05「続山彦」編、遺稿「紅葉題」、追善集「冬紅葉」(苔路編/野坡序)、[助然(；号)の通称/別号]通称;市郎左衛門/佐平次、別号;日三舎、
- M2275 如濃(如儂じよのう・刑部おさかべ、名;正勝)?-1736 江中期尾張藩重臣渡辺半蔵家の同心役、秩禄3百石、「尾陽寛文記」著、[如濃(；号)の通称/別号]通称;十右衛門、別号;如農/如儂/立錐軒りっすいけん
- 舒之助(じよのすけ・尾崎) → 貞幹(さだみき・尾崎おさき、藩士/国学/画) O 2 0 0 8
- M2276 如篔(じよはい・須藤すどう) ? - ? 越後三条の俳人;1690言水「新撰都曲」1句入、[華に蝶世にむつまじや雨の晴れ](都曲;上237)
- C2289 女媒(じよばい・桑原くわばら/井上、名;季雄、俳人の布門2男)1733-89<sup>57</sup> 大阪の医者;鰻谷で医業、俳人、1765兄の婆東没;家督継嗣/五流斎3世を名乗り俳諧師を業とす、1760「俳諧一代能」編、1767「六日彦一周忌」69「俳諧箕笠集」76「福海集」80「布門追善集」85「冬牡丹」89「貫珠篇」編、[女媒(；号)の字/別号]字;俊卿、別号;官童/、息子化石が4世五流斎を継嗣
- C2290 如白(じよはく・塩川しおかわ) ? - ? 岩城の俳人;風虎門、1669百五十番発句合・奥州百番合参加
- 庶莫(じよはく、俳名) → 高助(たかすけ・二世助高屋、歌舞伎役者) C 2 6 9 1
- M2277 如髮(じよはつ・関本せきもと、名;直房、笹屋善次右衛門2男)1748-1829<sup>82</sup> 会津耶麻郡小田付村の俳人、関本巨石の養子、俳諧;本宮の塩田冥々門/諸国行脚;諸俳人と交流、



会津の巨匠として多くの俳書に入集、只見川の佳境に芭蕉句碑建立；記念集編纂；  
1817「河上集」編、「信夫山」「加羅婦久辺」「加羅婦久辺」「謠百番発句合」著、  
[如髮(；号)の通称/別号]通称；与次兵衛、別号；睡翁/市中庵2世/六種園、

如髮(じよはつ・谷口) → 田女(でんじよ・谷口よし、俳人) D 3 0 8 1

V2251 女半(じよはん・河内) ? - ? 江前期；上方の歌人、

1688浅井忠能[難波捨草]数首入、

[秋の気色の物あはれなる比まどひ侍るに女郎花の咲きける野に、

鹿の思ひわびたるこゑをききてよみ侍る、

女郎花咲きける野べに啼くしかは名にかこちてや妻をこふらん](難波捨草：秋285)

M2278 如帆(じよはん) ? - ? 京の俳人；1691江水「元禄百人一句」目録入

C2291 如畔(じよはん) ? - ? 俳、1770撰集「一座之華」(歌口・浦夕と共編)

諸蕃(じよばん・藤波) → 氏朝(うじあさ・藤波ふじなみ/菌田、神職) C 1 2 3 2

汝弼(じよひつ・木下) → 菊潭(きくたん・木下きのした、藩士/儒者) F 1 6 2 1

助弼(じよひつ・曾我) → 助弼(すけすけまさ・曾我そが/平、幕臣) G 2 3 8 3

諸品(じよひん・岡本) → 玄治(げんや・岡本おかもと、医者) M 1 8 5 3

汝珉(じよびん・祇園) → 南海(なんかい・祇園/祇/阮、儒/詩/画) 3 2 3 0

C2292 如扶(じよふ・紙谷かみや、松水軒しゅうすいけん) ?-? 江前期大阪の俳人、

1682(天和2)絵入歌仙撰集「誹諧三ヶ津さんかのつ」編(西鶴画/西吟筆板下；

江戸・大阪・京の三都の句)、1682春林「俳諧百人一句難波色紙」入、

[花舟や入るに大事の三ヶの津](三ヶ津；冒頭句/花舟；舟形花入れ；三都の俳風に特徴)

C2293 如風(じよふう、文英和尚) ? - 1705

尾張鳴海の僧；如意寺6世/俳人；初め談林、

鳴海六俳仙の1、1679高政「誹諧中庸姿ねのすがた」/80自悦「洛陽集」/81信徳「七百五十韻」入、

1685芭蕉門；芭蕉が2度訪れる、89「あら野」入、

[おもはずの人に逢ひけり夕涼み](あら野；三暮夏)、

[如風(；号)の別号]耻心(ちしん；初号)/立翁(；後の号)

C2294 除風(じよふう；号・南瓜庵/百花坊/生田堂；号) 1667-1746/80 備中八田部の真言僧、俳人；嵐雪門、

1698頃備中下条(倉敷)に南瓜庵を営む、諸国行脚、1706から40年間讃岐観音寺一夜庵住、

一夜庵は宗鑑の遺跡でその復興に尽力、半湖/盤古らと親交、

1690「青莖」1704「千句塚」「誹諧番橙ざぼん集」/05「冬の花」06「一巡百韻」18「誹諧雪の光」編、

「俳諧記念乃雲」「夢の枯野」編、「風羅翁遺誠秘鑰いかひやく」著、1689「あら野」7句/「西華集」入

[ときどきは蓑みの干す桜咲にけり](あら野；巻二/仲春)

M2279 如風(じよふう) ? - ? 但馬生野の俳人；1691江水「元禄百人一句」目録入

M2280 除風(徐風じよふう・肥田ひだ、名；信易) ?-1840 尾張犬山の寺小屋師匠、

犬山瑞泉寺の塔頭竜濟庵の施主、1805「御影参宮内外靈験話」17「犬山里語記」、

1827「犬山物語」43「青龍山十祖伝」著、

[除風(；号)の通称/別号]通称；久吾、別号；百五斎主人、法号；麒麟浄麟居士

如風(じよふう) → 如風(じよふう、京俳人；季吟門/のち談林) F 3 3 7 1

如風(じよふう・宍戸/兼子) → 天聲(てんろう・兼子かねこ/宍戸、儒者/医) E 3 0 6 3

如風(じよふう・大高坂) → 南海(なんかい・大高坂おたかさか/山本、藩士/詩/画) O 3 2 9 4

如楓(じよふう・大鳥) → 圭介(けいすけ・大鳥おどり、幕臣/洋学) G 1 8 1 9

徐風庵(じよふうあん) → 文柳(ぶんりゅう・多賀たが、俳人) G 3 8 7 0

D2272 如風尼(じよふうに) ? - ? 大阪の尼僧、狂歌；1666行風「古今夷曲ここんいきよく集」入、

[九重もはるの霞の網の目に風たまりてやけふ長閑のどかなる](古今夷曲集；一春歌)

(詞書「元日の霞をよめる」)

如不及斎(じよふきゆうさい) → 弘庵(こうあん・藤森、儒者) 1 9 0 3

如不及斎(じよふきゆうさい) → 義和(よしまさ・佐竹、藩主/藩政改革) H 4 7 0 9

諸文(じよぶん・小貝) → 諸文(もろぶみ・小貝おがい、商家/歌人) J 4 4 4 4

如文(じよぶん・高橋) → 有孚(ありぞね・高橋たかはし、商家/歌人) H 1 0 9 5

所平(じよへい・泉屋) → 廿古(かんこ・平田ひらた、俳人) Q 1 5 3 4

所平(じよへい・成瀬) → 勝紀(かつのり・成瀬なるせ/藤原、藩士/歌) V 1 5 2 8

- 処平(しよへい・野中) → 蘭腕(らんえん・野中のなか、儒者) B 4 8 6 2  
 処平(しよへい・大塚) → 敦臣(あつおみ・大塚おつか、藩士/国学) H 1 0 2 6  
 諸平(しよへい・加納) → 諸平(もろひら・加納/夏目、国学/歌人) 4 4 3 5  
 R2219 如瓶(じよへい) ? - ? 江戸稲荷橋の俳人;1703不角「広原海わたつみ」入、  
 [深爪を取るまで母の異見状](広原海/事こまかく書かれた里の母の花嫁心得条々)  
 M2281 如瓶(じよへい・三好) ? - ? 浪華の雑俳点者;1757律中「誹諧耳勝手」66「続耳勝手」入  
 M2282 如平(じよへい・沢) ? - ?1746存 歌舞伎作者/1745大阪嵐座で活動、  
 1745「村上源氏金新館」著  
 如平(じよへい・木村) → 世察(つぐあき・木村きむら、医者/国学) F 2 9 5 9  
 如平(徐平じよへい・森本) → 如平(ゆきひら・森本もりもと、商家/国学者) H 4 6 3 7  
 如瓶(じよへい・永井) → 如瓶子(じよへい・永井、書家/狂歌) C 2 2 9 5  
 如瓶(じよへい・秋山) → 惟恭(これいよ・秋山あきやま、神職/詩歌) P 1 9 4 2  
 恕平(じよへい・小野) → 正雄(まさお・小野おの、篠屋、商家/歌人) O 4 0 1 5  
 序平(じよへい・一色) → 範序(はんじよ・一色いっしき、藩士/郷土史) H 3 6 9 8  
 C2295 如瓶子(じよへい・永井ながい/本姓;大江、名;喜) 1661-1731? 大阪書家:和氣由貞門/古法帖臨模す、  
 肥前平戸藩に2百石で招聘;病気を理由に辞退、辞書・往来物の注釈書執筆、  
 狂歌も嗜む;永田貞柳と交流、1681「邇言便蒙抄」85「和漢筆仙集」「難字訓蒙図彙」編、  
 1702「庭訓往来諺解大成」06「庭訓往来諸鈔大成」30「狂歌乗合船」編、  
 「訓蒙図彙」「三徳筆抄」「走帆堂筆帖」「庭訓往来掌中大成」「童子字訓」著、  
 「狂歌種ふくべ」(没後;1737門弟水谷李郷編)、水谷李郷・岡本流水の師、  
 [如瓶子(;号)の字/別号]字;政純、別号;如瓶/走帆/走帆堂/自得/静甫/静翁/主静翁  
 如瓶道人(じよへいどうじん) → 璣(たまき・山県/宍戸、藩士/儒者) S 2 6 2 3  
 所兵衛(しよへい・河浪) → 質斎(しつさい・河浪かわなみ/野田、儒者) E 2 1 8 9  
 所兵衛(しよへい・和氣) → 貞国(さだくに・和氣わけ、庄屋/歌人) P 2 0 8 1  
 E2299 助保(じよへい・久志) ? - ? 琉球の漢詩作者、「子賛詩集」著  
 処方(しよほう・梯) → 処方(やすかた・梯かけはし、藩士/歌人) F 4 5 7 5  
 C2296 恕方(じよほう・野々宮のみや) ? - ? 詩人・遯庵門、1713「遯庵詩集」編・跋  
 M2283 助法(じよほう・久志) ? - ? 琉球の漢詩作者、「晨光閣唱集」、「顧国柱詩稿」著  
 助芳(じよほう・本多) → 助芳(すけよし・本多ほんだ、藩主/国学) J 2 3 2 3  
 如法(じよほう・常蓮社) → 大基(だいき;法諱、浄土僧) J 2 6 5 7  
 叙宝(じよほう・和田) → 重善(しげよし・和田/湯本、藩士/詩人) T 2 1 1 6  
 C2297 書方軒(しよほうけん) ? - ? 浮世草子作者:  
 1704「心中大鑑しんじゅうおおかみ」著(京の板木屋治郎右衛門等刊/:元禄期の心中事件を題材)  
 M2284 如璞(じよぼく・須藤すどう、名;春庵) 1689-1774? 羽後平鹿郡阿氣の生/同郡増田で医を開業、  
 俳人;美濃派俳諧を弘める、1773「仙北集」著、  
 [如璞(;号)の字/別号]字;休焉、別号;尚容亭  
 C2298 如本(じよほん・館屋/大越、如柳の養子)?-1771 加賀金沢の俳人;兄の希因門・希因門五哲の1、  
 1762希因13回忌追善「北時雨」編刊、/66「暮柳発句集」後川編纂に倚子と共に支援、  
 1772几董「其雪影」2句入、  
 [春の風濁らぬ川はなかりけり](其雪影;巻尾249/雪解の濁水は北国の春の実感)  
 [如本の通称/別号]通称;権兵衛/米屋次右衛門、別号;松裏庵/松裡庵、法号;寿念  
 汝珉(じよみん→じよびん・祇園) → 南海(なんかい・祇園/祇/阮、儒/詩/画) 3 2 3 0  
 如無有(じよむゆう・瀬尾) → 信正(のぶまさ・瀬尾せのお/妹尾、儒者/詩歌) I 3 5 7 8  
 庶明(しよめい・源) → 庶明(もろあきら・源、廷臣/歌人) G 4 4 9 9  
 W2241 如明(じよめい・滝内たきうち/本姓;源、通称;左兵衛)?-? 江中期;江戸の幕臣?/歌人、伝不詳、  
 1763磯野政武催「遊角管別荘記つのはずのべつそうにあそぶのき」入(3首/詩1編/和文)、  
 [露霜つゆじもの古き例ためしをとりあへず幣とたむくる木々の紅葉ば](遊角管記;菅公の例)  
 2212 舒明天皇(じよめいてんのう、名;田村皇子、彦人大兄皇子[敏達天皇]男) 593-641? 母;糠手姫皇女、  
 蘇我蝦夷えみしにより擁立、629即位:高市岡本宮御宇天皇たけちのおかもとのみやのあめのしたしるしめしすめらみこと、  
 歌;万葉集一期;巻八1511、続古今(444)

- [夕されば小倉のやまに鳴く鹿は今夜は鳴かず寝ねにけらしも] (万葉; 八1511/秋雑歌)  
 助茂(じよも・藤原) → 助茂(すけげ・藤原ふじわら、廷臣/連歌) G 2 3 3 1
- M2285 **如毛**(じよもう・岡崎おかざき、名; 和方、小堺屋4代目平助男) 1749-1816 68 信州上田酒造業小堺屋5代目、  
 俳人: 1767頃同郷の白雄門/師没後は道彦・葛三・成美に添削を受、  
 1786几董の上田来訪時同門の雲帯・麦二・三机らと連句興行、狂歌; 窪俊満・三陀羅法師門、  
 1783「蓑の露」92「俳諧名家録」著、  
 [如毛(;号)の通称/別号]通称; 小堺屋平助、  
 別号; 五朋楼/五窓楼/曲肱楼/此心齋/宵寝長人/寿長人、法号; 瑞谿如毛居士  
 如也(じよや・芳村) → 玄恂(げんじゆん・芳村よしむら、医者) J 1 8 7 6  
 書雄(じよゆう・鈴木) → 書緒(書雄/文緒ふみお・鈴木、国学者) H 3 8 8 2  
 諸雄(じよゆう・小野) → 諸雄(もろお・小野おの、商家/歌人) J 4 4 4 8
- M2286 **汝裕**(じよゆう・岸きし、名; 綽/雅法、吉田好察[宗敬]4男) 1751-1821 71 越前角鹿生、博覧強記/詩文、  
 岸雅普[玉竿]の養子、1779江戸に出て幕臣; 御持組与力/支配勘定/勘定組頭/勘定吟味役、  
 能吏で1818二丸留守居に昇進、関東諸河川の普請担当、蔵書家、大田南畝と親交、  
 1805「甲水源委」著、  
 [汝裕(;字)の通称/号]通称; 彦十郎、号; 慎齋/曲江/苞矣館ほういかん
- C2299 **序遊**(初世じよゆう・菅野すがの、初名; 山彦新次郎) 1756-1823 68 河東節の三絃(三味線)家、  
 五世一中と協力し一中節を中興; 菅野序遊と改名し一中節三絃家として活躍
- D2200 **序遊**(2世じよゆう・菅野すがの、初世序遊男) 1784-1841 58 一中節の三絃家・1839菅野派を立て祖、  
 のち門弟の都一閑齋が1849宇治派を立てる  
 如雄(じよゆう・尾藤/藤原) → 如雄(にょゆう、尾藤資広、南北期僧/歌) G 3 3 1 1  
 助雄(じよゆう・下郷) → 鍋盛(かせい・下郷しもと、商家/俳人) M 1 5 6 2  
 助侑(じよゆう・広田) → 助侑(すけなみ・広田ひろた/度会/橋村、神職) J 2 3 0 8  
 如有子(じよゆうし) → 厚生(あつなり・朝夷あさいな、藩士/文筆) E 1 0 7 1  
 初有大夫(じよゆうたゆう) → 清宣(きよのぶ・賀茂/岡本、神職/歌人) D 1 6 4 8  
 助予(じよよ・曾我) → 助予(すけよ・曾我そが、幕臣/歌人) L 2 3 1 2
- D2201 **如葉**(じよよう; 号) ? - ? 俳人: 1678四十四よし六吟興行(常矩「ねざめ」所収)
- D2202 **如要**(じよよう・招月亭) ? - ? 江前期大阪の商家/俳人; 小西来山[1654-1716]門、  
 1681来山「大坂八五十韻おおさかはちごじゅういん」入(8人で五十韻;  
 如要と来山・快用・江水・和尹・白水・夕扉・正察)  
 1682春林「俳諧百人一句難波色紙」入、  
 [月ながら座敷曇るや隣の蔵](難波色紙; 43/名月が隣家のため見えない)  
 如羊(じよよう) → 任口(にんこう、真宗僧/俳人) G 3 3 3 6  
 叙庸(じよよう・井本) → 常蔭(つねかげ・井本いもと、藩士/国学/歌) F 2 9 1 8  
 汝庸(じよよう・萱野) → 熙載(ひろり・萱野かやの、藩士/国学) J 3 7 1 1  
 汝葉(じよよう・沢野) → 喬緒(たかお・沢野さわの、詩人) L 2 6 6 0  
 汝翼(じよよく・山田) → 鹿庭(ろくてい・山田やまだ、藩儒) B 5 2 0 0
- D2203 **徐来**(じよらい; 号・初世呉竹亭) ? - ? 江中期俳人: 鳥酔門、1757「夏炉一路」書簡入
- D2204 **如雷**(じよらい; 号) ? - ? 俳人: 蓼太門、1762「芙蓉文集」入
- M2287 **徐来**(じよらい; 号) ? - ? 江中期三河矢曾根俳人: 1766序草「八橋集」片水と共編
- M2288 **如雷**(じよらい・伊東いとう、名; 弼/通称; 道鶴、道迪男) ?-1857 江後期医者; 三河吉田藩医; 父を継嗣、  
 1837「撰養茶話」著  
 如備子(じよらいし) → 如備子(にょらいし、斎藤親盛/仮名草子作者) G 3 3 2 3  
 絮羅架(じよらか) → 琴風(きんぷう・柳川/生玉/河東、俳人) E 1 6 6 3  
 女蘿館(じよらかん) → 必東(ひつとう・泉/銭せん、書家/画/詩) C 3 7 7 3  
 如螺山人(じよらさんじん) → 相幸(すけただ・木下きのした、医/絵師/歌) I 2 3 3 4
- R2227 **渚嵐**(じよらん; 号) ? - ? 江後期安藝広島 of 俳人、  
 [家の風吹けば開くや冬牡丹](短冊/祝)
- M2289 **如蘭**(じよらん・仁上にかみ、名; 純) 1785-1852 68 常陸の儒者/1846水戸弘道館の訓導、  
 1831「蒙士経」/45「辨惑篇」著、

[如蘭(；号)の字/通称]字；子一、通称；久三郎

- 如蘭(じょらん・津島) → 恒之進(つねのしん・津島、本草学) C 2 9 9 7  
如蘭亭(じょらんてい) → 梅花(ばいか・藤堂、儒者/詩人) 3 6 7 8  
助理(じより・源) → 助理(すけまさ・源みなもと、廷臣/歌人) D 2 3 0 0  
助利(じより→すけとし・戸田) → 助賢(すけとし・本多/藤原/戸田、藩主/歌) G 2 3 6 4  
諸立(じよりつ・庵/奄) → 諸立(もろたち・庵/奄君いおりのきみ/あむのきみ、万葉歌人) H 4 4 3 9  
汝栗(じよりつ・渡/亙) → 忠秋(ただあき・渡/亙わり/鳥居、歌人) E 2 6 7 8  
鋤立(じよりつ) → 鋤立(じよりゅう；号、俳人) D 2 2 0 7  
D2205 如流(じよりゅう；号) ? - ? 幽山系江戸の俳人、  
1676春澄「江戸十歌仙」第七巻歌仙入、78幽山「江戸八百韻」入、「東日記」の怒流と同一？  
D2206 如柳(じよりゅう；号) ? - ? 出羽の俳人、  
1681清風「おくれ双六」/1691北枝「卯辰集」4句入、  
[いつの間に背戸の木槿むくげは咲きぬらん](卯辰集；三337/夕方萎んだ花を見る)  
D2207 鋤立(じよりゅう；号) ? - ? 江戸の俳人、大阪で才磨・万海・轍士・西鶴と交流、  
1691「誹諧六歌仙」編(素堂序・才磨跋)、1691律友「四国猿」1702轍士「花見車」入、  
[生きて居る人見て秋のあはれ也](花見車；四194)  
Q2236 怒流(じよりゅう；号) ? - ? 俳人、1681言水「東日記」言水・幽山らと歌仙入  
如流と同一？ → 如流(じよりゅう、幽山系俳人) D 2 2 0 5  
M2253 如柳(じよりゅう；号) ? - ? 武蔵忍の俳人、1691不角「二葉の松」1句入、  
[覚えあり罪の懸かりの帳消さん](二葉の松；323/閻魔帳の記録を消したい；盆供養)、  
(前句；終つひ七月に成りにけるかな；七月は盂蘭盆の月)  
R2214 序柳(じよりゅう；号) ? - ? 俳人；1695不角「矢の根鍛冶後集」1703「広原海わたつみ」入、  
[孕ませて尻腹痛むに療治なし](矢の根後集/尻腹痛は産後の腹痛；転じて後始末)  
Q2237 如柳(じよりゅう；号) ? - ? 安藝広島蕉門系俳人；1699支考「西華集」入、  
1705支考「三日歌仙」入/1706涼兔「潮とろみ」入  
V2236 如柳(じよりゅう・森、旧姓；斎藤) ?-1853 信濃伊那郡の国学者/歌人；田中大秀(1777-1847)門、  
[如柳(；号)の通称/別号]通称；竹之助、別号；蟬子/木賊坊  
女柳(じよりゅう) → 女柳(めやなぎ、川柳作者) 4 3 5 7  
如竜(じよりゅう・牧原) → 其竜(きりゅう・牧原まさはら、俳人) Q 1 6 5 0  
如柳(じよりゅう、如柳軒) → 北秀(ほくしゅう・葛飾かつしか、絵師) D 3 9 4 1  
如柳(じよりゅう・美馬) → 順三(順蔵じゅんぞう・美馬みま、医者/翻訳) L 2 1 3 9  
如竜華道(じよりゅうかどう) → 栄樹(さかき・一宮いちのみや、神職) N 2 0 8 8  
助良(じよりゅう・江戸) → 助良(すけよし・江戸えど/平、武家/連歌) D 2 3 6 9  
D2208 書林(しよりん) ? - ? 江戸俳人 1676蝶々子「誹諧当世男」入  
M2290 汝霖(じよりん；道号・妙佐みょうさ；法諱) ?-? 南北朝期応安・至徳1338-87頃遠江高園の臨濟僧；  
雪村友梅門か？、1368(応安元)絶海中津・大年祥登山らと入明、1378(永和四)絶海と帰国、  
1380赤松義則の招聘で播磨法雲寺住持/86山城宝幢寺住持、春屋妙葩の法嗣；妙佐と改称、  
嗟峨の怡雲軒に隠棲；没、「汝霖文集」「高園集」「帰隠稿」著、  
[汝霖妙佐の別法諱/号]初法諱；良佐りょうさ、号；高園  
M2291 如倫(じよりん・田中たなか、屋号；田畑屋) 1736-99 伊勢津の俳人；二日坊宗雨門、  
1775宗雨没；生前の約束通り阿弥陀堂に笠塚を建立、1796「寿詞石腸児」編、  
[如倫(；号)の通称/別号]通称；次郎左衛門、別号；木茶/東鷲  
D2209 序令(じよれい・石内いしうち) ? - ? 江前中期元禄・宝永1688-1711頃の江戸の魚問屋、  
俳人；其角門、1704「のぼり鶴」編、1700其角「三上さんじょう吟」/1705朝叟「ゆげた」入、  
1708格枝「斎非時ときひじ」入、1716風葉「江戸筏」独吟入、  
[蚊柱のただに崩れて油呼ぶ](「江戸筏」；第三独吟歌仙発句/夕風の中で油売を呼入れた)  
[序令(；号)の通称/別号]通称；四郎兵衛、別号；如雲軒  
助廉(じよれん・藤原) → 助廉(すけかど・藤原ふじわら、連歌) G 2 3 2 1  
助連(じよれん・藤原) → 助連(すけつら・藤原、官人/歌人) C 2 3 4 9  
如連(如蓮じよれん/によれん) → 北鼎(ほくてい；号、絵師) F 3 9 9 0

- 如蓮坊(じょれんぼう/にょれん)→ 禪寂(ぜんじやく;法諱、日野長親、天台僧) F 2 4 8 2
- D2210 如露(じょろ) ? - ? 雑俳点者;1796「古今前句集」(柳多留拾遺)入
- 如鷺亭(じょろてい) → 冬映(初世とうえい・牧、俳人) B 3 1 2 9
- ジョン・マン → 万次郎(まんじろう・中浜、漁師/英学教授) K 4 0 6 6
- R2228 志来(しらい) ? - ? 江中期京の俳人;1729隆志「俳諧草結」1句入、  
[岩に居て裂けて流るゝ柳かな](草結;237/岩に生えた柳の枝)
- 子賚(しらい・乗竹のりたけ) → 東谷(とうこく・乗竹、藩老/儒者) E 3 1 1 0
- 子賚(しらい・篠原) → 善窟(よしとみ・篠原しのはら、和算家) E 4 7 9 9
- 子来(しらい・根本) → 伯明(はくめい・根本ねもと、医者) D 3 6 9 6
- 子来(しらい・中井) → 乾斎(けんさい・中井、漢学者/詩人) E 1 8 1 2
- 師頼(しらい・源) → 師頼(もろより・源みなもと、大納言/歌人) 4 4 3 6
- 氏頼(しらい・佐々木) → 氏頼(うじより・六角・佐々木、武将/歌) 1 2 5 9
- 氏頼(しらい・大森) → 氏頼(うじより・大森おもり、武将) C 1 2 8 6
- 氏頼(しらい/うじより・藤原) → 禪忍(ぜんにん、唱阿弟、歌人) N 2 4 0 4
- 資頼(しらい・葉室) → 資頼(すけより・葉室はむろ/藤原/押小路/二条、中納言) D 2 3 2 7
- 自来(じらい・桂) → 誉正(たかまさ・桂かつら、庄屋/国学/歌) D 2 6 7 6
- 白糸亭(しらいとてい) → 滝住(たきずみ・白糸しらいと、国学) X 2 6 6 0
- 白猪史(しらいのふひと) → 広成(ひろなり・葛井ふじい、詩歌;万葉歌人) 3 7 2 3
- 自来舎(じらいや・渡辺) → 盧舟(ろしゅう・渡辺わたなべ、地役人/俳人) B 5 2 7 0
- 2214 白雄(しらお・加舎かや、名;吉春、藩士吉享男) 1738-9154 江戸深川の信州上田藩邸生/13歳で家出?、  
俳人;1764頃二世青峨門/65鳥明・鳥酔門/69以降信州で活躍/北越・近畿を行脚、74江戸住、  
1775鳥酔七回忌法要に不遜行為ありとの指弾を受け江戸を去る;鳥明と絶縁、80江戸に帰る、  
日本橋鉄砲町に春秋庵経営;鳥明派に対抗する勢力を確立、1769「面影集」71「田毎の春」編、  
1771俳論「加佐里那止かざりなし」72「文車」編、80-5「春秋稿」、「白雄句集」/俳論「寂葉さびしおり」著、  
「奥羽紀行」「春のおとづれ」「誹諧白雄夜話」「春秋庵白雄居士紀行」「誹諧華筏」外著多数、  
追善集;1周忌「一鐘集」3周忌「冬瓜汁」7周忌「ななとせの秋」外、  
[木枯や市いちに業たつきの琴をきく](白雄句集/せわしい町に琴を弾く乞食・無常な風)  
[白雄(;号)の幼名/通称/別号]幼名;五郎吉/競、通称;平田忠次郎(;一時の称)  
別号;舎来(;初号)/昨鳥さくう/白尾坊、鳴立庵しぎたつあん/春秋庵/露柱庵  
[門人]道彦・巢兆・長翠・保吉・碩布・天姥てんぼ(虎杖)・春鴻・葛三・  
冥々・伯先・星布・其明・柴居しおり  
上記はじめの8人は白門八弟子 → 白門八弟子(はくもんのはちていし)
- 白雄(しらお・千葉) → 篤胤(あつね・千葉ちば、神職/地誌故実) E 1 0 6 6
- 白尾坊昨鳥(しらおぼうさくう) → 白雄(しらお・加舎、俳人) 2 2 1 4
- 仍雅(しらがし) → 仍雅(じょうが・飛鳥井) L 2 1 7 2
- 白檀園(しらかしえん/かしえん) → 葛野(かどの・千葉、国学/歌人) 1 5 7 1
- 白檀園(しらかしえん/かしえん) → 斌彦(あきひこ・佐藤まさとう/飯塚、里正/国学) H 1 0 6 5
- 白柏舎(しらかしのや) → 清民(きよたみ・里見さとみ、神職/国学) U 1 6 4 3
- 白檜屋(しらかしのや/かしのや) → 尚文(ひさぶみ・当麻とうま、商家/国学者) K 3 7 2 8
- 白檀屋(しらかしのや/かしのや) → 久富(ひさとみ・大口おおぐち、歌人) B 3 7 5 6
- D2212 白壁くらん戸(しらかべのくらんど、白壁山人) ?-? 江戸の狂歌作者、スキヤ連
- 白壁王(しらかべのおう) → 光仁天皇(こうにんてんのう) B 1 9 8 0
- 白川(しらかわ) → 公親(きんちか・三条、内大臣/歌人) E 1 6 3 1
- 白河(しらかわ・世尊寺) → 経朝(つねとも・世尊寺/藤原、能書/歌人) C 2 9 6 9
- 白川上人(しらかわしょうにん) → 信空(しんくう;法諱・法蓮坊、浄土僧) D 2 2 8 2
- D2213 白河天皇(しらかわてんのう、名;貞仁/法名;融観、後三条天皇皇子) 1053-112977 母;藤原公成の女茂子、  
在位1072-86;撰関を廃し天皇親政/3代43年間院政、1096落飾;法皇となる、法勝寺建立、  
「白河院御記」、歌:後拾遺・金葉集の撰進勅宣/内裏仙洞歌壇を組織;歌合主催;  
1076「殿上歌合」催、1078「内裏後百番歌合」判、93「郁芳門院根合」1116「鳥羽殿北面歌合」催、

- 勅撰29首;後拾(7首277/283/315/326下)金(5首23/35下)詞花(27)千(77)新古(4首)以下、  
 [世の中の三不如意 一 賀茂川の水・一 双六のさい・一 山法師](白河法皇の詞)、  
 [さして行く道も忘れてかりがねの聞こゆる方に心をぞやる](後拾;秋/題詠旅中聞雁)  
 白河殿(しらかわどの) → 良房(よしふさ・藤原ふじわら、摂政/歌人) 4 7 2 5  
 白川入道右府(しらかわにゅうどうのうふ) → 実親(さねちか・三条/転法輪三条、右大臣) D 2 0 1 7  
 白川三位(しらかわのさんみ) → 雅喬(まさたか・白川しらかわ、神祇伯/歌人) D 4 0 1 5  
 白河女御越中(しらかわのによごえちゅう) → 越中(えちゅう、歌人) 1 3 7 8
- D2214 白川与布禰(しらかわのよふね;号、小谷氏)?-? 江戸小石川の戯作者/狂歌作者;朱楽菅江門、  
 山の井連に属す、1778「落語花之家抄」著、「天明睦月」「故混馬鹿集」入/87「才蔵集」入:  
 [つれなさまよ今宵もひとりふすま地の引き手の山になく郭公](才蔵集)、  
 (万葉人麻呂の歌/源氏須磨卷/夫木抄基家の歌を踏まえる)  
 白河楽翁(しらかわらくおう) → 定信(さだのぶ・松平) 2 0 2 2  
 白木翁(しらきおう) → 伴雄(ともお・長沢、藩士/故実/国学/歌) P 3 1 2 3  
 新羅学生(しらがくしょう) → 審祥(審詳しんじょう;法諱、日本華嚴の祖) O 2 2 9 2
- R2225 白菊(しらぎく;組連) ? - ? 江戸青山の雑俳の連/取次;1746・47「湖丸評万句合」入、  
 取次例;[越後屋は現金汗のごとく也](47万句合/前句;いつきて見ても賑かな事)、  
 (一貫し現金掛値なし商法;汗を流し現金を数える)、  
 (綸言りんげん汗の如し[礼記/漢書劉向伝];君主の言は口から出たら汗同様に元に戻らない)  
 遣新羅使人等(しらがにつかはさるつかいびとら) → 遣新羅使人等(けんしらがしじんら) 1 8 2 0  
 芝洛(芝楽しらく・金沢) → 吾輔(ごすけ・金沢・並木、歌舞伎作者) D 1 9 0 5  
 芝楽(初世しらく) → さん馬(初世さんば・翁家おきなや、落語家) E 2 0 6 1  
 紫楽(しらく、俳名) → 万作(まんさく・辰岡、歌伎作者) K 4 0 5 6  
 子犖(しらく・小泉) → 垣斎(えんさい・小泉、医者/詩文) E 1 3 7 3
- D2216 自楽(じらく・増谷ますや) ? - ? 江中期浮世草子作者;気質物など、  
 1755「地獄楽じごくのたのしみ日記」著/69「加古川本艸綱目」著(;竹原春朝斎画)、「千秋楽」著  
 自楽(じらく・三文舎) → 曲山人(きょくさんじん、人情本作者) 1 6 4 2  
 時楽(じらく・牛込) → 重忝(しげのり・牛込うしごめ、幕臣/文筆家) S 2 1 0 3  
 而楽(じらく・末永) → 茂世(しげつぐ・末永すえなが、藩士/歌人) Z 2 1 0 0  
 四楽庵(しらくあん) → 麦水(むくすい・堀、俳人) 3 6 0 9  
 自楽庵(じらくあん) → 立庵(りつあん・渡辺わたなべ、与力/茶人) B 4 9 5 6  
 子楽院真覚虚舟(しらくいんしんかくきょしゅう) → 家熙(いえひろ・近衛、摂政/書画) 1 1 5 9  
 至楽園(しらくえん) → 将興(まさおき・丸里くのり、藩士/詩人) B 4 0 4 8  
 自楽翁(じらくおう) → 安親(やすちか・河田かわだ、藩士/歌人) C 4 5 0 2  
 至楽窩(しらくか) → 丈山(じょうざん・石川、儒者/詩人) S 2 2 5 7  
 至楽窩(しらくか) → 楽斎(らくさい・平松ひらまつ、民政家/詩) D 4 8 4 0  
 至楽居(しらくきよ) → 拙斎(せつさい・西山/坂本、医儒/詩歌) E 2 4 3 0  
 自楽軒(じらくけん) → 氏冬(うじふゆ・吉見、藩士/兵法) C 1 2 7 0  
 自楽軒(じらくけん) → 重忝(しげのり・牛込うしごめ、幕臣/文筆家) S 2 1 0 3  
 芝楽亭(しらくてい) → 慈悲成(じひなり・桜川、鋳職/戯作/落語) 2 1 3 0  
 しらけ(921醍醐菊合参加、源精と同一) → 精(せい・しらけ?・源、廷臣) 2 4 5 5  
 知らずのや(しらすのや) → 務(つとむ・小野、歌人) 2 9 9 8
- D2211 白太夫(しらたゆう、度会わたらい、春彦)?-? 伊勢神宮神官:菅原道真に仕えたという老僕、  
 「菅家瑞応録」(室町期成立?著者不詳)に登場/のち浄瑠璃「天神記」「手習鑑」に登場  
 白鳥山人(しらとりさんじん) → 未塵(みじん・堀ほり、藩士/俳人) 4 1 8 9  
 白鳥鼎三(しらとりていざん) → 鼎三(ていざん;道号・即一、曹洞僧) 3 0 9 4  
 不知火人(しらぬいじん) → 若翁(わかおう・堀ほり、藩士/俳人) G 2 1 0 9
- D2217 しらぬいのつくつく法師(しらぬい) ?-? 狂歌本町連、1787後万載1首(297)、  
 [望月の駒は月毛もひくべきを関の清水にかげみゆるなり](後万載;三秋297/駒迎)、  
 (八月十五日左馬寮の使が駒牽の駒を近江逢坂関まで出迎える習慣)、  
 (逢坂の関の清水に影見えて今や引くらむ望月の駒;拾遺集/貫之)

- D2218 **白根**(しらね・一文字、草加くさか、名;環/字;循仲)?-? 江戸の幕臣曲淵家の家臣/狂歌作者、  
常盤橋北ノ番所曲淵公邸に住/狂歌;本町連、  
1782橋州「狂歌若葉集」6首入、87赤良「才蔵集」1首(廻文)、  
[才蔵集;廻文/破衣;むらさきもついやれつつぞをなの身の猶ぞつづれやいつもきざらむ]  
[一文字白根(;狂名)の通称/号]通称;作左衛門、号;無腸庵
- Q2233 **白根重雪**(しらねのしげゆき) ? - ? 甲斐甲府の狂歌作者;1787「才蔵集」入;440、  
[君と我われねぶかき中となりにけりあひそめし日は人もしらねど](才蔵集;440;寄冬葱恋)  
(葱の異名ひともじを掛る)  
白旗上人(しらはたのしょうにん)→ 良暁(りょうぎょう;法諱、浄土;白旗流祖) H 4 9 0 7  
白藤(しらふじ) → 白藤(はくとう、俳人) J 3 6 2 0
- G2260 **白藤**(しらふじ;組連) ? - ? 江中期江戸大名小路(丸の内)の雑俳の組連、  
取次;1737「雲鼓評万句合」入、取次例;[年寄が無いでさいさい根太根が落ち](万句合)、  
(くるひこそすれ々々/親が居ない若夫婦;根太は床板の横木)  
しらら翁(志羅々しららおう)→ 歩簾(ほしやう・加藤、俳人) E 3 9 2 7  
しらら房(しららぼう) → 雉啄(ちたく・遠藤、鳴立庵6世/俳人) E 2 8 6 9
- M2292 **之纜**(しらん・山県やまがた) 1629- 1686 58 若狭出身/常陸水戸藩士;1667光圀に出仕、  
彰考館入/1669望月恒隆の業を継承;藩の記録を作成、俳人、1669「水城実録」編、  
「巡見録」「管領伝」著、「文苑雜纂」に俳諧句入、  
[之纜(;名)の通称] 三左衛門/源七
- E2280 **芝蘭**(しらん) ? - ? 京の俳人、1691賀子「蓮実」1句/1702轍士「花見車」1句入、  
[押し分けて誰が寐し跡ぞ花薄はなすき](蓮実;348)
- M2293 **芝蘭**(之蘭しらん・大島おおしま、名;喜侍)?-1733 大阪の町人/和算家;前田憲舒・島田尚政門、  
さらに中根元圭門、測量術;村上義寄・喜多治伯・古市正信門、大島流を称す、  
撰津・和泉・播磨・備前・阿波・淡路を歴遊;門弟を指導、「遠候見盤」「遠候郭公盤」、  
「遠候車盤」「遠候凶盤」「大島喜侍日延論」、1723「天学便蒙」24「車盤并袖盤」/27「時計考」著、  
「享保十年推新曆経朔定期之一例」「蜀錦之例」「町見書」著/「凶盤遠候之術」編;外編著多数、  
[芝蘭(;号)の通称] 善左衛門
- M2294 **市嵐**(しらん・藤村ふじむら、名;幸作)?-1757 備後福山の俳人;野坡門、1756上洛し諸九尼と詠句、  
「俳林良材」著、1752野坡追善「十三題」入、追善集;「よもぎが露」(息;和吹編)、  
[水鳥の汐にもあそぶ江に馴れて](十三題入)
- 2215 **紫蘭**(しらん・南陀伽なんだか・姓;窪田くぼた/修姓;窪くぼ、) 1757-1820 64 江戸日本橋亀井町住;  
伯父に養育される、金工業;沈金/絵師;楫取魚彦・北尾重政門/挿絵・狂歌摺物、  
狂歌;頭光つむりのひかる門;伯楽側、1779頃から黄表紙・洒落本作者、  
1781「実恋は癖物がたり」82「通人癖物語」、83「画鵠」画、  
1801「浅間山麓の石」画/07「狂歌月の都」/10「朧月夜物語」画外多数、  
狂歌;徳和歌後万載/才蔵集入(;共に一節千杖名)、  
[かくかかん飲んでほくらす生酔の罪てふつみもなかとみの友](後万載;862 ;  
酒の飲み仲間のはのきで罪がない)、  
[南陀伽紫蘭の通称/別号]通称;易兵衛/安兵衛、  
別号;窪春満/窪俊満くぼしゅんまん/尚左堂/黄山堂/一節千杖ひとふしちつえ/塩辛坊
- M2295 **紫瀾**(しらん・海野うんの、名;彬之、裕の長男) 1774-1841 68 出雲松江藩の儒者;藩校明教館;桃白鹿門、  
支藩広瀬藩主松平直義の句読指南/1801新設の漢学所教授、1805江戸昌平黌で古賀精里門、  
八代藩主直覚の侍講、「紫瀾詩鈔」「紫瀾文集」「紫瀾文集抄」「紫瀾文稿」著、  
[紫瀾(;号)の字/通称]字;子彬、通称;弥平四郎/弥四郎
- M2296 **芝蘭**(しらん・深海ふかみ、文旨舎3世)?-? 江後期丹波亀山の女流俳人;全瓦門、  
師の文旨舎を継嗣、1801「全瓦集」編  
子蘭(しらん・片岡・芸香亭)→ 芸亭(うんてい・片岡、商家/儒者) D 1 2 9 7  
子蘭(しらん;字・岡) → 穆斎(ぼくさい・岡、儒者) D 3 9 1 1  
子蘭(しらん・中村) → 国香(くにか・中村、儒者/郷土史家) B 1 7 4 8  
子蘭(しらん・永田) → 蘿道(らどう・永田ながた、俳人/琴) B 4 8 4 9

- 子瀾(しらん・村瀨) → 櫛園(れきえん・村瀨むらせ、儒者) 5 1 7 2  
芝蘭(しらん) → 宣長(のりなが・本居、小津) 3 5 2 4  
芝蘭(しらん・並木) → 一叟(いっそう・並木、俳人) B 1 1 5 6  
士蘭(しらん;法諱) → 春山(しゅんざん;道号・士蘭、臨濟僧/歌人) K 2 1 8 1  
滋蘭(じらん・初世啄木庵茂蘭) → 日従(にちじゅう、日蓮僧/俳人) C 3 3 2 0  
芝蘭齋(しらんさい) → 宗益(そうえき・今井いまい、蘭学者) G 2 5 2 5  
芝蘭書室(しらんしょしつ) → 宗経(むねつね・南条なんじょう、藩士/学頭) B 4 2 7 0  
紫蘭亭(しらんてい) → 岷岡(こんこう・小池こいけ、儒者) P 1 9 1 8  
紫蘭亭(しらんてい) → 政経(まさつね・岡田おかだ、藩士/茶/辞書) E 4 0 1 2  
芝蘭堂(しらんどう) → 伊三郎(いさぶろう・中屋/中、蘭学/銅版画) F 1 1 5 0  
芝蘭堂(しらんどう) → 玄沢(げんたく・大槻おおつき、医者/蘭学者) 1 8 2 4  
芝蘭堂(しらんどう) → 正従(まさより・加藤かとう、正識男) I 4 0 8 4  
芝蘭堂(しらんどう) → 意順(もとのぶ・天野あまの、商家/歌人) B 4 4 3 8  
子履(しり・今井) → 鏡洲(きやうしゅう、今井いまい、儒者/詩人) N 1 6 9 2  
子履(しり・立野) → 竜貞(りゅうてい・立野たつの、古医方医者) F 4 9 2 6  
時理(じり→ときまさ・横井) → 時文(ときぶみ・横井よこい、藩士/儒者) K 3 1 0 0  
子陸(しりく・浅井) → 喻霞(きゆうか・浅井あさい/杉浦、藩士/儒) M 1 6 3 7  
斯立(しりつ・水足) → 博泉(はくせん・水足みづたり、儒者) D 3 6 5 1  
士立(しりつ・杏) → 凡山(はんざん・杏きょう、儒者) H 3 6 8 3  
士栗(しりつ・喜多村) → 香城(かうじょう・喜多村、幕府医官) F 1 9 1 2  
士栗(しりつ・河原) → 翠城(すいじょう・河原/村上、儒者) 2 3 6 7  
士栗(しりつ・小南) → 栗齋(りつさい・小南こみなみ、藩儒) B 4 9 9 2  
士栗(子栗しりつ・大岡) → 栗齋(りつさい・大岡おおおか、儒者) B 4 9 9 5  
士栗(しりつ・阿波加) → 脩造(しゅうぞう・阿波加あわか/佐渡、医者) X 2 1 8 8  
士栗(しりつ・木村) → 芳衡(よしひら・木村きむら/堀江、藩士/歌) M 4 7 4 1  
子立(しりつ・井沢/志富田) → 宜庵(ぎあん・井沢いざわ、漢学/詩歌) J 1 6 5 4  
子立(しりつ・河津) → 省庵(せいあん・河津かわづ、蘭医/藩医) H 2 4 2 9  
子栗(しりつ・伊藤) → 菊圃(きくほ、伊藤いとう、儒者) K 1 6 2 6  
子栗(しりつ・長谷川) → 寛(ひろし・長谷川はせがわ、和算家/教育) F 3 7 8 8  
子栗(しりつ・河地) → 時寛(ときひろ・河地かわち、国学者) U 3 1 8 6  
子栗(しりつ・高林) → 景寛(かげひろ・高林たかばやし/久津見、藩士/歌) U 1 5 9 5  
M2297 二栗(じりつ・久野くの、名;政永) 1821-7252 伊勢度会の篆刻家:小俣螻庵(栗齋)門、  
「二栗齋印譜」著、  
[二栗(;号)の字/通称/別号]字;嵩年、通称;伝太夫、別号;行栗  
尻焼猿人(しりやけのさるんど;狂名) → 抱一(ほういつ・酒井、絵師/諸芸) 3 9 1 3  
M2298 市柳(しりゅう) ? - ? 尾張津島の俳人、1689「あら野」3句入、  
[屋やわたりの宵はさびしや月の影](あら野;卷一月/移住した新居での心境)  
D2219 芝立(しりゅう) ? - ? 俳人、1759絵俳撰集「暗夜訓蒙図彙よしわらきんもうずい」編  
子竜(しりゅう・徳川) → 光友(みつとも・徳川、尾張藩主/書画) E 4 1 0 5  
子竜(しりゅう・徳川) → 光圀(みつくに・徳川/源、藩主/修史) 4 1 2 5  
子竜(しりゅう・竹田) → 三益(さんえき・竹田、藩医者) L 2 0 7 9  
子竜(しりゅう・河) → 恕斎(じよさい・河野、儒/詩) C 2 2 5 0  
子竜(しりゅう・滝川) → 有又(ありはる・滝川、和算家) F 1 0 6 4  
子竜(しりゅう・根本) → 羽嶽(うがく・根本、儒者) C 1 2 0 8  
子竜(しりゅう・岡/河野) → 恕斎(じよさい・河野こうの、藩儒者/詩人) C 2 2 5 0  
子竜(しりゅう・今井) → 晦堂(かいどう・今井いまい、藩士/儒者) J 1 5 0 0  
子竜(しりゅう・結城) → 確所(かくしよ・結城ゆうき、藩士/儒者) H 1 5 3 1  
子竜(しりゅう・竹尾) → 善筑(ぜんちく・竹尾/源/斎藤、浄土僧/故実) G 2 4 3 3  
子竜(しりゅう・太田) → 玄九(げんきゅう・太田おた、儒者/漢学) I 1 8 4 5  
子竜(しりゅう・田中/井部) → 健斎(けんさい・井部いべ/田中、儒者) E 1 8 8 4



子竜(しりゅう・安部井) → 澹園(たんえん・安部井あべい、藩士/儒者) T 2 6 1 8  
子竜(しりゅう・南坡斎) → 涼仙(りょうせん・富坂とみざか、医者/飢饉記録) I 4 9 5 4  
子竜(しりゅう・東) → 東萊(とうらい・東あずま、絵師/詩人) H 3 1 9 5  
之竜(しりゅう・秋月/劉) → 橘門(きつもん・秋月、儒者) I 1 6 6 6  
志竜(しりゅう・香川) → 景新(かげちか・香川、歌人) K 1 5 9 9  
士竜(しりゅう) → 恵範(けいはん・六地藏寺3世、真言僧) G 1 8 5 6  
士竜(しりゅう・中井/河西) → 函洲(かんしゅう・川西/河西、儒者) H 1 5 6 7  
士竜(子竜しりゅう・千村/松平) → 君山(くんざん・松平、藩士/儒者) 1 7 2 8  
士竜(しりゅう・鱸) → 有飛(ありとび・鱸すずき、国学者) F 1 0 5 1  
士竜(しりゅう・佐藤/草野) → 潜溪(せんけい・草野くさの、藩儒/書/詩) M 2 4 1 3  
士竜(しりゅう・本間) → 遊清(ゆうせい・本間、医・国学・歌) 4 6 0 5  
士竜(子竜しりゅう・富永) → 莘陽(しんよう・富永/長深/神墨、陽明学者) 2 2 9 0  
士竜(しりゅう・松本) → 古堂(こどう・松本まつもと、儒者/勤王) D 1 9 4 3  
士驢(しりゅう・中山) → 麓山(ろくざん・中山なかやま、漢学者) J 1 9 3 8  
資隆(しりゅう・藤原) → 資隆(すけたか・藤原ふじわら、廷臣/歌人) C 2 3 2 9

D2220 **二柳**(じりゅう・勝見かつみ、名; 充茂みつしげ) 1723-1803<sup>81</sup> 加賀山中の俳人: 桃妖・乙由・希因門、放浪行脚、希因の遺志を嗣ぎ蕉風復古を主唱、几圭・琴路・文狸と親交、1771大阪住、遊行寺に芭蕉塚建立、書肆石原茂兵衛の蕉門出版に協力し中興運動; 二条家より中興宗匠の称を受、蕪村と交流、京墨直会を催す、1759「細道伝来記」61「除元帖」、70「松かざり集」74「氷餅集」75「俳諧直指伝」編、1789「佐賀亭猿」編、94「鈍太郎」、「誹諧夜話」「吉備吟草」「筆ついで」「二柳庵発句集」外多数、追善「不二庵終焉記」(奇淵坊桃序述)、二柳追善集; 「桃下華葉」(息桃処編)、桃処の父、[一里行き二里行き深山みやまざくらかな](其雪影入)、  
[二柳の別号] 桃左( ; 初号)/ 桃居/ 三四坊/ 慎斎/ 不二/ 壳冠子、不二庵/ 二柳庵/ 七杉堂/ 翁堂、白岳道人、

Q2241 **二流**(じりゅう・別号; 鶴亭/ 稻舎いなのお) ?-? 安藝吉田の俳人; 1823玄蛙「萍うきくさ日記三編」入、1825/26南亭「はつたより」入、 [幟かやとりし夜のおそろしや秋の風](萍日記三編)

U2289 **慈隆**(じりゅう; 法諱、字; 洛山、俗姓; 亀掛川) 1815<sup>or</sup>19-72<sup>58or</sup>54 下野の天台僧、日光浄土院住職、大僧都、1856(安政3)陸奥中村藩の相馬充胤の藩政顧問; 教育・民政改革推進、戊辰戦争で藩論を勤王にまとめる/ 維新後; 士族授産に尽力、  
[慈隆の号] 静慮庵/ 浄輪房

次隆(じりゅう・山岡) → 次隆(つぎたか・山岡、藩士/ 詩人) 2 9 5 2  
二柳庵(じりゅうあん) → 青峨(2世せいが・前田、春來、俳人) 2 4 8 3  
始流軒(しりゅうけん) → 数也(すうや・平尾ひらお、藩茶道方茶人) F 2 3 3 2  
二柳斎(じりゅうさい/ 二柳亭) → 吉信(よしのお・紀き/ 藤井ふじい、絵師) F 4 7 6 3  
止柳子(しりゅうし) → 重軌(しげみち・豊原とよはら、藩士/ 国学者) S 2 1 7 9  
芝竜生(3世しりゅうせい) → 扇好(せんこう・土橋亭、落語) M 2 4 2 6

D2221 **支梁**(しりょう) ? - ? 江戸の俳人、1693洒堂「深川」入( ; 芭蕉との歌仙)、1694「炭俵」95「続猿」各1句入、  
[桜木さくらぎや菰こも張りまはす冬がまへ](炭俵; 下巻初冬)

D2222 **思亮**(しりょう・関せき、克明かつあき男) 1796-1830<sup>35</sup> 関思恭しきょうの曾孫/ 書家; 父門、常陸土浦藩士; 1814中小姓見習次席/ 右筆手伝、儒; 古賀精里門、父の「行書類纂」編纂に協力、海内の法書蒐集; 曾祖父思恭校訂「漢隸字源」等を藩校郁文館蔵版と出版、金石学修学、馬琴主催兔園会会員; 自宅海棠庵で兔園社会合、1825馬琴「兔園小説」入、雪江の父、  
[思亮( ; 名)の字/ 通称/ 号] 字; 世達としきと、通称; 源吉、号; 東陽/ 海棠庵

M2299 **芝陵**(しりょう・柳沢やなぎさわ、名; 信兆/ 事; 伯民、信行男) 1816-45<sup>早世</sup>30 島原藩士/ 儒; 温山門、江戸藩邸留守居役// 昌平黌修学/ 藩校稽古館教官/ 肺疾、「芝陵遺稿」  
[芝陵の通称/ 別号] 通称: 太郎、別号: 瓦金堂

子良(しりょう・竹中) → 南峰(なんぼう・竹中たけなか、医者) J 3 2 4 5

子良(しりょう・杉山) → 篤信(あつのぶ・杉山すぎやま、廷臣/医者) E 1 0 7 3  
 子良(しりょう・檜林) → 栄建(えいけん・檜林ならばやし、医者;種痘) C 1 3 7 0  
 子良(しりょう・内山) → 青藍(せいらん・内山うちやま、儒者) J 2 4 7 2  
 子良(しりょう・石川/伊丹) → 忠房(ただふさ・石川/伊丹、幕臣/記録) F 2 6 7 7  
 子良(しりょう・渋江) → 拙斎(ちゆうさい・渋江しぶえ、医者/考証学) G 2 8 0 9  
 子良(しりょう・牧野) → 康哉(やすとし・牧野まさの/源、藩主/詩人) C 4 5 2 6  
 子良(しりょう・竹内) → 豊洲(ほうしゅう・竹内たけうち、儒者) B 3 9 4 9  
 子良(しりょう・座光寺) → 為忠(ためただ・座光寺ざこうじ/佐久間、領主/歌人) X 2 6 2 7  
 子良(士良しりょう・近藤/桜井) → 東門(とうもん・桜井さくらい、藩儒/詩人) H 3 1 4 7  
 子良(士良しりょう・秋良) → 貞温(さだあつ・秋良あきら、藩士/国事奔走) H 2 0 7 2  
 子良(しりょう・松本) → 良順(りょうじゅん・松本/佐藤、蘭医) I 4 9 0 2  
 子良(しりょう・大館) → 信郷(のぶさと・大館おおだち、国学者) H 3 5 7 0  
 子亮(しりょう・山岡) → 浚明(まつあけ/まつあきら・山岡、幕臣/国学) J 4 0 6 6  
 子亮(しりょう・宮田) → 金峯(きんぼう・宮田みやた、藩士/儒者) I 1 6 2 6  
 子亮(しりょう・渋谷) → 松堂(しょうどう・渋谷しぶや、儒者;古義学) O 2 1 9 2  
 子亮(しりょう・三田村) → 栗所(栗所りつしよ・三田村/藤原/藤/坪井、儒者/詩) C 4 9 0 3  
 子亮(士亮しりょう・木原/平賀) → 中南(ちゅうなん・平賀/木原/土生、儒者) G 2 8 7 8  
 子亮(しりょう・長山) → 茂作彦(もさひこ・三条、絵師/狂歌) B 4 4 1 9  
 子亮(しりょう・河野) → 静山(せいざん・河野/越智、儒者) I 2 4 5 1  
 子亮(しりょう・大熊) → 秦川(しんせん・大熊おおくま、眼科医/詩人) P 2 2 1 3  
 子料(しりょう・松岡) → 能一(よしかず・松岡まつおか、和算家) C 4 7 4 9  
 子漁(しりょう・青山) → 白峯(はくほう・青山あおやま、幕臣) D 3 6 9 2  
 子量(しりょう・林) → 天真(てんしん・林はやし/福山、書家) D 3 0 9 0  
 子量(しりょう・中田) → 勇蔵(ゆうぞう・中田なかだ、藩士/暦算家) D 4 6 3 2  
 子梁(しりょう・都丸) → 董庵(とうあん・都丸とまる、藩士/儒者) 3 1 8 8  
 子諒(しりょう・石井/種野) → 友直(ともなお・種野/石井、藩士/漢学) Q 3 1 0 5  
 子諒(しりょう・小沢) → 潜鱗(せんりん・小沢おざわ、儒者) N 2 4 3 6  
 子陵(しりょう・大内) → 守山(しゅざん・大内おおうち、儒者/詩人) Y 2 1 8 0  
 士良(しりょう・富川) → 大塊(たいかい・富川/大橋、大庄屋/詩文) J 2 6 4 3  
 士良(しりょう・窪井) → 鶴汀(かくてい・窪井くぼい、藩士/儒者) H 1 5 3 4  
 士良(しりょう・木村) → 容斎(ようさい・木村きむら、儒者) B 4 7 0 1  
 士亮(しりょう・山川) → 浩(ひろし・山川やまかわ、藩士/軍人/官僚) J 3 7 6 7  
 士梁(しりょう・平塚/平) → 飄斎(ひょうさい・平塚/平、幕臣/俳人) F 3 7 2 4  
 氏良(しりょう・荒木田) → 氏良(うじよし・荒木田/家田、神職/歌) 1 2 5 8  
 嗣良(しりょう・四辻/高倉) → 嗣良(つぐよし・高倉/藪/藤原/四辻、廷臣/連歌) 2 9 8 9  
 師良(しりょう・二条) → 師良(もろよし・二条、関白左大臣/歌) I 4 4 1 2  
 師梁(しりょう・中原) → 師梁(もろやな・中原なかはら、廷臣/記録) I 4 4 0 9  
 師陵(しりょう・谷) → 文晁(ぶんちやう・谷たに、絵師) G 3 8 2 4  
 資良(しりょう・太田) → 資良(すけよし・太田おた、幕臣/歌人) I 2 3 2 2  
 資梁(しりょう・石塚) → 資梁(すけやな・石塚いしづか、神職/歌人) L 2 3 4 0

E2291 次良(じりょう/つぐよし・伊勢村いせむら、通称;忠三郎、意朔いさく弟)?-? 撰津俳人:貞門、

1651良徳「崑山集」-56「夢見草」入、狂歌;1666行風「古今夷曲集」入

時量(じりょう・平松) → 時量(ときかず・平松/平、廷臣/日記) I 3 1 9 7  
 時亮(じりょう/ときすけ・末包) → 金陵(きんりょう・末包すえかね、儒者) R 1 6 9 9  
 時亮(じりょう・栗崎) → 履斎(りさい・栗崎くりさき、儒者) B 4 9 0 6  
 時亮(じりょう・小沢) → 潜鱗(せんりん・小沢おざわ、儒者) N 2 4 3 6  
 時亮(じりょう・山田) → 時亮(ときすけ・山田やまだ、陪臣/歌人) W 3 1 8 7  
 時良(じりょう・清水) → 時良(ときよし・清水しみず、幕臣/弓術) K 3 1 3 2  
 持僚(じりょう・蘆野) → 持僚(もちとも・蘆野あしの、儒者/詩文) B 4 4 5 0  
 四良右衛門(しりょうえもん・正木) → 竜眠(竜珉りゅうみん・正木、商/書家) F 4 9 7 4

- 四良左衛門(しりょうざえもん・砂岡)→ 雁宕(がんとう・砂岡いさおか、俳人) 1 5 5 3  
 治良左衛門(じりょうざえもん・山城屋)→ 善専(よしもろ・葛野かどの、商家/国学)M 4 7 2 4  
 四凌堂(しりょうどう) → 武侯(たけよし・菊池まぐち、国学者/俳人) W 2 6 7 8  
 N2200 獅林(しりん:道号・碩憶せきおく:法諱)?-? 江中期臨濟僧:三山惟三の法嗣、  
 「譚語草」「法雲禪寺雜記」著  
 子鄰(しりん・橋本) → 雲鶴(うんかく・杉林すざばやし、書家) D 1 2 6 4  
 子隣(しりん・津金) → 胤臣(たねおみ・津金つがね、藩士/陶工/歌) G 2 6 3 5  
 子麟(しりん・飯田) → 桂山(けいざん・飯田、醸造業/詩人) D 1 8 4 8  
 子鱗(しりん・藁科) → 松伯(しょうはく・藁科わらしな、藩医/詩人) L 2 2 3 6  
 子鱗(しりん・野村) → 要蔵(ようぞう・野村のむら、儒者/歌人) O 4 7 4 8  
 子綸(しりん・服部) → 豊山(ほうざん・服部はつとり、藩士/儒者) B 3 9 0 7  
 芝林(しりん;号) → 翠巖(すいがん;道号・承堅;法諱、臨濟僧) 2 3 3 7  
 師倫(しりん・中原) → 師倫(もろとも・中原なかはら、廷臣/歌人) H 4 4 5 3  
 紫輪(しりん・新山) → 退甫(たいほ・新山にいやま/佐藤、相法家) L 2 6 0 1  
 N2201 慈麟(じりん:道号・玄趾げんし:法諱、号;即一、俗姓;中村)1690-176475 越前曹洞僧:密山道頭門、  
 密山の嗣法、1741加賀大乘寺37世、50河内東福寺に退隱、  
 「慈麟和尚全録」「太平寺邨観音堂記」著  
 時鄰(じりん・北条) → 時鄰(ときちか/ときとし・北条/本姓;中臣、神職/国学) J 3 1 3 0  
 時隣(じりん・豊) → 時隣(ときちか・豊ぶんの、楽師) W 3 1 3 2  
 士林庵(しりんあん・里村) → 祖白(そはく・里村さとむら、連歌師) K 2 5 3 3  
 詞林園(しりんえん) → 秀賢(ひでかた・伊庭/源/築山、幕臣/国学) C 3 7 9 7  
 梓森斎(しりんさい・阿部) → 文右衛門(ぶんえもん・阿部あべ、教育者) E 3 8 8 2  
 徴(しるし・坂) → 徴(ちよう・坂、国学) H 2 8 0 7  
 D2223 子礼(しらい;・中村なかむら、其節坊)?-1761 三河渥美郡伊良胡の俳人/のち尾張に住、  
 間宮氏の家臣、横井也有と交流、1759「伊良胡崎」編(去角跋/橋屋治兵衛板)、  
 追善集「夕がすみ」(呂朝編)  
 N2202 子礼(しらい;字・辻つじ、名;言恭、源助男)1752-75早世24 讃岐三野郡仁尾の儒者:1774紫野栗山門、  
 医;福井楓亭門、1764「雑字類編」校  
 Q2247 子礼(しらい・吉良きら義和、通称六蔵)?-?天逝 日出儒者;帆足万里(1778-1852)門/万里十哲の1、  
 子礼(しらい・渋江) → 道陸(どうりく・渋江しぶえ/稲垣、医者) I 3 1 1 9  
 子礼(しらい・吉見) → 幸和(よしかず・吉見/菅原/源、神職/国学) 4 7 0 6  
 子礼(しらい・清水) → 卯三郎(うさぶろう・清水、洋学者) C 1 2 2 5  
 子礼(しらい・桑野) → 喜斎(きさい・桑野くわの、医者/詩歌) K 1 6 4 8  
 子礼(しらい・池田) → 氷川(ひょうせん・池田いけだ、農業/儒者) F 3 7 3 0  
 子礼(しらい・西宮) → 奎斎(けいさい・西宮、藩の儒者) F 1 8 6 6  
 子礼(しらい・田口/石合) → 江村(こうそん・石合いあい/田口/古畑、儒者) G 1 9 3 9  
 子礼(しらい・吉田) → 竹嶺(ちくれい・吉田よしだ、医者/儒/詩歌) D 2 8 9 6  
 子礼(しらい・山下) → 西涯(せいがい・山下やました、儒者/教育) H 2 4 7 2  
 子礼(しらい・原田) → 茂嘉(しげよし・原田、藩士/暦算家) T 2 1 1 2  
 子礼(しらい・田代) → 政典(まさのり・田代たしろ、藩家老) G 4 0 1 1  
 子礼(しらい・金子) → 命朝(のぶとし・金子かねこ、薬商/歌人) B 3 5 1 2  
 子礼(しらい・水野) → 政和(まさかず・水野、鋳物師/和算家) B 4 0 7 7  
 子礼(しらい・国富) → 鳳山(ほうざん・国富くにとみ、藩士/儒者) B 3 9 0 3  
 子礼(しらい・桑野) → 公克(きみかつ・桑野くわの、国学/歌人) U 1 6 2 9  
 子礼(しらい・松岡) → 操(みさお・松岡まつおか、医/漢学者) K 4 1 5 4  
 子礼(しらい・森) → 熊夫(くまお・森もり、医者/国学) E 1 7 5 7  
 子令(しらい・松平) → 直侯(なおよし・松平、藩主/歌人) D 3 2 0 0  
 士礼(しらい・多田) → 麦洲(ぼくしゅう・多田ただ、医者/俳人) D 3 6 3 1  
 士礼(しらい・赤松) → 翼(よく・赤松あかまつ/越智、儒者) B 4 7 7 0  
 士礼(しらい・浦上) → 盛栄(もりひで・浦上うらがみ、公共事業/歌) J 4 4 3 9

- 士礼(しらい・大藪) → 文雄(あやお・大藪おおやぶ、神職/詩歌) H 1 0 3 0  
 資礼(しらい・那須) → 資礼(すけひろ・那須/藤原/佐竹、幕臣) C 2 3 6 4  
 資礼(しらい・町野) → 資礼(すけひろ・町野まちの、歌人) I 2 3 0 0  
 師礼(しらい・室) → 鳩巢(きゅうそう・室むろ、幕臣/儒者) 1 6 2 8  
 獅嶺(しらい;号) → 祐可(ゆうか;法諱・唯浄坊、真宗僧/歌) 4 6 8 7  
 紫嶺齋泉橋(しらいせんきつ、画名) → 曲山人(きょくさんじん、人情本作者) 1 6 4 2  
 子列(子冽しれつ・山崎) → 忠央(ただなか・山崎やまさき、藩士/儒者) Q 2 6 2 6  
 自列亭(じれつてい) → 名垂(なたり・なたる・沢田、藩士/国学) 3 2 2 3  
 D2224 子廉(しれん;字・武井たけい、名;簡)?-? 江中期信州の儒者、「論語釋解翼」著  
 資廉(しれん・柳原) → 資廉(すけかど・柳原、廷臣/故実) G 2 3 2 2  
 資連(しれん・布施) → 資連(すけつら・布施ふせ/三善、室町幕臣) C 2 3 4 8  
 師鍊(しれん;法諱) → 虎関(こかん;道号・師鍊;法諱、臨濟僧/五山学) 1 9 2 5  
 師聯(しれん;法諱) → 灯外(とうがい;道号・師聯、曹洞僧) C 3 1 0 0  
 子練(しれん;字) → 僧鎔(そうよう;法諱、真宗本願寺派僧) J 2 5 0 8  
 子廉(しれん・柴田しばた) → 洞元(どうげん・柴田、医/国学) D 3 1 6 2  
 子廉(しれん・片桐) → 為清(ためきよ・片桐かたぎり、家老/歌人) W 2 6 4 8  
 子鍊(しれん・藤沢) → 南川(なんせん・藤沢ふじさわ、儒/医者) J 3 2 2 2  
 子蓮(しれん;法諱・百拙) → 元養(げんよう;法諱・百拙、黄檗僧) E 1 8 5 7  
 子璉(しれん・西川) → 国華(こくか・西川にしかわ、藩士/儒者/詩) G 1 9 5 5  
 子璉(しれん・小島) → 清庵(せいあん・小島おがた、藩医) H 2 4 1 9  
 氏廉(しれん・篠本) → 竹堂(ちくどう・篠本ささもと/佐治、幕臣/儒) D 2 8 5 8  
 士廉(しれん・吉田) → 鷺湖(がこ・吉田よしだ、藩士/儒詩) H 1 5 8 1  
 士廉(しれん・田中) → 葵園(きえん・田中たなか、役人/儒者) J 1 6 7 2  
 紫蓮(しれん・号) → 唯心尼(ゆいしんに、秋成門の歌人) G 4 6 7 8  
 D2226 司鱸(しろ) ? - ? 江中期俳人、1748涼袋「いせのはなし」入  
 子魯(しろ・笠原) → 雲溪(うんけい・笠原/小笠原、儒詩人) B 1 2 1 0  
 子路(しろ・仲子) → 岐陽(きよう・仲子なかのこ、藩士/儒者) N 1 6 1 2  
 賜蘆(しろ・新見) → 正路(まさみち・新見しんみ/源、幕臣/歌) H 4 0 5 4  
 E2281 字路(じろ) ? - ? 江前期俳人、1691北枝「卯辰集」5句入、  
 [うち返し寐ねられぬ背戸の蛙哉](卯辰集;上-90)  
 次郎市(じろいち・下里) → 延平(のびら・下里しもと、国学者/歌) D 3 5 0 6  
 D2227 籽郎(しろう) ? - ? 江前期17c末期、大坂の俳人、才麿と交際  
 N2203 支浪(しろう) ? - ? 伊勢の俳人、1698「続猿蓑」2句入、  
 [引鳥ひきどりに交るや田螺とり](続猿蓑;巻下春/北帰行の渡鳥が田に集結;人も交る)  
 D2228 士朗(しろう・字野うの/修姓;字、名;鑑、明霞の弟) 1701-3131 京の運漕業の生/儒者:荻生徂徠門、  
 兄明霞と[平安の二字先生]と称さる、「平安志」「春秋左氏伝考」著、「宇士朗遺稿」明霞編、  
 [士朗(;字)の別字/通称/法号]初字;士茹、通称;亀千代/兵介、法号;一法東輝居士  
 2216 士朗(支朗しろう・井上いづえ、名;正春、伯父安清の養子) 1742-181271 尾張守山医者/国学;宣長門、  
 医;田中安益・吉岡東洞・賀川秀悦門、俳人;暁台門、画;長崎の范古門/平曲;荻野檢校門、  
 暮雨巷結成に参加/1792枇杷園結成;尾張俳壇の盟主、1801門人卓池らと江戸・信州行脚、  
 性寛厚;その声望を慕う者多く寛政期1789-1801には三大家の1人として推重される、  
 1793「麻刈集」94「水月一雙」編/94-97「枇杷園句集」1812「枇杷園句集後編」(卓池ら編)、  
 1796「昔合集」1805「花園集」07「花筏」10「ことのはら」11「歳晩集」編、「瓢日記」「玉兔集」、  
 「むらおち葉」、「士朗五七集」「枇杷園随筆」「枇杷園七部集」外多数、寛政3大家の1、  
 [青柳の東海道は百里かな](枇杷園句集/矢矧にて)、  
 [菜の花に大名うねる麓かな](枇杷園句集)  
 [士朗(;号)の通称/別号]通称;専庵(;医者名)、別号;支朗/枇杷園/朱樹叟/松翁  
 N2204 四郎(しろう・三升屋みすや)? - 1837 初め上方の太鼓持/江戸の浅草奥山で妻・娘と芸、  
 のち五世岩井半四郎の下で歌舞伎作者/1824諸座で創作/七世市川団十郎の旅興行に随行、  
 1833二枚目作者;団十郎門;改名三升屋四郎/36立作者、1836「勢源氏貢扇」「花櫓劇陣取」、

1836「滝桜誓利剣」/37「彩模様見立八景」「江戸織連理帯屋」「戯場花根元曾我」外著多数、  
[三升屋四郎(；通称)の別称/号]別称；井筒弥助/井筒徳兵衛/三升屋一二、号；東升

V2219 紫朗(しろう・藤村ふむら、萱野、黒瀬市左衛門男) 1835-1909 65 母；登千子、肥後熊本の生、  
熊本藩士萱野太平の養子；嘉右衛門と改名、国学；林有道門、1863上京；尊攘運動参加、  
1863(文久3)政変後脱藩；64(元治元)禁門の変に長州藩で参戦/紀州高野山挙兵に参加、  
1868御親兵会議所詰/徴士・内国事務局権判事；三河国裁判所出仕/軍監、69監察司知事、  
兵部省出仕；兵部権少丞/1871大阪府参事/73山梨県権令；興業政策/道路改修/殖産興業、  
1877葡萄酒醸造/日野原開拓/藤村式建築推進、1887愛媛県知事；88公金流用疑惑；辞任、  
1890貴族院勅選議員、妻；宇都宮乾八女の珊、義朗・兎羊熊・片岡和雄・美代の父、  
[紫朗(；名)の通称/変名]通称；平八郎/嘉右衛門、変名；園部四郎

四郎(しろう・北条) → 時政(ときまさ・北条/平、鎌倉初代執権) K 3 1 0 4  
四郎(しろう・大館) → 晴勝(はるかつ・大館おだち、歌/連歌) G 3 6 1 9  
四郎(しろう・宇都宮) → 氏綱(うじつな・宇都宮/藤原、武将/歌) 1 2 3 8  
四郎(しろう・遠江/武蔵) → 時仲(ときなか・北条/平、武将/歌) J 3 1 5 5  
四郎(しろう・越後) → 時春(ときはる・北条/塩田/平、武将/歌) J 3 1 8 0  
四郎(しろう・六角) → 満高(みつたか・六角/佐々木/源、武将/守護) D 4 1 7 1  
四郎(しろう・東) → 師氏(もろうじ・東とう/平、武将/歌人) H 4 4 0 4  
四郎(しろう・安東) → 省庵(せいあん・安東、藩儒) 2 4 0 2  
四郎(しろう・中井) → 整庵(しゅうあん・中井なかい、心学者) 2 1 4 0  
四郎(しろう・森) → 横谷(おうこく・森もり、藩士/儒者) C 1 4 1 1  
四郎(しろう・鳥居) → 清倍(きよよし・鳥居とりい、絵師) D 1 6 6 0  
四郎(しろう・近藤) → 清石(きよし・近藤こんどう、藩士/国学) P 1 6 6 0  
四郎(しろう・山脇) → 元貞(もとさだ・山脇、藩士/国学・歌人) C 4 4 4 8  
四郎(しろう・桑原/井上) → 布門(ふもん・桑原/井上、医者/俳人) E 3 8 1 7  
四郎(しろう・杉山) → 竹外(ちくがい・杉山/杉、儒者) C 2 8 7 9  
四郎(しろう・桂) → 久武(ひさたけ・桂/島津、藩士/日記) B 3 7 2 7  
四郎(しろう・市来) → 広貫(ひろつら・市来いちき/寺師、藩士/砲術) G 3 7 4 6  
四郎(しろう・堀田) → 茂之(しげゆき・堀田ほった、神職/歌人) D 2 1 2 9  
四郎(しろう・朝野) → 泰彦(やすひこ・朝野あさの、国学/神職) C 4 5 7 1  
四郎(しろう・高野) → 重方(しげかた・高野たかの、名主/歌人) Z 2 1 2 9  
四郎(しろう・本島) → 崇広(たかひろ・本島もとしま、国学者) Z 2 6 9 6  
四郎(しろう・小島/村上/内田) → 将満(まさみつ・小島こじま、相良総三/赤報隊) P 4 0 6 0  
四郎(しろう・園部) → 紫朗(しろう・藤村ふむら/萱野/黒瀬、藩士/知事) V 2 2 1 9  
史郎(しろう・水原) → 史郎(ふみお・水原みずはら、国学者/歌人) I 3 8 7 4  
子朗(しろう・田村) → 寧我(ねいが・田村むら、藩儒/詩文) 3 4 5 1  
子朗(しろう・岡本) → 亮彦(あきひこ・岡本/小栗、絵師) D 1 0 8 0  
子老(しろう・佐藤) → 蕉廬(しやうろ・佐藤、幕吏/国学/詩歌) M 2 2 0 7  
士郎(しろう・猪木) → 正廉(まさやす・猪木いのき/渡辺、里正/歌) N 4 0 4 5  
士郎(しろう・肥田野) → 築村(ちくそん・肥田野ひたの、儒者) D 2 8 4 2  
士郎(しろう・佐藤) → 水石(すいせき・佐藤さとう、絵師) E 2 3 7 3  
士郎(しろう・福井) → 末経(すえつね・福井ふくい/度会、神職/国学) J 2 3 1 0  
志朗(しろう・楠原) → 正道(まさみち・楠原くすはら、国学/歌人) P 4 0 3 9

D2229 治郎(じろう・仲夷なかい) ? - ? 俳人、談義本作者、  
1744「白増譜言経」著(孤舟「当世花街談義とうせいくわだんぎ」はそのパロディー)

N2205 次郎(じろう；通称・赤松あかまつ、名；則之、号；独歩斎鉄仲) ?-1859 水戸藩浪士；剣術家；  
神陰一刀流を創初；のち鉄仲流と称す；その祖、「神陰万流剣術水伝流抜刀名前帳」著

U2250 次郎(じろう・糟谷かすや、名；安居) ?-? 江戸後期；歌人、  
1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、  
[ものいはぬ花の心を汲みかねて鳴くかかはづの夕暮れの声](大江戸倭歌；春342/夕蛙)

N2206 次郎(じろう・松岡まつおか、名；与権、那須隆渙2男) 1814-58 45 三河田原藩士松岡与義の養嗣子、

儒;佐藤一斎・伊藤鳳山門、1834家督嗣;使番次席/35(天保6)藩校成章館教授、  
蘭学;渡辺崋山門;1839蛮社獄に崋山救援の中心;40国元への護送に道中差添人を勤める、  
1841成章館掛/45家中文学取立役/世子傳役、47江戸詰家老、  
1844頃「全楽堂記伝」著、

[次郎(;通称)の幼名/字/号]幼名;四郎三郎、字;子常、号;台川/清風軒、  
法号;台川義賢居士

次郎(じろう・厨川くりやがわ)→	貞任(さだとう・安倍あべ、豪族/武将)	C 2 0 0 7
次郎(じろう・安達)	→ 頼景(よりかげ・安達/藤原/関戸、歌人)	4 7 4 1
次郎(じろう・新田)	→ 尚純(ひさずみ・新田/岩松、武将/連歌)	B 3 7 1 8
次郎(じろう・小笠原)	→ 満長(みつなが・小笠原、武将/故実)	E 4 1 1 6
次郎(じろう・佐竹)	→ 義篤(よしあつ・佐竹/源、武将/連歌)	C 4 7 0 7
次郎(じろう・佐々木)	→ 縮往(しゆくおう・佐々木ささき、藩儒/絵師)	Y 2 1 6 4
次郎(じろう・大高)	→ 重成(しげなり・大高おおか/高階、幕臣/歌)	C 2 1 6 2
次郎(じろう・黒沢/安部)→	石斎(せきさい・黒沢/安部/与村、藩儒)	D 2 4 4 8
次郎(じろう・河野)	→ 魯斎(ろさい・河野こうの/赤松、藩儒者/兵学)	B 5 2 5 3
次郎(じろう・武田)	→ 兼山(けんざん・武田たけだ、医者)	J 1 8 2 0
次郎(じろう・松本)	→ 清(きよし・松本まつもと/源、医者/歌)	V 1 6 2 8
次郎(じろう)	→ 国臣(くにのみ・平野、勤王家)	1 7 0 6
次郎(じろう・立花)	→ 鑑寛(あきとも・立花、藩主/歌人)	D 1 1 0 4
次郎(じろう・大須賀)	→ 筠軒(いんけん・大須賀おすが、儒者)	I 1 1 5 1
次郎(じろう・尾崎/荒木田)→	蓮阿(れんあ・神職/出家/歌人)	5 1 8 4
次郎(じろう・平野/大中臣)→	国臣(くにのみ・平野、国学/勤王/歌)	1 7 0 6
次郎(二郎じろう・塙)	→ 忠宝(ただとみ・塙はなわ、幕臣/国学者)	F 2 6 3 9
次郎(じろう・中西)	→ 弘繩(ひろつな・中西/度会、神職/国学)	G 3 7 4 1
次郎(じろう・横浜)	→ 善左衛門(ぜんざえもん・横浜よこはま、藩士)	M 2 4 3 4
次郎(じろう・清水)	→ 正則(まさのり・清水しみず、兵学者)	G 4 0 2 1
次郎(じろう・久間)	→ 忠友(忠儔ただとも・穂井田/大江/小原、歌/考証)	2 6 2 7
次郎(じろう・桂川/森島)→	中良(ちゅうりょう・森島/桂川、蘭学/戯作)	2 8 1 9
次郎(じろう・松延;変名)→	政礼(まさのり・村井/水野、廷臣/勤王家)	G 4 0 3 2
次郎(じろう・伊地知)	→ 貞馨(貞香さだか・伊地知いちち、藩士/国事)	H 2 0 8 7
次郎(じろう・羽田)	→ 正見(満佐美まさみ・羽田はねだ、幕臣)	H 4 0 3 6
次郎(じろう・勝田)	→ 充(みつる・勝田かつた、幕臣)	F 4 1 3 0
次郎(じろう・井上)	→ 信成(のぶなり・井上いのうえ、商家/国学/歌)	H 3 5 2 2
次郎(二郎じろう・脇屋)	→ 恕亭(じよてい・脇屋わきや、儒者)	M 2 2 7 1
次郎(じろう・大鳥居)	→ 信謹(しんきん・大鳥居/菅原、社僧/勤王)	B 2 2 5 1
次郎(じろう・岩本)	→ 正謙(まさかた・岩本いわもと、藩士/歌人)	N 4 0 8 6
次郎(じろう・小原)	→ 昌雄(まさお・小原おはら/大久保、藩士/歌)	O 4 0 2 1
次郎(じろう・小町谷)	→ 吉福(よしとみ・小町谷こまちや、農業/国学)	M 4 7 8 0
次郎(じろう・狩野)	→ 養長(やすなが・狩野かのう/木原、絵師/国学)	F 4 5 7 2
次郎(じろう・北郷)	→ 久加(ひさます・北郷きたごう、家老/歌人)	J 3 7 2 6
次郎(じろう・村山)	→ 貴正(たかまさ・肥塚こえづか、国学/開拓)	X 2 6 1 0
次郎(じろう・平山)	→ 広助(広介ひろすけ・野城のしろ、国学/勤王)	K 3 7 5 8
二郎(じろう・赤松)	→ 満祐(みつすけ・赤松あかまつ/源、武将/歌)	D 4 1 6 3
二郎(じろう・武田)	→ 信満(のぶみつ・武田/源、武将/詩歌)	D 3 5 4 6
二郎(じろう・西山)	→ 宗因(そういん・西山にしま/西、俳人/連歌)	2 5 0 3
二郎(じろう・水原;変名)→	直亮(なおあき・落合、神職/国学)	3 2 6 2
二郎(じろう・竜)	→ 鏡湖(きやうこ・竜りゅう、儒者/詩)	N 1 6 6 8
二郎(じろう・武田)	→ 門吉(もんきち/かどきち・半田はんだ、藩士/討幕論)	I 4 4 1 8
二郎(じろう・谷森)	→ 善臣(よしおみ・谷森たにもり/平、国学者)	C 4 7 4 2
二郎(じろう・関戸)	→ 信俊(のぶとし・関戸せきと、朔翁/茶人/歌)	I 3 5 8 2

二郎(じろう・万谷) → 好古(よしひさ・井尻いじり/源/松島、国学) L 4 7 4 0  
 二郎(じろう・水原) → 直亮(なおあき・落合おちあい、勤王/神職) 3 2 6 2  
 二郎(じろう・二荒) → 将満(まさみつ・小島こじま、相良総三/赤報隊) P 4 0 6 0  
 二郎(じろう・境) → 建直(たてなお・境さかい/齋藤、儒者/藩教授) X 2 6 3 7  
 二郎(じろう・原田) → 嘉朝(よしとも・原田はらだ、国学/歌人) O 4 7 6 7  
 侍郎(じろう・真川) → 本雄(もとお・真川まがわ/藤原、国学/神道) L 4 4 2 5  
 治郎(じろう・斎藤) → 貞常(さだつね・斎藤/堀、藩士/文筆家) I 2 0 6 7  
 治郎(じろう・佐竹) → 義脩(よしなお・佐竹さたけ、軍人/系図) K 4 7 3 5  
 治郎(じろう・近藤) → 至邦(むねくに・近藤こんどう、国学者/歌人) D 4 2 8 4  
 似臘惟神舎(じろういしんしゃ) → 幸忠(ゆきただ・山中やまなか、歌人) E 4 6 7 7

N2207 四郎右衛門(しろうえもん・木部さべ、名;成加) ?-? 江前期天和元禄1681-1704頃の測量家、  
 1690頃測量術:山崎重次門;オランダ流を修学、播州明石藩士;藩主松平信之に出仕、  
 移封に随い大和郡山・下総古河に移住、村井孝学・金子昌沢らと領内・近畿の地図作成、  
 「越後国高田ヨリ越中境川迄之絵図」/1692「下総国古河ヨリ江戸昌平橋迄之川筋絵図」著

N2208 四郎右衛門(しろうえもん・山田やまだ/三壺みつば) ?-? 江前期加賀金沢藩士・藩の記録を整理編纂、  
 宝永1704-11頃「三壺聞書」著、「長谷部信連記」著、  
 [四郎右衛門(;通称)の別通称] 三左衛門

四郎右衛門(しろうえもん・毛利) → 梅園(ばいえん・毛利/野里、本草学/画) 3 6 6 6  
 四郎右衛門(しろうえもん・矢島) → 伊浜(いひん・矢島やじま、藩士/儒者) E 1 1 3 8  
 四郎右衛門(しろうえもん・鈴木) → 黄軒(おうけん・鈴木すずき、藩士/武道) C 1 4 3 8  
 四郎右衛門(しろうえもん・板倉) → 勝重(かつしげ・板倉、幕臣/法度制定) C 1 5 4 5  
 四郎右衛門(しろうえもん・榭屋) → 業言(ぼくげん・寺島/西尾、本陣職/俳人) D 3 9 0 5  
 四郎右衛門(しろうえもん・成安なりやす) → 成安(じょうあん;号、商家/出家/俳人) G 2 2 6 7  
 四郎右衛門(しろうえもん・勝木) → 勤文(きんぶん・勝木かつき、俳人) E 1 6 6 5  
 四郎右衛門(しろうえもん・伏見屋) → 楼川(ろうせん・谷口たにぐち、俳人) 5 2 3 3  
 四郎右衛門(しろうえもん・三滝) → 郡智(ぐんち・三滝みたき、和算家) C 1 7 0 7  
 四郎右衛門(しろうえもん・椿) → 月杵(げつしよ・椿つばき、俳人) H 1 8 0 9  
 四郎右衛門(しろうえもん・土田) → 竹童(ちくどう・土田、村役/俳人) D 2 8 5 6  
 四郎右衛門(しろうえもん・吉田屋) → 元長(もとなが・吉田、書肆/歌人) D 4 4 5 4  
 四郎右衛門(しろうえもん・本多) → 恒久(つねひさ・本多ほんだ、家老/和学) G 2 9 3 4  
 四郎右衛門(しろうえもん・新納) → 常善(つねよし・新納にいり、藩士/歌人) G 2 9 1 3  
 四郎右衛門(しろうえもん・高田) → 重充(しげみつ・高田たかだ、心学者) S 2 1 8 4  
 四郎右衛門(しろうえもん・淵) → 岡山(こうざん・淵ふち/大神、儒者) G 1 9 3 3  
 四郎右衛門(しろうえもん・柴田) → 常昭(つねあき・柴田、国学者) B 2 9 5 3  
 四郎右衛門(しろうえもん・樋口) → 種実(たねみ・たねざね・樋口ひぐち、商家/国学) S 2 6 0 7  
 四郎右衛門(しろうえもん・守屋) → 中洲(ちゅうしゅう・守屋もりや、藩士/詩文) G 2 8 2 2  
 四郎右衛門(しろうえもん・丸屋) → 義章(よしあきら・松沢まつざわ、商家/国学) C 4 7 0 6  
 四郎右衛門(しろうえもん・神保) → 長標(ながすえ・神保じんぼう/橘/石丸、幕臣) K 3 2 2 7  
 四郎右衛門(しろうえもん・大津) → 唯雪(ただゆき・大津おおつ/村田、藩士/歌) W 2 6 1 7  
 四郎右衛門(しろうえもん・賀来) → 正臣(まさおみ・賀来かく、藩士/歌人) O 4 0 7 3  
 四郎右衛門(しろうえもん・小西) → 脩徳(まさのり・小西こにし/清水、国学/歌) P 4 0 6 2  
 四郎右衛門(しろうえもん・城) → 広門(ひろかど・城じょう、国学者) J 3 7 8 4  
 四郎右衛門(しろうえもん・本多) → 敬義(たかよし・本多/菅沼、家老/国学) Z 2 6 4 4

Q2234 次郎右衛門(じろうえもん・種子島たねがしま) ?-? 薩摩藩58代沖永良部島代官/1799沖永良部島到着、  
 「沖永良部島渡航日記」(書役筆?)

N2209 治郎右衛門(じろうえもん・常松つねまつ、名;元貫) 1723-1804<sup>82</sup> 岩代岩瀬郡鏡沼村の代々大庄屋、  
 1781間引防止・養育金制度を確立;農村振興に尽力、「天明三年凶荒翌年豊作記」著、  
 [治郎右衛門(;通称)の別通称] 八郎右衛門

次郎右衛門(じろうえもん・大薩摩) → 大薩摩次郎右衛門(おおさつまじろうえもん、浄瑠璃語) B 1 4 4 2  
 次郎右衛門(じろうえもん・古谷) → 信知(のぶとも・古谷ふるや、剣術家) G 3 5 4 9

次郎右衛門(二郎右衛門じろうえもん・山県)→棠園(とうえん・山県、儒者) B 3 1 4 6  
 次郎右衛門(じろうえもん・三井)→高富(たかとみ・三井八郎右衛門2代、商家) M 2 6 4 3  
 次郎右衛門(じろうえもん・三井)→嘉菊(かきく・三井高英、俳人) 1 5 0 6  
 次郎右衛門(じろうえもん・三井)→高福(たかよし・三井、商家;財閥の礎) N 2 6 7 7  
 次郎右衛門(じろうえもん・松平)→甫昌(やすまさ・松平まぢだいら、幕臣/和学) G 4 5 7 0  
 次郎右衛門(じろうえもん・内藤)→長就(ながなり・内藤ないとう、幕臣/和学) O 3 2 0 1  
 次郎右衛門(じろうえもん・西川)→如見(怒見じょけん・西川/源、曆算家) C 2 2 4 0  
 次郎右衛門(じろうえもん・小宮山)→楓軒(ふうけん・小宮山、藩士/儒/農政) 3 8 5 3  
 次郎右衛門(じろうえもん・原田)→久通(ひさみち・原田、官吏/詩歌) C 3 7 0 0  
 次郎右衛門(じろうえもん・荒井)→晴湖(せいこ・荒井、儒者) I 2 4 0 5  
 次郎右衛門(じろうえもん・松木)→珪琳(けいりん・松木、俳人) 1 8 9 4  
 次郎右衛門(じろうえもん・灰屋)→寸草(すんそう;号、俳人) 2 3 2 2  
 次郎右衛門(じろうえもん・竹村)→好博(よしひろ・竹村、藩士/和算家) G 4 7 6 8  
 次郎右衛門(じろうえもん・住吉屋)→楚雀(そじゃく;号、商家/俳人) J 2 5 7 9  
 次郎右衛門(じろうえもん・越前屋)→大常(だいじょう;号、商家/俳人) B 2 6 6 1  
 次郎右衛門(じろうえもん・唐津屋)→三千雄(みちお・松田、酒造業/俳/詩) B 4 1 2 7  
 次郎右衛門(じろうえもん・中村)→春彦(はるひこ・中村なかむら、神職/歌人) I 3 6 8 0  
 次郎右衛門(じろうえもん・別府)→勝孝(かつたか・別府べつぶ、国学者) V 1 5 6 0  
 次郎右衛門(じろうえもん・大路)→延貞(のぶさだ・大路おおじ、国学者/歌人) H 3 5 6 7  
 次郎右衛門(じろうえもん・川合)→孝廉(たかやす・川合/河合/河井かわい、幕臣/歌人) U 2 6 9 7  
 次郎右衛門(じろうえもん・斎藤)→利安(としやす・斎藤さいとう、幕臣/歌人) T 3 1 6 3  
 次郎衛門(じろうえもん・小宮山)→桂軒(けいけん・小宮山、儒者/詩) E 1 8 6 5  
 次郎右衛門(じろうえもん・米屋)→阿丘(あきゅう・稲岡いなおか、商家/国学) N 1 0 0 2  
 次郎右衛門(じろうえもん・野村)→空翠(くうすい・野村、商家/詩歌/勤王) C 1 7 2 5  
 二郎右衛門(じろうえもん・久保)→虚斎(ちゆうさい・久保くぼ、儒者/詩人) G 2 8 0 5  
 治郎右衛門(じろうえもん・林/永田)→知章(ともあき・永田/林、藩士/郷土史) P 3 1 0 9  
 治郎右衛門(じろうえもん・久世)→友輔(ともすけ・久世くぜ、心学者/俳人) P 3 1 6 1  
 治郎右衛門(じろうえもん・石井)→嘉重(よしげ・石井/鈴木、料理人) D 4 7 6 4  
 治郎右衛門(じろうえもん・菊沢)→正秋(まさあき・菊沢だきざわ、国学者) P 4 0 2 1  
 四郎右衛門尉(しろうえもんのじょう・神保)→氏弘(うじひろ・神保/惟宗、武家/連歌) C 1 2 6 8

N2210 四郎左衛門(しろうざえもん;通称・丹羽にわ、号;邑巷軒/蒙鳩子) ?-? 江中期加賀金沢藩士;御鷹方、  
 1753「国事昌披問答」、「博伽雑談」著

四郎左衛門(しろうざえもん・斎藤)→利安(としやす・斎藤さいとう、戦国武将) T 3 1 6 4  
 四郎左衛門(しろうざえもん・京極)→高本(たかもと・京極きょうごく、幕臣) N 2 6 3 9  
 四郎左衛門(しろうざえもん・嶋)→三安(みつやす・嶋しま、幕臣/奉行) F 4 1 0 2  
 四郎左衛門(しろうざえもん・齋藤)→観意(かんに;法諱、武家/僧/歌/連歌) D 1 5 3 9  
 四郎左衛門(しろうざえもん・日夏)→繁高(しげたか・日夏ひなつ、藩士/兵学者) C 2 1 3 0  
 四郎左衛門(しろうざえもん・竹塚たけのつか/谷古宇やこう)→東子(とうし・竹塚、合巻/俳) 3 1 1 4  
 四郎左衛門(しろうざえもん・飯島)→吐月(とげつ・飯島友七、俳人) L 3 1 6 3  
 四郎左衛門(しろうざえもん・笠家)→左簾(初世されん・笠家/三浦、妓楼主人/俳人) E 2 0 0 5  
 四郎左衛門(しろうざえもん・浅井)→礼政(のりまさ・浅井、藩士/天文) F 3 5 7 9  
 四郎左衛門(しろうざえもん・大島)→半隠(はんいん・大島、藩士/儒者) H 3 6 2 1  
 四郎左衛門(しろうざえもん・河野)→通泰(みちやす・河野こうの、幕臣/歌人) C 4 1 7 2  
 四郎左衛門(しろうざえもん・内藤)→正博(まさひろ・内藤ないとう/藤原、幕臣?/歌) L 4 0 7 3  
 四郎左衛門(しろうざえもん・女賀)→勇(いさむ・女賀めが/目賀、藩士/故実家) F 1 1 5 2  
 四郎左衛門(しろうざえもん・中尾)→我黒(がこく・中尾なかお、俳人) C 1 5 0 3  
 四郎左衛門(しろうざえもん・小林)→葛古(かつこ・小林こばやし、俳人) C 1 5 4 3  
 四郎左衛門(しろうざえもん・徳弘)→堅魚(かたな・徳弘とくひろ、儒者/歌) N 1 5 0 2  
 四郎左衛門(しろうざえもん・山口)→安良(やすよし・山口、醸造/国学) D 4 5 5 7  
 四郎左衛門(しろうざえもん・三滝)→郡智(ぐんち・三滝みたき、和算家) C 1 7 0 7



四郎左衛門(しろうざえもん・長井)→ 裁之(たつゆき・長井/永井、藩士/国学) G 2 6 2 8  
 四郎左衛門(しろうざえもん・熊代)→ 繁里(しげさと・熊代くましろ、国学/歌) C 2 1 2 3  
 四郎左衛門(しろうざえもん・津田)→ 園蝴蝶(そのゝ小蝶そののこちょう、狂歌) E 2 5 1 6  
 四良左衛門(しろうざえもん・砂岡)→ 雁宕(がんとう・砂岡いさおか、俳人) 1 5 5 3  
 四郎左衛門(しろうざえもん・谷古宇)→ 東子(東紫とうし・竹塚たけのつか、商家/合巻) 3 1 1 4  
 四郎左衛門(しろうざえもん・小野)→ 顕允(あきのぶ・小野おの、国学者) H 1 0 1 7  
 四郎左衛門(しろうざえもん・村田)→ 清風(せいふう・村田むらた、藩士/歌人) C 2 4 9 5  
 四郎左衛門(しろうざえもん・中村)→ 喜信(よしのぶ・中村なかむら、藩士/国学) O 4 7 2 1  
 四郎左衛門(しろうざえもん・野尻)→ 直啓(なおひろ・野尻のじり、藩士/国学) O 3 2 2 5  
 四郎左衛門(しろうざえもん・小島)→ 将満(まさみつ・小島こじま、相良総三/赤報隊) P 4 0 6 0  
 四良左衛門(しろうざえもん・平沢)→ 適斎(てきさい・平沢/源、儒者/医者) B 3 0 9 1  
 四良左衛門(しろうざえもん・樋口)→ 種実(たねみ・たねざね・樋口ひぐち、商家/国学) S 2 6 0 7

D2230 次郎左衛門(じろうざえもん・有村ありむら) 1838-60 自害 23 薩摩藩士、勤王派志士; 水戸藩士と共謀、

1860 桜田門変に参加; 井伊直弼の首を刎ねたが手傷を負い自害

二郎左衛門(じろうざえもん・菅沼)→ 定虎(さだとら・菅沼すがぬま、幕臣/詩歌) I 2 0 9 4  
 次郎左衛門(じろうざえもん・上原)→ 賢家(堅家かたいえ・上原、武将/歌) C 1 5 3 0  
 次郎左衛門(じろうざえもん・古谷)→ 信知(のぶとも・古谷ふるや、剣術家) G 3 5 4 9  
 次郎左衛門(二郎-じろうざえもん・伊勢)→ 貞仍(貞頼さだより・伊勢/平、幕臣/故実) C 2 0 6 7  
 次郎左衛門(じろうざえもん・津田)→ 千連(ゆきつら・津田つた、藩士/記録) E 4 6 9 5  
 次郎左衛門(じろうざえもん・佐野)→ 次郎左衛門(じろうざえもん・佐野、殺傷事件) E 2 2 8 9  
 次郎左衛門(じろうざえもん・門田/水間)→ 沾徳(せんとく・水間みづま/門田、俳人) 2 4 3 5  
 次郎左衛門(じろうざえもん・雛屋/紅粉屋)→ 立圃(りゅうほ・野々口、細工師/俳人) 4 9 1 3  
 次郎左衛門(じろうざえもん・遊佐)→ 木斎(ぼくさい・遊佐ゆさ、藩儒/教育者) D 3 9 0 8  
 次郎左衛門(じろうざえもん・太田)→ 道知(道智みちとも・太田/池上、藩士/歌) H 4 1 4 6  
 次郎左衛門(じろうざえもん・大沢)→ 信詮(のぶり・大沢、幕臣) C 3 5 6 9  
 次郎左衛門(じろうざえもん・津田)→ 重倫(しげつね・津田、藩士/郷土史家) R 2 1 5 9  
 次郎左衛門(じろうざえもん・津田)→ 信成(のぶなり・津田、藩士/文筆) C 3 5 6 3  
 次郎左衛門(じろうざえもん・上部)→ 貞多(さだかず・上部うわべ/度会、神職) H 2 0 9 1  
 次郎左衛門(じろうざえもん・取田)→ 寄猛(よりたけ・取田とりだ、藩士/兵法) I 4 7 9 3  
 次郎左衛門(じろうざえもん・黒川)→ 春村(はるむら・黒川、商人/狂歌/国学) 3 6 3 8  
 次郎左衛門(じろうざえもん・郡山)→ 遜志(やすし・郡山こおりやま、藩士/記録) B 4 5 6 0  
 次郎左衛門(じろうざえもん・成瀬)→ 久敬(ひさたか・成瀬なるせ、藩士/地誌) B 3 7 2 2  
 次郎左衛門(じろうざえもん・藤田)→ 幽谷(ゆうこく・藤田ふじた、彰考館総裁) 4 6 0 1  
 次郎左衛門(じろうざえもん・橋屋)→ 以南(いなん・山本、名主/俳人/勤王) B 1 1 7 9  
 次郎左衛門(じろうざえもん・石塚)→ 確斎(かくさい・石塚、儒者/地理) H 1 5 2 6  
 次郎左衛門(じろうざえもん・内田)→ 橋水(きょうすい・内田うちだ、俳人) C 1 6 7 2  
 次郎左衛門(じろうざえもん・田中)→ 如倫(じょりん・田中たなか、俳人) M 2 2 9 1  
 次郎左衛門(じろうざえもん・夏目)→ 信明(のぶあき・夏目なつめ、幕府/歌) G 3 5 6 6  
 次郎左衛門(じろうざえもん・永田)→ 重継(しげつぐ・永田ながた、幕臣) Z 2 1 6 0  
 次郎左衛門(じろうざえもん・青木)→ 浩斎(こうさい・青木/伊王野いおの、医/蘭学者) I 1 9 9 9  
 次郎左衛門(じろうざえもん・平山)→ 斐(たすけ・平山/土田、藩士/地誌) P 2 6 0 4  
 次郎左衛門(じろうざえもん・小林/和田)→ 天山(てんざん・和田/小林/林、詩人) D 3 0 5 9  
 次郎左衛門(じろうざえもん・猫屋/加藤)→ 缶楽(ふがく・加藤、庄屋/神儒学) B 3 8 3 2  
 次郎左衛門(じろうざえもん・平松)→ 英棟(ひでむね・平松ひらまつ、国学者/歌) D 3 7 9 3  
 次郎左衛門(じろうざえもん・岡部)→ 政美(まさよし・岡部おかべ、神職/俳人) O 4 0 5 9  
 次郎左衛門(じろうざえもん・長者屋)→ 梅嶺(ばいれい・碓井うすい、酒造業/儒/俳) C 3 6 3 2  
 次郎左衛門(じろうざえもん・野尻)→ 直啓(なおひろ・野尻のじり、藩士/国学) O 3 2 2 5  
 次郎左衛門(じろうざえもん・原)→ 祐之(すけゆき・原はら、国学/歌人) I 2 3 9 8  
 次郎左衛門(じろうざえもん・星野)→ 久樹(ひさき・星野ほしの/藤原、藩士/歌人) I 3 7 7 6  
 次郎左衛門(じろうざえもん・河毛)→ 敏夫(としお・河毛かわげ、神職/国学者) U 3 1 8 5

次郎左衛門(じろうざえもん・山田)→方雄(まさお・山田やまだ/源、神職/歌人) T 4 0 4 7  
 次良左衛門(じろうざえもん・知久)→秀幸(ひでゆき・知久ちく、家老/歌人) K 3 7 1 8  
 治郎左衛門(じろうざえもん・中村)→治左衛門(2世次左衛門じざえもん・柳屋/石崎、通事) T 2 1 5 1  
 治郎左衛門(じろうざえもん・井坂)→春清(はるきよ・井上、医者/俳人) G 3 6 2 9  
 治郎左衛門(じろうざえもん・知久)→幸充(ゆきみつ・知久ちく、家老/歌人) H 4 6 0 1  
 治郎左衛門(じろうざえもん・玉端屋)→如迪(ゆきみち・田中たなか、歌人) F 4 6 7 0  
 四郎左衛門尉(しろうざえもんのじょう・安達、武将)→道洪(どうこう、僧/歌) D 3 1 9 8  
 四郎左衛門尉(しろうざえもんのじょう・佐渡/鞍智)→時秀(ときひで・鞍智/佐々木、武将/連歌) J 3 1 8 6  
 四郎左衛門尉(しろうざえもんのじょう・高)→師冬(もろふゆ・高こう/高階、武将/歌) H 4 4 9 0  
 四郎左衛門尉(しろうざえもんのじょう・薬師寺)→元吉(もとよし・薬師寺/橋、武家/歌人) E 4 4 6 7  
 四郎左衛門尉(しろうざえもんのじょう・筒井)→時述(じじゆつ・筒井、武士/連歌作者) D 2 1 9 3  
 四郎左衛門尉(しろうざえもんのじょう・清原)→通定(みちさだ・清原、廷臣/歌) B 4 1 5 2  
 四郎左衛門尉(しろうざえもんのじょう・森川)→香山(こうざん・森川、弓術家) J 1 9 1 5  
 次郎左衛門尉(じろうざえもんのじょう・薬師寺公義きんよし)→元可(げんか、武人/真言僧/歌人) B 1 8 3 5  
 次郎左衛門尉(じろうざえもんのじょう・杉)→弘相(ひろすけ・杉/平、武将/連歌) G 3 7 0 9  
 次郎左衛門佐(じろうざえもんのすけ・畠山)→義総(よしふさ・畠山はたけやま、武将/守護/城主) G 4 7 7 3  
 四郎次(しろうじ・村田) → 清風(せいふう・村田むらた、藩士/歌人) C 2 4 9 5  
 四郎次(しろうじ・愛敬) → 四山(しざん、愛敬あいぎょう、藩儒者/詩人) T 2 1 6 0  
 四郎治(しろうじ・斎藤) → 定輝(さだてる・斎藤さいとう、藩士/農政家) I 2 0 7 1  
 四郎治(しろうじ・尾台) → 榕堂(ようどう・尾台おだい/小杉、医者) B 4 7 5 1  
 四郎太(しろうた・桜山、四郎太郎)→池天(ちてん・桜山さくらやま、俳人) E 2 8 8 2  
 四郎太(しろうた・関) → 守雄(もりお・関せき、商家/国学者) F 4 4 1 9  
 二郎太(じろうた・最上) → 義光(よしあき/よしてゐる・最上もがみ/源、武将/藩主/連歌) B 4 7 8 6  
 二郎太(じろうた・門田) → 重長(しげなが・門田もんでん、儒/書/教育) O 2 1 0 4  
 四郎太郎(しろうたろう) → 四郎太郎(しろうたろう)

N2211 四郎時貞(しろうときさだ・天草あまくさ/益田ますだ、名;時貞、益田好次男) 1621-38討死 18 キリシタン少年教祖、  
 肥後天草の生;父は小西行長の遺臣?、1637島原一揆総大将となり幕府軍と戦;1638討死

四郎尚宗(しろうひさむね・岩山)→道堅(どうけん;号・岩山いわやま、武家/歌) D 3 1 5 4  
 白禹流里の道節(しろうりりのどうせつ)→道節(どうせつ・末吉すえよし、俳人) G 3 1 0 6

V2243 四郎右衛門(しろうえもん・船橋屋ふなばしや、姓;長崎/名;克之/号;黙淵)?-? 江中期;大坂の商家;  
 北堀江で江戸積毛綿問屋?、和学者、懐徳堂創設の[五同志]の1(町人の学問所創設)、  
 次郎衛門(じろうえもん・小宮山)→桂軒(けいけん・小宮山、儒者/詩) E 1 8 6 5

R2226 白がね(しろがね:組連) ? - ? 江戸京橋の雑俳の組連/取次;1746「湖丸評万句合」入、  
 取次例;[子守りとは唇までも生まれ付](前句;うすい事かな々々/唇が薄いのは多弁)

白銀台一磨(しろがねだいかずまる、狂名)→内親好(ないしんこう、俳/戯作) 3 2 5 3  
 白銀伊左子(しろがねのいさこ)→伊左子(いさこ・清風亭、狂歌) F 1 1 4 8

Q2248 次郎吉(じろきち・鼠小僧ねずみこぞう)?-? 江戸末期盗賊、身軽で武家屋敷奥向にのみ忍びこむ義賊、  
 1832北町奉行榊原主計頭忠之により捕縛され獄門、講談/戯曲/戯作に脚色;伝説化

治郎吉(じろきち・小町谷)→吉孝(よししたか・小町谷こまちや、農業/歌人) E 4 7 0 8  
 治郎吉(じろきち・松坂) → 筏竿丸(いかだのさおまる、狂歌) F 1 1 1 8  
 治郎吉(じろきち・横田) → 政徳(まさのり・横田よこた、商家/歌人) T 4 0 6 6  
 二郎吉(じろきち・松本) → 交山(こうざん・松本/上条、茶屋/絵師) J 1 9 3 1  
 次郎吉(じろきち・立石) → 垂穎(たるひで・立石/藤原、庄屋/国学) T 2 6 0 3  
 次郎吉(じろきち・市島) → 岱海(たいかい・市島いちじま、医/儒/詩文) J 2 6 4 2  
 次郎吉(じろきち・佐藤) → 陶崖(とうがい・佐藤さとう、医者/陶工) C 3 1 0 1  
 次郎吉(じろきち・長谷川)→元貞(もとさだ・長谷川はせがわ、国学者/書) C 4 4 5 2  
 次郎吉(じろきち・歌川) → 芳員(よしかず・歌川うたがわ、絵師;横浜絵) C 4 7 5 6  
 次郎吉(じろきち・七里) → 蕃民(しげたみ・七里しちり、国学者) O 2 1 7 6  
 次郎吉(じろきち・花房) → 端連(まさつら・花房はなぶさ/徳田、藩士/歌) R 4 0 8 2  
 次郎橋(じろきつ・橋本) → 阜鶴(こうかく・橋本、製墨業/歌人) H 1 9 9 6

士勒(しろく・水野) → 皓山(こうざん・水野みずの、本草家) J 1 9 3 0  
寺六(じろく・天野) → 扇折風(おうぎのおりかぜ、天野、藩士/狂歌) B 1 4 6 3  
治六(じろく・尾山屋) → 満香(みつか・尾山屋おやまや、経師業/歌) I 4 1 2 9  
治六郎(じろくろう・小西) → 春村(はるむら・小西にし/本居、商家/国学) K 3 6 1 7  
二郎九郎(じろくろう・菅沼) → 定虎(さだとら・菅沼すがぬま、幕臣/詩歌) I 2 0 9 4  
次郎九郎(じろくろう・村田) → 春門(はるかど・村田/宮崎、国学/歌) 3 6 3 1  
次郎九郎(じろくろう・新納) → 時升(ときます/ときり・新納にいり、藩士/儒者) K 3 1 0 6

D2231 四郎五郎(しろうろう・民屋たみや/民谷たみや) 1685-1745<sup>61</sup> 上方歌舞伎役者;

大坂松本名左衛門座で若女方、1710半四郎と改名;上方で立役として活躍;実事、江戸に進出、1714江島生島事件に連座;歌舞伎界から追放;江戸追放、1715赦免;民屋四郎五郎と改名、地方回り;1718大阪で伊勢役者民屋四郎五郎名で活動、大当りし京で息子民屋十三郎座に出演、その後は京阪・伊勢・尾張で出演、「続耳塵集」著、[民屋四郎五郎(;通称)の別通称/号]別通称;滝井半之助(;初名)/滝井半四郎、号;江音/江遠、初世民屋十三郎の父

四郎五郎(しろうろう・阿部) → 定次(さだつぐ・阿部/阿倍あべ、武将) I 2 0 5 5  
四郎五郎(しろうろう・春田) → 久啓(ひさとお・春田/根来、幕臣/梅栽培) B 3 7 4 7  
四郎五郎(しろうろう・大島) → 半隠(はんいん・大島、藩士/儒者) H 3 6 2 1  
四郎五郎(しろうろう・中川) → 築郊(らくこう・中川なかがわ、藩士/学問) B 4 8 1 2  
四郎五郎(しろうろう・飯田) → 範正(のりまさ・飯田いいた、藩士/連歌論) F 3 5 7 6  
四郎五郎(しろうろう・沢村) → 高助(たかすけ・助高屋、歌舞伎役者) C 2 6 9 1  
四郎五郎(しろうろう・歌川) → 宗十郎(2世そうじゅうろう・沢村、歌舞伎役者) B 2 5 8 8  
四郎五郎(しろうろう・円尾) → 鶴雄(つるお・円尾まるお/藤田、国学/商家) G 2 9 4 2  
次郎五郎(じろうろう・吉川) → 広家(ひろいえ・吉川きつかわ、武将/領主/連歌) F 3 7 5 3

E2289 次郎左衛門(じろざえもん・佐野さの)?-? 江中期1688-1736頃下野佐野の農家、吉原遊女八橋への嫉妬から八橋を始め多くを斬殺(吉原百人斬)、

のち歌舞伎に脚色;五瓶「青楼詞合鏡さとしはあわせかがみ」南北「杜若艶色紫かきつばたいろもえどぞめ」など

二郎左衛門尉(じろざえもんじょう・伊勢) → 貞牧(さだまき・伊勢/平、幕臣/故実家) J 2 0 6 3  
次郎左衛門尉(じろざえもんじょう・伊勢) → 貞満(さだみつ・伊勢/平、幕臣/故実家) J 2 0 7 9  
次郎作(じろさく・石川) → 柳溪(りゅうけい・石川いしかわ、儒者) D 4 9 5 8  
次郎作(じろさく・亀屋) → 万齡(ばんれい・玉置たまき、商家/文筆) I 3 6 7 1  
次郎作(二郎作じろさく・西山) → 宗因(そういん・西山にしやま/西、俳人/連歌) 2 5 0 3  
次郎作(じろさく・山鹿) → 高厚(たかあつ・山鹿、剣術家/狂歌/俳) L 2 6 5 3  
四郎三郎(しろうさぶろう・相良) → 為続(ためつぐ・相良さがら、武将/連歌) S 2 6 5 1  
四郎三郎(しろうさぶろう・松平) → 康兆(やすよし・松平まつだいら、幕臣) D 4 5 5 1  
四郎三郎(しろうさぶろう・上野) → 資善(すけよし・上野うえの/伴はん、幕臣/歌) H 2 3 8 1  
四郎三郎(しろうさぶろう・福住) → 松年(まつとし・福住ふくずみ、商家/歌人) S 4 0 2 4  
四郎三郎(しろうさぶろう・杉村) → 健(けん・杉村すぎむら、文筆家/年譜) H 1 8 4 7  
四郎三郎(しろうさぶろう・本間) → 光丘(みつおか・本間ほんま、豪商/藩政参画) K 4 1 4 5

D2232 二郎三郎(じろさぶろう・小山こやま)?-? 元禄期[1688-1704]人形浄瑠璃;碁盤人形名手

D2233 二郎三郎(初世じろさぶろう・音羽おとわ、名;峰之助)?-1732 上方歌舞伎役者;立役、座元脚本;1697「義経一代記」

D2234 二郎三郎(二世じろさぶろう・音羽)?-? 江中後期安永-寛政期1772-1801上方歌舞伎立役者

二郎三郎(じろさぶろう・仁木) → 頼章(よりあき・仁木につき/源、武将/守護/幕臣/連歌) I 4 7 3 2  
二郎三郎(じろさぶろう・相良) → 為続(ためつぐ・相良さがら、武将/連歌) S 2 6 5 1  
二郎三郎(じろさぶろう・佐善) → 雪溪(せつけい・佐善さぜん/源/佐竹、儒者) E 2 4 1 6  
二郎三郎(次郎三郎じろさぶろう・山本) → 春正(しゅんしょう・山本、蒔絵師/歌人) J 2 1 9 3  
次郎三郎(じろさぶろう・松平) → 家康(いえやす・徳川、將軍/武家法度) 1 1 0 4  
次郎三郎(じろさぶろう・本阿弥) → 光悦(こうえつ・本阿弥ほんあみ、鑑定家) 1 9 0 5  
次郎三郎(じろさぶろう・佐藤) → 貞壽(さだより・佐藤/宇多、藩士/詩歌) C 2 0 6 9  
次郎三郎(じろさぶろう・芝山) → 南窓(なんそう・田辺、講釈師) J 3 2 2 5

次郎三郎(じろさぶろう・綿屋)→ 古音(こおん・菰口、俳人) L 1 9 7 9  
 次郎三郎(じろさぶろう・大津)→ 唯雪(ただゆき・大津おつ/村田、藩士/歌) W 2 6 1 7  
 治郎三郎(じろさぶろう・竹林)→ 万年(まんねん・竹林、商家/書家) K 4 0 8 1  
 素(しろし・阪谷) → 朗廬(ろうろ・阪谷さかたに、儒者/詩文) 5 2 4 6  
 次郎七郎(じろしちろう・篠岡)→ 謙堂(けんどう・篠岡ささおか、儒者) E 1 8 9 7  
 四郎二郎(しろうじろう・久志本)→ 常彰(つねあきら・久志本/河崎、神職/歌) B 2 9 5 7  
 四郎次郎(しろうじろう・日吉)→ 安清(やすきよ・佐阿彌、能役作者) B 4 5 2 5  
 四郎次郎(しろうじろう・本庄)→ 義勝(よしかつ・武藤むとう/本庄ほんじょう、武将/城主) C 4 7 8 3  
 四郎次郎(しろうじろう・狩野)→ 元信(もとのおぶ・狩野、幕府絵師/襖絵) D 4 4 6 8  
 四郎次郎(四郎二郎しろうじろう・狩野)→ 光信(みつのおぶ・狩野かのう、絵師) E 4 1 3 4  
 四郎次郎(しろうじろう・狩野)→ 探幽(たんゆう・狩野、絵師) I 2 6 6 1  
 四郎次郎(しろうじろう・佐竹)→ 義隆(よしたか・佐竹さたけ/岩城、藩主) D 4 7 9 4  
 二郎四郎(じろしろう・仁木)→ 義長(よしなが・仁木につき/源、武将/守護/連歌) F 4 7 2 5  
 二郎四郎(じろしろう・畠山)→ 休山(きゅうざん・畠山はたけやま、幕臣) M 1 6 6 4  
 二郎四郎(じろしろう・畠山)→ 基祐(もとすけ・畠山はたけやま、幕府高家) L 4 4 0 0  
 次郎四郎(じろしろう・下郷/千代倉)→ 伝芳(でんぼう・下郷しもさと、商家/俳人) E 3 0 3 1  
 次郎四郎(じろしろう・畠山/新納)→ 久仰(ひさのり・新納にいろ、藩家老) B 3 7 7 7  
 次郎四郎(じろしろう・加藤)→ 泰侯(やすとき・加藤かとう、藩主/焼物/書) F 4 5 6 7  
 次郎助(じろすけ・河合) → 乙州(おとくに・河合/川井、俳人) 1 4 8 9  
 次郎助(じろすけ・奥島/山本)→ 景興(かげおき・山本、家老/国学/歌) K 1 5 8 3  
 次郎助(じろすけ・河崎) → 致高(むねたか・河崎かわさき、藩士/国学/歌) D 4 2 7 2  
 次郎祐(じろすけ・滝野) → 知雄(ともお・滝野たきの/物部、国学) T 3 1 3 1  
 白炭の忠知(しろずみのただとも)→ 忠知(ただとも・神野かんの、俳人) F 2 6 4 2  
 四郎太夫(しろうだゆう・瀬戸)→ 久敬(ひさたか・瀬戸せと、藩士/歌人) B 3 7 2 5  
 四郎太夫(しろうだゆう・高島)→ 秋帆(しゅうはん・高島たかしま、砲術家) I 2 1 2 2  
 次郎大夫(じろだゆう・宮崎)→ 栗軒(りっけん・宮崎みやざき、幕臣/儒者) B 4 9 7 5  
 次郎太夫(しろうだゆう・大坂屋)→ 万乎(まんこ、商家/俳人) K 4 0 4 7  
 次郎太夫(しろうだゆう・堤) → 盛徴(もりずみ・堤/荒木田、神職/国学) F 4 4 5 2  
 次郎太夫(しろうだゆう・熊谷)→ 直遐(なおはる・熊谷くまがい、郷土史家) C 3 2 1 3  
 次郎太夫(しろうだゆう・諸葛)→ 琴台(きんだい・諸葛もろくず、儒/度量学) I 1 6 1 3  
 次郎太夫(しろうだゆう・諸葛)→ 帰春(きしゅん・諸葛、琴台男/儒者) I 1 6 6 0  
 次郎太夫(しろうだゆう・向山)→ 正方(まさかた・向山むこうやま/源、藩士/歌) T 4 0 0 5  
 次郎太夫(しろうだゆう・辻/細井)→ 広沢(こうたく・細井ほそい、儒/書家) 1 9 1 4  
 治郎太夫(じろだゆう・向井)→ 去来(きよらい・向井むかい、俳人) 1 6 5 4  
 治郎太夫(じろだゆう・中東)→ 政常(まさかね・中東なかひがし、国学者) R 4 0 1 6  
 治郎大夫(じろだゆう・立花/黒田)→ 増熊(ますくま・黒田/立花、藩家老/歌) I 4 0 9 7  
 白達摩(しろだるま) → 見風(けんふう・河合かわい、俳人/歌) C 1 8 9 7  
 四郎太郎(しろうたろう・桜山、四郎太)→ 池天(ちてん・桜山さくらやま、俳人) E 2 8 8 2  
 四郎太郎(しろうたろう・横田)→ 綱敷(つなぬき・横田よこた、商家/史家) B 2 9 0 7  
 N2212 次郎太郎(しろうたろう・木村きむら) ?- ? 江後期幕臣: 西丸新番組/1807西丸御膳奉行、  
 1827西丸裏門番頭/34致仕、弓術に長ず、1823「射形秘伝極意之書」著  
 二郎太郎(じろたろう・小笠原)→ 長鑑(ちようかん、小笠原、藩士) H 2 8 7 3  
 二郎太郎(じろたろう・佐久間)→ 續(つづき・佐久間さくま、藩士/和算家) 2 9 9 4  
 次郎太郎(じろたろう・小林)→ 野巢(やそう・小林こばやし、藩士/俳人) D 4 5 6 6  
 次郎太郎(じろたろう・松岡)→ 行義(ゆきよし・松岡/丹治、藩士/故実家) 4 6 2 9  
 次郎太郎(じろたろう・小西)→ 春重(はるしげ・小西こにし/本居、商家/国学) K 3 6 1 6  
 白達摩(しろだるま) → 見風(けんふう・河合、俳人) C 1 8 9 7  
 賜蘆堂(しろどう) → 正路(まさみち・新見しんみ/源、幕臣/歌) H 4 0 5 4  
 城長(しろなが・三芳野) → 順義(ゆきよし・沼田、鍼術/国学) 4 6 2 7

R2222 白主(しろぬし;組連) ? - ? 江中期江戸一石橋いっこくばし(日本橋近辺)の雑俳の組連、

取次;1737「琴公評万句合」入、取次例;

[揚錢あげせんもつでに振ってもらひたい](万句合/前句;こらへこそすれこらへこそすれ)、  
(吉原花魁は振るばかり;揚錢も振って無しにしてもらいたい)

白主(しろぬし・堂鞆) → 堂鞆白主(どうともしろぬし、丹羽権助、狂歌) G 3 1 8 1

四郎八(しろはち・穎川) → 雅之(まさゆき・穎川えがわ/葉、通事) I 4 0 3 3

N2213 次郎八(じろはち;通称・中村なかわら、号;好古) 1782-1857 76 江戸南町奉行組与力;

1857思出話「古翁雑話」(息子の一之筆録;編)

二郎八(じろはち・河窪) → 周辰(かねとき・河窪かわくぼ/源、歌人) U 1 5 3 7

次郎八(じろはち・倉地) → 言行(のぶゆき・倉地くらち、歌人) D 3 5 7 5

次郎八(じろはち・野尻/熊沢) → 蕃山(ばんざん・熊沢、儒者/陽明学) 3 6 4 2

次郎八(じろはち・下郷/千代倉) → 蝶羽(ちやうう・下郷/下里、醸酒業/俳人) H 2 8 2 6

次郎八(じろはち・下郷/千代倉) → 亀世(きせい・下郷、醸酒業/俳人) B 1 6 3 4

次郎八(じろはち・下郷/千代倉) → 常和(じょうわ・下郷、商家/俳人) C 2 2 2 0

次郎八(じろはち・下郷/千代倉) → 亀洞(きどう・下郷、学海、醸酒業/俳人) B 1 6 5 7

次郎八(じろはち・佐藤) → 重見(しげみ・佐藤さとう、国学者/歌人) O 2 1 5 5

次郎八(じろはち・鈴木) → 修重(ながしげ・鈴木すげき、藩士/歌人) N 3 2 5 4

次郎八(じろはち・大坂屋) → 金城(きんじょう・米谷こめたに、商家/漢学) R 1 6 1 8

次郎八(じろはち・判木屋) → 松茂(まつしげ・谷たに、和算家) J 4 0 7 5

次郎八(じろはち・妹尾) → 浴風(よくふう・妹尾せのお/佐上、藩士) N 4 7 5 1

次郎八郎(じろはちろう・稲生) → 正房(まさふさ・稲生いろう、幕臣/国学) N 4 0 7 7

次郎八郎(じろはちろう・新渡戸) → 伝(つとむ・新渡戸にとべ、藩士/開拓事業) 2 9 9 6

次郎八郎(じろはちろう・稲生) → 正房(まさふさ・稲生いろう、幕臣/国学) N 4 0 7 7

治郎八郎(じろはちろう・新井) → 道雄(みちお・新井あらい、国学/歌) L 4 1 0 9

白人(しろひと・山手) → 山手白人(やまてのしろひと、布施胤致たねよし、幕臣/狂歌) E 4 5 1 4

四郎平(しろうべい・津島屋) → 直道(なおみち・竹内たけうち、歌人) C 3 2 6 3

二郎平(次郎平じろべい・河野) → 魯斎(ろさい・河野こうの/赤松、藩儒者/兵学) B 5 2 5 3

N2214 四郎兵衛(しろうべえ・淡輪たんわ/たんのわ、名;重信、九郎右衛門男)?-1695 土佐高岡郡宇佐裏の生、  
父は和泉淡輪城落城後に讃岐を経て土佐に逃亡し藩有船の水主となる、  
四郎兵衛は1658百人衆並郷士に取立てられ土佐藩士;土佐国西半分の浦奉行に昇進、  
1656西浦巡検し「万覚并状之後書共」著、家老中山兼山下で藩政に尽力/土佐総浦奉行、  
禄高2百10石取/1675下僚の汚職の責任を追及され隠退、「郷土録」「沖島地堺論」、  
「淡輪録」「篠山国境論定」「淡輪四郎兵衛自記」著

D2235 四郎兵衛(しろうべえ・水島みずしま) 1648?-? 1703存 上方歌舞伎役者/作者、初め大阪で舞台口上役者、  
貞享1684-88頃三都一の口上名手として評判/作者兼用;京阪諸座で活動;改作・脚色、  
1696「鎌倉女郎花」/99「小野小町」「石掛町心中」「かいせい仏の原」「傾城蓮川」、  
1699「しのだつま後日」/1700「大一大万大吉」01「けいせい嵯峨野原」著

N2215 四郎兵衛(しろうべえ・上村うえむら/かみむら、屋号;松葉屋)?-? 京縄手三条下ルの書肆、  
1715「丸山連阿弥菊大会」著

四郎兵衛(しろうべえ・香川) → 正矩(まさり・香川/平、藩士/軍記作者) F 4 0 9 3

四郎兵衛(しろうべえ・阿部) → 定次(さだつぐ・阿部/阿倍あべ、武将) I 2 0 5 5

四郎兵衛(しろうべえ・加藤) → 宗月(そうげつ・加藤/依田/松平/蘆田、武将) H 2 5 0 2

四郎兵衛(しろうべえ・佐々木) → 秀乗(ひでのり・佐々木、兵法家) D 3 7 6 0

四郎兵衛(しろうべえ・児玉) → 利昌(としまさ・児玉こだま、藩士/兵法家) V 3 1 1 8

四郎兵衛(しろうべえ・田付) → 景利(かげとし・田付たつけ、幕臣/砲術/歌) L 1 5 0 6

四郎兵衛(しろうべえ・田付) → 直平(なおひら・田付、景利男/幕臣/砲術) N 3 2 6 1

四郎兵衛(しろうべえ・田付) → 直久(なおひさ・田付/岡部、直平養嗣/幕臣/砲術) N 3 2 6 2

四郎兵衛(しろうべえ・瀬山) → 登(のぼる・瀬山せやま、藩士/故実) E 3 5 1 7

四郎兵衛(しろうべえ・河野) → 通尹(みちただ・河野こうの、儒者/詩文) B 4 1 8 0

四郎兵衛(しろうべえ・高津) → 梅橋(ばいきょう・向陽軒、華道家) 3 6 9 8

四郎兵衛(しろうべえ・桑沢) → 正方(まさかた・桑沢くわさわ、神道家) B 4 0 9 1

四郎兵衛(しろべえ・後藤)→ 廉乗(れんじょう・後藤ごとう、金工家) B 5 1 1 9  
 四郎兵衛(しろべえ・土橋)→ 友直(ともなお・土橋つちはし/三宅、儒/教育) V 3 1 7 6  
 四郎兵衛(しろべえ・津島屋)→ 元之(もとゆき・竹内たけうち、商家/国学) I 4 4 7 6  
 四郎兵衛(しろべえ・神谷)→ 蘿父(羅父らふ・神谷、俳人/書) B 4 8 5 0  
 四郎兵衛(しろべえ・西川)→ 梨里(りり・西川にしかわ、商家/俳人) J 4 9 8 6  
 四郎兵衛(しろべえ・石内)→ 序令(じょれい・石内いしうち、魚問屋/俳人) D 2 2 0 9  
 四郎兵衛(しろべえ・松田)→ 正則(まさのり・松田まつだ、和算家) G 4 0 0 0  
 四郎兵衛(しろべえ・豊田)→ 一載(いっさい・豊田とよだ、心学者) H 1 1 1 6  
 四郎兵衛(しろべえ・梶)→ 重正(しげまさ・梶かじ、幕臣/国学者) O 2 1 0 0  
 四郎兵衛(しろべえ・大阪屋)→ 威斎(かんさい・藤井ふじい、本草家) Q 1 5 5 6  
 四郎兵衛(しろべえ・永井)→ 次芳(つぐよし・永井/高野、役人/史家/俳) 2 9 9 0  
 四郎兵衛(しろべえ・竹内)→ 元之(もとゆき・竹内たけうち、商家/国学) I 4 4 7 6  
 四郎兵衛(しろべえ・竹内)→ 直道(なおみち・竹内、元之男/国学者) N 3 2 7 6  
 四郎兵衛(しろべえ・堺屋)→ 魚坂(ぎよはん・金雨軒、狂歌) H 1 6 5 3  
 四郎兵衛(しろべえ・野田)→ 敬明(たかあき・野田のだ、金工家) L 2 6 4 5  
 四郎兵衛(しろべえ・下郷)→ 蝶羅(ちようら・下郷しもと、醸酒業/俳人) K 2 8 0 7  
 四郎兵衛(しろべえ・奥田/永井)→ 玉鳳(ぎよくほう・永井、郷土史/俳) P 1 6 3 6  
 四郎兵衛(しろべえ・岡本)→ 五休(ごきゅう・岡本/大岩、俳人) M 1 9 0 7  
 四郎兵衛(しろべえ・今蔵屋)→ 隆紀(たかのり・長滝ながたき、商家/国学) Y 2 6 7 1  
 四郎兵衛(しろべえ・今蔵屋)→ 隆善(たかよし・長滝、隆紀男/商家/国学) Y 2 6 7 2  
 四郎兵衛(しろべえ・小島)→ 省斎(せいさい・小島こじま、儒者/藩政) B 2 4 6 1  
 四郎兵衛(しろべえ・川喜田)→ 敏則(としのり・川喜田かわきた/大森、商家/国学) U 3 1 8 3  
 四郎兵衛(しろべえ・川喜田)→ 邦矩(くにのり・川喜田/長谷川、敏則養子/商家/国学) E 1 7 1 1  
 四郎兵衛(しろべえ・川喜田)→ 成章(なりあき・川喜田/村木、邦矩養子/商家/国学) L 3 2 7 0  
 四郎兵衛(しろべえ・大高坂)→ 南海(なんかい・大高坂おたかさか/山本、藩士/詩/画) O 3 2 9 4  
 四郎兵衛(しろべえ・中神)→ 近之(ちかゆき・中神ながみ/小沢、歌人) N 2 8 1 3  
 四郎兵衛(しろべえ・萩原)→ 久訓(ひさのり・萩原はぎはら/源、町役、国学) K 3 7 6 0  
 四郎兵衛(しろべえ・鈴木)→ 石橋(せつきょう・鈴木、儒家/教育者) E 2 4 1 4  
 四郎兵衛(しろべえ・高原)→ 義久(よしひさ・高原たかはら、歌人) L 4 7 0 8  
 四郎兵衛(しろべえ・松沢)→ 義任(よしとう・松沢まつざわ、国学者) P 4 7 1 3  
 四郎兵衛(しろべえ・渡辺)→ 条(たりえ・渡辺わたなべ、藩士/儒/国学) 2 7 4 8

N2216 次郎兵衛(じろべえ・三木みつみ/みつぎ/みき、名;自休、姉小路[三木]自綱[1540-87]男?)?-? 飛驒の文筆家、  
「三木次郎兵衛自休日記」著、戦国期飛驒国司家を名乗った桜洞城の三木直頼の裔

N2217 次郎兵衛(じろべえ・稲津いなづ、名;頼次)1629-89 61 肥後熊本の武芸者;熊本藩主の槍術の師、  
1636細川忠利に出仕/44鉄炮頭;3百石/のち650石、1689致仕;没、「鏝歌百首」著、  
[次郎兵衛(;通称)の幼名]千菊/庄之允

Q2252 治郎兵衛(じろべえ・文台屋ぶんたいや、姓;中村/名;治重はるしげ)?-? 江中期京堀川通蛸薬師の書肆、  
1780「書籍名数」編、  
[文台屋治[次]郎兵衛の号]号;百川/臨泉堂/臨川堂

D2236 治郎兵衛(じろべえ・村田屋むらたや)?-? 江戸の地本問屋(;享保1716-36頃より版元);継嗣、  
1790触書請書の連印者、寛保1789-1801頃喜多川歌麿の浮世絵を多数制作:娘日時計など、  
十返舎一九と親交;1796より一九の作品出版/「東海道中膝栗毛」(1802-22)の版元

次郎兵衛(じろべえ・虎屋)→ 喜太夫(きだゆう・虎屋とらや/藤原正信、浄瑠璃) F 1 6 7 6

次郎兵衛(じろべえ・深瀬)→ 忠良(ただよし・深瀬ふかせ、藩士/文筆家) R 2 6 2 4

次郎兵衛(じろべえ・藤田)→ 貞固(さだかた・藤田ふじた、藩士/武術/茶) P 2 0 8 7

次郎兵衛(じろべえ・菅沼)→ 正氏(まさうじ・菅沼すがぬま、幕臣/国学者) Q 4 0 3 3

次郎兵衛(じろべえ・有馬)→ 重広(しげひろ・有馬ありま、幕臣/歌人) a 2 1 1 6

次郎兵衛(じろべえ・小川)→ 風麦(ふうばく・小川おがわ、藩士/俳人) 3 8 9 8

次郎兵衛(二郎兵衛じろべえ・山本)→ 春正(しゅんしょう・山本、蒔絵師/歌人) J 2 1 9 3

次郎兵衛(じろべえ・佐治)→ 一平(かずひら・佐治さじ、和算家) M 1 5 4 5

次郎兵衛(じろべえ・今村)→ 長順(ながより・今村、医者/俳人) G 3 2 5 8  
 次郎兵衛(じろべえ・鈴木)→ 春信(はるのぶ・鈴木、絵師) G 3 6 6 9  
 次郎兵衛(二郎兵衛じろべえ・犬井/乾)→ 貞恕(ていじよ・犬井/乾、俳人) 3 0 0 6  
 次郎兵衛(じろべえ・太田)→ 万里(ぼんり・太田おた、俳人) I 3 6 6 3  
 次郎兵衛(じろべえ・岡部)→ 尹里(いんり・岡部おかべ、俳人) E 1 1 7 1  
 次郎兵衛(じろべえ・長谷川)→ 元貞(もとさだ・長谷川、国学者/書) C 4 4 5 2  
 次郎兵衛(じろべえ・三木)→ 隆盛(たかもり・三木みき、国学者/俳人) N 2 6 4 8  
 次郎兵衛(じろべえ・久世)→ 順矣(じゅんい・久世くぜ、心学者) Z 2 1 3 4  
 次郎兵衛(じろべえ・馬場)→ 頼綱(よりつな・馬場ばば、藩士/文筆家) J 4 7 0 5  
 次郎兵衛(じろべえ・岡崎)→ 槐陰(かいいん・岡崎おかざき、儒者) I 1 5 3 7  
 次郎兵衛(じろべえ・松平)→ 貴強(たかます・松平まつだいら、幕臣/紀行) N 2 6 2 4  
 次郎兵衛(じろべえ・小俣)→ 獲庵(かくあん・小俣こまた/おまた、商人/篆刻) J 1 5 4 3  
 次郎兵衛(じろべえ・泉屋/井坂)→ 松石(しょうせき・井坂/井坂東、商家/詩人) K 2 2 3 0  
 次郎兵衛(じろべえ・越前屋)→ 大常(だじよう;号、商家/俳人) B 2 6 6 1  
 次郎兵衛(じろべえ・川井)→ 久敬(ひさたか・川井かわい、幕臣/家老) L 2 7 6 8  
 次郎兵衛(じろべえ・川井)→ 久徳(ひさよし・川井かわい、幕臣/和算家) C 3 7 2 0  
 次郎兵衛(じろべえ・鷺田)→ 寛隆(ひろたか・鷺田わしだ、商家/国学/歌) G 3 7 2 2  
 次郎兵衛(じろべえ・近江屋)→ 田鶴丸(たづまる・蘆辺あしべ/岩田、狂歌) 2 6 3 9  
 次郎兵衛(じろべえ・茨木屋)→ 元貞(もとさだ・中山、酒造家/文筆) C 4 4 4 9  
 次郎兵衛(じろべえ・守村)→ 抱儀(ほうぎ・守村[邨]、商家/俳人) 3 9 3 9  
 次郎兵衛(じろべえ・浦野)→ 神村(しんそん・浦野/源、藩士/儒者) P 2 2 3 3  
 次郎兵衛(じろべえ・加藤)→ 高文(たかふみ・加藤/中田、国学/歌人) N 2 6 1 5  
 次郎兵衛(じろべえ・加藤)→ 信成(のぶしげ・中村なかむら、和算家) B 3 5 6 1  
 次郎兵衛(じろべえ・山名)→ 豊樹(とよき・山名やまな、藩士/神職/国学) T 3 1 3 5  
 次郎兵衛(じろべえ・歌川)→ 芳員(よしかず・歌川うたがわ、絵師;横浜絵) C 4 7 5 6  
 次郎兵衛(じろべえ・古海)→ 正顕(まさあき・宇都宮うつのみや/、庄屋) N 4 0 9 0  
 次郎兵衛(じろべえ・長谷川)→ 邦淑(くによし・長谷川はせがわ、商家/国学) E 1 7 4 2  
 次郎兵衛(じろべえ・山城屋)→ 善専(よしもろ・葛野かどの、商家/国学) M 4 7 2 4  
 次郎兵衛(じろべえ・山城屋)→ 美住(よしずみ・葛野、善専孫/商家/国学/俳) M 4 7 2 3  
 治郎兵衛(じろべえ・飴屋かざりや)→ 百喜(ひゃっき・洞露斎、鋳職/挿絵) E 3 7 9 7  
 治郎兵衛(じろべえ・小町谷)→ 吉孝(よしたか・小町谷こまちや、農業/歌人) E 4 7 0 8  
 治郎兵衛(じろべえ・林)→ 夜来(やらい・林はやし、俳人) E 4 5 3 6  
 治郎兵衛(じろべえ・梅原)→ 重美(しげよし・梅原うめはら/平、商家/歌) N 2 1 5 2  
 治郎兵衛(じろべえ・片上屋)→ 尚文(ひさぶみ・当麻とうま、商家/国学者) K 3 7 2 8  
 治郎兵衛(じろべえ・丹波屋)→ 邦淑(くによし・長谷川はせがわ、商家/国学) E 1 7 4 2  
 治郎兵衛(じろべえ・田辺)→ 満胤(みつね・田辺たなべ、庄屋/国学) J 4 1 4 5  
 治郎兵衛(じろべえ・久世)→ 御言(みり・久世くぜ、国学者) I 4 1 9 0  
 二郎兵衛(じろべえ・岩田)→ 有次(ゆうじ・岩田いわた、俳人) C 4 6 1 6  
 二郎兵衛(じろべえ・井狩)→ 友静(ゆうせい・井狩いかり、俳人) C 4 6 9 6  
 二郎兵衛(じろべえ・大文字屋)→ 悦春(えつしゅん・岡田、俳人) 1 3 7 7  
 二郎兵衛(じろべえ・齋藤)→ 好春(よしはる・齋藤さいとう/山県、国学) N 4 7 1 7  
 四郎兵衛尉(しろべえのじよう・寺井)→ 宗巧(宗功そうこう・寺井/橘、武将/城主/連歌) H 2 5 2 9  
 四郎兵衛尉(しろべえのじよう・児玉)→ 利昌(としまさ・児玉こだま、藩士/兵法家) V 3 1 1 8  
 次郎兵衛尉(じろべえのじよう・大沢)→ 重胤(しげたね・大沢、日記執筆) R 2 1 3 6  
 白藤(しろふじ) → 白藤(はくとう、俳人) J 3 6 2 0

D2237 白女(しろめ、大江玉淵女or源みなもと告つる女)?-? 平安前期摂津江口の遊女、  
 大和物語宇多院の145段(江口の白女)と146段(鳥飼院の玉淵女)が混同されたか?、  
 古今集387

[命だに心にかなふものならば何かわかれのかなしからまし](古今;八離別387)  
 (源実みのるが筑紫へ行く時山崎にて別れを惜しみ詠む)

[浜千鳥とびゆくかぎりありければ雲立つ山を阿波とこそ見れ](大和物語:145)

→ 玉淵女(たまぶちのむすめ・大江、後撰作者) G 2 6 5 7

R2203 思齋(しるん)

? - ?

江前期俳人;1691不角「二葉之松」3句入、

[番匠ばんじょうは錐揉み武の子破魔矢射て](二葉之松;128/番匠は大工/子供の時から学ぶ)

子和(しわ・林、春齋) → 春勝(はるか・林、羅山男/儒者) 3 6 3 0

子和(しわ・首藤) → 允中(允仲まさなか・首藤せどう/山高/末長、故実) F 4 0 1 1

子和(しわ・山本) → 秋水(しゅうすい・山本やまもと、藩儒/詩文) H 2 1 7 5

子和(しわ・山川) → 正宣(まさのぶ・山川やまかわ、商家/国学者) F 4 0 7 9

子和(しわ・徳川) → 宗睦(むねちか・徳川/松平/源、藩主/詩歌) B 4 2 6 0

子和(しわ・富田) → 省齋(せいさい・富田とみだ、藩士/書家) I 2 4 1 8

子和(しわ・葛谷) → 実順(さねより・葛谷くずや、和算家) L 2 0 4 9

子和(しわ・伊藤) → 信民(のぶたみ・伊藤、医者/神宮研究) B 3 5 9 2

子和(しわ・齋藤) → 中立(ちゅうりつ・齋藤さいとう、商家/和算) G 2 8 9 5

子和(しわ・大塚) → 松勉(しょうしよ・大塚おおつか、藩儒/剣術) T 2 2 1 2

子和(しわ・池田) → 玄斎(げんさい・池田いけだ、藩士/歌人) J 1 8 0 5

子和(しわ・平野) → 金華(きんか・平野、儒者/詩) 1 6 5 7

子和(しわ・安東) → 筋庵(せつあん・安東あんどう/多賀、藩儒) E 2 4 0 2

子和(しわ・市川) → 東谿(とうけい・市川いちかわ、商家/絵師) D 3 1 1 5

子和(しわ・川井) → 桂山(けいざん・川井/川合/河合、医/詩歌) 1 8 5 9

子和(しわ・千種) → 有文(ありぶみ・千種ちくさ/源、廷臣/歌) F 1 0 7 8

子和(しわ・植田) → 桂南(けいなん・植田うえだ、儒者/故実) E 1 8 7 6

子和(しわ・椿) → 蓼村(りょうそん・椿つばき、書家) I 4 9 7 6

子和(しわ・高橋) → 白山(はくざん・高橋たかはし、儒者) D 3 6 1 2

子和(しわ・中山) → 高陽(こうよう・中山なかやま、詩人/絵師) C 1 9 0 0

子和(しわ・益) → 喬(たかし・益ます/井上、医者/神職) Z 2 6 5 0

次和(じわ・広瀬) → 中庵(ちゅうあん・広瀬ひろせ、医者) F 2 8 7 5

時和(ときわ・前谷) → 時和(ときかず・前谷まえたに、歌人) U 3 1 5 9

史話楼(しわろう・川上) → 東山(とうざん・川上、儒詩/史学) E 3 1 5 7

芝湾坊(しわんぼう) → 元徳(もとりの・毛利/大江、藩主/歌人) D 4 4 8 6

N2218 進(しん)

? - ?

平安前期女房歌人;977三条左大臣頼忠家前裁合参、

[花みればちぢの秋まつやどなれやのどけき水もすめる月影](頼忠家前裁合;84)

V2234 震(しん・望月もちづき、)

1664 - 1742/79 江戸の外科医;讃岐高松藩・丸亀藩主京極高矩に出仕、

藩医、法眼、和学者/歌人;武者小路家門、1768石野広通[霞関集]初撰に入、望月三英の父、

[過ぎこしは夢てふ物と成りし世にけふをうつゝと誰かさだめん](霞関初撰;思往事)、

[震(;名)の字/通称/号]字;百里、通称;草庵、号;雷山/甫庵

E2292 森(しん・武村たけむら、勝重)? - ?

江中期(18ct前期)近江の儒者、田中鳴門の師

N2219 伸(しん・立川たちかわ、号;省宇)? - ?

江中期寛保1741-44頃備中岡田藩士、

藩主伊東長丘に招聘され出仕、「故園紀行」著、

「吉備寺私記」著;弘盛法印の請で吉備寺の寺伝を執筆

V2235 眞(しん・桃沢ももさわ、旧姓日野)1740-1820/81

信濃伊那郡飯島本郷村名主桃沢夢宅(1738-1810)妻、

匡逸まさはやの母、歌人;夫門、1820(文政3)没

N2220 慎(しん・藍川あいかわ) ? - ?

出雲松平家の侍医、1818「搏桑果図考」著、

1824「姓氏一覽」編/28「大同類聚方窃疑」32-33「茅山査苞」著、「査苞」編/「和名抄考文」著、

「聊瑩録りうえいりく」「大同類聚方攷異」著、1839「穴名搜捷」編/39「参攷揆穴編」校、外編著多、

[慎(;名)の通称/号]通称;新吾、号;藍泉

N2221 慎(しん・渡辺わたなべ/初姓;尾形)? - ?

江後期和算家;会田安明門、測量術;伊能忠敬助手、

忠敬より測量術・地図作成法・測器を継承、1831「量地伝習録」著/57「西説斥候」訳、

[慎(;名)の字/通称]字;子言、通称;慶助/啓次郎/国太郎

N2222 審(しん;通称・永島ながしま元長/字;子静、安竜あんりゅう男)1826-1899

甲斐新倉村代々医者/

1847父と河口湖引水工事着手;差配頭取/66隧道完成、詩;「山陰詩艸」「掘抜日記」、



[審の号] 山陰/山隠/禹績

父 → 安菴(あんりゅう・永島、医者/引水工事) D 1 0 1 6

U2269 **しん**(しん・梅田うめだ、上原立斎女) 1827-55早世29 近江大津の歌人、上京、  
1844(18歳)若狭藩士梅田雲浜(1815-59/儒者)の妻、  
歌人;八木立礼[静修しずね]門、書画にも長ず

V2222 **伸**(しん・牧野まきの、) 1831 - 189456 佐渡相川の幕臣、漢学者;家塾を開く;子弟教育、  
詩歌文章に長ず、賤男(弁護士/衆議院議員)の父、  
[伸(;名)の通称/号]通称;蔵田朔郎、号;蠖哉かくさい・随鷗

申(しん・荒木)	→	忠栄(ちゅうえい・荒木、藩士/馬術家)	F 2 8 7 9
信(しん・源)	→	信(まこと・源、嵯峨源氏の祖/歌)	4 0 0 2
信(しん・安藤/今泉/安積)	→	良斎(こんさい・安積あさか、漢学/詩)	1 9 5 3
信(しん・児島)	→	中山(ちゅうざん・児島、儒詩/歌)	G 2 8 1 2
信(しん・手島)	→	堵庵(とあん・手島てじま、心学者)	3 1 0 1
信(しん・松居)	→	南岱(なんたい・松居まつい、絵師)	J 3 2 2 6
信(しん・村松)	→	紀風(のりかぜ・村松むらまつ、本草家)	E 3 5 3 7
信(しん・青山/杉山)	→	篤信(あつのぶ・杉山すぎやま信、廷臣/医者)	E 1 0 7 3
信(しん・藤田)	→	小四郎(こしろう・藤田、尊攘派/天狗党)	F 1 9 3 5
信(しん・竹中)	→	霞城(かじょう・竹中たけなか、医者)	L 1 5 9 7
信(しん・阿野)	→	蒼崖(そうがい・阿野/松野、儒者)	2 5 8 5
信(しん・広瀬)	→	周伯(しゅうはく・広瀬ひろせ、藩医/蘭医)	Y 2 1 2 2
信(しん・片山)	→	恬斎(てんさい・片山かたやま、藩儒/詩歌)	D 3 0 4 7
信(しん・清水)	→	臥遊(がゆう・清水しみず、庄屋/儒者)	P 1 5 5 3
信(しん・沼田)	→	竹溪(ちくけい・沼田ぬまた、儒者/私塾)	C 2 8 8 8
信(しん・青木)	→	周弼(しゅうすけ・青木あおき、蘭医)	H 2 1 8 2
信(しん・杉田)	→	成卿(せいけい・杉田すぎた、医者/蘭学者)	B 2 4 1 6
信(しん・本郷)	→	弘斎(こうさい・本郷ほんごう、藩士/書)	I 1 9 8 4
信(しん・旗野)	→	古樹(ふるき・旗野はたの、農業/国学)	I 3 8 6 2
信(しん・北山;変名)	→	竹之介(たけのすけ・高橋、勤王派)	T 2 6 8 8
信(しん・山田)	→	翠雨(すいう・山田、儒者/詩人/教育)	2 3 2 8
信(しん→まこと・鍋島)	→	誠(まこと・鍋島なべしま/松平/龍造寺、国学)	Q 4 0 0 3
信(しん・関)	→	武久(たけひさ・関せき・藤原、神職/国学)	X 2 6 7 7
信(諱しん・菱田)	→	房明(ふさあき・菱田ひしだ、幕臣/儒者)	I 3 8 6 7
晋(しん)	→	梅園(ばいえん・三浦、医者/哲学/詩)	3 6 0 2
晋(しん・瀬谷せや)	→	桐斎(とうさい・瀬谷、儒者)	E 3 1 2 3
晋(しん・氏家)	→	閑存(かんそん・氏家うじえ、藩士/儒者)	H 1 5 7 1
晋(しん・船越)	→	錦海(きんかい・船越ふなこし、医者)	H 1 6 2 3
晋(しん・宇田川)	→	玄随(げんずい・宇田川/宇、蘭医)	C 1 8 4 1
晋(しん・山内)	→	香雪(こうせつ・山内やまうち、藩士/書家)	K 1 9 1 6
晋(進しん・沼)	→	古濂(これん・沼ぬま/梅本、医者/儒者)	P 1 9 0 3
晋(しん・前田)	→	孝錫(たかてる・前田まえだ、藩士/家老)	M 2 6 3 5
晋(しん・山本)	→	澹斎(たんさい・山本/福富、医/儒者/詩)	I 2 6 1 7
晋(しん・一瀬)	→	序庵(じょあん・一瀬いちのせ、医者;古医方)	G 2 2 4 4
晋(しん・大田)	→	蘭香(らんこう・大田おおた、詩人/書)	C 4 8 0 6
晋(しん・小田/吉村)	→	秋陽(しゅうよう・吉村/小田、儒者/詩人)	E 2 1 1 2
晋(しん・村岡/池田)	→	霧溪(むけい・池田/村岡、医者;痘科)	4 2 4 7
晋(しん・福井)	→	棣園(ていえん・福井ふくい、朝廷御医)	3 0 3 6
晋(しん・金子)	→	竹香(ちくこう・金子かねこ、儒者)	C 2 8 9 8
晋(しん・瀬谷)	→	桐斎(とうさい・瀬谷せや、藩士/儒者)	E 3 1 2 3
晋(しん・城)	→	長洲(ちやうしゅう・城じょう、医者/詩人)	I 2 8 7 5

晋(しん・平井/山田)	→	常典(つねのり/つねすけ・山田/源、国学/歌)	D 2 9 2 0
晋(しん・藤間/泉)	→	全斎(ぜんさい・泉いずみ/藤間、儒者/詩)	F 2 4 4 3
晋(しん・矢野)	→	翠竹(すいちく・矢野やの、藩儒者)	E 2 3 8 4
晋(しん・太田/賀川)	→	秀益(しゅうえき・賀川かがわ/太田、医者)	W 2 1 6 8
晋(しんじう・平沼)	→	晋(すすむ・平沼ひらぬま、藩士/詩・書)	D 2 3 8 1
臣(しん・坪井)	→	虹山(こうざん・坪井つばい、儒者/詩)	J 1 9 2 8
紳(しん・大野)	→	恥堂(ちどう・大野、庄屋/儒者)	F 2 8 0 0
紳(しん・水落/大塚)	→	巢南(そうなん・大塚おつか/水落、詩人)	I 2 5 6 3
縉(しん・伊藤)	→	錦里(きんり・伊藤いとう、藩士/儒者)	E 1 6 9 1
縉(震しん・伊藤)	→	亀谷(きこく・伊藤/平、百里、幕臣/書家)	K 1 6 3 6
新(しん・鈴木)	→	新(あらた・鈴木、国学者/歌人)	B 1 0 6 3
新(しん・香川)	→	景新(かげちか・香川、歌人)	K 1 5 9 9
新(しん・湯川)	→	麴洞(げいどう・湯川ゆかわ、儒者)	E 1 8 9 3
新(しん・対馬)	→	留雲(りゅううん・対馬つしま、詩人)	C 4 9 8 1
新(しん・林)	→	園苑(ろうえん・林はやし、絵師)	5 2 2 0
辰(しん・岡松おかまつ)	→	麴谷(おうこく・岡松おかまつ、儒者)	B 1 4 2 8
辰(しん・松下)	→	烏石(うせき・松下まつした、書家)	B 1 2 7 7
辰(慎しん・寺井)	→	養拙(ようせつ・寺井てらい、書家)	B 4 7 3 0
辰(しん・臼杵)	→	鹿垣(ろくえん・臼杵うすき、藩儒/詩文)	5 2 7 7
辰(しん・吉益)	→	羸斎(えいさい・吉益よしま、医者)	C 1 3 7 7
辰(しん・古川)	→	古松軒(こしょうけん・古河/古川、医/地誌)	1 9 3 3
辰(しん・小林)	→	辰(たつ・小林こばやし、医者)	R 2 6 5 2
辰(しん)	→	辰(たつ、女流歌人)	2 7 5 9
辰(しん・富永)	→	莘陽(しんよう・富永/長深/神墨、陽明学)	2 2 9 0
振(しん・井上)	→	通女(つうじよ・井上/三田、侍女/歌人)	2 9 0 1
晨(しん・あきら・森本/大口)	→	端山(たんざん・大口、商家/国学/歌)	I 2 6 7 6
真(しん; 一字名)	→	重経(しげつね・庭田た/源、廷臣/連歌)	R 2 1 5 7
真(しん・久坂)	→	玄機(げんき・久坂くさか、医者/海防)	I 1 8 3 7
真(しん/まこと・三浦)	→	無窮(むきゆう・三浦みうら、医者)	4 2 3 8
真(しん・鈴木)	→	基之(もとゆき・鈴木すずき、歌人)	E 4 4 6 1
真(しん・高島)	→	真(まこと・高島たかしま/源、歌人)	M 4 0 4 6
真(しん・天津)	→	眞(まこと・天津あまつ、国学/神道)	N 4 0 1 9
真(しん・田中)	→	真(まこと・田中たなか、神道家)	Q 4 0 5 6
慶(慎しん・横江/朝川)	→	同斎(どうさい・朝川あさかわ、藩儒者/書)	E 3 1 4 4
慎(しん・児玉)	→	旗山(きざん・児玉こだま、儒者/詩)	K 1 6 6 6
慎(しん・城村/山県)	→	墨僊(墨僊ぼくせん・山県やまがた、儒/書家)	D 3 9 6 3
慎(しん・遠近)	→	桓斎(かんさい・遠近とおちか、儒者)	Q 1 5 6 8
慎(しん・宿屋)	→	空々(くうくう・宿屋やどや、琴法)	B 1 7 2 4
慎(しん・松本)	→	愚山(ぐざん・松本まつもと、儒者/詩人)	1 7 4 7
慎(しん・田中)	→	月歩(げつぽ・田中たなか、俳人/文人)	H 1 8 3 6
慎(しん・伊藤)	→	慎蔵(しんぞう・伊藤いとう、蘭学者)	P 2 2 2 5
慎(しん・沢井)	→	慎父(しんぶ・沢井さわい、詩歌研究)	P 2 2 6 9
慎(しん・豊島)	→	正美(せいび・豊島よしま、和算/天文家)	J 2 4 4 6
慎(しん・大橋)	→	慎三(しんぞう・大橋/橋本、土佐勤王党)	P 2 2 2 8
慎(しん・山川)	→	慎蔵(しんぞう・山川やまかわ、儒者/暦学)	P 2 2 2 7
慎(しん・兼重)	→	慎一(しんいち・兼重かねしげ、藩士; 藩政)	N 2 2 3 1
慎(しん・小島)	→	省斎(せいさい・小島こじま、儒者/藩政)	B 2 4 6 1
慎(しん・柚木/新宮)	→	凉民(りょうみん・新宮しんぐう/柚木、蘭医)	J 4 9 5 1
忱(しん・上田)	→	淇亭(きてい・上田うえだ、儒者/教育)	L 1 6 5 4

忱(しん・桑原)	→	鷲峰(しゅうほう・桑原くわばら、儒者)	I 2 1 2 8
親(しん・大久保)	→	要(かなめ・大久保おおくぼ、藩士/兵学)	O 1 5 3 3
親(しん・鈴木)	→	交陵(こうりょう・鈴木すずき、名主、儒/詩)	L 1 9 6 0
親(しん・大西)	→	重女(じゅうじょ・上田うえだ、大西/長沢、歌人)	N 2 1 4 9
親(しん・大藪)	→	信親(のぶちか・大藪おおやぶ、藤原、神職/国学)	H 3 5 7 6
森(しん・鄭てい)	→	成功(せいこう・鄭てい/朱/国姓爺、武将)	2 4 7 3
進(しん・宮南)	→	耕斎(こうさい・宮南みやなみ、書家)	I 1 9 8 8
進(しん・大国)	→	正武(まさたけ・大国/長手、国学者)	D 4 0 4 1
進(しん・広部/高野)	→	眞斎(しんさい・高野たかの/広部、藩儒/詩)	E 2 2 1 9
進(しん・小山)	→	進(すすむ・小山こやま/山本、神職/国学)	I 2 3 4 9
津(しん・司馬)	→	凌海(りょうかい・司馬しば/島倉、蘭医/語学)	G 4 9 8 2
莘(しん・柴)	→	秋村(しゅうそん・柴しば、儒者/藩儒)	I 2 1 0 5
諶(しん・岡部)	→	諶(まこと・岡部おかべ/平山、国史/博学)	O 4 0 5 8
諶(しん・菱田)	→	房明(ふさあき・菱田ひしだ、幕臣/儒者)	I 3 8 6 7
震(しん・ふるう・華岡)	→	青洲(せいしゅう・華岡はなおか、外科医)	I 2 4 6 2
震(しん・江村)	→	老泉(ろうせん・江村えむら、藩士)	5 2 3 4
震(しん・桐山)	→	力所(りきしょ・桐山きりやま、商人/地誌家)	4 9 5 3
駸(しん・竹内/河村)	→	琦鳳(きほう・河村/竹内/中原、絵師)	L 1 6 9 2
仁(じん・清水)	→	春流(しゅんりゅう・清水しみず、儒詩/俳人)	K 2 1 6 1
塵(じん→おほか・中山)	→	城山(じょうざん・中山/藤原、儒者/詩)	S 2 2 6 0
訊(じん・細川)	→	林斎(りんさい・細川ほそかわ、篆刻家)	K 4 9 3 2

- D2239 **心阿**(しんあ;法名、俗名;藤原俊氏、藤原忠氏男)?-? 鎌倉後期の廷臣;日野資業の苗裔、  
蔵人/下野(or下総)守、のち出家:法師、歌人;新千載集1560  
[忘草おふなる野辺の枯れしより後を頼まんことのはもなし](新千;恋1560)
- N2223 **真阿**(しんあ;法諱) ? - ? 僧侶;法師/連歌;1356刊菟玖波集3句入、  
[菊はかり花なき草になほ見えて](菟玖波;雑1169/前句;秋の名残や枯野なるらむ)
- D2240 **真阿**(しんあ) 1375 - 1440<sup>66</sup> 室町期僧;誓願寺主
- N2224 **心阿**(しんあ;法名・宣誉;法名)?-? 江前期近江松江の浄土宗称名寺の学僧、  
1704「浄土本朝高僧伝」著
- V2202 **心阿**(しんあ;法諱・号;称誉上人)?-1747 信濃飯田の浄土宗来迎寺9世、  
歌人;依田正純(1681-1749)門
- D2241 **晋阿**(しんあ・杉浦すぎうら、初号;秦川しんせん)?-? 江戸俳人;一漁門/一漁座点者、  
1741常仙「千々の秋」;1738一日千句の加点、54竹翁「誹諧童の的」点句入
- N2225 **心阿**(しんあ・松月堂しょうげつどう、俗姓;佐竹/山内)1729-? 1789存 周防岩国の武士;諸国遊歴、  
阿波徳島で剃髪;1744得度、歌人;冷泉為村門、「木綿麻日記」著、鹿児島政明の師、  
[松月堂心阿(;剃髪号)の名/別号]名;復馬/只三郎、得度号;諦空遠心
- Q2299 **真阿**(しんあ;法諱) 1786 - 1858<sup>73</sup> 江後期京の北野社光乗坊の生/天台僧、  
1797(12歳)大原入、大原普賢院住職/権大僧都/法印、伊勢津の西来寺31世、  
詩文・歌・書を嗜む、「北野藁草法華経考異」著
- N2227 **心阿**(しんあ;号・泰道;法諱、俗姓;田村、観音堂別当清光院10世巢居2男)?-? 陸前宮城郡原町の生、  
時宗僧;仙台阿弥陀寺41世泰岳門;嗣法、のち阿弥陀寺42世、  
俳人;1836兄百非3回忌追善集「枯菽集」編(父巢居と兄百非の追善)、  
[心阿(;号)の別号]其阿きあ/宮城堂/夢々庵
- |                |   |                          |           |
|----------------|---|--------------------------|-----------|
| 親阿(しんあ;法名)     | → | 公親(きんちか・三条、内大臣/歌人)       | E 1 6 3 1 |
| 信阿(しんあ;法名)     | → | 信繁(のぶしげ・平、歌人)            | B 3 5 5 6 |
| 信阿(しんあ・拈蓮社)    | → | 祐海(ゆうかい;法諱・愚蒙、浄土僧)       | 4 6 9 8   |
| 信阿(しんあ;法諱)     | → | 信救(しんきゅう;法諱、華嚴僧/和漢朗詠私注著) | N 2 2 8 0 |
| 信阿(しんあ・白蓮社)    | → | 忍激(にんきやく;法諱、浄土僧)         | G 3 3 7 0 |
| 信阿(しんあ・禅蓮院;法名) | → | 義山(ぎざん;法諱・良照;字、浄土僧)      | K 1 6 7 6 |

- 信阿(しんあ;法名・速蓮社)→ 大玄(だいげん;法諱、浄土僧/戒律) J 2 6 9 0  
 信阿(しんあ;法名・徳蓮社)→ 法道(ほうどう;法諱、浄土僧) C 3 9 4 0  
 信阿(しんあ;字) → 宅亮(たくりょう;法諱・信阿、浄土僧) O 2 6 2 0  
 心阿(しんあ・乗蓮社) → 知哲(ちてつ;法諱・頓誉、浄土僧) E 2 8 8 1  
 心阿(しんあ;法名・真蓮社広誉)→ 貞億(ていおく;法諱、浄土僧) 3 0 3 9  
 心阿(しんあ・川喜田) → 重盈(しげみつ・川喜田かわきた、商家/国学) O 2 1 1 0  
 真阿(しんあ;字) → 宗淵(しゅうえん;法諱、天台僧/声明) G 2 1 8 6  
 真阿(しんあ;号) → 円勢(えんせい;法諱、真宗僧/詩) F 1 3 1 0  
 真阿(しんあ;字) → 珂然(かねん;法諱・真阿、浄土僧) P 1 5 1 3  
 真阿(しんあ;法名) → 観徹(かんでつ;法諱・浄覚、浄土僧) R 1 5 4 7  
 真阿(しんあ;剃髮号) → 吉隆(よしとか・谷岡たにおか、藩吏/歌学者) D 4 7 9 8  
 真阿(神阿しんあ;号) → 慶言(きょうごん;法諱・藤ふじ、真宗僧/歌) V 1 6 1 2  
 晋阿(しんあ;法名) → 行誠(ぎょうかい;法諱・福田、浄土僧) N 1 6 4 6  
 身愛(しんあい・観世) → 身愛(ただちか・観世忠親、能楽) F 2 6 2 6  
 真愛(しんあい・田上) → 新平(しんぺい・田上たがみ、心学者) P 2 2 7 6  
 信愛(しんあい・荷田) → 信愛(のぶひで・荷田かだ/羽倉、神職/国学) D 3 5 0 4  
 信愛(しんあい・林) → 竜潭(りゅうたん・林はやし、幕臣/儒者) F 4 9 1 7  
 親愛(しんあい・秋保) → 親愛(ちかよし・秋保あきほ、藩士/国学/歌) L 2 8 7 6
- D2242 真阿弥(しんあみ) ? - ? 能阿弥・相阿弥の祖  
 信阿弥陀仏(しんあみだぶつ)→ 信景(さだかげ・天野あまの、藩士/国学者) 2 0 1 8
- D2243 信安(しんあん・植村) 1664 - 1731or3768or74 近江水口の歌人;和田以悦門、俳人;伊藤信徳門、  
 京に住、狂歌・茶・香道を嗜む、北村季吟と交流、隆志の師、信水・信舟の父、  
 1691「あくた舟」編(言水序・井筒屋庄兵衛板/言水・信徳・如泉らと興行の四十四よし連句)、  
 1726「俳諧花拾遺」30「杖の名こり」31「かのとの亥歳旦」編、「棹歌斎随筆」著、  
 1702轍士「花見車」入、1729隆志「俳諧草結」序・句入、追善「月の夜駕籠」(信水信舟の共編)、  
 [水鉢にちどりを覗く寝覚ねぞめ哉](花見車;208/冬夜の寝覚に千鳥の声を聞く)  
 [信安(;号)の別号]別号;芥舟かいしゅう/棹歌斎、法号;棹歌斎正誉信安浄竹居士
- D2245 慎庵(しんあん・藪やぶ、権右衛門男)1689-174456 母;芥川弥右衛門女、肥後熊本藩士;1702家督嗣、  
 3百石;番方/1712隈府町奉行、弓二十張頭/1722鉄砲二十挺頭/25致仕:学問に専念、  
 高野蘭亭と交流/儒者;荻生徂徠門、しかし朱子学を遵守;実学を重視/家塾で教授、  
 「希賢録」「反魂丹」「相撲略伝」著、「慎庵遺稿」、槐堂・孤山の父、  
 [慎庵(;号)の名/通称/別号]名;正順/常遠/弘篤、通称;孫八/権八/久左衛門、  
 別号;震庵/定軒/京山人/山陽散人
- N2228 晋庵(しんあん・大田おた、名;三秀/別号;養拙)?-? 江中期天明1781-89頃備後の医者;京で修学、  
 のち長崎のオランダ人の医者に入門、1785「黴瘡備考方」著
- D2244 新菴(しんあん・菅すが、名;震孟)?- ? 江後期江戸の儒者、「新菴学則」「易经俚解」、  
 「新菴記事編」「新菴文階」「無邪編」「引談編」「論語講筆」「徳本上人伝」「般若心経俚訳」著、  
 [新菴(;号)の字/通称]字;巽句そんじゅん、通称;孟句
- N2229 神庵(しんあん・須藤すどう、名;丞)?- ? 江後期京の儒者、  
 1848「一夜敬慎談」、「助語辞家解」「大道宗」著、  
 [新庵(;号)の字/通称]字;敬布、通称;芳之丞
- 心庵(しんあん・中川) → 狂言堂(きょうげんどう・近松、浄瑠璃/囃会/雑俳) N 1 6 6 7  
 信安(しんあん・山田) → 信安(のぶやす・山田やまだ/源、歌人) K 3 5 4 6  
 信安(しんあん・石川) → 理兵衛(りへい・石川いしかわ、藩士/財政) C 4 9 4 6  
 信安(しんあん・大枝/岩田)→ 流芳(りゅうほう・大枝/大江/巖、香道家・煎茶) F 4 9 6 3  
 信庵(しんあん) → 可楽(からく、俳人) P 1 5 6 5  
 眞庵(しんあん・板垣) → 宗詹(宗胆そうたん・板垣/中村/源、国学者) C 2 5 4 7  
 眞庵(しんあん) → 普斎(ふさい・杉木すぎき/荒木田、茶人) B 3 8 9 9  
 眞庵(しんあん・関) → 載甫(さいほ・関、儒者/教育) F 2 0 0 1  
 眞庵(しんあん・春田) → 九阜(きゅうこう・春田はるた、藩士/儒者) I 1 6 7 3

- 新安(しんあん・友部) → 方升(まさのり・友部ともべ、藩士/国学/歌) G 4 0 1 7  
 新庵(しんあん・竹田) → 蘿亭(らてい・竹田たけだ、藩儒) B 4 8 4 8  
 親安(しんあん→ちかやす・佐藤) → 竜谷(りゅうこく・佐藤さとう/辛島、儒者) D 4 9 9 3  
 晋庵(しんあん・児玉) → 雅氏(まさうじ・児玉、藩士/詩歌) B 4 0 3 3  
 震庵(しんあん・藪) → 慎庵(しんあん・藪やぶ、藩士/儒者) D 2 2 4 5  
 震庵(しんあん・桂川) → 甫周(ほしゅう・桂川かつらがわ/4世、蘭医) E 3 9 2 2  
 震庵(しんあん・伊佐庭) → 如矢(ゆきや・伊佐庭いさにわ/成川/阿部、教育/町長) G 4 6 5 1  
 申庵(しんあん・木梨) → 玄貞(げんてい・木梨きなし、藩士/医者) L 1 8 5 3  
 伸庵(しんあん・井上) → 不鳴(ふめい・井上いのうえ、医者/詩歌) E 3 8 1 3  
 仁庵(じんあん・吉岡) → 恕翁(じょおう・吉岡よしおか、藩医) M 2 2 1 8  
 訥庵(じんあん・野呂) → 深処(しんしよ・野呂のろ、藩儒) O 2 2 8 1  
 信安斎(しんあんさい・信安男) → 隆志(りゅうし・北村、俳人) E 4 9 4 0  
 信安斎(しんあんさい) → 湖元(こげん・北村きたむら、幕府歌学方) C 1 9 4 5  
 信意(しんい・馬場) → 信意(のぶのり・馬場、軍記作者) C 3 5 7 1  
 信倚(しんい・鳥居) → 信倚(のぶより・鳥居とりい/平、歌人) G 3 5 8 3  
 信威(しんい・田/岡田) → 竹圃(ちくほ・岡田おかだ/田、儒者/詩) D 2 8 7 6  
 信懿(しんい; 諡号) → 黙庵(もくあん・牧野/臼杵、儒者) 4 4 6 5  
 眞維(しんい・松野) → 眞維(まつな・松野まつの、国学/神職) J 4 0 8 2  
 振衣(しんい・岡) → 鹿門(ろくもん・岡おか、藩儒者/紀行) B 5 2 1 5  
 親懿(しんい・坂内/北川) → 親懿(ちかよし・北川/坂内、儒/神道/歌) C 2 8 2 1  
 辛夷館(しんいかん) → 庭鐘(ていしょう・都賀、唐話/読本作者) B 3 0 2 0  
 振衣斎(しんいさい) → 盛賢(もりかた・岡部おかべ、和算家) F 4 4 3 1  
 E2214 親一(しんいち) ? - ? 室町後期法師/連歌;  
 1482通直願主「大山祇社法楽連歌」(万句)参加  
 N2230 信一(信式しんいち・川辺かわべ) ?- ? 江中期尾張藩士/天文曆算家; 鳥居円秋門、  
 1785「周髀算経図解」、「古暦不審考」著、  
 [信一( ; 名)の字/通称/号]字; 以清、通称; 百野、号; 南辰  
 N2231 慎一(しんいち・兼重かねしげ、名; 慎、萩藩士兼重宣之長男) 1817-97 周防吉敷郡切畑村生/長門萩藩士、  
 藩校明倫館で村田清風門、1840右筆座筆者/53相模湾警備に参加/58神戸警備、  
 用所役/手元役/政務座役など藩の要職を歴任、第一次長州征伐後辞職/1865再び右筆、  
 大村益次郎らと兵制改革、維新後は藩史編纂に従事、1863「七卿西遷記」、「七卿西遷外伝」、  
 「京師変動始末」「世子奉勅東下日記」著、  
 [慎一( ; 通称)の字/別通称/号]字; 宣明、初通称; 讓蔵、号; 桐塙とうお/桐堂  
 N2232 眞一(しんいち・鷹羽たかのは/本姓; 源、通称; 勘四郎) ?-? 江後期武田流和算家、1845頃撰津西宮に住、  
 1845「算法捷徑初編」著  
 N2233 晋一(しんいち; 名・広沢ひろさわ、字; 子教) ?-? 江末期幕臣; 砲術家、1862「砲家要訣」著  
 新一(しんいち・村上/丹羽) → 玄塘(げんとう・丹羽にわ、藩士/郷土史) L 1 8 8 3  
 新一(しんいち・関) → 守一(もりかず・関せき、神職/国学者) F 4 4 3 0  
 信一(しんいち・田中/戸田) → 藤蔭(ふじかげ・戸田とだ/田中、藩士/歌) C 3 8 4 2  
 信一(しんいち・松田) → 信一(のぶかず・松田まつだ、国学者) K 3 5 0 1  
 眞一(しんいち・斉藤/杉枝) → 眞一(さないち・杉枝/斉藤、幕府鍼医) K 2 0 6 2  
 眞一(しんいち・武島) → 眞一(まさかず・武島たけしま、歌人) Q 4 0 8 2  
 審一(しんいち→しんのいち・吉沢) → 吉沢検校(よしざわけんぎょう、平曲家/箏曲) D 4 7 5 5  
 辰一郎(しんいちろう・志筑) → 辰一郎(たついちろう・志筑しげき/しつき、通詞) R 2 6 5 4  
 眞一郎(眞市郎しんいちろう・河喜多) → 眞彦(まひこ・河喜多/藤原、国学/歌) G 4 0 5 1  
 眞一郎(しんいちろう・津田) → 眞道(まみち・津田つだ、洋学者/法学) K 4 0 1 2  
 眞一郎(しんいちろう・梅村) → 眞守(まもり・梅村うめむら/坂本/金子/小林/平、勤王家) O 4 0 0 1  
 慎一郎(しんいちろう・木原) → 桑宅(そうたく・木原きはら、儒者/藩士) K 2 5 3 7  
 晋一郎(眞一郎/新一郎しんいちろう・近藤) → 芳樹(よしき・近藤/田中、国学/歌) 4 7 0 9  
 信一郎(しんいちろう・河路) → 光広(みつまさ・河路かわじ、商家/歌人) I 4 1 7 4

- 信一郎(しんいちろう・新貝)→ 直蔭(なおかげ・新貝しんかい、庄屋/神職) N 3 2 3 9  
 信一郎(しんいちろう・平山)→ 正義(まさよし・平山ひらやま、漢学者/歌人) S 4 0 1 6  
 眞逸(しんいつ・前田) → 道通(どうつう・前田、医者/家塾) G 3 1 5 5  
 眞逸(しんいつ・鈴木) → 芙蓉(ふよう・鈴木/木下、絵師/詩文) E 3 8 4 9  
 新院(しんいん、金葉) → 鳥羽天皇(とばてんのう、宗仁) O 3 1 6 8  
 新院(しんいん、詞花/後葉)→ 崇徳天皇(すとくてんのう) D 2 3 4 1  
 新院(しんいん、新後撰・玉葉) → 後伏見天皇(ごふみてんのう) 5 6 5 9  
 新院(しんいん、続千載・続後拾)→ 花園天皇(はなぞのてんのう) 3 6 2 2  
 信尹(しんいん・近衛) → 信尹(のぶただ・近衛、関白/書/歌/連歌) 3 5 0 8  
 信尹(しんいん・木村) → 信尹(のぶただ・木村、藩士/系譜作者) B 3 5 8 6  
 信胤(しんいん・山田) → 信胤(のぶたね・山田やまだ/山崎、神道家/郡長) K 3 5 2 7  
 信贇(しんいん・土持) → 信贇(のぶよし・土持ひもち、庄屋/書/歌) J 3 5 8 1  
 眞胤(しんいん・垣本) → 眞胤(まさたね・垣本かいもと/菅原/坂井、国学) O 4 0 7 7  
 眞隠(しんいん・小畑) → 詩山(しざん・小畑おばた、医者/詩人) D 2 1 7 7  
 眞蔭(しんいん)すべて → 眞蔭(まかげ)  
 親胤(しんいん・蜷川) → 式胤(のりたね・蜷川にながわ、和算/考古学) F 3 5 0 2
- D2246 塵隠(じんいん・国造くにのみやつこ/くにづくり/修姓; 国、名; 熙、正隆男) 1661-1713<sup>53</sup> 肥前長崎の儒者/医者、  
 儒; 明人蔣眉山門/医; 僧道亮門、医業/子弟教育、華音韻に通ず、独身で書画・琴・酒を嗜む、  
 「酔郷醒語」「内丹要訣」著、「三楽室遺稿」、  
 [塵隠(;)号)の字/別号]字; 玄貞、別号; 熙熙子/三楽室、諡号; 思靖先生  
 寝隠斎(しんいんさい) → 尚甫(しょうほ・小野崎/田崎、藩士/詩) L 2 2 5 9  
 森陰舎(しんいんしゃ) → 千秋(ちあき・田所/三輪、藩士/国学) 2 8 0 0  
 森蔭舎(しんいんしゃ) → 舎景(いえかげ・平たいら、神道家) E 1 1 8 0  
 森蔭社(しんいんしゃ) → 士清(ことすが・谷川、医者/神道/語学) 1 9 3 6
- W2223 新院紀伊(しんいんのきい) ? - ? 平安後期; 崇徳院(新院/1119-64/56保元乱)の女房、  
 歌人; 1165続詞花集入、  
 [たぐひなくおぼゆる物は秋の夜のうす雲かかる有明の月](続詞花; 秋177)
- D2247 新院上野(しんいんのこうずけ) ? - ? 平安後期; 崇徳院(新院)女房、1165続詞花集入、  
 歌人; 1182「経盛集」に贈答歌入、  
 [母の墓にまかりて卒塔婆に書き付けける、  
 はかなくてやみにし跡の形見にもこれをぞそとはみるべかりける](続詞花; 哀傷437)
- 新院少納言(しんいんのしょうなごん、玉葉集)→ 少納言(しょうなごん、後伏見院、歌人) B 2 2 0 1  
 新院中納言典侍(しんいんのちゅうなごんのすけ、玉葉集)→ 中納言典侍(ちゅうなごんのすけ・後伏見院) B 2 8 7 5  
 新院兵衛督(しんいんのひょうえのかみ)→ 遠子(えんし・高階、花園院兵衛督、歌) 1 3 9 6  
 真因房(しんいんぼう) → 玄仗(げんじょう; 法諱、真宗本願寺派僧) K 1 8 0 5
- D2256 新右衛門督(しんうえもんのかみ/しんえもんのかみ・宗尊親王家むねたかしのうけの、実遠女?) ?-? 鎌倉期女房歌人、  
 中務卿宗尊親王(1242-74)家に出仕、勅撰2首; 続古今(1682)新続古(1457)、  
 [なにごとに心をとめて有明の月もうきよの空にすむらん](続古今; 雑1682)
- D2255 新右衛門督(しんうえもんのかみ・宣光門院せんこうもんいんの、楊梅盛親女?) ?-? 南北朝歌人、  
 宣光門院実子(花園天皇妃/正親町実明女/1360没)家の女房、1342持明院歌合参加、  
 1344五十四番詩歌合参加、1346貞和百首入、  
 勅撰10首; 風雅(9首412/635/643/979/1063/1162/1217/1266/1868)新続古(1841)、  
 [夕立の雲吹きおくる追風に木ずゑの露ぞまた雨と降る](風雅; 夏412)
- 新右衛門尉(しんうえもんのだいじょう・蜷川)→ 親元(ちかもと・蜷川/宮道、親当男/武士/連歌作者) C 2 8 0 4  
 新右衛門尉(しんうえもんのだいじょう・蜷川)→ 親孝(ちかたか・蜷川/宮道、親元男/幕臣/歌) B 2 8 1 1  
 新右衛門尉(しんうえもんのだいじょう・蜷川)→ 親俊(ちかとし・蜷川/宮道、親孝の孫、幕臣/連歌) B 2 8 2 8
- D2248 眞羽亭市喜(しんうていしよし) ?- ? 浄瑠璃作者、1807「女郎花縁助太刀」合作; 2世貫四らと
- N2234 神吽(じんうん; 法諱) ? - ? 1313存 豊前宇佐八幡神宮寺の弥勒寺の社僧; 学頭/法印、  
 旧記/古記録の蒐集編纂に尽力、1313「八幡宇佐宮御託宣集」編
- N2235 信慧(しんえ/しんね; 法諱・悟心ごしん; 字) 1781-1846<sup>66</sup> 武蔵足立郡久保村の真言僧; 浦和玉蔵院信応門、

1702出家/長谷寺で修学/1826三保谷広徳寺住/38根生院住/45護持院住、権僧正、  
1846長谷寺46世;晋山前に没、1812「異部宗輪論述記別録」15「成唯識論述記別録」著、  
「唯識三十述記私記」「俱舍論玄談」「法華文句玄談」「大乘法苑義林章玄談」外著多数

- V2210 **信恵**(しんえ;清家せいけ、通称;一太郎)1835-1899<sup>65</sup> 伊予宇和郡の国学者/歌人、維新後;大講義  
 心慧(しんえ;字) → 智海(ちかい;法諱・心慧、真言・律宗僧) 2 8 5 9  
 心恵(しんえ;初名) → 心敬(しんけい;名、権大僧都/連歌) 2 2 2 1  
 眞恵(しんえ;法諱) → 眞恵(しんけい、沙弥[僧]/歌人) D 2 2 8 9  
 眞恵(しんえ;法諱) → 光明天皇(こうみょうてんのう、北朝、歌) B 1 9 9 3  
 眞恵(しんえ;法諱) → 六枳(ろくし;号・眞恵、大谷派僧/俳人) 5 2 8 9  
 眞慧(しんえ) → 眞慧(しんね、真宗高田派僧) P 2 2 5 6  
 眞慧(しんえ) → 眞慧(しんね;法諱、法師/国学) U 2 2 3 2  
 親恵(しんえ;法諱) → 存覚(そんかく;号・光玄、真宗僧) E 2 5 7 1  
 深慧(しんえ;法諱) → 聞号(もんごう;法諱、真宗本願寺派僧) I 4 4 2 1  
 深慧(しんえ) → 徳潤(とくじゆん;法諱・深慧、真宗僧) K 3 1 9 2
- V2282 **尋恵**(じんえ;法諱、源師光男;村上流)?-? 比叡山天台僧;法師/具親・泰光(1167生)の弟、  
 後鳥羽院宮内卿とも兄弟/父兄弟共に勅撰歌人、  
 歌人;1237素俊撰[檜葉集]入の法印尋恵と同一?  
 [たづねきてひかずへにけり山ざくらおくれし花のさきはつるまで](檜葉;春61)  
 父 → 師光(もろみつ・源、歌人) H 4 4 9 7  
 兄弟 → 具親(ともちか・源、歌人) P 3 1 7 5  
 → 泰光(やすみつ・源、歌人) D 4 5 1 1  
 → 澄覚(ちようかく、天台僧/歌人) N 2 8 9 7  
 → 宮内卿(くわいきやう・後鳥羽院、歌人) 1 7 0 5  
 尋慧(じんえ) → 尋慧(じんね;法諱、三論僧) P 2 2 5 7
- D2249 **神叡**(しんえい;法諱) ? - 737 持統期渡来の唐僧/法相教学;元興寺の義淵門、  
 三論・華嚴にも通ず、717(養老元)律師/719道慈と共に釈門の秀と称され食封50戸、  
 729(天平元)少僧都、芳野の現光寺に結庵;三蔵を学び[自然智]を感得;芳野僧都と称さる、  
 元興寺伝の法相宗の祖
- N2236 **信叡**(しんえい;法諱) ? - ? 773存 奈良期興福寺の法相僧、法相六祖の1、  
 773山階寺壺応の「成唯識論分量決」に跋語を添加、「成唯識論記」「成唯識論了義燈抄」著、  
 「枢要記」「義林章記」「因明論記」「三身義」「法花記」著
- N2237 **神英**(しんえい;法諱) ? - ? 奈良期興福寺の僧、「浄名経刪補」著
- D2250 **信永**(しんえい、香象房) ? - ? 平安後期興福寺の僧/法師、歌人、  
 1124奈良花林院(永縁奈良房)歌合作者、1155-56寂超「後葉集」入/檜葉集(1237刊)入、  
 [春の日をなほながかれと思ふかな花見ることの飽かぬ心は](永縁歌合;桜四番左7)  
 [はかなしと思ふ心はます鏡かげをこの世にたとへてぞ見る](後葉集;587、  
 依他の八のたとひを人々よみけるにこの世は鏡のごとしといふことを詠む)
- D2251 **信永**(しんえい・蜷川にながわ/宮道みやじ、千若丸)?-?1433存 武人/連歌:梵燈門、  
 1385至徳二年石山百韻;幼名千若丸で参加、  
 1424小松上皇御所連歌御会参、33北野万句連衆  
 [柴の庵い荒れたる庭に鹿鳴きて](石山百韻;賦何船第7句、  
 前句/季尹;砧の音は遠里もなし)
- N2238 **眞永**(しんえい;法諱) ? - ? 戦国期;吉野山松室別当、  
 連歌作者:1572紹巴と「何船百韻」興行
- N2239 **眞栄**(しんえい;法諱、俗姓;酒谷)1635-1722<sup>88</sup> 伊勢の真言僧:京の御室で密教を修学、  
 晩年は無量寺境内の喜見庵住、大僧都に至る、歌人/筆札に長ず、「瀟湘八景詩歌」書
- U2261 **信映**(しんえい・のぶあき) ? - ? 江後期;歌人、小倉藩士春日信映のぶあきと同一?、  
 1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、  
 [種しあれば岩に生ふてふ松もあるをなどてねがたき妹には有るらん]、  
 (大江戸倭歌;恋1416/難逢恋)

真栄(しんえい・村松) → 真栄(まさひで・村松むらまつ、藩士/国学) L 4 0 8 6  
 真栄(しんえい・小林) → 松蔭(まつかげ・小林こばやし/竹田、神職/国学) P 4 0 6 3  
 真栄(しんえい・立木) → 定保(さだやす・立木たちき/源、藩士/国学) Q 2 0 9 2  
 真栄(しんえい・山口) → 眞樹(まさき・山口やまぐち、藩士/歌人) T 4 0 4 5  
 眞英(しんえい・原田) → 眞英(まさひで・原田はらだ、藩士/国学) S 4 0 0 0  
 眞盈(しんえい・高野) → 眞盈(まさみつ・高野たかの、藩士/歌人) Q 4 0 7 0  
 真蔭(しんえい)すべて → 眞蔭(まかげ)  
 信栄(しんえい・児玉) → 信栄(のぶひで・児玉、仮名草子) D 3 5 0 3  
 信栄(しんえい/のぶひで・須田/佐藤) → 元庵(げんあん・佐藤さとう、農政家) H 1 8 6 3  
 信栄(しんえい・別府) → 安宣(やすのぶ・別府べつぷ、藩士/国学者) C 4 5 5 8  
 信栄(しんえい・石川) → 信栄(のぶひで・石川いしかわ、国学者) H 3 5 3 4  
 信映(しんえい・春日かすが) → 信映(のぶあき・春日/大日向、藩士/系譜研究) 3 5 7 2  
 信盈(しんえい・牧) → 墨僊(墨仙ぼくせん・牧まき、藩士/絵師) D 3 9 6 1  
 信盈(しんえい・三上) → 致之(むねゆき・三上みかみ、兵学者) C 4 2 7 7  
 信盈(しんえい・小泉) → 信盈(のぶみつ・小泉こいずみ、藩士/歌人) I 3 5 3 8  
 信盈(しんえい・日野) → 信盈(のぶみつ・日野ひの、歌人) J 3 5 7 5  
 信盈(しんえい・森本) → 信盈(のぶみつ・森本もりもと、国学者/歌) K 3 5 1 8  
 信英(しんえい・金谷) → 玉川(ぎょくせん・金谷かなや、藩士/儒者) I 1 6 8 7  
 信英(しんえい・高木) → 允胤(みつたね・高木たかぎ、和算家) D 4 1 8 3  
 信英(しんえい・竹内) → 信英(のぶひで・竹内たけうち、藩家老/歌) I 3 5 1 2  
 信英(しんえい・羽生) → 信英(のぶひで・羽生はにゅう、藩士/歌人) J 3 5 6 4  
 信影(しんえい・桜井) → 信影(のぶかげ・桜井さくらい、神職/国学者) I 3 5 6 5  
 神英(しんえい;名) → 日明(にちめい;法諱、日蓮僧) H 3 3 0 2  
 親英(しんえい・広瀬) → 親英(ちかひで・広瀬ひろせ、藩士/弓術家) B 2 8 7 0  
 親英(しんえい・布喜川/撰津) → 親英(ちかひで・布喜川ふきがわ、庄屋/歌) D 2 8 5 3  
 親衛(しんえい・杉原/御巫/福井/秦) → 清生(きよなり・御巫みかんなぎ、神職/詩歌) P 1 6 6 2  
 親盈(しんえい・中山/幸田) → 親盈(ちかみつ・幸田こうだ/中山、幕臣/暦算) B 2 8 9 3  
 親盈(しんえい・堀越) → 親盈(しんえい・堀越ほりごし、歌人) B 2 8 9 5  
 晋永機(しんえいき) → 永機(えいき・穂積ほづみ、俳人) 1 3 2 0  
 信慧院(しんえいん;諡号) → 光闡(こうせん;法諱・法如;号、真宗西本願寺17世) K 1 9 1 8  
 信易(しんえき・戸田) → 信易(のぶやす・藤原ふじわら、歌人) K 3 5 4 7  
 信易(しんえき・戸田) → 大川(だいせん・戸田とだ、藩士/俳人) B 2 6 7 8  
 信易(しんえき・肥田) → 除風(じょふう・肥田ひだ、教育者) M 2 2 8 0  
 信易(しんえき・日野) → 信易(のぶやす・日野ひの、歌人) J 3 5 7 6  
 親益(しんえき・三村) → 石牀(せきしょう・三村、医者/本草家) K 2 4 1 6

D2253 **心越**(しんえつ;道号・興儔こうちゅう;法諱、俗姓;蔣) 1639-9557 明の杭州金華府婺郡浦湯の曹洞僧、  
 1646(8歳)出家/1677長崎に渡来、鉄牛道機の謀計で幽閉/徳川光圀の計らいで幽閉解除、  
 1683水戸天徳寺住持;寺名を改名し祇園寺を開山、詩文・書画・篆刻・七絃琴に長ず、  
 日本初の曹洞宗寿昌派、安積澹泊・人見竹洞の師、「東臯集」「東臯琴譜」「祐養園詩」、  
 「心越禅師富士山図及詩」「那須山温泉八景詩文」/1693「心越禅師開堂語録」外著多数、  
 [心越興儔の初法諱/号]初法諱;兆隠、号;東臯

眞悦(しんえつ・梶) → 旗山(きざん・梶かじ、藩士/画/茶) K 1 6 7 1

D2254 **新衛門**(しんえもん、源師房家女房)?-? 平安後歌人:1038「権大納言源師房家歌合」右方入、  
 [川近き宿のすみかは水鳥のたちみにつけて夢ぞさめける](師房歌合;右13)、

後拾遺歌人新左衛門と同一? → 新左衛門(しんさえもん、中原経相女/藤原季綱妻) E 2 2 2 7

N2240 **新右衛門**(しんえもん・河島かわしま、名;重貯) 1634-1727長寿94 薩摩藩士;藩主島津美津久に出仕、  
 1673-90郡奉行を務める、農業に精通、1713隠居、「田賦集」著、法号;月桂観照居士

N2241 **新右衛門**(しんえもん・本屋ほんや)?-? 大阪の書肆;1748一葉「兎の目」板/刊行

新衛門(しんえもん・水野) → 重昌(しげまさ・水野みずの/源、歌人) T 2 1 0 7

新衛門(しんえもん・久保) → 政信(まさのぶ・久保くぼ、戸長/国学) P 4 0 3 7



新右衛門(しんえもん・蜷川)→親当(ちかまさ・蜷川、幕臣/出家;智蘊ちうん/連歌) 2 8 0 6  
 新右衛門(しんえもん・卜部/塚原)→卜伝(ぼくでん・塚原/平、剣術家) D 3 9 7 8  
 新右衛門(しんえもん・長宗我部)→盛親(もりちか・長宗[曾]我部ちようそかべ、武将/城主) F 4 4 7 1  
 新右衛門(しんえもん・八木)→豊信(とよぶ・八木やぎ、武将/藩士/歌) W 3 1 7 4  
 新右衛門(しんえもん・鍋田/荻野)→重富(しげとみ・荻野/鍋田、藩士/俳人) R 2 1 6 7  
 新右衛門(しんえもん・佐藤)→馬耳(ばに・佐藤さとう、本陣役人/俳人) E 3 6 3 6  
 新右衛門(しんえもん・千種屋ちぐさや)→徹斎(てっさい・平瀬、書肆) C 3 0 3 0  
 新右衛門(しんえもん・相良)→長泰(ながやす・相良さがら/稻留、武将/和学) N 3 2 2 4  
 新右衛門(しんえもん・井上)→蘭沢(らんたく・井上いもうえ、藩士/儒者) C 4 8 9 4  
 新右衛門(しんえもん・豊竹)→肥前掾(ひぜんのだじょう・豊竹、浄瑠璃太夫/座本) C 3 7 5 2  
 新右衛門(しんえもん・高/深見)→玄岱(げんたい・深見/高こう、儒/書家) E 1 8 3 4  
 新右衛門(しんえもん・高/深見)→玄岱(げんたい・深見/高こう、儒/書家) E 1 8 3 4  
 新右衛門(しんえもん・深見)→頤斎(いさい・深見/高、玄岱男/書家) E 1 1 2 4  
 新右衛門(しんえもん・小本)→尚芳(ひさよし・小本おもと、藩士/歌人) C 3 7 1 9  
 新右衛門(しんえもん・神吉)→弘範(ひろのり・神吉かんき、本陣主人/国学) G 3 7 8 9  
 新右衛門(しんえもん・服部)→松峰(しょうほう・服部はっとり、俳人) B 2 2 5 7  
 新右衛門(しんえもん・叶屋)→瓢水(ひょうすい・滝/滝野、商家/俳人) F 3 7 2 7  
 新右衛門(しんえもん・但馬屋)→豊春(とよはる・歌川、浮世絵師) R 3 1 4 8  
 新右衛門(しんえもん・石橋)→直之(なおゆき・石橋、歌/俳人/地誌) C 3 2 8 4  
 新右衛門(しんえもん・稲葉)→通竜(つうりゅう・稲葉、医/書肆/鑑定) 2 9 4 7  
 新右衛門(しんえもん・田中)→鶴翁(かくおう・花月庵、田中、茶人;煎茶) J 1 5 5 9  
 新右衛門(しんえもん・神門)→全瓦(せんが・神門ごうと、藩士/俳人) L 2 4 8 4  
 新右衛門(しんえもん・紙屋)→海丸(かいまる・溪藤舎、狂歌) J 1 5 0 7  
 新右衛門(しんえもん・横田)→俊晴(としはる・横田よこた、藩士/儒者) N 3 1 4 1  
 新右衛門(しんえもん・河野)→帰橋(ききょう・蓬萊山人ほうらいさんじん、藩士/戯作/狂歌) 1 6 9 3  
 新右衛門(しんえもん・内藤/井上)→清直(きよなお・井上、幕臣/奉行) Q 1 6 0 2  
 新右衛門(しんえもん・目々沢)→樗軒(ちよけん・目々沢めざわ、漢学者) K 2 8 3 5  
 新右衛門(しんえもん・目々沢)→鉅鹿(きよろく・目々沢、樗軒男/儒者) Q 1 6 4 4  
 新右衛門(しんえもん・井口)→柳門(りゅうもん・井口いぐち、俳人) F 4 9 7 7  
 新右衛門(しんえもん・西原)→公和(よしかず・西原、一甫、藩士/国学) C 4 7 5 0  
 新右衛門(しんえもん・檜林)→鎮山(ちんざん・檜林ならばやし、通詞/蘭医者) K 2 8 7 2  
 新右衛門(しんえもん・渡辺)→鶴重(つるしげ・渡辺、鍛冶業/文筆家) E 2 9 6 3  
 新右衛門(しんえもん・不言堂)→方舟(ほうしゅう・不言堂、里正/俳人) B 3 9 5 1  
 新右衛門(しんえもん・稲垣)→正雄(まさお・稲垣いながき、名主/天文暦学) N 4 0 7 0  
 新右衛門(しんえもん・猫屋/加藤)→缶楽(ふがく・加藤、庄屋/神儒学) B 3 8 3 2  
 新右衛門(しんえもん・広瀬)→保水(ほすい・広瀬/北脇、実業家) E 3 9 3 5  
 新右衛門(しんえもん・新庄)→道雄(みちお・新庄/藤原、商家/国学者) B 4 1 2 6  
 新右衛門(しんえもん・佐分利)→清因(きよより・佐分利/佐分さぶり、里正/国学) U 1 6 3 9  
 新右衛門(しんえもん・大平)→久壽(ひさとも・大平おおだいら、国学者) I 3 7 8 4  
 新右衛門(しんえもん・西野)→時敏(ときとし・西野にし/中村、藩士/国学) W 3 1 0 1  
 新右衛門(しんえもん・山県)→昌保(まさやす・山県やまがた/工藤、藩士/歌) T 4 0 4 1  
 新右衛門(しんえもん・平田)→淳(あつし・平田ひらた、藩校学頭/歌人) I 1 0 3 3  
 新右衛門(しんえもん・小西)→業広(なりひろ・小西にし、国学者/歌) M 3 2 1 0  
 神右衛門(しんえもん・山本)→常朝(つねとも・山本やまもと、藩士/学者) C 2 9 7 2  
 信右衛門(しんえもん・本庄)→宗敬(そうけい・本庄ほんじょう/藤原、茶人) G 2 5 9 6  
 信右衛門(しんえもん・黒沢)→敬信(たかのぶ・黒沢くろさわ、藩士/国学) W 2 6 8 2  
 信右衛門(しんえもん・山本)→弘素(ひろもと・山本やまもと/久保田/近藤、国学/尊攘) J 3 7 6 1  
 森右衛門(しんえもん・北原)→稻雄(いなお・北原きたはら、国学者) I 1 1 0 4

N2226 **甚右衛門**(じんえもん・庄司しょうじ、初名;甚内) 1596-1644<sup>49</sup> 相模の北条氏の家臣の家の生;  
 小田原落城;1610(15歳)で江戸へ、江戸大橋柳橋で娼家の主人;

1612府内の娼家統合を幕府に出願;1617許可され吉原遊郭を開く/吉原の廓総名主となる

- N2242 **甚右衛門**(じんえもん・豊田とよだ)?- ? 江後期江戸照降町の茶店経営、1808「茶史」訳
- N2243 **甚右衛門**(じんえもん・佐藤さとう)?- ? 江後期羽前鶴岡の菓子舗長崎屋主人?、心学者、  
「心学諸事手控」著
- 甚右衛門(じんえもん・杉本)→ **新左衛門**(しんざえもん・曾呂利、御伽衆) 2 2 2 4
- 甚右衛門(じんえもん・伊藤)→ **幸氏**(ゆきうじ・伊藤いとう、武家故実家) E 4 6 3 2
- 甚右衛門(じんえもん・清水)→ **秋全**(あきまさ・清水、藩士/国学/歌) D 1 0 8 7
- 甚右衛門(じんえもん・久代)→ **振濯**(しんたく・久代くしろ、藩士/儒者) P 2 2 3 6
- 甚右衛門(じんえもん・吉岡/塗師)→ **宗守**(初世そうしゅ・千せん、武者小路流茶人) B 2 5 7 7
- 甚右衛門(じんえもん・竹内)→ **清承**(きよつぐ・竹内たけうち、藩士/暦学) P 1 6 9 0
- 甚右衛門(じんえもん・岡田)→ **正勝**(まさかつ・岡田おかだ、幕臣/軍学者) C 4 0 0 8
- 甚右衛門(じんえもん・袋屋/岩橋)→ **秀栄**(ひでなが・岩橋、歌学) D 3 7 4 4
- 甚右衛門(じんえもん・紙屋)→ **祖扇**(そせん、紙屋、俳人) K 2 5 6 4
- 甚右衛門(じんえもん・九里)→ **将興**(まさおき・九里くのり、藩士/詩人) B 4 0 4 8
- 甚右衛門(じんえもん・小野)→ **武雅**(たけまさ・小野おの、幕臣/国学者) W 2 6 0 0
- 甚右衛門(じんえもん・寺崎)→ **秀谷**(しゅうこく・寺崎てらさき、名主/俳人) X 2 1 2 5
- 甚右衛門(じんえもん・関根)→ **列山**(れつざん・関根せきね、俳人) 5 1 0 7
- 甚右衛門(じんえもん・照山)→ **貞信**(ていしん・照山てるやま、和算家/暦学) B 3 0 2 8
- 甚右衛門(じんえもん・石松)→ **元啓**(もとひろ・石松いしまつ、儒者/歌) E 4 4 1 5
- 甚右衛門(じんえもん・富田)→ **泰州**(やすくに・富田とみた/源、藩士/歌人) B 4 5 3 4
- 甚右衛門(じんえもん・芳川)→ **維堅**(これかた・芳川よしかわ、古銭鑑定家) O 1 9 2 0
- 甚右衛門(じんえもん・石野)→ **広江**(ひろえ・石野いしの、国学者) L 3 7 2 0
- 甚右衛門(じんえもん・檀)→ **嵩雄**(たかお・檀だん、歌人) L 2 6 6 2
- 甚右衛門(じんえもん・米原)→ **豊秋**(とよあき・米原よねはら、藩士/国学者) V 3 1 3 7
- 甚右衛門(じんえもん・吉松)→ **教冬**(もりふゆ・吉松よしまつ、藩士/学者) L 4 4 8 9
- 甚右衛門(じんえもん・大喜多)→ **蔚**(しげる・大喜多おおきた、諸学/教育) T 2 1 1 8
- 甚右衛門(じんえもん・新庄)→ **道雄**(みちお・新庄/藤原、商家/国学者) B 4 1 2 6
- 甚右衛門(じんえもん・岩崎)→ **利記**(としのり・岩崎いわさき、里正/歌人) U 3 1 3 0
- 甚右衛門(じんえもん・藤岡)→ **近方**(ちかまさ・藤岡ふじおか、藩士/国学) N 2 8 4 0
- 甚右衛門(じんえもん・佐野)→ **郷成**(くになり・佐野さの、国学者) D 1 7 0 5
- 新右衛門督(しんえもんのかみ)→ **新右衛門督**(しんえもんのかみ・宣光門院、女房歌人) D 2 2 5 5
- 新右衛門督(しんえもんのかみ)→ **新右衛門督**(しんえもんのかみ・中務卿宗尊親王家、女房歌人) D 2 2 5 6
- 新右衛門尉(しんえもんのかみ)→ **親元**(ちかもと・蜷川/宮道、親当男/武士/連歌作者) C 2 8 0 4
- 新右衛門尉(しんえもんのかみ)→ **親孝**(ちかたか・蜷川/宮道、親元男/幕臣/歌) B 2 8 1 1
- 新右衛門尉(しんえもんのかみ)→ **親俊**(ちかとし・蜷川/宮道、親孝の孫、幕臣/連歌) B 2 8 2 8
- 新右衛門尉(しんえもんのかみ)→ **長泰**(ながやす・相良さから/稻留、武将/和学) N 3 2 2 4
- 甚右衛門尉(じんえもんのかみ)→ **秀次**(ひでつぐ・鷹取/藤原、医者) D 3 7 2 2
- D2257 **真延**(しんえん;法諱) ? - ? 938存 平安前期僧;法師、  
938没の勤子内親王(藤原師輔の妻)の供養の時の菩提子の数珠を師輔に贈る、  
宇多天皇皇子行明親王と交流、  
歌人;後撰1226(藤原師輔に菩提子の数珠を贈る歌)・1229(行明親王に棕櫚を贈る歌)、  
[思ひいでの煙や増さむ亡き人の仏になれるこのみ見ば君](後撰;1226)、  
(火葬の煙に思ひ出の火を加える/現実のこの実と菩提子の木の実を掛る)
- N2244 **信円**(しんえん;法諱、関白藤原忠通男) 1153-1224? 母;源国信女、慈円の兄弟、京生;奈良興福寺入、  
法相僧/尋範・慧信門;唯識を修学、長谷・金勝二寺を領し金峰山検校、  
1181(養和元)興福寺別当、1185東大寺大仏開眼供養の呪願師/1190(建久元)大僧正となる、  
1203大仏殿落慶供養の導師、1218大和添上郡正暦寺を再興、大和国内山永久寺の第一祖、  
「因明四相違」著/歌人;檜葉集入、**菩提山本願僧正**と称される、  
基実・基房・兼実・兼房・恵信・慈円・覚忠・最忠・尊忠・聖子・育子・呈子の兄弟、  
[まつ人の思ふばかりはほととぎすながなくこゑをきかずやあるらむ](檜葉;夏136)

- D2249 **信縁**(しんえん;法諱、) ? - ? 平安鎌倉期僧/歌;1248成立「万代集和歌集」入、  
[もろびとの親となのりし心にてみなこのもとにきたるなりけり]、  
(万代集;1685/宝塔品を)
- V2274 **親縁**(しんえん;法諱、土御門[久我/源]通親みちか[1149-1202]男)?-? 平安鎌倉期;興福寺僧、  
興福寺別当/大僧正、歌人;1237刊[檜葉集]入(法印親縁名/弟定親・息頭空と入集)、  
通宗・通具・通光・定通・通方・通行・定親じょうしん(東寺大僧正)・承明門院在子・親子の兄弟、  
[二条僧正のみかの原の山荘にて山家松風といへる題、一門緇素よみけるに、  
山かげややほよろづよをまつのとにふきつたへたるいへのかぜかな](檜葉;神祇538)
- D2258 **心円**(しんえん;法諱、藤原知家男)?-? 1265頃存 鎌倉期僧;法師、頭家の孫、行家・知輔・覚忠の兄弟、  
歌人;人家集9首・檜葉集入、  
勅撰5首;続古今(1724)続拾(644/1203)新後撰(1379)玉葉(851)、  
[関の戸もあけがた近くなりにはけり今鳴くとりはそらねならじな](続古;1724/関路鶏)
- D2259 **真縁**(しんえん;法諱、上人)? - ? 鎌倉中期の天台僧;後深草院に伺候、  
横川の安楽谷に住、歌人;新続古1721(後深草院の横川安楽谷御幸時に奉る歌)、  
[思ひ出づる雲井の月の面影も横川の水にすましてぞみる](新続古;1721)
- N2245 **信円**(しんえん・菅原すがわら) ? - ? 江前期江戸本所鎮守宰府天神の別当兼官司、  
権僧都、1695「本所宰府問答」96「中臣祓囊櫛」著、「天満宮謡」著、  
1701(元禄14)天満宮八百年祭のため一千句連歌を帳行
- N2246 **深淵**(しんえん・平野ひらの、名;時成、一弘男) 1706-57 熊本藩士;1740家督嗣/51御穿鑿奉行、  
1756穿鑿頭/御物頭に列す、儒;大塚退野門、「深淵存稿」「疑義辨」「保登々義須」、  
「深淵雑書」「平野権九郎封事」/1751「程易夜話程易雑話付」著、「深淵遺文遺事五易辨」、  
[深淵(;号)の字/通称/別号]字;仲竜、通称;権九郎、別号;孤雲、法号;仁中院
- N2247 **臣淵**(しんえん) ? - ? 俳人:1776樗良「月の夜」1句入、  
[此の朝気あさけ照る日に露のみだれ哉](月の夜;54/朝気は朝明け)
- 真篤(しんえん・丸山) → 真篤(ますず・丸山まるやま、国学/歌人) S 4 0 8 0  
真篤(しんえん) → 真篤(ますず・宮本、虎杖庵4世/俳人) J 4 0 0 5  
真垣(しんえん・岡庭) → 真垣(まかき・岡庭おかにわ、国学者) 4 0 4 5  
眞淹(しんえん・高山) → 眞淹(まひさ・高山たかやま、神職/国学) Q 4 0 7 5  
岑延(しんえん・竹内) → 岑延(みねのぶ・竹内、自安/商家/歌人) F 4 1 5 1  
信淵(しんえん・佐藤) → 信淵(のぶひろ・佐藤、経世家) D 3 5 1 2  
信瑗(しんえん・柳沢) → 里之(さとゆき・柳沢やなぎさわ、藩主/俳人) K 2 0 5 7  
榛園(しんえん) → 俊夫(敏夫としお・木下/丸尾/榛葉、歌人) M 3 1 0 9  
榛園(しんえん→はりぞの) → 内遠(うちとお・本居、国学者) 1 2 7 4  
榛園(しんえん→はりぞの) → 直城(なおき・小出こいで/大江、国学者/歌) M 3 2 0 6  
深円(しんえん;字) → 日隆(にちりゅう;法諱・精進院、日蓮僧) D 3 3 5 7
- N2248 **尋円**(じんえん;法諱、関白九条尚経男)?-1581 母;従三位保子(三条西実隆女)、経尋の弟、  
興福寺大乘院住の法相僧、1550興福寺別当/僧正、1554「天文二十三年記」著、  
[尋円(;法諱)の法号] 後法華院
- 心遠館(しんえんかん) → 若冲(じゃくちゅう・伊藤、商家/絵師) G 2 1 3 3  
心遠居士(しんえんこじ) → 健斎(けんさい・宇田、医者/討幕活動) J 1 8 0 2  
深焉子(しんえんし・平石) → 時光(ときみつ・平石、暦算家) K 3 1 0 9  
深淵子(しんえんし) → 武矩(たけのり・大野/片島、砲術家) E 2 6 4 8  
深淵子(しんえんし) → 政信(まさのぶ・木村きむら、神道/国学) P 4 0 1 9  
塵遠草堂(じんえんそうどう) → 杏村(きょうそん・高橋たかはし、絵師/詩) O 1 6 2 7  
深淵堂(しんえんどう) → 友斎(ゆうさい・寺沢てらさわ、書家) B 4 6 7 1  
心円房(しんえんぼう) → 静遍(しずへん;法諱、真言僧) L 2 2 5 8
- N2249 **薪翁**(しんおう・近仁斎きんじんさい)?- ? 江中期歌舞伎芸談、初世沢村宗十郎の最眞、  
1772役者芸談「古今役者論語魁ここんやくしゃろんごさきがけ」著、  
[下手といはれるは もはや上手のうち](下手も役者の内の意;「古今役者論語魁」)

- N2250 **信応**(しんおう;法諱・自円じえん;字)?-1800 真言僧;長谷寺で修学/武蔵玉蔵院住、1793江戸本所の弥勒寺/97護持院転住;護国寺兼帯、権僧正、1800退隠、信慧の師、「俱舎論根聞記」著
- N2251 **眞応**(しんおう;法諱、千種有政男)1774-? 1817存 江中後期天台僧;実怨門、権僧正、1797-1809「御経供養法則」、「瑜祇灌頂第五三昧耶記録草案」著、1811「那羅延院宮七回御忌御追善結縁両部灌頂并三摩耶戒諸記」著
- N2252 **眞応**(しんおう;法諱、通称;竺眞応)?-? 江後期天保1830-44頃河内の僧侶、和算家;武田眞元門、1833「算学提要」著
- U2284 **眞応**(しんおう・佐々ささ、号;芝堂)1832-8352 伊予松山藩士、儒/歌;三上是庵(景雄)門  
 心翁(しんおう;道号) → 心翁(しんおう;道号・等安;法諱、臨濟僧) P 2 2 5 8  
 心応(心王しんおう;道号) → 心応(しんおう;道号・空印;法諱、曹洞僧) P 2 2 6 0  
 新桜(しんおう;組連) → 新桜(にいざくら;組連、雑俳) G 3 3 9 4  
 親応(しんおう・中沢) → 親応(ちかまさ・中沢、兵法家) B 2 8 8 3  
 信翁(しんおう・長谷川) → 貞信(初世さだのぶ・長谷川はせがわ、絵師) F 2 0 4 3  
 信翁(しんおう・木村) → 信菟(のぶかつ・木村きむら、商家/歌/神職) I 3 5 1 0  
 信応(しんおう;法名) → 秀直(ひでなお・若林わかばやし、歌人/真言僧) M 3 7 3 6  
 震翁(しんおう・黒岩) → 慈庵(じあん・黒岩くろいわ、儒者;南学) B 2 1 0 5  
 深翁(しんおう・畠山) → 常操(じょうそう/つねもち・畠山、故実/歌学) U 2 2 0 3  
 眞央(しんおう;法諱) → 蝦芸(かげい・含山軒、真宗僧/俳人) K 1 5 7 6  
 眞翁(しんおう・甲斐) → 保臣(やすおみ・真木まさ、神職/勤王家) B 4 5 0 9  
 仁翁(じんおう・北尾) → 辰宣(ときのみ・北尾きたお、絵師) J 3 1 7 2  
 眞応院(しんおういん) → 日達(にちだつ;法諱、日蓮僧) C 3 3 8 1  
 謙応和尚(しんおうおしょう) → 眞性(しんしょう;法諱、天台僧) O 2 2 9 0  
 心応軒(しんおうけん) → 三省(さんせい・恩田子信、華道家) M 2 0 4 8  
 信億(しんおう・生駒) → 信億(のぶり・生駒いこま、歌人) H 3 5 2 5  
 榛屋(しんおう) → 俊夫(敏夫としお・木下/丸尾/榛葉、歌人) M 3 1 0 9  
 親音(しんおん・馬詰) → 親音(もとね・馬詰まづめ、藩士;民政/歌) D 4 4 6 6  
 信温(しんおん・武田) → 信温(のぶあつ・武田、藩士) 3 5 9 0
- V2271 **信家**(しんか;法諱・高倉/本姓;藤原、権中納言家通男)?-? 平安鎌倉期;興福寺僧/法印大僧都、時通(左中将)・敦通(中将)・親通(侍従)・重信(権大僧都)・尊能(法眼)・円家(法眼)の兄弟、清信(1192生)の父、歌人;1237刊素俊撰[檜葉集]入(息清信も入)  
 [おもはじと思ふもきみがためなればとてもかくてもわすられぬかな](檜葉;恋375)
- V2252 **眞荷**(しんか・木村きむら、) ? - ? 江前期;京の歌人/1682河瀬菅雄[麓の塵]20余首入、  
 [春日野の雪間を分けてはつ草の世にめづらしき春はきにけり](麓の塵;春11)  
 眞夏(しんか・藤原/日野) → 眞夏(まなつ・藤原/日野、廷臣) J 4 0 9 9  
 葵岬(しんか) → 錦江(きんこう・馬場、幕臣/和算/俳人) D 1 6 9 7  
 晋戈(しんか・江木) → 鰐水(がくすい・江木えぎ、藩士/儒/兵学) E 1 5 7 3  
 心華(しんか→しんげ;道号) → 元棣(げんてい;法諱・心華、臨濟僧) C 1 8 7 7  
 信嘉(しんか・篠木) → 信嘉(のぶよし・篠木しきのき/藤原、幕臣/歌) G 3 5 7 9  
 信嘉(しんか・久山) → 信嘉(のぶよし・久山ひさやま、神職/歌人) J 3 5 8 0
- D2260 **信雅**(しんが;法諱、常楽院、律師頼審[俗姓;源]男)?-? 鎌倉後期天台園城寺僧/法印、歌人;「新三井い集」入、玉葉集2035、  
 [しぐれつる雲はほどなく峰越えて山のこなたに残るこがらし](玉葉;雑2035)
- D2261 **眞雅**(しんが;法諱、佐伯田公たきみ男)801-87979 讃岐多度郡屏風ヶ浦の真言僧;  
 空海(774-835)の実弟、809兄空海に随従し得度;空海十大弟子の1、  
 空海の遺命で大和弘福寺・東大寺真言院管理、東寺大経蔵も管理、847東大寺別当、  
 860東寺長者、清和天皇・藤原良房の帰依を得、862(貞観4)貞観寺開創、  
 864僧正/法印大和尚位に昇進;輦車てぐるまの宣旨を受、872東寺法務、  
 825「三宝大事私」831「随心金剛次第」837「観心寺縁起実録帳」、「最極記」「六通貞記」外著多、  
 [眞雅(;法諱)の通称/諡号]通称;貞観寺僧正、諡号;法光大師

- N2253 **心賀**(しんが;法諱) 1243 - ? 1329存 天台宗僧;行泉坊流開祖粟田口静明門;付法を受、無動寺常楽院住;天台恵心流七箇の口伝の弘布に尽力/相生流三代の名匠の1、法印、門弟;尊海・心聡・良意・真海・一海・日蓮ら、「一代相伝鈔」「一流相承法門私」「八帖抄」、1270「日記」72「一部目録」、「恵心流教重相承私鈔付教重壇図」「七箇法門口決」著
- D2262 **晋我**(初世しんが・早見はやみ、別号;素順/北寿) 1671-174575 下総結城の酒造業、俳人・其角門、追善「いそのはな」(息晋我2世編);蕪村「北寿老仙をいたむ」が収められている  
桃源(晋我2世)・丈羽・楚江の父
- N2254 **信賀**(しんが) ? - ? 筑前太宰府天満宮の社僧、連歌;1662-1706信兼信仙らと百韻千句多数
- N2255 **信雅**(しんが;号・高橋、文友斎)?-? 江中期享保1716-36頃羽前米沢?の俳人、1730「扇朗集」著/「俳諧あふぎ朗詠」編
- N2256 **晋我**(2世しんが・早見はやみ、別号;桃彦、初世晋我男)?-1797 下総結城の酒造業、俳人;父門、1793父追悼集「いそのはな」編;蕪村「北寿老仙をいたむ」を掲載、丈羽・楚江の兄
- N2257 **信我**(しんが・野村のむら/本姓;源、名;安長) 1741-181777 江戸下谷の幕府御家人、俳人;大野傘狂(美濃派6世)門、美濃派(以哉派)7世道統を継嗣、1790「さくらとき」著、「道の花集」編、1810「道元居附合集」12「追善道の手向」編、1815「追善残花集」編、「発句集」著、菊舎尼と交流、  
[信我(;号)の通称/別号]通称;平太夫、  
別号;道元/道元居/敲月亭/弄花/白寿坊道元/竹華仙、  
法号;最勝院
- 晒我(しんが・高井) → 蘭山(らんざん・高井たかい、与力/戯作者) 4 8 0 4  
 信賀(しんが・南部なんぶ) → 利視(としみ・南部、藩主/俳人) N 3 1 7 8  
 親賀(しんが・堀河) → 親賀(ちかよし・堀河/藤原、廷臣) C 2 8 2 2  
 岑峨(しんが・田端) → 年蔭(としかげ・田端たばた、大庄屋/国学) V 3 1 5 6  
 臣下庵(しんかあん) → 方朗(みちあきら・高林、神職/歌人) B 4 1 1 1
- D2263 **心海**(しんかい;法諱、空月;号)?-?1265存 藤原信盛の猶子、真言律僧:俊苒門/律・顯密修学、阿闍梨/上人、泉湧寺首座、1227入宋、俊苒臨終に宋絵師周丹に肖像を描かせ俊苒自筆の賛、撰津四天王寺勝鬘院住、藤原隆衡と交流、歌/勅撰7首;続古(1411)続拾(1372)新後撰(3首597/694/1455)新拾(1511)新続古(1915)  
[惜しむべきあるじを花にさきだてて心のままに散る桜かな](続古今;哀傷1411)、  
(九条左大臣[二条道良;1234-59]没後の春に桜の散るを見ての詠)
- N2258 **親快**(しんかい;法諱、源雅親男) 1215-7662 鎌倉期真言僧;遍智院道教門;出家、遍智院住、1239深賢より具支灌頂を受/1250憲深より伝法灌頂を受、醍醐寺座主を志すが叶わず、太秦桂宮院に移住、大福光本「方丈記」の識語を書す、「幸心鈔」「灌頂私記」「土巨抄」、「師資卷鈔」「香菓抄」「雑密記」「随聞記」「愚問決」/1266「薄雙紙口決」73「四度口決」外著多、  
[親快(;法諱)の通称] 地藏院法印/大納言法印/覚洞院法印、
- D2264 **信快**(しんかい;法諱、俗名;飯尾六郎左衛門、飯尾[本姓;三善]為連ためつら男)?-? 鎌倉期関東武士、僧;法師、歌人、勅撰3首;新千載(2025)新拾遺(1698)新後拾遺(808)、  
[後の世もかくや歎かむ身のうさになほのがれえぬ心なりせば](新千;雑2025)
- N2259 **真海**(しんかい;法諱) ? - ? 1477存 室町戦国期下野上三川の天台宗普門寺の住僧、1477「二諦義案立俗諦常住」、「即身義案立私竜女分極」著
- N2260 **真海**(しんかい;法諱) 1476 - ? 1554存 戦国期丹波の天台僧;近江柏原の成菩提院10世、信濃真田理智院住、法印、1510「宗要抄」22「問答抄」52「仏土義自受用所居」著、「六観音合行法」「七帖要文」「台嶺真珠集」「天台真珠集」「梨耶一念他三題」著
- 2218 **信海**(しんかい・豊蔵坊ほうぞうぼう;号、名;孝雄こうゆう、豊蔵坊孝仍男) 1626-8863 石清水八幡宮社僧、歌;松永貞徳門、書画;松花堂昭乗門/茶道;遠州門、俳;貞徳門;1682風黒「高名集」入、前期狂歌代表者の1人、狂歌;「狂歌鳩杖集」「豊蔵坊信海狂歌集」「孝雄狂歌集」著、1666行風「古今夷曲集」24首入、  
[桐油とゆ合羽がつばひつばるさめの籠の内に番袋居ばんぶくろの心地こそすれ](信海狂歌集、袋井の宿で大雨に遭う/第三句夷曲集;籠なれば/桐油をひいた紙の合羽で覆った籠、

番袋;寝具をいれる大袋/引張ると春雨・袋に居ると袋井を掛る/息苦しさを詠む)  
 [茶の色や青のり溶ときし寺候さうらふな](高名集;苔むした寺ですなあ、  
 謡曲「頼政」;向ひに見えたる寺はいかさま恵心僧都の御法みのりを説きし寺候な)  
 [豊蔵坊信海の字/別号]字;子寛、別号;信海/覚華堂/玉雲軒/玉雲翁/牛庵/玉虚/鳩嶺  
 通称;雄徳山玉雲

- R2204 **新皆**(しんかい) ? - ? 江前期俳人;1691不角「二葉之松」1句入、  
 [梓弓なじめば姫よめの手向け水](二葉之松;338/梓巫女の口寄で婚家先祖の様子を知る)
- N2261 **信海**(しんかい;法諱) ? - ? 1801存 江中後期武蔵の天台僧;比企郡慈光寺96世、  
 1801「天台別院都幾山慈光寺実録」著
- N2262 **信海**(しんかい;法諱、大幢だいどう;字、俗姓;渡辺) 1783-1856 江後期三河額田郡の真言僧;1799出家、  
 1806京の智積院で修学/海応門;「俱舎論」「唯識論述記」を受講、1809元瑜門;密灌を受、  
 1819海応より伝法灌頂の印璽を受、1824「俱舎論」を講ず/30集議席/34根来寺に移住、  
 権僧正/1850智積院37世、1855報恩院流の伝授を行う、「菩提心論私記」「唯識論述記玄談」、  
 「阿毘達磨俱舎論玄談」「起信論玄記」1807「起信義記察要」28「大乘法苑義林章玄談」外著多
- N2263 **信海**(しんかい;法諱) ? - ? 1852存 江後期天台宗比叡山極楽坊・竜城院住僧、  
 「朔平門院尊儀御懺法講記」/1848「仁孝天皇尊儀三回聖忌御懺法講記」著、  
 1852「大宮懺法講之記」著
- N2264 **眞戒**(しんかい;法諱・慧定;道号、佐川安兵衛男) 1784-1853 70 近江蒲生黄檗僧;6歳1789元功真信門、  
 正明寺華頂文秀門/1800師に従い万福寺入/1816撰津有馬湯山瑞宝寺住/平八郎と詩応酬、  
 1839正明寺住持、詩;大塩平八郎と交友、書画、「朝陽洞詩稿」、「正明慧定眞戒禅師語録」  
 [慧定眞戒の号] 三学軒/弗云/幻居
- D2266 **眞海**(しんかい・柏木かしわぎ、名;通直) ?-? 代々幕府小普請方大工棟梁、柏木如亭じよていの孫、  
 江戸下谷根岸に住、儒を修学、1837刊「詩歌連綿集」編、「孝経堂随筆」著、  
 [眞海(;字)の通称/号]通称;飛驒/長門、号;無窮/無究山人/孝経堂
- V2203 **信海**(しんかい;法諱、町医玉井宗江男) 1821-1859 39 月照(忍向/1813-58)の弟、大坂の生、  
 僧;光乘院住職/高野山で修業/万勝院住職/1854京の清水寺成就院の僧;兄を継嗣、  
 歌人;近衛忠熙門、尊攘活動;安政大獄に座す;1859(安政6)没  
 [信海の通称/号]通称;長丸/綱五郎/義蔵/信介/左少将、号;得月楼
- 心戒(しんかい/心戒坊) → 宗親(むねちか・平たいら、武将/僧;聖) E 4 2 4 0  
 心海(しんかい・高志) → 玄登(げんと;字・高志たかし、整骨医) L 1 8 6 5  
 信海(しんかい;法諱) → 順信(じゅんしん;号、真宗僧) L 2 1 1 4  
 信海(2世しんかい) → 貞柳(ていりゅう・油煙斎/鯛屋、商家/狂歌) 3 0 0 9  
 信海(しんかい・林) → 信海(のぶみ・林、名主/国学/歌人) D 3 5 3 5  
 信解(しんかい・保田) → 信解(のぶとき・保田やすだ/柴田、藩士/尊攘) K 3 5 2 4  
 信階(しんかい・伊沢) → 信階(のぶしな・伊沢いざわ、蘭軒父/医者) B 3 5 6 2  
 真海(しんかい;字) → 実浄(じつじょう;法諱、真言高野山碩学) U 2 1 8 0  
 真海(しんかい;字) → 竜剛(りゅうごう;法諱・真海、真言僧) D 4 9 8 7  
 深海(しんかい;字) → 周海(しゅうかい;法諱、深海;字、真言僧) W 2 1 7 9
- N2265 **尋海**(じんかい;法諱) 1168 - ? 1193存 真言僧;隆海門;伝法灌頂を受、  
 覚尋門;1193寂光院で伝法灌頂を受、伝法院10世、「聖天供次第」「灌頂記」「伝流小卷」著、  
 覚禅・房海の師、  
 [尋海(;法諱)の別法諱/通称] 実誉(;初法諱)/宝誉/賢誉、通称;肥後阿闍梨
- 塵外(じんがい・高橋) → 正直(まさなお・高橋、医者/歌)) F 4 0 7 8  
 深慨隠士(しんがいんし) → 超然(ちょうねん;法諱、真宗本願寺派僧) J 2 8 6 3  
 塵芥居(じんがいきよ) → 和平(かずひら・菊田きくた/小笠原、国学/神職) U 1 5 4 8  
 塵介子(じんかいし) → 重軌(じゅうき・山本、鉄砲鍛冶/俳人) H 2 1 0 5  
 信解院(しんかいいん/しんげいん) → 日久(にちきゅう;法諱・智俊、日蓮僧) B 3 3 2 3  
 信解院(しんかいいん/しんげいん) → 日従(にちじゅう;法諱・通心、日蓮僧) C 3 3 1 8  
 心戒坊(しんかいぼう) → 宗親(むねちか・平たいら、武将/僧;聖) E 4 2 4 0  
 塵外楼(じんがいろう、狂歌) → 清澄(きよすみ、狂歌) H 1 6 4 4

塵外楼(じんがいう) → 演義(のぶし・由比ゆい、藩士/歌人) E 3 5 0 6

心画院(しんがいん) → 恵白(えはく・心画院、真宗大谷派僧) E 1 3 2 0

津嘉久(しんかきゅう→つかひさ・猪飼) → 津嘉久(つかひさ・猪飼いかい、歌人) 2 9 4 9

D2267 深覚(しんかく/じんかく; 法諱、右大臣藤原師輔男) 955-1043 89 母; 醍醐天皇皇女康子内親王、真言僧; 寛朝門、978東寺入/989寛朝より伝法灌頂受/山城禅林寺入、992東大寺別当、1003東寺三長者、石山寺入/勸修寺長史/東寺大僧正/東寺一長者、禅林寺門跡、歌; 勅撰4首; 後拾遺(3首378・866・1199)金葉(651)、  
[手向にもすべき紅葉の錦こそ神無月かみなつきにはかひなかりけり](後拾遺; 冬378)、  
(十月一日頃紅葉の散るを詠む/神無月は中古以降神々が出雲参集で神不在の月とす)、  
[深覚の通称] 禅林寺大僧正/石山大僧正

D2268 信覚(しんかく; 法諱、藤原公季(みんすえ)男) 1011-1084 74 平安中後期真言僧; 仁和寺の済信門; 出家、東寺の深覚門; 灌頂を受、勸修寺長史/東大寺別当/1074東寺長者兼仁和寺別当、1075高野山座主/僧正、1082神泉苑で20人の伴僧を率い旱天祈雨の孔雀経を誦経; 効なく範俊を阿闍梨とし請雨経法実施するも効なし(; 藤原為房「為房卿記」など入)、再び信覚の孔雀経の誦経で降雨、  
[信覚(; 法諱)の通称] 勸修寺僧正/福岡僧正

N2266 心覚(しんかく; 法諱、参議平(たいら)実親男) 1117-80 64 平安後期真言僧; 初め園城寺で出家、のち醍醐寺の賢覚・実運門僧; 小野の法流を受、大和光明山の覚聖門; 籠山修行、1156高野山に入; 兼意より灌頂を受、高野山に常喜院を創建; 常喜院流(往生院流)の祖、「鶴林鈔」「鶺鴒鈔」「諸尊法鈔」「灌頂雑鈔」「勸發直心鈔」「大師徳行鈔」「千手鈔」「千手法」、「色葉梵語集」「大師御口伝集」「貝葉集」「一遍集」「焰魔天集」「華蔵院真言集」「五色線集」、「護摩要集」「尊勝曼荼羅集」「要文集」「聖天集」「入唐記」「不空羂索」「仏眼法」外著多数、  
[心覚(; 法諱)の字/通称] 字; 仏種房、通称; 宰相阿闍梨/常喜院阿闍梨/三井青淵、

2219 心覚(しんかく; 法諱、帥阿闍梨、源重道[信綱]男) 1119-82 64 天台僧; 比叡山の阿闍梨、資重・従三位盛子(皇嘉門院治部卿)の兄弟、賀茂政平と交流、歌人; 1166中宮亮重家家歌合/67平経盛家家歌合参加、詞花224・千載1196、  
[恋すればうき身さへこそ惜しまるれ同じ世にだに住まむと思へば](詞花; 恋224)  
父 → 重道(重通じげみち・源みなもと、廷臣/歌人) C 2 1 9 9  
母 → 心覚母(しんかくのいはは/歌人)

N2267 親覚(しんかく; 法諱、内大臣藤原[中山]忠親男) 1156-1213 58 真言僧; 恵仁門、1183仁和寺北院の守覚法親王より伝法灌頂を受、覚成門; 密教を修学/円楽寺に住、1202大僧都/03法印、1206東寺二長者、覚紹・現宗・道弘・定成の師、「九条堂鎮壇記」/1190「後七日御修法記」著、  
[親覚(; 法諱)の通称] 内大臣法印/円楽寺法印、

N2268 深覚(しんかく) ? - ? 鎌倉後期叡山の権律師/歌; 14ct比叡社歌合参加、  
[麓をばかすみよこぎる山桜たかねに花のこずゑをぞ見る](比叡社歌合; 五番左)

D2270 真覚(しんかく; 法諱、俗名; 源仲経?、源仲基男) ?- ? 1380 存 後宇多院上北面/播磨守/左近将監、出家; 僧、上人、歌; 1364-5頃「一万首作者」入、1377浄阿奉納「熱田日本書記紙背和歌」参加、1380二条為重と歌贈答、新後拾遺1033、  
[かひなしや関のこなたに年をへてつひに越ゆべき道を知らねば](新後拾; 恋1033)

N2269 深覚(しんかく; 法諱、全順; 字) ?-1684 播磨松原村八正寺(松原八幡宮の神宮寺)霊山院の真言僧、同寺宝積院桂祐門、八正寺を中興/大阿闍梨となる、のち高野山円満院住、「播州松原八幡宮略記」「播州松原山八正寺縁起」著

Q2218 心角(しんかく) ? - ? 江前期俳人、1691不角「二葉之松」5句入、  
[欲の留守寝る間うれしや目の非番](二葉之松; 223/欲は目からくるので睡眠は嬉しい)

D2271 辰角(しんかく、不角男/不扁・寿角の弟) ?-? 江中期享保(1716-36)頃の俳人、一族で書店経営、「俳家奇人談」に逸話

信覚(しんかく、歌; 宝治百首入) → 忠信(ただのぶ・藤原、歌人) F 2 6 5 4

信覚(しんかく; 法名) → 資季(すけすえ・二条/平松/藤原、廷臣/歌) C 2 3 2 5

深覚(しんかく) → 応其(おうご・木食上人、真言僧/連歌) 1 4 0 1

- 深覚(しんかく;号) → 師重(もろしげ・北畠/源、権大納言/歌) H 4 4 2 6  
 心覚(しんかく) → 保胤(やすたね・慶滋、詩歌) 4 5 0 6  
 心覚(しんかく;初法名) → 保胤(やすたね・慶滋/慶/賀茂、廷臣/漢学/詩歌) 4 5 0 6  
 真覚(しんかく;法諱) → 了堂(りょうどう;道号・真覚;法諱、曹洞僧) J 4 9 1 1  
 真覚(しんかく;法名) → 家熙(いえひろ・近衛、摂政/書画/黄檗) 1 1 5 9
- N2270 **心嶽**(しんかく;道号・通知つうち;法諱)?-1418? 臨濟僧;東福寺で修学;南明寂詢門;法嗣、のち東福寺75世、「心嶽和尚語録」著
- N2271 **真学**(しんがく/さねさと・早川はやかわ)?-1859 信濃水内郡長野村の人;善光寺御供所に奉仕、寛政1789-1804頃今井柳莊・藤井春蔭・小泉好平と交流/歌・俳諧を嗜む、国学;1801善光寺滞在の荒木田久老門/晩年は寺門静軒と交流、「読静軒先生寝言」著、[真学(;号)の字/通称/別号]字;松風、通称;和助、別号;奇芳
- V2212 **信岳**(しんがく;法諱・号;大乘院、姓;高田たかだ) 1828-190174 近江野洲郡浄土宗の西蓮寺住職、1875(明治8)政府の神仏分離令に対し信教の自由を訴え保障される、歌人;[鳩のうみ]入、[ごえんさん]と慕われる;没後近隣の人達により境内に顕彰碑建立  
 真覚(しんがく) → 成尋(じょうじん;法諱、天台僧/歌人/入宋) T 2 2 6 2  
 眞覚(眞学しんがく;字) → 日琮(にっそう;法諱・不測院、日蓮僧) E 3 3 9 0  
 人角(じんかく・佐尾) → 道瑞(どうずい・有岡ありおか、茶人/俳人) F 3 1 8 5  
 信覚恵中(しんかくえちゅう) → 恵中(えちゅう;法諱、曹洞僧/仮名草子) 1 3 7 5
- W2222 **心覚母**(しんかくのはは) ? - ? 源重道[信綱]の妻、歌人;1165成立[続詞花集]入、心覚(天台僧;比叡山の阿闍梨/歌人)の母、重道妻の源頭仲あきな女(伯女)とは別人?、[春のはじめつめた山里に侍るころ 人のもとへいひつかはしける、山里は人ぞ音せぬ鶯の初音ばかりはうたてききけり](続詞花;春16)
- 心花斎(しんがさい・嵐亭) → 富屋(ふおく・潤うるつ、俳人) B 3 8 2 5  
 心画斎(しんがさい) → 臥溪(がけい・井手いで、書家) K 1 5 7 7  
 心画斎(しんがさい) → 成斎(せいさい・小島こじま、藩士/書家) B 2 4 6 0  
 眞活(しんかつ;法諱) → 大機(だいき;道号・眞活、黄檗僧) J 2 6 5 8  
 眞葛(しんかつ)すべて → 眞葛(まぐず)  
 眞活斎(しんかつさい) → 梅春(ばいしゅん・狩野かのう、絵師) B 3 6 5 2  
 神歌堂(しんかどう) → 丘山(きゅうざん・岳亭、読本作家) C 1 6 0 3  
 新花林(しんかりん) → 平砂(2世へいさ・皐月さつき、俳人) 2 7 3 1
- D2274 **深観**(しんかん/じんかん;法諱、花山天皇皇子) 1001-5050 真言僧;深覚門、1031権少僧都/37東大寺別当、権大僧都/1047東寺一長者、山城禅林寺坐禅院住、天台大僧正明尊と贈答歌;新勅579、[草木まで仏のたねとききつればこのみちならむことも頼もし](新勅;579/贈歌)、(大僧正明尊みょうその草木成仏の説を聞き詠み贈る/返歌は明尊の項参照)  
 → 明尊(みょうそん;法諱、天台園城寺僧/歌) G 4 1 5 5  
 [深観(;法諱)の通称] 坐禅院僧都/宮大僧都
- N2272 **信観**(しんかん;法諱) ? - ? 平安後期天台宗園城寺の僧;大法師、歌人、1166-80頃「三井寺山家さんか歌合」(観蓮[教長]判)親盛らと参加、[春草の萌えいづる野辺にすむ月をなほ降る雪と思ひけうかな](山家合合;春月五番左)
- N2273 **信寛**(しんかん・大鳥居おとりい/本姓;菅原、信渠男) 1553-160048 社僧;太宰府安楽寺天満宮留守職、1588息子信岩に家督譲渡し隠居、大友宗麟・義統の庇護を受/島津家家老有川貞真と交流、天正1573-92頃太宰府で度々千句連歌興行/秀吉の朝鮮役戦勝祈願文と連歌五千句を興行1595「文禄四年七月二十一日紹巴信寛等何舟百韻」興行
- N2274 **信貫**(しんかん・大鳥居おとりい/本姓;菅原、信恭男) 1727-8357 母;建部孫作女、太宰府天満宮の社僧、1733父没;その法嗣/1739得度;信貫と改名、太宰府天満宮司務別当/太宰府延寿王院に住、筑後の水田天満宮祠官を兼務/法印/権大僧都、連歌;江戸柳営連歌に参加/京・福岡で活動、天満宮での奏楽復興に尽力、1773(安永2)「信貫信純松御会百韻」75「信貫信純百韻」興行、1763-「千句三物集」入、[信貫(;名)の幼名/通称/号]幼名;亀丸/亀麻呂、通称;少将、号;無染心院
- N2275 **信観**(しんかん・大鳥居おとりい/高辻、左大臣二条治孝男) 1804-5754 中納言高辻福長の養子、



1816延寿王院大鳥居信廉の付弟として太宰府に赴く/1818剃髮(社僧);信廉を補佐、  
1823安楽寺天満宮司務別当・延寿王院住職、1835権大僧都/法印、38信全に家督譲渡;隠居、  
連歌:1824-39頃信泰・信昇らと百韻多数;1824(文政7)信泰と百韻/38信昇と唐何百韻など、  
「千句三物集」入、

[信観(;名)の幼名/字/通称/号]幼名;功丸、字;大臨、通称;中務卿、号;豪中、  
隠居後の号;常瑜珈院

真観(しんかん、弁入道) → 光俊(みつとし・藤原/葉室、廷臣/歌人) 4 1 2 6  
真観(しんかん;法諱) → 良空(りょうくう;法諱、廷臣/法印/琵琶) H 4 9 1 3  
真観(しんかん、浄阿) → 浄阿(じょうあ、時宗四条派の祖) Q 2 2 7 2  
真観(しんかん・林) → 葉面(のぶつら・林はやし/橘、社僧/歌人) J 3 5 6 8  
真菅(しんかん・栗田) → 眞菅(ますげ・ますが・栗田くりた、国学者) I 4 0 9 8  
真菅(しんかん・加藤) → 眞菅(ますげ・加藤かとう、絵師/国学) O 4 0 6 6  
眞菅(しんかん・渡辺) → 眞菅(ますが・渡辺わたなべ、神職/歌人) T 4 0 8 1  
真憾(しんかん・河野) → 通溥(みちひろ・河野こうの、国学/歌人) J 4 1 1 1  
信寛(しんかん・林) → 鳳池(ほうち・林はやし、儒者) C 3 9 2 6  
信寛(しんかん・伊藤) → 信寛(のぶひろ・伊藤、歌人) D 3 5 1 5  
信寛(しんかん・津軽) → 順承(ゆきつぐ・津軽つがる、藩主/歌・俳人) G 4 6 7 1  
伸垣(しんかん・間庭) → 蘭薫亭薫(らんくんでいかおる、間庭、藩士/狂歌) B 4 8 7 8

D2275 眞願(心願しんがん;法諱、俗名;佐々木[本姓源]政義、義清男) 1208-9083 鎌倉幕府武家;左衛門尉、  
出雲国守護、1253-49頃出家/法師;通称隠岐太郎左衛門入道(父が隠岐守)、佐々木高綱甥、  
歌:続拾遺503、徒然草177段;宗尊親王の蹴鞠に雨後の泥土に鋸屑を敷いた機転の故事入、  
[春きてぞ心よわさも知られぬる花に馴れゆく墨染めの袖](続拾;雑春503/隠遁後花見)

N2276 信岩(しんがん・大鳥居おとりい/本姓;菅原、信寛男) 1572-164776 筑前の社僧;1588家督嗣、  
太宰府安楽寺天満宮司別当/1628息子信助に譲渡;信助病弱のため再任、43孫信兼に譲渡、  
太宰府及び筑後水田天満宮に住/法印、連歌に堪能、秀吉の九州下向時に謁/上京、  
藩主黒田如水・長政と親交、1640寛永十九年万句/41(寛永18)忠之と夢相百韻、  
1642寛永十九年万句/43寛永廿年千句/45正保二年万句などに参加

N2277 心岩(しんがん;法諱・頑夢;字、俗姓;嘉波) 1647-170660 加賀小松浄土僧;1666浄安寺面誉門;得度、  
下総大巖寺乗誉門/江戸小石川伝通院貞誉門、加賀金沢大円寺住/江戸芝増上寺心光院住、  
1704幕命で將軍綱吉の生母桂昌院の墓所慧照院を建立、画・彫刻・歌を嗜む、  
[心岩(;法諱)の法名]横蓮社縦誉光阿しょうようあ

信願(しんがん;字) → 良遍(りょうへん;法諱・信願、法相僧/浄土教) J 4 9 3 7

辰丸(しんがん/たつまる・桜井) → 能監(のうかん・桜井さくらい、神道家) 3 5 2 8

深観(しんかん;法諱) → 深観(しんかん/じんかん;法諱、真言僧/歌人) D 2 2 7 4

真含院(しんがんにん・黒田) → 菊子(きくこ・黒田くろだ、藩主夫人/国学) U 1 6 2 5

神間斎(しんかんさい・北川) → 祭魚(さいぎょ・北川きたがわ、俳人) G 2 0 6 4

新漢齊文(しんかんさいぶん) → 齊文(さいもん・新漢いまきのあや、伎楽) F 2 0 6 8

心鑑慈照禪師(しんかんじしやうぜんじ) → 行応(ぎやうおう;道号・玄節、臨濟僧) N 1 6 3 5

真観舎(しんかんしゃ) → 元良(げんりやう・平野ひらの、医者) N 1 8 0 7

真観上人(しんかんしやうにん) → 思順(しじゆん;法諱・天祐;道号、臨濟僧/歌) D 2 1 9 4

真観清浄禪師(しんかんせいじやうぜんじ) → 暘山(やうざん;道号・楚軾;法諱、臨濟僧/勤王) B 4 7 0 6

D2276 眞喜(しんき) 931 - 99969歳 平安前中期;伊勢出身の僧;興福寺空晴門、  
963宮中の講会で園城寺智興と宗義を討論、維摩会の講師/983興福寺別当、  
藤原道隆建立の積善寺落慶法要の講師/権僧正、林懐の師

真崎(しんき・杉浦/羽倉) → 真崎(まさき・杉浦/羽倉、歌人) C 4 0 2 0

親季(しんき・藤原) → 親季(ちかすえ・藤原ふじわら、廷臣/歌人) 2 8 9 9

親基(しんき) すべて → 親基(ちかもと)

親貴(しんき・松平) → 親貴(ちかとう・松平まつだいら、藩主/歌人) L 2 8 5 7

親毅(しんき・安岡) → 親毅(ちかたけ・安岡やすおか、郷土史家) B 2 8 1 3  
 親熙(しんき→ちかひろ・田内) → 千町(ちまち・田内たのうち、藩士/国学/歌) L 2 8 4 2  
 信基(しんき)すべて → 信基(のぶもと)  
 信起(しんき・内藤) → 信起(のぶおき・内藤ないとう/藤原、神道家) J 3 5 3 1  
 信毅(しんき→のぶたけ・桑原) → 幾太郎(いくたろう・桑原くわばら、藩士) F 1 1 3 3  
 信輝(しんき・有馬) → 正義(まさよし・有馬/坂木/榊、藩士/勤王) I 4 0 7 0  
 信熙(しんき・大館) → 高門(たかかど・大館おおだち、医者/国学者) C 2 6 6 4  
 伸畿(しんき・武重) → 正重(まさしげ・武重たけしげ/児玉、国学者) L 4 0 8 8  
 深機(しんき・渡辺) → 以親(ゆきちか・渡辺わたなべ、和算/測量家) E 4 6 8 5

D2277 心祇(しんぎ・轍、大口屋長兵衛) 1706-6358 江戸浅草蔵前の札差、俳人:祇空門、独立点者、四時観連中;1733「四時観」祇徳・莎鷄(祇明)・為邦と共編、34「東あづま千句」沾山樗山と3吟、1735「俳諧夏の日」36「新句兄弟」(師祇空とその門人の句)/44「二十歌仙」編、門人の編;1748「六日記」58「誹諧盲百員」61「三部集」、1754竹翁「誹諧童の的」点句入、祇報・鷄冠女の師、[凧がらしに一僧帰へる山路かな](1734青壚「たつのうら」入)、[心祇の別号] 佳丁/魚貫なつら/ぎよかん/蕉下庵/天池斎/雪堂/玉皎洞

N2278 慎義(しんぎ・堀内ほりうち、号;栄雲斎)?-? 江後期華道家;宏道流華道、1856刊「插花大楽抄図会」編

親義(しんぎ・堀) → 親義(ちかのり・堀ほり、藩主/日記) B 2 8 6 4  
 親義(しんぎ・高崎) → 親義(ちかよし・高崎、藩士/国学/歌) C 2 8 2 3  
 信義(しんぎ・田中) → 蘭斎(らんさい・田中たなか、藩士/書家) C 4 8 1 5  
 信義(しんぎ・井上) → 信義(のぶよし・井上いのうえ、国学) H 3 5 2 3  
 信義(しんぎ・勝) → 信義(のぶよし・勝かつ、国学/歌人) H 3 5 9 2  
 信義(しんぎ・社) → 信義(のぶよし・社やしろ、神職/国学/歌) K 3 5 2 0  
 眞祇(しんぎ・高野) → 眞祇(さねまさ・高野たかの、藩士/歌人) Q 2 0 8 5  
 陣基(じんき・田代たしろ) → 陣基(陳基つらもと・田代、藩士/文筆家) E 2 9 5 0  
 新規矩斎(しんきくさい) → 信行(のぶゆき・近藤、藩士/和算家) D 3 5 7 1  
 仁義公(じんぎこう;諡号) → 公季(きんすえ・藤原、太政大臣/日記) E 1 6 1 7  
 眞機広演禪師(しんきこうえんぜんじ) → 巨海(こかい:道号・宗如:法諱、臨濟僧) L 1 9 8 2  
 深機館主人(しんきかんしゅじん) → 以親(ゆきちか・渡辺わたなべ、和算/測量家) E 4 6 8 5  
 神祇少副入道(しんぎしょうふくにゅうどう) → 空仁(くうにん、大中臣清長/僧/歌人) 1 7 3 8

2274 新吉(しんきち・高橋たかはし、別名;良昭よしあき、藩士高橋七郎良顕男) 1843-191876 薩摩蘭学者/実業家、長崎で英語;何礼之門、1869和英「薩摩辞書」(前田正毅・正名兄弟と共編)、1870米国留学、1873「和訳英辞林(薩摩辞書)」を校訂再版、74大蔵省税関長/87九州鉄道社長/97議員

信吉(しんきち・那波) → 活所(かつしよ・那波なば/祐、漢学者) 1 5 2 3  
 信吉(しんきち・金子) → 豊雄(とよお・金子かねこ、神職/国学/歌) U 3 1 7 9  
 新吉(しんきち・西) → 玄甫(げんぼ・西にし、通詞/外科医) M 1 8 2 4  
 新吉(しんきち・平尾/興津) → 元義(もとよし・平賀、平尾/興津/犬丸、地誌/歌人) 4 4 2 4  
 新吉(しんきち・林) → 吉勝(よしかつ・林はやし、国学者) O 4 7 5 9  
 親吉(しんきち・飯高/山田大路) → 親彦(ちかひこ・山田大路ようだおおじ/度会/飯高、神職) B 2 8 6 7  
 親吉(しんきち→ちかよし・平岩) → 親吉(ちかよし・平岩ひらいわ、武将/城主) C 2 8 1 7  
 臣吉(しんきち・宮川) → 臣吉(おみよし・宮川みやがわ、書肆/国学) E 1 4 1 7  
 眞吉(しんきち・土居) → 水也(みずや・土居どい、神職/記録) 4 1 9 5  
 眞吉(慎吉しんきち・樋口) → 武(たけし・樋口ひぐち、藩士/儒/砲術) O 2 6 3 9  
 眞吉(秦吉しんきち・山本) → 季護(すえもり・山本やまもと/高木、官人/国学) J 2 3 3 6  
 震吉(しんきち・鈴木) → 醒麿(さめまろ/すがまる・鈴木/物部、藩士/歌) O 2 0 7 3  
 甚吉(じんきち・斎藤) → 如泉(によせん・斎藤、俳人) G 3 3 0 4  
 甚吉(じんきち・藤谷) → 貞兼(ていけん・藤谷、俳人) 3 0 6 6  
 甚吉(じんきち・岩川/渡辺) → 秀石(しゅうせき・渡辺/岩川、絵師/唐絵目利) H 2 1 8 8  
 甚吉(じんきち・浅尾) → 十次郎(じゅうじろう・浅尾、歌舞伎役者) H 2 1 6 9

- 甚吉(じんきち・平沢) → 適斎(てきさい・平沢/源、儒者/医者) B 3 0 9 1  
 甚吉(じんきち・中島) → 友山(ゆうざん・中島なかしま、俳人) B 4 6 9 8  
 甚吉(じんきち・山根) → 吉忠(よしただ・山根やまね、歌人) P 4 7 9 0  
 甚吉(じんきち・万波) → 俊休(としやす・万波まんなみ、藩儒臣) O 3 1 0 0  
 甚吉(じんきち・中山) → 文七(4世ぶんしち・中山なかやま、歌舞伎役者) F 3 8 6 5  
 甚吉(じんきち・村岡) → 正徳(まさのり・村岡5代、商家/尊攘家) T 4 0 0 7  
 新吉郎(しんきちろう・平尾/興津) → 元義(もとよし・平賀、平尾/興津/犬丸、地誌/歌人) 4 4 2 4  
 信吉郎(しんきちろう・春日) → 行則(ゆきのり・春日かすが/藤原、国学/歌) G 4 6 2 7  
 N2279 仁義道守(じんぎのみちもり、本姓;坂内) 1767-1835<sup>69</sup> 江戸浅草の狂歌作者;壺側判者/絵師、  
 1796「晴天闘歌集」画、  
 [仁義道守(;号)の通称/別号]通称;坂内重兵衛、別号;仁義堂道守/真砂庵2世/寛斎  
 神機独妙禅師(しんきどくみょうぜんじ) → 慧鶴(えかく・白隠;道号、臨濟僧) C 1 3 0 9  
 神機妙感禅師(しんきみょうかんぜんじ) → 万寧(ばんねい;道号・玄彙;法諱、臨濟僧) I 3 6 4 5  
 心休(しんきゅう・津田) → 有栄(ありえ・津田、藩士/儒/神道) F 1 0 2 4  
 真弓(しんきゅう) → 玄道(げんどう/はるみち・矢野、儒/国学者) C 1 8 8 4  
 真久(しんきゅう・彦坂) → 真久(まさひさ・彦坂ひさか/源、歌人) M 4 0 0 9  
 岑久(しんきゅう・西岡/高島) → 岑久(みねひさ・西岡、藩士/郷土史家) F 4 1 5 4  
 信久(しんきゅう)すべて → 信久(のぶひさ)  
 信躬(しんきゅう・石津) → 信躬(のぶみ・石津いしづ、藩士/歌人) H 3 5 3 5  
 薪休(しんきゅう・内田) → 橋水(きょうすい・内田うちだ、俳人) C 1 6 7 2  
 N2280 信救(しんきゅう;法諱、初法諱;信阿)?-? 平安後期華嚴僧;東大寺住、  
 1161「和漢朗詠集私註」著、出羽最上の隴川寺に流謫、奈良に帰る;信救と改名、  
 最乗房信救と同一? → 信救(しんきゅう・最乗房、興福寺僧) N 2 2 8 1 ②  
 N2281 信救(しんきゅう;法諱) 1157 - 1241<sup>85</sup> 1172「新樂府略意」91「管根縁起」著、  
 「三教指帰註」「仏法伝来次第」「倭漢朗詠集鈔」「日並の記」著、  
 信救に関する5つの説あり、  
 ①海野通広(道広)、信濃守海野幸親男、儒学;勸学院で修学/官人;蔵人  
 ②最乗房信救、法相宗興福寺僧、治承1177-81頃以仁王令旨に対し山門返諫で平氏罵倒、  
 平清盛に追われ北国へ逃亡、西乗房とも  
 ③大夫房覚明、義仲[1154-84]の右筆;義仲に対する比叡山の協力を得るために尽力  
 ④浄寛(乗寛)、慈円門の比叡山僧  
 ⑤西仏さいぶつ、親鸞に接し吉水の源空(法然)門の浄土僧:  
 信州更科郡長谷に真宗道場の報恩院(康楽寺)を開く  
 年齢的に矛盾多く、これらすべてが同一人物かは不詳  
 2220 甚久(尋久じんきゅう;号、別号;楮袋) 1648-1721<sup>74</sup> 自称:播磨の山中鹿之介の末葉、40歳頃法師、  
 江戸・豊前中津に行脚漂泊/筑前小倉の法華宗の寺に住、俳諧;令徳門、  
 狂歌作者、「甚久法師狂歌集」(村田契友編;1722刊)、「狂歌才蔵集」入、  
 [紙つげと頼むにへらも使はれずごくつぶしなる法りの身なれば](才蔵集;釈教596)、  
 (人の障子をはるとて紙を継げと頼みければ/へらはその場を取繕う事と飯粒を潰す籠)、  
 (ごくつぶしは糊を作る動作と非生産的僧の身の上を掛る)  
 進休庵大僧正(しんきゅうあんだいそうじょう) → 英岳(えいごく;法諱、真言僧) C 1 3 5 8  
 真休斎(しんきゅうさい・土橋) → 宗静(そうじょう・土橋、商家/連歌/俳人) C 2 5 0 9  
 N2282 尋旧子(じんきゅうし;号、木屋権左衛門)?-? 江前期華道家:池坊のちきりや三左衛門(猪飼三枝)門、  
 池坊の古法に背いたため破門、1684刊「立華正道集」著  
 D2278 尋旧坊(じんきゅうぼう、姓名不祥)?-? 歌人:1650「難拳白集」著(長嘯子批判)  
 甚久法師(じんきゅうほうし) → 甚久(じんきゅう、狂歌) 2 2 2 0  
 信居(しんきよ・南部) → 信居(のぶもと・南部なんぶ/三戸、歌人) J 3 5 4 6  
 進居(しんきよ/ゆきやす・若林) → 強斎(きょうさい・若林わかばやし、儒者/詩歌) C 1 6 5 0  
 D2279 深魚(しんぎよ) ? - ? 江中期俳人;鳥酔門、  
 1747俳諧撰集「いびきの図」百童と共編(鳥酔が支考模写の芭蕉軒の図を巻頭に月次集)、

「夏炉一路」入

- D2280 **信慶**(しんきょう;法諱、法師)?- ? 平安後期僧;弁得業、歌人、  
1124奈良花林院(永縁奈良房)歌合参加;左(弁得業名)、新後拾遺集962、  
[思ふとも知らじなよそに海士のたく藻しほの煙したに焦がれて](新後拾;恋962)
- N2283 **心教**(しんきょう;法諱) ? - ? 1495存 戦国期越前の真言宗豊原寺大染院の僧:法印、  
連歌作者;1495成立「新撰菟玖波集」3句入
- N2284 **信恭**(しんきょう・大鳥居おとりい/本姓;菅原、信仙長男)1697-1733 母;大音平次右衛門女、筑前の社僧、  
1713剃髪;幼名勝丸を信恭と改名/1716家督嗣;太宰府天満宮司務別当、少僧都/法眼、  
大法印、連歌作者:信亮・昌輔・珪重らと百韻各種;1719「何船百韻」33「御館御会百韻」など
- N2285 **信教**(しんきょう;法諱) ? - ? 江中後期下野武部の真宗本願寺派慈願寺の住職、  
功存(1720-96)・智洞(1728-79)の講席に参加、1801「真宗平心録」著
- N2286 **眞鏡**(しんきょう・寿福軒じゅふくけん、別号;安楽精舎)?-? 江後期江戸下谷金杉の文筆家;道徳書、  
1823-47刊「主従心得草」/1827-55刊「日用心法鈔」著
- N2287 **眞鏡**(しんきょう;法諱・諡号;光明院)1791-1867 伊勢飯南郡花岡村の真宗高田派光明寺の住職、  
自他の宗義・宗典を修学/僧伝研究、「高祖伝略頌」「新撰往生験記」「新撰往生験記追加別伝」、  
「聖徳太子勝鬘經御講讚縁起」「高田中興上人別伝」/1859「深信因果誘蒙鈔」著
- 眞教(しんきょう;法諱) → 他阿(たあ;号、時宗;2世遊行上人) 2 6 0 1  
眞教(しんきょう;別法諱) → 大廉(だいにん;法諱、真宗本願寺派僧) L 2 6 3 3  
眞教(しんきょう;字) → 実詮(じつせん;法諱、真言僧) U 2 1 8 8  
眞郷(しんきょう・魚住) → 勤(いそし・魚住うおずみ、藩士/国学者) F 1 1 8 7  
眞郷(しんきょう・徳丸) → 眞郷(まさと・徳丸とくまる、歌人) R 4 0 0 7  
眞郷(しんきょう・大江) → 眞郷(まさと・大江おおえ/恒屋/近藤、藩士/歌) O 4 0 2 8  
眞峽(しんきょう・源) → 順(したごう・源みなもと、廷臣/詩人) 2 1 2 6  
心鏡(しんきょう;初法諱) → 高山(こうざん;道号・慈照、臨濟僧、連歌) J 1 9 1 3  
心鏡(しんきょう;字) → 恵照(えしょう;法諱・心鏡、真言学僧) D 1 3 9 7  
心教(しんきょう;名) → 心敬(しんけい;名、権大僧都/連歌) 2 2 2 1  
信鏡(しんきょう;法諱) → 湖月(こげつ;道号・信鏡;法諱、臨濟僧) P 1 9 5 5  
信鏡(しんきょう・朝倉) → 信鏡(のぶあきら・朝倉あさくら、武将/連歌) 3 5 8 5  
信頬(しんきょう・雀部) → 信頬(のぶつら・雀部ささきべ、国学/語学) C 3 5 2 0  
信亨(しんきょう・平尾) → 信左衛門(しんざえもん・平尾、藩士/儒) O 2 2 5 8  
信亨(しんきょう・松平) → 信亨(のぶつら・松平、藩主/歌・俳) C 3 5 2 1  
信兢(しんきょう・木村) → 信兢(のぶかつ・木村きむら、商家/歌/神職) I 3 5 1 0  
新橋(しんきょう・船遊亭) → 扇橋(2世せんきょう・船遊亭、落語家) F 2 4 1 4  
伸郷(しんきょう・秋山) → 寒緑(かんろく・秋山あきやま、藩士/儒者) R 1 5 9 1  
信郷(しんきょう)すべて → 信郷(のぶさと)  
親教(しんきょう・源) → 親教(ちかのり・源みなもと、廷臣/歌人) B 2 8 5 9  
親教(しんきょう・今中) → 親教(ちかのり・今中いまなか/秦、藩士/国学) M 2 8 1 1  
親恭(しんきょう・松平) → 親恭(ちかやす・松平まつだいら、儒者) C 2 8 1 2  
親匡(しんきょう・中村) → 親匡(ちかまさ・中村なかむら/藤原、藩士/歌) N 2 8 1 7
- N2288 **信行**(しんぎょう;法諱) ? - ? 奈良平安初期の法相学僧;宝亀770-81頃元興寺僧、  
音義に関する著作、「法華音義」「大般若経音義」「信行師音義」「涅槃経音義」「瑜伽論音義」、  
「大般若経要集抄」「大般若要集鈔」「天文起教講義」「仁王般若抄」著
- R2269 **信暁**(しんぎょう、別号;閑水かんすい)?-? 俳人、吐虹子の叔父、  
「つくづく」と歌仙(発句桐葉/脇句芭蕉、吐虹「八橋集」入)を反古中より発見;第四句以下、  
[清水をすくふ馬柄杓ばしやくに月](つくづくと歌仙;第四句、鷹狩の帰途/馬に水やる柄杓、  
第三句;叩橋;日影山雉子きぎすの雛をおはへ来て)
- N2289 **心行**(しんぎょう・北山ほくざん、姓;永田)?-? 江後期寛政1789-1801頃富士講の行者、  
1799「御身抜の開」著、  
[心行北山(;行名)の名/通称]名;長照、通称;伊勢屋長四郎
- N2290 **信暁**(しんぎょう;法諱・実解じっかい;字)1774-1858 美濃不破郡静里の真宗大谷派長源寺の生、

1787(14歳)上京し宗学を修学、1803寺務を実弟本空に譲渡;各地の碩学を訪ね修学、  
1819仏光寺随応の勧めで仏光寺に入/山内の明顕字を再興/1821大行寺を開基、  
仏光寺派僧侶の教育に専念/1840法橋/仏光寺派学頭/権少僧都、「梵曆学」「梵曆風骨」、  
「ほこりたたき註釈」「天文風骨」「大原問答勸導」「本典講録」1825-58「山海里」外著多数、  
[信暁(;法諱)の号] 曇藏/正定閣/歓喜庵/霞水坊、諡号;仏心院

眞行(しんぎょう) → 覚法法親王(かくほうほっしんのう、真言僧/歌) B 1 5 7 4  
眞暁(しんぎょう;字) → 実詮(じつせん;法諱、真言僧) U 2 1 8 8  
親業(しんぎょう・大西) → 親業(ちかなり・大西/秦、神職) B 2 8 4 6  
農業(しんぎょう・武田) → 農業(とくしや・武田たけだ、商家/村政/俳人) V 3 1 7 0  
眞行院(しんぎょういん) → 日成(にちじょう;法諱・要識、日蓮僧) C 3 3 4 5  
信行院(しんぎょういん) → 日饒(にちによ;法諱・痴山、日蓮僧) D 3 3 0 5  
信行院(しんぎょういん) → 本因坊算砂(ほんいんぼうさんさ、初世本因坊、日蓮僧/棋士) E 3 9 9 4  
信暁院(しんぎょういん) → 善養(ぜんよう;法諱、真宗仏光寺派僧) N 2 4 2 1  
新橋先生(しんきょうせんせい) → 豊城(ほうじょう・莊田しょうだ、藩士/儒者) B 3 9 7 6  
森仰亭難哥免(しんぎょうていながめ) → 難哥免(ながめ・森仰亭、狂歌) F 3 2 9 8  
真教房蓮阿(しんきょうぼうれんあ、法号) → 他阿(たあ、時宗僧) 2 6 0 1

N2291 心棘(しんきよく) ? - ? 江戸の俳人;1678言水「江戸新道」入、  
1689「あら野」1句入、

[さゝげめし妹いもが垣根は荒れにけり](あら野;卷七恋)  
(新収穫のささげ豆のご飯と裏の昔の恋人の家の荒廢の対照、  
本歌;昔見し妹が垣根は荒れにけりつばなまじりの堇のみして/堀河百首)

E2283 薪玉(しんぎよく・中島なかじま) ? - ? 美濃長部の俳人、1690言水「新撰都曲」3句入、  
[鶺鴒せきれいの走りて消えし氷かな](都曲;上117/薄ごおりはかなさ)

森玉軒(しんぎよくけん) → 五城(ごじょう・志村むら、藩儒/詩文) G 1 9 4 6  
真玉舎(しんぎよくしゃ) → 文雄(あやお・大藪おおやぶ、神職/詩歌) H 1 0 3 0

B2251 信謹(しんきん・大鳥居おとりい/本姓;菅原、信臣2男) 1843-9654 筑後下妻郡水田村の生、  
叔父真木和泉守保臣の薫陶を受ける;父と共に勤王に奔走/1855兄没;家督嗣;社僧、  
水田天満宮の祠官、維新後は山梨県警部長、1862(文久2)「哀慕録」著、  
[信謹(;名)の通称] 次郎

信謹(しんきん・田中) → 信謹(さねもり・田中/若林、儒/医者) L 2 0 4 4  
信謹(しんきん・山本) → 緑陰(りよくいん・山本やまもと、儒者/詩人) J 4 9 7 2  
信近(しんきん・上村) → 信近(のぶちか・上村うえむら、国学/歌人) H 3 5 4 8  
信近(しんきん・小比賀) → 信近(のぶちか・小比賀おびが、神職) H 3 5 6 1  
信近(しんきん・菊池) → 信近(のぶちか・菊池きくち/大塚、国学者) I 3 5 1 8  
信均(しんきん・竹内) → 自安(じあん・竹内たけうち、藩士/歌人) Z 2 1 3 2  
信均(しんきん・竹内) → 信均(のぶひら・竹内たけうち、藩家老/歌人) J 3 5 0 1  
神琴(しんきん・佐藤) → 清臣(きよおみ・佐藤/高橋/大関、国学) O 1 6 6 6  
晋吟(しんきん・深川) → 湖十(4世こじゅう・深川、俳人) C 1 9 8 5  
真金(しんきん) すべて → 真金(まがね)  
眞琴(しんきん) すべて → 眞琴(まこと)

N2292 眞矩(しんく・内藤ないとう) 1796- 187075 備中倉敷の油商人/和算;1825大阪の武田眞元門、  
師の一字を得て眞矩に改名、倉敷で教授、「和算研究集録」、1856「查表算」「論查表算」、  
[眞矩(;名)の通称/号]通称;定次郎、号;穿窓軒/穿窓軒老人

親矩(しんく・本阿弥) → 光山(こうざん・本阿弥ほんあみ、鑑定家) J 1 9 2 2  
親具(しんぐ・高倉/水無瀬/堀川) → 親具(ちかとも・水無瀬/堀川/高倉、廷臣) B 2 8 3 2  
真愚(しんぐ;号) → 西胤(せいいん;道号・俊承;法諱、臨濟僧) L 2 4 5 2

D2282 信空(しんくう;法諱・法蓮坊;号、葉室行隆男) 1146-122883 平安末鎌倉期天台僧;  
1157比叡山黒谷の叡空門;出家、法然房源空と法兄弟/のち浄土教修学:源空門、  
1204源空「七箇条制誠」執筆役、源空遠流後は門下の長老として教団を守る;白川門徒の祖、  
白川禅房内の松林房に没、信瑞・明禅・湛空の師、1204「七箇条制誠」著、

歌人;新後拾遺(661)新統古(1320)

[待ちわぶる山時鳥人づてに聞くばかりこそ初音なりけり](新後拾;雑春661)、

[信空(法諱)の字/通称]字;称弁、通称;白川上人

- N2293 **真空**(しんくう/しんぐう;法諱、俗名;藤原定兼、藤原定観[定親]男)1204-6865 京の三論・律宗・真言僧、東大寺東南院で三論を修学;貞禅・定舜門/20歳で受戒、醍醐寺行賢門;両部灌頂を受、真言密教学を究める/1237覚盛より満分戒を受/1243より山城木幡観音院住;戒律を論ず、聖一国師(円爾)に参禅;[宗鏡録]を聴聞/高野山金剛三昧院住、三論・律・真言・浄土に精通、北条政子帰依により京の大通寺を開山、1267鎌倉無量寿院席;同所に没、  
[真空(法諱)の字/号/通称]字;廻心、号;中観、通称;木幡上人、
- D2283 **信空**(しんくう;法諱、慈道;字、諡号;慈眞和尚)1231-131686 大和西大寺真言律宗僧;1242叡尊門;出家/師の般若寺再興を支援、師の大御輪寺移住に随従;その上首となる、1290師叡尊没後に西大寺を継嗣、後宇多天皇に具足戒を授/談天門院忠子に戒を授、1306讃岐鷲峰山で比丘衆60余人に梵網布薩を修す、定泉・定盛の師、  
[金光明経聴聞抄]「梵網経古迹補忘抄」著
- D2284 **心空**(しんくう) ? - ? 藤家流朗詠家;栄賢門、1265朗詠譜本「朗詠要抄」(栄賢・心空撰);栄賢が筑波山麓で秘曲35首を心空に伝授し、心空がさらに6首を増補し41首とす、1265これを豪愉(因空)に伝授;さらに1309頃普一に相伝される
- D2285 **心空**(真空しんくう;法諱)1319-1401 南北期天台僧;播磨書写山円教寺入、洛東の東元寺・善法寺に移住、法華経の篤信者;法華経訓点を付す/能く講ず、注釈書:1365-70「法華経音義」1386「法華経音訓」、「声経詮要抄」著
- N2294 **真空**(しんくう;道号・妙応みょうおう;法諱)?-1351 南北期陸奥塩松の臨済僧;那須雲巖寺高峰顕日門、山城建仁寺典座/雲巖寺の乗炬師、下野宇都宮興禅寺を開山、下野守護宇都宮貞綱の保護、  
[行実録]「常寂塔記」「建長寺縁起」著
- |             |   |                      |           |
|-------------|---|----------------------|-----------|
| 心空(しんくう;法諱) | → | 存海(ぞんかい;法諱・心空、天台僧)   | F 2 5 2 5 |
| 真空(しんくう;字)  | → | 如円(にょえん;法諱、真宗僧/歌人)   | F 3 3 8 3 |
| 真空(しんくう・野呂) | → | 天然(てんぜん・野呂のろ、医者)     | D 3 0 9 8 |
| 真空(しんくう・児玉) | → | 卜胤(ぼくいん・児玉こたま、神職/俳人) | C 3 9 8 9 |
- N2295 **仮宮**(かみやう) ? - ? 陸前仙台の俳人;1783維駒「五車反古ごしゃほんぐ」1句入、  
[凍る夜や地より蹴放けはなす馬盥うまだらひ](五車反古;巻尾462/馬が蹴放す)
- |               |   |                        |           |
|---------------|---|------------------------|-----------|
| 心空庵(しんくうあん)   | → | 数也(すうや・平尾、茶道)          | F 2 3 3 2 |
| 心空華院(しんくうげいん) | → | 兼照(かねひろ・鷹司たかつかき、関白/歌人) | D 1 5 0 2 |
- D2286 **神功皇后**(じんぐうこうごう、息長帯日売[気長足姫]おきながたらしひめ命、息長宿禰王女)?-? 仲哀天皇皇后、記紀歌謡詠者、伝説人物/熊襲平定に天皇と西征、香椎宮で天皇崩御後男装し新羅遠征;凱旋し筑紫で応神天皇を出産;のち摂政、酒坐(さくら)の歌(建内宿禰と唱和)など
- |                  |   |                            |           |
|------------------|---|----------------------------|-----------|
| 真空禅師(しんくうぜんじ;諡号) | → | 妙融(みょうゆう;法諱・無著むぢやく;道号、曹洞僧) | G 4 1 6 9 |
| 真空大師(しんくうだいし)    | → | 愿元(いんげん・隆琦、日本黄檗宗祖)         | C 1 1 0 3 |
| 真空堂(しんくうどう)      | → | 真元(しんげん・武田、暦算家)            | O 2 2 2 3 |
| 新宮十郎(しんぐうのじゅうろう) | → | 行家(ゆきいえ・源、武将)              | E 4 6 2 9 |
| 真空坊(しんくうぼう;号)    | → | 松後(しょうご・佐々木、町役人/俳人)        | C 2 2 8 4 |
- N2296 **新九郎**(しんくろう・豊島てしま、名;是理)?-? 江初期金沢藩士、砲術豊島流の祖、1621「砲術秘伝書」著
- D2287 **新九郎**(初世しんくろう・中山なかやま)1702-7574 江中期歌舞伎役者、初世文七(松屋来助男)の養父
- |                  |   |                       |           |
|------------------|---|-----------------------|-----------|
| 新九郎(2世しんくろう・中山)  | → | 来助(初世いすけ・中山、歌舞伎役者)    | 4 8 7 0   |
| 新九郎(しんくろう・伊勢)    | → | 早雲(そうん・北条/伊勢、武将/城主)   | G 2 5 0 6 |
| 新九郎(しんくろう・北条)    | → | 氏綱(うじやす・北条、早雲男武将/城主)  | B 1 2 7 0 |
| 新九郎(しんくろう・北条)    | → | 氏康(うじやす・北条、氏綱男/城主/歌)  | 1 2 5 5   |
| 新九郎(しんくろう・西村/松波) | → | 道三(どうさん・斎藤、戦国武将/領主)   | E 3 1 6 8 |
| 新九郎(しんくろう・阿蘇)    | → | 玄与(げんよ・阿蘇あそ/宇治、武将/歌人) | D 1 8 2 3 |

新九郎(しんくろう・田丸) → 直職(なおと・田丸、幕臣) C 3 2 7 3  
 新九郎(しんくろう・松平) → 頼常(よりつね・松平/徳川、藩主/学問) J 4 7 0 8  
 新九郎(しんくろう・佐善) → 雪溪(せつせい・佐善/源/佐竹、儒者) E 2 4 1 6  
 新九郎(しんくろう・津田) → 龜山(きざん・五車亭、幕臣/狂歌) K 1 6 6 0  
 新九郎(しんくろう・高橋/近藤) → 篤山(とくざん・近藤、儒/詩歌/教育) K 3 1 7 7  
 新九郎(しんくろう・庵原) → 守富(もりとみ・庵原いおはら、藩士/日記) F 4 4 9 9  
 新九郎(しんくろう・桜井) → 雪館(せつかん・桜井、刀剣師/俳人;梅室父) E 2 4 1 0  
 新九郎(しんくろう・丸山) → 霞江(霞紅かこう・丸山まるやま、俳人) L 1 5 5 9  
 新九郎(しんくろう・若林) → 友之(ともゆき・若林わかばやし、藩士/砲術) Q 3 1 8 3  
 新九郎(しんくろう・佐藤) → 立軒(りっけん・佐藤さとう、儒者) B 4 9 7 6  
 新九郎(しんくろう・大黒屋) → 梅成(うめなり・中井なかい、商家/歌人) E 1 2 3 9  
 新九郎(しんくろう・網屋) → 利愛(としちか・南条なんじょう、商家/国学) V 3 1 9 9  
 新九郎(しんくろう・青柳) → 孝利(たかし・青柳あおやぎ、幕臣/歌人) V 2 6 0 5  
 新九郎(しんくろう・越智) → 通輔(みちすけ・越智おち、藩士/歌人) I 4 1 3 1  
 信九郎(しんくろう・神村) → 忠貞(たださだ・神村/鈴木、故実/神道) P 2 6 4 8  
 進九郎(しんくろう・長尾) → 鳳翔(ほうしょう・長尾ながお、儒者) B 3 9 7 2  
 甚九郎(じんくろう・脇坂) → 安信(やすのぶ・脇坂わさきか、武将/歌人) C 4 5 5 3  
 甚九郎(じんくろう・野口) → 直勝(なおかつ・野口、国学/詩歌) B 3 2 0 4  
 甚九郎(じんくろう・山路) → 重固(しげかた・山路やまじ、藩士/歌人) Q 2 1 7 7  
 新蔵人(しんくろうど・石井) → 樟斎(しょうさい・石井いひ、儒者/書家) I 2 2 9 8  
 心華(しんげ:道号・元棣) → 元棣(げんてい:法諱・心華、臨濟僧) C 1 8 7 7

D2288 晋卿(しんけい・袁えん) ? - ? 奈良期渡来の盛唐の音韻学者、  
 735(天平7/18-19歳)帰国する遣唐使に伴われ渡来;漢音の研究;767大学の音博士となる、  
 「文選・爾雅」の音を伝授/378浄村きよむらの宿禰を賜姓、日向守/玄蕃頭/大学頭/安房守を歴任、  
 漢音の普及に尽力

D2289 眞恵(しんけい、沙弥) ? - ? 鎌倉期僧/歌人:  
 1266「初春同詠祝言和詞」;頼清・玄覚らと入集([懐紙巻かいしかん]所収)

N2297 信敬(しんけい:法諱) ? - ? 僧侶/連歌作者、菟玖波集1句入、  
 [言はぬ心も神や知るらむ](菟玖波;神祇605/前句;祝子かくちなし染の袖垂れて)

2221 心敬(しんけい;名) 1406 - 1475 70 紀伊名草郡田井庄の生;1408(3歳)で上京;僧、  
 聖護院入室/十住心院住、のち権大僧都に至る、古典/歌;正徹門、連歌界で活躍;師不詳、  
 1434「北野万句」(連海法師)/43「熊野千句」参加/47「何人百韻」参(親当の発句に名脇句)、  
 1451(46歳)心恵を心敬に改名/権律師;聖護院十住心院主、53「小鴨おがも千句」参加、  
 1457「武家歌合」判、1463土一揆により寺荒廃;伊勢に赴く;1463論書「ささめごと」著、  
 帰京時には先輩師匠が没し能阿を凌ぐ/管領武家連歌に宗匠格;熊野法楽千句など、  
 1466「心玉集」編、応仁乱(1467-)直前に京を出て伊勢神宮法楽を試みその後武蔵品川住、  
 白河の古蹟を行脚/門弟宗祇と邂逅/歌の師正徹追善百首詠/1470河越千句/74江戸歌合参、  
 連歌論書;「ひとりごと」「十体和歌」「老のくりこと」、「玉連集」「馬上集」「自句自注」、  
 「私用抄」外著多数、関東の門弟多数、品川草庵も騒乱;1471(66歳)相模大山に隠棲;1475没、  
 百韻多数/新撰菟玖波集124句入、  
 [芝生がくれの秋の沢水](文安4年8月何人百韻脇句)、  
 (発句;名も知らぬ小草花咲く河辺哉/蜷川親当ちかまさ)、  
 [月にちる花はこの世の物ならで](新撰菟玖波/前句;夢うつゝともわかぬあけぼの)、  
 [心敬(;名)の別名/号]別名;心恵(;初名)/心教、号;蓮海坊/連海法師

E2284 親継(しんけい・町田まちだ) ? - ? 越後新潟の俳人、1690言水「新撰都曲」4句入、  
 [墨染めの桜は白し昼ひの形すがた](都曲;下297/京深草のかの墨染桜も昼は白いよ)、  
 (基経の死に上野岑雄の古今歌;深草の野辺の桜し心あらば今年ばかりは墨染に咲け)

D2290 信敬(しんけい) ? - ? 俳人・信徳門、1694信徳「雛形」入

N2298 心桂(しんけい;号) ? - ? 江前期京の俳人、  
 1694「名月集」編、1702轍士「花見車」入(;[取売]とあり売買の仲介をしていたか)、

[またゆるぐ鳥からすがあとの柳哉](花見車;35)

- D2291 **心計**(しんけい・矢野やの) ? - ? 江前期上方の俳人、1678西鶴「物種集」入、  
[訴状書とうてもあけん鳥賊幟](物種集/前句;堪忍ならぬ今の風の手)
- N2299 **眞慶**(しんけい:法諱) ? - ? 1763存 天台宗比叡山法曼院住僧/擬講/大僧都、  
梶井宮常仁親王の師、「万部結願法則」「万部中間八日法用」「爾前一心三観四重難」外著多
- 02200 **眞卿**(しんけい・小田おた/修姓;田)?-? 江後期寛政1789-1801頃大坂順慶町の儒者、  
「韵鏡一家言」著、[眞卿(;字)の別字/号]別字;淳夫、号;蘆州/貞庵
- 02201 **親卿**(しんけい;号・荻洲おぎす、名;因)?-? 江後期三河岡崎の儒者、  
1790・91琉球使節の往復路に岡崎で応酬の詩;「萍水奇賞」編纂(1791刊)
- 02202 **審卿**(しんけい・井野いの、名;好問、初姓;村瀬) 1816-7257 井野家の養嗣;伊勢津藩士/儒;斎藤拙堂門、  
書家;横田半溪門、藤堂高猷に出仕、1851「五体便覧」編、  
[審卿(;字?)の通称/号]通称;清左衛門、号;勿齋ぶっさい
- 02203 **萃卿**(しんけい;号・渡辺わたなべ)?- ? 江後期備中下道郡久代村の篤学者、  
室鳩巢「六論衍義」に倣い1845修身書「六のさとし」著

心恵(しんけい;初名)	→	心敬(しんけい、歌/連歌)	2 2 2 1
心卿(しんけい・牧)	→	義制(よしまさ・牧まき/堀、幕臣/歌人)	H 4 7 1 6
辰敬(しんけい・多胡)	→	辰敬(ときたか・多胡たご、武将/家訓)	J 3 1 2 0
晋溪(しんけい)	→	呂蛤(ろこう・西村にしむら、俳人)	B 5 2 4 6
晨卿(しんけい・小泉)	→	蒼軒(そうけん・小泉こいずみ、地誌/測量家)	H 2 5 0 8
信兄(しんけい・池田)	→	信兄(のぶえ・池田いけだ、藩士/歌人)	H 3 5 3 1
信圭(しんけい/のぶたか・武市)	→	蓼花(りょうか・太田/武市、藩士/俳人)	G 4 9 6 7
信経(しんけい・二渡)	→	信経(のぶつね・二渡ふたわたり、歌人)	J 3 5 9 1
信敬(しんけい・中嶋)	→	信敬(のぶのり・中嶋、幕臣/文筆)	C 3 5 7 6
信敬(しんけい・河)	→	独笑庵(どくしょうあん、俳人)	L 3 1 0 4
信敬(しんけい・中条)	→	信敬(のぶゆき・中条ちゅうじょう、幕臣/高家)	D 3 5 6 8
信敬(しんけい・富田/林)	→	錦峰(きんぼう・林やはし、幕府儒官)	I 1 6 2 4
信敬(しんけい/のぶのり・南部)	→	利敬(としのり・南部なんぶ、藩主)	N 3 1 3 6
信敬(しんけい・田中)	→	信謹(さねもり・田中/若林、儒者/医)	L 2 0 4 4
信敬(しんけい・上月)	→	専庵(せんあん・上月こうつき、医者/詩賦)	L 2 4 5 0
信敬(しんけい・今村)	→	真幸(まさき・今村/北原/源、国学者)	C 4 0 2 8
信敬(しんけい・西島)	→	信敬(のぶあき・西島にしじま、商家/歌人)	J 3 5 5 0
信敬(しんけい・木村)	→	茂栄(しげひで・木村きむら、国学/歌人)	O 2 1 1 9
信敬(しんけい・上月)	→	信敬(のぶたか・上月こうつき、儒/神道)	I 3 5 4 7
信慶(しんきょう:法諱)	→	信慶(しんきょう:法諱、僧/歌人)	D 2 2 8 0
信慶(しんけい;法名)	→	直氏(なおらじ・土岐とき、武将/幕臣/歌)	3 2 7 1
信慶(しんけい・中西)	→	信慶(のぶよし・中西/秦、神道/国学)	D 3 5 8 4
信慶(しんけい・末広)	→	雲華(うんげ・大含、真宗大谷派僧)	B 1 2 0 7
信景(しんけい/のぶかげ・遠山/北条)	→	国隆(くにたか・福島くしま、幕臣/軍学)	C 1 7 8 1
信景(しんけい・天野)	→	信景(さだかげ・天野あまの、藩士/国学者)	2 0 1 8
信卿(しんけい・菅波/菅)	→	恥庵(ちあん・菅/菅波、儒者/詩文)	2 8 3 7
信卿(しんけい・宇井)	→	黙斎(もくさい・宇井うい/丸子、儒者)	4 4 8 1
信卿(しんけい・松村)	→	芳洲(ほうしゅう・松村、藩士/儒者/詩人)	B 3 9 3 9
信卿(しんけい・菅)	→	晋室(しんぼう・菅かん/菅波、茶山弟/儒/詩)	2 2 7 9
信卿(しんけい・宮崎)	→	栗軒(りっけん・宮崎みやざき、幕臣/儒者)	B 4 9 7 5
信卿(しんけい・岩井)	→	孚(まこと・岩井いわい、和算家)	C 4 0 9 5
信卿(しんけい・寺門)	→	先行(せんこう・寺門てらかど、藩士/儒者)	M 2 4 2 7
新卿(しんけい・黒沢)	→	雉岡(ちこう・黒沢、儒者)	E 2 8 1 4
信圭(しんけい→のぶかど・佐藤)	→	泰然(たいぜん・佐藤、医者)	K 2 6 4 8
眞卿(しんけい・安野)	→	南岳(なんがく・安野やすの、儒者/詩文)	I 3 2 7 6
眞卿(しんけい・清水)	→	淵臣(ふちおみ・古松ふるまつ/清水、歌人)	D 3 8 2 0



眞卿(しんけい・恒遠) → 醒窓(せいそう・恒遠つねとお、儒者/詩) C 2 4 5 0  
 眞卿(しんけい・原田) → 優游(ゆうゆう・原田はらだ、医者/詩文) D 4 6 9 4  
 眞継(しんけい・大中臣) → 眞継(まつぎ・大中臣/神職) D 4 0 8 1  
 眞継(しんけい・矢田部) → 眞継(まつぎ・矢田部やたべ、廷臣) D 4 0 8 2  
 眞継(しんけい・大橋) → 眞嗣(眞継まつぐ・大橋おおはし、歌人) J 4 0 7 0  
 眞詣(しんけい;法諱) → 亮潤(りょうにん;法諱、天台僧/大僧正) J 4 9 1 8  
 眞契(しんけい) → 愛石(あいせき・松井まつい、黄檗僧/絵師) I 1 0 2 8  
 眞桂(しんけい・桂川) → 国寧(くにやす・桂川/6世、蘭医) D 1 7 3 1  
 親兄(しんけい・永野) → 親兄(ちかしげ・永野ながの/源、大庄屋) N 2 8 2 1  
 親敬(しんけい・鈴木) → 親敬(ちかのり・鈴木、藩士/史家/歌人) B 2 8 6 3  
 親敬(しんけい・鈴木) → 一嘯(2世いっしょう・所縁亭、華道家) H 1 1 3 6  
 親敬(しんけい・田中) → 雪麿(ゆきまろ・墨川亭、藩士/絵師/戯作) 4 6 1 1  
 親経(しんけい・藤原) → 親経(ちかつね・藤原、廷臣/詩文) B 2 8 2 3  
 親馨(しんけい・坂内/三浦) → 親馨(ちかか・三浦/坂内、儒者;藤樹学) 2 8 6 6  
 親景(しんけい・安部) → 親景(ちかかげ・安部あべ、鎌倉幕臣) 2 8 6 7  
 親継(しんけい・藤原) → 親継(ちかつぐ・藤原ふじわら、廷臣/歌人) B 2 8 1 9  
 親卿(しんけい・関根) → 趙斎(ちようさい・関根せきね、書家/歌人) I 2 8 3 9  
 親卿(しんけい・黒瀬) → 正親(まさちか・黒瀬くろせ/秦、神職/絵師) P 4 0 5 4  
 深慶(しんけい;字) → 秀翁(しゅうおう;法諱・深慶;字、真言僧) W 2 1 7 3

W2204 信芸(しんげい;法諱) ? - ? 平安鎌倉期;南都興福寺の僧/法師、  
 1237刊[檜葉集]6首入、

[律師尊海月次の歌よみ侍りけるに 雪を、

ふみわけているとしならばみよしののふる里ちかし山のしらゆき] (檜葉;冬336)

02204 信藝(しんげい・大鳥居おとりい/角大鳥居/本姓;菅原)?-? 筑後の社僧;水田天満宮の祠官、  
 連歌作者;京で百韻興行;1565(永禄8)紹巴・昌叱・心前らと「何木百韻」、  
 [信藝(;名)の通称] 正佐坊

02205 信問(しんげい;法諱、俗姓;中山) 1755-1820 66 尾張大成の浄土僧;伊勢山田梅香院響誉門;出家、  
 江戸芝増上寺で修学/1790近江金勝阿弥陀寺入寺/伏見誓願時移住/松阪清光寺に住、  
 清光寺で20余年教化に尽力、浄土宗典籍の校訂に尽力、「蔵経鑑便覧」「聖光上人道蹟」著、  
 1794「近江金勝山阿弥陀寺三僧略伝」著/96「念仏仮名法語」編/1803「筑紫法語集」編、  
 [信問(;法諱)の法名] 白蓮社微誉・喚阿

02206 秦問(しんげい;法諱・白純;字) 1793-1858 66 阿波徳島の浄土僧;浄智寺で出家、  
 京の知恩院山内心源院に住/嵯峨立道より浄土宗学修学/一心院煇麟(かいらん)より性相学修学、  
 江戸増上寺で修学;月行事を経て主学席/1841結城弘経寺住職/46飯沼弘経寺住職、  
 唯識学・儒学に通ず、詩人;頼山陽・菊池五山と交流、1848「詠物詩」著、  
 [秦問(;法諱)の法名/号]法名;百蓮社笑誉・唯阿、号;拈華/梅癡道人

眞藝(しんげい) → 藝阿弥(げいあみ、水墨画/連歌) 1 8 3 1

02207 尋継(じんけい;法諱) ? - ? 僧侶;法師/歌人、1439成立「新続古今集」1624  
 [色も香も忘れし墨の衣手に何ぞはにほふ梅の下風] (新続古;雑1624/隠遁後の梅薫袖)

眞瓊園(しんけいえん) → 隆正(たかまさ・大国/山本/野之口/今井、国学/歌) 2 6 1 7

眞瓊舎(しんけいしゃ) → 愛種(ちかたね・中園なかぞの/大蔵、国学者) B 2 8 1 8

葦溪主人(じんけいしゅじん) → 浩然(こうねん・坂本、医/本草/絵師) K 1 9 9 0

02208 眞敬親王(しんけいしんのう、俗称;常淳/富宮、後水尾天皇皇子) 1649-1706 58 母;新広義門院基子、  
 生後直ちに奈良興福寺一乗院入室/1658親王宣下;常淳名、1659一乗院尊覚門;得度、  
 1665興福寺別当/清水寺別当、二品、詩文・書、絵画;狩野常信門;父天皇の画像/自画像など、  
 1678-1701「入道眞敬親王御日記」92「唯識三十頌錦花」93「東大寺大仏開眼供養」著、  
 「一乗院寺務職争論日記」著、  
 [眞敬親王(;法諱)の別法諱/字/通称]初法諱;信敬、字;正覚、通称;一乗院宮、  
 諡号;三菩提院

神敬霊神(しんけいれいしん) → 兼茂(かねしげ・ト部うらべ、神職) O 1 5 5 1

- 信解院(しんげいん) → 日久(にちきゅう;法諱・智俊、日蓮僧) B 3 3 2 3  
 信解院(しんげいん) → 日從(にちじゅう;法諱・通心、日蓮僧) C 3 3 1 8  
 心華元棣(しんげんてい) → 元棣(げんてい・心華、室町期臨濟僧) C 1 8 7 7  
 心華光院(しんげこういん) → 益子内親王(えきしなないしんのう、歌人) D 1 3 6 5  
 心華室(しんげしつ) → 月潭(げつたん;号・道澄、黄檗僧) H 1 8 2 2
- V2237 森月(しんげつ・森野もりの、通称;吉平) 1839-1904<sup>66</sup> 近江愛知郡の酒造業、歌道;大泉歌寿彦がずひに門、  
 国学者、歌;[鳥のうみ]入  
 心月(しんげつ・細川) → 晴元(はるもと・細川、武将/連歌) H 3 6 0 0  
 心月(しんげつ・墨江) → 武禪(ぶぜん・墨江すみのえ、絵師) D 3 8 1 2  
 心月庵(しんげつあん・松浦) → 詮(あきら・松浦まつら、藩主/書/茶人) I 1 0 4 4  
 新月庵(しんげつあん) → 兼亮(かねすけ・吉田よしだ/藤原、浪士;討入) W 1 5 1 4  
 新月庵(しんげつあん・嵐亭) → 富屋(ふおく・潤うるつ、俳人) B 3 8 2 5  
 新月庵(2世しんげつあん・2世嵐亭) → 奚疑(けいぎ、富屋門俳人) 1 8 4 3  
 深月庵(しんげつあん) → 祇丞(ぎじょう・三上みかみ、札差/俳人) B 1 6 2 7  
 心月院(しんげついん) → 勝喜(かつよし・板倉、藩主) N 1 5 9 9
- L2288 新月組(しんげつぐみ) ?- ? 江中下期下総?;佐原の雑俳の組連、  
 取次;1757「菊丈評万句合」入、  
 取次例;[念頃ねんごろは老人ひとりを乗せるわたし守](前句;ぶらりぶらりと々々)、  
 (念頃は親友/人数が集まり舟を出す親友なら一人でもゆっくり漕ぎ出す)  
 心月亭(しんげつてい) → 孝賀(こうが・心月亭、歌人) H 1 9 8 1  
 真月堂(しんげつどう) → 延貞(のぶさだ・明星あかばし、商家/歌人) H 3 5 1 1  
 心月房(しんげつぼう) → 定嗣(さだつぐ・葉室/藤原、廷臣/歌人) C 2 0 0 3
- V2269 信憲(しんけん;法諱) ?- ? 平安鎌倉期;興福寺僧/権僧正、貞慶・増弁の法脈、  
 山階寺別当/建久1190-99頃宝積院で卅講を催行(続古今集795入)、歌人;檜葉集入  
 [ほととぎすねざめのとこの一こゑはうつつも夢のここちこそすれ](檜葉;夏128)
- V2299 審懸(しんけん;法諱) ?- ? 平安鎌倉期;南都の法師、  
 歌人;1237刊素俊撰[檜葉集]2首入、  
 [月前の菊花、  
 いづれをかわきてながめむ白菊のはなのうへなる秋の夜の月](檜葉;秋270)
- D2292 深賢(しんけん/じんけん;法諱) ?- 1261 真言僧;金剛王院聖賢門;灌頂を受、  
 1215成賢門;灌頂を受/1236成賢門道教没時に大法秘法密訣を受;1239これを親快に授、  
 醍醐寺地蔵院建立;開祖/地蔵院流深賢方の祖、1198「求聞持私記」1215「後日御修法私記」、  
 1231「実帰鈔」、「五大虚空蔵記」「秘鏡鈔」「普賢延命記」外著多数、書状に平家八帖本の記述、  
 [深賢(;法諱)の字/通称]字;浄林/静林/乘琳(じょうりん、通称;按察法印/地蔵院法印
- 02209 信堅(しんけん;法諱・円智;字) 1259-1322<sup>64</sup> 紀伊名草郡神宮の真言僧;兄高野山大楽院信日門、  
 1305龜山上皇のため「釈摩訶衍論」講ず、高野八傑の1、高野山西大楽院に没、  
 1308「釈摩訶衍論私記」、「高野山興廢記」「高野山勸発信心集」「野山記」「大日経縁起」外著多
- 02210 信顕(しんけん・大鳥居おとりい/本姓;菅原) ?-? 1459<sup>存</sup> 南北期筑前太宰府の社僧、  
 1448大内教弘より筑前太宰府安楽寺天満宮大鳥居職安堵状を受ける;56天満宮留守職、  
 1459(長禄3)「安楽寺草創日記」著
- 02211 信兼(しんけん・大鳥居おとりい/本姓;菅原、御供屋信朔2男) 1629-1721<sup>長寿93</sup> 大鳥居信助しんじよの養子、  
 社僧;1643(寛永20)家督嗣;筑前太宰府天満宮司務別当別当、大法師、  
 黒田忠之・光之・綱政3代に出仕、福岡城正月5月9月連歌会に出勤、万句・千句連歌を興行、  
 1647万句/1660-御城御会百韻参加、信賀らと百韻多数興行;1662~1694百韻30余回、  
 [信兼(;名)の通称]竹松/竹助
- D2293 晋軒(しんけん・林はやし、名;憲/勝澄、読耕斎男) 1654-76<sup>早世23</sup> 母;伊藤友玄女、  
 幕府儒官;1661家督嗣、1669伯父鷲峰のもとで「本朝通鑑」編纂参加、1669「読耕斎全集」編、  
 「晋軒文集」「梧右録」「稽古録」「拾葉録」「雋水しゅんすい録」「鍾美録」「語録」著、  
 [晋軒(;号)の幼名/字/通称/別号]幼名;又助、字;章卿/子章、通称;右近/春東、別号;洗林
- 02212 眞賢(しんけん;法諱、俗姓;島岡) ?-1712 大和初瀬の真言僧;高野山東室の快賢門、

上京1684-88頃補陀落院住、のち荒廢した撰津生玉南之坊再興、1659「科註般若心經秘鍵」、1684「父母恩重經罔極鈔」88「守倫科註普門品円通記」1711「天台四教儀集解文林」外著多数

- 02213 **信憲**(しんけん;名・立木たつき、通称;新助)1741-1824<sup>84</sup> 阿波板野郡藍住町矢上の儒者; 医者立木道張より苗字を受、上京し修学、1785阿波徳島藩儒、1786「箏曲考」著
- 02214 **信賢**(しんけん・大鳥居おとりい/本姓;菅原、高辻家長8男)1759-1826<sup>68</sup> 母;家長の側室増井、大鳥井信貫の養子/1768剃髪得度/社僧;筑前太宰府天満宮司務別当を継承/1773法眼、権少僧都、比叡山で修行;阿闍梨位を受/1777帰国;聖廟八百五十年神忌を勤行、1780延寿王院住/85権大僧都;法印、歌;閑院美仁親王門/連歌;里村昌逸門、蹴鞠;飛鳥井雅威・難波宗城門、1806隠棲;盈仁親王より院号を受、「東武花洛行」著、「無凝滞院日記」著、信恭信純らと百韻多数;1733~1805百韻20回以上興行、[信賢(;名)の字/通称/号]字;豪運、通称;兵部卿/哲、号;琴山/大嶽/桜塙おろ閑人/無凝滞院
- 02215 **榛軒**(しんけん・井沢いざわ、名;信厚、蘭軒長男)1804-52<sup>49</sup> 医者;松崎慊堂こうどう・狩谷椽斎えきさい門、備後福山藩医;父蘭軒を継嗣、1845將軍家慶に謁見;御目見医師となる、妻;勇/後妻;志保、「湘陽紀行」「榛軒詩存」著/「千金方記聞」編、1831「林園月令」校訂/52「榛軒臨終記抄」、棠軒の養父、門弟;清川安策・柴田常庵など、[榛軒(;号)の幼名/字/通称]幼名;棠助、字;朴甫、通称;良安/一安/長安
- |                  |   |                          |           |
|------------------|---|--------------------------|-----------|
| 信賢(しんけん・山高)      | → | 信賢(のぶかた・山高やまたか、幕臣/歌人)    | K 3 5 2 9 |
| 親賢(しんけん・宮増)      | → | 親賢(ちかかた・宮増みやます、能楽師)      | 2 8 7 0   |
| 親賢(しんけん・草加)      | → | 驪川(りせん・草加くさか、儒者)         | B 4 9 3 8 |
| 親賢(しんけん・大久保)     | → | 要(かなめ・大久保おおくぼ、藩士/兵学)     | O 1 5 3 3 |
| 親賢(しんけん・堀)       | → | 親賢(ちかかた・堀ほり、藩主/古典/俳諧)    | N 2 8 4 6 |
| 親賢(しんけん・高崎)      | → | 親義(ちかよし・高崎、藩士/国学/歌)      | C 2 8 2 3 |
| 親賢(しんけん・大林)      | → | 親賢(ちかかた・大林おおばやし/藤原、歌人)   | L 2 8 5 3 |
| 親頭(しんけん・中院/北島)   | → | 親頭(ちかあき・北島きたばたけ、廷臣)      | 2 8 5 4   |
| 親頭(しんけん・今大路/曲直瀬) | → | 親頭(ちかあき・今大路いまおおじ、幕府医)    | 2 8 5 5   |
| 親兼(しんけん・水無瀬)     | → | 親兼(ちかかね・水無瀬みなせ/藤原、廷臣)    | 2 8 7 4   |
| 親兼(しんけん・源)       | → | 親兼(ちかかね/ちかかね・源、官人/連歌)    | 2 8 7 5   |
| 親憲(しんけん・源)       | → | 親憲(ちかのり・源みなもと、廷臣/歌人)     | N 2 8 8 6 |
| 慎憲(しんけん・熊谷)      | → | 玄随(げんずい・熊谷くまがい、本草家)      | K 1 8 3 2 |
| 慎憲(しんけん・目加田)     | → | 慎憲(ちかのり・目加田[多]めかた、藩士/国学) | N 2 8 6 6 |
| 慎軒(しんけん・甲斐)      | → | 隆義(たかよし・甲斐かい、和算家)        | N 2 6 7 8 |
| 震軒(しんけん・向井)      | → | 元端(げんたん・向井、医/俳人)         | F 1 8 0 2 |
| 真建(しんけん・菊池)      | → | 真建(まさたけ・菊池きくち、神職/国学)     | P 4 0 2 3 |
| 眞堅(しんけん・渡辺/石井)   | → | 屋烏(おくう・渡辺/石井、藩士/俳人)      | B 1 4 4 6 |
- D2294 **眞源**(しんげん;法諱) 1064 - 1136or3773-74 平安後期天台僧;覚超六代の法孫、比叡山僧、叡山東塔南谷に住/法橋/律師、仁和寺恵什・東寺杲宝ら東密の徒の最澄血脈非難に反駁、1109「天台遮那経業破邪辨正記」、「自行念仏私記」/1114歌謡「順次往生講式」外著多数、[眞源(;法諱)の号] 勝陽房/松養坊/証揚房/葉雋やくしゆん
- W2203 **審玄**(しんげん;法諱、) ? - ? 平安鎌倉期;南都の僧/法師、歌人;1237刊[檜葉集]2首入、[一夜のうちに百首よみ侍りけるに 冬歌、あしがものはがひの霜やかさぬらむなにはの浦に月のさえゆく](檜葉;冬325)
- 02216 **親玄**(しんげん;法諱、大納言久我通忠男)1249-1322<sup>74</sup> 真言僧;幼時に醍醐寺覚洞院親快門;出家、1272親快より伝法灌頂を受/1276師の跡を継嗣;地藏院住/1298醍醐寺座主;1303再補、1306大僧正/東寺長者法務、地藏院流親玄方の祖、「灌頂記」「諸尊鈔」「諸尊護摩」、1272「伝法灌頂私記」74「伝法灌頂雑記」92-94「親玄僧正日記」、「愚按訣」「愚問決」外著多数、[親玄(;法諱)の通称] 地藏院僧正/内大臣僧正
- D2295 **親源**(しんげん;法諱・檀那院大僧正、北島[源]雅家男)?-? 天台僧;1322天台座主;109代、大僧正、檀那坊に住、歌人、勅撰3首;続千載(1002)続後拾遺(1291)新千載(164)、

[めぐりあふ契もうれしときおける法の車の跡たえぬ世に](続千載; 釈教1002)

- 02217 **深源**(しんげん; 法諱) ? - ? 南北期僧; 法印/北野奉行、  
歌人: 1364/5成立「一万首作者」入、新拾遺1410、玉葉集の法印源深とは別人?、  
[後の世も此の世も神にまかするやおろかなる身の頼みなるらん](新拾; 十六神祇1410)
- D2297 **心源**(しんげん; 法諱) ? - ? 1403存 南北室町期天台僧; 比叡山の心栄門、  
俊範の「一帖鈔」を相伝、のち関東の金鑽山第二代学頭に就任/権大僧都; 法印、豪尊の師、  
「心源発明抄」「心要雑和集」「論文肝心集」「宗要集私抄」/1403「心源抄塔中口授」外著多数
- D2298 **信玄**(しんげん・武田たけだ、名; 晴信はるのぶ、信虎男/本姓; 源) 1521-7353 武将/甲斐守護家の生、  
1546父を今川義元の許へ追放; 甲斐守護の当主/大膳大夫/信濃守、近隣併合; 謙信と対決、  
領国支配のため法体系整備・軍団編成・経済治水対策を実施、1557出家; 入道/軍陣を指揮、  
1566大僧正、1572家康・信長と対決; 73陣中で没; 勝頼は死を3年間秘す、「信玄家法」著、  
「信玄法度書」著、歌・冷泉為和門、「武田晴信朝臣百首和歌」/「機山十七首」「信玄詩集」著、  
[人は城 人は石垣 人は堀 情なさは味方 讎あは敵なり](信玄の歌; 甲陽軍鑑入)  
[信玄(;号)の通称/別号]通称; 太郎/勝千代、別号; 法性院/徳栄軒、  
法名; 恵林寺機山玄公大居士、勝頼の父
- D2299 **信元**(しんげん・吉岡) ? - ? 江前期備中の俳人/和泉堺住、  
1670頭成「続境海草」入、1673西鶴「生玉万句」第三花; 脇句入、76西鶴「古今俳諧師手鑑」入、  
[麓にあたって帰る厂金かりがね](生玉万句; 花脇/発句在宣; 雨に花散るかやはらりさんい、  
厂金に借金を掛け発句はらりさんを算盤の御破算にとる、  
謡曲「兼平」; さん候麓に当たって少し木深き影の見えて候こそ、  
大宮の御在所橋殿にて御入り候へ)  
[今一度あふよしもがな破相撲わげまふ](手鑑/引分相撲/後拾遺; 恋763和泉式部;  
あらざらむ此の世の外の思ひ出に今ひとたびの逢ふこともがな)  
孫も俳人 → 信元孫(しんげんのまご・備中、俳人) R 2 2 4 8
- 02218 **深元**(しんげん; 法諱) ? - ? 江前期元禄1688-1704頃の真言僧、  
上総鹿野山の神野寺学僧、「金剛界礼懺文鈔聞書」「金剛界礼懺文鈔玄談私」著
- 02219 **眞源**(しんげん; 法諱・本然ほんねん; 字、俗姓; 山田) 1690-175869 撰津丹生山田真言僧; 1703(14歳)出家、  
高野山入; 一乗院で伝法灌頂を受/1731郷里撰津福王寺住職、1748高野山成蓮院住、  
左学頭、声明の故実者として有名、1727「声明集私案記」33「五種鈴撮要」、「声明系図」、  
「幸心流十八度伝授聞書」「高野山中院流聖教目録」「中院本流宗要秘訣」外著多数
- 02220 **深玄**(しんげん; 法諱・弁竜べんりゅう; 字、) 1693-174957 常陸大聖寺の真言律僧; 潮音門; 出家、  
江戸の湯島靈雲寺2世慧光門; 1705衣鉢戒を受・1713具足戒を受、下野心等庵2世、  
のち下野河内郡吉田村の黄梅寺の中興一世となる、1738「安流聖教伝授聞書」著、  
初め無人寂室と称す
- 02221 **眞源**(しんげん; 法諱) 1705 - 1732or3328-29 播磨姫路の天台僧; 播州増位山に登り出家、  
比叡山凌雲院の豪潤門; 天台教学を修学/1729叡山鶏頭院住持/32鶏足院住持; 増位山に没、  
「華胥文鐸」「悉曇字記鑑源録」「悉曇字母表開秘録」「星供挙要」「月天供養法」外著多数
- E2200 **森玄**(しんげん・高; 修姓) ? - ? 詩人・東溟門/1747東溟「名月篇; 延享四年版」編
- 02222 **鍼源**(しんげん・垣本かきもと) ? - ? 江中期京の鍼医; 廃されていた刺絡法を提唱、  
1782「熙載録」著
- 02223 **眞元**(しんげん・武田たけだ) ? - 1846 和泉堺の暦算家; 坂正水・村井求林・間重富門、  
初め大坂の畳表商に奉公、暦算修得後; 武田流(眞元流)を興す(その祖)、易学にも精通、  
土御門家に出仕; 司天台の測量吏、音律・詠歌を嗜む、1818「階梯算法」、21「塚積図解」編、  
1824「算法便覧」29「洪範新書」、「安政眞元暦」「算法極数秘題」/46「摘要算法」校訂、外多数、  
[眞元(;名)の字/通称/号]字; 子孚(之孚)、通称; 篤之進/徳之進/主計かづえ/主計正、  
号; 真空堂/無量齋/参伍、多則の父、謙蔵の養父、  
門弟; 内藤眞矩・福田金塘・山崎眞辰・岡田忠貴・武田眞興ら多数
- B2271 **信厳**(しんげん・大鳥居おとりい/本姓; 菅原/西高辻、高辻以長男) 1846-189954 大鳥居家を継嗣; 社僧、  
筑前大宰府天満宮司務別当; 最後の継承、連歌; 1838禁裏御祈禱連歌三物/65丑歳連歌集入  
心源(しんげん; 法名) → 義水(ぎすい・田川たがわ、曹洞僧) U 1 6 5 7

- 心源(しんげん;道号) → 立印(りゅういん;法諱・心源、臨濟僧/歌) M 4 9 7 5  
 眞源(しんげん;法諱) → 覚濟(かくぜい;法諱、真言僧) B 1 5 4 8  
 眞玄(しんげん;法諱) → 太白(たいはく;道号・眞玄、臨濟僧/詩文) K 2 6 9 6  
 眞言(しんげん・千足) → 眞言(まこと・千足ちたり、国学者) Q 4 0 8 7  
 信元(しんげん・野沢) → 信元(のぶもと・野沢のざわ/藤原、神職/国学) J 3 5 5 4  
 信玄(しんげん;法諱) → 白圭(はくけい;道号・信玄、臨濟僧) C 3 6 9 6  
 信言(しんげん/のぶとき・林) → 鳳谷(ほうこく・林、幕府儒官/大学頭) F 3 9 2 5  
 親元(しんげん) すべて → 親元(ちかもと)  
 親巖(しんげん;法諱) → 親巖(しんごん;法諱、真言大僧正) E 2 2 1 3  
 親彦(しんげん・飯高/山田大路) → 親彦(ちかひこ・山田大路ようだおおじ/度会/飯高、神職) B 2 8 6 7  
 晨彦(しんげん・松木) → 晨彦(ときひこ・松木、神職/連歌) J 3 1 8 2  
 森原(しんげん;号) → 正楷(しょうかい;法諱、真宗本願寺派僧) H 2 2 5 8
- 02224 尋憲(じんげん;法諱、二条尹房男) 1529-8557 法相僧;尋円門、興福寺大乘院門跡/大僧正、  
 師の前門主尋円と門跡領相続で争う、1562-77「尋憲記」著、  
 [尋憲(;法諱)の通称/法号]通称;大乘院殿、法号;理趣院  
 訊軒(じんげん・河本) → 公唯(きみただ・河本かわもと、商家/国学) U 1 6 0 2  
 深賢(じんげん) → 深賢(しんげん・醍醐寺地藏院開) D 2 2 9 2
- 02225 尋源(じんげん;法諱、法師)? - ? 平安後期天台叡山僧;僧都/歌人;  
 1062無動寺和尚賢聖院歌合参加;左方(比叡山延暦寺塔頭無動寺で檢校広算主催)、  
 [荻よりも我が衣手を吹き返し身のしむものは秋の初風](賢聖院歌合;一番秋風左1)
- V2294 尋玄(じんげん;法諱、) ? - ? 平安鎌倉期;南都の僧/法師、  
 範玄(興福寺別当/三蔵院主/中山なかやまの僧正/1137-99)門?、  
 1237刊[檜葉集]5首入  
 [中山僧正にいざなはれ逢坂の関にまかりて八月十五夜をみて、  
 あふさかの関のしみづにやどりてやこよひの月の名をとどめけむ](檜葉;秋248)  
 ☆覚玄[日野別当]男の叡山天台僧尋玄とは別人?
- D2296 尋源(じんげん;法諱、中園相国洞院[藤原]公賢男)?-? 母;家女房高倉局(藤原光久女)、南北期僧;  
 権僧正、法眼、石泉院、歌人、新千載918、  
 [つたへきて代々にたえぬや山河の流れ久しき御法なるらむ](新千載;釈教918)
- 02226 塵言(じんげん・江口えぐち) ? - ? 磐城の俳人;1677百五十番誹諧発句合左方参  
 眞現院(しんげんいん;法号) → 正陳(まさのぶ・堀田/紀、藩主/若年寄) F 4 0 6 7  
 眞元院(しんげんいん;法号) → 頼元(よしもと・松平/徳川、藩主/歌人) J 4 7 8 4  
 神健彦(しんけんげん) → 全孝(たけのり・北島きたじま、国造/神職) W 2 6 8 0  
 神健彦(しんけんげん) → 脩孝(ながのり・北島、全孝男/国造/神職) L 3 2 8 7  
 心源斎(しんげんさい) → 専斎(せんさい・藤野ふじの、香道家) M 2 4 3 1  
 心源浄元(しんげんじょうげん;号) → 持長(もちなが・小笠原、武将/故実) B 4 4 5 2  
 心源禅師(しんげんぜんじ、直指心源禅師) → 宗玪(そうはく・玉室、臨濟僧) I 2 5 7 0  
 眞源禅師(しんげんぜんじ、大道眞源禅師) → 英朝(えいちょう・東陽、臨濟僧) 1 3 4 2  
 眞源大照禅師(しんげんだいしょうぜんじ) → 徳見(とくけん;法諱・竜山;道号、臨濟僧) K 3 1 6 3  
 辰見堂(しんげんどう) → 眞中(まなか・今掘いまぼり、禅僧/歌人) N 4 0 8 1
- R2248 信元孫(しんげんのまご・備中) 1667- ? 江前期和泉堺の俳人、  
 1673(7歳)西鶴「生玉万句」第一吉書きつよ発句入、  
 [書初かきぞめのことしは七伊呂波哉](生玉万句;吉書発句/7歳に因み7種の書体で書く)  
 深玄房(しんげんぼう) → 理観(りかん;初法諱・増栄;法諱、真言僧) 4 9 4 7  
 眞彦霊社(しんげんれいしゃ) → 氏興(うじおき・友松/佐藤、儒/神道) 1 2 2 3  
 眞虎(しんこ・大石) → 眞虎(またら・大石おおい、絵師) J 4 0 9 5  
 眞古(信古しんこ・岡本) → 眞古(まふる・岡本おかもと、郷土史家) K 4 0 1 0  
 眞古(しんこ・高寺) → 眞風流(眞古まふる・高寺たかでら、国学/歌) Q 4 0 6 6  
 信古(しんこ・松平) → 信古(のぶひさ・松平/間部/大河内、藩主/記録) C 3 5 9 7  
 信古(しんこ・山中) → 信古(のぶふる・山中、藩士/本草家) D 3 5 2 2

信古(しんこ・柳沢) → 里之(さとゆき・柳沢やなぎさわ、藩主/俳人) K 2 0 5 7  
 信古(しんこ・組橋/辻) → 玄通(げんつう・辻つじ、医者) L 1 8 4 9  
 信古(しんこ・大倉) → 信古(のぶひさ・大倉おおくら/菅原、鑑定家) H 3 5 6 5  
 信古(しんこ→のぶひさ・佐藤) → 蕉廬(しょうろ・佐藤、幕吏/国学/詩歌) M 2 2 0 7  
 信古(しんこ・矢木) → 信古(のぶひさ・矢木やぎ、国学者) K 3 5 1 9  
 信乎(しんこ・木村) → 信菴(のぶかつ・木村きむら、商家/歌/神職) I 3 5 1 0  
 神庫(しんこ・兵頭) → 守杖(もりえだ・兵頭ひょうどう、神職/国学) G 4 4 8 5

E2201 信吾(真吾しんご・吉田よしだ) ?-1823 江中期1768(明和5)人形遣として初舞台、  
 1791頃より大阪で大立者;文化文政期の代表名手;玉藻前早替など、  
 1808浄瑠璃作者;佐川藤太との合作/人形の見せ場を多彩に導入、  
 1808「玉黒髪七人化粧」13「本町糸屋娘」14「酒呑童子話」16「五天竺」著、  
 [吉田信吾(;通称)の別称] 喜代竹真吾/井東(井藤)真吾/吉田真吾/のち吉田信吾

E2202 信五(2世しんご・吉田よしだ、新治、新五男) ?-1856 江後期浄瑠璃;人形遣い

02227 眞吾(しんご・岡田おかだ、名;裕、藩医岡田淳卿男) 1822-7251 下野宇都宮藩士、儒;江戸の大橋訥庵門、  
 さらに京の春日潜庵門、帰藩後;町奉行/大目付兼儒学教授、  
 1861藩の英国公使館警衛下命を江戸家老と共に阻止;62坂下門事件により入獄;のち追放、  
 帰郷し家塾を開き子弟教育、維新後は宇都宮藩権大参事、「護夷或問」著、  
 [眞吾(;通称)の字/別通称/号]字;伯柔、別通称;元貞、号;梅陵/弘雲

02228 信吾(眞吾しんご・那須なす、浜田光章2男) 1829-63戦死35 土佐藩士那須俊平重任の養子、  
 初め医を志す、俊平の養子となり高知に出て武芸;槍と剣術の皆伝/坂本龍馬と交流、  
 武市瑞山に随う;土佐勤王党に加盟;1862同志と吉田東洋を暗殺/長州へ脱走/のち上京;  
 萩藩邸・薩摩藩邸に隠棲、1863天誅組挙兵;勇戦し吉野鷲家口で戦死、「那須重民書翰集」著、  
 [信吾(;通称)の幼名/名/法号/変名]幼名;虎吉、名;重民、法号;信甫、  
 変名;石原幾之進/石原武之進

慎吾(しんご・鈴木/北) → 静廬(せいりょ・北きた、町人/国学/狂歌) D 2 4 2 3  
 慎吾(しんご・桂) → 誉重(たかしげ・桂かつら、大庄屋/農政/国学) C 2 6 8 2  
 慎吾(しんご・中曾根) → 宗那(そうな・中曾根なかそね、和算/測量家) I 2 5 8 9  
 慎吾(しんご・大平) → 久壽(ひさとも・大平おだいら、国学者) I 3 7 8 4  
 信吾(しんご・牧) → 百峰(ひやくほう・牧まき、儒者) E 3 7 7 8  
 新吾(しんご・岡部) → 菊涯(きくがい・岡部おかべ、儒者/詩人) E 1 6 2 5  
 新吾(しんご・北沢) → 遜斎(そんさい・北沢きたざわ、漢学者) E 2 5 8 2  
 新吾(しんご・中野) → 竜田(りゅうでん・中野なかの、儒者) K 4 9 8 5  
 新吾(しんご・藍川) → 慎(ちか・藍川あいかわ、医者) N 2 2 2 0  
 新吾(しんご・馬田/長川) → 東明(とうめい・長川ながかわ、儒者) H 3 1 3 8  
 新吾(しんご・小津) → 信厚(のぶあつ・小津おつ/長井/大泉、国学) H 3 5 5 9  
 新吾(しんご・出淵) → 幸安(ゆきやす・出淵でぶち/いづぶち、藩士) H 4 6 0 2  
 辰吾(しんご・岡松) → 麿谷(おつく・岡松おかまつ、儒者) B 1 4 2 8  
 仁子(しんご・深井) → 仁子(ひとこ・深井ふかい、国学/歌/教育) K 3 7 7 9  
 甚五(しんご・成瀬) → 正居(まさやす・成瀬なるせ、藩士/記録) B 4 0 2 3  
 甚吾(しんご・清水) → 正重(まさしげ・清水しみず、藩士/歌人) Q 4 0 0 8

E2204 眞興(信興しんこう/しんこう;法諱、俗姓;凡河内おほじうち) 938-100871 平安期河内or大和の僧、  
 南都松室仲算門、949興福寺入;法相を修学、吉野山の仁賀門;真言密教を修学、  
 983伝法灌頂を受/大和壺阪寺から子島寺入、子島流の祖;大和高市郡に子島山観覚寺開山、  
 1003維摩会の講師/04御斎会講師、法橋/権少僧都、971「因明纂要略記」、「三密浅深記」、  
 「成唯識論科」「真言口伝勘誤集」「真言問答随聞記」「唯識義本文集」「護摩集」外著多数、  
 [眞興(;法諱)の通称] 子島先徳/子島僧都

E2206 信光(しんこう、染物屋惣兵衛) ?- ? 江前期京住の俳人、1658元知「拾玉集」85句入

E2209 津公(しんこう;法諱) ? - ?早世20余歳 江中期;江戸の東漸寺の僧;岷公門;嗣法、  
 詩・書に長ず、20余歳で病没、山梨稲川(1771-1826)「思旧漫録」に記事入

E2208 晋交(しんこう・芝しば) ? - ? 江後期戯作者;初世全交門/洒落本作者、

1799洒落本「品川楊枝しながわようじ」著(；勝川春好画)、  
 1800塩屋艶二「南門鼠みなとねずみ」序文(大田舎一圃吐名)、  
 [芝晋交(；号)の別号] 天狗山人/司馬山人/湯屋芝住/大田舎一圃吐、  
 芝深交と同一? → 深交(しんこう・芝) O 2 2 2 9

02229 深交(しんこう・芝) ? - ? 江後期寛政1789-1801頃戯作者:初世全交門、  
 1791洒落本「真頼兒老之仇浪」

晋交(しんこう・芝)の初号か? → 晋交(しんこう・芝、洒落本) E 2 2 0 8

02230 真興(しんこう・武田たけだ、通称:佐一郎)?-? 江後期大坂の和算家:武田真元しんげん[?-1846]門、  
 「古今算円理図解」編

V2204 信亨(しんこう;法諱) 1810 - 1881? 筑前太宰府の延寿王院執行坊、国学者

心交(しんこう;法諱) → 與可(よしか;道号・心交、臨濟僧) K 4 7 2 8

心江(しんこう) → 材親(きちか・北畠、武将/文筆/連歌) L 1 6 2 3

心孝(しんこう) → 伝祐(でんゆう;法諱・十乗房、天台僧) E 3 0 4 6

心覺(心光しんこう;法諱) → 寂岸(じやくがん;道号・心覺、臨濟僧) V 2 1 9 3

真光(しんこう・鈴木) → 眞光(まみつ・直光・鈴木すずき/源、幕臣/歌) L 4 0 6 6

真綱(しんこう・和氣) → 眞綱(まつな・さねつな・和氣わけ、廷臣/詩人) J 4 0 8 1

真篤(しんこう・小竹) → 眞篤(まさを・小竹、国学) B 4 0 4 0

真孝(しんこう・進藤) → 香塙(こう・進藤しんどう、僧/詩歌人) H 1 9 3 8

真広(しんこう・原はら) → 眞広(まさひろ・原はら、歌人) M 4 0 8 5

真弘(しんこう・長谷川/広川) → 眞弘(まさひろ・広川/長谷川、国学者) H 4 0 0 2

真弘(しんこう・木下) → 梅里(ばいり・木下きのした、藩士/儒者) C 3 6 1 7

真幸(しんこう・今村) → 眞幸(まさき・今村/北原/源、国学者) C 4 0 2 8

真幸(しんこう・長瀬) → 眞幸(まさき・長瀬ながせ、藩士/国学者) 4 0 0 8

真幸(しんこう・橋本) → 眞幸(まさき・橋本はしもと、藩士/国学者) R 4 0 7 4

真幸(しんこう・志々目) → 眞幸(まさゆき・志々目じじめ、兵法家/歌) Q 4 0 0 7

真幸(しんこう・樋口) → 眞幸(まさき・樋口ひぐち、藩士/漢学者) S 4 0 0 7

親綱(しんこう・中山) → 親綱(ちかつな・中山/藤原、廷臣/歌人) B 2 8 2 2

親孝(しんこう) すべて → 親孝(ちかたか)

親光(しんこう) すべて → 親光(ちかみつ)

親行(しんこう) すべて → 親行(ちかゆき)

親康(しんこう) すべて → 親康(ちかやす)

親広(しんこう・高崎) → 親広(ちかひろ・高崎たかさき、藩士/国学者) M 2 8 7 7

親航(しんこう/ちかき・片岡) → 東親(はるちか・片岡りかたおか/秋川、神職/国学) J 3 6 9 2

親厚(しんこう・川上) → 親厚(ちかあつ・川上かわかみ、藩士/歌人) M 2 8 3 7

佶厚(信厚しんこう・柘植) → 佶厚(信厚のぶあつ・柘植つげ、藩士・国学) J 3 5 1 5

信光(しんこう;法諱) → 浄賀(じょうが;法諱・康楽寺、真宗僧/絵師) F 2 2 7 7

信行(しんこう;法諱) → 信行(しんぎょう;法諱、法相学僧) N 2 2 8 8

信行(しんこう) 訓読すべて → 信行(のぶゆき)

信広(しんこう) → 信広(のぶひろ・中納言得業/歌人) K 3 5 6 1

信弘(しんこう・大久保) → 信弘(のぶひろ・大久保おおくぼ/本姓;源、藩士/歌) G 3 5 6 7

信鴻(しんこう・柳沢) → 信鴻(のぶとき・柳沢、藩主/多趣味/俳) C 3 5 2 8

信亨(しんこう・松平) → 信亨(のぶつら・松平、藩主/歌・俳) C 3 5 2 1

信幸(しんこう・斎藤) → 信幸(のぶゆき・斎藤さいとう、神職/国学) D 3 5 6 5

信幸(しんこう・北野) → 信幸(のぶゆき・北野きたの/増田、神職) I 3 5 1 9

信侯(しんこう・牧) → 百峰(ひやくほう・牧まき、儒者) E 3 7 7 8

信侯(しんこう・南部) → 利義(としとも・南部なんぶ、藩主) N 3 1 0 6

信厚(佶厚しんこう・柘植) → 佶厚(信厚のぶあつ・柘植つげ、藩士・国学) J 3 5 1 5

信厚(しんこう・井沢) → 榛軒(しんげん・井沢いざわ、蘭軒男/医者) O 2 2 1 5

信厚(しんこう・小津) → 信厚(のぶあつ・小津おづ/長井/大泉、国学) H 3 5 5 9

- 信耕(しんこう・東条) → 琴台(きんだい・東条とうじょう、儒者) E 1 6 2 4  
 信好(しんこう/のぶよし・阿部) → 玄喜(げんき・阿部あべ、医者/絵師) I 1 8 3 6  
 信好(しんこう・高林) → 信好(のぶよし・高林たかばやし、書家) G 3 5 7 8  
 信好(しんこう・今田) → 信好(のぶよし・今田いまだ、藩士/歌人) H 3 5 4 3  
 信好(しんこう・原) → 信好(のぶよし・原はら/秦、国学/歌/官吏) J 3 5 6 9  
 信好(しんこう・森) → 信好(のぶよし・森もり、藍玉商/国学者) K 3 5 1 7  
 信孝(しんこう・安部) → 信孝(のぶたか・安部/安倍あべ、幕臣、歌) G 3 5 9 4  
 信亨(しんこう・松平) → 信亨(のぶつら・松平、藩主/歌・俳) C 3 5 2 1  
 信恒(しんこう・田中) → 信謹(さねもり・田中/若林、儒者/医) L 2 0 4 4  
 信綱(しんこう・藤原) → 信綱(のぶつな・藤原ふじわら、廷臣/歌人) C 3 5 0 7  
 信綱(しんこう・源) → 重道(重通しげみち・源みなもと、廷臣/歌人) C 2 1 9 9  
 信綱(しんこう・藤原) → 信綱(のぶつな・藤原ふじわら、廷臣/歌人) C 3 5 0 8  
 信綱(しんこう)すべて → 信綱(のぶつな)  
 信興(しんこう/のぶおき・白井) → 鳥酔(ちようすい・白井しらい、俳人) 2 8 2 4  
 信興(しんこう・赤林) → 信興(のぶおき・赤林あかばやし、藩士/歌人) H 3 5 1 0  
 信興(しんこう・武田) → 信興(のぶおき・武田たけだ/源、商家/国学) J 3 5 0 5  
 信贛(しんこう・後閑/小田) → 又蔵(またぞう・小田/後閑、幕臣/奉行) J 4 0 4 8  
 伸綱(しんこう・馬來) → 伸綱(のぶつな・馬來まき、藩士/歌人) J 3 5 9 6  
 辰行(しんこう・奥倉) → 辰行(たつゆき・奥倉、商家/絵師) R 2 6 6 8  
 辰行(しんこう/たつゆき・岩窪/呉) → 北溪(ほっけい・魚屋ととや、商家/絵師) E 3 9 6 0  
 辰光(しんこう・菊池) → 辰光(ときみつ・菊池きくち、国学/歌人) U 3 1 9 7  
 新江(しんこう・内田) → 内新好(ないしんこう/うち、俳人/戯作者) 3 2 5 3  
 新幸(しんこう・松井) → 幸三(二世こうぞう・松井、歌舞伎作者) B 1 9 6 2  
 深広(しんこう・智涯) → 智涯(ちがい・深広;法諱、真宗僧) 2 8 6 1  
 深耕(しんこう・為廼屋) → 尚(たかし・藤田ふじた、商家/国学) Z 2 6 3 5  
 晋侯(しんこう・梶原) → 景惇(かげあつ・梶原、商家/和漢学) B 1 5 8 1  
 02231 心豪(しんごう;法諱) ? - ? 備中の天台僧、  
 1492「護国懐中抄」1501「即身成仏義私類聚竜女分極」著  
 眞興(信興しんごう) → 眞興(新興しんこう、法相僧) E 2 2 0 4  
 E2210 仁交(じんこう) ? - ? 談林俳人;西鶴門、1679西鶴「飛梅千句」入  
 02232 塵交(じんこう) ? - ? 尾張の俳人;1686「春の日」1句/89「あら野」2句入、  
 [はゝき木ぎはながむる中うちに昏くれにけり](春の日;夏、箒木が闇の中で見えなくなる、  
 箒木(;歌語)は細枝密生のため遠くからは見えるが近寄ると見えにくいとされる)  
 E2211 甚孝(甚幸しんこう・桜川さくらがわ)?-? 江後期声色の名手;身振り・物真似芸、狂文作者、  
 1806式亭三馬「酩酊氣質めいていかたぎ」の凡例末にこの原稿を甚幸に授けのち出版とある、  
 1813?淇奥堂主人編の狂文集「春窓秘辞」の「十二月吉原の雪」を著  
 02233 尋香(じんこう;号・小川おがわ、名;鏌之助)1819-190183 江戸の御家人、俳人;一具門、  
 師没後;一具庵尋香と号す、涼松の師、1850「あこめ垣」編、  
 [尋香(;号)の別号] 時雨庵/素羅/素良/十夢/一具庵  
 W2218 尋豪(じんこう;法諱) ? - ? 鎌倉期;南都の僧/法師、  
 歌人;1237刊[檜葉集]入、  
 [ちる花にかへばいのちもかへつべしみぬよにとめてかひはなけれど](檜葉;雑786)  
 ☆天台僧尋豪(藤原宗基男/阿闍梨)とは別人か?  
 02234 神興(じんこう;法諱、俗姓;南条、徳母院良雄長男)1814-8774 越前南条郡真宗大谷派憶念寺住職、  
 1828父の退隠後に継嗣、諸宗の碩学につき修学;自坊に帰り講席を開く;名声博す、  
 1854高倉学寮で春講寮司とし講ず/1865擬講/71嗣講/83講師、「御文大意」「教誠律儀記」、  
 「高僧和讃天親章記」「宗要愚案記評駁」「無量寿経聞書」「言南無者聞書」著、  
 [神興(;法諱)の別法諱/号]初法諱;界雄、号;三濤/雲栖/老南/徳母院(;1839父没後)、  
 諡号;雲澗院うんじゆいん  
 神港庵(しんこうあん・石橋) → 桃郷(とうきょう・石橋、俳人) C 3 1 8 2



心光院(しんこういん) → 日耀(にちよう;法諱・無着、日蓮僧) D 3 3 5 2  
 深広院(しんこういん) → 日視(にっし;法諱・能遍、日蓮僧) D 3 3 9 2  
 深広院(しんこういん) → 無涯(むがい;法諱、真宗本願寺派僧) 4 2 2 7  
 信光院(しんこういん) → 光昭(こうしょう;法諱、本願寺12世) J 1 9 7 4  
 真光院(しんこういん;号) → 行観(ぎょうかん;法諱・良山、融通念仏僧) N 1 6 5 6  
 真光院御室(しんこういんのおむろ) → 覚道親王(かくどうしんのう、真言僧) K 1 5 2 7  
 真光院大僧正(しんこういんのだいそうじょう) → 禅助(ぜんじよ;法諱、真言僧/歌人) F 2 4 9 3  
 真光院大僧正(しんこういんのだいそうじょう) → 尊海(そんかい;法諱、真言僧/連歌) E 2 5 6 9  
 深耕園(しんこうえん) → 知足(ともたり・大田垣おたがき、歌人) U 3 1 5 5

02235 **新皇嘉門院**(しんこうかもんいん・名;繫子つなこ、鷹司政熙女)1798-1823**早世**26 母;豊岡尚資の養女斐子、  
 仁孝天皇の女御;1813東宮期の御息所/17即位に伴い従三位・女御、没後皇后を追贈、  
 「四季合香の聞様」著、新朔平門院の姉

妹 → 新朔平門院(しんさくへいもんいん、女御、歌) O 2 2 6 1  
 新甲館(しんこうかん) → 文屋安雄(ぶんやのやすお、書肆/狂歌) G 3 8 5 5  
 神皇旧臣(しんこうきゅうしん) → 玄道(げんどう/はるみち・矢野、儒/国学者) C 1 8 8 4  
 新好斎(しんこうさい) → 無窮(むきゅう・植木、詩人) 4 2 4 0  
 信好斎(しんこうさい) → 宗意(そうい・蜂屋はちや/菅原、香道家) F 2 5 9 8  
 心耕子(しんこうし・鶉飼) → 石斎(せきさい・鶉飼/鶉、儒者/史学) D 2 4 4 7  
 信好先生(しんこうせんせい;諡号) → 玖珂(きゅうか・朝枝、藩士/儒者) G 1 6 3 7  
 新好亭(しんこうてい) → 敬雄(けいゆう・きょうおう;法諱・韶鳳;字、天台僧/詩人) D 1 8 6 5  
 新甲堂(しんこうどう) → 文屋安雄(ぶんやのやすお、書肆/狂歌) G 3 8 5 5  
 心江道綱(しんこうどうこう;法名) → 政朝(まさとも・小峯/結城/白川/藤原、武将/連歌) E 4 0 6 4  
 心光房(しんこうぼう) → 宗秀(しゅうしゅう;法諱・、天台僧) X 2 1 5 1  
 進功靈社(しんこうれいしゃ;神号) → 安休(あんきゅう・服部、藩士/神道) G 1 0 0 2  
 神光靈神(しんこうれいしん) → 兼熙(かねひろ・ト部/吉田/室町、神道) D 1 5 0 1  
 新五右衛門(しんごえもん・佐伯) → 鍾山(しょうざん・佐伯さえき、藩儒/詩) J 2 2 2 4  
 新五右衛門(しんごえもん・森岡) → 幸夫(ゆきお・森岡もりおか、藩士/国学/歌) H 4 6 3 6  
 甚五右衛門(じんごえもん・中山) → 斑象(3世はんぞう・中山、俳人) I 3 6 3 4  
 甚五右衛門(じんごえもん・酒井) → 国彦(くにひこ・酒井、藩士/俳人) D 1 7 1 1  
 甚五右衛門(じんごえもん・山田) → 喬利(たかし・山田やまだ、藩士/歌人) 2 7 1 3  
 甚五右衛門(じんごえもん・富田) → 重貞(しげさだ・富田、藩士/記録) R 2 1 0 2  
 甚五右衛門(じんごえもん・上田) → 友泰(ともやす・上田うえだ、藩士/軍学) Q 3 1 7 4  
 甚五右衛門(じんごえもん・北河原) → 守景(もりかげ・北河原きたがわら、藩士) F 4 4 2 5  
 新五右衛門又通(しんごえもんまたすけ・遠藤) → 鶴州(かくしゅう・遠藤、藩士/儒者) H 1 5 2 9

02236 **深谷**(しんこく・黒沢くろさわ、名;盛行)1763-1824**62** 陸前仙台藩医;伊達斉宗の侍医、儒;志村五城門、  
 詩人、五城の兄弟の志村時恭・蒙庵や南山禅師・奥田橋園と交流、「深谷詩集」著、  
 [深谷(;号)の字/通称]字;徳甫、通称;宋栄

眞国(しんこく・和泉) → 眞国(まくに・和泉、書肆/国学) 4 0 6 6  
 眞国(しんこく・石橋) → 眞国(まくに・石橋、茶屋/国学/語学) 4 0 6 8  
 眞国(しんこく・三橋) → 眞国(まくに・三橋みはし、神職/国学) S 4 0 9 5  
 森谷(しんこく;号) → 普巖(ふごん;法諱、真宗本願寺派僧;大瀛門) B 3 8 9 4  
 信古斎(しんこさい) → 信古(のぶふる・山中、藩士/本草家) D 3 5 2 2  
 信古斎(しんこさい) → 玄章(げんしょう・伊藤いとう、藩士/医者) J 1 8 9 9  
 振古斎(しんこさい) → 嘉樹(よしき・長野ながの、医者) D 4 7 0 4  
 新五左衛門(しんござえもん・黒田) → 倫忠(のりただ・黒田/樽井、藩士/故実) E 3 5 9 6  
 新五左衛門(しんござえもん・前田) → 安知(やすとも・前田まえだ/菅原、幕臣/歌) E 4 5 8 1  
 新五左衛門(しんござえもん・成田) → 次充(つぐみつ・成田なりた、藩士) 2 9 8 7  
 甚五左衛門(じんござえもん・大久保) → 忠栄(ただよし・大久保、幕臣/詩人) R 2 6 2 5  
 甚五左衛門(じんござえもん・山鹿) → 素行(そこう・山鹿やまが、兵学者) 2 5 2 2  
 甚五左衛門(じんござえもん・山内) → 董正(ただまさ・山内やまのうち、幕臣/代官) Q 2 6 8 4

- 甚五左衛門(じんごさえもん・柏山)→ 照方(てるかた・柏山かしま、歌人) E 3 0 9 2  
 甚五左衛門(じんごさえもん・細木)→ 正儼(まさたか・細木ほそき、藩士/国学) S 4 0 4 2
- E2212 **新五三**(しんごさん・藩中館)? - ? 洒落本作者、1776「当世左様候とうせいさようさ」著  
 真古人(しんこじん) → 夕田(せきでん・千原ちはら、商家/画/書家) D 2 4 7 6  
 信古道人(しんこどうじん) → 文友(ふみとも・榎内かじうち、医者) D 3 8 9 4  
 新五兵衛(しんごべえ・服部)→ 安親(やすちか・服部はつとり、幕臣/歌人) E 4 5 8 3  
 新五兵衛(しんごべえ・和田)→ 白鯉館卯雲(2世はくりかんぼううん、幕臣/狂歌) E 3 6 0 6  
 新五兵衛(しんごべえ・山瀬)→ 遊圃(ゆうほ・山瀬やませ、藩士/文筆家) D 4 6 7 6  
 新五兵衛(しんごべえ・青木)→ 義所(ぎしよ・青木あおき/藤原/筑紫、幕臣) S 1 6 8 6  
 新五兵衛(しんごべえ・泉) → 千秋(ちあき・泉いずみ、商家/歌人) M 2 8 0 5  
 新五兵衛(しんごべえ・石野)→ 唯房(ただふさ・石野いしの、幕臣/国学) V 2 6 6 0  
 甚五兵衛(じんごべえ・中川)→ 濁子(じよくし・中川なかがわ、藩士/俳人) C 2 2 3 3  
 甚五兵衛(じんごべえ・浅羽)→ 昌儀(まさのり・浅羽あさば、藩士/学者) F 4 0 9 9  
 甚五兵衛(じんごべえ・和田)→ 氏武(うじたけ・和田、藩士/文筆家通称) C 1 2 4 1  
 甚五兵衛(じんごべえ・永木)→ 守篤(もりあつ・永木ながき、歌人) K 4 4 8 4  
 甚五兵衛(じんごべえ・倉沢)→ 清也(きよなり・倉沢くらさわ、庄屋/国学/神職) U 1 6 2 2  
 甚五兵衛(じんごべえ・関) → 盛辰(もりとき・関せき、藩士/国学者/歌) K 4 4 1 6  
 甚五兵衛(じんごべえ・日野)→ 信易(のぶやす・日野ひの、歌人) J 3 5 7 6
- C2262 **新午房**(しんごぼう) ? - ? 下野の狂歌作者:1787「狂歌才蔵集」入:569、  
 [今こんと鳴く婚礼の長堤ながつみ通し揃へし馬の骨折り](才蔵集;569/狐嫁入)
- 2222 **新五郎**(しんごろう・生島いくしま、菱賀、野田蔵之助)1671-1743? 大阪生/江戸山村座歌舞伎役者、美男、  
 大奥の江島と交際/1714江島事件で流罪、のちに歌舞伎・舞踊などに脚色される
- 02237 **新五郎**(しんごろう・蜂屋はちや)? - ? 江後期幕臣;江戸北町奉行与力/牢屋見廻役、  
 1814「徳隣厳秘録」編
- 新五郎(しんごろう・武野) → 紹鷗(しょうおう・武野/武田、商家/茶人) F 2 2 5 8  
 新五郎(しんごろう・武野) → 宗瓦(そうが・武野/武田、紹鷗男/茶人) G 2 5 4 3  
 新五郎(しんごろう・多湖) → 栢山(はくざん・多湖たこ、儒者) D 3 6 0 9  
 新五郎(しんごろう・由比) → 勝生(かつなり・由比ゆい、藩士/文筆) N 1 5 6 7  
 新五郎(しんごろう・田中) → 政徳(まさのり・田中、名主/文学/暦算) G 4 0 0 9  
 新五郎(しんごろう・安藤) → 定為(さだため・安藤あんど、歌人) I 2 0 4 9  
 新五郎(新吾郎しんごろう・檜林) → 鎮山(ちんざん・檜林、通詞/蘭医者) K 2 8 7 2  
 新五郎(しんごろう・大滝) → 新蔵(しんぞう・大滝おおたき、藩士/奉行) P 2 2 2 3  
 新五郎(しんごろう・小津) → 桂窓(けいそう・小津おづ、商家/詩歌人) 1 8 8 2  
 新五郎(しんごろう・中曾根) → 宗那(そうな・中曾根なかそね、和算/測量家) I 2 5 8 9  
 新五郎(しんごろう・小津) → 長澄(ながすみ・小津おづ/筒井、国学者) L 3 2 4 0  
 新五郎(しんごろう・尾高) → 藍香(らんこう・尾高おだか、里正/勤王家) C 4 8 0 7  
 新五郎(しんごろう・澤田) → 泉山(せんざん・澤田さわだ/本橋、漢学/教育) O 2 4 1 3  
 眞五郎(しんごろう・柴崎) → 直古(なおひさ・柴崎、商家/国学/狂歌) C 3 2 2 0  
 眞五郎(しんごろう・信夫) → 槐軒(かいけん・信夫しのぶ、儒者/国学者) I 1 5 5 8  
 神五郎(しんごろう・上井) → 覚兼(かくけん・上井・大神・諏訪、武将/連歌) B 1 5 4 4  
 神五郎(しんごろう・三輪) → 大麿(おおまる・三輪みわ、神職/歌人) D 1 4 8 3  
 津五郎(しんごろう・長) → 連起(つらおき・長ちよう、藩士) E 2 9 3 9  
 森五郎(しんごろう・松本) → 思斎(しさい・松本、商家/儒者/教育) T 2 1 4 8  
 尽語楼(じんごろう・飛驒山人) → 天明老人(てんめいろうじん、大工/狂歌) E 3 0 3 7  
 甚五郎(じんごろう・河尻) → 春之(はるの・河尻かわじり、幕臣) 3 6 3 4  
 甚五郎(じんごろう・松前) → 泰広(やすひろ・松前まつまえ、幕臣/連歌) C 4 5 8 6  
 甚五郎(じんごろう・山内) → 流済(りゅうさい・山内やまうち、武芸者/日蓮僧) D 4 9 9 9  
 甚五郎(じんごろう・中山) → 斑象(3世はんぞう・中山、俳人) I 3 6 3 4  
 甚五郎(じんごろう・富沢/深沢) → 竹外(ちくがい・深沢、幕臣/俳人) C 2 8 7 6  
 甚五郎(じんごろう・間山) → 祐真(すけまさ・間山まやま/土門、藩士/歌) G 2 3 4 6

甚五郎(じんごろう・三浦) → 正子(まさつぐ・三浦/朝比奈、幕臣) D 4 0 9 3  
 甚五郎(じんごろう・立原) → 翠軒(すいけん・立原たちばら、儒者/藩士) 2 3 0 1  
 甚五郎(じんごろう・松井) → 輝星(くわいせい・松井まつい、易占家) B 1 6 3 6  
 甚五郎(じんごろう・仁木) → 充長(みつなが・仁木につき、歌学者) E 4 1 1 7  
 甚五郎(じんごろう・高橋) → 仲善(ちゆうぜん・高橋、和算家) G 2 8 5 2  
 甚五郎(じんごろう・竹田) → 斯綏(これやす・竹田たけだ、幕臣) O 1 9 9 5  
 甚五郎(じんごろう・宮原) → 義直(よしのお・宮原みやはら、旗本/高家/歌) K 4 7 5 8  
 甚五郎(じんごろう・宇野) → 公幹(きみもと・宇野うの、藩士、国学) T 1 6 5 8  
 甚五郎(じんごろう・蒲) → 正村(まさむら・蒲がま/長谷川、神職/国学) O 4 0 9 8  
 甚五郎(じんごろう・西川) → 重威(しげたか・西川にしかわ、国学) Z 2 1 6 3  
 甚五郎(じんごろう・上木) → 蔭尋(かげたず・上木うわぎ/源、商家/国学) T 1 5 8 1  
 真根(しんこん・物部) → 眞根(まね・物部ものべ、防人/万葉歌人) K 4 0 0 2

E2213 **親厳**(しんごん; 法諱、中原親光男) 1151-1236<sup>86</sup> 中原広季の猶子、真言僧; 尊念門; 密教を修学、  
 顕厳門; 伝法灌頂を受/1219権僧正/28東寺一長者/31僧正/32大僧正、随心院初代門跡、  
 東大寺別当、「東寺長者補任」「東大寺別当次第」著、藤原定家と交流、歌; 新勅撰集1374、  
 [初子はねの日摘める若菜かめづらしと野辺の小松にならべてぞ見る](新勅; 1374)  
 (定家邸で僧正聖宝が[は]を初め[る]を果てに詠むと言うので詠む)  
 [親厳(; 法諱)の通称] 越後大僧正/随心院大僧正/唐橋大僧正

慎言(しんごん) → 静廬(せいろう・北、歌学、狂歌) 2 4 2 3  
 真言(しんごん/まこと?・田尻) → 梅翁(ばいおう・田尻たじり、藩士/国学者) 3 6 6 8  
 真言阿闍梨(しんごんあじり) → 慶賢(きやうけん・真言僧/高野開版) G 1 6 7 1  
 真言院座主(しんごんいんのざす) → 貞崇(じょうすう; 法諱、真言醍醐寺座主) K 2 2 1 8  
 真言院僧正(しんごんいんのそうじょう) → 済信(さいしん; 法諱、真言大僧正) G 2 0 7 7  
 真言房(しんごんぼう; 字) → 元杲(げんこう; 法諱・真言房、真言僧) B 1 8 7 2  
 真言房(しんごんぼう) → 明尊(みょうそん; 法諱、天台園城寺僧/歌) G 4 1 5 5  
 新三(しんざ・三上) → 是庵(ぜあん・三上みかみ、藩士/儒者) 2 4 4 6  
 人左(じんざ) → 吏登(りとう・桜井、俳人) 4 9 0 4

E2215 **信斎**(しんさい・中村なかむら、名; 興/良則) ?-? 江前期江戸の漢学者、  
 1677「東海道風浪紀行」「扶桑名将伝」/84「風浪集」88「続風浪集」91「霞洞集」著、  
 [信斎(; 号)の字/別号] 字; 友信、別号; 風浪

02238 **慎齋**(しんさい・深田ふかだ、名; 正倫、永原ながはら佐平2男) 1683-1737<sup>55</sup> 尾張の儒者; 深田明峯門; 養嗣子、  
 尾張名古屋藩儒: 1707明峯の禄の内150石を受/1731百五十石加増され3百石、  
 1731「温故政治要輔翼」校訂、  
 [慎齋(; 号)の字/通称] 字; 彝卿いけい、通称; 清蔵/宗信/正室

02239 **眞際**(しんさい; 法諱・百癡ひやくち; 字) ?-1740 江前中期天台僧; 1717近江坂本の西教寺20世、  
 大僧都、1731「法勝寺円戒灌頂内道場次第」32「無量寿寺喜多院記」、「帝釈寺縁起」外著多数

02240 **慎齋**(しんさい・宇都宮うつのみや、名; 尚綱ひさつな) 1690-1762<sup>73</sup> 尾張海東郡の津島神社祠官、  
 神道; 真野時繩(綱)門、儒者; 和漢学に通達; 子弟教授; 門人多数、詩歌を嗜む、  
 「論語孟子聞書」著、徳行に優れ1748藩主より褒賞、終生娶らず兄家に寄食、  
 [慎齋(; 号)の通称/法名] 通称; 兵助、法名; 教誉快賢居士

E2216 **晋斎**(しんさい・田辺たなべ/本姓; 上毛野、整斎[希賢まればかた]男) 1692-1772<sup>81</sup> 京生/1693父と仙台移住、  
 儒(家学); 父門/上京し漢学; 浅井琳庵(重遠)門/神道; 高志真直門/書; 持明院基輔門、  
 仙台藩主伊達吉村に招聘; 仙台藩儒員、世子宗村の傳; 禄7百石、兵法に通ず、中沢浩斎の師、  
 1713「知人録」、「従江戸至仙台行程記」「伊達家世臣家譜記」「伊達家旧臣伝記」「摭言録」、  
 「忠山公治家記録」「翠溪文集」/1772「封内風土記」著、外著多数、「晋斎遺戒」、慎齋の父、  
 [晋斎(; 号)の字/通称/別号] 名; 希文まれびみ、字; 子郁、通称; 喜右衛門、別号; 翠溪、  
 諡号; 守正先生

02241 **審齋**(しんさい・小津おう、小津七郎兵衛浄喜長男) 1704-79<sup>76</sup> 伊勢松阪の商家、  
 国学者; 本居宣長門、歌人、妻; 小津清左衛門道冲女、養子; 寺田正邦、  
 源氏物語・枕草子などの講釈に参加; 1760江戸下向、宣長の授業門人録の筆頭の門人、

- 「嶺松和歌集」入/1752「宝暦二申四月初詠艸会集」「同九月詠草会集」著  
 [審齋(；号)の名/通称/法号]名；正啓まさひろ、通称；清右衛門、法号；審齋瑞光浄本居士
- E2217 慎齋(しんさい・小出こいで)、名；孝承、初姓；種田) 1721-5939 小出侗齋の養子/儒者；侗齋門(家学)、尾張藩儒、浅見綱齋の説を信奉、詩人、「木屑」著、東郊の養父、  
 [慎齋(；号)の通称/別号]通称；周八、別号；求放舎/停車園
- 02242 深齋(しんさい・中西なかにし)、名；惟忠、宗律男) 1724-180380 京の医者、初め儒学を修学、江戸で鶴殿士寧・莊田豊城と交流、医学；吉益東洞門/古医方を修学；傷寒論研究に専念、1790「傷寒論辨正」91「函丈筆記」1801「傷寒論」74「傷寒名数解」、「寒之名義」「傷寒古義」、「傷寒論講義」「傷寒論秘要」「脈陰陽俱緊」外著多数、「中西深齋遺稿」、鷹山ようざんの父、  
 [深齋(；号)の字/通称/諡号]字；子文、通称；主馬/万助、諡号；宝愨先生
- U2247 深齋(しんさい・4代中村なかむら宗哲) 1726-179166 千家十職の塗師；3代目宗哲の婿養子、従六下主殿少属兼左生火の官人に就任；署名は豊田八郎兵衛、後桜町天皇の大礼御用品を制作、代表作；「三齋好」「野風茶器」、  
 [深齋(；号)の通称] 為安/八郎兵衛(・豊田)
- 02243 震齋(しんさい・板倉いたくら)、名；弘毅/通称；兵次郎) 1746-181671 越後新発田藩士/儒者；石原寛信門、藩主溝口直養の命で1770上京；久米訂齋門；闇齋学修学、帰藩後；勘定奉行/郡奉行歴任、1811致仕、1845「伊洛淵源録講義」編、「宇井先生講義筆記」「大学講義」編
- 02244 莘齋(しんさい・佐和さわ)、名；閃/淵、善連男) 1749-183183 石見の儒者；京に游学；頼山陽と交流、画；中井竹洞門、1791石見浜田藩校長善館開設で家老岡田元善の依頼により礼記を講義、勤王諸家と交流；幕府追及を逃れ高野山入山；出家/石見邇摩郡大森の観世音寺住僧、佐和律師と称される、「華谷叢書」「韻学独断」「学庸率解」「学庸跛鼈」「詩経跛鼈」「黜物」、「論語率解」「論語跛鼈」「周易跛鼈」「黜孟」「春秋復古黜物」「読老子」「書学開洋」外著多数、  
 [莘齋(；号)の字/通称/別号]字；伯恵、通称；莊太郎/佐和律師、別号；華齋/華谷/鹿洞/五鹿園/太雲/右楠園
- 02245 晋才(しんさい) ? - ? 江中期俳人；蕪村門、1772几董「其雪影」1句/77蕪村「夜半楽」2句入、  
 [朧夜やおり居の御所の月の松](其雪影；巻尾264/おり居の御所は仙洞御所)
- U2287 進齋(しんさい・笹谷ささや)、通称；修理) 1752-? 陸奥磐井郡山の目村蘭梅山下の神職、国学者
- 02246 眞齋(しんさい・菅野すげの)、名；弘祖) 1773-184472 播磨加西郡北条町の儒者；広島の頼春水門、京で医を修学、姫路藩校の分校高砂申義堂の教授、1827藩家老河合寸翁の私塾仁寿山巒の副督学に登用され藩士に列す、「菅野弘祖文稿」「叙詞起草」著、  
 [眞齋(；号)の通称/別号]通称；武助、別号；松塙しょうお
- 02247 慎齋(しんさい・石川いしかわ)、名；清秋) 1773-185179 常陸の儒者/1801水戸藩に出仕/44致仕、1812「塩録」20-26「慎齋日録」著、22「東海唱和」28-36「水戸紀年」44「疊韻唱和詩稿」編、1846「大清楼百絶」、「水国詩草」「砕玉残光」「大清楼百律」「小金遺事」「慎齋詩稿」著、  
 [慎齋(；号)の字/通称]字；公勤、通称；儀兵衛/太清(；隠居後)
- E2218 信齋(しんさい・大郷おおごう)、名；良則) 1772/4-184473-71 江戸儒者/越前鯖江藩士；藩儒芥川思堂門、江戸の昌平齋入学；林述齋門/述齋創設の麻布学問所(城南読書楼)の教授、1813鯖江藩江戸三田小山邸学問稽古所取締役/41丸の内辰口邸に移転した惜陰堂の教授、兔園会員；滝沢馬琴・屋代弘賢と交友、「忠経註」「道聴塗説」「心学臆見論」「春湊記」、1800「釈奠私議」01「遊囊贖記ゆうのうようき」、「知道詩篇」「記録解題」「信齋文集」外著多数、  
 [信齋(；号)の字/通称/別号]字；伯儀、通称；金蔵、別号；麻布学究、法号；信良院
- 02248 晋齋(しんさい；号・太田おた) ? - ? 江後期文政1818-30頃大坂京町堀二丁目の医者、1827「按腹図解」著、「曹大家女誠図会」の国訳
- E2219 眞齋(しんさい・高野たかの)、名；進すむ、広部延康男) 1787-185973 儒者；高野春華の養嗣子；1803家督嗣、1839越前福井藩儒者見習教授/江戸藩邸出仕/藩儒・書院番/近習に列す、詩歌に長ず、1855(安政2)藩校明道館創設時に教授；57致仕、兵法/琵琶に通ず、「片玉集」「眞齋百詩」、「眞齋百詠」「眞齋雞録」「眞齋道中詩歌」「孝経会説」「心愛風屋叢書」、「眞齋遺草」、外著多数、「静観舎八勝」編、藩主松平春嶽の「東海紀行」を清書(；天保申辰東海紀行)

[夜もすがら風に落葉の音ききて降らぬしぐれに袖ぬらしけり]、

(松平春嶽[古今百人一首]入;92)、

[真齋(;号)の字/通称/法号]字;徳卿、通称;半右衛門、法号;雪月華真齋居士、勉の父、

- E2220 辰齋(しんさい・柳々居りゅうじゅうきよ) ?-? 絵師:葛飾北齋門、  
1808真顔「月霄鄙物語」画、1811「烹雑の記」画
- 02249 眞齋(しんさい・西村にしむら、名;瑛、養庵男)1790-1831<sup>42</sup> 長門萩藩医/1818頃上京;医を修学、  
詩:頼山陽門、帰郷後も山陽に添削を乞う、「学剣南齋稿」著、  
[真齋(;号)の字/通称]字;玉瑛、通称;義真
- 02250 信齋(しんさい・井田いだ/修姓:田、名;経綸/寛、字;子裕) ?-? 江後期漢学者、  
1820「知道詩篇」-27「諸葛孔明伝註」著
- 02251 新齋(しんさい・中村なかむら、名;弘毅) ?-1834 京儒者、麩屋町二条北/高倉竹屋町北/二条堺町東等住、  
1789「道の栞」1811「父子訓」23「女訓三の道」30「思斉漫録」、「閑度雑談」著、松圃の父、  
[新齋(;号)の字/通称/別号]字;士卿/士郷、通称;安右衛門、別号;梅華
- 02252 信齋(しんさい・中村なかむら、名;元敬)1796-1859<sup>64</sup> 江戸の外科医、  
1829「医譚牽牛花の実」47「塾中記聞」、「医務」「種痘弁」著、  
[信齋(;号)の字/通称]字;君儀、通称;玄三
- 02253 晋齋(しんさい・神じん、名;惟孝)1800-1866<sup>67</sup> 備前邑久郡虫明の医者/漢学者、  
1830京の一条新町に住、1846佐藤一齋の紹介で丹波篠山藩江戸詰抱え儒者;藩邸に住、  
1856致仕隠居、市河米庵・摩島松南・祝星船・頼杏坪・篠崎小竹と交流、  
1843「大学述義」、「居業余録」、「鴉片本末論評」、「外夷備考」、「草茅危言摘議」著、  
[晋齋(;号)の字/通称]字;伯友、通称;讓助
- 02254 心齋(しんさい・杉原すぎはら、名;直養、平左衛門男) ?-1868 江戸の儒者;昌平覺に修学;  
佐藤一齋・安積良齋門、1840幕府儒官/一ノ丸留守居/1863致仕隠居、季七郎の父、  
1833「数雅」編/37「彩雅」48「名雅」、「戚雅」、「七雅」、「容雅」、「莫須篇」、「名雅総目」著/「靈雅」編、  
[晋齋(;号)の字/通称/別号]字;浩然、通称;平助/平介、別号;緑静堂
- E2221 心齋(しんさい・小川おがわ、名;弘、政詮男)1816-70<sup>55</sup> 越後北蒲原郡島潟村代々郷長;1833(18歳)郷長、  
儒;新発田の丹羽思亭門/程朱学;安積良齋門、治水に尽力、安井息軒・芳野金陵と交流、  
新発田藩士/維新の際は勤王派として藩主・家老に助力、「北越春秋」「国邑誌」「古歌韻解」、  
1850「策府」、「鎌倉史」「北海文集」著、「北海遺稿」、  
[心齋(;号)の字/通称/別号]字;道甫、通称;五平、別号;北海/北海野史
- E2222 進齋(しんさい・有井ありい、名;範/通称;範平、要蔵男)1830-89<sup>60</sup> 阿波徳島の儒者:那波鶴峰門、  
のち岩本贅庵門、徳島藩校長久館助教、維新後;陸軍参謀本部編纂課員/東京府師範教員、  
「論語論文」「補標史記評林」著、「進齋遺稿」

進齋(しんさい・箕浦)	→	立齋(りつさい・箕浦みのうら、藩士/儒者)	B 4 9 8 6
真濟(しんさい)	→	真濟(しんぜい、真言僧)	2 2 3 9
真齋(しんさい)	→	常矩(つねのり・田中、俳人)	2 9 1 2
真齋(しんさい・殿村)	→	茂濟(しげまさ・殿村とのむら、米穀商/歌人)	C 2 1 9 8
真齋(しんさい・小川)	→	正方(まさかた・小川おがわ、医者/歌人)	B 4 0 9 5
真齋(しんさい・森)	→	春濤(しゅんとう・森もり、詩人)	K 2 1 3 2
真齋(しんさい・森川)	→	常倫(つねとも・森川もりかわ、藩士/和学者)	G 2 9 6 2
真宰(しんさい・松本)	→	交山(こうざん・松本/上条、茶屋/絵師)	J 1 9 3 1
真柴(しんさい・檜廼屋)	→	眞柴(ましば・檜廼屋ならのや、狂歌師)	I 4 0 8 9
真際(しんさい)	→	業智(なりさと・中山、幕臣/平曲)	H 3 2 3 5
信齋(しんさい・永井)	→	尚政(なおまさ・永井、藩主/連歌、狂歌?)	C 3 2 3 5
信齋(しんさい・村井)	→	親長(ちかなが・村井、藩士/儒者)	B 2 8 4 1
信齋(しんさい・今枝)	→	近義(ちかよし・今枝、家老/書簡)	C 2 8 1 8
信齋(しんさい・井東)	→	弦齋(げんさい・井東いとう、儒者)	J 1 8 0 7
信齋(しんさい・秀島)	→	鼓溪(こけい・秀島ひでしま、庄屋/儒/教育)	M 1 9 2 8
信齋(しんさい・佐藤)	→	寛雄(ひろお・佐藤さとう、神職/地誌家)	F 3 7 5 9
信齋(しんさい・三木)	→	整(ただし・三木みき、大庄屋/神職)	Z 2 6 6 7

辛齋(しんさい・唐崎)	→	信通(のぶみち・唐崎からさき、神職/国学)	H 3 5 9 6
慎齋(しんさい・藤井)	→	見隆(けんりゅう・藤井ふじい、医者)	M 1 8 8 0
慎齋(しんさい・加藤)	→	信成(のぶなり・加藤、儒/医/歌人)	C 3 5 6 0
慎齋(しんさい・勝見)	→	二柳(じりゅう・勝見かつみ、俳人)	D 2 2 2 0
慎齋(しんさい・池田/松平)	→	冠山(かんざん・松平、藩主/和漢学/文筆)	D 1 5 8 0
慎齋(しんさい・小川)	→	白堂(はくどう・小川おがわ/杉山、藩医/詩)	D 3 6 7 1
慎齋(しんさい・岸)	→	汝裕(じょゆう・岸きし/吉田、幕臣/詩文)	M 2 2 8 6
慎齋(しんさい・西田)	→	惟明(これあき・西田、藩士/医者)	O 1 9 1 0
慎齋(しんさい・市瀬)	→	惟長(これなが・市瀬いちせ、和算家)	O 1 9 6 1
慎齋(しんさい・浦)	→	元襄(もとまさ・浦うら/国司、家老/日記)	E 4 4 3 2
慎齋(しんさい・田中)	→	蘭齋(らんさい・田中たなか、藩士/書家)	C 4 8 1 5
慎齋(しんさい・奥村)	→	尚寛(なおのぶ/なおひろ・奥村おくむら、藩年寄/歌)	C 3 2 0 2
慎齋(しんさい・宮川)	→	政運(まさかず・宮川/松岡/志賀、随筆家)	B 4 0 7 8
慎齋(しんさい・木原)	→	桑宅(そうたく・木原きはら、儒者/藩士)	K 2 5 3 7
慎哉(しんさい・牛島)	→	五一郎(ごいちろう・牛島うしじま、和算家)	1 9 5 8
心齋(しんさい)	→	善左衛門(ぜんざえもん・横浜、藩士/文筆)	M 2 4 3 4
心齋(しんさい・加藤)	→	行虎(みちたけ・加藤/柴田、医者/歌人)	B 4 1 7 4
心齋(しんさい・伊勢)	→	貞敦(さだあつ・伊勢/平/竹中、故実家)	H 2 0 7 1
心齋(しんさい・横浜)	→	善左衛門(ぜんざえもん・横浜よこはま、藩士)	M 2 4 3 4
心齋(しんさい・奈島)	→	清良(きよよし・奈島なじま、神職/国学)	U 1 6 8 9
新齋(しんさい・湯浅)	→	進良(のぶよし・湯浅ゆあさ、藩士/典故)	D 3 5 9 2
新齋(しんさい・篠本)	→	竹堂(ちくどう・篠本ささもと/佐治、幕臣/儒)	D 2 8 5 8
新齋(しんさい・水野)	→	皓山(こうざん・水野みずの、本草家)	J 1 9 3 0
申齋(しんさい・衢く/辻林)	→	喜右衛門(きえもん・辻林つじばやし、本草家)	F 1 6 0 0
申齋(しんさい)	→	五来(ごらい・福田ふくだ、商家/俳人)	F 1 9 9 2
申齋(しんさい・隆徳りゅうとく)	→	隆徳(りゅうとく;号・申齋、歌人)	L 4 9 2 5
伸齋(しんさい・英笑)	→	英松(英笑えいしょう、絵師)	D 1 3 0 2
辰齋(しんさい・山本)	→	雪亭(せつてい・山本やまもと、棋士;碁)	L 2 4 2 5
臣哉(しんさい・吉田)	→	孤山(こざん・吉田よしだ、藩士/儒者)	M 1 9 5 8
晋齋(しんさい・賀川)	→	秀益(しゅうえき・賀川かがわ/太田、医者)	W 2 1 6 8
晋齋(しんさい・藤塚)	→	知雄(ともお・藤塚ふじつか、神職/国学)	W 3 1 2 6
晋齋(しんさい・堤)	→	宣信(のりのぶ・堤つつみ、医者/歌人)	J 3 5 1 9
榛齋(しんさい・宇田川)	→	玄真(げんしん・宇田川うだがわ、医/蘭学者)	C 1 8 3 8
蓼齋(しんさい・真鍋)	→	豊平(とよひら・真鍋まなべ、神職/琴譜/歌)	R 3 1 5 2
眇齋(しんさい・永井)	→	星渚(せいしよ・永井/大江、漢学者)	C 2 4 1 1
神齋(しんさい・山崎)	→	範古(のりひさ・山崎、藩家老/系譜作成)	F 3 5 5 1
震齋(しんさい・歌川)	→	貞房(さだふさ・歌川/大沢、絵師)	F 2 0 5 1
震齋(しんさい・高木)	→	凝式(なりり・高木たかぎ、商家/儒・歌)	N 3 2 7 1
審齋(しんさい・石河)	→	正養(まさかひ・石河いしこ/越智、藩士/国学)	B 4 0 6 6
審齋(しんさい・小林)	→	利安(としやす・小林こばやし、歌人)	V 3 1 1 6
信材(しんざい/のぶき・武野)	→	宗瓦(そうが・武野たけの/武田、茶人)	G 2 5 4 3

2223 仁齋(じんさい・伊藤いとう、名;維楨これさだ、商人伊藤長勝男)1627-1705<sup>79</sup> 元和泉堺の商家;

祖父長之の時上京、母;里村紹巴の孫の那倍、京の儒者/1654病気のため家業を弟に譲渡、堀川で家塾;古義堂、古義学;論語孟子を重視、堀川学派:門弟3千、詩歌を嗜む、「童子問」「論語古義」「攝行録」「孟子古義」「四書古義」「易経古義」「中庸発揮」「反切濫觴」、「性善論」「極論」「仁齋文集」「仁齋日誌」「愚詠和歌」「古学先生和歌集」「古学先生詩文集」、「古学先生雑書」外著多数、

[天地万物われより貴きはなく往古来今われより尊きはなし 天性をもってなり]、  
(古学先生文集)、

[風渡る竹の枯葉をそのままに梢にとむるささがにの糸]、

(松平春嶽[古今百人一首]入;54)、

[仁齋の幼名/字/通称/別号]幼名;源吾/源七郎、字;源佐げんすけ、通称;鶴屋七右衛門、  
別号;敬齋/裳隱、諡号;古学先生

[仁齋の子息] 堀川の五蔵ごぞうと称された;

原蔵(東涯)/重蔵(梅宇)/正蔵(介亭)/平蔵(竹里)/才蔵(蘭岬)

02255 初齋(じんさい・遠藤えんどう、名;量平)?-? 江後期文政天保1810-44頃陸中南部の儒者、詩文、  
1813「医穀」15「初齋雑話」、「漫録」「実語教微解」「駁水余稿」著、

[初齋(;)号]の字/別号]字;甫識、別号;大義堂/東奥処士

02256 初齋(じんさい・中根なかね、名;容/字;公黙、通称;半仙)1798-1849<sup>52</sup> 江戸の医者;越後高田藩士、  
詩/書/篆刻、1843「詩韻自在」「続々詩語碎金」、49「続々詩語碎金後編」著、  
「半仙小稿」「詠物百首」著、

[初齋(;)号]の別号] 玄石/閑徒老人/間健老人

E2223 任齋(じんさい・雲谷うんや/兵藤、水野忠2男)1827-89<sup>63</sup> 美濃大垣藩士兵藤瀨の養子、藩士;藩校典籍、  
国学;鬼島(富樫)広蔭門/儒;菱田毅齋・塩谷宕陰門、故あって[雲谷うんや]と改正、  
維新後;権大講義/岐阜県伊奈波神社祠官、私塾を開設;子弟教育、「日本外史標注」著、  
[任齋(;)号]の名/字/通称/別号]名;弘ひろし、字;毅卿、通称;雄次郎/寛介、

別号;坐馳/截石せつせき/好古先生

甚齋(じんさい) → 読耕齋(どっこうさい・林、儒者) O 3 1 4 8

仁齋(じんさい・藤懸) → 則定(のりさだ・藤懸ふじかけ、藩士/記録) E 3 5 5 4

初齋(じんさい・三分一所) → 景明(かげあき・三分一所さんぶいっしょ、儒者) K 1 5 6 6

真柴庵(しんさいあん) → 素鳩坊(そにゅうぼう、俳人) K 2 5 2 8

E2224 塵哉翁(じんさいおう、姓名不詳)?-? 江後期江戸番町住の文筆家;「北廓事譚」著、  
1829随筆「巷街贅説こうがいぜいせつ」(七巻255条1791-1855の世情記録)著、

E2225 新宰相(しんさいしょう・上東門院じょうとうもんいんの、参議藤原広業女)?-? 母;安部信行女、家経の同母姉妹、  
初め三条天皇に出仕?/上東門院彰子の女房/1031彰子の石清水・天王寺・住吉御幸に随行、  
藤原通房病没時に北の方と贈答?(栄花物語;宰相の君)、歌;後拾遺1070(;)住吉随行時)、  
[都出でて秋より冬になりぬれば久しき旅の心地こそすれ](後拾遺;雑1070)

02257 新宰相(しんさいしょう・伏見院ふしみいん、藤原親忠女)?-? 1319存 伏見天皇の東宮時から出仕、  
1288伏見天皇即位式の扈從女房を務める、1317天皇に殉じ出家、京極派歌人、兼行の妹、  
1293伏見天皇永仁元年内裏御会5首/97八月十五夜歌合/99五種歌合/1303仙洞五十番歌合、  
1304歌合/05三月歌合など参加、拾遺現藻・藤葉・後葉集入、  
勅撰29首;玉葉(13首100/334/394/771/1242以下)続千載(3首)、  
風雅(12首385/423/581/728/741/805/1044以下)新拾遺(153)、  
[なべて世はくれこそゆくは春雨のはるるか雲のひまのしらめる](玉葉;一100/夕春雨)  
[永仁二年(1294)三月内裏三首歌に山路落花を、

こずゑよりちりかふ花を先だてて風の下行く志賀の山道](藤葉集;春73)

E2226 新宰相(しんさいしょう・光明院、世尊寺定兼女)?-? 鎌倉末南北期京極派歌人;光厳上皇に出仕、  
1343院六首歌合参、1352南朝方により光厳・光明・崇光天皇が賀名生に移住の時も近侍、  
風雅集4首(1018/1043/1399/1874)、光厳院新宰相典侍こうごんいんのしんさいしょうのすけと同一?、  
[なき名ぞとわが心にもこたへばやその夜の夢のかごとばかりは](風雅;恋1018)

E2227 新左衛門(しんざえもん、散位中原経相女)?-? 平安中期女房;後朱雀天皇梅坪女御の生子に出仕、  
関白藤原師実家or頼通家女房、図書頭藤原季綱の妻、のち尼、歌;後拾遺3首246/297/907、  
1038源大納言師房家歌合に参加の[新衛門]と同一か?、  
後拾遺歌人の小左近こさこんの妹、

[忘れにし人に見せばや天の川忌まれし星の心ながさを](後拾遺;246/薄情な男への怨)、  
(星合話はめったに会えなくなるとして男女間では忌言葉/逆に愛情の息の長さを羨む)

参照 → 新衛門(しんえもん、源師房家女房) D 2 2 5 4

→ 小左近(こさこん、女房/歌人) C 1 9 6 3

2224 新左衛門(しんざえもん・曾呂利、本名;杉本甚右衛門/or坂内宗拾)?-1603? 豊臣秀吉の御伽衆;寵臣、  
業は鞆師;鞆が刀を差入れる時そろりと納まるので異名が付いたという、歌・茶・香を嗜む、

頓智が働く、のち伝説化する

- 02258 信左衛門(しんざえもん・平尾ひらお、名;信享、東条琴台男)1818-9881 幼少時父母離婚、祖父他山に養育される、1838祖父平尾家の相続;美濃岩村藩士;馬廻/郡奉行、藩校知新館教授、勤王派の領袖;1857・68の2度幽閉、維新後宮内省出仕、「平尾家由緒書」著、[信左衛門(;通称)の別通称]録蔵じゅうぞう、下田歌子(女学校創設/歌人)の父、
- 祖父 → 他山(たざん・平尾ひらお、藩士/儒/詩文)O2694
- 新左衛門(しんざえもん・多賀) → 高忠(たかただ・多賀たが、武将/故実) C2693
- 新左衛門(しんざえもん・進藤) → 忠綱(ただつな・進藤、家司/連歌) P2685
- 新左衛門(しんざえもん・池田) → 正存(まさあり・池田/藤原、武家/古典)B4020
- 新左衛門(しんざえもん・柳生) → 宗矩(むねのり・柳生やぎゅう、藩主/剣術)C4219
- 新左衛門(しんざえもん・中島) → 元行(もとゆき・中島/二階堂、武将/軍記)E4457
- 新左衛門(しんざえもん・中村) → 宗卜(むねしめ・中村なかむら、武将/城主)E4210
- 新左衛門(しんざえもん・中野) → 正仲(まさなか・中野なかの、藩士/歌人)U4021
- 新左衛門(しんざえもん・菅沼) → 定虎(さだとら・菅沼すがぬま、幕臣/詩歌)I2094
- 新左衛門(しんざえもん・田代) → 松意(しょうい・田代たしろ、俳人) Q2285
- 新左衛門(しんざえもん・服部) → 嵐雪(らんせつ・服部はつとり、俳人) 4806
- 新左衛門(しんざえもん・北川) → 尚亭(しょうてい・北川/寺西、藩士/儒者)U2238
- 新左衛門(しんざえもん・北条) → 元氏(もとじ・北条ほうじょう、旗本/軍学)L4422
- 新左衛門(しんざえもん・本多) → 助芳(すけよし・本多ほんだ、藩主/国学)J2323
- 新左衛門(しんざえもん・原) → 久胤(ひさたね・原はら、歌人) B3732
- 新左衛門(しんざえもん・山高) → 信賢(のぶかた・山高やまたか、幕臣/歌人)K3529
- 新左衛門(しんざえもん・山本) → 基房(もとふさ・山本やまもと、藩士/文筆)E4421
- 新左衛門(しんざえもん・古今、都万太夫座座本) → 古今新左衛門(こきんしんざえもん・村山)M1914
- 新左衛門(しんざえもん、池田) → 正存(せいそん・藤原、古典注釈) C2454
- 新左衛門(しんざえもん・いづつ屋) → 徳圃(とくほ、揚屋主人/俳人) L3136
- 新左衛門(しんざえもん・中山) → 宗春(むねはる・中山なかやま、神道/歌人)E4211
- 新左衛門(しんざえもん・小笠原) → 長直(ながなお/おさなお・小笠原、幕臣)F3201
- 新左衛門(しんざえもん・早野) → 巴人(はじん・早野はやの、俳人) 3618
- 新左衛門(しんざえもん・馬場) → 八風(はつふう・馬場、俳人/和漢学) F3630
- 新左衛門(しんざえもん・河村) → 春雄(はるお・河村、国学者) G3603
- 新左衛門(信左衛門しんざえもん・野村) → 東臯(とうこう・野村/野、藩士/儒者)3109
- 新左衛門(しんざえもん・出口) → 治左衛門(じざえもん・出口でぐち、歌人/茶)T2152
- 新左衛門(しんざえもん・石野) → 広温(ひろはる・石野いしの、幕臣/記録)G3794
- 新左衛門(しんざえもん・夏川) → 秀隆(ひでたか・夏川なつかわ、藩士/歌人)K3745
- 新左衛門(しんざえもん・橘屋) → 以南(いなん・山本、名主/俳人/勤王)B1179
- 新左衛門(しんざえもん・橘屋) → 由之(よしゆき・山本、以南男/良寛弟/国学/歌)K4731
- 新左衛門(しんざえもん・茗荷屋) → 菊年(きくねん・藤井、紺屋/俳人) K1621
- 新左衛門(しんざえもん・香川) → 午谷(ごこく、香川かがわ、藩士/詩人) M1945
- 新左衛門(しんざえもん・村上) → 眞澄(ますみ・村上むらかみ、藩士/国学)J4024
- 新左衛門(しんざえもん・岸) → 栗里(ぞくり・岸きし、阿波の儒者) J2555
- 新左衛門(しんざえもん・横町) → 徳風(とくふう・富田/陸、商家/儒/国学)L3133
- 新左衛門(しんざえもん・今藤) → 惟宏(これひろ・今藤いまふじ、藩士/教育)O1980
- 新左衛門(しんざえもん・荘原/冷泉) → 古風(ひさかせ・冷泉/荘原、医者/国学)3792
- 新左衛門(しんざえもん・三上) → 是庵(ぜあん・三上みかみ、藩士/儒者) 2446
- 新左衛門(しんざえもん・村田) → 清風(せいふう・村田むらた、藩士/歌人) C2495
- 新左衛門(しんざえもん・村山) → 芝塙(しゅう・村山むらやま、藩士/儒者) B2123
- 新左衛門(しんざえもん・新庄) → 道雄(みちお・新庄/藤原、商家/国学者)B4126
- 新左衛門(しんざえもん・大塚) → 水石(すいせき・大塚おつか、藩士/儒者)E2374
- 新左衛門(しんざえもん・山瀬) → 遊圃(ゆうほ・山瀬やませ、藩士/文筆家)D4676
- 新左衛門(しんざえもん・山本) → 正繩(まさただ・山本やまもと/源、藩士/歌)L4093



新左衛門(しんざえもん・山本)→ 泰世(やすよ・山本やまもと/橘、国学/歌人) G 4 5 9 9  
 新左衛門(しんざえもん・渥美)→ 友嵩(ともたか・渥美あつみ、藩士/国学/歌) T 3 1 9 9  
 新左衛門(しんざえもん・安部)→ 勝貞(かつさだ・安部あべ/山県、藩士) T 1 5 3 2  
 新左衛門(しんざえもん・岡内)→ 幸盛(ゆきもり・岡内おかうち/平、医者/歌) G 4 6 7 0  
 新左衛門(しんざえもん・佐伯)→ 種孚(たねたか・佐伯さえき、藩士/国学者) X 2 6 1 4  
 新左衛門(しんざえもん・引田)→ 利亮(としすけ・引田ひきた、藩士/神職/歌) W 3 1 1 7  
 新左衛門(しんざえもん・北条)→ 氏曄(うじあき・北条ほうじょう/伊勢いせ、藩士/詩) E 1 2 8 7  
 新左衛門(しんざえもん・山本屋)→ 貞麿(さだまる・菊池さくら、里正/歌人) O 2 0 3 7  
 新左衛門(しんざえもん・網屋)→ 敬直(あつなお・安田やすだ、網屋惣兵衛/本陣) I 1 0 6 0  
 伸左衛門(しんざえもん・檜原)→ 国徳(くにのり・檜原ならはら、藩士/歌人) E 1 7 3 9  
 伸左衛門(しんざえもん・上井)→ 覚兼(かくけん・上井・大神・諏訪、武将/連歌) B 1 5 4 4  
 伸左衛門(しんざえもん・丸山)→ 霞江(霞紅かこう・丸山まるやま、俳人) L 1 5 5 9  
 信左衛門(しんざえもん・小出)→ 松斎(しょうさい・小出こいで、藩士/国学者) J 2 2 0 2  
 進左衛門(しんざえもん・川添)→ 為敏(ためとし・川添かわぞえ、国学/歌) W 2 6 6 2  
 震左衛門(しんざえもん・松下)→ 筑陰(ちくいん・松下まつした、藩士/儒者) C 2 8 5 1

- F2211 **甚左衛門**(じんざえもん;通称・渡辺わたなべ)?-? 江前期加賀金沢藩士、  
 1694-95(元禄7・8)藩主が飛騨高山城在番中の作事奉行奥村直氏配下で活動、  
 「飛州高山在番御普請方御入用帳」著、小左衛門当由(越中富山藩士)の兄
- E2228 **甚左衛門**(じんざえもん・市川いちかわ、名;正好、正伯男)1675-1757<sup>83</sup> 尾張藩士;1707上松奉行/郡奉行、  
 木曾奉行;木曾の林政改革を推進、「市川甚左衛門勤覚書」著
- E2229 **甚左衛門**(初世じんざえもん・大和山やまとやま)1677-1721<sup>45</sup> 上方の歌舞伎役者、  
 1707京の早雲座の安達三郎左衛門作「石山寺誓の湖ちかいのみずうみ」に高富百太郎役で出演、  
 この狂言で病後の坂田藤十郎の得意芸[やつし事]の紙子を譲り受ける;[やつし芸]継承、  
 こののち無名に近かった甚左衛門が藤十郎後継者として有名になる
- 02259 **甚左衛門**(じんざえもん・人見ひとみ、名;栄智、大洲藩士国領正盛2男)?-? 1743<sup>存</sup> 伊予大洲藩士:  
 人見茂左衛門栄将の養嗣子、養家継嗣;150石、長浜詰目付、  
 1743伊吹左介2男尚栄を養子とし隠居、1740「大洲秘録」著
- 02260 **甚左衛門**(じんざえもん・高見たかみ/初姓;大野、島屋大野家2男)1784-1864<sup>81</sup> 高見家養子/信州松本住、  
 書肆慶林堂を興す、国学:本居宣長・平田篤胤門、狂歌・俳諧を嗜む、十返舎一九と交流、  
 1816「文化十三年江都紀行」著、豊田利忠[善光寺道名所図会]製作に関与、  
 [甚左衛門(;通称)の幼名/名/別通称/号]幼名;菊二郎、名;常庸/宜智、別通称;年八/与市、  
 号;文の舎千鶴ふみのやせんかく/慶林堂知霍/(真蔦園)照樹、屋号;高見屋/高美屋
- 甚左衛門(じんざえもん・松延)→ 藤助(とうすけ・福松、浄瑠璃作者/俳) F 3 1 8 8  
 甚左衛門(じんざえもん・亀田)→ 末盛(すえもり・亀田/度会/堤、神職) F 2 3 7 9  
 甚左衛門(じんざえもん・大久保)→ 忠栄(ただよし・大久保、幕臣/詩人) R 2 6 2 5  
 甚左衛門(じんざえもん・鶉殿)→ 長快(ながよし・鶉殿うどの、幕臣/文筆) G 3 2 4 4  
 甚左衛門(じんざえもん・鶉殿)→ 鳩翁(きゅうおう・鶉殿うどの/熊倉、幕臣/歌) S 1 6 8 9  
 甚左衛門(じんざえもん・明石)→ 慶弘(よしひろ・明石あかし、藩士/兵法家) G 4 7 6 0  
 甚左衛門(じんざえもん・松倉)→ 嵐蘭(らんらん・松倉まつくら、俳人) 4 8 0 7  
 甚左衛門(じんざえもん・野原)→ 蘭二(らんじ・野原のはら、俳人) C 4 8 4 0  
 甚左衛門(じんざえもん・松屋)→ 士川(しせん・松岡、酒造業/俳人) E 2 1 3 7  
 甚左衛門(じんざえもん・柳本)→ 正興(まさおき・柳本やなぎもと、名主/俳人) B 4 0 5 0  
 甚左衛門(じんざえもん・長/長谷部)→ 桃妖(とうよう・長/長谷部、旅宿業/俳人) H 3 1 7 3  
 甚左衛門(じんざえもん・袋屋/岩橋)→ 秀栄(ひでなが・岩橋、歌学) D 3 7 4 4  
 甚左衛門(じんざえもん・宮重)→ 信義(のぶよし・宮重、幕臣/儒/国学) D 3 5 8 6  
 甚左衛門(じんざえもん・奥島/山本)→ 景興(かげおき・山本、家老/国学) K 1 5 8 3  
 甚左衛門(じんざえもん・漆戸)→ 茂喬(しげたか・漆戸うるしど/源、藩士/国学) R 2 1 2 5  
 甚左衛門(じんざえもん・熊代)→ 繡江(しゅうこう・熊代/神代くましる、通事/絵師) H 2 1 3 6  
 甚左衛門(じんざえもん・友国)→ 容肃(ようしゆく・友国、俳人) B 4 7 1 6

- 甚左衛門(じんざえもん・西川)→ 勝基(かつもと・西川にしかわ、和算家) N 1 5 9 1  
 甚左衛門(じんざえもん・朝比奈)→ 玄洲(げんしゅう・朝比奈あさいな、藩士/儒者) E 1 8 8 9  
 甚左衛門(じんざえもん・内藤/浦野)→ 布磧(ふせき・浦野うらの、俳人) C 3 8 9 2  
 甚左衛門(じんざえもん・羽生)→ 谷守(たにもり・羽生、里正/俳人) R 2 6 7 5  
 甚左衛門(じんざえもん・玉上)→ 允資(ちかすけ・玉上たまがみ、歌人) B 2 8 0 5  
 甚左衛門(じんざえもん・設楽)→ 貞丈(さだとも・設楽しだら/菅原、幕臣/本草) I 2 0 9 3  
 甚左衛門(じんざえもん・橋本)→ 庸正(つねまさ・橋本はしもと、国学者) G 2 9 1 7  
 甚左衛門(じんざえもん・新井)→ 直務(なおちか・新井あらい、里正/国学者) K 3 2 8 9  
 甚左衛門(じんざえもん・小谷部)→ 春宣(はるのぶ・小谷部おやべ/沢藤、国学) J 3 6 8 2  
 甚左衛門(じんざえもん・質屋・森)→ 宜周(よしちか・森もり、商家/歌人) P 4 7 6 3  
 甚左衛門(じんざえもん・質屋・森)→ 宜中(よしなか・森もり、宜周男/商家) P 4 7 6 4  
 甚左衛門(じんざえもん・岡田)→ 光隆(みつたか・岡田おかだ、国学者) I 4 1 5 3  
 甚左衛門(じんざえもん・川上)→ 親厚(ちかあつ・川上かわかみ、藩士/歌人) M 2 8 3 7  
 甚左衛門(じんざえもん・水野)→ 忠格(ただのり・水野みずの/松平、藩家老/歌) Z 2 6 7 6  
 仁左衛門(じんざえもん・小泉)→ 安定(やすさだ・小泉こいずみ、藩士/歌人) B 4 5 3 8  
 新左衛門正英(しんざえもんせいえい・東)→ 正英(まさひで・東あずま、槍術家) G 4 0 6 8  
 新左衛門尉(しんざえもんじょう・大胡)→ 修茂(のりしげ・大胡おおご、連歌) E 3 5 6 6  
 新相模三郎(しんさかみのさぶろう)→ 時村(ときむら・北条/平、幕臣/歌人) K 3 1 1 2
- E2230 **新作**(しんさく・並木なみき、別号;敬亭)?-? 江後期;1802洒落本評判記「花折紙」共著;蔵伎・自恐と
- E2231 **晋作**(しんさく・高杉たかすぎ、名;春風、春樹男)1839-6729 長門萩藩士/儒者;松陰門;久坂玄瑞と双璧、  
 長州藩都講、下関砲撃時に奇兵隊組織、「獄中手記」「投獄集」、「東行詩文集」「東行先生遺文」、  
 [面白き事もなき世におもしろく](辞世;望東尼の下句「住みなすものは心なりけり」、  
 を示され「おもしろういのう」と語り世を去ったという)、  
 [晋作(;通称)の字/別通称/号/変名]字;暢夫、別通称;東一/和助//和介、  
 号;東行とうぎょう・とうこう/西海一狂生/東洋一狂生/楠樹小史/赤間隠人/赤間密人、  
 市隠生/研海/些々生/黙生、変名;谷梅之助/谷潜蔵/備後屋助一郎/三谷和助
- 新作(しんさく・佐々城) → 朴安(朴庵ぼくあん・佐々城ささき、医者/本草) C 3 9 8 5  
 新作(しんさく・村松) → ぶらぶら山人(ぶらぶらさんじん、往来物作者) E 3 8 5 6  
 新作(しんさく・穎川) → 雅之(まさゆき・穎川えがわ/葉、通事) I 4 0 3 3  
 甚作(じんさく・玉上) → 允資(ちかすけ・玉上、歌人) B 2 8 0 5  
 甚作(じんさく・山中) → 明海(あきみ・山中、酒造業/本草家) D 1 0 9 2  
 甚作(じんさく・小林) → 見外(けんがい・小林こばやし、俳人) B 1 8 3 7  
 甚作(じんさく・及川) → 窓竹(そうちく;号・及川おいかわ、俳人) I 2 5 4 3  
 仁作(じんさく・森) → 春樹(はるき・森もり、商人/画/俳人) G 3 6 2 5
- 02261 **新朔平門院**(しんさくへいもんいん・名;清君/禊子、鷹司政熙女)1811-4737 母;豊岡尚資の養女斐子、  
 新新皇嘉門院の妹、兄の鷹司政通の養女、1924仁孝天皇の女御/のち従三位/准三宮、  
 1847皇太后、歌人;「新朔平門院御詠草」「新朔平門院御日記」著、  
 姉 → 新皇嘉門院(しんこうかもいん、女御、歌人) O 2 2 3 5
- 02262 **眞察**(しんさつ;法諱) 1670 - 174576歳 美濃の浄土僧;江戸伝通院の懷竜門;出家、  
 春岳門/さらに江戸増上寺・下総弘経寺・鎌倉光明寺で修学、1738京の知恩院住職、大僧正、  
 1692「伏虎録」、「十念章和解評」著、  
 [眞察(;法諱)の字/法名]字;即生、法名;名蓮社称誉/円阿
- 新里(しんざと・宗川) → 茂(しげる・宗川むなかわ、藩士/儒/教育) T 2 1 1 9
- E2232 **新三郎**(しんざぶろう・滝たき) ? - ? 歌舞伎作者、1821南北「三賀莊曾我島台」番付
- U2249 **新三郎**(しんざぶろう・小山こやま/本姓;藤原、名;眞親)?-? 江後期;歌人、松平安藝守(浅野)家家臣?、  
 1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、  
 [わたつみのなみなみならぬみるめかな磯山ざくら咲きの盛は]、  
 (大江戸倭歌;春283/海辺花)
- 新三郎(しんざぶろう・蠣崎/松前)→ 慶広(よしひろ・松前/源/蠣崎、藩主/連歌) G 4 7 5 6  
 新三郎(しんざぶろう・山岡)→ 元隣(げんりん・山岡、俳人/仮名草子) D 1 8 2 7

新三郎(しんざぶろう・松井)→ 道円(どうえん・松井まつい、医者/史家/画) B 3 1 5 9  
 新三郎(しんざぶろう・菅沼)→ 定秀(貞秀さだひで・菅沼/菅谷、幕臣) J 2 0 4 8  
 新三郎(しんざぶろう・小島屋)→ 常也(つねなり・小島、地誌家) C 2 9 9 1  
 新三郎(しんざぶろう・長井)→ 利恒(としつね・長井ながい、幕臣/歌人) X 3 1 4 6  
 新三郎(しんざぶろう・河村)→ 春雄(はるお・河村、国学者) G 3 6 0 3  
 新三郎(しんざぶろう・菊池)→ 半隠(はんいん・菊池、儒家、耕斎男) H 3 6 2 2  
 新三郎(しんざぶろう・佐善)→ 礼耕(れいこう・佐善さぜん、藩儒臣) 5 1 2 7  
 新三郎(しんざぶろう・中里)→ 常嶽(つねおか・中里なかざと、商家/歌人) B 2 9 7 8  
 新三郎(しんざぶろう・宇山/鳥山)→ 義所(ぎしょ・鳥山とりやま、儒者/尊王派) K 1 6 8 9  
 新三郎(しんざぶろう・尾形)→ 乾山(けんざん・尾形おがた、陶工/絵師) B 1 8 9 3  
 新三郎(しんざぶろう・熊谷くまや)→ 五右衛門(4代ごえもん・熊谷/熊屋、商家/藩政) L 1 9 7 4  
 新三郎(しんざぶろう・野村)→ 貞貫(さだつら;名・野村のむら、藩士/歌人) I 2 0 7 0  
 新三郎(しんざぶろう・伊勢屋)→ 息長(やすなが・神風かみかぜ/村木むらき/川村、商家/国学) F 4 5 7 6  
 新三郎(しんざぶろう・三上)→ 是庵(ぜあん・三上みかみ、藩士/儒者) 2 4 4 6  
 新三郎(しんざぶろう・高橋)→ 祐雄(すけお・高橋たかはし、藩士/代官/儒) G 2 3 1 1  
 新三郎(しんざぶろう・青木)→ 秀枝(ほつえ・青木あおき/丹治比、料理/尊攘/歌) G 3 9 1 3  
 新三郎(しんざぶろう・木下)→ 頼裕(よりひろ・木下きのした、商家/国学) M 4 7 3 6  
 新三郎(しんざぶろう・浅井)→ 政達(まさみち・浅井あさい/藤原、歌人) N 4 0 0 9  
 新三郎(しんざぶろう・本間)→ 光道(みつみち・本間ほんま、富豪/藩士/俳) K 4 1 4 6  
 新三郎(しんざぶろう・桜井)→ 頼直(よりなお・桜井さくらい、尊攘家) N 4 7 2 0  
 新三郎(しんざぶろう・渡辺)→ 玄包(はるかね・渡辺わたなべ、神職/国学) L 3 6 0 0  
 信三郎(しんざぶろう・松居)→ 南岱(なんたい・松居まつい、絵師) J 3 2 2 6  
 慎三郎(しんざぶろう・大原)→ 景寛(かげひろ・大原おおはら、農業/国学) T 1 5 9 7  
 慎三郎(しんざぶろう・鈴木)→ 忠告(ただつぐ・鈴木すずき/鈴樹、国学) X 2 6 7 2  
 稔三郎(しんざぶろう・島崎)→ 正樹(まさき・島崎しまさき、庄屋/国学者) C 4 0 2 9  
 沈三郎(しんざぶろう・山本)→ 錫夫(せきふ;字・山本、医者/本草家) K 2 4 4 4  
 諶三郎(しんざぶろう・小貝)→ 諸文(もろぶみ・小貝おがい、商家/歌人) J 4 4 4 4  
 甚三郎(じんざぶろう・みすや)→ 定雅(ていが・西村、戯作/俳人) 3 0 4 1  
 甚三郎(じんざぶろう・本田/小間切)→ 天明老人(てんめいろうじん、大工/狂歌) E 3 0 3 7  
 甚三郎(じんざぶろう・細井)→ 平洲(へいしゅう・細井、農家/藩儒/詩) 2 7 0 2  
 甚三郎(じんざぶろう・桔梗屋/佐々木)→ 季遊(きゆう・佐々木、寄筈ききょう、俳人) M 1 6 1 7  
 甚三郎(じんざぶろう・分部)→ 光庸(みつね・分部わけべ、藩主/歌) K 4 1 9 7  
 甚三郎(じんざぶろう・谷口)→ 玉蘭(ぎょくらん・谷口、俳人) D 1 6 1 0  
 甚三郎(じんざぶろう・内藤)→ 笨庵(ほんあん・内藤ないとう、儒者) E 3 9 9 0  
 甚三郎(じんざぶろう・平)→ 帰一(きい・平たいら、西洋兵学者) J 1 6 5 8  
 甚三郎(じんざぶろう・松平)→ 義堯(よしとか・松平まつだいら、幕臣) D 4 7 9 9  
 甚三郎(じんざぶろう・荒巻)→ 苔路(たいろ・荒巻あまき、俳人) C 2 6 3 8  
 甚三郎(じんざぶろう・久貝)→ 正典(まさのり・久貝くがい、幕臣/歌人) G 4 0 2 3  
 甚三郎(じんざぶろう・朝夷/井上)→ 厚生(あつなり・朝夷あさいな、藩士/文筆) E 1 0 7 1  
 甚三郎(じんざぶろう・中田)→ 正路(まさみち・中田なかつ、旗本/鷹匠) H 4 0 5 7  
 甚三郎(じんざぶろう・榎本)→ 高羽子雄鳥(たかほごどり、榎本、狂歌) D 2 6 4 9  
 甚三郎(じんざぶろう・野田)→ 千町(ちまち・野田のだ、藩士/国学/歌) F 2 8 4 1  
 甚三郎(じんざぶろう・宮田)→ 則成(のりなり・宮田みやた/藤原、藩士/国学) K 3 5 1 1  
 甚三郎(じんざぶろう・高橋)→ 仲善(ちゆうぜん・高橋、和算家) G 2 8 5 2  
 甚三郎(じんざぶろう・森本)→ 眞弓(まゆみ・森本もりもと、商家/国学/歌) P 4 0 3 5  
 仁三郎(じんざぶろう・嶋)→ 英琳(えいりん・嶋しま、絵師) C 1 3 0 8  
 仁三郎(じんざぶろう・浅見/松田)→ 伝十郎(でんじゅうろう・松田、幕臣/樺太探検家) D 3 0 7 7  
 新三(しんさん・長束)→ 正家(まさいえ・長束なつか、武将) B 4 0 3 0

1701「東叡山現竜教院阿弥陀堂記」著

E2233 **真山**(しんざん・松下まつした/初姓;坂上、名;慶績)1667-1746<sup>80</sup> 越前の儒者:1687(21歳)上京;  
儒;伊藤坦庵門、儒/医;松下見林門/1697見林の娘婿;松下家を継嗣、  
讃岐高松藩主松平家の儒医、  
「真山文集」「真山詩集」「神代卷講義」「神代卷博考」「宗廟社答問」著、秀山の父  
[真山(;号)の字/通称]字;子節、通称;宗櫟/見櫟

02264 **榛山**(しんざん・池田いけだ、通称;浅太郎)?-? 江後期上州佐波郡境町の絵師、画系未詳、  
詩文;鈴木広川門、1830「農余詩草」

深山(しんざん;組連) → 深山(みやま;組連、雑俳) F 4 1 9 9

秦山(しんざん・谷) → 重遠(しげとお・谷、神道/儒・南学) 2 1 1 3

秦山(しんざん・篠野) → 一方(いっぽう/かずまさ・篠野ささの、医/狂歌詩) H 1 1 9 2

秦山(しんざん・土方) → 久元(ひさもと・土方ひじかた、藩士/政治家) K 3 7 7 5

信山(しんざん・永島) → 安産(あんりゅう・永島、医者/引水工事) D 1 0 1 6

新参(しんざん・正平廿年和歌) → 幸子内親王(さちこないしんのう、南朝歌人) C 2 0 7 2

神山(しんざん・小林) → 忠良(ただよし・小林こばやし、農業/和算家) R 2 6 3 5

震山(しんざん・朝倉) → 震陵(しんりょう・朝倉あさくら、絵師) Q 2 2 1 5

薪山(しんざん・原田) → 鶴斎(せきさい・原田はらだ、医者/詩歌) K 2 4 0 4

02265 **仁山**(じんざん・井伊い、名;友直)?-? 江後期武蔵忍藩士、詩人/画を嗜む、  
1844「朱之藩咏物」編、

[仁山(;号)の字/通称/別号]字;成美、通称;弥市/源左衛門、別号;鳳陵

仁山(じんざん・井元) → 仁山(にんざん・井元、詩/書) G 3 3 4 1

仁山(じんざん・加賀山) → 潜産(せんりゅう・加賀山かがやま、藩蘭医) N 2 4 3 1

深山斎(しんざんさい・みやまさい) → 広出(こうしゅつ・顕井あきらい、歌人) J 1 9 5 7

心山子(しんざんし) → 岑延(みねのぶ・竹内、自安/商家/歌人) F 4 1 5 1

新三位(しんさんみ) → 玄津(げんしん:法諱、天台僧/連歌) K 1 8 1 6

E2234 **親子**(しんし・藤原ふじわら、藤三位とうさんみ、藤原親国女)1021?-93<sup>73</sup>? 母;高階光衡女、藤原隆経の室、  
顕季の母、白河天皇の乳母;白河天皇在位中に正三位/従二位に至る、  
歌人;1091(寛治5)「従二位親子草子合」主催、後拾遺2首(37・444)、  
[数知らずかさなる年を鶯の声するかたの若菜ともがな](後拾;春37)  
(正月七日周防内侍に贈る歌/鶯に聞き惚れ摘む[積む]を忘れる若菜と思いたい)、  
[親子(;名)の通称]藤三位/従二位親子

E2235 **親子**(しんし、ちかこ・藤原、光俊[眞観]女)?-? 鎌倉期中歌人、1246春日若宮社歌合(;鷹司帥と参)、  
1251閑窓撰歌合(;民部卿と参)/56基家家百首歌合(;民部卿と参)/65亀山殿五首歌合参加、  
1265十五夜歌合(;鷹司帥と参)参加、後一条関白実経が通ってきたことがある、万代集入、  
勅撰35首;続後撰(829/869/967)続古(10首76/343/535/以下)続拾(9首)新後撰(6首)以下、  
[夜さむなるあはれ有明の月影にいかにかおきわかるらん](続後撰;恋829)、  
[藤原親子の女房名]典侍親子朝臣/尚侍家中納言/中納言典侍/後嵯峨院中納言典侍  
姉妹;鷹司帥・後一条関白家民部卿

E2236 **親子**(しんし、ちかこ・北畠きたばたけ/本姓;源、実父;中院源具氏)?-? 北畠師親養の養女、鎌倉期歌人、  
伏見天皇に東宮時代より近侍、1287典侍/1301尊悟親王を出産、従三位/1417までに出家?、  
前期京極派歌人;1293伏見天皇永仁元年内裏御会/1299伏見院五種など歌合多数に参加、  
「中務内侍日記」に入、家集「権大納言典侍ごんだいなごんのてんじ集」、勅撰52首;  
新後撰(490/1128)玉葉(30首・詞1首/61/123/198以下)続千載(4首)風雅(15首)新拾(1首)、  
[ながめみる月ばかりだにかなしきに風さへ秋の色に吹くなり](永仁元年内裏御会;6)、  
[親子(;名)の通称]典侍親子/権大納言典侍、

E2237 **慎子**(しんし、2世秋瓜男)?-? 俳人、1799「多少庵句集後篇」編(;父の句の拾遺)

02267 **慎思**(しんし・松本まつもと)?-? 江後期江戸の本草家;鈴木良知門、  
1807岩崎灌園に同行し相模大山に採葉、1805「北游紀行」-07「相模州紀行」著

U2264 **親子**(しんし/ちかこ?・井伊い、南部利正女)1764<sup>or71</sup>-1836<sup>73or66</sup> 近江彦根藩主井伊直中の正室、  
歌人、直亮(1794-1850/藩主)・中頭(1799-1852)の母、法号;親光院

信子(しんし・源) → 国信女(くにざねのむすめ・源、藤原忠通室/基実母) 1 7 6 6  
 信之(しんし・木村) → 信之(のぶゆき・木村きみら、歌人) I 3 5 1 4  
 信之(しんし・吉岡) → 信之(のぶゆき・吉岡よしおか、藩士/国学) K 3 5 3 2  
 岑嗣(しんし・出雲/菅原) → 岑嗣(みねつぐ・菅原/出雲、医官) F 4 1 5 0  
 晋子(しんし) → 其角(きかく・榎本/宝井、俳人) 1 6 0 5  
 晋賜(しんし・青方) → 簡斎(かんさい・青方あおかた、藩家老/洋学) Q 1 5 6 5  
 真之(しんし・千村) → 拙庵(せつあん・千村ちむら、医者) K 2 4 6 5  
 真指(しんし・齋藤) → 眞指(まさし・齋藤さいとう、国学/歌人) P 4 0 9 4  
 眞嗣(しんし・大橋) → 眞嗣(眞継まつぐ・大橋おおはし、歌人) J 4 0 7 0  
 身之(しんし・字・堀) → 南湖(なんこ・堀ほり、儒/医者) I 3 2 9 1  
 身之(しんし・後藤) → 椿庵(ちんあん・後藤ごとう、医者) K 2 8 5 6  
 信之(しんし)すべて → 信之(のぶゆき)  
 信子(しんし・東久世) → 信子(のぶこ・東久世ひがしくぜ/柳沢、歌人) J 3 5 7 9  
 信志(しんし→のぶただ) → 信忠(信志のぶただ・南条なんじょう、藩士) B 3 5 8 5  
 信思(しんし→のぶもと) → 信親(のぶちか・内藤、藩主/老中) C 3 5 0 2  
 深志(しんし・古海) → 深志(ふかゆき・古海ふるみ、神職/国学) I 3 8 6 9  
 震志(しんし・清河/齋藤) → 八郎(はちろう・清河/清川、教育/尊攘) F 3 6 0 1  
 申之(しんし・鈴木/亀田) → 鶯谷(おうこく・亀田かめだ/鈴木、儒者) C 1 4 1 3  
 進之(しんし・河村/北条) → 悔堂(かいどう・北条ほうじょう、儒者) H 1 5 1 8  
 進士(しんし・牧園) → 茅山(ぼうざん・牧園まさぞの、藩儒) B 3 9 1 9  
 進士(しんし・浅島) → 正樹(政樹まさき・浅島あさじま/源、藩士/国学) N 4 0 1 2  
 親之(しんし・小川) → 親之(ちかゆき・小川、俳人) C 2 8 5 3  
 親之(しんし・川副) → 親之(ちかゆき・川副かわぞえ、狂歌) L 2 8 1 0  
 親之(しんし・口羽) → 杷山(はざん・口羽くちば/大江、藩士/儒) E 3 6 3 4  
 親子(しんし・戸田) → 親子(ちかこ・戸田とだ/島津、藩主室/歌) N 2 8 0 2  
 蓁子(しんし・伊達) → 蓁子(しげこ・伊達だて、藩主女/藩主室) Z 2 1 2 5  
 審之(しんし・西村) → 太沖(たちゅう・西村/蓑谷、暦算家) R 2 6 4 8

U2278 慎治(しんじ・菊池きくち、通称;長策) 1789-1872<sup>84</sup> 伊予宇和島国木村の庄屋、国学;二宮正禎門歌;正禎歌稿「伊予すだれ」入

信治(しんじ/のぶはる?・梨本) → 稲長(とうちよう・梨本、俳人) G 3 1 4 6  
 信治(しんじ・中山) → 信治(のぶはる・中山なかやま、藩当主/和学) J 3 5 3 9  
 信慈(しんじ・松平) → 信庸(のぶつね・松平、藩主/学問奨励) C 3 5 1 5  
 新治(しんじ・種/種村) → 箕山(きざん・種村たねむら、儒者/詩) F 1 6 3 9  
 新治(しんじ・丹羽) → 謝庵(しゃあん・丹羽/藤、儒者/絵師) F 2 1 9 9  
 新治(新次しんじ・西宮/西野) → 宣明(のぶあき・西宮にしのみや、藩士/国学) 3 5 7 7  
 親時(しんじ・平) → 親時(ちかとき・平たいら、廷臣/歌人) O 2 8 0 3  
 森治(しんじ・森屋治兵衛) → 軒東(けんとう・錦森堂きんしんどう、書肆/戯作) L 1 8 6 6  
 進治(しんじ・恩田) → 蕙楼(けいろう・恩田おんだ、藩士/儒者) 1 8 9 7  
 進治(進次しんじ・関) → 元洲(げんしゅう・関せき、藩士/儒者) D 1 8 8 4  
 眞事(しんじ・久永) → 眞事(まこと・久永ひさなが、幕臣/歌人) 4 0 7 7  
 眞滋(しんじ・梅谷) → 眞滋(ましげ・梅谷うめや、本陣/国学) O 4 0 0 2

E2285 甚子(じんじ) ? - ? 加賀鶴来の女流俳人、1690北枝「卯辰集」入、  
[寒き夜の雨だりすごき寝覚哉](卯辰集;441)

E2238 甚四(じんじ) ? - ? 黒本作者:1746「錦戸合戦」(歌舞伎を草子に)

尋子(じんじ・徳川) → 光圀室(みつくにのしつ・徳川、奉姫、歌人) D 4 1 3 5  
 尋枝(じんじ・田島) → 尋枝(ひろえ・田島たじま、商家/国学者) K 3 7 0 3  
 人似(じんじ) → 人似(にんじ、俳人) G 3 3 4 2  
 親子朝臣(しんしあそん・典侍、弘安百首入) → 尚侍家中納言(しょうじけちゅうなごん) N 2 1 2 0  
 眞字垣(しんじえん) → 眞風流(眞古まふる・高寺たかでら、国学/歌) Q 4 0 6 6

- 深識(しんしき;字) → 実掌(じつしょう;法諱、真言僧) E 2 1 1 9
- 02268 神識(じんしき;法諱) ? - 1865 江後期能登の真宗大谷派浄蓮寺住職:頓成門、  
1853「異部宗輪論述記講録」54「因明入正理論大疏記」56「諸神本懷集講義」、  
「一流安心御文聞書」「改悔文講義」「散善義二種深心講義」「報国御書講義」著、  
[神識(;法諱)の別法諱/号]別法諱:恵明、号;威光院
- 眞治齋(しんじさい) → 梅春(ばいしゅん・狩野かのう、絵師) B 3 6 5 2
- 02269 尋思齋(じんしさい・鈴木すずき、名;温/公温) 1744-1804 61 京の儒者:西依成齋門、1794「南遊示蒙」著、  
[尋思齋(;号)の字/別号]字;沢父、別号;潤齋
- 神子山(しんしざん・三輪) → 執斎(しっさい・三輪みわ/沢村/大村/真野、儒者/歌) E 2 1 8 8
- U2202 新七(初世しんしち・河竹かわたけ) 1747-95 49 父は能楽師?、歌舞伎作者;堀江勘次門?、  
門田候兵衛・中村重助・桜田治助門?、1764中村座顔見世興行に名/1769二枚目作者、  
1778森田座で立作者/80中村座立作者;1年後活動を止める、浄瑠璃作者としても活動、  
1775常磐津「垣衣恋写絵(しのぶぐさこいのうつしえ)」「葱売しのぶり」、78「伊達錦対将だてにしきついのゆみとり」、  
1779「江戸名所録曾我」「倭歌うたくらべ当世模様」/80「紅白粉四季染」「極翻きてかえる錦壮貌」、  
1781「色里透くるわがよい小町曾我」「けいせい嶋原軍談」「信太長者柱」外著多数、  
[新七(;名)の幼名/通称/号]幼名;竹三郎、通称;進三、号;能進/能進齋/竹翁  
法号;积貞遊
- 02270 新七(しんしち・玉沢屋たまざわや、姓;佐々木) ?-? 江後期尾張名古屋長者町の書肆:常磐津本を刊行、  
1860刊「歌沢糸の調初篇」著、  
[新七(;通称)の別通称/屋号]別通称;初世峯沢式治、屋号;玉沢屋
- 新七(しんしち・茶屋) → 一笑(いっしょう・小杉こすぎ、俳人) B 1 1 4 9
- 新七(しんしち・井口) → 常範(つねのり・井口いぐち、医者/天文) D 2 9 1 2
- 新七(しんしち・栗山) → 満光(みつてる・栗山くりやま、歌人) D 4 1 9 3
- 新七(しんしち・久徳) → 重恭(しげやす・久徳きゆうとく、藩士/詩人) S 2 1 9 6
- 新七(しんしち・三重) → 松庵(しょうあん・三重みえ/平、儒;陽明学) Q 2 2 8 1
- 新七(しんしち・藤屋) → 舞閣(ぶかく、揚屋主人/俳人) B 3 8 3 3
- 新七(2世しんしち・河竹、吉村) → 黙阿弥(もくあみ・河竹・古河、歌舞伎作者) 4 4 0 2
- 新七(しんしち・坂本屋;書肆) → 種員(たねかず・柳下亭、長編合巻作者) 2 6 4 2
- 新七(しんしち・河竹) → 久助(2世きゆうすけ・福森、歌舞伎作者) C 1 6 0 7
- 新七(進七しんしち・若林) → 強斎(きょうさい・若林わかばやし、儒者/詩歌) C 1 6 5 0
- 新七(しんしち・有馬) → 正義(まさよし・有馬/坂木/榊、藩士/勤王) I 4 0 7 0
- 新七(しんしち・小津) → 信厚(のぶあつ・小津おつ/長井/大泉、国学) H 3 5 5 9
- 晋七(しんしち・平井/山田) → 常典(つねのり/つねすけ・山田/源、国学/歌) D 2 9 2 0
- 震七(しんしち・和田) → 厳足(いづたり・和田、藩士/歌人) 1 1 2 3
- 慎七(しんしち・遠藤・長島) → 蒼山(そうざん・遠藤・長島、俳人) H 2 5 5 0
- 甚七(じんしち・村井) → 白扇(はくせん・村井、商人/俳人) D 3 6 5 2
- 甚七(じんしち・板屋/松村) → 巴文(はぶん・松村、俳人) F 3 6 6 1
- 甚七(じんしち・藤田) → 正兼(まさかね・藤田ふじた、歌人) C 4 0 1 8
- 甚七(じんしち・長崎) → 義護(よしもり・長崎ながさき、藩士/歌人) O 4 7 2 3
- 甚七(じんしち・西村) → 時弘(ときひろ・西村にしむら、家老/国学) W 3 1 0 2
- 02271 新七郎(しんしちろう・中根なかね、彦循げんじゅん[1701-61]男) ?-? 江中期京の暦算家;父門、  
「中根新七郎書状」著
- 震七郎(しんしちろう・和田) → 厳足(いづたり・和田、藩士/歌人) 1 1 2 3
- 新七郎(しんしちろう・飯川) → 光範(みつなり・飯川いがわ、武将/連歌) G 4 1 9 0
- 新七郎(しんしちろう・藤堂) → 良精(よしきよ・藤堂とうどう、城代/大将) N 4 7 9 9
- 新七郎(しんしちろう・藤堂) → 蟬吟(せみぎん・藤堂、良精男/俳人) 2 4 2 7
- 新七郎(しんしちろう・三重) → 松庵(しょうあん・三重みえ/平、儒;陽明学) Q 2 2 8 1
- 新七郎(しんしちろう・朝岡) → 国隆(くにたか・朝岡あさおか/藤原、幕臣/歌) B 1 7 6 4
- 新七郎(しんしちろう・木室) → 白鯉館卯雲(はくりかんぼううん、幕臣/狂歌/嘶本) 3 6 1 2
- 新七郎(しんしちろう・竹内/松永) → 薊斎(けいさい・沖、藩士/儒者) E 1 8 6 9

進七郎(しんしちろう・河村)→ 秀穎(ひでかひ・河村かわむら、藩士/国学者) C 3 7 8 9  
 甚七郎(じんしちろう・赤座/永原)→ 孝知(たかとも・永原/赤座、藩士) M 2 6 4 7  
 甚七郎(じんしちろう・吉村)→ 光甫(みつとし/みつよし・吉村、国学者/画) E 4 1 0 2  
 眞室(しんしつ・文室) → 眞室(真屋まむろ・文室ふんや、廷臣/詩) L 4 0 1 9  
 信質(しんしつ・北原) → 稲雄(いなお・北原きたはら、国学者) I 1 1 0 4  
 親実(しんじつ・平) → 親実(ちかざね・平たいら、連歌作者) 2 8 9 3  
 親実(しんじつ・裏松/堀河)→ 親実(ちかざね・堀河/藤原、廷臣/歌) 2 8 9 4  
 真実(しんじつ・鈴木) → 真実(まさね・鈴木、藩士/国学/歌) C 4 0 6 2  
 真実(しんじつ・鍋島) → 誠(まこと・鍋島なべしま/松平/龍造寺、国学) Q 4 0 0 3  
 信実(しんじつ・原田) → 信実(のぶざね・原田はらだ、歌人) G 3 5 8 2  
 塵室(じんしつ) → 残夢(ざんむ・高橋、歌学) 2 0 5 7  
 振思亭(しんしつ) → 夢宅(むたく・桃沢ももさわ、名主/歌学) 4 2 8 6

E2240 進子内親王(しんしなしのう、伏見天皇皇女)?-? 1376存 母:藤原[坊門]基輔女(後伏見院兵衛督)、  
 南北期後期京極派歌人:永福門院内侍の姪;叔母と播磨に下向/1343頃上洛/45内親王宣下、  
 1343頃「院六首歌合」/46「貞和百首」/54「花園院七回忌法華経要文和歌」56「延文百首」参加、  
 1370-76「百番歌合」/1370-71「仙洞歌合」/1376頃「永徳[永和]百首」出詠、女房歌人に春日、  
 勅撰47首;風雅(28首8/85/198/205以下)新千(4首205/493以下)新拾(5首)新後拾(214)以下、  
 [のどかなるけしきを四方よにもおしこめて霞ぞ春のすがたなりける](風雅集;一春8)  
 [忍しのび音ねはふけてやきくと時鳥いもねぬ夜半をかさねてぞ待つ]、  
 (新千載;夏205/延文百首;122)

「枕草子絵巻」の筆者か?、尼門跡[光照院]を開くか?

母方叔母 → 永福門院内侍(えいふくもんいんのないし、京極派歌人) 1 3 4 5

母方祖父 → 基輔(もとすけ・坊門ぼうもん/藤原、歌人) C 4 4 6 8

E2241 親子内親王(しんしなしのう/ちかこ、幼称;和宮かずのみや、仁孝天皇皇女) 1846-77早世<sup>32</sup>

母:橋本実久女典侍経子、1861内親王/62將軍徳川家茂の妻:公武合体策として降嫁、  
 1866家茂と死別;薙髪、1867天璋院(篤子)と江戸無血開城を嘆願;成功、  
 湯治中箱根塔の沢の宿で没、

歌人:「静寛院宮詠草」「静寛院御短冊」「静寛院宮御墨蹟」「六所玉川短冊」外多数、  
 [親子内親王(;名)の通称]薙髪後の通称;静寛院宮

禎子内親王家撰津(しんしなしのうけのせつ、新勅撰の誤り→禎子内親王撰津ていしなしのうけのせつ)

→ 撰津(せつ・二条太皇太后宮、藤原実宗女) E 2 4 5 8

進子内親王家春日(しんしなしのうけのかすが)→ 春日(かすが、女房/歌人) D 1 5 5 5

親慈悲成(しんじひなり) → 慈悲成(じひなり・桜川、銚職/戯作/落語) 2 1 3 0

心車(しんしゃ、号名) → 恵範(けいはん・六地藏寺3世、15-6ct真言僧) G 1 8 5 6

心車(しんしゃ、号名) → 恵範(えはん・六波羅蜜寺7世、17ct真言僧) B 1 3 6 7

新車(しんしゃ、俳名) → 門之助(ものすけ・市川、歌伎役者) 初~4世; I 4 4 3 7 ~ I 4 4 4 0

信舎(しんしゃ・荷田/羽倉)→ 信舎(のぶや・荷田かた/羽倉、神職/国学) H 3 5 8 7

信錫(しんしゃく・山本) → 学半(がくはん・山本やまもと、儒者) K 1 5 3 9

E2242 信寂(しんじやく;法諱、俗名;高階信平[俊平]、高階助順男)?-? 平安中期廷臣;1037中宮大進、  
 従四下/丹後守、出家;天台僧;近江飯室(横川塔の別所;宝満寺)に住、  
 歌人;後拾遺(413;信寂法師名)・金葉(Ⅲ162/173;俊平名)、玄々集入(俊平;加賀守名)、  
 弟;入道君(今昔物語24算術語入)、  
 [思ひやれ雪も山路も深くして跡絶えにける人の住みかを](後拾;冬413/飯室にて)、  
 [信寂(;法諱)の通称] 丹後入道

02272 信寂(しんじやく;法諱・通称;朝日山信寂)?-1244 播磨加東郡朝日山の東麓の堂に隠棲、  
 のち浄土僧:源空(法然)門、洛東鳥部山に結庵、「慧命義」著;  
 「慧命義」は高弁の「摧邪輪」(源空「選択本願念仏集」批判)への反駁書、  
 1243遠江横路の西蓮の要請で遠州に赴く、仏性・顕実・楽信の師

心寂(しんじやく;法名) → 淳光(あつみつ・柳原やなぎわら/町、廷臣/記録) E 1 0 8 4

眞寂(しんじやく;法名) → 俊憲(としのり・藤原ふじわら、廷臣/歌人) N 3 1 3 0

- 眞寂(しんじやく:法名) → 頼資(よりすけ・藤原/勘解由小路/四辻、権中納言/歌) I 4 7 7 7  
 眞寂(しんじやく) → 斉世親王(ときよしのう、仁和寺僧) K 3 1 3 3  
 眞種(しんじゆ・檜垣) → 眞種(まさたね・檜垣ひがき、文筆家) D 4 0 6 1  
 眞守(しんじゆ・後藤) → 眞守(まもり・後藤/枚岡、国学者/神職) K 4 0 1 3  
 眞守(しんじゆ・梅村) → 眞守(まもり・梅村うめむら/坂本/金子/小林/平、勤王家) O 4 0 0 1  
 眞守(しんじゆ・平野) → 眞守(まもり・平野ひらの、歌人) S 4 0 1 4  
 眞守(しんじゆ・肥丹) → 眞守(まもり・肥丹ひたん/高橋、神職/国学) S 4 0 0 6  
 岑守(しんじゆ・小野) → 岑守(峰守みねもり・小野おの、廷臣/詩人) 4 1 3 5  
 信守(しんじゆ・中山) → 信守(のぶもり・中山なかやま/松平、家老) G 3 5 6 9  
 深守(しんじゆ・法諱) → 深守法親王(しんじゆほつしんのう、門跡/歌) E 2 2 4 9  
 W2206 眞珠(しんじゆ:法諱) ? - ? 平安鎌倉期;南都の僧/法師、  
 歌人;1237刊[檜葉集]入、  
 [ゆく先のはるけきだにも苦しきにまた恋路にも思ひたつらむ](檜葉;恋441/羈中初恋)  
 W2212 眞珠(しんじゆ:法諱・菊苑)? - ? 鎌倉期;南都興福寺菊苑の童、  
 歌人;1237刊[檜葉集]入(童まつとの贈答)、  
 [承元の末(1211)三井寺の童まつ山階寺(興福寺)に移し侍りけるなごりに、  
 さまざまのけづりばなつかはしけるにそへ侍りける、  
 うつしやる花はものこそいはずともしたふ心のいろはみゆらむ](檜葉;雑673)、  
 まつ(松)の返歌あり(檜葉674)  
 E2244 辰寿(しんじゆ:俳名、富永平兵衛、西林軒)?-1699 大阪歌舞伎役/作者、初め役者;金子六右衛門門、  
 のち作者に転向;1680番付/83大阪大和屋甚兵衛座付作者、京大坂で活動/晩年は江戸へ、  
 大阪に没、御家騒動物を得意;元禄歌舞伎確立に寄与、俳人;1679俳撰集「道頓堀花みち」編、  
 1679「句箱」入集、1691(元禄4)「娘孝行記」92「鹿島之要石」93「丹波与作手綱帯」「心中八島」、  
 1694「業平河内通」96「鎌倉女郎花」(水島四郎兵衛と合作)外著作多数、「藝鑑」著、  
 信寿(しんじゆ・津軽) → 信寿(のぶひさ・津軽つがる、藩主/詩歌) C 3 5 9 5  
 信寿(しんじゆ・山高) → 信壽(のぶひさ・山高やまたか、藩士/国学者) K 3 5 3 0  
 信樹(しんじゆ・安部) → 信樹(のぶき・安部あべ/安倍、歌人) G 3 5 9 5  
 親寿(しんじゆ/ちかひさ・都丸) → 董庵(とうあん・都丸とまる、藩士/儒者) 3 1 8 8  
 辰壽(しんじゆ・真柳) → 泉溪(せんけい・真柳、藩士/兵学/俳人) M 2 4 1 5  
 真寿(しんじゆ;法諱) → 靈仙(れいせん;道号・真寿、黄檗僧) 5 1 4 8  
 真寿(しんじゆ・藤井) → 眞壽(まほぎ・藤井ふじい、神職/国学) S 4 0 2 6  
 真樹(しんじゆ・山口) → 眞樹(まさき・山口やまぐち、藩士/歌人) T 4 0 4 5  
 琴樹(しんじゆ・山内) → 琴樹(しげき・山内やまうち、神職/国学) Z 2 1 9 3  
 人主(じんじゆ・大綱) → 人主(ひとぬし・大綱おおよさみのきみ、万葉歌人) E 3 7 2 2  
 人主(じんじゆ・布勢) → 人主(ひとぬし・布勢朝臣ふせのあそん、防人部領使/進歌) E 3 7 2 2  
 尋守(じんじゆ;法諱) → 尊海(そんかい;法諱、真言/門跡/連歌) E 2 5 6 9  
 尋寿(じんじゆ・川上) → 尋寿(つねひさ・川上かわかみ、国学/歌) F 2 9 5 4  
 眞珠庵(しんじゆあん) → 如泉(によせん/じよせん・斎藤さいとう、俳人) G 3 3 0 4  
 新樹庵(しんじゆあん) → 湖十(7世こじゅう・深川、俳人) C 1 9 8 8  
 新樹庵(しんじゆあん) → 図大(とだい・花隈はなぐま、俳人) O 3 1 3 7  
 信寿院(しんじゆいん) → 日良(にちりょう;法諱、日蓮僧) D 3 3 6 4  
 信入院(しんじゆいん) → 日崇(にっそう;法諱・伝了、日蓮僧) E 3 3 8 5  
 眞寿院(しんじゆいん) → 信寧室(のぶやすのしつ・津軽つがる/松平、歌) J 3 5 0 9  
 眞就院(しんじゆいん) → 日荘(にっそう;法諱・淳道、日蓮僧) E 3 3 9 2  
 02273 深秀(しんじゆう;法諱) ? - ? 江前期元和1615-24頃の真言僧、  
 武州吉見村の息障院住;法印、1622「道号式目」、「引導能印抄」著/「一字金輪護摩次第」補填  
 E2245 信舟(しんじゆう;号・植村うゑむら、棹中斎とうちゅうさい、信安[棹歌斎]男)?-? 京の俳人、信水[棹川斎]の弟、  
 1731父信安の追善集「月の夜駕籠」(兄信水と共編)  
 02274 眞洲(しんじゆう;法諱) ? - ? 江中期天台盛門(天台真盛宗)僧;伊勢西来寺住、



1733「円戒国師和解伝」、「竜宝山西来寺歴代記」著

V2244 **進修**(しんしゅう・疋田ひきだ、松平藤八郎久照2男) 1700-3738 出羽庄内藩士の家の生、  
庄内藩家老疋田帯刀重陽の婿養子;1720(享保5)家督嗣;1千石/番頭、  
儒学(闇齋学);佐藤直方門/荻生徂徠門;古文辞学(徂徠学)に転向、  
同門の水野元朗と共に徂徠に質問;徂徠の返答「徂徠先生答問書」(のち徂徠学入門書)、  
1737(元文2)江戸下谷藩邸で急死、2男2女の父、妻の妹は渡辺(疋田)松岡まつおか(才女)、  
[進修(;通称)の名/字/号]名;久邦、字;子業、号;九臯

信就(しんしゅう・吉川) → 信就(のぶなり・吉川、藩士/随筆) C 3 5 6 4  
信就(しんしゅう・大脇) → 信就(のぶなり・大脇、系譜編) C 3 5 6 5  
信就(しんしゅう・川口) → 信就(のぶなり・川口かわぐち/本多、幕臣/国学) H 3 5 9 8  
信秀(しんしゅう・橋本) → 信秀(のぶひで・橋本はしもと、神職/国学) J 3 5 5 9  
信周(しんしゅう・川瀬) → 鳳声(ほうせい・川瀬かわせ、藩士/俳人) B 3 9 9 9  
信周(しんしゅう・小松) → 信周(のぶかね・小松こまつ、国学/歌人) I 3 5 4 4  
信緝(しんしゅう・県あがた) → 信緝(のぶつぐ・県、家老/日記) C 3 5 0 6  
信修(しんしゅう;字) → 履善(りぜん;法諱・信修、本願寺派僧) B 4 9 4 2  
進修(しんしゅう・松川) → 東山(とうざん・松川、儒者/詩人) E 3 1 5 5  
進修(しんしゅう・足代) → 立溪(りっけい・足代あじろ/度会、儒者) B 4 9 6 7  
真宗(しんしゅう;法諱) → 真宗(しんそう;法諱、天台僧/連歌) 2 2 4 9  
眞秋(しんしゅう・鳥屋) → 眞秋(まあき・鳥屋とや/山本、商家/国学) R 4 0 0 4  
眞秀(しんしゅう・高橋) → 筱斎(えきさい・狩谷かりや、国学/漢学者) 1 3 0 7  
眞懺(しんしゅう→まかじ・木村) → 豊平(とよひら・木村、医者/国学/歌) R 3 1 5 1  
親秋(しんしゅう;名) → 覚峰(かくほう;法諱、真言僧/国学) K 1 5 4 6  
神州(しんしゅう・村瀬) → 栲亭(こうてい・村瀬むらせ、儒者) 1 9 1 5  
神洲(しんしゅう・中川) → 善継(よしつぐ・中川なかがわ、眼科医/歌) O 4 7 1 5

02275 **信重**(しんじゅう・小鳥居ことりい、大鳥居おとりい信岩2男) 1604?-? 1679存(70余歳) 筑前の社僧/連歌、  
大鳥居信助しんじよの弟、久しく絶えていた小鳥居家を再興;継嗣、  
1640(寛永17)・45・47万句興行/福岡城内連歌会の連衆として参加、  
1660正月福岡城内御会百韻/63信兼重定等百韻に参加

E2246 **親十**(しんじゅう) ? - ? 大阪の俳人;立圃りゅうほ門、  
万治1658-61頃立圃「あだ花千句」連衆入

信充(しんじゅう・栗原) → 信充(のぶみつ・栗原、幕臣/故実家) 3 5 1 5  
信充(しんじゅう/のぶみつ・林) → 榴岡(りゅうこう・林はやし、幕府儒官) D 4 9 7 8  
信充(しんじゅう・松平) → 信充(のぶみつ・松平まつだいら/藤原、藩主/歌) G 3 5 6 2  
信充(しんじゅう・河原) → 信充(のぶみつ・河原かわはら、神職/国学者) I 3 5 0 3  
信従(しんじゅう・力丸/平尾) → 他山(たざん・平尾/力丸、藩士/儒者/詩) O 2 6 9 4  
信重(しんじゅう)すべて → 信重(のぶしげ)  
眞重(しんじゅう・鈴木) → 眞重(ましげ・鈴木/藤原、神職/国学) L 4 0 7 8  
親従(しんじゅう・大竹) → 雲夢(うんむ・大竹おおたけ、藩士/儒者) E 1 2 0 7  
親重(しんじゅう/ちかしげ・野々口) → 立圃(りゅうほ・野々口ののぐち、人形細工/俳人) 4 9 1 3  
森重(しんじゅう・山田) → 森重(もりしげ・山田やまだ、砲術家) F 4 4 4 7  
謙秀(しんじゅう・心山) → 心山(しんざん・謙秀、天台僧) O 2 2 6 3  
神從院(しんじゅういん) → 員從(かずより・萩原はざわら/卜部、神道家) V 1 5 3 9  
神習館(しんしゅうかん) → 鷹友(たかとも・狩谷かりや、国学者/歌人) M 2 6 4 8  
慎終軒(しんしゅうけん) → 当永(まさなが・横山よこやま、神道家) F 4 0 2 6  
神習舎(しんしゅうしゃ) → 信古(のぶふる/のぶひさ・今井、神職/国学) D 3 5 2 3  
神習舎(しんしゅうしゃ) → 東雄(あずまお・飯島/佐久良さくら/桜、国学/歌) 1 0 5 0  
神習舎(しんしゅうしゃ) → 頼因(よりくに・井上、国学者/歌人) I 4 7 6 0  
神習処(しんしゅうしょ) → 作楽(さくら・丸山、藩士/国学/詩歌) F 2 0 1 3  
信州中書王(しんしゅうちゅうしよおう) → 宗良親王(むねながしんのう) 4 2 0 8

E2247 **神秀法師**(しんしゅうほうし;号、姓名不祥)?-? 江前期江戸の浮世草子作者、

1707「千尋日本織ちひろやまとおり」著(湖十高散人の補填;東国中心の諸国奇談異聞短編集)、

新十郎(しんじゅうろう・大久保)→ 忠隣(忠鄰ただちか・大久保、藩主/幕政) P 2 6 8 0

新十郎(しんじゅうろう・大久保)→ 忠真(ただぎね・大久保、藩主/詩歌) F 2 6 0 9

新十郎(しんじゅうろう・池田)→ 治政(はるまさ・池田いけだ、藩主/日記) G 3 6 8 6

新十郎(しんじゅうろう・中里)→ 仲舒(ちゅうじょ・中里、幕臣/儒者) G 2 8 2 8

新十郎(新重郎しんじゅうろう・高柳)→ 信之(のぶゆき・高柳、俳人) D 3 5 6 9

新十郎(しんじゅうろう・鈴木)→ 莊丹(そうたん・高柳/鈴木、医者/俳人) C 2 5 4 8

新十郎(しんじゅうろう・山中)→ 直興(なおおき・山中やまなか、商家/和学) P 3 2 2 1

新十郎(しんじゅうろう・山中)→ 信広(のぶひろ・山中やまなか、商家/経済人) K 3 5 3 1

新十郎(しんじゅうろう・稲津/梁川)→ 星巖(せいがん・梁川やながわ、詩人) 2 4 0 5

新十郎(しんじゅうろう・佐枝)→ 種茂(たねしげ・佐枝さえた、藩士/城代) R 2 6 8 2

新十郎(しんじゅうろう・渡辺)→ 通朝(みちとも・渡辺わたなべ、国学/歌人) K 4 1 9 8

新十郎(信十郎しんじゅうろう・本間)→ 光泰(みつやす・本間ほんま、商家/神職/国学) K 4 1 4 7

信十郎(しんじゅうろう・西村)→ 貞堯(さだたか・西村にしむら、歌人) I 2 0 3 6

真十郎(しんじゅうろう・荒井/奥村)→ 景樹(かげき・香川、歌人) 1 5 1 2

晋十郎(しんじゅうろう・揚/上野)→ 弘斎(こうさい・揚あげ/上野あげの、藩士/国学) I 1 9 9 5

甚十郎(じんじゅうろう・加々爪)→ 忠澄(ただずみ・加々爪かがづめ、幕臣) P 2 6 6 7

甚十郎(じんじゅうろう・高成田)→ 琴台(きんたい・高成田たかなりた、藩士/経学) R 1 6 3 7

甚十郎(じんじゅうろう・平野)→ 元季(もとすえ・平野ひらの、藩士/弓道) L 4 4 1 5

甚十郎(じんじゅうろう・松田)→ 正迪(まさみち・松田まつだ、国学者/歌) S 4 0 6 9

神樹園(しんじゅえん) → 格誠(のりのぶ・川瀬かわせ/源、国学/歌) I 3 5 0 1

E2248 神叔(しんしゅく・青木あおき) ? - ? 江戸の神道家/俳人;其角門、1693其角「萩の露」入、1694嵐雪「或時集」跋、94轍士「誹諧此日」轍士「七車なぐるま集」其角「枯尾華」其角「句兄弟」入、1695嵐雪「芭蕉一周忌」1702轍士「花見車」07貴志「類柑子」入、其角・嵐雪の後援者、  
[蝸牛かたつぶり雪を這はほふか九月尽じん](花見車;三86/九月晦日も元氣;冬まで生きるか)

信祝(しんしゅく・松平) → 信祝(のぶとき・松平まつだいら、藩主/歌人) K 3 5 0 3

振肅(しんしゅく・前田綱紀)→ 松雲(しょううん・前田、藩主/藩政改革) F 2 2 3 2

秦酒公(しんしゅこう) → 酒(さけ・秦はた、酒公さけのきみ、歌謡作者) F 2 0 1 6

新樹堂(しんじゅどう) → 羅城(らじょう;号・恵階;法諱、真宗僧/俳人) B 4 8 3 9

真珠舎(しんじゅのや) → 巖男(いざお/よしお・広瀬、国学/歌) F 1 1 7 1

E2249 深守法親王(しんしゅほつしんのう、邦良親王3男)1324-9168 母;尾張局、南北期の僧;益助・益性親王門、1341出家/62親王宣下/二品、真言宗大覚寺門跡/権僧正、歌人;1350為世十三回忌和歌参加、75永和百首に出詠、勅撰17首;新千載(3首211/1454/2250)新拾遺(1218/1597)新後拾遺(7首)新続古今(5首)、  
[つれなさもかはらぬ比ころと時鳥去年こそふるごゑなほや待たれむ](新千;夏211)、  
[深守法親王(;法諱)の通称/法号]通称;大金剛院、法号;法界心院宮

02276 眞俊(しんしゅん;法諱、般若房)?- ? 平安末期肥後の天台僧;常楽寺の学僧、幼少時比叡山入;座主忠尋門;天台学修学/皇慶門;秘密灌頂を受、のち高野山で修行、心蓮門;南院流を受;顕密二教に精通、俊苒(しゅんじょう)に二教を授、  
「秘密莊嚴記」「俱舎論見聞雑記」著

V2265 信春(しんしゅん;法諱、) ? - ? 平安後期;大和の僧;法師、1127(大治2)堅者、歌;内山歌会参加、1237刊檜葉ならのは集4首入、  
[すみなれぬこころならはすほどばかりしばしなふきそ山おろしのかぜ]、  
(檜葉;雑699/はじめてまかりかよひける山家にて)

E2250 眞俊(しんしゅん;法諱) ? - ? 僧;法師、歌人、1364成立「新拾遺集」1851、  
[生きて世に住むとはいはじ数ならぬ身とだに我を知る人ぞなき](新拾;雑1851)

02277 信俊(しんしゅん;法諱) ? - ? 戦国期文明1469-87頃の天台僧、下野上三川の普門寺住僧;常陸千妙寺系の学僧(月山寺尊舜と同門)、権律師、  
「三百帖見聞」「眷属妙義法身自然精抄」「実成四教十妙義」「宗要抄上三川」「義科精抄」、  
「名別義通精抄」「九地接者精抄被撰義」「十如是義變易名言私」「梨耶一念」外著多数

- 真春(しんしゅん・朝比奈) → 真春(まさはる・朝比奈、歌人) G 4 0 4 4  
 真俊(真春しんしゅん;字) → 浄光(じょうこう;法諱、真言僧) I 2 2 8 2  
 親春(しんしゅん・大久保) → 要(かなめ・大久保おおくぼ、藩士/兵学) O 1 5 3 3  
 親俊(しんしゅん/ちかとし・曲直瀬) → 玄淵(げんえん・曲直瀬まなせ/今大路、医者) H 1 8 9 7  
 信俊(しんしゅん) 訓読はすべて → 信俊(のぶとし)  
 信春(しんしゅん) 訓読はすべて → 信春(のぶはる)
- E2251 眞淳(しんじゅん) ? - ? 連歌、1555興行「梅千句」連衆  
 W2238 眞純(しんじゅん) ? - ? 江中期;近江坂本の歌人/僧?  
 1722頃内海頭糺[倭譚五十人一首追加]入、  
 [つて聞きてたづぬる人の心さへ花になりゆく志賀の山越え](追加;尋花)
- 02278 信純(しんじゅん・姓不詳) ? - ? 筑前太宰天満宮の社僧、  
 連歌;1774-1805大鳥居信貫・信賢らと百韻多数
- 02279 眞淳(しんじゅん;法諱、普徹;字) 1736-1807 72 伊勢一身田の真宗高田派智慧光院住職、  
 内典;普寂・大雲門/外典;岡白駒・那波魯堂門、1775少僧都法眼/91大僧都法印、  
 1796高田派学頭/権僧正に至る、1804「一枚起請講録」、「高田三祖伝集成記」「東遊五絶」、  
 「頭正流義抄蒙引」「頭正流義鈔科文」「愚禿鈔科文」「愚禿鈔講録」「天明宝訓誘蒙記」外著多、  
 [眞淳(;法諱)の号] 竹隠/金光明院
- 02280 眞純(しんじゅん;法諱) ? - ? 江後期天台僧;比叡山無動寺法曼院住持、  
 のち正観院住寺/僧正/大僧正に至る、1838承真親王に法曼流灌頂を授、  
 1843円戒国師(真盛)350回忌執行導師、1826「当流重位十度伝授日記」37「胎金諸会印図」、  
 「西教寺中興円戒国師三百五十年忌胎曼茶羅供法則」外著多数
- 信順(しんじゅん・山高) → 信順(のぶより・山高やまたか、藩士/兵法) E 3 5 0 9  
 信順(しんじゅん;字) → 日題(にちだい;法諱・蓮華院、日蓮僧) C 3 3 7 9  
 信順(しんじゅん・郡司) → 信順(のぶより・郡司ぐんじ、鉄砲師) E 3 5 1 1  
 信順(しんじゅん・足立) → 信順(のぶより・足立あだち、幕臣/天文) E 3 5 1 2  
 信順(しんじゅん・住谷) → 信順(のぶより・住谷、藩士/日記) E 3 5 1 3  
 信順(しんじゅん・松平) → 信順(のぶより・松平、藩主/侍従/儒/歌) C 3 5 7 7  
 信順(しんじゅん・南部) → 信也(のぶなり・南部なんぶ、歌人) C 3 5 6 2  
 信順(しんじゅん・南部) → 信順(のぶゆき・南部なんぶ/島津、藩主) G 3 5 7 6  
 信順(しんじゅん・石川) → 安亭(あんてい・石川いしかわ、儒者) G 1 0 1 7  
 信順(しんじゅん・松田) → 三千雄(みちお・松田、酒造業/俳/詩人) B 4 1 2 7  
 信順(しんじゅん・社) → 信順(のぶより・社やしろ、神職/国学者) K 3 5 2 1  
 信惇(しんじゅん・今井) → 信惇(のぶあつ・今井いまい、神職/国学) H 3 5 4 0  
 眞純(しんじゅん・葛城) → 眞純(ますみ・葛城かつらぎ、神職/国学) O 4 0 9 2  
 親純(しんじゅん/ちかずみ・曲直瀬まなせ) → 玄鑑(元鑑げんかん・曲直瀬/今大路、医者) I 1 8 3 1  
 森準(しんじゅん・岡見) → 知周(ともちか・岡見おかみ、藩士/紀行) I 3 1 9 1
- 02281 深処(しんじょ・野呂のろ、名;公麟/公麟こうりん、松廬[1791-1843]男) ?-? 江後期紀伊和歌山藩儒、  
 1848「太平私記」編、  
 [深処(;号)の字/通称/別号]字;竜章、通称;八十一郎やそいちろう、別号;初庵じんあん  
 信処(しんじょ・森) → 信処(のぶさだ・森、儒/国学/記録) B 3 5 4 8
- 02282 信助(しんじょ;法諱・大金剛院;号、太政大臣堀川[源]基具男) 1297-1337 41 真言僧、  
 1316大覚寺仏母心院で後宇多法皇より灌頂を受/1329東寺三長者、仁和寺菩提院住、  
 1331「灌頂口決」著
- 02283 信助(しんじょ・大鳥居おとりい/本姓;菅原、信岩男) 1604-57 54 江前期社僧;  
 1628家督嗣;筑前太宰府天満宮司務別当/のち筑後水田天満宮に住;法橋、  
 家学の連歌作者;1791「寛政十三年九月廿五日玄中信助何人百韻」参加
- E2252 晋如(しんじょ、石内いしうち、大梅堂) ?-? 江中期俳人・沾洲門、  
 1716宗端(風葉)「江戸筏」独吟歌仙入、1725沾洲「百千万ひやくせんまん」入、  
 [橋に立つて繁花はんくわを嗅ぐや五月さつき売り](江戸筏;第九歌仙発句)、

(田舎から出てきた五月躑躅さつきつじ売りが町の賑わいを感じている)

- 02284 **信怒**(しんじょ;法諱・諦円;字) 1685-1763 79 下総葛飾郡二郷半の真言僧:迎撰院隆祐門;出家、長谷寺の英嶽門、のち武蔵金剛院住/1736江戸本所弥勒寺住/40護国寺住/護持院転住、権僧正/1746長谷寺24世/47正僧正、1760退隱、「泊瀬和歌集」「法花和歌集」、「論議私記」、「印信決私記」「疏草第七有慶記」「即身成仏義章玄譚」「論義稽古要慎記」外著多数
- 晋怒(しんじょ・井上) → 紀逸(2世きいつ・慶、俳人) 1 6 7 2  
信怒(信如しんじょ・本郷) → 弘斎(こうさい・本郷ほんごう、藩士/書) I 1 9 8 4  
信怒(しんじょ・石井) → 修三(しゅうぞう・石井いし、兵法家) X 2 1 8 6  
信怒(しんじょ・竹中) → 信怒(のぶひろ・竹中たけなか、家臣/歌人) J 3 5 0 2  
信如(しんじょ/のぶゆき・林) → 葛廬(かつろ・林はやし、幕府儒官) O 1 5 0 4  
仁怒(じんじょ;道号) → 仁怒(にんじょ;道号・集堯;法諱、臨濟僧/詩文) G 3 3 9 7
- 02285 **眞紹**(しんじょう;法諱、俗姓;池上?) 797-873 77 平安前期真言僧:はじめ東大寺で受戒;空海門、843実慧門;灌頂を受/847東寺二長者、856(斉衡3)より3年間五仏像を造り京東山に安置、863(貞観5)その地を禅林寺として開山、869少僧都、868「禅林寺遺制記」、「禅林十五条寺規」「伝法灌頂記」著、[眞紹(;法諱)の通称]禅林寺僧都/石山僧都
- 02286 **信証**(しんじょう;法諱、輔仁親王男) 1088-1142 55 後三条天皇の孫/若くして出家;真言宗仁和寺僧、仁和字寛助門;伝法灌頂を受/広沢流を相伝;西院に住し西院流を興す;その祖、1127権大僧都/28東寺長者/29法務兼任/33広隆寺別当/38僧正、1141鳥羽上皇落飾時の戒師、「阿字観抄」「住心抄」「住心決疑抄」「迷悟抄」「菩提心論私記」、「即身成仏信心鈔」「大日経住心鈔」「伝法要記」「密厳浄土依正観法」外著多数、[信証(;法諱)の通称]堀池僧正/法浄院僧正/三宮僧正
- E2253 **眞昭**(しんじょう;法諱、俗名;北条資時、北条時房男) 1199-1251 53 母;足立左衛門尉遠元女、1220出家、以後鎌倉幕府評定衆/三番引付頭、時政の孫/政子の甥、歌;1233藤原定家に歌才を認知される、勅撰22首;新勅撰(5首265/321/530/854/1272)続後撰(483/887/1305)、続古(4首621/974/1171/1713)続拾(2首)玉(2首)続千(1725)新拾(3首)、菟玖波集発句1句、[袖の上に露おきそめし夕べよりなれていくよの秋の月影](新勅;秋265)、[眞昭(;法諱)の通称]三郎/相模三郎、三郎入道、時村(行念)・時直の兄弟
- E2254 **信生**(しんじょう;法諱、俗名;塩谷[宇都宮]朝業・藤原、宇都宮成綱男) 1174?-1237? 64? 母;新院長盛女、宇都宮頼綱(蓮生)の弟、源朝義の養子、下野塩谷の領主、鎌倉将軍源実朝の家臣;近侍、1220頃出家;浄土宗西山派証空門、諸国遍歴、関東に没、歌人;「信生法師集」、東撰和歌六帖・新和集・雲葉集入、勅撰13首;新勅撰(611)続後撰(614/1213)続古(800/1631)以下、[ながむれば心のそらに雲消えてむなしきあとに残る月影](新勅;釈教611/中道観の心)
- E2255 **信承**(しんじょう;法諱) ? - ? 鎌倉期天台僧;安居院聖覚門/、法印、安居院流唱導家;唱導の法則・表白に関する著作;「法則集安居院流」著
- E2256 **信昭**(信照しんじょう;法諱)? - ? 1345存 僧侶・法師/連歌師・善阿門、鷲尾花下連歌管領、1312法輪寺千句参加、源氏物語の研究、古今連談抄に逸話、菟玖波20句入、[見る人をかへさぬ花のさかり哉](菟玖波集;発句)
- 02287 **眞生**(しんじょう;法諱) ? - ? 近江坂本の天台宗西教寺眞盛[しんせい1443-95]門;その高弟、1495「眞盛上人往生伝記」著
- 02289 **眞証**(しんじょう;法諱) 1707 - 1762 56歳 伊勢一身田の真宗高田派智慧光院の住職、高田派本山専修寺円遵の師範、権大僧都、「真例記並装束附」著、[眞証(;法諱)の別法諱/号]別法諱;公報、号;一仏乗院
- 02290 **眞性**(しんじょう;法諱、謙応和尚)?-? 1785存 天台僧、1783「教行枢機記」87「観経疏融心解詮要」、「禅波羅蜜記」「天台和讃鈔」「弥陀要解記」「斎食儀略記」「教誡律儀鈔」外著多数
- 02291 **信昇**(しんじょう・小鳥居ことりい)?- ? 筑前太宰天満宮の社僧、連歌:1845-56頃信全らと百韻多数
- S2276 **しん生**(初世しんじょう・古今亭こんてい)?-1856 江後期噺家/落語:人情噺の名手

心勝(しんしょう・石橋左衛門入道)→和義(まさよし/かざよし・斯波しば/源、武将/歌) I 4 0 4 0  
 申松(しんしょう・青木) → 存久(ながひさ・青木あおき、歌人) K 3 2 7 3  
 信性(しんしょう) → 寛深(かんしん;法諱、真言大僧正) R 1 5 1 1  
 信章(しんしょう・山口) → 素堂(そどう・山口、俳人) 2 5 2 6  
 信章(しんしょう・荷田/羽倉)→ 信章(のぶのり・荷田かだ/羽倉、国学) C 3 5 7 4  
 信章(しんしょう・福井) → 玄効(げんこう・福井ふくい、藩侍医) I 1 8 7 9  
 信章(しんしょう・谷口) → 蕪村(ぶそん・与謝/谷口/謝、俳/絵師) 3 8 1 1  
 信章(しんしょう・木村) → 信章(のぶあき・木村きむら、歌人) I 3 5 1 1  
 信章(しんしょう・宮崎) → 信章(のぶあき・宮崎みやざき、神職/国学者) H 3 5 1 5  
 信象(しんしょう・小神) → 富春(とみはる・小神おがみ、神道/歌人) O 3 1 9 3  
 信象(しんしょう・狩野) → 養長(やすなが・狩野かのう/木原、絵師/国学) F 4 5 7 2  
 信証(しんしょう・北村) → 季吟(きぎん・北村きたむら、俳人/古典学) 1 6 0 6  
 信祥(しんしょう・馬場) → 信祥(のぶよし・馬場ばば、幕臣/和学者) J 3 5 5 8  
 信昌(しんしょう・長谷) → 信昌(のぶまさ・長谷ながたに/西洞院/平/石井、廷臣/歌人) J 3 5 4 2  
 信昌(しんしょう・竹矢) → 信昌(のぶまさ・竹矢たけや/田辺、神職/歌) J 3 5 0 3  
 信彰(しんしょう・片桐) → 信彰(のぶあきら・片桐かたざり/源、歌人) G 3 5 8 9  
 眞少(しんしょう・岡部) → 讓(ゆずる・岡部/賀茂、神職/国学) G 4 6 4 8  
 眞性(しんしょう) → 良兼(よしかね・清原きよはら、廷臣/歌) C 4 7 9 8  
 眞昌(しんしょう・鶴飼) → 鍊斎(れんさい・鶴飼うかい、儒;彰考館総裁) B 5 1 0 6  
 眞咲(しんしょう・鳥山) → 眞咲(まさき・鳥山とりやま、歌人) M 4 0 4 3  
 眞咲(しんしょう・芳賀) → 眞咲(まさき・芳賀はが、藩士/国学/神職) R 4 0 5 9  
 眞勝(しんしょう・安倍) → 眞勝(まかつ・安倍、廷臣/系譜共編) 4 0 5 2  
 眞勝(しんしょう・尾関) → 眞勝(まさかつ・尾関おぜき、国学者) 4 0 5 3  
 眞章(しんしょう・古屋) → 眞章(さねあき・古屋ふるや、神職/国学) H 2 0 1 8  
 眞象(しんしょう・紀) → 眞象(まかた・紀朝臣、廷臣/詩人) 4 0 5 1  
 眞昭(しんしょう;法諱) → 超尊(ちょうそん;法諱、真宗大谷派僧) J 2 8 4 3  
 眞紹(しんしょう;法諱) → 禅統(ぜんとう;道号・真紹;法諱/黄檗僧) I 2 4 7 1  
 親昌(しんしょう・堀) → 親昌(ちかまさ・堀ほり、藩主/歌人) B 2 8 8 2  
 親尚(しんしょう・藤原) → 親尚(ちかひさ・藤原、官人/連歌) B 2 8 6 8  
 親章(しんしょう・喜多) → 親章(ちかあき・喜多きた/飯田、国学) M 2 8 4 3  
 辰章(しんしょう/たつあき?・石橋)→ 生庵(せいあん・石橋いしばし、医者) H 2 4 1 5

02292 審祥(審詳しんじょう;法諱、通称;新羅学生)?-? 奈良期天平729-49頃日本華嚴宗の開祖、入唐(新羅留学説あり);賢首大帥宝蔵門;華嚴教学を修学/729頃帰国;大安寺住、740良弁の要請で金鐘寺で華嚴経60巻を3年間講ず;当時有数の経論所持者、「妙法連華経釈」「華嚴起信観行法門」「新羅学生大安寺審祥大徳記」著

E2257 眞静(しんじょう・しんせい・しんぜい;法諱)?-? 平安初期河内の僧/法師、御導師、安倍清行(きよゆき825-900)と同時代の人(古今556詞書;導師眞静の詞を詠歌し小町に贈る)、越前出身の天台僧信静(938権律師/940没;72歳)と同一か、歌人/勅撰3首;古今453・921、後撰1361(関東に下向し足柄の関での歌)、[煙立ち燃ゆとも見えぬ草の葉を誰かわらびとなづけ初そめけむ](古今;453/歳)

E2258 眞成(しんじょう) ? - ? 平安期僧;行基門、749(天平21)「大僧正舍利瓶記へき」著(;行基の墓誌/銅板)

V2281 信定(しんじょう;法諱、初め尋定、権僧正範玄[1137-99]男)?-? 平安鎌倉期;興福寺僧/律師、藤原為業[寂念]の孫/覚範(法橋)・玄俊(権律師/配流)・信舜(法眼)・円経(僧正)の兄弟、歌人;檜葉集4首入、

[律師増弁 法隆寺の蓮光院にて百首歌すすめ侍りけるに、  
うの花にをの玉河うづもれてこほ口もやらぬ雪のした水](檜葉;夏111)

[兄玄俊の配流先こしの国へ、  
思ひ出づやみかさの山の月影はもろこしまでもわすれざりけり](檜葉;餞別616)

W2201 親乘(しんじょう;法諱、) ? - ? 平安鎌倉期;南都の僧/法師、

歌人;1237刊[檜葉集]入、  
[あがたにて人々歌よみはべりけるに、

こがらしのさそひはてたるもみぢばの枝におとせでのこる月影](檜葉;冬307)

- E2259 眞乘(しんじょう;法諱/沙彌、俗名;楊梅やまも俊兼としかね/-かぬ、兼行男/本姓藤原)1271-?1343存 廷臣、  
持明院統近臣、右中將/1312大宰大貳/17伏見上皇崩に素服を賜;一品経供養参加、  
1331従二位/33出家、京極派歌人/詩人、1299伏見院五種/1300三十番歌合/03仙洞五十番歌合、  
1303乾元二年五月四日歌合/1299-03十八番歌合/1304・05伏見院三十首参加、  
1309/10十五番歌合・伝後伏見院筆歌合/22花園院内々続歌会/24仙洞歌会参加、  
1343五十四番詩歌合(詩6首)/43院六首歌合/花園院三十首参加、  
勅撰15首;玉葉(5首853/1143/1197以下)続千載(1308)風雅(9首410/498/586/以下)

- E2260 眞浄(しんじょう;法諱) ? - ? 鎌倉期臨濟僧;上人、鎌倉寿福寺・大慶寺の長老、  
歌人;玉葉(2647)続千(1710)、  
[をりしりて見はやす人やまれならん驚のみ山の花のひと枝](玉葉;釈教2647)

- 02288 信盛(しんじょう;法諱、陽春ようしゅん;字、俗姓;新田)1620-9374 筑前志摩の真言僧;良眼門;出家、  
正智院の応暹門;3年間修学/京智積院の運啟門;多年修学/1655南都で唯識・三論を修学、  
1656比叡山で天台四教三觀を修学/のち醍醐で小野流密教を修学、1682智積院8世、  
1690小池坊卓玄と共に覺鑿かばんの諡号を奏請、「大乘起信論專釈鈔」「心経科」著、  
1670「三問一講儀式」/90「請密嚴上人諡号表」著

- 02293 眞浄(しんじょう;道号・元苗げんみょう;法諱、俗姓;細野)1772-184170 紀伊田辺の臨濟僧;  
1782(11歳)紀伊興禅寺快応門;出家/のち湛堂元丈門;嗣法、京の大智寺住持、  
1824鎌倉建長寺218世、32南禅寺昇住;[南禅寺宣命の例]を再興/南禅寺賜紫中興と称さる、  
「曇華集」著、「冠註大光明蔵」注(没後1842刊)

- E2262 晋城(しんじょう・古賀こが/洪こう、古賀精里せいり2男/本姓;劉)1781-183252 儒/詩人;父門、  
穀堂の弟/侗庵どうあんの兄、洪浩然こうぜんの洪家7世の継嗣となり[洪]姓を名乗る、  
1816-26穀堂編「如蘭集」に「戲賦球飲歌寄諸君」著(;地球儀に賦した詩)

心城(しんじょう・鐫木) → 直大(なおひろ・鐫木かぶらき、藩士/国学) L 3 2 6 1

眞上(しんじょう・田氏) → 眞上(まかみ・田氏、万葉歌人;梅花宴) 4 0 5 6

眞城(しんじょう・猿谷) → 吉重(よししげ・猿谷さるたに、国学者) N 4 7 2 3

眞乘(眞照/信照しんじょう;字) → 玄海(げんかい;法諱、真言僧) I 1 8 1 2

眞定(しんじょう;字) → 日収(にっしゅう;法諱・立正院、日蓮僧) E 3 3 0 6

眞情(しんじょう・渡邊/上野) → 霞山(かざん・上野うへの、儒者) L 1 5 6 9

眞常(しんじょう;字) → 勇心(ゆうしん;法諱・眞常、真言律僧) C 4 6 7 6

深乘(しんじょう;字) → 応昌(おうしょう;法諱・深乘、真言僧) C 1 4 5 1

信常(しんじょう・吉浦) → 信常(のぶつね・吉浦よしうら、歌人) K 3 5 5 0

信乘(しんじょう・鯛屋/永田) → 貞柳(ていりゅう・油煙斎/鯛屋、商家/狂歌) 3 0 0 9

信城(しんじょう・武田) → 信城(のぶき・武田たけだ、藩士/歌人) J 3 5 0 6

新丞(しんじょう・河野) → 通尹(みちただ・河野こうの、儒者/詩文) B 4 1 8 0

森城(しんじょう・宮地) → 森城(もりき・宮地みやじ、藩儒) L 4 4 5 9

- E2261 甚昭(しんじょう) ? - ? 連歌師、1476「表佐ひよさ・おさ千句」参加

- V2280 尋乘(しんじょう;法諱、興福寺僧の頭尋男)?-? 鎌倉期;興福寺僧/権少僧都、六条頭輔の曾孫、  
歌人;1237刊[藤葉集]入、

[なほざりにもりくるねやの月だにもぬるる袂をよそにやはみる](藤葉;恋409)

人上(しんじょう・県犬養) → 人上(ひとかみ・県犬養宿禰、万葉歌人/旅人を看病) E 3 7 1 3

心性院(しんじょういん;号) → 日遠(にちおん;法諱・堯順、日蓮僧) 3 3 7 4

心性院(しんじょういん;号) → 日悟(にちご;法諱・残育、日蓮僧) B 3 3 7 4

信証院(しんじょういん) → 兼寿(けんじゅう;法諱・蓮如、本願寺中興) 1 8 1 6

眞性院(しんじょういん) → 日遵(にちじゆん;法諱・存了、日蓮僧) C 3 3 2 5

眞証院(しんじょういん) → 千子(せんこ・池田いけだ、藩主室/歌) O 2 4 0 1

心定院(しんじょういん) → 村子(むらこ・池田いけだ/伊達、藩主室/歌) D 4 2 6 5

眞浄院(しんじょういん) → 日富(にっぶ;法諱・建竜院、日蓮僧) F 3 3 5 1

- 眞浄院(しんじょういん) → 資康(すけやす・裏松/日野/藤原、廷臣/歌) D 2 3 1 8  
 眞乗院(しんじょういん) → 雪岡禅師(せっこうぜんじ・真乗院、国学者) E 2 4 2 5  
 眞常院(しんじょういん) → 幸道(ゆきみち・真田さなだ、藩主/詩人) F 4 6 6 6  
 眞常院(しんじょういん) → 義暢(よしなが・よしのぶ・宗そう、藩主) N 4 7 6 2  
 眞常恵(しんじょうえ) → 光明天皇(こうみょうてんのう、北朝、歌) B 1 9 9 3  
 新蕉軒(しんじょうけん) → 永安(えいあん・小出こいで/修姓;出、儒者) C 1 3 3 4  
 新蕉軒(しんじょうけん) → 荔斎(れいさい・熊谷くまがい、儒者/詩文) 5 1 2 8  
 信乗軒(しんじょうけん) → 貞柳(ていりゅう・油煙斎/鯛屋、狂歌) 3 0 0 9  
 心繩[軒](しんじょう[けん]) → 成敬(なりたか・甲田こうだ、兵法家) H 3 2 4 6  
 眞賞斎(しんじょうさい) → 松窠(しょうか・中江なかえ/杜、絵師/琴) H 2 2 4 9
- 02294 **新上西門院**(しんじょうさいもんいん、名;房子、左大臣鷹司教平女) 1653-1712<sup>60</sup> 靈元天皇の中宮、  
 1687女院号宣下、「女院御所様よりの御文」「新上西門院よりの御文」著
- 眞城山人(しんじょうさんじん・野本) → 白巖(はくがん・野本、儒者/詩) C 3 6 9 0  
 新掌侍(しんじょうじ・しんないしのじょう) → 房子(ふさこ・高野たかの、女官) C 3 8 0 4
- E2263 **新少将**(しんしょうしょう・待賢門院、木工頭源俊頼女)?-? 平安鎌倉期歌人、俊重・俊恵・俊盛の姉妹、  
 待賢門院璋子家の女房、藤原家基(素覚)の妻?、  
 関白藤原忠通妻の宗子(藤原宗通女)にも出仕(今撰集入)、殷富門院大輔と交流、  
 1118「内大臣忠通家歌合」39「左京大夫頭輔家歌合」参加、  
 後葉集・続詞花・言葉・万代集入集、甥の興福寺僧の頼円(俊恵男)・恵慶(俊盛男)も歌人、  
 勅撰3首;新古今(825)新拾遺(2首852/1101)、  
 [うつりけん昔の影や残るとて見るに思ひのます鏡かな](新古;哀傷825)、  
 (父俊頼愛用の鏡を没後に仏像に鑄直し供養するときの歌)  
 [冬の夜の空さえわたる月影やあまのかはせの氷なるらん](後葉集;212、  
 左京大夫頭輔家歌合に)、  
 宇治関白家宣旨(尊卑分脈入)と同一か?
- E2264 **新少将**(しんしょうしょう、芬陀利花院前関白内大臣家ふだりけいのさきのかんばんくないだいじんけ、延暦寺法印長舜女)  
 ?-? 源兼氏の孫、関白内大臣藤原内経家の女房、歌人;続現葉しよくげんよう集(1323成立)入、  
 勅撰2首;続千220/新千1518、  
 [明けやすき夏の夜なれど郭公まつに幾度いくたび寝覚しつらん](続千載集;夏220/待郭公)
- 眞性浄明禅師(しんじょうじょうみょうぜんじ) → 逸山(いつざん;道号・祖仁、臨濟僧) D 1 1 7 5  
 神照禅師(しんじょうぜんじ・仏護-) → 円慈(えんじ・東嶺、臨濟僧) B 1 3 7 6  
 眞照大定禅師(しんじょうだいていぜんじ) → 物外(ものがい;道号・可什、臨濟僧) B 4 4 8 3  
 申椒堂(しんじょうどう) → 市兵衛(いちべゑ、須原屋、北畠、書肆) E 1 1 5 3
- E2265 **新上東門院**(しんじょうとうもんいん) 1545-1620<sup>76</sup> 後陽成天皇の母、歌人;後西天皇「新院女歌仙」入  
 B2219 **信乗妻**(しんじょうのつま) ?-? 伊賀上野女流俳人、1672宗房(芭蕉)「貝おほひ」入、  
 [春風になれそなゝれそ江戸桜](貝おほひ;七番右/な-そ-そは禁止;馴れ親しむな)
- B2234 **信乗母**(しんじょうのはは) ?-? 伊賀上野女流俳人、1672宗房(芭蕉)「貝おほひ」入、  
 [月の舟や今宵はどこがおとまりぢや](貝おほひ;十六番左/しな物の歌[淋敷座之慰];  
 タベのタベのしな者は今宵はどこがお泊りぢや/  
 播磨の国の書写むしや寺のおつきやがお泊りぢや)
- 眞照坊(しんじょうぼう;号) → 昌澄(しょうちよう;法諱、天台僧) K 2 2 8 7  
 信杖房(しんじょうぼう) → 汗虹(あせこう・高橋/伏見/高、俳人) M 1 9 3 9  
 眞乗房(しんじょうぼう) → 勝賀(証賀しょうが・宅磨/託磨たくま、絵仏師) H 2 2 5 1  
 眞乗房(しんじょうぼう) → 忠快(ちゅうかい;法諱、平教盛男/天台僧) F 2 8 8 4  
 眞常房(しんじょうぼう) → 湛秀(たんしゅう;法諱、法相僧) I 2 6 2 8  
 眞成房(しんじょうぼう) → 日満(にちまん;法諱・興円、日蓮僧) D 3 3 2 2  
 心浄坊(しんじょうぼう) → 忍達(にんたつ;法諱・善源、天台僧) G 3 3 6 5
- E2266 **深勝法親王**(しんじょうほっしんのう、源勝一、恒明親王男) 1349-1400<sup>52</sup> 龜山天皇孫/後村上天皇猶子、  
 二品/1387遊行12世を継承、歌人;1375五百番歌合入、住吉社三百六十番歌合参加(散佚)、  
 新葉集10首;76/361/462/590/619/767/821/902/1088/1218、

[葛城かづきやよそにまたるる花の色のそながらあらぬ峰の白雲](新葉;春76)、  
(そながらあらぬは[そのようであるがそうではない])

[深勝(法諱)の別法諱] 尊観

眞定良鑑禅師(しんじょうりょうかんぜんじ)→大巖(だいてん;道号・宗碩;法諱、臨濟僧) K 2 6 7 4

神性靈神(しんしょうれいしん;神号)→兼章(かねあき・ト部/吉田、神職) O 1 5 3 6

E2267 新四郎(初世しんしろう・姉川あねかわ、俳名;女市めい) 1685-1749 65 大阪の生/上方の歌舞伎役者、  
初世富沢左馬之助門/若衆方/のち若女方;地方従業、立役に転ず、  
1710大阪嵐三右衛門座で江戸上りと披露/大阪中心に上方で活躍/三都に名声、  
1747真ノ上上吉;享保延享期1716-48頃の代表立役の名優、荒事実事の侠客物が得意、  
当り役;「黒船」の忠右衛門・「非人仇討」の春藤次郎右衛門役など、  
[姉川新四郎(役者名)の別名]初名;豊嶋勝之介/豊嶋勝三郎、法号;本具院

E2268 新四郎(三世しんしろう・姉川あねかわ、俳名;一幸) 1748-1805 58 上方歌舞伎役者、初め若女方を勤める、  
1770二世姉川みなどを襲名/1777京若女方の巻軸となる/84立役に転ず;3世新四郎襲名、  
[3世姉川新四郎(役者名)の別名]初名;姉川綱吉/2世姉川みなど、  
姉川新四郎は六世(明治中期)まで続く

晋四郎(しんしろう・横江/朝川)→同斎(どうさい・朝川あさかわ、藩儒者/書) E 3 1 4 4

新四郎(しんしろう・小島)→宗賢(そうけん・小島こじま、俳人) B 2 5 2 4

新四郎(しんしろう・竹内/さかいや)→呑溟(呑冥どんめい・竹内、商人/俳人) S 3 1 4 8

新四郎(しんしろう・児玉)→利昌(としまさ・児玉こだま、藩士/兵法家) V 3 1 1 8

新四郎(しんしろう・前田)→梅洞(ばいどう・前田まへだ、藩士/儒者) B 3 6 9 1

新四郎(しんしろう・青木)→充延(みつぶ・青木あおき、儒者/詩文) E 4 1 3 8

新四郎(しんしろう・乾)→荘嶽(そうがく・乾いぬい、藩士/詩人) G 2 5 6 1

新四郎(しんしろう・福島)→末茂(すえげ・福島/度会、神職/詩文) B 2 3 1 7

新四郎(しんしろう・久保木)→竹窓(ちくそう・久保木くぼぎ、名主/儒者) D 2 8 3 4

新四郎(しんしろう・松田/小出)→粲(つばら・小出/松田、藩士/歌人) E 2 9 3 1

新四郎(しんしろう・山内)→道古(みちふる・山内やまうち、国学/歌人) C 4 1 4 8

新二郎(しんじろう・戸田)→氏鐵(うじかね・戸田、武将/藩主) C 1 2 3 6

新二郎(しんじろう・長谷川)→常雄(つねお・長谷川はせがわ/中里、国学) E 2 9 8 8

新二郎(しんじろう・久米)→訂斎(ていさい・久米くめ、儒者/性理説) 3 0 8 3

新次郎(しんじろう・山彦)→序遊(初世じょゆう・菅野、一中節三絃家) C 2 2 9 9

新次郎(しんじろう・三宅)→石庵(せきあん・三宅みやけ、儒者/詩/俳人) D 2 4 3 1

新次郎(しんじろう・牧)→墨僊(墨仙ぼくせん・牧まき、藩士/絵師) D 3 9 6 1

新次郎(しんじろう・恩田)→蕙楼(けいろう・恩田おんだ、藩士/儒者) 1 8 9 7

新次郎(しんじろう・丹羽)→謝庵(しゃあん・丹羽/藤、儒者/絵師) F 2 1 9 9

新次郎(晋二郎しんじろう・田辺)→石庵(せきあん・田辺たなべ/村瀬、儒者) D 2 4 3 3

新次郎(しんじろう・北川)→正種(まさたね・北川きたがわ、藩士/歌人) L 4 0 6 2

新次郎(しんじろう・牧野)→忠精(ただきよ・牧野まさの、藩主) F 2 6 0 2

新次郎(しんじろう・村田)→泰足(安足やすたり・村田、藩士/国学) B 4 5 9 6

新次郎(しんじろう・泉)→久寛(ひさひろ・泉いずみ、商家/国学/歌) L 3 7 2 3

新次郎(しんじろう・中里)→常秋(つねあき・中里なかざと、国学者) G 2 9 0 6

新次郎(しんじろう・武田)→農業(ときなり・武田たけだ、商家/村政/俳人) V 3 1 7 0

新次郎(しんじろう・庄村)→貞甫(ていほ・庄村しょうむら、商家/墳墓録) B 3 0 6 6

新次郎(しんじろう・北条)→時成(ときなり・北条ほうじょう/中臣、神職) W 3 1 3 4

新次郎(しんじろう・中島)→宣光(のぶみつ・中島なかじま、大庄屋/歌人) J 3 5 3 6

新次郎(しんじろう・伊佐)→岑満(みねみつ・伊佐いさ、幕臣/考証学/歌) F 4 1 5 5

新次郎(しんじろう・京口屋)→正晴(まさはる・山本やまもと、商家/歌人) T 4 0 5 7

新治郎(しんじろう・浅山)→純尹(すみただ・浅山/大村、藩士/茶/歌) D 2 3 9 1

信次郎(しんじろう・阿部)→縑州(けんしゅう・阿部あべ、篆刻家) J 1 8 5 2

信次郎(しんじろう・小堀)→政醇(まさあつ・小堀こぼり/藤原、歌人) M 4 0 1 4

信次郎(しんじろう・岡部)→千尋(ちひろ・岡部おかべ/狛こま、家老/歌) M 2 8 2 9



真二郎(しんじろう・熊野御堂)→義路(よしみち・熊野御堂くまのみどう/高、国学)M4762  
 真次郎(しんじろう・鈴鹿)→貞郷(さださと・鈴鹿すずか/中臣、神職/歌)O2071  
 慎次郎(しんじろう・菅井)→霸陵(はりょう・菅井すがい敬勝、儒者)F3687  
 津次郎(しんじろう・前田)→恒固(つねかた・前田まただ、藩士/記録)B2993  
 森次郎(しんじろう・竹村)→盛次(もりつぐ・竹村たけむら、国学者)K4446

02295 甚四郎(じんしろう・松屋まつや)?-? 江戸後期大阪の綿弓の絃師、  
 手代源助の発案により江戸の鍋屋甚八と3人で1804浪花組(のちの浪花講)を創設、  
 その旅宿組合は五街道初め全国規模に及びその整備(優良旅宿・休憩所等)に尽力、  
 「浪花講定宿帳」「浪花講諸道中定宿」編/1837「浪華講道中記」著  
 参照 → 源助(げんすけ・松屋) K1841

02296 甚四郎(じんしろう・丹波屋たんばや)?-? 江中後期明和-文政1764-1830頃江戸の書肆、  
 初め本石町三丁目住/のち神田紺屋町に移住、「法華宗書目」編

甚四郎(じんしろう・楠) → 長諳(ちやうあん・楠くすのき、書家) 2820  
 甚四郎(じんしろう・楠) → 長諳(ちやうあん・楠/大饗、武家故実/書家) 2820  
 甚四郎(じんしろう・野間) → 黒生(こくせい・野間のま、歌人) P1988  
 甚四郎(じんしろう・坂上) → 松春(しょうしゅん・坂上、書肆/俳人) T2204  
 甚四郎(じんしろう・人見) → 午寂(ごじゃく・人見ひとみ、幕臣/俳人) C1980  
 甚四郎(じんしろう・粕屋) → 千里(ちり・苗村/粕屋、俳人) K2848  
 甚四郎(じんしろう・雨森) → 炎洲(えんしゅう・雨森あめのもり、藩士/儒者) E1390  
 甚四郎(じんしろう・椋屋ひらぎや) → 羅人(らじん・山口、書肆/俳人) B4841  
 甚四郎(じんしろう・上木) → 清成(きよなり・上木うわぎ、酒造業/国学) Q1607  
 甚四郎(じんしろう・河合) → 良臣(よしおみ・河合かわい、家老) M4733  
 尋四郎(じんしろう・劉) → 石秋(せきしゅう・劉りゅう/合谷ごうや、儒者) D2452  
 甚次郎(甚治郎じんじろう・山口) → 重春(しげはる・柳斎・梅丸斎・滝川・烽山/山口、絵師) C2186  
 甚次郎(じんじろう・山田) → 静里(せいり・山田やまだ、商家/儒/歌) J2476  
 甚次郎(じんじろう・山田) → 半仙(はんせん・山田、静里弟/商家/儒) K3693  
 甚次郎(じんじろう・住友/泉屋) → 友善(ともよし・住友すとも、金融業/歌) Q3199  
 辛巳老人(しんしろうじん) → 鳥酔(ちようすい・白井しらい、俳人) 2824

E2269 新真(しんしん) ?-? 俳人、1700其角「三上吟」入

E2270 蔡々(しんしん・馬場ばば、名;正督、其日庵8世)1777-1843?67? 幕臣;日光奉行組頭、  
 俳人;素丸門、「蔡々翁句集」著

U2255 真信(しんしん/まさのぶ?・さねのぶ?・神谷かみや)?-? 江後期;歌人、幕臣?、  
 1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、  
 [村雨の雲吹きおくる松風に残る暑さは忘れにけり](大江戸倭歌;秋710/一雨洗残暑)

信眞(しんしん・守矢) → 信眞(のぶまさ・守矢、神職/記録) D3526  
 信眞(しんしん・川窪) → 信眞(のぶさね・川窪かわくぼ/源、歌人) K3544  
 信眞(しんしん・南部) → 行信(ゆきのぶ・南部なんぶ、藩主/歌人) F4621  
 信々(しんしん・唐崎) → 広陵((こうりょう・唐崎からさき、儒者/詩人) G1944  
 信辰(しんしん・松平) → 信辰(のぶとき・松平まつだいら、幕臣/国学) K3502  
 信臣(しんしん・のぶおみ・津田) → 東巖(とうがん・津田、藩士/儒者) C3134  
 信臣(しんしん・大鳥居) → 信臣(のぶおみ・大鳥居おとりい/真木、神職) H3573  
 信臣(しんしん・林) → 信臣(のぶおみ・林はやし/岩田、名主/国学) J3566  
 信親(しんしん・久野) → 信親(のぶちか・久野くの、国学者) I3524  
 岑信(しんしん・狩野) → 岑信(みねのぶ・狩野かのう、幕府奥絵師) F4152  
 眞心(しんしん・島岡) → 眞心(まうら・島岡しまおか、歌人) O4055  
 眞榛(しんしん・池辺) → 眞榛(まはり・池辺、国学者) K4004  
 眞臣(しんしん・大枝) → 眞臣(まおみ・大枝おおえ朝臣、廷臣/詩人) B4058  
 眞臣(しんしん→まおみ・青木) → 北海(ほっかい・青木あおき、儒/国学者) E3953  
 眞臣(しんしん・柏村/波多野) → 眞臣(さねおみ・広沢/柏村/波多野、藩士/日記) E2086  
 眞臣(しんしん・黒沢) → 眞臣(まおみ・黒沢くろさわ、藩士/国学/歌) P4051

眞親(しんしん・まさちか?・小山)→ 新三郎(しんざぶろう・小山こやま/藤原、歌) U 2 2 4 9  
 眞震(しんしん→まゆり・和田)→ 巖足(いずたり・和田、藩士/歌人) 1 1 2 3  
 親々(しんしん/みちか・馬詰)→ 親音(もとね・馬詰うまづめ、藩士/歌) D 4 4 6 6  
 親信(しんしん) すべて → 親信(ちかのぶ) B 2 8 5 1  
 親臣(しんしん・大西) → 親臣(ちかおみ・大西/本姓; 秦、神職) 2 8 6 5  
 親臣(しんしん・鬼丸) → 親臣(ちかおみ・鬼丸おにまる、神職/神風連) M 2 8 3 1  
 親辰(しんしん・富永) → 仁里(じんり・富永/興津、儒者/教育) Q 2 2 0 5  
 親辰(しんしん・吉田) → 親辰(ちかとき・吉田ちかとき、大庄屋/国学) N 2 8 7 8  
 親辰(しんしん・田山) → 親辰(ちかたつ・田山たやま、蘭方医) M 2 8 7 6  
 進々(しんしん・猿山) → 叡麓(えいろく・猿山さやま、書家) D 1 3 4 4  
 神臣(しんしん) → 玄道(げんどう/はるみち・矢野、儒/国学者) C 1 8 8 4  
 森親(しんしん・菊池) → 森親(もりちか・菊池きくち/藤原、国学/歌) J 4 4 8 8  
 審神(しんしん・野口) → 比礼雄(ひれお・野口のぐち、歌人) F 3 7 4 5  
 深臣(しんしん・大沢) → 深臣(ふかおみ・大沢おおさわ、国学者/歌) B 3 8 3 1

Q2224 岑人(しんじん・岩井いはい) ? - ? 江前期上方の俳人、

1682春林「俳諧百人一句難波色紙」入、

[涼しやと銭が言はする風鈴ふりやう哉](難波色紙78/風鈴の舌に一文銭を用いる)

眞人(しんじん・粟田) → 眞人(まひと・粟田あわた、廷臣/大宰帥) G 4 0 1 9  
 眞人(しんじん・生石) → 眞人(まひと・生石/大石おいし、万葉歌人) K 4 0 0 5  
 眞人(しんじん/まひと?・岡) → 熊臣(くまおみ・岡おか、神職/国学) 1 7 2 4  
 眞人(しんじん・白石) → 桃花洞(とうかどう・白石、医/道学) C 3 1 2 5  
 眞人(しんじん・二宮) → 守恒(もりつね・二宮にのみや、神職/国学) F 4 4 8 4  
 眞人(しんじん・林) → 眞人(まひと・まこと・林はやし/原、藩士/歌) R 4 0 9 0  
 信人(しんじん・板垣) → 信人(のぶひと・板垣いたがき、菱花園/商家・狂歌) H 3 5 3 8  
 信尋(しんじん・近衛) → 信尋(のぶひろ・近衛このえ、関白/書/連歌) D 3 5 0 9  
 人真(じんしん・酒井) → 人真(ひとざね・酒井さかい、廷臣/歌人) E 3 7 1 6  
 蓋臣(じんしん→あつおみ・香川) → 南浜(なんびん・香川かがわ、儒者) J 3 2 3 7  
 鞞臣(じんしん・山田) → 鞞臣(ゆきおみ・山田やまだ、国学者) H 4 6 4 3  
 心儘庵(しんじんあん) → 立庵(りつあん・渡辺わたなべ、与力/茶人) B 4 9 5 6  
 心信院(しんしんいん) → 日好(にちこう; 法諱、只信院、日蓮僧) B 3 3 8 5  
 森々庵(しんしんあん; 号) → 松後(しょうご・佐々木、町役人/俳人) C 2 2 8 4  
 深心院関白(しんしんいんかんぱく) → 基平(もとひら・近衛、歌人) E 4 4 0 4  
 塵々塙(じんじんう) → 梅門(ばいもん・稲本、俳人) C 3 6 1 2  
 森々園(しんしんえん) → 六林(ろくりん・堀田、恒山、詩/俳人) B 5 2 1 8  
 藜々園(しんしんえん) → 桃葉(とうよう・村田むらた、庄屋/俳人) T 3 1 4 2

E2271 深真翁(しんしんおう・立分軒) ? - ? 仮名草子作者、

1680「古銀買ふるかねがい」著(: 難波鉦なにわどら返答書)

振々翁(しんしんおう) → 士清(ことすが・谷川、医者/神道/語学) 1 9 3 6  
 新々館(しんしんかん) → 如是観(によぜかん・雲窓、真宗僧/国学) G 3 3 0 3  
 真々居(しんしんきよ) → 米友(べいゆう・沢さわ、書肆/俳人) 2 7 8 2  
 深心居士(しんしんこじ) → 臣吉(おみよし・宮川みやがわ、書肆/国学) E 1 4 1 7

E2272 神晋斎(しんしんさい) ? - ? 江中期儒者、

「草茅危言摘議」著(: 中井竹山「草茅危言」[1789著]への反駁書)

眞々斎(しんしんさい・小川地) → 喜広(きこうよしひろ・小川地おがわち、神職) G 4 7 6 5  
 辰々子(しんしんし) → 北岱(ほくたい・葛飾かつしか/森川、絵師) D 3 9 7 0  
 審神舎(しんしんしゃ) → 御杖(みつえ・富士谷、成章男、国学/歌) 4 1 2 3  
 振々亭(しんしんてい) → 三駱(さんらく・秦はた、俳人) E 2 0 7 8  
 尽心堂(じんしんどう) → 周文(しゅうぶん・行徳ぎょうとく/平、医者) Y 2 1 2 9  
 振々霊社(しんしんれいしゃ) → 士清(ことすが・谷川、医者/神道/語学) 1 9 3 6  
 申申楼(しんしんろう) → 鏡洲(きやうしゅう、今井いまい、儒者/詩人) N 1 6 9 2

- E2286 **心水**(しんすい、心水道人) ? - ? 江戸の禅僧?/俳人;初めは調和系俳書入/のち其角と交流、1689等躬「葱摺しのぶずり」・98調和「洗朱あらいしゅ」入/88不ト「続つぎの原」4句入、1697其角「末若葉」序/1701其角「焦尾琴しょうびきん」07貴志ら「類柑子ゐにうじ」入、[牛吠えて旭あさひ先づてる野菊哉](続の原;66)
- E2273 **瀧水**(しんすい・宇佐美うさみ/修姓;字、名;恵、習翁男)1710-7667 上総夷隅郡の儒者;1726(17歳)江戸の荻生徂徠門;師没後も塾で交友と徂徠学を研学、1748松江藩儒/詩人、「護園録稿」編、「弁道考証」「弁名考証」「絶句解考証」「君輔録」「古文矩文変考」、「瀧水叢書」外著多数、[瀧水(;)の字/通称/別号]字;子迪/子迪、通称;恵介/恵助けすけ、別号;優遊館
- Q2219 **信水**(しんすい・植村うゑむら/別号;棹川斎、信安[棹歌斎]男)?-? 江中期享保1716-36頃の京の俳人、1731父信安追善集「月の夜駕籠」(弟信舟と共編)
- 2233 **慎水**(しんすい・前野まえの;通称、姓;坪内つぼうち/名;真作得まさえ)?-? 江中期享保1716-36頃江戸神道家、大坂天満宮の堀越斎宮・京の増穂残口らと平易な文章による神道教化に尽力、1730「神路之事触」31「本朝麓の近道」、「神民かみのたみこゝろ得草」著、「神民さとし草」「古実年中行事」著
- 2234 **心水**(しんすい;号、初号;敬民けいみん)?-? 江中期宝暦明和1751-72頃の俳人・心祇門、1752「花さきの伝」編(師より一字を得て心水と改号した記念集)、1764「玄冬集」編
- 02297 **溱水**(溱水しんすい・渡辺わたなべ/修姓;辺、名;従)1720-6748 江戸麻布古川町の絵師;長崎で漢画修得、淡墨山水画に長ず、「辺氏画譜」画、「槃礴はんぱく画談」著、[溱水(;)の字/通称/別号]字;周本、通称;甚蔵、別号;随庵/鋤雲軒/槃礴はんぱく主人、法号;鋤雲溱水居士、屋代師道の画の師
- U2280 **晋水**(しんすい・草場くさば、名;謙)1781-183151 長門萩藩の書家/国学者/歌人、厚狭郡棚井村東隆寺の玉潤橋の石碑を揮毫(東隆寺から萩大照院に移築の経緯の寺伝)、[晋水(;)の字/通称]字;士寧、通称;良蔵
- 02298 **針水**(しんすい;法諱、鬱潭;号、俗姓;原口、光照寺10世密道6男)1808-9386 肥後山鹿郡内田の生、真宗本願寺派僧;父門/叔父頭名門/1829(22歳)諸所遊学/博多万行寺曇竜門;師没後帰郷、講学に従事/父を継嗣;光照寺11世、1868司教/72勸学、1649「耶蘇教大略」、「信心正因」、「聖教問答摧破基督」「通別十六論題」「法華観経同時辨」著、島地黙雷の師、[針水(;)法諱]の初法諱/諡号]初法諱;得慶、諡号;見敬院
- 真水(しんすい・中川) → 長雄(ながお・中川ながわ/藤原、廷臣/歌) O 3 2 0 3  
 真酔(しんすい) → 真酔(ますい・石橋庵、俳/戯作) I 4 0 9 2  
 晋帥(しんすい・菅波) → 茶山(ちやざん・菅/菅波、儒/詩/教育者) 2 8 4 0  
 深水(しんすい・相川あいかわ) → 功垂(くだる・相川、歌人) B 1 7 4 0  
 深水(しんすい・二神) → 礼和(ひろかず・二神ふたがみ、庄屋/歌人) K 3 7 8 8  
 心水(しんすい・本多) → 忠憲(ただのり・本多、国学/故実/歌/俳) F 2 6 6 3  
 心水(しんすい・杉浦) → 盛樹(しげき・杉浦すぎうら、陪臣/歌人) Z 2 1 0 1  
 心酔(しんすい・吉田) → 宗恰(むねひさ・吉田よしだ、幕府医官) C 4 2 3 0  
 信粹(しんすい・並木) → 信粹(のぶきよ・並木なむき、商家/国学/歌) J 3 5 4 3  
 新水(しんすい・山岡) → 元貞(もとさだ・山岡やまおか、医者/漢学) L 4 4 7 8  
 秦水(しんすい・今木) → 正矩(まさのり・今木/今城いまき、和算家) G 4 0 1 8  
 薪水(3世しんすい) → 彦三郎(初世ひさぶろう・坂東、歌舞伎役者) 3 7 5 9
- 2235 **信瑞**(しんずい;法諱、敬西房;号)?-1279 鎌倉期浄土僧;隆寛門/のち信空門、京の弘願寺住、信空相伝の無観称名義を鼓吹、先哲の伝記を研究、北条時頼に「黒谷上人伝」(散佚)を献上、1236「浄土三部経音義」、44「泉涌寺不可棄法師伝」著(;泉涌寺開山俊仍しゅんじょうの伝記)、「法然上人本伝」著、「明義進行集」「広疑瑞決集」「観無量寿経音義」外著多数
- 2236 **真薬**(しんずい;法諱・季瓊さけい;道号、上月満景男)1401-6959 播磨赤松氏一族/幼時出家、臨濟僧;相国寺叔英宗播門/相国寺雲頂院住持/1435同寺蔭涼職いんりょうしき、天竜寺・相国寺住持、相国寺雲頂院雲沢軒を建立、京柳原の禅仏寺開山、「蔭涼軒いんりょうけん日録」(前半1435-41/56-66筆録/後半は亀泉集証の筆録)、[季瓊真薬の号] 松泉/雲沢/紫藤/安楽窩/鶯雪/無双

02299 眞瑞(しんずい;法諱、三滝さんろう院;諡号、俗姓;広橋)1772-1843<sup>72</sup> 真宗本願寺派僧;大運門、  
安藝円福寺宅浄の弟、安藝賀茂郡田口の善教寺11世、  
善教寺退隠後は近隣の学僧のため真瑞社を興す、1843司教、  
「唯信鈔講義」「本願成就文講義」「文類聚鈔講義」著

深瑞(しんずい;法号) → 忠隆(ただたか・松平、幕臣/歌人) P 2 6 7 0

尋遂(しんすい・吉野) → 秀政(ひでまさ・吉野よしの、神職/地誌) D 3 7 8 1

薪水居(しんすいきよ) → 宗敏(むねとし・木暮こぐれ/小久保、歌人) D 4 2 8 2

心水軒(しんすいけん) → 元淡(げんたん・谷口、大雅、儒者/古典) C 1 8 6 3

神随舎主人(しんずいしゃしゅじん) → 信礼(のぶひろ・中条ちゅうじょう、幕府高家/国学) D 3 5 1 4

心水道人(しんすいどうじん) → 心水(しんすい、俳人) E 2 2 8 6

P2200 信助(しんすけ・大鳥居おとりい、信岩男)1604-57<sup>54</sup> 筑前太宰天満宮別当、連歌:「何人百韻」

P2201 新助(しんすけ、赤林あかばやし、名;憲紀)?-? 1762存 尾張藩士;1693御目見/書物奉行、  
白鳥材木奉行を歴任/1762隠居、1746「尾張藩材木奉行覚書」著、  
[新助(;通称)の別通称]佐右衛門/佐左衛門

P2202 新助(新介しんすけ・豊田とよだ)?- ? 江中期大阪の歌舞伎/浄瑠璃作者;中田嘉右衛門門、  
歌舞伎各座・伊藤出羽掾座作者、1730「君国大江紅梅」32「満浜金入江」「前内裏嶋王城遷」、  
1733「天智天皇朝日冠」34「曦松黄金根」35「いろは軍記」「かいせい八花形」外著多数

晋助(しんすけ・岩城) → 蟾居(せんきよ・岩城、商家/俳人) M 2 4 0 5

晋輔(しんすけ・柴、斯波) → 黙阿弥(もくあみ・河竹・古河、歌舞伎作者) 4 4 0 2

晋甫(しんすけ・深田) → 明峯(めいほう・深田ふかだ、藩儒者) 4 3 3 5

新助/新介(しんすけ・松平) → 可正(よしまさ・松平/鈴木、藩士/歌人) H 4 7 0 0

新助(しんすけ・大和田) → 時胤(ときたね・大和田、藩士/紀行) J 3 1 2 3

新助(しんすけ・小山田) → 春水(しゅんすい・小山田おやまだ、藩士/儒) L 2 1 1 5

新助(しんすけ・荘/大河内) → 恬逸(てんいつ・荘しょう/大河内、幕臣儒官) D 3 0 1 3

新助(しんすけ・木村) → 騏道(きどう・木村きむら、俳人) B 1 6 5 8

新助(しんすけ・篠崎) → 兎城(とじょう・篠崎しのぎ、俳人) O 3 1 1 6

新助(しんすけ・相良) → 長泰(ながやす・相良さがら/稻留、武将/和学) N 3 2 2 4

新助(しんすけ・室) → 鳩巢(きゅうそう・室むろ、幕臣/儒者) 1 6 2 8

新助(しんすけ・鈴木) → 直好(なおよし・鈴木、和算家) C 3 2 9 7

新助(しんすけ・柴田) → 光寛(みつひろ・柴田/藤原、商家/蔵書) E 4 1 6 9

新助(しんすけ・小川) → 麦宇(ぼうう・小川おがわ/寺沢友幸、俳人) C 3 6 5 9

新助(しんすけ・河村/北条) → 梅堂(かいどう・北条ほうじょう、儒者) H 1 5 1 8

新助(しんすけ・渡辺) → 定斎(じょうさい・渡辺/赤坂、藩士/儒者) J 2 2 1 0

新助(しんすけ・立木) → 信憲(しんけん;名・立木たつき、藩儒) O 2 2 1 3

新助(しんすけ・赤田) → 臥牛(がぎゅう・赤田あかだ、酒造家/儒詩) B 1 5 3 0

新助(しんすけ・中村) → 観濤(かんとう・中村なかむら、藩士/詩文) R 1 5 5 1

新助(しんすけ・鷺見) → 休明(保明やすあきら・鷺見すみ、藩士/歌人) 4 5 8 8

新助(しんすけ・興田) → 吉従(よさゆ・興田おきた、儒/神道/国学) K 4 7 2 0

新助(しんすけ・稻生) → 孝与(たかよ・稻生いろう/稻、本草学者) N 2 6 6 8

新助(新祐しんすけ・長沢/松平) → 敏(びん・松平/長沢、家老/詩人) H 3 7 7 5

新助(しんすけ・関せき/白子屋) → 清長(きよなが・鳥居とりい、絵師) 1 6 5 0

新助(新介しんすけ・柏野/鳥越) → 常成(つねなり・鳥越/柏野、藩士/国学/歌) C 2 9 9 6

新助(しんすけ・山田) → 左幾久(左菊さきく・山田やまだ、国学/歌) N 2 0 2 5

新助(しんすけ・谷口) → 元淡(げんたん・谷口、大雅、儒者/古典) C 1 8 6 3

新助(しんすけ・河合) → 良温(よしほる・河合かわい、医者/儒者) G 4 7 1 1

新助(しんすけ・平田) → 宗愷(そうがい・平田ひらた、儒者/教育) G 2 5 5 0

新助(しんすけ・岩谷) → 文淵(ぶんえん・岩谷いわや、医者/詩文) E 3 8 8 4

新助(しんすけ・内山/関) → 孝和(たかかず・関せき、幕臣/和算家) C 2 6 6 0

新助(しんすけ・高須) → 葛根(つねね/くづね/かつね・高須、醸造業/国学) B 2 9 1 8

新助(しんすけ・長沢) → 元緒(もとお・長沢ながさわ/井上、商家/歌) K 4 4 8 6

新助(しんすけ・長沢)	→	正緒(まさお・長沢、元緒男/名主/歌人)	R 4 0 2 7
新助(しんすけ・桂井)	→	素庵(そあん、桂井かつらい、郷土/儒者)	F 2 5 8 2
新助(しんすけ・谷)	→	三山(さんざん・谷たに、儒者)	F 2 0 8 5
新介(しんすけ・進藤)	→	貞治(さだはる・進藤、武将/連歌)	J 2 0 3 3
新介(しんすけ・松井)	→	康之(やすゆき・松井まつい/源、武将/連歌)	D 4 5 3 5
新介(しんすけ・漆畑)	→	燕凌(えんりょう・伊東[2世]、講釈師)	B 1 3 3 8
新介(しんすけ・安藤)	→	為章(ためあき・安藤あんど、国学/歌人)	2 6 5 4
新介(しんすけ・斎部)	→	道足(みちたり・斎部いんべ/斎柏、国学者)	B 4 1 8 4
新介(しんすけ・佐藤)	→	敬庵(けいあん・佐藤さとう、儒者)	E 1 8 6 3
新輔(しんすけ・松井)	→	東庵(とうあん・松井まつい、製墨業/詩人)	3 1 7 9
神介(しんすけ・谷)	→	垣守(かきもり・谷たに、藩士/国学者)	B 1 5 2 5
真助(しんすけ・竹内)	→	真葛(まக்குず・篤垣ともがき、狂歌作者)	4 0 6 4
慎助(しんすけ・吉田)	→	宗敏(むねとし・吉田よしだ、里正/紀行)	B 4 2 8 5
慎助(しんすけ・林)	→	雪篷(せっぽう・林はやし、漢学者)	L 2 4 3 8
慎助(しんすけ・最上)	→	幸教(ゆきのり・最上もがみ、歌人)	G 4 6 4 7
慎助(しんすけ・守安)	→	久孝(ひさたか・守安もりやす、国学者/歌人)	L 3 7 4 9
慎甫(しんすけ・毛利)	→	空桑(くうそう・毛利、儒者/尊攘)	C 1 7 0 2
慎介(しんすけ・岡)	→	呉継(くれつぐ・岡おか/神辺、商家/国学)	E 1 7 0 7
信助(しんすけ・秋田/津田)	→	鳳堂(ほうどう・秋田/津田、和算家)	C 3 9 4 1
信輔(しんすけ・梁田)	→	毅斎(きさい・梁田やなだ、儒者)	F 1 6 3 5
信輔(しんすけ・野村)	→	健平(たてひら・野村のむら、国学/詩歌)	Y 2 6 9 2
信甫(しんすけ・木村)	→	松軒(しょうけん・木村きむら、医者/儒者)	I 2 2 4 4
信甫(しんすけ・安田)	→	雷洲(らいしゅう・安田/中村、幕臣/絵師)	4 8 5 8
辰助(しんすけ・栗本)	→	春三(しゅんさん・柳河/西村、栗本、洋学者)	K 2 1 2 1

P2203 **甚助**(しんすけ・竹島たけしま;号)?- ? 江戸歌舞伎役/作者、初め竹島系役者のち作者、1730-31頃江戸森田座で創作参加、1730「和国猛昭君」31「青柳隅田川」著

U2267 **甚助**(しんすけ・和泉屋いづみや、号;太申たしん)?-1798 江戸材木商;豪商/国学;荷田春満門、未刊典籍多数出版(:「関市令かんしりょう」など)、歌舞伎役者と交流、浅草寺境内に太申桜を寄進・太申染を広めようとしたり売名奇行の人

P2204 **甚介**(甚助しんすけ・宇治うじ)1796- ? 1831存 岡山藩士/廻米船楫取役、1830海難;片山栄蔵らと神力丸で呂宋るそん漂着、1831中国經由長崎帰国、「漂流人口書」著

P2205 **塵助**(しんすけ・吉田よしだ) ? - 1887(:60余歳没) 尾張名古屋藩の役人;鳴海の代官所勤務、茶・作陶を嗜む、1854「日置野老鏝囊」63「泥江井邑柳」64「古渡記」65「城南志」著 [塵助(;通称)の別通称/号]別通称;小平次、号;五朗

仁助(しんすけ→にすけ・堀田)	→	仁助(にすけ・堀田ほつた/藤原、暦算家)	3 3 3 3
仁助(しんすけ/にすけ・檜垣)	→	常和(つねかず・檜垣/度会、神職/謡)	B 2 9 8 7
仁介(しんすけ・城子)	→	高鞆(たかとも・城子しろこ、商家/国学者)	X 2 6 6 1
仁輔(しんすけ・高橋)	→	一庵(いちあん・高橋たかはし、儒者)	F 1 1 9 5
甚介(しんすけ・中大路)	→	清為(きよため・中大路なかおじ/賀茂、神職/連歌)	P 1 6 8 7
甚介(しんすけ・渡辺)	→	去何(きよか・渡辺わたなべ、国学者/俳人)	H 1 6 1 0
甚助(しんすけ・早野)	→	巴人(はじん・早野はやの、俳人)	3 6 1 8
甚助(しんすけ・井戸)	→	九如(きゅうじよ・井戸/本多/董、幕臣/絵師)	M 1 6 7 0
甚助(しんすけ・中大路)	→	義氏(よしうじ・中大路なかおじ/賀茂、神職)	C 4 7 2 2
甚助(しんすけ・林)	→	為成(ためなり・林はやし、幕臣/歌人)	U 2 6 0 7
甚助(しんすけ・村井)	→	白扇(はくせん・村井、商家/俳人)	D 3 6 5 2
甚助(しんすけ・藤田)	→	一富士二鷹(いちふじにたか、狂歌)	D 1 1 5 9
甚助(しんすけ・佐藤)	→	国政(初世くにまさ・歌川うたがわ、絵師)	1 7 9 2
甚助(しんすけ・吉田)	→	蕃教(しげのり・吉田よしだ、国学者)	S 2 1 1 5
甚助(しんすけ・近江屋)	→	友水子(ゆうすいし・田中、俳人/文筆家)	C 4 6 8 5

- 甚助(じんすけ・岡部) → 謚(まこと・岡部おかべ/平山、国史/博学) O 4 0 5 8  
 甚助(じんすけ・須田/佐藤) → 元庵(げんあん・佐藤さとう、農政家) H 1 8 6 3  
 甚助(じんすけ・石松) → 元啓(もとひろ・石松いしまつ、儒者/歌) E 4 4 1 5
- P2206 心省(しんせい;法諱、俗姓;今川いながわ)?-? 南北期僧/沙彌/歌人;  
 1367(貞治6)「新玉津島社歌合」参加[;二条良基・頓阿・今川貞世(了俊)らと参加]、  
 [浦風の吹上の浜も名のみして霞にこもる春のあけぼの](新玉津歌合:廿九番左57)
- 2237 信盛(しんせい) ?-? 南北・室町期、著者不明の辞書「頓要集」の書写
- P2207 眞盛(しんせい/しんぜい;法諱、小泉藤能男)1443-9553 天台眞盛宗の祖、伊勢の僧;光明寺盛源門;出家、  
 1461(19歳)比叡山の探題慶秀門/20年間山籠り天台教学を研鑽、黒谷青龍寺に隠棲、  
 往生要集を感得;近江坂本西教寺を中興し不断念仏の根本道場とす、  
 戒称(戒律と念仏)一致を主唱、後土御門天皇・足利義政に円頓戒を授ける、権大僧都、  
 「奏進法語」「念仏三昧法語」「眞盛自賛偈」著、「恵心僧都眞盛上人真荷上人御法語」、  
 [眞盛(;法諱)の幼名/諡号]幼名;宝珠丸、諡号;慈撰大師/円戒国師
- R2205 信世(しんせい) ?-? 江前期俳人;1691不角「二葉之松」入(4)  
 [門出かどいでにむすぶ柳のみじかくて](二葉之松;4/旅立に縮むがる柳の枝が春浅く短い)  
 小野信世と同一 → 信世(のぶよ・小野おの、江戸の俳人) D 3 5 7 9
- P2208 信盛(しんせい;法諱) ?-? 筑前太宰府天満宮社僧、  
 連歌;1705信仙らと「何船百韻」興行
- 2238 慎成(しんせい・岩崎いささき)?-? 儒者;昌平坂学問所勤務、  
 昌平叢書2千部の地誌の解題編纂に参加;1823「編脩地誌備用典籍解題」共編;  
 (序;林檎宇、総裁間宮士信・戸田氏徳・海老原儼・中里仲舒・村井量令と共編)
- U2254 心誠(しんせい;法諱、勝林寺)?-? 江後期;僧、勝林寺(江戸浄土真宗?)の僧、歌人、  
 1860鋤柄助之「現存百人一首」入、  
 [ゆかりありて誰が一夜寝し名残よりすみれの床の露かかるらむ](現存百人一首;38)
- 真井(しんせい・高水) → 眞井(眞名井まなひ・高水たかみず/斎部、神職/歌) Q 4 0 7 3  
 真生(しんせい;法諱) → 眞生(しんじょう;法諱、天台僧) O 2 2 8 7  
 真正(しんせい・平) → 眞正(さねまさ・平たいら、廷臣/歌) G 2 0 4 8  
 真性(しんせい;法諱) → 眞性(しんじょう;法諱、天台僧) O 2 2 9 0  
 真静(しんせい/しんぜい) → 眞静(しんじょう、法師/御導師/歌人) E 2 2 5 7  
 真静(しんせい・今田) → 五雲(ごうん・今田いまだ、俳人) L 1 9 7 0  
 真静(しんせい・菅) → 眞静(まさず・菅すが、和学者) I 4 0 8 7  
 真清(しんせい・本多) → 眞清(まさか・本多/本田、国学者) I 4 0 9 5  
 真清(しんせい・湧泉堂) → 笑顔(えがお・美岡垣みづがき、書肆/戯作) 1 3 5 2  
 真清(しんせい・石川) → 眞清(まさみ・石川いしかわ/源、商家/国学) J 4 0 2 8  
 真清(しんせい・下元) → 西洲(せいしゅう・下元しももと、郷土/書家) I 2 4 6 3  
 真清(しんせい・桑原) → 眞清(まさか・桑原くわばら、神職/勤王) I 4 0 9 6  
 真清(しんせい・荒井) → 静野(しずの・荒井あらい、商家/国学) U 2 1 0 5  
 真清(しんせい・川津) → 眞清(まさきよ・川津かわづ/萩原、神職/国学) P 4 0 0 3  
 真清(しんせい・堀江) → 眞清(まさか・堀江ほりえ、国学者) S 4 0 4 6  
 真政(しんせい;字) → 円忍(えんにん;法諱、真言律僧) F 1 3 2 8  
 真政(しんせい・高井) → 眞政(さねまさ・高井たかい/源、幕臣/歌) N 2 0 2 0  
 真成(しんせい) → 眞成(しんじょう、平安期僧) E 2 2 5 8  
 真成(しんせい・嵯峨) → 実愛(さねなる・嵯峨/藤原/正親町三条、大納言/記録) L 2 0 1 7  
 進斎(しんせい・有元) → 淵庵(えんりゅう・有元ありもと、医者/俳人) F 1 3 4 7  
 信生(しんせい・法師) → 信生(しんじょう;法諱、塩谷[宇都宮]朝業/藤原、法師/歌) E 2 2 5 4  
 信生(しんせい・竹内) → 信生(のぶお・竹内たけうち、藩家老/歌人) J 3 5 0 0  
 信誓(しんせい) → 智洞(ちどう、真宗僧) E 2 8 9 3  
 信誓(しんせい) → 慶超(けいちょう;法諱、真宗僧) G 1 8 3 6  
 信誓(しんせい;字) → 智洞(ちどう;法諱、本願寺派僧/唱導本) E 2 8 9 3

信誓(しんせい;法諱) → 全禎(ぜんてい;法諱、真宗本願寺派僧) M 2 4 9 8  
 信精(しんせい・田中) → 信精(のぶきよ・田中、儒者/詩歌) B 3 5 3 3  
 信精(しんせい・北村) → 信精(のぶきよ・北村、歌人) B 3 5 3 4  
 信成(しんせい・武田) → 兼山(けんざん・武田たけだ、医者) J 1 8 2 0  
 信成(しんせい・佐野) → 皆雲(かいうん・佐野さの、儒者/詩) H 1 5 1 4  
 信成(しんせい・岩垣) → 謙亭(けんてい・岩垣いわがき、儒者/詩) L 1 8 5 1  
 信成(しんせい・片山) → 恬斎(てんさい・片山かたやま、藩儒/詩歌) D 3 0 4 7  
 信成(しんせい・中山) → 信成(のぶなり・中山なかやま、藩主/歌人) K 3 5 4 0  
 信成(しんせい・薄田) → 以貞(もちさだ・薄田すすきだ/橋/常磐木、神道/兵法) B 4 4 3 9  
 信成(しんせい・三浦) → 有隣斎(ゆうりんさい・三浦、製塩業/歌) E 4 6 1 4  
 信成(しんせい・小山) → 魯恭(ろきょう・小山こやま、俳人) 5 2 7 1  
 信成(しんせい・宇田) → 深林(しんりん・宇田うだ、藩士/書家) Q 2 2 1 6  
 信成(しんせい・小川) → 泰山(たいざん・小川おがわ、漢学/折衷学) B 2 6 4 6  
 信成(しんせい・江馬) → 笋荘(じゅんそう・江馬えま、蘭学/藩医) L 2 1 3 7  
 信成(しんせい・川口) → 信成(のぶなり・川口かわぐち、旗本/歌人) H 3 5 0 2  
 信成(しんせい・井上) → 信成(のぶなり・井上いのうえ、商家/国学/歌) H 3 5 2 2  
 信成(しんせい・長谷) → 信成(のぶなり・長谷ながたに、廷臣/歌人) J 3 5 4 1  
 信成(しんせい・服部) → 信成(のぶなり・服部はっとり、検校/歌/三絃) J 3 5 6 3  
 信成(しんせい・原田) → 信成(のぶなり・原田はらだ、国学者) J 3 5 7 2  
 信政(しんせい・大竹) → 信政(のぶまさ・大竹おおたけ、幕臣/歌人) H 3 5 6 9  
 信生(しんせい・宮崎) → 信生(のぶなり・宮崎みやざき、神職/国学) H 3 5 1 8  
 信正(しんせい・のぶまさ・立花) → 宗茂(むねしげ・立花/高橋、藩主/家訓) B 4 2 3 9  
 信正(しんせい・瀬尾) → 信正(のぶまさ・瀬尾せのお/妹尾、儒者/詩歌) I 3 5 7 8  
 信正(しんせい・津村) → 信正(のぶまさ・津村つむら/藤原/長野、藩士/歌) J 3 5 1 3  
 信世(しんせい・小野) → 信世(のぶよ・小野おの、俳人) D 3 5 7 9  
 信清(しんせい・仁科) → 信清(のぶきよ・仁科にしな/佐藤、藩士/歌) J 3 5 4 7  
 信誠(しんせい・小林) → 信誠(のぶまさ・小林こばやし、庄屋/国学) I 3 5 4 2  
 辰政(しんせい→ときまさ・丸山) → 武雄(たけお・丸山、藩家老/歌/香道) O 2 6 2 9  
 辰政(しんせい・黒田) → 辰政(ときまさ・黒田くろだ、歌人) T 3 1 7 3  
 晨正(しんせい・竹田) → 晨正(あきまさ・竹田たけだ、国学/歌人) H 1 0 9 6  
 深省(しんせい・尾形) → 乾山(けんざん・尾形おがた、陶工/絵師) B 1 8 9 3  
 深青(しんせい・玉松) → 操(みさお・玉松たままつ/山本、僧/国学/政治) J 4 1 7 2  
 親正(しんせい・来田) → 親正(ちかまさ・来田きた、神職/国学) M 2 8 4 2  
 親清(しんせい・平) → 親清(ちかきよ・平たいら、廷臣/歌人) 2 8 7 6  
 親清(しんせい・杉原) → 親清(ちかきよ・杉原すぎはら、武将/合戦記) 2 8 7 8  
 親清(しんせい/ちかきよ・曲直瀬まなせ) → 玄鑑(元鑑げんかん・曲直瀬/今大路、医者) I 1 8 3 1  
 親清(しんせい・鈴木) → 親清(ちかきよ・鈴木すずき、国学者/歌人) M 2 8 7 2  
 親盛(しんせい・大西) → 親盛(ちかもり・大西/秦、神職/国学) C 2 8 0 9  
 親政(しんせい・藤原) → 親政(ちかまさ・藤原、連歌) B 2 8 7 9  
 親成(しんせい)すべて → 親成(ちかなり・ちかしげ)

2239 真濟(しんせい;法諱、俗姓;紀朝臣、紀御園男) 800-860<sup>61</sup> 若くして出家/真言僧;空海門;密教修学、  
 824空海より高雄山を付嘱され高雄山神護寺2世、840内供奉十禅師となり神護寺別当、  
 847東寺一長者/856僧正、詩文に長ず、空海「性靈集」を編纂、古事談に逸話、  
 紀長谷雄「紀家きけ集」に「東大寺僧正真濟伝」入、「五部肝心記」「金剛界曼荼羅次第法」、  
 「胎蔵界念誦私記」「金剛吉祥一切成就宿曜秘記」「大仏頂陀羅尼梵漢本鈔集」外著多数、  
 [真濟(;法諱)の通称] 高雄僧正、紀僧正、柿本(柿下)僧正

信西(しんせい;法名) → 通憲(みちのり・藤原、信西、廷臣/学者) 4 1 1 4

2240 塵生(じんせい、通称;村井屋又三郎)?-? 加賀小松の商家/俳人;1689芭蕉と奥細道で会見入門、  
 居を歓水亭と称す、「東六鳳解」著、1690之道「あめ子」入/91ノ松べっしょう「西の雲」入、  
 1691「猿蓑」1句・98「続猿蓑」1句入、1706字中「百がらす」編参加/跋文執筆、

[白浪やゆらつく橋の下紅葉したもみぢ](猿蓑;卷三/ゆれる吊り橋・橋下の下紅葉・急流)

藜萋園(しんせいえん) → 棕逸(そういつ・渋谷しぶや、医者/詩文) F 2 5 9 9  
真清翁(しんせいおう) → 氣求(ききゅう・大和田、書肆/国学) 1 6 9 0  
晨省館(しんせいかん) → 順正(じゅんせい・竹下、医者) C 2 1 4 7  
慎静舎(しんせいしゃ) → 文哉(ぶんさい・葛井かつらい、儒者/詩歌) F 3 8 2 9  
真西堂(しんせいどう:号) → 賢谷(けんこく;道号・宗良、臨濟僧) I 1 8 8 6  
心正堂(しんせいどう) → 松栞(しょうひ・窪田/西川、俳人) B 2 2 3 0

P2209 新清和院(しんせいわいん、名;欣子きんし、後桃園天皇皇女)1779-1846<sup>68</sup> 母;皇太后維子(盛化門院)、  
1780内親王宣下/父母に早く死別;祖母恭礼門院に養育、光格天皇の皇后;1791立后、  
1794入内;皇后に冊立、1820皇太后/1841女院;新清和院号、「新清和院御集」、  
[新清和院(;女院号)の幼称] 女一宮

信錫(しんせき・山本) → 学半(がくはん・山本やまもと、儒者) K 1 5 3 9  
軫石(しんせき・上柳) → 牧斎(ぼくさい・上柳うわやなぎ/柳、儒者) D 3 9 1 3  
尋石(じんせき・弘) → 通光(みちみつ・弘ひろ、和洋算家/教育) C 4 1 6 4

R2266 真赤庵(しんせきあん) ? - ? 評論:1771「誹隱三十棒」著  
尋跡斎(じんせきさい) → 雪馬(せつば・尋雪亭、絵師;挿画) E 2 4 6 5  
申石子(しんせきし) → 希因(きいん・大越/和田、俳人) 1 6 7 6  
尽夕庭(じんせきてい) → 見推(けんすい、俳人) K 1 8 2 2  
塵積楼(じんせきろう) → 太木(ふとき・大根おねの、狂歌) D 3 8 5 3  
信節(しんせつ→のぶよ・喜多村) → 筠庭(いんてい・喜多村、国学) C 1 1 0 6  
信節(しんせつ・篠木) → 信節(のぶよ・篠木ささき/藤原、幕臣/歌) G 3 5 9 2  
真節(しんせつ・上うえ) → 真節(まねたけ・上うえ/狛こま、雅楽) K 2 0 9 0  
尋雪亭(じんせつてい) → 雪馬(せつば・尋跡斎、絵師) E 2 4 6 5

P2210 眞仙(しんせん;法諱、小山僧正、本姓;源、法眼俊玄男)?-? 鎌倉前期の天台延暦寺僧、俊寛の孫、  
権僧正、法曼流静然門流を相伝、1217「普賢延命法」「普賢延命大法日記」、19「七仏薬師法記」、  
「開結作法」「五壇法要記」著

R2267 信専(しんせん;法諱) ? - ? 1321-24頃存 鎌倉南北期僧;法師、歌人、続現葉集入、  
続千載・続後拾遺に洩れた事を歎く歌(新千載;1983)、  
勅撰5首;新千載(682・1983)新拾遺(621)新後拾遺(581・624)、  
[光なき谷に住む身のかなしきは幾度いくたび玉の数にもれけん](新千;雑1983)、  
[夜とともにつがはぬをしやわびぬればさそふ水にもうきて行くらん](新千;冬682)

P2211 信仙(しんせん・大鳥居おとりい/本姓;菅原、河村次大夫長男)1675-1716<sup>42</sup> 母;大鳥居信兼女の清女、  
大鳥居信兼しんけんの養子/1687剃髪;信仙と改名/筑前の社僧;1689信兼と上京/権律師/法橋、  
1696家督嗣;太宰府天満宮司務別当、黒田宣政に出仕、家学の連歌作者;1702水田千句参加、  
1703(元禄16)信兼を助け天満宮八百御神忌を執行;千句連歌を奉納/1711法印、  
1716信兼の88歳賀を催、信賀・信亮・氏仍じょうらと百韻多数;1692-1714頃百韻15回以上催

R2206 秦川(しんせん・杉浦すぎうら、別号;晋阿しんあ)?-? 江中期江戸の俳人;一漁門、江戸一漁座点者、  
1754竹翁「誹諧童の的」評点句8句入

2243 秦川(しんせん;号・箕浦みのうら、名;行直/通称;専八、正路男)1726-1813<sup>88</sup> 土佐藩士/儒;宮地静軒門、  
1755江戸の稲葉迂斎門、納戸役/大目付;藩主山内豊雍の天明改革に尽力、  
1800「先師伝来夙興ノ記」、「国俗変更黙識条」、「秦山先生遺話」編、立斎・北江の兄

2244 新川(しんせん・岡田おかだ、名;宜生、宗愛男)1737-99<sup>63</sup> 尾張藩士の家/儒者;藩儒松平君山門、  
1783藩校明倫堂再興と共に教授/92督学;継述館総裁兼任、詩人、1764「表海英華」著、  
1770「新川集」71「夢游篇」79「晞髮偶詠」、「朝陽集」「日下新詠」「鬯園ちやうえん詩草」、  
「暢園文章」「暢園類雅」「甘谷志聞」「下学広集」「文会祭花録」「敬公実録」「行水金鑑抄」著、  
「常語藪」「常語藪続」編、1795・99「秉穂録」98「畸人詠」98「暢園詠物詩」外著多数  
[新川(;号)の字/通称/別号]字;挺之、通称;仙太郎/彦左衛門、

別号;朝陽/甘谷/暢園(鬯園)ちやうえん/杉斎、法号;素学新川居士

P2212 眞詮(しんせん;法諱、別法諱;超弘、号;光尊院)?-? 江中期伊勢の真宗大谷派本宗寺の住職、  
1788「稟承余艸」、「十弟子進退所作法」著/「大谷一流諸家分脈系譜」補



- P2213 **秦川**(しんせん・大熊おおくま、名;寅)1806-? 1860存 備中の生、大阪に住;眼科医/儒学も教授、詩文;菅茶山・猪飼敬所門、「亀陰詩鈔」「月瀬観梅詩舫」「三魏文鈔」著、「楽水漁庵文淵遺珠」編/1857「浪華擷芳譜なむけつほうふ」編、[秦川(;号)の字/通称/別号]字;子亮/伯虎、通称;文叔、別号;克斎/亀陰/夢墨/半医/膽庵
- V2207 **親暹**(しんせん;法諱・俗姓;坂田)?-1855 京の天台僧/近江滋賀郡三井寺財光坊初世、歌人;[鴉のうみ]入
- 新川(しんせん・土肥) → 震洲(かしょう・土肥どひ、儒者) C 1 5 1 0  
 新泉(しんせん・勝間) → 龍水(りょうすい・勝間かつま、絵師/書) I 4 9 3 0  
 辰宣(しんせん) → 辰宣(とぎのぶ・北尾、絵師) J 3 1 7 2  
 真船(しんせん・村松) → 真船(まふね・村松むらまつ、商家/国学) K 4 0 0 9  
 秦川(しんせん・杉浦) → 晋阿(しんあ・杉浦、俳人) D 2 2 4 1  
 晨川(しんせん・橋野) → 方久(まさひさ・橋野はしの、商家/儒者/歌) G 4 0 7 9  
 信僊(しんせん・星川) → 清晃(きよあきら・星川、藩士/国学者) N 1 6 0 5  
 信詮(しんせん・六角) → 信詮(のぶあきら・六角/佐々木、武将/歌) 3 5 8 4  
 信詮(しんせん・島崎) → 信詮(のぶあき・島崎、歌人) 3 5 8 3  
 信詮(しんせん・大沢) → 信詮(のぶのり・大沢、幕臣) C 3 5 6 9
- P2214 **眞然**(しんぜん;法諱、俗姓;佐伯、空海の甥)804?-89188? 平安前期讃岐多度津真言僧;9歳で出家、空海門/密教を修学、831真雅より両部灌頂を受/834空海より金剛峯寺を付嘱される、879東寺別当/885仁寿殿で宗義を論ず/権少僧都;東寺二長者/886東寺一長者、887権大僧都;高野山に真言堂および多宝塔を建立、「金剛峯寺」「阿波国太竜寺縁起」、「護摩儀」「鈴杵義」「眞然僧正自筆日記」「眞然僧正秘記」「眞然僧正秘決」外著多数、[眞然(;法諱)の通称] 中院僧正/後僧正
- D2269 **信禪**(しんぜん) ? - ? 室町後期伊予真言宗石手寺の住職、連歌;1482通直「大山祇社法楽連歌」(万句)参加
- 2245 **心前**(しんぜん;法諱、号;蘆箏斎/蘆中庵、蘆中あしなか宗貞男)?-1589 奈良元興寺高坊の僧、連歌・紹巴門、1564景恵「石山千句」入、京住;紹巴の側近、76母親追善独吟「心前千句」、1582(天正10). 5. 24本能寺襲撃前夜「光秀張行愛宕百韻」参加(15句)、1574-88百韻多数、了佐・宗於の兄、[消かへる向後ゆるもあれな夕霞](心前千句;第一何路発句)
- P2215 **眞禪**(しんぜん;法諱・覚海;道号)?-1828/30 出羽曹洞僧・月山智海門、1823加賀大乘寺50世、「愚禪和尚行状記」著
- P2216 **信全**(しんぜん・大鳥居おとりい/本姓;菅原、高辻/西高辻、参議梅小路定肖男)1822-7150 京の生、1832式部大輔高辻以長の養子として太宰府に下る/1835大鳥居信観の法嗣;社僧、国学者、1838安楽寺天満宮の司務別当/延寿王院の住職、権少僧都/法眼→権大僧都/法印、従五下、1868社務西高辻となる、書画・歌・連歌を嗜む、秋月千句/1839祈禱連歌興行、1852「物享人名録」/58-「安政五年ヨリ連歌集」61-65「文久元年ヨリ元治二年連歌集」著、信昇らと百韻;1843~55頃百韻多数興行、[信全(;名)の号/字]号;槐堂/院号;延寿王院、字;豪選
- 信前(しんぜん・伊藤) → 正作(まさなり・伊藤、医者/農業研究) F 4 0 4 5  
 信善(しんぜん・松井) → 式部(しきぶ・巢内/須内すのうち、勤王家/歌) Q 2 1 0 9  
 信全(しんぜん・森本) → 眞弓(まゆみ・森本もりもと、商家/国学/歌) P 4 0 3 5  
 親善(しんぜん・安東) → 省庵(せいあん・安東、藩儒) 2 4 0 2  
 親善(しんぜん・大久保) → 親善(ちかよし・大久保おおくぼ、藩士/歌人) M 2 8 2 1  
 仁川(しんせん・西宮) → 奎斎(けいさい・西宮、藩の儒者) F 1 8 6 6  
 甚仙(しんせん・山田) → 喬利(たかし・山田やまだ、藩士/歌人) 2 7 1 3
- 2246 **尋禪**(じんぜん;法諱・慈忍;号、藤原師輔男)943-99048 母;稚子内親王、比叡山僧;良源門;顕密修学、冷泉天皇の病を加持平癒/974権少僧都;一身阿闍梨/981権僧正/良源を嗣;19世天台座主、のち横川の別所近江飯室に退隠;念仏に専念、「戒壇院本尊記」「金剛宝戒章」「金剛界抄」、「慈忍受法私記」「授一乗菩薩戒灌受法私記」「摩訶止観略決」著、歌;恵慶(えぎょう)に贈歌:続詞花集入(;戯咲979)、

[惠慶法師播磨の講師になりてくださるに、  
うちはへてとねりのねやにいる人ははりまかちにやあらんとすらん、  
(続詞花;979/延へ/練り/張り・目勝ち)、

[尋禪(;法諱)の通称] 飯室座主/妙香院

深潜隠居(しんせんいんきょ) → 行虎(みちたけ・加藤/柴田、医者/歌人) B 4 1 7 4

新泉園(しんせんえん) → 五位鷺丸(ごいさぎまる、狂歌作者) H 1 9 0 7

深川斎(しんせんさい) → 等琳(3世とうりん・堤つみ、絵師) I 3 1 4 2

新泉荘(しんせんそう) → 元啓(もとひろ・石松いしまつ、儒者/歌) E 4 4 1 5

甚仙房(じんせんぼう;字) → 光誉(こうよ;法諱、真言僧) L 1 9 4 4

2247 **新宣陽門院**(しんせんようもんいん、名;憲子内親王、後村上天皇皇女)1343-9149 母;北畠親房女の顯子、  
(一説に後醍醐天皇女・母;阿野廉子[新待賢門院])、南北期歌人、1352一品/1378院号宣下、  
伊勢多気山荘に没、新葉集20首;30/155/162/193/238/269/338/346/603/707/708/788以下、  
[木のもととはそことも見えで春の夜のかすめる月に梅が香かぞする](新葉;春/夜梅)

真鉏(しんそ→ますき・田内) → 眞鑛(まじず・田内たのうち、国学者) I 4 0 8 8

V2270 **信宗**(しんそう;法諱、興福寺権僧都覚長男)?-? 平安鎌倉期;興福寺僧;権別当/法印、  
宗兼むねかぬ(千載歌人)の孫/東大寺僧朗覚(奈良歌合歌人)の甥、範円の兄/円兼・賢円の父、  
歌人;続詞花集/檜葉集入、弟範円と南都歌壇支援、元久1204-06頃藤原俊成が自房に滞在、  
[みしよにもかかはらぬ物はふる里のみかきがはらにさける卯の花](檜葉;夏113)  
[薬師寺鎮守八幡の歌合に忍恋、

人しれぬ心のうちのゆめをだにかたりあはするまぼろしもがな](檜葉;恋369)

2248 **信聡**(しんそう、[勅撰作者部類新葉集;信聰しんちようは誤り])?-? 南北期の僧;権大僧都、歌人;  
延元1336-40頃南朝歌壇に前大僧正として参加、藤葉集入、新拾遺集1088/新葉集365、  
[いかなれば人に心をそめ川の渡らぬ瀬にも袖ぬらすらむ](新拾;恋1088/権大僧都名)  
[秋風も夜寒よむになれば月影のふくるまでうつあさのさ衣](新葉;五秋365)、  
(延元三年1338九月十三夜内裏月三十首歌中に月前擣衣;前大僧正名)

P2217 **心聡**(しんそう;法諱、常楽院;号)?-? 1364存 南北期天台僧;心賀門、良意(;心賀門)門、  
恵心流天台学を修学、無動寺常楽院住;法務/法印/権大僧都、「論義次第見聞」「蔵田抄」著、  
1346「六即義見聞」47「七箇相承教重」54「宗要三箇大事」、「塔中七箇口決行重」外著多数、  
門弟;心栄・豪海・忠海・盛海・豪尊・日蓮ら、  
[心聡(;法諱)の通称] 西洞院法印にしんとういんのほういん

2249 **真宗**(しんそう;法諱) ? - ? 天台宗比叡山横川一音院の住僧;権律師、  
連歌作者;兼載・堯恵を一音院に迎える、1516(永正13)3月宗碩庵「十花千句」連衆に参加、  
新菟玖波集2句入

P2218 **心操**(しんそう・玉井たまい、末洗童)?- ? 俳人1710「群雀むらさぎ」編

P2219 **慎叟**(しんそう・二階堂にかいどう、名;平堪/平洪)?-? 江中期江戸の儒者;1716-36頃幕府評定所儒員、  
「解疑正要録」著

心宗(しんそう;法諱・寂林) → 寂林(じやくりん;道号・心宗、曹洞僧) W 2 1 2 6

心叟(しんそう・生駒) → 魯斎(ろさい・生駒いこま/岡野、藩家老/詩歌/兵学) B 5 2 5 2

真相(しんそう;法諱) → 相阿彌(そうあみ、将軍同朋衆/絵師/諸芸) 2 5 0 2

真相(しんそう・観蓮社) → 雷雨(らいう;法諱、浄土僧/天台学) 4 8 1 7

真宗(しんそう;浄土僧) → 俊賀(しゅんが;法諱・乗円房、真言僧) M 2 1 5 2

真宗(しんそう・高津) → 梅橋(ばいきょう・向陽軒、華道家) 3 6 9 8

親宗(しんそう) すべて → 親宗(ちかむね)

親相(しんそう・高洲/国司) → 親相(親輔ちかすけ・国司くにし、藩士/歌) B 2 8 0 6

晋窓(しんそう) → 湖十(こじゅう・四世、俳人) C 1 9 8 5

深聡(深総しんそう) → 深聡(深総しんそう;法諱、真宗大谷派僧) P 2 2 2 0

P2221 **新蔵**(しんそう・鈴木すずき、名;斂、繁懿男)1732-180877 陸奥八戸高埜城村の医者;清水良庵門、  
1762京の香川南洋門、儒学修得、帰郷し開業/帯刀を免許/盛岡に移住;診療と教授、  
「儒医帯刀御免之来由記」「傷寒臆拔書六経辨」「治国法言」「養生嚮方録」著、  
[新蔵(;通称)の字/別通称/号]字;貢父、別通称;主税ちから、諡号;倉部先生、法号;学古齋

- 2250 **新蔵**(しんぞう・小川おがわ) ? - ? 歌舞伎作者:  
1773初世正三「日本第一和布刈神事」番付作
- P2222 **新蔵**(しんぞう・斎藤さいとう/初姓;武衛たけ、名;正興)?-? 武衛流砲術家3世;2世武衛義旭より相伝、  
3代目武衛正興として大和郡山藩本多家に出仕、稲葉家に出仕/斎藤新蔵と称す、  
のち江戸で鉄砲名人として名声、「鉄砲覚書」著、  
[新蔵(;通称)の別通称] 沖之進
- P2223 **新蔵**(しんぞう・大滝おおたき、名;忠恕)?-? 1869存 出羽米沢藩士;1835家督嗣/小姓・用人、  
1857町奉行/67郡奉行、1868戊辰戦争に敗北/69権大参事、  
1863「仙府応接問答」/64「桑折秘記」「奉命始末」著、  
[新蔵(;通称)の字/別通称]字;秀光、別通称;新五郎/市川宮内いらかわくかい
- P2224 **新蔵**(しんぞう・宇野うの、主水男)? -? 京の本願寺に出仕、1851「宇野新蔵覚書」著
- P2225 **慎蔵**(しんぞう・伊藤いとう、名;慎、町医宗寿男) 1826-8055 長門萩蘭学者:1849緒方塾で修学/52塾頭、  
1855越前大野藩に招聘;洋学館蘭学教授/61致仕、妻の郷里摂津名塩村で開塾;数理を教授、  
1857「颯風新話」訳/59「築城全書」訳/66「磁石靈震気療説」、67「筆算提要」訳、  
[慎蔵(;通称)の字/別通称/号]字;君独、別通称;精一、号;長洋
- P2226 **慎蔵**(しんぞう・三吉みよし/田辺、小坂こさか時伴2男) 1831-190171 初め田辺惣左衛門養子、  
のち三吉十蔵の養子、長門府中藩校敬業館・萩藩校明倫館に修学/槍術;安積門、  
[槍の慎蔵]と称さる、長門府中藩士;1857藩主毛利元周の近習扈從役/58江戸に随従、  
西洋銃術;江川坦庵門、薩長連合謀議に参加、伏見の寺田屋事件;刺客の襲撃を逃れる、  
維新後藩の権大参事/1870長府毛利家の家扶、のち北白川宮家の家令、  
1866「三吉慎蔵上京日記」、「聖護院宮家記」「三吉慎蔵日記抄」著、  
[慎蔵(;通称)の幼名] 友三郎
- P2227 **慎蔵**(しんぞう・山川よしかわ、名;慎、元輔5男) 1834-190067 讃岐高松大工町儒者/儒・音韻・暦学;父門、  
大阪の藤沢東暎とうかい門;塾頭、詩文に長ず、帰郷;兄賀蔵を補佐し家学を教授/郷校長、  
1857「零約詳解」著、  
[慎蔵(;通称)の字/号]字;子固、号;東渠
- P2228 **慎三**(しんぞう・大橋おおはし、橋本慎徳男) 1835-7238 土佐高岡郡佐川の人/藩家老深尾家に出仕、  
土佐勤王党に参加、1864脱藩し禁門変に参加、1865大和十津川に逃亡/大橋慎三と改名、  
鳥羽伏見戦後大橋慎と改名、岩倉具視らと倒幕運動参画、維新後大政官大議生;諸官歴任、  
岩倉具視に献策、田中光頭と親交、1863「大橋慎三囚中詩」著、  
[慎三(;名)の別名/号]初名;鉄猪、号;富岳/岷岳、変名;高木有蔵/大橋慎三/大橋慎、
- 新三(しんぞう・長束) → 正家(まさいえ・長束なつか、武将) B 4 0 3 0  
 新三(しんぞう・雛田) → 中清(なかきよ・雛田ひなだ、神職/国学/歌) L 3 2 1 6  
 新造(しんぞう・豊島) → 文京(ぶんきょう・花笠、合巻・歌舞伎脚本) F 3 8 0 2  
 新蔵(しんぞう・吉田) → 栄賢(ひでかた・吉田、藩士/詩人) C 3 7 9 5  
 新蔵(しんぞう・松本) → 重文(しげふみ・松本まつもと、藩士/儒者) S 2 1 5 3  
 新蔵(しんぞう・小山田) → 春水(しゅんすい・小山田おやまだ、藩士/儒) L 2 1 1 5  
 新蔵(しんぞう・薬丸) → 兼福(かねとみ・薬丸やくまる、藩士/剣客) W 1 5 0 2  
 新蔵(しんぞう・深井) → 志道軒(しどうけん、真言僧/講釈師) F 2 1 2 7  
 新蔵(しんぞう・井筒屋) → 望翠(もうすい・片野かたの、商人/俳人) 4 4 5 7  
 新蔵(しんぞう・和泉屋) → 甘古(かんこ・平田ひらた、俳人) Q 1 5 3 4  
 新蔵(しんぞう・辻/加藤) → 敦善(あつよし・加藤かとう、歌人) E 1 0 9 3  
 新蔵(新三しんぞう・高力こうりき) → 猿猴庵(えんこうあん、藩士/随筆作家) B 1 3 7 3  
 新蔵(しんぞう・葛巻/大野木) → 克明(かつあきら・大野木おのおぎ、藩士/記録) N 1 5 2 3  
 新蔵(しんぞう・大野木) → 克寛(かつひろ・大野木、克明男/藩士/記録) N 1 5 8 1  
 新蔵(しんぞう・高島) → 春松(しゅんしょう・高島たかしま、絵師) L 2 1 0 5  
 新蔵(しんぞう・勝田) → 季鳳(きほう・勝田かつた、藩士/儒/医者) I 1 6 6 8  
 新蔵(しんぞう・栗田) → 安之(やすゆき・栗田くりた、幕臣/和算家) D 4 5 4 1  
 新蔵(しんぞう・橋村) → 正甫(まさなみ・橋村はしむら/度会/村山、神職) R 4 0 7 1  
 新蔵(進蔵しんぞう・小津) → 桂窓(けいそう・小津おう、商家/詩歌人) 1 8 8 2

新蔵(しんぞう・三野) → 謙谷(けんこく・三野みの、藩士/漢学者) E 1 8 1 0  
 新蔵(しんぞう・川勝) → 健蔵(けんぞう・高橋たかはし、書家) K 1 8 7 0  
 新蔵(しんぞう・斎藤) → 春暁(しゅんぎょう・勝川かつかわ、絵師) M 2 1 7 2  
 新蔵(しんぞう・平沢) → 香山(こうざん・平沢ひらさわ、藩儒者) G 1 9 3 6  
 新蔵(しんぞう・渡辺) → 弘堂(こうどう・渡辺わたなべ、儒者) K 1 9 8 0  
 新蔵(しんぞう・小室) → 政方(まさかた・小室こむろ、藩士/歌人) P 4 0 6 4  
 新蔵(しんぞう・武田) → 農業(ときなり・武田たけだ、商家/村政/俳人) V 3 1 7 0  
 新蔵(しんぞう・坂) → 正永(まさなが・坂/阪さか、商家/暦・天文) F 4 0 3 3  
 新蔵(眞三しんぞう・高梨) → 時胤(ときたね・高梨たかなし、歌人) V 3 1 6 3  
 新蔵(しんぞう・井上) → 好春(よしはる・井上いのうえ、藩士/国学者) L 4 7 3 5  
 新蔵(しんぞう・稲若) → 範行(のりゆき・稲若いなわか、藩士/武術/歌) H 3 5 3 9  
 新蔵(しんぞう・長井) → 盛良(もりよし・長井ながい、名主/神職) K 4 4 8 5  
 新蔵(慎蔵/辰蔵しんぞう・田中) → 千広(ちひろ・田中たなか、藩士/国学者) M 2 8 7 3  
 進三(しんぞう・河竹) → 新七(初世しんしち・河竹、歌舞伎・浄瑠璃作者) U 2 2 0 2  
 進蔵(新蔵しんぞう・三井) → 高匡(たかまさ・三井、商家/国学者/歌) N 2 6 1 9  
 信蔵(しんぞう・田中) → 適所(てきしょ・田中たなか、医者/儒者) B 3 0 9 7  
 慎蔵(しんぞう・藤井) → 見隆(けんりゅう・藤井ふじい、医者) M 1 8 8 0  
 深造(しんぞう・坂本) → 皆山(かいざん・坂本さかもと、医者) I 1 5 6 5  
 深造(しんぞう・毛利) → 黙翁(もくおう・毛利もうり、国学者) L 4 4 6 8  
 深蔵(しんぞう・中村) → 蘭林(らんりん・中村/藤原、幕医/儒者) D 4 8 2 9  
 深蔵(しんぞう・藤原) → 操南(そうなん・藤原、大庄屋/詩歌) I 2 5 6 2  
 深蔵(しんぞう・越村) → 凶南(となん・越村こしむら、蘭方外科医) O 3 1 6 4  
 深蔵(しんぞう・狩野) → 良知(りょうち・狩野かのう、藩士/儒者) I 4 9 8 6  
 深蔵(しんぞう・天野) → 重行(しげゆき・天野あまの、藩士/歌人) N 2 1 2 0  
 深蔵(しんぞう・二神) → 礼和(ひろかず・二神ふたがみ、庄屋/歌人) K 3 7 8 8  
 晋三(しんぞう・狩野/岡田) → 為恭(ためちか・冷泉/岡田、絵師/歌) H 2 6 0 0  
 晋三(しんぞう・土肥) → 石斎(せきさい・土肥どひ/田村、藩士/儒者) K 2 4 0 7  
 晋蔵(しんぞう・張) → 月樵(げつしょう・張ちよう、絵師) H 1 8 1 0  
 真蔵(しんぞう・日下) → 世傑(せいけつ・日下くさか/孔/森、儒/詩) B 2 4 1 7  
 真蔵(しんぞう・加藤) → 木叟(ぼくそう・加藤かとう、藩士/歌人) G 3 9 1 8  
 真蔵(しんぞう・河野) → 通溥(みちひろ・河野こうの、国学/歌人) J 4 1 1 1  
 真蔵(しんぞう・高木) → 宗矩(むねのり・高木たかぎ、藩士/国学/歌) D 4 2 9 6  
 信造(しんぞう・依田) → 学海(がっかい・依田よだ、儒/詩/日記) F 1 5 4 0  
 信造(しんぞう・中村) → 朝信(とものおぶ・大島おおしま、藩士/歌) U 3 1 5 0  
 積蔵(しんぞう・島崎) → 正樹(まさき・島崎しまざき、庄屋/国学者) C 4 0 2 9

P2220 深聡(深総しんぞう;法諱) ? - ? 江後期天保1830-44頃越前の真宗大谷派僧、  
 1840「三論玄義講録」著

甚蔵(じんぞう・兼松) → 嘯風(しょうふう・兼松かねまつ、俳人) B 2 2 3 6  
 甚蔵(じんぞう・豊島屋) → 徳升(とくしょう・五柳亭ごりゅうてい、戯作) K 3 1 9 7  
 甚蔵(じんぞう・村上) → 杜陵(とりょう・村上、表具師/講釈師) R 3 1 9 3  
 甚蔵(じんぞう・木村) → 市明(しめい・木村きむら、商家/俳人) V 2 1 7 9  
 甚蔵(じんぞう・大脇) → 春保(はるやす・大脇おおわき、国学者) H 3 6 0 4  
 甚蔵(じんぞう・山野) → 室丸(むろまる・山野やまの、国学/歌人) E 4 2 3 2  
 甚蔵(じんぞう・渡辺) → 湊水(みなみず・渡辺わたなべ/辺、絵師) O 2 2 9 7  
 甚蔵(じんぞう・小町) → 玉川(ぎょくせん・小町おまち、儒者/詩文) P 1 6 2 0  
 甚蔵(じんぞう・岡内) → 綾川(りょうせん・岡内おかうち、藩儒) I 4 9 5 5  
 甚蔵(じんぞう・小林) → 見外(けんがい・小林こばやし、俳人) B 1 8 3 7  
 甚蔵(じんぞう・宮崎) → 鯢思(けいし・宮崎みやざき、儒者/教育) F 1 8 9 1  
 甚蔵(じんぞう・田中) → 高長(たかなが・田中たなか、和算家) M 2 6 6 2

- 甚蔵(じんぞう・上西) → 清辰(きよとき・上西うえにし/藤原、藩士/国学) T 1 6 6 1  
 甚蔵(じんぞう・明賀屋/茗荷屋) → 梅裡(ばいり・大橋おおはし、商家/俳人) C 3 6 1 6  
 甚蔵(じんぞう・本田) → 寛光(ひろみつ・本田ほんだ、国学) K 3 7 9 7  
 甚蔵(じんぞう・内池) → 保教(やすのり・内池うちいけ、商家/歌人) F 4 5 4 2  
 新叢翁(しんそうおう・堀田) → 正俊(まさとし・堀田/紀、藩主/大老/歌) E 4 0 4 3  
 心宗国師(しんそうこくし) → 疎石(そせき;法諱・夢窓;道号、臨濟僧/五山文学) 2 5 2 4  
 信則(しんそく・児玉) → 信則(のぶのり・児玉、俳人) C 3 5 7 9  
 信足(しんそく・堤) → 信足(のぶたり・堤つみ、陪臣/国学/歌人) J 3 5 2 1  
 神足(しんそく・清原) → 武員(たけかず・清原きよはら、廷臣/記録) O 2 6 3 2  
 真足(しんそく・木原) → 藤園(とうえん・木原きよはら、藩士/故実家) B 3 1 5 3  
 真足(しんそく・高内) → 眞足(またり・高内たかうち/額田、神職) J 4 0 5 7  
 真足(しんそく・佐々木) → 眞足(またり・佐々木、能役者/歌人) J 4 0 5 8  
 真足(しんそく・羽田) → 眞足(またり・羽田はねだ、藩士/歌人) R 4 0 8 5  
 心足(しんそく・高井) → 勝房(かつぶさ・高井、神職/俳人) N 1 5 8 3  
 真則(しんそく・武田) → 多則(たそく・武田たけだ、暦算家) P 2 6 0 5  
 親足(しんそく・津軽) → 親足(ちかたり・津軽つがる/黒田、藩主/歌) L 2 8 4 0  
 人足(じんそく・坂門) → 人足(ひとたり・坂門さかと、万葉歌人) E 3 7 1 8  
 人足(じんそく・三国) → 人足(ひとたり・三国眞人みくにのまひと、万葉歌人) E 3 7 2 0  
 仁則(じんそく・平田) → 眠翁(みんおう・平田/小林、医者/本草家) G 4 1 7 7  
 眞素美(しんそび・大石礙) → 眞素美(ますみ・大石礙おおいごり/望月/大伴、国学) O 4 0 2 6
- P2229 **信尊**(しんそん;法諱) ? - ? 鎌倉期天台僧;幼時に幸範門;得度/顕密二教修学、能信門;天台学を修学/比叡山に登り修行;灯明院承瑜より一心三観・一念三千の奥義伝受、寛元1243-47頃武蔵河田谷に泉福寺を建立、「類聚集」「河田谷十九通傍正」著、門弟;海日・朗日・広海・尊海ら
- P2230 **親尊**(しんそん;法諱、花山院兼継男) 1236?-? 1262存 真言僧;1255醍醐報恩院憲深門/印可を受、1256憲深より灌頂を受/62持宝院で親快より印可を受、1256「録外経等目録」著、「開心秘決」「求聞口訣」「持宝王院伝法灌頂雜記」「普賢延命鈔」著
- P2231 **眞存**(しんそん;法諱、通称;筑後入道、俗姓;隈江) ?-? 日向飢肥の僧/島津忠朝の家士、1496以前に上京;連歌;肖柏門/師の許に寄寓/1507頃帰郷、1517九州旅の宗碩を迎える、種子島にも同行;1517「永正十四年三月廿二日何人百韻」興行、1520再上京;三条西実隆を訪問
- P2232 **信尊**(しんそん;法諱、鷹司信房2男) 1599-1676 78 母;佐々成政女、法相僧;興福寺大乘院住、大僧正に至る/興福寺別当、1633「御日次記」著、[信尊(;法諱)の法号] 後理趣院
- P2233 **神村**(しんそん・浦野うらの/本姓;源、名;知周、浦野[初姓;田中]宏重男) 1744-1823 上州伊勢崎藩士、儒;村士玉水門、代官職/1840頃大目付・藩校教授兼任、江戸屋敷の教授、藩政改革に功績、「読書準繩」「五宗諺解」「五服諺解」「玉水先生行実」「白鹿洞揭示講義」著、[神村(;号)の通称/別号]通称;次郎兵衛/平太左衛門/仁左衛門、別号;耦叟、法号;仁叟義道居士
- 2251 **新村**(しんそん・秦はた、名;度わたる、貞也男) 1780-1845 66 三河宝飯郡赤坂村の生/幼時に母と江戸住、儒者;闇齋学派服部栗齋の麴溪書院に修学、のち同署員教授補佐;師の代講を勤める、能書家、1796武蔵岡部藩藩主安部家に招聘;世子の侍読/1814儒員となる、江戸藩邸内に学問所就将館を開設;藩の子弟教育に尽力、「太極図説解」「五経直解」、「四書直解」「栗齋服部先生説書」著、[新村(;号)の字/通称/別号]字;惟貞/維貞、通称;貞八、別号;宵陶齋
- 親尊(しんそん・田) → 親尊(ちかたか・田でん、神職/連歌) B 2 8 1 2  
 信存(しんそん/のぶあり・津田) → 東巖(とうがん・津田、儒者) C 3 1 3 4  
 信存(しんそん・唐川) → 信存(のぶあり・唐川からかわ/安田、国学/歌) H 3 5 9 5
- 2252 **尋尊**(じんそん;法諱、摂政一条兼良5男) 1430-1508 79 母;中御門宣俊女、室町戦国期法相僧、

興福寺大乘院入;1440得度/55僧正/56興福寺別当;長谷寺・橘寺・薬師寺別当を兼任、  
1457大僧正/67興福寺法務、日記や記録・地図類を著述、著、「大乘院寺尋尊記」著、  
1464「河原勸進猿楽記」1474-1506「御油下行記」;自文明六年至永正三年「外著多数

津多(した・木沢) → 津多(つた・木沢さざわ/鎮西、歌人) 2908

親太(した・古川) → 定甫(ていぼ・古川ふるかわ/稻熊、俳人) E3001

親太(した・溪) → 百年(ひゃくねん・溪たに/河田、儒者/兵学) E3772

2253 神退(しんたい;法諱) ? - ? 平安前期近江志賀郡の僧;法師、歌人;古今集925、  
[清滝の瀬々の白糸くりためて山わけ衣織りて着ましを](古今;雑925/山分衣は入山の衣)

P2234 信泰(しんたい;法諱) ? - ? 江戸後期筑前太宰府天満宮の社僧、  
連歌:1807-23頃参加/24-39頃信観らと百韻多数

信戴(しんたい・中野) → 雲濤(うんとう・中野なかの、絵師) E1290

真泰(しんたい・鶴飼) → 称斎(しょうさい・鶴飼うかい、儒者/藩史官) S2228

P2235 謙泰(けんたい;法諱) ? - ? 1665存 江戸上野の天台宗寛永寺の僧、  
「慈眼大師伝」/1665「東照宮五十回忌御法要記」著

眞諦院(しんたいいん:諡号) → 道命(どうみょう:法諱、真宗本願寺派僧) H3130

2254 新待賢門院(しんたいげんもんいん、阿野廉子、阿野[藤原]公廉女) 1301-59 59 太政大臣洞院公賢の養女、  
後醍醐天皇妃、後村上天皇の母、1321従三位/35准三宮/皇后宮/51院号を受/57出家、  
南朝歌人;新葉集20首;107/206/252/280/314/607/608/727/856/895/1161/1332以下、  
[すぎがてに手折る桜の一枝をなほ九重に色添へてみよ](新葉集;春107)、  
(芳野参詣時に夕映え美しい堂の桜を手折って内裏に献上する時の歌)

2255 新大納言(しんだいなごん・延政門院えんせいもんいん、通称;高倉たかくら、藤原為氏女)?-? 鎌倉後期;京極派歌人、  
延政門院(後嵯峨天皇皇女悦子内親王1259-1332)家女房、1292厳島社頭和歌参加、  
1299五種歌合/十八番歌合参加、1303仙洞歌合/04伏見院歌合/15法華経和歌などに参加、  
勅撰9首;玉葉(6首766/987/1265/1412/1434/2275)風雅(914/1278)新拾遺(1704)、  
[小倉山秋とばかりのうす紅葉しぐれて後の色ぞゆかしき](玉葉:秋766)、  
(亀山院よりめされける秋十首歌の中に)

2256 新大納言(しんだいなごん・昭訓門院しょうくんもんいん[1273-1336])?-? 鎌倉後期;女房歌人、  
龜山天皇の妃昭訓門院瑛子の女房、歌;新千載集2330、  
[幾千代と秋のかぎりもしら菊の花にぞ頼む君がめぐみを](新千載;慶賀歌2330)、  
(女院より菊をめされるに添えて奉る)

新大納言(しんだいなごん;隱名) → 徽安門院(きあんもん・寿子内親王、光厳院皇妃) 1671

2257 震沢(しんたく・柳川やながわ、名;順剛)?-1690(40余歳没) 近江の生;早く父母に死別;叔父により養育、  
17歳で上京/儒者・木下順庵門;師の留守に家塾を預かり門下を教授、室鳩巢は震沢を兄事、  
「平菴漫録」「雪溪日録」「雪溪日録続録」「論孟說叢」「日知漫録」「西京筆語」「震沢長語」著、  
「韓客通筒集」「韓館酬和集」編、  
[震沢(;号)の字/通称/別号]字;用中、通称;平助、別号;平庵/雪溪/雪溪釣叟

P2236 振濯(しんたく・久代くしろ、名;将業/通称甚右衛門) 1662-1736 75 代々姫路藩主榊原家臣、  
主家転封により一時越後村上藩のち姫路住、儒者;弟寛斎かんさいと朱子学を講じる、  
「白兔編」「晨明記」著

真脱庵(しんだつあん) → 狂言堂(きやうげんどう・近松、浄瑠璃/図会/雑俳) N1667

新大夫(しんだゆう・山) → 重民(しげたみ・山さん、神職/歌人) R2141

甚太夫(じんだゆう・箕曲) → 在一(あいかず・箕曲みのわ、神職/詩歌) F1026

甚太夫(じんだゆう・箕曲) → 在清(あきよ・箕曲みのわ、暦算家) F1031

甚太夫(じんだゆう・箕曲) → 在六(ありむつ・箕曲みのわ、暦算家) F1086

甚太夫(じんだゆう・小塚) → 知隆(ともたか・小塚こづか、神職) P3165

甚太夫(じんだゆう・山路) → 重信(しげのぶ・山路やまぢ、歌人) V2143

甚太夫(じんだゆう・吉松) → 教冬(もりふゆ・吉松よしまつ、藩士/学者) L4489

甚太夫(じんだゆう・美濃部) → 茂清(しげきよ・美濃部みのべ、藩士/日記) Q2196

甚太夫(じんだゆう・出島) → 明雅(あきまさ・出島でじま、名主/国学) H1099

U2230 新太郎(しんたろう・淀屋よどや)?- ? 江戸後期商家、1830?馬琴評答集の評者の1

2259 慎太郎(しんたろう・中岡なかおか、小伝次長男/母;初)1838-67暗殺30 土佐安藝郡北川郷の大庄屋の生、儒/経史;1852間崎滄浪門/剣術;54武市瑞山門、1857北川郷大庄屋見習として父を補佐、1861土佐勤王党に参加/63脱藩・討幕活動、坂本竜馬・西郷隆盛らと薩長連合に奔走、1867陸援隊を組織、京瓦町近江屋で幕吏による襲撃;竜馬と共に暗殺される、詩文に長ず、「時勢論」「石川清之助筆記」「石川清之助手帖」1866「石川清之助覚書」著、[慎太郎(;通称)の名/別通称/号/変名]名;為鎮/道正、別通称;福太郎/光次、

号;迂山/遠山、変名;石川誠之助/石川清之助・大山彦太郎・寺石貫夫・横山勘蔵

- 新太郎(しんたろう・池田) → 光政(みつまさ・池田いけだ、藩主/儒者) E 4 1 8 7  
 新太郎(しんたろう・内田屋) → 内新好(ないしんこう/うち、俳人/戯作者) 3 2 5 3  
 新太郎(しんたろう・加藤) → 磐斎(ばんさい、加藤、和学/歌学) 3 6 4 1  
 新太郎(しんたろう・桑そう/桑山) → 玉洲(ぎよくしゅう・桑山/桑、絵師) D 1 6 0 2  
 新太郎(しんたろう・渡/亙) → 忠秋(ただあき・渡/亙わり/鳥居、歌人) E 2 6 7 8  
 新太郎(しんたろう・稻荷屋/河野) → 涼谷(りょうこく・河野、醸造業/俳人) H 4 9 5 1  
 新太郎(しんたろう・筒井) → 尚堂(しょうどう・筒井つひ、書家) L 2 2 1 9  
 新太郎(しんたろう・対馬) → 留雲(りゅううん・対馬つしま、詩人) C 4 9 8 1  
 新太郎(しんたろう・鐫木/八木) → 静修(しずさね・八木/鐫木/橘、国学者) U 2 1 0 1  
 新太郎(しんたろう・村田) → 泰足(あんそくやすたり・村田、藩士/国学) B 4 5 9 6  
 新太郎(しんたろう・大菅) → 休(やすむ・大菅おおすが/森下、藩儒) D 4 5 1 8  
 新太郎(しんたろう・柚木/新宮) → 涼民(りょうみん・新宮しんぐう/柚木、蘭医) J 4 9 5 1  
 新太郎(しんたろう・酒井) → 忠器(ただかた・酒井さかい、藩主/歌人) U 2 6 9 8  
 新太郎(しんたろう・北郷) → 資清(すけきよ・北郷きたごう、藩士/国学) I 2 3 3 8  
 新太郎(しんたろう・松沢) → 当義(たうぎ・松沢まつざわ、国学/歌) S 4 0 6 7  
 新太郎(しんたろう・家里) → 松嶠(しょうとう・家里/近藤、儒者/尊攘) R 2 2 5 7  
 新太郎(しんたろう・黒田) → 清綱(きよつな・黒田くろだ/源、藩士/歌人) U 1 6 2 7  
 新太郎(しんたろう・山田) → 正秋(まさあき・山田やまだ/富山、商家/歌人) T 4 0 4 8  
 神太郎(しんたろう・二見) → 景房(かげふさ・二見ふたみ、神職/日記) V 1 5 5 7  
 神太郎(しんたろう・二見) → 景賢(かげかた・二見ふたみ、神職) V 1 5 5 8  
 津太郎(しんたろう・菅野) → 元健(もとたけ・菅野すがの、和算家) C 4 4 8 7  
 眞太郎(しんたろう・田中) → 延香(のぶか・田中、国学/歌) B 3 5 0 7  
 眞太郎(しんたろう・吉岡) → 鶴巢(じやくそう・吉岡/葛西、医者/俳人) W 2 1 0 5  
 眞太郎(しんたろう・木下) → 韓村(いそん・木下、儒者) E 1 1 1 2  
 眞太郎(しんたろう・高田) → 茂敏(しげとし・高田たかた、商家/歌人) Z 2 1 2 8  
 眞太郎(しんたろう・土屋) → 惟清(これきよ・土屋つちや、国学者/歌) R 1 9 0 4  
 信太郎(しんたろう・神谷) → 克楨(かつさだ・神谷かみや、藩士/故実) N 1 5 3 2  
 信太郎(しんたろう・伊藤) → 嘉融(よしゆき/よしなが・伊藤いとう/藤原、尊攘) B 4 7 7 3  
 信太郎(しんたろう・中島) → 重孝(しげたか・中島なかじま、農家/国学/尊攘) Z 2 1 5 5  
 信太郎(しんたろう・山内) → 芳秋(よしあき・山内やまうち、官吏/歌人) P 4 7 8 0  
 信太郎(しんたろう・湯沢) → 重眞(しげさね・湯沢ゆさわ、名主/歌人) a 2 1 0 5  
 晋太郎(しんたろう・青方) → 簡斎(かんさい・青方あおかた、藩家老/洋学) Q 1 5 6 5  
 晋太郎(しんたろう・吉村) → 千秋(ちあき・吉村よしむら、国学者) 2 8 3 3  
 晋太郎(しんたろう・平沼) → 晋(すすむ・平沼ひらぬま、藩士/詩・書) D 2 3 8 1  
 進太郎(しんたろう・吉成) → 好信(よしのぶ・吉成よしなり、神職/和漢学) Q 4 7 0 8  
 深太郎(しんたろう・富奥) → 直威(なおさね・富奥とみおく、神職/国学) O 3 2 0 0  
 銀太郎(しんたろう・石川) → 艇斎(ていさい・石川いしかわ、藩士/儒者) 3 0 8 7  
 甚太郎(しんたろう・脇坂) → 安政(やすまさ・脇坂わさきか/堀田、藩主/歌) H 4 5 0 5  
 甚太郎(しんたろう・佐藤) → 信景(のぶかげ・佐藤、地質研究/殖産家) B 3 5 0 8  
 甚太郎(しんたろう・万波) → 醒廬(せいろう・万波まんなみ、藩士/儒/詩歌) D 2 4 2 2  
 甚太郎(しんたろう・新井/麻屋) → 政毅(まさかた・新井あらい、歌人/蔵書家) N 4 0 2 3  
 甚太郎(しんたろう・三倉屋) → 定功(さだこと・富山とみやま/辻/島田、定静養子/商家/歌) O 2 0 9 2

- 2260 **心地**(しんち;道号・覚心かくしん;法諱、俗姓;恒or常澄)1207-98**長寿**92 信濃の僧;臨濟宗法灯派の祖、初め信濃神宮寺で經史修学/高野山で密教修学;退耕行勇・栄朝門、1250入宋/54帰国、1264紀伊西方寺(興国寺)を譲られ開山、無門慧開に参ず、1291「無門関」開版、「坐禅之事」/1292「誓度院規式」著、「法灯国師法語」「法灯国師坐禅儀」、「法灯円朝国師遺芳録」、普化宗の祖と称される/融通念仏詠唱に踊念仏を唱導;萱堂聖、[心地覚心の別道号/号]別道号;無本、号;心地坊、諡号;法灯禪師/法灯円朝国師
- 信智(しんち;字) → 寅載(いんさい;法諱・信智、浄土僧) I 1 1 5 5
- 信智(しんち/のぶとも・加藤) → 桜老(おうろう・加藤、儒/国学/尊王派) C 1 4 7 3
- 信智(しんち・林) → 確軒(かくけん・林はやし、幕臣/儒者) E 1 5 6 6
- 信知(しんち・古谷) → 信知(のぶとも・古谷ふるや、剣術家) G 3 5 4 9
- 親知(しんち・本堂) → 親知(ちかとも・本堂ほんどう、藩士/歌) B 2 8 3 5
- 眞智(しんち;法名) → 基家(もとえ・藤原、廷臣/日記) 4 4 1 1
- P2237 **神智**(じんち;法諱) ? - ? 江後期寛政1789-1801頃の真言僧;般若寺律師、1791「聖教秘部伝授目録」著
- 心地院(しんちいん) → 日塔(にっとう;法諱・禹遵、日蓮僧) F 3 3 4 3
- 眞智閑(しんちかん) → 義路(よしみち・熊野御堂くまのみどう/高、国学) M 4 7 6 2
- 深竹軒(しんちくけん) → 竹雲(ちくうん・山本やまと、篆刻家/茶人) C 2 8 6 0
- P2238 **信忠**(しんちゅう、信寛しんかく、法印覚興男)?-? 鎌倉期法印;薬師寺別当、祖父は藤原忠定(俊成の兄弟)、歌;1232石清水若宮歌合参加;右方(;法眼和尚位)、[きよく澄む水の心やみわ河の波も霞の衣たつらん](石清水若宮歌合;32)
- 2261 **信仲**(信中しんちゅう;道号・明篤みょうとく/みんとく;法諱、俗姓;三善)1377-1451**75** 淡路三原の臨濟僧;大蔭明樹門;法嗣、淡路安国寺住持/1438東福寺130世/42天竜寺104世/44南禅寺150世、南禅寺退隠後に東福寺永明院内の宗鏡軒を再興し住す、「晦夫集」「松花集」「宗鏡集」「信仲録」「信仲疏」「以篤禪師疏」著、詩人;1448(文安5)賢良[畠山匠作亭詩歌]参加(詩/宗鏡老衲妙篤名)、[農務村村佩犢耕 翠雲万頃寸苗生 誰知禽語補王化 微雨溪辺布穀声]、(匠作亭詩歌;7早苗/対するは飛鳥井正親の歌)、[信仲明篤の号] 松花老人/千松/宗鏡嬾衲そうきょうらんのおう/海南隠衲
- 真中(しんちゅう・小林) → 眞中(まなか・小林/度会、神職/狂言) J 4 0 9 7
- 真中(しんちゅう・今掘) → 眞中(まなか・今掘いまぼり、禅僧/歌人) N 4 0 8 1
- 眞忠(しんちゅう) → 高岳親王(高丘-たかおかしんのう、真言入唐僧) L 2 6 6 4
- 真忠(しんちゅう・藤原) → 眞忠(さねただ・藤原ふじわら、廷臣/歌人) K 2 0 9 1
- 真柱(しんちゅう・後醍院) → 眞柱(みはしら・後醍院ごだいいん/大河平、国学者) F 4 1 7 1
- 親忠(しんちゅう) すべて → 親忠(ちかただ)
- 仁忠(じんちゅう) → 仁忠(にんちゅう、天台僧) G 3 3 6 7
- 尽忠(じんちゅう・中村) → 尽忠(みちただ・中村なかむら、歌人) J 4 1 9 2
- 心柱舎(しんちゅうしゃ) → 秀政(ひでまさ・吉野よしの、神職/地誌) D 3 7 8 1
- 2262 **新中納言**(しんちゅうなごん・殷富門院いんぷもんいんの)?-? 右近少将源通家女、藤原定能の室、殷富門院亮子内親王家女房、歌人;殷富門院大輔勸進「天王寺十題十首和歌」参加、新勅撰集621(大輔の天王寺奉納十首和歌に詠む)、[とどめけるかたみを見てもいとどしく昔恋しきのりのあとかな](新勅撰;釈教621)
- 新中納言(しんちゅうなごん;顯輔家歌合) → 宗能(むねよし・藤原、廷臣/故実/歌) C 4 2 8 0
- 2263 **眞超**(しんちょう;法諱/初諱;日超/伝心、字;南星/円幹、号;舜統院、俗姓;斎部)1596-1659**64** 京の生、活動は三つに分かれる;①日蓮僧日超;日舜門/1632妙蓮寺貫主、②1635天台叡山僧;大僧都、③叡山西教寺僧;恵心流念仏を主唱、1627「西谷名目鈔」、32「天台集解新鈔」、37「破邪顕正記」40「念仏選撰評ねんぶつせんざいひょう」、「温故助導集」「真超上人法語」「方便品講説」「凡僧々綱有職記」「内外明鑑」外著多数
- P2239 **信澄**(眞証しんちょう;法諱・琳亮;字)?-? 1736-44**頃存** 下総香取郡吉田の真言僧;碧雲山有鏡門、長谷寺に遊学;45年間、その間に鳳悟院・金蓮院などに住、のち江戸万徳寺に住、「声明指南鈔」「出家略作法」著



真長(しんちょう・矢作部) → 眞長(まなが・矢作部やはぎべ、防人/万葉) J 4 0 9 8  
 真潮(しんちょう・谷) → 眞潮(ましろ・谷、大神) 4 0 2 6  
 真澄(しんちょう) → 月海(げっかい:法諱、真宗僧/奇物菟集) G 1 8 9 1  
 真澄(しんちょう)訓読はすべて → 眞澄(ますみ)  
 真超(しんちょう;字・豪実) → 豪実(ごうじつ:法諱・真超、天台叡山僧) J 1 9 4 6  
 真鳥(しんちょう・斎藤) → 眞鳥(まどり・斎藤さいとう、国学者) J 4 0 0 1  
 真激(しんちょう・林/宍戸) → 眞激(まさもと・宍戸ししど/林、藩士/国事) H 4 0 9 6  
 辰長(しんちょう・滋岡) → 辰長(とこなが・滋岡しげおか、神職/連歌/詩) J 3 1 5 8  
 信鳥(しんちょう) → 馬肝(ばかん・九鳳舎、俳人) C 3 6 4 4  
 信澄(しんちょう・林) → 東舟(とうしゅう・林、儒者) E 3 1 8 9  
 信晁(信兆しんちょう・栗原) → 信晁(のぶあき・栗原くりはら、幕臣/画) 3 5 8 2  
 信兆(しんちょう・柳沢) → 芝陵(しりょう・柳沢やなぎさわ、儒者) M 2 2 9 9  
 信聰(しんちょう;勅撰作者部類新葉集) → 信聡(しんそう、権大僧都/歌人) 2 2 4 8  
 深澄(しんちょう・加藤) → 小自在(しょうじざい・加藤かとう、僧/歌/俳) U 2 2 7 4  
 良長(しんちょう・卜部) → 良長(よしおさ・卜部うらべ、神職/廷臣) F 4 7 3 2  
 親長(しんちょう)すべて → 親長(ちかなが)  
 親朝(しんちょう)すべて → 親朝(ちかとも)  
 人長(じんちょう・坂上) → 人長(ひとおさ・坂上忌寸、万葉歌人) E 3 7 1 2  
 人長(じんちょう・多) → 人長(ひとなが・多おおい、官人/紀の講筈) E 3 7 2 1  
 森鳥亭(しんちょうてい) → 行宣(ゆきのぶ・笠井かさい、国学者) G 4 6 7 2  
 眞直(しんちよく・安倍) → 眞直(まなお・安倍朝臣、廷臣/学者) J 4 0 9 6  
 仁智楼(じんちろう) → 浚新斎(しゅんしんさい・青地) K 2 1 0 0  
 眞鎮(しんちん・田内) → 眞鎮(ましず・田内たのうち、国学者) I 4 0 8 8  
 親通(しんつう・大江) → 親通(ちかみち・大江おおえ、仏教寺院巡礼) B 2 8 8 6  
 親通(しんつう・中山) → 親通(ちかおり・中山/藤原、廷臣/大納言) B 2 8 6 1  
 信通(しんつう・唐崎) → 信通(のぶみち・唐崎からさき、神職/国学) H 3 5 9 6  
 信通(しんつう/のぶみち・舟木) → 杏庵(きょうあん・舟木ふなき、医者/詩文) N 1 6 2 7  
 神通(じんつう・青木) → 北海(ほっかい・青木/殿岡、和漢学者) E 3 9 5 3  
 神通堂(じんつうどう) → 来章(らいしょう・中島/源/並河、絵師) 4 8 6 4

P2241 莘亭(しんてい;号・葉山はやま、名;沃)?-? 江後期豊前小倉藩士;藩主小笠原忠徴の御側役、近習番頭/家老に昇進、晩年;企救郡楠南村に退隠、田能村竹田[1777-1835]と交流、「香影山房詩集」著

P2240 晋亭(しんてい・朝長ともなが、名;自昭/昭徳、大村藩士熊右衛門男) 1800-4445 肥前東彼杵郡竹松村生、1808(9歳)長崎安禅寺の寺若衆/1816帰郷/江戸詰の藩士若党として江戸住;1年後離藩、儒者;朝川善庵門、1830師の推薦で近江彦根藩に招聘;辞退し肥前大村藩校五教館教師、藩主世子(大村純頭)の侍講/純頭襲封に伴い侍読、1818「元百家絶句」編、[晋亭(;号)の通称]直治/直二郎

眞貞(しんてい・善道) → 眞貞(まさだ・善道よしみち/伊与部、廷臣) G 4 0 7 4  
 眞貞(しんてい・安部) → 眞貞(まさだ・安部あべ、国学者) D 4 0 1 1  
 信貞(しんてい)すべて → 信貞(のぶさだ)  
 信定(しんてい:法諱) → 信定(しんじょう:法諱、尋定、律師/歌) V 2 2 8 1  
 信定(しんてい・内池) → 信定(のぶさだ・内池うちいけ、歌人) H 3 5 5 0  
 親貞(ちかさだ・中都) → 親貞(ちかさだ・中都なかと、歌人) N 2 8 1 6  
 慎亭(しんてい・吉成) → 信貞(のぶさだ・吉成よしなり、藩士/記録) B 3 5 4 9  
 稷庭(しんてい・森) → 約之(のりゆき・森、医者/本草学) G 3 5 1 5  
 晋亭(しんてい・三木) → 隆盛(たかもり・三木みき、国学者/俳人) N 2 6 4 8  
 春亭(しんてい・村上) → 竜眠(りゅうみん・村上/中江、医者/蘭方) F 4 9 7 5  
 眞諦院(しんていいん → しいん:諡号) → 道命(どうみょう:法諱、真宗本願寺派僧) H 3 1 3 0  
 神鼎院(しんていいん;法号) → 利敬(としのり・南部なんぶ、藩主) N 3 1 3 6  
 信挺(しんてい・沼田) → 孤松(こしょう・沼田ぬまた、藩士/儒/詩人) M 1 9 7 7

- 02266 仁貞(じんてい・釈しゃく) ? - 815 渤海の人、814(弘仁5)渡来;大使王孝廉の録事、815正月七日従五位下、弘仁六815年5月18日帰国途中船が難破;漂着/同月大使瘡を患い没、仁貞も815秋までに没、副使高景秀が親書を携え帰国、詩人・文華秀麗集17(弘仁六815年正月七日宮中で御宴に参加時の詩)、[貴国に入朝し下客を慙づ 七日恩を承けて上賓を作る 更に見る鳳声妓態無く 風流変動す一国の春](文華秀麗;卷上宴集17)
- 新酊嘯月庵(しんていしょうげつあん) → 静斎(せいさい・河口/河、儒者/詩人) B 2 4 5 6  
 新貞亭(しんていてい) → 国輝(こくけい・初世くにてる・歌川うたがわ、絵師) B 1 7 9 8  
 神貞霊神(しんていれいしん) → 兼夏(かねなつ 部うらべ、神職/古典書写) O 1 5 7 9  
 信的斎(しんていさい) → 是水(ぜすい・荒木あらき、書家) K 2 4 6 4
- P2242 眞徹(しんてつ;法諱、法名;招蓮舎遺誉)?-1750 浄土僧;下総小金の東漸寺25世住職、1743京百万遍の知恩院46世、1745御影堂再建を門葉と議す;47起工、1738「浄林雜誌」著、1744「梵網経菩薩戒本玄論」、「起信論義記玄談」、「法事讚飲啄」、「華嚴遊心法界記義翼」著
- 眞鉄(しんてつ・片岡) → 眞鉄(まがね・片岡、医/国学者) 4 0 5 5  
 眞鉄(しんてつ・安藤) → 眞鉄(まがね・安藤あんど、藩士/国学/神道) N 4 0 2 7  
 眞鍊(しんてつ・沖) → 勝間(かつかま・加都麻かつま・沖おき、藩士/国学) U 1 5 0 3  
 眞鉄舎(しんてつしゃ) → 義暢(よしのぶ・戸村とむら、藩士/歌人) N 4 7 9 8
- P2243 信天(しんてん;法諱) ? - ? 江中期伊勢の真宗本願寺派持光寺の住職、1744「五帖消息寸耕」、「御伝記絵説思敬録」、「祖師本伝古義迎高記」著
- 信天(しんてん・木村) → 信兢(のぶかつ・木村きむら、商家/歌/神職) I 3 5 1 0  
 信天(しんてん・村瀬) → 美香(よしか・村瀬むらせ、藩士/詩歌/篆刻/陶芸) P 4 7 5 4  
 信恬(しんてん → のぶさだ・伊沢) → 蘭軒(らんけん・伊沢いさわ、藩医/詩人) B 4 8 9 3  
 親典(しんてん・大西) → 親典(ちかおり・大西おにし/秦、神職/国学) M 2 8 2 5  
 心田(しんてん;道号・清播) → 清播(せいは;法諱・心田;道号、臨濟僧) C 2 4 8 5  
 莘田(しんでん・藤森) → 桂谷(けいこく・藤森ふじもり、絵師/教育) F 1 8 6 0
- R2229 信天翁(しんてんおう、山中やまなか信胤のぶたね)?-? 江後期寛政1789-1801頃江戸駿河台下の俳人、1795注釈「笈の底」著(;芭蕉の句を四季に分類し注解)
- 信天翁(しんてんおう) → 南海(なんかい・祇園/祇/阮、儒/詩/画) 3 2 3 0  
 信天翁(しんてんおう) → 南冥(なんめい・亀井、儒/医者/詩人) 3 2 3 7  
 信天翁(しんてんおう) → 斉脩(なりのお・徳川、藩主/雅楽/詩) H 3 2 9 6  
 信天翁(しんてんおう) → 馬琴(ばきん・曲亭きょくてい、読本作者) 3 6 0 7  
 信天翁(しんてんおう) → 無了(むりょう;法諱・浄界;字、真言僧) D 4 2 2 6  
 信天翁(しんてんおう) → 雪鼎(せつてい・月岡つきおか/木田、絵師) E 2 4 6 0  
 信天翁(しんてんおう) → 黙庵(もくあん・牧野/臼杵、儒者) 4 4 6 5  
 信天翁(しんてんおう) → 侃斎(かんさい・石川いしかわ、絵師) D 1 5 6 7  
 信天翁(しんてんおう) → 士由(しゆう・大屋/沼倉、国学/俳人) G 2 1 7 0  
 信天翁(しんてんおう) → 貞信(じしん・初世さだのぶ・長谷川はせがわ、絵師) F 2 0 4 3  
 信天翁(しんてんおう) → 祐思(すけもと・伊東いとう/真鍋、藩儒/歌) L 2 3 3 3  
 神田居(しんでんきよ/かんだきよ) → 楼川(ろうせん・谷口、俳人) 5 2 3 3  
 新典侍(しんてんじ) → 嗣子(つぐこ・庭田にわた、女官/歌人) 2 9 7 0
- P2244 新杜(しんと;号) ? - ? 江中期黄表紙作者;大田南畝門、「こんたんき」、1784「能魂胆気」著
- 信徒(しんと・林) → 信徒(のぶただ・林はやし、名主/国学者) J 3 5 6 5  
 親度(しんと・蜷川) → 親度(ちかおり・蜷川/宮道、武士/連歌) B 2 8 6 2
- P2245 心頭(しんとう) ? - ? 京の俳人;島原社中、1780-5初懷紙入集、1782蕪村「花鳥篇」1句入・83維駒「五車反古」1句入、[散れば咲く風情や雪の山桜](花鳥篇;25/雪のような山桜)
- P2246 眞棹(しんと;法諱・雪江せつこう;道号)?-? 江後期黄檗僧、1831活門如通の法嗣、「寐語集」著

真棹(しんとう・成川) → 真棹(まさお・成川なるかわ、藩士/医者/歌) R 4 0 3 0  
 真棹(しんとう・井手) → 真棹(まさお・井手いで/西村、藩士、歌人) N 4 0 3 6  
 真島(しんとう・物部) → 真島(ましま・物部ものべ、防人;万葉歌人) I 4 0 9 0  
 信頭(しんとう・足立) → 信頭(のぶあきら・足立あだち、幕臣/暦学) 3 5 8 8

2265 信道(しんとう/のぶみち・坪井つばい、名;道、信之4男) 1795-1848<sup>54</sup> 美濃池田郡脛永村出身の蘭方医、1820江戸の宇田川玄真門/漢学・滄浪門、1829深川上木場に医開業;傍ら安懐同開塾、冬木町に移転;日習堂と改名、1842長門萩藩に招聘、妻;青地林宗(りんそう)の女、伊東玄朴・戸塚静海と並び三大蘭方医と称される、緒方洪庵・青木周弼・杉田成卿らの師、1826「診候大概」著/29「製煉発蒙」訳/31「遠西二十四方」、「医家必携」「医方術論」著、「外科総論」「病理論」「牛痘約説」「製剤記」「日習堂方函」外著多数、[信道(;字)の幼名/名/通称/号/法号]幼名;環、通称;一助/道庵、号;誠軒/誠斎/冬樹、法号;冬樹院、信友(しんゆう)の父、信良(しんりょう)の養父、☆蜂屋光世「大江戸倭歌集」(1858成立)入の坪井信同と同一か?、[踏むをし踏まねばいかで奥を見ん心ぞ迷ふ花の山道]、(大江戸倭歌;春303/山路落花、坪井信同)

P2247 真導(しんとう;法諱、仏光寺13世随応2男) 1805-45<sup>41</sup> 京真宗仏光寺派本山の仏光寺24世、1820得度/兄真徹早世のため1823法嗣/37天保饑饉に飢餓窮民救済活動;説法講経を行い窮民に銭穀を施す、歌人;香川景樹門、1843「真宗門流心得条々」著、[真導(;法諱)の別法諱/幼名/諡号]別法諱;随念、幼名;千重麿、諡号;功德蔵院

心堂(しんどう・鏑木) → 直益(なおます・鏑木かぶらき、藩士/砲術/国学) L 3 2 6 2  
 新道(しんどう・柳沢) → 維賢(これかた・柳沢やなぎさわ/鬼頭、藩士/書家) R 1 9 4 6  
 真道(しんどう・菅野) → 真道(まみち・菅野すがの朝臣/津、学者/廷臣/詩) 4 0 3 2  
 真道(しんどう・津田) → 真道(まみち・津田つだ、洋学者/法学) K 4 0 1 2  
 真道(しんどう・小笠原) → 真道(まみち・小笠原おがさわら、歌人) M 4 0 4 8  
 真藤(しんどう・高平) → 真藤(まふじ・高平たかひら、藩士/地誌) N 4 0 4 4  
 真洞(しんどう;法諱) → 菘(しげる・三枝さいぐさ、僧/尊攘) O 2 1 5 8  
 晋堂(しんどう・三木) → 隆盛(たかもり・三木、国学/俳人) N 2 6 4 8  
 信道(しんどう・遠藤) → 信道(のぶひろ・遠藤、国学) C 3 5 5 3  
 信道(しんどう・角田) → 信道(のぶゆき・角田つのだ、国学者) J 3 5 2 2  
 信道(しんどう)訓は → 信道(のぶひろ or のぶみち or のぶゆき)  
 振道(しんどう・鈴木) → 黄軒(おうけん・鈴木すずき、藩士/武道) C 1 4 3 8  
 親道(しんどう・神保) → 雪居(せつきよ・神保じんぼう、国学者) K 2 4 8 3  
 親道(しんどう・鳥越) → 親道(ちかみち・鳥越とりごえ、陪臣/歌人) N 2 8 0 8  
 親道(しんどう・本堂) → 親道(親通ちかみち・本堂ほんどう、幕臣) L 2 8 6 7  
 津藤(しんどう・細木) → 仙塙(せんう・細木ほそき/さいき/源、商家/狂歌) L 2 4 6 7  
 津藤(しんどう・細木) → 香以(こうい・細木、仙塙男/商家/俳人) 1 9 7 0  
 臻道(しんどう;法諱) → 常照(じょうしょう;法諱、真宗本願寺派僧) J 2 2 8 8

P2248 初堂(しんどう・五十川いそかわ/いかわ、名;淵) 1835-1902<sup>68</sup> 備後福山の儒者;藩校入学・関藤藤陰門、さらに江木鱒水・森田節斎門、のち昌平黌入;助教、維新後大阪師範学校教諭、1897帰郷、「是亦録」「楠公神鈴記」著、[初堂(;号)の字/通称]字;士深、通称;左武郎

仁堂(じんどう・関) → 載甫(さいほ・関、儒者/教育) F 2 0 0 1  
 真洞居(しんどうきよ) → 御蔭(みかげ・岡村、神職/歌人) H 4 1 4 1  
 神稻小僧(しんとうこぞう) → 徳次郎(とくじろう・眞刀しんとう、大盗賊) S 3 1 8 7

2266 神藤子(しんとうし/壺董子ことうし)?-? 読本作者、1786「怪談 深雪草」著(;富田屋藤七版)  
 2242 信徳(しんとう・伊藤いとう/山田?) 1633-1698<sup>66</sup> 京新町通竹屋町下ルの商家(富商)/家業で諸国往来、俳人・貞徳・梅盛門、のち高政・常矩らと接し談林化;談林の雄/蕉風の作風へ志向、1675「信徳十百韻しんとうとつひやくいん」、77江戸へ東下;芭蕉・素堂と「江戸三吟」三百韻興行共編、帰京;1678「京三吟」共編、81「七百五十韻」催;新風展開/京俳壇の棟梁;蕉風からは離れる、

1691「俳諧五いつの戯言たわごと」92「胡蝶判官」「桂姿」94「雛形ひながた」編、  
 散佚著書；「五徳」「三本桜」「白重」、1676西鶴「俳諧師手鑑」/82風黒「高名集」入、  
 門人名で刊行したもの；1684「五百韻三哥仙」（如雲編）/91「花見弁慶」（重徳編）、  
 [涼しさは錫ずの色なり水茶碗みづぢやわん]（信徳十百韻；第八百韻発句/金属の光の茶碗）  
 [信徳（；号）の通称/別号]通称；助左衛門、別号；宗肖/梨柿園/竹犬子/竹丈（杖）子

信徳（しんとく・唐崎） → 常陸介（ひたちのすけ・唐崎、神職/尊王） C 3 7 6 1

新徳（しんとく） → 信徳（しんとく・伊藤、俳人） 2 2 2 7

親徳（しんとく/ちかひり・床井） → 晩緑（ぼんりよく・床井とこい、藩士/天狗党） 3 6 9 3

P2249 尋得（じんとく；法諱・善慧ぜんえ；号）?-? 江中期、三河南設楽郡鳳来寺松高院の天台僧、  
 大僧都に至る、1763「三河鳳来寺略縁起」著

真篤院（しんとくいん） → 忠幹（ただもと・水野みずの、家老/藩主/歌） U 2 6 4 1

慎独軒（しんどくけん） → 直勝（なおかつ・野口、国学/詩歌） B 3 2 0 4

慎独軒（しんどくけん） → 寛胤（ひろたね・轟木とどろき、藩士/尊攘） K 3 7 3 2

進徳斎（しんとくさい） → 守中（もりなか・小川/藤原、蘭医/雅楽） G 4 4 0 6

慎独軒（しんどくさい） → 宗真（そうしん・小島こじま、書家） I 2 5 0 5

慎独斎（しんどくさい） → 芳翁（ほうおう・福島ふくしま、医者；古医方） 3 9 2 3

慎独斎（しんどくさい） → 政之助（まさのすけ・周布すぶ、藩政改革） F 4 0 4 8

慎独斎（しんどくさい） → 春嶽（しゅんがく・松平まつだいら、藩主/詩歌） J 2 1 3 3

慎独斎（しんどくさい） → 官介（かみすけ・小川おがわ/桜井、儒/国学） T 1 5 8 5

慎徳府君（しんとくふくん） → 鸞溪（らんけい・中村なかむら、藩儒） B 4 8 8 1

神吐屑（しんとせつ） → 瓢六（ひょうろく・辻鼻つじはな、俳人） F 3 7 4 0

親敦（しんとん/ちかあつ・松平/杉浦） → 比隈満（ひきまろ・杉浦、神職/国学） 3 7 4 9

信敦（信墩しんとん・宮崎） → 信敦（のぶあつ・宮崎みやざき、神職/国学者） H 3 5 1 6

信惇（しんとん・今井） → 信惇（のぶあつ・今井いまい、神職/国学） H 3 5 4 0

P2250 親和（しんな・三井みつ、孫三郎之親男）1700-8283 江戸深川書家；1713細井広沢門；広沢四天王の1、  
 篆書/弓馬術に精通、名声高く親和染・親和織など登場、「竜湖連珠集」「竜湖印譜」著、  
 1760「太申桜記」書/69「親和の書」著/74「やまと文」書/74「三井親和女ふみ」88「評判の俵」著、  
 「深川親和草書」「三井親和草天津帖」「竜湖帖」書、外著・書多数、  
 [親和（；名）の字/通称/号]字；孺卿、通称；孫兵衛/与兵衛、深川親和ふかわしんな  
 号；竜湖/深川漁父/珍話/万玉亭、法号；草聖院

2228 新内（しんない・鶴賀、加賀八太夫、本名；岡田五郎次郎）1747-181064 音曲家；初世鶴賀若狭掾門、  
 1758鶴賀加賀と改名；新内節の祖（但し創始者は初世鶴賀若狭掾、但し鶴賀節と称された、  
 のち鶴賀若歳[?-1810]が新内と改名し初世新内と称す（若歳新内と呼ばれる）

新内（しんない・坪池） → 従徳（つぐのり・坪池つばいけ、詩文） 2 9 7 8

新内（しんない・菅原） → 南山（なんざん・菅原、儒者） J 3 2 0 3

新内（しんない・山田） → 成章（なりあき・山田やまだ、藩士/歌人） P 3 2 2 0

甚内（じんない・脇坂） → 安治（やすはる・脇坂わきさか、武将/藩主/歌） H 4 5 0 4

甚内（じんない・加藤） → 邦直（くになお・加藤かとう、歌人） D 1 7 0 0

甚内（じんない・庄司） → 甚右衛門（じんえもん・庄司、吉原遊郭創始） N 2 2 2 6

甚内（じんない・浅山） → 可清（よしきよ・浅山あさやま、藩士/歌人） L 4 7 1 7

甚内（じんない・小林） → 春房（はるふさ・小林こばやし、鉾山吏/歌人） K 3 6 1 8

新内侍（しんないし） → 仲子（なかこ、南朝歌人） P 3 2 6 9

新掌侍（しんないしのじょう） → 房子（ふさこ・高野たかの、女官/日記） C 3 8 0 4

信南（しんなん・小笠原） → 庸昌（つねまさ・小笠原おがさわら、儒医） D 2 9 7 5

信南山樵（しんなんさんしょう） → 蓬平（ほうへい・佐竹さたけ/野口、絵師） C 3 9 4 9

沈南蘋（しんなんびん） → 南蘋（なんびん・沈しん、花鳥画絵師） I 3 2 1 7

P2251 信日（しんにち；法諱・禅智ぜんち；字）1241-132080 父は紀伊名草郡神宮の神官、真言僧；高野山入、  
 桜池院恵深門；出家/1261恵深より伝法灌頂を受/のち西大寺信恵門；具足戒を受、  
 1265大楽院に住/1313頃右学頭、高野八傑の1、「天野口伝抄」「曼茶羅鈔」編、  
 「大日経疏勘文」「広付法伝勘文」「金剛界曼茶羅鈔」「胎藏界曼茶羅鈔」「悉曇書籍略頌」外多

- P2252 **神日**(じんいち;法諱、通称;白雲上綱)860-916<sup>57</sup> 平安前期の真言僧;山城愛宕白雲寺の益信門、896(寛平8)白雲寺で益信より伝法灌頂を受、醍醐寺の延性門;小野流を修学、白雲寺上綱、916律師、「金剛界九会図」「五秘密念誦次第」「灌頂式」著
- R2232 **心入**(しんにゅう・下山しもやま)? - ? 江前期上方の俳人、1673西鶴「生玉万句」第七新酒発句/郭公第三句等入、[乱酒にや神も千秋楽の舞](生玉万句;新酒発句)
- 信入(しんにゅう;字) → 潮吞(ちようどん;法諱・信入、浄土僧) J 2 8 5 9
- 信入院(しんにゅういん/しんじゅう) → 日崇(にっそう;法諱・伝了、日蓮僧) E 3 3 8 5
- 真乳散人(しんにゅうさんじん) → 苔翁(初世たいおう・古寿衣、俳人) B 2 6 0 5
- 眞如(しんによ) → 高岳親王(高丘-たかおかしのう、真言入唐僧) L 2 6 6 4
- 眞如(しんによ・大谷派本願寺17世) → 光性(こうしょう;法諱、常如男) J 1 9 7 6
- 仁恕(じんによ;道号) → 仁恕(にんじよ;道号・集堯;法諱、臨濟僧/詩文) G 3 3 9 7
- 心如院(眞如院しんによいん) → 公円(こうえん、天台園城寺僧) 1 9 7 5
- 眞如院(しんによいん) → 日住(にちじゅう;法諱、日蓮僧) C 3 3 1 5
- 眞如院(しんによいん) → 日逮(日泰にったい;法諱・仙陽、日蓮僧) F 3 3 0 0
- 眞如院(しんによいん) → 敬首(きょうしゅ;法諱・祖海;字、浄土僧) G 1 6 7 8
- 眞如院(しんによいん) → 俊季(としすえ・秋田あきた、実季男/藩主) T 3 1 9 6
- 眞如院(しんによいん;法号) → 重之(しげゆき・久世くぜ/源、藩主/漢学) T 2 1 0 0
- 眞如院(しんによいん) → 喜美子(きみこ・増山ますやま/水野、藩主室/歌) V 1 6 2 2
- 新女院(しんによういん) → 郁芳門院媿子(いくほうもんいんていし) 1 1 0 7
- 眞如覚(しんによかく) → 建礼門院徳子(けんれいもんいんとくこ、安徳天皇の母) D 1 8 2 8
- 眞如源(しんによげん) → 鐙子(しょうし・永福門院) 2 1 8 3
- 眞如金剛(しんによこんごう) → 安然(あんねん;法諱、天台僧/悉曇学) C 1 0 4 1
- 眞如金剛(しんによこんごう) → 義源(ぎげん;法諱、天台学僧) K 1 6 3 3
- 眞如金剛(しんによこんごう) → 慈賢(じげん;法諱、天台学僧/座主) T 2 1 2 6
- 眞如金剛(しんによこんごう) → 尊玄(そんげん;法諱、天台大僧正/歌人) E 2 5 8 0
- 眞如實際居士(しんによじっさいこじ) → 業智(なりさと・中山、幕臣/平曲) H 3 2 3 5
- 眞如親王(しんによしのう) → 眞如(しんによ・遍明、真言入唐僧) P 2 2 5 3
- 眞如堂(しんによどう) → 天然(てんぜん・野呂のろ、医者) D 3 0 9 8
- 眞如房(しんによぼう) → 澄舜(ちようしゅん;法諱、天台僧) I 2 8 8 3
- 眞如明覚禅師(しんによみょうかくぜんじ) → 雪潭(せつたん;道号・紹璞しょうぼく、臨濟僧) L 2 4 2 2
- 信任(しんにん・河口) → 信任(のぶただ・河口かわぐち、蘭医) B 3 5 8 4
- 信任(しんにん/のぶただ?・荒井/矢田部) → 卿雲(慶雲けいうん・矢田部/荒井、蘭学) F 1 8 2 7
- 信任(しんにん・人見) → 信任(のぶとう・人見ひとみ、幕府医者) C 3 5 2 4
- 信任(しんにん・宇高) → 信任(のぶとう・宇高うだか、藩士/歌人) H 3 5 4 7
- 信任(しんにん・山県) → 信任(のぶとう・山県やまがた、藩士/国学者) K 3 5 2 5
- 親仁(しんにん/ちかひと) → 後冷泉天皇(ごれいぜいてんのう、歌人) E 1 9 1 2
- 親任(しんにん・長坂/安倍) → 親任(ちかとう・安倍/長坂、藩士/農政/歌) B 2 8 2 5
- P2254 **深仁親王**(しんにんしのう;法諱、名:守典もりつね、典仁親王2男)1759-1807<sup>49</sup> 母;家女房の辰市智子、1760(2歳)桃園天皇の養子/真言宗仁和寺を相続/1768入寺;得度/72一品/75阿闍梨、閑院宮美仁親王より[天仁遠波]の伝受、歌・書に長ず、「深仁親王御日記」、1775「後喜多院御灌頂記抜萃」、「深仁親王関東御下向記」著、眞仁親王の兄、[深仁法親王(;法諱)の幼称/諡号]幼称;俊宮、諡号;後喜多院、
- P2255 **眞仁法親王**(しんにん/まさひとしのう、名;周翰ちかもと、典仁親王[慶光天皇]5男)1768-1805<sup>38</sup> 母;家女房、1769(2歳)妙法院門跡を相続/1778桃園天皇の養子;親王宣下;得度/1786天台座主、1794牛車許可/1795一品、漢学;伊藤東所・皆川淇園・村瀬栲亭門/歌・俳諧;小沢蘆庵門、蘆庵・春樵の庇護者、「眞仁親王御日記」「地藏院萩原寺縁起」「那羅延院宮十度日記」著、深仁親王の弟、[眞仁法親王(;法諱)の幼称/通称/諡号]幼称;時宮、通称;妙法院宮、諡号;那羅延院
- P2256 **眞慧**(しんね;法諱、専修寺9世定頭男)1434-1512<sup>79</sup> 下野高田の真宗専修寺の生;

常陸浄土宗迎雲寺などで頭密を修学/高田に帰郷後三河・越前・加賀に布教、  
1464高田専修寺10世を継嗣/伊勢一身田に無量寿院(専修寺)を建立、本願寺蓮如に対抗、  
高田派教団を拡大、1487皇室祈願所の論旨を受、1487法印/大僧正に至る、「眞慧問答」著、  
「永生軌則」「正信念仏偈訓読抄」1472「頭正流義抄」1504「眞慧上人御定」著、  
妻;富樫政親女、応眞の父

- U2232 **眞慧**(しんね;法諱、法師) ? - ? 江後期;大和長谷の寺を住寺、  
国学;本居大平門/大平撰「八十浦の玉」下巻入;文化10年[1813]11月27日春日野祭参詣、  
[皇神もちをはひましなむ黒木もて新宮つくる年の端ごとに](八十浦;1086)  
信慧(しんね;法諱) → 信慧(しんえ/しんね;法諱・悟心、真言僧) N 2 2 3 5  
深慧(しんね;字) → 徳潤(得潤とくにん;法諱・深慧、真宗僧) K 3 1 9 2
- P2257 **尋慧**(じんね;法諱) 1286 - ? 三論僧:法園寺聖然の議席[十二門論疏]講席参列、  
1320「十二門論抄出」著  
深寧(しんねい・佐野) → 蓬宇(蓬雨ほうう・佐野さの、商家/俳人) 3 9 1 5  
深寧(しんねい・古市) → 木朶(もくだ・古市ふるいち、旅宿業/俳人) 4 4 9 8  
信寧(しんねい・津軽) → 信寧(のぶやす・津軽つがる、藩主) J 3 5 0 8  
新寧武子(しんねいぶし) → 南畝(なんぼ・大田、幕臣/狂歌詩) 3 2 3 3  
眞年(しんねん・鈴木すずき) → 眞年(まとし・鈴木すずき、商家/国学者) J 4 0 9 4  
眞念(しんねん) → 宥弁(ゆうべん;法諱、真言僧) D 4 6 7 1  
審一(しんのいち・吉沢) → 吉沢検校(よしざわけんぎょう、平曲家/箏曲) D 4 7 5 5
- P2258 **心翁**(しんのう;道号・等安とうあん;法諱) 1450-1523 74 臨濟僧:天竜寺妙智院の竺雲等連門/法嗣、  
臨川寺住持/1517天竜寺177世、晩年天竜寺妙智院塔主、策伝周良の師、  
「心翁和尚仮名清規」「年中日用清規」著
- P2259 **眞能**(しんのう;法諱、眞智の伯母の男) 1562-1627 66 眞智男眞空の養子、下野高田の眞宗高田派僧、  
越前熊坂の高田派専修寺住持:伊勢一身田の専修寺と高田派の本山を争う、  
(没後1634に敗退;熊坂専修寺は破却されるがのち再興され大谷派の法雲寺となる)、  
1613「世義寺毎年如法経納所帳」著
- P2260 **心応**(心王しんのう;道号・空印くういん;法諱) 1716-1780 65 曹洞僧:天桂伝尊の法系、駿河静居寺15世、  
晩年に西来寺開山、「正法眼蔵鉄船論」/1776「正法眼蔵逆驢乳」/79「般若心経鉄船論」著  
眞能(しんのう) → 能阿弥(のうあみ、書画/連歌) 3 5 0 1  
信能(しんのう・藤原) → 宗家(むねいえ・藤原/中御門、廷臣/歌人) B 4 2 0 4  
眞応院(しんのういん) → 日達(にちだつ;法諱、日蓮僧) C 3 3 8 1  
新之右衛門(しんのえもん・稻荷屋/河野) → 涼谷(りょうこく・河野、醸造業/俳人) H 4 9 5 1
- G2218 **新之丞**(しんのじょう・佐伯ささき、新左衛門男) ?-? 越中新川郡芥木村の生;代々山廻役;継嗣、  
享和-天保(1801-1840)頃加賀藩の山廻役、1828「立山御林二而詰番等相勤御縮方御用」、  
1840「新川郡奥山廻御用一卷留」著  
進之丞(しんのじょう/しんのすけ・中川) → 経晃(つねてる・中川/荒木田、神職/歌) C 2 9 5 6  
新之丞(しんのじょう・叶屋/滝) → 瓢水(ひょうすい・滝/滝野、商家/俳人) F 3 7 2 7  
新之丞(しんのじょう・山田) → 長久(ながひさ・山田やまだ、和学者) P 3 2 1 9  
新之丞(しんのじょう/しんのすけ・糟谷) → 磯丸(いそまる・糟谷かすや、歌人) 1 1 1 5  
新之丞(しんのじょう/しんのすけ・古川) → 氏一(うじかず・古川ふるかわ、和算家) B 1 2 8 2  
新之丞(しんのじょう/しんのすけ・板谷/住吉) → 広行(ひろゆき・住吉、幕府絵師) H 3 7 6 3  
新之丞(新丞しんのじょう/しんのすけ・津金) → 胤臣(たねおみ・津金つがね、藩士/陶工/歌) G 2 6 3 5  
新之丞(しんのじょう/しんのすけ・武谷) → 栄国(ひでくに・武谷たけたに、藩士/歌) L 3 7 5 2  
新之丞(しんのじょう/しんのすけ・熊谷) → 直賢(なおかた・熊谷くまがい、国学者) L 3 2 9 4  
新之丞(しんのじょう/しんのすけ・古森) → 厚茂(あつげ・古森こもり/秦/河崎、神職/歌) H 1 0 5 1  
信之丞(しんのじょう/しんのすけ・長谷川) → 安定(やすさだ・長谷川はせがわ、幕臣) H 4 5 1 4  
甚之丞(じんのじょう・小池) → 貞成(さだなり・小池こいけ、故実礼法) J 2 0 1 0  
甚之丞(じんのじょう・下村) → 政良(まさよし・下村しもむら、曆算家) I 4 0 7 3  
甚之丞(じんのじょう・岡村) → 有長(ありなが・岡村おかむら/源、藩士/歌) H 1 0 3 4  
甚之丞(じんのじょう・関口) → 安義(やすよし・関口せきぐち、藩士/歌人) G 4 5 1 1

- 新之進(しんのしん・武谷) → 栄国(ひでくに・武谷たけに、藩士/歌) L 3 7 5 2  
 新之允(しんのすけ・志水) → 清久(きよひさ・志水しみず、藩士/歌人) U 1 6 4 5  
 新之允(新之丞しんのすけ・安部) → 惟貞(これさだ・安部、国学/連歌) O 1 9 3 4  
 新之允(しんのすけ・栗屋) → 俊則(としのり・栗屋あわや、藩士/歌人) U 3 1 0 3  
 新之允(しんのすけ・横山) → 俊彦(としひこ・横山よこやま、藩士/歌/萩の乱) W 3 1 9 0  
 新之助(しんのすけ・藤堂) → 探丸(たんがん/たんまる、藤堂、俳人) I 2 6 0 4  
 新之助(しんのすけ・今枝) → 恒明(つねあき・今枝/日置、藩士/日記) B 2 9 5 0  
 新之助(しんのすけ・市川) → 団十郎(8世だんじゅうろう・市川、歌舞伎役者) I 2 6 3 3  
 新之助(しんのすけ・津軽) → 順承(ゆきつぐ・津軽つがる、藩主/歌・俳人) G 4 6 7 1  
 新典侍(しんのすけ) → 嗣子(つぐこ・庭田にわた、女官/歌人) 2 9 7 0  
 新典侍(しんのすけ) → 経子(つねこ・橋本、和宮母/記録) C 2 9 0 7  
 信之助(伸之助しんのすけ・近藤) → 国昌(くにまさ・近藤こんどう、国学者) E 1 7 1 9  
 晋之助(しんのすけ・加藤/大原) → 観山(かんざん・大原おおはら、儒者) H 1 5 6 5  
 真之助(しんのすけ・桜井) → 房光(ふさみつ・桜井さくらい、国学/勤王/) I 3 8 3 0  
 真之助(しんのすけ・芳賀) → 真咲(まさき・芳賀はが、藩士/国学/神職) R 4 0 5 9  
 慎之助(信之助しんのすけ・吉田) → 敏成(年成としなり・吉田、国学者/歌) N 3 1 2 6  
 津之助(しんのすけ・片山/藤本) → 鉄石(てつせき・藤本、勤王/天誅組) C 3 0 5 1  
 甚之助(じんのすけ・出方) → 市松(いちまつ・初世佐野川、歌舞伎役者) D 1 1 6 4  
 甚之助(じんのすけ・佐久間) → 英顕(ふさあき・佐久間さくま、幕臣/国学) I 3 8 2 7  
 甚之助(じんのすけ・渡辺) → 定斎(じょうさい・渡辺/赤坂、藩士/儒者) J 2 2 1 0  
 甚之助(じんのすけ・諏訪/島津) → 甚六(じんろく・諏訪すわ/島津、藩家老) Q 2 2 2 3  
 甚之助(じんのすけ・石津) → 信躬(のぶみ・石津いしづ、藩士/歌人) H 3 5 3 5  
 甚之助(じんのすけ・後藤) → 祐壮(すけまさ・後藤ごとう、藩校国学教授) I 2 3 5 2  
 甚之助(じんのすけ・平山) → 道訓(みちのり・平山ひらやま、神職/国学) K 4 1 2 6  
 甚之助(じんのすけ・関) → 盛辰(もりとき・関せき、藩士/国学者/歌) K 4 4 1 6  
 2267 進命婦(しんのみょうぶ、藤原祇子、藤原頼成女?)?-? 関白藤原頼通の妻、師実の母、贈従二位  
 しん馬(しんば・土橋亭; 嘶家) → 春雅(しゅんが・為永、嘶家/戯作者) J 2 1 2 9  
 P2261 信培(信倍しんばい; 法諱・湛慧; 字、俗姓; 谷口) 1675-1747 73 京三条白川の浄土僧:  
 1688京の華開院息庵門; 出家、聞証門/1691江戸の靈山寺廓瑩門、荻生徂徠・雲竹門、  
 1699華開院住職を継嗣、諸経論; 唯識・華嚴を研究、1723退隠; 竜安寺子院に住、  
 靈潭より沙弥戒を受/1725自誓受具、増上寺や真言の智山・豊山・高野山等の招聘で講説、  
 1727山城長時院を再興し開祖となる、可円・徳門・称察・戒如らの師、  
 「帝網鈔」「釈浄土群疑論考」「成唯識論述記集成編」「成唯識論述記序解」「因陀羅手」外著多、  
 [信培(; 法諱)の法名] 澄蓮社忍誉  
 P2262 真白(しんぱく; 法諱・梅嶽ばいかく; 道号、俗姓; 深川) 1766-1829 64 美濃武儀郡八神村の黄檗僧:  
 1772(7歳)天外如空門/出家、諸師参禅/1806美濃円通寺6世; 師天外の法嗣、  
 大梅寺7世/1820陸前仙台の大年寺20世/27山城宇治の万福寺28世、「梅岳禅師語録」著  
 P2263 辰伯(しんぱく; 名・小森こもり) ?- ? 江後期大和の本草家:  
 1850(嘉永3)「新編竹米考」(:和漢の竹の実に関する記事を収録)  
 岑栢(しんぱく・海北) → 若冲(じゃくちゅう・海北かいほう、歌人/国学) 2 1 3 7  
 辰伯(しんぱく・小林) → 辰(たつ・小林こばやし、医者) R 2 6 5 2  
 親白(しんぱく→ちかしろ・本田/白尾) → 国柱(くにはしら・白尾しらお、藩士/国学) D 1 7 0 9  
 眞伯(しんぱく・三浦) → 無窮(むきゅう・三浦みうら、医者) 4 2 3 8  
 P2264 新八(しんぱち・村田むらた、高橋良中男) 1836-77 戦死 42 薩摩鹿児島藩士村田経典の養嗣子、  
 西郷隆盛に随従/1862隆盛の徳之島流罪に連座; 喜界島配流、64赦免後も隆盛に随従、  
 1871宮内大丞/明治天皇の侍従/岩倉遣外使節に随行、74帰国後辞職;  
 帰郷し私学校創立に尽力、砲隊学校監督/77西南戦争で西郷軍二番大隊長; 戦死、  
 1862「うるまの日記」「村田新八書簡集」著、品川弥二郎と交流、  
 [新八(; 通称)の名] 経磨/経満つねまる  
 新八(しんぱち・岡本) → 宣就(のぶなり・岡本おかもと、兵法家) C 3 5 5 8

新八(しんぱち・大島/横江)→ 吉綱(よしつな・大島、槍術家) E 4 7 7 1  
 新八(しんぱち・久田) → 宗栄(そうえい・久田ひさだ; 初世、茶人) B 2 5 6 6  
 新八(しんぱち・鈴木) → 重信(しげのぶ・鈴木すずき、国学者) Z 2 1 1 6  
 新八(しんぱち・中村) → 篁溪(こうけい・中村なかむら、儒者/詩文) G 1 9 2 3  
 新八(しんぱち・三浦) → 竜山(りゅうざん・三浦/黒坂、儒者/藩士) E 4 9 1 6  
 新八(しんぱち・跡部) → 臨谷(りんこく・跡部あとべ、藩士/稲作研究) K 4 9 2 6  
 新八(しんぱち・橋爪) → 保章(やすあき・橋爪はじづめ、和算家) 4 5 8 1  
 新八(しんぱち・牧) → 東海(とうかい・牧/橋、儒者/兵学/歌) B 3 1 9 1  
 伸八(しんぱち・堀内) → 匡平(まさひら・堀内、庄屋/国学/勤王) G 4 0 8 5  
 真八(しんぱち・清水) → 光房(みつふさ・清水、国学) E 4 1 7 8  
 真八(しんぱち・中村/清水) → 光房(みつふさ・清水/藤原/中村、国学者・歌) E 4 1 7 8  
 晋八(しんぱち・遠近) → 桓斎(かんさい・遠近とおちか、儒者) Q 1 5 6 8  
 慎八(しんぱち・海野; 変名) → 竹之助(たけのすけ・佐野、藩士/大老襲撃) O 2 6 5 7  
 仁八(しんぱち・野上) → 仁里(じんり・野上のがみ、儒者/教育) Q 2 2 0 6

S2240 甚八(しんぱち) 1673 - ? 1739(67歳) 存 遠江の船員; 新居あらいの筒山五兵衛持船に乗船、  
 1719(享保4)秋に同郷の沖船頭佐太夫指揮の許で楫取として出港/仙台・銚子・宮古を経る、  
 11月26日仙台小竹港を総勢12人で出港; 11月30日上総九十九里沖で暴風雨により漂流、  
 1月に無人島(鳥島?) 漂着; 島の苦しい生活の中で佐太夫はじめ9人死亡、  
 1738(元文3)撰津大坂江戸堀の宮本善八持船の沖船頭富蔵ら17人が江戸から出港漂流;  
 1739(元文4)3月同島に漂着; 20人で小舟を造り4月八丈島に渡る; 御用船で江戸到着;  
 6月2日江戸城吹上庭で事情口述; のち浦賀代官斎藤喜六郎・手代村田仙蔵が事情を聞き、  
 21年間漂流の3人は新居に帰郷; 楫取の甚八(67歳)・水主の仁三郎(64歳) 同平四郎(42歳)

甚八(しんぱち・佐久間) → 東川(とうせん・佐久間、幕臣/書/儒家) G 3 1 1 4  
 甚八(しんぱち・小林) → 如泥(じよでい・小林こばやし、指物師) M 2 2 7 0  
 甚八(しんぱち・御粥) → 安本(やすもと・御粥おかゆ、和算家) D 4 5 2 7  
 真八郎(しんぱちろう・由良) → 日正(にっしょう; 法諱・由良ゆら、日蓮僧) H 3 3 3 4  
 慎八郎(しんぱちろう・中村/清水) → 光房(みつふさ・清水/藤原/中村、国学・歌) E 4 1 7 8  
 新八郎(しんぱちろう・大地) → 東川(とうせん・大地おち、藩士、儒者/詩) G 3 1 1 2  
 新八郎(しんぱちろう・中村) → 篁溪(こうけい・中村なかむら、儒者/詩文) G 1 9 2 3  
 新八郎(しんぱちろう・島津) → 久元(ひさもと・島津しまづ/新納、武将/家老) J 3 7 8 2  
 新八郎(しんぱちろう・菅沼) → 桃丑(とうちゅう・菅沼、俳人) G 3 1 4 1  
 新八郎(しんぱちろう・友部) → 方升(まさり・友部ともべ、藩士/国学/歌) G 4 0 1 7  
 新八郎(しんぱちろう・児山) → 紀成(のりしげ・児山、幕臣/歌/紀行) E 3 5 6 8  
 新八郎(しんぱちろう・田丸) → 五葉(ごよう・田丸たまる、幕臣/俳人) N 1 9 8 5  
 新八郎(しんぱちろう・大村) → 純鎮(すみやす・しげ・大村、藩主/和漢学) D 2 3 9 9  
 新八郎(しんぱちろう・竹内) → 貞幹(さだみき・石川いしかわ/源、尊攘) N 2 0 8 5  
 新八郎(しんぱちろう・釜屋) → 小徹(しょうてつ/こてつ・釜屋かまや/古森、国学/画) U 2 2 7 6  
 新八郎(しんぱちろう・久保) → 清保(きよやす・久保くぼ、国学者) U 1 6 2 1  
 信八郎(しんぱちろう・山口) → 風簷(ふうえん・山口、藩士/儒者) 3 8 3 7  
 甚八郎(しんぱちろう・関/野口) → 在色(ざいしき・野口/関、材木商/俳人) 2 0 8 0  
 甚八郎(しんぱちろう・野上) → 仁里(じんり・野上のがみ、儒者/教育) Q 2 2 0 6  
 甚八郎(しんぱちろう・田中) → 周道(ちかみち・田中たなか、国学/歌人) M 2 8 7 5  
 信発(しんぱち・松平) → 信発(のぶおき・松平、藩主/記録) B 3 5 0 5  
 鬢髮山人(しんぱちさんじん) → 琴台(きんたい・諸葛もろくず、儒者/度量学) I 1 6 1 3  
 晋八水(しんぱちすい) → 八水(はっすい・梨守庵、俳人) F 3 6 2 5

2269 信範(しんぱん; 法諱・明了房) 1223-?1296頃没 74? 真言僧; 道範門/承澄門; 韻学を伝受、  
 1252新しく渡来した張麟之「韻鏡」を書写、「韻鏡音韻集」編/「五十音秘記」「九弄十紐図」、  
 「九弄十紐私釈」「悉曇聞書」「悉曇字記聞書」「明了房信範記」/1286「悉曇秘伝記」外著多数  
 親繁(しんぱん・由良) → 親繁(ちかしげ・由良ゆら、幕臣/奥高家) 2 8 9 5  
 親範(しんぱん) 訓はすべて → 親範(ちかのみ)



- 信範(しんぱん・三沢) → 信範(のぶのり・三沢みさわ、歌人) K 3 5 5 1  
 真坂(しんぱん・小倉) → 真坂(まさか・小倉おぐら、商家/国学/歌) O 4 0 0 9  
 真繁(しんぱん・鈴木) → 真重(まじげ・鈴木/藤原、神職/国学) L 4 0 7 8  
 眞畔(しんぱん・泉崎) → 眞畔(まろ・泉崎いずみざき、国学者/歌人) 4 0 6 9
- 2268 尋範(じんぱん;法諱、初法諱;弘覚、号;内山僧正、藤原[京極]師実男)1101-7474 母;京極師実女、法相僧、興福寺禪定院の頼実門、1140権少僧都/41尋範と改名/権大僧都/法印、1164興福寺別当、1172大僧正;大乘院住、法務大乘院禪定;解任、内山別所に退院;没、師通(関白)・花山院家忠・大炊御門経実・大納言能実・忠教・大僧正覚信・玄覚らの兄弟、歌人;万代集入、千載集1054、今鏡入、  
 [宿もやど花も昔に匂へども主ぬなき色はさびしかりけり]  
 (千載;雑1054/頼実僧都没[1142以後]の翌年春に禪定院花盛りを見ての詠/月詣集入)
- 2271 心匪(しんび;号) ? - ? 俳人、1779成美「浅草はうご」半歌仙入
- 2270 心非(しんび;号・東儀とうぎ、名;養浩、東儀兼善男)1766-182560 江戸の幕臣/1790小十人に列す、俳人;成美門、1815車両らと共編「俳諧鼠道行」、1819「はいかい三霜」21「ゆくみつ」編、  
 [心非(;号)の通称/別号]通称;仁右衛門/小膳、別号;峰月居/卷斎
- 信美(しんび・羽倉) → 信美(のぶよし・荷田/羽倉はくら、国学者) D 3 5 8 8  
 信美(しんび→のぶよし・北川) → 歌麿(うたまろ・喜多川、絵師) 1 2 7 0  
 信美(しんび・堀) → 未塵(みじん・堀ほり、藩士/俳人) 4 1 8 9  
 伸美(しんび・守住/庄野) → 貫魚(つらな・守住もりずみ/庄野、藩絵師) E 2 9 4 2  
 深美(しんび・長谷川) → 昭道(あきみち・長谷川、藩士/勤王派) D 1 0 9 6  
 塵尾庵円阿(じんびあんえんあ) → 円阿(えんあ・塵尾庵、狂歌) E 1 3 3 9  
 信比古(しんひこ・岩政) → 信比古(さねひこ・岩政いわたまき/越智、国学) L 2 0 2 7
- 2272 新肥前(しんひぜん・前斎院さきのさいいんの)?-? 平安後期白河天皇皇女官子内親王家の女房、堀河天皇近臣の源国信くにさね[1069-1111]と交渉、歌人、千載集811(;国信忍びてのち遣はず歌)、  
 [東屋あづまの浅木の柱我ながらいつふしなれて恋しかるらん](千載;十三恋811)  
 (浅木の柱は節が多い/伏すを掛る/日も浅いのに伏し馴れてしまった恋)
- 簪筆子(しんぴつし) → 東海(とうかい・牧/橘、儒者/兵学/歌) B 3 1 9 1  
 慎微堂(しんびどう) → 眠翁(みんおう・平田/小林、医者/本草家) G 4 1 7 7
- P2266 心苗(しんびよう) ? - ? 俳、1689「あら野」1句1句入、  
 [山あひの花を夕日に見出みだしたり](あら野;卷一花/山峡の春)
- 真苗(しんびよう・根本) → 真苗(まなえ・根本ねもと、藩士/国学者) P 4 0 1 7  
 信憑(しんびよう・織田) → 信憑(のぶより・織田、藩主/歌) E 3 5 1 0  
 真表(しんびよう・塚原) → 十郎右衛門(じゅうろうえもん・塚原、和算家) Y 2 1 5 3  
 新兵衛(しんひようえ・齋藤) → 基祐(もとすけ・齋藤/藤原、武家/歌人) C 4 4 6 9
- V2264 新兵衛督(しんひようえのかみ・後宇多院ごうだいに)?-? 鎌倉期女房歌人、後宇多天皇(1267-1324)に出仕、歌人;1345刊[藤葉とうよう集]入、邦良親王家新兵衛督と同一?  
 [とはぬまのたえまをうしと恨みしはまだつらからぬ契なりけり](藤葉;恋614)
- 2273 新兵衛督(しんひようえのかみ・邦良になが親王家)?-? 鎌倉期女房歌人、別称;春宮の新兵衛督、後二条天皇皇子邦良親王[1300-26]家に出仕/親王没後出家、続千載1204、  
 [いたづらに涙をかけて小夜衣かさねぬ床に年ぞ経にける](続千載;十二恋1204)
- 信敏(しんびん・大神) → 信敏(のぶとし・大神おのが、神職/歌人) H 3 5 6 3  
 信敏(しんびん・久保) → 信敏(のぶとし・久保くぼ、国学/歌人) I 3 5 2 5  
 信敏(しんびん・山上) → 信敏(のぶとし・山上やまがみ/須田、藩士/国学) K 3 5 2 6  
 信敏(しんびん・佐藤) → 信敏(のぶとし・佐藤ぼさとう、国学者) I 3 5 5 4  
 信敏(しんびん・戸田) → 信敏(のぶとし・戸田とだ/藤原、藩老/国学) F 3 5 9 0  
 信珉(しんびん・萩野/孔平) → 復堂(ふくどう・萩野はぎの、藩士/医/儒) B 3 8 5 9  
 信珉(しんびん・土屋) → 信名(のぶな・土屋つちや/源/近藤、幕臣/歌) G 3 5 6 3  
 信普(しんぷ) → 録山人信普(ろくさんじんしんぷ・洒落/黄表紙) 5 2 8 7  
 信鮒(しんぷ) → 録山人信鮒(ろくさんじんしんぷ・戯作者) 5 2 8 8

- 親敷(しんぶ・戸次) → 求馬(もとめ;通称・戸次べつき、藩士/地誌) E 4 4 4 2  
 信武(しんぶ/のぶたけ・林) → 鳳谷(ほうこく・林、幕府儒官/大学頭) F 3 9 2 5
- P2267 秦夫(しんぶ) ? - ? 山城寺田の俳人;  
 1776樗良「誹諧月の夜」1句/77江涯「仮日記」1句入、  
 [反橋そりばしの下に霧吹く嵐かな](月の夜;43/霧のよう水面に水しぶきが上る)
- P2268 信夫(しんぶ;号・四時庵、一竿翁)?-? 羽前酒田の俳人:前句付点者/江戸座系俳諧に転ず、  
 竹裡観に参加、1785酒田日吉山山王宮奉納の万句寄「酒田之鎮守山王宮奉納万句寄」判者、  
 1803日枝神社献句の判者、「俳人八重垣」著
- P2269 慎父(しんぶ・沢井さわい、名;慎)?-? 江後期美濃の詩歌研究者、  
 1821「二節詩歌類英けつえい」編、  
 [慎父(;号)の別号] 鶏石
- P2270 蔡阜(しんぶ・小田切おだぎり) 1802-1854 53歳 江戸の幕臣/俳人:蔡々門、1844「箕吹草」著、  
 [蔡阜(;号)の通称/別号]通称;清十郎、別号;素仙堂3世  
 信夫(しんぶ;号) → 義明(よしあき・佐久間さくま/平清水、大庄屋/国学) M 4 7 9 5  
 信夫(しんぶ)訓はすべて → 信夫(のぶお)  
 親孚(しんぶ・本田) → 親孚(ちかさね・本田ほんだ、藩士/代官) 2 8 9 0  
 申孚(しんぶ・山科) → 長安(ちやうあん・山科やましな/源、医者) H 2 8 1 1  
 眞武(しんぶ・原) → 眞武(まさたけ・原はら/吉岡、歌人) R 4 0 9 8  
 靱夫(じんぶ・静) → 靱夫(ゆざお・静しずか/諏訪、神職/国学) G 4 6 9 2
- P2271 伸風(しんぶう) ? - ? 俳;1688不卜「続の原」1句入  
 [霰題;森ふかく野馬のうま飛込むあられかな](続の原;88/激し霰に驚く馬)
- P2272 晨風(しんぶう) ? - ? 伊勢松坂の俳人;1689「あら野」2句入  
 [花の山どころまへて歌詠まむ](あら野;卷一花4)
- Q2240 唇風(しんぶう) ? - ? 安藝の俳人;1789蝶夢「芭蕉門故人眞蹟」入、  
 1789素鈞「こてふつか」/95其両追善「さゝ栗の露」入
- P2273 尋風(しんぶう・照井てい、名;順益)?-? 羽後大館の医者/俳人:五明門、同門に五貢・民児、  
 1815「小夜志久麗さよくれ」編、  
 [尋風(;号)の通称/別号]通称;小林玄泰、別号;桑風/百合庵  
 眞風(しんぶう・沢) → 眞風(まかぜ;名・沢さわ、国学者) 4 0 4 9  
 眞風(しんぶう・市川) → 眞風(まかぜ・市川、幕臣/国学者) 4 0 5 0  
 眞風(しんぶう→まかぜ・物集) → 高世(たかよ・物集もずめ、国学者/歌学) E 2 6 0 3  
 信風(しんぶう・長見/深野) → 新兵衛(しんべえ・深野/長見、藩士/俳人) P 2 2 7 9  
 信風(しんぶう・土岐) → 信風(のぶかぜ・土岐とき/齋藤、国学者) J 3 5 2 5  
 信風(しんぶう・木村) → 信風(のぶかぜ・木村きむら、商家/国学/歌) I 3 5 1 3  
 神風館初世(しんぶうかん) → 弘氏(ひろうじ・足代、神職/俳人) F 3 7 5 6  
 神風館二世 → 弘員(ひろかず・足代、弘氏男/神職/俳人) F 3 7 6 7  
 神風館三世 → 涼菟(りやうと・岩田、俳人) 4 9 2 1  
 神風館四世 → 曾北(そぼく・世木、俳人) E 2 5 3 4  
 神風館五世 → 梅路(ばいろ・中森、俳人) C 3 6 3 6  
 神風館六世 → 温故(おんこ、俳人) D 1 4 4 3  
 神風館七世 → 何声(かせい・風鈴庵、俳人) M 1 5 6 1  
 神風館八世 → 入楚(にっそ・鈴木、俳人) E 3 3 8 3  
 神風館10世 → 弘臣(ひろおみ・足代、俳人) H 3 7 9 6  
 神風館12世 → 木蔭(ぼくおう・井村、俳人) C 3 9 9 3  
 神風館13世 → 丘高(きゅうこう・笹ささ、俳人) M 1 6 5 2  
 神風館14世 → 秋水(しゅうすい・小林、俳人) X 2 1 6 9  
 神風館15世 → 只青(しせい・為田ためだ/小林、書/俳人) Z 2 1 0 3  
 神風館16世 → 隆重(たかしげ・杉本/中臣、神職/俳人) X 2 6 7 1  
 眞風流(しんぶうりゅう・高寺) → 眞風流(眞古まふる・高寺たかでら、国学/歌) Q 4 0 6 6  
 仁風廬(じんぶろう) → 千秋(ちあき・山原やまはら、俳人/国学) N 2 8 7 2

- 振武翁(しんぶおう) → 雄淵(おぶち・松岡、神道) B 1 4 9 1  
 信復(しんぶく・松平) → 信復(のぶなお・松平、藩主/儒/詩歌) C 3 5 4 9  
 信復(しんぶく・中条) → 信敬(のぶゆき・中条ちゆうじょう、幕臣/高家) D 3 5 6 8  
 神復翁(しんぶくおう・豊田) → 長敦(ながあつ・豊田とよだ/本姓;平、国学) K 3 2 4 2
- P2274 眞仏(しんぶつ;法諱、俗名;椎尾弥三郎春時、下野国司真壁[大内]国春男) 1209-5850 鎌倉期真宗僧、  
 1214(6歳)筑波山の俊源門/1224親鸞に謁す、1225家督継嗣;常陸真壁城主/弟国綱に譲渡、  
 親鸞門に入る/1227京興正寺(仏光寺)住職/1232親鸞の跡を継嗣し下野高田専修寺2世、  
 「親鸞聖人本伝」著、顕智・源海・専信の師
- 心仏(しんぶつ・伊藤) → 参行(さんぎょう・伊藤いとう、富士講行者) M 2 0 0 5  
 神武堂(しんぶどう) → 正富(まさとみ・大森おおもり、軍学者) E 4 0 5 9  
 親文(しんぶん・紀) → 親文(ちかふみ・紀き、廷臣/國造/歌人) B 2 8 7 7  
 真文(しんぶん・水野) → 真文(まさふみ・水野みずの、歌人) M 4 0 2 4  
 真文(しんぶん・小川) → 真文(まさふみ・小川おがわ、国学者) O 4 0 0 8  
 真文(しんぶん・渡辺) → 眞文(まふみ・渡辺わたなべ、神職) T 4 0 8 0  
 心聞舎(しんぶんしゃ) → 宇逸(ういつ・白水、俳人) 1 2 1 3  
 親文堂主人(しんぶんどうしゅじん) → 秀実(しゅうじつ・渡辺わたなべ、絵師) X 2 1 5 0
- P2275 信平(しんぺい・田中たなか) ? - ? 江後期豊前中津の骨董商、書画/料理を嗜む、  
 京撰に遊ぶ/柴野栗山・池大雅と交流、1818来訪の頼山陽を手料理で饗応、  
 1784刊「卓子式」著、  
 [信平(;名)の通称] 田信/田子孚
- P2276 新平(しんぺい;通称・田上たがみ、号;真愛) 1796-1872 安藝広島の心学者/学舎歎心舎で栗原如心門、  
 のち歎心舎都講/敬信舎都講、妻多鶴子も講師を勤める、「心学問答」著
- P2277 信平(しんぺい・横山よこやま、名;文英、中尾清右衛門2男) 1815-6450 母;堀口とみ、絵師/養蚕家、  
 若狭大飯郡高浜町若宮の商家柏屋の生/画;堀尾家入門/京の岸駒門、横山華山門;養嗣子、  
 1837横山家継嗣/京の室町一条南に住、堂上公家に厚遇され;紫宸殿の襖絵を描く、  
 養蚕奨励のため桑苗の施行を企画;若狭などの有志に配布、「花洛名勝図会」画、  
 1861「養蚕大益掌」著、  
 [信平(;通称)の別通称/号]別通称;主馬之介(助)、号;華溪/嵐山/貯雲楼、法号;积蔵華
- 神平(しんぺい) → 信眞(のぶまさ・守矢、神職/記録) D 3 5 2 6  
 真平(しんぺい・東方) → 芝山(しざん・東方ひがしかた、藩士/儒者) D 2 1 8 0  
 眞瓶(しんぺい・まがめ小杉) → 楹邨(すぎむら・小杉こすぎ、国学/歌人) B 2 3 6 6  
 慎平(しんぺい・飯田) → 篤老(とくろう・飯田、医/俳人) L 3 1 6 2  
 慎平(しんぺい・伊藤) → 定敬(さだたか・伊藤いとう、藩士/和算家) I 2 0 3 7  
 慎平(しんぺい・城村/山県) → 墨僊(墨僊ぼくせん・山県やまがた、儒/書家) D 3 9 6 3  
 眞平(しんぺい・大村) → 鶴汀(かくてい・大村、俳人) K 1 5 2 3  
 晋平(しんぺい・岡本) → 鞆足(ともたり・岡本、左官業/郷土史) P 3 1 7 3  
 晋平(しんぺい・青木) → 金山(きんざん・青木あおき、儒者) R 1 6 0 8  
 晋平(しんぺい・志村) → 恒憲(つねのり・志村、和算家) D 2 9 2 3  
 晋平(しんぺい・大河戸) → 儀成(ぎせい・大河戸おおかわと、国学者) L 1 6 0 7  
 晋平(しんぺい・佐藤) → 斌彦(あきひこ・佐藤まさとう/飯塚、里正/国学) H 1 0 6 5  
 震平(しんぺい・手塚/原) → 古処(こしょ・原はら叔燁、儒者/詩人) C 1 9 9 4  
 新平(しんぺい・今井) → 桐軒(とうげん・今井いまい、藩士/国学者) D 3 1 2 9  
 新平(しんぺい・滝川) → 有义(ありはる・滝川、和算家) F 1 0 6 4  
 新平(しんぺい・山瀬/市河) → 寛斎(かんさい・市河/河、詩人) 1 5 4 8  
 新平(しんぺい・佐善) → 礼耕(れいこう・佐善さぜん、藩儒臣) 5 1 2 7  
 新平(しんぺい・羽生田) → 修平(のぶひら・羽生田、不如学斎、歌人) D 3 5 0 7  
 新平(しんぺい・泉) → 円(まどし・泉/和泉いずみ、歌人) J 4 0 9 1  
 新平(しんぺい・梯) → 処方(やすかた・梯かけはし、藩士/歌人) F 4 5 7 5  
 新平(しんぺい・泉/和泉) → 久澄(ひさずみ・泉、円男/商家/歌人) B 3 7 2 0

新平(新兵しんべい・堀田) → 連山(れんざん・堀田ほった、絵師) B 5 1 1 0  
 新平(しんべい・竹村) → 盛行(もりゆき・竹村たけむら、国学者) K 4 4 4 7  
 新平(しんべい・宮脇) → 義敬(よししたか・宮脇みやわき、和漢学/歌人) P 4 7 4 8  
 信平(しんべい・高階) → 信寂(しんじやく; 法諱、高階俊平、廷臣/歌) E 2 2 4 2  
 信平(しんべい・三野) → 謙谷(けんこく・三野みの、藩士/漢学者) E 1 8 1 0  
 信平(しんべい・松平/杉浦) → 比隈満(ひくまろ・杉浦、神職/国学) 3 7 4 9  
 信平(しんべい・藤井) → 信平(のぶひら・藤井ふじい、神職/国学/歌) J 3 5 8 8  
 信平(しんべい・久保田) → 信平(のぶひら・久保田くぼた、儒/国学/歌) I 3 5 2 6  
 信平(しんべい・佐々木) → 蘆臣(あしおみ・佐々木ささき、藩士/歌人) H 1 0 6 3  
 親平(しんべい・源) → 親平(ちかひら・源みなもと、廷臣/歌人) O 2 8 0 2  
 親平(しんべい・幸田) → 親平(ちかひら・幸田こうた、幕臣/奉行) B 2 8 7 1  
 進平(しんべい・綾部) → 綱斎(けいさい・綾部あやべ、儒者/詩歌) E 1 8 6 6  
 進平(しんべい・谷田) → 輔長(すけなが・谷田たにだ、絵師) G 2 3 7 5  
 臻平(しんべい・斎藤) → 秋圃(あきう・齋藤しゅうほ・斎藤葵/池上、絵師) I 2 1 2 7  
 甚平(しんべい・内藤) → 貞頭(さだあき・内藤ないとう、藩士/国学) G 2 0 2 0  
 甚平(しんべい・板倉) → 勝重(かつしげ・板倉、幕臣/法度制定) C 1 5 4 5  
 甚平(しんべい・長谷川) → 有文(ありぶみ・長谷川、藩士) F 1 0 7 7  
 甚平(しんべい・坂尾) → 幽栖(ゆうせい・坂尾さかお、藩士/儒者) C 4 6 9 8  
 甚平(しんべい・斎藤/河田) → 寄三(きそう/きぞう・河田/斎藤、俳人) B 1 6 4 3  
 晋米斎玉粒(しんべいさいぎよくりゅう) → 玉粒(ぎよくりゅう・晋米斎、戯作/狂歌) D 1 6 1 2  
 新兵治(しんべいじ・竜) → 貞玄(貞治さだはる・龍りゅう、神職/国学) J 2 0 3 4

U2270 **新兵衛**(しんべえ・小本おもと、助兵衛正吉男) ?- 1697 陸奥盛岡の国学者/歌人、

[新兵衛(;通称)の名/別通称]名; 正三、別通称; 助次郎、法名; 英林義俊居士

P2278 **眞兵衛**(しんべえ・中島なかじま、名; 清香、中島徳右衛門清雄男) 1742-1818 77 長崎の本草家、  
1760父の跡継嗣; 薬種目利/69御薬園掛兼任/94薬種目利頭取、本草学の野田青葭の師、  
1803(享和3)「舶来諸産解説七拾条」著、  
[眞兵衛(;通称)の号] 蘆鴻

P2279 **新兵衛**(しんべえ・深野ふかの、名; 信風、長見伝右衛門2男) 1794-? 1863 存 長門萩藩士、  
文政-安政1818-60頃江戸藩邸詰; 30余年間/俳人、村田清風と親交、  
「俳諧桃華書集」「不易独吟集」著、  
[新兵衛(;通称)の号] 其源/桃華とうげ

P2280 **新兵衛**(しんべえ・伊丹屋いたみや、保寿堂) ?-? 江中期大阪の安堂寺町の書肆、  
1733「大万宝節用集字海大成」編

2275 **新兵衛**(3世しんべえ・小林、須原屋/蒿山堂) ?-? 江戸書肆、徂徠門流の書/特に唐詩選関係書刊

新兵衛(しんべえ・松村) → 英竜(ひでたつ・山澄/川方、藩士/戦記) D 3 7 1 5  
 新兵衛(しんべえ・関屋) → 政春(まさはる・関屋せきや、藩士/兵学者) G 4 0 3 8  
 新兵衛(しんべえ・向井) → 吉重(よししげ・向井むかい、藩士/軍学者) D 4 7 5 9  
 新兵衛(4世しんべえ・須原屋/蒿山堂) → 高英(たかひで・小林、書肆; 詩書刊) N 2 6 0 0  
 新兵衛(しんべえ・高/深見) → 玄岱(げんたい・深見/高こう、儒/書家) E 1 8 3 4  
 新兵衛(しんべえ・深見) → 有隣(ゆうりん/ありちか・深見、玄岱男/幕臣/儒) E 4 6 0 9  
 新兵衛(しんべえ・武村) → 南窓(なんそう・武村たけむら、書家) J 3 2 2 4  
 新兵衛(しんべえ・多田屋/根岸) → 延貞(のぶさだ・根岸、国学) B 3 5 5 1  
 新兵衛(しんべえ・山本) → 重純(しげすみ・山本やまもと、藩士/兵学者) R 2 1 1 4  
 新兵衛(しんべえ・安田) → 布旧(のぶもと・安田、郡奉行/記録) D 3 5 2 1  
 新兵衛(しんべえ・本庄) → 梅翁(ばいおう・本庄ほんじょう、儒者) 3 6 7 1  
 新兵衛(しんべえ・近江屋/有山) → 玄統(げんとう・有山ありやま、心学者) L 1 8 8 1  
 新兵衛(しんべえ・長崎屋) → 美成(よししげ・山崎やまさき、商家/国学者) 4 7 1 2  
 新兵衛(しんべえ・小間物屋) → 凉花(りょうか・夏葉亭、商家/俳人) G 4 9 6 6  
 新兵衛(しんべえ・木下/鈴木) → 芙蓉(ふよう・鈴木/木下、絵師/詩文) E 3 8 4 9  
 新兵衛(しんべえ・田中) → 蘭斎(らんさい・田中たなか、藩士/書家) C 4 8 1 5

新兵衛(しんべえ・湯浅) → 明善(あきよし・湯浅、藩士/文筆家) E 1 0 0 8  
 新兵衛(しんべえ・石屋) → 大石小石躬陰(おおいしこいしのみかげ、狂歌) B 1 4 6 8  
 新兵衛(しんべえ・吉田/文徴堂) → 茂喬(しげたか・文屋ぶんや、百川堂灌河、書肆) C 2 1 3 2  
 新兵衛(しんべえ・郷) → 東岡(とうこう・郷ごう、儒者/詩文) D 3 1 8 5  
 新兵衛(しんべえ・福井) → 西塙(せいお・福井ふくい、俳人) H 2 4 4 7  
 新兵衛(しんべえ・中田) → 錦江(きんこう・中田、藩士/漢学) Q 1 6 9 3  
 新兵衛(しんべえ・吉村) → 寛泰(ひろやす・吉村よしむら、藩士/儒者) H 3 7 5 5  
 新兵衛(しんべえ・竹川) → 政信(まさのぶ・竹川たけがわ、商家/国学者) F 4 0 7 5  
 新兵衛(しんべえ・河崎) → 文淵(ぶんえん・河崎かわさき、国学者/詩文) E 3 8 8 5  
 新兵衛(しんべえ・石井) → 好胤(よしたね・石井いしい、郷土史家) E 4 7 3 5  
 新兵衛(しんべえ・小沢) → 精庵(せいあん・小沢おざわ、漢学/洋学) H 2 4 2 8  
 新兵衛(しんべえ・金屋) → 染太夫(6世そめだゆう・竹本、浄瑠璃太夫) E 2 5 4 0  
 新兵衛(しんべえ・山田) → 泰平(やすひら・山田やまだ、歌人) C 4 5 8 3  
 新兵衛(しんべえ・富田屋) → 文屋安雄(ぶんやのやすお、書肆/狂歌) G 3 8 5 5  
 新兵衛(しんべえ・菱屋/村井) → 古巖(こがん・村井/邑井/邨井むらい、書賈/国学) G 1 9 7 5  
 新兵衛(しんべえ・上総屋) → 夢羅久(むらく:初世・朝寝房、落語家) D 4 2 1 2  
 新兵衛(しんべえ・和田) → 義保(よしやす・和田わだ、薬種商/国学者) Q 4 7 1 3  
 新兵衛(しんべえ・後閑) → 義行(よしゆき・後閑ごかん/源、藩士/歌人) M 4 7 8 7  
 新兵衛(しんべえ・西郷) → 元純(もとずみ・西郷さいごう、藩士/歌人) K 4 4 0 3  
 新兵衛(しんべえ・竹川) → 竹斎(ちくさい・竹川たけがわ、商家/殖産家) D 2 8 0 6  
 新兵衛(しんべえ・竹村) → 盛行(もりゆき・竹村たけむら、国学者) K 4 4 4 7  
 新兵衛(しんべえ・渡辺) → 為綱(ためつな・渡辺わたなべ、国学者) 2 7 4 7  
 晋兵衛(しんべえ・藍庭) → 五粒(ぎよくりゅう・晋米斎しんべいさい、戯作/狂歌) D 1 6 1 2  
 晋兵衛(しんべえ・吉村) → 千春(ちはる・吉村よしむら、藩士/国学者) F 2 8 2 0  
 真兵衛(しんべえ・畑中) → 光輝(みつてる・畑中はたなか、歌人) D 4 1 9 6

P2281 甚兵衛(じんべえ・越村こしむら)?- ? 江後期寛政1789-1801頃大和高市郡の本草家:  
 高取藩命で大和国内産出の薬種調査;1792「大和国産志」編

P2282 仁兵衛(にへいじんべえ・堀野屋ほりのや;屋号、姓;小倉、号;玩月堂)?-? 江後期江戸本石町四丁目の書肆、  
 俳諧・狂歌本を版行、息女が式亭三馬の妻、「多波麗譚東海駅鈴」著

甚兵衛(じんべえ・山村) → 良景(たかかげ・山村やまむら、藩士/代官) L 2 6 6 7  
 甚兵衛(じんべえ・山村) → 蘇門(そもん・山村良由たかよし、家老/儒詩) E 2 5 4 3  
 甚兵衛(じんべえ・山村) → 良喬(たかてる・山村、蘇門の養子/藩代官/俳人) M 2 6 3 4  
 甚兵衛(じんべえ・山村) → 良祺(たかのり・山村、良喬男/藩代官/儒/教育) M 2 6 7 8  
 甚兵衛(じんべえ・岡田) → 忠寛(ただひろ・岡田おかだ、代官/国学者) W 2 6 3 0  
 甚兵衛(じんべえ・松倉) → 嵐蘭(らんらん・松倉まつくら、俳人) 4 8 0 7  
 甚兵衛(じんべえ・上部) → 貞季(さだすえ・上部うわべ/度会、神職) B 2 0 5 4  
 甚兵衛(じんべえ・蠟燭屋/林) → 宗甫(そうほ・林はやし、地誌家/俳人) C 2 5 9 1  
 甚兵衛(じんべえ・吉田) → 芝溪(しげい・吉田よしだ、商家/儒者) Q 2 1 6 0  
 甚兵衛(じんべえ・住友) → 友信(とものお・住友3代目、商家/狂歌) Q 3 1 1 6  
 甚兵衛(じんべえ・田中) → 常矩(つねのり・田中たなか、俳人) 2 9 1 2  
 甚兵衛(じんべえ・日高) → 為純(ためずみ・日高、藩士/歌人) S 2 6 4 6  
 甚兵衛(じんべえ・塩屋) → 有隣斎(ゆうりんさい・三浦、製塩業/歌) E 4 6 1 4  
 甚兵衛(じんべえ・大和屋) → 生重(きちよう、歌舞伎役者・俳諧) F 1 6 8 5  
 甚兵衛(じんべえ・桑名屋) → 桑魚(そうぎよ・万笈斎、書肆/狂歌師) B 2 5 0 7  
 甚兵衛(じんべえ・茶屋) → 春枝(はるえ・村松むらまつ、茶商/国学/歌) K 3 6 8 9  
 甚兵衛(じんべえ・紺屋) → 眞船(まふね・村松むらまつ、茶商/国学) K 4 0 0 9  
 甚兵衛(じんべえ・内藤) → 忠盛(ただもり・内藤ないとう/藤原、幕臣/歌) Y 2 6 4 9  
 甚兵衛(じんべえ・住友) → 友善(ともよし・住友、両替商/歌人) Q 3 1 9 9  
 甚兵衛(じんべえ・河合) → 尚久(なおひさ・河合、医者) C 3 2 1 8  
 甚兵衛(じんべえ・葛井) → 文哉(ぶんさい・葛井かつらい、儒者/詩歌) F 3 8 2 9

- 甚兵衛(じんべえ・堀越) → 宣治(のぶはる・堀越、木兎菴秋来、藩士/俳) C 3 5 8 4  
 甚兵衛(じんべえ・藤田) → 正兼(まさかね・藤田ふじた、歌人) C 4 0 1 8  
 甚兵衛(じんべえ・矢野) → 安盛(あさか・矢野やの、砲術家) E 1 0 2 9  
 甚兵衛(じんべえ・塩屋/三浦) → 迂斎(うさい・三浦みうら、商家/文筆) B 1 2 0 0  
 甚兵衛(じんべえ・斎藤/河田) → 寄三(きそう/きぞう・河田/斎藤、俳人) B 1 6 4 3  
 甚兵衛(じんべえ・小山) → 駿亭(しゅんてい・小山こやま、藩士/書家) L 2 1 5 1  
 甚兵衛(じんべえ・大坂屋) → 金塚(きんらち・馬場、両替商/狂歌) E 1 6 9 0  
 甚兵衛(じんべえ・山内) → 道恒(みちつね・山内、養蚕家/藩士) B 4 1 8 9  
 甚兵衛(じんべえ・三牧/佐藤) → 慶五(けいご・三牧/佐藤、俳人) F 1 8 5 4  
 甚兵衛(じんべえ・森下屋) → 古来(こらい・富川とみかわ、俳人) N 1 9 8 7  
 甚兵衛(じんべえ・常陸屋/藤本) → 常丸(つねまる・忍岡、姓;藤本、戯作) D 2 9 8 1  
 甚兵衛(じんべえ・奥山) → 良和(よしかず・奥山おくやま、幕臣/国学者) M 4 7 0 8  
 甚兵衛(じんべえ・長坂/安倍) → 親任(ちかとう・安倍/長坂、藩士/農政/歌) B 2 8 2 5  
 甚兵衛(じんべえ・原田) → 恒貞(つねさだ・原田はらだ、藩士/歌人) G 2 9 1 9  
 甚兵衛(じんべえ・九良屋/内池) → 保考(やすとし・内池うちいけ、商家/歌人) F 4 5 4 1  
 甚兵衛(じんべえ・内池) → 保承(やすつぐ・内池うちいけ、商家/歌人) F 4 5 4 0  
 甚兵衛(じんべえ・内池) → 保教(やすのり・内池うちいけ、商家/歌人) F 4 5 4 2  
 甚兵衛(じんべえ・諏訪) → 種義(たねよし・諏訪すわ/上原、藩士/国学) X 2 6 6 6  
 甚兵衛(じんべえ・住友) → 友聞(ともか/ともひろ・住友すみとも/岡村、商家/国学) V 3 1 4 4  
 甚兵衛(じんべえ・浦上) → 盛栄(もりひで・浦上うらがみ、公共事業/歌) J 4 4 3 9  
 甚兵衛(じんべえ・菱屋) → 千風(ちかぜ・矢西やし、商家/歌人) N 2 8 7 0  
 甚兵衛(じんべえ・三輪) → 経年(つねとし・三輪みわ、製造業/歌人) G 2 9 5 0  
 甚兵衛尉(じんべえのじょう・山口) → 正弘(まさひろ・山口やまぐち、武将/領主) G 4 0 9 3
- 2229 **眞辨**(しんべん;法諱・琳光房;字) ?-? 紀伊真言;忍信/覚海門、十輪院住、1259高野山56世檢校、  
 檢校を再度追却、高野八傑の1、1223「性靈集略注」2帖
- P2283 **信辨**(しんべん;法諱、俗名;金平きんびら質之助[公平七之助]?) ?-? 羽黒千本杉村出身の最上家の遺臣、  
 江戸で侍を殺害;出家、羽黒山健之院の修験僧、「羽源記」著
- 信鞭(しんべん・高木) → 竜洲(りゅうしゅう・高木たかぎ、詩人) E 4 9 5 8  
 眞弁(しんべん;字) → 慶遇(きょうぐう;法諱・眞弁、真宗僧) N 1 6 6 0
- P2284 **信遍**(しんべん;法諱、冷泉為親男) 1606-6661 広橋兼勝の猶子、真言僧;1617菩提山報恩院光紹門;  
 出家、法眼/1632法印/58大僧正/62東寺長者/63法務宣下、護持僧、「四度聞書」著
- 信遍(しんべん/のぶゆき・成島) → 錦江(きんこう・成島、詩歌) 1 6 6 1  
 信復(しんぶく・松平) → 信復(のぶなお・松平、藩主/詩歌人) C 3 5 4 9
- 2277 **進歩**(しんぽ;号・砂岡いさおか、雁宕がんとう[?-1773]男) ?-? 下総結城の俳人、冲翼の弟、  
 1771雁宕「蓼たですり古義」共刊(1751頃雁宕起草;冲翼が刪定中没;叔父周午と進歩の刊);  
 (「蓼すり古義」は蓼太の「雪おろし」に対する反駁書/蓼太側からは「遅八刻」で反論)、  
 1785父13回忌追善集「たままつり」編
- P2285 **新甫**(しんぼ・土岐とき、名;柏) 1774-1800?早世27? 美濃赤坂の本草家;小野蘭山門、  
 諸国漫遊;採薬、1799幕府奥医の渋江長伯に随い蝦夷地採薬、帰府後伊豆滞在/越後に没、  
 「鉤致堂随筆」、1800「新甫遺稿」、  
 [新甫(;字)の通称] 養伯
- 2278 **新甫**(しんぼ;号・海老原えびはら) ?-1864 江戸新吉原巴屋の主人、俳人:蒼虬門、  
 1858「俳諧五元一覽」著/58「俳諧安政附合集」60「澄月集」「春まだき」61「あさひらき」編、  
 1861「蒼虬翁附合集」「為誰集」/62「はつ手振」63「文久五百題」編、「磯とまり」編、  
 [新甫(;号)の通称/別号]通称;源吉、別号;半青居/柏隠/芦明庵
- P2286 **新甫**(しんぼ・堤つみ、名;迪) 1829-9971歳 阿波徳島藩家老稲田家家臣/美馬郡穴吹三谷の生、  
 儒者:大阪の篠崎小竹門/江戸の佐藤一斎門、安積良斎・藤森弘庵と交流、霊岸島に開塾、  
 稲田家の命で帰郷;猪尻学校教官、1861致仕/徳島に開塾、維新後も学校教育に尽力、  
 「阿波国名勝記」/1867「滝山雑稿」著、  
 [新甫(;号)の通称] 大介/大助

申甫(しんぼ・川合) → 元(げん・川合かわい、儒者) H 1 8 5 3  
 申甫(しんぼ・加藤) → 琵琶彦(びわひこ・便々館、加藤保右、商人/狂歌) 3 7 3 1  
 真保(しんぼ・吉野) → 眞保(まさやす・吉野よしの、記録者) I 4 0 0 9  
 慎甫(しんぼ・毛利) → 空桑(くそう・毛利、儒者/尊攘) C 1 7 0 2  
 慎甫(しんぼ・高橋/近藤) → 篤山(とくざん・近藤、儒者) K 3 1 7 7  
 慎甫(しんぼ・前田) → 治脩(はるなが・前田、藩主/日記) G 3 6 6 3  
 新甫(しんぼ・植村) → 政勝(正勝まさかつ・植村、本草家/採薬) C 4 0 0 9  
 新甫(しんぼ・川北) → 梅山(ばいざん・川北/川喜田かわきた、儒者) B 3 6 3 3  
 新甫(しんぼ・山川) → 利順(としのぶ・山川やまかわ、国学者/歌) W 3 1 8 2  
 新甫(しんぼ・小倉) → 無隣(むりん・小倉おぐら無邪、儒者) D 4 2 3 0  
 新甫(しんぼ・野田) → 白石(はくせき・野田、詩/狂歌) D 3 6 4 7  
 新甫(しんぼ・頼) → 景讓(けいじょう・頼らい、儒者) N 1 8 3 0  
 晋甫(しんぼ・深田) → 明峯(めいほう・深田ふかだ、藩儒者) 4 3 3 5  
 信甫(しんぼ・河浪) → 自安(じあん・河浪/菅原、医者/儒者) B 2 1 0 6  
 信輔(しんぼ・小笠原) → 庸昌(つねまさ・小笠原おがさわら、儒医) D 2 9 7 5  
 親輔(しんぼ・田内) → 親輔(ちかすけ・田内たのうち、藩士/儒者) B 2 8 0 4  
 親輔(しんぼ・香川/宮庄) → 親輔(ちかすけ・宮庄みやしょう、藩家老/歌) B 2 8 0 3  
 親輔(しんぼ・高洲/国司) → 親相(親輔ちかすけ・国司くにし、藩士/歌) B 2 8 0 6  
 親輔(しんぼ・ちかすけ・高橋) → 三平(さんぺい・美玉みたま、高橋、尊攘派) M 2 0 7 4  
 深甫(しんぼ・片倉) → 鶴陵(かくりょう・片倉たくら、医者) K 1 5 6 0  
 辰輔(しんぼ・松本) → 辰輔(たつすけ・松本、藩士/系譜) R 2 6 6 3  
 蔘浦(しんぼ・楫取) → 素彦(もとひこ・楫取/松島/小田村、藩士) D 4 4 9 5

P2287 仁甫(じんぼ;道号・聖寿しょうじゅ;法諱、玄寿?)?-? 室町期臨濟僧:建仁寺定慧院の子瑜元瑾門;嗣法、のち1488建仁寺230世;1503までに10度住寺/建仁寺西来院の塔主、「続臆断」著

親芳(しんぼう/ちかよし・大野) → 傘狂(さんきやう・大野おおの、俳人) E 2 0 2 1

2279 晋宝(晋葆しんぼう・菅かん;修姓、菅波すがなみ平3男) 1768-1800<sup>33</sup> 菅茶山弟、備後川北村神辺儒者;幼時は体弱く師に就かず;のち西山拙斎塾入門、上京し子弟教育、「鬼橋記」「恥庵詩草」、「恥庵文草」「菅氏詩文稿」「諸家詩文稿」著、没後;茶山「黄葉夕陽村舎詩」正編付録詩入、[晋宝(;名)の字/号]字;信卿/圭二、号;恥庵

信房(しんぼう・鈴村) → 信房(のぶふさ・鈴村、俳人) D 3 5 1 9  
 信房(しんぼう・河地) → 信房(のぶふさ・河地かわち、商家/俳・歌人) I 3 5 0 2  
 信法(しんぼう;法諱) → 覚性法親王(かくしやうほつしんのう、歌人) 1 5 6 2  
 信方(しんぼう・飯田) → 信方(のぶみち・飯田いいた/黒沢、医者) H 3 5 2 7  
 信豊(しんぼう・宮崎) → 信豊(のぶとよ・宮崎みやさき、神職/国学) H 3 5 1 7  
 真邦(しんぼう・佐倉) → 眞邦(まくに・佐倉さくら/水野、神職/歌) P 4 0 8 0  
 真方(しんぼう・竹村) → 眞方(まさかた・竹村たけむら、藩士/歌人) Q 4 0 8 0  
 真豊(しんぼう・米内) → 眞豊(まさとよ・米内よねうち/高橋、陪臣/国学) T 4 0 7 5  
 辰方(しんぼう・酒井/松岡) → 辰方(ときかた・松岡/丹比たじひ、故実家) J 3 1 0 4  
 親審(しんぼう・堀) → 親審(ちかしげ・堀、藩主/天保改革) 2 8 9 8  
 親方(しんぼう・藤原) → 親方(ちかかた・藤原/葉室、廷臣/歌人) 2 8 6 9  
 親方(しんぼう・村上) → 宗占(そうせん;号・村上むらかみ、藩医) I 2 5 2 7  
 親方(しんぼう・大西) → 親方(ちかまさ・大西おおにし、神職/国学) M 2 8 2 6  
 親方(しんぼう・林) → 親方(ちかまさ・林はやし、歌人) N 2 8 3 3  
 親房(しんぼう) すべて → 親房(ちかふさ)  
 信法院(しんぼういん;諡号) → 光沢(こうたく;法諱・広如、西本願寺20世) K 1 9 5 0  
 神旁館(しんぼうかん) → 弾政(ただまさ・久野くの、神道家) Q 2 6 8 2  
 尋芳堂(じんぼうどう) → 篤山(とくざん・近藤、儒者) K 3 1 7 7  
 鬢北(しんぼう・福永) → 淑人(義人/祥人よしと・福永、儒者) E 4 7 8 2  
 信睦(しんぼう・佐藤) → 陶崖(とうがい・佐藤、医/陶工) C 3 1 0 1  
 信睦(しんぼう・安藤) → 信睦(のぶゆき・安藤信正、藩主/老中) D 3 5 7 6

- 眞牧(しんぼく) → 勝康(かつやす・阿川、武将/連歌) N 1 5 9 3  
 臣木舎(しんぼくしゃ→おみきのや) → 常典(つねのり・山田/平井、国学/歌) D 2 9 2 0  
 進木舎(しんぼくしゃ・三輪) → 伴蔭(ともかげ・三輪みわ、国学/神職/歌) W 3 1 5 5  
 進木舎(しんぼくしゃ) → 眞樹(まさき・山口やまぐち、藩士/歌人) T 4 0 4 5  
 新保氏入道(しんぼしのにゅうどう) → 団水(だんすい・北条、俳人/浮世草子) 2 6 9 2  
 眞麿(しんま・魚住/大石) → 眞麿(まさまろ・大石/魚住、藩士/史家) H 4 0 3 2  
 眞枚(しんまい・池田) → 眞枚(まひら・池田いけだ朝臣、奈良期廷臣) K 4 0 0 6
- 2280 新松(しんまつ・竹田たけだ) ? - ? 江中期浄瑠璃作者;1769竹本座を再興し座本、  
 1771座本を竹田栄蔵に譲渡、浄瑠璃作者;近松半二・三好松洛らと合作、  
 1769「近江源氏先陣館」合作
- 眞末(しんまつ・高橋) → 掖斎(えきさい・狩谷かりや、国学/漢学者) 1 3 0 7  
 審麿(しんまろ・風早) → 審麿(あきまろ・風早かざはや、孝養家) G 1 0 3 9  
 親麿(しんまろ→ちかまろ・本田/白尾) → 国柱(くにはしら・白尾しらお、藩士/国学) D 1 7 0 9  
 眞満(しんまん・安元) → 眞満(まさみつ・安元やすもと、神職/歌人) O 4 0 1 9  
 信満(しんまん・山根) → 信満(さねまろ・山根、国学/神職) L 2 0 3 4  
 信満(しんまん・羽倉) → 信満(のぶまろ・羽倉はくら/荷田、国学) H 3 5 8 8  
 親満(しんまん・松園) → 親満(ちかまろ・松園まつぞの/中臣、歌人) B 2 8 8 4  
 岑満(しんまん・伊佐) → 岑満(みねみつ・伊佐いさ、幕臣/考証学/歌) F 4 1 5 5  
 眞満院(しんまんいん;号) → 禅智(ぜんち;法諱・妙蔵院、社僧/連歌) M 2 4 9 4  
 晋万和(しんまんわ) → 万和(まんわ、俳人) K 4 0 8 8
- R2221 新湊組(しんみなとぐみ;組連)? - ? 安房乙浜(南房総白浜)の雑俳の組連、  
 取次;1758「菊丈平万句合」入、  
 取次例;[御呵しかりの拍子にとんとぬけ参り](前句;しほらしい事々々)  
 (叱られた拍子に萎れた姿でやっど伊勢のお蔭参りに参加)
- P2288 信妙(しんみょう・秋野あきの/本姓;平)?-? 江中期江戸の神道家;伴部安崇門、  
 江戸駒込吉祥寺に師安崇の碑建立;銘文を記す、「先師碑名」「八重垣翁碑名」著
- 親妙(しんみょう・奥村) → 政信(まさのぶ・奥村おくむら、絵師/俳人) F 4 0 6 4
- P2289 尋明(じんみょう、法師) ? - ? 平安後期天台叡山僧/歌人、  
 1062無動寺和尚賢聖院歌合参加;右方(比叡山延暦寺塔頭無動寺で檢校広算主催)、  
 [山高み峰の松ばらおしなべてみどりの空にまがひこそすれ](賢聖院歌合;九番右18)
- 深妙院(しんみょういん;諡号) → 聞号(もんごう;法諱、真宗本願寺派僧) I 4 4 2 1  
 心妙院(しんみょういん) → 日修(にっしゅう;法諱/円政、日蓮僧/久遠寺法主) E 3 3 0 9  
 新民(しんみん・山内) → 退斎(たいさい・山内やまうち、儒者) B 2 6 4 1  
 新民(しんみん・平田) → 宗愷(そうがい・平田ひらた、儒者/教育) G 2 5 5 0  
 親民(しんみん・安藤) → 親民(ちかたみ・安藤あんど、歌人) L 2 8 5 2  
 真民(しんみん・名和) → 眞民(まさたみ・名和なわ、藩儒) D 4 0 6 5  
 真民(しんみん・森) → 眞民(またみ・森もり、国学者) T 4 0 2 4  
 晋民(しんみん・平賀) → 中南(ちゅうなん・平賀、儒者/唐音) G 2 8 7 8  
 晋民(しんみん・木原/平賀) → 中南(ちゅうなん・平賀/木原/土生、儒者) G 2 8 7 8  
 信民(しんみん・岡田) → 静山(せいざん・岡田おかだ、儒者) I 2 4 4 5  
 信民(しんみん・南部) → 信民(のぶたみ・南部なんぶ/源、藩主/歌) G 3 5 6 8  
 信珉(しんみん/しんびん・萩野/孔平) → 復堂(ふくどう・萩野はぎの、藩士/医/儒) B 3 8 5 9  
 神民(しんみん・渡辺) → 彦九郎(ひこくろう・渡辺わたなべ/源、藩士/儒/勤王) M 3 7 3 7
- 2281 神武天皇(じんむてんのう、鵜葺草葺不合命うがふきあきあずのみこと4男)?-? 母;玉依姫、記紀伝承の初代天皇、  
 覇者東漸神話;日向高千穂宮から瀬戸内を経て紀伊上陸・辛酉(BC660)年畝傍橿原宮即位、  
 (明治以降に書紀の紀年によりこの年を紀元元年とす)、  
 記紀歌謡:来目くめ歌(紀)、妻問(記)、  
 [神武天皇の主要別名] ①若御毛沼命わかみけぬのみこと(穀霊的性格)  
 ②神日本磐余彦天皇かむやまといわれびこのすめらみこと(大和由緒体的性格)  
 ③始馭天下之天皇はつにしらすすめらみこと(天下治定的性格)



三軒眞無量院(しんむりょういん)→ 円祥(えんしょう;法諱、真宗高田派僧) E 1 3 9 9

新室町院御匣(しんむろまちいんのみくしげ)→ 御匣(みくしげ・新室町院深命(しんめい・大沢歌人) 4 1 7 7

P2290 心明(しんめい;法諱) ? - ? 室町期応永1394-1428頃天台僧;常楽院住/僧正、1416「探題私記恵心流」/22「丹州成相寺堂供養表白」著、「四種三昧義表白」著

L2239 新命(しんめい・周しゅう) ? - ? 琉球詩人;「翠雲楼詩箋」(1725順則じゅんそく「中山詩文集」所収)

U2271 深明(しんめい;法諱・大沢おさわ、通称;義雄) 1785-1820<sup>36</sup> 近江甲賀郡三雲村柑子袋の愍念寺住職、真宗大谷派僧/内外典び通ず/説法に長ず、歌人;鳩のうみ入

晋明(しんめい) → 几董(きとう・高井、俳人) 1 6 2 3

晋明(しんめい・橘) → 壽庵(じゅあん・橘たちばな、儒者/詩人) W 2 1 4 9

信明(しんめい・源) → 信明(さねあきら・源、廷臣/歌人) 2 0 3 1

信明(しんめい・源) → 信明(さねあきら・源、樂家) F 2 0 5 9

信明(しんめい/のぶあき・林) → 葛廬(かつろ・林はやし、幕府儒官) O 1 5 0 4

信明(しんめい・佐藤) → 信明(のぶあき・佐藤さとう/伊良原、里正/国学) I 3 5 5 3

信明(しんめい・阪倉) → 信明(のぶあき・阪倉さくら、商人/国学) 3 5 7 4

信明(しんめい・浅田) → 信明(のぶあき・浅田あさだ、医者) 3 5 7 6

信明(しんめい・松平) → 信明(のぶあきら・松平まつだいら、藩主/詩歌) 3 5 8 7

信明(しんめい・津軽) → 信明(のぶあきら・津軽つがる、藩主/財政再建) J 3 5 1 0

信明(しんめい・夏目) → 信明(のぶあき・夏目なつめ、幕府/歌) G 3 5 6 6

信名(しんめい・荷田) → 信名(のぶな・荷田かだ/羽倉はくら、神職) 3 5 1 1

信名(しんめい・土屋) → 信名(のぶな・土屋つちや/源/近藤、幕臣/歌) G 3 5 6 3

信名(しんめい・中山) → 信名(のぶな・中山なかやま、幕臣/国学者) 3 5 1 2

信名(しんめい→のぶかた・今井) → 八九郎(はちくろう・今井いまい、藩士/蝦夷測量) E 3 6 8 3

津溟(しんめい;号) → 杳旭(ようぎよく;法諱・善慶、本願寺派僧) 4 7 6 9

人名(じんめい・三手代) → 人名(ひとな・三手代みてしろ、万葉歌人) E 3 7 1 9

尋明(じんめい) → 尋明(じんみょう、天台僧/歌人) P 2 2 8 9

信明院(しんめいいん;諡号) → 光撰(こうせん;法諱・本如;号、西本願寺19世) K 1 9 1 4

真明院(しんめいいん) → 蔡子(しげこ・伊達だて、藩主女/藩主室) Z 2 1 2 5

新名珠城(しんめいしゅじょう;変名) → 尚輔(ひさすけ・中村、藩士/国学者) B 3 7 1 7

信綿(しんめん・岩出) → 信綿(のぶつら・岩出いわで/源、幕臣/歌) G 3 5 6 0

親茂(しんも・中院) → 定基(さだもと・野宮/藤原/中院、廷臣/故実) 2 0 2 6

真茂(しんも・小林) → 眞茂(まじげ・小林こばやし、医者/歌人) N 4 0 0 1

震孟(しんもう・菅) → 新菴(しんあん・菅すが、儒者) D 2 2 4 4

深茂亭(しんもてい) → 茂周(しげちか・吉川よしかわ、藩士/地誌) C 2 1 4 2

深茂亭(しんもてい) → 舎孛(しゃぼつ・堀ほり/八千房、俳人) G 2 1 5 2

P2291 神門(しんもん・奈良なら、名;髣ぼう) ?-? 江中期江戸の儒者;伊東藍田門、1774「藍田先生湯武論并附録」編、

[神門(;号)の字/通称]字;士卿、通称;八平次

親門(しんもん・広瀬) → 親門(ちかかど・広瀬、武芸者) 2 8 7 3

信門(しんもん→のぶかど・上倉) → 老梅(ろうばい・上倉かみくら、幕臣/歌人) 5 2 4 4

神門叟(しんもんそう) → 雲夢(うんむ・越智、幕府医/儒者) E 1 2 0 6

真問房(しんもんぼう) → 静遍(しずへん;浄遍じょうへん;法諱、真言僧) L 2 2 5 8

W2225 心也(しんや・法諱) ? - ? 平安期僧;法師、1165清輔[続詞花集]連歌入、[大内のおほがきの破れたるを見て、琳賢法師のいへりけるすゑを付る、おほがきはさねばかりこそ残りけれかたなしとてもいへはあらじな]、(続詞花;物名946)

2282 萃野(しんや・伊藤いとう、名;祐之/由言) 1681-1736<sup>56</sup> 京の儒者;松永昌易・伊藤万年門/万年の養嗣、1696以後養父と加賀往復し講説業、仕官なし、「白雪楼集」「白雪楼集補遺」、「瓊敷玉藻」、1711「正徳和韓唱酬録」「古今詩題群玉」編、「七家詩存」、1734「観文堂四書講義」、[萃野(;号)の字/通称/号]字;順卿/思忠、通称;斎宮、

- 2283 **伸也**(しんや・淡水亭) ? - ? 俳人、1847季寄「合類俳諧忘貝」著  
 進弥(しんや・朝倉) → 程巳(てい・朝倉、藩士/俳人) 3 0 2 8  
 真弥(しんや・朝倉) → 貞景(さだかげ・朝倉あさくら/源、藩士) N 2 0 7 1  
 真哉(しんや・熊野御堂) → 義路(よしみち・熊野御堂くまのみどう/高、国学) M 4 7 6 2  
 真也(しんや・喜田) → 祈年(のりとし・喜田きた、大工/庄屋/国学) I 3 5 1 5  
 申也(しんや・駕河) → 長教(ながのり・駕河おしこ/駕氷、医者/歌) L 3 2 5 5  
 信也(しんや・相田) → 知退(ちたい・東ひがし/相田、歌人/儒者) M 2 8 3 4  
 信也(しんや・佐藤) → 信也(のぶなり・佐藤さとう、藩士/国学) I 3 5 5 5  
 信哉(しんさい・野城) → 広助(広介ひろすけ・野城のしろ、国学/勤王) K 3 7 5 8  
 仁也(じんや・新垣) → 筑兵衛(ちくべえ・新垣あらがき、唐紙製造) M 2 8 1 3  
 塵也(じんや・佐藤) → 周軒(しゅうけん・佐藤、藩家老/学事振興) H 2 1 2 5
- P2292 **信瑜**(信愉しんゆ;法諱) ? - ? 1295存 天台僧、1295「智証大師最深極秘伝法」「伝法印」著
- 2284 **親瑜**(親諭しんゆ;法諱) ? - ? 鎌倉期真言宗安祥寺僧、法眼/法印に至る?、  
 東寺長者大僧正の光誉と同世代の人、歌人;続門葉集・拾遺風体集・安撰和歌集入集、  
 1320成立「続千載集」942、  
 [墨染の袖にも深くうつりけりをりをりなるる花の匂ひは](続千;釈教942/漸漸積功德)
- 2285 **信瑜**(しんゆ;法諱) 1333 - 1382.50 京の真言宗東寺遍智院の学僧、  
 のち尾張名古屋宝生院(真福寺)2世、南朝や伊勢神宮と協力し古典/伊勢神道諸書を蒐集、  
 所謂真福寺本の整備拡充に尽力、「真福寺本古事記」校編(1371門弟賢瑜書写/信瑜校訂)、  
 1367「如来齒舍利伝来」著
- W2230 **信雄**(しんゆう;法諱) ? - ? 鎌倉南北期僧;権僧都、  
 1350為世十三回忌和歌出詠、  
 [身を分けてたへなる音に説く法ももとの心やひとつなるらん](為世忌;115/妙音品歌)、  
 [いにしへを思はぬ野辺の草葉まで露もや秋はおきかさぬらむ](同;116/懐旧)
- P2293 **親祐**(しんゆう;法諱) ? - ? 南北期僧;権少僧都、  
 連歌;1356成立「菟玖波集」3句入、  
 [今宵しも月の入江に船とめて](菟玖波;四秋353/前句;楓のもみち浪に散るなり)
- P2294 **眞祐**(しんゆう;法諱) 1526 - ? 1595存 美濃深瀬の天台宗慈明院9世、のち成菩薩院入、  
 比叡山横川恵心院代に住/僧正、「分段捨不捨」「竜女分証」「竜女分極」「眞祐十帖」著、  
 1575「被接一生」82「義科抄一生破無明」84「三諦勝劣」88「如法経法則」95「眞祐問書」外著多
- P2296 **心友**(しんゆう;号・中田なかつ、別号;鶉巴軒じゅんぱけん) ?-? 江前期伊勢山田の神宮御師?、一時江戸住、  
 神風館系俳人:調和門、1666一雪「洗濯物」入集、1679「杉の村立」「伊勢宮箆いせみやげ」編、  
 1680「江戸宮箆えどみやげ」編、1682「御田扇」著、「忘れ貝」編?、足代弘氏と交流
- P2295 **信祐**(しんゆう;名・大鳥居おとりい/本姓;菅原) ?-? 江前期江戸亀戸天神別当、  
 延宝天和1673-84頃福岡藩主黒田光之・里村家連歌師と連歌;1673光之と/80昌陸と百韻、
- 2293 **信由**(しんゆう、のぶよし?) ? - ? 俳人;信徳[1633-96]門、1694「雛形ひながた」歌仙入/序
- B2291 **信友**(しんゆう/のぶとも・坪井つばい、名;友、信道の長男) 1832-67.36 母;青地林宗女、蘭医、儒;西島蘭溪門、  
 儒;塩谷岩隠・広瀬旭窓門、蘭方医学;緒方洪庵/大木仲益門、1866長門萩藩の好生堂教諭、  
 病院総管兼務、「冬樹先生遺稿」編(;冬樹は父の号)、父の継嗣は姉万喜子の婿信良しんりょう、  
 [信友(;通称)の字/別通称]字;孝卿、別通称;信道(一時父の称を名乗る)
- 眞雄(しんゆう・松室) → 眞雄(まさお・松室まつむろ/秦、国学/歌) L 4 0 8 9  
 信由(しんゆう/のぶよし・南部) → 利正(としまさ・南部なんぶ、藩主/俳諧、1751-84) N 3 1 7 1  
 信由(しんゆう・石黒) → 信由(のぶよし・石黒、和算家) D 3 5 9 1  
 信由(しんゆう・野村) → 信由(のぶよし・野村、藩士/文筆) D 3 5 9 5  
 信由(しんゆう・安藤) → 信由(のぶよし・安藤、藩主/文筆) D 3 5 9 6  
 信有(しんゆう・佐藤) → 信季(のぶすえ・佐藤、殖産家) B 3 5 6 5  
 信有(しんゆう・中沢) → 親応(ちかまさ・中沢なかざわ、藩士/兵法家) B 2 8 8 3  
 信有(しんゆう・山本) → 北山(ほくざん・山本やまもと、儒者/詩人) 3 9 6 4  
 信有(しんゆう・南部) → 信有(のぶあり・南部なんぶ、領主/和学) J 3 5 4 5

- 信維(しんゆう・北原) → 信維(のぶこれ・北原きたはら、国学・歌人) I 3 5 2 0  
親友(しんゆう/もととも・馬詰) → 親音(もとね・馬詰うまつめ、藩士/歌) D 4 4 6 6  
親祐(しんゆう・速水) → 親祐(ちかすけ・速水はやみ、官人/歌人) B 2 8 0 0  
親祐(しんゆう・平) → 親祐(ちかすけ・平たいら、武家/歌人) B 2 8 0 1  
慎猷(しんゆう・奥村) → 茶山(ちやざん・奥村おくむら、儒者) L 2 8 1 4  
神遊(しんゆう・宮沢) → 雲山(うんざん・宮沢みやざわ、儒者/詩人) B 1 2 1 5  
岑雄(しんゆう・上野) → 岑雄(みねお・上野かむつけ、廷臣/歌人) F 4 1 4 4
- P2297 尋友(しんゆう) ? - ? 播磨姫路の俳人;1692才麿「椎の葉」入、  
[稲妻に山賊やまだちならぬかゞし哉](椎の葉;122)
- 靱雄(しんゆう/ゆぎお・橋本) → 直香(ただか/なおか・橋本、国学/歌人) E 2 6 8 7  
親祐軒(しんゆうけん) → 常辰(つねとき・隼士はやと、俳人) C 2 9 6 4  
真遊斎(しんゆうさい) → 忠貴(ただたか・岡田、和算家) P 2 6 7 6
- 2288 心誉(しんよ;法諱、藤原ふじわら重輔男)941-1029<sup>89</sup> 平安中期天台宗園城寺長吏、  
1008中宮彰子安産祈禱:栄花物語入
- 2289 信誉(しんよ;法諱) ? - ? 平安後期真言宗石山寺住職/大僧正、  
1058「雲隠録帖」流布本奥書署名:仮託か?
- P2298 眞誉(しんよ;法諱・持明;字)1069-1137<sup>69</sup> 平安後期真言宗高野山僧:北室院良禪門;密灌を受、  
1106明算より庭儀灌頂を受/1122寛助より伝法灌頂を受、持明院を創建、  
1135覚鑿かくばんより金剛峰寺座主・大伝法院座主を譲られる;36東寺衆徒の訴訟で座主降る、  
高野山検校となる、「柿袋」著
- P2299 深誉(しんよ;法諱) 1338 - 1393<sup>56</sup> 南北期真言宗醍醐寺山上水元の住僧/普門院房主、  
按察/法印、「真言声明血脈」/1378「清滝御事」著
- V2205 信誉(しんよ;法諱) 1683 - 1731<sup>49</sup> 信濃伊那郡の阿弥陀寺7世住職、歌人;依田正純門
- 心誉(しんよ・直蓮社) → 祐察(ゆうさつ;法諱、浄土僧) B 4 6 8 3  
深誉(しんよ;法名) → 伝察(でんさつ・深誉、浄土僧) D 3 0 5 1  
信誉(しんよ・南部) → 信誉(のぶのり・南部なんぶ、藩主/歌) G 3 5 7 6  
眞誉(しんよあ・本蓮社) → 懐音(えおん、浄土僧) D 1 3 4 8  
慎誉(しんよ;法名) → 亮迪(りょうてき;法諱、浄土僧/歌) L 4 9 8 4  
震誉(しんよ・玉蓮社;法名) → 大順(だいじゆん;法諱、浄土僧) K 2 6 3 1
- Q2200 眞陽(しんよう;法諱) 1628 - 1656<sup>早世29</sup> 江前期天台僧・真迢門、真迢「禁断日蓮義」編
- 2290 莘陽(しんよう・富永とみなが・のち長深・神墨に改姓、名;辰、富永春利2男)1816-79<sup>64</sup> 尾張の儒者;  
神野菊叢門、陽明学を主とす、楠流兵法;田中寅亮門、終生仕官せず、  
居を経徳堂/兵性堂と称す、生平先生と称される、「尾張靈異記」「藤樹叢伝」編、  
1853「糞土之牆」、「経徳堂誌」「雑史箋註」「昌平珠林」「田幡志」「八陣図衍義」著、  
「尾張古今人物誌」著、  
[莘陽(;号)の幼名/字/通称/別号]幼名;辰治、字;士竜/子竜、通称;半平/省吾/正治、  
別号;澗/清幽/静幽きよはる/梅雪/幸川/経徳堂/兵性堂、神号;神墨半平命
- Q2201 振洋(しんよう・上甲じょうこう、名;榛/樵、拙園2男)1817-78<sup>62</sup> 伊予宇和島藩の儒者;父門、  
1838近藤篤山門、40江戸の安積良斎門;昌平黌入学/1846宇和島版行明倫館の督学、54致仕、  
伊予八幡浜・横浦で私塾青石洞書院を開設;門弟多数、維新後;藩校教頭/辞職/私塾再開、  
「存々齋集」「帰猷録」著、  
[振洋(;号)の幼名/字/通称/別号]幼名;能登、字;師文、通称;礼三、  
別号;遂幽/余学楼/存々齋/青石洞、法号;養真院
- Q2202 神陽(しんよう・枝吉えだよし、名;経種つねたね、種彰[南濠]長男)1822-62<sup>41</sup> 佐賀藩儒;昌平黌舎長、  
藩校教授、国学に通じ雅文に長ず、勤王思想、江藤新平・大隈重信・石井貞興の師、  
各地遊説;容れられず帰郷、子弟教育に尽力、「神陽遺稿」、副島種臣の兄、  
[神陽(;号)の字/通称/別号]字;世徳、通称;駒一郎/木工(空)助もくのすけ、別号;焦冥巢
- 信庸(しんよう・松平) → 信庸(のぶつね・松平、藩主/学問奨励) C 3 5 1 5  
信庸(しんよう・西洞院) → 信庸(のぶつね・西洞院にしのとしいん、廷臣) C 3 5 1 8  
信要(しんよう・佐藤) → 信要(のぶあき・佐藤、地誌家) 3 5 7 3

信容(しんよう・高橋) → 文郁(ぶんいく・高橋、藩医/牛痘研究) E 3 8 7 8  
 信陽(しんよう) → 大飯喫(おおめしぐらい、洒落本作者) B 1 4 4 3  
 信陽(しんよう・関谷) → 為則(ためり・関谷せきや、和算家) S 2 6 6 7  
 晋陽(しんよう・馬) → 道良(どうりょう・馬ば、絵師) I 3 1 3 1  
 晋用(しんよう・佐藤) → 牧山(ぼくざん・佐藤さとう、漢学者/教育) D 3 9 3 0  
 親陽(しんよう・井神) → 寛斎(かんさい・井神いのみ、歌人) Q 1 5 6 6  
 晨耀(しんよう・菅) → 甘谷(かんこく・菅かん/府川/堀、儒者) D 1 5 6 5  
 榛陽(しんよう・中曾根) → 宗那(そうほう・中曾根なかそね、和算/測量家) I 2 5 8 9  
 眞瑤(しんよう・近藤) → 眞瑤(またま・近藤こんどう/関川、国学/歌) P 4 0 7 3  
 真要斎(しんようさい) → 御風(のりかぜ・荷田/羽倉/柴崎、国学) E 3 5 3 6  
 訊洋子(しんようし) → 洋子(ようし・訊じん、漢学者) Q 4 7 4 1  
 信陽除史(しんようじよし、信陽除史) → 世南(せいなん・高橋たかはし、俳人) J 2 4 3 4  
 信陽大飯喫(しんようだいはいきつ) → 信陽大飯喫(しんのおめしぐらい、洒落本作者) F 2 1 3 8  
 深養父(しんようふ・清原) → 深養父(ふかやぶ・清原、廷臣/詩歌人) 3 8 0 4  
 津葉丸(しんようまる・三村) → 春門(はるかど・三村、名主/画/狂歌) G 3 6 2 0

Q2203 **新陽明門院**(しんようめいもんいん、名;位子)1262-96<sup>35</sup> 鎌倉後期亀山天皇の女御、  
 女房に中将・兵衛佐の姉妹あり

新陽明門院中将(しんようめいもんいんのちゅうじょう) → 中孺(ちゅうじょう、兵衛佐と妹姉) G 2 8 4 0  
 新陽明門院兵衛佐(しんようめいもんいんのひょうえのすけ) → 兵衛佐(ひょうえのすけ、歌人) F 3 7 1 0  
 心誉貞寂(しんよていじやく) → 兼廉(かねかど・広橋/藤原、廷臣/日記) O 1 5 4 1  
 神誉靈神(しんよれいそん) → 兼延(かねのぶ・ト部うらべ、神職) O 1 5 8 1  
 眞頼(しんらい・金子/黒川) → 眞頼(まより・黒川/金子、国学者) K 4 0 1 8  
 親頼(しんらい・小山) → 親頼(ちかより・小山こやま、神職/歌人) M 2 8 5 2  
 信楽(しんらく・釈) → 文楽軒(3世ぶんらくけん・植村、人形浄瑠璃) G 3 8 6 0  
 新羅三郎(しんらさぶろう) → 義光(よしみつ・源、武将/知謀) H 4 7 4 8  
 森羅子(しんらし) → 中良(ちゅうりょう・森島、洋学/戯作) 2 8 1 9  
 森羅亭万宝(しんらていまんぼう) → 七珍万宝(しちちんまんぼう、戯作/狂歌) 2 1 2 8  
 森羅万象(しんらばんしょう) → 源内(げんない・平賀) 1 8 2 8  
 森羅万象(初世しんらばんしょう) → 中良(ちゅうりょう・森島、蘭学/戯作) 2 8 1 9  
 森羅万象(二世しんらばんしょう) → 七珍万宝(しちちんまんぼう、商家/戯作・狂歌) 2 1 2 8

2230 **親鸞**(しんらん;法諱、日野有範男)1173-1262<sup>90</sup> 浄土真宗の開祖、初め天台;慈円門;  
 範宴少納言公の名、のち比叡山で修学/1201京六角堂に参籠;示現を得て法然房源空門;  
 他力本願に帰す、1207念仏弾圧で越後に配流/1211赦免;常陸に移住し関東各地に布教、  
 帰京;弟尋有の坊舎に没、1224「教行信証」、55「愚禿鈔」、「本願鈔」「末燈鈔」「正信偈」著、  
 「唯信鈔文意」「浄土文類聚鈔」「六角堂夢想記」外著多数、親鸞語録「歎異鈔」;弟子唯円編、  
 [善人なをもちて往生をとぐ いはんや悪人をや](歎異鈔)  
 [明日ありと思ふ心の仇桜夜半に嵐の吹かぬものかは](親鸞聖人絵詞伝)  
 [親鸞(;法諱)の幼名/別法諱/通称/号]幼名;松若磨、別法諱;範宴/綽空、通称;少納言公、  
 号;愚禿、変名(流罪名);藤井善信、諡号;見眞大師

親覧(しんらん・佐々木) → 親覧(ちかみ・佐々木、国学/歌人) B 2 8 8 5

V2260 **真理**(しんり・木戸きど、さねまさ?)?- ? 江前期;上方の歌人、武士?

1670下河辺長流[林葉累塵集]入、

[棹鹿のよはの草ぶし起きもせずねもせで妻にこひ明すらん](林葉累塵;秋474)

Q2204 **秦里**(しんり・北原きたはら、名;済なる/成、吉松甚太夫男)1785-1829<sup>45</sup> 土佐藩士/北原光敬養嗣子、  
 書;菅田環山門、詩;箕浦髪山門/梅花の画;三花盟友の1(僧霞山の蓮花/楠瀬大枝の桜花)、  
 「秦里詩稿」著/「詩仏先生百絶」編、  
 [秦里の字/通称/別号]字;世美/世民、通称;辰次郎、別号;箕山きざん/半間主人

真理(しんり;法名) → 実能(さねよし・藤原/徳大寺、左大臣) D 2 0 7 6

真籬(しんり/まがき?・恩田) → 敬休(たかやす・恩田おんだ、儒者) N 2 6 5 4

- 真纏(しんり・荒瀬) → 真纏(まさで・荒瀬あらせ/鈴木、商家/国学) L 4 0 8 2  
 親利(しんり/ちかとし・岩下) → 希言(きげん・岩下いわした、薬種商/俳人) B 1 6 0 9  
 薪里(しんり・佐河田) → 昌俊(まさとし・佐河田さかわだ/高階、歌/連歌) 4 0 1 5  
 信理(しんり・田谷) → 信理(のぶまさ・田谷たや、歌人) G 3 5 6 1
- Q2205 仁里(じんり・富永とみなが/初姓;興津おきつ、名;親辰) 1697-1761<sup>65</sup> 富永沌翁とんおうの養子、豊前中津儒者、養父沌翁の家学を受、子弟教育、藤田政所と交流、「唐詩文解」「文詩漫録」「範和解」著、[仁里(;号)の字/通称]字;明倫、通称;酢屋平三郎、養嗣子;丈四郎
- Q2206 仁里(じんり・野上のがみ、名;通煥) 1816-62<sup>47</sup> 羽後横手の儒者;郷校育英書院の教授、「仁里詩稿」著、[仁里(;号)の字/通称]字;子文、通称;仁八/甚八郎
- 仁里(じんり、俳号) → 春樹(はるき・森、商人/画/俳人) G 3 6 2 5  
 仁里(じんり・宮内) → 嘉長(よしなが・宮内/清原/永井、神職/和漢学) F 4 7 3 1  
 真理院(しんりいん) → 恵通(えつう;法諱、大僧都/歌人) T 1 3 9 5  
 塵裡閑(じんりかん) → 韋吹(いすい・天井、商人/俳人) 1 1 9 3  
 神力(しんりき・松下) → 烏石(うせき・松下まつした、書家) B 1 2 7 7  
 神力院(しんりきいん;号) → 日明(にちめい;法諱、日蓮僧) H 3 3 0 2  
 信立(しんりつ・安島/戸田) → 信立(のぶたつ・安島あじま、家老/藩政改革) B 3 5 8 7  
 信立(しんりつ・千賀) → 信立(のぶたつ・千賀ちが/せんが、家老/武術) B 3 5 8 8  
 信立(しんりつ・渡辺) → 信立(のぶたつ・渡辺、茶人) B 3 5 8 9
- E2288 心流(しんりゅう) ? - ? 大津の俳人、1689言水「前後園」90「新撰都曲」4句入 [梅散りて桜にあはぬ涅槃かな](新撰都曲;209/涅槃は陰暦二月十五日釈迦入滅の法会)
- R2207 新柳(しんりゅう) ? - ? 京の俳人;淡々門、1728柳岡「万国燕」1句(百韻参加)、[扇にすくひ吹いて捨てけり](万国燕/竟宴694/煙草の灰?/車の主の動作)(前句;うち霞む條へら打ち車日に乗せて)
- R2208 信流(しんりゅう) ? - ? 京の俳人;信安門、1729隆志「俳諧草結」1句、[山都やまみやこ一ツ方はや明あく枇杷の花](俳諧草結;226/京は三方山/南に開け枇杷が咲く)
- 2291 晋流(晋柳しんりゅう・藤井ふじい/近藤、名;太仲、近藤外記男) 1680-1761<sup>82</sup> 上州小泉村の生、岩代須賀川の廻米問屋藤井総右衛門の養子;女婿(妻;久須女[霜楠])、幕府御用達;須賀川町本陣主、妻の没後に江戸浅草住;俳人・其角門;高弟、鬼貫と親交、1741須賀川時雨塚に芭蕉と其角の追慕句碑建立、京阪遊歴;鬼貫・言水・園女・嵐雪と交流、1751「蕉門録」編、「菜月集」著、[晋流(;号)の通称/別号]通称;源右衛門/左膳、別号;百柳軒/菜月洞/箒青堂しゅうせいどう、法号;泰閑院
- Q2207 真流(しんりゅう;法諱・円耳えんじ;字) 1711-? 1773<sup>存</sup> 伊勢津の天台僧/幼時に比叡山入;横川禅定院智濤門;天台学を修学/1735円頓大戒を受/12年間籠山の行に入る;満行後に当時勢力を得た安楽律一派の四分律兼学説を論駁;輪王寺宮公啓親王に上書、一時安楽律は停止となる/安楽院主兼浄土院別当になり一向大乘戒を宣揚、1772公遵親王が輪王寺宮に再任され安楽律復興令が出る;真流は比叡山から追放、京の南禅寺一草庵に隠棲;60余歳頃没、1743「四律綜集序説」58「尊勝私記」67「円戒詒謀」、1772「教苑摘要」、「顕戒論闡幽記」「大戒決疑彈妄録」/「円頓大戒綱要」(1782刊)外著多数
- Q2208 信竜(しんりゅう・萩野はぎの/本姓;平/孔平くひら、萩野鳩谷[1717-1817]長男) ?-? 江後期出雲松江藩士、1816父(百歳/101歳で没)を継嗣、藩の物頭格に至る/儒者;文章に長ず、1778「書捷徑」編/90「出雲天隆公寿蔵碑記」編、「鳩谷先生文集抄」編、[信竜(;名)の字/通称/号]字;伯麟、通称;彦一郎、号;闕里けつり
- Q2209 神竜(しんりゅう;法諱・法天ほうてん;字) 1785-1850<sup>66</sup> 越後蒲原郡鷺巻村西笠巻の真宗大谷派僧;蒲原郡長福寺の聞誓の弟/長福寺住、1802(18歳)水戸に遊学、枕石寺の西天門;漢学・詩文を修学/京の高倉学寮入;仏典を修学、江戸に遊学、帰郷;長福寺前に優学館を建設;子弟教育、内外の典籍に通ず、詩文・書画・俳諧・茶を嗜む、「雲無心庵集」「枕雲詩鈔」「岐岨紀行」「東遊漫稿」「北越奇聞」著、1823「北越古今詩選」編、

「北越詩選第二編」編、1787「救荒孫の杖」、「奥枝折」「鬼神論」「聖蹤図会」「東遊漫稿」外著多、  
[神竜(；法諱)の号] 雲洞/枕雲洞主人/遙山/雲無心庵

- V2206 **信隆**(しんりゅう;法諱) 1806 - 187570 筑前太宰府の執行坊、国学者
- Q2210 **神竜**(しんりゅう;道号・寂驤じゃくじょう;法諱、俗姓;西尾)1832-190574 近江栗太郡大鳥居村の黄檗僧:  
1840(9歳)京の医徳堂祖柱通要門;出家/法嗣/初法諱;弘驤、のち良忠如隆・魯山益主門、  
さらに臨濟僧の柏堂梵意・越溪守謙に参禅、1872大教院に出仕/医徳堂住寺、  
岐阜雛谷村宝巖寺・長崎福濟寺・永明寺住寺、晩年は松尾寺住持、1863「慧定禅師行実」著、  
「神竜驤禅師語録」「神竜和尚開堂賀偈」「湛江禅師行略」「達文宗和尚行業記」著
- 晋柳(しんりゅう・須賀川米問屋藤井久須女の婿) → 晋流(しんりゅう・近藤) 2 2 9 1
- 眞竜(しんりゅう;法諱) → 天山(てんざん;道号・眞竜、曹洞僧) D 3 0 5 5
- 真竜(しんりゅう・内山) → 眞龍(まつ・内山うちやま、国学者) 4 0 3 0
- 真竜(しんりゅう・湯沢) → 眞龍(まつ・湯沢ゆざわ/川又、神職/国学) J 4 0 5 1
- 信竜(しんりゅう・竹内) → 自安(じあん・竹内たけうち、藩士/歌人) Z 2 1 3 2
- 親隆(しんりゅう・藤原) → 親隆(ちかたか・藤原/葉室、廷臣/歌人) B 2 8 0 9
- 親留(しんりゅう;法名) → 親具(ちかとも・水無瀬/堀川/高倉、廷臣) B 2 8 3 2
- 人竜(じんりゅう) → 春彦(はるひこ・近藤、国学者) B 3 6 7 2
- 眞竜院(しんりゅういん) → 隆子(たかこ・前田ままだ、歌人) L 2 6 8 5
- 眞龍院(しんりゅういん) → 重頼(しげより・金森かなもり、藩主/茶/歌) O 2 1 0 7
- 神龍院(しんりゅういん) → 梵舜(ぼんしゆん;法諱、神道家/臨濟僧) 3 9 7 2
- 震柳舎(しんりゅうしゃ) → 完来(かんらい・大島・富増、藩士/俳人) 1 5 5 5
- 震柳舎(しんりゅうしゃ) → 対山(たいざん・大島おおしま、俳人) K 2 6 0 8
- 震柳亭(しんりゅうてい) → 対山(たいざん・大島おおしま、俳人) K 2 6 0 8
- 新柳亭(しんりゅうてい) → 百庵(ひやくあん・寺町/越智、幕臣/茶/歌) E 3 7 4 3
- 神竜洞士(しんりゅうどうし) → 義恭(よしたか・毛束けつか、名主/神職/歌) M 4 7 6 7
- 震竜雷法大和尚(しんりゅうらいほうだいおしょう) → 杼山(ちよざん;道号・瑞芳、曹洞僧) K 2 8 3 9
- Q2211 **信竜**(しんりゅう;法諱) 1616 - 169681 江前期真言僧;1670高野山宝性院門主、  
金剛峯寺検校、親王院・釈迦文院と移住/江戸在番所私院に没、「弘法大師伝」、  
「真言密師伝」「庭儀灌頂宝聚記」「摩訶般若経開題」/1655「付法伝鈔」著
- Q2212 **信亮**(しんりょう;法諱) ? - ? 江前中期筑前太宰府天満宮の社僧、  
連歌;1705-25(宝永・享保)頃信仙・信恭らと百韻多数
- 2276 **信領**(しんりょう) ? - ? 江中期連歌作者、1743吉宗還暦「御賀千句」入
- Q2213 **心梁**(しんりょう;法諱・覚巖かくがん;道号、号;石窓庵)1778-185679 伊豆の曹洞僧;美濃徳巖寺で得度、  
復菴遵古門、福井鎮徳寺16世/1845備中浅口郡玉島の円通寺19世、越前永平寺の監院、  
国学;平田篤胤と交流:篤胤著書「印度蔵志」の序文執筆、詩歌人、1852「傘松道詠略解」著、  
歌;松平慶永(春嶽)「古今百人一首」入、  
[定めなき雲の身にしも村時雨ふりすてがたき美濃の山住](古今百人一首;67/覚巖名)
- Q2214 **津梁**(しんりょう;法諱、俗姓;大友)?-1853 熊本真宗本願寺派順正寺の住職/司教、  
1853「十不二門指要鈔聴記」、「称讚浄土経講録」著
- Q2215 **震陵**(しんりょう・朝倉あさくら、名;等隣、徳山藩士朝倉南陵男)1798-187174 周防徳山の生、  
絵師:父門/萩の雲谷家の門/のち江戸の谷文晁門、帰郷し山水を描く、「巷説小記」著、  
[震陵(；号)の通称/別号]通称;牧太、別号;震山(；初号)
- E2243 **信良**(しんりょう/のぶよし・坪井つばい、名;良益、佐渡善順2男)1825-190480 越中高岡の医者:小石元瑞門、  
のち蘭医坪井信道・緒方洪庵門/坪井信道に才能を認められ信道女万喜子の婿/養嗣子、  
1853越前福井藩主松平慶永に招聘;侍医/濟世館医学所教授/明道館洋学所教授、  
1857江戸下向;幕府蕃書調書教授/58奥医師、將軍徳川家定の治療、維新後静岡病院副院長、  
東京病院長/1873医学誌「和蘭医事雑誌」創刊、1851「医則」64「侃斯達篤」66「新薬百品考」訳、  
1866-68「他山楼詩草」著/「冬樹[信道]先生遺稿」編、外編著多数、  
[信良(；字)の通称/号]通称;末三郎、号;終里しゅうり
- 眞梁(しんりょう;法諱) → 石屋(せきおく;道号・眞梁;法諱、曹洞僧) B 2 4 0 5

眞了(しんりょう・朽木) → 昌綱(まさつな・朽木くつき、藩主/古銭学) E 4 0 0 0  
 眞了(しんりょう・但信院) → 普行(ふぎょう; 法諱、但信房、真宗僧) B 3 8 4 2  
 眞良(しんりょう; 字) → 有慶(ゆうけい; 法諱・眞良、真言僧) B 4 6 3 4  
 秦良(しんりょう・池永) → 秦良(はだら・池永豹、国学) E 3 6 8 0  
 信良(しんりょう・黒沢) → 東蒙(とうもう・黒沢くろさわ、医者/儒) H 3 1 4 1  
 信亮(しんりょう・林) → 信亮(のぶすけ・林はやし、幕府儒官) B 3 5 6 8  
 進良(しんりょう・湯浅) → 進良(のぶよし・湯浅ゆあさ、藩士/典故) D 3 5 9 2  
 親亮(しんりょう・山本) → 梅逸(ばいいつ・山本やまもと、絵師) 3 6 5 3  
 心了院(しんりょういん; 号) → 日泰(にったい・円頓坊、日蓮僧/連歌) E 3 3 9 6  
 心量院(しんりょういん) → 流濟(りゅうさい・山内やまうち、武芸者/日蓮僧) D 4 9 9 9  
 新綾軒(しんりょうけん) → 風状(ふうじょう・正木まさき、俳人) 3 8 8 2  
 仁良斎(じんりょうさい) → 在満(ありまる・荷田、国学・歌学) 1 0 3 4  
 津梁房(しんりょうぼう; 号) → 了玄(りょうげん; 法諱、真宗本願寺派僧) H 4 9 4 0  
 眞亮林堂(しんりょうりんどう真言僧) → 端愿(たんげん; 道号・元珠、黄檗/真言僧) T 2 6 3 8

Q2216 **深林**(しんりん・宇田うだ、名; 容/信成) ?-1833 阿波徳島藩士/物頭・目付・町奉行を歴任、  
 書家; 隸書が得意、柴野栗山・碧海らと交流、1829「正楷字覧」編、

[深林の字/通称/別号]字; 有濟、通称; 晏蔵/造酒、別号; 在中

親倫(しんりん・杉井) → 親倫(ちかとも・杉井すぎい、神道家) B 2 8 3 3  
 親倫(しんりん・佐藤/福井) → 松山(しょうざん・福井/佐藤、儒者/兵法家) J 2 2 2 2  
 神類霊神(しんるいれいしん) → 兼致(かねむね・吉田/ト部、神職) F 1 5 3 3

2294 **秦嶺**(しんれい・菱川ひしかわ/修姓; 菱、名; 賓) 1748-1803<sup>56</sup> 備前赤坂郡小森村の儒者; 岡山で成長、  
 程朱学: 讃岐高松藩儒後藤芝山門、尾藤二洲と交流、大坂で開塾、  
 1788大坂城代堀田正順(下総佐倉藩主)の儒臣; 1791江戸詰/92佐倉学問所温古堂初代教授、  
 世子正時の伴読兼任、佐倉藩江戸藩邸内に没、1788「正名諸言」89「熊沢了介(蕃山)伝」著、  
 「逸史問答」「岡山史鈔」「秦嶺館文集」「秦嶺館漫録」「在京奇談」「総牧奇観」「東来閑筆」著、  
 [秦嶺(; 号)の字/通称/別号]字; 大観、通称; 右門/宇門、別号; 岡山こうざん、法号; 恵雲院

信礼(しんれい・中条) → 信礼(のぶひろ・中条ちゅうじょう、幕府高家/国学) D 3 5 1 4  
 信嶺(しんれい・小笠原) → 信嶺(のぶみね・小笠原、武将/連歌) D 3 5 5 0  
 真令(しんれい・奈良) → 孝斎(こうさい・奈良なら、儒者/詩人) I 1 9 9 7

Q2217 **深励**(しんれい; 法諱・子昂しきょう; 字) 1749-1817<sup>69</sup> 越前蓑浦の真宗大谷派大行寺の生、  
 越前金津の真宗大谷派永臨寺の寿天の養子、上京し慧琳・随慧門; 宗学を修学、諸宗を遊学、  
 永臨寺に帰り所化を教育、1790擬講/93嗣講/64講師、1802宣明と共に公巖の異説を調停、  
 1814宣明・鳳嶺と共に法幢の異義を調停、「深励法話集」「深励講主安心書」「安心問答集」、  
 「往生論註講述」「御文一帖初通講義」「愚禿鈔講録」「香月院引籠中記」「仏凡一体事」外著多、  
 [深励(; 法諱)の号] 亀洲/垂天社/香月院

2295 **秦嶺子**(しんれいし、別号; 鬼峯) ?- ? 京の俳人、1690言水「新撰都曲みやこぶり」3句入、  
 [寝る人に聞けとはうたぬ砧きぬた哉](都曲; 上191)、  
 (起きて秋の夜の情趣を解する人に聞いて欲しい)

森嶺舎(しんれいしゃ) → 文嬭(ぶんち・庄司しょうじ、絵師/篆刻/俳) G 3 8 1 3  
 真霊舎(しんれいしゃ) → 及淵(しきぶち・上田/平井、藩医/国学) Q 2 1 1 0  
 眞鈴潮翁(しんれいちようおう) → 玄達(げんたつ・松岡/松、儒医/本草) C 1 8 6 1  
 神霊能眞柱大人(しんれいのうしんちゅう) → たまのみはしらのうし → 篤胤(あつたね・平田、国学/神道) 1 0 2 2  
 神烈霊神(しんれつれいしん) → 兼敦(かねあつ・ト部/吉田、神職) C 1 5 6 8

2231 **心蓮**(しんれん; 法諱・理覚りかく; 字) ?-1181 平安後期真言僧; 高野山東禅院住僧、  
 1125良禅門; 密灌を受/頭密修学; 金剛胎蔵の諸尊の儀軌を暗誦、堂宇建設・仏像制作、  
 常に法華を誦す、「受得密灌」「悉曇口伝しつたんでん」「悉曇抄」「悉曇相伝」著

Q2220 **信廉**(しんれん・大鳥居おとりい、中納言桑原忠長2男) 1775?-? 権大納言高辻胤長の養子、  
 1791実父の兄大鳥居信賢しんげんの付弟として大宰府に下る; 社僧、  
 1805信賢病のため太宰府天満宮司務別当を継嗣、1823(文政6)大病のため信観しんかんに譲渡、  
 連歌作者; 1841「千句三物集」、秋月千句参加/1707-23頃信泰らと百韻多数、

[信廉(；名)の幼名] 万寿丸

眞蓮(しんれん；入道号) → 貞国(さだくに・伊勢/平、幕臣/歌人) B 2 0 8 4

眞蓮(しんれん、法名) → 頼政(よしまさ・源、武将/廷臣/歌人) 4 7 3 6

眞蓮(心蓮/神廉しんれん・岡田) → 為恭(ためちか・冷泉/岡田、絵師/歌) H 2 6 0 0

信連(しんれん・木山) → 紹印(しょういん・木山/源、城主/社僧/連歌) G 2 2 7 8

信廉(しんれん・西島) → 信廉(のぶやす・西島にしじま、商人/日記) D 3 5 5 6

心蓮社叶誉(しんれんしゃきょうよ・故阿見竿) → 酉尊(ゆうそん；法諱、浄土僧) D 4 6 3 4

心蓮社熏誉(しんれんしゃくんよ) → 寂仙(じやくせん；法諱・桂岳；字、浄土僧) W 2 1 0 3

信蓮社玄誉忠阿寂照(しんれんしゃげんよちゆうあじやくしょう；法名) → 知鑑(智鑑ちかん；法諱、浄土僧) C 2 8 3 1

信蓮社玄誉無為(しんれんしゃげんむゐ；法名) → 円罔(えんけい；法諱、浄土僧) E 1 3 6 2

眞蓮社広誉心阿(しんれんしゃこうしんあ) → 厭求(えんぐ；法諱・源、浄土宗行脚僧) U 1 3 0 5

眞蓮社証誉(しんれんしゃしょうよ) → 雲臥(うんが；法諱、浄土僧) D 1 2 5 9

信蓮社証誉(しんれんしゃしょうよ) → 湛澄(たんちよう；法諱・染問、浄土僧/歌) I 2 6 5 2

信蓮社生誉一到(しんれんしゃしょうよいつとう) → 靈玄(れいげん；法諱、浄土僧) 5 1 2 2

心蓮社深誉(しんれんしゃしんよ) → 伝察(でんさつ；法諱、浄土僧) D 3 0 5 1

信蓮社聖誉(しんれんしゃせいよ) → 慶順(けいじゆん；法諱、浄土僧) G 1 8 0 6

神蓮社騰誉(しんれんしゃとうよ) → 実海(じっかい；法諱、浄土僧/大僧正) U 2 1 5 2

心蓮社得誉(しんれんしゃとくよ) → 立道(りゅうどう；法諱、浄土僧/詩歌) F 4 9 3 3

心蓮台(しんれんだい；号) → 月海(げっかい；法諱・弘秀；字、真言僧) G 1 8 8 9

心蓮房(しんれんぼう；字) → 勝成(しょうせい；法諱・心蓮房、真言僧) K 2 2 2 3

眞蓮房(しんれんぼう) → 静遍(じやうへん；法諱、真言僧) L 2 2 5 8

R2209 槻露(しんろ) ? - ? 京の俳人；淡々門、1728柳岡「万国燕」入、  
[春二千句喬たかきにうつる翅つばさかな](万国燕；2鶯/点取二千句会での作)、  
(鶯が枝移りして上昇し声高く鳴くようにこの会も名声が上がる)

Q2221 新露(しんろ) ? - ? 俳人；1691北枝「卯辰集」1句入、  
[寐ぐるしく灯ともびあつき枕かな](卯辰集；上二270/灯火さえ暑く感じる)

Q2222 眞呂(しんろ) ? - ? 俳人；1776樗良「誹諧月の夜」1句入、  
[山の姿都のおぼろ月夜かな](月の夜；114/都上空の朧月に東山も風情を増す)

新蘆(しんろ・渋川) → 春海(しゅんかい・渋川/保井/安井、天文家) J 2 1 3 2

振鷺(しんろ・大草) → 公明(きみあき・大草おおくさ、幕臣/儒官) G 1 6 2 2

振鷺(しんろ) → 木然(もくねん・雪暎舎、俳人) B 4 4 0 7

任弄斎(じんろうさい/にんろうさい) → 宗分(そうぶん・大庭、武将/歌/連歌) C 2 5 8 6

2296 新六(しんろく・知原/千原ちばら) ? - ? 江中期1715-40頃活躍の一中節三絃の名手；一中門

2297 新六(しんろく・西宮にしのみや、翫月堂、春松軒、堀野屋仁兵衛) ? - ? 江戸の書肆；地本問屋、  
1784-92式亭三馬が奉公、1794「天道浮世出星操てんとううきよのでうかい」以来三馬作品を刊行  
西宮の2代目 → 西馬(さいば・楽亭らくてい、書肆/戯作者) H 2 0 0 3

新六(2世しんろく・西宮) → 西馬(さいば・楽亭らくてい、書肆/戯作者) H 2 0 0 3

新六(しんろく・武蔵屋/岡本、髪結業) → 鈍々亭和禪(どんどんていわたる、戯作/狂歌) S 3 1 4 6

新六(しんろく・木村) → 明堂(めいどう・木村きむら、儒者) 4 3 3 0

新六(しんろく・熊岡) → 員美(かずよし・熊岡くまおか/竹内、藩士/国学) U 1 5 5 2

新六(しんろく・仙石) → 釐(おさむ・仙石せんごく、代官/国学者) D 1 4 9 7

眞碌(しんろく・上野) → 麿谷(きゆうこく・上野うえの、儒者) M 1 6 5 8

新禄(新六しんろく・有吉) → 高陽(こうよう・有吉、藩士/漢学/経済) L 1 9 4 8

Q2223 甚六(じんろく・諏訪すわ/島津、名；広兼) 1829-98 70 薩摩藩士；鹿児島城下の生/1847当番頭兼奏者番、  
種々の要職を歴任/1862琉球警護の際藩旨に逆らい譴責を受/63薩英戦争出陣；謹慎赦免、  
1865家老；750石、1867小松帯刀らの要請で倒幕指揮/68戊辰戦で藩兵の総督；  
東北平潟口方面に出陣/1869軍務総裁、70致仕、「島津広兼書翰」著、  
[甚六(；通称)の別通称] 甚之助/数馬/伊勢

甚六(じんろく・野田/豊竹) → 応律(おうりつ・豊竹、浄/歌舞伎作者) B 1 4 6 7

甚六(じんろく・綿屋) → 古巖斎(こがんさい、雑俳点者) M 1 9 0 1



新六郎(しんろくろう・横瀬)→ 国繁(くにしげ・横瀬/由良、武将/連歌) C 1 7 7 6  
 新六郎(しんろくろう・谷) → 正次(まさつぐ・内田/谷/全阿弥、武将/同朋衆) D 4 0 8 5  
 新六郎(しんろくろう・蘆田/依田)→ 宗月(そうげつ・加藤/依田/松平/蘆田、武将) H 2 5 0 2  
 新六郎(しんろくろう・太田)→ 資宗(すけむね・太田/源、藩主/系図編纂) D 2 3 1 2  
 新六郎(しんろくろう・太田)→ 資武(すけたけ・太田おた/源、幕臣) G 2 3 3 9  
 新六郎(しんろくろう・由良)→ 親繁(ちかしげ・由良ゆら、幕臣/奥高家) 2 8 9 5  
 信六郎(しんろくろう・保田)→ 信解(のぶとき・保田やすだ/柴田、藩士/尊攘) K 3 5 2 4  
 震六郎(しんろくろう・伊藤)→ 亀谷(きこく・伊藤/平、幕臣/書家) K 1 6 3 6  
 甚六郎(じんろくろう・田山)→ 純富(すみとみ・田山たやま、家臣/歌人) I 2 3 7 2  
 新六歌仙(しんろくかせん) 新古今時代活躍の6人の歌人

→ 俊成(としなり/しゅんせい・藤原) 3 1 4 7  
 → 西行(さいぎょう) 2 0 0 3  
 → 定家(さだいえ/ていか・藤原) 2 0 1 6  
 → 良経(よしつね・藤原/後京極) 4 7 1 6  
 → 家隆(いえたか・藤原) 1 1 0 2  
 → 慈円(じえん) 2 1 0 4

2232 振鷺亭(しんろてい・猪狩いかり、名;貞居)?-1815 溺死 江戸久松町の家主やぬし業;父より継嗣/遊蕩、  
 浅草に寓居、画;鳥居清長門/洒落本・読本・滑稽本・噺本・合巻・狂歌作者、  
 晩年は川崎大師河原に住;手習師匠を業;泥酔し堰にはまり溺死、  
 洒落本1789「自惚鏡うぬぼれかがみ」(;初作)/90「格子戯語」93「取組手鑑」96「見通三世相」、  
 1796「翁曾我」/寛政1789-1801頃「意妓口」「客衆一華表いちのとりい」「玉の蝶」、  
 1805「叶福助略縁起」16「寒紅丑の日待」、  
 読本;1794「いろは酔故伝」/95「一二草」1806「春夏秋冬春之巻」08「千代曇媛七変化物語」、  
 1808「敵討猫俣屋舗」「俊徳磨謡曲演義」/10「俳歌おんよう妹背山」、  
 滑稽本;1793「蛮瓜芡袋へちまのだんぶくろ」1806「鳴子瓜」07「黄金こがねの駒」13「今西行吾妻旅路」  
 噺本;1789「室の梅」91「振鷺亭噺日記」/寛政1789-1801頃「俳話ももんがわ」、  
 合巻;1812「四月八日物語」13「やまみず天狗于時大山てんぐときにおおやま」、  
 1814「鰻谷歌舞伎筋書」15「哆々嘸々草ちようちちようちあわわぐさ」  
 狂歌;「どうれ百人一首」「狂歌上段集」入集、  
 教訓;1816「実語教童子教」、  
 [振鷺亭(;号)の通称/別号]通称;与兵衛、  
 別号;魚米庵/浜町亭ひんちやうてい/関東米/借宿闕主人/金竜山下隠士/米々齋赤須賀米

振鷺亭(2世しんろてい) → 春水(初世しゅんすい・為永、人情本作者) 2 1 6 1

2299 心和(しんわ・飯田いいた) ? - ? 尾張俳人, 1664友次「阿波手集」入

Q2225 晋和(しんわ・赤木あかぎ、名;平祐) 1769-1843 75 備中高梁の代々染織上絵業、俳人;山岡嵐岳門、  
 のち大阪の八日庵万和門;1797師により晋和に改号、「独俳百巻」「俳句ちり袋」著、  
 息子(俳人);芹和・吐雲、枕流舎千和・寒山居桑古の師、  
 [晋和(;号)の別号] 鶴伴(;初号)/一日庵/春里館、屋号;花屋、息子(俳人);芹和・吐雲

真篋(しんわく・小竹) → 真篋(真篋まさお・小竹、国学) B 4 0 4 0  
 親和(しんわ・蜷川) → 親和(ちかかず・蜷川にながわ、書家;奥右筆) 2 8 6 8  
 親和(しんわ・三井) → 親和(しんわ・三井、書家) P 2 2 5 0  
 真和(しんわ・椿) → 蓼村(りょうそん・椿つばき、書家) I 4 9 7 6